独立行政法人国立文化財機構年報

令和２年度

独立行政法人
国立文化財機構

令和２年度

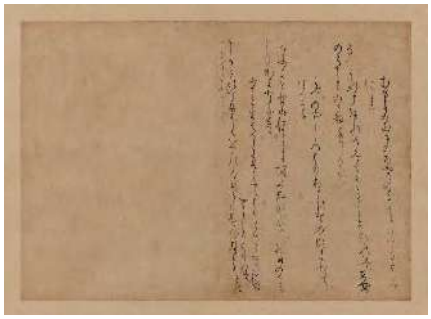
新収品図版　〔東京国立博物館〕

購　　入

重要文化財　法然上人絵伝

寄　　贈

粟穂鶉図屏風　土佐光起筆



針切　伝藤原行成筆

色絵枝垂桜図皿

蓮華文軒丸瓦

グリンシン（肩衣）
ワヤン人形文様経緯絣

忿怒尊坐像

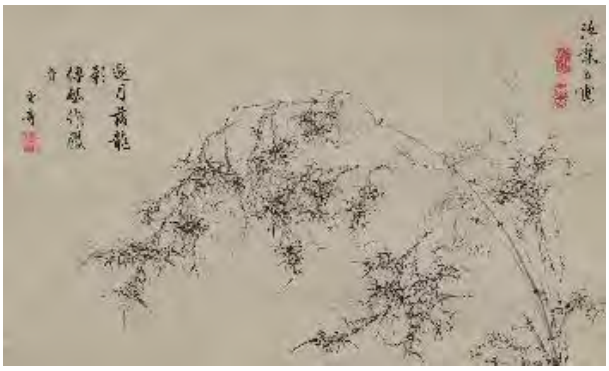
行草書七言絶句軸
張瑞図筆

令和２年度

新収品図版　〔京都国立博物館〕

購　　入

法花蓮池水禽図壺



竹石図　池大雅筆、宮崎筠圃賛

三足香炉

淡浅葱紗綾地菊花紋団扇文様染描絵夜着

短刀　銘達磨

寄　　贈

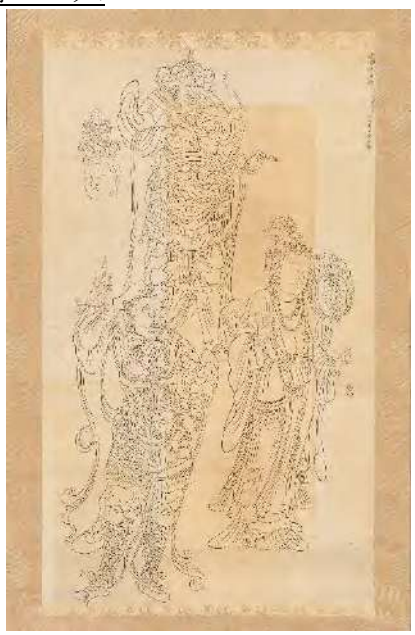
伏見人形図押絵貼屏風　伊藤若冲筆

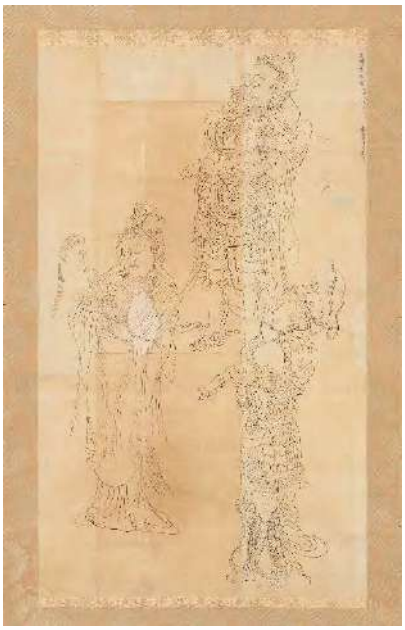
薬師三尊像

令和２年度

新収品図版　〔奈良国立博物館〕

購　　入





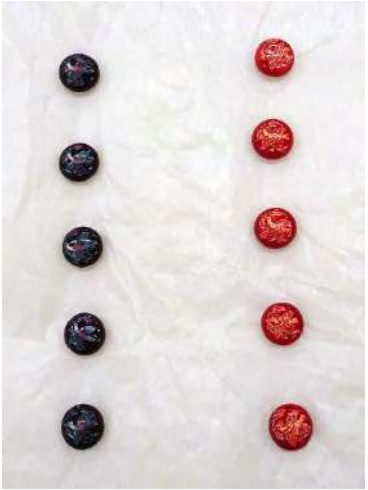
重要美術品　東大寺戒壇院扉絵図

三社託宣

灰釉短頸壺

寄　　贈

木造蔵王権現立像



紅牙撥鏤碁子　模造
・紺牙撥鏤碁子　模造
村松親月作

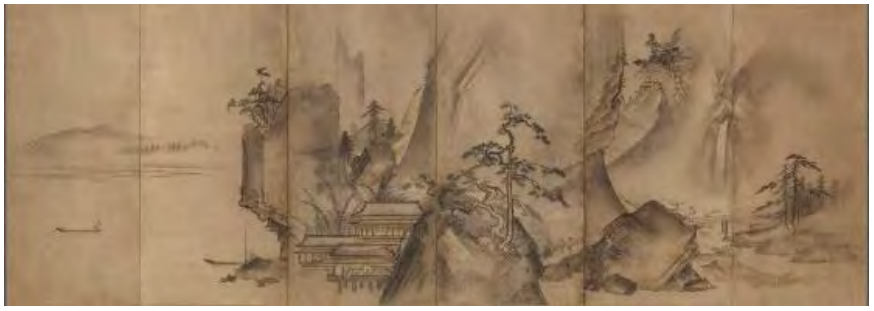
令和２年度

新収品図版　〔九州国立博物館〕

購　　入

刀　銘藤原鎮清

カルディム
『日本殉教精華』



春夏山水図屏風　鑑貞筆

花鳥堆朱盤

重要文化財　古文書手鑑

三彩壺

岩偶

重要文化財　法花蓮鷺文有蓋壺

裂帖「独楽帖」

寄　　贈

能面　中将

須恵器平瓶

重要美術品　興風集断簡
名家家集切「はるかすみ」

加彩武人俑

令和２年度　年報　目次

令和２年度新収品図版

Ⅰ　令和２年度自己点検評価報告書　評定状況・・・ 1
令和２年度中止した事業一覧・・・ 12

Ⅱ　令和２年度自己点検評価報告書　個別表・・・ 13
ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承
①博物館の施設設備の整備・・・ 18
②有形文化財の収集等
1)有形文化財の収集・・・ 22
2)寄贈･寄託品の受入れ等・・・ 26
③有形文化財の管理・保存・修理等
1)有形文化財の管理・・・ 30
2)有形文化財の保存・・・ 38
3)有形文化財の修理
3)-1計画的な修理及びデータの蓄積・・・ 42
3)-2科学的な技術を取り入れた修理・・・ 46
4)文化財修理施設等の運営・・・ 51
（２）展覧事業
①平常展・・ 54
②特別展等
1)特別展・・・ 59
③観覧環境の向上等
1)快適な観覧環境の提供・・・ 73
2)来館者の満足度調査等の実施､サービスの改善等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
（３）教育・普及活動
①教育活動の充実等
1)学習機会の提供・・・ 82
2)ボランティア活動の支援・・ 93
3)大学との連携事業等の実施・・ 97
4)国内外の有形文化財の保存･修理に関する人材育成への寄与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
5)博物館支援者増加への取組・・・ 105
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1)有形文化財に関する情報の発信・・・ 109
2)資料の収集と公開・・・ 113
3)広報活動の充実
3)-1広報計画の策定と情報提供・・ 117
3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
3)-3広報印刷物､ウェブサイト等の充実・・・ 126
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
外部資金を活用した調査研究・・・ 130
①有形文化財の展覧事業･教育普及活動等に関連する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
②その他有形文化財に関連する調査研究・・ 187
③国内外の博物館等との学術交流等・・・ 201
④調査研究成果の公表・・ 205
（５）国内外の博物館活動への寄与
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与・・ 209

②国内外の博物館等への援助･助言等･･･ 213
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
調査研究の評価軸及び評価指標等･･･ 219
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究･････････････････････ 224
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究･････････････････････････････ 228
3)歴史資料･書跡資料に関する調査研究････････････････････････････････････ 229
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究
1)重要無形文化財の保存･活用に関する調査研究等･･･････････････････････････ 230
2)重要無形民俗文化財の保存･活用に関する調査研究等････････････････････････ 231
3)無形文化遺産保護に関する研究交流･情報収集等･･･････････････････････････ 232
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究
1)史跡･名勝の保存･活用に関する調査研究･････････････････････････････････ 233
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究･･･････････････････････････････････ 235
3)重要文化的景観等の保存･活用に関する調査研究････････････････････････････ 248
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究･････････････････････････････ 249
5)水中文化遺産に関する調査研究･･･ 252
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発････････････････････････････････････ 253
2)埋蔵文化財の探査･計測方法の研究開発･･････････････････････････････････ 254
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発････････････････････ 255
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発･････････････････････････････････････ 256
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
1)生物被害の予防と対策に関する調査研究･････････････････････････････････ 257
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究････････････････････････････ 258
3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質･構造､及び保存状態に関する調査研究･･････････ 259
4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究･･････････････････････････････････ 260
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究･･････････････････････････ 261
6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究･･････････････････････････････････ 262
7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究････････････････････ 263
8)建造物の彩色に関する調査研究･･･ 264
9)近代文化遺産の保存･修復に関する調査研究･･･････････････････････････････ 265
10)高松塚古墳･キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究････････････････････････ 266
（３）文化遺産保護に関する国際協働
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集･研究･発信･･･････････････････････････ 269
2)文化遺産保護協力事業の推進･･･ 272
3)文化遺産の保存･修復に関する人材育成等････････････････････････････････ 277
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究･････････････････････････ 280
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
①文化財情報基盤の整備･充実･･･ 281
②調査研究成果の発信･･ 284
③展示公開施設の充実･･ 288
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
①文化財に関する研修の実施･･ 290
②文化財に関する協力･助言等･･･ 292
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力･････････････････････ 305
④連携大学院教育の推進･･･ 310
⑤文化財等の防災・救援等への寄与
1)体制づくり･･･ 312
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災･救援に関する調査研究と､情報の収集･発信･･･････････････････ 313
イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断､保存環境､安定化処置及び修理等に関する研究･･ 314
ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究･･････････････････････････ 314
エ　建造物等の不動産文化財の防災についての検討････････････････････････････ 314
3)人材育成等の実施･･･ 315

【受託研究】・・・ 316

ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1．業務改善の取組
（１）組織体制の見直し・・ 357
（２）人件費管理等の適正化・・ 358
（３）契約・調達方法の適正化・・・ 359
（４）共同調達等の取組の推進・・・ 360
（５）一般管理費等の削減
①　機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 361
②　計画的なアウトソーシング・・・ 362
③　使用資源の減少・・ 363
2．業務の電子化・・ 364
3．予算執行の効率化・・ 365

ⅲ　財務内容に関する目標を達成するためにとるべき措置
1．自己収入拡大への取組
（１）観覧料金改定・・ 366
（２）自己収入拡大への取組・・ 367
（３）外部資金の獲得・・ 368
（４）保有資産の有効利用の推進・・・ 369
2．固定的経費の節減　・・ （p. 361～363と同じ）
3．決算情報・セグメント情報の充実等・・・ 375

ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
1．予算（中期計画の予算）・・ 376
2．収支計画・・ 376
3．資金計画・・ 376

ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
1．内部統制・・ 377
2．その他
（１）自己評価・・ 378
（２）情報セキュリティ対策・・ 379
3．施設設備に関する計画・・・ 380
4．人事に関する計画
（１）中長期的な人事計画の策定・・・ 381
（２）評価制度の導入・・ 381
（３）能力や適性に応じた採用・人事の実施・・・ 382
（４）女性の活躍の推進・・ 382
（５）職員のキャリアパス形成のための研修・・・ 383
（６）働き方改革関連法に応じた取組の実施・・・ 382

Ⅲ　施設概要・・・ 384

Ⅳ　財務諸表
1．令和２年度財務諸表・・・ 388
2．令和２年度決算報告書・・・ 412
3．令和２年度事業報告書・・・ 414

Ⅴ　評価
1．独立行政法人国立文化財機構の令和２年度における業務の実績に関する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 454
2．独立行政法人国立文化財機構の第４期中期目標期間における業務の実績に関する評価・・・・・・・・・・・ 506
3．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価
外部評価委員会報告書・・・ 548

Ⅵ　日誌
１.法人全体及び７施設共通事項…… 573
２.文化財活用センター…… 574
３.文化財防災ネットワーク推進室/文化財防災センター…… 577
４.東京国立博物館…… 578
５.京都国立博物館…… 579
６.奈良国立博物館…… 581
７.九州国立博物館…… 583
８.東京文化財研究所…… 585
９.奈良文化財研究所…… 586
10.アジア太平洋無形文化遺産研究センター…… 587

Ⅶ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿
運営委員･評議員･外部評価委員名簿…… 588
独立行政法人国立文化財機構組織図…… 595
独立行政法人国立文化財機構役職員名簿…… 601

附属資料　：２年度自己点検評価報告書 統計表

Ⅰ　令和２年度　自己点検評価報告書　評定状況

自己点検評価報告書　評定状況　補足説明

○年度計画の評定及び中期計画の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

令和2年度自己点検評価報告書　目次

	2年度	2年中期	元年度	元年中期
S評定	0	1	10	2
A評定	49	46	89	56
B評定	271	264	236	262
C評定	0	0	3	1
D評定	0	0	0	0

全事業件数　320

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
1.有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信						
(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　年度:B評定　中期:B評定		S評定	0	0		
		A評定	3	2		
		B評定	33	34		
事業件数　36		C評定	0	0		
①博物館の施設設備の整備			B	B		
	1110A	東博	B	B	18	
	1110B	京博	B	B	19	
	1110C	奈良博	B	B	20	
	1110D	九博	B	B	21	
②有形文化財の収集等			B	B		
1)有形文化財の収集	1121A	東博	B	B	22	
	1121B	京博	B	B	23	
	1121C	奈良博	B	B	24	
	1121D	九博	B	B	25	
2)寄贈・寄託品の受入れ等	1122A	東博	A	A	26	
	1122B	京博	A	B	27	
	1122C	奈良博	B	B	28	
	1122D	九博	B	B	29	
③有形文化財の管理・保存・修理等			B	B		
1)有形文化財の管理	1131A1	東博	B	B	30	
	1131A2	東博	B	B	31	
	1131B1	京博	B	B	32	
	1131B2	京博	B	B	33	
	1131C1	奈良博	B	B	34	
	1131C2	奈良博	B	B	35	
	1131D1	九博	B	B	36	
	1131D2	九博	B	B	37	
2)有形文化財の保存	1132A	東博	B	B	38	
	1132B	京博	B	B	39	
	1132C	奈良博	B	B	40	
	1132D	九博	B	B	41	
3)有形文化財の修理						
3)-1計画的な修理及びデータの蓄積	1133-1A	東博	B	B	42	
	1133-1B	京博	A	A	43	
	1133-1C	奈良博	B	B	44	
	1133-1D	九博	B	B	45	
3)-2科学的な技術を取り入れた修理	1133-2A1	東博	B	B	46	
	1133-2A2	東博	B	B	47	
	1133-2B	京博	B	B	48	
	1133-2C	奈良博	B	B	49	
	1133-2D	九博	B	B	50	
4)文化財修理施設等の運営	1134B	京博	B	B	51	
	1134C	奈良博	B	B	52	
	1134D	九博	B	B	53	

(2)展覧事業　年度:B評定　中期:B評定			S評定	0	0	
			A評定	5	2	
			B評定	23	17	
事業件数　28			C評定	0	0	
① 平常展				B	B	
1)平常展(来館者数・展示替え件数)	1211A	東博		B	A	54
	1211B	京博		B	B	55
	1211C	奈良博		B	B	56
	1211D	九博		B	B	57
2)平常展(満足度調査)	1212ABCD	4館		B	B	58
② 特別展等				B	B	
1)特別展(開催回数)	1220アABCD	4館		B	B	59
1)特別展(満足度調査)	1220イA	東博		A	B	60
	1220イB	京博		B	B	61
	1220イC	奈良博		B	B	62
	1220イD	九博		A	B	63
ウ 特別展「きもの KIMONO」	1221Aウ	東博		A	ー	64
ク 特別展「桃山―天下人の100年」	1221Aク	東博		A	ー	65
ケ 特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」	1221Aケ	東博		B	ー	66
コ 特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」	1221Aコ	東博		B	ー	67
ア 西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねて ー西国三十三所の信仰と至宝ー」	1221Bア	京博		B	ー	68
イ 御即位記念 特別展「皇室の名宝」	1221Bイ	京博		A	ー	69
ア 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物ー再現模造にみる天平の技ー」	1221Cア	奈良博		B	ー	70
イ 特別展「第72回正倉院展」	1221Cイ	奈良博		B	ー	71
エ 特別展「奈良・中宮寺の国宝」	1221Dエ	九博		B	ー	72
③観覧環境の向上等				B	B	
1)快適な観覧環境の提供	1231A1	東博		B	A	73
	1231A2	東博		B	B	74
	1231B	京博		B	B	75
	1231C	奈良博		B	B	76
	1231D	九博		B	B	77
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等	1232A	東博		B	B	78
	1232B	京博		B	B	79
	1232C	奈良博		B	B	80
	1232D	九博		B	B	81
(3) 教育・普及活動　年度:B評定　中期:B評定			S評定	0	0	
			A評定	4	4	
事業件数　48			B評定	44	44	
①教育活動の充実等				B	B	
1)学習機会の提供	1311H	活用センター		A	B	82
	1311A1	東博		B	B	83
	1311A2	東博		B	B	84
	1311A3	東博		B	B	85
	1311B1	京博		B	B	86
	1311B2	京博		B	A	87
	1311C1	奈良博		B	B	88
	1311C2	奈良博		B	B	89
	1311D1	九博		B	B	90
	1311D2	九博		B	B	91
	1311D3	九博		B	B	92

2)ボランティア活動の支援	1312A	東博	B	B	93
	1312B	京博	B	A	94
	1312C	奈良博	B	B	95
	1312D	九博	B	B	96
3)大学との連携事業等の実施	1313A	東博	B	B	97
	1313B	京博	B	B	98
	1313C	奈良博	B	B	99
	1313D	九博	B	B	100
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与	1314A	東博	B	B	101
	1314B	京博	B	A	102
	1314C	奈良博	B	B	103
	1314D	九博	B	B	104
5)博物館支援者増加への取組	1315A	東博	B	B	105
	1315B	京博	B	B	106
	1315C	奈良博	B	B	107
	1315D	九博	B	B	108
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実			B	B	
1)有形文化財に関する情報の発信	1321HA	活用センター・東博	B	B	109
	1321B	京博	B	B	110
	1321C	奈良博	B	B	111
	1321D	九博	B	B	112
2)資料の収集と公開	1322A	東博	B	B	113
	1322B	京博	B	B	114
	1322C	奈良博	B	B	115
	1322D	九博	B	B	116
3)広報活動の充実					
3)-1広報計画の策定と情報提供	1323-1H	本部	B	B	117
	1323-1A	東博	B	B	118
	1323-1B	京博	B	B	119
	1323-1C	奈良博	B	B	120
	1323-1D	九博	B	B	121
3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動	1323-2A	東博	B	B	122
	1323-2B	京博	B	B	123
	1323-2C	奈良博	B	B	124
	1323-2D	九博	B	B	125
3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実	1323-3A	東博	A	B	126
	1323-3B	京博	A	B	127
	1323-3C	奈良博	A	A	128
	1323-3D	九博	B	B	129
(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　年度:B評定　中期:B評定		S評定	0	1	
		A評定	7	10	
		B評定	72	68	
事業件数　79		C評定	0	0	
外部資金を活用した調査研究	1410ABCD	4館	B	B	130
①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究			B	B	
1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究					
ア　a.特別調査(「法隆寺献納宝物」(第42次))	1411Aア-1	東博	B	B	131
ア　c.特別調査(「工芸」第12回)	1411Aア-3	東博	B	B	132
ア　d.特別調査(「彫刻」第10回)	1411Aア-4	東博	B	B	133
ア　e.特別調査(「絵画」第5回)	1411Aア-5	東博	B	B	134
イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	1411Aイ	東博	B	B	135
ウ　列品および寄託品に関連する有形文化財にかかる調査研究	1411Aウ	東博	B	B	136
エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究	1411Aエ	東博	B	B	137
オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	1411Aオ	東博	B	B	138
カ　東洋民族資料に関する調査研究	1411Aカ	東博	B	B	139
キ　特集「書と紙－平安時代の美しい紙－」に関連する調査研究	1411Aキ-1	東博	B	B	140
キ　特集「大野出目家と越前出目家の能面」に関連する調査研究	1411Aキ-2	東博	B	B	141
キ　特集「令和元年度新収品展」に関連する調査研究	1411Aキ-3	東博	B	B	142
キ　特集「世界と出会った江戸美術」に関連する調査研究	1411Aキ-4	東博	B	B	143

キ 特集「館蔵 珠玉の中国彫刻」に関連する調査研究	1411Aキ-5	東博	B	B	144
キ 特集「表慶館の建築図面」に関連する調査研究	1411Aキ-6	東博	B	B	145
キ 特集「博物館に初もうで ウシにひかれてトーハクまいり」に関連する調査研究	1411Aキ-7	東博	B	B	146
ク 館内調査研究「中近世風俗図の調査研究」	1411Aク	東博	B	B	147
ア 近畿地区社寺文化財の調査研究	1411Bア	京博	B	B	148
イ 訓点資料としての典籍に関する調査研究	1411Bイ	京博	B	B	149
ウ 旧家伝来の工芸品に関する調査研究	1411Bウ	京博	B	B	150
エ 京都周辺の考古遺物に関する調査研究	1411Bエ	京博	B	B	151
オ 特集展示・特別企画に関する調査研究	1411Bオ	京博	B	B	152
カ 考古相互貸借及び特集展示「丑づくし」にかかる調査研究	1411Bカ	京博	B	B	153
ア 復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	1411Cア	奈良博	B	B	154
イ 古代の写経と聖教に関する基礎的研究	1411Cイ	奈良博	B	B	155
ウ 仏教工芸・上代工芸の総合的調査	1411Cウ	奈良博	B	B	156
エ 墳墓出土品の調査研究	1411Cエ	奈良博	B	B	157
オ 南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	1411Cオ	奈良博	A	A	158
カ 東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	1411Cカ	奈良博	B	B	159
キ 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 〔神鹿の造形〕」に関する調査研究	1411Cキ	奈良博	B	B	160
ク 特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究	1411Cク	奈良博	A	A	161
ア X線CTスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究	1411Dア	九博	B	B	162
イ 近世キリスト教に関する研究	1411Dイ	九博	B	B	163
ウ 高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究	1411Dウ	九博	B	B	164
エ 「天神縁起の世界」ほか特集展示等に関連する調査研究	1411Dエ-1	九博	A	A	165
エ 特集展示「きゅーはくどうぶつえん」に関する調査研究	1411Dエ-2	九博	B	B	166
エ 特集展示「大宰府史跡指定100年記念・九州国立博物館開館15周年記念特集展示 筑紫の神と仏」に関する研究	1411Dエ-3	九博	B	A	167
エ 特集展示「九州国立博物館開館15周年記念 特集展示 織物に魅せられて 加賀前田家伝来の名物裂」に関連する調査研究	1411Dエ-4	九博	B	A	168
エ 特集展示「九州国立博物館 開館15周年記念特集展示 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展 しきしまの大和へ 奈良大発掘」に関連する調査研究	1411Dエ-5	九博	A	A	169
オ 水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究	1411Dオ	九博	B	B	170
2)特別展等の開催に伴う調査研究					
ア 特別展「きもの KIMONO」に関連する調査研究	1412Aア	東博	B	B	171
ア 特別展「皇室の名宝」に関する調査研究	1412Bア	京博	B	A	172
イ 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究	1412Bイ	京博	B	B	173
ア 特別展「第72回正倉院展」に関する調査研究	1412Cア	奈良博	B	B	174
ア 特別展「奈良中宮寺の国宝」に関連する調査研究	1412Dア	九博	B	B	175
イ 特別展「琉球展」に関連する調査研究	1412Dイ	九博	B	B	176
ウ 特別展「最澄と天台宗のすべて」に関連する調査研究	1412Dウ	九博	B	B	177
3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究					
ア 各施設と協力して、レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	1413Hア	活用センター	B	B	178
ア 博物館環境デザインに関する調査研究	1413Aア	東博	B	B	179
イ 博物館教育に関する調査研究	1413Aイ	東博	A	B	180
ウ 凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	1413Aウ	東博	B	B	181
エ ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	1413Aエ	東博	B	A	182
ア 博物館教育及びボランティアに関する調査研究	1413Bア	京博	B	S	183
ア 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	1413Cア	奈良博	B	B	184
ア 特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	1413Dア	九博	B	B	185
イ 文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究	1413Dイ	九博	B	B	186

②その他有形文化財に関連する調査研究				**B**	**B**	
1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究						
ア 博物館の環境保存に関する調査研究	1421Aア	東博		B	B	187
ア 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	1421Bア	京博		A	A	188
イ 文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	1421Bイ	京博		B	B	189
ア 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	1421Cア	奈良博		B	B	190
イ 文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cイ	奈良博		B	B	191
ウ 保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cウ	奈良博		B	B	192
ア 文化財の材質・構造等に関する共同研究	1421Dア	九博		B	B	193
イ 博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	1421Dイ	九博		B	B	194
ウ 博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	1421Dウ	九博		A	B	195
エ 展示ケース内の環境に関する調査研究	1421Dエ	九博		B	B	196
2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究						
ア 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	1422Aア	東博		B	B	197
イ 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	1422Aイ	東博		B	B	198
ア 博物館情報システム・資料情報処理に関する調査研究	1422Bア	京博		B	B	199
ア 文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	1422Cア	奈良博		B	B	200
③国内外の博物館等との学術交流等				B	B	
	1430A	東博		B	A	201
	1430B	京博		B	B	202
	1430C	奈良博		B	B	203
	1430D	九博		B	B	204
④調査研究成果の公表				B	B	
	1440A	東博		B	B	205
	1440B	京博		B	B	206
	1440C	奈良博		B	B	207
	1440D	九博		B	B	208
(5) 国内外の博物館活動への寄与　年度:B評定　中期:B評定			**S評定**	0	0	
			A評定	1	1	
事業件数　10			**B評定**	9	9	
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与				B	B	
	1510HA	活用センター・東博		A	A	209
	1510B	京博		B	B	210
	1510C	奈良博		B	B	211
	1510D	九博		B	B	212
②国内外の博物館等への援助・助言等				B	B	
	1520H-1	活用センター		B	B	213
	1520H-2	防災センター		B	B	214
	1520A	東博		B	B	215
	1520B	京博		B	B	216
	1520C	奈良博		B	B	217
	1520D	九博		B	B	218
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施						
(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　年度:B評定　中期:B評定			**A評定**	8	7	
事業件数　29			**B評定**	21	22	
① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究				B	B	
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究						
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	2111Eア	東文研		A	A	224
日本東洋美術史の資料学的研究	2111Eイ	東文研		B	B	225
近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2111Eウ	東文研		A	A	226
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2111Eエ	東文研		B	B	227
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究						
歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	2112F	奈文研		B	B	228
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究						
近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	2113F	奈文研		B	B	229

② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究				A	A	
1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2121E	東文研		A	A	230
2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2122E	東文研		A	A	231
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等						
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2123E	東文研		B	B	232
③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究				B	B	
1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究						
我が国の記念物に関する調査・研究(遺跡等整備)	2131Fア	奈文研		A	B	233
我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	2131Fイ	奈文研		B	B	234
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究						
平城宮跡東方官衙地区の調査(平城第621次)	2132Fア-1	奈文研		A	A	235
東大寺東塔院跡地区の発掘調査(平城第626次)	2132Fア-2	奈文研		B	B	236
法華寺旧境内の発掘調査(平城第631次)	2132Fア-3	奈文研		B	B	237
平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査(平城第634次)	2132Fア-4	奈文研		B	B	238
東院南方遺跡の発掘調査(平城第636次)	2132Fア-5	奈文研		B	B	239
平城宮北方遺跡の発掘調査(平城第637次)	2132Fア-6	奈文研		B	B	240
藤原宮大極殿院地区の発掘調査	2132Fア-7	奈文研		A	A	241
飛鳥地域等の発掘調査	2132Fア-8	奈文研		A	A	242
平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	2132Fイ-1	奈文研		B	B	243
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	2132Fイ-2	奈文研		B	B	244
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	2132Fウ	奈文研		B	B	245
中国との共同研究	2132Fエ-1	奈文研		B	B	246
韓国との共同研究	2132Fエ-2	奈文研		B	B	247
3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究						
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	2133F	奈文研		B	B	248
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究						
全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	2134Fア	奈文研		B	B	249
古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	2134Fイ-1	奈文研		B	B	250
古代瓦研究会に関する研究集会の開催	2134Fイ-2	奈文研		B	B	251
5)水中文化遺産に関する調査研究						
水中文化遺産に関する調査研究	2135F	奈文研		B	B	252
(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　年度:A評定　中期:A評定			A評定	8	6	
事業件数　16			B評定	8	10	
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進				B	B	
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発						
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2211E	東文研		A	B	253
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発						
埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	2212F	奈文研		B	B	254
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発						
年輪年代学研究	2213F	奈文研		B	B	255
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発						
動植物遺存体の分析方法の研究開発	2214F	奈文研		B	B	256
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究				A	A	
1)生物被害の予防と対策に関する調査研究						
文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	2221E	東文研		A	A	257
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究						
保存と活用のための展示環境の研究	2222E	東文研		B	B	258
3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究						
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2223E	東文研		A	A	259
4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究						
屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	2224E	東文研		B	B	260
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究						
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2225E	東文研		A	A	261
6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究						
考古遺物の保存処理法に関する調査研究	2226F	奈文研		A	A	262
7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究						
遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	2227F	奈文研		A	A	263

8)建造物の彩色に関する調査研究						
建造物の彩色に関する調査研究	2228F	奈文研	B	B	264
9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究						
近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	2229E	東文研	B	B	265
10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究						
高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2230Eア	東文研	B	B	266
高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2230Fア	奈文研	A	A	267
古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	2230Fイ	奈文研	A	B	268
(3) 文化遺産保護に関する国際協働　年度:A評定　中期:B評定		**A評定**	**2**	**1**	
事業件数　12		**B評定**	**10**	**11**	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進			**B**	**B**	
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信					
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2311Eア	東文研	A	A	269
文化遺産の保存・修復に関する人材育成(ユネスコ等)	2311Fア	奈文研	B	B	270
文化遺産の保存・修復に関する人材育成(イギリス等)	2311Fイ	奈文研	B	B	271
2)文化遺産保護協力事業の推進					
アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2312Eアイ	東文研	B	B	272
保存修復技術の国際的応用に関する研究	2312Eウ	東文研	B	B	273
文化財保護に関する国際協力の推進	2312Fア	奈文研	B	B	274
西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	2312Fイ	奈文研	B	B	275
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2312Fウ	奈文研	B	B	276
3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等					
在外日本古美術品保存修復協力事業	2313E-1	東文研	B	B	277
国際研修	2313E-2	東文研	B	B	278
ユネスコアジア文化センター(ACCU)等が行う研修への協力	2313F	奈文研	B	B	279
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究			**A**	**B**	
アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	2320G	IRCI	A	B	280
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　年度:A評定　中期:B評定		**A評定**	**5**	**3**	
事業件数　9		**B評定**	**4**	**6**	
① 文化財情報基盤の整備・充実 **1)文化財に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張** **2)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張** **3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供の充実**			**A**	**A**	
専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2411E	東文研	A	A	281
文化財に関するデータベースの充実	2411F	奈文研	A	A	282
図書の収集・整理・公開・提供	2414F	奈文研	A	A	283
② 調査研究成果の発信 **1)定期刊行物の刊行** **2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等** **3)ウェブサイトの充実**			**B**	**B**	
定期刊行物の刊行	2421E	東文研	B	B	284
定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	2421F	奈文研	B	B	285
オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	2422E	東文研	B	B	286
文化財情報基盤の整備・充実	2423E	東文研	A	B	287
③ 展示公開施設の充実			**A**	**B**	
1)特別展・企画展					
平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	2431F	奈文研	A	B	288
2)平城宮跡解説ボランティア研修					
平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	2432F	奈文研	B	B	289
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　年度:B評定　中期:B評定		**A評定**	**5**	**7**	
事業件数　26		**B評定**	**21**	**19**	
①文化財に関する研修の実施 **1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施** **2)研修体系の整理及び研修受講生及び派遣元自治体へのアンケート調査**			**B**	**B**	
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	2511E	東文研	B	B	290
文化財担当者研修	2512F	奈文研	B	B	291

②文化財に関する協力・助言等				**B**	**B**	
1)地方公共団体等への文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等						
文化財の収集、保管に関する指導助言	2521E-1	東文研		**B**	**B**	**292**
無形文化遺産に関する助言	2521E-2	東文研		**B**	**B**	**293**
文化財の虫菌害に関する調査・助言	2521E-3	東文研		**B**	**B**	**294**
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2521E-4	東文研		**B**	**B**	**295**
文化財の材質・構造に関する調査・助言	2521E-5	東文研		**B**	**B**	**296**
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2521E-6	東文研		**B**	**B**	**297**
文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	2521E-7	文活セ		**A**	**B**	**298**
地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	2521F-1	奈文研		**B**	**B**	**299**
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	2521F-2	奈文研		**A**	**A**	**300**
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	2521F-3	奈文研		**B**	**B**	**301**
2)他機関等との共同研究及び受託研究						
他機関等との共同研究及び受託研究	2522E	東文研		**B**	**B**	**302**
他機関等との共同研究及び受託研究	2522F	奈文研		**B**	**B**	**303**
3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴う、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力						
地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	2523F	奈文研		**A**	**A**	**304**
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力				**B**	**B**	
1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力						
国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力	2531F-1	奈文研		**B**	**B**	**305**
文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	2531F-2	奈文研		**B**	**B**	**306**
国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	2531F-3	奈文研		**A**	**A**	**307**
文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	2531F-4	奈文研		**A**	**A**	**308**
2)NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力						
NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	2532F	奈文研		**B**	**B**	**309**
④連携大学院教育の推進						
1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進				**B**	**B**	
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2541E	東文研		**B**	**B**	**310**
京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	2541F	奈文研		**B**	**B**	**311**
⑤文化財等の防災・救援等への寄与				**B**	**A**	
1)体制づくり	2551	防災		**B**	**A**	**312**
2)調査研究等の実施	2552ア	防災		**B**	**A**	**313**
	2552イウエ	防災		**B**	**A**	**314**
3)人材育成・事業啓発活動等の実施	2553	防災		**B**	**B**	**315**
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置			**A評定**	**0**	**0**	
事業件数 9			**B評定**	**9**	**9**	
1.業務改善の取組 **年度:B評定 中期:B評定**						
(1) 組織体制の見直し	6110	本部		**B**	**B**	**357**
(2) 人件費管理の適正化	6120	本部		**B**	**B**	**358**
(3) 契約・調達方法の適正化	6130	法人全体		**B**	**B**	**359**
(4) 共同調達等の取組の推進	6140	法人全体		**B**	**B**	**360**
(5) 一般管理費等の削減						
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化	6151	本部		**B**	**B**	**361**
②計画的なアウトソーシング	6152	法人全体		**B**	**B**	**362**
③使用資源の減少	6153	法人全体		**B**	**B**	**363**
2.業務の電子化 **年度:B評定 中期:B評定**						
業務の電子化	6200	本部		**B**	**B**	**364**
3.予算執行の効率化 **年度:B評定 中期:B評定**						
予算執行の効率化	6300	本部		**B**	**B**	**365**

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 事業件数　18		A評定 B評定	1 17	3 15	
1.自己収入拡大への取組　年度:B評定　中期:B評定					
(1)観覧料金改定	7110	法人全体	B	A	366
(2)自己収入拡大への取組	7120	法人全体	B	A	367
(3)外部資金の獲得	7130	法人全体	A	A	368
(4) 保有資産の有効利用の促進	7140A	東博	B	B	369
	7140B	京博	B	B	370
	7140C	奈良博	B	B	371
	7140D	九博	B	B	372
	7140E	東文研	B	B	373
	7140F	奈文研	B	B	374
2.固定的経費の節減　年度:B評定　中期:B評定					
(Ⅱ　1.（5） と同じ)					
3.決算情報・セグメント情報の充実等　年度:B評定　中期:B評定					
決算情報・セグメント情報の充実等	7300	本部	B	B	375
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画					
1.予算、2.収支計画及、3.資金計画　年度:B評定　中期:B評定					
予算、収支計画、資金計画	8000	本部	B	B	376
Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置					
1.内部統制　年度:B評定　中期:B評定					
内部統制	9100	本部	B	B	377
2.その他　年度:B評定　中期:B評定					
(1) 自己評価	9210	本部	B	B	378
(2) 情報セキュリティ対策	9220	本部	B	B	379
3.施設設備に関する計画　年度:B評定　中期:B評定					
施設設備に関する計画	9300	本部	B	B	380
4.人事に関する計画　年度:B評定　中期:B評定					
(1) 中長期的な人事計画の策定	9410	本部	B	B	381
(2) 評価制度の導入					
(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施	9420	本部	B	B	382
(4) 女性の活躍の推進					
(6) 働き方改革関連法に応じた取組の実施					
(5) 職員のキャリアパス形成のための研修	9430	本部	B	B	383

令和２年度　中止した事業一覧

処理番号	施設名	年度計画の記号	事業の名称	今後の予定
1221Aｱ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-ア	ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止 (3年秋に同内容の展覧会の開催を検討中)
1221Aｲ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-イ	法隆寺金堂壁画再現70年「法隆寺金堂壁画と百済観音」	中止
1221Aｴ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-エ	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	3年6月22日～9月12日に延期
1221Aｵ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-オ	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツ　NIPPON」	3年7月13日～9月20日に延期
1221Aｶ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-カ	日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアのうるしの世界」	3年7月13日～9月20日に延期
1221Aｷ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-キ	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	3年4月13日～5月30日に延期
1221Aｻ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-サ	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」	中止
1221Aｼ	東京国立博物館	1-(2)-②-1)-シ	日本の美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）	4年度に延期
1221Cｲ	奈良国立博物館	1-(2)-②-1)	特別展「仏教美術名品展」（仮称）	3年7月に延期
1221Cｴ	奈良国立博物館	1-(2)-②-1)	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	4年2月に延期
1221Dｱ	九州国立博物館	1-(2)-②-1)	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展」	中止
1221Dｲ	九州国立博物館	1-(2)-②-1)	特別展「開館15周年記念特別展 海幸山幸-祈りと恵みの風景」	3年秋季に延期
1221Dｳ	九州国立博物館	1-(2)-②-1)	特別展「開館15周年記念特別展 加耶」	4年冬季に延期
1411Aｱ-2	東京国立博物館	1-(4)-①-1)ア	b.特別調査「書跡」第18回	3年4月以降に延期
1411Aｱ-6	東京国立博物館	1-(4)-①-1)ア	f.特別調査「考古」第1回	3年4月以降に延期
1411Aｸ	東京国立博物館	1-(4)-①-1)ク	日本美術における羽根モザイク作品に係る国際共同研究	中止
1412Aｱ	東京国立博物館	1-(4)-①-2)ア	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」に関する調査研究	中止
1412C	奈良国立博物館	1-(4)-①-2)	特別展「仏教美術名品展」に関する調査研究	展覧会が3年度に延期のため、調査研究も3年度に延期
3213F-2	奈良文化財研究所	2-(2)-①-3	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査	3年度に延期
3312F-2	奈良文化財研究所	2-(3)-①-2)-ア-(イ)	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究　物質文化に見る前期青銅器時代1期南西カナンにおけるエジプト人居留地	3年度に延期

Ⅱ　令和２年度　自己点検評価報告書　個別表

自己点検評価報告書「書式Ａ（事業系)」　様式補足説明

○【定量的評価】

目標値は、中期計画・年度計画で目標値を定めた項目のみ記載している。

○【定量的評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評価が標準となる

○【年度計画に対する総合評価】及び【中期計画に対する総合評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

○【判定根拠、課題と対応】

「判定根拠」は記載を必須とし、「課題と対応」は必要に応じて適宜記載している。

自己点検評価報告書「書式Ａ（特別展）」　様式補足説明

○【定量的評価】、【年度計画に対する総合評価】、【判定根拠、課題と対応】
「書式Ａ（事業系）」と同様

○【成果】
各項目については次のような観点・論点を踏まえて記載している。

企画構成・展示作品
・企画構成（コンセプト、展示配列・組合せ等）の意図について
・展示品の概要（質、分野、初出品、規模等）について
・企画構成や展示方法の独創性や新規性、工夫について
・地域連携（巡回・地方の文化財や文化の紹介）や国際交流等の側面について
・時機、社会的関心、話題性等の観点について

学術的意義
・学問的重要度の高さについて
・新知見や新たな観点の提供、新発見の紹介等について
・図録での論文・解説等について（内容が充実している、本数が多い等）
・今後の研究への発展性や新規寄託の獲得等について
※研究の詳しい内容は「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」で記載

教育普及
・来館者の興味を喚起する取組や理解を助ける取組（解説の工夫・パネル設置・リーフレット作成・ハンズオン等）の実施について
・講演会、シンポジウム、ギャラリートーク等の開催について
・教育的イベント（子供向け等）の実施について

その他（運営・広報・サービス等）
・動線の工夫や待ち列対応等の混雑対策について
・関連する平常展示の実施について
・音声ガイドについて
・広報活動の展開（交通広告・ネット・SNS）について
・特別内覧会等の関連事業の実施について
・関連映像上映について

自己点検評価報告書「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」　様式補足説明

○【年度計画に対する総合的評価】の評定及び【中期計画の実施状況の確認】の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

自己点検評価報告書「書式Ｃ」　様式補足説明

１　「年度計画評価」＞「定性評価」について

下記の５つの観点から、当該研究プロジェクト等に応じた観点を４つ以上選択の上記載し、それぞれ評定（Ｓ～Ｄ）を付している。

【観点の考え方】

・適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性
・独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性
・発展性：応用性・汎用性、影響性、多様性
・効率性：時間、人員、設備等
・継続性：期間、質・内容、量、基礎性

【観点の判定基準】

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している（標準）
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

２　「年度計画評価」＞「定量評価」について

当該事業の実績データのうち、中期目標・計画上の評価指標となっているものは、「実績値」として以下の基準で定量評価を行っている。なお、その他の実績データについては、「参考値」として掲載している（定量評価対象とはしていない）。

（評価指標の対象となるもの：文化財に関するデータベースの公開件数、定期刊行物等の刊行件数、公開施設における特別展・企画展の開催件数　等）

Ｓ：達成率 120％以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120％以上
Ｂ：達成率 100％以上 120％未満（標準）
Ｃ：達成率 80％以上 100％未満
Ｄ：達成率 80％未満

３　「年度計画評価」＞「評定理由」について

定性評価の判定理由を記述している。また、定量評価がある場合は、その判定状況を併せて記述している。

４　「年度計画評価」について

２の定性評価及び３の定量評価の各観点の評定（Ｓ～Ｄ）を下記にて数値化（５～１点）し、平均値を四捨五入して評定を算出している。

Ｓ＝５点、Ａ＝４点、Ｂ＝３点（標準）、Ｃ＝２点、Ｄ＝１点
（例１）Ａが３つ、Ｂが２つの場合
（４点×３＋３点×２）÷５＝　３．６　≒　４　→評価　Ａ
（例２）Ａが２つ、Ｂが３つの場合
（４点×２＋３点×３）÷５＝　３．４≒　３　→評価　Ｂ

５　「中期計画評価」について

１の【観点の判定基準】と同様の基準で評価している。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1110A

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。
（東京国立博物館）
1)　本館については収蔵・展示施設の改修等に関する基本計画を引き続き策定する。
2)　文化財保護法に基づく重要文化財の保存活用計画の策定について、本館を対象に検討を行う。
3)　文化財管理棟に、トーハク新時代プランに基づき、見せる修理所の開設及びバックヤードツアーの導入を行う。
4)　トーハク新時代プランに基づき、庭園を改修して、通年開放するための準備を進める。
5)　トーハク新時代プランに基づき、カフェや休憩スペースの整備を進める。

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香

【実績・成果】
（4館共通）
1)施設の特性や維持管理・更新等に係る取組状況を踏まえつつ、メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画を策定した。(3年1月)
（東京国立博物館）
1)トーハク新時代プランに基づき変更された本館の展示室について基本計画を修正した。
2)本館保存活用計画検討委員会を開催（11月11日、1月19日）し、外部有識者の意見等を踏まえ検討を行った。
4)トーハク新時代プランに基づき庭園を通年開放するため、庭園整備工事（Ⅱ期）を実施した。(3年3月完了)
5)元年度に新設した東洋館別館のカフェは、6月の開館再開と同時に軽食の提供を開始した。
本館を中心にソファを更新し、快適な観覧環境の整備を実施した。

【補足事項】
3)見せる修理所の開設及びバックヤードツアーは新型コロナウイルスの影響により2年度は中止とし、機材等の整備を推進した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部有識者やオブザーバーである文化庁や東京都及び台東区の文化財担当者が出席した本館保存活用計画検討委員会を2回開催した。 トーハク新時代プランに基づき、順調に庭園や休憩スペースの整備をすすめた。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（東京国立博物館）
開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 トーハク新時代プランに基づき、順調に庭園や休憩スペースの整備をすすめた。 中期計画期間中の元年度まで施設設備等の調査を行い、2年度はそのデータを取りまとめ分析を行い個別施設計画を策定し、中期計画を遂行できた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1110B

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】

（4館共通）

1)　収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。

（京都国立博物館）

1)　本館（明治古都館）の免震耐震改修に向け、埋蔵文化財発掘調査を行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　西尾佐枝子

【実績・成果】

（4館共通）

1)　収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた個別施設計画の策定を行い、スケジュールどおりに取りまとめた。今後この計画を基に次期点検・診断等に活用しつつ継続的に更新していく。

（京都国立博物館）

1)　本館（明治古都館）改修計画及び観覧環境の再整備計画に向けた、埋蔵文化財発掘調査を行った。

【補足事項】

本館北東部発掘調査状況

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	メンテナンスサイクルについては、スケジュールどおりに取りまとめ作業を行った。埋蔵文化財発掘調査については新たな遺構の検出などもあり、調査範囲や調査期間に変更が生じつつも調査を実施した。

【中期計画記載事項】

施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を2年度までに構築し、継続的に発展させる。

（京都国立博物館）

京都国立博物館本館（明治古都館）の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の最終年度として、施設の状態や対策履歴等の取りまとめ作業を行い、それを基にして「メンテナンスサイクル」を構築することができた。 中期計画に従い、本館（明治古都館）改修計画及び観覧環境の再整備計画に向け、埋蔵文化財発掘調査を進めつつ、文化庁や近畿地方整備局との協議を進めることができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1110C

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。
（奈良国立博物館）
1)文化財保存修理所の老朽化した空調設備の更新を行う。また、狭隘なエントランスの拡充、老朽化した東新館展示室・空調設備機器の整備、不足している展示・収蔵スペースの拡充など施設設備の検討を行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
1)
・各種設備に関するメンテナンス更新計画に基づき概算要求を行った。
・展示室等空調設備の修繕計画に基づき修繕を行った。
(奈良国立博物館)
1)
・文化財保存修理所の老朽化した空調設備の全面改修を行った。
・展示施設の防犯対策として老朽化した監視カメラ設備の一部更新を行った。
・バリアフリー化の一環として、公道から建物玄関までの舗道整備を行った。
・エントランス拡張整備の検討し、概算要求を行った。
・東新館整備について検討し、概算要求を行った。
・館内の日本庭園について一般公開を目的としたWGを立ち上げ検討し、改修設計を行った。

【補足事項】
1)
・各種設備のメンテナンス更新計画及び状況調査を行い、概算要求を行った。
・展示室の適正な温湿度管理のため、老朽化した空調機メンテナンス計画に基づき、機器のメンテナンス修繕を行った。
1)
(奈良国立博物館)
・文化財保存修理所の空調設備の改修時、中性能フィルターを追加し、改修前に比べ空気環境が良くなった。
・監視カメラ設備の健全な状態を保持するため重要度・老朽度の高い装置から優先的に更新を行った。
・エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行った。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	メンテナンスサイクルの更新計画に基づき緊急度の高い事項について概算要求を行った。 監視カメラ設備装置の更新は文化財活用基金にて行った。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を33年度までに構築し、継続的に発展させる。
（奈良国立博物館）
構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今中期最終年度の2年度においても、老朽化施設の点検・診断を計画通り実施し中期計画を達成した。次期中期においては建物のメンテナンスサイクル更新計画の構築を行い、施設の長寿命化へ取り組む予定である。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1110D

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

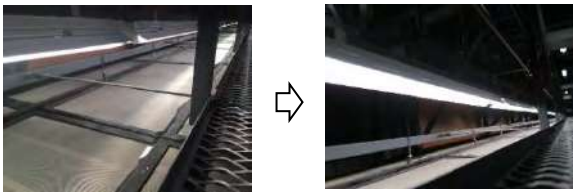
【年度計画】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。
（九州国立博物館）
1)開館から14年が経過し、施設・設備に老朽化がみられるため、収蔵・展示施設の維持管理を目的とした改修等を行う。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課 総務課 広報課	事業責任者	課長　原田あゆみ 課長　白井克也 課長　執行正一 課長　沓掛裕顕

【実績・成果】
（4館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル計画確立のため、個別施設計画を策定した。
（九州国立博物館）
1)・老朽化が著しく、緊急度・重要度の高い中央監視設備（空調設備関連の監視制御）の更新や、プレート式熱交換器のプレート洗浄整備を行った。また、文化交流展示室のエアハンドリングユニット（空気調和機）の腐食箇所を塗装した。
・一部展示室内のメンテナンス照明等を、LED照明器具へ更新した。
・特別展示室の床面ワックスの全面剥離と再塗布を行った。

【補足事項】
（九州国立博物館）
1)・館内全体の空調設備を監視・管理している中央監視設備について、老朽による制御部品の不具合が増加しており空調設備の停止等、運営に支障をきたす重大な不具合が発生する懸念が生じていた。
　今回の更新により、館全体に及ぶ重大な不具合の発生を防ぐとともに、安定的な監視状態が確保できるよう改善を図った。また、生産が終了している蛍光灯照明器具について、計画的にLED更新を行った。

中央監視設備モニター設備（更新前・後）


特別展示室１メンテナンス照明（更新前・後）

・特別展示室ではこれまで展覧会が終了するごとに床面をワックス掛けしてきたが、積年の塗り重ねによって各所に段差やひび割れが生じており、当該箇所がライトに照らされると展示空間の美観を大きく損ねる要因となっていた。今回のワックス全面剥離と再塗布により、床面が平滑となり観覧者によりよい展示空間を提供できることとなった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵･展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル確立のため､個別施設計画を策定し､空調設備等各設備についてメンテナンスを実施した。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（九州国立博物館）
開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、個別施設計画を策定すると共に、施設の10年整備計画等に基づき、監視カメラ・空調システム等を改修することで、中期計画を遂行した。計画に基づく予算の確保や更新について、独法と県の共同運営であるため、足並みを揃えて実施することが困難な状況である。優先順位の検討等、引き続き、計画の実施方法を検討する必要がある。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・購入件数 1件　内訳：絵画1件
・決算額　200,000,000円

2年度は、絵画1件 重要文化財「法然上人絵伝」を購入した。

【補足事項】
・法然上人の伝記を描いた絵巻。もとは九巻構成の琳阿本と呼ばれる系統の作例で、本作はそのうちの第七巻にあたる。法然上人の伝記を描いた「法然上人絵伝」は京都・知恩院蔵の四十八巻本（国宝）とほぼ同時代に制作され、現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例である。本作は各系統の成立や影響関係を考察する上で重要な作品であるのみならず、本作ともとは一連であった当館所蔵の「法然上人絵伝」（A-10571）などとともに展示することで、高い展示効果が得られる。

［購入品］重要文化財　法然上人絵伝　1巻

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
収蔵品件数	119,942件	－	－	経年変化	117,190	117,460	119,064	119,871
うち国宝	89件	－	－		88	89	89	89
うち重要文化財	648件	－	－		636	643	644	646
収集件数	71件	－	－		199	268	1,606	807
うち購入件数	1件	－	－		11	12	31	11
うち寄贈件数	52件	－	－		44	84	72	28
うち編入件数	18件	－	－		144	172	1,503	768
文化財購入費	200,000千円	－	－		662,350	252,720	146,840	279,200

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
２年度は高い展示効果のある作品を重点的に購入することを主眼として、重要文化財「法然上人絵伝」を購入した。本作は現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例であり、当館に長らく寄託されていたものである。これまでも多く活用され、高い展示効果があることから、本作を購入できたことは意義深いものである。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は高い展示効果のある作品を重点的に購入することを主眼として、重要文化財「法然上人絵伝」を購入した。2年度の購入作品は1件であるが、重要文化財に指定されている本作を中期計画の最終年度に購入できたことにより、中期計画期間中において、重要文化財6件を含む計66件の文化財を購入し、中期計画を遂行できた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1121B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（京都国立博物館）
　京都文化を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
・購入件数9件　内訳：絵画 1件、金工 2件、陶磁 1件、漆工 3件、染織 2件
・決算額円　41,715,600円

【補足事項】
・２年度は、「竹石図　池大雅筆、宮崎筠圃賛」、「三足香炉」、「短刀　銘達磨」、「法花蓮池水禽図壺」、「夾紵棺断片」、「菊桐蒔絵耳盥」、「流水沢瀉蒔絵螺鈿香枕」、「鼠麻地柳に浮舟文様染繍帷子」、「淡浅葱紗綾地菊花紋団扇文様染描絵夜着」を購入した。

「竹石図　池大雅筆、宮崎筠圃賛」

「短刀　銘達磨」

「流水沢瀉蒔絵螺鈿香枕」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品件数	8,150件	－	－		7,794	7,977	8,075	8,130
うち国宝	29件	－	－		28	29	29	29
うち重要文化財	200件	－	－		198	202	196	200
収集件数	20件	－	－		265	184	98	55
うち購入件数	9件	－	－		14	12	12	24
うち寄贈件数	11件	－	－		251	172	86	31
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	41,716千円	－	－		130,088	291,808	106,340	383,800

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　京都に関わりが深く、京都文化を後世に伝える上で重要な作品を購入することができた。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（京都国立博物館）
　京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　2年度も収集方針に基づき、京都文化を中心とした美術作品を順調に購入することができた。
　また、中期計画の年度別に様々な分野の作品を購入した。
　今後も調査研究をさらに進め、展示・研究に寄与する作品を順次購入する予定である。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1121C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（奈良国立博物館）
　仏教美術及び奈良を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
購入件数10件　内訳：彫刻1件、絵画1件、書跡1件、工芸4件、考古3件
決算額：284,500,000円

【補足事項】
　2年度は以下の文化財を購入した。
彫刻：「木造仏像背板」1点。かつて国宝・薬師如来立像（元興寺所蔵・当館寄託、奈良時代）に附属していた背板。
絵画：重要美術品「東大寺戒壇院扉絵図」2幅。戒壇院の厨子（奈良時代、現存せず）の扉絵を鎌倉時代に写した白描図の傑作。高山寺伝来品で、仏教絵画史上極めて重要な作品。
書跡：「三社託宣」1幅。伊勢・八幡・春日の三神の神号と託宣を表わした、15世紀に遡る貴重な作例。
工芸：「金銅宝珠鈴」「金銅宝珠鈴」「金銅宝塔鈴」「金銅宝塔鈴」の計4件。平安・鎌倉時代の密教法具の優品。
考古：「灰釉短頸壺」「須恵器短頸壺」「伯牙弾琴鏡」の3件。現存最大の猿投壺（完形品、8～9世紀）と、同形同大の須恵器壺、そして中国・唐時代の銅鏡の貴重な出土品。

重要美術品　東大寺戒壇院扉絵図

灰釉短頸壺

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
収蔵品件数	1,929件	－	－	経年変化	1,886	1,893	1,908	1,911
うち国宝	13件	－	－		13	13	13	13
うち重要文化財	114件	－	－		112	113	113	114
収集件数	18件	－	－		3	7	15	3
うち購入件数	10件	－	－		2	6	6	3
うち寄贈件数	8件	－	－		1	1	9	0
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費（千円）	284,500円	－	－		5,040	550,000	101,564	100,440

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　奈良ゆかりの仏教美術作品や、日本美術史に重要な位置を占める作品を、各分野にわたってバランス良く、かつ数多く収集することができた。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（奈良国立博物館）
　仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　2年度も、仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料、歴史資料等を、バランス良く多数収集することができ、中期を通して計画を達成した。平素より重要な文化財の所在や実態の把握を行ってきた当館の活動が、この成果を生んだと思量される。今後も引き続き、情報収集につとめ、展示・研究に有用な作品の収集に努めて行きたい。

【書式A】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1121D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（九州国立博物館）
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
・購入件数　49件。
内訳：絵画4件、書跡2件、刀剣2件、陶磁3件、漆工2件、染織5件、考古27件、民族資料1件、歴史資料3件
・決算額　584,156,250円
当館の展示テーマである、日本とアジア、ヨーロッパ諸国との文化交流を示す作品を中心に収集した。重要文化財「古文書手鑑」や「花鳥堆朱盤」、「豊臣秀吉領知宛行状」などの優れた文化財を49件購入した。

【補足事項】
・絵画分野では4件購入した。琉球の画家・山口宗季による「花鳥図」、「椿白鷹図」は、戦火による焼失の多い琉球絵画の貴重な作品であるとともに、画壇を代表する絵師による優品である。河村若芝による「布袋図」は、長崎に花開いた長崎唐絵の代表的な画家、若芝の新出の作例として貴重である。いずれも東アジア絵画史における文化交流の観点からも重要な作品である。
・書跡分野では2件購入した。重要文化財「古文書手鑑」は、江戸時代・18世紀前半頃に長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全78葉を収める手鑑である。また、宗像社領小呂嶋をめぐって宋商人・謝国明の名が登場する関東御教書や、蒙古襲来に際して石見の御家人に防戦のため下向を命じた関東御教書などは貴重で、対外交流や九州との関係の深さから当館にふさわしい作品である。
・陶磁分野では3件購入した。重要文化財「法花蓮鷺文有蓋壺」は、著名な数寄者によって所蔵され、高い評価を受けてきたもので、堂々とした風格と華やかさを備えた法花の名品である。
・漆工分野では2件購入した。「花鳥堆朱盤」は、宋時代以来好まれた吉祥性あふれる意匠である牡丹花と双鳥様式の尾長鳥をあらわす。室町時代に愛好された唐物漆器の中でも定番の作例であり、作行・状態ともに大変優れ、展示効果も高い。

重要文化財
法花蓮鷺文有蓋壺

・考古分野では27件購入した。青森県出土の土偶2件は、様式の変遷がたどれるもので、一つは、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された亀ヶ岡文化のものである。いずれもユニークな造形で、展示でも大いに活用が期待される。
・歴史資料では3件購入した。「豊臣秀吉領知宛行状」は対馬藩主、宗義調・宗義智宛に発給された秀吉の領知宛行状である。これは、豊臣秀吉の九州平定後、対馬の宗氏を従え、朝鮮出兵へと進み始める段階の一次史料として重要なものである。
・いずれも日本と大陸の文化交流を物語る作例であり、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
収蔵品件数	1,412件	－	－	経年変化	583	878	1,164	1,279
うち国宝	4件	－	－		3	3	4	4
うち重要文化財	44件	－	－		37	39	41	42
収集件数	133件	－	－		58	295	286	115
うち購入件数	49件	－	－		36	34	105	49
うち寄贈件数	84件	－	－		22	261	181	66
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	584,156千円	－	－		640,412	640,636	907,943	461,396

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度も元年度と同様に収集件数を大きく伸ばすことができた。当館が収蔵するにふさわしく、文化交流を端的に示す「古文書手鑑」などのほか、「花鳥図」や「花鳥堆朱盤」など、時代の美意識を示す作品もバランスよく収集した。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（九州国立博物館）
日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通して、日本とアジア、ヨーロッパ諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、工芸、考古、歴史資料を多数購入、寄贈を受けることにより、貴重な作品をバランス良く収集し、中期計画を遂行した。
次期中期である3年度以降も、購入、受贈につとめ、より一層のコレクションの充実を図りたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1122A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
（４館共通）
寄贈
・新規寄贈品件数　52件
　　内訳：絵画 2件、書跡 29件、陶磁 1件、東洋書跡 15件、東洋彫刻 1件、東洋染織 1件、東洋考古 3件
寄託
・新規寄託品件数　69件
　　内訳：絵画 4件、書跡 29件、彫刻 5件、漆工 1件、歴史資料 1件、東洋書跡 27件、東洋陶磁 2件
・寄託品は新規に69件を受け入れた。返却9件のうち、2件は寄贈品として受理した。

【補足事項】
寄贈
・作品の寄贈については8人の所蔵者から、52件の文化財を受け入れた。
・「粟穂鶉図屏風」は土佐光起の作として、のちの土佐派が継承することとなった鶉図の貴重な大画面作例である。また、当館は土佐派による景物図の大作は所蔵していなく、本図が加わることで展示活用の幅が広がることが期待される。
・重要美術品の「和漢朗詠集巻上断簡（戊辰切）」は藤原伊行筆である。平安時代末に『和漢朗詠集』が金銀箔の散らされた料紙に書写されていることは大変貴重であり、巻下はその父・藤原定信筆として当館所蔵であるため、書跡分野においてより高い展示効果が期待される。
寄託
・作品の寄託については5機関3個人から、69件を新規に受け入れた。
・寄託品のうち国宝は、書跡1件、東洋書跡1件。重要文化財は、絵画1件、書跡8件、彫刻2件、東洋書跡8件である。

［寄贈品］粟穂鶉図屏風 8曲1双

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
新規寄贈品件数	52件	－	－		44	84	72	28
寄託品件数	2,651件	－	－		3,075	3,109	3,130	2,591
うち新規寄託品件数	69件	－	－		37	71	45	29

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
　2年度は書跡・東洋書跡分野を中心として重要美術品を含む展示に大いに活用できる寄贈を一括で受け入れた。また、寄託についても国宝2件、重要文化財19件を含む69件を受け入れることができた。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
　本中期計画期間は寄贈品件数について、第 3 期中期計画期間には及ばなかったものの、中期計画期間を通じて安定的に寄贈を受け入れることができ、第 2 期中期計画を上回る寄贈品件数であったため、中期計画の目標は達せられた。
　寄託については第 3 期中期計画期間中に一括で受け入れた公益財団法人大倉文化財団寄託品は、寄託当初の計画どおり返却したため、寄託品件数は減少したものの、中期計画期間を通じて安定的に寄託の増進を図ることができ、特に 2 年度には公益財団法人常盤山文庫から、新たに書跡・東洋書跡分野を中心に、国宝・重要文化財を含む多くの寄託を受け入れることができた。以上のことから当初の目標を上回る成果を得られたと判断した。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（4館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
・寄贈
　新規寄贈品件数11件
　内訳：絵画　6件、染織　4件、歴史資料　1件
・寄託
　新規寄託品件数43件
　内訳：絵画　21件、書跡　1件、金工　7件、陶磁　3件、漆工　6件、染織　1件、考古　4件

【補足事項】
　2年度は、下記の3点をはじめとした新規寄託品を網羅的に収集することができた。

（重要文化財）柿・栗図

（重要文化財）芦雁図襖 雲谷等顔筆

（重要文化財）鉄燈籠 貞永二年銘

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
新規寄贈品件数	11件	－	－		251	172	86	31
寄託品件数	6,547件	－	－		6,189	6,235	6,434	6,520
うち新規寄託品件数	43件	－	－		227	79	232	149

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
　寄贈については、絵画と染織作品を受け入れることができた。
　また、寄託については、重要文化財4件を含む多くの貴重な作品を受け入れることができた。
　各分野の研究員が寄託者との信頼関係の構築に尽力しており、更なる寄託品の受け入れに貢献している。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画に沿って、当館がテーマとする京都の文化を基軸にした寄贈品・寄託品の受け入れを分野毎に行うことができた。受贈、受託した作品に関しては、今後の展示への活用を計画している。
　また、寄贈者に対して、税制措置のサポートを行う等の当館独自の取り組みも行っており、寄贈者の満足度向上に努めることができている。以上のように寄贈・受託品の積極的な受け入れ推進・活用ができているため、中期計画を達成したと言える。
　今後も寄贈者・寄託者との信頼関係を大切にし、より一層のコレクションの充実を図りたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1122C

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（4館共通）
寄贈を受け入れたのは以下の8件である。
・彫刻　1件：「木造蔵王権現立像」 1軀（個人）
・工芸　1件：「紅牙撥鏤碁子 模造・紺牙撥鏤碁子 模造　村松親月 作」 各5枚（個人）
・考古　6件：「六十六部経筒片」 1点（個人）、「六十六部納札片」 1点（個人）、
「礫石経（伝神倉山経塚出土）附 軸端」 1括（個人）、
「泥塔・泥塔経」 6点（個人）、「切子碗」 1口（個人）「長沙窯鳥文水注」 1口（個人）
寄託を受け入れたのは以下の26件である。
・彫刻　10件：「銅造観音菩薩立像」1軀（法徳寺）、「木造如来坐像」1軀（法徳寺）、「木造地蔵菩薩立像」1軀（法徳寺）、「木造文殊菩薩坐像」1軀（法徳寺）、「木造持国天立像・増長天立像」2軀（法徳寺）、「銅造大威徳明王騎牛像」1軀（妙法院）、国宝「木造天蓋（所在金堂）附属飛天像 横笛」1軀（法隆寺）、小野市指定文化財「木造阿弥陀如来立像」 1軀（浄土寺）、「木造阿弥陀三尊像」 3軀（個人）、重要文化財「木造金剛力士立像　康成作（所在二王門）」2軀（金峯山寺）
・絵画　4件：「三天合体像」1幅（談山神社）、「中将姫像」 1幅（青蓮寺）、「春日鹿曼荼羅」1幅（個人）、「和州矢田山地蔵菩薩毎月日記」1幅（金剛山寺）
・工芸　7件：「毘沙門天王三尊懸仏」 1面（朝護孫子寺）、「金銅山王本地仏懸仏」1面（宗教法人悟心会）、「銅布薩水瓶」1口（現光寺）、「銅布薩水瓶」1口（慈眼寺）、「銅五鈷杵」1口（慈眼寺）、「粉地彩絵八角几　模造」1口（個人）、「金銅火焔宝珠形舎利容器」1基（個人）
・書跡　5件：「注大般涅槃経　巻第十三」1巻（個人）、「法華経　巻第五（残巻）」1巻、「称讃浄土仏摂受経」 1巻（青蓮寺）、「称讃浄土仏摂受経」1巻（青蓮寺）、「称讃浄土仏摂受経」 1巻（青蓮寺）

【補足事項】
・彫刻部門で寄贈品として受け入れた「木造蔵王権現立像」は平安時代らしい造形感覚にあふれた作品で、館蔵品に蔵王権現像が少ないことと併せ、展示効果は高いと見込まれる。寄託品として受け入れた「木造阿弥陀如来立像」は快慶作の可能性がある佳品、「木造阿弥陀三尊像」は多武峯妙楽寺伝来とされ、製作年や製作者が判明する重要な品で、いずれも展示・研究両面での活用が期待される。
・絵画部門で寄託品として受け入れた「中将姫像」は、近世以前に描かれた中将姫単独画像の数少ない作例の一つで、宮廷周辺の人物が関わって青蓮寺のために描いた由緒の明らかなものとして大変貴重。当館絵画部門の柱の一つである南都の信仰に関わる絵画の一角を成すものと位置付け得る。
・工芸部門で寄贈品として受け入れた「紅牙撥鏤碁子 模造・紺牙撥鏤碁子 模造　村松親月 作」は正倉院宝物の模造品で、奈良時代の撥鏤技法の調査成果を反映した意義深い作品である。寄託品として受け入れた「毘沙門天王三尊懸仏」は製作年・製作者等の墨書銘を有する大型の作例で、近年注目を集める宿院仏師の基準作と考えられる重要な品。
・書跡部門で寄託品として受け入れた「法華経巻第五（残巻）」は、写経年代の明らかな唐代の写経として非常に価値が高い。「称讃浄土仏摂受経」のうち２巻は奈良時代の「中将姫願経」として知られるもので、展示の充実に資する上、学術的な調査によるデータの蓄積も期待される。１巻は鎌倉時代の写経で、中世における中将姫信仰の事例を示す重要な品である。
・考古部門で寄贈品として受け入れた経塚の出土品3件（「六十六部経筒片」「六十六部納札片」「礫石経（伝神倉山経塚出土）附 軸端」）は中世から近世にかけての納経に関わる信仰の様相を示す。古代から中世にかけての塔供養の一端を示す「泥塔・泥塔経」と併せて、考古部門の収蔵品の充実を図ることができる。「切子碗」は西アジア製で正倉院宝物の白瑠璃碗に時期的に先行するとみられる稀少な品。「長沙窯鳥文水注」は晩唐代の釉下彩絵で、古代日本において数多く招来された貿易陶磁と比較し得る重要な作例。いずれも研究や展示において多様な活用が可能である。

寄贈　切子碗（3～4世紀）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
新規寄贈品件数	8件	－	－	経年	1	1	9	0
寄託品件数	1,988件	－	－	変化	1,958	1,962	1,974	1,974
うち新規寄託品件数	26件	－	－		37	12	18	8

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
寄贈品、寄託品あわせて 34 件と、積極的に受け入れを行った。市指定文化財や由緒が明確な品など、質の高い作品の受け入れを進めることができている。今後、これらを活用した調査研究、展示企画が大いに期待される。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画最終年度である2年度においては、当館の柱である仏教美術から当館にゆかりの深い正倉院宝物に関連するものまで、多様な作品の受け入れを行った。また、時代的にも奈良時代から現代までと幅広く、多角的な視点で作品を受け入れることができた。中期計画期間全体を通しても、このようなバランスのとれた作品の受け入れができたため、研究・展示活動の幅が広がり、積極的な活用へとつながるものと評価できる。以上のことから、中期計画を充分に達成できたと判断した。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1122D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
（４館共通）
　寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
■寄贈
・84件の新規寄贈があった。
　内訳：書跡30件、彫刻17件、金工1件、刀剣9件、陶磁1件、染織1件、考古25件
　書跡は、重要美術品を含む30件の一括寄贈である。平安時代を中心とする古筆の名品が揃っており、館蔵品の手薄な分野を補うことができる。
　刀剣9件のうちには豊後や肥前、薩摩など九州の刀工による作品が含まれ、九州ゆかりの刀剣類が充実することとなった。このほか鎌倉時代から明治時代までの刀、短刀、脇差、槍など多彩な刀剣を収蔵することができた。
　考古25件のうち1件は、制作地が中国から東南アジア、ヨーロッパ、さらにアフリカまでの広範囲に及ぶビーズ126件である。時代も幅広く、古今東西の交易と交流の歴史を示すことができる作品群である。

■寄託
・50件の新規寄託があった。
　内訳：絵画2件、刀剣3件、考古45件
　絵画2件のうち1件は、大分の臨済宗の古刹萬壽寺より、江戸時代の僧白隠慧鶴による「達磨図」を受け入れた。展覧会にも出品され、白隠の最高傑作として知られる。縦2メートルもの大画面を持ち、展示効果が高い。
　刀剣は3件を受託した。九州における南朝派のお抱え刀工だった延寿派を代表する刀工国時による太刀（重要美術品）1件を含み、当館での展示活用が大いに見込まれる。
　考古45件のうち43件は、株式会社西日本シティ銀行が所蔵するコレクションの一部で、イスラム陶器を多く含んでおり、館蔵品の不足を補うものとして重要である。

（寄託）達磨図　白隠慧鶴筆
宗教法人萬壽寺蔵

【補足事項】
2年度に受贈した作品については、その一部を3年度内に寄贈者顕彰室及び新収蔵品展において公開する予定である。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
新規寄贈品件数	84件	－	－		22	261	181	66
寄託品件数	1,309件	－	－		893	934	931	1,300
うち新規寄託品件数	50件	－	－		44	45	7	432

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受け入れを、分野のバランスよく行うことができた。いずれも質量ともに充実しており、当館のコレクション及び展示・研究の核となるものである。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画期間を通して、文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受け入れを、他分野にわたり行い、中期計画を遂行した。
　中期計画最終年度に当たる2年度においても、受け入れにあたっては、できるだけ迅速に事前調査を行い、当館への寄託、寄贈につなげるべく交渉を行った。その結果、刀剣や考古（ビーズ）では、当館がテーマとする文化交流と九州ゆかりの作品が加わり、大いに活用が期待される。元年度に引き続き、多数の寄贈・寄託を受け入れたことで、コレクション及び展示・研究がさらに充実した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
（東京国立博物館）
ア　収蔵品・寄託品及び一時預品の情報管理を継続して行う。
イ　古写真・ガラス乾板･館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進める。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
（4館共通）
ア　新規収蔵庫の棚、セキュリティ等の詳細を確認し、収蔵庫運用ルールを定めたうえで運用を開始した。また、新規収蔵庫の空調及び扉の初期不良と、本館収蔵庫の収納棚、資料館収蔵庫並びに法隆寺宝物館の扉の劣化に伴い、改善、補修を行った。
イ　2年度は1,167件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。
（東京国立博物館）
ア　未整理・未登録の法隆寺献納宝物等2件につき、列品としての編入につながる調査を行った。
「雷文唐金爵」（H-1265）1件につき、台帳上の員数修正につながる調査を行った。
九州国立博物館に長期管理換されていた作品の返却に伴い、10件の収蔵品について情報調査を行った。
浮世絵画帖に貼り込まれた浮世絵36点と、松方浮世絵コレクションのうち820点の作品情報を更新し、文化財情報システムに登録した。
イ　古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、16件の写真資料を列品として編入した。

所在確認作業の様子

［編入］写真資料　明治時代　19世紀　1枚

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	133.8%	-	-		180%	180%	133.8%	133.8%

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
収蔵庫の設備の充実のための作業、寄託品・収蔵品の確認作業を実施し、順調に成果をあげている。写真資料は16件を列品として編入した。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
収蔵品の増加に対応するための新収蔵庫を建設し、収蔵スペースの拡充をした。
また、文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善をし、寄託品・収蔵品・未登録品の確認・整理を行った。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2／2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（東京国立博物館）
ウ　外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実及び業務の効率化を図る。
エ　「収蔵品データ管理システム」の構築及び収蔵品データの整備を進め、列品にかかる統計業務の効率化と情報の利活用向上を進める。
オ　収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。
カ　ガラス原板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。
キ　文化財管理棟への収蔵品・寄託品等の移動プランの策定など、移動に向けた準備を行う。また、文化財管理棟内の環境が文化財の保管に適切であることを確認した上で、本館で保管している収蔵品・寄託品等の移動に着手する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦 課長　丸山士郎

【実績・成果】
（4館共通）
ウ　収蔵品・寄託品に関し、新規にデジタル撮影した画像は、画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（東京国立博物館）
ウ　protoDBで更新されたデータを「ColBase」に自動的に反映する機能を継続して運用した。また多言語データ入力のためインターフェースを改善した。
エ　「収蔵品データ管理システム」による効率化と情報の利活用向上を進めた。
オ　収蔵する和古書・洋古書について20,106件のデジタル撮影を行った。
カ　デジタル化済みのガラス原板についてデータの確認を行った。
キ　2年度の収蔵品・寄託品等の移動にかかる入札を実施し、予定分の移動と移動後の所在確認作業を終えた。また、3年度に移動予定の収蔵品・寄託品等について、事前の整理作業を行った。

【補足事項】
ア 未整理、未登録の考古資料約250箱分について、整理及びクリーニング処置を行い、管理状況を改善した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数	20,106件	24,471件	C		25,334	26,972	25,575	26,475
和古書・漢籍	16,628件	－	－		20,224	19,002	25,575	20,916
洋古書	3,478件	－	－		5,110	7,970	0	5,559

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、職員が在宅勤務を余儀なくされたため、資料等のデジタル化件数は目標値を下回ったが、この状況下の中でも本館で保管している収蔵品・寄託品等の管理棟への移動作業については、順調に進めることができたためＢ評価とした。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
画像データを継続的に蓄積するとともに、文字データの整備を推進し、業務や調査研究に役立てた。和古書・漢籍・洋古書のデジタル化も、前中期目標の期間の実績以上とすることができ、中期計画を遂行することができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
ア　2年度は、北収蔵庫において立体物の収納効率を上げるため、大きな平棚を設置し、収蔵品を再整理して配置した。
イ　毎年度 2 回行う寄託品の期間継続手続きにあわせて、寄託品の所在確認作業を行った。また、収蔵品・寄託品に関し、必要に応じて文化財情報システムを適宜修正した。

【補足事項】
北収蔵庫に利便性に優れた大きな収蔵用の平棚を設置し、収蔵品を再整理の上配置した。

整理前

平棚設置整理後

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	100%	-	-		100%	100%	100%	100%

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度は、収蔵庫の収納整理の効率化のため大きな平棚を設置し、収蔵品を再整理の上配置した。 また、寄託品の所在確認作業も予定通り2回実施することができた。さらに、連絡が取れない寄託者の所在確認に努めた。今後も、継続的に寄託者との連携を強化し、寄託者が安心して寄託できるよう尽力していく。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度も環境モニタリング等のデータを活用し、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。 収蔵状況を把握した上で新たに棚を設置するなど適切な保護処置を行い、中期計画を遂行できたと言える。 また、寄託継続証の発送作業を通じて、寄託者の異動（寄託名義人の転居・死亡・相続等）を把握し、その都度、適切な事務手続きを行うことができた。寄託者の所在不明等の課題を解決するため、寄託者との良好な連携体制の整備に努めた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B2

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等のカラーフィルム等のデジタル化を実施する。
イ　列品管理における業務効率化のため、文化財情報システムにおける管理機能の改善を進める。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を6,319件（カット）行った。
エ　収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(2年度登録件数：24,847件)
・フィルム等の劣化による再撮影や、購入、寄贈に伴い新規に撮影をおこない、文化財情報システムの収蔵品データを適宜更新し、展示・調査研究の業務に役立てた。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,633件実施した。以下、内訳を記す。
・館内のフィルム用スキャナを運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、2年度は5,623枚のデジタル化を行った。
・元年度に劣化したマイクロフィルムからデュープを作成し、2年度に10リール（5,783コマ）のデジタル化を行った。
イ　3年度の文化財情報システム改修に向けて、現システムの問題点を洗い出し、仕様書の策定を行った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ　当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展 「御即位記念　特別展　皇室の名宝」(10月10日～11月23日)、特別展「凝然国師没後700年 特別展　鑑真和上と戒律のあゆみ」(3年3月27日～5月16日)を対象として進めた。また、4年開催予定の特別展「最澄と天台宗のすべて」における出品作品の撮影も進めている。
・「文化財保存修理所開所40周年記念　特別企画　文化財修理の最先端」(12月19日～3年1月31日）など特集展示・特別企画のため、作品の撮影を行った。
・須磨コレクション等を含めた収蔵品の撮影を継続して行った。
・龍光院を調査し、作品の撮影を行った。(処理番号1411B7参照)

ギヤマン切子三重杯(京都国立博物館蔵)

（京都国立博物館）
ア　外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、フィルムのデジタル化を促進した。
・原板フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。
・劣化したマイクロフィルムから作成したデュープを使用し、2年度にデジタル化を行い、マイクロフィルムのデジタル化はすべて終了した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	5,633件	3,816件	A	経年変化	5,820	4,444	3,380	5,333

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度に比べ、スキャニングの外注を増やし、既存フィルムのデジタル化を積極的におこなった。既存フィルムのデジタル化を進めることにより、文化財情報システムの収蔵品データ数を増やすことができた。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウィルスの影響により、デジタル化の初動が遅れたが、外部への発注計画を見直し、中期計画期間を通じて、目標値を超えることができた。デジタル化が進んだことにより、外部公開用の館蔵品データベースの公開件数を増やすことができた。よって、中期計画を達成したと判断した。今後も積極的にデジタル化を進めていく。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1131C1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
ア
・収蔵庫等空調設備の修繕計画に基づき修繕を行った。
・施設設備の充実、改善に向けた検討を行う環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを毎月 1 回（計 12 回）開催した。
イ
寄託継続証の定期的な発行に際し、部門ごとに寄託品の収蔵状況の確認を行った。さらに、証書の発送・通知に際し、寄託者の異動（宗教法人の代表役員の交代や名義人の転居や死亡に伴う変更など）を把握した。また寄託が長期間に及ぶ所蔵者にかつて発行した旧式の証書を、現行の証書に書き換える作業を進めた。

【補足事項】
ア 学芸部の書跡・絵画・彫刻・工芸・保存修理の各部門と施設担当部署で構成するワーキンググループを開催し、展示室、収蔵庫等施設の維持管理、充実、改善に向けた検討を行った。

収蔵庫の温湿度測定作業風景

老朽化による空調機更新

空調機目詰まり修繕作業風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	99%	-	-		99%	99%	99%	99%

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
毎月1回、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを開催し、収蔵庫等の温湿度変異調査の報告・改善・検討を行った。また、文化財を保管・展示している諸室の適切な温湿度維持のため、改善に向けた検討を行い、計画的にメンテナンスを行うことで、環境改善の問題確認、改善に取り組むことができた。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
収蔵庫、展示室の修繕計画に基づき空調機器の修繕を行うことで収蔵品の保存環境を維持し、適切な温湿度管理が図られた。
中期計画に沿って、寄託品の所在確認及び寄託者の異動状況の把握を着実に進め、適正な寄託品管理が維持できたため、目標を達成した。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1131C2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2／2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
イ　画像データベースの個別データを追加更新する。
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について引き続き検討する。
エ　収蔵品写真等の既存の白黒フィルムのデジタル化を進める。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等の新規デジタル撮影画像を蓄積するとともに、基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き実施した。　新規撮影：1,835件
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図った。
イ　画像データベースの個別データを追加更新した。　追加更新データ：3,534件
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を継続し、運用方法についても検討した。
エ　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。　デジタル化：3,017件

【補足事項】
・4～10月に写真技師が空席となり新規のデジタル写真撮影が一時止まったが、11月の新技師着任以降は順調に実施し、データを蓄積できている。
・文化財情報システムに関して、いくつかの修正を実施した。その内容は、①出品預証書の出力フォーマットの更新、②奈良国立博物館データベースのポータル画面を最新内容に更新、③画像利用タブの新設、等々である。
・上記③は、新設タブ自体は機能しているものの、使い勝手の悪さなど課題が多く、業者との間で課題管理表をやり取りし、日々改良に努めている。
・収蔵品等の写真について、元当館職員の矢沢邑一氏が撮影した大量のフィルム（カラー・モノクロとも）の寄贈を受けた。

矢沢氏寄贈写真原板の一部

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	3,017件	5,373件	C		3,081	3,017	3,047	3,001

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新規撮影画像データの蓄積は、上記のとおり写真技師不在の期間があったため、件数は例年より少なめである。一方で、既存フィルムのデジタル化、情報システムへの登録については、職員の在宅勤務期間に作業が一部滞ったものの、例年並みに近い数値になり順調に成果を上げている。目標値の設定数に到達はしていないため評定はＣとしているが、上記の特殊な要因を除けば、例年並みの数値であり、年度計画に沿って順調に推移していると判断し総合評価はＢとした。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
収蔵品等の画像データ、テキストデータ等については、colbaseの充実とも連動する形で、日々、データの蓄積を実施できている。定量的指標として、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数を掲げているが、これは前中期目標期間から継続の指標であり、すでにカラーフィルムのデジタル化は29年度で終了し、公開用データベースにも上がっている。基本的なデジタル化については、中期目標を達成したと言える。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1131D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア
・施設設備に関しては収蔵庫内の扉の点検を行い、開閉時に電気鍵にエラーが出る傾向の高い扉については、施工業者に依頼し、調整作業を行った。
・収蔵庫のセキュリティの向上を図るため、監視カメラの位置調整及び機器の更新を実施した。
・収蔵庫内の保管スペースを確保するため、文化財保管用の棚を増設した。
イ
・当館は所蔵品以外にも長期借用（約1,500件）、寄託品（約1,200件）など数多く管理している。元年度からの3年間計画となる収蔵品の実査（棚卸し）を継続し、全工程の6割以上を完了した。
・収蔵品実査の一環として、合計14,741点からなる対馬宗家文書の目録情報及び画像データとの対応関係を精査し、11,119点までの確認を完了した。
・寄託品を含む15,013件の収蔵品等の所在確認作業を行い、収蔵場所の情報を更新した。
・実査を行った収蔵品の状態・付属品等を記録・撮影し、文化財情報システム上での共有を進めた。
・収蔵庫内のスペースを有効に活用するため、一部文化財の保管場所を変更し、新たに収蔵された文化財の保管スペースを確保した。

【補足事項】

収蔵庫内の新規棚の設置

収蔵品（所蔵品、寄託品、長期借用品）実査

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
収蔵施設の収容率	90%	－	－		80%	85%	80%	80%

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検を実施し、必要に応じた整備や修理、調整を行った。 寄託品の所在確認を行ったほか、収蔵品の棚卸しを継続して行うなど、計画性をもって作業を進めている。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通し、収蔵品等の管理を徹底し、収蔵に必要な設備の整備を行ったことで中期計画を達成した。 2年度においては、3年度に新たに長期借用・購入・出品等の候補となる作品の受入について、関係者にて保管場所と保管方法の確認、検討を行った。また、保管スペースの確保にも努めた。 計画に基づく収蔵品等の管理のために、収蔵庫内の棚卸しを実施し、資料登録情報を更新するとともに、保管方法の現状確認と適切な保管方法についても検討した。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1131D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

【年度計画】
（４館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（九州国立博物館）
ア　文化財情報（収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、陳列案管理データベース、画像データベース）の一元的管理が可能な業務システム構築を進める。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ウ　専任撮影技師による3,525件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
エ　文化財情報システムの運用を継続し、616件の収蔵品データを新規登録した。
(九州国立博物館)
ア　列品・寄託品・借用品などの有形文化財情報と、陳列・画像・修復などの情報を一元管理するシステムを継続的に運用し、また、同システムの改修・整備を進めた。
　2年度は、会議支援システムの運用を開始し、文化財の受入時に開催される会議に関する情報を集約・管理した。また、既存の収蔵品データベースと連携させることで、会議資料の作成やデータベースへの登録に係る作業負担を大幅に軽減した。

鑑査会議支援システムの画面

【補足事項】
（４館共通）

収蔵品・出品作品等の撮影の様子

（九州国立博物館）
ア　業務上必要な情報へのアクセシビリティの向上を目指し、既存のシステムに対しても細かな調整を実施した。このことにより、収集した文化財情報の活用を推進し、より強固な情報基盤を構築することができた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	（完了）	－件	－	経年変化	－	－	－	（完了）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度は「九州国立博物館文化財情報システム」の鑑査会議を管理する機能を追加したことにより、事務作業の効率化が可能となり、文化財情報の一元管理がさらに進んだ。新規撮影画像の画像データ処理、データベースの整備を進め、内外へ公開することで利便性を向上した。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、収蔵品に関する情報を一元管理し、展示や貸与、修理、調査研究に活用していくためのシステムを計画通り整備した。また、既存の収蔵品データベースと連携させることで資料作成などの作業効率を向上させた。さらに、外部に文化財情報を発信し、博物館活動の活性化に供したことから中期計画を達成したと考える。 2年度は、元年度に引き続き新規撮影を進め、ポジフィルムで撮影した作品についても、改めて高精細カメラにて再撮影する作業も継続した。例年通り2,000カット以上の撮影を行った。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1132A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集、解析、評価を行う。
イ　収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。
ウ　収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行う。
エ　収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。
オ　輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵庫等50か所を対象に生物生息調査の実施及び、全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。また、生物生息調査結果等から改善を要すると判断した収蔵庫2か所、修理室5か所に対して除塵防黴清掃を実施した。
イ　収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを706件作成した。

緩衝材(生綿)の衝撃試験の様子

（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫の温湿度環境情報を収集し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。
イ　収蔵庫及び展示室約300か所の温湿度を計測し、5か所の収蔵庫、修理室に対して各7種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。
ウ　シミュレーション技術を用いて、剛体とみなした展示物の地震動に対する応答挙動を観測する手法について検証した。
エ　収蔵庫及び展示室約300か所の温湿度、5か所の空気汚染物質に関する年次報告を整備した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関連し、特別展会場の換気と収容人数の最適化について検証した。
オ　文化財輸送に用いられる緩衝材について、衝撃試験によって衝撃吸収特性を計測し、適切な使用法について検証した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境、文化財梱包に用いられる緩衝材の特性に関する調査を実施した。特に、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について展示室の換気と環境維持の両立を図る必要があり、これまで蓄積してきた館内環境の調査を有効に活用することができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度に今後の課題とした、より高度な地震対策の実現について2年度にその検証手法をほぼ構築することができた。文化財輸送環境の保全についても、輸送機関上の加速度計測値から緩衝材の評価に至るまで一貫した研究を継続し検証手法を確立できた。温湿度計測および生物生息調査の結果から館内各所の環境的評価に基づく対策を講じることができた。以上の観点から、中期計画を遂行できたと評価する。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1132B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館の展示環境及び収蔵施設、東収蔵庫、北収蔵庫の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行う。
イ　明治古都館の改修計画に役立てるため、環境データの収集・解析などを行う。
ウ　資料棟、文化財修理所、外部収蔵庫（KICK）も含めた、包括的な保管管理体制の構築を目指す。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存科学室長　降幡順子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPMの徹底を図った。
イ　収蔵品の保存カルテを191件作成した。
（京都国立博物館）
ア　元年度に改修を終え、本格的な使用が開始された東収蔵庫は、新館モニタリングシステムとの一体的な運用をはじめ、さらに2年度は換気のための外気導入と展示室内環境への影響に関するモニタリングデータの収集を行った。一方専用LAN経由での環境モニタリングが実施できない施設について、即時的に温湿度が分かる環境モニタリングシステム構築に向けて、2年度は新手法の予備試験を実施した。平成知新館の展示室及び収蔵庫、東収蔵庫、北収蔵庫の定期的な歩行性昆虫類の生息調査、東収蔵庫の空気質調査を実施した。

本館 IPM 作業

イ　明治古都館の収蔵庫エリアは、通年で温湿度調査及び歩行性昆虫類生息調査を実施し、データの蓄積を行った。IPMとして徹底した清掃等の作業を実施した。
ウ　各施設の温湿度データを通年で収集し、それらを協議会や現地施設管理者との打合せ時に周知することにより、温湿度に関する意識向上と連携強化を図ることができた。外部収蔵庫（KICK）では現地管理者との打合せを通じて環境維持を連携して実施した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
主に貸与に伴う点検時に行う収蔵品の保存カルテ作成を継続し、2年度は191件作成した。
平成知新館展示室・収蔵庫、東収蔵庫の一体的な温湿度環境モニタリング調査を運用し、空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ解析結果とともに、エリア別の環境管理対策を実施することができた。2年度は換気のための外気導入を重点的に実施し、展示室内環境への影響に関するデータ収集・対策などへ新たに対応した。明治古都館では、イベント会場としての活用後には徹底したIPMを実施し、保存と活用のバランスを図ることができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に沿って、各収蔵・展示施設は、空調システムが各々異なる等、複数の条件のもと、継続的なモニタリングの実施とデータの蓄積ができた。これらのモニタリングデータは、適切な展示・保管環境保持のための各施設の対策に役立てることができた。特に今中期計画では複数施設の包括的な管理体制を目指しており、最終年度までに、専用LAN経由によるモニタリング体制を新館・東収蔵庫で、無線によるモニタリング体制を本館・北収蔵庫・管理棟・文化財修理所で構築できたため、系統的なデータ解析が可能となった。今後の課題は専用LAN経由のモニタリングが実施できない施設において、即時的に温湿度表示可能なシステム構築を進め、データ収集の迅速化を図ることである。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1132C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵・展示施設及び展示ケースの適正な温湿度管理の徹底を図り、無線 LAN によるデータ管理システムを更に充実させる。
イ　展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管および展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約2か月に1度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することによりIPMを推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示･収蔵環境の衛生保持に努めた。
イ　保存修理指導室で作製した文化財の写真添付が可能な作製フォームを用いて60件の保存カルテを作成・保管した。

昆虫調査用トラップの設置様子

（奈良国立博物館）
ア　無線LANによるリアルタイム温湿度管理システムを運用し､正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。無線式温湿度センサーは展覧会の都度設置しており、展示終了後にはデータの分析を行い今後の参考資料とするとともに、蓄積した温湿度測定データを館内環境の改善に役立てた。
イ　展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月10日に実施した。また展示ケースの定期点検並びに劣化していた気密部分の交換・修理を行い、気密性の向上を図った。
ウ　展示室の無線LAN温湿度管理システムによる24時間モニタリングと展示室入口のエアカーテンを適切に運用することで館内温湿度負荷の低減を図り、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　館内の展示室･収蔵庫や文化財保存修理所等100か所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2か月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された害虫の同定は外部業者に委託し、種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行うとともに、害虫被害が懸念される箇所を中心に対策を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などIPMの実践につなげた。
（奈良国立博物館）
ア　機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者によるケース内の急激な温湿度変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	元年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。必要に応じて展示ケースのシール部分の交換や修理等を進め、展示環境の向上を図った。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施でき、中期計画を達成できた。次期中期においても展示・保存環境の把握に努め、適切に対応することにより文化財の維持・管理に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1132D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（九州国立博物館）
ア　館内の温湿度・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。
イ　全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア　IPMの考え方に基づき、館内各エリアの温湿度管理、粘着トラップによるモニタリング及び清掃を徹底し、必要に応じて有害生物処理を実施した。
イ　収蔵品の保存カルテ83件を作成した。
（九州国立博物館）
ア　展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積した。また、粘着トラップを館内全域に設置し、毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握した。さらに、トラップの捕獲データ等を参考として発生源、侵入経路を推測し、館内各エリアの徹底清掃、並びに館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行ったことにより、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。
イ　文化財の展示・保存空間における揮発性有機化合物濃度を測定し、より良い展示・保存環境を作り出すための各種手法を検討した。

【補足事項】
ア
・展示・収蔵空間等に設置したデータロガーを使用して温湿度の連続モニタリングを行い、作品の材質に合わせた温湿度環境を維持した。また、温湿度センサの校正を適宜実施し、測定値の正確度を確保した。
・文化財害虫の侵入及び発生を防ぐため、館内全域において、粘着トラップの定期的な観察・交換による捕獲虫モニタリングと、各エリアにつき年2回程度の徹底清掃により、害虫の発生要因を除去した。
・文化財害虫を館内に持ち込まないために、搬入される文化財及び資材の生物処理を実施した。低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理等の化学薬剤を使用しない手法を採用した。
イ
・より良い展示環境を作り出すための方策として、展示ケースの効率的な換気方法の検討や、展示台の新規作製時に活用するための、揮発性物質が放散しにくい材料の選定などを行った。

修復施設における徹底清掃の様子

展示ケースの換気方法と空気質の関係の調査風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
殺虫殺黴処置	18件	－	－		58	35	26	19
保存カルテ作成件数	83件	－	－		81	102	101	96

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市民ボランティアとのトラップ交換等の活動を実施できなかった。しかし、館内の温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に関するデータは連続的・継続的に蓄積できた。さらに、取得したデータに基づいて環境の改善に取り組むことができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	今中期期間を通して、収蔵品・展示品等の保存環境に関わるデータ収集を継続し、適切な保存環境の保持に努めたことで中期計画を遂行できた。 中期計画最終年度である2年度も同様の取り組みによって、文化財の材質に合わせて温湿度環境を維持し、適切な有害生物管理によって害虫の発生や被害を未然に防ぐことができた。さらに、空気質環境をより向上させるために有効と考えられるいくつかの方策が明らかになった。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-1A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】

（東京国立博物館）

ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい絵画、書跡、染織、考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に27年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組み完了を目指す。

イ　引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。

ウ　保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】

(東京国立博物館)

ア　保存修復課に、染織文化財に関する修理技術者1名を配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を行った。作品の劣化予防のために238件の応急修理を実施した。

イ　修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む250件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めて、44件の本格修理を実施した。

ウ　データベース構築のために、元年度に修理が完了した13件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書21』を刊行した。

【補足事項】

・国宝「医心方」(平安～江戸時代) 独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を実施・完了した。
・国宝「普賢菩薩像」（絹本着色、平安時代・12世紀)は紡ぐプロジェクトからの寄附金により修理を実施した（31年4月着工、工期36か月）。
・重要文化財「九条袈裟」（絹製・羅・縔絲、元～明時代・14世紀）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施した（31年4月着工、工期24か月）。
・重要文化財「小袖 白綾地秋草模様（冬木小袖）」（絹製、尾形光琳筆、江戸時代・18世紀）は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄附金により修理を実施した（2年1月着工、工期24か月）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	44件	－	－		68	69	26	24
修理のデータベース化件数	13件	－	－		61	47	98	19

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
緊急性の高い本格修理及び応急修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、寄附金の獲得に努め、国宝2件、重要文化財2件を含む修理を実施した。なお、本格修理の件数が減少しているのは、30年度からの継続事業に修理費をあてたこと、移動を伴う修理監督機会の抑制などの一時的な新型コロナウイルス感染拡大防止策によるためで、中期修理計画は予定通りに運用している。

【中期計画記載事項】

修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に従い、事前調査、応急修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。引き続き常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-1B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画、書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。
イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。
ウ　修理資料のデータベース化を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア
・安全に展示を行うため、文化財の応急修理を５件行い、劣化の予防に努めた。
・「重要文化財　遠浦帰帆図　伝牧谿筆」をはじめとする絵画７件、金工１件、考古４件の本格修理を行った。
・特に点数が多く、大型であることから予算の確保が難しく懸案となっていた「重要文化財　芦雁図　伝宗湛・宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の修理に着手することができた。
イ　中長期修理計画を策定し、計画に基づき収蔵品の修理を予定通り実施することができた。
ウ
・2年度は137件の新規修理文化財搬入があり、データベース化を行うとともに、過去のデータに関して1,272回追加、更新を行った。
・保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化を進め、2年度は123件の修理記録のPDF化を行った。
・電子情報の増大に伴い、文化財保存修理所サーバーの新設を行い、情報保全に対応することとした。

【補足事項】
ア　以下は、文化財保存活用基金により修理を実施する。
・「重要文化財　芦雁図　伝宗湛・宗継筆」、「重要文化財　琴棋書画図　山水図　伝宗継筆」、「四季花鳥図」の旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵は2年度から4か年計画。
・「重要文化財　山水図　拙宗筆」は2年度から2か年計画。
・「西宮古墳出土　鉄剣残欠、金銅製飾金具残片」は2年度の単年度計画。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	12件	-	-		14	11	17	12
修理のデータベース化件数	137件	-	-		151	180	149	171

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵はその数の多さから費用的な問題があったが、大型寄附金を活用し、修理に着手できたことは大きな成果であり、この修理により、今後の中世水墨画分野での研究に資することが大いに期待される。
修理資料のデータベース化については、サーバーの新設で、過去分を含め電子情報の保全に一定の方向性が打ち出すことができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
中期計画最終年度である2年度に、懸案となっていた襖絵の本格修理や修理関係電子情報の保存について、サーバーの新設ができたことは特筆できる成果である。
中期計画期間を通じ、貴重な文化財の保存・修理とそれらの修理記録を保存する基本設備の充実を推進し、中期計画を超える成果を達成できた。
なお、電子化し、蓄積が増えてきた修理関係記録の活用方法については、今後検討していきたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1133-1C

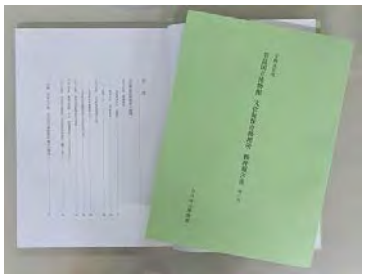
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画、書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に「絹本著色聖徳太子絵伝」等の修理に取り組む。
イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。
ウ　修理資料のデータベース化を図る。
エ　寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア
・館蔵品本格修理7件のうち、新規5件、元年度からの継続事業2件を実施した。
　内訳　絵画3件、彫刻1件、工芸2件、考古1件
・年度内に5件が完了した。
イ　22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施した。
ウ　『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第2号を4月に、第3号を3年3月に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。
エ　寄託所蔵者と協議を行い、寄託品4件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に設置した。
ウ　30年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第2号を刊行した。彫刻の材質調査や銘文集成なども掲載することで、修理実績や内容を広く伝えることができた。
　また、第3号はファイバースコープによる調査写真を掲載することで修理に伴う科学調査の実施例を示した。
エ　寄託品修理として、新規に談山神社所蔵　三天合体像を着工した。募金により法徳寺の木造文殊菩薩坐像を着工した。また、文化財保存活用基金により、館蔵品の重要文化財　絹本着色十二天像を4か年継続で着工した。財団助成では住友財団の助成により京都・眞輪院所蔵　重要文化財　絹本著色両界曼荼羅を2か年継続で修理を行っており、2年度末に修理を完了した。出光文化福祉財団の助成では、京都・大覚寺所蔵 重要文化財　絹本著色五大虚空蔵像が元年度から2か年継続で修理を行っており、2年度末に修理を完了した。新たに着工した念仏院所蔵　奈良県指定　刺繍善導大師像は2年度末に修理を完了した。聖護院所蔵　絹本着色熊野宮曼荼羅は2年度から2か年継続で修理を行っており、3年度末に修理完了の予定。


『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第３号

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	7件	―	―		7	6	6	8
修理のデータベース化件数	70件	―	―		62	69	63	74

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　元年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　助成金や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料とした。以上より、中期計画を十分に遂行できたと言える。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1133-1D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　文化財の劣化の予防に努めるために、必要となる応急修理を適正に実施し、また緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「対馬宗家関係資料」等の修理に継続して取り組む。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア
・館蔵品を中心に損傷状況や展示計画等を勘案し、緊急性の高い文化財23件（本格20件、応急3件）の修理を実施した。
・新収品を中心に、桐箱や中性紙箱等の保存箱を作成した。
・当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て、館蔵品、寄託品、九州所在の地方公共団体・社寺等所蔵品の保存状態調査を行い、効率的な調査の実施と現実的な修理計画の策定、適切な処置へとつなげることができた。

【補足事項】
・館費による修理件数23件(本格20件、応急3件）の内訳：
絵画1件(本格1件)、書跡2件(本格2件)、漆工1件(本格1件)、刀剣1件(応急1件)、染織2件(本格2件)、考古9件(本格8件、応急1件)、歴史資料7件(本格6件、応急1件)
・重要文化財「対馬宗家関係資料のうち、箱20巻1～9」(当館所蔵)の表紙は、絵具の多くが剥落しており、朱部分は水銀朱によるヤケのため裂の欠落が著しく、取り扱いが困難な上、美観を損ねていた。当館文化財保存修復施設で修理が実施されたことにより、修理の進行状況の頻繁な確認と協議を行い、適切な修理を実施できた。修理は3か年計画（4年度まで）で継続中である。「対馬宗家関係資料」は平成17年度から修理が始まり、成巻文書については16年目に当たる2年度で約20%が完了した。今後も同様のペースで修理が進めば、全巻の終了までにはおよそ80年かかる見込みである。

重要文化財「対馬宗家関係資料のうち箱 20 巻 1～9」

・掛軸は、巻き解きすることが保存上良くないと考えられた時期があり、マット装やパネル装で伝わる作品も知られている。22年に当館所蔵となった重要文化財「病草紙断簡」1幅(当館所蔵)は、掛幅装であったが、購入以前に表具裂部分のみが上下から巻かれ、本紙部分は平らな状態のまま桐箱の中に平置き保存されていた。この状態では、出し入れが大変難しく、取り扱いが危険であった。当館文化財保存修復施設使用者の協力を得て本紙の状態を調査したところ、本紙には問題が無かったが、今後の保存や取り扱い時のリスクを最小限とするため、桐製太巻添軸を新調して、太く巻き桐箱に納めることとした。
・当館文化財保存修復施設使用者の協力を得て、天草ロザリオ館（熊本）所蔵品の保存状態を調査した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
修理件数（本格修理）	20件	－	－		18	19	40	31
修理のデータベース化件数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む20件の本格修理を計画的に実施できた。また、修復施設使用者の協力を得て、保存状態調査を効率的、的確に実施し、3年度の本格修理の計画を策定することができた。
修理後は当館で展示活用を図ることで、修理の成果を一般に公開することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通し、機構内外の研究員や修復技術者と連携し、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。また、調査研究設備については、更新、保守、改良を行い、精度の高い分析値が得られるようになったことも含め、中期計画は達成できたと考える。
次期中期においても、緊急性が高い作品から本格修理を実施し、継続的に修理を行うとともに、修理を終えた作品は展示に活用し、広く公開していきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（4館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
・月次風俗図屏風（A-11090）の修理中における透過赤外線撮影調査を行い、重なっている線描を調査した。また、同作品と類似する作品である新潟県立歴史博物館所蔵「四季耕作図屏風」の反射赤外線撮影調査も行い、先に撮影した透過赤外線画像、元年度に撮影した反射赤外線画像、X線画像と比較し、修理の方向付けに寄与した。
・九条袈裟紫地唐草文様印金/草花文様縫絲（TI-421）の修理中に蛍光X線分析と三次元蛍光分光分析、デジタル顕微鏡調査を行い染料の同定と使用材料の調査を行った。
・第二十三天聖尊者図軸（TA-40）の修理中に蛍光X線分析と可視光蛍光分光撮影を行い、剥落止めの方針決定に寄与した。
・扇面散図（A-12347）の修理中に蛍光X線分析と可視光蛍光分光撮影を行い、剥落止めの方針決定に寄与した。
・雛雀図（TA-355）の修理中に印章の可視光蛍光分光撮影を行い印章文字の解読を進めた。
・雲龍螺鈿机（TH-388）のX線CT調査を修理前に行い構造を確認して修理方針の決定に寄与した。
・小袖白綾地秋草模様（I-721）の修理前に蛍光X線分析を行い、顔料と染料の区別をして修理の方向性に寄与した。
・龍樹思惟台座表面（TC-64）のクリーニング方針の決定のため、処置前に可視光、赤外線、紫外線下によるデジタル顕微鏡観察及び蛍光X線分析を実施し、塗装や付着物の調査を行った。
　津波被災した陸前高田市立博物館所蔵資料の修理事業では、サンゴサカズキの膳は、修理前にCT撮影及び蛍光X線分析を行い、内部構造の把握と使用材料の調査をした。また金銅装双塔文笈は、修理中に確認した木部の欠片を使用し樹種同定を行い使用材料の調査をした。

【補足事項】

図1.小袖白綾地秋草模様の修理前蛍光X線分析

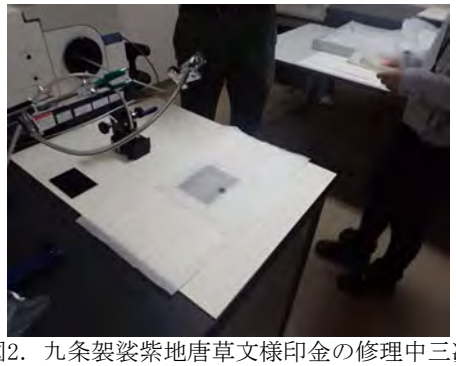


図2. 九条袈裟紫地唐草文様印金の修理中三次元蛍光分光分析

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　肉眼では判別がつかない作品の特徴を様々な光源を用いた特殊撮影を行うことで作品の本質を捉え、修理前、修理中における方針の決定や修理中にしか行えない作品研究に寄与することができた。また平面作品にはX線撮影、立体作品にはX線CT撮影を行う等、作品と目的に合わせた構造や材質の調査を行い修理方針の決定に寄与した。

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　活動時間が限られた2年度においても保存修復課と作品担当者との連携ができたため、今中期全体を通して、適した工程の時期に調査を行うことが出来たことは評価できる。しかし、各種分析装置の生産・補償期間が繰り上げられるなどの連絡がメーカーから寄せられるなど、予定外の機器更新を行ったことが課題として残った。次期中期においては、メーカーや業界の情報収集精度をあげて予算計画を策定する。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　X 線 CT スキャナ、蛍光 X 線分析や分光分析、X 線透過撮影など各種光学的調査を駆使して研究の進展を図りつつ、文化財の状態を正確に把握して修理や保存、活用の指針の策定に資する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
収蔵品、寄託品だけでなく外部から依頼のあった作品のX線CT撮影、蛍光X線分析、赤外線撮影、三次元蛍光分光分析などを行い作品調査研究、修理前、修理中調査などを行った。また、元年度にX線CT撮影を行った画像を用いて京都大学と文殊菩薩像（C-23）の構造に関する調査を行った。
X 線 CT（館内）：観音菩薩立像（九面観音）（C-221）、埴輪 鞆（J-20285）、遮光機土偶（J-36873）、封泥 7 個、など 14 件。
X 線 CT（借用品を含む館外）：法隆寺百済観音像、東京芸大牡丹大食籠、関市春日神社　能面、陸前高田市博物館所蔵算額など 44 件。
赤外線撮影：十輪院校倉内壁、月次風俗図屏風（A-11090）、浄土寺扇面貼混屏風、新潟県立歴史博物館所蔵「四季耕作図屏風」、灰陶奩（TJ2979）。
X 線撮影：封泥 590 個、浄土寺扇面貼混屏風（6 曲 1 双）、供養目録（E-14575）、立命館大学所蔵「かるた遊び図」、国立西洋美術館所蔵フランシスコ・デ・スルバラン作「聖ドミニク像」、ルドヴィール・カラッチ作「ダリウスの家族」。
蛍光X線分析：普賢菩薩像(A-1)、第二十三天聖尊者図軸（TA-40）、扇面散図（A-12347）、浄土寺扇面貼混屏風（6 曲 1 双)、九条袈裟紫地唐草文様印金/草花文様緙絲（TI-421）、常陸大宮市所蔵土器、立命館大学所蔵「かるた遊び図」、陸前高田市博物館所蔵ガラス乾板、新潟県立歴史博物館所蔵「四季耕作図屏風」など。

【補足事項】

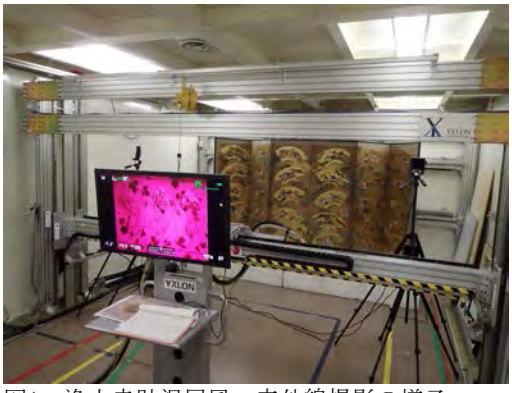


図1. 浄土寺貼混屏風　赤外線撮影の様子

図2. TI-421 九条袈裟紫地唐草文様印金　蛍光Ｘ線分析の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度は収蔵品に対して、借用品または館外からの依頼の調査分析が多くなった。しかし、前年度測定データを活用した研究を京都大学と行うなど、蓄積してきたデータの活用が出来たのは評価でき、新型コロナウイルスの影響で活動が限られる中、計画を遂行できたといえる。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
活動時間が限られた2年度においても所期の目的は達せられ、今中期全体を通しても同様に所期の目的は達せられた。しかし、各種分析装置の生産・補償期間が繰り上げられるなどの連絡がメーカーから寄せられるなど、予定外の機器更新を行ったことが課題として残った。次期中期においてはメーカーや業界の情報収集精度をあげて予算計画を策定する。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-2B

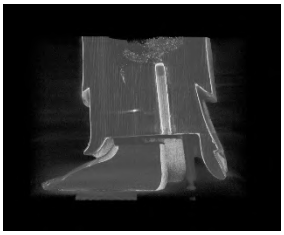
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（4館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種化学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（京都国立博物館）
ア　仏像等のX線CT撮影を行い、適切な修理指針の検討に役立てる。
イ　蛍光X線分析や分光分析等の非破壊的な分析手法を用い、彩色材料等の分析事例を集積することでより統計的に有意なものとし、修理への活用を模索する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存科学室長　降幡順子 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（4館共通）
ア　2年度の所蔵者の協力を得て文化財修理所内工房と実施した科学分析調査は、作品の内部構造調査として、I.P を用いた X 線透過撮影 7 回、FPD を用いた X 線透過撮影 1 件、X 線 CT 撮像 4 件を実施した。作品の材質調査としては蛍光 X 線分析調査 17 件、分光分析調査 3 件、デジタル写真測量 2 件である。
（京都国立博物館）
ア　X線CT撮影の一例として、西教寺蔵阿弥陀如来像の構造調査では、表面からは正確な位置の把握が難しかったほぞ穴とその内部で折れている旧ほぞの構造を明らかにすることができ、修理時の作業の有用な情報を提供できた。また解体修理時に重要となる、釘や鎹の位置関係を3次元画像にすることで、金具の取外す手順の参考にすることができるなど、修理前に画像提供することで修理指針に貢献することができた。
イ　非破壊的な分析調査では、各工房の調査依頼を受入れ、処理前の形状記録のためのSfM計測の実施や、継続的に絵画資料の染料・顔料材料調査を実施し、彩色材料データの蓄積を行うことができた。

【補足事項】



XCT 画像

材料調査

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	作品の状態調査や文化財修理所各工房からの調査依頼を受入れ、継続的な科学分析調査を実施した。修理前調査は、修理方針の策定に有用となる文化財資料の情報を修理技術者と共有することができた。また2年度は絹本の裏彩色と表彩色についての詳細な調査を実施することができるなど、中期計画にある彩色材料調査等の分析事例の集積とともに文化財の技術の解明にも有効なデータを得ることができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	修理前あるいは修理中に実施される科学分析調査は、中期計画当初は蛍光X線分析とX線CT調査にとどまっていたが、今中期計画期間で、そのほかに分光分析やデジタル写真測量、ポリライト観察、FT-IR分析など、分析手法の多様化と調査件数の増加を図ることができ、文化財の物性に応じた分析調査と修理指針へ貢献できた。 修理を必要とする有形文化財の非破壊科学調査を実施するための、高い安全性や精度を有する測定装置の導入不足や、修理技術者とのデータ・知識に関するさらなる共有が必要である点は今後の課題として挙げられるが、中期計画を通して科学的な技術を取り入れた修理件数は上昇し、中期計画を達成したと判断した。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1133-2C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（４館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（奈良国立博物館）
ア　木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　X線CT撮影、X線透過撮影等の機器により調査を行い、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
ア　紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、今年度は目視で樹種を判別できたため、樹種同定調査を行わなかった。（実施計0件）
イ　・館蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用い、当館研究員と文化財保存修理所工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析、X線CT等を実施するとともに、修理方針の検討資料とした。
　　・絵画作品の修理の際に、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。（実施計8回）

X 線 CT 撮影の様子

【補足事項】
（４館共通）
イ　当館の館蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、X線CT装置など)を積極的に利用し活用を図った。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	京都大学と連携して行っている彫刻作品の樹種同定調査は、2年度は目視で樹種を判別できたため、実施しなかった。その他では、絵画作品の赤外線撮影を実施するなど、8回の調査を実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ各種の調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通して、保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果をふまえ計画的な修理を実施した。2年度は絵画作品に対して赤外線撮影を実施し修理に活用することにより、文化財の修理指針の検討に役立てており、中期計画を順調に遂行したといえる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1133-2D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（４館共通）
ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（九州国立博物館）
ア　修理作品の状態を、実体顕微鏡観察を基本としてX線CTスキャナ、X線透過撮影等の各種光学的調査も駆使して正確に判定し、修理指針の策定に資する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア　元年度に引き続き、重要文化財「対馬宗家関係資料」（当館所蔵）等の紙本文化財の繊維同定を行い、文化財ごとに適切な補修紙を作成した。
（九州国立博物館）
ア
・「霰地真形釜欠風炉」（当館所蔵）等の過去の修理情報を得るため、 X 線 CT スキャンによる構造調査等を行い、修理設計に役立てた。
・修理中の「花鳥螺鈿箪笥」（当館所蔵）、「黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓」（沖縄・浦添市美術館所蔵）及び「練革黒漆塗白糸威五枚胴具足」（久留米市教育委員会所蔵）等の X 線 CT スキャンを実施し、修理の実施に役立てた。
・「東妙寺并妙法寺境内絵図」（佐賀・東妙寺所蔵）について、実体顕微鏡観察及び蛍光 X 線分析による顔料調査を行った。
・「島津氏関係文書」（当館所蔵）について、蛍光 X 線分析による顔料調査を行った。

【補足事項】
・修復施設1～4では、修理工房宰匠が館費修理品11件のほか、国宝「琉球国王尚家関係資料」文書記録類（那覇市歴史博物館）など、合計34件の修理を実施した。
・修復施設5では、芸匠が館費修理品8件のほか、重要文化財「金銀錯珠龍文鉄鏡」（東京国立博物館所蔵）など、合計14件の修理を実施した。
・修復施設6では、大西漆芸修復スタジオが館費修理品1件のほか、国宝「初音の蒔絵調度　書棚（棚囲い・七宝繋）」（徳川美術館所蔵）など、合計4件の修理を実施した。
・当館所蔵品の館外修理は、松鶴堂が「装飾布　幾何形結び文様更紗（ウンヤ手）」など2件、小宮光敏が「短刀」1件、合計3件を実施した。

「霰地真形釜欠風炉」（当館所蔵）の修理協議の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
修理前及び修理中に、伝統的な紙や絵の具の材質調査、製作技法などの構造調査等を行い、入念に修理方針を検討することができた。伝統的な修理に科学調査の結果を取り入れ、適切な修理を実施することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通して、当館所蔵品については、修復施設使用者と連携しながら作品の状態調査を行い、当館以外の九州所在文化財については、修復施設使用者、所蔵者、管内教育委員会等と連携し、適切な修理を行ったことから、中期計画を達成したといえる。
中期計画最終年度である2年度においても、修理着手前・修理中にはX線CTによる構造調査、修理中には紙繊維の同定・顔料の分析等の科学調査を行い、伝統技術に科学技術を取り入れた修理を計画的に実施できた。
新しい科学技術を取り入れる等により、次期中期にあたる3年度以降も文化財の状態調査を行い修理指針の策定に役立てるだけでなく、文化財の材料・技術の解明に資したい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1134B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（京都国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の施設を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催（年７回）し、意見交換を行った。
（京都国立博物館）
ア
・文化財保存修理所運営委員会を開催し、修理所の運営について審議した。
・各所老朽化した設備（空調機加湿ユニット、熱源整備、外壁劣化部他）の修繕を行った。
・豪雨時の地下階への雨水の侵入を防ぐ防水板の設置について検討を行った。
・新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所での防災訓練を中止した。

【補足事項】

（京都国立博物館）
ア　新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所運営委員会は書面開催とした。

空調機加湿ユニット修繕状況

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修理所運営委員会は書面開催という形になったが予定通り開催し、委員から意見を運営の参考とした。修理者協議会は感染症対策を実施の上、予定通り開催した。 老朽設備の改善を適時適切に行うことができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 開所から 40 年を経過し、設備面での老朽化は目立つものの、防災訓練や減災に向けた手段を講じ、様々な方法で補うように工房と協力しながら文化財保存修理所の整備を進めており、指定品を中心とした修理を実施する施設としての役割を中期計画期間通じて果たすことができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1134C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所の空調機器の更新を実施した。ブラインドについては点検を計画中である。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所運営委員会は例年５月に実施していたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から書面審議とした。また、各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などについて、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の３工房代表者と当館学芸部で討議する文化財保存修理所協議会を２回開催した（9月24日、3年3月12日）。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を４回実施した。

【補足事項】
・12月22日から3年1月17日まで、当館西新館第1室において特集展示「新たに修理された文化財」を開催した。元年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した11件の当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開などの機会に配布した。
・3年1月8日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。新型コロナウイルス感染防止のため、例年より参加者を半数程度に絞り実施したが、報道機関を含む70名の参加があった。

２年度 文化財保存修理所特別公開

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	運営委員会については書面審議を行い、所内3工房代表者とは協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線CTによる修理への応用や文化財被災時に修理技術者と連携できるように意見交換を行った。その成果を踏まえた文化財に対する積極的な保存修理を実施することができ、中期計画を達成できた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1134D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（九州国立博物館）
ア　文化財保存修復施設を運営し、文化財の保存修理に積極的に活用する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア
・文化財保存修復施設1～3の書跡や歴史資料の修理に使用する定規について、生じていた経年の歪みを修理した。文化財保存修復施設3・4には電子天秤とデジタルマイクロスコープを導入した。
（九州国立博物館）
ア
・当館文化財保存修復施設にて当館経費による修理20件及び所有者負担による修理32件、合計52件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による3件の修理事業を実施した。
・保存修復諸室を活用し、当館所蔵品及び寄託・借用品等6件の構造調査等を行い、その結果を保存管理に役立てた。

【補足事項】
・文化財保存修復施設2の修理用定規については、経年の利用による歪みのメンテナンスを行う時期に達していた。書跡や歴史資料の修理案件が増加しており、全てを同時に修理することが出来ないため、22点（5種類各2組・三角定規2点）を2度に分割して、専門技術者による修理を施工した。
・文化財保存修復施設3・4には、電子天秤やデジタルマイクロスコープを導入することにより、紙文化財の修理技術や修理記録をより精度の高いものにすることができた。
・文化財保存修復施設で修理した文化財52件中49点の9割以上が九州・山口地区所在文化財となっており、九州・山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積している。
・文化財の修理は、在宅勤務が不可能であるが、新型コロナウイルス拡大防止の観点から、年度当初に修理品の搬入を見合わせる所蔵者が多くみられた。継続事業などの修理を優先的に進め、時差出勤、夜間も含めた交代勤務など、新型コロナウイルス対策の指針を順守し、無理の無い範囲で効率的・計画的に修理を実施し、予定していた修理事業を年度内に無事完了することができた。

文化財保存修復施設の活用風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	修理事業や分析調査事業については、当館所蔵品だけでなく、九州所在の教育委員会・社寺等所蔵品に対しても実施しており、九州・山口地区の文化財修理・調査の拠点として活動できた。当館の文化財保存修復施設は、九州・山口地区における文化財修理の拠点として活用され、確実に成果を上げている。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画期間を通し、文化財保存修復施設の整備を適切に行うことで、中期計画を遂行した。しかしながら、開館より15年以上がたち、経年劣化や修理件数の増加により、修理やメンテナンスが必要な設備が増えてきている。3年度以降も、当該設備のメンテナンスを継続的に行い、文化財を適切に修理・分析できるよう設備を整備していきたい。今後も計画的に修理事業を進め、修復施設の活用を継続したい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211A

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　①平常展

【年度計画】
①平常展
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）
1)「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画等、各種展示の更なる充実を図る。
2)特集
テーマ性をもった展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。
・「日本の仮面　舞楽面　行道面」（6月19日～7月12日）なお、臨時休館のため会期を変更して実施した。
・「日本美術の記録と評価－調査ノートに見る美術史研究のあゆみ－」（7月14日～8月23日）
・「大野出目家と越前出目家の能面」（8月25日～10月4日）
・「令和元年度新収品展」（10月6日～11月15日）
・「書と紙－平安時代の美しい紙－」（9月24日～11月23日）
・「中国書画精華－古典の魅力－」（9月24日～11月15日）
・「破格から調和へ－17世紀の茶陶」（10月6日～11月29日）
・「中国近代の上海－海上派の書・画・印」（11月17日～12月23日）
・「世界と出会った江戸美術」（11月25日～3年1月11日）
・「珠玉の中国彫刻」（12月1日～3年2月21日）
・「表慶館の建築図面」（12月8日～3年2月14日）
・「博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり」（3年1月2日～1月31日）
・「清朝書画コレクションの諸相―高島槐安収集品を中心に―」（3年1月2日～2月28日）
・「木挽町狩野家の記録と学習」（3年2月9日～3月21日）
・「おひなさまと日本の人形」（3年2月23日～3月21日）
・「鳥獣戯画展スピンオフ」（3年3月23日～6月6日）
・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」（3年3月24日～4月18日）
緊急事態宣言発出による臨時休館のために中止になった特集展示等は次のとおり。
・「法隆寺と聖徳太子」（3月24日～5月10日）
・上野動物園、国立博物館との連携企画　親と子のギャラリー「動物の動き」（5月12日～6月14日）
3)文化庁関係企画
4月21日～5月10日の会期で予定されていた「令和2年 新指定 国宝・重要文化財」は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出による臨時休館のため中止された。
4)トーハク新時代プランに基づき、展示室の入り口に日本美術の流れを紹介するようなコンテンツを設置し、日本美術への親しみやすい導入を図った。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
平常展来館者数は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出による臨時休館等のため、166,639人と目標値を大幅に下回り、展示替件数は5,041件と目標値に達しなかった。
（東京国立博物館）
1） 定期的な展示替えを実施し、392回の展示替えを行った。展示総件数は9,048件である。
2） 17件の特集を実施した。
4） 日本文化や歴史に親しみの薄い来館者も作品鑑賞を楽しめるよう、6月の開館再開とともに、本館1室はプロジェクターで日本美術の流れを紹介する導入映像を投影し展示の概要を総覧するとともに、4室「茶の美術」、9室「能と歌舞伎」ではデジタルサイネージで展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を上映した。

【補足事項】
本館に設置しているグループ解説を見直し、デザインを新しくした。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
平常展の来館者数	166,639人	512,186人※	－		761,709	1,030,180	989,508	1,030,652
平常展の展示替件数	5,041件	6,009件	－		8,538	6,616	5,981	5,813
平常展の展示総件数	9,048件	－	－		10,918	10,223	9,253	9,267

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため緊急事態宣言発出による臨時休館のため、展示替えを中止したことにより大幅に展示件数が減った。しかし、当館所蔵品とその研究成果を公開する意欲的な特集を、計画通り17回実施したことは評価できる。また、トーハク新時代プランに基づくコンテンツの導入を着実に進行しており、B評価とした。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図った。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指した。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
特別展や季節に連動した特集展示、特別企画を積極的に実施したことで、総合文化展の展示内容の質の高さについては、大幅に認知度があがってきている。
また解説の内容を刷新・多言語化することによって、新型コロナウイルスの影響の大きい2年度を除き、来館者数は大幅に増加し、前中期目標実績以上の入館者数を得ることができた。
次期中期計画以降においても、さらに平常展を充実させ、来館者の満足度の向上に結び付けていくかについて、具体策を提言していく必要があると思われる。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1211B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
1)明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展も開催するための平常展展示計画を策定し、平常展を行う。
2)平成知新館において、趣向をこらした特別企画、特集展示を行う。
特別企画
・文化財保存修理所開所 40 周年記念特別企画「文化財修理の最先端」（6 月 23 日～7 月 19 日）
・特別企画「オリンピュア×ニッポン・ビジュツ」（7 月 21 日～8 月 23 日）
・仏教美術研究上野記念財団設立 50 周年記念特別企画「新聞人のまなざし－上野有竹と日中書画の名品－」（8 月 26 日～9 月 22 日）
特集展示
・「丑づくし－干支を愛でる－」（12 月 19 日～3 年 1 月 31 日）
・日本書紀成立 1300 年記念「国宝『日本書紀』と東アジアの古典籍」（12 月 19 日～3 年 1 月 31 日）
・「新収品展」（3 年 2 月 3 日～2 月 28 日）
・「雛まつりと人形」（3年 2月 9日 ～ 3月 7日 ）

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
1)平常展来館者数は、18,941人であった。また、展示替件数は458件であった。
（京都国立博物館）
1)特別展前後の準備・撤収及び「働き方改革」に則った業務内容の整理にともない、名品ギャラリー閉室期間を設けた展示計画を策定した。
2)年度計画に基づき、2件の特別企画、3件の特集展示を実施した。
特別企画「オリンピュア×ニッポン・ビジュツ」は新型コロナウイルスの影響により3年度に延期した。

特別企画「文化財修理の最先端」
展示風景

【補足事項】
・特別企画「文化財修理の最先端」は、当館敷地内に併設されている文化財保存修理所開所40周年を記念し、開催した展覧会である。近年修理された文化財のなかでも、特に注目される作品を展示した。展示件数52件のうち、国宝7件、重要文化財28件と厳選した展示内容とした。平常展ではあるが京都新聞が共催に入ることで、広く周知を図った。関連イベントとして、シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」を開催し、広く文化財修理の重要性を訴える活動も行った。
・特別企画「新聞人のまなざし－上野有竹と日中書画の名品－」は仏教美術研究上野記念財団設立50周年を記念して、当館が受贈した中国の書画を中心に上野氏がかつて収集した名品を展示した。
・特集展示「丑づくし－干支を愛でる－」は、新春の干支にちなんだ展示を行った。人類の生活と古くからかかわりをもつ「牛」を表現した細やかな小作品から野性味溢れる作品までを紹介した。
・特集展示「国宝『日本書紀』と東アジアの古典籍」は日本書紀成立1300年を記念して開催した展覧会である。当館の所蔵する「岩崎本」「吉田本」という国宝に指定されている2つの「日本書紀」を中心に日本・中国・朝鮮半島の優れた古典籍を展示した。
・特集展示「雛まつりと人形」は華やかな御殿雛飾りを中心に各種の雛人形とさまざまな京人形を展示した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
平常展の来館者数	18,941人	136,308人※	－		186,162	136,862	146,314	158,664
平常展の展示替件数	458件	919件	－		943	973	1,021	1,140
平常展の展示総件数	467件	－	－		1,068	978	1,038	1,147

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により会期調整等を行った結果、開催できない展示もあり、来館者数の目標値を下回った。しかし、特別企画「文化財修理の最先端」では京都新聞社と共催し、広報やシンポジウムを行い、これまで以上に来館者数を増やす取り組みを行うことができた。また、例年よりも限られた展示期間において複数の特別企画と特集展示を行うことにより展示替件数を増加させることができた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度の定量評価については新型コロナウイルスの影響により達成できなかったが、より多くの来館者を獲得するために新聞社等のマスメディアと積極的に協力し集客力を高める取り組みを行うことができた。明治古都館が改修工事に伴い閉館している状況において、平成知新館の展示室を上手く活用することにより限られた会期のなかで多くの平常展を実施することができた。
充実した展示内容を実施できたこと、計画期間中は概ね目標値を達成していることから考えて、中期計画を達成したと言える。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1211C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展（平常展）を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。
・西新館　絵画、書跡、工芸、考古　・なら仏像館　彫刻　・青銅器館　中国古代青銅器
2)分野の枠を超えた特別陳列を実施する。
独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
・「お水取り」（3年2月6日～3月21日）等

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（4館共通）
1)平常展来館者数は 43,262 人（仏像館入館者数＋西新館 12/8～3/21）、展示替件数は 261 件（西新館名品 206、修理 11、なら仏像館 44、青銅器館 0）。
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり名品展を実施し、特集展示を 1 件開催した。
・名品展「珠玉の仏教美術」　西新館　12 月 8 日～3 年 3 月 21 日
・名品展「珠玉の仏たち」　なら仏像館　4 月 1 日～12 月 20 日、3 年 2 月 23 日～3 月 31 日
・名品展「中国古代青銅器」　青銅器館　4 月 1 日～12 月 20 日、3 年 2 月 23 日～3 月 31 日
・特集展示「新たに修理された文化財」　西新館　12 月 22 日～3 年 1 月 17 日
※以上の会期のうち、2 月 27 日～6 月 1 日は新型コロナウイルス感染拡大防止のために休館とした。
2)下記のとおり特別陳列を開催した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術－特集 神鹿の造形－」　東新館　12 月 8 日～3 年 1 月 17 日
・特別陳列「お水取り」　東新館　3 年 2 月 6 日～3 月 21 日
・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」　西新館　3 年 2 月 6 日～3 月 21 日

【補足事項】
・仏像館では、常時100件以上（うち重文38～40件、国宝1件を含む）の仏像を公開した。6月2日からは、特別公開として京都・大智寺の重文・文殊菩薩騎獅像を、胎内CT調査の成果とあわせて公開した。また、像高が5mを超える奈良・金峯山寺の重文・金剛力士立像２躯の修理が完了し、3年2月23日から特別公開を開始した。本像については金峯山寺の協力を得、3年3月20日から来館者の写真撮影を可能とした。
・名品展「珠玉の仏教美術」では、絵画・書跡・工芸・考古の4部門にわたる名品を、会期中は常時100件前後（うち重文20～30件、国宝10～15件を含む）公開した。また、考古部門では文化庁の「考古資料相互活用促進事業」に基づき、青森県、和歌山県、下関市の三か所の博物館と作品の交換展示を行い、縄文土偶から貿易陶磁器まで幅広い展示を行った。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、祭礼を描いた絵巻に登場する衣装や物品の実物を展示するなど、奈良の祭礼を理解するための工夫を凝らした。また鹿の造形を集め、子供にも興味をもってもらえる構成とした。
・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」では、普段公開することのない旧本館の設計図や建築家の努力の歴史について紹介した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経	28	29	30	元
平常展の来館者数	43,262人	118,173人※	－	年	145,676	135,776	140,829	160,869
平常展の展示替件数	261件	314件	－	変	427	210	232	239
平常展の展示総件数	490件	－	－	化	664	548	462	461

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染症により、奈良県への来訪者が大幅に減少したこと、特に春日若宮おん祭や東大寺二月堂お水取りなど、奈良の有名な伝統行事への一般参加・観覧が規制されたことなどから、当館周辺の観光事業は大打撃を受けてしまった。来館者数の激減はこうした 2 年度の特殊事情を反映したものと考えられる。
また、当館の新館は建物規模が小さく、特別展は全床面積を使うため、そのたびに名品展（常設展相当）を撤収している。名品展は特別展のない冬期に限り開催する状況で、この数年来は展示替件数は相対的に少なくなっている。そうした中、特別陳列「帝国奈良博物館の誕生」のような斬新な切り口の展示で、当館の隠れた魅力を発信することができたのは特筆に値する。さらに、なら仏像館では、開館以来、最大の仏像（奈良県金峯山寺金剛力士像／像高約 5m、重要文化財）を展示するなど、施設を最大限に生かした果敢な活動ができたことも評価すべきと思量する。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
仏教美術の専門館として他所にみられない高い質と量を備えた展示が開催できた。2年度においても大智寺文殊菩薩像の胎内CT調査結果の公表など最新成果を展示に反映することができており、今期を通じて名品展、特集展示、特別陳列は、随所に最新の成果を盛り込んでおり、展示内容では前期に並ぶかそれ以上の質のものを開催できており、中期目標を達成したと捉えられる。
なお、新館の展示など構造的な問題について、できるかぎりの対策を、今後も継続的に検討・実施して行きたい。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1211D

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）
1)特集展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。
・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示「きゅーはく　どうぶつえん」(6 月 2 日～7 月 12 日)
・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示　大宰府史跡指定 100 年記念「筑紫の神と仏」(6 月 2 日～8 月 30 日)
・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展「しきしまの大和へー奈良大発掘ー」(7 月 28 日～12 月 20 日)
・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示「織物に魅せられてー加賀前田家伝来の名物裂ー」(12 月 1 日～3 年 1 月 24 日)
・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」(3年1月1日～1月24日)
・「天神縁起の世界」(3年2月2日～3月28日)
2)新時代プラン「楽しかぁ！！九博プラン」に基づき、高精度のレプリカを活用した展示の充実を図る。
・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」(9月8日～11月23日)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（4館共通）
1) 前中期目標の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを 1,671 件行い、来館者数は 81,230 人であった。
（九州国立博物館）
1) 新型コロナウイルスの影響を考慮した上で、計画を柔軟に見直して、特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、講演会の実施等により、成果の普及を図った。
2) 実物展示に加えてレプリカや再現文化財も有効に活用しながら、従来の展示とは違った切り口から文化財への関心を喚起し、鑑賞の幅を広げる取り組みを行った。

【補足事項】
・「きゅーはく どうぶつえん」は新型コロナウイルスの影響による臨時休館のため、会期を変更して実施した。平易な口語による解説文、動物の鳴き声の環境音響など、より親しみやすくするための工夫を施し、とくに親子連れの来場者に好評だった。会場は撮影可能とした。
・「筑紫の神と仏」は新型コロナウイルスの影響により、会期を変更して実施した。本展は当館が開館以来実施してきた、大宰府学研究事業の成果を広く発信するものであり、図録も発行した。観世音寺が所蔵する国宝の梵鐘の展示コーナーでは録音した鐘の音を定期的に流した。
・「しきしまの大和へー奈良大発掘ー」は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の所蔵品を中心に、縄文時代から中世にかけての出土資料の優品を展示し、日本が外来文化を受け入れながら独自の文化を形成していく歴史を紹介した。
・「織物に魅せられてー加賀前田家伝来の名物裂ー」は新型コロナウイルスの影響により、会期を変更して実施した。加賀・前田家第3代の前田利常が長崎県平戸などで収集させた舶来の名物裂を収めた裂帖を中心に、日本人が魅せられた織物の世界を紹介した。
・「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3点（「貝桶」、「昆布箱」、「楊枝箱」）を展示した。あわせて、婚礼行列を描いた絵巻や大揃いの婚礼調度も紹介した。
・「天神縁起の世界」は「天神さま」として親しまれる菅原道真の生涯や北野天満宮の始まりなどを描いた天神縁起が、時代の移り変わりとともに多様化し、地域ごとに特色をもつものが展開していく様相を紹介した。開館以来実施してきた太宰府天満宮との連携研究の成果を発信するとともに、近年発見された初公開の作品にも焦点を当てた。図録も刊行した。
・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」は実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示することで、ガラスケース越しの観察やキャプション解説からだけでは分からない作品の魅力を発信した。会場は撮影可能とした。

特集展示「きゅーはく どうぶつえん」の展示会場

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経	28	29	30	元
平常展の来館者数	81,230人	387,744人※	－	年	393,590	350,848	349,114	348,563
平常展の展示替件数	1,671件	1,253件	A	変	1,654	1,594	1,779	1,641
平常展の展示総件数	1,964件	－	－	化	2,208	1,894	1,995	1,894

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により臨時休館の措置をとったため、来館者数の増加にはつながらなかった。しかし、計画に沿って、多彩な特集展示を行ったほか、年齢層の違いや障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しめる展示の取り組みを行った。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、会期変更などの柔軟な対応により中期計画に即した文化財の公開を実現することができた。また、中期計画期間を通し、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与する展示を行ったことから、中期計画を達成できたと考える。 次期中期にあたる3年度は日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に一層資するべく、沖縄の伝統的な手工芸やオリエント古美術を紹介する特集展示を計画している。2年度同様、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組んでいきたい。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【博物館】　施設名 ４館　処理番号 1212ABCD

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（４館共通）2)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長　丸山士郎 企画室長　山川曉 課長　大西真一 課長　白井克也

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・総合文化展のアンケート集計方法を、従前の会場内にアンケート用紙を設置する形から、毎月1回、来館者に記入を依頼する形に変更した。その結果、来館者数が新型コロナウイルス感染拡大の影響で大幅に減った状況の中でも一定数の回収数とすることができた。
（京都国立博物館）
・平常展開催期間中にアンケートの記入場所を設置した。アンケートだけでなく、ウェブサイトや口頭により寄せられた意見は担当部署に共有し、積極的に回答や改善などの対応を行った。
（奈良国立博物館）
・館内の2か所にアンケート記入場所を設置し、記述式アンケートを通年で実施したほか、12月以降はアンケート記入場所を1か所増やし、より多くの回答を集められるよう工夫した。アンケート結果については、速やかに集計作業を行った後、関係部署で情報を共有し改善に努めた。また、ウェブサイトを通じて寄せられた当館への意見・要望についても、アンケートと同様に情報を共有し改善に向け努力した。
（九州国立博物館）
・2年度は、新型コロナウイルスの影響から平常展におけるアンケートを実施することができなかった。しかしながら、ウェブサイト・口頭などで来館者から寄せられた意見は館内で共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を行った。

【補足事項】
（東京国立博物館）
・総合文化展のアンケート集計方法を当館から来館者に依頼する形に変更したことにより、より幅広い意見を集めることができた。
（京都国立博物館）
・デジタルサイネージを情報発信のツールとして効果的に使用することにより、リアルタイムの館内情報を視認性高く提供することができた。
（奈良国立博物館）
・来館者の意見や要望を踏まえて館内の掲示物を修正するなど、観覧環境の改善に取り組んだ。
・来館者からの要望に応え、3月20日（土）より、名品展のうち一部作品の写真撮影を可能とした。
（九州国立博物館）
・特集展示ごとに、立て看板や特大バナーをエントランスに設置するなど、開催中の展示内容、開催場所などが一目でわかるように工夫したほか、新型コロナウイルスの流行によって特別展が行われなかった期間に、開館15周年記念看板を設置し、4階の平常展の企画を列挙するなどの方策を講じた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
平常展の来館者アンケート満足度								
東京国立博物館	85.8%	74%	B		71.0	87.3	89.2	90.2
京都国立博物館	78.5%	79%	C		75.0	84.4	89.7	79.1
奈良国立博物館	94.2%	79%	B		88.9	90.1	92.5	93.2
九州国立博物館	-%	67%	-		73.8	77.8	73.6	77.1

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
各館の平常展の満足度については、元年度に引き続き、全体的に高い水準を維持することができた。今後はQRコードを活用したアンケートなど、集計作業の簡易化、より幅広い来館者層からの意見集約ができるような方法も検討する。また引き続き、アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられる来館者の意見・要望を踏まえつつ、より一層の満足度の向上を目指していく。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
今中期計画期間全体を通して、来館者アンケートの満足度は前中期目標の期間の実績以上となり、中期計画を遂行できた。5年間を通して来館者の意見を分析・共有し、環境改善を続けたことにより、満足度が向上した。
次期中期以降も、来館者の満足度向上に向けて引き続き努力していく。

【書式Ａ】　施設名 ４館　処理番号 1220ｱABCD

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）ア　中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。

担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　田沢裕賀 企画室長　山川暁 部長　内藤栄 部長　小泉惠英

【実績・成果】
（東京国立博物館）特別展を4回開催した。
（京都国立博物館）特別展を2回実施した。
（奈良国立博物館）特別展を2回実施した。
（九州国立博物館）特別展を1回開催した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
開催した特別展は以下の通り。
特別展「きもの KIMONO」、特別展「工藝2020－自然と美のかたち－」、特別展「桃山―天下人の100年」、特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」
（京都国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
西国三十三所草創1300年記念特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」、御即位記念特別展「皇室の名宝」
（奈良国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」、「第72回正倉院展」
（九州国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
特別展「奈良・中宮寺の国宝」

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
特別展の開催回数（海外展含む）								
東京国立博物館	4回	年3～4回	B		13	7	9	8
京都国立博物館	2回	年1～2回	B		2	2	2	2
奈良国立博物館	2回	年2～3回	B		4	3	3	3
九州国立博物館	1回	年2～3回	－		4	5	4	4

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は新型コロナウイルスの影響による臨時休館等のため、4館全てで目標値を上回る特別展を実施することはできなかった。 しかし、時機に適った企画や地域文化に深く関わる展示内容を展開する等、質的に我が国の中核拠点にふさわしい事業を展開し、臨時休館を経て特別展を再開した際には、感染予防対策をふまえた観覧方式を工夫することができた。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（東京国立博物館）年 3～4 回程度（京都国立博物館）年 1～2 回程度
（奈良国立博物館）年 2～3 回程度（九州国立博物館）年 2～3 回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今中期最終年度となった2年度は、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、今中期計画期間全体を通して質の高い特別展を開催し、中期計画を遂行することができた。特に東京国立博物館では中期計画期間中、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信するため、多岐に渡る調査研究の成果を踏まえた多様なテーマの特別展等（海外展含む）を実施し、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信した。 また、4館において展示の理解促進に寄与するものとなるように、展示と解説に工夫をし、多言語（日英中韓）解説や撮影スポットの設営なども実施した。一方、多数の来館者が訪れる展覧会には混雑が伴うので、その緩和・解消が課題となった。混雑対策は、新型コロナウイルスの流行下の中で工夫された観覧方式を参考に、観覧環境が少しでも快適になるように工夫していく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1220イA

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　浅見龍介

【実績・成果】
（東京国立博物館）
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、入場者数を制限する必要があると判断し、オンラインによる日時指定制を導入した。それにより、会場内は来館者にとって快適かつ安全な観覧環境とすることができた。

【補足事項】
（東京国立博物館）
アンケートは、従前の会場内に期間中設置する形から、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取ったうえで、来館者に記入を依頼する形に変更した。その結果、一定の回収数も確保できた上で、より幅広い層から意見を聴取することができた。また集約したアンケート結果は、館内で共有し、今後のより質の高い展覧会実施のための参考とした。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
特別展の来館者アンケート満足度	85.5%	71%	A		87.9	86.4	84.2	86.6
体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―	-%	-	-		-	-	-	-
法隆寺金堂壁画と百済観音	-%	-	-		-	-	-	-
きもの　KIMONO	93.1%	-	-		-	-	-	-
聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ	-%	-	-	経年変化	-	-	-	-
スポーツNippon	-%	-	-		-	-	-	-
日本・中国・韓国の漆工	-%	-	-		-	-	-	-
国宝　鳥獣戯画のすべて	-%	-	-		-	-	-	-
桃山―天下人の100年	91.2%	-	-		-	-	-	-
工藝2020―日本の工藝と自然	78.4%	-	-		-	-	-	-
日本のたてもの―自然素材を伝統技術に活かす知恵	79.3%	-	-		-	-	-	-
ジパング　世界と出会った日本の美	-%	-	-					
修復された海外の日本美術	-%	-	-					

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
各展覧会とも、非常に高い満足度を達成することができた。日時指定制導入に伴い、来館への手続きが増えるデメリットはあったが、アンケート結果からは、質の高い展覧会を快適な観覧環境の中で楽しめた、など好意的な意見が数多く寄せられた。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通して来館者の満足度は8割を超えており、2年度も特異な環境下で開催した展覧会であったが、高い満足度を得ることができた。次期中期においても安心安全かつ快適な観覧環境を維持しつつ、来館者がより気軽に来館できる方策を検討していく。

【書式Ａ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　1220㋑B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務課　　学芸部	事業責任者	課長 西尾佐枝子　　企画室長 山川曉

【実績・成果】
イ
・各特別展開催前に監視要員向けに留意事項、期間中のイベント、販売券種及び割引対象等について説明会を行った。
・来館者の新型コロナウイルス感染を未然に防ぐため、入館前の検温を実施や多言語（日・英・中・韓）やピクトグラムを活用した案内看板の設置を行い、安心して観覧できる環境を整備した。
○特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」での対策
・展覧会開催中、新型コロナウイルス対策への協力依頼を館内アナウンスすることにより、来館者が安全に観覧できる環境づくりができた。
・展示室内に西国三十三所の巡礼地である寺院を紹介する展示パネルを設置した。来館者が作品鑑賞だけでなく関連寺院の詳細も知ることができる工夫を施した。
○特別展「皇室の名宝」での対策
・新型コロナウイルス対策として事前予約優先制を導入した。展示室内の人数を制限することで感染予防対策を実施することができた。また、従来は待ち列ができることが多かったが、事前予約優先制を導入したことにより待ち列を回避することができた。
・特別展開催中にはツイッターで混雑状況の配信を行い、来館者が安心して展示を楽しめるように情報提供を行った。
・展示内容の理解を深めるため、展示リストだけでなく教育普及目的のリーフレットも展示室内にて配布、ウェブサイトでの公開を行った。日・英・中・韓の4言語に対応した多言語鑑賞ガイドとすることで、より幅広い来館者が楽しめるものとした。

【補足事項】

「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」の紹介パネル

「皇室の名宝」の多言語鑑賞ガイド

新型コロナウイルス対応案内のピクトグラムと多言語での案内看板

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経	28	29	30	元
特別展の来館者アンケート満足度	73.9%	89%	C	年	78.1	81.9	94.6	80.6
聖地をたずねて	74.4%	-	-	変	-	91.3	90.2	70.2
皇室の名宝	73.5%	-	-	化	-	78.3	97.7	72.9

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度は新型コロナウイルスの影響を受けたが、来館者の安全確保を最優先とし、混雑が予想される特別展では事前予約優先制を導入する等の対策を行った。また、人数制限を実施したことにより普段の展覧会よりも混雑状況を緩和することができ、安心して観覧できるゆとりある空間を提供した。また、新型コロナウイルス対策を講じながら、通常ワークショップで解説する内容をパネルで設置したことや、鑑賞ガイドの配布等により、展覧会への理解を深められるようにした点は評価できるため、定量的評価の目標値には届かなかったが、年度計画を達成したと判断した。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 目標値を超える実績を得ることはできなかったが、中期計画を通じて、展覧会毎に作品鑑賞をより楽しむことができるように趣向を凝らした展示空間の演出を行うことができた。また、アンケートや直接寄せられた意見に対して、改善が必要な場合にはその都度迅速に対応することができた。新型コロナウイルス対策を万全に行い、安全な環境で来館者が観覧できるようにこれからも努めていく。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1220イC

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（4館共通）
イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
・館内で実施する記述式アンケートの集計結果及びウェブサイトを通じた当館への意見・要望を関係部署で共有し、改善に努めた。
・正倉院展終了後、アンケート結果や来館者からの意見・感想を踏まえ、3年度以降の特別展開催に向けた反省会を行った。

【補足事項】
・例年、特別展や特別陳列の際にボランティアの協力のもと実施していた対面アンケートについては、新型コロナウイルスが拡大している状況を鑑み、2年度には実施しなかった。ただし、記述式アンケートを常時館内の複数箇所に設置するとともに、アンケート記入場所の付近に手指用アルコールを設置し、来館者が安心してアンケートに回答できるよう工夫した。
・来館者対応業務を委託する外部業者と常に情報共有や意見交換を図りながら、よりよい来館者対応を目指して努力した。
・正倉院展において、観覧環境の改善のため、元年度に引き続き基準より大きな手荷物の持ち込みを制限した。また、館外のコインロッカー・手荷物預かり所の利用促進のため、看板を設置するなど来館者への周知に努めた。

記述式アンケート 記入場所

「第 72 回正倉院展」
手荷物持ち込み制限看板
コインロッカー 案内看板

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
特別展の来館者アンケート満足度	91.1%	80%	B	経	86.4	88.1	89.8	91.4
よみがえる正倉院宝物展	90.8%	－	－	年	－	－	－	－
仏教美術名品展	－　%	－	－	変	－	－	－	－
第72回正倉院展	91.3%	－	－	化	－	－	－	－
聖林寺十一面観音展	－　%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 記述式アンケートを館内の複数箇所に設置し、寄せられた意見・要望については、関係部署に情報を共有して適宜改善に努めた。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に開催した特別展における来館者満足度は、元年度に引き続き前中期目標の期間の実績以上の数値となり、中期計画を達成できた。次期中期となる3年度以降も引き続き、来館者の意見・要望を参考にしつつ、特別展における満足度向上のため努力する。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1220ｲD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
2年度の特別展は「奈良・中宮寺の国宝」のみを開催し、同展における満足度調査を実施した。その結果、満足度は89.2%という高い水準に達した。作品や展示方法など、個別の質問においても高評価を得た。一方で、解説文の文字が小さいなどの指摘もあり、課題を残している。
新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、事前の日時予約制を導入した。また、音声ガイドの実施を取りやめるなどの措置を講じた点に対しては、一定の理解が得られた。
満足度とは別の指標であるが、アンケートの回収率が、通常よりも顕著に高い3.77%に達し、多くの意見を得ることができた。

特別展「奈良・中宮寺の国宝」会場風景

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
特別展の来館者アンケート満足度	89.2　%	86%	A	経	85.9	87.2	86.7	84.0
古代エジプト	－　%	－	－	年	－	－	－	－
海幸山幸	－　%	－	－	変	－	－	－	－
加耶	－　%	－	－	化	－	－	－	－
中宮寺の国宝	89.2　%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 2年度に唯一開催した「奈良・中宮寺の国宝」のみに対する評価であったが、様々な制約の中で実施した展覧会にも関わらず、高い満足度を得ることができ、計画を上回る成果であったといえる。 事前予約による入場などについて指摘された問題は、3年度以降の特別展運営において改善される見込みである。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、当館の特別展開催について、来場者から目標値に近い満足度が得られることができた。特に中期計画最終年度にあたる 2 年度においては、新型コロナウイルス感染予防の措置をとり、過去４年間の実績を超える満足度を得ることができた。以上より、中期計画を達成できたといえる。 次期中期計画においても、研究成果に立脚しつつ、作品の魅力を引き出す展示手法や、快適な観覧環境の構築など、引き続き努力を重ねたい。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aウ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「きもの　KIMONO」（6月30日～8月23日）
（目標来館者数10万人）

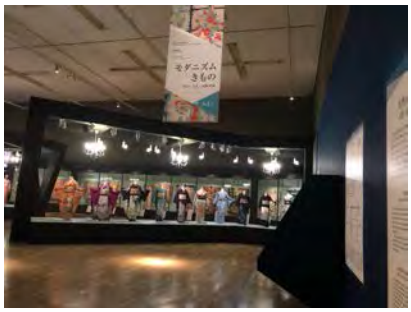
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課工芸室　小山弓弦葉

【実績】

展覧会名	特別展「きもの　KIMONO」
会　　期	6月30日（火）～8月23日（日）（48日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、朝日新聞社、テレビ朝日、文化庁、日本芸術文化振興会
作品件数	294件（うち国宝4件、重要文化財22件）
来館者数	91,830人（達成率-%）
入場料金	一般1,700円、大学生1,200円、高校生900円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度93.1%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	日本の伝統衣装として知られる「きもの」が身分の差や老若男女を問わず人々の日常着として着られるようになった室町時代から現代までの歴史を、そのファッション性や日本独自の工芸としての視点でとらえ、着物を着用した人物を描いた絵画、マネキンに着付けた着装展示などを交えて、それぞれの時代の優品を中心に5章で構成し、展覧した。
学術的意義	染織文化財の特別展は47年ぶりの開催である。日本文化の１つとして海外でも知られる「きもの」が、単に伝統衣装として存在するのではなく、日本の卓越した染織工芸技術によって培われた、現在も発展し続ける文化である意義を、日本の自然や風土に根差した四季感を意識しつつ、総数294件の優品によって紹介することができた。
教育普及	当初は当館の大講堂において国際シンポジウム「日本文化としての『きもの』を考える」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、ギャラリートークおよび国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：6月29日実施138媒体218人出席。ポスター、チラシについては会期変更及び事前予約の導入等情報を更新して再制作。JR駅大型ボード、京王線電車内中吊りB3ポスターなど出稿。雑誌：芸術新潮、サライなど、テレビ：テレビ朝日「モーニングショー」、NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」など。
補　足	 展示風景（第1会場）  展示風景（第2会場）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	91,830人	100,000人※	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 事前申し込み制を導入し入場制限等のコロナ感染対策を行わざるを得ない状況ではあったが、目標値に迫る来館者数を達成し、アンケートで満足度 93.1%という結果からもわかるように来館者の満足度は非常に高かった。日本文化の特徴の１つである染織工芸について、「きもの」という伝統衣装を通して理解を深めることができた。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aク

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ク　特別展「桃山―天下人の100年」（10月6日～11月29日）
（目標来館者数12万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　田沢裕賀

【実績】

展覧会名	特別展「桃山―天下人の100年」
会　　期	10月6日（火）～11月29日（日）（48日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁
作品件数	231件（うち国宝17件、重要文化財94件）
来館者数	82,808人（達成率-%）
入場料金	一般2,400円、大学生1,400円、高校生400円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度91.2%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	安土桃山時代を中心に花開いた豪壮華麗な「桃山文化」を、室町時代末から江戸時代初期にかけての約100年間の美意識の変化に着目して7章に分け、絵画、書跡、武具、茶道具などの時代を代表する優品約230件の展示によって示した。
学術的意義	「桃山文化」が政治史上の安土桃山時代に限られたものではなく、室町時代末を胎動期として始まり、江戸時代初期まで続いていることを示すと同時に、戦国武将が争う下剋上の時代から、江戸幕府による平和な治世へと移り変わるなかで、それぞれの時代の人々の意識を反映して変化していることを、約100年の期間で視覚的に示すことができた。
教育普及	―
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：10月5日実施145媒体199人出席。ポスター、チラシ各種制作。東京メトロ駅看板など出稿。雑誌：日経おとなのOFF、サライなど、テレビ：NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など。また、展覧会公式サイトなどでも情報を発信。

補　足

展示風景

展示風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	82,808人	120,000人※	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 事前申し込み制を導入し入場制限等の新型コロナウイルス感染症対策を行っての運営であったため、入館者数は目標値に達しなかったが、大きな混乱はなく、来館者の運営に対する満足度も高かった。一つの時代を総合的に俯瞰し、時代の変遷を的確な作品選定によって視覚的に提示した学術的意義の大きい展覧会であった。また、来館者に対しても、これまでの同時代を扱った展覧会には類を見ない規模と質の高さによって、桃山文化の理解を高めることができ、内容に対する満足度も高かった。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aヶ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ク　特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」（9月21日～11月15日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部特別展室長　猪熊兼樹

【実績】

展覧会名	特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」
会　　期	9月21日（月）～11月15日（日）（48日間）
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社ほか
作品件数	82件（国指定文化財の該当なし）
来館者数	13,851人（達成率－%）
入場料金	一般　1,500円、大学生　1,000円、高校生　600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度78.4%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	日本では、自然との共生による密接な精神的感性と固有の生命観が芽生えて我が国特有の工芸を発展させてきた。それは長い歴史と文化が形成されるなかで、変化に富む地形と四季折々の気候、そして豊かな風土に育まれた自然観を要因とすることが大きい。本展では、日本が世界に発信する芸術文化を牽引する現代の工芸作家82名による優れた近年の制作品を紹介する。
学術的意義	芸術性を追求する工芸美術や日本の伝統美に立脚する伝統工芸の造形哲学を表した様々な工芸表現の作品を展示することで、工芸の魅力を国内外に発信し、その普及に努め、また、日本の工芸の特質である共生の精神性を表現し、現代社会が抱えるグローバルな課題に対して、日本から提言できる平和的メッセージとなることも目標とする。
教育普及	特別展「工藝2020」オンライン国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：9月20日実施63媒体68人出席。ポスター、チラシ各種制作。JADビジョン、上野駅へポスター駅貼りなど出稿。雑誌：美術の窓、江戸楽、芸術新潮など、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など。また、展覧会公式ウェブサイトなどでも情報を発信。
補　足	 会場（東京国立博物館　表慶館）の外観 展示風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	13,851人	50,000人※	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 事前申し込み制を導入し入場制限等の新型コロナウイルス感染症対策を行っての運営であったため、入館者数は目標値に達しなかったが、大きな混乱はなく、来館者の満足度78.4%との評価を得た。日本文化の柱の一つとして古来より継承されてきた工芸について理解を深め、また、芸術文化を牽引する現代の工芸を一堂に会する画期的な展覧会となった。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aコ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
コ　特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」（12月23日～3年2月21日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部特別展室長　猪熊兼樹

【実績】

展覧会名	特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」
会　　期	12月23日（水）～3年2月21日（日）（53日間）
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、国立科学博物館、東京国立博物館、読売新聞社
作品件数	19件（国指定文化財の該当なし）
来館者数	20,447人（達成率 - %）
入場料金	一般1,500円、大学生1,000円、高校生600円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度79.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展は、木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へ昇華させた日本の伝統建築のうち、その縮小表現によって高い美意識と加工技術を際立たせた「建築模型」に焦点をあて、自然素材を活かした造形的特徴を飛鳥時代から現代建築まで通史的に俯瞰するものである。「日本博」および「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』」の一環として、国立科学博物館、国立近現代建築資料館との3館合同で開催した展覧会で、当館では、首里城模型の展示や、文化庁が国宝・重要文化財建造物を修理する際に、形態、技法などを検討し、その技を伝承するために製作してきた模型を活用し、特に古代から近世までの日本建築の成り立ちについて紹介した。
学術的意義	日本の伝統建築は、木・草・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へと昇華させたものと言える。本展は、日本の建築を、高い美意識と加工技術を際立たせて縮小表現した建築模型、図面、道具など貴重な資料の展示を通して、自然素材を活かした造形的な特徴を古代から現代にいたるまで見てゆく。
教育普及	―
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：12月23日実施75媒体96名出席。ポスター、チラシ各種制作。交通広告：JR上野駅などにてデジタルサイネージ、東京メトロ主要駅にてポスター駅貼りなど出稿。雑誌：美術の窓、江戸楽、新建築など、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など、ウェブサイト：ニコニコ生放送「ニコニコ美術館」など。また、展覧会公式サイトなどでも情報を発信。
補　足	 展示作業の様子 展示風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	20,447人	50,000人※	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 事前申し込み制を導入し入場制限等の新型コロナウイルス感染症対策を行っての運営であったため、入館者数は目標値に達しなかったが、大きな混乱はなく、来館者の満足度も高かった。木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へ昇華させた日本の伝統建築の造形的特徴について、建築模型を通じて理解を深めることができた。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねて －西国三十三所の信仰と至宝－」（7月23日～9月13日） （目標来館者数7万人）			
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品管理室長　羽田 聡

【実績】

展覧会名	西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねて －西国三十三所の信仰と至宝－」
会　　期	7月23日(木)～9月13日(日)（47日間）
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、西国三十三所札所会、読売新聞社
作品件数	170件（うち国宝12件、重要文化財45件）
来館者数	52,164人（達成率：74.5%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　82.7%

【成果】

企画構成 展示作品	展覧会は次の6章から構成されている。 第1章　説かれる観音 第2章　地獄のすがた 第3章　聖地のはじまり 第4章　聖地へのいざない 第5章　祈りと信仰のかたち 第6章　巡礼の足あと 第1章では奈良・岡寺の菩薩半跏像、館蔵の千手千眼陀羅尼経残巻（玄昉願経）、第2章では滋賀・聖衆来迎寺の六道絵、館蔵の餓鬼草紙、第3章では奈良・長谷寺発起院の徳道上人像、和歌山・粉河寺の粉河寺縁起絵巻、第4章では滋賀・観音正寺の西国三十三所観音曼荼羅、大阪・施福寺の施福寺参詣曼荼羅、第5章では京都・松尾寺の如意輪観音像　一山一寧賛、和歌山・粉河寺の千手観音立像、第6章では滋賀・石山寺の西国三十三所巡礼札、奈良・長谷寺の長谷寺経などを展示した。
学術的意義	・西国三十三所草創1300年を機として、札所の3分の1が集中するゆかりの深い京都で開催された大規模総合展であった。 ・秘仏である京都・頂法寺の如意輪観音坐像が寺外へ初めて出陳された。 ・和歌山・青岸渡寺と東京国立博物館に分蔵される那智山経塚出土の金剛界曼荼羅成身会大壇具を会し、立体曼荼羅として展示した。
教育普及	・記念講演会（5回） 7月23日「西国巡礼　慈悲の道」藤田 浩哉 氏（西国三十三所札所会 会長・今熊野観音寺 山主） 8月8日「資料からみる西国三十三所」羽田 聡（京都国立博物館 美術室長兼列品管理室長） 8月22日「西国三十三所、観音めぐり」淺湫 毅（京都国立博物館 上席研究員） 8月29日「信仰の息づく霊地―那智山経塚出土の立体曼荼羅―」末兼 俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 9月5日「経典にみる観音菩薩」上杉 智英（京都国立博物館 研究員） ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、京博ナビゲーターの案内によるワークショップを中止し、代わりに「解説プリント」（日・英・中・韓）と、ブックカバーにもできる観音の「オリジナルぬりえ」を配布した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・運営：前期・後期のいずれも三十三所の作品が展示されるように展示を行った。 ・広報等：各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。 虎ブログ（6回）、YouTube トラりんチャンネル展覧会（2回）。
補　足	

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	52,164人	70,000人※	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 来館者目標には及ばなかったが、新型コロナウイルスの感染拡大の中、会期を変更し、感染防止対策に努めることで、ゆかりのある京都にて、西国三十三所草創 1300 年を機とした大規模な展示を実現できたことの意義は大きい。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Ｂイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　御即位記念 特別展 「皇室の名宝」（10月10日～11月23日）
（目標来館者数10万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	企画・工芸室長　山川　暁

【実績】

展覧会名	御即位記念 特別展 「皇室の名宝」
会　　期	10月10日(土)～11月23日(月)（39日間）
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、宮内庁、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	98件（うち国宝　4件、重要文化財　3件）
来館者数	85,315人（達成率：85.3%）
入場料金	一般　1,800円、大学生　1,200円、高校生　700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　81.8%

【成果】

企画構成 展示作品	天皇陛下の即位とともに令和の世を迎えたことを祝し、宮内庁三の丸尚蔵館の収蔵品と日本の宮廷で培われた文化を、皇室ゆかりの地である京都において紹介するために企画された展覧会。 第一章「皇室につどう書画」では、「喪乱帖」（王羲之筆）、「春日権現縁起絵巻」（高階隆兼筆）、「動植綵絵」（伊藤若冲）など、三の丸尚蔵館が収蔵する名だたる作品を紹介し、第二章「御所をめぐる色とかたち」では、かつて京都御所で繰り広げられた宮廷生活を追体験できるよう、「礼冠」「礼服」など江戸時代以前の即位礼を髣髴させる品々や、宮廷周辺で享受された屏風や古筆の名品、天皇の肖像画や宸翰、京都御所を飾った調度類などを、三の丸尚蔵館のみならず宮内庁諸機関の収蔵品も交え紹介した。
学術的意義	第一章の展示を通し、これまで東京以外ではまとまって公開されることがなかった宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品を、関西の地でまとまって公開することができた。皇室コレクションの概要を来館者に提示し、その質の高さを伝えるとともに、伝統文化への興味関心を喚起した。 第二章での展示を通し、宮廷が常に、海外からの先進文化を受け入れ、日本人の美意識のもとに熟成させ、新たな文化を創出する中核であったことを示すことができた。宮廷文化のありようが、さまざまな文化に触れながら独自の感性で新たな製品を生み出していく現代日本の姿に共鳴することを提示した。 三の丸尚蔵館、京都事務所、書陵部など、宮内庁諸機関の研究員との交流により、博物館が作品研究を進めるうえでの新たな視点を得ることができた。
教育普及	展示題箋（日英中韓）、音声ガイド（日英）の作成。鑑賞ガイド「宮廷美術ことはじめ」（日英中韓）の配布。展示映像「華麗なる皇室の名宝」の上映。展覧会図録「皇室の名宝」（日）の作成。 三の丸尚蔵館研究員と当館研究員により、会期中以下の6回の記念講演会を開催し、各回100名が参加した。 「宮廷と日本文化―雅な文化、その継承のこころ」（10月10日）、「皇室に伝わった絵巻の至宝―春日権現験記絵を中心に―」（10月17日）、「皇室を彩る絵画―旧桂宮家伝来品を中心に―」（10月24日）、「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来―〝禁裏御物〟と諸家献上―」（10月31日）、「伏見天皇と〈屏風土代〉―天皇の書風形成―」（11月7日）、「御所をめぐる色とかたち」（11月14日）。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	展覧会広報展開期間中は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため府県をまたいでの移動への懸念が高まっていた時期にあたり、従来通り実施すべきか共催者とも協議を重ねた。その結果、対面での記者発表は避けオンライン配信とし、招待券の配布を伴う広報は基本的に廃止した。ただし、近畿圏の交通広告などは従来通り実施した。以上のような対応であったにもかかわらず、京都で開催する御即位記念展への関心は高く、ウェブサイト、新聞、テレビ、雑誌など各種の媒体に取り上げられた。 運営においては、感染防止対策を徹底するとともに、オンラインによる事前予約優先制度を初めて導入し、展示導線においてソーシャルディスタンスを確保できるよう人数制限を実施した。また、夜間開館の実施は見送った。当日券も一定数確保し、当日券の時間ごとの残数をツイッターで逐次情報提供したことにより、オンライン予約が困難な層、ツイッターを使いこなす層、ふたつの層に対応することができた。 一方で、来館を希望しても難しい人々への一助として、共催者であるNHKの特集番組「皇室が守り続けた“いのちの美”」作成にあたっての8K撮影に全面的に協力し、展覧会の魅力を一部ではあるが、テレビ放映を通して広く紹介するとともに、当館公式キャラクターによるブログにて3回にわたってオンライン配信を行った。
補　足	

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	85,315人	100,000人※	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 人数制限をせざるを得ない状況下ではあったが、御即位記念という時宜を得た特別展への関心の高さもあり、有料率は約 85%と展覧会の収益面で成果を上げることができた。また、平成 28 年度から毎年度皇室に関わる特集展示をしており、その集大成ともいえる内容の展覧会を開催できたことは学術的成果としても大きい。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221C ア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」（7月4日～9月6日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品室長　中川あや

【実績】

展覧会名	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」
会　　期	7月4日(土)～9月6日(日)（56日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	宮内庁正倉院事務所、奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局
作品件数	123件
来館者数	42,846人（達成率：85.7%）
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　90.8%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	天皇陛下の御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、宮内庁正倉院事務所・当館・東京国立博物館が所蔵する正倉院宝物模造品を一同に集めて公開する特別展。奈良博覧会や正倉院御物整理掛での宝物修理を契機とする明治期の模造作品や、昭和47年以降に宮内庁正倉院事務所により始められた再現模造事業による模造作品を、楽器、仏具、染織、調度など6つのテーマに沿って123件展示した。
学術的意義	明治時代に制作が始まる正倉院宝物の模造は、単なる「レプリカ」ではなく、正倉院宝物の修理や自然災害の下での危機管理要請など様々な社会情勢を背景としたものである。各模造作品は、宝物の最新の調査研究成果と日本の伝統技術の融合によって生み出された究極の工芸品で、本特別展は、天平の色彩や技術に触れられると共に、わが国の伝統技術を将来に継承する意義の感じられる、絶好の機会である。
教育普及	無料配布のジュニアガイドを編集し、8,000部刊行した。 このほか、講演会3回、関連ワークショップ2回、関連イベント（雅楽コンサート）1回を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から展覧会が当初の日程から変更になったことと合わせ、中止とした。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	主催者による報道発表を東京と奈良で各1回実施した。当初は4月18日～6月14日に開催予定であったが、新型コロナウイルスにより博物館自体が2月27日～6月1日まで閉館となったため、新会期日程を入れた広報用ポスター・チラシを新たに制作し、新会期の周知に努めた。また、入館者数制限を設け、一定の人数に達したら入口前に待機してもらうようにした。会場内ではソーシャルディスタンスをとれるよう、床に立ち位置サインを貼り、ケースや動画モニター前での混雑回避に努めた。
補　足	

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	42,846人	50,000人※	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス流行により、遠方からの来館者や毎夏多数来館実績のあった外国人来館者が大幅に減少したにもかかわらず、目標値の85%の来館者数を得られたことは大いに評価できる。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「第72回正倉院展」（10月24日～11月9日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績】

展覧会名	特別展「第72回正倉院展」
会　　期	10月24日（土）～11月9日（月）（日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
作品件数	59件（うち国宝0件、重要文化財0件）
来館者数	36,344人（達成率：72%）
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度91.3%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	正倉院宝物約9,000件から代表的な宝物、近年研究の進展した宝物など59件を選び公開した。2年度は薬物、武器・武具がまとまった件数が出陳されたほか、遊戯具、花氈、鏡、染織品、刀子、箱、机、文書、経巻などが出陳され、宝物の全体像を観覧する構成となった。また、休憩コーナーでは花氈の再現模造品を展示し、花氈の制作工程をわかりやすく説明することができた。
学術的意義	近年材料や制作技法が明らかとなった花氈、色氈が3件展示された。それに合わせて復元模造品を制作工程見本、制作風景の動画を展示した。また、正倉院展ではこれまで題せんに制作された国や時代を表記してこなかったが、現段階の研究成果による見解を表記した。展覧会図録では薬物の献納と武器・武具の献納を取り上げた概説、出陳宝物のうち注目される品に関する論考を掲載した。
教育普及	新型コロナウイルス感染症の影響下による来館者数の制限に伴い、インターネットの動画配信を行った。動画はテレビ局、新聞社の協力による4K映像で撮影され、研究員が館内をギャラリートークする形式を取った。また、館独自でも宝物解説、正倉院宝庫における点検・梱包作業、博物館における開梱・展示作業風景を撮影し配信した。また、講座は予約制とし、2回実施した。例年実施しているボランティアによる講堂での解説は実施できなかったが、音声ガイドの日本語版は来館者の26.3%が利用した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	正倉院展は例年17日間で20万人以上が来館するため、混雑対策として入館券は日時指定予約制を導入した。1時間の人数は300人前後と決め、予約はネットと電話で受け付けた。入館券は開幕前に完売したが、事前の広報を入念に行ったため、当日券を求めて来館するといったトラブルは少なかった。案内スタッフとの綿密な打ち合わせを行ったため入館時や観覧時の混乱もなかった。展示会場は展示物の距離を保ち、また車椅子の方にも見やすいよう展示物を低く設置した。ソーシャルディスタンスが十分に確保できる人数に限定したこともあり、観覧者には鑑賞しやすいと好評であった。なお、観覧料金は例年より値上げしたが、アンケートでは鑑賞しやすさを評価する意見が多く、料金についての指摘はほとんどなかった。 来館できない方が増えると予想されたため、図録やグッズを当館のホームページ以外に特別協力の読売新聞社の特設ページからも購入できるようにするなど、販売ツールの多角化を行った。
補　足	目標人数5万人を下回った理由は、チケットを購入しても来館しなかった方がいたこと、招待者枠であるプレミアムカード会員や賛助会員が来館をひかえたことなどが考えられる。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定
来館者数	36,344人	180,000人※	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	例年通りの開催方法ならば混雑が予想されたため、入館方法、展示方法、広報、教育、販売などに対応が必要であったが、各部署が協力し成功に導くことができた。日時指定予約制で入館者数を制限する等の感染症対策を行った結果、来館者数が例年より大幅に減少したが、感染者を出すこともなく、来館者からも「快適に観覧できた」という満足度の高いご意見をいただいた。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式A（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221D エ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「奈良・中宮寺の国宝」（3年1月26日～3月21日）
（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　小泉惠英

【実績】

展覧会名	特別展「奈良・中宮寺の国宝」
会　　期	3年1月26日(火)～3月21日(日)（48日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	中宮寺、九州国立博物館・福岡県、日本経済新聞社、西日本新聞社、TVQ
作品件数	89件（うち国宝3件、重要文化財13件）
来館者数	50,432人（達成率：84.0%）
入場料金	一般1,800円、高大生1,200円、小中学生800円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 89.2%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	中宮寺は、飛鳥時代に奈良・斑鳩の地に創建された尼寺である。本展では本尊の「菩薩半跏思惟像」と、聖徳太子の妃が太子の往生を願って制作した「天寿国繍帳」の二つの国宝を中心に据えて、古代から近世にいたる中宮寺の歴史を伝来した数々の寺宝からひも解いた。さらに本尊の造形のルーツをたどるため、ガンダーラ、中国、朝鮮半島、日本のアジア各地で作られた半跏思惟像を展示し、また文学者や写真家の作品から近代における本尊への賛美の姿を紹介した。
学術的意義	中宮寺の寺宝を一堂に紹介する展覧会は、本展が約30年ぶりのこととなる。本展では、この間における歴史学、考古学、美術史学の研究成果を反映し、中宮寺の歴史を新たな視点で捉え直すことができた。また、中宮寺では「如意輪観音」としてまつられる本尊をアジアの半跏思惟像の展開の中に位置づけ、飛鳥時代の制作当初の尊名について検討を行った。なお、中宮寺では本尊を前方からしか拝観できないが、造作や照明を工夫し、本展では360度全方向から鑑賞できるようにした。
教育普及	会場内では、中宮寺の歴史や半跏思惟像に対する理解を促進するため、写真を多用した解説パネルを掲出した。主要な作品キャプションは日本語のほか英語・中国語・韓国語でも表記し、外国人来館者も理解できるよう工夫し、また、障がい者が認識しやすい字体を用いバリアフリー対応にも力を入れた。会期中は動画配信による展示解説を行い、九州及び日本全国の人々が中宮寺展に触れる機会をつくり、展示内容に関する理解を深めるよう促した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	本展は、本尊が九州で初めて公開される機会となる。ポスター・チラシ、交通広告、テレビCMで本尊の美を積極的に伝えるとともに、仏像愛好者のみならずあらゆる世代の人びとが仏像に関心をもてるよう工夫した。 また、本展は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、事前予約制を導入した。
補　足	

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	50,432人	60,000人※	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 九州初公開となる中宮寺蔵の半跏思惟像を、研究成果に基づいて展示した。また、革新的な照明技術を採用して、質の高い展覧会とした。ただし、新型コロナウイルスの流行に伴う緊急事態宣言下での展覧会開幕となり、事前予約制の導入や団体入場の禁止などの措置をとらざるを得ず、来館者の目標値には一歩及ばなかった。 今後、展覧会開催における新型コロナウイルス感染防止対策に関しては、引き続き改善を図っていく。

※来館者数の目標値は新型コロナウイルス流行前に設定した数値のため、参考値とする。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A1

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（東京国立博物館）
ア　トーハク新時代プランに基づき、多言語による案内、デジタルサイネージ及び誘導サイン等を順次整備する。
イ　トーハク新時代プランに基づき、より快適な観覧環境を構築するため、展示ケース・照明・内装など展示室等をリニューアルする。

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 列品管理課 平常展調整室	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香 特別展室長　猪熊兼樹 デザイン室長　矢野賀一 国際交流室長　楊鋭 課長　丸山士郎 室長　皿井舞

【実績・成果】
（4館共通）
ア
・平常展における題箋および解説等について、4言語にて情報提供を行った。
イ
・異音が発生し、来館者等の利用に際し安全性や快適性のバリアとなっていた法隆寺宝物館の自動扉について、ドアエンジンや起動センサーを更新し、安全かつ快適な観覧環境を構築した。
・本館17室保存修復展示室の展示ケースおよびグラフィックを刷新、ディスプレイを導入し鑑賞環境の向上を図った。
・本館展示室内の休憩用ソファを増設するとともに快適性、デザイン性の高いものに刷新し、満足度の向上を図った。
（東京国立博物館）
ア
・本館1室、4室及び9室に、展示作品の理解や鑑賞に供するための映像コンテンツを設置し、本館11室前、20室前及び便殿前に、多言語による案内用のデジタルサイネージを設置した。
イ
・展示室として使用されていなかった本館特別3室の内装改修等リニューアル工事を実施し、3年6月（予定）のオープンに向けて整備を実施した。
・本館の展示テーマごとに設置していたグループ解説のデザインを入口解説などにあわせてデザインを一新し、課題の改善を行った。

【補足事項】
イ　館内の高頻度接触箇所の定期的な消毒、会場内の滞留人数や温湿度の管理を徹底し、新型コロナウイルス感染拡大防止への対策を行った。博物館の対策を案内するとともに、来館者に協力を依頼する事項をウェブサイトに記載し、動画「ご来館のお客様へのお願い」を制作・公開した。また、会場内では定期的に館内放送を流し、全ての来館者が安心して観覧できる環境づくりに努めた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
音声ガイド貸出台数	22,145台	—	—		177,522	282,187	218,982	334,164

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 障害となっていた施設・設備を改修更新することにより、観覧環境の安全性や快適性を高めた。 またデジタルサイネージを導入するなど、従来よりも多くのデバイスを利用して、来館者等が日本文化に親しんでいただく観覧環境を整備した。 更に総合文化展の音声ガイドは、日英2言語対応だったアプリ（トーハクなび）を更新し、2年度より4言語（日・英・中・韓）全てをアプリで提供する形とし、来館者サービスの向上に繋げることができた。特別展のうち、桃山展、工藝2020展、日本のたてもの展は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、音声ガイドの提供を見送った。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、トイレの洋式化、車いす、ベビーチェア、オストメイト対応の多目的トイレの設置やスロープや手すりを設置することにより博物館内施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の充実を図った。 また継続的に観覧環境の改善を行った。「トーハク新時代プラン」を公表し、元年度・2年度は多言語化の充実のため、本館を中心に解説を日本文化になじみの薄い来館者にもわかりやすいよう刷新するとともに、展示の文化的な背景を補足するコーナー解説を新設した。また、多言語によるデジタルサイネージの設置や多言語音声ガイドアプリの開発を行った。さらに、国内外で特に人気の高い刀剣等が展示される本館13室をリニューアルした。 以上のことから中期計画を上回る成果をあげたといえる。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A2

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　2/2

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　トーハク新時代プランに基づきリニューアルした多言語対応型の鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」を運用する。
エ　講座・講演会の会場におけるヒアリンググループの設置・管理、スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等、障がい者のための環境整備を充実させる。
オ　「総合案内パンフレット」(7言語（8種）：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
カ　本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、4言語（日、英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
キ　トーハク新時代プランに基づき、外国人にも分かりやすい展示解説の工夫に取り組む。
ク　育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。
ケ　トーハク新時代プランに基づき、レプリカ・VR・8K映像等を活用した新感覚の展示を行う。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　藤田千織 室長　鬼頭智美

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ウ、キ　リニューアルしたアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システムColBaseとの連携を図り、最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みを整えた。また、展示室内に設置したビーコンとシステムを連動させることで、スムースに解説を提供し、注目すべき作品への理解の促進を図った。「浮世絵」「鏡」「自在置物」等について、直感的な操作でそのしくみを学ぶインタラクティブコンテンツを開発し、アプリに搭載した。また、新たに200件弱の平易な4言語（日、英、中、韓）による作品解説を作成し、システムに追加した。27年4月より継続してユーザーログを集積。新たにアプリに搭載したGoogle Analyticsのデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、より精度の高いデータを集積できる仕組みを整えた。
エ　新型コロナウイルスの影響を勘案し、ユニバーサルデザインの触知図による対応は中止したが、かわりに、点字による総合案内のパンフレットを引き続き制作・配布を行った。
オ　3年度「案内と地図」（総合案内パンフレット）（7 言語（8 種））：日46,000部、英15,000部、中(簡体字7,500部・繁体字2,500部)、韓3,500部、仏3,000部、西1,000部、独1,000部）を制作した。なお、開館時間等が流動的になっても配布できるよう、途中変更の多い部分は割愛、基本情報のみとするよう調整した。また、2年度「案内と地図」については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外国人の来館が激減したため、日、英のみ訂正シール貼付のうえ配布した。
カ　本館2階「日本美術の流れ」の3言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布した。
ク　新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、利用者の安全を第一に考え、2年度の託児サービス提供は見送った。一方で、利用者の充足率向上に向けて、サービス提供の開始に合わせた取り組みを検討した。
ケ・5G通信システムと、ARグラス、5Gスマートフォンを活用した文化財の新しい鑑賞体験「5Gで文化財　国宝『聖徳太子絵伝』」をKDDI、文化財活用センターと共同で開発、実施し、1,437名が体験した。また、凸版印刷株式会社、文化財活用センターと共催で、ICTを活用した新感覚の展示「バーチャルトーハク」を開設し、バーチャル上で特別展「アノニマス －逸名の名画－」（特別協力スタジオ地図）を実施した（「バーチャルトーハク」延べアクセス人数　3,374人）。
・親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」として、高精細映像やレプリカを活用した体験型のインタラクティブな展示を行った。

【補足事項】（東京国立博物館）
ウ　アプリの2年度のダウンロード数は以下の通りである。
・Android版「トーハクなび」　1,875件（累計1,876件、2年3月31日公開）（旧「トーハクなび」累計23,483件　H24年4月18日～R2年3月31日公開）
・iOS版「トーハクなび」　3,932件（累計3,932件、2年3月31日公開）（旧「トーハクなび」累計56,980件　H24年4月18日～R2年3月31日公開）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により中止した事業もあったものの、公開中のアプリ「トーハクなび」は計2,355件のダウンロード実績をあげた。作品解説件数も目標の900件を達成した。利用者は館内のみならず自宅からも博物館の文化財の解説やインタラクティブコンテンツにアクセスすることができ、継続的な教育事業の提供に寄与した。 また、5G通信システムを利用した新しい鑑賞体験の提供や、ICTを活用したバーチャル空間での展覧会など、新感覚の展示を実施した。特に、「5Gで文化財　国宝『聖徳太子絵伝』」のアンケートでは、「作品への理解が深まった」の回答が93.3%に上った。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度はパンフレットの制作・配布、ガイドアプリの公開・貸出による多言語化、聴覚障がい者向けの設備の充実、託児サービスやキッズデーによる子ども連れの来館者への配慮などについては、新型コロナウイルス感染症の発生により、従来の手法を大きく変更せざるを得なかった部分もあるが、オンライン配信への切り替えやこれにともなうコンテンツの開発など、一定の成果を上げ、中期計画を遂行できた。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1231B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7 言語(8 種)：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を継続して配布する。
イ　デジタルサイネージやSNSを活用し、効果的な情報発信を図る。
ウ　スマートフォンアプリを活用し、屋外展示、敷地内遺構（方広寺大仏殿)、建物等をガイド（日、英）する体験型コンテンツを開発する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　平常展及び特別展において、題箋及び解説等並びに音声ガイドを用いて情報提供を継続して4言語（日・英・中・韓）に対応した。ただし、特別展音声ガイドについては新型コロナウイルスの影響により、2言語（日・英）での対応とした。
イ　庭園部に照明が少なく、夜間の通行に支障があったところ、庭園全体のライトアップ工事を実施したことで来館者が通行しやすく、屋外展示を夜間にも鑑賞しやすい環境を整備した。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7言語(8種)：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を継続して配布した。
イ　デジタルサイネージを効果的に活用してレストランを含めた館内各施設を紹介することができた。また、緊急災害時はTwitterを活用して、臨時閉館情報等を日・英・中・韓の4言語で案内することができた。
ウ　打合せを行い、開発に向けて計画作成を行った。

【補足事項】
ア
・特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」では仏像に詳しい著名人が音声の一部を担当した音声ガイドを作成した。作品解説だけでなく、著名人2人の掛け合いを楽しむことができる内容になっており、展覧会の楽しみ方を拡げることができた。
・平常展で提供する音声ガイドに関して、ジュニア版を作成した。これまで大人向けの内容となっていたが、なるべく平易な表現を使い、親しみやすいキャラクターが語りかけることにより若年層がより楽しめるように工夫した。
・特別展「皇室の名宝」では4言語（日・英・中・韓）で解説した鑑賞ガイドを配布した。展覧会場の入口にて配布し、より理解を深め、一層楽しめる内容を各言語にて紹介した。

西国展音声ガイド案内板

音声ガイド利用台数
・特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」(2言語　日・英)　9,961台
・特別展「皇室の名宝」(2言語　日・英)　15,544台
・名品ギャラリー（4言語　日、英、中、韓）992台

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
音声ガイド貸出台数	26,497台	－	－		36,584	128,728	104,463	50,191

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	名品ギャラリーの音声ガイドのジュニア版を制作することにより若い世代の人たちが快適に観覧を楽しめる環境を整えることができた。 館内施設のバリアフリー化を推進した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	館内における新型コロナウイルス感染防止の対応案内等を多言語化することができた。 中期計画期間全体としても、快適な観覧環境の提供のため、博物館内の施設のバリアフリー化や多言語化を推進することができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1231C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（奈良国立博物館）
ア　快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。
イ　誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
ウ　正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
オ　多言語による案内について充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
イ
・日本博物館協会ガイドラインに従い、新型コロナウイルス感染症拡大予防策として、館内の消毒や換気の実施、従業員の健康管理及び手指消毒並びにマスク着用などの基本的な対策を徹底した。また、来館者にも検温やマスク着用などの協力を求めることで、少しでも安全な環境で観覧していただけるように努めた。
・6月より、なら仏像館の鑑賞ガイド（日・英・中・韓）を従前の音声ガイドからリニューアルした。リニューアルによって作品解説をガイド機の画面上で見られるようになり、耳の不自由なお客様にもガイドの内容を楽しんでいただけるようになった。
・御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」（日・英・中・韓）及び「第72回正倉院展」（日・英）では、有料の音声ガイドスクリプトを準備し、耳の不自由なお客様にも音声ガイドの内容を楽しんでいただけるよう工夫した。「第72回正倉院展」では、1件のスクリプト貸出があった。

（奈良国立博物館）
ア　展示室の適正な温湿度管理のため、空調設備メンテナンス計画に基づき、機器の修繕を行った。
イ　館内の施設のバリアフリー化の一環として、公道から玄関までの舗道整備を行った。
　　なら仏像館に向かう休憩用ベンチ及び撮影ポイントを設置した。
ウ　2年度は、新型コロナウイルスに関する対策を優先するべく、例年正倉院展の際に実施していた託児室の設置を取り止めた。その代わりに、正倉院展期間中には救護スペースを増設するとともに看護師を常駐させ、来館者が安心して観覧できるよう工夫した。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中：簡体字・繁体字、韓、仏、独、西）を継続して制作した。
オ　総合案内カウンターに外国語（英・中）対応が可能なスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応の充実を目指した。
カ　館内の日本庭園について一般公開を目的としたWGを立ち上げ検討し、改修設計を行った。

【補足事項】
（4館共通）
イ　新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、館内の各所に手指用アルコールを設置するなどの対策を行った。また、対策の内容や観覧にあたってのお願いを記載したパネルや看板を作成して来館者への周知に努めたほか、定期的に館内放送でも案内した。

（奈良国立博物館）
ウ　2年度の正倉院展では、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として前売日時指定券制度を導入したため、例年のように館内が混雑する状況とはならなかった。そのため、混雑状況・待ち時間の速報は行わなかったが、入館方法についての案内看板を新設するなど、快適な観覧環境の提供のために努力した。

第72回正倉院展　入館方法についての案内看板

「観覧にあたってのお願い」看板

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
音声ガイド貸出台数	16,010台	－	－		42,210	63,751	63,299	67,512

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	多くの来館者が想定される特別展の際には案内看板を増設するなど、来館者の利便性向上及びよりよい観覧環境の提供に努めた。 入館料改定により、館内案内リーフレットを7言語で制作した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	音声ガイドスクリプトの導入などを通じて、より幅広い層の来館者に博物館を楽しんでいただけるよう工夫した。託児室の設置など、新型コロナウイルスの影響により実現できなかった内容もあるが、快適な観覧環境の提供という中期計画は達成できたと言える。引き続き、よりよい観覧環境の提供を目指して努力していく。 なお、館内案内リーフレットを7言語で制作したものの、インバウンド減少のため消費されなかった。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1231D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（九州国立博物館）
ア　快適な観覧環境を保持するため、サインや照明等の空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し、分かり易い情報発信に努める。
ウ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
エ　音声ガイド(4言語：日、英、中、韓)の内容充実に努める。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　執行正一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　特集展示「しきしまの大和へ－奈良大発掘－」（7月28日～12月20日）では、解説に用いるフォントを日英中韓のいずれもユニバーサルデザイン(以下UD)フォントを用いることで、会場での文字の視認性を高めた。
イ
・文化交流展示室第7室企画展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」（9月8日～11月23日）において、点字付きのキャプション(白黒反転文字・UDフォント使用)・チラシ・ガイドブック（銅印「大宰之印」）を作成し、展示室内で配布した。特に点字付きガイドブックは、印面が分かるような盛り上げ加工を施し、大きさや文字の形が分かりやすいと好評を得た。点字付きのキャプション台を設置し、白杖などの杖を置く器具を取り付けた。また、車椅子の来館者も利用しやすい台を選び、動線の確保を行った。
・ユニバーサルミュージアム推進の一環として、視覚障がいのある方にも文化交流展示を楽しんでいただくための点字・触知図付展示室マップを製作した。
・新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、以下のような対応を行った。
①非接触サーモグラフィーでの検温
②来館者はマスク着用必須、ヘルスチェックシートに記入
③来館者同士2mの距離をとるよう呼びかけ、導線を配置
④足踏式消毒液を設置
⑤展示室は200人/時までで入場制限(文化交流展。その後350人/時まで緩和)
⑥10人以上の団体はお断り
⑦スタッフはフェイスシールドやマスクを着用

特集展示「しきしまの大和へ」におけるUDフォントの使用

（九州国立博物館）
ア
・文化交流展示室第6室（仏教美術）の改修工事を行い、露出展示用の展示台を新規作成することで、彫刻作品の背面も鑑賞できる展示へとレイアウトを改めた。
・題箋や小テーマパネルなどの従来の解説に加え、補助解説パネルを増やすことでよりわかりやすい展示に努めた。
イ　季刊情報誌「アジアージュ」では、平常展を継続して取り上げ、広報に努めた。
ウ　館内案内リーフレットを継続して7言語（日、英、中、韓、仏、独、西）で制作し配布した。
エ　新型コロナウイルスの感染予防対策のため、開館再開以降、スーパーハイビジョンシアター及び装飾古墳映像コーナーの上映を中止、また、音声ガイド機器の貸出を停止している（装飾古墳映像コーナーは3年3月9日より、感染防止対策を施したうえで再開した）。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
音声ガイド貸出台数	0　台	－	－		98,845	52,425	65,167	69,176

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、ハンズオン展示、オーディオ機器やタッチパネルを用いた展示が一部休止となった。しかし、点字の解説やチラシを用いた展示を行ったり、会場に鐘や銅鐸など展示物の音を流したりするなどして、快適な観覧環境を実現した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、館内のUD化やバリアフリー化を実施したことで中期計画を遂行した。2年度においても、エントランスホールのバナー設置、英語表記の見直しや、UDや5言語（日・英・中（簡・繁）・韓）を取り入れた館内案内看板の設置等を中期計画に沿って実施した。また、元年度実施したユニバーサルミュージアムに関する研修会により職員の知識が向上し、展示の一部にUDフォントを取り入れるなど、快適な観覧環境を向上させることができた。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1232A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（東京国立博物館）
ア　特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア　観覧環境に関する来館者アンケートの集計方法を、従前の会場内に設置する形から、直接来館者に依頼する形に変更したことにより、より幅広い意見を集めることができた。
イ　当館所蔵品となって以降、評判の高い作品である伊藤若冲「玄圃瑤華」を広報ポスターとして広く利用するとともに、商品化を望む声が多いため、一筆箋、絵はがきセット、トートバックや手ぬぐいを制作した。
　小袖「冬木小袖」修復プロジェクトの周知にあたり、文化財活用センターとの連携のもと、蒔絵シールや若年層に人気の高いキャラクター（初音ミク）とコラボレイトした「冬木小袖ミク」の商品を取り扱った。
　親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン　なりきり日本美術館　リターンズ」に合わせ、「びじゅチューン」関連商品を約90点取り扱った。
ウ　新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、当館は2月27日（木）からの臨時休館を経て、6月2日（火）より開館した。開館にあたっては、来館者が安心して来館できるよう、(公財) 日本博物館協会が定めた「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を踏まえ当館独自のガイドラインを策定するとともに、オンラインによる日時指定制を導入した。
　「きもの KIMONO」展、「桃山-天下人の100年」展において、来館者の利便性を高めるため、通常開館日は17時閉館を18時閉館と開館時間を延長した。
エ　アンケート収集方法は、不特定多数の来館者が手に取る可能性がある従前のアンケート方法は感染症予防の観点から適切ではないため、その都度消毒作業が行えるよう来館者に直接依頼する方法に変更した。夜間開館に対するアンケートは、夜間開館日の減少・中止により1度のみの実施となった。
（東京国立博物館）
ア　2年度も平成館2階の特別展開催に合わせ、平成館1階ラウンジにて和菓子、飲み物の販売を行うとともに、構内では特別展の有無に関わらずキッチンカーによる飲食物の販売を行った。販売にあたっては新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を指導した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ア　新型コロナウイルス感染拡大のため、2年度は大幅に外国人来館者が減少していることから、2年度の外国人アンケートの実施は見送った。また3年度の調査に向けてアンケート質問事項の精査を行った。
ウ　日時指定について、オンライン予約が難しい方向けに、オンライン枠とは別に当日窓口での受付ができるよう、一定の枚数の当日券を別途用意するなど、全ての来館希望者が利用しやすい運用を行った。

当日の入館予約状況の案内

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	65.4%	80%超	C		70.4	68.1	71.3	71.7
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	-%	-	-		69.7	74.8	72.7	76.9

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　観覧環境に関するアンケートのうち、レストランに対する満足度が大幅に下がった。これは法隆寺宝物館ガーデンテラスのレストランが、新型コロナウイルス感染拡大による入館者数の大幅減のため、年度内閉店となったことも影響していると思われる。
　なお、臨時休館明けから、入館者数を制限している中でもキッチンカーによる飲食販売を行い、レストラン閉店による影響を最小限となるようにした。
　またミュージアムショップでは、当館所蔵品や展示に関連した新商品を製作するなど、より魅力ある商品構成とした。

【中期計画記載事項】
　来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が 80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　今中期全体を通して来館者を対象とする満足度調査を定期的な実施を行い、事業、管理運営についての見直しや改善を適宜行った。今中期最終年度の2年度から、より多様な意見を集約できるよう、来館者に依頼する形にアンケート集計方法を変更した。次期中期においてはさらに気軽に来館者が意見を出せるよう、QRコードを活用したアンケート方法など、幅広い来館者層からの意見集約ができるような方法も検討したい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1232B

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（4館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館・夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館・夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
（京都国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にミュージアムショップ及びレストランのサービス向上に努める。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケートを4言語(日・英・中・韓)で実施し、外国人も含めた幅広い意見を把握するよう努めた。
イ
・ミュージアムショップの利用者等の意見を参考に、オリジナルグッズを開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。
　また、レストランでは当館限定のオリジナルメニューを提供した。
・来館者のニーズの把握及びサービスの向上のため、当館各部門の担当者と運営業者（ミュージアムショップ、カフェ、レストラン、会場運営）が参加する連絡会議を開催し、情報交換及び新たな取組の検討を行った。
ウ
・2年度は新型コロナウイルスの影響により、夜間開館を休止した。
・特別展「皇室の名宝」では、開館前の行列を回避するため試験的に開館時間を早める措置を実施した。
・3年3月末からの特別展では、開館時間を30分前倒しし、午前9時から開館することで早朝開館を実施した。
エ　新型コロナウイルスの影響により、夜間開館時のアンケート調査を実施することができなかった。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　『博物館だより209号』に龍谷ミュージアム副館長石川知彦氏による特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」の展覧会評を掲載した。
（京都国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考に、運営業者と問題点を共有し、ミュージアムショップ及びレストランのサービス向上に努めた。

【補足事項】
（4館共通）
イ
・当館が監修し、トラりんが研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの3巻（全4巻予定）を発売した。
・当館収蔵品及びトラりんをモチーフに、一筆箋、マスク等のオリジナルグッズを開発した。
（京都国立博物館）
ア
・当館ミュージアムショップのオンラインショップを新たに開設し、過去の図録や学術書、オリジナルグッズ等を販売した。
・新型コロナウイルスの影響によるカフェ利用者減少対策として、試行的に、庭園開放期間中にテイクアウト販売を実施した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	74.5%	80%超	C		40.2	63.4	73.1	67.4
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	100.0%	－	－		69.3	73.5	82.9	67.3

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　観覧環境に関するアンケート満足度については、目標値には達していないものの、元年度を上回る結果となった。
　外国人アンケートの結果を踏まえ、多言語表記を引き続き推進し、満足度の向上を図る。
　新型コロナウイルスの影響により海外からの来館者数は減少したが、感染防止対策を4言語（日・英・中・韓）で案内することにより日本語以外を母国語とする来館者にも安心して観覧できる環境を整えることができた。以上のことから、年度計画を達成できた。

【中期計画記載事項】
　来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画期間を通して、観覧環境の向上を目的として、多言語表記の充実、トラりん関連商品等の開発、館限定オリジナルメニューの提供、柔軟な開館時間の設定及び混雑対策など、来館者のニーズを考慮した多くの取組を実施した。
　多言語表記に関するアンケート満足度はおおむね好評をいただけており、観覧環境に関する来館者アンケート満足度については目標値には届かなかったものの、中期計画期間を通して徐々に向上している。したがって、来館者に満足してもらえる環境を整えられてきており、中期計画を達成できたと判断した。
　次期中期計画以降も、引き続き来館者のニーズの把握に努め、サービスの向上を図る。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1232C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
（奈良国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間を通して記述式アンケートを実施し、外国人来館者から得られた意見・要望も含め、館内で情報を共有し、改善に努めた。
イ　アンケート及びウェブサイトを通して寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望を踏まえ、展覧会に合わせた特別な商品を販売するなど、利用者へのサービス向上に努めた。
ウ　新型コロナウイルスの拡大状況を鑑み、2年度には周辺行事等に合わせた夜間開館は実施しなかったが、特別展の会期中には平常展を含めて夜間開館を実施した。
エ　夜間開館に関する意見を得るため、夜間開館時にも記述式アンケートを設置した。
（奈良国立博物館）
ア　アンケートで得られた意見を参考にレストランメニューの改善に努め、利用者の満足度向上を図った。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。

【補足事項】
（４館共通）

（奈良国立博物館）
ア　特別展にちなんだ限定メニューを提供したほか、お正月の1月2日と3日には、各日先着25名様にぜんざいを無料で提供した。
イ　当館の建物をデザインした手ぬぐい等のオリジナルグッズや、第72回正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。

よみがえる正倉院宝物展限定メニュー
「校倉クーヘンセット」

お正月企画「1月2日と3日は
先着25名様にぜんざいを無料で提供」

お水取り限定メニュー
「青蓮セット」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	71.4%	80%超	C		68.0	70.5	75.8	81.9
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	83.4%	－	－		67.7	69.7	79.8	79.1

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、元年度実施していた対面回収による記述式アンケートが実施できず、アンケート回収数が減少し、観覧環境に対するアンケート満足度も目標値を下回る結果となった。しかしながら、アンケートの結果を踏まえ、敷地内にミュージアムショップやレストランの案内看板を設置するなど、利用率の向上に努めた。また、展覧会にちなんだオリジナルメニューを設定し、利用者の満足向上に努めた。さらに、ミュージアムショップやレストランの利用者が回答しやすいように、記述式アンケートの設置場所を見直した。一方、多言語表記に関するアンケート満足度は、4言語による解説や案内を充実化したこともあり、高い数値となった。
以上から、アンケートについては目標値に届かなかったものの、アンケート結果を踏まえた取り組みや利用者の満足度向上に努めることができたため、B評定とした。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染症の影響により、特に地下にあるレストランとミュージアムショップへの入館者数が激減したが、サービスを低下させることなく運営した。
通年で記述式アンケートを設置し、得られた意見・要望については、ミュージアムショップやレストランを含めた館内の関係部署で共有し改善に努め、中期計画は達成した。満足度が目標値に届かなかったものについては、3年度以降、引き続き改善に向けて努力を続けていく。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1232D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。
エ　開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（九州国立博物館）
ア　特別展に合わせたメニューを開発する等、サービス向上に努める。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。

担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　新型コロナウイルスの影響により、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施することができなかった。
イ
・当館オリジナルアロマスプレーを福岡発のアロマブランドmagicFragranceと共同開発し、新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」の公開に合わせ、来館者へ配布した。
・新型コロナウイルス感染予防対策のため、ミュージアムショップの利用者等のアンケートによる意見の把握ができなかった。また、来館者数の大幅な減少によりレストラン・カフェの営業が困難であるため、休店が続いている。
ウ、エ　新型コロナウイルスの影響により、2年度の夜間開館の実施は見送った。
（九州国立博物館）
ア　新型コロナウイルスの影響により来館者数が大幅に減少し、レストラン・カフェの営業が困難であるため、休店が続いている。
イ　新型コロナウイルスの影響により売上が大幅に減少し、営業を継続できないという理由から、8月にアンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」は閉店した。

アロマスプレー広告

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	－ %	80%超		経年変化	77.2	63.7	61.6	70.2
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	－ %	－	－		78.8	84.6	78.1	80.8

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度においても、夜間開館を実施する予定であったが、緊急事態宣言発出等に伴い、実施を見送った。アンケート調査についても、実施することがかなわず、年度計画を実行することはできなかった。しかしながら、オリジナルグッズの検討・開発など、来館者へのサービス向上に努めた。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通して、来館者に対し満足度調査を実施し、その結果を踏まえ、サービスの改善等に努めてきた。中期計画最終年度である２年度においては、新型コロナウイルスの影響により、夜間開館・アンケート等は実施できなかったが、オリジナルグッズの検討・開発等を実施し、来館者へのサービス向上に努めたことで、中期計画を概ね遂行できたといえる。
次期中期においては、新しい生活様式に即したサービスの在り方を模索していきたい。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1311H

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
（文化財活用センター）
ア　企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカや VR 等映像コンテンツを開発し、提供する。
　文化財の理解を促進するため、積極的に機構外施設へのアウトリーチに取り組む。

担当部課	本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（文化財活用センター）
ア
・企業等との連携により、高精細画像撮影等の先端技術を用いて、高精細複製屏風や映像コンテンツ等の開発を行った。
・開発したコンテンツを体験型展示に活用し全国に巡回することで文化財への理解を深める機会を広く提供したほか、高精細複製品貸出事業や、複製品による教育プログラム事業を実施し、全国の人々が文化財に親しむ機会の創出に寄与した。

【補足事項】
・30年度、元年度に締結した、キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社との共同研究プロジェクトを継続。
・「伎楽装束　裳・袍」の復元制作を元年度に引き続いて実施。「焔」「観楓図屏風」「四季花鳥図屏風」の高精細複製品と「重要文化財　遮光器土偶」「国宝　埴輪　挂甲の武人」のハンズオンレプリカ、並びに「黒糸威二枚胴具足」（重要文化財）の着用体験用甲冑、「国宝　埴輪　挂甲の武人」の着用できる挂甲を制作等、計9件（15点）の複製を制作。
・ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」（新型コロナウイルスの影響により中止）で展示予定であった「国宝　花下遊楽図屏風」の高精細複製品のプロジェクションマッピングを事前予約制で限定公開（7月1日～2日）した。満足度調査では展示全体について85%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
・企画展示「なりきり美術館」シリーズを、千葉市美術館（7月11日～9月6日）、大分県立美術館（3年2月19日～5月9日）へ巡回。千葉市美術館では会期中（31日間）4,933人、大分県立美術館では年度内会期中（39日間）10,710人がコンテンツを体験した。
・東京国立博物館ミュージアムシアター内で日本文化紹介映像の無料上映を行った（7月1日～3年3月28日）。また文化財活用センターウェブサイトにて本動画を先行公開した（5月7日～）。
・シャープとの共同研究によるコンテンツ「8Kで文化財　ふれる・まわせる名茶碗」の実証実験を東京国立博物館東洋館エントランスにて実施し、延べ1,856人が体験した。（事前予約制の限定公開：7月29日～8月2日、一般向け再公開：11月10日～23日）。
・東京国立博物館、KDDIとの共同プロジェクトで、5G、ARを活用したコンテンツ「5Gで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』ARでたどる聖徳太子の生涯」を東京国立博物館法隆寺宝物館資料室にて実施し、延べ1,437人が体験した。（事前予約制の公開：9月29日～10月25日。24日間）。

8K で文化財 ふれる・まわせる名茶碗

・企画展示「なりきり日本美術館リターンズ」（10月27日～12月6日）を東京国立博物館本館特別4室特別5室で開催。会期中（36日間）26,064人（うち中学生以下5,207人）が体験した。97.1%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
・東京国立博物館、凸版印刷株式会社と共催して、本館の一部をCGで再現する「バーチャルトーハク」（12月19日～3年2月28日）を公開。アニメーション映画「時をかける少女」（細田守監督）劇中の架空の特別展「アノニマスー逸名の名画ー」を構築し、延べアクセス人数は3,374人であった。合わせてスペシャルトークライブ(12月18日)を実施し、214人が参加した。
・東京国立博物館・NHKの共同研究「みんなの8K文化財」プロジェクトで、文化財活用センターがマネージメントを行い、超高精細な3DCG＝「8K文化財」を制作。放送番組「誰もみたことのない8K文化財」（NHK・BS8K）として「舟木本　洛中洛外図（3年3月20日）、「遮光器土偶」（3年3月20日）を制作・放映した。

なりきり日本美術館リターンズ

・NHKエンタープライズと共同研究プロジェクト「オンライン用コンテンツ制作事業」を締結し、今後のオンラインコンテンツ制作の方向性を検証するため、オンライン月例講演会「白描図像ー祈りと魂の描線ー」（3年3月）を制作した。
・複製品の貸出（4件）や、複製品を使用した教育プログラムの提供（アウトリーチ）（11件、体験者数1,100人）を実施した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	423回	－	－	経年変化	－	－	91	149
体験型プログラム等参加者数	52,127人	－	－		－	－	98,791	140,647 (九博富山8K)

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 企業と連携したレプリカの開発、アウトリーチによる活用、体験型展示の開発と地方巡回等、文化財に親しむ機会を創出すると共に活用の枠組を広げ、年度計画を上回る成果をあげたといえる。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 使用目的に応じた文化財のレプリカ制作を企業と連携して行ったことにより、学習機会の拡大や体験型展示の巡回、新規事業を展開し、順調に国内の博物館、社会教育施設、学校などとの連携協力を推進することができ、目標に準じたかたちで中期計画を遂行できた。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）※イ、ウは後述
ア　文化財について分かりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。
エ　トーハク新時代プランに基づき、外国人を対象とするガイドツアーを行う。
オ　障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり 総務課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア ・新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会やオンラインギャラリートーク等、YouTubeを利用した新たな動画配信を開始した。
（東京国立博物館）
ア、オ　29年度より継続実施している、訪日外国人をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」は新型コロナウイルスの影響により時期を変更したが、体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」及びその関連オンラインプログラムとして実施した。
エ ・外国人来館者をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」は、体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」及びその関連オンラインプログラムとして実施した。
オ ・聴覚障がい者がオンラインプログラムに参加できるよう、動画配信に字幕やテロップを付した。
・新型コロナウイルスの影響により中止となったが、特別展に関連して、トークショー・図録付きで閉館時間後に観覧できるプレミアムチケットを販売し、指定数を完売した。

【補足事項】
（4館共通）ア及び（東京国立博物館）ア
・講演会10回 参加者数29,875人（参加者数はYouTube再生回数）
内訳 ①オンライン月例講演会8回、参加者数24,923人 ②記念講演会0回、参加者数0人
③オンライン国際シンポジウム2回、参加者数4,952人 ④テーマ別講演会0回、参加者数0人
⑤その他講演会0回、参加者数0人
・列品解説（ギャラリートーク等）9回、参加者数22,157人（参加者数はYouTube再生回数）
内訳 ①オンラインギャラリートーク9回、参加者数22,157人
②特別展関連ギャラリートーク0回、参加者数0人
③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク、0人0回、参加者数0人。
・連続講座0回（2日）参加者数0人
・公開講座0回、参加者数0人
・その他展示に関連する事業2回、参加者数3,880人（カレンダー配布はウェブサイト上でPDFデータ配布のみ実施）

オンライン月例講演会の様子（撮影）

ア、オ　日本文化体験
親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」（体験型展示）　36回（36日間）参加者17,470人
親と子のギャラリー関連プログラム「浮世絵摺実演」　1回（1日間）参加者　3,880人（参加者数はYouTube再生回数）
エ
新型コロナウイルスの影響により、外国人を対象としたガイドツアーの実施は延期となった。
日本文化体験「浮世絵摺り実演」オンライン配信　1回（1日）参加者　3,880人（参加者数はYouTube再生回数）英語通訳実施

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	19回	128回	―		160	125	93	97
講演会等の参加者数	52,032人	－	－		21,453	21,692	12,206	11,691

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス蔓延防止のため、講演会等が中止となり、開催回数は目標値を下回ったが、オンラインプログラムなど新たな試みを行った。日本文化体験プログラムも、感染対策を万全にする、あるいはオンライン配信にするなどして順調に開催された。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、様々な形式で講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を順調に開催した。今中期最終年度となる2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため従来の集客式、対面式の方法が採用できなかったが、これをオンラインに切り替えて実施した。結果的には従来より多くの聴視者を獲得することができ、同時に当館研究員の多彩な専門分野に関する研究・普及活動を広く発信することとなった。またオンライン化によるコンテンツの内容や方法などを研究する機会ともなった。以上のことから、中期計画を遂行できたといえる。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、19 室のみどりのライオン、東洋館 2 室、6 室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。
（ア）ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集　親と子のギャラリー「動物のうごき」（5 月 12 日～6 月 14 日）（新型コロナウイルスの影響により中止）
・特集 親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」（10 月 27 日～12 月 6 日）
・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」（新型コロナウイルスの影響で 1 月 19 日～2 月 28 日に延期）
（イ）総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」（中止）、「博物館でアジアの旅」（9 月 8 日～10 月 11 日）、「博物館に初もうで」（時期調整中）において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。
（ウ）体験型プログラムの実施
・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。
・本館19室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。
・トーハク新時代プランに基づき、日本文化に関連した体験型アクティビティを恒常的に実施するためのスペースとして本館特別4室を整備しプログラムを実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
イ　新型コロナウイルスの影響を勘案し、本館19室のみどりのライオン、東洋館6室のオアシスは閉室とした。また、東洋館2室等の体験を中止した。対面での教育普及事業が制限されるかわりに、ホームページ上に「みどりのライオン オンライン」を開設した。動画やダウンロードできる素材を作成することで、遠隔地からもアクセスできる機会になり、学習機会を広げることができた。
（ア）特集「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」では、30年度に実施した「なりきり日本美術館」の続編として、「なりきり」を切り口に自由な発想で美術に親しむ体験型展示を実施した。題箋、解説は4言語に対応し、平易な言い回しによる解説や直感的に楽しめる参加型展示手法により、若年層・家族層にも分かりやすく親しみやすい内容となった。
特集「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化」では、デジタルコンテンツからぬりえやスタンプなどのハンズオンコンテンツまで、多様な文化体験を提供し、平易な言い回しによる4言語の題箋、解説により来館者の体験を深め、テーマへの理解を促した。
（イ）多くの教育事業が新型コロナウイルスの影響により中止となったが、スタンプツアーを体験できる動画の配信や、ダウンロードできるぬりえや干支のカレンダーのPDF版公開など、代替プログラムを実施し、学習機会を拡大した。
（ウ）特集「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」関連プログラムとして、オンラインファミリーワークショップ「なりきり光琳」を実施。遠隔地からの新規参加者も開拓することができた。また、「親と子のギャラリー　「まるごと体験！日本の文化」」として本館特別4室を整備し、日本文化に関連した体験型アクティビティを開発、実施した。

【補足事項】
・親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」は36日間（36回）の実施で26,064人の入場者があった。関連ワークショップ「なりきり光琳」（4回76人）をオンライン開催した。
・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」は36日間（36回）の実施で17,470人の入場者があった。
・10月31日～11月15日に子どもとその保護者のためのイベント「トーハクキッズデー」をオンライン開催した。

「親と子のギャラリー　なりきり日本美術館リターンズ」会場の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	129回	－	－		827	703	702	671
体験型プログラム等参加者数	44,020人	－	－		199,167	272,867	309,901	360,572

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により中止となった事業も多かった一方、オンライン化の試みにより遠隔地の参加者への学習機会の拡大にもつながった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、外部団体との連携協力を行いながら、後援会、ギャラリートーク、ワークショップ等の学習機会を提供できた。今中期最終年度となる2年度では、従来の手法での対応が困難であった一方、オンライン化をはじめとする代替や新規の取り組みの試行や実施ができ、一定の成果を上げたといえる。以上のことから中期計画を遂行できたといえる。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A3

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。
・教員を対象とした研修等を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
ウ
・新型コロナウイルスの影響により中止となった対面によるスクールプログラムにかわる手段として、スクールプログラムの内容を動画にまとめ、学校で事前に視聴できるよう YouTube チャンネルで公開した。博物館への訪問を計画する学校には事前視聴動画を案内し、視聴を希望した学校は動画と自由見学を組み合わせて体験した。
・緊急事態宣言発令のため中止となった「盲学校のためのスクールプログラム」をオンラインにより実施した。
・新型コロナウイルスの影響により中止となった対面による職場体験にかわり、職場体験プログラムの動画作成の準備と、オンラインによる職場インタビューを行った。
・教員を対象とした研修を３回予定していたが、いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止（うち１回は関連した特別展自体が中止）となった。

【補足事項】
ウ　スクールプログラム（事前視聴動画活用）13校537名（小学校6校242名、中学校3校211名、高校3校69名、その他1校15名）
スクールプログラム（オンラインで実施）2校71名（中学校1校61名、高校1校10名）
盲学校のためのスクールプログラム　１校2名（小学校）
職場体験　1校3名(中学校)

スクールプログラム事前視聴動画

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
スクールプログラム実施回数	16回	－	－	経年変化	227	273	228	174
スクールプログラム参加者数	610人	－	－		7,910	10,056	8,895	6,049
職場体験実施回数	1回	－	－		19	20	20	24
職場体験参加者数	3人	－	－		63	63	63	76
教員を対象とした研修実施回数	0回	－	－		6	6	5	3
教員を対象とした研修参加者数	0人	－	－		235	513	465	567
印刷物	30,000部	－	－		30,000	37,000	177,000	477,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
スクールプログラムに関しては、新型コロナウイルスの影響により2年度当初は休止、9月より「事前視聴動画＋自由見学」の形での受入れを開始したため、参加人数は519名にとどまった。代替となる事前視聴動画公開の取り組みについて、活用した教員を対象とした事後アンケートでは内容について「わかりやすい（100%）」の回答があり、好評を得た。今後も対面プログラムの再開に向けて検討を重ねるとともに、オンラインを通じて博物館や文化財に親しんでいただく方法を模索していきたい。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通して、学校や東京都等との連携協力の下、スクールプログラム、職場体験、教員研修などの学習機会の提供等を行った。今中期最終年度となる2年度は、新型コロナウイルスの影響にともない、集合型・対面型のプログラムの手法がとれず、数字上は従来の実績を大きく下回る結果となった。一方でオンライン化など代替や新規の取り組みの試行や実施は、今後の博物館教育普及活動に資することが期待される。以上のことから中期計画を遂行できたといえる。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1311B1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
ア　歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（4館共通）
ア　京都国立博物館においては、23回の講演会等を開催した。

（京都国立博物館）
ア
・「記念講演会」（7月23日、講師：西国三十三所札所会　会長　藤田浩哉）ほか、（12回・1,227人）を実施した。
・「土曜講座」（1月16日、講師：研究員　古谷毅）ほか、（7回・572人）を実施した。
・「夏期講座（日本人と自然Ⅱ）」（7月31日、8月1日、講師：特任研究員　宮川禎一ほか5名）（1回・60人）を実施した。
　シンポジウムは以下3回実施。
　・ICOM京都大会１周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」（9月26日、講演：京都市長　門川大作ほか）（1回・80人）
　・シンポジウム 文化財の防災・減災 ー火災・地震に対する取り組みー（10月25日、講演：文化庁文化資源活用課調査官　森井順之ほか）（1回・68人）
　・文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム 「文化財修理のいま、むかし」（12月19日、講演：文化庁文化財調査官　地主智彦ほか）（1回・100人）

夏期講座（講師：宮川禎一）

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・新型コロナウイルスの影響により、講演会等は定員を例年の200名から100名に減らして実施した。
・特別展期間中の講座を「記念講演会」として12回実施した。4・5月に予定していた「特別展　聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連の記念講演会は、会期の変更に伴い7・8・9月に日程を変更して実施した。
・土曜講座は大正時代から連綿と続く歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	23回	26回	－		45	32	37	28
講演会等の参加者数	2,107人	－	－		5,132	4,014	4,357	3,285

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新型コロナウイルスの影響により、講演会等は定員を例年の200名から100名に減らして実施したため、参加者は減少した。また、臨時休館や展覧会の会期変更等の影響で実施回数も減少したが、アルコール消毒の設置、座席の間隔をあける、換気を行うなど、感染症対策を行った上で可能な範囲で実施することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	2年度は新型コロナウイルスの影響により事業の縮小を余儀なくされたが、中期計画期間中を通して、これまでに培った運営や広報などのノウハウを生かし、他団体との協力関係を継続することで事業を実施し、中期計画を遂行できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（京都国立博物館）
イ　京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）等を発行する。
・京博ナビゲーターによるミニワークショップ等、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
・ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。
ウ　教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内　４館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。
・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
イ
・「姿から見つける、私の好きな観音さま」解説プリント（日本語10,000部・英語400部・中国語100部・韓国語100部）を発行した。
・「姿から見つける、私の好きな観音さま」七観音オリジナルぬりえ（7種類・40,000部）を発行した。
・特別展関連鑑賞ガイド「宮廷文化ことはじめ」（日本語56,000部・英語4,200部・中国語700部・韓国語700部）を発行した。
・特別展関連鑑賞ガイド「戒律と鑑真さん」（日本語45,000部・英語1,500部・中国語500部・韓国語500部）を発行した。
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」（1回・5,000部）を発行した。
・特別展関連おたのしみコーナー「姿から見つける、私の好きな観音さま」（46日・6,967人）を実施した。
・新型コロナウイルスの影響で中止となったワークショップ「姿から見つける、私の好きな観音さま」の一部を体験できる動画をウェブで公開した。
・「博物館Dictionary」（4回・8,000部）を発行した。
・「京博ナビゲーター活動記録　2014(平成26)～2020（令和2）年」（1回・2,000部）を発行した。
・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語　各24本）を作成した。
ウ
・「文化財に親しむ授業」（6回・304人）を実施した。
・複製を活用した授業への助言・当日の補助（3回・183人）を行った。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（5回・315人）を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」（京都市教育委員会主催）（1回・135人）に協力した。

おたのしみコーナー「姿から見つける、私の好きな観音さま」

特別展関連鑑賞ガイド「宮廷文化ことはじめ」

【補足事項】
イ
・新型コロナウイルスの影響により、ワークショップ、ミュージアム・カートは中止となった。
・新型コロナウイルスの影響により、「文化財に親しむ授業」や教員による複製を活用した授業、来館学校団体等への対応は一部中止となった。
ウ
・新型コロナウイルスの影響により、「京都市内 4館連携協力協議会」の連携事業、教員のための講座は中止となった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	47回	－	－		553	467	482	429
体験型プログラム等参加者数	7,102人	－	－		21,333	282,014	47,198	94,743
スクールプログラム実施回数	5回	－	－	経	7	9	15	7
スクールプログラム参加者数	315人	－	－	年	344	93	120	328
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数	6回	－	－	変	7	7	7	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数	304人	－	－	化	931	626	537	683
教員を対象とした研修実施回数	0回	－	－		3	3	3	2
教員を対象とした研修参加者数	0人	－	－		106	92	84	68
印刷物	174,700部	－	－		41,300	116,000	53,500	35,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、全面的・部分的に中止となった活動が多くあったが、代わりに4言語（日・英・中・韓）での印刷物の発行やウェブサイトでの公開、動画の作成・公開、ジュニア版音声ガイドの作成・運用など、個人やオンラインで楽しむことのできる教育コンテンツを展開することができた。また、京博ナビゲーターの6年間の活動を記録・紹介する記録集も制作し、新型コロナウイルス終息後の活動に備えることができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通して、子ども向けの特集展示、特別展ワークショップやミュージアム・カートの資料の多言語化、ICOM関連イベントの実施、京博ナビゲーター活動記録の作成、オンラインでの教材の公開、ジュニア版音声ガイドの作成などを新規に実施し、中期計画を上回る成果をあげることができた。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。
注）一部のプログラムでは当該期間の入館者数で参加者をカウントしているため、それについては年度実績の合計値には含めない。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C1

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（4館共通）
ア 2年度は講演会等を12回実施した。
（奈良国立博物館）
ア 講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に7回実施。計494人の参加があり、アンケート結果で平均満足度90％を得た。
・公開講座は1つの特別展及び3つの特別陳列の会期中に5回実施。計353人の参加があり、平均満足度91％を得た。
・夏季講座は「奈良国立博物館と仏教美術―コレクションと研究―」と題し、8月19日～21日の3日間実施を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止した。
・正倉院学術シンポジウムは新型コロナウイルスの影響により開催しないこととした。
・特別陳列「お水取り」では、3年3月20日に学芸員の解説、展覧会の自由観覧、東大寺録事の講話及び東大寺二月堂にて現地解説会を行い39人の参加があった。
・文化財保存修理所の特別公開を3年1月8日に3回実施し、計70人の参加があった。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集 神鹿の造形―」では、ワークショップ動画「工作ワークショップ　おうち de おん祭」をYoutubeならはくチャンネルにて無料で配信し、741回の再生回数があった。

【補足事項】

サンデートーク会場風景

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	12回	28回	C		26	26	27	25
講演会等の参加者数	847人	－	－		3,518	3,437	3,569	3,261

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染症の影響による講演会等の中止のため実施回数は目標を大きく下回ったが、再開後はサンデートークは月1回開催など例年と同じ開催頻度となっている。9月から講座を再開したが、感染症対策として定員を半分に縮小したため、元年度と比べ参加者数も大幅に減少した。しかし、検温・アルコール消毒・換気・ソーシャルディスタンス確保の徹底や、この機会に導入した講座の事前ウェブ申込システムは軌道に乗り、大きなトラブルも無く実施することができ、アンケートにみる満足度は高かった。さらに、動画配信を利用したワークショップなど新しい試みも実施できたことから左記の評定とした。なお、一方通行の配信のため、閲覧者の意見を聴取できない点は課題である。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
特別展等に関連した公開講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートークを開催し、仏教美術のファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。新型コロナウイルスの影響は大きくあったが、その中で対策を講じながら可能な限り実施した。また奈良教育大学との共催でワークショップの動画配信を行うなど、他機関と連携協力し新たな方法での学習機会を提供し、中期計画を遂行できたことから左記の評定とした。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C2

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（奈良国立博物館）
イ　小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携して ESD(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。
エ　地下回廊の学習端末機で名品のハイビジョン映像等を引き続き公開する。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
イ　新型コロナウイルスの影響により、世界遺産学習は全て中止となった。世界遺産学習が中止となった代わりに、3年度よりオンライン中継形式で世界遺産学習や学校プログラムを実施できるよう、なら仏像館内のWi-Fi環境を整備した。また、ボランティアがWeb会議アプリを利用できるように体制を整え、3年度以降、新たな実施形式で世界遺産学習を実施していけるよう準備を進めた。
イ　大分県商工観光労働部先端技術教育室と連携し、大分県大分市立判田中学校の中学2年生125名を対象に、遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラムを3年3月15日に実施した。
ウ　近畿ESDコンソーシアムが協力となり、奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「おうちdeおん祭」を会期中に2動画を配信し合計741回の再生回数があった。
エ　学習端末機は老朽化により撤去したが、特別展や特別陳列の開催時に展示品及び展覧会への理解を深めるため、関連する映像を上映した。
オ　引き続き地下回廊で仏像模型及びパネルを設置し、文化財に関する情報を公開した。

【補足事項】

大分県協力による遠隔操作ロボットを用いた授業の実施風景

「おうち de おん祭」の動画（一部）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	19回	－	－		21	26	28	33
体験型プログラム等参加者数	741人	－	－		384	399	436	363
スクールプログラム実施回数	0回	－	－	経	24	20	13	10
スクールプログラム参加者数	0人	－	－	年	1,701	1,001	747	833
職場体験実施回数	0回	－	－	変	3	3	1	1
職場体験参加者数	0人	－	－	化	7	6	3	3
世界遺産学習実施学校数	0校	－	－		25	32	26	24
世界遺産学習参加者数	0人	－	－		1,542	2,022	1,791	1,332
音声ガイド	405台	－	－		770	1,010	1,221	1,217

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、スクールプログラムや職場体験は中止となったが、近畿ESDコンソーシアムが協力となり、奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。 また、大分県が所有する遠隔操作ロボットを用いて、展示案内プログラムを実施し、学習機会を提供することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、学校団体を対象としたプログラムや各種ワークショップ等を実施し、充実した内容の学習プログラムを提供することができた。2年度は新型コロナウイルスの影響で対面による事業は実施できなかったものの、ESDプログラムの一環として、奈良教育大学との連携により、親子向けの動画を制作し配信するなど、コロナ禍において新しい企画に取り組むことができた。以上から、中期計画を十分に達成できたと判断した。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）　※エ、オは後述
ア　特別展記念講演会を開催する。
イ　シンポジウムを開催する。
ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業を実施する。
　・夜間開館時にファミリー向けの教育普及事業を実施する。
キ　特別展に関連した教育普及事業を実施する。
ク　文化施設等へ講師を派遣する。
ケ　手話通訳付きミュージアムトークを開催したり、点字ガイドブックを作成するなど、障がいをもつ方にも展示を楽しんでもらえるような環境を整える。

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長　白井克也 課長　山野孝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2年度は講演会を開催できなかった。
（九州国立博物館）
ア、イ　新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2年度は特別展記念講演会及びシンポジウムを開催できなかった。
ウ　展示への理解や文化財の楽しみ方を促すことを目的として研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を行った。新型コロナウイルスの影響のため10月まで中止となったが、その間、研究員による「文化財のミカタ」「文化財のヒミツ」としてウェブサイトからの動画配信を行った。（実施回数17回）11月から展示室内のシアターにて着席形式でミュージアムトークを再開した。（実施回数13回　参加人数308人）
カ
・絹織物に関するワークショップ「KURUKURU SILK」を1回行った。新型コロナウイルス感染予防対策のため、オンラインで実施。参加人数を8人に絞って募集した。蚕についての解説や収蔵品の紹介などの後、紡錘車で糸を紡ぐ体験を行った。紡錘車と絹織物の歴史を解説したあと、紡錘車を使って糸を紡ぎ、紡いだ糸でしおりを作る体験を行った。（参加数：6人）
・博物館でのマナーを周知するための動画を製作し、ウェブ上で公開したほか、博物館を紹介する小中学生向けの冊子を製作した。冊子は、当館の役割、建物の紹介、博物館と虫、文化交流展の楽しみ方などを紹介し、44校2,200人の生徒・児童に配布した。3年度以降も活用する予定である。
・特集展示「きゅーはくどうぶつえん」では、獣医と研究員による対談の様子を動画で撮影し、ウェブ上で公開した。
キ　新型コロナウイルスの影響により中止となった「古代エジプト展」では、展示室内にてミイラづくりの体験を行う予定であった。「ミイラづくりワークショップ」の実施については今後予定しており、視覚障がい者のための「ミイラづくりワークショップ」を古代オリエント博物館と共同開発した。
　「よみがえる正倉院宝物」展では、制作者の声と道具を紹介するコーナーを作るため、制作者にインタビューを行った。
ク　特別展「古代エジプト展」「奈良・中宮寺の国宝」において筑紫野市歴史博物館に講師を派遣予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止した。
ケ
・多様な方が博物館を楽しめるように手話通訳付きバックヤードツアーをリモートで実施した。参加者24人中18人が県外からの参加、移動を伴わないため、各地から気軽に参加できる利点が顕著に表れた。聴覚障がいの方の参加は4名であった。九博ボランティアの手話通訳がわかりやすいとの感想もあった。
・点字付きチラシや点字付きガイドブック（銅印「大宰之印」）を作製し、展示室内での配布に加えて福祉団体や特別支援学校等へ送付した。また、修学旅行で来館した視覚特別支援学校の生徒にレプリカをさわる体験と合わせて活用し、より文化財への理解を深める活動につながった。

手話通訳付きリモートバックヤードツアー

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
講演会等の開催回数	13回	90回			77	84	80	69
講演会等の参加者数	308人	－	－		5,369	6,299	4,491	4,862

【年度計画に対する総合評価】
評定：B
【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの流行により、年度当初に2か月間の休館期間があり、特別展も4企画中3企画が中止、延期となり、イベント等の開催にも様々な制約が課せられた。講演会等の開催回数自体は減少したが、博物館の魅力を幅広い層に伝えるための動画配信など、新たな試みを行った。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B
【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通して、ワークショップ等の学習機会の提供ができたことから、中期計画は概ね達成できたと考える。
新型コロナウイルスの流行により、2年度は中止となったイベントもあったがオンラインによる文化財の魅力発信等や手話通訳付リモートバックヤードツアーを実施し、次期中期につながる新たな事業展開ができた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
エ　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　山野孝 課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
エ
・体験型展示室「あじっぱ」では、9月から一部を開室した。しかし、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、展示物に触れることはできない状況であったため、「おうちdeあじっぱ」の名称で持ち帰りキットを準備した。
・各種ワークショップを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から全て中止となった。しかし、これまで実施してきたワークショップや体験型展示室「あじっぱ」のコンテンツをまとめた「おうちdeきゅーはく」をホームページで公開することで、館内のイベントやワークショップの代わりとなる活動ができた。（掲載数：15コンテンツ）
・11月から「きゅーはくきゃらばん」の名称でアウトリーチ活動を積極的に展開し、子ども達を中心に幅広い層に向けた体験活動の機会を提供した。
・「あじっぱ」では、アジア諸国の生活・文化を展示紹介するとともに、日本の伝統文化を知ってもらうコンテンツも準備し、異文化間の相互理解を促進する場を提供した。

おうち de あじっぱ

【補足事業】
・体験型展示室「あじっぱ」が閉室している期間に、「おうちdeきゅーはく」用に体験型展示室あじっぱ関連の動画を4本と塗り絵を制作した
・アウトリーチ活動「きゅーはくきゃらばん」を9回実施し、当館所有の体験型コンテンツや新規に開発したプログラムを提供した。実施先は県内の博物館のほか、学校や大型商業施設など多岐にわたり、そのうち4回は移動博物館車「きゅーはく号」を活用して、レプリカの触察体験や民族楽器体験等を行った。
・あじっぱ入口横ディスプレイとあじ庵で特集展示を行った。（「音のつながり」「インドネシア」「ひなまつり」）
・あじっぱ内では、7回の展示替を実施した。（「象とタイの人々」「ミャンマーで遊ぼう」「厄を払って、来年こそは」など）

きゅーはく号でのワークショップ

おうち de きゅーはく

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
体験型プログラム等実施回数※	185回	－	－		2,143	2,041	1,873	1,933
体験型プログラム等参加者数	499人	－	－		7,796	8,651	4,914	4,047

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
例年行っている各種ワークショップに関しては、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から行うことができなかったが、動画や「あじっぱ」での持ち帰りキットの提供、「きゅーはくきゃらばん」における「きゅーはく号」の積極的な活用により、幅広い層に向けて体験型コンテンツを提供することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画最終年度である2年度は、5年間を総括する取組を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により学習機会の提供や他館との連携協力の機会が減少した。しかし、アウトリーチ活動や持ち帰りキット活用等により学習機会の提供を継続できたことから年度計画を達成できたと考える。
今後は、非接触型の学習機会の提供など、コロナ禍に対応したプログラムの開発も考えたい。また、他館との合同ワークショップやアウトリーチ活動を通じて他館との連携協力を図りながら、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供したい。

※28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D3

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
オ　学校教育との連携事業を実施する。・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
・移動博物館車「きゅーはく号」の活用により、きゅーはくきゃらばん(移動博物館事業)の活動の充実を図る。
・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して、小中学校を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野　孝

【実績・成果】
・大牟田市立宮原中学校からの依頼により「江戸幕府初期の支配体制の確立」の授業へ研究員を派遣した。(12月2日実施 参加人数33人)
・富山県小矢部市立蟹谷中学校より依頼があり、「元寇」についてリモート授業を3回実施した。1回目は文化交流展示室から研究員が「てつはう」などの文化財の解説を行い、2・3回目はその際に生じた生徒の質問に答える形で授業を行った。(12月21日、3年1月28日、2月8日 参加人数26人)
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」は41件・56パックを貸し出し、4,060人の児童生徒が体験した。

学校での博物館ガイダンスの様子

文化交流展示室でのリモート授業の様子

・学校が当館を利用しやすくするために、博物館の概要や学校団体に推奨するプログラムをまとめた「学校利用ガイド」を作成した。
・新型コロナウイルスの影響により2年度の学校教育活動支援事業は全面中止となったが、来館予定であった学校に職員が直接出向き、博物館ガイダンスや当館所有のワークショップを行った。実施先の中には移動博物館車「きゅーはく号」を活用したワークショップを行った学校もあった。

【補足事項】
・富山県小矢部市立蟹谷中学校とのリモート授業では、展示室から画面越しに実物を見ながら解説をすることができ、質問等にもすぐに応じることができるため、臨場感のある展開となった。後日の生徒のアンケートには「実物を見に行きたい」「歴史にさらに興味がもてた」などの内容が多く、概ね好評であった。
・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」については、破損して使えなくなっていた資料を補修・補充するとともに、新しく「始めよう！水稲耕作」パックを制作し、3年度以降新たに貸出を開始する予定である。また、元年度制作した「実践！勘合貿易」は視覚障がい者にも対応して制作しているが、授業でさらに使いやすいものとするために視覚特別支援学校教諭から助言をいただき、改良した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
学校教育活動支援事業実施回数	0校	－	－	経年変化	18	27	47	40
学校教育活動支援事業参加者数	0人	－	－		625	1,612	3,452	2,530
出前講座実施回数	4回	－	－		6	6	5	5
出前講座参加者数	59人	－	－		179	104	151	214
職場体験等の実施回数	0校	－	－		17	20	18	17
職場体験等の参加者数	0人	－	－		87	92	93	87
教員を対象とした研修実施回数	0回	－	－		4	4	3	1
教員を対象とした研修参加者数	0人	－	－		73	25	25	13
「きゅうぱっく」貸出件数	41件	－	－		47	33	40	56
印刷物	2,200部	－	－		145,000	―	20,000	120,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、館内で行う学校教育活動支援事業、職場体験等、学校との様々な連携事業が中止となったが、博物館職員が直接学校まで出向く機会も増えたことで、多くの職員が児童生徒と直接触れ合うことができた。それぞれの見地から博物館の魅力を紹介できたことで学校側からも概ね好評であった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点より、10人以上の団体に対し入館制限を行ったため、館内での博学連携事業はできなかった。しかし、それ以外の事業については、件数は例年より少ないものの実施できた。したがって、中期期間を通し、講座やワークショップなど学習機会を提供できたことから、中期計画を遂行できたといえる。次期中期においては既存の学校連携事業の内容を抜本的に見直し、新型コロナウイルス流行下に対応したプログラム（オンラインでの博物館ガイダンス、ガイドツアー等）を検討・開発することが必要である。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を継続して実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデー等、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
ア　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館者への対面での活動は全て中止したが、代わりに9月からボランティア活動室等で個人やグループで自主的に学習ができるように支援し、その際の感染防止対策に努めた。また、ボランティアにオンライン機器利用の研修を行った。
　スクールプログラム班・イベント班は博物館教育課で作成したオンラインプログラムの視聴と感想の提出を行った。ワークショップ班は、オンラインワークショップの事前トライアルに参加した。

オンライン機器利用研修会

イ　点字パンフレットの改訂、印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、通年でバリアフリー対応班への情報発信による研修を行った。
ウ　自主企画グループの学習機会提供のため、ボランティア活動室を使用した勉強会の実施等を行った。
エ　対面でのスクールプログラムが中止された代わりに、オンラインプログラムの視聴と感想の提出を行った。
オ　定期的にボランティア執筆の投稿冊子を編集・発行した。また、ボランティアデー中止の代わりとして、「誌上ボランティアデー」の冊子を発行した。オンライン動画「ボランティア活動紹介」及び、ボランティア自主企画グループの協力による「ボランティア自主企画グループ活動紹介」を作成した。

【補足事項】
　新型コロナウイルスの影響を勘案し、新規ボランティアの採用を延期、東京藝術大学大学院インターンの受け入れを中止した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	102人	－	－		169	151	149	159

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響で、来館者に向けたボランティア活動が実施できなかったが、代わりにオンラインのボランティア研修や、オンライン動画の作成、動画視聴等による活動など、リモートでの新しい活動形態を新たに実施することができた。

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間全体を通してボランティアの安全を守りつつ、ボランティアのやりがいや生涯学習を支援することができた。また、オンライン等の新たな取り組みの実施により、次期中期に向けた新しい活動形態の可能性を広げることができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図るとともに、第３期京博ナビゲーターを募集し、活動を開始する。
イ　調査・研究補助ボランティアを受け入れ、調査研究事業の充実を図る。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア　京博ナビゲーター（198人）のうち、72人が『京博ナビゲーター活動記録　2014(平成26)～2020（令和2）年』（京博ナビゲーター・他館の教育普及関係者等に配付）に活動中のエピソードを投稿した。
イ　収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。（23人）
ウ
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。（20回）
・文化財ソムリエ（18人）が以下の活動を行った
　①京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」（6回・304人）
　②記者体験in京都国立博物館（1回・135人）
エ　「京都・らくご博物館」において、落語研究会所属の大学生をボランティアとして起用することを計画していたが、新型コロナウイルスの影響により、大学側が課外活動を制限しておりできなかった。

文化財ソムリエを対象としたスクーリング

記者体験 in 京都国立博物館

【補足事項】
ア　新型コロナウイルスの影響により、第2期京博ナビゲーターの任期を当初予定の6月末から9月末まで延長したが、ワークショップ、ミュージアム・カートでの活動、研修会、感謝会は全て中止となった。また第3期ナビゲーターの募集説明会を4月に実施予定であったが、資料の配布（博物館南門、ウェブサイト）に変更した。その後、感染拡大のため面談選考を中止し、京博ナビゲーターの事業自体も停止とした。
ウ
・文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（18名）に対して、当館研究員がスクーリング20回を実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。小中学校への訪問授業の際には、学校と連携し感染症対策を取りながら行った。新型コロナウイルスの影響により、訪問校は当初の7校から6校となり、実施時期も後ろ倒しとなった。
・「文化財に親しむ授業」の実施回数に限度があることから、授業を希望する学校に複製品を貸出、先生が授業を行うための支援も行っている。（3回・183人）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	239人	－	－		215	270	264	255

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、京博ナビゲーターの館内での活動は全て中止となり、7月から新たに活動予定であった第3期ナビゲーターについても募集中断となった。代わりの活動として、第2期京博ナビゲーターは、6年間の活動を振り返る記録集へのエピソード投稿を行った。文化財ソムリエについては、学校からの要望に基づき活動を継続したが、当初予定より実施校が減るなどの影響があった。
全体的に当初計画よりも事業規模が縮小したが、代替活動や、感染症対策を取りながらの活動など、可能な範囲内での教育活動を行うことができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルスの影響により活動が縮小した。しかし今中期計画期間を通して、「京博ナビゲーター」に関しては、新規事業としてミュージアム・カートへの教材追加、資料の多言語化、ポータルサイトの運用開始、論文や記録集の作成・公開を行い、「文化財ソムリエ」に関しては、高精細複製の教材追加、近隣他県への複製貸出、ICOM関連イベントの実施等を新たに行い、中期計画を上回る成果をあげることができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1312C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度３期目の３年目として、ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の円滑化を図る。
イ　ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
ウ　勉強会等により、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
エ　ボランティアが実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	ボランティア室長　谷口耕生

【実績・成果】
ア　新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2月下旬より約半年間活動を全面的に休止していたが、リモート形式で行える3種の活動（①動画の制作、②ワークシートの制作、③ボランティア通信誌の制作）を新たに設定し、9月より実施した。主にグループウェアシステムとウェブ会議システムを利用し、3種の活動を展開した。なお3種の活動をテーマ別にさらに細分化し、解説グループには計7つ、世界遺産グループには計5つ、サポートグループには計4つとグループ別に活動テーマを割り当てる形で計16種類の活動を行った。リモート形式で活動を行っていくにあたり、活動者は有志を募る形式とし、それぞれのグループの活動者数は、解説グループ42人、世界遺産グループ39人、サポートグループ38人となった。3年3月頃に動画やワークシート、ボランティア通信誌の完成を目指し活動を進めている。
イ　特別展「第72回正倉院展」に関連する研修を、ボランティア向けにウェブ会議システムを利用して10月29日に実施した。参加者は計74人となった。
ウ　グループ内で活動テーマ別に少人数のチームを編成し、グループウェアシステムやウェブ会議システムを利用しミーティングを行った。また、リモート形式による活動を開始してから毎月1回、活動の進捗状況をボランティアと職員で確認する活動進捗報告会を実施した。
エ　動画の制作活動では、作品等を案内するシナリオをボランティアが作成し、館の職員が監修を行う形で活動を進めた。加えてワークシートの制作活動においても、ボランティアが内容や構成を考案・作成し、館の職員が監修を行った。

【補足事項】
ア
・ボランティア活動にウェブ会議システムを活用していくにあたり、ボランティア全員を対象にウェブ会議システムの接続テストを8月30日・31日の2日間に分けて実施した。（参加者：計127人）
・9月6日・7日にボランティア全員を対象に、9月より実施する活動等についての説明会を実施した。説明会はウェブ会議システムを利用して行った。（参加者:計132人）
・9月13・16日に、9月より実施する活動の詳細や方法についての説明会をグループ別に実施した。（参加者：解説グループ50人、世界遺産グループ39人、サポートグループ39人）

ボランティア全体向けの説明会の実施風景(9月6日)

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	143人	－	－		150	143	159	150

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により、対面形式での活動が困難になったことに伴い、それに代わるリモート形式による活動を展開することとなったが、動画の制作やワークシートの制作など、グループ別に新たな活動に取り組むことができた。また、グループウェアシステムやウェブ会議システムを活用した新たな活動スタイルを構築し、それにより当初計画の研修やボランティア同士でのミーティングなども行うことができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通し、ボランティア対象の研修やボランティア同士の勉強会を数多く行い、ボランティアの解説の資質向上に努めた。また、それらの学習を生かし、ツアー解説や案内ガイド等、充実したプログラムを実施することができた。2年度は対面形式での活動が困難になったものの、リモート形式により、動画やワークシートの制作など新たな活動の展開を図った。コロナ禍においても活動を継続的に実施していくことにより、教育普及活動をより充実させるとともに、生涯学習活動に寄与する等、中期計画を予定通り遂行できた。また次期中期においてはリモート形式で行える活動の更なる拡充を図り、将来的に学校とオンライン中継でつなぎ、リモート形式での案内活動を実施できるようにするなど、新しい取り組みを実施していく予定である。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　ボランティア各部会の活動の充実を図る。
イ　令和元年度新規募集した第6期ボランティアの活動をスタートさせる。
ウ　ボランティアの企画立案によるワークショップ等のプログラムの充実を図る。
エ　学校教育活動支援事業の学習プログラムの一部をボランティアにより実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　山野孝

【実績・成果】
ア　新型コロナウイルス感染予防対策のため、全体としての活動は休止となったが、各部会が独自に活動できるための支援を行い、活動に対するモチベーションの維持に努めた。
①　「ボランティア通信」を発行し、活動再開後に役立つ情報を発信した。また、その中でボランティアに投稿の場を設けた。
②　「ボランティアハンドブック」を全面改訂し、ボランティアとしての心構えや、留意事項をより分かりやすくイメージできるようにした。また、活動における新型コロナウイルス感染予防対策についても併記した。
③　展示解説部会に対して、毎月の展示替えスケジュールやフロアマップの情報を提供した。部会員は定期的に展示室を訪れ、活動再開後の案内シミュレーションを行った。
④　手話部会に対して「手話通訳付きリモートバックヤードツアー」の手話通訳を依頼した。部会員と企画した職員との打合せを重ね、より伝わる通訳の仕方について意見交換ができたことで、当日のイベント参加者からは手話通訳がわかりやすかったと非常に好評であった。

ボランティア通信「YELL」

イ　第6期ボランティア(198人)が活動予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策のため、2年度は受け入れを中止した。その間、ボランティアとしてのモチベーションの維持と、活動開始に向けた自主学習用資料として、「九博概要」や「ボランティアハンドブック」を送付した。
ウ　活動の休止に伴い、ボランティアの企画立案によるワークショップは開催できなかったが、ボランティアコーディネーターや教育普及担当職員が考案したペーパークラフト（「きゅーはく号」、「赤べこ」等)」を送付し、再開後のワークショップの内容に対する意見を募った。
エ　活動の休止に伴い事業そのものが中止となったが、担当するスクールプログラム班のメンバーには、職員が作成した博物館ガイダンスを自主学習用資料として送付した。

ボランティアハンドブック

【補足事項】
・2年度は第5期ボランティア（127人）と第6期ボランティア(198人)が活動予定であった。
・活動休止中は、今後のボランティア活動の在り方について全員にアンケートを取り、その結果も参考にして新型コロナウイルス流行下の活動方針を検討した。また、同時に各自の動画視聴環境に関するアンケートも取り、今後の研修及び活動のオンライン化の準備を進めた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ボランティアの受入人数	325人	－	－		307	313	295	274

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により全ての活動が休止となり年度計画は達成できなかったが、活動再開を見据え、開館当初からの活動内容を抜本的に見直し、新型コロナウイルス流行下における新しい活動様式を検討することができた。 今後は、その様式を全ボランティアに対して周知する方法を検討し、実践するための体制をボランティアコーディネーターと共に整えていきたい。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は、中期計画最終年度としてボランティアの育成に取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策の観点より、年度内の活動を全面休止とした。しかしながら、今後の活動の再開を見据え、部会員と案内のシミュレーションやワークショップの検討を行うことができた。したがって、今中期計画期間を通し、来館者のサービス向上へつながる活動等ができたことから、中期計画を達成できたと考える。 次期中期においては、活動が再開となるまでは、現在の取り組みを継続し、リモートや動画配信といったオンラインでの活動もほかの国立博物館の例を参考にしながら検討していきたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館講座」、「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア 加入校数 61 校（内訳 法人：3、大学：50、専門学校：2、学部：6）が本制度を利用し、8,532 人の学生、328 人の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、事前予約（日時指定券）制導入のため中止した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップの募集を予定していたが、2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
（東京国立博物館）
ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について取り扱った「博物館セミナー」、また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について「博物館学講座」の開催を予定していたが、2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
イ インターンシップやギャラリートークを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数	61校	－	－	経年変化	52	53	56	60
インターンシップ参加者数	－人	－	－		22	26	22	22
見学対応実施回数	－回	－	－		14	22	13	18
見学対応参加者数	－人	－	－		480	571	482	374
その他事業実施回数	－回	－	－		1	1	1	1
その他事業参加者数	－人	－	－		36	27	88	166

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症流行のため、当初予定していた活動が制限されたが、キャンパスメンバーズの加入については引き続き募集を続け、新たに1校が加入した。 今後も積極的に活動し、大学との連携を深めていきたい。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度は中期計画の最終年度としてインターンシップやセミナー等、大学との連携事業を引き続き行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のため、活動が大幅に制限されたものの、今中期全体を通して、継続してインターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与した。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

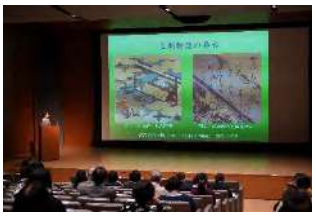
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（4 館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（京都国立博物館）
ア　連携協力協定に基づき京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 上席研究員　淺湫毅

【実績・成果】
（4 館共通）
ア　キャンパスメンバーズ制度を継続し、大学等との連携を図った。加入校増加に向けた営業の結果、新規に1校が加入した。会員を主な対象とした講演会を、特別展・特別企画にあわせて実施した。
（京都国立博物館）
ア　京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕（考古・陶磁）、山川曉（染織）、淺湫毅（彫刻）、大原嘉豊（宗教絵画）、永島明子（漆工）の 5 人が大学院生（修士・博士課程在籍者）に対して、主にリモート授業（例年は博物館において対面式で実際の作品をもとに行う）で、文化財をテーマに講義を行った。受講学生は 11 人（延べ 13 人）である。また、所属する修士課程 3 人・博士課程 2 人（うち 1 人は休学中）の学生については、論文作成等の指導を対面及びリモートで適宜行った。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・新型コロナウイルスの影響により、キャンパスメンバーズ講演会は定員を100名に制限して以下の2回開催した。
・「特別展『皇室の名宝』キャンパスメンバーズ講演会」（10月23日　講師：企画室長　山川曉）（1回・62人）
・新型コロナウイルスの影響により、特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」キャンパスメンバーズ講演会（4月24日　講師：美術室長　羽田聡）は中止したため、代わりに特別企画「文化財修理の最先端」キャンパスメンバーズ講演会（12月23日　講師：保存修理指導室長　大原嘉豊）（1回・80人）を行った。



キャンパスメンバーズ講演会

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数※	33校	－	－		27	29	32	32
インターンシップ参加者数	0人	－	－	経	3	2	1	2
連携講座参加者数	11人	－	－	年	6	6	6	6
見学対応実施回数	0回	－	－	変	2	3	1	2
見学対応参加者数	0人	－	－	化	35	40	25	42
その他事業実施回数	0回	－	－		22	22	23	23
その他事業参加者数	0人	－	－		52	27	349	349

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズについては、より多くの対象者に利用してもらえるよう広報活動に力を入れ、新規に1校が加入した。
京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生への講義に関しては、2年度はリモート授業のため、例年のように実際の文化財を用いた教育は実施できなかったが、そのかわりに実物の写真等を通じて、博物館ならではの研究指導を行った。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズは加入校数が順調に増えており、安定して大学等との連携ができている。また、キャンパスメンバーズを対象とした講演会を行う等、中期計画期間を通して人材育成に寄与しており、中期計画を達成できた。
京都大学連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材育成に貢献していくこととする。

※奈良国立博物館との共通加入校含む

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1313C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、2年度までで入会校数は28校となり、加入大学とは連携を継続した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップについては感染症対策のため大学より中止の連絡があり実施していない。
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座（比較文化学専攻）に学芸部研究員1人を派遣し、日本古典文化資料論の講義を行った。受講生は前期1人、後期1人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に学芸部研究員2人を派遣し、博士論文１本の審査を行った。
イ　特別授業については感染症対策のため実施していない。

【補足事項】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「おうちdeおん祭」を会期中に2動画を配信し合計741回の再生回数があった。

ワークショップ動画「おうち de おん祭」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数※	28校	－	－		25	27	28	27
インターンシップ参加者数	0人	－	－		3	2	0	0
連携講座参加者数	3人	－	－		10	12	8	11

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 元年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。また、神戸大学とも連携し、専門分野の人材育成に寄与した。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズである大学との連携事業等、大学の教育プログラムとして毎年実績を重ねることにより、歴史・伝統文化を発信する教育者の人材育成に貢献することができ、中期計画を達成できたと評価できる。また、キャンパスメンバーズ制度については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実を図りたい。

※京都国立博物館との共通加入校を含む。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　山野孝 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　文化財保存修復施設を利用して地域大学との連携を図る短期インターンシップは実施を中止した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習生を14大学19人、計5日間受け入れた。（うちキャンパスメンバーズ校は5大学9人）
イ　放送大学の面接授業は、実施を中止した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　大学等との連携を継続するため、2年度も募集・実施し、3校が新規加入した。また、各教育機関が継続して加入した。（2年度加入校内訳：大学11校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を予定していたが、2年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から実施を中止した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習
・実習実施期間：8月19日～23日（5日間）（合計14大学19人）
・実習内容：博物館の各機能に関するレクチャー、実習（来館者対応、学芸員体験、体験型展示室「あじっぱ」用工作キット製作・展示プラン作成）を行った。2年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、日程を10日間から5日間に短縮し、講義場所を研修室からミュージアムホールに変更するなどの処置をとって実施した。
イ　放送大学の面接授業は、2年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から実施を中止した。

博物館実習
（文化財修理についての講義風景）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
キャンパスメンバーズ加入大学数	21校	－	－	経年変化	25	25	23	23
インターンシップ参加者数	0人	－	－		4	3	8	8
見学対応実施回数	0回	－	－		6	3	3	2
見学対応参加者数	0人	－	－		243	140	140	44
その他事業実施回数	2回	－	－		11	8	14	13
その他事業参加者数	84人	－	－		136	105	264	250

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、2年度はいくつかの継続事業を中止した。しかし、博物館実習では14大学から19人の博物館実習生を受け入れ、館内各部門と連携・協力しながら5日間の実習を実施できた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は新型コロナウイルスの影響により中期計画に変更はあったものの、当館が対応でき得る適切な数の実習生・研修生の受入を行うことができた。また、今中期期間を通して、大学と連携し、人材育成に寄与できたことから、中期計画を達成できたと考える。 次期中期においても引き続き、広報周知を行い、大学との連携事業を推進していきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　冨坂賢

【実績・成果】
・大学院で文化財保存や修復を学んでいる学生を対象にしたインターンの受け入れ予定であったが、2 年度は新型コロナウイルス拡大防止の観点から実施を中止した。しかし、NPO-JCP との共催である「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信による講義形態で開催し 85 名の受講者があった。
その他、当課が管理する保存修復施設への視察・見学として、国内外の文化財保存学の専攻課程を持つ大学・大学院や博物館関連施設の見学も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わなかった。

【補足事項】
「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信について。

■ **講 義 形 態：** オンデマンド
■ **配 信 媒 体：** クラストリーム【申込者にログイン ID とパスワードと講義視聴 URL を配布】
■**受 講 時 間 数 ：** 全 21 コマ（1 コマ 60 分程度）
■**配 信 期 間 ：** Ⅰ．11 月 2 日(月)～2 月 14 日(日)

配信の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催日数	1回	－	－	年	1	3	3	1
参加者数	85人	－	－	変	23	39	29	14
インターン受入人数	0人	－	－	化	4	2	2	1
大学院生のための研修会参加人数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 緊急事態宣言が発令されたため事業を行う事が困難である中で、オンデマンドによりNPO-JCPの講義を継続できたことは評価できる。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 大学院生を対象にしたインターン事業において、修了者の中から数人が文化財修理工房や文化財研究所に就職するなど、現在もインターンでの経験を活かして活動している。この事から当事業の有効性は評価できる。しかし、新型コロナウイルス拡大により対面、共同作業が困難となる事は想定していなかった。今後は来館による実施とリモートや配信などの併用で研修効果を高める方法を模索検討する。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（4館共通）
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
・例年は文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により4月、5月、7月、9月、3年1月、3年3月は中止とし、保存修理指導室員のみによる監督指導にとどめた。また、2か月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。場所は新型コロナウイルス感染予防のため、文化財保存修理所応接室から事務棟4F大会議室に変更した。（巡回1回、会議7回）
・当館開催の特別展覧会と特別企画において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計4回・249人）
　特別展「聖地をたずねて西国三十三所の信仰と至宝」（7月23日・41人）
　特別展「皇室の名宝」（10月10日・87人）
　特別企画「文化財修理の最先端」（3年1月18日・60人）
　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（3年3月29日・61人）
・新型コロナウイルスの影響により、インターンシップ及び大学院生のための研修会は中止となったが、代替措置として、次に記載する特別企画とシンポジウムの案内を行い、図録を参加各行に参考資料として献本し、人材育成に寄与した。
・12月19日より文化財保存修理所40周年記念特別企画「文化財修理の最先端」を開催した。併せて12月19日にシンポジウム「文化財修理のいま、むかし」を、新型コロナウイルス感染予防のため参加人数を制限して開催した（参加者：100人）。
・博物館における、保存科学、修復の専門家等による文化財存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。
　以下、視察の件数及び人数
　　京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課美術工芸品担当技師、京都市環境政策局循環型社会推進部ごみ減量推進課廃棄物企画係(6 月 1 日・4 人)他 19 回 59 人。

【補足事項】

「文化財修理の最先端」図録

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	4回	－	－		2	2	2	2
参加人数	249人	－	－		96	129	113	112
インターン受入人数	0人	－	－		3	2	1	2
大学院生のための研修会参加人数	0人	－	－		13	9	11	15

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　新型コロナウイルスの影響はあったが、規模の変更等で対応し、所定の事業は概ね実施できた。インターンシップと研修会は中止を余儀なくされたが、特にインターンシップは開始10年を経て実施方式の変更が主催者間で検討されていたところであり、文化財保存修理所40周年記念特別企画「文化財修理の最先端」を代替の教育機会として活用頂くよう案内するなどの柔軟な対応により、計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 　2年度は対外的な人的接触を伴う事業以外は規模の変更等で対応、実施した。特に文化財保存修理所開所40周年を記念した特別企画やシンポジウムの実施は、保存修理従事者の協力を得て開催できたものであり、また、修理所における文化財修理の実績とその成果を広く公開する事業として最終年度にふさわしいものとなった。したがって、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、中期計画を超える成果となったと判断した。

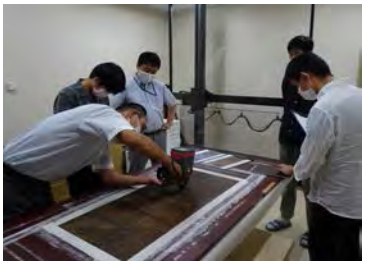
【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1314C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（4館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（4館共通）
・保存修理技術者に対する研修会は新型コロナウイルス感染防止の観点から今年度は実施しなかった。
・新型コロナウイルス感染防止の観点並びに海外修理技術者の来日中止のため、2年度は視察の受け入れはなかった。
・修理に関しての助言や修理に伴っての科学調査を保存修理技術者と連携を図りながら実施した。さらに、修理所修理報告書にて当館修理所で修理した成果を公表し、データベースの整備なども随時行った。修理所修理報告書は2年度第2号及び第3号を刊行した。X線CT調査や蛍光X線分析を共同で行っており、得られた結果を一緒に検討することで修理へフィードバックしている。



保存修理技術者と共同での科学調査

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
3年1月末に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策により、2年度は中止とし、3年度に延期することとなった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催日数	0回	－	－		4	8	7	3
参加者数	0人	－	－		51	77	62	52

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
視察の回数や人数は年により増減があるが、2年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から海外専門家の文化財保存修理所見学を行っていない。海外から修理技術者が以前のように往来できるようになった際には、日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えるため見学を継続して取り組みたい。
対人の人材育成機会創出は困難であったが、問い合わせの対応や修正報告書による成果公表、データベース化などにより外部の保存修理従事者が情報を取得いただける環境は例年通り整えており、人材育成に寄与できたと考えられる。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
元年度までは海外修理技術者の視察受け入れや修理所修理技術者の研修会を行ってきたが、2年度は新型コロナウイスル感染防止の観点から技術者と海外の専門家との交流を行うことができなかった。保存修理所技術者研修会では、修理所内の各工房に在籍する技術者間で毎回活発な議論が交わされており、交流が図られている。
2年度は感染防止のため前年までのようには実施ができなかったが、文化財の保存・修理に関する人材育成には十分寄与できており、中期計画を達成できたと言える。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
・文化財保存についての普及のための講座・研修を開催予定であったが、2年度は新型コロナウイルス拡大防止の観点から実施を中止したものが多い。

【補足事項】
・「文化財保存修復研修」
協力者：一般社団法人国宝修理装潢師連盟
九州・中国地方の大学・大学院で文化財保存修復を学ぶ学生を対象に、屏風の下張り製作体験を通じて装潢修復技術を学ぶ機会を提供し、文化財や保存修復への理解を深めてもらう研修を 7～8 月頃（5 日間）に開催予定であったが、実習が主であるため、2 年度は新型コロナウイルス感染予防対策の観点から実施を中止した。
・「古文書保存基礎講座」
協力者：修理工房宰匠（株）
当館、福岡県教育委員会、筑紫野市歴史博物館の三者共催事業として、地方行政及び博物館等施設における古文書資料の担当者 20 人程度を対象に、古文書の調査・保管や応急手当についての研修を例年開催している。2 年度は 3 年 1 月（2 日間）に開催を予定していたが、上記と同様、本研修も実習が主であり至近距離での実技になってしまうため、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から実施を中止した。講座と合わせて実施予定だった寒糊炊き（古糊作り）は、当館修復施設を使用する修理工房宰匠（株）と館内職員のみで行った。
・「寒糊炊き」
協力者：修理工房宰匠（株）
装こう文化財の修理に必要不可欠な古糊（小麦澱粉糊（新糊）を涼暗所で約 10 年間寝かせ、接着力を弱めた糊）の元になる新糊を炊く作業を通して文化財修理の意義を知っていただく機会として、毎年、古文書保存基礎講座と同時に開催している。作業は屋外でテントを張って実施した。また、今回は参加者を館内職員に限定し、手袋をするなど新型コロナウイルス感染予防対策を十分取った上で実施した。

寒糊炊き

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
保存修理事業者を対象とした研修会				経年変化				
開催回数	0回	－	－		6	9	8	7
参加者数	0人	－	－		473	533	292	260
インターン受入人数	0人	－	－		－	3	8	8

【年度計画に対する総合評価】
評定： B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2年度は事業を中止したものが多い。例年行っている実習は、感染対策のため職員限定で行う等できる範囲で実施した。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】
評定： B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通し、地元の大学や地元自治体と連携し、保存科学、修理技術に関する実習等を行ってきた。2年度は新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、実技を主とする研修事業は中止したものが多い。しかし、新型コロナウイルスについて考慮し、屋外で人数を絞って寒糊炊きを行うなどの工夫をこらし、中期計画を達成したと考える。
次期中期も保存・修理に関わる人材育成は重要な使命であり、修理技術者、IPM従事者、地元の教育委員会等と連携しながら、対応可能な内容の研修を検討し、実施の方向性を探りたい。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1315A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を実施する。
（東京国立博物館）
ア　賛助会等の会員制度を通して、リピーター獲得の促進を図る。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会に参画し、上野地区の文化施設等と連携した各種事業を主体的に実施することで、認知度向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア　29年度より新会員制度へ移行し、会員総数は12,418件となった。
イ　賛助会会員を対象に特別鑑賞会を実施した。
ウ　みずほプレミアムクラブ会員向けに例年行っていたバックヤードツアーに代え、ガイドツアー動画を作成・配信し、認知度向上に努めた。
エ　三菱商事株式会社の協力で障がい者内覧会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。
　　特別展「桃山」では、キヤノン株式会社の協力により、文化財活用センターと共同で高精細複製品の展示を実施した。
オ　各種事業のbeyond2020への登録や、「日本博」事業に参画した。
（東京国立博物館）
ア　29年度から新たな会員制度として導入した「国立博物館メンバーズパス（4館共通）」及び当館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」の加入者増加に向けた取り組みを促進した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会が主催するUENOYES2020イベント内において日比野克彦東京藝術大学教授と銭谷館長のトークセッションを実施するなど、東京国立博物館の認知度向上に努めた。また、東京都美術館の特別展「没後70年 吉田博展」に合わせて、本館18室と黒田記念館を紹介する連携音声ガイドを東京都美術館と共同で開発・提供した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　賛助会会員件数588件の内訳は個人536人（プレミアム5人、特別16人、維持515人）、団体52団体（特別20団体、維持32団体）である。
ウ　会員制度については、総合文化展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を検討し、3年度より実施する。
（東京国立博物館）
イ　毎年実施している「文化の杜の音めぐり」は、新型コロナウイルスのため、上野公園の各館を舞台に東京文化会館が選定する東京音楽コンクール入賞者等が演奏する動画を作成し、配信した。また、東京都美術館と連携事業として東京都美術館で開催された特別展「没後 70 年　吉田博展」に合わせて、トーハク×都美 連携ガイド『めぐる美術～黒田清輝と吉田博』」の連携音声ガイドを制作公開した。

「トーハク×都美 連携ガイド」画面

会員制度改正の案内チラシ

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	12,418	－	－		28,939	25,244	21,914	23,684
賛助会会員数	588	－	－	経	455	559	621	686
友の会会員数	1,772	－	－	年	2,337	2,967	2,939	3,145
メンバーズプレミアム（国立博物館メンバーズパスを含む）会員数※28年度までのパスポートとベーシックに相当	10,058	－	－	変化	26,147	21,718	18,354	19,853

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
会員制度は、特別展の内容が大きく左右すること、並びに新型コロナウイルスの影響により会員数は減少となった。しかし企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
プレミアムメンバーズパス会員数は展覧会の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移したところ、新型コロナウイルスの影響のため、全体としての会員数は減少となったものの、博物館の支援基盤の充実という意味では、中期計画に沿った業務遂行が行われているといえる。次期中期においては、4年度の開館150周年に向けて会員制度のあるべき姿を検証し、引き続き支援者の増加に努める。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を実施する。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会・シンポジウム等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　国立博物館メンバーズパスについて、新型コロナウイルスの影響による臨時休館を受けて、有効期間内に臨時休館期間を含むパスに対する有効期間の延長対応を行った。
イ　当館発行の国立博物館メンバーズパスについて、元年度から継続して近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。
ウ　・特別展共催者等が企画する団体貸切鑑賞会について、新型コロナウイルス対策の上受入れた。
・タクシー乗務員・ホテルコンシェルジュ向けの特別鑑賞会を開催し、広報協力を得た。
・三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。
・三越伊勢丹とJALUXと共同して京都御苑、大阪国際空港売店にて販売するコラボ商品を開発することができた。
エ　企業（岩谷産業、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、パナソニック、非破壊検査）より、展覧事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　・beyond2020及び日本博に特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」をはじめとする事業を登録した。
・日本博の大規模プロジェクトである「我が国の美術工芸品等の修理の技と自然の原材料を活かした伝承と活用」事業の一環として、特別企画「文化財修理の最先端」を当館で開催した。
（京都国立博物館）
ア　・一般社団法人清風会が行う鑑賞会（4回）・見学会（2回）・会報（4回）の解説、執筆及び総会の開催に協力した。
・公益財団法人仏教美術研究上野記念財団設立50周年事業として、特別企画「新聞人のまなざし」の開催と記念誌発行に協力した。
イ　・ミュージアムパートナー制度では、2年度から新たに支援を得た2社を含め、大多数のパートナーから継続して支援を得られた。
・元年度に行ったミュージアムパートナー制度の活性化のための特典拡充・手続き改定について、2年度より適用した。
・文化財保護基金では、企業等からの寄附金を引き続き受入れ連携を図った。

【補足事項】
（4館共通）
ア　2年度からの名品ギャラリー観覧料金の改定や新型コロナウイルスによる博物館を取り巻く状況の変化を受け、国立博物館メンバーズパスの年会費及び特典改定の検討を4館で行い、3年度から実施することとなった。
イ　ただし、特別展「皇室の名宝」では新型コロナウイルス対策として窓口対応を減らす目的で原則として割引・優待を実施しなかったため、国立博物館メンバーズパスも割引適用を外した。
ウ　タクシー会社・ホテルコンシェルジュ対象特別鑑賞会
特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」(3月29日　講師：保存修理指導室長　大原　嘉豊)（1回・81人）

特別鑑賞会の様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	948件	－	－		5,855	2,266	1,597	1,594
清風会及びミュージアムパートナー会員数	459件	－	－		370	452	485	521
国立博物館メンバーズパス会員数	489件	－	－		－	1,814	1,112	1,073
パスポート会員数	－	－	－		5,493	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
「国立博物館メンバーズパス」について、新型コロナウイルスの影響による臨時休館や来館者数の減少、一部の特別展で割引適用外となったため、新規会員数が減少した。3年度より制度改正を予定しているため、広報媒体の更新等を行い会員の継続・新規拡大に努める。
企業等との連携においては、ミュージアムパートナーの制度を改正し、新たに2社の支援を得られた。今後も新規開拓に努めたい。そのほかの事業について、新型コロナウイルスの影響はあったが臨機応変に対応し遂行した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通じて、特に企業等との連携において支援・協力対象が拡大した。
会員制度については、個々の事業で新型コロナウイルスの影響を受けたが、情勢に応じた措置を行うことができ、中期計画を遂行できたと言える。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1315C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
ア　入会案内チラシの配布等の広報を行い賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象とする研究員による解説付きの特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトの作製を行い、自己収入の増加と博物館の認知度向上を図った。
エ　他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として実施される「日本博」の趣旨に合わせた展覧会の検討を行った。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員89件（特別支援会員：2団体、特別会員4団体、一般会員（団体）：16団体、一般会員（個人）：67人）
エ　・地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。
　　・企業と連携し、不用品の査定換金額が奈良国立博物館に寄付される取り組みを行った。

【補足事項】
（４館共通）
ウ　三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの作製・販売を行った。商品カタログへの情報掲載や、PRイベントの実施を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋げた。
（奈良国立博物館）
エ
・地元商店街と連携し、よみがえる正倉院宝物展及び第72回正倉院展にて奈良博のチケット持参で割引制度を実施した。
・地元自治体と連携し、ふるさと納税の返礼品を提供した。

三越伊勢丹とのコラボレーションギフト
〈本髙砂屋〉×千手観音二十八部衆像

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	1,540人	－	－	経	3,812	1,740	1,499	1,459
賛助会会員数	89件	－	－	年	73	76	93	102
奈良博プレミアムカード会員数	1,285人	－	－	変	－	1,347	1,185	1,112
国立博物館メンバーズパス会員数	166人	－	－	化	－	317	221	245
パスポート会員数※	－	－	－		3,739	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　感染症対策に配慮しつつ、イベント等の地域連携や、民間企業との連携による広報活動を例年に引き続き実施し、博物館の認知度向上に努めることができた。
　また、新型コロナウイルスによる影響があったものの、奈良博プレミアムカードの会員数増加も寄与し、全体的な会員数は増加した。3年度からも、引き続き優待内容の改善や普及活動に努め、会員数を伸ばしたい。

【中期計画記載事項】
　企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　29年のパスポート制度廃止により賛助会員等支援組織の会員数は一時的に減少したが、同年当館独自の「奈良博プレミアムカード」制度を創設し、以降、当カードの新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、優待内容を充実させるなど、支援の継続を図ることができた。中期計画最終年度にあたる2年度は、元年度比約170名会員が増加しており、これまでの活動が実を結んだものと考えられる。
　また、地域連携として近隣商店街や地方自治体等と協力や、民間企業と連携した広報活動などにも努め、自己収入の増加と博物館の認知度向上に繋げた。以上より、中期目標については達成できたと評価できる。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の更なる獲得を図る。

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　山野孝 課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」、「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」及び「国立博物館メンバーズパス」の会員制度を継続し拡充を図った。
イ　「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、特集展示チラシ等を送付した。
ウ
・公益財団九州国立博物館振興財団と共同で、開館15周年記念特別企画「九博を彩った博多祇園山笠」を開催、博多祇園山笠の飾り山（一部展示）とパネル展示を行った。
・福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。
・JR九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所における広報強化に努めた。
エ　企業より展覧事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　特集展示及び特別展の一部について、beyond2020プログラムの認証を受けた。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の広報に努め、新規会員の獲得を図った。2年度の新規加入数は2人であった。

西鉄福岡駅前ステージ広場での当館PR動画放映

【補足事項】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」「九州国立博物館賛助会」の会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。
　「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」については臨時休館に伴う会員有効期限の延長手続きを行った。
オ　beyond2020プログラム事業認証　7件
（九州国立博物館）
ア　賛助会員（プレミアム会員（個人）1人、特別会員（個人）4人、維持会員（個人）21人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）1団体、維持会員（団体）21団体）
（うち新規加入　維持会員（個人）1人）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
賛助会等支援組織の会員数	2,460人	－	－	経年変化	6,016	5,193	5,332	4,553
賛助会会員数	49人	－	－		－	2	45	47
友の会会員数	59人	－	－		268	83	73	91
メンバーズプレミアムパス会員数	2,300人	－	－		－	5,082	5,181	4,369
国立博物館メンバーズパス会員数	52人	－	－		－	26	33	46
パスポート会員数※	－	－	－		5,748	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、一定の会員数を獲得することができた。 beyond2020プログラムや日本博参画プロジェクトの認証を受けた事業を実施し、日本文化の発信を行うことができた。 　賛助会の新規加入は2人であったが、多くの会員に継続加入いただいた。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通して、各種会員制度を継続し拡充を図るとともに博物館支援者の増加を図る取り組みを実施した。2年度は「友の会」等の会員数の増加は新型コロナウイルスの影響もあり伸び悩んだが、JR九州等企業との連携に取り組むことで博物館の認知度向上に努めた。 　また企業により展覧事業への協力を得ることができ、中期計画を遂行した。次期中期においても引き続き取り組み強化を図っていく。

※パスポート会員制度は29年3月31日に廃止。

【書式A】　施設名 文化財活用センター・東博　処理番号 1321HA

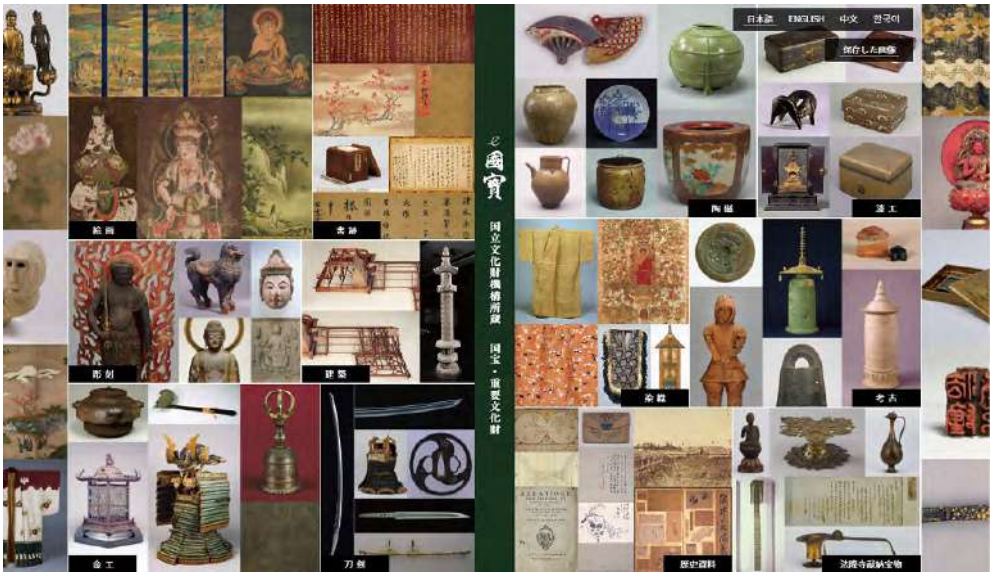
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（文化財活用センター）
ア　4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」について、掲載画像を増やすとともに、画像の高精細化、データのアップデートを進め、その充実を図る。
イ　4館収蔵品の国宝・重要文化財について、4言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）をリニューアルし、新規国指定文化財の追加、解説文の見直しに着手する。
ウ　国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。

担当部課	本部文化財活用センターデジタル資源担当 東京国立博物館博物館情報課	事業責任者	課長　今井敦

【実績・成果】
（4館共通）
・ColBaseの不具合の修正や画像の追加を行った（画像追加5,900枚）。また各施設のデータを自動的に集約する機能を継続的に運用するとともに、対象機関に奈良文化財研究所を追加した。
・e国宝のリニューアルを10月に行った。平成22年以降の指定品のデータを追加し、解説文、多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。また、デザインを一新し、対象機関に奈良文化財研究所を加えた。
・国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にColBaseのデータを提供した。

【補足事項】



リニューアル後のe国宝

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及びe国宝を適切に維持管理し、e国宝のリニューアルを実施した。ColBaseについては、引き続きシステムを維持管理するとともに、利用者にわかりやすい文化財分類の表示、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続して行う必要がある。e国宝については、操作性の改善、外国語翻訳の質の改善を継続して行う必要がある。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他の関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、文化財及びその他関連する資料の公開について、ウェブ上でさまざまな公開手段を設けるとともに、公開データの件数を継続的に増加させ、中期計画を遂行できた。 今後、画像をはじめとする新規データの追加を計画的に進めるための方策を講じる必要がある。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

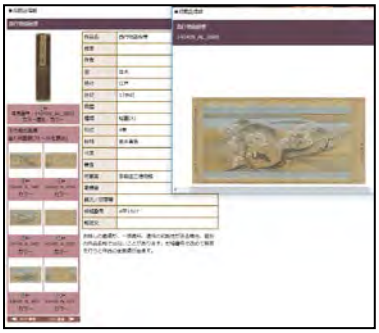
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（4館共通）
収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら引き続き検討する。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品の説明を付した館蔵品データベースを継続して公開する。
イ　平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」の充実を図るため、館蔵品データベースをColBaseのハーベスティングに対応するよう改修した。結果、館蔵品データベースで登録、更新されたデータが自動的にColBaseに反映されるようになった。また、e国宝のリニューアルに合せ、新規作品画像を登録するだけでなく、公開中の作品画像についても適宜、更新を行った。
（京都国立博物館）
ア　館蔵品データベースを更新し、館蔵品情報の公開を継続し、公開するデジタル画像を5,954枚増加した。
イ　新型コロナウイルス対策として、平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムは利用を休止中である。感染対策を前提とした、新しい提供方法の検討を行った。

【補足事項】



公開したデジタル画像の１枚
（館蔵品データベースより）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 館蔵品データベースだけではなく、e国宝やColBase、ジャパンサーチを通じて、より広く館蔵品情報を公開した。新型コロナウイルスの影響により、外出自粛の環境下において、館蔵品データベースによる効果的な情報発信を積極的に行い、広報の充実に努めることができた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスが蔓延し、オンライン等での所蔵品情報の公開が求められる中で、画像のデジタル化枚数を継続的に増加させ、館蔵品データベースの公開データを増加させることができた。中期計画に基づき順調に事業を実施することができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1321C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像をウェブサイトで公開することを、継続して実施した。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図るため、フィルムをデジタル化した画像や新規に撮影したデジタル画像を、ウェブサイト上のデータベースで積極的に公開した。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供した。

【補足事項】
・新規撮影デジタル画像数は、1,835件である。
・データベースへの画像登録件数は、3,534件である。
・収蔵品データベースを、館内のサーバからクラウドへ移行した。
・以前より取り組んでいる収蔵品データベースの中国語・韓国語版については、今年度も内容の調整を進めたが、一般公開には至っていない。
・colbaseとの自動連携を目的に、元年度にいったん完了していた収蔵品データベースにおけるOAI-PMHリポジトリ化の構築について、数度にわたり改良を実施した。
・仏教美術資料研究センターで、来館者に公開しているデータベースのポータル画面を、最新内容に更新し利便性の向上を図った。

データベース（センター公開用）
ポータル画面の更新

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	既存フィルムのデジタル化、データベースへの登録件数など、情報発信のための数値は例年並みであり順調に成果を上げている。一方、収蔵品データベース（ウェブサイト公開用）を外部のクラウドに移設するなど、新たな試みもあった。データベース等の情報システムは日常的なメンテナンスが欠かせないが、その体制がまだ十分とは言えず、今後はそうした運用体制の整備を図る必要がある。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間全体を通して、ウェブサイト上の公開データベースにおける画像等の公開件数は、順調に増加している。ガラス乾板のデジタル化及びデータベースの構築や、収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開に向けての準備など、内容的にも充実化を図ることができたため、中期計画は予定通り達成できたと判断した。今後も引き続き、使いやすさや多言語化といった質的な向上に取り組んでいきたい。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

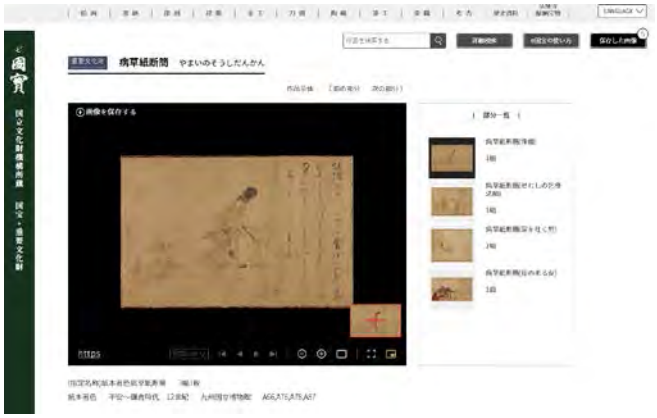
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら、引き続き検討する。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報及び展示情報を掲載した「収蔵品ギャラリー」を継続して公開する。
イ　対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形等のデータベースを継続して公開する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」に新収品を含むデータ110件を追加した。また、ColBaseへのデータ提供を自動化し、作業負担の軽減及び迅速な情報更新を実現した。
・e国宝のリニューアルにあたり、19件の指定品のデータを、高精細画像とともに4言語で追加公開した。

（九州国立博物館）
ア　収蔵品ギャラリーに、新収品を含む110件のデータ並びに111件の画像を追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報の発信を続けた。
イ
・対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を続けた。
・装飾古墳データベースは、引き続き公開運用を続けた。



リニューアルしたｅ国宝で新たに公開したデータ

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいてコンテンツを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。対馬宗家文書データベース、装飾古墳データベースを引き続き公開するとともに、対馬宗家文書データベースのリニューアルについて検討を行った。なお、郷土人形データベースは、外部サーバにあったデータを当館で引き取り、内容を整理し、将来的に当館ウェブサイトでの公開を目指すため、公開を一時休止している。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて文化財その他関連する資料の情報を公開し、中期計画を遂行した。 また、中期計画最終年度である2年度は、公開データを約1,000件追加し、情報の充実・拡充を図った。また、新規撮影分の画像処理を進め、公開用データとして整備した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1322A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦

【実績・成果】
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,681 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムに画像データ 5,726 件を登録し、既存データ 1,513 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・漢籍 1 点 5 冊（165 カット）及びシーボルト旧蔵本洋古書 6 冊（3,478 カット）のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。また、「シーボルト旧蔵本」デジタル・アーカイブの情報も更新した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。（入館者 1,219 人）
・資料の保存のため、和雑誌についての合冊製本を行った。（新規分 273 冊、遡及分 11 冊）
　また貴重書用保存箱を 283 箱作成し、33 冊の補修を実施した。
・元年度に続き、図書館システム導入前に整理された和雑誌について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード添付を 3,513 件実施した。
イ
・東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。
・ProtoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を 2,451 件作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積することにより、レファレンス協同データベース事業企画協力員賞を受賞し、レファレンスサービスの拡充と広報に資することができた。（新規登録 579 件）
ウ
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外）、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。
・新型コロナウイルス感染症対策のため、各種対策をとり、安心して利用できるよう努めた。

【補足事項】
ア

新規受入図書	4,212冊	既存図書の遡及入力	636冊
逐次刊行物の新規受入	2,469冊	逐次刊行物の遡及入力	3,134冊

イ

当館開催展覧会カタログ	396件	他館開催展覧会カタログ	392件
当館刊行図書	1,642件	当館刊行雑誌	21件

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	外部の大学図書館等の間での文献複写サービスを継続して行い、館内外における利便性が向上した。また、収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。さらにレファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。また新型コロナウイルス対応のためやむを得ない休館後、利用者及びスタッフの安全を図るため、３密回避策および接触感染対策を工夫し、臨時休館後可能な限り安全性に配慮し早期再開に努めた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画に定められた趣旨に則って、適切に資料の収集整理と公開を継続して行い、時宜に応じたサービスの改善を行った。中期目標を遂行することができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1322B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
ア　元年度に引き続き、各作業の効率化を図るため、文化財情報システムの登録や検索及び管理項目等の機能改修を行った。
・画像ストレージの容量増強を行った。
・調査、研究、教育等に資するため、新規図書814冊、逐次刊行物1,308冊を収集し、データベースへ登録した。

【補足事項】
ア　元年度に用意したエンクロージャー(ハードディスク・ドライブを格納する筐体)を使用し、画像ストレージの容量増強を行った。

増設したエンクロージャー

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財情報システムの改修により、資料や収蔵品等の管理、検索機能が向上した。また、画像用サーバのストレージ増強により余裕をもった画像保存領域を確保し、今後の画像生成に必要な環境を整えた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、画像のオープンデータ化において、博物館等における今後の画像公開や利用にあたっての方法や規約等について館内外関係者と検討を進め情報を蓄積することができた。今後の文化財情報システムや館蔵品データベース等の運用における材料となる情報を蓄積したことから考えて、中期計画を達成したと言える。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1322C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センターにおいてそれらの資料・情報の公開を継続した。センターでの資料公開は、新型コロナウイルス感染症が流行した影響で4月から7月まで一時停止したが、その後、利用人数を制限したうえで再開し、一定のサービスは維持できている。

【補足事項】
・図書情報システムへの登録件数は、1,555冊（和書1,476冊、漢籍45冊、洋書34冊）である。
・写真情報システムへの登録件数は、4,408件である。
・仏教美術資料研究センターでの資料の一般閲覧は、上記のとおり8月より再開した。再開にあたり、同時利用2名までの完全予約制とした上で、次のような感染症対策を講じている。利用資料の事前申告（任意）制、入室前の検温、受付カウンターへの飛沫防止板の設置、換気のための網戸と扇風機の設置、利用した図書の72時間隔離措置、閲覧者対応職員の手袋着用、清掃の徹底。
・上記とおり一般閲覧を予約制としたことをうけ、ウェブサイト上から閲覧日の予約状況を確認できるように、図書情報システムの運用を改善した。

センター利用の予約状況が確認できる画面

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
図書資料の充実、システムへの登録は順調に実施できている。写真資料についても同様である。一般閲覧者へのサービスは、新型コロナウイルスの影響により一時期停止し、また再開後も受け入れ人数を制限しているが、公開自体は継続できている。今後は、往来を自粛するなどして、閲覧に来られない方に向けたサービスを、如何に充実させていくかが課題である。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
博物館に求められる学術研究は日々多様化している。本中期計画の期間中にも、その範囲は拡がり、研究の基礎となる図書及び関連資料の収集は、ますます重要度を増した。中期計画期間中、着実に資料を広く収集し、情報として蓄積し、それを発信することができたため、所期の予定通り達成できたと判断した。今後は、限られた予算の中で何処に重点に置いていくか、といった戦略が求められよう。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1322D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア
蔵書管理
・新規に図書1,861点、雑誌933点、図録・報告書2,570点を購入又は受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。
・大量寄贈資料の受け入れに伴い、狭隘化した書架の大幅な資料移動、調整を行った。

画像管理
・文化財情報システムの一部として運用している画像管理システムに画像を3,013点追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データを連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が情報を活用しやすい環境づくりに寄与した。
・29年度にウェブサイトで公開した画像検索システムに約1,400点の画像を新規に追加した。申請により利用できる画像の一覧をウェブサイトに公開することで、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。

寄贈図書整理状況

画像検索システムで新規に公開した画像

【補足事項】
ア 画像等利用申請のうち5割以上が、29年度に公開した画像検索システムを活用して申請書が作成されている。申請件数も増加傾向であり、資料情報の発信及びその情報の利活用の促進に寄与している。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新規に図書1,861点、雑誌933点、図録・報告書2,570点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データの整備を着実に実施した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通し、資料の収集及び目録整備を行った。また、ウェブサイトにて画像を公開し、中期計画を遂行した。2年度は図書の目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。
次期中期においても図書目録整備を実施し、将来的な公開に向けてのデータ整理を行った。画像に関しては、年々増加している画像利活用のため公開できる画像を増やしていく。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 1323-1H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（機構本部）
ア　機構の概要、年報を作成する。
イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。
ウ　文化財活用センターウェブサイトを運用し、センターに関する情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課 本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　伊藤進吾 課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和2年度』（日本語版・英語版）を10月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト(https://www.nich.go.jp/)に掲載した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和元年度』を3年2月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
ウ
・文化財活用センターウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、センターに関する情報の提供を行った。
・国立文化財機構寄附ポータルサイトを8月に開設し、各施設への寄附等についてウェブ決済を可能とした。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和2年度』は日本語版2,100部、英語版700部発行した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和元年度』：175部、カラー4ページ・モノクロ1,020ページ
ウ
・ぶんかつブログ（https://cpcp.nich.go.jp/modules/rblog/index.php/1/）にて活動の舞台裏を紹介した。
3年3月末現在までに63件の（うち2年度33件）記事を掲載した。

国立文化財機構寄附ポータルサイト

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、概要及び年報を作成した。 ウェブサイトの運用を継続し、また寄附ポータルサイトを開設したことで、より広く寄附制度の周知を行うことができた。年度計画に沿って、機構全体や文化財活用センターの事業について、情報の提供を行うことができた。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の最終年度として、中期計画どおりに積極的な広報活動を行うことができた。3年度以降も引き続き、広報印刷物やウェブサイト等の様々な媒体を通じ、情報提供を行う。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-1A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（東京国立博物館）総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
ア　「博物館でお花見を」、「博物館に初もうで」等を軸とした総合文化展の広報の企画・運営、広報・宣伝制作物の制作・配布等 を行う。
イ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	上席研究員(兼広報室長)　鬼頭智美

【実績・成果】
ア　2年度年間スケジュールリーフレット（「東京国立博物館 展示・催し物のご案内」4月-3年3月）は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2年度の展覧会等スケジュール確定の見込みが立たなくなったため、制作・配布を中止した。3年度年間スケジュールについては確定したものについて随時WEBでPDF版を公開、周知に努めた。
（東京国立博物館）
ア・『東京国立博物館ニュース』(隔月、6月より季刊)を作成、配布した。主な事業については別途プレスリリースを作成、配信会社も活用し、より広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、チラシ・ポスターのDM発送は行わず、周知にあたってはウェブサイト、SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)を重点的に活用した。
・親と子のギャラリー／日本文化体験 「まるごと体験！日本の文化」では、ポスター・チラシを作成、館内配布を実施、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」では、周知用ビジュアルを作成、WEB告知や貸し出し画像に加えたほか、各事業のプレスリリースをマスコミ等に配信した。
イ　公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」による直接来館者と触れ合う形の活動は休止し、キャラクターを使った動画配信を行い親しみやすい博物館を訴求した。また、元年度より継続していたLINEスタンプの制作が完了し、3年度には有料販売を開始する。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ア
・通常行っている催し物案内に加えて、当館自体のPRツールとして、幅広い層から人気の伊藤若冲の作品「玄圃瑤華」をモチーフにしたポスターを6種類各200枚作成、館内の各所等に掲出し、好評を得た。
・元年度に続き、トーハクYouTubeチャンネルにて「オンラインギャラリーツアー」と題して、当館研究員による作品解説や展示紹介などの動画を計11回配信し、好評を得た。
イ
・2年末には公式キャラクター「トーハクくん」と「ユリノキちゃん」が一年を総括する動画を制作し、トーハクYouTubeチャンネルにて配信した。

東京国立博物館ポスター
玄圃瑤華　未草

公式キャラクター動画
「【2020→2021】
トーハクくんとユリノキちゃんが
１年を総ざらい」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新型コロナウイルスの影響で、計画通りに広報用印刷物の配布ができなかったが、動画等のコンテンツ配信やポスター作成により広報上の当初目標は達成できたと考える。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画どおり個々の企画等について、広報印刷物・ウェブサイト・SNSなど自主媒体を活用した広報活動を展開し、一般及びメディア媒体への認知度を着実に高めることができた。また、LINEスタンプの制作も完了し、中期計画通り目標を達成したといえる。今後はウェブサイト・SNSを活用した広報活動をさらに推進していきたい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-1B

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（4館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（京都国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの配布（2年度分）及び製作（3年度分、20,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア
・各種イベントのポスター、チラシ（落語会16,000部、留学生の日13,500部等）の製作・配布を行った。
・特集展示「文化財修理の最先端」のポスター、チラシの製作を行った。また、特集展示「新聞人のまなざし－上野有竹と日中書画の名品－」においてもチラシの製作を行った。
イ　文化大使を引き続き任命した。
ウ　PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し、広報活動を行った。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・特集展示「文化財修理の最先端」図録では4言語（日、英、中、韓）の作品解説を付した。また、特集展示「雛まつりと人形」ではリーフレットを製作、配布することができた。
・新春特集展示のチラシでは新春特集展示「丑づくし」のほか、各種イベントや他の展覧会情報を紹介することができた。
イ　幅広い年齢層に向け、博物館の活動の周知とイメージアップができるよう、引き続き文化大使として俳優の竹下景子氏、藤原紀香氏を任命した。なお、両大使に特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」開会式に登壇してもらうよう手配していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

京まふ2020に登場するトラりん

ウ
・トラりんのブログやツイッター、Facebook、YouTubeチャンネルを運用し、展覧会や博物館の情報を幅広い年齢層に向けて分かりやすく発信した。
・柵を設置し来館者との距離を確保しつつ、トラりんを最大毎週3日、1日3回館内に登場させ、親しみやすい博物館のイメージの浸透を図った。
・京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2020にトラりんを出張させ、特別展や当館のPR活動をした。
・オリジナルフレーム切手「京都国立博物館公式キャラクタートラりん 京都10ヶ所めぐリン！」を作成・販売し、当館の魅力を伝える広報活動を行った。
・「#おうちミュージアム」に参加し当館ウェブサイトの「おうちで楽しむ京博」ページにて、トラりんのブログやYouTube、オリジナルぬりえを公開する等、新型コロナウイルスの影響で休館中や来館できない方でも楽しむことができるコンテンツを拡充させた。
・トラりんのブログで「安全に楽しんでもらうためのお願い」を掲載し、新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のための取組を分かりやすく紹介した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年間スケジュール及び展覧会チラシの製作・配布をコロナウイルスの影響下でも効果的に実施することができた。 新型コロナウイルスの影響により対面でのイベントに制限がある中でも、公式キャラクターを活用してブログや、ツイッター、Facebook YouTubeチャンネルといった各種コンテンツを拡充させ、休館中や来館できない方に向けても積極的にPR活動を行うことができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響によりイベントの実施に制限がある中でもコンテンツの拡充を図る等、新たな取組を増やし、さらに広報の幅を広げて活動をしたことを踏まえて、中期計画期間中を通じて目標を達成したと言える。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-1C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作･配布を行った。2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴って年間スケジュールに変更が生じたため、確定後の 1 回のみ作成した。

（奈良国立博物館）
ア
・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針を議論する広報戦略委員会を4回実施した。
・特別展の割引券を4言語表記で作製し、近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。
イ　文化大使の笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）が出演するテレビやラジオ等で博物館のPRをしていただいた。
ウ　当館の認知度を高めるために、ブライダルの前撮り撮影場所として茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。

【補足事項】

奈良育英小学校写生会

Cornes Osaka Showroom Exclusive Touring to NARA NATIONAL MUSEUM
（高級車の展示イベント）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの感染拡大により当初予定通りの実施が困難になったものもあるが、感染症対策を行い、屋外の敷地を利用する等で広報活動に努めた。 文化大使である笑い飯･哲夫氏にテレビ番組等でPRいただき、博物館のイメージアップに繋げることができた。 4言語（日・英・中・韓）表記での割引券を近隣社寺や観光案内所に配布する等、外国人観光客を取り込むための対策を実施した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、館内委員会や共催者との会議において、展覧会毎に広報計画を策定し、企画の目的や内容、対象者に応じた効果的な情報発信を行うことができた。また、多言語対応の拡充や、小学生向けの企画の充実化を図るなど、広報活動や教育普及にも努めることができた。以上のことから、中期計画を達成できたと言える。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323-1D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（4館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
イ　応援大使による広報活動を引き続き行う。
ウ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
エ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。
オ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。
カ　民間企業と協同し、商品開発やコラボイベントによる広報活動を推進する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　白井克也 課長　沓掛裕顕

【実績・成果】
（4館共通）
ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
（九州国立博物館）
ア 特別展の実施に伴い、担当研究員によるテレビ、ラジオ番組への出演や、地元の新聞やフリーマガジン等への展覧会内容の掲載を行った。マスコミによる広報・宣伝を行った。
イ 応援大使サラ・オレイン氏による、広報番組TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」のナレーションや各種SNSによる当館PRなどの広報活動を行った。
ウ ウェブデータベースの整備を継続し、当館ウェブサイトから詳細な展示品情報を提供した。
外国人観光客へ向け、当館ウェブページ上で英語・中国語・韓国語での展示案内を行った。
エ 空港・JR・西鉄・観光案内所・ホテルなどと連携し、ポスター、チラシなどによる広報を展開した。
また、動画配信サイトYoutubeの九博チャンネル内において、多様な動画コンテンツを配信した。
オ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」の閉店に伴い、ショップ内での情報配信を中止。
カ 正月イベントとして、民間企業と共同でノベルティを開発し、来館者へ配布することで広報活動を推進した。

JR 博多駅での広報の様子

Youtube 動画（九博チャンネル）

正月ノベルティのアロマスプレー

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
エ
・「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回、公共施設・交通機関・観光案内所・宿泊施設・旅行会社等に送付するとともに、送付先を大きく拡大した。
・Twitter、Youtube、メルマガ等を活用し、多様な情報を発信した。また、従来のプレスリリースと並行して、ウェブリリースサービスを活用し情報発信を行った。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 既存の広報先だけでなく、空港や駅、地下鉄等の広報展開先を大幅拡大させた。また、TwitterやYoutube、メルマガ、ウェブリリースサービスの活用など、各種SNSやデジタルコンテンツにより様々な層に多様な情報を発信した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、博物館事業の企画の目的や内容等を考慮し、マスコミ、観光関係、交通関係、 Youtube、メルマガ等も活用し、幅広い層に向けた広報を実施することができたため、中期計画を遂行できたと考える。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-2A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（4館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（東京国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 上席研究員(兼広報室長)　鬼頭智美

【実績・成果】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
（東京国立博物館）
ア　特別展・特集展示及び教育事業についてマスコミ向けに情報を送付・配信した。新型コロナウイルスの流行下により通例の対面式の記者発表会は行わなかったが事業ごとにプレスリリースを配信、また報道内覧会は５回開催した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社と連携し、成田国際空港第１ターミナルに当館収蔵品画像を使っての壁面・天井装飾を２年度も引き続き実施し、羽田空港の京急国際線ターミナル及びモノレール羽田空港駅への広告出稿を継続した。
（東京国立博物館）
ア　特別展などで報道内覧会の実施、プレスリリースの発信を行い、新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供し、新聞・テレビなどで紹介された。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイト、東京メトロ上野駅「文化の杜路」へのポスター掲出等、イベント情報の広報を積極的に実施した。そのほか、「UENOYES2020」や「文化の杜の音めぐり 2021」のイベントに協力するとともに、文化の杜のポータルサイトや東京都美術館との連携広報など地域と連携した広報活動を実施した。また、東京都美術館と連携事業として東京都美術館で開催された特別展「没後 70 年　吉田博展」に合わせて、「トーハク×都美 連携ガイド『めぐる美術～黒田清輝と吉田博』」の連携音声ガイドを制作・公開した。

特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」報道内覧会

成田空港第１ターミナル内装飾（継続）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 上野文化の杜の事業として、東京都美術館との連携企画の実施など、上野地区での認知度向上を積極的に実施した。 また、特別展の記者発表会や報道内覧会には毎回80名～200名程度の記者が出席、各展覧会の広報を効果的に行うことができた。 3年度以降も、新聞主要紙・美術系番組など影響力の高い媒体に取り上げられるよう努めていく。

【中期計画記載事項】(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して上野文化の杜新構想実行委員会加盟機関とトークセッションや、連携した広報ポータルサイトの立ち上げなど、様々な連携事業を展開した。 今中期最終年度となる2年度は新型コロナウイルスの流行下において、動画配信による情報発信に努めた。また、東京都美術館の特別展に連携して音声ガイドを開発し、自主媒体の活用並びに近隣施設との連携強化等、中期計画通りの広報活動を行った。 以上のことから中期計画を遂行できたといえる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-2B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（京都国立博物館）
ア　地域等が主催する各種委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
イ　京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア
・特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」において、読売新聞社と連携し紙面広告等を掲載して広報を行った。
・特別展「皇室の名宝」において、共催のNHK京都放送局・NHKプラネット近畿と協力して8Kを含む特別番組を制作し、「皇室の名宝」の認知度を上げた。また、読売新聞社と連携し主要ターミナル駅近くのデジタルサイネージ等へ広告を掲示し広報を行った。
・特別企画「文化財修理の最先端」において、京都新聞社と連携し紙面広告等を掲載して広報を行った。
・京阪ホールディングスと連携し、同社の観光庁受託事業「夜も朝も楽しめる京都アートツーリズム振興事業」における、MICE・インセンティブツアー造成を目的とした動画撮影やファムトリップへの協力を行った。
（京都国立博物館）
ア
・地元の七条鴨東商店街の会合に参加し、地域連携の企画等を検討した。
・京都市内博物館施設連絡協議会が主催する京都ミュージアムロードに参加することにより京都市内の他の博物館と連携し、広報を展開した。
イ　京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成し4館を巡るスタンプラリーを実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、どちらも中止となった。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」において、京阪ホールディングスと連携し、研究員が講師を務めるまちあるき企画を実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。
・京都市内のタクシー会社と連携し、広告を設置した。
（京都国立博物館）
ア・京都市等が主催する京都国際マンガ・アニメフェア2020（京まふ）と連携し、会場でトラりんが特別展のPRを行った。
・京都市及び地元の商店街が主催する京都駅東部七条界隈における周遊促進事業「七条つながる商店街スタンプラリー」と連携し、スタンプラリーポイントとして参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。
・京都府等が主催する国際的なアートフェアArt Collaboration Kyotoと連携し、特別企画等の広報活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、前半は積極的な広報活動が実施できなかったが、後半は行政や地域との連携強化による情報発信をすることができた。 特別展においては主催者であるマスメディアと協力して展覧会情報の発信を積極的に行った。また、新型コロナウイルスの影響により事前予約優先制を導入した際はマスメディアと連携し公式ウェブサイト等で事前に周知することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の最終年度として、行政や地域との連携強化による広報活動を展開することができた。次期中期計画以降も引き続き、積極的な広報活動を展開する。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323-2C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（奈良国立博物館）
ア　近隣社寺・博物館等との連携協力により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。また、イオン及び JAF での広報を行い、イオンカード及び JAF カードの提示で割引が可能とした。
（奈良国立博物館）
ア　奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、相互割引を実施した。
イ　なら仏像館で年 4 回実施している仏像供養及び保存修理所公開等には、マスコミへの情報提供を行い、取材を積極的に受け入れた。
ウ　奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良市観光協会との連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
エ　期間限定の無料観覧券を周辺関連社寺において配布し、展覧会の広報と博物館の認知度アップに繋げた。

【補足事項】

京都市営地下鉄ホーム掲示

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 公共交通機関とタイアップしての広報活動を行い、展覧会の周知強化ができた。また、イオン等の一般企業との協力も積極的に行い、新たな来館者層の獲得に努めた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 自主媒体を活用した情報発信、マスメディアと協力した広報活動、地域連携を着実に実施し、中期計画を達成できた。次期も地元自治体や近隣社寺との連携を更に強化し、奈良公園だけでなく、奈良公園と近隣美術館・博物館を含めた共通観覧券を作製することの検討等、積極的な広報活動を展開していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-2D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（九州国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
ウ　九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
エ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア 主要駅でのデジタルサイネージの掲出や車内ポスターの掲示等、公共交通機関等と連携して広報活動を展開した。
（九州国立博物館）
ア マスコミ各社を対象とする報道発表会、内覧会を実施した。
イ 太宰府観光協会と連携して太宰府天満宮参道での告知フラッグを設置した。また、各種公共交通機関等と連携し、本館PRポスター・チラシ・動画等の広告を大きく拡大した。さらに、商工団体へ「展示・イベントスケジュール」、「季刊情報誌アジアージュ」を送付し、商工団体会員等への周知を依頼する等、地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。
ウ 2年度の海外への広報・営業活動については、新型コロナウイルスの影響により中止した。当館ウェブサイトや当館ブログでは、4言語（日・英・中・韓）での情報発信を継続して行った。
エ
・博多祇園山笠振興会等と連携し、「飾り山笠」の展示企画を実施するとともに、博多祇園山笠関連の写真パネル展も実施した。
・近隣大学学生によるきゅーはくカフェコンサートを実施した。

【補足事項】

太宰府駅での広報の様子

JR 二日市駅での広報の様子

博多祇園山笠 飾り山笠の部分展示

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新たなPRポスターなどの制作を実施するとともに、館敷地内や公共交通機関等に展開したほか、博多祇園山笠振興会等に協力いただき、博多祇園山笠飾り山笠の部分展示や関連のパネル展示を実施することで、特別展の告知にもつながった。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。また、中期計画の最終年度である2年度は近隣大学学生によるきゅーはくカフェコンサートを実施するなど、近隣地域の諸団体と連携し、イベントを打ち出すことができたことから、中期計画を達成できたといえる。次期中期においても諸団体と連携しながら積極的に広報を行いたい。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1323-3A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　ウェブサイトでは、ブログ等博物館の顔が見えるコンテンツを継続して発信する。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　今井敦 上席研究員(兼広報室長)　鬼頭智美

【実績・成果】（4館共通）
ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
イ メールマガジンを配信した（21回）。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』を季刊（年4回）で各50,000部を制作、配布した。
イ　ブログ33エントリー、40本以上の動画制作・配信及び動画も使ったSNS配信により展示・催しものについて紹介し、家にいながら博物館を楽しんでもらえるよう努めた。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）により適時性のある情報を発信し、利用者から好意的な反応を多く得た。

【補足事項】
(4館共通)
ア　当館ウェブサイトの中国語（簡体字)、韓国語ページについて日本語・英語ページと同等程度の情報を掲出できるよう準備を完了、運用の詳細を決定次第公開予定である。
イ　画像付きのメールマガジンが好評で利用者も伸びている。
（東京国立博物館）
ア・『東京国立博物館ニュース』を季刊としてリニューアル、内容の充実を図った。
・部数については当初各号それぞれ、7万5千部制作予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う来館者数減少の影響を鑑み、6・7・8月号、9・10・11月号、12・3年1・2月号については制作部数を5万部へ変更した。3年3・4・5月号については7万5千部制作した。
ウ　ツイッター：フォロワー85,462件(元年度76,656件)、フェイスブック：いいね！33,618件（元年度32,186件)。元年度より着実に数を伸ばしている。また、インスタグラムではフォロワーが31,190件（元年度15,787件）とほぼ倍増した。ツイッター及びインスタグラムでは多言語による情報提供も試行し、グローバルに館の存在感を高めるようにしている。

『東京国立博物館ニュース』
6・7・8月号（リニューアル号）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化※1・2		28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数※1	7,021,923件	5,380,118件	A		①	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810
					②	7,427,419	—	—	—

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 メールマガジンに画像を取り入れ、インスタグラムに動画を増やすなどの改良により、利用者を増やすことができた。ウェブサイトのアクセス件数は中期計画期間中目標値以上の成果を達成し、SNSのフォロワー数も十二分に確保できている。今後は多言語によるツイッター、インスタグラムのサービスを追求し、若年層に訴求する内容の情報を発信し、海外在住の利用者など新規の利用者拡大を図る。

【中期計画記載事項】（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトのアクセス数は中期計画期間全体としては伸びており、2年度は新型コロナウイルスの流行下で実際の来館が難しい中、中期計画通りウェブや館のSNS経由での情報提供、サービス利用を図り、タイムリーな情報発信を行うことができ、中期計画を遂行できた。

※1　29～2 年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。
※2　上段①の数値は、本体サイトのみのアクセス件数。下段②の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-3B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（4館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布を行う。（年4回）
イ　博物館ディクショナリーを発行し、新刊をウェブサイトにて公開すると同時に、メールマガジンにて配信する。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。
エ　SNS（ツイッター等）による情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　ウェブサイトアクセス件数は3,480,100件であり目標値を上回った。
イ　メールマガジンを12回配信した。（169～180号）
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』（206～209号）、『Newsletter』（145～148号）の発行を行った。
イ　博物館ディクショナリー（206号(増刷)、221～223号）を発行し、新刊をウェブサイトで公開するとともに、メールマガジンにて配信した。
ウ　収蔵品貸与情報について、ウェブサイトの「館外での作品公開」に59件公開した。
エ　当館公式ツイッター、公式キャラクター「トラりん」のツイッターやフェイスブック、YouTubeチャンネルを積極的に利用して情報発信を行った。

【補足事項】
（4館共通）
ア
・特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」において、ウェブ媒体を使用して展覧会の見どころを紹介する生放送を行った。
・「おうちで楽しむ京博」という当館ウェブサイト上で楽しむことのできるコンテンツを集めたポータルサイトを作成し、利便性を向上した。
（京都国立博物館）
エ　当館オフィシャルの YouTube チャンネルを開設し、4 言語（日本語・英語・中国語・韓国語）の動画を公開するなど情報発信を行った。

当館のオフィシャルYouTube
チャンネルにて公開した動画
（韓国語版）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数	3,480,100件	2,274,464件	A		3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	ウェブサイトは新型コロナウイルスの影響もあり、展覧会情報のアクセス数が減少したが、新しくYouTubeチャンネルを開設する等の新規の取組みを始めることで目標値を大幅に達成することができた。また、当館ウェブサイトにて「おうちで楽しむ京博」と題して家で楽しむことができるコンテンツを用意し、ウェブサイト上で楽しめる機会を増やすことができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度は新型コロナウイルスの影響もあり展覧会情報へのアクセス数は落ち込んだものの、新しく「おうちで楽しむ京博」やYouTubeチャンネルを創設する等、新型コロナウイルス流行下における時宜にかなった取組を行い、少しでも多くの人にウェブサイトを訪れてもらえるよう努力したことにより、中期計画期間を通して目標値を超えることができた。今後も新しいニーズに応じたウェブサイト構築を心掛けていく。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323-3C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（奈良国立博物館）
ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　ウェブサイトのほか、メールマガジン、SNS（Twitter）による情報発信を行う。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。
エ　外国語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長　宮崎幹子

【実績・成果】
ア 特別展、特別陳列の開催や、名品展の展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。ウェブサイトのアクセス件数は、1,082,864件となった。
イ メールマガジンは機構のメール統合により現行システムでは配信不可能となったため、Twitter等のSNSでの情報提供を充実させるよう努力した。
（奈良国立博物館）
ア 特別展、特別陳列の案内、名品展の展示品の紹介に加え、文化財に係るエッセイやイベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った（年4回）。
イ
・名品展や特別展の紹介に加え、イベント情報等をウェブサイトに掲載した。さらにSNS（Twitter）でも迅速かつ効率的な情報発信を行い、フォロワー数は25,000人に至った。
・ Youtube で「ならはくチャンネル」を開設し、奈良博の紹介や各展覧会の情報の動画を作成し情報発信を行った。奈良県等が参画する「いかす・なら地域協議会」の支援を受け、教育普及活動及び文化観光に関する情報発信のための新ウェブサイトを立ち上げた（稼働は3年4月以降）。
・株式会社ドワンゴが運営するニコニコ美術館において、特別陳列「お水取り」(2 月 28 日）と「特別陳列『帝国奈良博物館の誕生』＆なら仏像館・特別公開『金峯山寺　金剛力士立像』を巡ろう」(3 月 8 日）を展覧会担当者が解説を行う動画を配信した。
ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF 版をウェブサイトに掲載した。
エ 特別展、正倉院展について、外国語チラシを作成し、外国人観光客への情報提供を行った。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア 『奈良国立博物館だより』は館内にて無料配布のほか、希望者には郵送で提供した。
イ 新型コロナウイルス感染症拡大とそれに伴う臨時休館を受けて、Twitter での情報発信を充実させ、館蔵品の紹介を継続的に行った。また、寄託品である法隆寺金堂壁画写真ガラス原板のデジタル画像について、デジタルビューアサイトを構築し、多言語（日・英・中・韓）での発信を行った。
エ 「よみがえる正倉院宝物」、「第 72 回 正倉院展」について、外国語チラシ（英）を作成し、外国人観覧者への情報提供を行った。

奈良国立博物館　Twitter

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数	1,082,864件	953,946件	A		1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 前年度に引き続き、ウェブサイト及び広報物を通じて広く情報提供を行った。特に 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により臨時休館や開館時間の変更、特別展の延期等不測の事態が多数生じたが、ウェブサイトや Twitter を通じて迅速な情報提供を心がけ、印刷物での情報発信を補うことができた。 また、法隆寺金堂壁画写真ガラス原板の画像公開について、短時間で関係者の承諾を得てシステム構築にこぎ着けた点も特筆される。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、ウェブサイトへのアクセス件数、Twitter のフォロワー数は順当に増加しており、迅速かつこまめな情報発信を行い、時宜にかなった広報活動として成果をあげている。Twitter での館蔵品の紹介や法隆寺金堂壁画写真ガラス原板画像の公開については多言語でも発信を行い、海外から高い評価を得ることができた。以上より、中期計画において非常に高い成果を上げることができたと評価した。

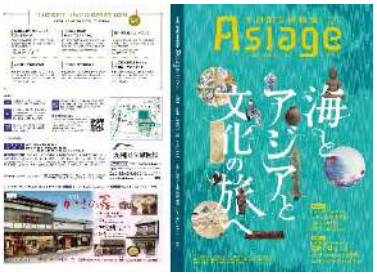
【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-3D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（九州国立博物館）
ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
イ　４言語(日・英・中・韓)によるウェブサイトでの情報提供を行う。
ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。(年４回)
エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア リアルタイムな展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、Twitter にて駐車場空き情報を継続して提供するとともに、展示室の人数制限の情報を新たに提供した。
イ リアルタイムな展示・イベント情報等のメールマガジンを月 2 回配信した。
（九州国立博物館）
ア 利用案内に係る記載で分かりにくい表現等の一部見直しを行うなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努めた。ウェブサイトへの当館 Youtube チャンネルの動画の掲載や TVQ 九州にて月 1 回放送している、太宰府と当館の見どころを紹介する番組の掲載など媒体ごとに関連性を持たせた。
イ ウェブサイトの 4 言語（日・英・中・韓）について、言語毎に情報の出し方を変えるなど、工夫した情報発信を行った。
ウ 『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行った（年 4 回）（電子配信も並行実施）
エ イベント情報や展示替え情報、駐車場の混雑状況だけでなく、館外の自然景観やショップの新商品の案内等、当館へ足を運びたくなるような情報を SNS（Twitter）による発信を継続して行った。



季刊情報誌アジアージュ

【補足事項】
（４館共通）
ア 駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、Twitterにて駐車場空き情報を継続して提供した。
イ Twitterのフォロワーは2年で約8,000人増加(2019.4→2021.3)し、3月末時点で16,924人となっている。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
ウェブサイトのアクセス件数	824,819件	1,696,500件	B		2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ウェブサイトの多言語化をより充実させた。また、駐車場の混雑状況をリアルタイムに案内するなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信ができた。
ウェブサイトのアクセス件数は、新型コロナウイルスの影響による閉館や特別展の中止等により減少したが、2年度に引き続きメルマガ登録数の増加及び開封率、Twitterのフォロワー増加数についても高い状態を保っており、利用者に対するメルマガやTwitterを用いた広報活動の効果が実感できた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルスの影響により、特別展や様々なイベント実施が困難であったため、ウェブサイトのアクセス数は減少した。しかし、中期計画期間を通し、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、積極的な広報活動を順調に行ったことから、中期計画を達成できたと考える。2年度においても、ブログやTwitter等を活用し、展示情報、観覧環境などをリアルタイムに更新するなど、広報活動を積極的に行った。
次期中期においても館内に設置する広報委員会において広報計画を策定し、広報活動を展開していく。

【書式Ａ】　施設名 ４館共通　処理番号 1410ABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

【年度計画】
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究

担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　救仁郷秀明 部長　尾野善裕 部長　内藤栄 部長　小泉惠英

【実績・成果】
外部資金を活用した調査研究を下記件数実施した。
（東京国立博物館）
・科学研究費補助金：9件
・学術研究助成基金：22件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件
（京都国立博物館）
・科学研究費補助金：1件
・学術研究助成基金：5件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件
（奈良国立博物館）
・科学研究費補助金：2件
・学術研究助成基金：4件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件
（九州国立博物館）
・科学研究費補助金：4件
・学術研究助成基金：3件
・科学研究費補助金と学術研究助成基金の両方：0件

【補足事項】
本項詳細は統計表c-⑦参照

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
東京国立博物館	31件	－	－		22	22	18	25
京都国立博物館	6件	－	－		7	11	8	6
奈良国立博物館	6件	－	－		3	5	6	6
九州国立博物館	7件	－	－		8	8	7	6

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部資金を活用した文化財に関する調査研究を行った。調査研究の実施においては、各博物館での文化財の収集・保管・展示、教育普及活動等事業と一体的に取り組み、元年度同様順調に成果を挙げている。

【中期計画記載事項】
文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財に関する調査研究実施に際し、外部資金を獲得し活用することで、文化財の保存と活用の推進の一助とした。3年度以降も外部資金活用による調査研究の活性化を図る。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｱ-1

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　a.特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 42 次）

【事業概要】当館では、昭和 54 年より、法隆寺献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業は全ての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　河野一隆 工芸室　　三田覚之

【主な成果】

(1)調査概要

・法隆寺献納宝物の染織品に含まれる刺繍作品について調査を実施した（11 月 4 日）。

・通年にわたって法隆寺献納宝物の染織品調査及び法隆寺宝物館保管の上代裂について調査を行い、法隆寺宝物館で保管する上代裂のうち、「古幡」について調査を継続しながら本格修理を行っている。

・元年度後半には新規調査として「龍首水瓶」を対象とし、2 年度の報告書刊行を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、研究会開催を現在延期している。「龍首水瓶」報告書刊行について、3 年度の刊行を予定している。

(2)調査の成果

・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、実物調査は 1 日のみとなったが、これまでの研究蓄積を反映するかたちで『法隆寺献納宝物特別調査概報 42　染織 1　刺繍』を刊行することができた。

調査において撮影した「繡仏裂（N-32)」の顕微鏡写真

【備考】

(1)「刺繍」調査日数　1 日（これまでの通年にわたる調査成果を反映したもので、実物との照合を行なった）
　報告書：『法隆寺献納宝物特別調査概報 42　染織 1　刺繍』(3 年 3 月 30 日発行)

(2)調査研究と並行した染織品の修理　1 件
　I-335 古幡 奈良時代・天平勝宝 9 歳（757）1 旒

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	法隆寺献納宝物の各種作品に関して、継続的な調査と修理を実施することができた。また、新型コロナウイルスの影響により急遽設定された「刺繍」の調査についても、これまでの研究蓄積を反映することで計画どおり概報を刊行でき、新知見を掲載できた。元年度後半に予定した「龍首水瓶」については、研究会開催をやむなく延期し、報告書刊行を3年度とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の最終年度として、法隆寺献納宝物の絵画、書跡、染織の各種作品を様々な観点から調査することができた。今中期計画期間全体を通して、得られた新たな知見を概報刊行等により継続的に公表するなど、中期計画に沿った取組を進めることができた。よって今中期計画期間全体を通しても中期計画を遂行できたと判断した。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｱ-3

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　c.特別調査「工芸」第 12 回

【事業概要】

東京国立博物館における文化財のうち、金工・陶磁・漆工・染織・刀剣・甲冑等工芸分野の特別調査。該当する工芸分野の研究者が集まり、独立行政法人国立文化財機構が保管する作品の調査を行う。複数の専門家の目で同時に同じ作品を調査することにより、精度の高い成果が得られる。また各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有できる。今後の研究の進展や、展示内容の向上に結びつけることを目的とする。なお、2年度は当初、陶磁・染織の調査会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令により陶磁は 3 年度に延期となり、染織のみ特別調査を行うこととなった。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

【主な成果】

(1) 染織（3 年 3 月 3 日（水）、4 日（木）2 日間）　於　東京国立博物館

東京国立博物館には、明治期に海外輸出用や万国博覧会や内国勧業博覧会への出品向けに制作された近代美術染織が所蔵されている。いずれも近代美術史上、重要な役割を担う作品だが、中には保存状態が急激に悪化し、現状を調査して修理するなど改善をしなければ将来へ伝えることが極めて困難な作品も含まれている。今回は、同じく宮内省に由来する近代美術染織を多数所蔵する三の丸尚蔵館の学芸員の知見をいただきつつ、今後の修理をも見据えた調査を行った。

主な作品は、二代川島甚兵衛作「悲母観音図綴額」、西村総左衛門作「近江八景図天鵞絨友禅」など 12 点。参加者は三の丸尚蔵館の学芸員・太田彩氏、同・五味聖氏、同・小林彩子氏、当館工芸室長・小山弓弦葉、同 150 周年史編纂室長・恵美千鶴子、同保存修復室研究員・佐藤萌、同工芸室研究員・沼沢ゆかり　　以上 7 名。

特別調査「工芸」染織調査の様子

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遠方への出張を伴う調査が難しく、陶磁分野で当初予定していた小郡カンツリー倶楽部からの寄贈品（九州国立博物館で実施予定）調査については、3年度に延期となった。一方、染織分野の特別調査については、当館所蔵品を中心としたため、2年度も予定通り開催することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響により、陶磁分野の調査は3年度以降に延期となった。染織分野は、中期計画の最終年度として、当館所蔵の近代美術染織12件について、外部有識者も含めた調査を実施し、今後の展示計画や修理方針を策定することができた。また今中期計画期間全体を通して、調査結果を工芸史研究並びに当館の展示に反映させるべく取り組むことができ、中期計画を着実に遂行することができた。この成果を、次年度以降の展示案や修理計画に反映していくこととしたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｱ-4

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　d.特別調査「彫刻」第 10 回

【事業概要】
社寺等所蔵の仏像、神像、肖像彫刻等を調査し研究報告・論文としてまとめ、あるいは寄託増加特別展等の企画につなげて示質向上を図る。2 年度は、館蔵品のなかから中国彫刻に対して、客員研究員とともに共同調査を実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課長　浅見龍介

【主な成果】
(1) 調査の概要
本事業では、当館が所蔵する中国彫刻の調査、奈良国立博物館及び九州国立博物館がそれぞれ所蔵する宝慶寺石仏の調査、五浦天心美術館が所蔵する早崎梗吉関係資料の調査などを計画していたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から都県を越える調査出張は控え、当館の所蔵品や寄託品の調査を中心に実施した。また、前漢時代から唐時代の陶俑作品の調査も行い、仏教彫刻との造形上の関係やつながりなどについて考察した。

(2) 調査の成果
・これまで展示機会がない、もしくは少なかった館蔵品・寄託品の調査を行い、製作地や制作年代を明らかにすることができた。それらの作品の一部を東洋館 1 室「中国の仏像」に展示した。
・本調査によって得られた知見を反映した特集「館蔵　珠玉の中国彫刻」（会期：12 月 1 日～3 年 2 月 21 日）を本館 14 室で開催した。
・上記の両室を関連展示として誘導パネルを設置し、相互に連携を図った。

東洋館 1 室「中国の仏像」

東洋館 1 室「中国の仏像」

【備考】
調査回数：6 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館蔵品の中国彫刻のうち、これまで展示される機会が少なかった作品を中心に客員研究員とともに調査を実施し、作品の製作年代や製作地を明らかにすることができた。また中国彫刻と密接な関係にある陶俑作品について、当館では東洋陶磁・東洋考古に分類されるものの、それらの調査も行い、これまでよりも広い視点から中国彫刻の歴史及び意義を研究することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	計画していた事業の一部については新型コロナウイルスの影響により実施できなかったが、文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映するという中期計画に沿った調査研究や研究成果の報告ができたことから、十分な成果を上げられた。したがって、中期計画を達成できたと判断した。 引き続き調査を進め、逐次その成果を展覧会や出版物のなかで広く一般に発信していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｱ-5

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　e.特別調査「絵画」第５回

【事業概要】

当館は中近世の扇面画を多数所蔵し、また近年は「源氏物語図扇面貼交屏風」（浄土寺所蔵）の寄託を受けることとなった。この機会をとらえ、当館所蔵品及び浄土寺本を、機構内外の専門家とともに調査、研究する。さらに関連の深い作品の調査を行うことで、将来的な展示、研究に活かす。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室　主任研究員　鷲頭桂

【主な成果】

（１）調査の概要

・「源氏物語図扇面画帖」（A-346）や浄土寺本などの調査を行った。浄土寺本に関しては、サントリー美術館学芸員・上野友愛氏と共同で赤外線撮影を実施した（11/26）ほか、X 線撮影（12/11）、蛍光 X 線撮影（2/8-2/10）を行い、顔料の状態等を調査した。

・扇面貼交屏風（南禅寺所蔵）6 隻の調査と撮影を実施した（10/26～28）。この調査、撮影は京都国立博物館の福士雄也氏、森道彦氏の協力を得て実施した。また同屏風の一連の作品が同館に 2 隻寄託されており、その調査を 3/5 に実施した。

南禅寺での撮影の様子

浄土寺本の X 線撮影の様子

（２）調査の成果

・絵画表現の変革期である中世後半から近世初期にかけての扇面を集中的に調査することができた。

・浄土寺本については、複数の光学調査を通して保存状態や顔料に関する新たな新知見を得た。今後の展示等で、これらの成果の活用が期待できる。

・南禅寺本は、京都国立博物館寄託の 2 隻の展示公開や画像紹介があるものの、所蔵者が管理されている 6 隻は『国華』872 号（昭和 39 年（1964 年））のモノクロ写真があるのみで、その後、詳細はほとんど紹介されず、保存状態も把握されていなかった。本事業で南禅寺のご協力を得て、6 隻の状態確認ができ、扇面 180 面分の高精細撮影を行うことができた。またその成果を所蔵者と共有することができた。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵、寄託の中近世扇面画と、他機関が所蔵する同時代制作の代表的な扇面絵画を包括的に調査できたことは、大きな成果である。今後の展示、研究への展開が期待できる。 扇面画の熟覧に加えて、複数の光学調査を行うなど、多角的な手法を取り入れることができた。 浄土寺本の光学調査や、南禅寺本の高精細画像など、重要作品に関する新しい研究資料を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の最終年度として、所蔵の絵画列品や寄託作品について、外部識者とともに調査することで、通常業務では得られない多角度からの意見や知見を得られた。今後の基礎情報の整備や展示活用の面でとても有意義であった。また今中期計画期間全体を通して、絵画の各分野の調査を着実に行うことができ、中期計画を遂行できたと判断した。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究

【事業概要】

当館では、29 年度より関東地域の社寺に伝存する文化財の皆悉調査を実施している。2 年度は元年度に引き続き、東京都目黒区に所在する祐天寺の所蔵文化財の調査を行った。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　河野一隆 絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】

(1)調査の概要

・効率的に調査を推進するため、祐天寺所蔵品のうち、祐天寺研究所及び当館の双方が調査の必要を要する寺宝 30 件をリストアップし、感染防止に極力つとめながら本調査を推進する方法を検討した。
・調査の対象となる寺宝 30 件をリストアップし、絵画分野について 2 年度は調査を進めることとした。
・8 月 19 日、9 月 29 日に、祐天寺で、絵画 13 件の調査を実施した。
・ファイバースコープを利用した寺宝の内部及び構造調査を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期し、安全に調査を進める方法について、協議を行うにとどまった。

(2) 調査の成果

・元年度に実施した彫刻の X 線 CT 分析について、祐天寺研究所と協議しつつ、画像解析と画像作成を実施し、寺宝の現状診断や修理のための基礎データを取得した後、6 月 11 日に共有した。
・絵画調査でも寺宝を熟覧し、多くの成果があがった。このうち「両面厨子入祐天上人像・当麻曼荼羅図」を熟覧調査し、元年度調査した「當麻曼荼羅」と比肩すべき精巧な作であることを確認した。また、「阿弥陀三尊来迎図」では、研究所が保有する X 線写真と比較検討し、退色した図柄を含めた総合的な検討を行うことができた。

地蔵菩薩立像の X 線 CT 像

絵画調査風景（祐天寺）

【備考】

調査日数：2 日間（訪問調査）、X 線 CT 画像作成
調査点数：絵画 13 件（観察、写真撮影）
延べ参加人数：5 名

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査を、元年度に引き続いて行った。2年度は、前半期が緊急事態宣言による移動自粛のため、全く進めることができず、解除後も当館、祐天寺双方の感染防止ガイドラインに従った調査であったが、従来のように大人数による調査をせず、事前に調査対象を絞り、短時間で進めるなどの工夫を行った。その結果、従来通りの調査研究を推進することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、文化財の基礎的調査を関東地域の社寺に広げて行った。目黒区・祐天寺調査の 2 年目にあたる 2 年度は、新型コロナウイルスの影響による外出制限の大きな影響を受けたものの、中期計画の最終年度として着実に前に進めることができた。以上のことから、中期計画を着実に遂行できたと判断した。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　列品および寄託品に関連する有形文化財にかかる調査研究

【事業概要】

館蔵の中国遼東地方由来の考古遺物について、当館客員研究員とともに調査と研究を行い、出土遺構の同定や個々の遺物の年代・製作地等を明らかにし、修理・展示等に向けた基礎データを整備する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	東洋室主任研究員　市元塁

【主な成果】

昭和６年に東京帝室博物館鑑査官の後藤守一らが調査した熊岳城蘆家屯３号磚墓の出土品について月２回のペースで調査を実施し、また写真撮影を行った。さらに当時の焼付写真との照合作業を通して出土遺構を同定し、副葬品の配列状況を復元した。これらを総合して、同墓の年代が２世紀後半であることを明らかにし、また副葬品の多くは在地産であることを明らかにした。

中国の東北部に位置する遼東地方は、後漢時代から三国時代にかけて存在感を増し、朝鮮半島や日本列島との交流もうかがえることから近年注目度が高まっている地域である。当館が所蔵する熊岳城蘆家屯出土資料は、当地におけるまとまった資料として重要であり、本業務においてこれを調査しその成果を公開することで、日中韓の考古学界に貢献することができた。

熊岳城蘆家屯出土品は、館蔵の東洋考古の列品の中でも数少ない出土地が明らかな一群でありながら、帰属年代や製作地についてはこれまで詳細に検証されてこなかった。本業務を通じてそれらを明らかにしたことで、修理や展示等へ向けたデータの基盤整備ができた。

11月にはこれらの成果を、論文にまとめ投稿した。2年度の11月からは3号貝墓の調査に着手し、3年度の後半には1号貝墓、そして1号磚墓へと調査を拡充する予定である。

3号貝墓出土
大泉五十銅銭（TJ-3023）分類作業

3号磚墓出土
灰陶奩（TJ-2979）の調査

【備考】調査完了列品件数：35件（TJ-2975～3008, 5824）
撮影列品件数：27件
論文：石川岳彦・市元塁「蘆家屯3号磚墓―館蔵遼東出土資料の研究（1）―」『MUSEUM 東京国立博物館研究誌』第691号、東京国立博物館。3年4月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館が所蔵する東洋考古の列品に対し、帰属年代や製作地について、最新学術成果を踏まえて詳細に解明した。これら研究基盤に立脚し、修理や展示の計画を策定することができた。本研究の公表を通じて、日中韓の考古学の研究交流にも大きく寄与することになった。 当該列品は本格修理が必要なものを多数含んでいる。2年度は、調査と連動して本格修理の検討もすすめたことで、3号磚墓出土品のうち5件の列品について3年度から修理に着手できることとなった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	昭和6年の調査に係る列品は、蘆家屯3号磚墓のほか、1号磚墓、1号貝墓、3号貝墓がある。2年度は、より多くの基礎データを得るために、出土数が最も多い蘆家屯3号磚墓を対象とした。また、中期計画の最終年度として、2年度中に成果を論文にまとめることができた。今後も遼東地方由来のその他の列品について順次調査をしていく計画である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｴ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究

【事業概要】
非常に高度な技術と優れた美的感覚によって製作された平安時代を中心とした仏教絵画の美しさの構造をより深く理解するため、光の当て方も工夫した高精細撮影と、X 線、赤外線などによる各種光学調査を実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】

重要文化財　A-12449
准胝仏母像　観察風景

重要文化財「准胝観音像」(A-11796)、重要文化財「准胝仏母像」(A-12449) に対して、高精細拡大撮影を行った。特に重要文化財「准胝仏母像」(A-12449) については、元年度に行った蛍光 X 線分析による調査で、背景から銀 (Ag) と水銀 (Hg) が検出された箇所を中心に、高精細拡大撮影を行い、その結果、正しく絹表面に水銀 (Hg) を含む赤い顔料があることが確認できた。

これにより、水銀朱と銀による背景表現という、従来、知られていなかった平安仏画の表現についての新知見が得られた。継続的な研究によって、仏画表現に用いられた色使いについて、今までにない成果を上げることができた。

【備考】
調査 3 回、作品 2 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	銀(Ag)と水銀朱(Hg)による表現という、従来想定されていなかった彩色法の存在の確実性を高めることができた。元年度の蛍光X線分析と併せ、仏画の表現を考えるうえで重要な問題を提起することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	5 か年の中期計画の最終年度となる 2 年度は、予定していた館蔵の平安時代・12 世紀の仏画の調査を終え、全体として背景の彩色における銀の使用や、合せ箔や箔に彩色を重ねるなど、色に対する多様で繊細な意識を提示できたことは大きい。よって今中期計画期間全体を通しても、中期計画を遂行できたといえる。 これに続き、3 年度以降も同様に中期計画を推進し、平安時代の 11 世紀の作品である国宝「十六羅漢像」(A-10946・11085 をはじめとして、当館以外の所蔵作品についても視野を広げ、この調査研究を推進するとともに、より多くのデータを蓄積することを目指したい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究

【事業概要】
制作年代がわかる基準作となる作例が比較的多い絵画作品に用いられた絹製品である画絹を中心にして、経・緯の糸の太さや本数の比率、断面形状などを計測し、時代や国、地域による傾向の有無、特徴を抽出する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　沖松健次郎

【主な成果】
(1) 研究の概要
・調査 2 回（10 月 21 日・22 日、3 年 2 月 12 日）
・調査作品数 10 点
(2) 研究の成果
・1 回目は近世の仏画に焦点を絞り調査を実施した。
A-12440 当麻曼荼羅図　神田宗庭隆信筆　天保 7 年(1836)
A-250　毘沙門天像　住吉広当筆　天明 2 年（1782）
A-280　観音変相図　鶴洲霊嚞筆　木庵性瑫・高泉性激・千呆性俊賛　延宝 7 年（1679）38 幅のうち
中央幅・右第一幅（A-280-1,2）
A-743　五百羅漢像　狩野一信筆　江戸時代・19 世紀　50 幅のうち
第一幅・第二幅
いずれも制作年のわかる作例であり、17 世紀末、18 世紀末、19 世紀前半と近世の各時期における基準サンプルを取得することができた。

・2 回目は巻子装の作品を対象に実施した。
国宝　A-10944　一遍聖絵　巻第七　法眼円伊筆　鎌倉時代・正安元年（1299）　1 巻
A-85　四季花鳥図巻　酒井抱一筆　江戸時代・文化 15 年（1818）　2 巻
A-59　北楼及び演劇図巻　菱川師宣筆　江戸時代・17 世紀　1 巻
13 世紀の絵巻と 19 世紀の琳派系作品の基準作となるもの、17 世紀の肉筆浮世絵系作品の 3 作品を対象とすることで、巻子装作品の基準となるデータを整備することができた。また特に、室町時代から江戸時代への絹の組成が大きく変換する 17 世紀の絵画作品について、仏画と世俗画の両方でデータを取得できた。

観音変相図（A-280）調査風景

【備考】
調査 2 回、打ち合わせ 1 回　作品 10 点。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	江戸時代の各時期の基準となるデータが取得できた。近世各時期の基準サンプルとなる室町時代から江戸時代にかけての画絹変遷の見通しが跡付けられ、多大な成果を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画の最終年度に当たり、事業目的に対応した各時期のデータを順調に整備することができた。今中期計画期間全体を通してみても、現状とっている時代とその前後の時代の作例数を順調に増やすことができた。今後はさらに各時期のデータを補強し、この分野の今後の研究の基盤整備が見込まれる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aヵ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　東洋民族資料に関する調査研究

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する約 3500 件の東洋民族列品を対象として調査研究を行い、展示を充実させる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹

【主な成果】
(1) 調査概要
2 年度は、台湾において台湾先住民族資料の調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止にともなう渡航制限のため同調査を見送り、これまでの調査研究の成果を活用した展示を実施した。
(2) 調査の結果得られた知見
当館が所蔵する東洋民族の列品のうち、特にインドネシアの影絵人形であるワヤンの分類・展示活用に資する知見を得ることができた。
(3) 調査研究の成果
これまでの調査研究（主に元年度のプロジェクト「特集『ワヤン―インドネシアの人形芝居―』に関連する調査研究」）の成果に基づき、当館が所蔵する東洋民族列品のうち特にインドネシアのワヤンについて演目に応じた分類を行った。その成果は 2 年度の東洋館の展示「アジアの民族文化　ワヤン・クリ―マハーバーラタの人形たち―」に反映した。また動画配信「オンライン月例講演会『レジェンドを語る』」において展示解説を行うことで、新型コロナウイルス感染拡大の状況における普及活動の工夫に努めた。

オンライン月例講演会におけるワヤンの解説

オンライン月例講演会におけるワヤンの展示風景

※「オンライン月例講演会『レジェンドを語る』」（https://www.youtube.com/watch?v=igntKvXxvwk）より

【備考】
展示期間：恒例企画「博物館でアジアの旅 アジアのレジェンド」（9 月 8 日～10 月 11 日）のうち「アジアの民族文化　ワヤン・クリ―マハーバーラタの人形たち―」（東京国立博物館 東洋館 13 室 7 月 21 日～10 月 11 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・当館が所蔵する東洋民族列品については、中国資料・韓国資料・東南アジア資料・南洋資料・台湾先住民族資料などから構成されている。これらの資料は、東洋館の平常展示及び特集陳列などにおいて展示活用が期待されるため、その分類整理を進めている。 ・従来、ほとんど展示活用されていなかった東洋民族列品については、東洋館リニューアル以降、東洋館の平常展示「アジアの民族文化」や特集陳列などで展示活用されており、展示内容が着実に充実してきている。 ・当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特にインドネシアのワヤンの分類や展示活用に資する知見を得ることができた。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況でもYoutubeなどの媒体を活用し、列品の教育普及につとめた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・3 年度以降は平常展示「アジアの民族文化」における中国少数民族資料、韓国民族資料、台湾先住民族資料などの調査に取り組みたい。 ・28 年度以降、当館の東洋民族資料にちなんだアジア各地の調査を継続しており、2 年度は中期計画の最終年度として、着実に資料の分類整理と展示活用を進めることができた。よって今中期計画期間全体を通して中期計画を遂行できたと判断した。引き続き、この調査を行っていく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-1

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　特集「書と紙－平安時代の美しい紙－」に関連する調査研究

【事業概要】

２年度に行った特集「書と紙－平安時代の美しい紙－」（本館特別１室、９月 24 日 ～ 11 月 23 日）を充実した展示にするための調査研究。平安時代には、美しく装飾された紙（料紙）に詩歌などを能書（書の巧みな人）に揮毫してもらった調度手本が贈り物として作られた。装飾料紙に書かれた書跡について、その見方・美しさをできるだけわかりやすく適切に展示・解説することを目標として、展示作品や関連資料の調査によって、展示手法、展示構成の検討を行う。また、特集にあわせてリーフレットを発行するため、その調査研究も同時に進める。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	書跡・歴史室　恵美千鶴子

【主な成果】

(1) 作品調査（6 月 13 日ほか）

出品作品の調査を実施した。

(2)関連資料の収集（7 月 15 日ほか）

出品作品や関連作品の画像や関連する資料のデータを収集した。

(3)成果とその公開

展示にあわせてリーフレットを作成した。また、「元永本古今和歌集の魅力とその伝来について」ほか関連する論文を発表し、口頭発表「博物館にとっての複製品」（9 月 22 日）も行った。

作成したリーフレット

【備考】

(1) 作品、関連資料調査　調査件数：30 件、画像撮影点数：170 点

(2) 関連資料の収集　収集資料の件数：28 件

(3) 成果とその公開　公開件数：論文 4 件、口頭発表 1 件、リーフレット 1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	一般に「読めない」などと考えられ、書跡作品は展示方法が難しい。したがって、書跡作品の魅力を多角的に紹介することは重要である。そのための基盤となる調査研究を着実に進めることができた。 出品作品のみならず、関連する作品や資料まで幅広く調査できた。また、本特集展示の計画以前から推進してきた調査研究の成果に立脚し、論文で発表することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度は中期計画の最終年度として、以前から継続してきた調査研究を大いに進展することができた。また今中期計画期間全体を通して、着実な調査推進、関連調査の発掘、研究の深化などの成果を論文・口頭発表することもできた。今後もこの問題関心を堅持しつつ研究活動の展望を継続したい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aキ-2

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　特集「大野出目家と越前出目家の能面」に関連する調査研究

【事業概要】

江戸時代に活躍した世襲の面打の家３つのうち、越前出目家と大野出目家の作った能面 23 面を展示し、その歴史をたどる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課長　浅見龍介

【主な成果】

越前出目家と大野出目家に関する資料、論文を収集し、作品と照らし合わせて検討した。越前出目家が後継問題で混乱があること、これまで弟子出目家と呼ばれていた系統が一時越前出目の嫡流となるが、肩書の詐称などで自滅したらしいことなどがわかった。また大野出目家の資料により、幕府御用の面打の代変わり、出家などの時は若年寄の家で行うことがわかった。江戸時代前期から中期にかけての面打の動向を知ることができた。

これらの研究成果に立脚し、総合文化展の特集「大野出目家と越前出目家の能面」（会期：8 月 25 日～10 月 4 日）を企画して、展示で成果を公表した。

能面　孫次郎

出目満長（花押）朱書（和歌山・根来寺）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	能面の研究は活発とは言えない状況で、特に江戸時代の面打について考察する研究は極めて少ない。2年度は、最近発表された研究成果に立脚して調査研究を行い、展示によって新知見を示した。 科学研究費によって能狂言面の調査研究を継続して行い、この成果を反映し、より深めた論文や展示等によって研究成果を公表する予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画期間全体を通して、文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映するという中期計画に沿った調査研究を実施し、成果として展示で公表した。引き続き調査を推進し、逐次その成果を展覧会や学術誌等で広く公表していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aキ-3

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　特集「令和元年度新収品展」に関連する調査研究

【事業概要】
本特集は、元年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開するものである。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部特別展室主任研究員 土屋貴裕

【主な成果】
(1) 調査の概要
・元年度には、購入 11 件、寄贈 28 件、合計 39 件の文化財が新たに収蔵品に加わった。うち本特集では 25 件の文化財を特集展示の中で紹介した。
・新収蔵品のバラエティの豊かさを示すため、絵画、書跡、歴史資料、工芸、考古等の諸分野がバランスよく展示されるよう、作品選定を行った。
・展示にあたっては、書画分野、工芸・考古分野計 4 名でワーキンググループを編成し、作品調査に基づく展示作品の選定、陳列順の検討などを協議した。解説等の執筆にあたっては、収蔵時の調書に加え、新たに調査を行なうことで、充実した内容となるよう努めた。また、展示作品が多様な素材にわたることから、展示照度等も事前に入念に検討し、作品の保存に関しても問題がないよう検討を行った。
・新型コロナウイルス感染拡大防止により対面でのギャラリートーク等が実施できないため、オンライン配信によるギャラリートークを絵画・彫刻室長・沖松健次郎が行った。

平成館企画展示室での展示風景

オンライン配信によるギャラリートークの様子

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本特集は、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介するもので、例年実施している特集である。文化財の収集については寄贈と購入が大きな柱となるが、とりわけ寄贈は、今後ますます求められる点である。本特集では、展示作品の選定や陳列順などについて検討を行い、こうした寄贈制度をより広く知っていただくと同時に、購入された文化財を広く国民に観覧に供することで「文化財の収集」に対する国民の理解を深めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「文化財の収集」及び「文化財の調査研究」という、当館が活動する根幹の事業について、その成果を公表する機会として、意義のある特集を実施することで、中期計画を遂行できた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｷ-4

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　特集「世界と出会った江戸美術」に関連する調査研究

【事業概要】

本特集は、3 年 1 月 13 日～3 月 7 日に開催予定であった特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」の中止を受け、本特別展準備を通して得られた研究成果を公開する場として立案された企画である。

キリシタン関係遺品や蕃書調所などに伝来した館蔵品を中心に、館蔵品・寄託品から、16～19 世紀の日本・ヨーロッパ間の交易を背景に制作された美術工芸品や歴史資料を選んで紹介した。

なお、本事業は「日本博」による助成の対象事業である。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂

【主な成果】

(1) 特集展示

・本特集では、江戸時代の対外交流の多様性や、当館所蔵品がもつ歴史的価値を紹介するため、絵画、彫刻、漆工、陶磁、金工、歴史資料など幅広い分野から、36 件の作品を選定、展示した。

・事前調査を行い、カスティリオーネ画「準回両部平定得勝図」や安田雷洲筆「草花図扇面」など従来活用されていなかった作品を初公開した。

・展示及び保存方法を検討し、一部の作品については展示具の新規作成、装丁の見直しを行った。

(2) リーフレットの作成

・作品を多くの方に知っていただくため、全 16 ページのリーフレットを作成し、館内で無料配布すると同時に当館ウェブサイトから PDF を無料ダウンロードできるようにした。

(3) オンライン・ギャラリートークの配信

・博物館の活動を広く伝え、かつ作品の魅力を紹介するため、ギャラリートーク動画を制作、配信した。会場での案内に加え、作品を詳解する映像を事前に撮影した。

平成館企画展示室での展示風景

オンライン配信のギャラリートーク

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は特別展の代替企画として、特別展のテーマを引き継ぎつつ、当館所蔵品・寄託品に限定して再構成した展示であり、作品選定に当たっては所蔵品の基礎的な調査を行い、従来活用していなかった複数の作品を初公開することができた。また、既知の作品についても展示、保存方法の改善を図ることができた。 また本事業によって得られた知見を公開する工夫として、無料配布のリーフレットやオンライン・ギャラリートーク動画を作成し、展示終了後も本調査研究活動の成果が広く共有できるようにした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、当館業務の基盤的な活動である「文化財の調査研究」の成果を展示、印刷物、動画など、各種媒体を通して公開することができた。これらの成果は、展示、研究、借用など、当館所蔵品の将来的な活用に大いに有益であると同時に、中期計画に沿った事業として順調に推進することができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｷ-5

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　特集「館蔵　珠玉の中国彫刻」に関連する調査研究

【事業概要】
館蔵の中国彫刻で、東洋館リニューアル以降、展示の機会が少なかった作品のうち、中国仏教や道教の特色を示す作品を展示した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課長　浅見龍介

【主な成果】
（1）調査の概要
展示に先立って、以下の事前調査を実施した。
・6 月 23 日　館蔵の陶俑作品の調査
・7 月 6 日　館蔵の東洋彫刻の調査（TC-58 四面龕像、TC-26 如来三尊像、TC-59 菩薩立像、TC-486 如来倚坐像）
・7 月 9 日　館蔵の東洋彫刻の銘文調査（TC-64 龍樹思惟像台座）
・8 月 3 日　館蔵の陶俑作品の調査（TJ-682 加彩男子）
・9 月 28 日～29 日　特集のリーフレット掲載のため館蔵品の新規撮影（TC-64 龍樹思惟像台座、TC-19 菩薩龕像、TC-29 諸仏龕像、TC-26 如来三尊像、TC-57 天尊龕像、C-221 観音菩薩立像(九面観音)(模造)、TC-486 菩薩倚坐像）
・10 月 12 日　寄託品の東洋彫刻の調査

（2）調査の成果
・調査によって得られた知見を反映した特集「館蔵　珠玉の中国彫刻」（会期：12 月 1 日～3 年 2 月 21 日）を開催した。
・本特集のリーフレットを 3,000 部制作し、来館者に無料で配布した。

8 月 3 日の陶俑作品の調査

展示会場風景（本館 14 室）

【備考】
調査回数：6 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国彫刻は新たな収蔵が困難な分野だが、当館にはすでに優れたコレクションがあり、作品の基本情報の公開が待たれていた。館蔵品の中国彫刻のうち、これまで展示される機会が少なかった作品を中心に客員研究員とともに調査を実施し、製作年代や製作地を明らかにすることができた。本特集ではそれらの調査によって得られた知見や成果を反映して開催することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画期間全体を通して、文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映するという中期計画に沿った調査研究や研究成果の報告ができた。次期中期においても引き続き調査を進め、逐次その成果を展覧会や出版物のなかで広く公表していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｷ-6

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　特集「表慶館の建築図面」に関連する調査研究

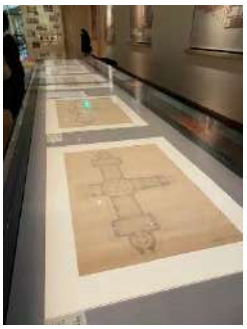
【事業概要】
特集「表慶館の建築図面」の開催準備に当たって、出品予定の作品や関連する文献を調査し、成果を展示に反映する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部保存修復課長 冨坂賢 学芸企画部企画課デザイン室長 矢野 賀一

【主な成果】
・これまで注目されることが少なかった明治後期の建築図面について調査を行い、建築の計画過程など新たな知見を得ることができた。
・12 月 8 日から 3 年 2 月 14 日まで本館 15 室で展示を行った。
・表慶館で開催した特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵―」（会期：12 月 24 日～3 年 2 月 21 日）と連携し、日本建築についての興味関心を喚起するきっかけを提示した。

展示画像１

展示画像２


展示画像３

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査を通じて、館蔵品に関する学術的情報を充実することができた。展示によって、これまで比較的知られることが少なかった明治後期の建築図面の表現や計画の過程、その存在や歴史的意義を周知することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	表慶館造営図面の分類整理やその他の関連資料の基礎的かつ総合的な調査研究を行った。また、本館 15 室でその成果の一部を展示公開し広く一般に公開することができた。以上のことから、今中期計画を遂行できたと言える。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-7

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　特集「博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり」に関連する調査研究

【事業概要】

3 年の干支にちなみ、収蔵品のなかから牛に関連する作品を選定し、人と牛との豊かな歴史を紹介する特集展示である。毎年恒例の正月企画「博物館に初もうで」の一環として実施するもので、担当研究員の調査研究の成果を公開するとともに、収蔵品に関する新たな活用と普及啓発とを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作

【主な成果】

(1) 実施概要

・開催期間及び開催場所：3 年 1 月 2 日～30 日　本館特別 1 室・特別 2 室
・担当者：高橋真作（同上）、福島修（学芸研究部調査研究課）、増田政史（学芸研究部調査研究課）

(2) 主な内容

・絵画・彫刻・工芸の各分野を専門とする計 3 名のワーキンググループを編成し、調査研究に基づいた作品選定を行い、展示構成や陳列順序等について協議した。
・収蔵品の多様性をアピールするため、過去に出陳されたことのない作品や、担当者の専門以外の分野からも多く出陳し、計 60 件の作品を展示した。
・広報及び普及啓発のため、ポスター（B2 サイズ）及びリーフレット（A3 サイズ 2 つ折り）を作成した。
・文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」、『月刊うえの』(WEB)、1089 ブログ等に特集展示の紹介文を寄稿した。
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面でのギャラリートーク等が実施できないことから、オンライン配信によるギャラリートークを高橋が行った。
・オンライン配信の『ニコニコ生放送』に担当者 3 名が出演し、20,000 人を超えるアクセス数を得た。

ポスター

リーフレット

展示風景

ギャラリートーク収録風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年の干支にちなんだ「牛」というテーマを切り口とし、既存の収蔵品に新たな光を当てることで、初公開作品を多数展示するなど、有形文化財の効果的な活用が実現できた。またその成果について、オンライン配信を含めた多角的な情報発信を行うことにより、国内外に広く周知・公開し、作品の理解を深めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	絵画・彫刻・工芸の各専門分野を基軸とした調査研究の成果により、多数の初公開作品を発掘・選定するなど、中期計画を遂行できた。また、中期計画の最終年度として、オンライン配信を中心とする新たな情報発信の取り組みを実施し、有形文化財に関する受容層の拡張と作品への理解を促進できた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aク

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ク　館内調査研究「中近世風俗図の調査研究」

【事業概要】

当館所蔵の重要文化財「月次風俗図屏風」（A-11090）は、31 年度～3 年度の計画で本格修理を実施中である。本事業では、本格修理という機会をとらえて、本図に対して本格的な光学調査を実施し、今後の研究に資することを目的として実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室　主任研究員　鷲頭桂

【主な成果】

（１）調査の概要

・本作品は、修理前の目視での観察でも、絵具層や絵画表現が複雑に重なっていることが確認され、オリジナル部分と後補部分の見分けが困難であった。そのため、修理前に反射赤外線撮影、X 線撮影を行ったところ、大幅な構図変更があったことが判明した。より詳細な情報を得るため、修理過程で本紙が下地の屏風から外され、一部裏打紙が除去される時期を利用して、透過赤外線撮影を実施した（7 月 15 日）。

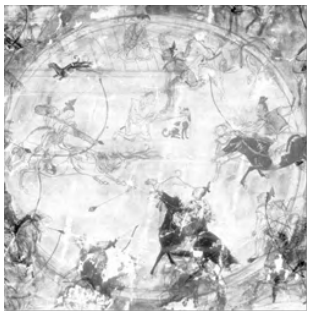
・「月次風俗図」と絵画表現や制作環境の近さが指摘されている、「四季耕作図屏風」（新潟県立歴史博物館所蔵）の赤外線撮影（10 月 20 日～21 日、3 年 3 月 17 日～18 日）及び蛍光 X 線調査を行い、「月次風俗図屏風」と比較するためのデータを収集した。調査は新潟県立歴史博物館の前嶋敏氏とともに実施した。

（２）調査の成果

・「月次風俗図屏風」の光学調査では、表面の絵具層の下に、当初のものと見られる墨線が確認できた。当初は、現在の画面とは異なるモチーフの配置や構図であったが、その後修正されたことが新たにわかった。
また、目視や透過光では判別しにくい本紙と補紙の継ぎ目が透過赤外線調査で確認でき、修理において補紙除去を判断する時に参考となる情報を得ることができた。

・「四季耕作図屏風」も、絵画制作中の変更と推測される、図像や画面構成の修正の痕跡を観察することができた。特に、「月次風俗図屏風」に類似する田楽の表現が本来は描かれていたことなどが確認できた。

新潟県立歴史博物館での調査の様子



月次風俗図（第 6 扇上部）透過赤外線撮影画像

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・「月次風俗図屏風」の図様変更が確認できたことで、本作品のみならず、周辺の中世風俗図をめぐる研究に資する新知見を得ることができた。 ・「月次風俗図屏風」の光学調査により、本格修理に益する情報を得ることができた。 ・3年度、修理完成後に「月次風俗図屏風」の顔料調査（蛍光X線）を行い、類似作例である「四季耕作図屏風」との比較検討を行う計画である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は「月次風俗図屏風」の修理時期に合わせて計画立案し、2 年度は中期計画の最終年度として予定通り光学調査及び分析を実施した。よって今中期期間全体を通して、中期計画を遂行できたと判断した。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B ｱ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア 近畿地区社寺文化財の調査研究 ((4)-①-1))

【事業概要】
京都国立博物館では長年にわたり、京都を中心とした近畿地区の社寺に伝存する文化財の悉皆調査を行ってきた。令和２年度は、大徳寺塔頭の龍光院（京都市北区）に伝来する文化財調査を開始した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	調査・国際連携室長　呉孟晋

【主な成果】
(1) 龍光院の調査は所蔵文化財の悉皆調査として計画されており、８月と３年１月に合計２回実施した。
８月 24 日～28 日（絵画・書跡）：調査点数 140 件
３年１月 25 日～29 日（絵画・書跡）：調査点数 126 件

(2)京都市内では 11 月に瑞泉寺（中京区）でも文化財調査に向けての下見調査を行った。

(3)過去に実施した社寺調査の調書の整理を継続して行い、データの電子化を進めた。

龍光院調査

【備考】
(1)龍光院調査
・龍光院は大徳寺第一五六世の江月宗玩（1574～1643）を実質的な開祖にいただき、近世以降の日本の禅宗史のみならず茶道史の展開においても重要な役割を果たしてきた寺院である。所蔵文化財には江月ゆかりのものも多く、同院での調査は茶道史研究の観点からも意義があるといえる。
・龍光院調査では、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、従来の全研究員参加型ではなく分野ごとの調査とし、少人数で実施した。
・龍光院での調査成果の一部は、３年 10 月にアメリカのサンフランシスコ・アジア美術館が主催し、当館が特別協力する展覧会「Heart of Zen」にて紹介される予定である。
(3)過去の社寺調査データの整理
・新型コロナウイルス感染症感染拡大により作業が滞るなかで、『科学研究費補助金報告書　金剛寺編』（２年１月刊行）の内容を加筆修正に注力した。未調査であった古文書 253 件の調査報告を加え、『社寺調査報告 30』（金剛寺編）刊行に向けて電子データを作成した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	龍光院調査は、年度当初からの新型コロナウイルスの流行拡大により実施は危ぶまれたが、感染状況が比較的落ち着いていた夏に連続5日間の日程で始めることができた。調書は順次、電子化され、悉皆調査終了後には速やかに報告書を刊行できるように整理を進めた。報告書は元年度までの金剛寺調査の完成版刊行の準備を進めたが、年度末にかけての感染再拡大をうけて年度内の刊行は断念した。そのため、年度計画に掲げた目標は一部達成できていないが、過去の社寺の調査データの整備などを計画的に進めたため、年度計画は遂行したと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画にある有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究の一環として、毎年継続して調査を実施してきた。また、当館が立地する京都市内を中心とする寺院の調査も継続的に進めており、近畿において社寺調査のノウハウを着実に蓄積してきたといえる。以上のことから、中期計画を遂行できたと言える。調査成果にもとづく展覧会や特集展示などは、調査の成果を広く紹介するためにも必要と考えており、次期中期計画において実施を検討する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B イ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ 訓点資料としての典籍に関する調査研究（(4)-①-1）

【事業概要】

漢文を訓読するために施された、「訓点」と呼ばれる読みを表すための記号は、時代や地域によりかなりの多様性があり、その大半は経典・漢籍・和書などの典籍にみられる。これらに付された訓点により、とくに古代・中世の日本人がどのように本文を読み下していたか、という日本語の有り様が判明する。京都国立博物館では、「守屋コレクション」に代表される、国内外の良質な古典籍を数多く収蔵することから、それらを中心とする調査研究を行うことにより、得ることのできた成果を展示や講演、及び刊行など、博物館における関連事業へと還元する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長（兼列品管理室長）羽田聡

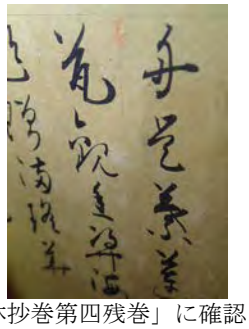
【主な成果】

(1)典籍の研究には、その特質に応じた専門の学識者が不可欠であるため、当館美術室研究員の上杉智英（仏教学）とともに、新型コロナウイルス対策に十分配慮したうえで、計 4 回の調査を実施した。

(2)調査作品は、国宝「日本書紀巻第二十二・巻第二十四（岩崎本）」や国宝「新撰類林抄巻第四残巻」（以上、館蔵品）をはじめ、「紺紙銀字法華経」（寄託品）など、東アジア（日本・中国・朝鮮半島）で書写された古典籍 15 件に及び、今後の研究にも資するよう、全巻撮影を行った。

(3)調査における特筆事項として、「新撰類林抄巻第四残巻」は料紙に斜光を当てたところ、草書で記された本文の脇に、読解した文字を楷書で表す白書が全面にわたり確認された。これらは通常では視認できず、本文の執筆とほぼ同時期、すなわち平安時代前期（9～10 世紀）と考えられる。

(4)こうした成果公開の手段として、展示・講演・刊行を得、とくに 2 年度は『日本書紀』の成立からちょうど 1300 年となるため、当館の所蔵する「岩崎本」「吉田本」という、国宝に指定される 2 つの『日本書紀』を中心に、東アジアで作成された古典籍の優品を展示し、見どころを Youtube でウェブ配信した。



「新撰類林抄巻第四残巻」に確認された白書

「国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍」展示風景

【備考】

・調査回数及び件数　4 回・15 件
・撮影コマ数　約 100 カット
・成果の公開（展示）　平成知新館名品ギャラリー　特集展示「国宝『日本書紀』と東アジアの古典籍」（3 年 2 月 4 日～2 月 28 日、Youtube でのウェブ配信は 2 年 2 月 19 日～現在）
・成果の公開（講演）　羽田聡「二つの国宝『日本書紀』」（京都国立博物館土曜講座、3 年 2 月 27 日）
・成果の公開（刊行）　上杉智英「日本における法蔵『起信論疏』の流伝」（東国大学校仏教文化研究院編『佛教学報』第 94 輯、3 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、2度にわたり発出された緊急事態宣言により、調査の実施を必要最小限に留めたため、元年度と比較すると、その回数及び件数は減じているが、ほかの項目は同等の成果をあげている。あわせて、成果の公開では、展示作品の見どころを Youtubeを利用してウェブ配信し、来館のみによらない博物館の魅力発信という新たな試みを行ったため、所期の目標は達成していると判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画5か年のうち、元年度及び2年度は新型コロナウイルスの影響により、とくに調査回数及び件数は減少したが、一般への発信という点では、展示・講演・刊行において継続的に成果をあげているため、所期の目標は達成できていると判断した。次期中期計画においては、白書や角筆など、通常では不可視の情報を正確に把握、かつ共有する方法を模索し、文化財修理をはじめとする、ほかの事業との連携を図りたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ 旧家伝来の工芸品に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
関西圏を中心に、旧家伝来工芸品の調査を実施することにより、地域の暮らしの在り様を物質的に探るとともに、調査を作品の管理・保存のみならず、寄贈・寄託・貸与に結び付け、博物館の収蔵品と展示の充実を図る。

【担当部課】	学芸部　工芸室	【プロジェクト責任者】	工芸室長　山川　暁

【主な成果】
(1)
・関西圏を中心に旧家の工芸品の調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。
5月　京都市内の旧家2か所にて人形の作品調査、写真撮影を行い、作品寄贈に向けての話し合いを行った。
6月、8月、9月　奈良・京都・愛知・石川にて陶磁の作品調査を行い、保存管理についての助言を行った。
9月　静岡市内旧家、京都市内旧家にて漆工・陶磁の作品調査、写真撮影を行い、保存管理についての助言を行うとともに、作品寄託に向けての準備を行った。
10月、11月、12月、3年2月　石川・京都・岡山・奈良・東京にて陶磁の作品調査を行い、保存管理についての助言を行った。
(2) 成果内容
・旧家伝来品の調査を行い、今後の保存管理に助言を行った。
・所蔵品調査の結果、作品の寄贈を受けた。

【備考】
染織・人形調査　回数2回（調書2件、画像撮影31カット）。
漆工調査　回数3回（調書51件、画像撮影548カット）。
陶磁調査　回数14回（調書219件、画像撮影6,713カット）。
作品寄贈　1件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	関西圏を中心に、戦災の被害が少なかった地域の旧家には、江戸時代から受け継がれる高級工芸品が現在も伝えられている。しかしながら、近年の生活様式の急激な変化により、多くの邸宅や蔵が建て替えられる時期を迎えており、博物館には数多くの調査依頼が寄せられている。本プロジェクトの目的は、それらの調査の要請に応え、旧家の暮らしの物質的な基礎データを蓄積し、研究を進めることである。これまでも日常業務として継続してきた業務ではあるが、プロジェクト化することにより、旧家のかつての生業の聞き取り調査も含め、歴史学・民俗学的な観点からも、美術品をめぐる文化の全体像を把握しようとする問題意識が生まれている。2年度は訪問による調査が難しかったが、可能な限り調査の要望に応じ、寄贈・寄託という形で収蔵品の充実を進めることができた。 以上の実績に基づき、年度計画を達成したと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通じ、着実に調査実績を重ね、基礎データの蓄積を行った。調査の結果当館に作品が収蔵されることで、収蔵品の充実がはかられるとともに、展覧会において活用することが可能になり、研究成果を広く一般にも発信できた。 第5期中期計画においても、本プロジェクトを継続して進め、さらなる成果に結び付けていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｴ

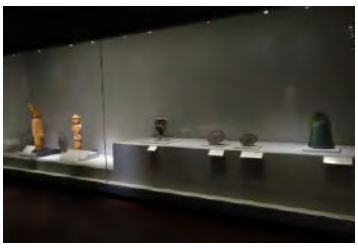
業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧会事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ 京都周辺の考古遺物に関する調査研究（（4）-①－１）

【事業概要】
１．西宮山古墳遺物の整理と研究、２.天台展にかかる延暦寺所蔵考古資料の調査

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅

【主な成果】
1)当館列品を中心に、平常展示(名品ギャラリー)において夏期・冬期(6 月 29 日～9 月 13 日・12 月 19 日～3 年 2 月 28 日)に日本考古分野の通史展示約 50 件を計画し公開した。なお、展示を新型コロナウイルスの影響で充分に行えなかったが、6 月に再開館した際に名品ギャラリーとして、平成知新館１階・金工展示室において短縮した代替展示を行い、借用作品の一部を公開(6 件:6 月 4 日～20 日)した(写真 1)。また、展示品の充実を図るため、土器・武器武具・金属器など各分野の列品修理を実施した。
一方、3 年度に予定している西宮山古墳遺物の特集展示準備として、当館考古部門の列品を代表する兵庫県たつの市の西宮山古墳出土品について写真再撮影及び整理研究を行った(写真 2)。あわせて、元年度から実施している考古相互貸借事業の延長として、たつの市から借用資料の写真撮影や調査(実測製図作業など)を行い、列品関連資料の画像取集に努めた(写真 3)。これらの研究成果は、3 年度特集展示に反映させ、簡易報告書(展示解説兼用冊子)の作成準備を行う予定である。
2)5 年度に予定されている「天台展」に関して、延暦寺国宝殿において山内出土品の調査を行った。


1 名品ギャラリー(代替展示)

2 西宮山古墳出土須恵器(再撮影)

3 西宮山古墳発掘調査写真(スキャニング)

【備考】
1)-1 名品ギャラリー[展示公開]
・考古展示(夏期：6 件・6 月 4 日～22 日[12 日間]、冬期：当館 43 件・12 月 19 日～3 年 2 月 28 日[56 日間])
1)-2 修理
・列品：13 件（弥生土器:4 件、須恵器:6 件、武具１件、武器１件、金銅製装身具１件）
1)-3 借用
・たつの市龍野歴史文化資料館蔵 資料・写真：8 件・50 枚
1)-4 撮影・スキャニング等[調査研究]
・列品　　：60 件
・借用資料：8 件（円筒埴輪・須恵器・土師器・馬具・武器等）
・借用写真：50 枚
2)調査
・比叡山山内出土遺物の調査 10 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	名品ギャラリーの展示公開は、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、夏期展示は場所と期間を変更して通常の館蔵品(考古資料)の代替展示を行うことができた。また冬期展示はほぼ計画どおりに実施することができたことは評価できる。 また、当館蔵の西宮山古墳出土の遺物及び兵庫県たつの市から借用の西宮山古墳出土品の調査に関して、当初計画通り整理作業を進めることができたことは評価できる。したがって、 したがって、年度計画を達成したと判断した。天台展にかかる延暦寺所蔵考古資料の調査…次年度特別展覧会準備として、作品調査を行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、考古遺物の整理・調査によって展示を充実させ、3 年度以降の展示計画を立てることができた。また、相互貸借事業の計画・準備を着実に進め、3 年度以降の平常展示計画を策定すると共に、名品ギャラリーの拡充に関する準備を行うことができた。将来の特別展に関わる作品の調査を行い、その準備を進めることができた. 以上の実績より中期計画を達成したと判断し、Ｂ評価とした。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ 特集展示・特別企画に関連する調査研究

【事業概要】2 年度名品ギャラリーの一環として開催される以下の特集展示・特別企画のために調査研究を実施し、その成果を展示及び関連事業を通じて公開した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　尾野善裕

【主な成果】

(1) 文化財保存修理所開所 40 周年記念 特別企画「文化財修理の最先端」(12 月 19 日～3 年 1 月 31 日)
・元年度までの調査研究成果や図録・文献等による情報をもとに、展示手法や内容を深化させた。7～12 月初旬にかけて、文化財保存修理所において 装潢文化財の修理に関する 各種の作業及び使用材料を実見・調査した。
・展示、刊行図録及び土曜講座により研究成果を公開した。
(2) 仏教美術研究上野記念財団設立 50 周年記念 特別企画「新聞人のまなざし－上野有竹と日中書画の名品－」(3 年 2 月 2 日～3 月 7 日)
・3 年 2 月 1 日に展示室において、「漢書楊雄伝巻第五十七」の調査を実施した。
・展示及び土曜講座「上野家の贈り物－上野コレクションと上野記念財団－」(3 年 2 月 20 日) により研究成果を公開した。
(3) 日本書記成立 1300 年記念 特集展示「国宝『日本書記』と東アジアの古典籍」(3 年 2 月 4 日～28 日)
・3 年 2 月 3 日に展示室において、「新撰類林抄巻第四残巻」の調査を実施した。
・展示及び土曜講座「2 つの国宝『日本書記』」により研究成果を公開した。
(4) 特集展示「雛まつりと人形」(3 年 2 月 9 日～3 月 7 日)
・3 年 1 月から 2 月にかけて、収蔵庫において、御殿かざり雛の調査を実施した。
・展示により研究成果を公開した。

「雛まつりと人形」展示風景

【備考】

(1) 関連事業：文化財保存修理所開所 40 周年記念シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」(12 月 19 日　参加者 100 名)
関連講座：「日本の文化財修理 120 年」(3 年 1 月 23 日　参加者 100 人)
刊 行 物：『文化財保存修理所開所 40 周年記念 特別企画　文化財修理の最先端』解説付き図版目録
新聞掲載：京都新聞「特別企画 文化財修理の最先端」12 月 18 日付、読売新聞「紡ぐプロジェクト」3 年 1 月 7 日付
(2) 関連事業：仏教美術研究上野記念財団 50 周年冊子（仮称）の監修を行った。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響により展示に変更はあったものの、(1)は、我が国の文化財修理事業におけるコア施設として40年の歴史を有する当館保存修理所の事業と、当館研究員の持つ修理への豊富な知見を包括的に展示紹介する初の機会となった。美術史上名高い作品を展示素材として、特別展とさほど遜色ない規模で独自色の強い展示を作ることができた。 また、装潢・彫刻文化財修理の専門用語や基本工程等に関する情報を日・英・中・韓の4言語表記で掲載した、国内外における日本の文化財修理の基礎文献となり得る図版目録の作成、シンポジウムや各種の講演事業、新聞紙面での内容紹介等と併せ、文化財の保護と活用に不可欠な修理に関心の高まる昨今の需要に大きく応えることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	名品ギャラリーの一環として開催される特別企画や特集展示は、干支や「雛まつりと人形」などの毎年恒例の展示と、記念展示やテーマ展示などの時宜に適ったもの年度ごとに計画し、実施している。 新型コロナウイルスの影響による変更は一部あったものの、中期計画期間を通じて、概ね予定していた調査研究を実施し、展示及び関連事業に反映することができた。 次期中期計画においても、本中期計画期間と同様に計画的に調査研究を進め、展示や関連事業に反映していく。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bカ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧会事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ 考古相互貸借及び特集展示「丑づくし」にかかる調査研究((4)-①-1)
【事業概要】考古資料相互活用促進事業の実施に併せて、貸借資料等の調査研究を実施した。	
【担当部課】 学芸部考古室	【プロジェクト責任者】 特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅

【主な成果】

2年度考古資料相互活用促進事業(以下、考古相互貸借)として、大分県立歴史博物館、福岡県立九州歴史資料館、大阪府高槻市立今城塚古代歴史館と考古資料の相互交換による展示を行い、併せて以下の貸借資料の共同研究を行った。

・当館借用資料X線CT調査3件（京都国立博物館、11月17日～18日）
　大分県立歴史博物館所蔵品2件（金銅仏、須恵器）
　高槻市立今城塚古代歴史博物館1件（弥生土器）
・当館貸与資料撮影・実測調査(大分県立歴史博物館、12月1日～2日)

西宮山古墳出土　須恵器（上）
土師器（下）
（修理前・修理後）

また、考古相互貸借の列品活用準備のために当館の西宮山古墳出土資料の修理を実施した際に、修理前後の撮影を行い、列品画像の整備を行った。また、展示のために借用資料にクリーニング等の応急修理を実施した際に撮影を行うことで借用資料の画像収集にも努めた。

なお、本事業に伴う列品整理(接合等)・修理(強化・復原等)の成果を安全に維持・保管するために、文化財用保存用木箱の作製と燻蒸を行った。

【備考】

1)当館での成果公開
・名品ギャラリー・特別公開「九州と近畿の弥生・古墳時代-弥生土器の成立と埴輪・須恵器-」
（夏期（※）:6件・6月22日～7月4日[12日間]、冬期:43件・12月19日～3年2月28日[56日間]）
※6月29日～9月13日を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で会期を変更した。
・新春特集展示「丑づくし－干支を愛でる－」(12月19日～3年1月31日）でも借用資料の一部を展示
・土曜講座「牛と日本人」(3年1月16日)
・土曜講座「九州と近畿の弥生・古墳時代-弥生土器の成立と埴輪・須恵器-」(3年2月13日)
2)列品貸与：28件(大分県立歴史博物館:16件、福岡県立九州歴史資料館:6件、高槻市立今城塚古代歴史館:6件)
3) 修理・保管関係［列品整備］
・列品修理：3件（須恵器）
・文化財保管用木箱製作：20ケース

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当該の考古相互貸借事業は、新型コロナウイルスの影響をうけつつも、年度計画の目標のとおりほぼ実施できたことは評価できる。本事業は当館の考古平常展示場の質を高め、埴輪や弥生土器の展示が多くの来館者の興味を引いた点が重要であり、貸与先である大分県・福岡県・高槻市での作品の展示公開は、里帰り考古資料に関する地元メディアを中心とした関心を喚起し、広く文化財に関する認識を高めることができた。 したがって、年度計画を達成できたと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	考古相互貸借は、中期計画期間中途からの新規事業であったが、元年度に引き続き大分・福岡・大阪府高槻市から借用した考古資料の調査を行い、展示に活用・活性化できたことは評価できる。 2年度の考古相互貸借事業の状況を踏まえて、3年度においては愛媛県・徳島県・大阪府柏原市との相互貸借事業の実現に向けて作業を進める予定である。また、将来的な充実に向けて当館の考古遺物の調査及び修復作業を着実に進める。西日本の府県を中心に相互貸借事業を進めるという当該の実施状況としては堅実であり、中期計画期間を通じ、目標を達成できた。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア 復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究((4)-①-1)

【事業概要】
仏教絵画の制作当初の姿を復元的に描く模写制作に際し、現状では変色や剝落によって肉眼の観察のみでは判別できなくなっている料絹・料紙や顔料などの素材について、事前に高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等を用いた光学的調査を入念に実施し、そこで得られたデータを模写制作に活用・公開する

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】
２年度は新型コロナウイルスの流行のため、８月末まで外部職員・学生を受け入れての調査はかなり制限されたが、下記の成果を挙げることができた。

(1)愛知県立芸術大学が進める吉備大臣入唐絵巻復元模写制作の基礎資料を提供するために、同時代作品である信貴山縁起絵巻の料紙調査を実施した（7 月 27 日)。調査にあたっては、東京文化財研究所と当館の共同研究報告書『朝護孫子寺蔵　国宝　信貴山縁起絵巻　調査研究報告書－研究・資料編－』の成果を参照した。

(2)東京藝術大学大学院生による信貴山縁起絵巻模写制作のため、同絵巻山崎長者巻の原本熟覧及び手板色合わせ等の調査を 1 度実施した（9 月 24 日)。同模写制作にあたっては、東京文化財研究所と当館の共同研究報告書『朝護孫子寺蔵　国宝　信貴山縁起絵巻調査研究報告書－光学調査編－』『同報告書－研究・資料編－』の成果に基づき使用する顔料の検討を重ねた。

愛知県立芸術大学による信貴山縁起絵巻料紙調査

【備考】
調査回数：2 回（7 月 27 日：愛知県立芸術大学調査、9 月 24 日：東京藝術大学調査）
調査作品数：2 件（信貴山縁起絵巻山崎長者巻 1 巻、信貴山縁起絵巻尼公巻 1 巻）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの流行のため、5月に計画していた調査が中止になるなどの計画変更はあったものの、愛知県立芸術大学・東京藝術大学による復元模写制作のため、平安絵巻作品の熟覧・色合わせ等の作品調査の実施とともに、当館が撮影した高精細カラー画像・近赤外線画像及び当館と東京文化財研究所との共同研究による光学的調査の成果を提供した。その結果、平安絵巻の復元模写の精度の飛躍的な向上が可能となり、模写制作を通じて得られた当該文化財の顔料・基底材等の知見を蓄積することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画最終年度にあたる2年度は、吉備大臣入唐絵巻及び信貴山縁起絵巻という平安絵巻を代表する名品について復元模写を制作し、愛知県立芸術大学及び東京藝術大学とともに精度の高い光学的調査・熟覧を実施し、その成果に基づいて研究会等を重ねながら彩色・料紙等の復元的考察を加え、着実に復元模写制作に寄与することができた。中期計画期間を通し、芸術系大学による復元模写制作に積極的に寄与しつつ、調査を通じて得られた文化財の基礎情報を蓄積できたため、中期計画の目標は達成できたといえる。こうした取り組みを次期中期計画でも継続し、模写制作やその前提となる調査を通じて得られる基礎情報を蓄積していくことで、絵画作品を中心とする文化財の素材研究に大きく寄与することが期待できるだろう。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ　古代の写経と聖教に関する基礎的研究（(4)-①-1)）

【事業概要】我が国には、寺院を中心に古代の写経や聖教が数多く伝来している。それは、人文科学全般にとって重要な研究資料であるが、たとえば文学作品や歴史書、古文書などに比較すると、仏教学以外の分野での資料としての利用が低調である。本研究は、当館の主要な蔵品である古代の写経と聖教を基軸に、文化財学的な立場から資料を調査し、多分野での利用に堪える基本情報の提示を目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　野尻忠

【主な成果】

(1) 写経の調査

・當麻寺（奈良県葛城市）所蔵経巻の調査会（会場：奈良文化財研究所）に、職員 3 人が参加した（8 月 7 日・12 日・14 日）。調査の過程で、今回対象の一群の経巻は、院政期（12 世紀）の書写であることが分かった。

・当館寄託で個人蔵の「法華経一品経（久能寺経）薬草喩品第五」を、材料科学の専門家とともに調査した。使用されている絵具のうち、界線に使用されている金色は、蛍光 X 線分析の結果、真鍮であることが確かめられた。

・某寺所蔵の「仏名経」を調査し、奥書にある「安元元年」銘が当初のものであること、よって本品が平安時代（安元元年は 1175 年）の貴重な写経遺品であることが判明した。

(2) 聖教の調査

・談山神社より寄託の「談山神社本殿造営図並所用具図」12 面のうち 6 面を、建築史学や中世史学の専門家とともに調査した（6 月 15 日）。

・仁和寺聖教調査（文化庁主宰）に職員 3 人が参加した（7 月 29～31 日、3 月 24～26 日）。

・館蔵の「浄蔵法師伝」につき、古代史学の専門家とともに調査した。国立歴史民俗博物館所蔵写本との文字の異同などが指摘された（11 月 6 日）。

・館蔵の「華厳経十重唯識瑞鑑記　巻第四」を仏教史学の専門家と調査し、僚巻に関する重要な情報を得るとともに、紙背文書の位置づけについて、さらなる検討が必要であることが分かった（12 月 25 日）。

(3) 紙素材文化財一般の調査

・興国寺（和歌山県由良町）より寄託の「興国寺文書」について、和歌山県の地域史に詳しい専門家とともに調査し、至一なる僧の活動について議論を深めた（9 月 2 日）。

・個人蔵の「八島廃寺伽藍絵図」を実見する機会があり（9 月 4 日）、奈良の地域に縁の深い文化財と捉え、周辺史料を含めて調査した。

(4) 研究成果の開示

・上記の調査や、元年度までに蓄積された研究の成果は、個別に摘記した事項に反映されたほか、平常展の展示解説（題箋）、「第 72 回正倉院展」や特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」といった展覧会の図録、それに会場パネル等で公表した。

【備考】

・野尻忠「奈良国立博物館所蔵『華厳経』巻第七十（紫紙金字）について」（小口雅史編『古代東アジア史料論』、同成社、6 月 30 日）等の論文 4 件で、研究成果を発表。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度も、展覧事業の合い間を縫い、機会を捉えて古代・中世の写経や聖教を調査し、基本情報を収集することができた。某寺所蔵「仏名経」のように、思わぬところから平安時代の写経が見出される一方、国宝に指定され著名な「法華経一品経」でも、使用材料について新たな知見が得られるなど、日常的な文化財調査は多彩な成果を上げている。他分野の専門家から意見を伺う機会も多く設けており、研究の進展に有効である。研究成果の公表も4件と堅調。他方で、30年度から着手している金字経の研究については、2年度は積極的に識者を呼んだり、調査に赴いたりすることができなかったため、本格的な研究は3年度以降に持ち越しとなった。以上を総合的に判断し左の評価とする。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	有形文化財の調査と研究は、順調に実施できた。調査により得られた知見は、展示会場や出版物における解説文等に反映できており、中期計画に掲げる調査・研究成果の展覧事業への反映については、着実に実施できたと言える。従来、書道史の分野以外では研究対象になりにくかった写経、あるいは全般に注目度の低かった聖教は、近年、たとえば歴史学等においても研究資料としての重要性が認識されるようになっている。この方向性を堅持し、さらに関心を高め、原品の保管環境への理解を深めていくことが当館の使命であり、そのためにも、調査と研究の成果は積極的に公表する必要がある。次期も現在の体制を継続し、さらに充実させていかなければならない。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査（(4)-①-1）

【事業概要】

仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表する。対象は館蔵品、寄託品、一時預かり品をはじめ、展覧会等に際して借用した作品、他の機関、社寺等が所蔵する作品にも及ぶ。また、展覧会の出品候補となる作品や、当館のある奈良周辺の文化財など、各所の文化財についても積極的に調査を実施し、基礎情報の蓄積に励む。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　内藤　栄

【主な成果】

2 年度は新型コロナウイルスの流行のため館外での調査、外部職員を受け入れての調査はかなり制限されたが、下記の成果を挙げることができた。

(1)館蔵品・寄託品の調査

・寄託品の国宝・天寿国繡帳（奈良・中宮寺所蔵）、藤田美術館所蔵の古代裂の染料調査を、宮内庁正倉院事務所職員の協力を得て実施した。(3 年 1 月 15 日)

(2)調査報告

・科学研究費助成事業（基盤研究 C)「染織技法による仏像」における調査報告、考察を、奈良国立博物館研究紀要に発表した。(7 月)

(3)共同研究

・共同研究「聖衆来迎寺所蔵重要文化財鋳銅三具足の制作技法に関する研究」(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共同研究）に関わる調査において、元年度の光学調査の成果を実物と対照させる作業を行った。3 年 2 月 16 日)

・奈良県教育委員会より調査依頼を受けた當麻寺西塔発見舎利容器について、教育委員会担当者との共著で論考を発表した。(12 月)

(4)展覧会に合わせた調査

・よみがえる正倉院宝物展に出陳される作品調査を実施した。(4 月)

(5)経常調査・その他の調査

・修理寄託中の文化財について X 線 CT 撮影、写真撮影、顕微鏡調査を実施した。修理中の刺繍善導大師像（當麻寺念仏院所蔵）の材料について、奈良県立橿原考古学研究所研究員を招いて調査を行った。(12 月)

・寄託品の金工品について X 線 CT 撮影を行った。(8 月、12 月)

修理中の刺繍善導大師像裏面
（當麻寺念仏院）

【備考】

・客員研究員・調査員による調査 6 回実施した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの流行により館外調査は実施できなかったが、所蔵品と寄託品の調査・研究に関しては充実した。また、以前調査を行い報告されていない分をまとめて報告した。 研究成果の報告のうち、古代染織の染料に関する報告は近年の新しい調査方法が開発されたために実現できたもので、最新の科学調査である。今後、館外にある作例に関しても情報を蓄積することで、興味深いデータを得ることができると期待される。 また、共同研究「聖衆来迎寺所蔵重要文化財鋳銅三具足の制作技法に関する研究」は 3D 画像撮影を利用した複製制作事業であり、今後の博物館資料の方向性を考える上で重要な意味を持っていると考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の最終年度として、順調に調査を実施し、成果報告も行うことができた。この 5 年間の研究は、X 線 CT 撮影など最新の科学調査が導入された点に大きな特徴がある。この調査は館外からの依頼に応えて実施することもあり、国立機関としての役割を果たすことができた。調査の成果は専門家向けの論文に留まらず、展覧会で公表することに努め、博物館活動に対する一般の興味を喚起することに貢献した。また、資料の収集や寄託品受入にも活用し、当館のコレクション充実にも直結した。以上から、所期の目標を達成していると判断した。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C エ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ　墳墓出土品の調査研究（(4)-①-1）

【事業概要】
当館蔵の墳墓出土品の学術調査を通じて展示活用や研究発信に貢献する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　吉澤悟

【主な成果】
(1)大和天神山古墳出土品の調査
元年度に引き続き、大和天神山古墳（奈良県天理市）出土品（銅鏡 23 面、当館蔵、重要文化財）の調査を行ったが、新型コロナウイルスの影響により実測等の実働を伴う作業は見合わせた。その代わり、本調査と連動する島根大学法文学部岩本崇氏の科研費研究「器物の『伝世・長期保有』・『復古再生』の実証的研究と倭における王権の形成・維持」において、リモートによる研究会を開催し、古墳時代の遺物の長期・短期間伝世の問題を検討した。
(2)珠城山古墳出土品の再検討
珠城山古墳（奈良県桜井市）から出土した馬具や土器・埴輪類（当館蔵）は、6 世紀の大和王権の伸張や物資流通を考える上で極めて重要であり、近年類例の発見により研究者の注目を集めている。発掘調査後 50 年を経て、新たな位置づけが必要なため、当品に強い関心をもつ研究者を集め、再実測、再整理を始めた。作業環境に配慮しながら、事前打ち合わせを含めて 3 回の検討会・整理作業を行った。
(3)行基墓誌断片の調査の論考作成
元年度に東大寺で開催された第 18 回ザ・グレートブッダ・シンポジウム「東大寺と行基菩薩」にて発表した内容をもとに、新たな知見も加えた論考を作成した。
(4)忍性五輪塔出土品の調査
鎌倉時代の律僧、忍性の遺骨は三分され、鎌倉・極楽寺、大和・額安寺、同・竹林寺にそれぞれ納められた。今回は大和の二つの忍性墓から発見された骨蔵器の詳細な調査を行った。なかでも X 線 CT スキャン調査によって骨蔵器の高台部に隠された未知の銘文を発見するなど、大きな成果が得られた。当館研究紀要にその報告を行い、さらに名品展にて成果の一部を公開した。

忍性骨蔵器の展示（手前に調査成果を提示）　当館 名品展（2 年 12 月～）にて

【備考】
成果発表は以下の通り
・吉澤悟「行基墓誌断片からみた「行基集団」について」『ザ・グレートブッダ・シンポジウム論集第 18 号』法藏館　12 月 25 日発行
・吉澤悟「二つの忍性骨蔵器－大和・額安寺と同・竹林寺出土の銅製骨蔵器の調査－」『鹿園雑集』第 22 号 奈良国立博物館　7 月 31 日発行

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵品及び寄託品の墳墓出土品に関して、古墳時代から中世まで幅広く、積極的な調査・研究を進めることができた。特に古墳出土品の調査に関しては、館外の専門家たちとの連携を取りながら遺物の再実測・再検討を行い、報告書を発行してきた過去の実績（『五條猫塚古墳の研究』当館、27年）にならうものであり、将来的に大きな成果が期待される。また、忍性骨蔵器の研究は、新たに発見した銘文の解釈をめぐって専門家の議論が俟たれるところである。関連調査を継続しており、3年度以降にも成果を発表して行く予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通し、当館の所蔵品・寄託品を中心に積極的に調査・整理を行い、研究発表会や報告書、展覧会等でその成果を発信することができた。中期計画の最終年度である2年度は、特に仏教的墳墓資料の調査に力を注ぎ、新発見を含む大きな研究成果を挙げた。以上から、所期の目標を達成していると判断した。次期中期期間においては、これまでの実績を踏まえ、さらに調査対象を広げ、研究基盤の拡充を図りたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧会事業・教育普及活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（(４)-①-１）

【事業概要】
展覧会開催に際して借用した作品や館蔵・寄託作品、また館外の寺社等の作品のなかから、南都地域（奈良市及びその周辺地域）伝来もしくは南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品を選び、詳細な調書の作成とデジタル高精細画像の写真撮影やX線CTスキャン調査を通じ、データの収集・蓄積を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長　岩井共二

【主な成果】
(1)館内外において多数の作品の調査・撮影を行った。作品名は下記のとおり。
(2)調査を通じて重要な学術的知見を得ることができた。
(3)特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、講座等における報告、また論文等刊行物のかたちで新知見の発表を行った。一部については、3年度の刊行物に発表する。
[作品名]
峰定寺阿弥陀三尊像（5月21日）／大智寺文殊菩薩像（6月1日）／成福寺聖徳太子立像（6月5日）／浄土寺阿弥陀如来立像（7月10日）／法隆寺上御堂釈迦三尊像（7月16日）／東大寺文殊菩薩騎獅像（8月6日）／見徳寺薬師如来坐像（8月12日）／金竜寺菩薩立像（8月12日）／法起寺如来立像（9月1日）／両讃寺薬師如来立像（9月26日）／館蔵蔵王権現立像（9月29日）／館蔵仏像背板（9月29日）／金剛寺阿弥陀如来坐像（10月5日）／個人蔵阿弥陀如来立像（10月5日）／法隆寺薬師如来坐像（金堂）（11月5日）／法隆寺四天王立像（金堂）（11月5日）／藤田美術館伎楽面（11月6日）／藤田美術館菩薩立像（興福寺千体仏）（11月6日）／十市町自治会地蔵菩薩立像（11月18日）／法隆寺観音菩薩立像（救世観音）（11月25日～27日）／金峯山寺金剛力士立像（12月7日～2月1日）／玉峰寺薬師如来坐像（12月10日）／談山神社背男立像（12月14日）／聖林寺十一面観音立像（12月24日）／法隆寺五重塔塔本塑像（3年3月1日）

【備考】
成福寺、法隆寺、見徳寺所蔵の彫刻調査の成果及び撮影写真は、3年度開催の「聖徳太子1400年遠忌記念　特別展聖徳太子と法隆寺」（3年4月27日～6月20日）の図録や会場パネル等の作品解説で公開する予定。金竜寺、金峯山寺、金剛寺、玉峰寺所蔵の彫刻調査結果については、『なら仏像館　名品図録2021』（3年2月刊行）にその成果を紹介した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査の成果は、3年度開催の特別展の展示解説などに反映させるための貴重な資料の集積となった。調査方法は、実測、撮影、3D計測、X線CTスキャンなど多岐にわたる。また、これらの調査には、展覧会輸送の事前点検も含まれ、文化財の安全な活用に資する成果を多分に含んでおり、3年度の特別展、特別陳列のみならず、講座等にも反映させることができる。特に、成福寺、法隆寺、見徳寺所蔵の彫刻調査の成果及び撮影写真は、3年度開催の「聖徳太子1400年遠忌記念　特別展　聖徳太子と法隆寺」（3年4月27日～6月20日）の図録や会場パネル等の作品解説で公開ができる予定である。 2年度前半は新型コロナウイルスの影響により、調査の延期や中止があったが、最終的には所期の目標を上回る成果が得られたといえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画期間を通し、南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、X線CT等の光学的修法による調査を行い、データの収集・蓄積に十二分の成果をあげることができた。 特に、中期計画最終年度となる2年度は、新型コロナウイルスの影響により前半は事業が思うように進まなかったものの、大智寺文殊菩薩像については、名品展で公開し、リーフレットで調査研究の成果を公開することができた。また、像高5mに達する金峯山寺金剛力士像については、なら仏像館への搬入展示のために、像本体の綿密な調査と、展示台の設置方法について長期に渡り研究・検討を進めたため、彫刻分野における大型の文化財への安全性に配慮した展示活用ノウハウについて飛躍的に蓄積でき、実際に展示公開することができた。このように、中期計画の5年目として、研究成果の展示・公表・蓄積に着実に取り組んだといえる。 以上より、所期の目標を上回る成果をあげることができたため、A評定とした。 次期中期計画期間は、例年同様のペースで調査・撮影を進めつつ、新たな研究成果を発表できるよう努めていく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cカ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ　東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】

東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づいて、当館が所蔵及び保管する仏教絵画を中心とする美術作品について、高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器など最新の光学機器を用いた文化財調査を実施し、併せてデジタルコンテンツの作成を行うものである。上記の調査を通じて、色料や基底材など作品に用いられる素材の情報や、制作技法に関する情報、補彩・補絹など補修箇所に関する情報を大量・精緻に蓄積し、報告書等でその成果を広く公表することで、美術史的研究や将来の修理に資することも視野に入れている。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 元年度末に刊行した共同研究の光学的調査に関連した報告書『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝信貴山縁起絵巻 調査研究報告書－研究・資料編－』を国内外の大学・研究機関に頒布し、最新の研究成果を広く公開・共有した。

(2) 藤田美術館所蔵絵画作品の高精細デジタル画像撮影調査を合計 7 日間実施し、各作品の法量・銘文・所見等の基礎情報を蓄積し、目録作成に向けて準備を進めた。

(3) 奈良文化財研究所と「公益財団法人藤田美術館所蔵仏像彩画円柱」共同研究の覚書を交わし、藤田美術館所蔵仏像彩画円柱 3D 計測を伴う光学的調査を合計 4 日間実施した。

藤田美術館所蔵絵画作品調査（12 月 16 日）

【備考】

調査回数　藤田美術館絵画作品調査 7 回（10 月 5 日、11 月 2 日、12 月 15・16 日、3 月 17・18・29 日）、藤田美術館所蔵仏像彩画円柱調査 4 回（1 月 27 日、2 月 3・4・17 日）　調査作品数　合計 125 件
刊行物送付件数　『信貴山縁起絵巻調査研究報告書－研究・資料編－』400 件（国内 353 機関、海外 47 機関）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づく元年度末刊行の報告書『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝　信貴山縁起絵巻 調査研究報告書－研究・資料編－』を国内外の大学・研究機関に広く頒布した結果、最新の研究成果が高く評価された。また同共同研究の一環として藤田美術館所蔵絵画作品の全件について光学調査を着実に進め、基礎資料を着実に蓄積することができた。さらに奈良文化財研究所とも新たに共同研究の覚書を交わし、近年当館開催の特別展「国宝の殿堂藤田美術館展」で初公開された仏像彩画円柱について光学的調査を実施した。その成果は3年度以降に建築史的所見を盛り込んだ成果報告書にする予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通し、国立文化財機構内の他の研究機関と協力して調査等を着実に実施し、とりわけ16年度から協定を結んで進められてきた東京文化財研究所とは、継続して光学的調査を共同で進めた。特に、中期計画最終年度となる2年度においては、中期計画当初から東京文化財研究所と調査及び編集・刊行作業を進めていた平安絵巻に関する報告書を広く公開し、今後の平安絵巻研究に資する最新の成果を国内外の研究機関と共有することができた。また、東京文化財研究所・奈良文化財研究所との共同研究として藤田美術館絵画作品の全件調査を進め、美術史研究や建築史研究に資する基礎情報を蓄積することができた。以上から、中期計画の目標は十分に達成できたといえる。 次期中期計画においても、引き続き既に実施した調査成果の公開や、新規の調査対象について機構内の共同研究を継続し、更なる進展を図りたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cキ

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1) 収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術　〔神鹿の造形〕」に関する調査研究 ((4) -①-1)

【事業概要】
春日大社摂社若宮社の祭礼であるおん祭の歴史・伝統と、春日信仰に関連した美術作品を紹介する展覧会

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品室長　中川あや

【主な成果】
(1)春日若宮御祭礼絵巻の全巻公開
本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、春日大社でのおん祭が規模を縮小しての実施となったことに鑑み、おん祭の祭礼の次第を詳細に伝える春日若宮御祭礼絵巻（江戸時代、春日大社蔵）の中下巻を広く展示し、あわせて上巻の全場面パネル展示を行うことで、近世の祭礼の全体像を体感できる展覧会とした。また、図録においても、出陳された中・下巻に関して、全場面の画像を掲載した。
(2)未紹介作品の公開
本展に出陳された 45 件のうち、「春日鹿曼荼羅」（個人蔵）2 件、「神鹿鞍」（春日大社蔵）1 件については、展覧会における公開が初となる作品であり、図録への掲載も含め、本展を通じて広く紹介することができた。また、これらの作品については調査と写真撮影を行い、今後の研究に資するデータを蓄積することができた。
(3)神鹿に関わる作品の収集
春日信仰に関連した美術作品として、神鹿を表した、または神鹿に関わる絵画作品、工芸作品を集めて紹介した。また、神鹿をテーマとした公開講座を開催し、春日信仰における神鹿の意味について発信する機会を設けた。
(4) (1) ～ (3) の観点を盛り込むことにより、2 年度の「おん祭と春日信仰の美術」展を、時代に即しつつ、過去の同展とは異なる、独自性の強い展覧会として結実させることができた。

（展示風景）

【備考】
・調査：春日大社　1 回
・論文等：中川あや「おん祭と春日信仰の美術-特集　神鹿の造形-」（特別陳列『おん祭と春日信仰の美術』図録　展示概説、奈良国立博物館　12 月）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（12 月 8 日～3 年 1 月 17 日、奈良国立博物館東新館）
・公開講座「春日大社と神鹿の造形」（3 年 1 月 9 日）講師：渡邉亜祐香氏（春日大社国宝殿学芸員）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展は春日大社の伝統行事「春日若宮おん祭」を、文化財を通じて紹介する例年の展覧会であるが、2年度は祭礼の規模縮小に即した展示内容とした。また、過去に公開履歴のない作品を複数出陳し、図録に掲載した画像や解説等を通じて、従来あまり知られていなかった文化財の存在や意義を広く公表することができた。さらに、例年の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の特集は祭礼の一部を取り上げたものが多かったが、2年度は春日信仰の美術における神鹿に焦点を当て、新たな視点で展覧会を構成することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」は、平安時代以来の長い歴史を持ち、重要無形民俗文化財である「春日若宮おん祭」の歴史と、春日大社に対する信仰をあわせて紹介する展覧会で、毎年新たな切り口を見出し、展覧会を通じてその多様な魅力、歴史・文化における重要性を紹介してきた。当中期計画期間において、「奈良奉行所」「社家史料」「大宿所」「絵師」「神鹿」と多岐にわたる特集を通じ、おん祭と春日信仰に関する文化財の多角的な調査・研究を進め、公開につなげたため、中期計画を充分に遂行することができた。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cク

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ク　特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
重要文化財 旧帝国奈良博物館本館の附として伝わる「内匠寮奈良博物館建築工事図面」ならびに宮内庁宮内公文書館が保管する『京都及奈良博物館建築工事録』に関する調査研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	情報サービス室長　宮崎幹子

【主な成果】
(1) 建築史研究者との協働による初めての全面的な調査
「内匠寮奈良博物館建築工事図面」について、建築史研究者（京都女子大学、東京工業大学）の協力を得て初めて悉皆的な調査が行われ、近代建築としての歴史的意義や技術的な創意工夫が明らかとなり、建築や史料の文化財的価値が再認識された。
(2) 博物館建設と誕生の過程の解明
『京都及奈良博物館建築工事録』の翻刻が行われ、建設の体制や工事の進捗などの歴史的な事実が多数判明した。
(3) 史料の初公開と図録の刊行。
上記の成果をふまえて特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」を開催した。7 件 37 点の出陳作品のうち、5 件 35 件は初公開である。建築をテーマとする展覧会の開催は当館では初めての試みで独自性が高く、また図録には当館担当者と建築史研究者による論文を 3 本掲載し、展示と共に学術的にも高い評価を得た。会期中の入館者数は 1 万 2 千人を超え、コロナ禍に開催された展覧会としては高い水準に達したといえる。

調査風景

展示風景

【備考】
調査　奈良国立博物館 9 回、宮内庁 1 回、東京大学 1 回、奈良県立図書情報館 1 回
論文等　『帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―』奈良国立博物館、3 年
特別陳列　「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」奈良国立博物館　3 年 2 月 6 日～3 月 21 日
公開講座等　宮崎幹子「ニコニコ美術館」3 年 3 月 8 日放映（約 2 万人視聴）
宮崎幹子「帝国奈良博物館の誕生―人と建築―」奈良国立博物館　3 年 3 月 13 日（90 名聴講）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	設計図、工事録はともに近代建築史研究における重要史料だが、これまで詳しく紹介される機会が無く公開が俟たれていた。近代建築史ではこれまで様式研究が主体であり、材料や技術、工法、体制などの実態に即した研究は少なかった。今回の研究と展覧会の開催は、設計図と工事録、そして建築の実査にもとづいた極めて実践的なもので、成果の公表はこの分野における研究の進展に大きく寄与したといえる。また、当館の観覧者は仏教美術の愛好家が大半を占めているが、今回は建築史の大学研究室や建築系展覧会を開催する美術館・博物館にも積極的に広報し、新たな観覧者の獲得にも繋がった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に基づき、中期的な視野に基づいたプロジェクトテーマを設定することができた。2 年度の研究対象である重要文化財 旧帝国奈良博物館本館（現在のなら仏像館）は、日本近代建築の黎明期を代表する作品であり文化財的価値が高い。この建築をメインテーマとした研究を実施し、その成果として展覧会を開催することは、わが国の文化財の多様性を示し、価値の再評価へと繋げるもので、広く文化財保護の理念に通じるものである。また、今回の研究と展覧会の開催は、日頃の地道な研究が実を結ばせた点も評価でき、所期の目標を上回る成果を得られたといえる。ただし、会期とスペースの都合から、設計図全 241 枚のうち公開できた図面は 33 枚にとどまったため、今後も継続して調査を実施し、報告書の刊行や展覧会の開催などにより、全貌の公表に尽力したい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　X 線 CT スキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究（(4) -①-1)）

【事業概要】
X 線 CT スキャナ、3D デジタイザ等を使用し各種有形文化財の構造及び技法を調査し、その成果を展覧事業及び教育普及活動に資する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】

(1) 展示関連作品の調査

展示のために借用した仏像、漆工品、考古資料等について、X 線 CT スキャナによる非破壊調査も同時に実施し、構造技法及び保存状態を確認した。徳川美術館所蔵「国宝 初音の調度」を調査した結果、木地には良質な一枚板が使用され、亀裂や虫損等は認められず健全な状態にあることが分かり、板の接合方法や布着の様式等が明らかになった。また、福岡県勝浦峯ノ畑古墳の大刀については、内部構造を捉えた CT 画像をパネル上で実物と共に展示し、見比べることができるようにした。さらに、「国宝　観世音寺梵鐘」の 3D デジタイザによる表面形状並びに蛍光 X 線分析を実施し、製作技法の調査を行った。

梵鐘の調査風景

(2) 3D プリンタによるレプリカの製作

火焔型土器の X 線 CT データを利用して、断面が観察できるレプリカを 3D プリンタで製作した。このレプリカは、企画展「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」にて、実物及び CT スキャン画像と併せて展示され、その製作技法が推定できるよう演出した。本展では、新型コロナウイルスの影響によりハンズ・オン展示は取り止めたものの、元年度に製作した阿弥陀如来坐像のレプリカ等も展示し、本事業の成果を一般に向け公開する大変良い機会となった。

レプリカを活用した展示風景

【備考】
・X 線 CT 調査件数 31 件、調査回数 259 回
・3D デジタイザ調査件数 5 件、調査回数 15 回
・論文等
渡辺祐基、川畑憲子、吉川美穂、木川りか「国宝『初音の調度』のうち乱箱、長文箱、短冊箱の構造・技法の X 線 CT 調査」『日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集』146-147（9 月）
大西智洋、渡辺祐基、當山綾乃「黒漆山水人物螺鈿料紙箱の修復報告」『浦添市美術館紀要』16 号（3 年 3 月）
望月規史、齋部麻矢、田中麻美、和泉田絢子、渡辺祐基「『国宝　観世音寺梵鐘』調査報告」『東風西声』16 号（3 年 3 月）
楠井隆志、渡辺祐基「長崎・聖福寺の関帝像」『東風西声』16 号（3 年 3 月）
川畑憲子、渡辺祐基、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（1）文房具」『東風西声』16 号（3 年 3 月）
・関連展覧会
企画展「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」（9 月 8 日～11 月 23 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度は、36件の文化財等の調査を実施し、保存状態及び構造技法に関する情報を得ることができた。さらに、これまでの調査で得られた知見を学会発表や論文を通じて発表し、その成果をパネルやレプリカ製作を通じて展示に活用した。本事業で製作したレプリカが、当館におけるユニバーサル・ミュージアムの取り組みの一環として有効活用されたことは特筆に値する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期期間を通し、各種文化財のX線CTスキャナ等を用いた調査研究を実施し、材質や構造技法に関する多量のデータを蓄積してきた。中期計画の最終年度である2年度には、研究の成果を多くの学会発表及び論文として発表するとともに、展示にも十分に活用し、新たな知見を広く発信したことで、中期計画を遂行することができた。 3年度以降も文化財の調査を積極的に実施していく。また、新型コロナウイルス感染防止対策の観点より、ハンズ・オン展示が困難なことから、レプリカ等の新たな活用方法も模索する予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　近世キリスト教に関する研究（(4) -①-1)）

【事業概要】
日本の近世（安土桃山時代から江戸時代まで）の時代性を特徴付けるキリスト教の日本伝来と禁教に関する作品の展示等を通じて、近世日本におけるキリスト教の歴史や信仰に関する研究成果を発信する。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	研究員　松浦晃佑

【主な成果】
(1) 展覧事業
29 年度からの継続事業として、「キリスト教の伝来と禁教」というテーマで、キリスト教の日本伝来から明治時代にキリシタン高札が撤廃されるまでの歴史を、来館者がたどれるように作品展示を行った（4 月 1 日～3 年 3 月 31 日）。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ世界文化遺産に登録されたことを受けて、元年度から通年展示とし、2 年度も同様に通年展示した。来館者のさらなる満足と理解につながるように、2 年度は解説パネルを充実した。
また、元年度に調査した「十字浮文軒平瓦」（福岡県久留米市埋蔵文化財センター所蔵）を 2 年度に展示公開した（6 月 2 日～7 月 26 日）。本資料は、久留米の城下町にキリスト教の教会が存在していたことをうかがわせる考古資料である。16 世紀末から 17 世紀初頭のキリスト教の教会の様子を描いた銅版画や教会模型もあわせて展示したことで、キリシタンの文化や生活の様子を来館者に示すことができた。
(2) 研究成果の発信
研究論文「寛永十七年マカオ使節の嘆願書に関する一考察」下（『東風西声』16 号（3 年 3 月）を発表した。日本とマカオのポルトガル人との間の交易とキリシタン禁制の諸問題、そして日本・マカオ間の断交を取り上げ、近世日本の対外関係におけるキリシタン禁制を日本語史料と欧文史料から論じた。

6 月 2 日～7 月 26 日までの展示風景と「十字浮文軒平瓦」の画像

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響により、2年度は資料調査が行えなかったが、元年度の調査を2年度の展示事業に反映できた。世界文化遺産登録により、日本のキリスト教の歴史や信仰のあり方に対する関心が世界的に高まっているが、来館者に近世日本のキリスト教の歴史を、作品展示を通じて紹介し、上記の動向に応えることができた。 また、研究論文を公表し、近世日本におけるキリスト教と対外との関係について、広く研究成果を発信できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、近世日本の文化交流に大きな影響を与えたキリスト教の歴史について調査研究である。 中期計画期間内に近隣の機関や、キリスト教の遺物を有する他機関での調査を実施した。中期計画最終年度である 2 年度は計画に沿った展覧事業と研究成果の公表を通じて、本事業を広く一般に伝え、中期計画を遂行した。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究（(4) -①-1)）

【事業概要】

全国の高等学校には現在、構内遺跡出土品、発掘調査出土品等々、様々な来歴の考古資料が保管されている。高等学校所蔵考古資料の実態把握は、考古学研究上の重要性に加え、社会史的、教育史的意義を有する。しかしながら、考古学的知識を有する教職員の不足から、十分な管理、活用が行われているとはいえない状況にある。本研究は、高等学校所蔵考古資料の更なる活用に向けて調査を実施し、その成果を展示、教育普及活動等の博物館活動を通じて広く公開するとともに、高等学校と博物館の効果的な連携活動について研究するものである。

【担当部課】	交流課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　今井涼子

【主な成果】

（１）高等学校に対するアンケート調査

2 年度は新型コロナウイルスの影響により、「全国高等学校歴史学フォーラム」の開催を中止した。毎年、歴史学フォーラムに参加される高等学校の先生方から高等学校の現状や先生方のお考えを聴取し、歴史学フォーラムのプログラムの参考としてきたが、2 年度はそれが叶わなかったためアンケート調査を実施した。対象は、26 年開催「全国高等学校考古学フォーラム」から元年開催「全国高等学校歴史学フォーラム」までの参加経験校 13 校で、11 校から回答を得た。フォーラムに対する評価や要望を確認でき、大変有意義な調査となった。3 年度からは歴史学フォーラム実施時にアンケート調査を実施し、改善に役立てる予定である。

併せて、26 年、28 年、30 年に実施した「全国高等学校考古名品展」に所蔵資料を出品いただいた高等学校に対しても、アンケート調査を実施した。国立博物館での展覧会に出品したことの影響とその後の資料管理の状況を尋ねた。26 校中、19 校から回答を得た。アンケート結果から、展覧会が高等学校に及ぼした影響は限定的であったことが分かった。今後はアンケート結果を考慮し、考古資料をさらに活用していただけるよう、展覧会や博学連携事業を企画したい。

（２）高等学校所蔵資料の調査

山口県立萩高等学校が所蔵する資料と学校の歴史を紹介する展覧会「萩校の秘宝」を視察した。(10 月 16 日)　創立 150 周年を記念して高等学校と同窓会、地元の博物館が協力して開催したものである。展覧会に先立ち、在校生にこれら資料を紹介し実見する機会を設けており、非常によく練られた有意義な企画であった。今後の当館での博学連携事業の企画にあたり参考になる事例である。

【備考】

「高等学校所在考古資料を活用した博学連携事業の実施について－九州国立博物館の事例を中心に－」『東風西声』第 16 号(3 年 3 月 31 日)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度は、新型コロナウイルスの影響により十分な活動を行うことができなかった反面、アンケート調査により客観的な意見を収集することができた。アンケート結果を材料に、引き続き高等学校との継続的な博学連携事業の実施方法を検討し、「全国高等学校歴史学フォーラム」に成果を反映させていく予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。2年度は「全国高等学校歴史学フォーラム」を実施することができなかったが、アンケート調査と高等学校所蔵資料調査を実施した。新型コロナウイルスの影響を受けたものの、今中期全体を通して、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施できたことから、中期計画を概ね達成できたといえる。 今後、研究結果を取りまとめ、他機関でも参考にできるような形に整理する予定である。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｴ-1

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ(1)　「天神縁起の世界」ほか特集展示等に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
特集展示「天神縁起の世界」(3 年 2 月 2 日～3 月 28 日）開催に向けて、各所への出陳交渉を進めるとともに作品調査・研究を進め、図録掲載のための新規撮影を実施する。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室長　森實久美子

【主な成果】

(1) 作品の調査研究

出陳作品の調査を行い、一部の作品は外部の研究者と共同調査を実施し、調査後には検討会を開いて作品についての理解を深めた。調査に際しては、安全な輸送と展示のため、作品の基本データを採るとともに状態の把握も行った。

(2) 作品の新規撮影

出陳作品のなかには本展が初出陳となる作品が含まれるほか、ポジフィルムしか画像を持たない作品がほとんどであった。図録に質の高い図版を掲載するため、また、博物館のデータ充実のため、事前に作品を集荷し、借用品全点について博物館内で新規撮影を行った。

(3) 図録及び展示環境の充実

図録、展示、広報について関係者で検討を重ねた。とりわけ図録については、詳細な場面解説や関連マップなどを充実させ、来館者の理解に資する内容を目指した。また展示についても、場面解説や年表などを掲出するほか、より見やすい題箋となるよう日本語だけでなく英語・中国語・韓国語の文字やレイアウトにも配慮したデザインとした。場面解説について、日本語はパネルにて掲出したが、展示スペースの問題から、英語・中国語・韓国語については冊子を作成して希望者が自由に持ち帰ることができるように配慮した。

福岡･北野天満宮での調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新型コロナウイルスの感染拡大によって調査の実施時期は遅れたものの、当初の年度計画についてはおおむね順調に実行できた。出陳作品全点について調査し、研究を深めるとともに、輸送や展示にも万全を期すことができた。展示及び図録は、館内関係者や所蔵者とも協議をしながら快適な展示環境づくりを目指し、専門性に偏り過ぎない分かりやすさを重視した。出陳作品のなかには、近年見出され、発見時には新聞等のメディアでも取り上げられた作品が2点含まれる。社会的な関心も高い展覧会であり、最新の研究成果を盛り込んでわかりやすく公開するとともに、太宰府天満宮とも協同して広報の強化を図った。来場者からも好評であり、計画を上回る成果であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施し、それによって得られた成果を展示や図録に反映させることができた。本展は、天神縁起を取り上げた初めての展覧会であり、図録や展示においては最新の成果の発信にも努めた。太宰府天満宮に隣接して建つ当館にとって天神信仰は重要なテーマであり、来館者の関心も非常に高い。図録や展示においては、詳細な場面解説や関連マップなどを充実させ、来館者の理解に資する内容を目指し、展示環境についても専門性に偏り過ぎないよう配慮した。その結果、来場者から好評であり、計画を上回る成果であったといえる。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D エ-2

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ(2)　特集展示「きゅーはくどうぶつえん」に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

特集展示「きゅーはく　どうぶつえん」の開催に向けた、展示候補作品や関連展示、関連資料などの調査研究を行った。

本展は、時代や地域、文化財の垣根を越えて、動物の意匠を文化財に表現した作品を一堂に集めた展示企画である。当初設定した開催時期は４月～6 月で、期間内にゴールデンウィークを含むことから、想定鑑賞年齢層を家族連れに設定し、子どもでも十分に鑑賞することができるよう配慮した展示構成とすることをテーマとして展示計画の策定を行った。

また、家族層が子供を連れて九州国立博物館に来館するためのきっかけをつくるため、「どうぶつ」に関連したいくつかのイベントを休日を中心に計画した。また、動物をふだんから診察している現役の獣医師に来館してもらい、獣医師の目から見て、文化財に表現された動物の意匠と実際の動物のすがたの差を解説してもらう、ミュージアムトークの特別編なども企画し、文化財に表現されたどうぶつのすがたの楽しさを知ってもらうよう意図した。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　小澤佳憲

【主な成果】

・小学校低学年の児童が容易に鑑賞できるように、身長 120cm の来館者の目線を意識して、展示物の高さ設定を工夫した。成人の来館者からも一定の理解を得られた。
・展示解説は、小学校低学年の児童が興味をもてるように平易かつ興味をそそる仕立てを工夫した。
・展示企画を体感できるように、会場で実際の動物の鳴き声を音声で流す試みを行った。来館者には総じて好評であった。
・新型コロナウイルスのため、会期が当初予定よりも 2 か月ほど遅れ、GW 中の家族連れの来館促進はできなかった。
・新型コロナウイルスの影響で、計画していたイベントがすべて中止になったため、これによるファミリー層の誘致がかなわなかった。
・当初計画していたイベントのうち、獣医師と学芸員がどうぶつモチーフと実際の動物の差異を語るミュージアムトークの企画は、動画を撮影してユーチューブにて放映し、非常に好評を博した。再開館と合わせメディアに複数回取り上げられた。
・家族連れも楽しめる展覧会という狙いについては、ある程度評価を得られたと考えられる。また、新型コロナウイルスの拡大の影響によって実施したミュージアムトークを動画で撮影してオンラインで公開するという新しい取り組みは、その後のミュージアムトーク動画の公開事業につながった。

ミュージアムトーク動画

【備考】

・展示手法に関する調査：1 月 31 日(伊都国歴博)、2 月 4 日(京博)、2 月 27 日(太宰府天満宮宝物殿)
・作品調査(館外)：元年 10 月 16 日(東博)、12 月 12 日(京博)
・メディア紹介：4 月 28 日(KBC テレビ)、6 月 3 日 (LOVE FM)、雑誌『九州王国』6 月号、雑誌『ファンファン福岡』6 月 12 日号、朝日新聞福岡 5 月 13 日版、ほかケーブルステーション福岡で複数回番組放映あり
・ミュージアムトーク動画本数：3 本、被視聴回数：延べ 3,119 回(3 年 3 月 31 日現在)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展では、文化財の時代や、ジャンルを超えた展示、子供連れを含むファミリー層への訴求力のある展示などが実現でき、概ね狙っていた成果を達成した。 新型コロナウイルスの拡大の影響を受け、イベントなどはほとんど実施できず、イベントを通じたファミリー層の誘致という目標は達成できなかった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の最終年度として、計画に沿って展示手法等に関する調査研究を実施した。本展は、これまで当館ではあまり扱われていなかったテーマの展示企画である。また、アジアとの交流をテーマに掲げる当館として、地域を越えてアジア各地の動物意匠の作品を展示する試みは有意義なものであった。来場者からも好評いただき、歴史・伝統文化の理解促進に資する展示会となり、中期計画を達成したといえる。 新型コロナウイルス拡大のさなかの開催であり、来館者増に寄与することは難しい状況下にあったが、同様の企画を今後も継続的に立案・実施することで、従来の来館者層を拡大することを継続的に試みていくことが必要と考えられる。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D ｴ-3

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ(3)　特集展示「大宰府史跡指定 100 年記念・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示 筑紫の神と仏」に関する研究((4)-①-1))

【事業概要】

巨岩祭祀遺跡出土品の使用痕跡調査と文献史料に見られる「祭式」の統合分析研究の成果を基に、特集展示「大宰府史跡指定 100 年記念・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示　筑紫の神と仏」を開催した。展示及び図録を通じて、本研究の成果をより広く一般に公開した。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	研究員　小嶋　篤

【主な成果】

（１）調査研究

宗像・沖ノ島を代表とする古墳時代～平安時代の巨岩祭祀遺跡出土品の使用痕跡を調査し、『皇太神宮儀式帳』等で確認できる祭式と照合した。その結果、漠然と「祭祀遺物」と認識されてきた資料について、祭式におけるどのような所作に基づいて使用痕跡が残されてきたのかを峻別し、古代祭祀の具体像に肉薄することができた。また、巨岩祭祀の具体的所作がつかめたことで、記録保存調査されてきた祭祀遺構の一部に「神社」が含まれていることを明らかにし、官衙に付随する神社の存在を論証した。

祭式のイラストと出土品を組み合わせた比較展示

（２）展覧会

本特集展示は 5 月 19 日～8 月 30 日の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防対策に伴う閉館により会期を変更し、6 月 2 日～8 月 30 日の開催となった。また、本期間中に予定していたミュージアムトーク、大宰府学研究連続講座はすべて中止となった。

展示は「第 1 章 古墳と巨岩」、「第 2 章 社の姿と仏の教え」、「第 3 章 大宰府の大寺 観世音寺」、「第 4 章 大宰府の鬼門 宝満山」、「第 5 章 神・仏・人」の 5 章構成とし、大宰府史跡出土品を中心に全 119 件の文化財を陳列した。その特色は古墳時代・飛鳥時代・奈良時代という律令国家形成期における信仰の変遷を体系的に整理したことにある。とくに、巨岩祭祀遺跡出土品の使用痕跡調査と文献史料に見られる「祭式」の統合分析研究の成果を基に、巨岩祭祀と庭上祭祀（社殿建立）の時系列・連続性を、宗像・沖ノ島祭祀遺跡、後野・山ノ神前遺跡群、金武遺跡群の出土品の比較展示で示すよう努めた。また、本比較展示では祭式の具体的所作を視覚的に認識できるよう、イラストを利用することで、観覧者の理解補助を工夫した。あわせて、文化財の生きた姿、宗教空間を体感できるよう、国宝・観世音寺梵鐘の音色を現地鐘楼で収録し、高音質スピーカーを利用して展示台周囲で定期的に流し、臨場感ある展示を演出した。

国宝・観世音寺梵鐘の展示状況

【備考】

・展覧会図録『筑紫の神と仏』九州国立博物館、5 月 18 日
・会期中の文化交流展示室入場者数：15,646 人
・YouTube「kyuhakuchannel」にて動画 2 本（特集展示「筑紫の神と仏」ご紹介、特集展示「筑紫の神と仏」国宝梵鐘（観世音寺）展示作業）配信中。
・新聞（特集記事）：朝日新聞 7 月 15 日朝刊、毎日新聞 8 月 2 日朝刊
・雑誌『九州王国』「時代とともに変化してきた祈りの歴史」（7 月号）
・テレビ番組：KBC「サワダデス。」（7 月 29 日放送）
・beyond2020 プログラム事業
・WEB 掲載「ふくおかよかとこパスポート（ココシル福岡）」、「アソビュー」、「太宰府 EVENT」、「PRTIMES」、「culture NIPPON」、「おでかけナビ」、「ぐらんざ」、「ARTNE」、「福岡ふかぼりメディア ささっとー」、「ゆこゆこネット」、「じゃらん」、「トラベルニュース」、「福岡のニュース」、「FUKUOKA　NOW」、「観光経済新聞」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展は大宰府史跡指定100年記念を冠した特集展示であり、大宰府史跡の歴史的価値をひろく周知できるよう努めた。ただし、新型コロナウイルス感染予防対策のため、大宰府史跡指定100年記念事業の多くが中止・延期となっており、3年度以降の展示でも積極的な取り組みが求められる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に基づき調査研究を実施し、「祭祀遺物」として漠然と報告されていた資料について、緻密な資料観察による使用痕跡抽出を経て、「祭式」の中で位置づけることができた。このことにより、これまで関心が低かった有形文化財にも新たな光を当て、教育普及のさらなる展開を促すことができたことから、中期計画を上回る成果を上げたといえる。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D エ-4

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ(4)　特集展示「九州国立博物館開館 15 周年記念　特集展示　織物に魅せられて　加賀前田家伝来の名物裂」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
本展は九州国立博物館所蔵「前田家伝来名物裂帖」の修理完了を記念して開催された展示である。展示では、一部に科学研究費・若手研究「名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究」(20K12880)（研究代表者：九州国立博物館アソシエイトフェロー・桑原有寿子）の調査研究の成果を活用した。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　桑原有寿子

【主な成果】
（１）展覧事業
本展は 12 月 1 日～3 年 1 月 24 日まで、染織品を中心とした 87 件の作品を展示した。九州国立博物館は元年度までの 3 年にわたって所蔵品の「前田家伝来名物裂帖」の修理を行った。本展はその完了記念の展示であり、出陳作品のうち 36 点は修理によって公開が可能となった。
展示にあたり、加賀前田家ゆかりの染織品を始めとした名物裂の出陳交渉及び調査を行った。これによって、前田家が染織品を蒐集した背景や、茶の湯の広まりとともに染織品を賞翫する文化が花開いたこと、名物裂の文化成立の背景には世界規模でおこった染織品の交流があり、対外交流の窓口であった九州が大きな役割を果たしたことを説明できる展示となった。

展示会場の様子

（２）教育普及事業
新型コロナウイルス拡大の影響を受けて、予定していた講演会や研究会は中止されたが、名物裂の魅力を伝えるため、以下の教育普及事業を展開した。
・ミュージアムトーク：3 年 1 月 5 日「のぞいてみよう！織物の世界」（講師：桑原有寿子）
・九州大学人文学国際研究センター公開講座「東洋染織品の移動と変容」：3 年 1 月 23 日
「日本伝世古渡裂の歴史」（講師：桑原有寿子）
・ウェブサイトにおける展覧会紹介動画の公開
（３）研究成果の発信
会場には修理の過程を紹介するパネルを設置し、修理事業によって文化財の保存と活用を可能になることを紹介した。
展示では科学研究費・若手研究「名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究」(20K12880)（研究代表者：九州国立博物館アソシエイトフェロー・桑原有寿子）の研究成果として、染織品の顕微鏡写真を展示した。また、借用した出陳作品及び館蔵作品の高精細スキャナ撮影や赤外線撮影を行い、データの収集を行った。
会期中には、NHK 福岡「はっけん TV」（3 年 1 月 8 日放映）など、テレビや雑誌で取り上げられた。

【備考】
ミュージアムトーク：1 回（3 年 1 月 5 日）
出張講座：1 回（3 年 1 月 23 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今回の展示で、初めて九博本「前田家伝来名物裂帖」の全ページ（うち一部は同時開催の関連展示にて展示）を公開することができた。また、文化交流の視点から「茶の湯の織物」が捉えられることを、視覚的にわかりやすく紹介できた。しかしながら、新型コロナウイルス拡大の影響により、予定していた教育普及事業及び調査が一部行えなかった。展覧会終了後も、調査及び研究成果の発表は継続して行う必要がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、中期計画に沿って調査研究を行い、日本伝来の裂のみならず日本の名物裂に見られる金襴の素形とも言える中国・金代の金襴をあわせて展示することができた。また作品の解説も研究成果をもとに世界の織物史の中でどのように捉えられるかという視点から名物裂を紹介できた。これは当館の基本方針「日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う」を十分に満たし、中期計画を上回る成果となった。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｴ-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ(5)　特集展示「九州国立博物館　開館 15 周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展　しきしまの大和へ　奈良大発掘」に関連する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
本展示は、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の施設改修に伴う巡回特別展である。当館では開館 15 周年記念特集展示と合わせ、縄文時代～室町時代までの奈良－大和の歴史を、奈良県内の多岐にわたる発掘調査出土資料から紹介した。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　齋部麻矢

【主な成果】

(1) 事前資料調査

巡回展開始前に各開催施設の担当者が集まり、合同で展示資料の調査を行った。資料の解釈や取り扱い、展示方法に注意が必要な資料については意見交換を行い、各施設に合わせた展示方法や解説を検討した。

(2) 展覧事業

当館での会期は 7 月 28 日～12 月 20 日で、327 点の資料を展示した（所有者の都合により急遽 1 点返却したため、撤収後は実物大の写真パネルで代用)。我が国の国家形成と外来文化の観点からみた、Ⅰ）くにづくり前史、Ⅱ）王権誕生と外来要素、Ⅲ）国家形成と渡来文化、Ⅳ）古代国家成立と外交、Ⅴ）しきしまの大和ごころという 5 つのテーマを研究所が設定し、これに合わせて、関連展示室 2・3 室において展示を行った。当館は巡回 3 館目の実施であったが、他館より展示スペースが広いことから、全体の展示レイアウトは当館独自のものとした。併せて題箋やパネルについても既存データに加えて、橿原考古学研究所のこれまでの調査・研究成果も盛り込み、すべて新規で作成した。さらに展示期間が長いことから、開催中の来館者からの質問に対して回答するとともに、質問に則したイラストや解説の題箋・小パネルを追加展示し、随時アップデートを行った。

(3) 活用事業

新型コロナウイルス感染予防対策のため、11・12 月に当館のシアターで短時間のミュージアムトークを行った。展示室では、出土遺跡の状況や、わかりやすい展示解説で理解を深めるため、写真データを橿原考古学研究所から新たに借用し、復元イラストも作成して多数のパネルを作成した。また、用途や意味がわかりづらい考古資料について、一般的にわかりやすい解説を心掛けた。この解説は当館 Twitter を活用して計 17 回配信し、好評を得た。九州では、奈良の地名や地形がわかりづらいため、出土地図をミニ解説とともに印刷し､展示室で配布した。図録では、巡回館はコラムの形で執筆に参加した。なお、企画段階では特別展「加耶」と同時期に開催し、両展示に関わるシンポジウムなどの開催を予定していたが、特別展延期により実施できなかった。

事前資料調査

展示（３室）の様子

【備考】
（1）元年度資料調査：1 回（3 日間）　橿原考古学研究所附属博物館
新聞等掲載：西日本新聞（2 回)・朝日新聞・TVQ・ぐらんざ（フリーペーパー）ほか
ミュージアムトーク：11 月 10 日（15 名)・12 月 8 日（18 名）
（2）出品件数　327 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本の中心であった畿内の資料から、異文化交流と独自性の確立、国家形成の過程を紹介することができた。また、九州ではなかなか目にできない資料を紹介できた。一般的に地味な考古資料をパネルや写真、イラストを用いて各資料をわかりやすく解説した。当館ならではの展示が構築できた。ユニバーサルデザインを意識して「UDフォント」を初めて導入し、「読みやすい」との感想もいただいた。以上から、所期の目標を上回る成果を出すことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究を実施し、展覧事業によって広く一般に発信したことで、中期計画を上回る成果を出すことができた。 本展示は、九州と比較されがちな畿内の発掘資料を展示することで、一般的な興味を引くことができた。さらに当館のテーマの一つである「交流」を柱とした展示にもなった。展示全体を通して「親しみやすい・わかりやすい」イラストパネルと解説を作り、好評を得て、計画を上回る成果であった。 今後も特に一般の新規観覧者にも親しみやすい展示手法や解説を研究し、誰もが楽しみながら歴史に親しむことのできる企画へとつなげたい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dオ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究（(4)-①-1））

【事業概要】

本事業は、国内外における水中遺跡の調査手法等の検証を行い、その結果をもとに 30 年度から 5 年計画で実施される予定の『発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－』の作成に資することを目的とする。奈良文化財研究所は、作業部会・研究集会の実施と『てびき』作成に向けた検討、当館は、国内の水中遺跡に関する保存・活用手法の検討、諸外国における水中遺跡保護に関する最新情報の収集、『てびき』に使用するイラスト制作に係る業務、当事業の目的と内容の周知を目的とした事業紹介パンフレットの作成等を行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　小泉惠英

【主な成果】

2 年度の事業は、①『発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－』の作成業務、②国内の水中遺跡の保存・活用手法及び整備充実のための体制整備に関する調査研究、③海外における水中遺跡の発掘調査等に関する最新情報の収集、の 3 課題に分けられる。

課題①：主に奈良文化財研究所が担当し、『てびき』の内容検討のため作業部会（協力者会議）を 4 回開き、12 月に滋賀県で自治体職員・専門家へのヒアリング、3 年 2 月に全国の自治体職員を対象とした研究集会「水中遺跡保護行政の実態Ⅲ」をオンラインにて開催した。当館は、『てびき』に使用する資料・写真等のアーカイブの作成やイラスト制作に係る調整等を行った。また、事業の目的と内容の周知を目指し、これまでの取組みと『てびき』の刊行を紹介するパンフレットを作成し、全国の地方公共団体等へ送付した。

課題②：当館が中心となり、国内の水中遺跡に関する保存・活用手法の検討を実施した。静岡県下田市沖合にて ROV 調査（アクセス困難な水中遺跡における発掘調査や潜水によらない水中遺跡の視認方法等の実証実験）を行い、同時にリアルタイムで映像を遠隔配信し、陸上で映像を視聴する方法について実証実験を実施した。

課題③：『てびき』を作成する上で参考となる資料として、水中遺跡や遺物の保全に関する書籍『*Conservation of Marine Archaeological Objects*』を翻訳した。その他、諸外国で実施されている水中遺跡の調査等に関する論文や書籍から最新情報を収集した。

船上と陸上をつなぎリアルタイムで映像を確認している様子

事業紹介パンフレットの一部

【備考】

文化庁の取組：水中遺跡調査検討委員会（2 回）、協力者会議（4 回）、研究集会・ポスター発表（1 回）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	①～③の課題について、新型コロナウイルスの影響により、当初の計画から実施場所等に変更が生じたものの、概ね予定通りに実施することができた。課題①：『てびき』の執筆を開始し、より充実した内容となるよう検討を重ね、イラスト制作にも取りかかることができた。課題②：下田市で水中遺跡調査の手法について検証し、課題を抽出できた。課題③：海外における水中遺跡や遺物の保全に関する情報を学び、国内における保存と管理の方法を精査することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当事業は、5か年計画で『てびき』の作成及び周知を進めている。1～2年目に調査・資料収集、3～4年目に執筆と刊行、最終年度は、『てびき』のプロモーションを主な業務として行う。2年度は、3年目にあたり、『てびき』の執筆を開始した。当機構が実施した調査等は、『てびき』の内容充実に貢献した。 『てびき』は、水中遺跡調査未経験の自治体職員を対象としているため、より平易な内容となるよう検討を重ねた。水中遺跡の調査と保護が喫緊の課題と捉えられていない現状を打開するためには、当事業の周知が重要であるという認識を共有した。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412Aｱ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	特別展「きもの　KIMONO」に関連する調査研究

【事業概要】

特別展「きもの　KIMONO」は、800 年以上を生き抜き、今なおあらたなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を、現代を生きる日本文化の象徴として展覧する、当館 47 年ぶりの染織の展覧会である。開催に際し、2 年度は出品される作品を借用し調査するとともに、来館者にきものの歴史をわかりやすく理解できる展示を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大のため講演会、国際シンポジウムが大講堂で行えなくなったため、ギャラリートーク、記録動画、国際シンポジウムパネリストによる口頭発表動画などを配信した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉

【主な成果】

(1)調査概要

当館所蔵品及び国内外機関に所蔵される染織並びにきものが描かれた日本絵画を調査研究した。

共催者とともに、展覧会に出品される作品の借用・展示・撤収作業を行い、広報目的のギャラリートーク、研究記録としてのギャラリー内の記録動画を作成した。

共催者と共に、図録の再校を行った上で、3 刷まで増刷した。

(2)調査の結果得られた知見

・脆弱で伝存する数が少ない染織文化財の新たな価値付けを行った。

・展覧会事業計画や文化財の復元制作などを通して、それらの文化財の有効な活用にも寄与した。

展覧会会場風景　第４室

・展覧会では、200 件以上の染織文化財・日本絵画を展示し、日本人にとって現在も「衣服」であり続ける「きもの」の歴史をわかりやすく紹介し、さらに、伝統衣装、民族衣装としての「きもの」の未来像について考える機会となるように展示に工夫を凝らした。

(3)調査研究の成果

本展を通じて、日本染織における専門の博物館で調査することにより、染織に関する有意義な知見を得ることができた。また、染織文化財の復元を製作し、当時の女性や男性が着装する風俗を模した着付をマネキンに施し、江戸時代におけるきもの文化の理解を手助けした。これらの復元染織文化財は、今後の教育普及事業に有効に活用できる。

これまでの調査・研究によって得られた知見を反映した図録が、展覧会会期に合わせて発行された。

【備考】

特別展「きもの KIMONO」は、2 年 4 月 14 日（火）～6 月 7 日（日）まで開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により会期を延期し、2 年 6 月 30 日（火）～8 月 23 日（日）までの開催となった。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・日本内外に所蔵される美術館・博物館や個人所蔵の染織コレクションを調査することによって、日本の伝統工芸である染織の美術的・民族学的な知識や情報を深めることができた。 ・当館が所蔵する染織文化財2件、絵画作品1件を元に、その復元品を制作することによって、今後の教育普及事業である「着付け体験」などのワークショップにも有効に活用できる成果物があった。 ・本展の実施にあたり、他所蔵者との調査研究の可能性が広がった。染織文化財を守り、後世に伝えていくために、2年度以降も相互の協力しながら、調査研究を深め、次の展覧会事業あるいは、教育普及事業につながるよう、より充実した調査研究を目指したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・2年度は中期計画の最終年度として、特別展「きもの　KIMONO」に関するバイリンガルによるギャラートーク、記録動画、国際シンポジウム動画などの配信を通して国内外に発信し、中期計画に沿った事業を今中期計画期間全体を通しても行うことができた。 ・当館においては、日本・東洋の伝統文化を紹介し、有形文化財を保護、活用ために、例年さまざまなテーマを設けて特別展事業を行っている。日本文化の特質である「工芸」に対する一般来館者のより深い理解を得るために、染織だけではなく、工芸他分野の展覧会についても計画を推進する。 ・今後開催される「工芸」の展覧会に向けて、列品を精査し、来館者が満足すると同時に、列品の調査研究も充実するような計画を立て、実行したい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412B ｱ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア 特別展「皇室の名宝」に関する調査研究 （（4）-①-2）

【事業概要】
御即位記念特別展「皇室の名宝」実施に向けて調査研究を実施し、その成果を、展示・図録・会期中の講演会などを通して公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画・工芸室長　　山川　暁

【主な成果】
皇室ゆかりの地である京都において開催する展覧会であることを踏まえ、宮廷文化に関連する作品及び文献調査を実施し、それらの成果を、展覧会図録や記念講演会などの場で発表した。具体的には、三の丸尚蔵館・書陵部・侍従職・京都事務所など宮内庁諸機関と連携し、障壁画などの調査及び新規撮影を実施し、その成果を「御所をめぐる色とかたち」というテーマにまとめ、展示を構成し、図録や講演にも反映した。
京都御所をめぐる文化の研究は、京都に所在する当館の重要な研究課題であり、このたびの宮内庁諸機関の研究者との共同研究を通して新たな知見を得るとともに、建築や有職を含めた研究の広がりを生み出す機会となった。

京都御所内 障壁画撮影風景

【備考】
展覧会会期　10 月 10 日～11 月 23 日
展覧会図録の作成　多言語による展覧会鑑賞ガイドの作成　記念講演会 6 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	令和の世の始まりにあたって、天皇の即位礼を筆頭に宮廷文化への関心が高まっている時期であり、展覧会を通して、即位礼の様相など近代以前の宮廷文化を紹介できたことは、時宜にかなった内容であった。 京都御所を中心とする宮廷文化の研究は、当館の重要な研究課題であり、これまでに蓄積してきた調査研究の成果を反映する場ともなった。作品の多くはすでに広く知られる名高いものであったが、それを宮廷という場で享受された品として捉えなおすことで、新たな観点を提示することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	京都文化を中心とした文化財の研究を掲げる当館では、中期計画期間中、宮廷文化に関連する調査研究を継続し、特集展示「皇室の御寺　泉涌寺」(28 年)、特集展示「御所文化を受け継ぐ」(29 年)、特集展示「初公開！天皇の即位図」(30 年)、特集展示「京都御所障壁画紫宸殿」(元年)、特別展「皇室の名宝」(2 年) と、その成果を展示に反映させてきた。中期計画最終年度である 2 年度に、その節目として、これまでの成果も反映しつつ、宮廷文化を取り上げた特別展を開催することができた意義は非常に大きく、中期計画期間全体として所期の目標を上回る成果をあげることができたといえる。 今後も引き続き宮廷文化の研究を継続し、その成果を展覧会などを通して社会に還元していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412B イ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究（（4）-①-2）

【事業概要】
日本の戒律文化に関する調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】
3年春季特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」(3年3月27日～5月16日)にちなみ、日本の戒律文化に関する研究を行った。律宗、真言律宗、真言宗泉涌寺派、華厳宗だけでなく、天台宗、天台真盛宗、真言宗、浄土宗、浄土真宗、日蓮法華宗、曹洞宗といった主要宗派を網羅する形で、総括性を持たせ、日本仏教通史の一側面を戒律という理想と社会現実との相剋という観点から研究した点に特色がある。鎌倉時代の戒律復興運動期が中心ではあったが、近世戒律運動に関しての調査も進み、槙尾山西明寺や大阪・高貴寺では、従来ほとんど紹介されていない作品の調査が実現し、展覧会に活かすことができた。

【備考】
保存修理指導室長 大原嘉豊、調査・国際連携室長 呉孟晋、美術室研究員 上杉智英の研究員を中心に、西谷功 泉涌寺学芸員、大谷由香 龍谷大学准教授、岩井朋子 龍谷ミュージアム准教授を調査員として招聘し、共同研究を行った。

・出品件数　160件(うち国宝13件、重要文化財63件、重要美術品3件)
・成果の公開（展示）　3年3月27日～5月16日（予定）
・成果の公開（刊行）　『凝然国師没後700年　特別展 鑑真和上と戒律のあゆみ』図版目録（3年3月27日刊行）
・成果の公開（講演）　上杉智英「律とは何か」(3年4月3日）ほか全5回予定

慈雲巖上坐禅像
高貴寺所蔵

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	日本の戒律運動については、近年、日本史学を中心に律僧の活躍に焦点を当てた研究が進んでおり、本研究は時宜に叶った学界の要請にも応えるものである。特に、律僧の活動で算出された遺品を発掘・再調査することができ、特に近世戒律復興運動については、従来の研究が停滞していた分野でもあるが、それをかなり前進させることができた。また、共同研究を行い、展覧会成果に活かすことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業等に関連する調査研究を実施した。 従来、研究が停滞していた分野においても調査を実施し、展覧会による成果の公開まで、順調に遂行できたと判断した。 特別展の展覧会期に併せて行われ、3年3月27日に開催を迎えるが、その調査研究の成果は展覧会図録に結実している。また、3年5月9日公益財団法人仏教美術研究上野記念財団主催による「日本における梵網経と菩薩戒思想の問題」と題するシンポジウムも予定している。この共同研究の成果をいかし、今後も継続的に研究会を行うことを予定している。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	ア　第 72 回「正倉院展」に関する調査研究

【事業概要】
特別展「第 72 回正倉院展」の開催に当たり、円滑かつ安全に展覧会を遂行し、最新の成果を広く国民に周知するため、当該年度に開催される宝物を含む宝物全般についての調査・研究、展示環境について調査・研究、観覧環境についての調査・研究、その他宝物の適切な輸送方法など、多角的に研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　内藤　栄

【主な成果】
(1)宝物についての調査・研究
・宮内庁正倉院事務所の協力を得て、調書の閲覧をしたほか一部の宝物の実地調査を行った。
・上記成果は展覧会図録に掲載される解説、論考（宝物寸描）、総論、会場での解説パネル、公開講座等に反映した。
(2)観覧券販売に関する検討
・新型コロナウイルスの感染防止のため、昨年までの正倉院展の来館者数データ等に基づき来館者数の上限を決めた。その際、観客の動線、想定される滞在時間、混雑が懸念される場所を中心に検討した。
・来館者数の上限に基づき、観覧券の販売方法を検討した。ネット予約を中心としながらも、ネットを使用しない方が購入できる方法を検討し、不公平感が生じないように配慮した。
(3)情報の発信
・入館制限を実施するため観覧を希望してもできない場合があることを考慮し、展覧会場の様子を動画で発信する方法を検討した。
(4)展示環境に関する調査・研究
・展覧会前に正倉院事務所職員と展示環境に関する検討会を実施し、当館の方針を説明した。
・展覧会会期中、随時環境の報告を正倉院事務所に対して行い、終了後には塵埃の検査を実施した。
(5)その他
・正倉院事務所職員と安全に輸送する方法を検討した。

【備考】
・宝物に関する内部検討会を 2 回実施した。
・新たに執筆された解説文について、学芸部職員全員が参加する研究会で検討した。
・公開講座　2 回
　鶴真美（正倉院事務所保存課保存科学室員）「正倉院の石薬とその素材」
　内藤栄（当館学芸部長）「武器・武具の献納と薬物の献納について」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染防止により入館者制限を実行し、入館者数は年度計画を下回る結果となった。しかし、入館券の販売方法、館内動線、ソーシャルディスタンスの確保などは成功した。また、入館者数を制限したことにより展示室の環境は例年以上に安定しており、今後正倉院展の入館者数の上限を考える上での指針を得ることができた。観覧者の満足度も高く、今後も正倉院展に人数制限を導入することを希望する意見が寄せられた。2 年度は薬物といった疫病に関する宝物が出陳されたが、2 回実施された公開講座で薬物について取り上げるなど、疫病に関する国民の関心が高まる中、一定の貢献を果たし得た。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画において宝物の調査・研究、観覧環境についての調査・研究を重点項目に据えている。宝物についての調査・研究は、正倉院展の開催に伴う宝物の実見や資料収集、宮内庁正倉院事務所による最新の研究を基礎にしている。中期計画期間を通し、調査・研究による成果を積み上げるとともに、その成果を展覧会会場でのパネルや解説、音声ガイド、図録、講演会等で着実に公表することができた。また、観覧環境の調査・研究についても、保存修理指導室員を中心に正倉院事務所職員と検討を重ね、年々の改善に繋げることができた。以上から、所期の目標は達成したといえる。 また、中期計画最終年度となる 2 年度は、新型コロナウイルスの影響により、予約制による観覧方法の導入、学術シンポジウムの中止など様々な制約が生じたが、開催自体が危ぶまれた正倉院展を無事開催し、成功裏に終了することができたことは高く評価できる。特に人数制限の効果で例年と比較して格段に環境が改善され、今後の正倉院展の入館者数を考える上で貴重なデータを得ることができた。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412Dア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　特別展「奈良中宮寺の国宝」に関連する調査研究

【事業概要】
　特別展「奈良・中宮寺の国宝」（3 年 1 月 26 日～3 月 21 日）の実施にむけて、各所への出陳交渉ならびに、作品調査、研究を進め、展覧会の構成を構築する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　小泉惠英

【主な成果】
（1）出陳交渉
　中宮寺の寺宝についての出陳交渉と平行して、東京国立博物館、法隆寺、大阪・野中寺、永青文庫、長崎・日本二十六聖人記念館などに出品交渉し、上代日本美術と古代の半跏思惟像の作品を充実させることができた。
（2）調査研究
　中宮寺の全面的な協力を得て、各寺宝を調査した。本尊については、状態調査とあわせて最適な展示環境を作るための照明実験等も実施した。近代文学において中宮寺本尊を称える文学作品を収集した。
（3）成果の公開
　調査成果は、展覧会図録、会場パネルに反映した。本展では、中宮寺の歴史とあわせて古代アジアの半跏思惟像を一堂に会し、さらに図録には中宮寺本尊について述べる近代文学作品を多数収録するなど、多様な側面から展覧会を構成した。

中宮寺本尊の展示風景

「アジアの半跏思惟像と弥勒菩薩」の会場パネル

【備考】
展覧会は、1）古代の中宮寺、2）中宮寺の再興、3）門跡寺院としての中宮寺、4）半跏思惟像と弥勒菩薩、5）中宮寺憧憬の 5 章構成とした。図録では個別の作品解説の他、総論で「中宮寺の歴史」各論で「アジアの半跏思惟像と弥勒菩薩」を掲載した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展は、中宮寺の歴史を時代毎に紹介するだけでなく、古代の日本で流行した半跏思惟像のルーツをアジア世界にたどった。半跏思惟像の古代の信仰について、弥勒菩薩とのつながりが深いことを示しながら、時代の経過とともにその信仰が変遷していくことを紹介した。 近代以後に、文化財の考え方が成立し、仏像などを美術品として愛好するようになる時代的な流れについても紹介し、あわせて中宮寺本尊を取り上げた文学作品も取り上げるなど、多角的に展覧会を構成した。 我が国でも屈指の人気を誇る中宮寺本尊の展示のため、展示空間や照明方法を入念に検討し、造形美を最大限に表現できるような空間を作り上げた。入館者の反応も極めて良好であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って有形文化財の展覧事業、教育普及活動などに関連する調査研究を実施した。2 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、予定されていた特別展 4 つのうち 3 つが中止となったが、本展は会期通り開催し、研究の成果を反映することができ、中期計画を遂行したといえる。 中宮寺の歴史に加えてアジアへの広がりを持たせた展示内容や、文学作品も取り入れた図録構成など、充実した内容となった。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　特別展「琉球展」に関連する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「琉球展」（4 年 7 月 16 日～9 月 4 日）開催に向けて、各所への出陳交渉を進めるとともに作品調査・研究を進める。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	課長　原田あゆみ

【主な成果】
（１）作品の調査研究
出陳予定作品の調査を東京国立博物館と共同で行った。外部の研究者と情報交換を行い、作品についての理解を深め、展覧会としてどのように紹介をしていくか、沖縄側の意見もうかがった。
調査に際しては、安全な輸送と展示のため、作品の基本データを採るとともに状態の把握に努めた。
（２）研究資料の収集
作品の理解を深め、さらに最新の研究成果を知るために、図書のほか各地の報告書や研究会資料を収集した。

首里城の現状と新出資料について調査の様子

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大によって調査の実施時期は遅れたものの、当初の計画についてはおおむね順調に実行している。出陳作品について調査を行い、研究を深めるとともに、新たな研究成果の情報収集ができた。また、展覧会の内容構築には、沖縄の研究者や博物館関係者と共同で準備を進めている。社会的な関心も高い展覧会であり、最新の研究成果を盛り込んでわかりやすく公開できるよう、主催メディアとの連携強化を図っている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施することができ、順調に中期計画を遂行できたといえる。 「琉球」の研究は当館にとって重要なテーマであり、今後これまでの成果を取りまとめつつ、並行して調査研究も継続し、展覧会では最新の研究成果を紹介するとともに、わかりやすい内容、展示を目指して準備を進めていく。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412Dｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　特別展「最澄と天台宗のすべて」に関連する調査研究((4)-①-2)

【事業概要】
最澄 1200 年遠忌を記念して開催する特別展「最澄と天台宗のすべて」（会期：4 年 2 月 8 日～3 月 21 日）開催に向けて、出陳交渉を進めるとともに作品の調査研究を行い、来館者に天台宗や最澄について分かりやすく伝える展示や図録を目指す。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室長　森實久美子

【主な成果】

（１）出陳交渉及び調査
　共催者とともに約 30 か所について出陳交渉を行った。出陳作品のうち滋賀・延暦寺や愛媛・等妙寺、福井・國神神社などにおいて調査を実施した。また、共催者と、展示方法、図録構成、広報について協議した。

（２）新規撮影
　延暦寺、四天王寺、等妙寺等の所蔵品について、現地撮影あるいは先行借用のうえ京都国立博物館において撮影を行った。

（３）成果の公開
　延暦寺ではこれまで殆ど調査が行われてこなかった勅封唐櫃及び、その収納作品の調査を行い、新たな知見が得られた。展示で、その成果を作品とともに公開し、図録では他の作品も含めた詳細な作品解説や総論、コラムなどを掲載して天台宗に関わる美術の集大成とするべく検討を重ねた。

滋賀・延暦寺での調査風景

【備考】
巡回会場：東京国立博物館（3 年 10 月 12 日～11 月 21 日）
　　京都国立博物館（4 年 4 月 12 日～5 月 22 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大によって出陳交渉の進捗は遅れたものの、事業概要にある目的は順調に達成した。東京国立博物館を皮切りに当館、京都国立博物館と3館を巡回する本展は、最澄の1200年遠忌を記念する大規模な特別展であり、当館にとっては天台宗をテーマとする初めての展覧会でもある。最新の研究成果も取り入れながら、天台宗の歴史と美術を優品によってたどることができる本展は訴求力があり、一般の方のみならず学界にも寄与するものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施し、展覧会の準備を進めることができた。作品の出品交渉は 2 年度におおむね完了し、また並行して展示や図録、イベントについても検討を重ねることができたため、中期計画は順調に達成することができた。 今後、新型コロナウイルスの感染状況が不透明な中での大型展覧会として、展示方法やイベントの在り方などを工夫し、次期中期においても満足度の高い展示を目指して協議を続けていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1413Hア

業務実績書

中期計画の項目	(4) -①-3) 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究
プロジェクト名称	ア　各施設と協力して、レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究

【事業概要】
文化財に親しむ機会の拡大を図ることを目的として、文化財のレプリカやVR等の先端技術及び、文化財の活用事例についての調査・研究を行った。それらの知見をもとに体験型展示等の活用事業を実施し、成果を一般に広く公開するとともに、その効果について検証した。

【担当部課】	本部文化財活用センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　小林牧

【主な成果】
(1) レプリカ制作やデジタルコンテンツ制作に関して優れた技術を持つ、企業・機関等や、それらを使ったコンテンツの公開、活用を行っている国内外の博物館・美術館の視察・インタビューを行った。
(2) 各施設と連携し、レプリカやデジタル技術を活用した体験型展示の実施や教育プログラムの開発・実施を行い、アンケートによる体験者への調査を行った。また、その成果を広く普及するため、「2019年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書」を刊行。

高精細複製品による新しい屏風体験

(3)
・キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社との連携による共同研究プロジェクトを継続して実施した。また、東京国立博物館・NHKと「みんなの8K文化財」の共同研究プロジェクトを締結、NHKエンタープライズと「オンライン用コンテンツ制作事業」の共同研究プロジェクトを締結した。放送番組「誰もみたことのない8K文化財」（NHK・BS8K）として「舟木本　洛中洛外図（3年3月20日）、「遮光器土偶」（3年3月20日）を制作・放映した。

アウトリーチプログラムの様子

・東京国立博物館、KDDIとの共同プロジェクトで、5G、ARを活用したコンテンツ「5Gで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』ARでたどる聖徳太子の生涯」を東京国立博物館法隆寺宝物館資料室にて実施し、延べ1,437人が体験した。
・企画展示「なりきり日本美術館リターンズ」（10月27日～12月6日）を東京国立博物館本館特別4室特別5室で開催した。
・東京国立博物館、凸版印刷株式会社と共催して、本館の一部をCGで再現する「バーチャルトーハク」（12月19日～3年2月28日）を公開した。

【備考】
(1)主な調査先／ソニー株式会社、チームラボ かみさまがすまう森(佐賀県武雄市)、京都市京セラ美術館ほか（松嶋雅人、高橋真作、小島有紀子、高木結美、松沼穂積、加納彩子)、国立工芸館（小林牧）
(2)アンケート調査実施事業／高精細複製品によるあたらしい屏風体験「国宝 花下遊楽図屏風」（7月1日～2日)、日本文化紹介映像（7月1日～3年3月28日)、なりきり日本美術館リターンズ（10月27日～12月6日)、8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」（限定公開7月29日～8月2日、再公開11月10日～23日)、ぶんかつアウトリーチプログラム（2年度全11回実施）
(3)シャープ株式会社との共同研究により制作した「8Kで文化財　ふれる・まわせる名茶碗」が「2020年度 グッドデザイン賞」および「グッドデザイン・ベスト100」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞。外部からも高い評価を得た。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度に引き続き、文化財に親しむ機会の拡大を目的として、国内における先進事例の調査・研究を行い、各施設や企業等との連携を強化しながら、文化財の新たな制作や鑑賞方法の開発を推進した。これらによって得た知見をもとに、体験型展示の企画・運営、教育プログラムの提供を行うことで成果を広く公開し、研究課題に関して一般市民への普及に貢献した。なお、海外の博物館における先端技術、展示等の視察は、2年度は中止した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿い、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を推進し、国内外（2年度は国内のみ）の各施設や企業等とも連携を締結、強化しながら、文化財に親しむ手法の開発に関する研究を重点的に行った。展示やシンポジウムの開催、教育プログラムの実施等においてその成果を広く公開し、中期計画を遂行できた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　博物館環境デザインに関する調査研究

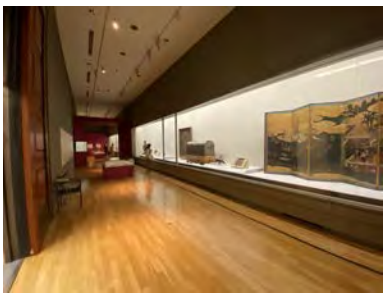
【事業概要】
当館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課デザイン室長　矢野 賀一

【主な成果】
・「本館 13 室工芸展示改修」「博物館でアジアの旅」「親と子のギャラリー トーハク×びじゅチューン！『なりきり日本美術館リターンズ』」「びじゅチューン！×OPAM なりきり日本美術館」「世界と出会った江戸美術」「まるごと日本美術体験」「イスラム展」(3 年度開催予定)、「博物館で初もうで」「本館 17 室保存修復」の展示デザインを行った。
・「法隆寺百済観音像展示ケース解体移設作業」を行った。
・「東京国立博物館ポスター」「総合文化展「日本美術の流れ」解説パネル」「特集展示サイン」「カフェのグラフィック」のデザインを行った。

法隆寺展の展示ケース

なりきり日本美術館展示会場


世界と出会った江戸美術展示会場

【備考】
・他館 の デザイン調査：これまでの国内外の博物館・美術館でのデザインを調査し、特に 2 年度においては総合文化展の展示デザインのための参考とした。
・調査先／京都市京セラ美術館、竹中大工道具館、春日大社宝物館、アーティゾン美術館、東京都写真美術館、福田美術館、大倉集古館、国立工芸館

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	年度当初の目標を達成している。国内外の美術博物館デザインの最新事例を調査した成果を、総合文化展示及び特別展への展開することが達成されている。3年度は引き続き国内外の美術博物館デザインの調査を行う。また最新の情報技術など、本館の総合文化展示や展示室のスマート化などへ展開できるよう調査研究を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期全体を通して、本館13室で工芸作品を展示するため、高透過低反射合せガラスや小型LED照明器具を用いた展示ケースをデザインし、無線操作が可能な高演色LEDスポットライトを導入するなど、観覧環境の向上につなげることができ、中期計画で策定した目標を達成した。 3 年度以降は展示室のスマート化の調査研究及び本館リニューアルのデザインを進める予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　博物館教育に関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】
来館者の鑑賞体験を豊かにすることを目的とした、博物館教育の理論と実践に関する調査研究を、教育普及事業の実践、参加者に対するアンケート、学校教員との研究会を通して行った。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　伊藤信二

【主な成果】
(1)各種ワークショップ、スクールプログラム等は対面プログラムを避け、zoom を使用したオンラインワークショップや自由見学と組み合わせる事前視聴動画など、新規プログラムの開発とその運営に関する研究を行った。
(2)日本文化体験プログラムを継続して実施した。2 年度は、さまざまなタイプの日本文化体験ができる参加型展示として親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」（会期：3 年 1 月 19 日～2 月 28 日）を実施し、デジタルコンテンツや手でさわるハンズオン展示など、多様な角度から日本文化体験のあり方について検討、研究を行った。
(3)障がい者に向けたプログラムの開発を目指した調査・研究を継続して行い、オンライン講演会、オンラインギャラリートークにおいて字幕やテロップなどの表記を実施した。
(3)ボランティア組織のマネジメント及びボランティアによる事業の開発等について調査・研究を行い、ボランティアに向けて、オンライン利用についての研修を行った。

オンラインワークショップ

【備考】調査
(1)ワークショップ等における参加者アンケート調査　4 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新型コロナウイルスの影響でほとんどの既存の教育プログラムが中止となったため、オンラインでのワークショップやイベントの開催、動画による作品解説の提供など、感染拡大防止と両立した新しい形態の教育普及プログラムを検討、実践した。オンラインワークショップでは、今までプログラムを提供することができなかった遠方の参加者にも体験していただくことができ、新たな来館者層の開拓につながった。そのため、所期の計画を上回る成果を上げたと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、従来の手法からの変更を余儀なくされたが、そうした中においても、より幅広い来館者に向けた鑑賞支援プログラムの調査・研究と実践を目指した。 未就学児を対象としたキッズデーなど子どもを対象とした事業、オンラインでの講演会やギャラリートークにおける字幕やテロップの導入など障がい者を対象とした事業、感染対策を万全にとったうえでの日本文化体験の充実など、外国人を視野に入れた事業の調査・研究などを中期計画の最終年度として実施した。これらの取り組みは、新型コロナウイルス収束以後にも当館の重要なレガシーとなりうるものである。 以上により今中期計画期間全体を通して、中期計画を遂行できたと判断した。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究

【事業概要】
館蔵文化財のデジタルアーカイブを活用した、文化財の新たな公開・鑑賞手法を、凸版印刷株式会社と共同で研究する。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　今井敦

【主な成果】
・「風神雷神図のウラ　―夏秋草図に秘めた想い―」を、7 月 1 日 ～10 月 4 日に公開した。
・文化財活用センター企画担当課長・松嶋雅人が監修した新作コンテンツ「国宝 松林図屏風―乱世を生きた絵師・等伯―」を制作し、同作品が出品された特別展「桃山―天下人の 100 年」の会期を含む、10 月 7 日～12 月 20 日、3 年 1 月 2 日～1 月 17 日に公開した。
・「洛中洛外図屏風　舟木本」を、3 年 1 月 20 日より公開した。
・新作コンテンツ「光琳が描いた小袖　重要文化財　白綾地秋草模様　尾形光琳筆」のために、修理前画像を撮影した。

【備考】
・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、新作コンテンツ「国宝金堂―聖徳太子のこころ」は休演となった。

「国宝　松林図屏風」撮影の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・新型コロナウイルスの影響で一作品が休演を余儀なくされたが、既存のコンテンツの再演とともに、特別展と連動した新作コンテンツを公開することができ、所蔵品のデジタルアーカイブ蓄積の有用性を再確認できた。 ・「風神雷神図のウラ　―夏秋草図に秘めた想い―」は、3,943名（定員充足率23%、新型コロナウイルス感染症対策のため、上演期間を通じて定員数を90席から48席に削減）の来場者があった。「国宝 松林図屏風―乱世を生きた絵師・等伯―」は、5,036名（定員充足率17.3%、新型コロナウイルス感染症対策のため、1月2日～3日、8日～17日は定員数を90席から48席に削減）の来場者があった。デジタルデータを活用した新たな鑑賞手法の有用性が立証された。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・デジタルアーカイブのデータ取得に関する調査研究については、新たなデータ取得手法の確立を含め、着実な成果をあげることができ、中期計画の目標を達成できた。 ・新規データの取得による新作コンテンツの開発により、集客力のあるコンテンツを継続的に公開することができ、中期計画の目標を達成できた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aエ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】

来館者の鑑賞体験を深めることを目的とした日英中韓４ヶ国語による鑑賞支援アプリ「トーハクなび」を開発し、ユーザー動向解析によりより豊かな鑑賞体験の創造に関する調査研究を行った。また、あわせて児童生徒のための鑑賞支援アプリ「学校版　トーハクなび」を開発した。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　伊藤信二

【主な成果】

1)平成 24 年より提供してきた公式ガイドアプリ「トーハクなび」（日英 2 言語対応）を、同名の新しいアプリ（日英中韓 4 言語対応）としてリニューアルした。

2)公式 WEB（https://www.tnm.jp/）と国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase(https://colbase.nich.go.jp/)との連携を行い、最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みを整えた。

3)展示室内に設置したビーコンとシステムを連動させることで、来館者の操作を最小限にかつスムーズに解説を提供し、展示室内で特に注目すべき作品への理解の促進を図った。

4) これまでの外国人調査で特に人気の高かった「浮世絵」や、文章による解説だけでは理解が難しい「鏡」「自在置物」等について、直感的な操作でそのしくみを学ぶインタラクティブコンテンツを開発し、アプリに搭載した。

5) 新たに 200 件弱の作品解説（日英中韓）を作成し、システムに追加した。また、既存の解説についてもネイティブスタッフや担当研究員と議論しながら精査を行い、質の向上に努めた。

6)27 年 4 月より継続して「トーハクなび」のユーザーログを集積。新たにアプリに搭載した Google Analytics のデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、より精度の高いデータを集積できるしくみを整えた。

7)学校団体で来館する児童・生徒を対象としたスクールプログラムの一環として、タブレット端末によるアプリ「学校版トーハクなび」も、あわせてリニューアルを行った。ただし新型コロナウイルスの影響によるスクールプログラム受入れ中止に伴い、「学校版トーハクなび」の貸出は行われなかった。

8)ICT を利用した博物館ガイドについて、他館への情報提供や意見交換を行った。

トーハクなび作品解説画面（中国語）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新しいシステムの開発により、長年課題であった、言語による解説数やデバイスの不均衡が改善され、頻繁な展示替えに対応しうる作品解説の提供が実現した。 アプリ「トーハクなび」ユーザーの動向についてのデータを集積することができ、アプリの特性を活かし、インタラクティブコンテンツや、ビーコンによる作品検索など新たな鑑賞体験を提供することができた。 今後は、2年度開発したアプリとシステムをプラットフォームとし、より利便性の高い機能の搭載や、作品解説の充実を検討したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今中期計画期間全体を通して、これまでの蓄積してきたデータとノウハウを生かし、主に訪日外国人を対象とした鑑賞支援プログラムの開発を実現することができた。またこれまでのユーザー動向解析の方法に加え、展示室内のビーコンやアプリそのものからログデータを集積するしくみも整えた。2年度は館内での利用者数が限られていたため、3年度以降に大掛かりな調査を実施したい。 また、学校団体での来館者に対しては、「学校版トーハクなび」の提供を再開したい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1413B ｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア 博物館教育及びボランティアに関する調査研究（（4）-①-3））

【事業概要】
本研究では、第一に、館内で活動するボランティア「京博ナビゲーター」を実例に、対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究を行った。第二に、「文化財に親しむ授業」で講師を務める大学生及び大学院生のボランティア「文化財ソムリエ」の育成に関する実践と研究を行った。第三に、感染症対策と博物館教育の両立に関する実践と研究を行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室主任研究員　水谷亜希

【主な成果】

1)京博ナビゲーターの活動
・京博ナビゲーター198 人の育成及び運営(感染症対策含む)にかかる調査研究
・特別展関連ワークショップ「姿から見つける、私の好きな観音さま」の実践と研究(結果的にワークショップは中止となったため、「おたのしみコーナー」に変更)
・第 1 期京博ナビゲーター(29 年度任期満了)への質問紙調査をもとに、元調査員と共同で論文を執筆・公開(1 件)
・「京博ナビゲーター活動記録　2014(平成 26)～2020(令和 2)年」(1 回・2,000 部)の発行

京博ナビゲーター
活動記録

2)文化財に親しむ授業
・文化財ソムリエ 18 人の育成にかかる調査研究(スクーリング・20 回)
・「文化財に親しむ授業」(6 回・304 人)の実践と研究
・「記者体験in京都国立博物館」(京都市教育委員会主催)(1回・135人)の実践と研究
・教員による複製を活用した授業の支援と分析(3 回・183 人)

3)
・感染症対策に関する他館の活動調査(オンラインや電話による情報収集、近隣館の視察)
・「姿から見つける、私の好きな観音さま」七観音オリジナルぬりえ(7 種類・40,000 部)の発行
・特別展関連鑑賞ガイド「宮廷文化ことはじめ」(日本語 56,000 部・英語 4,200 部・中国語 700 部・韓国語 700 部)の発行
・特別展関連鑑賞ガイド「戒律と鑑真さん」(日本語 45,000 部・英語 1,500 部・中国語 500 部・韓国語 500 部)の発行
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」(1 回・5,000 部)の発行
・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド(日本語・英語・中国語・韓国語　各 24 本)の作成

【備考】
本研究を踏まえた事業の実績については、処理番号 1311B1、1311B2、1312B も参照。
1)科学研究費助成事業「対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究」6 年計画(研究代表者の育児休業のため 2 年延長)の 5 年目
論文：水谷亜希・烏賀陽梨沙「京都国立博物館におけるボランティア活動の展開とその意義―京博ナビゲーター―」『学叢』第 42 号、京都国立博物館、6 月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	京博ナビゲーターについては、新型コロナウイルスの影響により館内での活動が全て中止となったが、情報収集や計画の見直しをすることで、活動について再考するきっかけになり、また従来の「ハンズ・オン」「対話」の重要性について再認識する機会にもなった。京博ナビゲーターの協力を得て作成した論文や活動記録の冊子は、当館・他館の今後の活動の参考になるものと位置づけている。文化財ソムリエ育成については、2 年度は授業内容の全面リニューアルを目指したことにより、文化財ソムリエが主体的に議論し、授業案を作成することができた。 感染症対策と博物館教育の両立については、前述の活動に加え、個人で楽しむことのできる教育コンテンツ(ぬりえ・特別展関連鑑賞ガイド・ジュニア版音声ガイド)や、オンラインでの情報発信(動画)を新規に実践し、さらには 4 言語で展開することで、対象を拡大することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	今中期全体を通して、「京博ナビゲーター」の活動に関しては、新規事業としてミュージアム・カートへの教材追加、資料の多言語化、ポータルサイトの運用開始、論文や記録集の作成・公開を行い、「文化財に親しむ授業」に関しては、高精細複製の教材追加、近隣他県への複製貸出、ICOM 関連イベントの実施等を新たに行った。その他、子ども向け特集展示、ジュニア版音声ガイド作成等を新規に行い、中期計画を大幅に上回る成果をあげることができた。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1413Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統文化に関連する教育普及コンテンツを制作し、学習の機会を提供するとともに、オンライン形式でボランティア活動を推進し、新たな形で地域学習の展開を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】
(1)奈良教育大学文化遺産教育専修・奈良教育大学大学院「地域と伝統文化」教育プログラムの学生と当館が連携する形で、特別陳列「おん祭」に関連する子ども向けワークショップの動画「紙コップで作ろう！鼓」と「動く！おん祭の絵巻」を制作し、一般に公開した。動画を制作するにあたり、Web 会議用アプリ Teams を利用する形式で検討を重ねた。
(2)オンライン主体とした形式でボランティア活動を推進し、オンライン形式で活動を進めることができる体制を整えた。オンライン形式で活動を進める体制を整備したことにより、展示案内・ワークショップの動画の制作や、オンライン中継形式による奈良の歴史や伝統文化を学ぶ世界遺産学習等、今後展開していく活動の足掛かりを築くことができた。

ワークショップ動画「紙コップで作ろう！鼓」

【備考】
・動画の再生回数「紙コップで作ろう！鼓」332 回、「動く！おん祭の絵巻」396 回
・オンライン主体で推進しているボランティア活動の種類は計 15 種類

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	オンラインシステムを活用しながら奈良教育大学と検討を重ね、「紙コップで作ろう！鼓」と「動く！おん祭の絵巻」の動画 2 本を制作することができた。また、オンライン形式によってボランティア活動を実践したことにより、新たな教育普及コンテンツを制作し展開していく足掛かりを築くことができた。今後も引き続き、オンラインコンテンツの制作やオンライン形式によるボランティア活動の展開を図り、教育普及事業の質を向上させる予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通し、奈良教育大学や奈良市教育委員会と連携し、教育プログラムの開発や、教育普及コンテンツの制作に尽力することができた。特に、中期計画最終年度にあたる 2 年度は、展示に関連するワークショップの動画を制作・公開したことにより、新型コロナウイルスの感染拡大により来館できない人々に対して学習の機会を提供することができた。また、従来は対面形式にて実施していたボランティア活動をオンライン形式でも行えるよう仕組みづくりを進めてきたことで、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下においても、オンライン形式で世界遺産学習を継続して実施する体制を整えることができた。以上により、中期計画を遂行したと判断した。 次期中期においてもオンラインシステムを活用し、地域学習やアウトリーチ活動の一層の充実化を図りたい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究（(4) -①-3)）

【事業概要】
特別展をよりわかりやすくするための教育普及プログラムを実施する。2 年度は「古代エジプト展」及び「よみがえる正倉院宝物」のための準備を行った。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　西島亜木子

【主な成果】
・「古代エジプト展」は新型コロナウイルスによる文化財輸送の影響や、感染予防対策の観点から当館での開催は中止となった。本展ではミイラが多数出品されることから、ミイラづくりのプロセスを体験するコーナー及びヒエログリフで名前を書く体験コーナーの設置を予定しており、実施に向けた準備を行った。体験コーナーの一つ、死者の臓器をカノポス壺に入れるコーナーで使用する臓器とカノポス壺を、監修の中野智章氏指導のもと制作した。

また、なじみのないエジプトの文化を紹介する解説パネルも制作することとなっており、本展監修者に協力を得ながら原稿を作成した。会場に掲示予定であった「ヒエログリフ アルファベット表」とヒエログリフの解説は、当館ウェブサイトの「おうち de きゅーはく」に掲載した。

さらに、イベントの一つとして実施予定であった「ミイラづくりワークショップ」（講師：古代オリエント博物館職員）を視覚障がい者にも参加していただけるように、「視覚障がい者向けミイラづくりワークショップ」として古代オリエント博物館と共同で開発した。

ヒエログリフ アルファベット対応表

制作したカノポス壺

・特別展「よみがえる正倉院宝物」は、模造の意義をわかりやすく伝えるため、模造製作者の言葉や道具を紹介するコーナーを設置予定である。このコーナーで製作者の声を会場で流し、言葉の一部を掲示するため、制作者へのインタビューを実施し、制作時に使用した道具についてのヒアリングも行った。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響により「古代エジプト展」は当館では開催されなかったが、制作したカノポス壺は今後文化交流展で活用予定である。会場で掲示予定であったヒエログリフの解説パネルは、当館が新型コロナウイルス感染予防対策として閉館中に開設したウェブサイト「おうち de きゅーはく」に掲載することで、活用できた。このページに関してのツイートに対する「いいね」は 23,000 件に及び、大変話題となった。これまで当館に来館したことがない層にもアピールできたといえる。また、「古代エジプト展」で開催予定であったファイアンスを作るワークショップは、今後文化交流展関連イベントとして開催する予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って調査研究を行った。特別展の教育普及プログラムは、これまでのアンケート調査で高い評価を受けており、来館者の期待に応えることができていると言える。2年度は新たにウェブでの発信を行った。これまで来館がなかった層にもアピールでき、新たな来館者層の開拓につながった。また、元年度より新たに始めた視覚障がい者向けプログラムも高評価を得ており、今後の開催が期待されている。 以上のことから、中期計画における「教育普及に関する調査研究」のうち、特別展の教育普及について、充分達成できたと考える。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究（(4) -①-3)）

【事業概要】

当館では、多様な方が博物館の楽しさを享受できるよう、元年度から手話通訳付きミュージアム・トークや特別展の視覚障がい者向け観覧ツアーなど、多岐にわたる取組を行っている。2年度は文化交流展示室でのユニバーサル・ミュージアムに向けた企画や手話通訳付きリモートバックヤードツアー、点字館内案内作成の取組を通して、博物館での合理的配慮をどのように行うべきか、当事者のヒアリング等も含めた研究を行った。

【担当部課】	展示課 学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　加藤小夜子 主任研究員　西島亜木子

（主な成果）

(1) 文化交流展示室第７室企画展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」

・企画の際に福祉団体のイベント※1（元年 12 月 7 日）や国立視力障害センター（6 月 18 日）でヒアリングを行い、展示にインクルーシブデザインの手法を取り入れた。（※1 福岡市市民福祉プラザ みんなでふくし&ふくふくまつり）

・点字付きチラシや点字付きガイドブック（銅印「大宰之印」）を作成し、展示室内での配布に加えて福祉団体や特別支援学校等へ送付した。特に点字付きガイドブックについては、印面が分かるような盛り上げ加工を施したため、大きさや文字の形が分かりやすいと好評を得た。

・点字付きのキャプション(白黒反転文字・UD フォント使用)台を設置し、白杖などの杖を置く器具を取り付けた。また、車椅子の来館者も利用しやすい台を選び、導線を確保した。

・当初はハンズ・オンを予定していたが、新型コロナウイルスの影響により実施が難しくなった。そこで土器のレプリカの断面を展示することで作り方の想像につなげたり、銅鐸を鳴らす音から当時の人々に思いを馳せる投げかけを表示するなど、さわらなくても楽しめる企画へと変更した。

(2) 文化交流展示室 視覚障がい者向け館内案内作製

本年度文化交流展示室のテーマ解説の点訳と触知図を掲載したリーフレットを作製した。白黒反転文字、UD フォントを取り入れ、音声コードも掲載している。また、色が見えにくい方のために専門家に意見を仰ぎ、各テーマの境目が分かりやすくなるよう色の調整等を行った。主に特別対応の際のガイダンス、視覚特別支援学校の修学旅行の事前学習等で活用を予定している。

(3) 手話通訳付きリモートバックヤードツアー

手話通訳付きバックヤードツアーをリモートで実施した（3 月 6 日 10:00～、14:00～）。参加者 24 人中 18 人が県外からの参加、また聴覚障がいの方の参加は 4 人であった。事後のアンケートではバックヤードの見学やチャットで研究員とやりとりができたことが良かった点としてあげられ、展示室や免震層でも開催してほしいなどの要望も多かった。

(4) 字幕付きウェブコンテンツ

自宅でワークショップなどを楽しめるウェブコンテンツ「おうち de きゅーはく」は、文化交流展の展示に関するコンテンツも制作しており、動画はすべて字幕を付け、聴覚障がい者にも楽しんでいただける内容とした。

実物とレプリカの間にキャプション台を設置

点字付きガイドブック

【備考】

・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」会期中の文化交流展示室入場者数：21,536 人

・取材：(1)読売新聞(9 月 21 日掲載)　日経新聞（11 月 17 日掲載）　ケーブルステーション福岡（9 月 16 日放送）KBC ラジオ（10 月 27 日放送）
(3)NHK(3 月 6 日放送)

・論文：茂泉千尋・加藤小夜子「コロナ禍におけるハンズ・オン展示とユニバーサル・ミュージアムの取り組み―九州国立博物館の事例から―」『東風西声』第 16 号、九州国立博物館、3 年 3 月 31 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国立視力障害センターの利用者（視覚障がい者）からの、作品の「色・大きさ・材質」がわかると作品のイメージがしやすいとの意見があり、これを（1）の作品解説に取り入れたところ、晴眼者からも「材質や奥行き長さが分かり、より楽しめる」と好評を得た。インクルーシブデザインの手法を取り入れることは、結果的に子どもから高齢者まで年齢や国籍を問わず、また障がいの有無に関わらず「誰もが楽しめる博物館」へつながることを実感できた。また、2年度は視覚障がい者向け館内案内を作製することができた。3年度に向けてより効果的な活用法を検討したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、毎年新たなユニバーサル・ミュージアムへの企画を実施し、多様な方への歴史・伝統文化の理解に資する展覧事業ができたことから計画を達成したいえる。 30 年の障がい者による文化芸術活動の推進に関する法律の成立やオリンピック・パラリンピック開催に向けて、多様な方が博物館の楽しさを享受できるよう、より一層の配慮が求められる。博物館での合理的配慮はヒアリングなしには成立しない。今後も様々な機関や団体、学校などとの連携をさらに深め、ユニバーサル・ミュージアムへの取り組みを進めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421Aｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	博物館の環境保存に関する調査研究

【事業概要】
当館による文化財の活用に伴い保全の必要性が生じる、収蔵環境、展示環境、輸送環境について調査研究し、今後の環境の向上を目的として実施する事業。

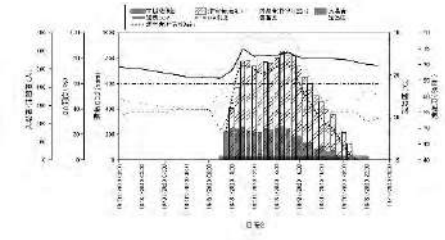
【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　冨坂賢

【主な成果】

(1) 展示保存施設の環境に関する調査研究
新規の作品貸与予定先の施設を中心に、展示環境の調査を行った。その際に協議した、環境改善や環境維持についての共通する課題や取り組み事例を情報共有し、当館の環境保全についての有益な知見が得られた。

(2) 地震波を受けた際の展示物の挙動に関する調査研究
想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用の免震装置がどのような挙動を示し、またそれを推定する方法について検証した。

(3) 梱包資材の衝撃吸収特性に関する調査研究
文化財輸送に用いられる緩衝材について、衝撃試験によって衝撃吸収特性を計測し、適切な使用法について検証した。



特別展開催時における入場者・滞留者・空調稼働状況・温湿度・換気状況の総合的な解析を実施した一例

(4) 展示室内の換気と保存環境維持の両立を目指した調査研究
感染症対策の一環として、展示室内の換気と保存環境維持の両立を考慮しつつ、適切な収容可能人数の検証を行った。

【備考】
【調査先】 国立アイヌ民族博物館、秋田大学鉱業博物館、神戸市立博物館、陸前高田市立博物館、福島県文化財センター白河館、大阪府立狭山池博物館、北海道立近代美術館、新潟県立近代美術館、長崎歴史文化博物館
【研究成果の学会発表・論文】
・相川悠、和田浩「老朽化した収蔵施設における生物被害状況及びその対策の事例報告」文化財保存修復学会第 42 回大会、7 月 10 日
・黄川田翔、和田浩、他「想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動」日本文化財科学会第 37 回大会、9 月 5 日
・和田浩「資料の展示で用いられる支持具における保存と演出の両立に関する課題」教職課程センター紀要、第 5 号、p. 41-45、12 月 1 日
・和田浩「美術品に用いられる包装資材の評価に関する現状と課題」日本包装技術協会北海道支部 2020 年度包装懇話会、11 月 25 日
・和田浩「展示室内の滞留者数と室内環境について」第 39 回日本展示学会研究大会、9 月 20 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品の貸与予定先施設を中心に、現地に赴き調査をし、施設毎の状況に応じた実現可能な環境保全について双方で協議を続けた。こうした調査により当館に有益な知見が得られ、当館の環境評価と改善に関する調査研究へと進展させることができた。 博物館の防災に関する調査研究も新たなテーマに基づいて進め、博物館が今後想定しておくべき地震の規模についての考え方をまとめる基礎ができた。 また、従来手薄であった文化財梱包に用いられる資材の衝撃吸収特性について試験を重ね、特性把握のための手法を確立することに成功した。 以上に関する成果についても各種学会等で相応な数の研究発表を行うことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画期間全体を通して、収蔵環境、展示環境、輸送環境の3つの環境に対する調査研究をバランス良くかつ効果的に実施することができた。特に、輸送環境に関する研究は独自性が非常に高いものと評価できる。加えて博物館防災の観点から独自の研究課題を見出し、次期計画へと継続すべき内容を明確化し、得られる成果と効果についてある程度の予測を策定した。毎年度の研究成果は学会等の適切な場で発表公開し、様々な分野の研究者と協議しながら、研究内容をより高次元へ発展させることができた。 以上に示した成果のように、中期計画の目標を達成することができた。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア 修復文化財に関する資料収集及び調査研究（(4)-②-1)）
【事業概要】文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行う。	
【担当部課】 学芸部	【プロジェクト責任者】 保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】

(1)修復文化財情報の収集と調査

・元年度に文化財保存修理所の工房に搬入された新規の修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理計画書」に基づき、137 件のデータを収集し、「修復文化財データベース」に登録した。

・当館研究員により 1 回行った修理工房の巡回のほか、修理技術者とともに実施した科学調査を含む調査を適宜実施し、文化財の構造や使用材料、内部納入品・銘文調査など、修理中にのみ得られる情報を収集、分析した。

(2)修復文化財情報の整理

・30 年度に修理が完了し、搬出を終えた修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理解説書(報告書)」に基づき、1,272 件のデータを「修復文化財データベース」上で更新し、整理作業を行った。

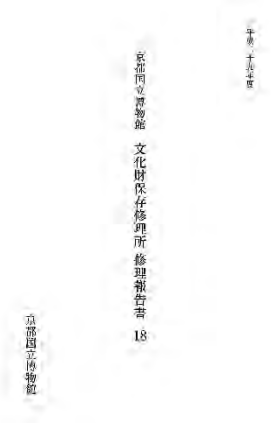
(3)模写作成のための文化財の調査

・当館と模写修理事業者(六法美術)による当館蔵「若狭国鎮守神人絵系図」の復元模写(5 か年計画)の 4 か年目として、欠失箇所の処置等について検討を開始した。

(4)情報の公開と共有

・29 年度に修理が完成した文化財 163 件に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 18 号(3 年 3 月 31 日発行)に掲載した。

・修理時の調査により発見された銘文 28 件を「銘文集成」として同書に報告した。



『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 18 号

【備考】

(1)データ収集件数 137 件、巡回回数 1 回

(2)データベースの追加更新件数 1,272 件

(4)報告書　1 冊（修理報告 163 件、銘文報告 28 件を含む）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修理所で行われる文化財修理に係る情報については、紙ベースでの収集・整理を行うとともに、過去の情報から順次遡及的にデジタル化を進めている。2年度は、新型コロナウイルスの影響もあったものの予定通りデジタル化を進め、さらに今後のデジタルデータの増量を見据え新たにサーバーの増設を行った。 「若狭国鎮守神人絵系図」(当館蔵)の復元模写事業は、具体的な欠失箇所の処置について検討を開始するなど5か年計画の4か年目として順調に進捗している。 また、特別企画「文化財修理の最先端」を開催し、近年の修理事業を通して得られた知見を広く公開することができた。さらに、その知見を盛り込んだ図録の刊行、シンポジウムの開催を通じて広く情報を発信したことは、年度計画を上回る成果であったといえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に沿って、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究活動の一環として、文化財保存修理所で実施されている修理・模写文化財の資料収集及び調査研究を行った。修理文化財の多寡自体は他律的要因により変動があるが、安定した件数で推移しており、資料収集を継続的に蓄積していくという中期計画の所期目標を上回る成果をあげることができた。 また、特別企画「文化財修理の最先端」の展示及び図録を通して、近年の修理事業から得られた知見を広く公開できたことは中期計画の最終年度を締めくくるに相応しい成果であったといえる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421B イ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ② その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ 文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究（(4)-②-1）

【事業概要】
博物館の展示・教育普及活動に関連する調査研究として、有形文化財の製作技術に関わる調査や材料等に関する調査を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室　降幡順子

【主な成果】

調査風景

(1)特別展「聖地をたずねて」に関連する調査研究として「密教法具」(三室戸寺)の構造及び材質調査を実施し、鍍金、構造に関する情報を得ることができた。
(2)特別展「皇室の名宝」に関連する調査研究として、「花手桶形引手」(宮内庁京都事務所)の構造及び材質調査、「悠紀主基図屏風」(館蔵品)の彩色材料調査を実施した。引手調査では、母材の材質、鍍金、修復箇所に関する情報を得ることができた。
(3)名品ギャラリー「九州と近畿の弥生・古墳時代」(相互貸借事業)に関する調査研究として弥生土器、須恵器等の構造調査を実施し、土器製作技法に関する情報を得ることができた。
(4)国・都道府県からの依頼を受入れた復元・修理事業に関わる事前調査及び共同調査等に係る非破壊分析調査を実施した。2 年度は、考古、絵画、染織、金工品を対象に X 線 CT 撮像 4 件(7 点)、透過 X 線撮影 4 件(18 点)、蛍光 X 線分析(携帯型装置含む)11 件(79 点)、デジタル写真計測 1 件(1 点)を行い、展示・復元事業等の調査として、有用なデータを提供することができた。

【備考】
(1)学会発表等
・降幡順子・LimaAugusta・山本文子「黄色上絵付顔料について―16 世紀後半から 20 世紀の日本と中国－」『文化財保存修復学会』、6 月
・降幡順子・中屋菜緒・近藤無滴「社寺等における立体的な文化財資料の減災－シミュレーションを利用した転倒防止対策－」『日本文化財科学会』、9 月
(2)論文等
・井並林太郎・降幡順子、「佐竹本三十六歌仙絵　科学分析結果報告」、『学叢』42 号、京都国立博物館、pp.123-142、6 月
・永島明子・池田素子・降幡順子、「平安時代の蒔絵箱三合について-宝相華迦陵頻伽蒔絵へい冊子箱（仁和寺蔵）・宝相華蒔絵宝珠箱（仁和寺蔵）・宝相華蒔絵経箱（延暦寺蔵）」、『学叢』42 号、京都国立博物館、pp.143-160、6 月
・古谷毅・小山浩和・降幡順子、「鳥取県立博物館蔵宇部神社経塚出土経筒の科学的調査―X 線 CT・蛍光 X 線調査による構造および材質分析―」、『学叢』42 号、京都国立博物館、pp.113-122、6 月
・神野恵・降幡順子・尾野善裕・大坪州一郎・本吉恵理子、「平城京出土須恵器の胎土分析」『奈良文化財研究所紀要 2020』、奈良文化財研究所、pp.186-189、9 月
・降幡順子、「文化財修理に関わる科学調査」『文化財修理の最前線』、pp.7-8、12 月
・降幡順子・古川史隆・田澤梓、「金勝寺所蔵　独鈷杵および五鈷杵の科学的調査報告」『研究紀要第 37 号』、滋賀県立琵琶湖文化館、pp.1-12、2 年 3 月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度は、外部からの依頼による科学調査を含め、館蔵品・寄託品、展示に関わる科学分析調査の機会が増加し、成果を展示・復元事業等へ活用することで、社会への貢献を果たすことができた。また、研究を継続し、データの蓄積を図ることで、今後の文化財の非破壊分析への応用にも期待できる。 これらの結果の一部は、学会、紀要等により広く公表することができた。3年度以降も調査研究の展示、復元・修理事業への活用と、調査成果の迅速な情報公開に努める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画当初から年々収蔵品・寄託品の調査点数が増加し、研究成果の発信も増加させることができた。これまで修理等への情報提供が多かったが、今中期計画全体を通じて、展示事業等へ調査結果を活用する機会も増え、広報等への取組も実施することができたことから中期計画所期の目標を達成することができた。 次期中期計画においても調査研究の継続に努め、データを蓄積するとともに、より安全な科学調査の実施を目指した体制を整えるとともに、新たに教育活動への取り組みの充実を図る必要があると考えている。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

館内施設や設備（展示室・展示ケース・収蔵庫等）の環境が文化財に与える影響の調査・分析を目的としている。次の 3 点の調査を継続的に実施し、得たデータの分析と情報共有を行うことで保存環境の向上を図った。

(1)温湿度センサーを用いた館内施設の温湿度調査
(2)展示ケース内に浮遊する塵埃調査（電子顕微鏡を用いた塵埃の観察）
(3)文化財害虫トラップの設置及び回収

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1)元年度に引き続き、展示室や展示ケースに設置した無線式温湿度センサーで 24 時間リアルタイムモニタリングを実施した。蓄積した温湿度データから、展覧会ごとに情報を整理し展示ケースの気密性向上に役立てた。収蔵庫についても元年度同様、温湿度データロガーとデジタル温湿度計を用いた定期期的なモニタリングと温湿度データの回収を行い、空調の調整に役立てた。

(2)正倉院展終了後に、展示ケース内のアクリル製治具などから塵埃を採取、電子顕微鏡にて観察し、塵埃の状況からケースの気密性に対する評価を行った。

調査結果を踏まえ、気密性向上のための修理や部材交換などのメンテナンスを実施予定。

(3)元年度に引き続き、文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置し、2 か月に 1 回交換を行った。調査結果を蓄積し分析することで IPM(総合的有害生物管理)を推進し、文化財害虫の生息が確認された箇所を重点的に清掃し被害の低減に努めた。また、清掃と防塵マット交換を定期的に実施し、展示室・収蔵庫の周辺の衛生環境保持に努めた。

温湿度データロガーとモニタリング PC

【備考】

・学芸部保存修理指導室員並びに総務課環境整備係員等により構成される、「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を実施した。月に 1 回程度開催し、保存環境に関する問題点や改善案について協議を重ねている。
(1)展示室内温湿度調査：167 か所
(2)展示ケース内ほか粉塵調査：24 か所
(3)文化財虫害生息状況調査：100 か所
・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：8 回開催

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続した調査の実施やデータの蓄積を着実に行っている。また、調査で得られた結果を踏まえ、ワーキンググループでの情報共有や議論を行い、保存環境の保持と改善を図った。データの共有化を進め、保存環境の維持や向上を進めると共に円滑な監視体制を整えた。なら仏像館についても同様に館内環境維持のため継続して調査を進めデータの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通し、展示室や収蔵庫の温湿度並びに文化財害虫に関するモニタリングや調査を行った。また、28年にリニューアルオープンした、なら仏像館も、同様にデータの蓄積を着実に継続して実施することができたため、中期計画は達成されたと判断した。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

本事業では、以下の 3 点の内容について実施した。

(1) 修理方法の記録を残し将来の文化財修理に資するため、館蔵品や寄託品の保存状態に関する科学的な調査を行う。その内容を保存カルテとして記録する。

(2) 館蔵品や寄託品の修理を着工するにあたり、修理文化財の保存状態に関する情報を得るための科学的な調査を行った。また、調査結果を踏まえた修理調書を作成している。

(3) 修理中の文化財から取得した材質・銘文等の情報について調査と分析を行った。また、その結果を当館の研究紀要などへの掲載等を行いデータの蓄積を実施している。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1) 元年度に引き続き、館蔵品や寄託品の保存状態を詳細に観察するとともに、得られた情報をふまえ保存カルテを作成している。必要に応じて光学調査も併せて実施し、作品の基礎データを蓄積した。

(2) 元年度に引き続き、館蔵品や寄託品の修理に伴い、詳細な観察や光学調査を実施した。保存カルテと調査結果をふまえて修理調書を作成し、館内鑑査や修理方針の策定に役立てた。

(3) 2 年度は修理中の木製文化財の樹種同定を実施しなかったが、修理中に発見された銘文は、当館研究員が翻刻を行い情報化と整理を実施した。この成果は「奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書」第 2 号として 4 月に刊行した。2 年度の成果については 3 年 3 月刊行の修理報告書第 3 号に掲載した。

【備考】

・保存カルテや修理調書を基に修理された文化財は、修理完了後の翌年度冬に開催される特集展示「新たに修理された文化財」にて公表している。

(1) 保存カルテ作成件数：総計 84 件
(内訳　絵画：19 件、書跡：17 件、彫刻：2 件、工芸：14 件、考古：30 件、その他：2 件)

(2) 修理調書作成件数：総計 8 件
(内訳　絵画：3 件、彫刻：2 件、工芸：2 件、考古：1 件)

(3) 材質調査件数：0 件

2 年度 特集展示「新たに修理された文化財」会場の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財保存修理所の修理技術者と連携を進め、X線CT、X線透過撮影や顔料調査などの科学的調査を行い、修理に有用な成果が得られた。保存カルテについても整備を進め、修理方針の検討に役立てた。また、材質調査や銘文調査も引き続き実施し、データの蓄積を図った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館の文化財保存修理所は、奈良をはじめとする国指定品の修理における拠点であり、修理技術者との連携は今後も重要である。本事業は、修理に関する基礎情報を収集し、その成果を公開するものである。中期計画期間を通して、継続した調査並びに情報の蓄積に尽力できたため、中期計画は達成された。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

本事業では、以下の 2 点の内容について実施した。

(1) 館蔵品や寄託品の修理前や修理中等に併せ、光学調査（X 線透過撮影・蛍光 X 線分析）を実施した。そして、修理方針の策定に有効な情報を取得し反映させた。

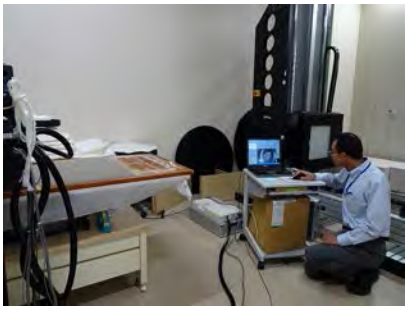
(2) 文化財保存修理所での修理中の文化財については、当館の研究員と工房の技術員が共同で光学調査を実施し、得られた結果を修理へ反映している。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1) 館蔵・寄託の文化財（彫刻や漆工品など）の修理等に併せ、X 線 CT スキャナや X 線透過撮影を実施し内部構造や納入品の把握を行った。これらの光学調査は修理に活用すると共に、データの蓄積も進めた。

(2) 当館研究員と工房の技術者が共同で X 線 CT スキャナ、X 線透過撮影や蛍光 X 線分析などの光学調査を行った。館蔵品や寄託品の修理前や修理中にこれらの調査を実施することで、修理へ成果を随時反映させることが可能となり、彫刻作品・漆工作品や絵画作品のより安全な修理に役立てることができた。



修理に伴う蛍光 X 線分析調査の様子

【備考】

・調査件数

X 線 CT スキャナ調査：6 回　蛍光 X 線分析調査回数：3 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度に引き続き、修理等の際に内部構造や保存状態・材質情報に関する情報を得るため光学調査を実施した。X線CTスキャナやX線透過撮影は安全な修理に欠かすことのできないものとなっており、また蛍光X線分析は彩色材料の同定に重要な役割を果たしている。光学調査の結果は、修理調書に反映させるとともに修理方針の策定にも役立てている。今後も継続した調査並びにデータの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通して、X線CTスキャナを順調に稼働できたため、彫刻や漆工品などの修理に大いに資することができた。文化財保存修理所での修理内容を踏まえ、X線透過撮影や蛍光X線分析などの調査を行うことで、修理方針の策定等に伴う調査を随時実施できた。調査の継続並びにデータの蓄積により、中期計画は達成された。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　文化財の材質・構造等に関する共同研究（(4) -②-1)）

【事業概要】
X 線 CT スキャナ等の科学的手法を使用し、各種文化財の材質・構造等に関する調査研究を外部研究者と共同で実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	研究員　渡辺祐基

【主な成果】

(1) 漆工品の構造調査

文化庁所蔵の「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」のうち、文房具をはじめとする各作品の X 線 CT 調査を実施した。その結果、個々の作品における木地の材質、部材の接合方法、布着の様式が明らかになった。さらに、文房具に分類される作品群において、接合や布着に複数の技法・様式が存在することが分かった。3 年度も、未調査作品の CT スキャンを継続するとともに、構造等に基づいた作品の分類について検討し、製作技法に関する理解を深めていく。

また、修復技術者と協力して琉球漆器の X 線 CT 調査を実施し、木地構造や布着に関する知見のほか、螺鈿の状態に関する情報も得ることができた。

婚礼調度の X 線 CT 調査風景

(2) 茶入の製作技法調査

茶入の伝統的な製作技法を解明するための研究に 30 年度、元年度に引き続き取り組んだ。2 年度もいくつかの作品の X 線 CT 調査を実施した。CT データより、これらの茶入には異なる製作技法が使われている可能性が示唆された。そこで、異なる製作技法によって復元した茶入の CT 調査も併せて行い、製作技法と茶入内部に存在する空隙や亀裂の関係を検討した。本調査で得られた CT 画像は、実物とともに展示され、展覧事業にも活用することができた。

CT 画像を取り入れた展示風景

【備考】
- X 線 CT 調査件数 31 件、調査回数 259 回
- 3D デジタイザ調査件数 5 件、調査回数 15 回
- 論文等

渡辺祐基、川畑憲子、吉川美穂、木川りか「国宝『初音の調度』のうち乱箱、長文箱、短冊箱の構造・技法の X 線 CT 調査」『日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集』146-147（9 月）
大西智洋、渡辺祐基、當山綾乃「黒漆山水人物螺鈿料紙箱の修復報告」『浦添市美術館紀要』16 号（3 年 3 月）
望月規史、齋部麻矢、田中麻美、和泉田絢子、渡辺祐基「『国宝　観世音寺梵鐘』調査報告」『東風西声』16 号（3 年 3 月）
楠井隆志、渡辺祐基「長崎・聖福寺の関帝像」『東風西声』16 号（3 年 3 月）
川畑憲子、渡辺祐基、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（1）文房具」『東風西声』16 号（3 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度は36件の文化財等の調査を実施でき、特に工芸分野において、文化財の内部構造に関する貴重なデータを収集できた。さらに、これまで蓄積してきたデータから得られた知見について、共同研究者及び専門家と共に検討した上で（オンライン会議含む）、学会発表や論文を通じて積極的に公開した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期期間に沿って、漆工品や陶磁器、その他多様な文化財のX線CTスキャナ等を用いた調査を実施し、包括的なデータベースを構築してきた。さらに、中期計画の最終年度である2年度には、3Dデータの収集のみならず、それらの解析及び公表にも重点的に取り組み、多くの業績を残すことにより、中期計画を達成することができた。 3年度以降も多数の作品の調査を計画しているほか、得られたデータの客観的な解析手法の検討並びに展示・教育普及事業への活用についても取り組んでいきたい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究（(4) -②-1)）

【事業概要】

ベトナム国立歴史博物館が所蔵する作品の保存修理事業を行い、ベトナムでの修理理念の検討と人材育成等を目指す。また、文化財の修理技術や保存修復事業について、修理の内容や成果を展示公開し、博物館における文化財の保護と継承への取り組みとその意義について理解を深める機会を提供する。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　志賀智史

【主な成果】

・知恩院所蔵「弥勒下生経変相図」修理完成披露展
実施予定日：3 年 1 月 26 日～3 月 7 日の 6 週間
展示場所：文化交流展示室　第 7 室

住友財団の文化財修理助成金により修理を実施した知恩院所蔵「弥勒下生経変相図」とともに、新調した桐箱や太巻添軸、伝統的な装潢修理に用いる材料や道具、また絵画技法を分かりやすく可視化した見本などを展示することで、文化財の修理技術や実際の修理成果について紹介した。

修理完成披露展の展示風景

・文化交流展示「文化財をまもり伝える博物館」
実施予定日：3 年 3 月 16 日～5 月 9 日の 8 週間
展示場所：文化交流展示室　基本展示室

バックヤードツアーでしか見ることができない博物館の役割について、「修理」、「模写模造」、「収蔵」、「環境」の 4 つのテーマで作品を中心に様々な資料を展示することで、より多くの方々に「文化財をまもり伝える」という博物館の役割について知って頂く機会を設けた。

・ベトナム国立歴史博物館所蔵品の修理事業（中止）
当館との協定館であるベトナム国立歴史博物館が所蔵する所蔵品について、修理工房宰匠（株）の協力を得て、元年度からの 3 か年継続事業（住友財団助成事業）として修理を行う予定であったが、新型コロナウイルスの流行により現地へ渡航することができず、やむなく実施を中止した。2 年度は、当館紀要『東風西声』(3 年 3 月刊行）にベトナム国立歴史博物館保存修復部部長グエン・ティ・フォン・トム氏より「ベトナム国立歴史博物館における文化財の保存修復について」を寄稿頂き、元年度までの事業成果やベトナムでの文化財の修理理念、現地人修理技術者の育成について報告・公開した。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	2年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のための制限措置によりベトナムへの渡航が叶わなかったため、現地での修理を進めることはできなかった。今後も社会情勢に鑑み、適宜調整を行いながら事業を継続し、海外との国際協力ネットワークの構築と拡大に務めていく。一方で、保存修理についての展示公開では、修理作品の公開やバックヤードの業務の紹介を通じて、「文化財をまもりつたえる」という博物館の役割を一般の方々に強く印象付けることができた。以上により、年度計画は達成したと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、国内・アジア地域の文化財の修理や保全環境に関する展示事業を行うなど、多方面への文化財保存修復に関する普及活動を行ったことから、中期計画を達成できたと考える。 元年度に開始したベトナムでの文化財修理事業は、今後の展開が期待されるものであり、引き続き事業継続のために諸方面との調整を行っていく。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究((4)-②-1))

【事業概要】

本研究の目的は、我が国の博物館における IPM（総合的有害生物管理）普及のための持続的なシステムづくりである。館内職員のみならず、地元 NPO 法人やボランティア、大学・専門教育機関・地域文化施設と連携して IPM を実践するためのプログラム確立を通し、研修会の開催等を通じて IPM の社会的理解度を深めつつ、博物館等における IPM を軸にした地域共働システムづくりを目指すものである。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長兼環境保全室長　木川りか

【主な成果】

(1) 「IPM オンライン相談会」の開催

例年、IPM セミナー及び IPM 研修を 10 月に実施しているが、2 年度は新型コロナウイルスの状況を鑑み、オンラインによる 1 施設あたり 1 時間の IPM 相談会を実施した(10 月 21 日～23 日の 3 日間)。全国各地の 18 施設から応募があり、9 施設を対象とした。枠の関係で今回オンライン対応できなかった施設には、書面で回答した。アンケート結果では「個別具体的な相談ができたので、大変参考になった」、「通常の研修は皆が受けるわけにはいかないが、オンラインでは施設の複数のスタッフが、同時に内容を視聴できた点が良かった」などの意見があり、高い満足度がうかがえた。2 年度の取り組みは、従来の研修とは方式が大きく異なったが、オンラインによる新たなメリットも示された。今後も、同様の取り組みを継続していきたい。

IPM オンライン相談会の様子

(2) 館内関係者向け IPM 研修の開催

2 年度も新任職員を主な対象として、館内関係者向けに IPM 研修を実施した（10 月 2 日)。2 年度は、新型コロナウイルス対策として、例年よりも人数を絞り、密にならないように気をつけて開催した。館内の各部署の関係者に館の IPM ポリシーを共有し IPM 活動に対する理解を深める点で重要な役割を果たしている。

IPM 館内研修風景

【備考】

・IPM オンライン相談会（3 日間）　1 回　参加施設数：9 施設
・館内希望者向け IPM 研修（1 日間）　1 回　参加人数：10 人
・学会研究会等発表：木川りか、渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、秋山純子、岡部海都、柿本大典、大城戸博文「ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と照明・音声を利用した対策について」日本環境動物昆虫学会　第 32 回年次大会（11 月 29 日、オンライン開催）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	博物館の危機管理として館内のIPM活動を進めるとともに、その経験をもとに IPMオンライン相談会を開催し、全国各地の文化財関連施設への普及に資することができた。新型コロナウイルスの影響を考慮した新たな方法で実施できたことは評価される。また、成果の一部を学会で報告し、当館の取り組みを発信することができた。以上から当初の計画を上回る成果をあげることができたと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通し、当館内の活動によって IPM の活動についてのノウハウが蓄積されてきている。その成果を生かして、博物館等の IPM 活動に関連し、全国の博物館等から総務系と学芸系など職種の異なる担当者に向けて継続的に普及事業を実施した。その結果、中期計画における「文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究」について、概ね達成できたと考える。 次期中期以降においては、2 年度のオンラインによる相談会のメリットを生かし、よりよい普及事業を企画していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dｴ

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　展示ケース内の環境に関する調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

展示ケースは、展示される文化財を粉塵や温湿度の急激な変化から保護し、また作品への影響を最小限にする照度条件でより良く作品を観覧していただくための環境を実現するにあたってきわめて重要な役割を担っている。さまざまな状況下の展示ケース内の環境条件について、作品を保護する見地より多角的かつ詳細な調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】

(1)展示ケース内で使用する展示台の材質と空気質にかかわる調査

今後、展示ケース内の空気質環境をより適切に制御していくために、展示ケース内で使用する材料の調査を進めている。展示台などに今後、使用する可能性のある材料について、揮発性化学物質の調査を実施している。

材料から放出される揮発性化学物質の調査

(2)展示ケース内の空気質環境をより向上させるための対策

展示ケース内では、敷板や展示台に合板が用いられることが多く、合板から放出される有機酸やアルデヒドなどの揮発性化学物質の問題は広く認識されている。

当館でも定期的に酢酸、アルデヒドの環境濃度を調査している。また、化学物質の放出量を低減するため、展示台の集中的なエアレーションを実施し、保管場所でも定常的に展示台のエアレーションができるよう、保管棚を改良した。また、定期的に展示ケース内の換気ができるように、実験を進めている。

展示ケースの換気実験と風速測定

展示台の集中エアレーション

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示ケース内の空気質環境について詳細な調査を継続的に実施し、状況の把握に努めた。将来を見据えて揮発性化学物質の濃度を低減するための方策について、検討を進めることができた。このような試みで得られる結果は、博物館等施設全般に共有できる知見と考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究は作品保護の見地より展示ケース内の環境条件について調査を進め、中期計画を達成した。中期計画最終年度となる2年度においても、予定していた項目について継続的にいろいろな条件下で引き続きデータを集めることができた。 次期中期においては、さらなる改善につながる対策について、引き続き多角的に検討し、調査を続けていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422Aｱ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究

【事業概要】

当館における収蔵品管理システムの調査研究を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究を行い、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	情報管理室長　村田良二

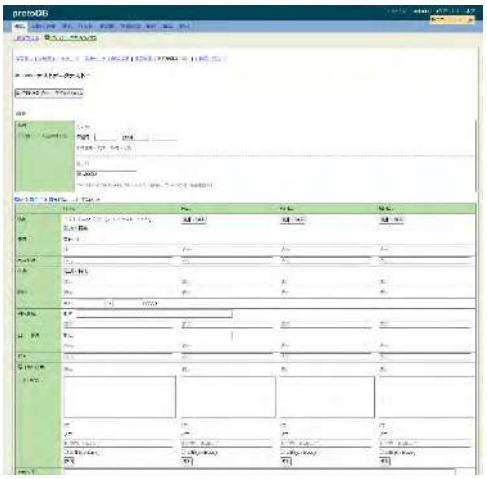
【主な成果】

1)収蔵品管理システムについて、作品検索、総合文化展管理、鑑査会議管理、作品管理、修理予定・履歴管理、文献情報管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。

2)新型コロナウイルスの影響により在宅勤務となっている職員が、自宅等から安全に利用するための調整を行った。またこれに伴い、システムに対するすべてのアクセスについて、URL、ユーザ、日時のログを取得できるように改修した。

3)総合文化展のデータ管理について、特に題箋及び解説の多言語対応のための作業効率向上のため、データ入力・編集画面を再設計し、新たに実装した。

4)ColBase との連携におけるデータ出力機能について、更新日時に関する微調整を行った。



多言語データ入力画面

【備考】

収集データ件数　237,591 件
（内訳）
作品データ件数　223,957 件
平常展データ件数　5,853 件
鑑査会議データ件数　102 件
貸与データ件数　2,084 件
修理データ件数　2,709 件
文献データ件数　2,886 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品の効果的・効率的な管理のためのシステムを継続的に開発し、館内からの要望に応えながら着実に発展させることができた。新型コロナウイルスの影響により職員が在宅時でもシステムを安全に利用できるよう、詳細なログを取得する等の改修を行った。またColBaseや音声ガイドシステムとの連携でも多言語データの重要性が高まっており業務量の増加していることから、より効率的に作業できるよう多言語データの編集を行いやすい機能性をもった画面に刷新した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間全体を通して、システム全体の設計を再検討し、さらに発展させていくことを目指し、最終年度となる2年度は、継続的な機能改善と同時に、多言語編集機能の刷新を行った。よって中期計画を遂行できたと判断した。次年度以降は、ColBaseによるデータ公開の成果を踏まえ、一般の利用に供するためのデータを整備する仕組みを検討する。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422A イ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究

【事業概要】

4 年度の当館創立 150 年へ向けて『東京国立博物館 150 年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料を作成する。また、原稿の整理や入稿など編集作業を行う。2 年度は関係文書類の整理とデータ化、保存措置を続けた。また、寄稿された原稿の整理と入稿を推進した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子

【主な成果】

(1)収集した文書類の整理・目録化・保存措置（6 月 1 日～3 年 3 月 25 日：週に 1～2 日）

資料保管室（資料館 3 階）に収集した約 8,500 件の館史関係文書類について、27 年度に完成した目録(仮)と対応させながら、資料の保存や出納のために、中性紙箱への入れ替えを行った。また、館内外より新たに収集した資料について目録を作り、活用できるように整理をした。以上は、東京国立博物館百五十年史編纂室員 1 名、編纂室アソシエイトフェロー1 名がともに本作業に携わった。

(2)『150 年史』原稿についての整理と入稿作業（適宜）

提出された原稿について、内容を確認し、文体の統一に向けての問題点を抽出し検討した。確認した原稿を、編集出版業者に入稿した。まだ原稿を提出していない執筆者に対して連絡を入れながら、原稿提出を促した。

(3)館史の内容に即した文書類の整理・デジタル化

a)『百年史』資料のデジタル化（8 月 4 日～3 年 3 月 25 日の間、週に 1 日）

『150 年史』編纂に向けて、執筆資料とするために、『百年史』編纂時の資料のデジタル化を行った。アソシエイトフェロー1 名、有期雇用職員 1 名が担当した。

b)『150 年史　年表（稿)』へのデータ追加（適宜）

30 年度に作成した冊子『150 年史　年表（稿)』の訂正や追加項目をデータとして蓄積した。

(4)聞き取り調査のデータ化（8 月 4 日～3 年 3 月 25 日の間、週に 1 日）

30～元年度に実施した当館の OB への聞き取り調査について、聞き取った内容をテキストデータ化した。

(5)問い合わせへの対応と関係資料の提供（6 月 1 日ほか）

『150 年史』執筆者などへの資料提供と、館内・館外からの館史に関する問い合わせに対応した。

『百年史』資料のデジタル化

【備考】

(1)収集した文書類の整理：31 日間実施

(3) a)『百年史』資料のデジタル化：21 日間実施（633 点）

b)『150 年史　年表（稿)』へのデータ追加：25 点

(6)資料提供・問い合わせ対応：15 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度より継続的に行ってきた文書類の整理・保存措置について2年度も進めた。また収集・整理した文書類のデータを活用し、『150年史』執筆者や問い合わせに対して資料提供を行うことができた。そして、寄稿された原稿の整理と入稿することにより、編集出版業務を進めることができた。引き続き、館内各所に所在する文書類を『150年史』編纂に有効に活用できるようにすると同時に、原稿執筆を促し、資料編の準備も併せて進め、編集出版作業を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	『150年史』執筆者への資料提供や館史に関わる問い合わせ、調査研究などの要望に迅速に対応できるようになった。また、原稿の整理や入稿を進められたことから、中期計画に沿った調査研究を実施することができた。3年度以降も引き続き文書類のデータ化を行い、利用しやすい文書整理を心掛け、さらなる活用を図るとともに、編集出版作業も進めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1422Bｱ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究 2）博物館情報、文化財情報に関する調査研究
プロジェクト名称	博物館情報システム・資料情報処理に関する調査研究

【事業概要】
当館の文化財情報システムや博物館ウェブサイト、博物館システムの整備や運用について検討するとともに、文化財情報に関する諸般の調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長 兼 列品管理室長　羽田　聡

【主な成果】
(1)当館の文化財情報システムや館蔵品データベース、公式ウェブサイトなどのシステム、博物館におけるインフラネットワークの整備や運用について検討する情報システム検討委員会を隔月で開催し、文化財情報に関する調査研究を推進した。
(2)文化財情報システムや館蔵品データベース、公式ウェブサイトのリニューアルに向け、ワーキンググループを設置した。ワーキンググループにおいて、現状の課題抽出とリニューアルにおけるポイントをまとめた。
(3)ColBase から館蔵品データベースに対してハーベスティング(自動的なデータ収集)が実施された。エラー内容をもとに、元年度の改修に修正を加えた。

【備考】
・情報システム検討委員会5回

システム等リニューアルに向けた
九州国立博物館とのオンラインミーティング

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4月より新たに博物館情報担当の研究員を採用し、文化財情報システムや館蔵品データベース、公式ウェブサイトのリニューアルに向け検討を重ねた結果、現在運用中のシステム等における課題を抽出し、リニューアルにおける要点をまとめることができた。リニューアルの検討材料として、館外からも情報を収集し、意見交換を行った。また、新型コロナウイルスによる状況下においても、ウェブ会議システムを使用するなど、積極的な情報収集と調査研究に努めることで、所期の目標を達成することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通じて博物館システムの問題点を集積し、最終年度において文化財情報システムや館蔵品データベース、公式ウェブサイトのリニューアルに向けた検討のため、それぞれワーキンググループを立ち上げ、関係者間で積極的な意見交換を行うことができた。次期中期計画における本格的なシステム等のリニューアル及び運用に向けて、情報収集と共有を継続する。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1422Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ② その他　有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究

【事業概要】
仏教の歴史や美術にまつわる文化財について、展覧や研究事業と連動した情報収集を実施する。これに、デジタル技術を適切に取り入れることにより、データの継続的な作成や情報資源の公開と共有に展開させる。その際、文化財の保存と活用という視点を重視し、それに資するアーカイブズの形成を目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　野尻忠

【主な成果】
(1) 文化財の情報収集
・仏教の歴史や美術に関する研究文献を収集し、図書情報システムに 1,555 冊を新規登録し、データを充実させた。
・館蔵古写真のうち、被写体を特定できていないものについて調査を進め、その成果の一部を発表した（【備考】参照）。
(2) 既存資料のデジタル化
・フィルム写真のスキャンニングによるデータ化を 3,017 件実施し、文化財アーカイブを充実させた。
(3) デジタル写真撮影
・4～10 月の間は写真技師が不在となったが、外部の技術者に発注するなどして、写真撮影を継続することができた。
・11 月には法隆寺東院夢殿において救世観音立像（国宝）を撮影し、12 月には高さ 5 メートル超の金峯山寺仁王門金剛力士像（重要文化財）を撮影するなど、貴重な撮影機会を得て、文化財アーカイブズを充実させることができた。
(4) データ公開
・元年度から継続中の、法隆寺金堂壁画写真ガラス原板の高精細デジタルデータを用いたコンテンツ制作は、引き続き共同研究を進め、個別画像の接合作業を完了し､7 月よりコンテンツが公開された（https://horyuji-kondohekiga.jp/）。

7 月より公開された「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板デジタルビューア」のトップページ

【備考】
・野尻忠「奈良国立博物館の古写真にみる奈良公園の景観」（奈良国立博物館サンデートーク、11 月 29 日実施）等で、研究成果を発表

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館では、文化財そのものの収集と展覧に加え、アーカイブズを形成してそれらを活用することも、重要な事業として位置づけている。文化財写真の収集もその重要な柱の一つである。我が国の文化財は、材質の脆弱性などから、移動や調査の機会が限られているものが多く、調査の機会が得られたときには、可能な限り画像データを取得し、共有可能な研究資源としていくことは大きな意義がある。上記のとおり、2年度も希少な機会を捉えて写真撮影を実施できた。スキャニングによるデータ集積も例年通り実施できており、順調に研究を推進できている。成果の公表についても、既存のデータベースへのデータ追加は例年通りの件数を実施し、加えて上記のデジタルビューア公開や口頭発表の形での成果公表を実施した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に掲げる「文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究」の一つとして、本プロジェクトは順調に実施できている。幸いにも体制が維持され、デジタル画像の取得や既存資料のデジタル化は、定量的に見ても継続的な事業継続ができている。眼前にある文化財そのものの研究とともに、将来に伝えるべき情報を取得し、蓄積し、共有財産としていくアーカイブズ事業は、今後ますます重要になっていくと思われる。この事業を継続し、さらに活発化させるには、それに見合った増員やインフラ整備が重要度を増していくため、そうした方面にも取り組んで行く必要がある。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1430A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（4館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等の開催若しくは職員を派遣する。
（東京国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。
2)アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会、IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）、日中韓国立博物館長会議等の国際会議へ参加する。

担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	室長　楊鋭

【実績・成果】
（4 館共通）
・26 年から継続して実施している「北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」（文化庁支援事業）の一環として国際シンポジウム「日本美術がつなぐ博物館コミュニティーーウィズ/ポスト・コロナ時代の挑戦」及び日本美術専門家会議は、新型コロナウイルスの影響により開催方法を変更し、それぞれ 3 年 1 月 30 日と 2 月 5 日に、オンラインにて開催した。
（東京国立博物館）
・2 年 3 月から 6 月にかけて、欧米及びアジアの代表的な博物館・美術館計 52 館が休館中に実施している施策について、各館の公式ホームページや SNS の閲覧を通じて、追跡調査を行った。9 月には当館の公式 SNS アカウントで英語・中国語・韓国語による館蔵作品の紹介を試み始めた。より幅広く海外への日本美術の紹介に努めている。
・中国上海博物館主催の国際博物館専門家会議「博物館の力―国際博物館オンライン対話」（7 月 15 日）などの国際オンライン会議に積極的に参加した。

【補足事項】
（4 館共通）
・オンラインで行った国際シンポジウム「日本美術がつなぐ博物館コミュニティーーウィズ/ポスト・コロナ時代の挑戦」の国内外参加・視聴者数は 1,287 人。
（東京国立博物館）
・韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館等と定期的に行ってきた学術交流は、新型コロナウイルスの影響により中止となったが、オンラインにて両館と緊密な連携を取っている。現在、韓国国立中央博物館とはオンラインセミナー形式での学術交流を検討している。

国際シンポジウム

日本美術専門家会議

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
海外からの研究者招聘	0人	－	－	経年変化	73	35	79	55
海外への研究者派遣	0人	－	－		60	67	52	89
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		1	1	1	1
国際シンポジウム参加者数	1,287人	－	－		463	334	256	314

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
これまで韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館と定期的に行ってきた学術交流や、海外の優れた研究者の招聘及び当館研究員の海外派遣は新型コロナウイルスの影響によりすべて中止した。代替となる取り組みとして、オンラインにて様々な交流が進み、博物館同士の絆を深めた。2年度で7度目となる北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業もオンラインにて開催、12ヵ国87人の参加があった。さらに、日本在住の外国人来館者向けに展示室のパネルや作品の多言語解説の改善を継続的に行い、SNSを通じて多言語による海外向けの情報発信も試み始めた。3年度は、海外の博物館・美術館との交流・連携を一層深めていくとともに、デジタルメディアを活用して、持続的に発展可能な博物館国際交流及び効果的な情報発信に努めたい。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
例年のような多くの研究者招へいと派遣は新型コロナウイルスの影響により実施できなかったが、オンライン形式で海外博物館関係者との交流や対話などを積極的に行った。第7回となった北米・欧州ミュージアム日本美術専門家会議では、「日本美術がつなぐ博物館コミュニティーーウィズ/ポスト・コロナ時代の挑戦」というテーマのもと、欧米ミュージアムの現状と取り組みについて活発な議論が交わされ、交流を通じて相互理解を一層深めた。また、館内標識案内の多言語表記の増設や関連イベントの多言語対応、展示室内のパネルや作品の多言語解説の改善を継続的に行った。
2年度は新型コロナウイルスの影響により達成できなかった部分もあったが、今中期全体を通して目標値以上の研究者招へいと派遣を実施し、成果を達成した。また、国際シンポジウムや日本美術専門家会議も継続して開催でき、大きな成果を得た。さらに、博物館における多言語対応の充実や国内外への情報発信にも努めている。5年間（28～2年度）の取組状況を総合的に判断し、中期計画を上回る成果をあげることができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1430B

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（４館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムの開催若しくは職員を派遣する。
（京都国立博物館）
1)海外の博物館・美術館との学術交流協定の締結に向けた協議を行う。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　西尾佐枝子 調査・国際連携室長　呉孟晋

【実績・成果】
（4館共通）
　各項目とも新型コロナウイルスの感染拡大により国際的な人的往来が厳しく制限される状況が継続するなかで、当初の計画のほとんどを実施することができなかったが、一部の事業についてはウェブ会議などを活用することにより以下の成果を生み出すことができた。
2)2年度北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携交流事業において、ウェブ会議などに職員が参加して意見交換を行った。
3)
・九州大学人文学国際研究センターの公開講座の企画・運営に協力し、職員2人が研究発表を行った。
・研究交流などのため、職員4人がオンライン上で開催された海外の学会や講演会で発表を行った。
（京都国立博物館）
1)アメリカのサンフランシスコ・アジア美術館と学術交流基本協定を締結した。

サンフランシスコ・アジア美術館との
オンラインによる学術交流基本協定締結

【補足事項】
（4館共通）
1) 特別企画「新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―」関連の国際講演会の講師として、台湾の元国立故宮博物院院長で中央研究院院士の石守謙氏（中国絵画史）を招へい予定であったが、中止を余儀なくされた。
・京都国立博物館が協力する香港中文大学文物館主催の「博物館専業交流項目」（香港・中国キュレーター研修）は、実施が3年度に延期された。
3) 公開講座は、「The Transformation of East asian Cloth: Transnational and Translocal Textiles（東洋染織品の移動と変容)」と題し、3年1月から3月にかけて4回開催された。
・オンライン上での学会発表例として、「ユネスコ・アジア文化センター　文化遺産に関わる国際会議」(12月22日）での栗原祐司副館長の基調講演「Museum and Local Community」などがある。
（京都国立博物館）
1) ウェブ会議システムを積極的に活用し、相互訪問・対面による会議なしで締結することができた。協定の締結式もオンラインで開催。学術交流協定の締結実績は元年度をもって終了したフランスのギメ美術館に次いで2例目となった。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
海外からの研究者招聘	0人	－	－		2	2	14	3
海外への研究者派遣	0人	－	－		21	21	35	18
国際シンポジウム開催数	0回	－	－		0	1	1	0
国際シンポジウム参加者数	0人	－	－		0	140	99	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　国際交流事業は、積極的な人的往来による交流を前提としており、博物館事業のなかでも最も新型コロナウイルスの影響を受けたものの一つである。当初計画のほとんどを実施することができず、オンラインでの実施もかなりの制約を受けた。そのような状況でも、サンフランシスコ・アジア美術館と学術協定を締結することができたのは、両館で長年にわたり蓄積してきた人的交流の成果であり、評価できる。

【中期計画記載事項】
　我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画全体では、元年度のICOM京都大会への協力を筆頭に、旺盛なインバウンド需要も背景として、国際交流を活発に展開することができた。最終年度である2年度は新型コロナウイルスの影響により当初事業計画の変更を余儀なくされたが、それを踏まえても海外の美術館・博物館と連絡を絶やさず、交流を継続していたことから、中期計画を達成したと評価できる。
　次期中期計画では、感染状況を見極めながら、ウェブ会議などの積極的活用などを通じて、国際交流を継続していきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1430C

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】（４館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催若しくは職員を派遣する。
（奈良国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館等との交流を活発に行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
1),2),3) 新型コロナウイルスの影響により、研究者の招へい・派遣は実施できなかった。
3) 東京国立博物館主催北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業による国際シンポジウムに、当館職員4名が参加した。

（奈良国立博物館）
1) 上海博物館との学術交流協定を見直し、更新した。
1) 元年度から引き続き上海博物館開催「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」に学術協力として協力した。新型コロナウイルスの影響により上海博物館が会期途中から休館し、また、撤収作業や返却の輸送のため研究員を派遣することが不可能となった。上海博物館が再開し、同展は多くの観客を迎え、閉幕したが、研究員を派遣することができなかったため、ウェブ中継を行い、撤収作業の指示を行った。新型コロナウイルスの影響により返却ができない状態が続いたが、隔離期間を設けた上で9～10月に当館職員を派遣し、日本へ輸送するための点検・梱包作業を行った。国宝及び重要文化財を含む出品作品すべて、事故なく返却できた。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
海外からの研究者招聘	0人	－	－		9	17	12	12
海外への研究者派遣	0人	－	－		16	22	20	33
国際シンポジウム開催数	－	－	－		－	－	－	－
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により海外渡航が制限される中で、招へい事業などは困難であった。なお、学術協力など海外の博物館に対して可能なかぎりの支援を行い、文化財の保全に貢献することができた。特にコロナ禍中の海外への展覧会対応等困難な中での事業を模索し対応したこともあり、規模縮小しても例年並み成果と評定した。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、多数の研究者の招聘・派遣や、国際研修会の参加等により、海外の博物館や研究所等と充実した交流を図ることができた。特に、元年度にはICOM京都大会も開催され、国際委員会の一つであるCOMCOL（コレクション活動に関する国際委員会）の事業に全面的に協力した。2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、学術協力など海外の博物館に対して可能なかぎりの支援を行うことができた。以上から、計画は達成できたと判断できる。 次期は新たな生活様式などへ対応した事業の検討を進めたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1430D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（４館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等の開催若しくは職員を派遣する。
（九州国立博物館）
1)学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招へいし、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　山野孝 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
1)、2)、3)　新型コロナウイルスの影響により、海外の研究者を招へいすることや、海外へ職員を派遣することはできなかった。

（九州国立博物館）
1)・第51回国際木材保存会議（The 51st Scientific Conference of International Research Group on Wood Protection）に当館の研究員1人が参加し、研究発表及び情報収集を行った。本会議はスロベニアで開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、オンライン会議（ウェビナー）として開催された。(6月10日～11日)
・上海博物館との学術文化交流に関する協定を締結した（3年1月29日）。協議は電子メールにて行い、協定書は送付するなど、新型コロナウイルスを考慮しての協定締結となった。
2)海外協定館の１つであるベトナム国立歴史博物館とは、毎年、住友財団の助成を得て同館所蔵品の修理事業を実施している。この事業は、日本人修理技術者を現地に派遣し、現地の修理技術者とともに修理を実施するものであるが、2年度は新型コロナウイルスの影響により海外渡航が制限されており、修理事業を実施することができなかった。しかし、当館研究紀要において、同館における文化財の保存修復についての概要を紹介する論文を、同館保存修復部長グエン・ティ・フォン・トム氏に執筆いただき、ベトナムにおける文化財修理事情の周知と理解を深めることができた。

オンライン上での国際会議の研究発表の様子

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
海外からの研究者招聘	0人	－	－	経年変化	43	9	21	3
海外への研究者派遣	0人	－	－		67	47	45	31
国際シンポジウム開催数	0回	－	－		1	0	1	1
国際シンポジウム参加者数	0人	－	－		173	0	200	306

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度は新型コロナウイルスの影響により、海外からの招へい及び海外への派遣を行うことはできなかったが、中華人民共和国上海博物館との学術文化交流協定を締結し、双方における学術研究、人員交流及びその他の活動で協力していくことについて合意した。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 本事業では、中期計画期間を通し、国内外の博物館や美術館等と交流を行ってきた。2年度においては、新型コロナウイルスの影響により、国際シンポジウム等の実施や、職員の海外派遣等はかなわなかった。しかしながら、ウェブを通じて国際会議へ出席し、研究発表や情報収集を行った。また、上海博物館との学術文化交流協定の締結を行うなど、国内外の博物館や美術館等との交流を継続できたため中期計画は遂行したといえる。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1440A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)文化財修理報告書を刊行する。
（東京国立博物館）
1)「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」等を運用し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
2)紀要・図版目録等を刊行する。
3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。
4)研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)
5)刊行物リポジトリの導入を検討する。

担当部課	学芸企画部企画課 学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　浅見龍介 課長　今井敦

【実績・成果】
1)『東京国立博物館文化財修理報告XXI(21)』を刊行した。
（東京国立博物館）
1)・「東京国立博物館研究情報アーカイブス」の運用を継続し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。
・特集印刷物リーフレット等8件のPDFファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって、研究情報の普及を図った。
2)『東京国立博物館紀要 56 号』を刊行した。
3)『法隆寺献納宝物特別調査概報 XLI(41) 染織 1 刺繍』を刊行した。
4) 研究誌『MUSEUM』685 号～690 号（6 冊）を刊行した。
5)刊行物リポジトリの準備作業を行った。
○『博物館でアジアの旅　アジアのレジェンド』『東京国立博物館セレクション 日本の甲冑』を刊行した。
○特別展図録 3 件、特集印刷物 11 件（ﾘｰﾌﾚｯﾄ 8 件、冊子 3 件）を編集した。

【補足事項】
2)『東京国立博物館ニュース』については、2年度から年4回の発刊に仕様変更した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
定期刊行物	13件	16件	C		16	16	16	15
紀要等	3件	4件	C	経	4	4	4	3
『MUSEUM』	6件	6件	B	年	6	6	6	6
『東京国立博物館ニュース』	4件	6件	B	変	6	6	6	6
特別展の開催回数（海外展除く）	4回	－	－	化	8	5	8	8
テーマ別展示の開催件数	17件	－	－		33	28	28	18
講演会等の開催回数	19回	－	－		160	199	199	97

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 紀要、『MUSEUM』、『博物館ニュース』等の定期刊行物については、新型コロナウイルスの影響もあり13件の刊行にとどまったが、文化財修理報告等を計画どおり刊行することができた。また、特集展示の刊行物を増やすことで充実した情報を提供することができた。さらに、「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で研究員の調査研究活動等に関する情報を随時公開。加えて、特集印刷物リーフレットの PDFファイル版をウェブサイトに掲載することでさらなる情報公開に努めた リポジトリ導入のための準備として、過去の刊行物のリスト作成や校正作業を進めた。刊行物リポジトリを導入するためには、必要な経費を予算化する必要がある。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などを順調に刊行し、中期計画を遂行できた。さらに『東京国立博物館セレクション 日本の甲冑』や『小袖』（日本語版・英語版）等、来館者からの要望が高いテーマの書籍を刊行し充実させた。また、ウェブサイトでの公開等、インターネットを活用した調査研究成果の発信を増やし、計画目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1440B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

【年度計画】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)文化財修理報告書を刊行する。
（京都国立博物館）
1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。
2)社寺調査報告書等を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉 調査・国際連携室長　呉孟晋

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)『文化財修理報告書18』を刊行した。
（京都国立博物館）
1)『学叢』42号を刊行した。
2)『社寺調査報告』30号（金剛寺）を刊行した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
・定期刊行物の実績値には含まないが、特別展にて2件、特別企画にて2件の図録を刊行した。
　○特別企画「文化財修理の最先端」図録は近年の修復成果の中でも注目される作品を紹介するものであるが、当館研究員が編集及び執筆を行っていることに加え、日本語・英語・中国語・韓国語を併記した意欲的な図書である。
　○特別企画「新聞人のまなざし－上野有竹と日中書画の名品－」の図録を兼ねる仏教美術研究上野記念財団設立50周年記念誌は、当館が編集に協力して刊行された。当館が所蔵する上野コレクションの全容をその関連作品も含めて紹介するものであり、今後の日中書画の研究の基礎となるものである。
・『社寺調査報告』30号（金剛寺）は、天野山金剛寺（大阪府河内長野市）の文化財悉皆調査の報告書である。元年度に刊行した科学研究費補助金［基盤研究（A)］報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<金剛寺編>』に収録した合計487件について増補・校正を行い、併せて追加調査を行った古文書を中心とする書跡253件を新規に掲載した。前号の『社寺調査報告』29号（金剛寺・彫刻編）と合わせて金剛寺所蔵文化財における調査報告書の完成版である。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
定期刊行物	11件	11件	B		10	11	11	11
紀要等	3件	3件	B	経	2	3	3	3
『博物館だより』	4件	4件	B	年	4	4	4	4
『Newsletter』	4件	4件	B	変	4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	2回	－	－	化	2	2	2	2
テーマ別展示の開催件数	5件	－	－		9	8	9	6
講演会等の開催回数	23回	－	－		45	32	37	28

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 社寺調査報告、図録等を計画どおり刊行することができた。特に特別企画「文化財修理の最先端」図録は作品解説や用語を多言語化し、国外の利用にも供する内容とした。学叢についても最新の研究成果を論文として掲載し、質の高いものとすることができた。また、金剛寺に関する社寺調査報告は追加調査を行うことにより、報告書としてより充実した内容を掲載することができた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通じて、学叢、社寺調査報告、展覧会関係刊行物を中心に調査・研究結果を発信することができた。また、社寺調査報告については、複数年度に亘る調査により研究内容を深化させ、報告書の内容がより充実したものとなるよう尽力した。今後の課題はウェブサイトでの公開等、インターネットを活用した調査研究成果の発信である。今後より充実したオンラインコンテンツの発信ができるよう努めていく。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1440C

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

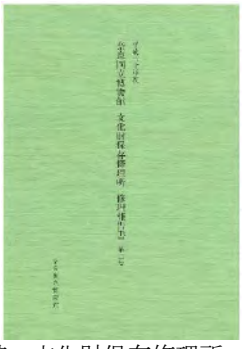
【年度計画】
（奈良国立博物館）
1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。
2)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品等の光学的調査について、報告書を刊行する。
3)文化財修理に関する印刷物を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
1)研究紀要『鹿園雑集』第22号を7月に、第23号を3年3月に刊行した。あわせて奈良国立博物館リポジトリにPDFで掲載した。
2)元年度末に刊行した東京文化財研究所との共同研究に関する報告書『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝　信貴山縁起絵巻 調査研究報告書－研究・資料編－』を国内外の大学・研究機関に頒布し（国内353機関、海外47機関）、最新の研究成果を広く公開・共有した。
3)文化財修理の報告『奈良国立博物館　文化財保存修理所　修理報告書　第2号』を4月に刊行した。また3年3月第3号を刊行した。

【補足事項】

研究紀要『鹿園雑集』第22号


『奈良国立博物館　文化財保存修理所　修理報告書』第2号

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
定期刊行物	8件	5件	B		6	6	6	6
紀要等	4件	1件	B		2	2	0	2
『博物館だより』	4件	4件	B		4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	2件	－	－		3	3	3	3
テーマ別展示の開催件数	3件	－	－		4	4	4	5
講演会等の開催回数	12回	－	－		26	26	27	25

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	研究紀要『鹿園雑集』第22号・第23号、『奈良国立博物館　文化財保存修理所　修理報告書』第2号・第3号を刊行できた。紀要及び博物館だよりは、奈良国立博物館リポジトリに掲載することで、研究成果や最新情報を広く公表した。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	調査研究の成果は展覧会図録等、展覧会に関わる刊行物においても最新の情報を発信している。中期計画期間を通し、定期刊行物として、着実に研究紀要や修理報告書を刊行し、また、奈良国立博物館リポジトリにおいて掲載することができた。あらゆる手段によって最新の調査研究成果を広く公表することができ、中期計画を達成したと判断できる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1440D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④ 調査研究成果の公表

【年度計画】
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』を刊行する。
2)博物館科学に関する印刷物を刊行する。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　原田あゆみ 課長　木川りか

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』第16号を刊行した（部数900部）。
2)『九州国立博物館 文化財修理報告』第3号（発行部数750部）を編集、刊行した。21年度から22年度までの当館経費による修理の報告書をまとめた。

【補足事項】
1)『東風西声』第16号では19本の論文を掲載した。(うち当館職員執筆16本、外部研究者からの寄稿3本)
2)『九州国立博物館 文化財修理報告』は、当館所蔵品、当館経費で修理を行った当館以外の国立博物館等所蔵文化財、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財について、修理に関する記録をまとめたものである。第3号では、21年度から22年度までの文化財修理を対象とした。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を掲載する。これらの情報を公開することで、次回の修理での参考となるだけでなく、美術史や歴史学等の学術研究、修理事業の普及啓発など、多方面での活用が期待される。3年度以降も順次刊行する計画である。

東風西声第 16 号表紙

九州国立博物館文化財修理報告第 3 号表紙

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
定期刊行物	5件	5件	－	経年変化	5	5	5	6
紀要等	1件	1件	－		1	1	1	2
季刊情報誌『アジアージュ』	4件	4件	－		4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	1回	－	－		4	3	4	4
テーマ別展示の開催件数	7件	－	－		6	6	9	8
講演会等の開催回数	13回	－	－		77	84	80	69

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
研究紀要や図録等を刊行し、調査研究の成果を報告できた。また、『九州国立博物館 文化財修理報告』第3号も予定通り刊行し、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財の修理に関する記録を公開することができた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画最終年度である2年度は、予定どおりに印刷物を刊行することができた。また、今中期全体を通して、計画に沿って調査研究の結果を広く公表し、中期計画を達成することができた。
今後も引き続き、取り組みを広く公開し、印刷物を刊行できるよう準備を進めたい。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター・東京国立博物館　処理番号 1510HA

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（東京国立博物館）
1)各地域ゆかりの文化財の平常展示のため、引き続き長期貸与を促進する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。
3)地方公共団体の博物館等に収蔵品を貸与するとともに文化財活用センターと連携し、地方への貸与を促進する。

担当部課	学芸研究部列品管理課 文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長　丸山士郎

【実績・成果】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等85機関に806件の作品を貸与した。
2))文化財活用センターは東京国立博物館とともに共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生・観光振興に寄与することを目指し、開催館までの往復輸送費・保険料・出張旅費・広報費を支出する東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国内の博物館等5機関に116件の作品を貸与した。
（東京国立博物館）
1)長崎歴史文化博物館等の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)新型コロナウイルスの影響により、海外の美術館・博物館等で開催する展覧会への貸与は大幅に減少した。
3)文化財活用センターと共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、5機関に116件の作品を貸与した。

【補足事項】
（文化財活用センター・４館共通）
2）大規模貸与事業として、千葉県立中央博物館（44件）及び九州歴史資料館（27件）への作品の貸与を行うと同時に、輸送費・保険料等を支出した。小規模貸与として3機関に貸し出した45件の作品の輸送費・保険料等を支出した。また大規模貸与の対象の展覧会のうち九州歴史資料館については、広報費の一部を支出した。
（東京国立博物館）
3)大規模貸与事業として千葉県立中央博物館「ちばの縄文　貝塚からさぐる縄文人のくらし」（会期:10月10日～12月13日）に44件、また、九州歴史資料館「福岡の至宝に見る信仰と美」（会期：10月6日～11月29日）に27件を貸し出したことをはじめ、小規模貸与事業として東北歴史博物館「伝わるかたち／伝えるわざ－伝達と変容の日本建築－」（会期：9月26日～11月23日）に16件、古河歴史博物館「国宝参上。―鷹見泉石像と古河ゆかりの文化財―」（会期：3年1月9日～2月7日）に15件、土浦市立博物館「第42回特別展「東城寺と「山ノ荘」－古代からのタイムカプセル、未来へ－」」（会期：3年3月20日～5月5日）に14件を貸与した。なお、2年度の貸与促進事業として採択され実施が予定されていた展覧会のうち、高知県立歴史民俗資料館「補陀落東門開く　蹉跎山金剛福寺」(5月11日～7月19日、1件)、出雲弥生の森博物館「出雲・上塩冶築山古墳とその時代」(9月26日～12月21日、20件)は、新型コロナウイルス感染拡大防止の自治体等の対応方針に則り、会期中の借用が困難であるとの判断により貸与先より辞退の申し出があったため、展覧会はいずれも開催されたが貸与は中止された。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経	28	29	30	元
貸与件数	806件	－	－	年	946	914	1,355	954
うち国内の貸与件数	794件	－	－	変	750	783	1,225	864
うち国外の貸与件数	12件	－	－	化	196	131	130	90

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	国内外の博物館等85機関に806件の作品を貸与した。新型コロナウイルスの影響により例年に比べて機関数、貸与件数はともに減少したが、感染対策を講じながら、貸与を実施することができた。貸与促進事業も新型コロナウイルスの影響により、貸与を辞退する機関もあったが、貸与件数は増加し、5機関に116件の収蔵品貸与を行った。また、来館者、メディアからは多くの反響があり、収蔵品の貸与と公開によって、各地域の創生・振興に寄与した。以上、所期の計画を上回る成果をあげたと判断できたためＡ評価とした。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	今中期全体を通して、貸与促進事業については実施地域やテーマを広げつつ着実に展開することができ、貸与全体についても博物館活動への寄与という役割を着実に果たしたといえる。 今中期最終年度となる 2 年度は新型コロナウイルスの影響により、展覧会の開催を中止する機関もあったが、展覧会の会期の変更等の要請に応じながら、展覧会の開催に貢献することができた。 以上、所期の計画を上回る成果をあげたと判断できたためＡ評価とした。 次期中期に向けて文化財活用センターとの連携を深め、有意義な展覧会に貸与を実施し、国内外の博物館活動に対して重要な寄与を果たしていく予定である。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1510B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（京都国立博物館）
1)京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。
2)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
1)国内の71機関（機関は延べ件数）に対し、計286件の収蔵品・寄託品を貸与した。
（収蔵品の貸与件数：191件　寄託品の貸与件数：95件　計 286件）
（京都国立博物館）
1)京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き長期貸与をし、東京･奈良･九州国立博物館及び奈良文化財研究所飛鳥資料館に展示内容を充実させるため、引き続き長期管理換を行った。
2)2年度は大分県立歴史博物館、高槻市立今城塚古代歴史館、福岡県立九州歴史資料館の計3館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した【処理番号1411Bカ参照】。

【補足事項】
1)収蔵品の貸与に際しては、貸出先施設の保管体制、警備体制、虫害対策等を総合的に判断しながら先方の要望に応じた。特に新型コロナウイルスの影響で展覧会の中止や延期も多かったが、貸与先と協議しながら柔軟に対応した。

大分県大分市浜出土　銅剣

大阪府高槻市梶原山上古墳出土
鏃形石製品･棗玉 等

福岡県太宰府市四王寺山経塚出土
銅製経筒並陶製外筒

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経	28	29	30	元
貸与件数	286件	－	－	年	367	349	289	348
うち国内の貸与件数	286件	－	－	変	365	336	274	347
うち国外の貸与件数	0件	－	－	化	2	13	15	1

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に基づき、収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品・寄託品を国内の博物館に中心に貸与を実施した。新型コロナウイルスの影響もあり貸出件数は減少し、貸与施設でも展覧会の中止や延期など様々な影響があったが、貸与期間の延長や変更など、貸与先と協議しながら、適宜適切に対応した。
また、2年度は3館と考古資料の相互貸借事業を実施し、各地域で出土した作品を各地域にある博物館にて展示し、当館にて各館の収蔵品を展示し、双方の展示を充実させることができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルスの影響で海外への貸与はなかったが、博物館等の要請に応じて、収蔵品等の貸与を実施することができた。
また、中期計画に沿って、収蔵品の保管・展示状況と貸出先のコンディションを勘案しながら貸与先の博物館等に対しての展示・保管環境等を十分に考慮した上で可能な範囲で要請に応じることができたことから、中期計画の目標を達成できたと言える。
2年度はなかったが、海外の貸与先についても十分に審議を重ねた上で収蔵品の貸与を行う計画ができているので、より当館の持つ日本の文化を海外にも発信できるようにしていきたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1510C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（5）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（奈良国立博物館）
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
1)収蔵品と寄託品を国内合わせて 17 の機関に計 107 件の貸出を行った。
2)文化財活用センターの進める文化財貸与事業の規定整備に協力し、列品貸与のスムーズな仕組みを整えた。
（奈良国立博物館）
1)青森県立郷土館、下関市立考古博物館及び和歌山県立紀伊風土記の丘と考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
（４館共通）
1) 収蔵品・寄託品の貸与
・貸与先17件機関の内訳
　国立3件、公立10件、私立4件
・貸与作品107件の内訳
　国宝7件（館蔵品3件、寄託品4件）
　重要文化財38件（館蔵品11件、寄託品27件）
　その他62件（館蔵品38件、寄託品24件）
　貸与した館蔵品52件の内訳
　（絵画10件、彫刻3件、書跡6件、工芸22件、考古11件）
　貸与した寄託品55件の内訳
　（絵画20件、彫刻5件、書跡18件、工芸10件、考古2件）
（奈良国立博物館）
1) 相互貸借事業における貸与・借用品数
・青森県立郷土館
　館蔵品：1件（浅鉢など15点）が「青森県立郷土館サテライト考古展示室」（展示場所：三内丸山遺跡センター）で展示された。
　借用品：5件（土偶、クマ形土製品など）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・下関市立考古博物館
　館蔵品：2件（伝山口県長門一之宮経塚出土品など10点）が令和2年特別展「至宝しものせき―経塚とその時代―」で展示された。
　借用品：5件（土笛、和同開珎銭范など）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・和歌山県立紀伊風土記の丘
　館蔵品：2件（粉河経塚出土品など9点）が奈良国立博物館所蔵品 里帰り展「経塚に願いを込めて」で展示された。
　借用品：4件（重要文化財　両面人物埴輪など4点）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
貸与件数	107件	－	－		165	210	134	136
うち国内の貸与件数	107件	－	－		161	205	109	133
うち国外の貸与件数	0件	－	－		4	5	25	3

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
作品の貸与機関数、件数ともに、新型コロナウイルス感染症の流行下の情勢も影響して例年より減少した。ただし、活動が復調した下半期の数値とみなせば近年の数値に遜色ないと評価できる。重要文化財等含む文化財の貸借を積極的に行い、各地の展覧会へ寄与した。
考古資料相互活用促進事業は例年同様の規模（貸与機関数・貸与件数）で実施することができ、貸借先でも地域の文化財が改めて見られる環境を提供したことにより、文化財の大切さや地域の歴史の誇りなど地域活性化に結びついたと思慮される。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
今中期最終年度として計画に基づき、作品のコンディション・相手機関の要望を考慮して柔軟な対応を行い、各地の展示施設の展覧会の実施に貢献することができた。貸与件数も、新型コロナウイルス流行による活動停滞期間を除けば、数年来の水準を維持し、中期計画は順調に遂行できたと判断できる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1510D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るため取組を行う。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（4館共通）
1）国内17機関、海外1機関に計36件の収蔵品及び寄託品を貸与した（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）。
収蔵品の貸与件数：31件（うち重要文化財4件）
寄託品の貸与件数：5件（東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）

【補足事項】
（九州国立博物館）
貸与先機関と貸与件数は下記のとおりである。（※印は元年度から2年度にかけて貸与）
1）国内の貸与先機関　計17機関
・国及び国立機関　計3機関
※国立新美術館に1件、東京国立博物館に3件、京都国立博物館に1件
・地方公共団体及び公立博物館・美術館　計11機関
（福岡県内）
甘木市歴史資料館に3件、伊都国歴史博物館に3件、小郡市埋蔵文化財センターに5件、求菩提資料館に2件、九州歴史資料館に2件
（福岡県外）
群馬県立歴史博物館に1件、※山口県立美術館に3件（うち1件はあべのハルカス美術館にも貸与）、桑名市博物館に1件、大阪市立美術館に2件、京都文化博物館に3件、下関市立歴史博物館に1件
・私立博物館・美術館及び私立団体　計3機関
公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館に1件、※あべのハルカス美術館に1件（山口県立美術館にも貸与）、中之島香雪美術館に2件
2）海外の貸与先機関　計1機関
※英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に1件

東京国立博物館　特別展
「桃山―天下人の 100 年」出品
重要文化財「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」
（当館所蔵）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
貸与件数	36件	－	－		83	71	80	50
うち国内の貸与件数	35件	－	－		72	67	80	44
うち国外の貸与件数	1件	－	－		11	4	0	6

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響で展覧会を中止した出品要請機関があり、例年と比較して、収蔵品・寄託品の貸与件数は減少した。しかし、国内外の博物館・美術館の要請に対し、重要文化財4件を含む36件の文化財を適切に貸与し、各博物館・美術館の展覧会の充実化に貢献できた。
なお、展覧会を中止した出品要請機関のうち、展覧会延期を検討する機関には、引き続き協力を行う。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間を通し、出品要請先施設の状況等を総合的に勘案して、収蔵品・寄託品を適切に貸与し、国内外の博物館・美術館の展覧会の展示の充実に寄与することができたことから中期計画を遂行したといえる。
3年度以降も、国内外の博物館・美術館の展覧事業に協力し、当館が収蔵するアジア諸地域との文化交流を象徴する文化財を通じて、日本文化を広く発信していく。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1520H-1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（文化財活用センター）
1)全国の博物館等文化財保存施設における良好な保存環境維持・管理に資するための助言や協力、また研修会等を通じての周知活動を行う。

担当部課	本部文化財活用センター	事業責任者	保存担当課長　冨坂賢

【実績・成果】
イ　文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している15施設を対象として、保存環境調査を行った。うち、11施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、3施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。1件は継続中である。
ロ　3年度貸与促進事業に応募した19施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。うち、貸与が内定し、かつ東博からの貸与実績のない2施設について、現地での保存環境調査を行った。
ハ　文化庁及び東京文化財研究所と共同し、文化財公開施設等からの新型コロナウイルス感染対策に関する相談窓口を4月23日に開設した。42件の相談のうち、21件について、文化財活用センターより回答を行った。
ニ　東京文化財研究所との共催による、元年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修」を10月5日～15日まで開催した。前半週を文化財活用センターが担当し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った（参加者17人）。
ホ　「保存と活用のための展示環境」に関する研究会を3年3月4日に、東京文化財研究所との共催により実施した。
ヘ　「第3回保存環境調査・管理に関する講習会」の開催を3年1月25日に予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、延期することとなった。

【補足事項】
イ　この調査は、文化庁からの協力依頼（2年4月7日付 2文財一第4号）に基づいて文化財活用センターが担い、文化財保護法53条に基づく公開や、公開承認施設申請を予定する施設からの依頼によって行ったものである。
ハ　2年4月23日付で、文化庁より発出された事務連絡「文化財所有者及び文化財保存展示施設設置者におけるウイルス除去・消毒作業に係る対応について」に基づいて、相談窓口を設置したものである。
ニ　新型コロナウイルス感染対策のため、定員を例年の30人より減らした。当初の参加予定者は21人であったが、4人が辞退したため、最終的な参加者は17人であった。
ホ　3年3月4日 「保存と活用のための展示環境」に関する研究会 -照明と色・見えの関係-（参加者27人）

博物館・美術館等保存担当学芸員研修

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
援助・助言等の件数	38件	－	－		－	－	20	68

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの流行下で、53 条公開に係る調査件数は、例年より大幅に減った一方、感染対策に関する多くの相談に対応し、これまでにない状況での、保存と活用の両立を安全に進めるために、多大な協力を行うことができた。また、多くの制約が生じたものの、研修会等の人材育成活動が実施できた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	環境管理に関する助言や援助、人材育成活動を通じて、全国の博物館等において、質の高い文化財の活用に不可欠な、安全な保存を実現していただくための協力を行うことができた。したがって、中期計画を遂行できたといえる。2 年度は、新型コロナウイルス感染対策への相談対応、助言が大きな位置を占めたが、この状況は以降も続くと考えられるため、常に最新の情報を入手し、適切な対応に努めたい。

【書式A】　施設名 文化財防災センター　処理番号 1520H-2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（4館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
（文化財防災センター）
1)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。

担当部課	本部文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】
（文化財防災センター）
1)
①ミュージアムにおける展示の安全対策に関する調査
・外部団体及び企業等と面会し、展示の安全対策に関する情報収集、意見交換を行った（6件)。[東京国立博物館][文化財防災センター]
株式会社エーエス（7月22日：東京国立博物館)、室内空間を中心とした機能保持のための研究会（11月27日、3年3月19日：防災科学技術研究所東京会議室)、日本フォームサービス株式会社（12月17日：東京国立博物館)、株式会社クマヒラ（10月23日、11月20日：文化財防災センター)
・加振実験を行い、博物館で使用される展示用支持具等の転倒防止及び防振効果について調査した（2件)。[東京国立博物館]
3次元加振装置による実験（3年1月22日：エミック(株)さいたま受託試験センター)、1次元加振装置による実験（3年2月9日～11日：千葉科学大学危機管理学部)
また、必要に応じて上記の加振実験に係る打合せを実施した（7件)。
(株)ノビテック（8月18日：東京国立博物館)、(株)構造計画研究所（10月2日)、防災科学技術研究所／（一社）防災機器検査協会／(株)構造計画研究所／明治大学（10月26日：Web会議)、(株)ノビテック（11月30日)、株式会社構造計画研究所（12月3日)、(一社）防災機器検査協会（12月9日：千葉科学大学)、エミック(株)　(12月25日)
・関連学会にて研究報告を行った（1件)。[東京国立博物館]
「想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動」日本文化財科学会第37回大会（9月5日～13日、オンライン開催)
②ミュージアムにおける収蔵の安全対策に関する調査
・外部団体及び企業等と面会し、収蔵の安全対策に関する情報収集、意見交換を行った（10件)。[東京国立博物館][文化財防災センター]
防災・減災展2020東京 視察（8月20日：大田区産業プラザPiO)、岡山県教育庁文化財課（10月13日)、日本美術刀剣保存協会岡山県支部（10月13日)、西条市立小松温芳図書館・郷土資料室（10月14日)、倉敷市総務課 歴史資料整備室（10月15日)、岡山県古代吉備文化財センター（10月15日)、株式会社コーアツ及び能美防災株式会社（10月20日：東京国立博物館)、シンポジウム「文化財の防災・減災 ―火災・地震に対する取り組み―」(10月25日：京都国立博物館)、株式会社クマヒラ（12月1日：東京国立博物館)、沖縄県立博物館・美術館（12月22日)
・関連学会にて研究報告を行った（2件)。[東京国立博物館]
「博物館・美術館における災害リスク軽減の現状と課題-日本、タイ、フランス、台湾の比較から-」文化財保存修復学会第42回大会（7月、紙上開催)、「博物館・美術館における災害リスク軽減に向けた異業種間連携の試み」日本文化財科学会第37回大会（9月5日～13日、オンライン開催)
③社寺等における収蔵の安全対策に関する研究
・立体作品に関する転倒防止対策等の防災対策に関する調査研究を目的とし、元年度まで実施してきた転倒シミュレーション解析を用いた立体作品の安定性に関する実験の内容充実を図るため、実験で使用する資料の3次元データの収集及び調査を行った（1件)。[京都国立博物館]
立体作品の3次元計測及び調査の実施（11月17日)
また、これまでの研究成果を踏まえたうえで、普及啓発の一環として、関連学会等において研究成果を発表した（2件)。
日本文化財科学会第37回大会（9月5日～13日、オンライン開催)、シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」(10月25日：京都国立博物館)

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
援助・助言等の件数	16件	－	－		－	－	20	68

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
・年度計画に沿って、博物館、美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査研究成果をあげることができた。外部団体及び企業等と情報共有と意見交換を図り、博物館・美術館における防災対策への助言を与えるなど、計画を着実に実施することができた。
・今後は、日本博物館協会や全国美術館会議等に入っていない私立博物館等に対するネットワーク構築を進める必要がある。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
博物館、美術館及び社寺等における展示・収蔵のより先進的な安全対策に関する調査研究を推進し、一定の成果をあげることができた。また、外部団体及び企業等との連携を深め、文化財防災のネットワーク構築を進めた。得られた調査研究成果等を研究協議会や学会等で発表し、文化財防災に関する普及啓発を、中期計画期間を通じて行うことができた。
以上のことから、中期計画に掲げた所期の目標を達成したと判断し、Bと判定した。今後は、ネットワークから漏れている私立博物館等との連携を図り、より広い文化財等防災ネットワークの形成を図る必要がある。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1520A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、文化財活用センターと協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部 総務部	事業責任者	部長　救仁郷秀明 部長　柏田昭生

【実績・成果】
1)公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、78件の援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力　33件
　文化庁、埼玉県歴史と民俗の博物館、岡山県教育委員会、小平市役所、法隆寺ほか
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　15件
　浅草寺、沖縄県立博物館・美術館、渋谷区立松濤美術館、北海道立近代美術館ほか
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　7件
　仏教芸術学会、東北大学、陸前高田市立博物館、東京藝術大学大学院ほか
・講演・セミナー・審査等での協力　17件
　文部科学省、経済産業省、徳川美術館、米子市、公益社団法人日本工芸会ほか
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　6件
　国立アイヌ民族博物館、町田市立博物館、国立歴史民族学博物館ほか
（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。
　環境調査を実施した新規貸与館は、13館。（参考：文化財活用センター貸与促進事業関係　2件）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
援助・助言等の件数	78件	－	－		120	138	131	139

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2 年度は緊急事態宣言発出に伴う移動自粛や借用辞退が頻発したため、元年度に比べると数的には大きく減少した。しかし、そのような中でも例年同様に、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等についての援助や助言、新規貸与館への環境調査を行うことができた。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、全国の美術館・博物館から問い合わせがあり、当館の対策について説明するとともに助言を行った。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期全体を通して、国内外からの要請に応じた、技術的・専門的な援助・助言を適切に実施できた。今中期最終年度となる 2 年度は、海外渡航制限を受けて、国内館のみとなったが、技術的・専門的な援助・助言を適切に実施することができた。次期中期以降も、感染拡大防止に配慮しつつ、可能な限り積極的に対応し、文化財の保存活用に寄与していきたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1520B

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　尾野善裕

【実績・成果】
1)
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力(各種委員会等の委員としての助言を含む)(61件)
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（6件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（6件）
・講演・セミナー・審査等での協力（60件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（4件）
2)　京都国立博物館における展示・収蔵施設の安全対策への取組について情報発信・助言等を行うことを目的とし、諸外国の研究者を対象とした国際研修等を例年実施していたが、2年度は、新型コロナウイルスの影響により、ほとんどの研修等の実施が中止となった。UNESCOチェアITC-DRMCHにおいては、開催内容の縮小に伴い、京都国立博物館の担当する研修プログラムは中止となった。一方で、国内の博物館等施設との研修を、ウェブ会議システムを活用して実施するなど新たな取組を行った。
　また、展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究としては、立体物の転倒防止対策に関する調査等を継続して行ってきたが、2年度は新型コロナウイルスの影響により、関係機関と連携し実施を予定していた調査等が中止となった。一方で、3年度以降の調査再開に向け、社寺等における聞き取り調査の実施、データ収集等を行った。

【補足事項】
1)
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力
　文化庁文化審議会（文化財分科会）など官公庁の各種委員会への助言・協力
　京都府、滋賀県、三重県、静岡市などの地方公共団体の文化財保護審議会委員等として助言など
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言
　神戸市立博物館、九州歴史資料館などの国内の博物館・美術館などへの展示指導など
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導
　一般財団法人秋水美術館の学芸アドバイザーとしての協力など
・講演・セミナー・審査等での協力
　京都大学、奈良大学など大学の非常勤講師として協力など
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言
2)
・文化財の展示・保管環境に関する指導・助言：知恩院
・文化財の展示・保管環境・安全対策に関する講演・研修等での協力：北海道博物館学芸職員研修会
・文化財の調査・修理に関する指導・助言（地方公共団体）
　滋賀県、犬山市、名古屋市、津島市、長浜市、鳥取県、大分県、大津市、京田辺市、高槻市、丸亀市

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
援助・助言等の件数	137件	－	－		112	168	140	152

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　国内の様々な機関の要請に対し、職員が各々の専門性に応じて137件の援助、助言、指導及び協力を行った。2年度は新型コロナウイルスの影響もあり国外機関への指導等はなかったが、国内では適宜ウェブ会議システム等を使用し、高い専門性を活かして数多の要請に応じることができた。
　文化財等防災分野では、新型コロナウイルスの影響により、展示・収蔵の安全対策に関する基礎的研究の調査等が中止になり、当初予定していた起震車実験等は実施が困難となったが、3年度以降の調査・研究のための3Dデータ収集などについては行うことができた。また、研修会等についても、ほとんどが開催中止となったが、ウェブ会議システム等を活用し、国内の研究者へ向けた指導・助言や調査・研究成果の発信ができた。

【中期計画記載事項】
　国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
　2年度は新型コロナウイルスのために制約される部分もあったが、件数としては例年と比較しても遜色なく、多くの要請に応じることができたため中期計画を遂行できたと言える。
　防災対策に対する取組に関する国内外の博物館等との情報交換、人的交流を通じたネットワークの形成については、文化財防災センター（文化財防災ネットワーク推進室）と連携協力しながら、より広く情報発信することを目指していたが、新型コロナウイルスの影響により、2年度は活動が大幅に制限された。しかし、件数が減少したものの、新たにウェブ会議システムを活用した研修会を行うなど、活動を継続的に実施することができたため、中期計画を遂行できたと言える。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1520C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
１）公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を、50件実施した。

【補足事項】
１）以下のとおり、援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に対する助言・協力　17件
　宮内庁、中宮寺奉賛会、法隆寺金堂壁画保存活用委員会、奈良県文化財保護審議会、鳥取県文化財保護審議会、神戸市教育委員会、大津市教育委員会ほか
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　3件
　岐阜市歴史博物館、松坂屋美術館、沖縄県立博物館・美術館
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　9件
　仁和寺聖教調査、當麻寺所蔵経典の調査ほか
・講演・セミナー・審査等での協力　12件
　放送大学、奈良女子大学、高野山大学、神戸大学、長野県埋蔵文化財センターほか
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　9件
　松伯美術館、大和文化館、日本工芸会ほか

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
援助・助言等の件数	50件	－	－		62	72	71	66

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、全国の博物館・美術館で展覧会中止や延期が行われたため、展示や展覧会運営に関する援助・助言等の実績は低くなったが、要請のあった事業については、技術的・専門的な知見から適切な対応をすることができたため、年度計画を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して、各機関からの要請に応じた専門的・技術的な援助・助言を着実に実施できた。国内・国外、あるいは公立・私立の別や規模の大小を問わず、様々な機関への援助・助言を実施したことにより、新たな人的ネットワークを築くことができ、今後情報交換の推進等に役立つものと考えられる。 2年度においては、新型コロナウイルスの影響により、海外はもとより自治体や博物館等で行われる事業が中止や縮小されることとなり、展覧会ばかりでなく、会議や講演会など、移動を伴う活動が制限された。しかしながら、要請があったものについては適切な対応をとることができ、多方面にわたり一定量の実績を上げたと言える。以上から、所期の目標を達成していると判断した。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1520D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
（九州国立博物館）
1)地域の自治体等と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)公私立博物館・美術館等職員のためのIPM（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　小泉惠英

【実績・成果】
1)以下のとおり、公私立の博物館・美術館等に対する援助・助言を行い、年度計画どおり事業を実施できた。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む（33件）
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（1件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（9件）
・講演・セミナー・審査等での協力（17件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（21件）
2)文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」を、文化財防災センターの事業として、東京国立博物館と共催でオンライン開催にて実施した。
3)古文書保存基礎講座については、実習を主とするため、新型コロナウイルスの影響を考慮し2年度は中止とした。
4)オンラインIPM相談会を、例年実施しているIPMセミナー、IPM研修の代わりに実施した。また、館内向けIPM研修は人数を減らして新型コロナウイルス予防対策を講じて実施した。
5) 大分県、広島県、佐賀県にて、先方からの要請によりIPMに関わる講演会・研修会の講師を務めた。

文化財防災セミナー（オンライン）

オンライン IPM 相談会

【補足事項】
（九州国立博物館）
2)
・10月2日に、館内職員向けのIPM研修を実施した（会場：当館、受講人数：10人）。
・10月21日～23日にオンラインIPM相談会を開催した（対応施設9施設、各施設1時間ずつの枠で実施）。
・12月11日に文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」をオンラインセミナーとして、東京国立博物館と共催で実施した（当日視聴者、約100人、アーカイブ視聴者を含めた全体の登録者約300人）
・9月8日中津市歴史博物館（大分）、11月19日広島県立文書館、12月21日佐賀県立名護屋城博物館にて、IPMに関わる講演会・研修会講師を務めた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年	28	29	30	元
援助・助言等の件数	81件	－	－	変化	87	105	72	86

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 九州地域だけでなく日本全国の要請に対応し、81件の援助・助言を行った。また、文化財修理やIPMなど当館の特色である事業の普及啓発について、連携機関と協力し研修を実施することができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通し、全国の博物館、美術館、文書館等からの要請に応じて指導、助言を行い中期計画を達成した。 中期計画の最終年度である2年度は、新型コロナウイルスへの対策として積極的にオンラインを活用した事業を展開した。今後のニーズも見据えながら、次期中期においてもセミナー、研修等を実施していきたい。

文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

【調査研究の評価軸及び評価指標等】

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

①有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究　　【自己点検評価：B】

本項について2年度は対象となる6件の調査研究の年度評価は「A」2件、「B」4件であり、美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与したことから、全体としてBと評価した。

評価軸：我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。	
成果	美術工芸品については、元年度に資料閲覧室で公開を始めた売立目録アーカイブの改良を進め、そのテキストデータをウェブサイト上で公開し、その公開に至る経緯と活用事例をまとめた報告書『売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望』を刊行した。また、久米美術館との共同研究として調査を行ってきた黒田清輝・久米桂一郎間の書簡の概要を『美術研究』433号に掲載、さらに久米桂一郎の日記中、仏文による箇所を邦訳し、訳文も含めた邦文、および仏文による原文をデータベースとしてウェブサイト上で公開した。 歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究として実施した、法隆寺古材調査については、その成果を報告書にまとめるため、図面の作成及び執筆・編集作業に入り、古代建築の技法に関する研究は、順調に進捗している。また、奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査についても、59回の調査協力を行い、6市町村で社寺の台帳を作成した。また、受託調査事業として、松江神社、高野山内の建築調査を行い、その価値を明らかにした。近畿を中心とする古社寺等所蔵の歴史的資料等に関する調査研究として、仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第94函～第102函聖教の調書原本校正・写真撮影し、御経蔵第77函～第86函の聖教については、目録を公刊した。また、唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、聖教第17函～第19函の調書作成等を行った。 以上のことから、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与することができた。
評価軸：有形文化財の保存修復等に寄与しているか。	
成果	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究を実施することで得られる成果は、地方公共団体の文化財保護施策や文化財活用に資するものであり、各地の歴史的建造物の保存に協力している。受託調査事業として実施した各事業は、地方公共団体や所有者の求めに応じて行ったものであるが、いずれも文化財建造物や伝統的建造物群の保存に大きく資するものとなった。また、近畿を中心とする古社寺等所蔵の歴史的資料等に関する調査研究を実施することで、興福寺所蔵の歴史資料の調査、井坊家記録の調書作成及び二条家記録の写真撮影を実施した。二条家の記録については、一部その内容を公表した。また、薬師寺・当麻寺・法華寺をはじめとする諸社寺の歴史資料及び書跡資料の調査研究を進め、成果をさらに上積みできた。 こうした成果の公表は更なる研究を喚起するものであり、有形文化財の保存修復等に寄与することができた。

②無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究　　【自己点検評価：A】

本項について2年度は対象となる3件の調査研究の年度評価は「A」2件、「B」1件で、無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に大きく寄与したことから、全体としてAと評価した。

評価軸：無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。	
成果	無形文化財については、古典芸能の調査研究、文化財保存技術としての楽器製作技術および材料についての調査研究を行ったことに加え、新型コロナウイルスの流行下における影響についても情報の収集と公開に努め、その社会的ニーズに応えることができた。また演奏機会の少ない宮薗節や、常磐津節の希少な曲などの実演記録を継続的に行った。さらに楽器材料としての竹について複数ジャンルの楽器製作者・実演家を繋ぎ、東京文化財研究所内の保存科学分野等との協力体制を築いた上で、その成果を公開した。 無形民俗文化財については、従来の過疎化・少子高齢化により継承の危機にある伝承や東日本大震災の被災地における伝承の継続的な調査研究に加え、無形文化財同様に新型コロナウイルスの流行下における影響について情報収集を行った。特にオンライン等新たな方法を用いて実践されている保護・活用事例をいち早く調査し、その成果を無形民俗文化財研究協議会の中で公開した。また民俗技術について、箕の展示会とウェブサイトの製作を実施することができた。

③記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究　　【自己点検評価：B】

本項について 2 年度は対象となる 20 件の調査研究の年度評価は「A」4 件、「B」16 件であり、平城宮跡・藤原宮跡の継続的な発掘調査において、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与する成果をあげていることや、水中文化遺産の調査法の確立に寄与する発展性のある成果をあげたことなどから、全体としてBと評価した。

評価軸：記念物の保存・活用に寄与しているか。	
成果	我が国の記念物に関する調査研究（遺構等整備）を実施することで、「令和 2 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書　歴史的計画」を刊行した。また「歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―」をテーマとして遺跡整備・活用研究集会を開催し、首里城跡、平城宮跡等の先行事例の発表を通して、史実の確認、イベントとしての内容、観光の影響等の議論を実施した。 平城宮跡の活用に関する実践的研究に関しては、第一次大極殿前で発見された幢旗遺構の AR アプリを多言語化し、改良を加えた。 また、我が国の記念物に関する調査研究（庭園）の実施においては、近世庭園史の発展に資する論集「(仮)近世庭園の研究」の刊行に向けた編集作業を進めた。 以上のことから、記念物の保存・活用に寄与することができた。
評価軸：古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。	
成果	平城宮東方官衙の発掘調査（平城 621 次）を実施することで、平城宮の主要官衙が展開する平城宮東方官衙地区の様相を明らかにすることができた。元年度の調査（平城 615 次）で検出した大型建物基壇とそれを取り囲む官衙区画（築地塀）の東西規模および北側の築地塀の状況を明らかにした。また、区画内の雨水は築地塀の下に木樋および石組の暗渠を設けて西側の基幹排水路に排出されており、区画内の排水に十分に留意していたことが伺えた。平城宮内における排水系統を解明する重要な成果である。基幹排水路の堆積土を層位毎に水洗して微細な遺物の取り上げに取り組むことで、土器や瓦の破片だけではなく木質遺物および木簡を含む多量の遺物を取得した。先に挙げた大型建物を有する官衙区画の性格を検討するうえで重要な手がかりを得ることができた。 藤原宮大極殿院地区の発掘調査（飛鳥藤原第 205 次）を実施することで、藤原宮大極殿院東面回廊及び内庭東北部の様相を明らかにすることができた。今回、大極殿院回廊東半部のほぼ全域の調査を終え、回廊及び内庭部の大部分の様相を解明するなど重要な成果を得ることができた。

	飛鳥地域等の発掘調査（飛鳥藤原第 206 次）を実施することで、大官大寺南方から山田道にかけての地域において 7 世紀後半に大規模な整地を行い、建物や塀などの施設を造営したことが明らかになるなどの重要な成果を上げることができた。 こうした成果により、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与することができた。
評価軸：文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。	
成果	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究を実施することで、日本各地の文化的景観の調査、保存活用、整備に関する報告書等の収集を継続して行った。 京都市、宇治市、智頭町等をフィールドに、市町の担当部局への協力を通じて文化的景観の価値や継承等に関する検討を行った。こうした文化的景観の整備計画に関する事例の収集と公開を通して、保存・活用並びに研究の進展に寄与することができた。
評価軸：埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。	
成果	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究を実施することで、既存の公開・非公開データに位置情報等を付加するとともにデータの更新を行った。 また、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行を実施については、第 24 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷」を開催し、『第 23 回古代官衙・集落研究会報告書　灯明皿と官衙・集落・寺院』を刊行し、研究成果の公開を行った。 更に古代瓦研究会に関する研究集会の開催を実施することで、「『古代瓦研究Ⅹ　8 世紀の瓦づくりⅧ－一本づくり一枚づくりの展開 2（西日本編）－』Ⅰ報告編・Ⅱ資料編」を刊行したほか、30 年度に開催した第 19 回シンポジウムの成果を報告書として刊行し研究成果を公開した。 調査研究成果を広く公開することにより、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与することができた。
評価軸：水中文化遺産に関する調査研究に寄与しているか。	
成果	水中文化遺産に関する調査研究として、鷹島海底遺跡において現地保存されている元軍船のモニタリングの一環として、埋め戻し環境下の溶存酸素濃度の計測、及び同環境に設置した木材及び炭素鋼供試体を引き上げ、その劣化量を評価した。その結果、溶存酸素が枯渇した環境が形成され、供試体の劣化量も極めて緩慢であったことから、元軍船の劣化が十分に抑制されていることを確認した。 文化庁が刊行を進めている「発掘調査のてびき　水中遺跡調査編（仮称）」において、「第 4 章水中遺跡と出土遺物の保存と管理」の分担執筆を行った。そのほか、水中文化遺産の調査法、現地保存法並びに出土遺物の保存処理法の開発にも継続的に取り組み、一定の効果的な方法を提示することができ、水中文化遺産に関する調査研究に寄与することができた。

モニタリング指標

		第 3 期中期期間平均	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
論文等数	東文研	14.8	13	12	14	16	11
	奈文研	71.4	37	61	56	81	54
	計	86.2	50	73	70	97	65
報告書等の刊行数	東文研	1.4	3	3	9	3	16
	奈文研	25.2	16	15	13	11	13
	計	26.6	19	18	22	14	29

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

①文化財の調査手法に関する研究開発　【自己点検評価：B】

本項について2年度は対象となる4件の調査研究の年度評価は「A」1件、「B」3件であり、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができたことから、全体としてBと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与しているか。	
成果	デジタル画像の形成方法の研究開発において、東京国立博物館所蔵の仏画、四天王寺所蔵の扇面法華経など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発において、GPSやLiDARと連動した地中レーダーの検討を行い、各地でテストを行った。加えてクローラーによる自走式レーダー機器の開発検討を行った。さらに簡便な機材で碑文等の表面情報を読み取る「ひかり拓本」技術を確立した。 年輪年代学研究として、出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による年輪データの蓄積を行った。 動植物遺存体の調査研究に関しては、平城宮跡、藤原宮跡をはじめとして、各地の遺跡等から出土した動植物遺存体の分析を行った。 こうした研究成果の発信や社会還元として、「古代食の総合的復元と疾病の関係解明」シンポジウム、東京都埋蔵文化財センター文化財講演会などで研究発表や講演会を行った。 以上のことから、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　【自己点検評価：A】

本項について2年度は対象となる12件の調査研究の年度評価は「A」7件、「B」5件であり、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に大きく寄与できたことから、全体としてAと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。	
成果	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究においては、環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処理の普及を進めるとともに、文化財害虫の分子生物学的解析手法の検討を重ね、一部の木材害虫について虫糞からPCR法によって同定する方法を確立した。 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究においては、平安時代の国宝久能寺経（個人蔵）に真鍮泥が使われている新知見を見出した。また、保存環境下における金属の腐食について、空気環境と腐食生成物の関係について考察を行った。 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究においては、FT-IRとデジタルマイクロスコープによる観察により、葛と芭蕉などの絵画基底材の識別が可能であることを明らかにした。また、漆の化学的変化について科学的解明を行うとともに、首里城火災で被害を受けた漆工品の劣化状態調査などを実施した。 考古遺物の保存処理法に関して、鉄製遺物において、新規脱塩法及び発掘後の劣化予測技術の開発に向けた基礎的な実験を行い、成果が得られた。また従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法について、実用化に向けた検討を進めることができた。 建造物の彩色に関する調査研究では、平城宮跡第一次大極殿において、周辺環境が建築塗装の劣化におよぼす影響を検討するため、環境調査及び塗装の劣化状態調査を継続して実施したほか、モンゴル国16世紀の

	遺跡と推定されている Uvgunhiid 寺院遺跡の壁画に用いられた顔料について SEM-EDX、XRF、XRD による調査を実施し、それらの成果をまとめて『文化財科学』に投稿した。 高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究では、キトラ古墳壁画保存管理施設の運用・管理を行うとともに、壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用や、壁画を安全に分析するために開発したＸ線回折装置の実用化など、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施することができた。また、古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究では、宮崎市蓮ヶ池横穴群において横穴の保存を担保しつつ内部を公開する手法を検討するため、2 年度も横穴内部の温熱環境調査と石材劣化状態調査を継続して実施した（12 号、16 号、17 号および 53 号横穴）。冬季に横穴を閉塞して内部の乾燥を抑制するとともに、夏季を中心に開口することで内部を公開しつつ、石材表面の乾燥を抑制する運用方法のもと横穴内部の温熱環境について、これまでの調査成果をまとめて『文化財科学』に投稿した。 以上のことから、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与することができた。

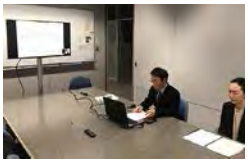
モニタリング指標

		第 3 期中期期間平均	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
論文等数	東文研	16.4	18	17	16	17	19
	奈文研	26.2	34	50	38	38	41
	計	42.6	52	67	54	55	60
報告書等の刊行数	東文研	5.0	5	5	5	6	11
	奈文研	2.6	1	3	1	0	0
	計	7.6	6	8	6	6	11

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eア

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ア	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と研究会を開催する。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。
プロジェクト名称	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、橘川英規（主任研究員）、安永拓世（主任研究員）、米沢玲（研究員）、阿部朋絵（研究補佐員）、田村彩子（研究補佐員）、大前美由希（研究補佐員）	

【年度実績と成果】


アート・ドキュメンテーション学会での発表

○調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・公開
・当研究所刊行の論文を学術機関リポジトリ(IRDB)で公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』、各種報告書を 57 件新たに追加し合計 13 タイトル 3,688 件の論文のフルテキストを公開した。
・OCLC のセントラル・インデックスに、2017（平成 28）の展覧会カタログ所載記事・論文のデータ 4,418 件を「東京文化財研究所美術文献目録」として搭載した。
○国内外の関連機関との連携・研究協議・成果公開
・アメリカのゲッティ・リサーチ・ポータルに、当研究所所蔵の葛飾北斎絵入り版本などの貴重書 836 件を追加し、合計 2,563 件のデータを公開し、研究協議を行った。またゲッティ研究所との共同研究の成果について口頭発表を行った。
・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及びその研究に関する英語文献・記事情報の採録と活用についての協議をオンライン会議システムで行った。(11 月 26 日)
・京都府との共同研究：京都府所蔵昭和初期文化財調書の 20,000 点のデジタル画像のうち約 5,200 件のメタデータを追加し、データベース構築を行い、公開活用のための協議を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルス感染症の影響が世界的に拡がる中、国内外のインターネット利用者に対して公開コンテンツ数をさらに拡充し、その成果を発表して反響を得た。②独創性においては、ゲッティ研究所のポータルサイトに江戸時代版本の全文公開を行ったことと、専門性の高いデータベースやコンテンツをインターネット公開することにより、高い独創性を示し得た。③発展性においては、今後、国内の他機関からのコンテンツをゲッティ・リサーチ・ポータルに提供するシステムを企画し、大きな発展性を示し得た。④効率性においては、新型コロナウイルス感染症の影響下でもリモートやオンラインでできる作業を着実に遂行し、元年度を上回る件数のコンテンツを搭載するなど計画を上回る成果をあげたことを評価した。⑤継続性においては、我が国における文化財情報の外部発信についてイニシアチブを取るとともに、その発信を安定・継続的に行える環境を整えた。よって所期の計画を上回り、順調かつ効率的に年度計画を遂行できた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 調査・研究成果の公表環境の整備　1 件（ア） 美術に関する情報公開　2 件（イ, ウ） 学会・研究会等発表　1 件（エ）	定量評価 ―

ア　IRDB への論文の追加（57 件）（5 月）
イ　ゲッティ・リサーチ・ポータルへのデジタルコンテンツ搭載(836件追加、合計 2,563 件)（9 月、3 年 1 月）
ウ　OCLC への「東京文化財研究所美術文献目録」情報提供（4,418 件）（3 年 3 月）
エ　橘川英規ほか「葛飾北斎絵入り版本群・織田一磨文庫のオープンアクセス事業–ゲッティ研究所との協同による書誌情報国際発信の実践（古典籍書誌整備と資料保全)」(11 月 28 日、アート・ドキュメンテーション学会第 13 回秋季研究集会)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	当研究所の文化財に関する調査・研究の成果・データを国際標準に適合させ、国内外の関係機関との連携を強化し、広く文化財情報の公開と活用を推進し、国際性・新規性・卓越性の高い実績を上げ、中期計画を遂行することができた。特に 2 年度は新型コロナウイルスの影響もある中、オープンアクセス資料の増大で国内外の研究支援に貢献し、成果公表を行うことができた。以上の理由から、今中期全体を通して当初の計画を上回る成果をあげることができた。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eイ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-イ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 イ　近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究及び光学調査を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。
プロジェクト名称	日本東洋美術史の資料学的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、二神葉子(文化財情報研究室長)、江村知子（文化財アーカイブズ研究室長)、小野真由美（主任研究員)、津田徹英（客員研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○研究基盤となる資料整備

・美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年紀資料集成）を作成するため、平成 11 年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集して入力した。入力された資料は 554 件に達した。

○研究交流の推進

・本プロジェクトにかかる研究会 3 件を行った。

・タイ・バンコクにおける幕末期を中心に日本から輸出された伏彩色螺鈿の技法を用いた漆工品の研究を行った。現地調査は新型コロナウイルスの影響により行えなかったが、これまでの調査データに基づき、共同研究者間での検証、考察を行い、報告書を刊行することができた。

調査報告書

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、最新の研究成果を研究会にて発表することができた。②独創性③発展性においては、これまで詳細の知られなかったタイ・バンコクで漆工品に関する調査にもとづくその検証・考察研究ができた。④効率性及び⑤継続性においては、年紀資料集成について引き続き新たに 554 件を追加入力することにより、研究効率の増加に資することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 年紀資料集成追加件数 554 件、報告書 1 件（ア)、研究発表 3 件（イ、ウ、エ)。	定量評価 ―

ア　幕末期伏彩色螺鈿の調査研究

イ　田中潤（文化財情報資料部客員研究員)「近代の大礼と有職故実」(6 月 23 日)

ウ　小野真由美（文化財情報資料部主任研究員)「 江戸初期狩野派史料の研究―探幽縮図を中心に―」(7 月 28 日)

エ　米沢玲・安永拓世（文化財情報資料部研究員)「片野四郎旧蔵の羅漢図について」(3 年 2 月 25 日)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	今中期計画期間を通して、年紀資料集成の作成、研究会の開催を順調に実施することができた。タイ・バンコクでの漆工品に関する調査では、同地で活動した近代の日本人作家について新たな知見も得られ、中期計画最終年度には、これらの成果をまとめ、報告書として刊行することができた。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eウ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ウ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ウ　近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。その事業のひとつとして日本美術家人名データベースの作成を進める。
プロジェクト名称	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、橘川英規（研究員）、城野誠治（専門職員）、野城今日子（アソシエイトフェロー）、山梨絵美子（副所長）、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也、田所泰（以上、客員研究員）	

【年度実績と成果】

8月25日研究会風景

○仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達の作品・資料調査に基づき、『美術研究』431号にその研究成果を論説として掲載した。
○屋外彫刻の保存状況をめぐり、部内研究会にて討議を行った（12月21日）。
○現代美術資料センターとの協力体制を刷新・発展させ、全国的な美術コレクター・ギャラリー組織との連携による現代美術資料収集の枠組み構築について協議を行い（9月9日）、試験的に関連コミュニティに当研究所での資料収集事業に関する告知を実施した。
○美術評論家の故鷹見明彦が撮影した画廊の展示風景写真の整理を進めた。
○今中期計画で継続的に遂行した日本の近現代作家情報の整備（『日本美術年鑑』「物故者記事」「名簿」所収、4,835名）が完了した（成果の一部をゲッティ研究所に提供、オンライン美術家人名事典ULANで公開予定）。
○アメリカの西洋古典絵画コレクション形成に寄与した画商ジョセフ・デュヴィーンと美術史家矢代幸雄との往復書簡（ゲッティ研究所蔵）について、部内研究会で口頭発表した（8月25日）。
○久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進めウェブ上で公開、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡の概要を『美術研究』433号に研究資料として掲載した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、劣化や撤去等の危機に瀕している屋外彫刻の問題点をまとめ、討議を行った点が高く評価される。②独創性においては、海外の画商と日本の美術史家の往復書簡から、日本における西洋美術コレクションの形成について考察した点が高く評価される。③発展性においては、これまで東京に偏りがちだった現代美術資料の収集を、現代美術資料センターの協力により、全国的に展開する足がかりを築いた点が高く評価される。④効率性においては、日本の近現代作家情報を整備し、その情報を国際的な研究機関のデータベースに提供することで広く研究者の便を図った点が評価される。⑤継続性においては、今中期計画で継続的に進めてきた久米美術館との共同研究の成果をまとめ、ウェブや研究誌で公開、発表した点が高く評価される。よって所期の計画を上回り、順調かつ効率的に事業が遂行されたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等2件（アイ）、学会・研究発表1件（ウ）	定量評価 —

ア野城今日子「小室達《伊達政宗騎馬像》の制作とその社会的背景をめぐって」（『美術研究』431号、8月）
イ塩谷純・伊藤史湖・田中潤・齋藤達也「書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流　一」（『美術研究』433号、3年3月）
ウ山梨絵美子「ゲッティ研究所が所蔵する矢代幸雄と画商ジョセフ・デュヴィーンの往復書簡」（文化財情報資料部研究会、8月25日）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	2年度は、予定していた金素延氏（梨花女子大学）を招聘しての研究会が新型コロナウイルスの影響で開催できなかったものの、今中期計画期間を通して、日本の近現代作家情報の整備や久米美術館との共同研究等、継続的な作業や調査研究を遂行し、公開に至るという、ほぼ理想的なかたちで締めくくった。また現代美術資料の全国展開や近現代作家情報の更なる充実といった、次期中期計画に向けての展望も拓くことができた。以上の理由から、今中期全体を通して当初の計画を上回る成果をあげることができたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eェ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ェ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 エ　美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として、螺鈿や漆器等を主な対象として、その表現・技術・材料について自然科学や伝統技術、また歴史学等の隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施するとともに、新たな研究手法の検討・開発に取り組む。
プロジェクト名称	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林公治(広領域研究室長)、塩谷純(部長兼近･現代視覚芸術研究室長)、二神葉子(文化財情報研究室長)、江村知子(文化財アーカイブズ研究室長)、小林達朗(日本東洋美術史研究室長)	

【年度実績と成果】

○螺鈿及び漆器類に関わる調査研究、研究協議等

・9 月 9 日に個人蔵伏彩色螺鈿箱について保存科学研究センターほか調査担当者で研究協議を行った。10 月 29 日に東京国立博物館にて中国螺鈿漆器の調査を東博研究員の立会いで行った。8 月 21 日、国友鉄砲ミュージアムにて、翌 22 日に甲賀市水口歴史民俗資料館にて 17 世紀代のネジに関する調査を行った。10 月 9 日に多久市郷土資料館にて蒔絵螺鈿箏の調査を行った。11 月 10 日に茨木市内個人宅にて漆塗り聖龕、12 日に神戸市立博物館にて南蛮漆器ほかの調査を行った。11 月 30 日には長崎市教育委員会にてキリスト教聖器物入れの調査を行った。

○研究成果公開

・10 月 10 日より 12 月 13 日まで大分県立埋蔵文化財センターにて開催された､2 年度企画展「BVNGO NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化」において､出品・図録作成に協力したほか、10 月 10 日にはオープニング記念講演会において「キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―」と題し、この展覧会の展示内容と相関する講演を行った。また、この講演内容についてまとめた資料集が同センターから発刊された。11 月 24 日開催の第 5 回文化財情報資料部研究会において武田恵理氏が「初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承―日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証―」と題し発表を行った。

大分市能楽堂における 10 月講演の様子

○研究データの整備と公開

・昭和 40 年（1965）の発行で 230 号までの掲載であった『美術研究総目録』を補完し、431 号までの内容を一覧にした『美術研究』pdf 版総目次を 11 月に当研究所総合検索及びレポジトリ上において日本語版・英語版を同時にインターネット公開し、利用者の便宜促進を図った。また､検索用キーワードの抽出作業を実施し、今後整備のうえ公開し、文献検索と発見向上の便宜を提供する計画である。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。下記各観点から評価を行った。①適時性においては、外部自治体からの依頼に対し対応して発表等を実施した。②独創性については、個人所蔵長崎螺鈿漆器箱に対して新たな視点により共同研究を開始できた。③発展性においては、元年度までの保存修復科学研究センターと共同しての研究をさらに発展させる試みに取り組んだ。④効率性については、新型コロナウイルスの影響による国内外出張等の規制の中で効率的に対応した。⑤継続性についてはこれまで実施してきた内容について継続して研究を行い成果を発表した。以上の評価を総合して年度計画評価についてＢと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等　1 件（ア）､学会・研究発表等　2 件（イ・ウ）	定量評価 ―

ア　小林公治「キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―」(『BVNGO NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化』オープニング記念講演会資料集』10 月）イ　小林公治「キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―」（「BVNGO NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化」企画展オープニング記念講演会 10 月 10 日）ウ　武田恵理「初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承―日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証―」（文化財情報資料部研究会､11 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	中期計画に従い、継続的に一貫して調査と研究を実施することができた。さらに、そうした研究内容について、所内外のさまざまな機会（国内外学会、一般向け講演会、地域後援会、テレビや新聞、またネット等によるマスメディアなど）を通じて効果的に研究の意義や成果について公表周知することができた。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2112F

中期計画の項目	2-(1)-①-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-2)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存を行っている各自治体等への協力を行う。
プロジェクト名称	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○島田敏男（建造物研究室長）、箱崎和久（都城発掘調査部長）ほか6名	

【年度実績と成果】

・法隆寺古材調査　成果を報告書にまとめるべく図面の作成と執筆・編集作業に入った。
・奈良県社寺建築悉皆調査　奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、59回の現地調査を行い、市町村について社寺の台帳を作成した。
・受託調査　以下3件の調査研究業務を受託した。
　・松江神社建造物調査業務委託（松江市）
　・犬伏家住宅保存活用計画策定業務（藍住町）
　・高野山地区建造物調査（高野町）
・元年度受託した以下の2調査について、報告書の編集を行った。
　・「あわの至宝」調査・発信事業における建造物の調査研究（徳島県）
　・高山市料亭洲さき建造物調査（高山市）

松江神社調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、保存活用計画策定業務及び建造物調査業務は、31年4月施行の改正文化財保護法にもとづいた地方公共団体の要望に則した事業で、適時性が高い。②独創性においては、建築悉皆調査は、これまでに行われてなかった完全な悉皆的な調査であり、独創性がある。③発展性においては、いずれの調査とも、その成果は文化財保護施策や文化財活用に資するものであり、発展性がある。④効率性においては、建造物研究室の専任研究員がいないなかで、研究所内スタッフの連携により数多くの調査研究を行っており、きわめて効率的に事業をすすめている。⑤継続性においては、各年度に諸調査を行い、調査資料を担保するとともに、上記のように所内の多くのスタッフが組織的に関わっており、今後も、組織調査として継続性がある。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・編集報告書数3（①～③）・論文等数：5（④～⑧） ・調査（日）回数　70日	定量評価 —

①『「あわの至宝」調査研究報告書（建造物編）』(8月) ②『料亭州さき建造物調査報告書』(3年3月) ③『松江神社建造物調査報告書』(3年3月) ④「湯浅町の歴史的建造物－調査概要とみかん農家の特徴－」紀要2020（9月）⑤「高野山の歴史的建造物にみる復興の履歴」紀要2020（9月）⑥「近代高山の料亭建築と大工・施工業者について－料亭州さきを事例として－」紀要2020（9月）⑦「昭和初期の倶楽部建築における家具の様相－綿業会館を事例として－」紀要2020（9月）⑧「西トップ遺跡の建築調査－2019年度の成果－」紀要2020（9月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	建造物に関しては、古代建築の保存に資するため、法隆寺古材調査を中心とする古代建築調査を行って古代建築及びその修理過程等を明らかにする。また、近世・近代の建造物等の調査研究を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。
評定理由	古代建築の技法に関する研究は、中期計画に対し順調に進捗している。当研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした当研究所ならではの研究である。重要伝統的建造物群については、地元の要請にしたがって調査を行った岡山県津山市城西地区、岡山県矢掛町矢掛地区は重要伝統的建造物群に選定され、若桜町若桜についてもすでに保存地区の決定がなされ、選定申し出が行われる予定である。また個々の伝統的建造物についても、調査を行った塩尻市旧中村家住宅が重要文化財に指定された。奈良県内でも、岡寺本堂（明日香村）、十二社神本殿（大和高田市）、舟知家住宅（吉野町）等の調査を行い、地元の歴史的建造物の保存に協力した。さらには、出雲市内神社本殿建築の悉皆調査、奈良県社寺建築悉皆調査、湯浅町歴史的建造物悉皆調査、高野町歴史的建造物悉皆調査、徳島県県南社寺建築悉皆調査を行い、地域の建造物文化財の掘り起こしを行うとともに、改正文化財保護法により位置づけられた文化財保存活用地域計画の基礎となる成果を提供した。また、改正文化財保護法で法定計画化された重要文化財の保存活用計画についても、綿業会館（大阪府）、犬伏家住宅（徳島県）の保存活用計画策定に協力した。 以上のように本中期計画5か年内では、計画に基づいた成果をあげるとともに、31年4月1日施行の改正文化財保護法に対応した調査研究を行い、中期計画を遂行できた。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2113F

中期計画の項目	2-(1)-①-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-3)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 近畿を中心とする古社寺や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○吉川聡（歴史研究室長）、橘悠太（歴史研究室アソシエイトフェロー）、山田徹（同志社大学准教授・客員研究員）、綾村宏（客員研究員）	

【年度実績と成果】

・仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第 94 函～第 102 函聖教の調書原本校正・写真撮影を実施した。また、御経蔵第 77 函～89 函の聖教について、書誌事項を検討し、目録を公刊した(ア)。
・唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、聖教第 17 函～19 函の調書作成や、聖教第 8 函～9 函の写真撮影等を行った。
・興福寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、井坊家記録の調書作成、二条家記録の写真撮影を実施した。また二条家記録の一部について、その内容を公表した(イ)。
・薬師寺所蔵の歴史資料について、新出史料を調査し、新出絵図筥の写真撮影を行った。
・当麻寺所蔵の経典の調査を実施し、開披作業・東 22 函～29 函の調書作成を行った。また、当麻寺の堂舎や巻柱に記された中世～近世の銘文について、赤外線撮影・ひかり拓本測量・斜光投影等の技術を用いて釈読調査を行った。
・法華寺所蔵の未整理の歴史資料を調査し、第 7 函の調書作成を行った。
・奈良市教育委員会と連携研究の協定を結び、氷室神社宮司の大宮家所蔵文書の函文書の調書作成・写真撮影を行った。
・金峯山寺関係の個人蔵歴史資料につき第 3 函～第 6 函の調書作成・写真撮影を行った。
・興福寺関係の個人蔵歴史資料につき、科学研究費補助金も充当して調査を行い、古文書の写真撮影・調査データ入力作業等を行った。その結果、当該資料は当研究所に寄贈された。
・当研究所所蔵の覚城院・萩原寺等関係中世聖教類について調査を行い、その釈文・性格等を公表した(ウ)。
・調査協力の依頼を受け文化庁の仁和寺聖教調査に協力した。

当麻寺巻柱の角筆スコープによる斜光投影調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、特に仁和寺調査では、現在研究が盛んな中世仏教聖教の目録を公表しており、適時性が高い。②独創性においては、当麻寺の銘文調査では、ひかり拓本測量・簡易デジタルカメラによる赤外線撮影・斜光投影を用いて文字を釈読しており、独創性が高い。③発展性においては、目録・釈文の公表は更なる研究を喚起するものであり、発展性がある。④効率性においては、当麻寺開披作業を専門家に依頼した結果、効率が大幅に高まった。⑤継続性においては、膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、継続性がある。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・(参考値)・刊行物数：1（ア）　・論文等数：2（イウ） ・調査資料点数：仁和寺：写真撮影 133 点　唐招提寺：調書作成 42 点・写真撮影 38 点　興福寺：調書作成 58 点・写真撮影 33 点　薬師寺：写真撮影 87 点　当麻寺経典：調書作成 139 点　法華寺：調書作成 12 点	—

ア奈良文化財研究所編『仁和寺史料　目録編〔稿〕4』　イ吉川聡「興福寺二条家記録「文亀三年引付」の紹介」『奈文研論叢 2』　ウ橘悠太「奈良文化財研究所所蔵『覚城院・萩原寺等関係中世聖教類』について」『奈文研論叢 2』

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、薬師寺・仁和寺等の近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。
評定理由	古寺社に伝来した資料を、近畿を中心に調査し、その成果を公表することを目指している。中期計画 5 年目である 2 年度も、仁和寺の聖教目録を公刊し、成果をさらに上積みしたと言える。調査研究には新型コロナウイルス流行の影響も受けたが、一方で、当麻寺の銘文調査を新たに行うなど、密にならない形で、調査を実施できたため、中期計画を達成したと判断し、B評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2121E

中期計画の項目	2-(1)-②-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-1)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。記録作成に関しては、これまで継続してきた講談等の演芸に加え、邦楽分野についても範囲を広げ実施する。 調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。 また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。
プロジェクト名称	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○前原恵美（無形文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、飯島満（特任研究員） ほか	

【年度実績と成果】

公開学術講座における実演

○無形文化財に関する調査研究
・芸能分野：古典芸能の調査研究、文化財保存技術としての楽器製作技術（三味線、笙、大鼓の革製作技術ほか）及び材料（竹材製造及び第一次加工技術）の調査研究、新型コロナウイルス感染症が無形文化遺産に与える影響調査及びウェブサイトでの発信
・工芸分野：文化財保存技術（伊勢型紙製作技術）に関する調査研究
○現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
・宮薗節（宮薗千碌氏ほかによる古典曲 2 曲）、常磐津節（常磐津兼太夫氏、文字兵衛氏ほかによる古典曲 1 曲、舞踊曲 2 曲）、の実演記録を作成
○研究調査に基づく成果の公表
・第 14 回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「竹材と日本の伝統的な管楽器」を開催（東京文化財研究所、3 年 3 月 20 日、映像収録・後日配信）
・「日本の芸能を支える技Ⅵ三味線　東京和楽器」／「同　Ⅶ箏　国井久吉」（東京文化財研究所、2 年 12／3 年 3 月発行）
・「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 4」（『無形文化遺産研究報告』第 15 号、3 年 3 月発行）
・「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響―調査研究とその課題―」（同上）
・プロジェクト報告書『コロナ禍と伝統芸能を中心とした無形文化財』（東京文化財研究所、3 年 3 月発行）
○無形文化遺産に関わるアナログ資料のデジタル化
・音声資料：オープンリールテープに関して、民謡テープ（約 80 時間）のデジタル化を実施

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性について、新型コロナウイルスの流行下で古典芸能や文化財保存技術に対する影響が社会的に注目される中、芸能公演や楽器製作技術等の調査研究と成果公表を継続的に行った点は、十分に評価できる。②独創性及び⑤継続性については、演奏機会の少ない平家や宮薗節（重要無形文化財）の継続的な記録作成に加え、常磐津節（重要無形文化財）及び若柳流の稀少な常磐津節舞踊曲の記録を行った点を評価した。③発展性については、一つの材料から複数ジャンルの楽器製作者、実演家を繋いだ横断的な協力体制による研究を継続し、公開学術講座に結び付けた点を評価した。④効率性については、専門分野が多岐にわたる文化財保存技術の調査研究において、当研究所内の他の部・センターに加え、東京芸術大学（音楽学部）の協力を得て研究を進め、公開学術講座で公表したことを評価した。よって総合的に当初の目標を上回る成果が得られたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等発表 4 件（アイウエ）／刊行物 3 件（オカキ）	定量評価 ―

ア「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 4」　イ「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響―調査研究とその課題―」（前掲）　ウ「老舗三味線メーカー廃業の危機、音楽界への衝撃　コロナ禍の苦境、逆回転させる発想を」（朝日新聞デジタルサイト『論座』、9 月 2 日）　エ「常磐津節《子宝三番叟》の音楽分析」　オ「日本の芸能を支える技Ⅵ三味線　東京和楽器」　カ「同　Ⅶ箏　国井久吉」　キ「コロナ禍と伝統芸能を中心とした無形文化財」（以上前掲）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。
評定理由	無形文化遺産に関する調査研究及び成果の発信を継続的に行うことができた。特に、喫緊性の高い伝統芸能や関連保存技術における保護の課題に関する調査研究と発信は、社会的にもその必要性が認められたことが評価できる。加えて予定外であった新型コロナウイルスの流行下における影響についても詳細な情報収集と発信を行った点は想定以上の成果であり、大いに評価したい。さらに保護に必要な技術的課題について、保存科学等の有形分野とも連携できたことは大きな進展であり、今後の継続が期待できる。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して当初の予定以上の成果を果たせた。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2122E

中期計画の項目	2-(1)-②-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-2)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。
プロジェクト名称	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、今石みぎわ（主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○無形民俗文化財に関する調査研究
・風俗慣習調査：天王祭の調査研究（神奈川県箱根町）
・民俗芸能調査：民俗芸能の公開に拘わる調査研究（香川県高松市・大分県中津市）
・民俗技術調査：民具製作、和船製作に拘わる技術等の調査研究
○選定保存技術に関する調査研究
・2 年度国宝重要文化財等保存・活用事業「金属煮色着色文化財保存技術伝承事業」に協力し研修会（富山県高岡市・東京都台東区）における実演の記録作成を実施
・絹織制作技術調査報告書の編集・刊行
○無形文化遺産アーカイブスの開発と公開
・被災地における無形文化遺産調査：東日本大震災被災地の無形文化遺産に関する調査
・記録保存・活用に拘わる研究：ウェブサイト「箕のかたち　資料集成」開設
・アーカイブスの構築：「無形文化遺産総合データベース」における情報収集・整理。映像・画像等の収集とデジタル化
○研究集会の開催
・無形民俗文化財研究協議会：第 15 回協議会を「無形文化遺産の新たな活用を求めて」をテーマにオンライン映像配信にて開催（12 月 25 日～1 月 31 日公開）、成果は報告書として刊行
・民俗技術に関する研究会（箕の研究会）を開催

神奈川県箱根町宮城野の天王祭

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、従来の過疎化・少子高齢化による継承危機や東日本大震災をはじめとする自然災害に拘わる無形文化遺産の調査・研究に加え、2 年度の新型コロナウイルスの流行下における影響についても情報収集を行い、社会的ニーズに応えている点でも極めて適時性が高い。②独創性においては、新型コロナウイルスの影響でオンライン等新たな方法を用いて実践している無形民俗文化財の保護・活用事例をいち早く調査したことが挙げられる。ポストコロナにおける保護体制強化に向けた情報収集を独自に進めている点で、極めて独創的であるといえる。③発展性においては、調査・研究の成果について新型コロナウイルスの流行下ゆえに研究集会に替わってオンラインによる公開を促進し、刊行物とともに積極的に情報発信できた。④効率性においては、無形民俗文化財及び選定保存技術に関する専門家をスタッフに擁し、各人の専門性を生かして少人数ながらも効率的に調査研究を実施できた。⑤継続性においては、無形文化遺産アーカイブスの開発と公開、映像・画像等の収集を引き続き継続的に実施している。よって、当初の年度計画を上回る事業実績が達成されていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・（参考値）論文等発表 2 件（ア）／刊行物 2 件（イウ）／映像記録 6 件（エ）／展示 1 件（オ）／ウェブサイト 2 件（カ）	定量評価 —

ア「コロナ禍における無形の民俗文化財の現状と課題」『無形文化遺産研究報告 15』イ『おながわ民俗誌』ウ『無形文化遺産（工芸技術）の伝承に関する研究報告書Ⅲ「絹織製作技術」』エ「映像資料 日置箕をつくる」オ「箕のかたち―自然と生きる日本のわざ」（汐留メディアタワー展示）カ「箕のかたち 資料集成」（ウェブサイト）　（いずれも東文研編／主催）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	無形民俗文化財の調査・研究を継続的に行い、その成果を協議会等において発信してきた。また最終年度は新型コロナウイルスの流行下における影響についていち早く対応し、協議会及びその報告書として情報を発信した。このことは、社会的な貢献という意味においても想定以上の評価といえる。加えて 10 年に及ぶ東日本大震災被災地の継続的な調査と成果の刊行を行ったことも評価できる。さらに各関係者とのネットワーク構築を含め、継承の危機にある無形民俗文化財の保護・活用に貢献できる体制作りを強化してきたことは、今後の展開も含めて評価できる。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して当初の予定を上回る事業実績が達成された。

中期計画の項目	2-(1)-②-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-3)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。
プロジェクト名称	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石村智（音声映像記録研究室長）、宮田繁幸（客員研究員）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流

韓国国立無形遺産院との研究交流の一環として、研究員の派遣（一回）と研究員の受け入れ（一回）を予定していたが、新型コロナウイルスの流行下のため中止した。

○無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究

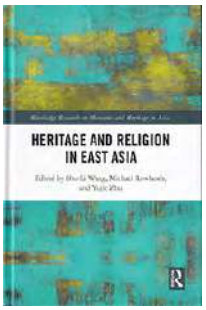
ユネスコ無形文化遺産条約第15回政府間委員会（開催国ジャマイカ：12月14日～19日）は、新型コロナウイルスの流行下のためオンラインでの開催となったが、2人のスタッフ（石村・二神）がリアルタイムで傍聴し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第15号において報告した。

○アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）への協力

IRCIが実施する事業への協力として、国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究：教育とまちづくり」（1月28日～29日）に1人のスタッフ（石村）が出席した。また第9回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会（10月30日）に1人のスタッフ（石村）が出席し、報告と助言を行った。

○その他

我が国の無形文化遺産の保護制度を国際的に発信するため、 S. L. Wang et al. eds, *Heritage and Religion in East Asia*. Routledge, 2021.に論文T. Ishimura, Issues regarding the protection of intangible cultural heritage related to religion in Japanを発表した。



Heritage and Religion in East Asia の表紙

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、韓国国立無形遺産院との研究交流については新型コロナウイルスの流行下によって相互訪問ができなくなったが、インターネットを用いた情報交流等は継続することができた。②独創性においては、我が国における無形文化遺産研究のナショナルセンターとして、国際的にも情報発信を達成している。特にユネスコの求めに応じて国内の新型コロナウイルスの流行下における影響についての情報を提供するといった役割も担っている。③発展性においては、IRCIへの協力や、国際的な出版物への論文執筆等を通じて、国際的な成果発信を発展的に進めることができた。④効率性においては、ユネスコの政府間委員会がオンライン開催となったため、従来の現地における効率的な情報収集はできなかったが、オンラインでの傍聴によって情報収集はできた。⑤継続性においては、韓国国立無形遺産院との研究交流は一時中止せざるを得ないものの、引き続き事業を継続する予定であり、ユネスコの政府間委員会については毎年その動向を調査していることから一定の継続性を達成している。よって順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）論文等発表2件（ア・イ）	—

ア 二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第15回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」（『無形文化遺産研究報告』第15号）イ T. Ishimura, Issues regarding the protection of intangible cultural heritage related to religion in Japan（S. L. Wang et al. eds, *Heritage and Religion in East Asia*. Routledge, 2021.）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	無形文化財、無形民俗文化財等に関する課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。
評定理由	新型コロナウイルスの流行下によって韓国国立無形遺産院との研究交流が一時中止することとなったが、本年は交流第3フェーズの4年目にあたるため、3年度も引き続き状況を見ながら事業継続する予定である。ユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会における情報収集については、2年度もオンラインという形ではあるが傍聴しその動向を把握し、その分析結果を毎年『無形文化遺産研究報告』にて公開していることから、中期計画の目標を十分達成することができた。またIRCI事業への協力や、国際的な成果発信も行っており、今後も継続的な成果が期待できる。以上の理由から、中期計画の5か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131Fｱ

中期計画の項目	2-(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 ア　遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また、遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（遺跡整備研究室研究員)、中島義晴（景観研究室長)	

【年度実績と成果】

『令和２年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書　歴史的計画』を３年３月に刊行した。

２年 10 月 26 日に令和２年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会を開催した。テーマは「歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―」とした。現在、文化庁では Living History 推進事業を推進しており、これは国指定・選定文化財を対象に、史料に基づいた歴史的な出来事の再現や往時の生活を体験する展示などのプログラムを開発し、文化財に新たな価値を付与し、日本文化の魅力向上とインバウンドの促進により地域活性化の好循環の創出を図るものである。各地の遺跡では復元整備などが進み、遺跡本来の景観や空間構成を取り戻してきているが、そこでの往時の人々の活動が再現されれば、当該遺跡の歴史上での意義や場所の意味がより一層理解されることが期待できる。研究会では首里城跡、平城宮跡、斎宮跡、朝鮮通信使関係地等の先行事例の発表などを通して、史実の確認、イベントとしての内容、変容した内容、観光の影響、史実をどのように伝えているか等について、また、儀式等での再現料理「歴食」についても議論した。さらに、生産地と消費地という遺跡本来の関係性に因んだ地域間交流のあり方についても議論した。

平城宮跡の活用に関する実践的研究に関しては、第一次大極殿前で発見された幢旗遺構の AR アプリを多言語化し改良を加えた。平城宮跡出土遺物に因む地域間交流として、兵庫県養父市立八鹿小学校の赤米献上隊を受け入れ、宮内省復元建物を利用した体験学習を実施し、なぶんけんチャンネルでも動画発信した。また出土遺物から復元した古代遊戯かりうちを現代にも楽しめるゲームとして普及を図るため、関係者でテストプレイを行った。平城宮跡管理センターと共催で木簡体験の試行的体験プログラムを企画、実施した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性については、２年度文化庁が進めている事業の内容と離隔する適切なタイミングであった。②史跡等の活用は昨今においては適切なテーマであった。③さらに遺跡の地域間交流でのテーマで発展性が見込める。④効率性については、悪かったことはないが、良かったと言えることもなかった。⑤継続性については、毎年その時々で必要とされる研究テーマを選んでいるが、遺跡の保存活用という点では継続性をもっている。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・論文等件数　　５件（ア、イ、ウ） ・報告書刊行数　１件　(『歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―』遺跡整備・活用研究集会報告書 2021)	―

ア　高橋知奈津・内田和伸「遺跡現地の活用の推進―平城宮跡の活用に関する実践的研究」『奈良文化財研究所紀要』2020 奈良文化財研究所 pp. 34-35

イ　内田和伸「歴史的脈絡に因む平城宮跡の活用方法」『歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―』2020 奈良文化財研究所 pp. 5-17

ウ　高橋知奈津「奈良文化財研究所による古代食再現展示」『同上』2020 奈良文化財研究所 pp. 121-122

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物のうち史跡については、その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。
評定理由	２年度の研究集会では文化庁の行っている Living History 推進事業を意識し、既に行われてきた同様の事例を通して、事業の進め方や留意点について知見を得た。報告書では、韓国ソウルの景福宮などでの先進的な事例報告も掲載することができ、適切な情報発信ができた。また、平城宮跡をフィールドにその活用に関する実践的研究を他部局・他機関と連携して実施し、今後の展開を期待できる成果を得ることができた。よって、中期計画を遂行することができたため、Ｂ評価とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131Fイ

中期計画の項目	2-(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 イ　庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（遺跡整備研究室研究員)	

【年度実績と成果】

・28 年度より実施の「庭園の歴史に関する研究（近世)」では、5 か年のまとめとなる論集『(仮）近世庭園の研究』の刊行に向けて、研究会参加者 22 名に論考の執筆を依頼し、論集の編集を進めた。
・25 年度より継続の奈良市教育委員会との連携研究「奈良市における庭園の悉皆的調査」では、報告書刊行に向けて、執筆・編集作業を進めた。
・森蘊旧蔵資料の整理では、30 年度作成しウェブサイトで公開した目録をもとに、資料等の利用価値を高めるため、資料内容や来歴を確認する整理作業を進めた。また、これらについて各地方公共団体等からの資料提供依頼に対して、優先してデジタル化を進めた。
・2 年度、京都産業大学との共催で企画展「森蘊と奈良展」を開催予定であったが、感染症拡大防止のため、3 年度に延期とした。2 年度は 3 年度開催の展示に向けて、図面等資料の写真撮影、図録の原稿作成等を進めた。
・そのほか、鳥取県文化財庭園技術者講習会、東近江市庭園調査をはじめ、地方公共団体等実施の文化財保存活用の取り組みに対する協力において、研究成果を多く活かすことができた。

森蘊旧蔵資料の写真撮影の様子 9 月 15 日

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性について、文化財庭園の保存活用計画の策定や整備工事等が各地で実施される中で、刊行まで至らなかったものの、近世庭園史の発展に資する論集の編集を着実に進めることができた。②独創性について、初公開となる森蘊旧蔵資料の企画展に向けて研究を進めることができた。③発展性について、研究論集『近世庭園の研究』の刊行に向けて編集を進めることができた。日韓共同研究で進めた韓国庭園の調査研究で日本語での韓国庭園史の概観する成果となり、同時代の日本の近世庭園の独自性を明らかにする上で研究の発展に寄与するものと考えられる。④効率性について、近世の庭園に関する諸成果を相互に活かすことで効率よく調査研究に取り組むことができた。⑤継続性については、28 年度からの研究会を踏まえて、論集編集を行うことができた。以上から、一部進捗に遅れが出たものの、本事業は全体としては良好な成果を上げていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・論文・・・・・・1 件	定量評価 —

ア　中島義晴・内田和伸「韓国庭園史略とその代表的な事例」『日韓文化財論叢Ⅳ』2021 奈良文化財研究所 pp. 50-89

中期計画評価	B

中期計画記載事項	名勝については、近世の庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	中期計画ではこの 5 年間の研究テーマを近世庭園の研究としている。5 年目である 2 年度は、予定通り論集『(仮）近世庭園の研究』の編集を行ったが、進捗に遅れが生じた結果、刊行に至らせることができなかった。また予定していた森蘊旧蔵資料に関する企画展も次年度延期となり、開催することができずその準備に留まった。一方で、所蔵資料の整理やデジタル化を進める中、年度後半には地方公共団体からの要請に応じて文化財庭園の保存活用に寄与するための必要な調査研究を行い、歴史研究と文化財庭園の保存活用に関する実地研究とを相互に活かすことができた。以上により、中期計画を遂行できたと判断し、B 評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城宮跡東方官衙地区の発掘調査（平城第 621 次）	
都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部部長）、馬場基（同史料研究室長）、今井晃樹（同考古第三研究室長）、丹羽崇史・桑田訓也・前川歩（同主任研究員）、浦蓉子（同考古第一研究室研究員）、大澤正吾（同考古第二研究室研究員）、岩永玲（同考古第三研究室研究員）、目黒新悟（同遺構研究室研究員）、金田明大（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長）、山口欧志（同遺跡・調査技術研究室研究員）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）、飯田ゆりあ（同写真室技術職員）、鎌倉綾（同写真室技能補佐員）	

【年度実績と成果】

・調査目的：平城宮の主要官衙が展開する平城宮東方官衙地区の様相を明らかにするための学術調査。
・調査面積：780 ㎡
・調査期間：2 年 3 月 16 日～3 年 3 月 8 日（4 月～8 月は休止）
・基本層序：表土、旧耕作土の直下が奈良時代の遺構面である。
・主な検出遺構：基幹排水路、南北築地塀、東西築地塀、暗渠 2 基、木樋、南北柱穴群等。
・主な出土遺物：須恵器・土師器、瓦、木器、金属器、木簡等。
・調査所見：基幹排水路や当該地区を区画する築地塀、築地塀の下を通り基幹排水路に接続する暗渠 2 条などを検出した。築地塀下に暗渠を複数設けることで大型基壇建物を有する官衙区画の排水機能を重視していたことがあきらかになった。平城宮を南北に貫通する基幹排水路は東西に位置する複数の官衙区画からの排水を集めて宮外へ排出する重要な施設であることを改めて認識した。基幹排水路から文字資料を含む多量の遺物を得るとともに、基幹排水路の堆積状況もあきらかになるなど、重要な調査成果を得た。

調査区全景（北から）

年度計画評価	A

【評定理由】①適時性：元年度の平城第 615 次調査の調査による課題を解決する調査を即時に実施することができた。②独創性：長さ数十メートルにおよぶ大規模な基幹排水路の埋土を水洗することで微細な遺物を検出することに努めた。また、遺構の記録に 3D 計測技術を採用した。③発展性：基幹排水路から出土した遺物から周辺地区の遺構の性格を解明できる可能性を得た。④効率性：調査前から遺物の出土量が多いと予想し発掘面積を絞り調査の効率性を重視した。⑤継続性：平城第 615 次調査の補足及び同地区の遺構の性格を把握する目的で実施した調査である。

観点	①　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

（目標値）	**【実績値・参考値】**論文等数：1 件（ア） （参考値）　記者発表数 1（参加社：14 社） 出土遺物件数等：土器 271 箱・瓦類 606 箱・木器 938 箱・金属器 10 箱・木簡（未整理）	定量評価 －

ア　大澤正吾ほか「東方官衙地区の調査－第 621 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』3 年 6 月刊行予定

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	元年度の平城第 615 次東方官衙地区の調査成果をふまえて、その課題を解明するために 615 次調査区の西北方に今回の調査区を設定した。平城宮の実態解明という中期計画に従い調査を実施し予想以上の成果を上げることができた。今後の調査成果を整理し、研究していくことにより、平城宮東方官衙地区の理解を大きく進展させる可能性があることが認められた。以上によりＡと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-2

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	東大寺東塔院跡地区の発掘調査（平城第 626 次）	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、神野恵（同考古第二研究室長）、和田一之輔、森先一貴（以上同主任研究員）、山本祥隆（同史料研究室研究員）、山崎有生（同遺構研究室研究員）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）、飯田ゆりあ（同写真室技術職員）	

【年度実績と成果】

・東大寺東塔院跡の整備事業のための園路敷設にともなう発掘調査（東大寺・奈良県立橿原考古学研究所との合同調査）。
・面　　積：合計約 370 ㎡（計 8 区）
・調査期間：6 月 29 日～9 月 23 日
・主な検出遺構
　〔中　世〕石列、瓦溜まり、瓦廃棄土坑、土坑、整地土
　〔近現代〕道路遺構
・主な出土遺物
　瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・鬼瓦、その他道具瓦）・塼、土師器・須恵器・瓦器・陶磁器
・調査所見
　12～13 世紀頃の土器を含む整地土を多くの調査区で検出したことにより、調査地では中世に比較的大規模な造営が行われていたことが推定された。東塔院跡では出土量が少なかった土器類の出土が目立ち、特に中国製陶磁器の出土が顕著であることや、東塔院の補修瓦とはやや異なる特徴を有する瓦が多量に廃棄された巨大な土坑を検出したことなどから、調査区東方に何らかの施設が存在した可能性が推定された。

C 区で検出した瓦廃棄土坑（北東から）

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性：東大寺の要請する期日に合わせて発掘調査を実施した。②独創性：東大寺旧境内の中ではこれまで発掘調査がされていない地区において地下遺構の状況を知ることができた。③発展性：近接する東大寺塔院の遺構の状況とあわせて東大寺旧境内の実態を解明する貴重な情報を得た。④効率性：園路敷設範囲を最小限の発掘面積で効率よく地下遺構の状況を把握できた。⑤継続性：元年度までの塔院の発掘調査にかかわる事業であり塔院周辺の遺構の状況が明らかになった。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	出土遺物件数等： 土器類 10 箱、瓦塼類 250 箱、鉄製品・銭等 1 箱、凝灰岩等 3 箱、その他 6 箱 記録等数：撮影写真枚数：計 1137 枚　作成図面枚数：計 49 枚	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	東大寺旧境内の実態解明等のために、28 年度から実施してきた東大寺東塔院の整備にともなう発掘調査の最終年度にあたる。2 年度は塔院の整備事業にともなう園路敷設工事範囲の地下遺構の情報を得る計画であった。計画通り順調に進捗し中世以降の石列や瓦溜まり遺構を検出した。これによって東塔院内外の遺構の残存状況があきらかになり、今後の整備計画に対する重要な情報を提供したことは大きな成果である。以上よりＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-3

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	法華寺旧境内の発掘調査(平城第 631 次)	
都城発掘調査部(平城)	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○箱崎和久(都城発掘調査部部長)、今井晃樹（同考古第三研究室長)、丹羽崇史、桑田訓也（以上同主任研究員)、目黒新悟（同遺構研究室研究員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室技術職員)	

【年度実績と成果】

・個人住宅の建設に伴う事前調査。
・調査面積：37.2 ㎡
・調査期間：11 月 9 日～17 日
・基本層序
　耕作土・造成土・旧耕作土・床土（以上合わせて 80～100 ㎝)、時期不明の遺物包含層（明黄褐色粘質土)、地山（にぶい黄橙色粘質土もしくは灰黄色砂質土)
・主な検出遺構
　中世以降の土坑 3 基、近世以降の土坑 3 基
・主な出土遺物
　土器、瓦、花崗岩製石造物など
・調査所見
　調査地は法華寺旧境内の北端に位置し、法華寺の南北中軸線付近にあたると推定される。調査の結果、古代の顕著な遺構は検出できなかったが、西隣で実施した平城第 544 次の調査所見と照らし合わせると本来は柱穴があったが削平された可能性も考えられる。

調査区全景（北から）

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性：地方公共団体（奈良市）からの発掘調査要請に対して適時に対応した。③発展性：平城京の当該地区において新たな地下遺構の情報を取得し今後の研究に資することができた。④効率性：限られた時間と予算のなかで最大限、遺構状況の把握に努めた。⑤これまで周辺地域で蓄積してきた地下遺構の状況にあらたな情報を追加することができた。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) ・出土遺物件数：土師器・須恵器・近世陶磁器 1 箱、雑瓦 1 箱、花崗岩製石造物 1 点 ・記録等作成数：実測図 4 枚、デジタル写真 114 枚	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明等を図るため、平城京の調査を継続的に実施している。本調査もその一環であり、史跡法華寺旧境内の北半部について奈良時代の遺構に関する貴重な成果を得ることができた。今後、法華寺旧境内における遺跡の全容を知るうえで重要な手がかりとなる。適時性、発展性、効率性、継続性において適切な対応と今後の研究に役立つ重要な情報を入手することができたのでＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-4

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査(平城第 634 次)	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○箱崎和久(都城発掘調査部部長)、国武貞克、小田裕樹、岩戸晶子（以上同主任研究員)、中村一郎（企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室技術職員）	

【年度実績と成果】

・個人住宅の建設に伴う事前調査。
・調査面積：44 ㎡
・調査期間：3 年 1 月 13 日～22 日
・基本層序
　地表より順に、現代盛土、旧耕作土、整地土、奈良時代遺構、古墳周濠。
・主な検出遺構
　奈良時代の溝 8 条、土坑 8 基、古墳の周濠
・主な出土遺物
　瓦類、土器、鉄製品、銅銭など
・調査所見
　当該地における奈良時代前期の遺構を検出。溝によって区画された遺構であることが判明。奈良時代の遺構の下層には古墳の周濠と思われる深い溝を検出し、この地に古墳があったが奈良時代に削平されたことがあきらかになった。

調査区全景（北西から）

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性：地方公共団体（奈良市）からの発掘調査要請に対して適時に対応した。③発展性：平城京の当該地区において新たな地下遺構の情報を取得し今後の研究に資することができた。④効率性：限られた時間と予算のなかで最大限、遺構状況の把握に努めた。⑤これまで周辺地域で蓄積してきた地下遺構の状況にあらたな情報を追加することができた。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・出土遺物件数：土器 20 箱、瓦類 1 箱、鉄製品 1 点、銅銭 1 組 ・記録等作成数：実測図 5 枚	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明等を図るため、平城京の調査を継続的に実施している。本調査もその一環であり、これまであまり調査事例のなかった平城京左京一条二坊の遺構の状況を得ることができ当該地における平城京の土地利用を検討するうえで重要な成果である。また、適時性、発展性、効率性、継続性において適切な対応と今後の研究に役立つ重要な情報を入手することができたのでＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-5

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	東院南方遺跡の発掘調査(平城第 636 次)	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久(都城発掘調査部部長)、国武貞克、小田裕樹、岩戸晶子（以上同主任研究員)、中村一郎（企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室技術職員）	

【年度実績と成果】

・個人住宅の建設に伴う事前調査。
・調査面積：45 ㎡
・調査期間：3 年 3 月 3 日～19 日
・基本層序
　耕作土 20 ㎝、床土 20 ㎝、黒色粗砂層 10 ㎝、白色粗砂層 3 ㎝、暗灰粘質土層 15 ㎝、黒色粘質土層 20 ㎝、黄白色粘質土（地山）の順に堆積する。黒色粗砂層上面、白色粗砂層上面、暗灰粘質土層、黄白色粘質土の 4 面それぞれで奈良時代の遺構を検出した。
・主な検出遺構
　南北塀 6 条、南北溝 2 条、方形区画遺構 1 基、瓦溜まり 2 か所を検出した。これらの遺構は、8 時期に区分される。特筆すべきは方形区画遺構において、人頭大の礫 5 点を組んだ石組み遺構が伴うことを確認した。

調査区全景（北から）

・主な出土遺物
　軒平瓦、軒丸瓦、三彩瓦、須恵器、土師器など
・調査所見
　整地土である黒色粘質土層を挟んで、上面が奈良時代後半、下位が奈良時代前半の遺構群である。しかし、全時期を通じて、南北方向の一本柱塀が重複して検出された。ただし後半期の最後の 2 時期は、南北溝とそれに伴う塀をセットとする南北区画施設が確認された。この調査区は二条大路との境界をなす築地塀想定位置から約 10m の位置にあり、左京二条二坊五坪の南の境界付近にある。奈良時代を通じて坪内を南北に区画する施設が設置されていたことが判明した。さらに、黒色粘質土層による整地層の上面には方形区画遺構が構築されており、その範囲内に石組みが検出された。方形区画遺構の機能に関連する重要遺構と考えられる。

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性：地方公共団体（奈良市）からの発掘調査要請に対して適時に対応した。③発展性：平城京の当該地区において新たな地下遺構の情報を取得し今後の研究に資することができた。④効率性：限られた時間と予算のなかで最大限、遺構状況の把握に努めた。⑤これまで周辺地域で蓄積してきた地下遺構の状況にあらたな情報を追加することができた。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） ・出土遺物件数：土器 5 箱、瓦類 45 箱、木器 50 点、金属器 1 点、石器 1 点 ・記録等作成数：実測図 2 枚	―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明等を図るため、平城京の調査を継続的に実施している。本調査もその一環である。東院南方遺跡は平城宮造営計画にもかかわる重要な遺跡であるにもかかわらず、調査事例は非常に少ない。今回、この地区の地下遺構の情報を得たことで当該地域及び平城宮の造営を考えるうえで貴重な成果を得た。適時性、発展性、効率性、継続性において適切な対応と今後の研究に役立つ重要な情報を入手することができたのでＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-6

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城宮北方遺跡の発掘調査(平城第 637 次)	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○箱崎和久(都城発掘調査部部長)、国武貞克、小田裕樹、岩戸晶子（以上同主任研究員)、中村一郎（企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室技術職員）	

【年度実績と成果】

・個人住宅の建設に伴う事前調査。
・調査面積：6 ㎡
・調査期間：3 年 3 月 11 日～17 日
・基本層序
　表土 → 現代造成土 → 築地構築土 → 整地土
・主な検出遺構
　築地塀、古代の整地層など。
・主な出土遺物
　瓦類
・調査所見
　平成 27 年に橿原考古学研究所が調査した松林苑 114 次調査で検出された南北築地塀の延長部を想定位置で検出した。基底幅 2.45m。残存高は 0.6m。推定大蔵省の東限の築地塀と考えられているものである。地山上を一旦整地し、その上に地山由来の土を盛土して築地を構築している。東側は築地塀内側よりも低い。推定大蔵省の敷地が一段台地上に高まっており、その東境に築地塀が築造されていた状況が復元できた。

調査区全景（北西より）

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性：地方公共団体（奈良市）からの発掘調査要請に対して適時に対応した。③発展性：平城京の当該地区において新たな地下遺構の情報を取得し今後の研究に資することができた。④効率性：限られた時間と予算のなかで最大限、遺構状況の把握に努めた。⑤これまで周辺地域で蓄積してきた地下遺構の状況にあらたな情報を追加することができた。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・出土遺物件数：瓦類 1 箱 ・記録等作成数：実測図 2 枚、デジタル写真 100 枚	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明等を図るため、平城京の調査を継続的に実施している。本調査もその一環である。当該地区は平城宮の北方に位置し周辺の調査で奈良時代の築地塀が検出されている。今回は南北方向の築地の延長部分を検出し、その規模や構造を知ることができた。適時性、発展性、効率性、継続性において適切な対応と今後の研究に役立つ重要な情報を入手することができたのでＢと判定した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-7

中期計画の項目	(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	
都城発掘調査部部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之(副部長)、大林潤、鈴木智大、林正憲、森川実、若杉智宏(以上、主任研究員)、福嶋啓人(遺構研究室研究員)、栗山雅夫(企画調整部写真室主任)ほか	

【年度実績と成果】

○藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 205 次調査)を実施した。
・調査地：　橿原市高殿町
・調査期間：　5 月 25 日～11 月 26 日
・調査面積：　1,505 ㎡

○調査成果
・藤原宮大極殿院東面回廊及び内庭東北部を調査した。その結果、回廊の礎石据付痕跡や回廊基壇の造営に関わる素掘溝を検出し、回廊の柱位置や柱間隔、基壇の規模等、回廊の構造を復元するために必要なデータを取得した。また、藤原宮造営前に設けられた先行四条条間路の側溝や、宮殿造営時に掘られた廃棄土坑や素掘溝、宮廃絶後の瓦堆積等を確認し、回廊の造営から廃絶に至る経緯を明らかにすることができた。
今回の調査により、大極殿院回廊東半部のほぼ全域の調査を終え、回廊及び内庭部の大部分の様相が解明されたことは、藤原宮大極殿院の構造のみならず古代宮都の今後の調査研究に関しても、重要な成果である。

飛鳥藤原第 205 次調査区全景（北東から）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性では、近年の調査成果を受け大極殿院東北部の調査を行い、回廊と内庭部についての必要なデータを取得できたため、Aとした。②独創性では、大極殿院回廊の柱位置を確認し、回廊東北部が他の場所と異なる柱間隔で造られていることを明らかにしたため、Aとした。③発展性では、大極殿院回廊東半部の全容が明らかとなり、藤原宮と他の古代宮都の今後の研究に資する成果を提示できたため、Aとした。④効率性では、過去の調査成果を踏まえ、適切な場所に調査区を設け、効率的に調査を進めることができたため、Bとした。⑤継続性では、藤原宮の様相解明のため、長期的な継続調査の一環として本調査を実施し、中期計画の最終年度に回廊東半の調査をほぼ終えたためAとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・報道発表資料：1 件（ア）　・現地見学会資料：1 件（イ） ・現地見学会来場者数：480 人　・論文等数：4 件（ウ・エ等） ・出土遺物：軒瓦等 144 点、丸・平瓦 1,348 箱、土器 22 箱、木製品・石製品等 11 箱ほか ・記録作成数：遺構実測図 51 枚、写真 667 枚	—

ア奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次調査）記者発表資料」(2 年 11 月)
イ奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次調査）現地見学会資料」(2 年 11 月)
ウ鈴木智大・若杉智宏「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次調査)」『奈文研ニュース』No.79（2 年 12 月）
エ福嶋啓人・鈴木智大・若杉智宏「藤原宮大極殿院の調査－第 205 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	中期計画の最終年度にのぞんで大極殿院回廊東半の調査が完了した。2 年度の調査では、大極殿院回廊東北部の柱位置が、他の場所と異なる間隔で配置されていたことを明らかにした。既往の調査成果と併せ、藤原宮大極殿院回廊東半部のほぼ全容を解明したことで、回廊全体の構造の復元も可能となった。また、先行条坊や造営溝の検討からは、藤原宮の造営過程の具体的様相も把握できた。以上のように藤原宮大極殿院の構造等に関する大きな成果を得たため、Aとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-8

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮跡東方官衙地区、平城京跡、興福寺東金堂院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	飛鳥地域等の発掘調査	
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○清野孝之(副部長)、山本崇（上席研究員)、廣瀬覚・石田由紀子(主任研究員)、山藤正敏(考古第二研究室研究員)、栗山雅夫(企画調整部写真室主任)ほか	

【年度実績と成果】

○大官大寺南方の発掘調査（第 206 次）
・調査地：　明日香村奥山
・調査期間：1 月 13 日～2 月 25 日
・調査面積：200 ㎡
○調査成果
　調査地は、藤原京左京十一条四坊に位置する。主な検出遺構は、掘立柱建物、南北塀、井戸（7 世紀後半～末）である。今回の調査により、調査地周辺がかつて湿地帯であり、7 世紀になって本格的な整備が行われた可能性が明らかになった。7 世紀末には、総柱建物をはじめとする建物群が建ち、藤原宮期にかけて土地利用が活発化した様子がうかがえる。
○奥山廃寺の発掘調査（第 204-7 次）
・調査地：明日香村奥山
・調査期間： 11 月 16 日～11 月 26 日
・調査面積：28.0 ㎡
○調査成果
　調査地は、奥山廃寺金堂の約 50m 北に位置し、奥山廃寺の寺域内にあたる。本調査区では、奥山廃寺に関わる建物等の明確な遺構は確認できなかったが、調査区周辺の旧地形を平坦にする整地層を確認した。

第 206 次調査（西から）

年度計画評価	A

【評定理由】
　下記各観点から評価を行った。①適時性では、奥山廃寺及び大官大寺南方の調査を行い、7 世紀後半にいたる調査地周辺の土地利用状況について必要なデータを取得したため、Ａとした。②独創性では、大官大寺南方においてこれまで未確認であった総柱建物を含む 7 世紀後半～末の建物群を確認したため、Ａとした。③発展性では、大官大寺南方において建物群の存在が新たに明らかとなり、藤原京の造営過程について今後の研究に資する成果を提示できたため、Ａとした。④効率性では、限られた時間と予算のなかで、奥山廃寺の調査を効率よく進めたため、Ａとした。⑤継続性では、大官大寺南方の様相解明のため、継続調査の一環として本調査を実施し、中期計画の最終年度に南部付近までの様相を概括できたためＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等数：2 件（ア・イ） ・出土遺物：丸・平瓦 4 箱、土器 12 箱 ・記録作成数：遺構実測図 13 枚、写真 457 枚	定量評価 ―

ア山藤正敏ほか「大官大寺南方の調査―第 203・206 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)
イ石田由紀子ほか「奥山廃寺の調査―第 204-7 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	中期計画の最終年度にのぞんで大官大寺南方の調査が完了した。既往の成果と併せ、大官大寺南方から山田道に至る範囲では、7 世紀後半以前から利用された一部の空間をのぞき流路や湿地が広がり、藤原宮造営期に大規模な造成が行われたことを明らかにした。このほか、本中期計画期間には飛鳥寺旧境内及び北方、山田道、山田寺、奥山廃寺等の造営や変遷過程についても大きな成果を得たため、Ａとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F イ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）、高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、加藤真二（企画調整部長）ほか	

【年度実績と成果】

(1)2 年度の発掘調査及び既往の調査における検出遺構及び出土遺物の整理と研究

・平城宮東方官衙地区の調査（平城第 621 次）等で検出した遺構の検討、及び出土した各種遺物の洗浄・整理・実測・分析・保存処理等を実施。

・報告書の刊行に向け、薬師寺東塔（ア）、平城宮東区朝堂院地区、平城京左京三条一坊一・八坪、右京一条二坊四坪・二条二坊一坪等で出土した遺構・遺物の整理・分析を実施。

(2)調査・研究成果の公表

・2 年度に実施した発掘調査について『紀要 2021』（イ）にて報告すべくその研究及び報文の執筆。

・元年度以前に実施した発掘調査出土遺物の研究成果について『紀要 2020』（ウ）にて報告。

・平城宮東方官衙（平城第 621 次）出土遺物の洗浄・分類作業。

・特別展『地下の正倉院展－重要文化財 長屋王家木簡－』(10 月 10 日（土）～ 11 月 23 日・於：平城宮跡資料館)を開催し、図録(エ)を刊行するとともに、記者発表を実施した。

・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展『鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界－』(3 年 1 月 23 日～3 月 28 日　於平城宮いざない館）を開催するとともに図録（オ）を刊行し、記者発表および公開講演会を実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】　①適時性：発掘調査で出土した遺物・遺構の整理作業を継続的に進め、調査を効率的に遂行し、遺構の適切な理解を得た。②独創性：研究資源化（3D 計測含む）まで見据えて整理作業の見直しと促進を行った。また、研究成果を展覧会という形で一般に公開した。③発展性：これまでに未発表であった資料の公開に努め、既発表の資料についても現代的観点から再検討しその成果を公表し、今後の研究に資するところが大であった。④効率性：3D 計測などの新たな技術を導入し資料の効率的なデータベース化に取り組んだ。⑤継続性：これまでの調査成果の蓄積に新しいデータを追加することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** 論文等数：3 件（イ～エ） 調査研究刊行物：2 件（ア、オ） （参考地）記者発表：2 回、講演会：2 回　講演会来館者数：200 人	定量評価 ―

ア『薬師寺東塔基壇発掘調査報告書』3 年 3 月、イ「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要 2021』3 年 6 月刊行予定、ウ「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要 2020』9 月、エ『地下の正倉院展－重要文化財 長屋王家木簡－』10 月、オ『鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界－』3 年 1 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城解明等を図るため、遺物・遺構研究の蓄積を継続している。当初計画通りの継続的な調査・研究の蓄積を行うことができた。また、展覧会を開催することで出版物だけではなく出土資料を一般に公開するという形での研究成果の公表に努めた。同時に将来へ記録を残すために展覧会の図録も刊行した。この 5 年間の遺物遺構の研究成果を中期計画にしたがって順調に進展し公表したと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F イ-2

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（副部長）、山本崇（上席研究員）、廣瀬覚、森川実、若杉智宏、林正憲、石田由紀子、大林潤、鈴木智大（以上主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

・2 年度の発掘調査で検出した遺構の図面・写真資料の作成・整理・分析研究を行い、出土遺物の整理・分析研究を進めた。中期計画の最終年度にあたる 2 年度は、藤原宮大極殿院の東北部において発掘調査を実施し（第 205 次調査）、大極殿院東面回廊の調査を完了した。これにより、藤原宮大極殿院の東面北回廊の規模と構造が確定するなど、藤原宮の構造を明らかにする上できわめて重要な成果をあげることができた。この調査成果は、新型コロナウイルスの感染対策を講じたうえで、一般向けの現地見学会で公表した（右写真）。

飛鳥藤原第 205 次現地見学会風景

・元年度までに実施した発掘調査の遺構図面・写真資料の再整理・再検討・分析研究を実施するとともに、出土遺物の再調査・再整理・分析研究を進めた。ことに出土資料（土器）の整理作業では、元年度に導入した三次元計測機の運用を本格的に開始し、実測・トレース作業の効率化を図った。

・飛鳥地域関係では、石神遺跡の遺構及び出土品の整理・分析作業を重点的かつ継続的に行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

評定の理由は次のとおり。①適時性は感染症対策を講じつつ，最新の調査研究成果の普及・公開に努めたためＢとした。②独創性は中期計画の最終年度に藤原宮大極殿院の東面回廊の規模と構造をほぼ明らかにできたことからＡとした。③発展性は今後の藤原宮大極殿院の構造解明に資する調査を行ったことからＢとした。④効率性は日常業務のなかで着実にデータの蓄積を進め、三次元計測機の本格的運用を始め実測作業の効率化を模索していることからＢとした。⑤継続性は大官大寺南方遺跡における試掘調査と探査を継続し、次期中期計画における飛鳥地域の調査方針を固めつつあることからＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・記者発表件数：1 件（ア） ・研究発表件数：1 件（イ） ・論文等数：14 件（ウ）	定量評価 —

ア奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次調査）記者発表資料」（2 年 11 月）
イ奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次調査）現地見学会資料」（2 年 11 月）
ウ鈴木智大・若杉智宏ほか「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次）」『奈文研紀要』2021（3 年 3 月予定）

中期計画評価	B
中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進め、古代日本の都城の解明を図るという中期計画の目標は、藤原宮大極殿東面北回廊の調査を終えたことで達成された。また一連の整理・分析研究においてもこれまでの調査研究が次第に結実しつつある。今後も、逐次整理・検討作業を進め、成果を公表してゆく予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132Fウ

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ウ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ウ　飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、日中韓の古代寺院出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の構造や出土部材の研究を行う。
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、西田紀子（学芸室主任研究員）、清野陽一（学芸室研究員）ほか２名	

【年度実績と成果】

・中国と韓国の壁画古墳に関して、特に十二支の持ち物について資料を収集した。成果は十二支関連の展示、解説シートなどに活用した（ア）。
・飛鳥寺跡塔心礎出土品の再調査作業を継続した。飛鳥寺出土雲母と関連する雲母製品の類例について中国・韓国の事例を調査した。
・飛騨地域の古代寺院関連資料を調査し、その成果を活かして記事を作成した（イ）。
・山田寺跡出土銅板五尊像について 3D 計測をもとに等倍・4 倍大のレプリカ作成に関連して図像形状の検討を行った。
・山田寺跡出土部材の計測調査を継続した。計測機器の不具合があったので保守を行った。
・明日香村内の古写真の収集及び調査を行った。
・明日香村内の古地図の調査研究を行った。

キトラ古墳十二支丑と漢代画像石の比較

年度計画評価	B

【評定理由】

新型コロナウイルス感染症の影響で年度計画遂行に支障を生じ、壁画関連では調査出張が難しい状況をうけて現地調査をとりやめて報告書や論文を基本とした資料収集に方針転換し、④効率性を図った。飛鳥寺跡塔心礎出土品の再調査作業は⑤継続性が高い事業であり、今後の基礎資料となるものとして③発展性がある。山田寺跡出土部材の計測調査は、保存処理された大型木製品の長期的変形を追跡している点で他館には実施できないものとして②独創生⑤継続性が高く評価できる。明日香村内の古写真、古地図の調査は遺跡の立地や景観の変遷を探るうえでも重要な調査であり、世代交代が進む中で廃棄されがちな古い記録を保存する意義もあることから①適時性②独創性③発展性を評価できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文等数　2 件（ア・イ）	定量評価 ―

ア　キトラ古墳壁画解説シート「十二支　丑」12 月 26 日発行
イ　石橋茂登「ナツメのはなし」奈文研ウェブサイト『コラム作寶楼』(3 年 1 月掲載)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	飛鳥資料館にふさわしい調査研究を継続している点が評価できる。内容的にも壁画、寺院出土品など工芸技術と建築を直接対象とするとともに、現在に続く地形や景観の変遷まで視野に入れた調査研究は多角的に古代を研究するものとして、さらなる展開も期待できる。このため、新型コロナウイルス感染症による波乱が最終年度にあったものの、今中期計画期間を通して、飛鳥地域の工芸技術並びに寺院遺跡の調査研究を進めることができたことから、中期計画を遂行できたと判断した。今後も基礎的な調査研究と資料収集を継続し、新しい知見を得ることが望まれる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132Fｴ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｴ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に資する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	中国との共同研究	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、清野孝之（同副部長）、神野恵（同考古第二研究室長）、今井晃樹（同考古第三研究室長）、廣瀬覚・丹羽崇史（以上同主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）	

【年度実績と成果】

・中国社会科学院考古研究所

2年度は新型コロナウイルスの影響により予定していた両研究所間の学術交流及び中国の研究所に赴き実施する予定であった出土遺物の共同研究を3年度に延期した。

・遼寧省文物考古研究院

友好共同研究「三燕文化出土遺物の研究」にかかる科学分析として、元年度、採取した蝋嘛洞遺跡出土のガラス製耳当8点の鉛同位体比分析を実施した。元年度刊行した『東アジア考古学論叢Ⅱ-遼西地域の東晋十六国期都城文化の研究－』（奈良文化財研究所学報第98冊）を関係機関に配布するとともに、奈良文化財研究所学術情報リポジトリにて公開した。新型コロナウイルスの影響により年度内に予定していた共同研究を3年度に延期した。

・河南省文物考古研究院

3年3月に『鞏義黄冶窯発掘調査報告書』日本語版を刊行した。また、第Ⅴ期5か年計画開始のため、「友好共同研究議定書」・「友好共同研究覚書」の改定に向け協議を進めた。9月に鄭州市で開催予定であった「唐三彩・奈良三彩学術シンポジウム」は新型コロナウイルスの影響により3年度に延期した。

年度計画評価	B

【評定理由】　①適時性：年度計画どおり報告書の出版及びその公開については実施することができた。②独創性：遼寧省ではこれまで試みられなかったガラス製品の分析を実施し新たな成果を得た。③発展性：『鞏義黄冶窯発掘調査報告書』の日本語版を出版することで国内の研究者に対して研究成果の公表を促進した。④効率性：計画どおり『鞏義黄冶窯発掘調査報告書』日本語版を出版した。⑤これまでの調査研究成果を総括するとともに今後の研究に資する情報を公開した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	報告書刊行数：報告書1部（ア）	―

ア『鞏義黄冶窯発掘調査報告』日本語版（奈良文化財研究所学報第99冊）　3年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、社会科学院考古研究所、遼寧省文物考古研究院、河南省文物考古研究院の研究者との共同研究については新型コロナウイルスの影響によりやむを得ず延期した。しかし、そのほかの遺物の自然科学的分析、報告書の出版等については中期計画通り実施することができたのでＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｴ-2

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｴ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	韓国との共同研究	
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（都城発掘調査部副部長）、林正憲、小田裕樹（以上同主任研究員）、松永悦枝（同考古第一研究室研究員）、庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）	

【年度実績と成果】

・発掘調査交流

　韓国国立文化財研究所との合意に基づく発掘調査交流は、新型コロナウイルスの影響により双方で派遣を3年度に延期した。

・日韓共同研究

　韓国国立文化財研究所との合意に基づく共同研究事業は、5年間の研究成果をまとめた『日韓文化財論集Ⅳ』日本語版を刊行した。なお、韓国国立文化財研究所も同内容の『韓日文化財論集Ⅳ』韓国語版を2年12月に刊行した。

『日韓文化財論集Ⅳ』

年度計画評価	B

【評定理由】　①適時性：5年間の年度計画に沿って計画的・効率的に共同研究を実施することができた。②独創性：考古学、文献史学、名勝などの広範な分野にわたる両研究所の特性を活かして共同研究を行った。③発展性：日韓で学術的課題を共有し、研究することで今後の学術的発展に寄与することができた。⑤継続性：本事業は平成18年度から継続しており、今後も共同研究を持続していくことを確認できた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	⑤継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・報告書等数：1件（ア） ・論文等数：12件（イ、ウ）	定量評価 ―

ア　『日韓文化財論集Ⅳ』日本語版 3年3月

イ　廣瀬覚・高田祐一「日韓古代国家成立期における石工技術の比較研究」ほか5編（『日韓文化財論集Ⅳ』3年3月）

ウ　鄭仁郎・呉東壎・尹亨準「古代日韓における古墳築造技法の比較検討－嶺南・湖南地域と日本の大型封土墳を中心に－」ほか5編（『日韓文化財論集Ⅳ』3年3月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明を図るため、韓国国立文化財研究所との合意のもと共同で調査研究を進めている。2年度は発掘調査を介した人的交流を行うことはできなかったが、互いの信頼関係を蓄積しつつ、学術成果を研究論集というかたちで結実することができた。3年度以降も研究事業を継続的に実施し、中期計画5年間の研究成果を論集というかたちで公刊し当初の目的は達成したと判断した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2133F

中期計画の項目	2-(1)-③-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-3)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の調査及び保護に関する情報収集、調査研究、成果の公表を行う。また、文化的景観の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、前年度に開催した研究集会の成果をまとめ、報告書を刊行する。
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○中島義晴（景観研究室長）、惠谷浩子（景観研究室研究員）	

【年度実績と成果】

○基礎的・体系的研究

・文化的景観研究会を3月5日にオンラインで開催し、近年重要文化的景観に選定（または答申）された「越前海岸の水仙畑」（福井県福井市）、「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」（愛媛県西予市）などにおける調査や保存活用の状況について、地方公共団体の文化財保護担当者や研究者から情報収集を行い、課題を整理した（参加者12名）。なお、元年度に、開催を予定していた研究集会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止としたことにともない、2年度は研究集会報告書の刊行をしなかった。

文化的景観研究会（オンライン開催）

○文化的景観保護に関する現地調査・研究

・日本各地の文化的景観の調査、保存活用、整備に関する報告書等の収集を継続して行った。

・京都市、宇治市、智頭町等をフィールドに、市町の担当部局への協力を通じて文化的景観の価値や継承等に関する検討を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、文化的景観の特質を理解するために必要となる地域の生活生業や自然に関する調査研究及び保存活用の取り組みについて、近年の事例を検討した。②独創性においては、地域の歴史文化に関する多分野における調査研究の現状や課題を把握することができた。③発展性においては、文化的景観の整備計画に関する事例を収集、検討を深めたことにより、今後のさらなる発展を期待できる。④継続性においては、文化的景観に関する研究会を開催し、また、文化的景観に関する調査等の報告書を収集した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）・論文等数　5件（①）　・研究発表等数　4件（②）	定量評価 —

① 惠谷浩子「園芸農林業がつくる京都周縁の風景」『奈良文化財研究所紀要2020』2年9月30日 ほか4件
② 惠谷浩子「地域の風景と文化財の活用 」2年12月12日、ほか3件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。
評定理由	研究会の開催や現地調査の実施等により、当初の計画通り研究を遂行できた上、ウェブサイトでの継続的な情報公開をして、保護行政・学術研究への貢献を図った。現地調査・研究では、特に保存活用・整備計画のための地域特性の把握について検討を深められたことは評価できる。中期計画に掲げた調査手法の体系化、事例の収集・公開を遂行できた。 3年度以降は、継続的に文化的景観の保存計画や整備活用事例の情報収集を進め、また、個別事例の調査、成果の公表等を行うことで調査手法の体系化を進める。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134Fｱ

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 ア　全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や、官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。
プロジェクト名称	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、馬場基（都城発掘調査部史料研究室長）、小田裕樹（都城発掘調査部主任研究員）ほか9名	

【年度実績と成果】

公開されている既存の遺跡データベースシステムについては、システムが公開方法、セキュリティなどの観点から維持することが難しくなってきた。このため、更新を計画し、空間情報を追加して地理情報システム上で検索成果を公開し、他の空間情報データと連携可能な統合を計画している。このため、2年度は既存の公開・非公開データに位置情報などを付加するとともにデータの確認、更新を進めた。

全国の古代集落に関する調査及び資料の収集・整理を行い、そのデータを基として第24回古代官衙・集落研究集会をオンラインで実施した。その研究報告資料を作成した。

また、第23回古代官衙・集落研究集会の報告書を編集・刊行した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、現今の文化財保護行政の状況下で、このデータベースは官衙遺跡の歴史的意義などを分析し、その保護方策を検討する上で有効に機能している。②独創性において、全国を網羅している点、多彩なデータベース項目を備えており様々な分析に役立つ点など、他に類を見ない。③発展性において、公開データ地域・件数が拡大・増加し、地域・データ種類を拡張できた。また、新システムへの移行も進めており、従来の資産を効果的に活用しつつ研究の基盤として活用の展開が期待できる。④効率性において、長年蓄積されてきた官衙・集落遺跡の研究においては、膨大な量のデータを比較検討する必要があるが、必要なデータを効率よく検索・集計することに大きく寄与している。⑤継続性においては、新規の情報追加のみならず、既存のデータについても新知見に基づく更新を加えており、長期にわたり継続してデータベースを構築することで成果をあげている。以上の様に、各観点からみて、所期の目標を十分に達成していると認められ、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	公開データ数　合計95,785件	―

1.小田裕樹ほか　2020.12　第24回古代官衙・集落研究会資料集『古代集落の構造と変遷』
2.小田裕樹ほか　2020.12　第23回古代官衙・集落研究会資料集『灯明皿と官衙・集落・寺院』

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	日本各地の遺跡調査データの集積と公開を進めており、古代の情報を集約したデータベースとして公開することが出来た。当初計画を十分に達成していると判断しＢとする。中期計画の最終年度において使用・公開するためのシステムの老朽化などが課題となっており、セキュリティ等の課題も出てきていることから、より洗練した公開を目的としたシステムの検討を開始している。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F イ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）、清野孝之（同副部長）、馬場基（同史料研究室長）、林正憲・小田裕樹（同主任研究員）、大澤正吾（同考古第二研究室研究員）、清野陽一（飛鳥資料館研究員）	

【年度実績と成果】

・第 24 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷」（12 月 12 日、於：本庁舎 2 階大会議室、オンライン併用）を開催。研究報告は道上祥武「古代集落の諸類型」、清水哲「島名熊の山遺跡の構造と変遷」、名村威彦・桐井理揮「京都府における集落の構造と変遷」、藤村翔「駿河国富士郡域における古代集落の構造と変遷」の計 4 本。報告後、報告者・事務局全員を交えての総合討論を行った。また、研究集会に際しては、報告資料集（イ）を編集・刊行し、参加者等に配布した。

・『第 23 回古代官衙・集落研究会報告書　灯明皿と官衙・集落・寺院』（奈良文化財研究所研究報告 26 冊）（ア）の刊行。元年度開催した第 23 回研究集会の報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。

研究集会の様子

年度計画評価	B

【評定理由】　①適時性：古代官衙・集落遺跡の調査・研究推進における重要かつ適切な課題を設定し、新型コロナウイルスに対応してオンラインを併用して第 24 回研究集会を開催し、元年度開催の第 23 回研究集会の成果を、遅滞なく研究報告書として刊行し、広く公開した。②独創性：近年低調であった古代集落遺跡の構造研究推進を目的とし、研究史整理と代表的な集落遺跡の検討を通じ、研究の現状と課題について共有できた。③発展性：集落遺跡という列島各地に普遍的な遺跡を対象とした新たな検討視点の提示・共有により、今後多くの地域・遺跡での分析が積み上げられ、豊かな成果を得られると期待される。④効率性：従前からの開催・編集を踏襲しつつ、適宜改良を加えて作業の軽減を図った。⑤継続性：当研究所の事業としてオンラインを併用しつつ研究集会を開催し、成果を刊行することで、多くの参加者を得てかつ研究の相互連携を深めることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・論文等数・・・・・・6 件 ・研究発表等数・・・・4 件 ・報告書等の刊行数・・2 件 （参考値）研究集会参加者 113 人。アンケート・回収 97 人(回収率 77%)　大変有意義 63 人、有意義 33 人、普通 0 人、あまり有意義ではなかった 1 人、有意義ではなかった 0 人。	—

ア『第 23 回古代官衙・集落研究会報告書　灯明皿と官衙・集落・寺院』（奈良文化財研究所研究報告 26）2 年 12 月
イ『第 24 回古代官衙・集落研究集会　古代集落の構造と変遷　研究報告資料』2 年 12 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究　遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	当初計画通り研究集会を実施し報告書を刊行することができた。この 5 年間で計 5 回の研究集会報告・討論を開催し、古代国家形成の分析や古代都城研究に資する研究成果を得ると同時に、全国の文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じ、研究の質的向上に資した。また、5 年間で計 5 部の研究報告書の刊行によって研究成果を公表し、国民共有の財産となった。本研究集会及び報告書は、古代国家形成・古代都城研究に有益で、また全国の地方自治体の埋蔵文化財担当職員等の参加者からの期待も大きい。今後も継続的に事業を推進する必要があり、適切なテーマ設定による質の高い研究集会の開催を進めていきたい。以上よりＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F イ-2

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代瓦研究会に関する研究集会の開催	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、今井晃樹（同考古第三研究室長）、林正憲・岩戸晶子・石田由紀子・森先一貴（以上同主任研究員）、岩永玲（同考古第三研究室研究員）、道上祥武（同考古第三研究室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

・古代瓦研究会「第21回シンポジウム　鴟尾・鬼瓦の展開2 ―鬼瓦―」（3年2月6･7日開催予定)は新型コロナウイルスの影響を鑑みて2年度の開催は3年度に延期した。

・『古代瓦研究Ⅹ　8世紀の瓦づくりⅧ－一本づくり一枚づくりの展開２（西日本編）－』Ⅰ報告編・Ⅱ資料編（ア）を刊行した。30年度に開催した第19回シンポジウムの成果を報告書として刊行し研究成果を公開した。

・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展『鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界－』の開催。開催期間は3年1月23日～3月28日とし、3年1月22日には記者発表を実施した。この展示は2年度に予定していた「第21回シンポジウム　鴟尾・鬼瓦の展開Ⅱ－鬼瓦－」に合わせて企画、実施したもので、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所、奈良文化財研究所企画調整部展示企画室の協力を得た。展示に合わせて図録（イ）の出版及び公開講演会（ウエ）を実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】　①適時性：計画どおり30年度の第19回シンポジウムの成果報告書（ア）を刊行し公開した。②独創性：成果報告書の報告編とともに資料編を同時に刊行し、研究の基礎となる資料集成を公開した。また、シンポジウムの内容にあわせた展覧会の開催は初めての試みである。③この成果報告書により今後の全国各地における古代瓦研究に対して大きく貢献すると考える。⑤中期計画にしたがって予定どおり成果報告書（ア）の刊行を実施した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	⑤継続性	
定性評価	B	A	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	調査研究等刊行物：2件（ア・イ） （参考値）記者発表1回（参加社：6社）　展覧会来館者数：31,530人　講演会2回（ウエ）	―

ア　『古代瓦研究Ⅹ　8世紀の瓦づくりⅧ－一本づくり一枚づくりの展開２（西日本編）－』Ⅰ報告編・Ⅱ資料編3年2月
イ　『鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界－』3年1月
ウ　今井晃樹「鬼瓦の来た道」3年2月20日
エ　岩戸晶子「屋根に飛び降りた鬼瓦とその歴史」3年3月6日

中期計画評価	B

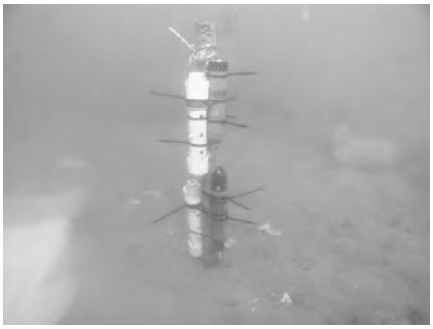
中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	予定していた第21回シンポジウムは新型コロナウイルスの影響のため開催を3年度に延期した。しかし、第19回シンポジウムの成果報告書は年度計画どおり刊行しその成果を公開したことは適時性、独創性、発展性、継続性からみて十分に意義のあることである。開催を予定していた第21回シンポジウムに合わせた鬼瓦の展覧会の開催ははじめての試みであり、研究成果を一般に公開するうえで非常に有意義であったと自負している。また、この5年間で計4回の研究会を開催し、報告書も計3部刊行したことで学界への貢献は十分なものと判断した。以上からBと判定した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2135F

中期計画の項目	2-(1)-③-5)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-5)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 ５)水中文化遺産に関する調査研究 我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため、水中文化遺産の保存並びに活用に関する研究調査を行う。
プロジェクト名称	水中文化遺産に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（埋蔵文化財センター長）、金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・鷹島海底遺跡において現地保存されている元軍船のモニタリングの一環として、埋め戻し環境下の溶存酸素濃度の計測、及び同環境に設置した木材及び炭素鋼供試体を引き上げ、その劣化量を評価した。その結果、溶存酸素が枯渇した環境が形成され、供試体の劣化量も極めて緩慢であったことから、元軍船の劣化が十分に抑制されていることを確認した。
・博物館において展示され、腐食生成物が発生した海揚がりの銅製遺物の腐食生成物を同定するとともに、腐食の原因を究明するため、腐食生成物の詳細分析を実施した。
・文化庁が刊行を進めている「発掘調査のてびき　水中遺跡調査編（仮称）」において、「第４章水中遺跡と出土遺物の保存と管理」の分担執筆を行った。



海底での溶存酸素濃度の測定の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性：埋蔵文化財保護行政において整備が急がれている水中遺跡の調査法に関する「手引き」の執筆に取り組んだ。②独創性：海底遺跡における遺物の劣化メカニズムを明らかにするための課題に取り組んだ。③発展性：海底遺跡での遺物の現地保存法の確立は、海洋国である我が国の沿岸部分に多数存在していると推察される水中遺跡の保護に資することができる。④効率性：松浦市及び琉球大学と連携することにより鷹島海底遺跡の元軍船の保存に効率よく取り組むことができた。⑤継続性：潜水調査を行うことができる研究員が定期的に海底における埋蔵環境の計測と試験片を用いた海底暴露試験を実施することにより、発見された元軍船の状態を継続的にモニタリングすることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	論文等数：1件（ア） 学会発表等数：１件（イ）	－

（ア）柳田明進ほか、「海底遺跡における銅製文化財の腐食が抑制される発掘後の埋め戻し法の検討」、銅と合金、59(1)、167-172（9月）
（イ）柳田明進ほか、「水分飽和から不飽和土を再現したカラム実験による鉄製文化財の腐食挙動の検討」、材料と環境 2020（5月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資する。
評定理由	最終年度となる２年度は、水中文化遺産の調査法、現地保存法並びに出土遺物の保存処理法の開発に継続して取り組むとともに、水中遺跡の埋蔵文化財としての保護に資するための「手引き」の執筆に取り組んだ。5年間の取組の中で、廉価で簡易な海底遺跡の探査法及び水中文化遺産の現地保存法について一定の効果的な方法を提示することができ、さらに海揚がりの遺物の保存処理法に関する課題に対して劣化メカニズムの解明を進めたことから、当初に設定した研究目標を概ね達成できたとして、Ｂと評価した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2211E

中期計画の項目	2-(2)-①-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-1)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	
文化財情報資料部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○二神葉子（文化財情報研究室長）、小山田智寛（研究員）、城野誠治（専門職員）、谷口毎子（アソシエイトフェロー）、酒井かれん（研究補佐員）、磯山浩美（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○デジタル画像の形成方法の研究開発

・不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討した。他のプロジェクトと連携、あるいは外部からの依頼により、東京国立博物館所蔵の仏画、四天王寺所蔵の扇面法華経、藤基神社所蔵村上藩歴代藩主肖像画など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。また、ガラス乾板の特性、特に色情報の再現性に関する調査を開始、沖縄県立博物館・美術館と共同研究で、同館所蔵の仲座久雄撮影ガラス乾板及び関連調査を行った。

村上藩藩主内藤信旭肖像画から赤外線写真で見つかった文字

○研究成果の公開

・『春日権現験記巻九・巻十　光学調査報告書』を 3 月 16 日付で刊行した。

・プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携し、ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」を 8 月 24 日に上原美術館で、3 年 3 月 12 日に東北歴史博物館で開催し、それぞれ 11 人、14 人（実技）の参加を得た。また、12 月 23 日には「シリーズ「ディジタル画像の圧縮～画像の基本から動画像まで～」その１　ディジタル画像の基礎」を東京文化財研究所で開催し、37 人が参加した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、高精細の画像取得・蓄積は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえるものである。また、記録作成や発信が求められている状況において、「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催できた。②独創性においては、光学的調査で独自に開発・選択した技術・機材を最大に活用、通常の機材では記録不能な可視光の全範囲に加え、可視光、蛍光も同一の画角で記録できた。また、普段使用する機材を持ち寄っての文化財写真撮影に関するセミナーは他に例がない。③発展性においては、ガラス乾板からの色情報の再現の試みにより、従来の AI による経験則的な色の再現ではない、記録された情報に基づく色の再現が期待できる。④効率性は、刊行物を所内で編集、内製し、職員を主に講師としたセミナーの開催を通じて効率よく活動を所内外に伝達できた。⑤継続性においては、他プロジェクトとも連携し光学的調査を継続的に実施した。新型コロナウイルスの影響により一部計画変更も生じているものの、所期の計画を上回る成果をあげることができたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・（参考値）刊行物 1 件（①） ・（参考値）論文 5 件（②） ・（参考値）発表 4 件（③）	―

①『春日権現験記巻九・巻十　光学調査報告書』（東京文化財研究所、3 月 16 日）
②ユキオ・リピット「春日権現験記絵　巻九・巻十の概要」『春日権現験記絵巻九・巻十　光学調査報告書』pp. 17-22、東京文化財研究所、3 月　他 4 件
③城野誠治「ディジタル画像の基礎　講演 2」シリーズ「ディジタル画像の圧縮～画像の基本から動画像まで～」その１　ディジタル画像の基礎、東京文化財研究所、12 月 23 日　ほか 3 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や 3D 記録製作等について研究開発を進める。
評定理由	上記の中期計画の記載事項についていずれも所期の目標を達成した。デジタル画像形成方法の研究開発、刊行物やウェブによる継続的な成果の発信とともに、新たに研修を通じた成果の還元を開始した。3 年度もこれらの取り組みを継続し、特に、ガラス乾板に記録された色の再現に関しては国外の相手先も含め調査を行う。また、記録作成に関するセミナーの体系化を進め、教材等の関連資料の整備も実施する。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2212F

中期計画の項目	2-(2)-①-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-2)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構･遺物の計測についての手法及び資料の製作技法や形態・物性に基づく資料分析、一般にむけてのＡＲ・ＶＲ、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。
プロジェクト名称	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大(遺跡・調査技術研究室長)、村田泰輔(主任研究員)、山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員)、上椙英之、中村亜希子、岸田徹、平川ひろみ(以上、遺跡・調査技術研究室客員研究員)	

【年度実績と成果】

【三次元計測】SfM・MVS 技術による三次元計測手法の普及が進むなか、より効率的に文化財記録としての点群を取得する手法に注力した。遺構については計測基準点の設置と画像取得手法の改善、遺物については土器計測手法の改良及び治具の検討を行い、成果の向上と効率的な情報取得を進めた。科学研究費での実践により、遠賀川系の弥生土器甕形土器を中心に研究班として 400 点ほどの土器資料を計測し、分析を進めている。また、廉価化しつつあるレーザースキャナーの試験も実施し、好成績を得た。

【遺跡探査】GPS や LiDAR と連動した地中レーダーの検討をおこない、各地でテストを行った。加えてクローラーによる自走式レーダー機器の開発検討を行った。また、96ch の電極を有する電気探査機の試験計測をおこなった。

【ひかり拓本】簡便な機材で碑文等の表面情報を読み取る「ひかり拓本」技術の確立と実践を行った。

【地質からみた遺跡調査】平城宮・京及び飛鳥藤原地域を中心として都城発掘調査部と連携し発掘調査における地質調査の実践と洗練を進めている。また、被災痕跡や断層などの調査について研究を進めている。

クローラーを用いた地中レーダーの動作試験

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、慢性的な人材不足や調査の高度化に対応した研究を進め、文化財の保護に寄与する研究を進めている。②独自性においては、ロボティクスや画像解析、物理探査といった技術の導入を進めており、省力化と研究の進展を支える研究を進めている。③発展性においては、今後全国の自治体など調査機関で活用できる技術の基礎研究をおこなうことで、我が国の文化財保護技術の発展に大きく寄与できる。④効率性においては、省力化や自動化の研究など、効率的な調査を支援する技術を確立しつつある。⑤継続性においては、従来からの研究資産を継承した研究を推進している。よって、所期の目標を達成していると認められ、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	三次元計測点数　612 点、CT データ取得　52 点、地質の検討　27 件、探査　9 件、ひかり拓本　45 件	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	新たに発明した「ひかり拓本」、文化財行政を支援する効率的な探査機器開発等、注目度や要請が高い技術が多く、その要請にも可能な限り対応して成果を上げることが出来た。このため、Ｂと評価する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2213F

中期計画の項目	2-(2)-①-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-3)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、各地の年輪データの蓄積を進める。また、マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊調査手法の活用や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。
プロジェクト名称	年輪年代学研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○星野安治（年代学研究室長）ほか客員研究員３名	

【年度実績と成果】

- 出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による年輪データの蓄積を行った。
- 長岡京跡右京六条三坊三町において検出された長岡京で最大級と考えられる大型掘立柱建物跡の柱穴から出土した木材について年輪年代測定を行い、辺材が残存する礎板が 788 年以降それほど経たない年代に伐採されたことを明らかにした。この成果は、同伴する瓦などの遺物と対応した貴重な年代情報となると考えられる。
- 史料調査に伴い、古文書櫃に使われている木材について年輪年代調査を行った。納められている史料との関係から、中世における年輪データの蓄積を行うことができた。
- 平城宮第一次大極殿院西楼から出土した削屑木簡の年輪年代学的検討を行い、同一材に由来する削屑を見出した。これらは、単一の木簡に複数名分の人名や位階が記された歴名簡に由来するという想定を支持する成果となった。

古文書櫃の調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、発掘調査や解体修理の進捗状況に対応した年輪年代調査を実施した。②独創性及び③発展性においては、従来、年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を、木簡の同一材推定に活用し、削屑木簡について同一材を見出すなど、独創性を発揮するとともに、古代史学への波及が期待できる。④効率性においては、デジタル画像技術の活用により、多数の削屑木簡を調査対象として供するなど、効率的かつ正確に年輪年代調査を実施した。⑤継続性においては、古文書櫃の調査により中世における年輪データの蓄積を継続的に実施し、標準年輪曲線の拡充を図っている。以上のように、順調に事業が推移していると判断し、評価を行った。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** 論文等：5 件（ア） 発表等：1 件（イ）	定量評価 －

ア「魚梁瀬スギの標準年輪曲線（1768～2004）」、『植生史研究 29（1）』、他 4 件
イ「年輪年代学的手法による平城宮第一次大極殿院西楼出土木簡の同一材推定」、日本文化財科学会第 37 回大会

中期計画評価	B

中期計画記載事項	年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。また、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。
評定理由	年輪年代調査・研究を通して、各種文化財に資する情報を提供することができた。長岡京期の礎板の年輪年代測定を実施したことにより、考古学をはじめとした歴史科学研究に大きく寄与すると考えられる。また、従来、主に年代測定の手段として使用されることの多かった年輪年代学を、同一材推定の視点から木簡へ応用し、削屑木簡の中に同一材を見出すことができた点も、今中期計画の大きな成果と判断し、Ｂ評価とした。今後、古代史学への貢献が期待されるなど、年輪年代学による調査・研究が発展的に進展するものと判断した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2214F

中期計画の項目	2-(2)-①-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-4)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 平城宮跡・藤原宮跡等、各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。
プロジェクト名称	動植物遺存体の分析方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○山崎健（環境考古学研究室長）、上中央子（環境考古学研究室客員研究員）、松崎哲也（環境考古学研究室客員研究員）	

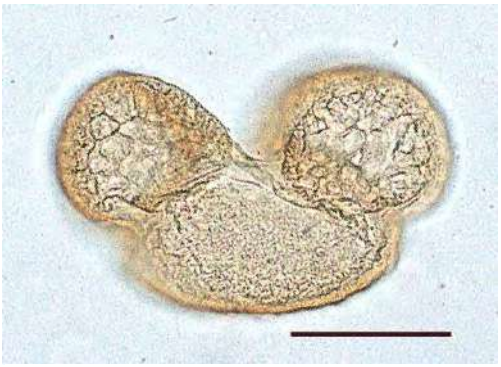
【年度実績と成果】

○ 中沢浜貝塚（岩手県）、波怒棄館遺跡（宮城県）、金井下新田遺跡（群馬県）、保美貝塚（愛知県）、公家町遺跡・相国寺旧境内（京都府）、西大寺食堂院（奈良県）などの遺跡から出土した動物遺存体を分析した。

○ 平城宮跡や藤原宮跡で検出された花粉の分析を進めるとともに、奈良県内の遺跡から見つかった花粉を集成して、植生の歴史的変遷を明らかにした。周辺地域との比較を行い、植生変化の地域的な違いを検討した。

○ 現生標本の収集し、標本見学に対応した。また、遺跡でみつかる動物の足跡を調査するためのレプリカ標本を作製した。

○ 研究成果の発信や社会還元として、「古代食の総合的復元と疾病の関係解明」シンポジウム、東京都埋蔵文化財センター文化財講演会、近江貝塚研究会などで研究発表や講演会を行った。



藤原宮跡下層運河から検出されたマツ属の花粉

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、東日本大震災の復興・創生期間の最終年となる重要な節目を迎え、地方自治体の要請に応じて、復興関連調査の整理作業や発掘調査報告書作成を支援した。②独自性においては、出土事例の少ない縄文時代草創期の前田耕地遺跡から出土した動物遺存体を再検討して、新知見を得た。③発展性においては、古代の上総国・下総国における貝類利用の実態を明らかにした。地域における生業研究への寄与が期待できる。④効率性においては、足跡標本を製作して、発掘における効率的な調査を可能とした。⑤継続性においては、奈良県内の遺跡から検出された膨大な花粉データを継続的に集成した研究成果を公表することができた。よって、所期の目標を達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 論文等数：5 件（ア、イ） 学会、研究会等発表実績：4 件 調査研究刊行物：1 件（ウ）	定量評価 —

ア．山崎健ほか「東京都前田耕地遺跡から出土した動物遺存体の再検討」『旧石器研究』16、5 月 22 日
イ．山崎健「上総国・下総国の貝類利用―地域における生業研究の一試論―」『奈文研論叢』2、3 月 31 日
ウ．上中央子・山崎健編『花粉分析からみた古代都城の植生変化』埋蔵文化財ニュース第 184 号、3 月 30 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由	分析に必要不可欠な現生標本を継続して収集・整理し、中期計画を遂行することができた。また、東日本大震災の復興調査事業の支援を実施しながら、各地の動植物遺体の調査分析を通じて、古環境や動植物資源利用の歴史に資する研究を着実に進めた。とくに中期計画の最終年度として、遺跡出土花粉データの集成的研究を行い、周辺地域の成果もあわせて古環境の歴史的変遷を明らかにしたことが特筆される。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2221E

中期計画の項目	2-(2)-②-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-1)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)生物被害の予防と対策に関する調査研究 歴史的建造物、古墳環境等生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、遺伝子等を指標とした簡易・迅速な生物モニタリング手法を用いた実践研究の成果発信を行うとともに、虫菌害被害を受けた文化財に対して薬剤を用いない環境低負荷型の防除方法の普及を行う。
プロジェクト名称	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、小峰幸夫（アソシエイトフェロー）、早川泰弘（センター長）ほか	

【年度実績と成果】

○新規殺虫方法である湿度制御温風処理の技術開発に関して5か年で進めてきた研究を総括し、現状の到達点と今後の課題について12月に内部向けの研究会を開催するとともに、報告書の編集を行った。
○国内の洞窟（風連鍾乳洞）や古墳環境（虎塚古墳他）における微生物劣化現象について基礎研究を行い、成果を学会・紀要・学術雑誌等を通して発信した。
○簡易迅速な生物モニタリング手法の開発のために、社会実装を視野に入れた標準的な調査方法を立案し、実際の現地にて調査を実施した。
○水損等被災文化財の生物劣化現象の記述研究と初期対応に関する基礎研究を実施した。関連して被災資料の低酸素濃度殺虫処理に用いられた脱酸素剤から発生する有機酸について緊急的に調査を実施し、その成果を論文にまとめた。

脱酸素剤からの有機酸生成調査の様子

○文化財害虫の分子生物学的解析手法の検討を重ね、羽や歩脚などの体節の一部から種を特定する方法を確立した。また、一部の木材害虫では、虫糞からPCR法によって特異的に検出する方法を確立した。
○5か年の研究成果を総括したプロジェクト報告書を刊行した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、管理保全計画策定の中で高い需要が期待される文化財建造物の湿度制御温風殺虫処置方法の普及に向けた研究の成果発信を適切に行った点を高く評価した。②独創性においては、洞窟や古墳壁画の微生物劣化現象について、現地保存に資する基礎研究成果を得たことを高く評価した。③発展性においては、一部の文化財害虫の遺伝子解析に基づく新規データベースの構築と虫糞等からの同定手法の確立に成功し、今後の展開が期待される点を高く評価した。④効率性においては、歴史的木造建造物の湿度制御温風殺虫処理の課題において、大学や他の研究機関と連携協力体制を作り、それぞれの専門性を生かした分担業務を行いながら効率よく継続して研究を遂行することができた点を評価した。⑤継続性においては、湿度制御温風処理による処置が今後長期間継続的に実施される予定であることを高く評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 学術論文・報告：合計5件（ア、イ、ウ、エほか1件） 学会発表：合計5件（オ、カほか3件）	定量評価 —

ア　文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫のDNAバーコーディングに基づく同定法（『保存科学』60，東京文化財研究所，3年3月）
イ　低酸素濃度殺虫法に用いるRP剤Kタイプからの有機酸発生（『保存科学』60，東京文化財研究所，3年3月）
ウ　博物館等におけるATP拭き取り検査によるカビ集落の活性評価について（『保存科学』60，東京文化財研究所，3年3月）
エ　空調設備のない収蔵施設の保存環境調査－岐阜県関市春日神社の取り組み－（『保存科学』60，東京文化財研究所，3年3月）
オ　人為的攪乱により形成された鍾乳洞内照明植生の微生物生態学的解析（日本土壌微生物学会2020年度大会，WEB開催，2年6月）
カ　虎塚古墳の壁画剥落片から分離された微生物の群集構造解析（日本文化財化学会第37回大会，WEB開催，2年9月）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	大規模燻蒸に替わる虫菌害対策のシステム化をより向上させるため、浮遊微生物量の短時間・連続測定など新しいモニタリング技術について基礎研究を行う。屋外環境においては、木造建造物や古墳など環境制御が困難な場所における生物被害の予防策および対処法に関する調査研究を行う。
評定理由	中期計画の最終年度として、学術論文・報告と学会発表を計10件行ったことは、研究成果を十分発信できたといえる。歴史的木造建造物の湿度制御温風殺虫処理は、2年度は新型コロナウイルスの影響で現地での処理が行えなかったものの、5か年の間に2度実施できており、必要な基礎データを得ていたため成果をまとめることができた。多岐にわたる研究課題も着実に研究成果を積み上げることができ、5か年を通して順調に研究が進んだ。以上の理由から、中期計画の5か年を総括して初期の計画を上回る研究業務が遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2222E

中期計画の項目	2-(2)-②-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-2)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 白色 LED 照明の展示物への影響についてより詳細な研究を進め、物質の応答性も加えた照明の評価方法を定めるとともに、LED 照明の技術指針について学協会と連携してガイドラインを策定する。さらに、化学物質の室内挙動と関連の深い温湿度解析の事例研究を進め、博物館内の汚染物質の改善方法の普及を行う。
プロジェクト名称	保存と活用のための展示環境の研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○秋山純子（保存環境研究室長）、水谷悦子（研究員）、相馬静乃（研究補佐員）、吉田直人（文化財活用センター、東文研併任）	

【年度実績と成果】

○白色光による文化財への影響を考えるうえで基礎的な指標である損傷度曲線について、根拠論文の採取データ数が少なく再現実験が必要と考えられたことから、各波長による損傷度を把握するため、各種材料の変退色度 ΔE と曝露時間との応答性について基礎的な実験を開始した。基準光源である D65 光源を用いて、JIS 絹布を染色したものに対して曝露試験を行い、データを取得した。

○空調や建物の改修を予定している博物館・美術館等において、改修前の状況を把握するため、環境調査を実施し、改修に向けたシミュレーションの材料となるデータを収集した。

○新型コロナウイルスに対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業に対し、文化施設等においてどのような消毒ができるのか、消毒対応の仕方、換気に関して検討した。

暴露した染色絹布の分光光度測定

○「『保存と活用のための展示環境』に関する研究会－照明と色・見えの関係」を文化財活用センターとの共催で実施した（3 年 3 月）。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、博物館・美術館等の改修を控えたタイミングで調査を始められたこと、新型コロナウイルスに対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業について、文化庁や文化財活用センターと協力して様々な状況に対応したことを高く評価した。②独創性においては、これまでの照明に関する研究会の集大成として、照明と見えとの関係についての研究会を行ったことを評価した。③発展性においては、今後博物館等において改修工事が増えることを見越して、改修工事を控えた館に対してシミュレーションを取り入れた新たな環境調査研究を始めたことを高く評価した。④効率性においては、空気清浄化と照明に関する研究会を文化財活用センターと共催で開催したことを評価した。⑤継続性においては、白色 LED に関する基礎実験において、これまで行ってきた波長ごとの染料の堅牢度をまとめて報告することができた点を評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・学会誌　3 件 ・学会発表　2 件　（アほか 1 件） ・研究会　1 件（イ）	—

ア「バンドパスフィルターで抽出した特定波長による有機染料の変退色挙動」（相馬静乃他 2 名　文化財保存修復学会第 42 回大会、2 年 7 月 10 日）

イ「保存と活用のための展示環境」に関する研究会－照明と色・見えの関係」（3 年 3 月 4 日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の展示照明として導入が進む白色 LED、有機 EL 光源が文化財の保存に与える影響並びにその展示照明としての評価方法を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また、文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、空気清浄化マニュアルを作成して成果普及を図る。
評定理由	LED 照明に関する基礎的なデータを収集し、研究成果をまとめることができた。また、これまでの照明に関する研究会を踏まえ、中期計画最終年度である 2 年度は集大成となる研究会を実施することができた。空気清浄化については、手引きを参考に今後も改善に向けた方法を検討していきたい。新型コロナウイルスの影響により、一部当初の予定を達成できなかった部分はあるが、概ね中期計画を達成した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2223E

中期計画の項目	2-(2)-②-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-3)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 複数の可搬型機器を活用して、絵画・工芸品・建造物等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。これまでに調査した絵画作品の調査報告書を刊行する。さらに、文化財の劣化によって生じた生成物の分析を行い、劣化要因の特定と対策法の検討を行い、研究会を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（センター長）、城野誠治（文化財情報資料部専門職員）、岡田健、古田嶋智子（以上、客員研究員）、高橋佳久、紀芝蓮（以上、研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○可搬型分析装置を用いたその場分析
- 可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、平安時代の国宝久能寺経（個人蔵）に真鍮泥が使われている新知見を見出した。
- 金箔標準試料に関するラウンドロビンテストを実施し、分析精度や確度に関する定量的な評価を行った。
- 可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた光源の選定、白色補正法の改良、治具の製作を行った。また、新規導入したX線分析顕微鏡を用いた調査を開始した。

○現代アート作品の金属装飾部分の腐食生成物の分析、及び作品周辺の空気質の分析を行い、空気環境と金属腐食との関係について考察を行った。

金属試験片を用いた収蔵庫内における暴露試験

○研究成果発表
- 論文2件、学会発表2件の研究成果発表を行うとともに、国宝久能寺経（個人蔵）及び国宝孔雀明王像（仁和寺蔵）に関する光学調査報告書を刊行した。また、金属腐食と空気環境に関する研究会を開催した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、中期計画の最終年度として、金属の腐食と空気環境に関する研究の総括を行うために、研究会を開催し、関係者に高く評価された。②独創性においては、これまでほとんど調査が行われていなかった現代アート作品に用いられている鉛について腐食生成物の分析を実施できたことを高く評価した。③発展性においては、新規導入したX線分析顕微鏡を用いた調査を開始したことを高く評価した。④効率性においては、分析調査の効率を上げるために、可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた光源の選定、白色補正法の改良、治具の製作を行った。⑤継続性においては、日本絵画や経典に関する材料調査結果を蓄積し、新たな知見を得ことを高く評価した。新型コロナウイルスの影響により実施できない作品調査があった中で、所期の計画を上回る成果が得られていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 論文等2件（ア、イ）、学会発表等2件（ウ、エ）、報告書等2件（オ、カ）、研究会1件（キ）	定量評価 ―

ア 「国宝久能寺経における真鍮泥の利用について」（早川泰弘、城野誠治、『保存科学』60号、3年3月）
イ 「収蔵庫の空気環境が鉛金属に与える影響に関する調査事例」（犬塚将英、他3名 『保存科学』60号、3年3月）
ウ 「蛍光X線分析における分析値の信頼性－金箔試料の定量分析に関する共同実験－」（早川泰弘、他6名、日本文化財科学会第37回大会、9月5日～13日）
エ 「博物館における化学物質の放散試験方法の検討 －サンプリングバッグのブランク濃度低減方法」（古田嶋智子、犬塚将英、文化財保存修復学会第42回大会、7月10日）
オ『国宝久能寺経薬草喩品第五 光学調査報告書』、東京文化財研究所、3年3月
カ『国宝孔雀明王像 光学調査報告書』、東京文化財研究所、3年3月
キ 研究会「文化財に用いられている鉛の腐食と空気環境」、東京文化財研究所、12月14日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅（真鍮）材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型X線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。
評定理由	中期計画の最終年度として、これまでに日本絵画や経典の材料調査で得た成果を報告書として刊行した。金属製品の腐食生成物と空気環境との関係についてもこれまでの調査成果をまとめて、研究会を開催した。新型コロナウイルスの影響により実施できない作品調査があったものの、中期計画期間全体を通し、所期の計画を上回る成果をあげることができたため、A評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2224E

中期計画の項目	2-(2)-②-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-4)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 屋外に所在する石造・木質文化財及び自然史資料を対象に、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行い、それぞれの価値を人々に有効に伝えて行く適切な活用方法について検討を進める。
プロジェクト名称	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、白石明香（研究補佐員）、前川佳文（文化遺産国際協力センター研究員）	

【年度実績と成果】

屋外に所在する各種文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の成果を得た。

○和歌山県の九重慰霊碑で撮影した写真から三次元データを組み上げて三次元印刷することで、現物では解読が困難だった銘文を読み出して地域の防災意識喚起に寄与した。

○天草市アンモナイト館で化石面の計測を行い、これまで取り組んできた保存対策によって化石面本来の状態が取り戻されるに至ったことを確認した。

○南相馬市の薬師堂石仏において、過去の複数の時点で撮影されていた写真に基づいて、各撮影時点の形状を復元し、石仏の劣化の進行について検証を進めた。

○臼杵市の風連鍾乳洞、香美市の龍河洞など、各地の鍾乳洞で現地調査またはオンライン診療などにより現状を解析し、鍾乳石を覆って繁茂する緑色生物を軽減する方向性などについて検討を進めている。

三次元印刷された九重慰霊碑

○松島町の頼賢碑において、老朽化が目立つ大正年間建立の覆屋について内部の環境調査を実施し、保存施設としての覆屋の現状を評価した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、2年度になって初めて発見された資料の計測も試みており、適時性のある研究に取り組んでいる。②独創性においては、新型コロナウイルスの影響下においても各地の文化財のオンライン診療に取り組むことにより、様々な文化財の保存に寄与できたことを高く評価した。③発展性においては、これまでの調査研究成果が石造文化財だけでなく多様な屋外文化財の保存に適用できることを高く評価した。④効率性においては、オンラインシステムを利用することで研究の効率化を図ったことを評価した。⑤継続性においては、これまでに対策を行ってきた現場について、継続的に経過観察を進めて長期的な評価を試みている点を評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 論文等発表2件（ア、イ） 学会・研究発表3件（ウ、エ、オ） 報告書1件（カ）	定量評価 －

ア「天草市アンモナイト館における緑色生物の制御」（朽津信明、森井順之、柳沼由可子、廣瀬浩司　『保存科学』60号、3年3月）
イ「文化財の現地保存を考える」（朽津信明　『保存科学』60号、3年3月）
ウ「天草市アンモナイト館における照明調整による緑色生物の軽減」（朽津信明、森井順之、柳沼由可子、廣瀬浩司　文化財保存修復学会第42回大会　デジタル発表　6月20-21日）
エ「三次元計測に基づく富山市大山の恐竜足跡化石の劣化評価」（朽津信明，酒井修二，藤田将人　日本文化財科学会第37回大会　Web開催　9月5-13日）
オ「過去の写真に基づく恐竜足跡化石の風化速度の検証」（朽津信明，酒井修二，藤田将人　日本応用地質学会2020年度研究発表会　オンライン開催　10月1-2日）
カ「屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究報告書」（3年3月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	屋外に所在する石造物や木造建造物等について、凍結劣化や塩類風化、頻繁な生物被害などの屋外特有の保存環境要因、及び地震や水害などの自然災害による劣化・破損を軽減するための方法について調査研究を行う。
評定理由	2年度は中期計画の最終年度として、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、当初の計画通りに成果を挙げられたと判断した。今中期計画全体では所期の計画に沿って順調に各種文化財の劣化に関するデータが蓄積することができ、研究成果が博物館展示に活かされる事例も出てきたことから、中期計画を遂行できたといえる。次期中期計画でもさらに研究を発展させていけることが期待される。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2225E

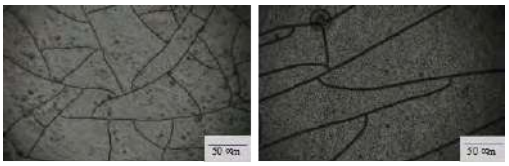
中期計画の項目	2-(2)-②-5)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-5)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料と新規修復方法について、調査研究と評価を行う。前年度までの成果をもとに、海外から研究者を招聘し、国内の最先端の事例も含めて文化財修復に関する研修会を行う。また、前年度の研究会報告書の刊行を行う。
プロジェクト名称	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	
保存科学研究センター	○早川典子(修復材料研究室長)、佐藤嘉則（生物科学研究室長)、倉島玲央（研究員)、中村恵里花（研究補佐員）ほか	

【年度実績と成果】

○文化財の伝統材料と修復材料に関する調査

・絵画の基底材に関する調査

自然布に関して、FT-IR とデジタルマイクロスコープによる観察により、葛と芭蕉などの識別がある程度可能なことを明らかにした。また、絵画基底材料としての絹糸の形状と織組織に関する基礎データを収集し、その劣化に関する差異についても明らかにした。



強制劣化 28 日後の絞漆（左）と素黒目漆（右）の電子顕微鏡写真

・漆に関する調査

日本の漆技法に関して、伝統的工法の科学的解明を行い、絞漆などの化学的変化を利用した技術を明らかにした。さらに、火災によって被災した漆芸品の劣化状況や保存環境等を調査し、今後の防災上の課題について検討を行なった。

○文化財の修復処置に関する研究

・元年度に開催した「文化財修復処置に関するワークショップ- ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法 -」に関する報告書を刊行した。講義内で使用した資料を全て日本語訳とし、クリーニング作業の現場で参考資料となるように工夫した。また、元年度に開催した「文化財修復処置に関する研究会　―クリーニングとゲルの利用について―」に関する報告書を刊行した。

・水害によって被災した資料の処置方法の検討や、それらの処置を行う機材の導入など、次期中期計画に向けた萌芽的研究を開始した。

○プロジェクト「文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究」に関する 5 か年の成果をまとめた報告書を作成した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、川崎市民ミュージアムや首里城など被災資料に関する保存科学的研究を開始していることを高く評価した。②独創性においては、伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている点を評価した。③発展性においては、得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や保存環境の提言が見込まれることを高く評価した。④効率性においては、複数のテーマを効率的に遂行しつつ、新型コロナウイルスの影響下でも一定の成果を得られたことを評価した。⑤継続性においては、次期中期計画において、これらの成果を文化財修復の現場や美術史研究へ還元できる見通しを立てることができたことを高く評価した。予定していた修復処置に関するワークショップが開催できない等の事柄もあったが、所期の計画を上回る成果が得られていることから、総合評価をＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・報告書　3 件（アほか 2 件） ・論文　2 件（イほか 1 件） ・学会発表　7 件	―

ア『文化財修復処置に関するワークショップ- ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法 -』報告書、3 年 3 月

イ「タンパク質を混和させた漆塗膜の化学構造と物性の検証」（倉島他、『保存科学』60、3 年 3 月）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。
評定理由	報告書 3 件、学会発表 7 件など、順調に成果が得られている。伝統的な修復材料・技法に関する科学的調査研究については、繊維文化財や漆に関する技法解明や同定へのアプローチが進捗した。新規材料・技法に関する開発研究については、災害による被災資料への対応の検討を行い、現場に還元できるようになった。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して初期の目標を上回る研究業務が遂行されたと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2226F

中期計画の項目	2-(2)-②-6)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-6)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質、構造及び劣化状態に関する診断調査を行い、保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に、鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸・固化工程を効率化する新手法を開発するための基礎研究を行う。
プロジェクト名称	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部主任研究員、保存修復科学研究室（併任））、柳田明進、松田和貴（以上、保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

○鉄製遺物の新規脱塩法の実用化に向けて、脱塩の効果をX線CTによって評価する方法を検討するため、鉄製遺物のX線CTデータを収集した。
○鉄製遺物の発掘後の劣化特性を埋蔵環境から予測する保管・管理システムを構築するため、室内実験結果に基づき、埋蔵時の鉄製遺物の腐食モデルを検討した。
○木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化させる新たな手法について、基礎的な実験データの蓄積を進め、乾燥・固化の具体的な手法の検討に着手した。
○飛鳥池工房遺跡出土品や平城宮京及び藤原宮京出土木簡の保存処理を良好に実施するとともに、漆塗の施された出土遺物を安定的に保存するための手法を検討するための基礎実験に着手した。
○新たな蛍光X線分析システムの導入により、迅速な元素マッピング分析が可能となった（図1）。また、従来の分析手法を応用し、辰馬考古資料館所蔵の伝持田古墳群出土の筒形銅器や付着のガラス玉等について材質調査を実施した。
○保存科学研究集会をオンライン形式により開催し（3年3月22日～3月28日）、遺跡の保存に関する課題や技術等について全国の文化財担当者と情報を共有し、意見交換を行った。

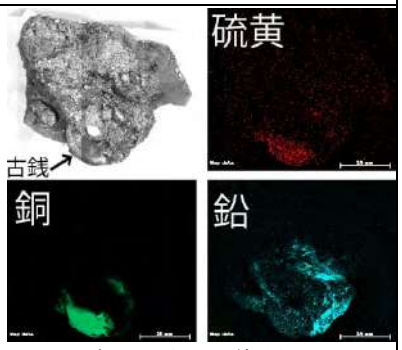


図1 新たな蛍光X線分析システムによる土壌付着古銭の元素分布

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性：金属製遺物や木製遺物の保存技術について未解決の課題に取り組んだ。飛鳥池工房遺跡及び指定に向けた平城宮京跡・藤原宮京跡出土木簡の保存処理を着実に進めた。②独創性：鉄製遺物の新たな保管・管理法として、発掘後の劣化特性を埋蔵環境から推定し、効率的な保管管理を実施するための研究を進めた。従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法の開発を進めた。③発展性：様々な分析法を複合的に活用することにより、多様な考古遺物の材質・構造調査に対応できた。④効率性：各種の材質構造を総合的に分析することで、効率よく遺物の診断調査を実施し、遺物の劣化原因を究明できた。新たな蛍光X線分析システムの導入により、迅速な元素マッピング分析が可能となり、壁画資料などの効率的な材質調査体制を構築できた。⑤継続性：奈良文化財研究所に大量に保管されている平城宮及び飛鳥・藤原宮跡出土遺物を対象にすることで、多くの遺物の材質・構造調査のデータを継続的に収集することができた。また、過年度に構築された保管環境のモニタリング体制の下で基礎データの蓄積が進んだ結果、遺物の劣化抑制の具体策を提示することができた。総合評価：以上の様に、定性的並びに定量的な観点から、所期の目標を超えて成果をあげていると認められ、Aと評価する。

観点	②　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・研究発表等数：7件（ア、イ）　・研究集会等の開催：1件	―

ア　田村朋美ほか「蛍光X線分析における分析値の信頼性－金箔試料の定量分析に関する共同実験－」日本文化財科学会第37回大会　2年9月5日
イ　柳田明進ほか「水分飽和から不飽和土を再現したカラム実験による鉄製文化財の腐食挙動の検討」『材料と環境2020』　2年5月20日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。
評定理由	2年度は、中期計画の最終年度として、鉄製遺物に関しては、新規脱塩法及び発掘後の劣化予測技術の開発に向けた基礎的な実験をおこない、成果が得られた。また従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法について、実用化に向けた検討を進めることができた。さらに、種々の文化財の材質構造調査にかかる新たな手法を検討するとともに、新技術の導入も積極的に進めたことから、所期の目標を超えて成果をあげていると認められ、Aと評価する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2227F

中期計画の項目	2-(2)-②-7)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-7)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 環境制御による劣化抑制の成否について検証するため、屋外に所在の石造文化財などを対象として、遺構の劣化の進行速度と周辺の環境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等多孔質材料の劣化要因である塩析出及び乾湿繰り返しが材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに、埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため、金属腐食実験を行い、環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。
プロジェクト名称	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・高松市に所在の石船塚古墳、三谷古墳、石船天満宮で保存されている同質石材石棺は現在異なる劣化状態にあることから、これらを対象に周辺環境と劣化状態の比較調査を継続して実施し、2ヵ年にわたる調査成果を総括し報告した。
・高松市に所在の讃岐国分寺跡資料館において実施している国分寺跡の露出展示遺構を対象に、遺構面における蘚苔類の繁茂の抑制を目的として遺構面照度を実測するとともに、開口部の遮光を行うことによる効果について検討した。
・高槻市ハニワ工場公園において実施している環境調査の成果をまとめ、Stone2020 に論文紙面発表を行った（新型コロナウイルス蔓延防止のため大会は中止）。
・下浦砂岩を対象として、石材の強度特性を異なる含水状態下で実測し、石材の乾湿繰り返し劣化のモデル化を目的として、水分飽和度に対するそれら物性値の関数化を試みた。これらの実測研究成果を『文化財科学』に投稿した。
・土壌カラム実験を実施し、カラム内の含水率と酸化還元環境状態の鉛直分布と、金属片試料の腐食過程のモニタリングを実施した。得られた結果から、埋蔵環境とその環境下での金属製遺物の腐食過程を定量的に把握するとともに、それらのモデル化を進めた。
・京大桂キャンパスに立地する模擬古墳において、複数年にわたり金属試験片を設置し、その腐食挙動をモニタリングすることで、埋蔵環境下における金属製遺物の腐食プロセスについて研究を進めた。得られた成果の一部を『考古学研究』に投稿した。

SfM 作成用の写真撮影

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年、遺跡の公開・活用が重要視されており、適切な環境下で遺跡の安定した保存を担保しつつ、観覧等の公開・活用に資する技術の研究・開発を行った。②独創性については、既往の手法が材料の強化に主眼を置くものであったのに対して、本研究は遺跡における熱水分移動解析に基づいて将来生じ得る遺構の劣化を予測し、それを予め回避するために適切な環境の制御を行うことで遺構保存を実現することを目的としており、独創的な研究と言える。③発展性については、遺構を取り巻く環境は無二のものであるが、乾湿の繰り返しや塩類析出など、遺構で生じる劣化現象は熱、水分と溶質移動によって引き起こされる普遍的なものである。したがって、本研究から得られた知見は汎用性に富むもので、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が可能である。④効率性については、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。⑤継続性については、2年度は新型コロナウイルスの影響により現地調査の実施が困難であったため、自動取得されているデータの収集が中心となった。しかし、各調査フィールドにおいて調査の長期的な目標、年度ごとの短期的な目標を設定し、各地方公共団体の担当者と目標及び成果を共有しつつ、事業を継続している。

観点	①　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等数：8件（アーイ） ・研究発表等数：9件	定量評価 －

ア　脇谷草一郎、高妻洋成ほか「Deterioration mechanism of Japanese sandstone during the drying and wetting cucles」『Proceedings of 14th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone』2年9月7日
イ　脇谷草一郎、高妻洋成ほか「乾湿風化による軟岩製石造文化財の劣化メカニズムの検討（その１：下浦砂岩の不飽和領域に生じる劣化のモデル化を目的とした物性値の実測）」『文化財科学』第81号、2年9月24日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。
評定理由	2年度までに調査研究フィールドにおいて十分量の環境条件実測データや遺跡を構成する材料の熱水分移動に関する物性値を蓄積するとともに、それらの検討結果として、遺跡保存の実践とその検証をそしてそれらについての多くの研究発表を行うことができた。さらに、石材の乾湿繰り返し風化や塩析出による多孔質材料の劣化に関する室内実験に加え、埋蔵環境下での金属製遺物の腐食に関する室内実験も実施し、中期計画を遂行できたと考える。次期の中期計画ではこれまでの熱、水分移動に加え、含水状態変化にともない変化する石材内部応力と引張強度の推定を可能とするモデル化、及び脱塩を目的とした塩移動のモデル化の完成を目指す。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2228F

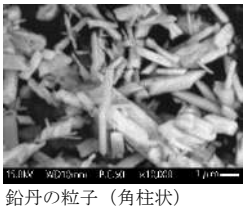
中期計画の項目	2-(2)-②-8)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-8)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 8)建造物の彩色に関する調査研究 建造物彩色等の材料調査を行い、使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において、建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため、環境調査並びに大極殿塗装の色彩測定を行う。
プロジェクト名称	建造物の彩色に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳成煜（保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）、金旻貞（保存修復科学研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】

・第一次大極殿において、周辺環境が建築塗装の劣化におよぼす影響を検討するため、環境調査及び塗装の劣化状態調査を継続して実施した。

・モンゴル国 16 世紀の遺跡と推定されている Uvgunhiid 寺院遺跡の壁画に用いられた顔料について SEM-EDX、XRF、XRD による調査を実施した。赤色、白色、青色、緑色の４種類の顔料を調査した結果、赤色は朱（Cinnabar)、鉛丹（Minium）が確認されて、酸化鉄系の顔料の存在も推定された。鉛丹は粒子形状が特異であり、その由来が今後の課題となる。緑色は、銅を塩水に接触させ製造した可能性の高い緑塩銅鉱（Atacamite）が確認され、青色は岩群青（Azurite）が確認された。白色は、白雲母（Muscovite）由来の白土、乾式法で製造された鉛白（Hydrocerussite）が確認された。以上の研究成果をまとめて『文化財科学』に投稿した。

Uvgunhiid 寺院壁画


鉛丹の粒子（角柱状）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、遺跡の公開・活用が重要視されるなか、遺構の展示のみならず復原建物を表示する例が散見される。本研究から得られる成果は、現存する古代の建造物の彩色保存のみならず、公開・活用のための復原建物の保存にも寄与するところ大と考えられる。②独創性については、既往の建築物塗装の劣化に関する調査では、製作当初の材料、技法及び現在に至るまでの外界気象条件について、情報があまりに不明確であったことから、塗装の劣化について精緻な検討が困難であった。しかし、本研究ではそれらの情報を得た上で、建築塗装の劣化に関する調査を実施できる点において独創性の高い研究と考える。③発展性については、遺跡の公開・活用が求められる現在、その手法として復原建物の建設は今後も一定の需要があるものと考えられ、本研究の成果はそれらの保存、維持において大きく寄与しうるものと考える。④効率性について、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。

観点	①　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等数：1 件	定量評価 －

柳成煜他「モンゴル国・ウグンヒド寺院遺跡出土の壁画顔料に関する科学的調査」『文化財科学』、第 81 号、pp. 37-48

中期計画評価	B

中期計画記載事項	8)建造物の彩色に関する調査研究 南都の寺社等の歴史的建造物の塗装彩色の修理に資するため、技法及び材料調査を実施するとともに、復元された平城宮跡大極殿において塗装彩色の経年変化のモニタリング法に関する研究を行う。
評定理由	2 年度は新型コロナウイルスの影響により、中国故宮博物院やモンゴルの寺院壁画を対象とした現地調査が実施できなかった。しかし、主に平城宮跡大極殿を調査対象とした気象条件の実測調査を継続して実施していること、及び元年度までに塗装の劣化に大きく影響を及ぼすと考えられる塗装材料に関する基本的な物性値を蓄積していることから本中期計画の目標を概ね遂行出来ており上記の評価が妥当と考える。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2229E

中期計画の項目	2-(2)-②-9)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-9)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 近代文化遺産の特徴である煉瓦・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。令和2年度はこれまで調査してきた建造物のその後のフォローアップを行うとともに、保存活用に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○早川泰弘（センター長兼近代文化遺産研究室長）、中山俊介（特任研究員）、中村　舞（アソシエイトフェロー）、鳥海秀実（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○近代文化遺産の所有者である地方自治体が組織する保存や修理に関する調査・検討等の委員として、近代文化遺産の保存活用に関する調査・助言を行った。
○これまでの現地における調査研究のフォローアップを実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により現地調査が実施できなかった。
○元年度の研究成果をまとめた報告書『内部造作の保存と修復』を刊行した。
○30年度の研究成果をまとめた報告書『鉄構造物の保存と修復』の英語版を刊行した。
○近代文化遺産の所有者／指定管理者向けに近代文化遺産の活用に関するアンケート調査を実施し、集計結果を整理した。
○産業遺産に関する文献及び関連するスライド3万点余りについてウェブサイトでの公開を目標としてデジタル化作業を実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

2年度は新型コロナウイルスの影響を受けて、国内国外ともに文化財あるいは文化財の修復現場へ調査に赴くことができず、主に当研究所内で処理可能な作業に専念した。その中で以下の各観点から評価を行った。①適時性においては、国指定等の文化遺産の活用に関して、総合的に調査した事例は無く、アンケート調査を適切に実施・集計及び産業遺産に関するデジタル化作業などを着実に遂行した。そのため計画していた現地調査をほとんど実施することができなかったがB評価とした。②独創性においては、元年度に実施した内部造作に関する調査について報告書を刊行することができた。そのため新型コロナウイルスの影響により新たな調査を実施することができなかったが、B評価とした。③発展性においては、行政や現場の実務担当者にアンケートしたことで次のステップに向けた課題が明確になり、その解決に向けた発展性があることからB評価とした。④効率性においては、2年度は現地調査をほとんど実施できなかった代替として、課題の調査のデジタル化を推進し、翌年度以降の効率化の更なる拡大へ寄与したことからB評価とした。⑤継続性においては、国指定等の文化財の活用に関する調査を継続発展させ得る研究であり継続的に計画を進めている点を評価し、B評価とした。よって、2年度は新型コロナウイルスの影響により当初計画を遂行できなかったものの一定の成果を挙げたことから、年度評価をBとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・講演1件（ア） ・報告書2件（イ、ウ）	定量評価 ―

ア「近代文化遺産の保存と活用」（中山俊介、龍谷大学文化遺産学シンポジウム、12月4日）
イ『内部造作の保存と修復』（東京文化財研究所、3年3月）
ウ『Conservation and Restoration of Steel Structures』（東京文化財研究所、3年2月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	コンクリート構造物やレンガ構造等による産業・交通・土木関連の施設や機械類、合成樹脂等の複合的な材料が使われている美術工芸品など、近代文化遺産の保存や修復に必要とされる理念・技術・方法を研究し、保存管理計画等の策定に寄与する。
評定理由及び今後の見通し	28年度から2年度にかけて、煉瓦、鉄、コンクリートを用いた近代の構造物、及び合板、布、ガラスなど複数の材料から構成される内部造作について国内外の現地調査を実施し、保存・修復の考え方と手法を検討してきた。これらの調査検討を踏まえ、最終年度の2年度に調査結果のとりまとめを行った。中期計画としては当初の計画通りに進捗しており、所期の目的を達成したといえる。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2230E７

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-ア	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○早川泰弘（センター長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、秋山純子（保存環境研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○高松塚古墳壁画に関しては、修理施設内での歩行性害虫調査、浮遊菌・付着菌・落下菌調査に加え、浮遊粒子数測定、ATP 測定と空気質調査を行った。温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存環境の維持に努めた。また見学通路のガラス窓内部での結露状況を検討するため、一般公開時前後の周辺の温湿度およびガラス窓・壁の表面温度の監視を行った。さらに、一般公開時における新型コロナウイルスへの対応に関する助言を行った。
修復後のメンテナンス作業に関連する調査研究としては、漆喰部分・補填箇所について、状態変化の有無に関する確認を定期的に行った。また、別置保存している目地該当部分の星宿金箔について、壁画と一体化させる方法について検討した。

石材目地部分充填材の付着性確認試験

○キトラ古墳壁画に関しては、「四神の館」における保存及び公開の際の環境管理について調査協力を行った。集中メンテナンスや壁画の蓋の試作など、保存状況の改善について協議や検討を行った。また、「辰」「巳」「申」が存在すると推定される泥に覆われている漆喰片について、これまでの X 線透過撮影結果を踏まえ、テラヘルツ分光分析及び蛍光 X 線分析による調査を実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、修理終了後の高松塚古墳壁画の保存方法の検討、キトラ古墳壁画の保存環境管理への協力、さらには両古墳壁画の一般公開時の新型コロナウイルスへの対応などを行ったことからＢと判定した。②独創性においては、日本では他に行われていない古墳漆喰壁画の修復方法を検討し、得られた成果を修復現場に還元したためＡと判定した。③発展性においては、キトラ古墳壁画の泥に覆われた漆喰の画像調査に取り組んだことからＢと判定した。④効率性においては、限られた人員の中で複数のテーマを遂行しており、Ｂと判定した。⑤継続性においては、古墳解体以降 10 年以上にわたり現場での検討を続けており、今後の活用に向けた継続性もあることからＡと評価した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・学会発表 1 件（ア）	―

ア「X 線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査」（犬塚将英　他 4 名、日本文化財科学会第 37 回大会、2 年 9 月 5-13 日）

中期計画評価	B

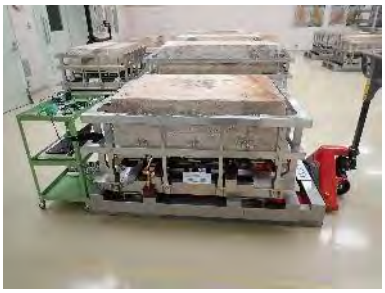
中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	中期計画に沿った成果が得られている。2 年度は高松塚古墳、キトラ古墳ともに新型コロナウイルスの影響により予定していた事業を計画通り実施することができなかったが、今後の事業発展につながる具体的成果が得られたため、順調に推移していると評価することができる。これまでの成果は両古墳壁画のみならず、他の様々な文化財の保存修復に寄与することができるものである。よって、今中期全体を通して順調かつ効率的に事業が推移したと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230Fア

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-ア	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（副所長）、清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部遺跡研究室長）	

【年度実績と成果】

古墳壁画保存対策 PT（発掘班・保存整備班・修復班・材料調査班・生物環境班）：
東文研と当研究所で構成


高松塚古墳石材の輸送時加速度計測

○高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
・石材及び漆喰の安定化を検討するため、異なる含水状態における石材の引張強度や膨潤率の実測、石材と漆喰の平衡含水率測定、それらの物性値から推定される内部応力と強度の比較を行った。また石材のクラックの発生状況を記録する手法として SfM の妥当性について検討した。さらに元年度に引き続き高松塚古墳の石材輸送時に発生する振動、加速度計測を行った。
・古墳壁画の保存活用に関する検討会に職員を派遣した。
○文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的協力
・壁画の現状を把握するため、種々の分析調査を実施した。壁画を安全に測定することのできる X 線回折装置の精度向上を図り、2 年度はテストピースを対象に機器精度の評価を行った。
・類似古墳調査の一環として、視察調査を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】
下記観点から評価を行った。①適時性：古墳壁画の保存活用に関する検討会において委員から求められた検討課題について答申するよう、適切に各調査を進めた。②独創性：壁画を安全に分析するための X 線回折装置の分析精度を向上させるための基礎データを集積し、改良を加え、実用化を行うことができた。③発展性：将来的な石室石材の安定化と公開に向けた検討を行うために、石室石材及び漆喰についての水分移動物性に関する基礎データを収集することができた。④効率性：再構成されたキトラ古墳壁画の表面状態を 3 次元的に記録するために SfM-MVS 技術を応用することで、簡便かつ迅速に 3 次元情報を得ることができた。⑤継続性：高松塚古墳及びキトラ古墳の壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び管理・活用の体制を構築して事業を継続するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に今後も対応していくことにしている。以上のことから、所期の事業目標を量的にも質的にも超えて達成したということできる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・研究発表等数：1 件（ア）	定量評価 －

ア　犬塚将英・早川典子・大場詩野子・早川泰弘・高妻洋成「X 線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査」日本文化財科学会第 37 回大会、2 年 9 月 5 日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	第 4 期中期計画最終年度にあたる 2 年度は、キトラ古墳壁画保存管理施設の適切な運用・管理を行うとともに、壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用や、壁画を安全に分析するために開発したＸ線回折装置の実用化など、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施することができた。第 4 期中期計画を通じても、両古墳の調査及び保存・活用に資する事業を推進するとともに、類似する古墳等の調査にも臨機応変に対応してきたため、計画を達成したと判断し、Ａ評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230Fイ

中期計画の項目	(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)-イ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な石室内の熱水分環境について調査研究を行う。
プロジェクト名称	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・宮崎市蓮ヶ池横穴群では横穴の保存を担保しつつ内部を公開する手法を検討するため、2 年度も横穴内部の温熱環境調査と石材劣化状態調査を継続して実施した（12 号、16 号、17 号及び 53 号横穴）。冬季に横穴を閉塞して内部の乾燥を抑制するとともに、夏季を中心に開口することで内部を公開しつつ、石材表面の乾燥を抑制する運用方法のもと横穴内部の温熱環境について実測調査を実施した。これまでの調査成果をまとめて『文化財科学』に投稿した。

・京大桂キャンパスに所在の模擬古墳を用いて、石質内部の熱水分環境の実測調査、金属試料の暴露試験を行い、温熱環境、水分環境の形成プロセス、腐食メカニズムについて検討した。得られた成果の一部を『考古学研究』に投稿した。

・日田市ガランドヤ古墳 1、2 号墳、及び墳丘の被覆状況が異なる法恩寺山 3 号墳と穴観音古墳の計 4 基の装飾古墳において環境調査を継続して実施した。2 年度は仮設保護施設が設置された 2 号墳は保存環境が大きく変化したことから、施設内部の温熱環境の現状についてデータ収集につとめた。さらに今後の保存環境解について検討を行った。

2 基の横穴の温熱環境比較調査

・熊本地震で被災した永安寺東、西古墳や井寺古墳において石室内部の温熱環境データの解析を行った。また被災した墳丘封土の緊急措置として透水性シートが張られた釜尾古墳において、墳丘封土の含水状態調査を実施し、施工後時間の経過とともにシートの透水性状が向上し、封土の含水状態が上昇していることが示唆された。

・墳丘上に繁茂する樹木が伐採された熊本市の千金甲古墳において、樹木の伐採が墳丘封土及び石室内部の水分環境、温熱環境におよぼす影響について検討するため、墳丘現地に気象観測装置を設置しデータ収集を行った。

・漆喰の平衡含水率測定や細孔径分布計測から水分移動特性の検討を行い、古墳壁画の保存環境について検討した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国内に多数の壁画を有する古墳が存在する中で、安定した保存、公開方法を確立するため、壁画及び装飾の現地での保存の可否の判断を行う根拠となる情報の蓄積を行った。②独創性においては、装飾古墳及び模擬古墳における環境の実測調査に基づき、古墳石室内での壁画の劣化モデルを構築し、解析的な手法による評価技術の開発を行った。③発展性においては、古墳の立地や構造は様々ではあるものの、汎用性の高い土中空間での熱水分環境のシミュレーションモデルを国内の多くの壁画古墳に広く適応し、科学的な根拠に基づく壁画古墳の保存法が提示されると期待される。④効率性においては、実験条件を同一に整えることができる模擬古墳において、様々な環境計測機器を設置したことで、自由度が高く、継続的かつ効率的に環境及び遺物の劣化状態に関するデータを収集することができた。⑤継続性においては、装飾古墳、模擬古墳における調査ともに、定期的に現地における調査を実施し、継続して研究事業を遂行している。以上のように、所期の目標を上回る成果があがっていると認められ、Ａと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等数：2 件（ア、イ）	―

（ア）脇谷草一郎、柳田明進他「模擬古墳　ー遺構・遺物の保存と活用を考えるための実験的取り組みー②模擬古墳を用いた研究の紹介とそこから見えてきた現状と課題」考古学研究、第 67 巻、pp.10-14

（イ）脇谷草一郎、柳田明進他「 A study on the preservation and opening of the Hasugaike Yokoana tomb based on the environmental survey」文化財科学、第 82 号、3 年 2 月 26 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	最終年度となる 2 年度は、これまで整備事業に参画してきた装飾古墳や、模擬古墳での温熱環境調査、遺物劣化に関するデータの蓄積を継続した。さらに、熊本地震で被災した装飾古墳の調査について継続して取り組むとともに、墳丘上の樹木の伐採によって急激な環境変化が生じ、保存の観点から緊急性の高い被災装飾古墳の環境モニタリングにも取り組んだ。また、2 年度はこれまでに蓄積されたデータを学術雑誌に投稿するなどして、研究成果を積極的に公表しており、当初設定した研究目標を概ね達成することができた。

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報や国内で要望の高い情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 ア　文化遺産の調査や保護に関わる主要な国際会議に出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国における文化遺産保護施策の検討の用に供する。 イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○西和彦（国際情報研究室長）、境野飛鳥（アソシエイトフェロー）、藤澤綾乃（研究補佐員）、石田智香子（事務補佐員）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）、石村智（無形文化遺産部音声映像記録研究室長）	

【年度実績と成果】

○新型コロナウイルスの流行下であることを考慮しつつ、文化遺産保護に関する情報収集のため以下の国際会議やシンポジウムにオンラインで参加した。

・11 月 19～20 日　2020 HeritAP Webinar: Impact of COVID-19 on World Cultural Heritage Sites and Moving Forward

・11 月 26～27 日　国際文化財保存修復研究センター第 94 回理事会

○英国の主要な文化遺産保護関連の法令の収集・翻訳作業を実施し、その概要に関する説明（英国行政担当者に依頼）と併せて『各国の文化財保護法令シリーズ［25］英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)』として刊行した。併せて、これまでに刊行した冊子のうち可能なものについて WEB での公開準備を行った（実際の公開は WEB システムの移行等の関係により 3 年 4 月以降を予定)。

○世界遺産の遺産影響評価の実施において重要な「世界遺産の価値の属性（attribute)」について整理し、国際的な議論を行うため、各国の専門家に寄稿を依頼して『Attributes - a way of understanding OUV』として刊行した。

○各種情報収集の成果を国内に還元するために毎年行っている世界遺産研究協議会については、2 年度はその実施が困難であり、またテーマとして選択した「文化財の『整備』を対外的にどのように説明するか」という内容を議論するにあたって広範な現状の整理が必要となることから、2 年度についてはその現況整理を行い、報告書の形で刊行した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、近年の世界遺産申請プロセスにおいても課題となっている世界遺産に関する整備の問題を取り上げ、また同様に喫緊の課題である遺産影響評価の実施に関連する「価値の属性」に関して冊子を刊行するなど、文化遺産保護の最新の国際動向を把握し、詳細かつ時宜に適う提供ができた。②独創性においては、スタッフの専門知識とネットワークを活用して独自の情報を収集し、継続的なトレンドに関する知見を基にした分析と発信を行った。③発展性においては、文化財保護法令シリーズにおいては法令の翻訳のみならずその背景に関する詳細な説明を付し、また世界遺産の価値の考え方について世界各国の専門家の寄稿を得て冊子を刊行するなど、国際情報の国内外への発信に大きな発展を得た。④効率性においては、スタッフが関わる他の関連業務で得られた周辺情報も統合するなど、国内外のネットワークを通じ最小限の規模で着実に事業を進めることができた。⑤継続性においては、単に最新の情報のみならず、長期的トレンドを踏まえた分析に基づいて有用な情報を提供した。また、文化財保護法令シリーズについては我が国で参照されることが多い一方で、法令そのものの構成においても特徴的な英国を取り上げ、25 冊目を刊行することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。以上により、国際的な活動が極めて困難な状況下においてなお、追加で冊子の刊行を行うなど、所期の計画を上回る成果を上げたと判断できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・(参考値) 国際会議（オンライン）出席 2 回、刊行物発行 3 冊（ア、イ、ウ）	―

ア『各国の文化財保護法令シリーズ［25］英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)』(3 年 3 月 31 日)
イ『令和 2 年度世界遺産研究協議会　「整備」をどう説明するか（第一部)』(3 年 3 月 31 日)
ウ『Attributes - a way of understanding OUV -』(3 年 3 月 31 日)

中期計画評価	A
中期計画記載事項	海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
評定理由	中期計画期間中に、継続的に文化遺産保護に関する国際情報の収集・分析を行い、着実に情報発信と成果公表を行い、国内外の研究ネットワーク強化に努めた。最新かつ国内での要望が高い情報を積極的に収集したほか、その分析と併せて成果の周知を図るための報告書等の刊行に加え、国際的な議論の場を提供し、また過去の成果物のウェブサイト上での公開準備など、計画を超える成果を上げることができた。以上により、当所の中期計画を上回る成果をあげることができた。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fｱ

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ｱ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報や国内で要望の高い情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 ア　文化遺産の調査や保護に関わる主要な国際会議に出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。
プロジェクト名称	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（ユネスコ等）	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）、杉山洋（企画調整部客員研究員）	

【年度実績と成果】

9月、文化遺産国際協力コンソーシアム 第31回東アジア・中央アジア分科会（オンラインでの開催）において、庄田が「カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」と題する話題提供をおこなった。

11月、第44回韓国考古学会全国大会にて、庄田が招待講演「土器に入れられた食材の多様性 - 新石器時代と青銅器時代の比較 -」及び討議をオンラインで行った。

11月、庄田がイギリスの研究者らとの共著論文 *Investigating the formation and diagnostic value of ω-(o-alkylphenyl)alkanoic acids in ancient pottery* を国際学術誌 Archaeometry において刊行した。

2月、東南アジアの民族考古学に関する講演会（岡山理科大学徳澤啓一教授による）を開催した。

3月、東南アジア陶磁器の寄贈コレクションに関する報告書『寄贈岸良コレクション図録２』を刊行した。

YouTube 及び Zoom 上での韓国考古学会における総合討論の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、渡航が難しい中でオンラインによる適切な事業運営協力を行った。②独創性においては、当研究所の得意とする考古科学の分野について独自性のある成果発表を行った。③発展性においては、英国等との今後のさらなる学術交流等の協力関係について確認した。④効率性においては、オンラインツールを用いた効率的な事業展開を進めた。⑤継続性においては、元年度からの刊行物のシリーズを継続して出版した。全体として、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）論文等発表実績　1件 Bondetti et al. 2020. Investigating the formation and diagnostic value of ω-(o-alkylphenyl)alkanoic acids in ancient pottery, *Archaeometry* doi.org/10.1111/arcm.12631	―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。 また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
評定理由	新型コロナウイルス感染拡大のために、海外渡航による情報の収集は難しくなったが、それにかえて国内での研究やオンラインツールを用いた発信に力を入れることで、当初の目的を達成するための事業を展開することができた。このため、第４期中期計画期間を通して、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信することができたことから、中期計画を遂行できたと評価した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fイ

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報や国内で要望の高い情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
プロジェクト名称	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（イギリス等）	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

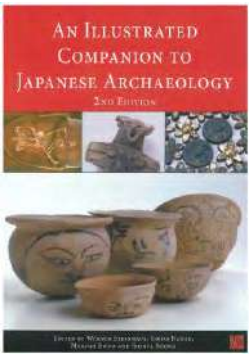
4月、元年度1月から招聘していたイギリス・ヨーク大学考古学科オリヴァー・クレイグ教授の招聘事業を完了した。

9月、日本文化財科学会第37回大会にて、庄田がイギリス・ヨーク大学の研究者らと共同で「土器残存脂質からみた平安時代の牧における動物利用」と題する研究発表をオンライン形式でおこなった。

11月～12月、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と奈良文化財研究所等の共同プロジェクト*"Nara to Norwich: Art and belief at the extremities of the Silk Roads CE500-1000"*(代表：サイモン・ケイナー　セインズベリー日本藝術研究所長)の、イギリスArts and Humanities Research Counsil(AHRC) standard research grant応募のための準備を進めた。

11月、日本考古学の成果を英語で紹介する書籍*"An Illustrated Companion to Japanese Archaeology 2ne Edition"*をイギリスの出版社であるArchaeopressより刊行した。

これらに加え、イギリス・ヨーク大学考古生化学研究所（BioArCh）と共同で、遺物の残存有機物分析を通年で進めている。



日本の考古学を紹介する英文書籍第2版の刊行

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、渡航が難しい状況の中で適切にオンラインツールを用いた事業を展開した。②独創性においては、イギリスの研究機関との独自性のある共同研究を行った。③発展性においては、今後のさらなる協力関係について確認した。④効率性においては、オンラインツールを効率的に用いた。⑤継続性においては、元年度からの引き続きの事業を3年度以降も継続予定である。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）Werner Steinhaus, Simon Kaner, Megumi Jinno & Shinya Shoda eds. 2020. *An Illustrated Companion to Japanese Archaeology 2ne Edition*. Archaeopress, pp.341.	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。 また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
評定理由	イギリスとの共同研究・事業の成果を国内学会で発表するとともに、セインズベリー日本藝術研究所、ヨーク大学考古学科考古生化学研究所など国際的に著名な研究機関との共同事業を展開することができた。また、今後の事業展開についても、セインズベリー日本藝術研究所との新たなプロジェクトを計画するなど、発展性も確保した。このため、今中期計画期間を通して英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行うことができ、中期計画を遂行できたと評価した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312E ｱｲ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ｱ)・(ｲ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。 (イ)西アジア・中央アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にカザフスタン等において文化遺産保護協力事業を実施する。
プロジェクト名称	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** 友田正彦（文化遺産国際協力センター長）、○金井健（保存計画研究室長）、安倍雅史（研究員）、間舎裕生、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（以上、アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○カンボジアのアンコール・タネイ遺跡の保存整備に関してアンコール地域保存管理機構（APSARA）との協力事業を継続した。2 年度当初より新型コロナウイルスの影響により現地への渡航が困難になったことから、進行中の東門の解体修理に関して ICT 技術を活用した現場との情報共有を行うとともに、進捗状況に応じてオンライン会議を適宜開催した（月 1 回程度)。6 月と 11 月の 2 回、国際調整委員会（ICC）に進捗報告書を提出するとともに 1 月開催の ICC 技術会合に対しては事業成果の発表ビデオを提出した。2 年度の修理工程は次のとおり（会議の主な協議事項)。4 月～7 月：基壇の補強と再構築（基壇内の補強方法、基壇外装の修理方法)、7 月～8 月壁体最下段及び床面の再構築（上部構造の再構築及び補修と補強方法)、8 月～10 月壁体の再構築（東西扉口上部の補強方法)、10 月～12 月屋根の再構築（屋根中央部の補強方法)。

○11 月 12 日及び 25 日、近年の協力事業の相手国であるアジア 4 カ国（パキスタン、ネパール、カンボジア、イラン）の現地担当者を対象に、三次元写真測量の基礎的技術に関するオンライン研修を行った。受講者 24 人。

○ペルシア湾岸諸国を対象に不動産文化財保護協力の可能性に関して、当該国で活動する学識経験者等に対するオンラインインタビューを行った。11 月 18 日:サウジアラビア、11 月 26 日：バハレーン、12 月 10 日：オマーン、3 年 1 月 18 日：水中文化遺産

○11 月 21 日、海外専門家 3 人を講演者とする、東南アジアの木造建築の保存修理に関する研究会をオンライン開催した。聴講者 56 人。

年度計画評価	B

【評定理由】

カンボジア・アンコール・タネイ寺院遺跡東門の修理工事では、遺跡整備構想に基づく計画的な実施が求められる中、ICTを積極的に活用してリアルタイムでの情報共有や要所でのオンラインミーティングを行い、特に構造補強に対して的確かつ効率的な技術協力ができ、高い①適時性と④効率性が認められる。また、アンコール遺跡の協力事業は、APSARA 、奈良文化財研究所との三者で取り交わした MOUに基づいて行っているが、2020年期限の現 MOU下での成果に対して先方からの高い評価を得て 2025年まで更新したところであり、高い③発展性と⑤継続性を有する。協力事業の相手国に対する三次元写真測量研修は、現地での活動が不可能な中、ICTによる先方との情報交換を通じて把握した喫緊の要望を急遽オンライン研修として行ったもので、①適時性があるとともに④効率性が高い。湾岸諸国に対するインタビューは、経済発展の中で文化遺産保護分野でも対外開放の施策が進められている湾岸諸国で、新たな国際協力事業の開拓を志向する点に①適時性と③発展性がある。研究会は東南アジアの木造建築を対象に行ってきた年次研究会の最終回であり、前 3 回の学術的な議論を下地に、今回テーマに掲げた文化遺産保護実務の中核である「保存修理」まで議論を深化させることができた点に②独創性と⑤継続性がある。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	A	B

【目標値】	**【参考値】** ・オンライン会議 7 回、オンラインインタビュー4 回、専門家招待（オンライン）1 回（3 人)、論文 1 件（日本建築学会)、学会等報告 2 件（ICC)、学会等発表 2 件（ICC、東南アジア考古学会)、報告書作成 4 冊	定量評価 ―

ア　報告書『アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和 2 年度成果報告書』、3 年 3 月
イ　報告書『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor －Progress Report of 2020 -』、3 年 3 月
ウ　報告書『東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理　研究会記録』、3 年 3 月
エ　報告書『ペルシア湾岸諸国における文化遺産保護の現状』、3 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	アンコール・タネイ寺院遺跡の保存整備協力事業では、APSARA と共同で保存整備構想を策定するとともに、東参道周辺の考古発掘調査や中央伽藍の危険箇所調査など適時性の高い調査研究を進め、元年度に始まった東門の修復工事に対しては、2 年度のコロナ禍においても情報通信技術を積極的に活用することで技術協力を完遂することができた。アルメニアやイランなど他の各国に対しても要望に基づく研修等を計画通りに進めるとともに、2 年度においても研修や 協力ニーズ調査等をオンラインで実施、研究会もオンライン開催とすることにより、中期計画の 5 年間を総括して順調に遂行できたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312Eウ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ア)・(エ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。 (エ)上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	保存修復技術の国際的応用に関する研究	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人（技術支援研究室長）、前川佳文（研究員）、牛窪彩絢（アソシエイトフェロー）、小峰幸夫（保存科学研究センター前アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○ミャンマーのバガン遺跡における 煉瓦造建造物外壁及び壁画保存修復技術に関して、ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局バガン支局(DoA Bagan)との協力事業を継続した。当初計画では、7月と1月に同遺跡 Me-taw-ya 寺院及び Lokahteikpan 寺院での現地専門家を対象とした人材育成及び保存修復事業を実施する予定であったが、現地渡航が困難となったことから、リモート会議を通じて維持管理に係る技術指導を行った。

○現行の壁画断片保存修復方法にみられる問題点を見直し、新たな技法を開発することを目的とした研究を行った。

○亜熱帯気候における石造漆喰塗文化財の保存に向けた事例研究として、漆喰塗り石造墓である 旧和宇慶家墓（石垣市）を対象にした 調査を行った。

○10月、11月、国内における石造文化財の保存修復分野で問題となっている課題点を、欧米諸国の保存修復手法を活用して改善に導くための基礎的研究として、修復事例収集を目的とした国内視察調査を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

ミャンマーの協力事業は、新型コロナウイルスの影響を受けて現地での活動はできなかったものの、これまでの取組みは同国機関から高く評価されており①適時性及び⑤継続性があると評価できる。また、事業開始当初より要望の強かった保存修復方法の改善に係る成果は着実に向上しており②独創性が高く③発展性が期待できる。トルコを対象国とした共同研究は、過年度からの協力事業の中で浮き彫りとなった問題点の解決に向けた取組みであり①適時性及び②継続性を有する。また国内における壁画及び石造文化財の保存修復方法に係る研究では、国内外の専門家と協力・分担しながら進めている点で④効率性があり、③発展性が期待できる。以上により、新型コロナウイルスの影響から当初計画を遂行できなかったものの、一定の成果を挙げたと判断できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・（参考値）論文発表1件（ア）、報告書作成3冊（イ～エ）	定量評価 —

ア　論文発表『ミャンマー共和国バガン遺跡ロカティーパン寺院壁画の保存修復と国際協力事業』3年3月
イ　報告書『Me-taw-ya Temple Project “Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205a Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar 2016-2020”』3年3月
ウ　報告書『Lokahteikpan Wall painting Project, pagoda 1580 “Capacity Building Report; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan ’adorning the world from above’ Pagoda 1580, Archaeological zone of Bagan, Myanmar”』3年3月
エ　報告書『旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究　令和2年度成果報告書』3年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	今中期計画を通し、文化遺産保護に関して現地が抱える事案について協議し、改善に向けた調査研究を続けてきた。得られた成果は、改善策の提案や現地専門家の育成に活用してきたが、いずれも高い評価を得ることができた。また、協力関係の継続を所望する声が多く聞かれたことから、専門家ネットワークの構築や基盤強化に繋がる活動であったと評価できる。以上のことから、今中期計画は一定の目標が達成できたといえる 。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312Fア

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(7)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。
プロジェクト名称	文化財保護に関する国際協力の推進	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、杉山　洋（同客員研究員）	

【年度実績と成果】

2年度は、元年度から引き続きカンボジア・アンコール遺跡群、西トップ遺跡の調査修復事業において中央祠堂の解体・再構築作業を行っている。2年度は中央祠堂中成基壇の再構築から開始し、9月段階で上成基壇まで完成した。10月以降は躯体部の再構築作業に移っている。

2年度の成果として、カンボジア文化芸術省所管アンコール保存事務所との協力体制の強化が挙げられる。躯体部の再構築にあたり、アンコール保存事務所に保管されていた西トップ関連石材のうち、再構築に必要なリンテルなどの装飾石材の返還を申請した。奈良文化財研究所が長年アンコールで着実な成果をあげていることが評価され、文化芸術省大臣の承認を得て、西トップ遺跡現地に約30年ぶりに装飾石材が里帰りした。

西トップ遺跡　中央祠堂修復の様子

2年度はコロナ禍のため、日本から渡航することが困難になったが、現地のカンボジア人スタッフが修復事業を着実に進捗させている。日本・カンボジア間でオンラインでの技術的・事務的なミーティングを経れば、カンボジア人自身の手で文化財の修復を進めていくことが可能となっている。

通年、年2回開催される国際調整委員会は、6月は書面のみの開催となり、1月には書面報告と現地カンボジア人調査員による事業報告を行った。また、2年度末に予定していた若手研究者の招へい事業は、コロナ禍のため中止となった。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、アジアの文化遺産に関する国際協力が必要とされる昨今、適時的に対応できている。②独創性においては、アンコールにおける初期上座仏教寺院の初めての本格的な調査・修復として注目されている。③発展性においては、今回の調査修復によって、アンコール王朝末期の歴史観に一石を投じる結果となり、調査研究のさらなる発展が見込まれる。④効率性においては、現地に作業員などを適切に配することによって効率的な調査修復を行っている。⑤継続性においては、3年度以降、テラス遺構と周辺の整備を行う予定で、全体の継続性が保たれている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 国際技術調整委員会6月書面で発表、国際調整委員会1月発表 論文等発表実績　2件　学会、研究会等発表実績　1件 大林潤「西トップ遺跡建築調査―2019年度の成果―」『奈良文化財研究所紀要2020』 佐藤由似、杉山洋「西トップ遺跡の調査と修復―中央祠堂基壇部の解体・再構築―」『奈良文化財研究所紀要2020』 佐藤由似「アンコール王朝末期西トップ遺跡調査成果とその検討」東南アジア考古学会大会12月12日	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	事業は全体的に順調に推移している。カンボジアにおけるカウンターパートであるAPSARAとの協同によって、ユネスコ専門家委員からも高評価を得ていると言え、今中期計画を十分に達成したと言える。このため、今中期計画期間を通して、カンボジアなどASEAN諸国における文化遺産保護協力事業を推進することができ、中期計画を遂行できたと評価した。次期中期計画でも、引き続き西トップ遺跡の整備事業をすすめると同時に、報告書作成に向け、遺跡の調査を進展させるなどを予定している。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312Fイ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(イ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (イ)西アジア・中央アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にカザフスタン等において文化遺産保護協力事業を実施する。
プロジェクト名称	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

9月、筑波大学に本拠をおく新学術領域研究「都市文明の本質」A01計画研究第11回研究会にて、庄田が「東アジア先史時代の土器の用途をさぐる」と題する招待講演をオンラインで行った。

11月、アメリカ合衆国ワシントン大学セント・ルイス校主催の国際オンラインシンポジウム8th McDonnell Academy International Symposium *The Origin of Eurasian Foodways and Cuisines: Environmental challenges and culinary solutions to food globalization in prehistory* において、庄田・村上が *Prehistoric Pottery and Beyond: Biomarker and Isomeric Identification of Crop Consumption Across Eurasia* と題する研究発表を行った。

1月、久米正吾東京藝術大学社会連携センター特任講師によるオンライン講演会「中央アジア東部山岳地帯への農耕牧畜の波及ーその背景を文化と環境の両面から考えるー」をおこなった。

3月、西アジア・中央アジアから東アジアに及ぶ題材を扱った共著論文「甘樫丘東麓遺跡出土コムギ炭化種子のユーラシア考古植物学的位置づけ」を刊行した。

オンラインでの国際シンポジウム参加

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、渡航が難しい中でオンラインなどによる適切な事業運営協力を行った。②独創性においては、当研究所の得意とする分野について、国内外の研究者との、奈文研独自のネットワークを活用して、独自性のある成果発表を行った。③発展性においては、国際シンポジウムにより研究成果を発表するとともに、各研究機関と今後のさらなる協力関係について確認した。④効率性においては、オンラインツールを用いた効率的な事業展開を進めた。⑤継続性においては、西アジア・中央アジア諸国の文化財の専門家と引き続き協業を予定している。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 庄田慎矢・バンダリ スダルシャン・佐々木由香・村上夏希・劉歆益 2021「甘樫丘東麓遺跡出土コムギ炭化種子のユーラシア考古植物学的位置づけ」『奈文研論叢』2号	定量評価 ―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	中期計画最終年度にあたる2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外への渡航が難しい状況が続いたが、西アジア地域を専門とするアソシエイトフェローを新規採用するなどの新しい展開に加え、西アジア・中央アジアの文化遺産に関連する研究発表や論文刊行などの成果をあげることができた。このため、今中期計画期間を通して西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業を推進することができ、中期計画を遂行できたと評価した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312Fウ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(エ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (エ)上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

5月、第68回質量分析総合討論会において、新しい文化財の調査研究技術に関する基調講演及び誌上発表を行った。

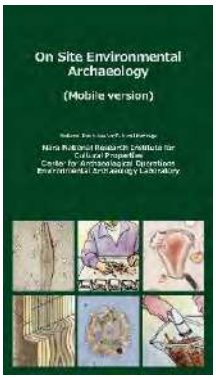
10月、発掘調査現場における環境考古学的調査に関する携帯版マニュアル『現場のための環境考古学』の英語版である *On Site Environmental Archaeology (Mobile Version)* を刊行した。

9月、総合研究大学院大学先導科学研究科蔦谷匠助教による講演「過去の生物の生きざまを復元する：安定同位体分析とプロテオミクス分析」及び澤藤りかい日本学術振興会特別研究員SPDによる講演「古代DNA分析―近年の動向とその応用例」を行った。

10月、大韓民国忠南大学校百済研究所主催の国際学術大会「韓・中・日古代の照明文化」にオンライン参加し、奈良文化財研究所神野室長、桑田主任研究員による講演及び通訳を行った。

11月、筑波大学下田一太准教授と共同で、研究セミナー「7世紀カンボジアの古代都市サンボー・プレイ・クック遺跡群の整備と活用に関するセミナー」を、日本とカンボジアをオンラインでつないで開催した。

12月、奈良文化財研究所客員研究員松本啓子氏による講演会「マジョリカ・アルバレルロと天正少年遣欧使節―日本にヨーロッパ情報を伝えたのは誰か？―」を開催した。



英語版環境考古学マニュアル

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、新しい文化財の調査研究について、コロナ禍の中で、オンラインツールなどを用いて適切に事業を行った。②独創性においては、海外の最新事例や成果と共働している点を評価した。また、様々な国と地域の研究機関と共同研究するなど、事業展開を行った。③発展性においては、環境考古学マニュアル（英語版）を刊行するとともに、今後の研究展開について議論した。④効率性においては、テーマごとの適任者による講演を行うなど効率的な運営を行った。⑤継続性においては、様々な媒体について共同研究の成果を発表し、今後も協力者らとの協業を予定している。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）Shinya Shoda “Why Humans Invented Pottery? -An Approach from Mass Spectrometry”第68回質量分析総合討論会（5月11日開催）	―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	中期計画の最終年度である2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、海外の調査現場への渡航ができなくなった。そのため、国内における関連分野の国際的な研究動向の把握や、オンラインツールを用いた海外との情報交換を積極的に進めることで、当初の目的に沿った事業を展開した。また、今後の国際協力にも資する英語教材の作成にも力を入れた。このため、今中期計画期間を通して文化遺産保護協力事業を推進することができ、中期計画を遂行できたと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2313E-1

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ア　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）等と協力し、紙文化遺産などに関する国際研修、国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産保存担当者と共有し、且つ専門家ネットワークを構築する。
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人（技術支援研究室長）、清水綾子、片渕奈美香（以上、アソシエイトフェロー）、江村知子（文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長）	

【年度実績と成果】

○作品修復事業を以下の通り実施した。
・ナショナルギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　親鸞聖人絵伝　絹本着色　掛軸4幅　修復完了、輸出
・ナショナルギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　般若図　絹本着色　掛軸1幅　輸出
・モントリオール美術館（カナダ）所蔵　女房三十六歌仙貼交屏風　紙本金地着色　屏風　6曲1双　輸入
・モントリオール美術館（カナダ）所蔵　熊野曼荼羅　絹本着色　掛軸1幅　輸入
○報告書を作成、刊行した。
・インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　煙寺晩鐘図・平沙落雁図　紙本墨画　掛軸2幅
・インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　太公望図・林和靖図　紙本墨画　掛軸2幅
・インディアナポリス美術館（アメリカ）所蔵　八橋図・檜図　紙本金地着色　6曲1双

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年日本の修復技術・材料に対する海外からの注目が集まっている。また引き続き、本事業への参加及び日本古美術品の保存修復に対する問い合わせがあり、その需要は高い。これらの需要に即応し、作品修復を実施できたことから適時性が高いと判断した。②独創性においては、日本美術品についての専門的な修復技術・知識を必要とする本事業は、当研究所の知見を活かした事業であり、他では行われていないので高く評価した。③発展性においては、修復することにより海外において日本の文化財の活用が進んだ。更に成果を日本語及び英語などで国内外へ発信したことで技術の応用も期待できる。④コンピュータやインターネット回線を使用した中間視察、修復経過報告、輸出時のコンディションチェックなどを実施することで新型コロナウイルス感染症流行前に比べ効率性を高く向上させた。⑤継続性においては、2年度においては、オンライン等で代替することのできない現地調査、実作品調査を行うことができなかったが、作品修復、また修復処置に対する助言等、海外の博物館美術館からの要望が高く、これまでの実績と合わせ、継続性を有する。

以上のことから、新型コロナウイルスの影響はあったものの、全体としては概ね順調に事業を遂行したと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・（参考値）作品輸出（返還）2件、修復新規受け入れ2件、報告書4件	—

『在外日本古美術品保存修復協力事業』3年3月26日
『平成29年度　在外日本古美術品保存修復協力事業　檜・八橋図　No.2017-1』、3年3月26日
『平成29年度　在外日本古美術品保存修復協力事業　林和靖・太公望図　No.2017-2』、3年3月26日
『平成29年度　在外日本古美術品保存修復協力事業　煙寺晩鐘図・平沙落雁図　No.2017-3』、3年3月26日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。
評定理由	前中期5か年からの継続作品2件に加え、次期中期計画での事業継続も見据えた新規受け入れ作品も含めて今中期5か年で9件の作品を受け入れて修復を行った。2年度は2件を無事所有者に返還し、併せて、2年度までに修復が完了した作品に関しては報告（日英）を刊行した。以上の理由から、中期計画の5か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2313E-2

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ア･イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ア　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）等と協力し、紙文化遺産などに関する国際研修、国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産保存担当者と共有し、且つ専門家ネットワークを構築する。 イ　ユネスコ･アジア文化センター（ACCU)等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	国際研修	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○加藤雅人(技術支援研究室長)、五木田まきは（アソシエイトフェロー)、後藤里架（前アソシエイトフェロー)	

【年度実績と成果】

○メキシコ研修「Online Seminar International Course on Paper Conservation in Latin America 2012-2019」の開催
・日時及び場所： 12 月 4 日～11 日、オンライン開催
　主催：メキシコ文化省国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復機関（CNCPC-INAH)、東京文化財研究所、ICCROM
・参加者所属国：アルゼンチン、エクアドル、キューバ、コロンビア、スペイン、チリ、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、メキシコ
・内容：参加者による報告（技術の応用、クリーニング、普及、教育、接着剤、補修、裏打ち、平面化)、総合討議

○国際研修「紙の保存と修復」報告書の作成
・内容：講義（保護制度、紙、伝統的接着剤、無形文化遺産、刷毛)、装潢修理技術実習（巻子修復、掛軸・屏風の取り扱い)、施設見学、ディスカッション

○記録動画の制作
・内容：装潢修理技術実習（巻子修復)

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、海外の美術館・博物館、修復関係者等からの要望が常に高く例年開催しているところを、2 年度は新型コロナウイルス対策のためオンラインセミナーを開催した。また需要のある報告書を作成した。②独創性においては、研修内容が当研究所の基礎研究及び調査に基づいており、他では企画できない独自のものである。③発展性においては、日本の紙文化財だけでなく海外の文化財の修復にも応用が可能である。2 年度のセミナーでは研修参加後の知見・経験の共有を確認し、今後のためのフォローアップを行った。④効率性においては、ウェブ等を利用することで、限られた時間と移動の制約がある中で効率的に事業を行うことができた。⑤継続性においては、参加者の好評を得ており、今後の継続あるいは関連研修の開催が望まれている。以上のことから、2 年度も新型コロナウイルスの影響による制約の中で効率的に事業を遂行したと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）メキシコ研修参加者数：34 人、報告書 1 件、記録動画 1 件	定量評価 -

『国際研修「紙の保存と修復」2019』3 年 3 月 31 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。
評定理由	国際研修「紙の保存と修復」は、25 年以上にわたり、内容及び運営方法を改善しつつ開催してきており、今中期においても研修生はもとより外部からも好評を得ることができた。派生である「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」も今中期が中期計画で 2 期目となり ICCROM コースとして定着することができた。2 年度は両コースにおいて、中期計画最終年度として、報告書作成あるいはセミナー等のまとめを行うことで、研修修了者へのフォローアップとともに次期中期計画に向けての評価を行った。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2313F

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 イ　ユネスコ･アジア文化センター（ACCU)等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** 加藤真二（企画調整部長)、○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長)、佐藤由似（同専門職)、中村一郎（写真室専門職員）	

【年度実績と成果】

２年度は、コロナ禍のため、ACCU 事業が大きな変更を余儀なくされ、招聘・派遣研修事業がオンラインへとすべて変更になった。そのため、組織間でより円滑な協力体制を築くべく当研究所と ACCU 間で覚書を交わした。

・8 月、奈良文化財研究所・ACCU 間で覚書の締結。
・9 月、ACCU 実施の「文化遺産の保護に資する研修 2020（集団研修）考古遺跡の調査記録と保存活用」に対し、研究員 9 人がオンライン講義資料を作成する協力を行った。
・11 月、ACCU 実施の「文化遺産の保護に資する研修 2020（個別テーマ研修・ブータン王国）リビングヘリテージの管理活用」に対し、研究者 1 人のオンライン講義資料を作成する協力を行った。
・12 月、ACCU 実施のオンライン国際会議「博物館と地域社会」に対し後援を行った。
・1 月、ACCU 実施の「文化遺産の保護に資する研修 2020 文化遺産ワークショップースリランカ民主社会主義共和国における研修ー」に対し、専門職員 1 人がオンライン講義資料を作成する協力を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、ACCU が実施する事業について、機会に応じて適切に協力を行った。②独創性においては、写真や考古学など、奈文研の得意とする分野について独自性のある協力を行った。③発展性においては、今後のさらなる協力関係について確認した。④効率性においては、研修や事業の性格に応じて異なるメンバーを派遣するなど効率的な協力を行った。⑤継続性においては、引き続いての事業であり、3 年度以降も継続予定である。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・9 月　ACCU「文化遺産の保護に資する研修 2020（集団研修）考古遺跡の調査記録と保存活用」、研究員 9 人による講義資料作成。 ・11 月　ACCU「文化遺産の保護に資する研修 2020（個別テーマ研修・ブータン王国）リビングヘリテージの管理活用」、研究者 1 人による講義資料作成。 ・12 月、ACCU オンライン国際会議「博物館と地域社会」に対する後援。 ・1 月、ACCU「文化遺産の保護に資する研修 2020 文化遺産ワークショップースリランカ民主社会主義共和国における研修ー」専門職員 1 人による講義資料作成。	定量評価 ー

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。
評定理由	事業の進行状況は良好であった。コロナ禍により ACCU 研修事業がすべてオンラインに変更になるなど、大きな体制の変化が生じたが、適宜対応し、国際的な文化遺産保護に関する研修事業への貢献を行うことができ、多方面にわたりユネスコ・アジア文化センターの事業への協力を行うことができた。このため、今中期計画期間を通して適時性、独創性、発展性、効率性、継続性を意識した協力・支援を行うことができたことから、中期計画を遂行できたと評価した。

【書式C】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 2320G

中期計画の項目	2-(3)-②	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
年度計画の項目	2-(3)-②	アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。 ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 ・無形文化遺産のＳＤＧｓへの貢献に関する研究 ・無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究 ・アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
プロジェクト名称	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○大貫美佐子（副所長兼研究担当室長）、佐々木一恵・池田明子・井上愛奈（以上、アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

(1)無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究 - 教育とまちづくり(ユネスコ未来共創プラットフォーム事業)

- オンライン会議を経て、事業協力機関として、バングラデシュの Dhaka Ahsania Mission、インドネシアの Dewi Fortuna Community Learning Center、キルギスの Taalim-Forum Public Foundation を選択し、Exchange of Letters の形で契約を締結した。各機関において選択した ICH と SDG 4、SDG 11 との関係について、卓上調査を中心に事例研究を実施した。
- 事例研究結果の分析を行い、ICH の SDG 4 と SDG 11 に対する貢献と役割について報告書にまとめた。
- 上記協力機関、前事業の協力機関（Vietnam Museum of Ethnology（VME）、Vietnam Institute of Educational Sciences（VNIES）、National Commission for Culture and the Arts（NCCA））、日本のリソースパーソン、日本の若者・教育関係者を招き、国際シンポジウムを開催し、事例研究成果を共有したうえで ICH、SDG4、SDG11 の関係性について議論し、日本国内の事例についても共有した。(3 年 1 月 28 日～ 29 日、オンライン)
- 調査内容及び国際シンポジウムの成果をまとめた事例集を当センターのウェブサイトにて公開した。(3 年 2 月)

(2)アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究（文化財保存活用基金）

- アフガニスタン、スリランカ（北部）、東ティモールについては、現地の新型コロナウイルス感染状況の広がり及び治安状況の悪化のため、すでに特定済みの消滅の危機に瀕する無形文化遺産について、可能な範囲での卓上調査及び小規模現地調査を継続した。アフガニスタンにおいては、バーミヤン大学と協力し、ZOOM での調査事前会合（9 月）後、10 月に 30 年度の調査の補足的小規模現地調査を実施した。また元年度より新たに、フィリピンのパートナー機関 National Commission for Culture and the Arts(NCCA)の要請により、マラウイ市での伝統工芸の試験的調査を開始し、11 月～12 月に卓上調査を含む小規模調査を実施した。
- 本事業の成果をまとめたレポートを作成した。(3 年 3 月)

年度計画評価	A

【評定理由】

無形文化遺産保護は喫緊の課題であることに加え、紛争・災害に関する事業(2)について緊急時における無形文化遺産への関心が高まりつつある国際的動向と合致し先駆的と評価できること、事業(1)も国際的枠組である持続可能な開発目標への貢献を目指すものであることから①適時性及び②独創性をＡ評価とした。またこれらの事業は対象国・ユネスコ等から高く評価されており、今後の活動への期待が大きいことから③発展性についてもＡ評価とした。④新型コロナウイルス禍にもかかわらず、人員が限られているなか、国内外専門家や現地機関等との連携により、効率的に活動を実施できた。⑤継続性においては、事業予算の安定的確保が難しい状況が依然としてあることからＣ評価とした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	C

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値)国際協力事業実施件数：2 件((1)、(2))、国際会議等開催件数：5 件、国際会議等出席件数 5 件、刊行物 4 冊	-

中期計画評価	B

中期計画記載事項	アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論について国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。 特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画期間を通して、アジア太平洋地域において活動する研究者、研究機関との連携のもと、国際シンポジウム等の開催や報告書等の刊行、継続して研究情報収集を行うなど、域内における無形文化遺産保護研究の活性化に貢献することができた。特に、平成 30 年度に開催した自然災害に関するワークショップにおいては、災害時の無形文化遺産保護やその防災・復興への活用についての提言が採択され、各国での今後の活動の進展が期待できる有意義な成果があり、無形文化遺産保護の国際的充実に資することができた。以上のことから、十分に計画を達成していると判断し、Ｂ評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2411E

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)・2)・3)・4)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。2)文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管および公開活用に関して、技術面・法律面含めたガイドラインを作成する。3)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。
プロジェクト名称	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	
文化財情報資料部	○江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、橘川英規（主任研究員）、安永拓世（主任研究員）、米沢玲（研究員）、小山田智寛（研究員）、寺﨑直子（研究補佐員）、尾野田純衣（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

展覧会のリーフレット

○全所的な文化財情報の発信：通常は年 4 回アーカイブズ WG 協議会を開催してきたが、第 1 四半期は新型コロナウイルスの影響により、メールによる意見集約・情報共有を行い、第 2 四半期以降は 3 回（7 月 16 日、12 月 3 日、3 月 16 日）、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を行うための協議を行った。

○当研究所が所蔵する今泉雄作・平子鐸嶺・田中一松による調査ノートと、京都工芸繊維大学が所蔵する土居次義による調査ノートと、東京国立博物館所蔵作品 2 点を交え、展覧会「日本美術の記録と評価―調査ノートにみる美術史研究のあゆみ―」を開催した。ウェブ展覧会も同時開催した。

○売立目録デジタルアーカイブの改良と報告書の作成：元年度より資料閲覧室にて公開しているデジタルアーカイブの校正作業を進め、元年度に開催した研究会の内容を拡充した報告書を刊行した。

○資料閲覧室の運営・管理 資料受け入れ数：新型コロナウイルスの影響により 2 年 2 月 28 日から資料閲覧室は閉室していたが、事前予約制を導入し 6 月 10 日より再開した。和漢書 1,002 件、洋書 85 件、展覧会図録・報告書等 1,526 件、雑誌 1,086 件（合計 3,699 件）・閲覧室利用状況：公開日総数 67 日・年間利用者合計 660 人

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルスの影響により移動や外出の困難が生じる中、より広範なオープンアクセス需要への対応のため、当研究所の研究成果や所蔵資料の情報発信を積極的に行った。②独創性においては、当研究所が有する専門性・独自性の高い文化財情報の公開を念頭におき、画期的な『売立目録』のデジタルアーカイブの改良を進め、報告書を刊行した。③発展性においては、国内外の関係機関と連携して、国内外への情報発信を積極的に行い、今後の展開に向けての取り組みを進めた。④効率性においては、元年度より稼働した図書館システムを活用し、入力作業と情報発信を効率よく行った。⑤継続性においては、当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化作業を年間通じて順調に進めた。あわせて、高い利便性と安定した資料の保全の双方に配慮しつつ、資料閲覧室としての公共性と高い専門性を保持した運営を行った。新型コロナウイルスの影響により閉室期間があったため、実際の利用者数は元年度に較べて減少したが、オープンアクセス資料の増加や遠隔複写サービスなどで対応した。以上の理由により年度計画を上回る成果をあげることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・美術に関する情報公開　1 件（ア） ・研究報告書の刊行　1 件（イ）	―

ア　展覧会「日本美術の記録と評価―調査ノートにみる美術史研究のあゆみ―」（東京国立博物館本館 14 室、7 月 14 日～8 月 23 日、総合文化展の入館者数：15,737 人、「きもの展」をあわせた総入館者数：86,543 人）

イ　『売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望-売立目録の新たな活用を目指して-』A4 版 168 ページ、3 年 3 月。

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	2 年度は、当研究所の代表的なコレクションである売立目録のデジタルアーカイブの改良を進め、研究支援を継続すると同時により広く情報発信を行うため、報告書を刊行した。新型コロナウイルスの影響は受けながらも、オンラインでできるサービス提供の強化を行い、公共性と専門性の双方を有する運営を進めることができた。今中期計画期間を通して、当研究所が行う文化財の調査研究とその成果を集約しつつ、データベースの継続的拡充を行い、専門的アーカイブと総合的レファレンスの充実を推進したことにより、中期計画を十分に達成した。以上の理由から、今中期全体を通して当初の計画を上回る成果をあげることができた。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2411F

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実	
企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（文化財情報研究室長）、高田祐一（文化財情報研究室研究員）、Yanase, Peter（文化財情報研究室アソシエイトフェロー）、呉 修喆（文化財情報研究室アソシエイトフェロー）、扈 素妍（文化財情報研究室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

・文化財情報データベースの充実として、従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関して、データを入力・更新した。公開データベースを更新した。
・全国遺跡報告総覧の登録データ件数（カッコ内は昨年度件数）
PDF 数　27,761 件（24,495）、書誌登録数　88,067 件（ 68,769 ）、
遺跡抄録件数　135,663 件（ 130,016 ）
・全国の博物館等の文化財関係機関が作成している文化財動画の情報を集約した「文化財動画ライブラリー」を公開した。既存の文化財報告書や文化財イベントと類似度を自動算出しており、関連コンテンツを自動提示できるようになった。公開の際には、公開 3 日間にテレビ番組 2 件、全国の新聞 29 紙に取り上げられた。400 以上の動画が公開され、時代や地域別に検索できる。

文化財動画ライブラリー

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、最新のデータを提供して充実を図っている。国民から活発に利用され、文化財情報のインフラとして機能している。新型コロナウイルスによる影響でリアルなイベントが開催困難であったが、デジタルの強みを活かして文化財動画ライブラリーなどを構築した。②独創性においては、全国遺跡報告総覧のように他に類を見ないデータを提供しており、独自のデータ解析も提供している。③発展性においては、既存のデータベースの内容を着実に充実させているとともに、データベースの機能強化を実現している。全国の自治体や博物館など既に 1,301 機関が本事業に参加している。④継続性においては、大規模なデータベースを維持し、確実なデータ提供を多年に渡って実現している。これらより、内容豊かなデータベースとして著しく発展していることから、順調に事業が推移していると判断し、全体の評定をＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	【実績値・参考値】() は元年度末の値	定量評価
・文化財に関するデータベースの公開件数 件 24 件	（実績値）公開データベースの件数 30（25） 「文化財動画ライブラリー」「史的文字データベース連携検索システム」を新たに公開した。 （参考値）公開データベースへのアクセス件数　14,183,774　件（12,615,841） 全国遺跡報告総覧 登録データ件数：252,410(216,127) 年間ダウンロード件数　2,320,607（1,670,343） 年間ページ閲覧数 78,707,144（68,184,920） 論文発表 5 件（ア）　口頭発表 4 件（イ）	A

ア論文 高田祐一「画像認識技術の文化財データへの適用実験 」他 4 件、イ研究発表 高田祐一「考古学・文化財資料 3D 計測の意義を考える 知的財産権・著作権の観点から」他 3 件

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	文化財情報に関する基礎的な研究を積み重ねつつ、継続性が重要なデータベースの充実を着実に進めている。他機関と協力して進める大規模データベースである全国遺跡報告総覧は、頻出用語表示機能などのデータ解析機能を付加し、データのダウンロードも 200 万件以上に達するなど、中期目標を超える成果を継続して達成しており、今後の発展も引き続き期待される。このため、今中期全体を通して、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充並びにデータベースの充実を達成できたことから、中期計画を上回る成果をあげることができたと判断した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2414F

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-4)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・図書、雑誌等の公開に関する取組状況 （資料閲覧室・図書資料室の開室日数、利用者数、文化財に関する資料・図書等の総件数） ・文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） ・(関連指標)データベースのデータ件数 ・(関連指標)データベース等へのアクセス件数
プロジェクト名称	図書の収集・整理・公開・提供	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○貴村好隆（連携推進課長）渡 勝弥（係員）伊藤久美（事務補佐員）山内章子（事務補佐員）中西晶子（事務補佐員）堀内千嘉（事務補佐員）永岡美和（事務補佐員）久保純子（事務補佐員）志賀明美（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

・資料の収集・整理・保管・提供

収集・整理・保管については、例年どおり滞りなく実施した。提供については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として対面カウンターに飛沫防止シートの設置、閲覧室前に手指除菌スプレーを設置した。一般利用者の閲覧については、同時利用２名の完全予約制とし、資料室利用状況カレンダーをウェブサイト上に公開して空席状況を表示し、資料室の予約フォームより空席時間に予約を入れてもらうことで密となることを避けた。

購入図書	225 冊
寄贈図書	7,729 冊
雑誌	3,071 冊
一般利用者	193 人
利用冊数	1,814 冊
来館者複写件数	454 件
遠隔利用：複写受付件数	372 件
貸借貸出冊数	118 冊

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として飛沫防止カーテンを設置及び、閲覧席を４人掛けから１人掛けに変更

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてカウンターに飛沫防止カーテン及び手指消毒薬を設置。コロナ禍においても閲覧可能な体制を整備した。②発展性において、所外から閲覧室の利用状況が確認できる利用状況カレンダーを設置した。③効率性において、閲覧室が密になることを防止するため、ウェブサイト上に資料室の予約フォームを設置し、完全予約制として閲覧室を効率よく利用できるよう配慮した。④継続性において、緊急事態宣言解除以降、閲覧室を閉室することなく、一般利用者からの資料利用要求に応えることができた。以上の観点から本事業は順調に推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）資料閲覧室・図書資料室の開室日数 147 日 資料閲覧室・図書資料室の利用者数 161 人 文化財に関する資料・図書等の総件数 488,414 件	－

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。
評定理由及び今後の見通し	中期目標期間を通じて、元年度までは計画通り所期の目標を達成してきた。２年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令中は、閲覧室を閉室することとなったが、この期間を除いては、奈文研が所蔵する資料を一般利用者に提供を行った。特に、ウェブサイト上に利用状況カレンダーや予約フォームの設置することで利便性の向上が図られたことから、中期目標期間の最終年度として、当初の目標を上回って達成していると判断し、A評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2421E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 ・『東京文化財研究所年報』 ・『東京文化財研究所概要』 ・『東文研ニュース』 ・『美術研究』(年3冊) ・『日本美術年鑑』 ・『無形文化遺産研究報告』 ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ・『保存科学』
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

・『東京文化財研究所年報』2019年度版
・『東京文化財研究所概要』2020年度版
・『東文研ニュース』年2回（72～73号）
・『美術研究』（431号）（8月）
・『美術研究』（432号）（12月）
・『美術研究』（433号）（3年3月）
・『令和元年版　日本美術年鑑』の編集作業を進める。その内容は以下の通り。
2018（平成30）年美術界年史、美術展覧会（企画展、作家展、団体展）、
美術文献目録（定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展））、物故者
・『無形文化遺産部研究報告』15号（3年3月）
・『第15回無形民俗文化財研究協議会報告書』（3年3月）
・『保存科学』60号（3年3月）

保存科学60号表紙

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、『美術研究』432号で新型コロナウイルス感染状況下での展覧会動向を紹介できたことが評価される。②独創性においては、海外編集委員からの推薦論文として、近年進展の目覚ましい中国・韓国の近現代美術に関する論考を翻訳掲載した点が評価される。③発展性においては、地域の文化遺産の活用が叫ばれる中、『美術研究』431号においてリンクト・データを用いることで地域の文化遺産情報を集約させ、その活用への道を示した点が評価される。④効率性については、『保存科学』において、編集委員を交代し、作業効率を上げた。また『美術研究』の編集作業で元年度同様、刊行物アーカイブシステムを本格的に導入した点や、電子メール送受による校正作業を積極的に実施して刊行に必要となる時間の節約に努めた点が評価される。⑤継続性については、定量評価においては、新型コロナウイルスの感染リスクにより、年間を通じて在宅勤務等の大幅な勤務体制変更を余儀なくされる中で、11点の定期刊行物を刊行することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・定期刊行物等の刊行件数12件	（実績値）定期刊行物等の刊行件数　11件（以下のとおり） 『東京文化財研究所年報』2019年度版　刊行部数400部 『東京文化財研究所概要』2020年度版　刊行部数2,700部 『東文研ニュース』72～73号　刊行部数各1,600部 『令和元年版　日本美術年鑑』　刊行部数600部 『美術研究』431～433号　刊行部数各400部 『無形文化遺産部研究報告』第15号　刊行部数600部 『第15回無形民俗文化財研究協議会報告書』　発行部数700部 『保存科学』60号　発行部数650号	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	最終年度である2年度は、新型コロナウイルス感染リスクにより年間を通じて在宅勤務等の大幅な勤務体制変更を余儀なくされる中で、概ね予定どおり出版することができた。以上の理由から、中期計画の5か年を総括して順調に研究業務が遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2421F

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)2)3)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。1)定期刊行物の刊行・『奈良文化財研究所紀要』・『奈良文化財研究所概要』・『奈文研ニュース』・『埋蔵文化財ニュース』 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等・現地説明会
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○貴村好隆（連携推進課長）、溝端靖秀（連携推進課課長補佐）、渡　勝弥（連携推進課）ほか	

【年度実績と成果】

1) 定期刊行物の刊行
・奈良文化財研究所概要 2020　10 月刊行、2,700 部
・奈良文化財研究所紀要 2020　9 月刊行、3,000 部
・奈文研ニュース「No.77」6 月,「No.78」9 月,「No.79」12 月,「No.80」3 月,各 3,000 部
・埋蔵文化財ニュース「No.182」2 月,「No.183」「No.184」「No.185」3 月,各 2,500 部
2) 現地説明会等
・9 月 28 日興福寺鐘楼・東金堂院の発掘調査(平城第 625 次) 現地見学会 於奈良市登大路町(参加者 606 人)
（更に興福寺鐘楼・東金堂院の発掘調査(平城第 625 次) のドキュメンタリー動画を作成し、「なぶんけんチャンネル」での配信を実施)
・11 月 7 日藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 205 次)現地見学会　於橿原市高殿町（参加者 480 人）
3) 講演会
・第 12 回東京講演会タイトル「奈良の都の暮らしぶりー平城京の　生活誌ー」
講演者：前川、和田、桑田、小田、森川、山本、神野（視聴申込者 804 人）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため東京有楽町での定期講演をとりやめ、10 月 23 日～11 月 5 日の間オンデマンド配信で実施した。その後も「なぶんけんチャンネル」で配信した。
・1 月 30 日文化財防火デートークイベント「災害から守ろう！私たちの文化財」(なぶんけんチャンネルにおけるライブ配信、文化財防災センターとの共催)
講演者：森井順之（文化庁)、鍵谷暢彦（奈良市)、村田泰輔（奈文研)、高妻洋成（文化財防災センター)
4) シンポジウム
・12 月 12 日 第 24 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷」(参加者 126 人)
新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催で実施した。
・2 月 9 日 研究集会　水中遺跡保護行政の実態Ⅲ(参加者 100 人)
5) 体験型イベント
・8 月 12 日～14 日「奈良の都の木簡に会いに行こう!2020」子供達が発掘現場から持ち帰った木簡を含む土の洗浄・選別作業や木簡の解読等の体験を行った。(参加者 19 人)（日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」採択事業)
6) ウェブサイトの充実
・奈文研ブログ「コラム作寶樓」を月 2 回更新、当研究所研究室を紹介する「巡報研究室」毎月継続配信した。
・ウェブサイト上に「なぶんけんチャンネル」を開設した。

奈文研ニュース

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性については、調査研究成果を適時に刊行し、現地説明会開催、ウェブサイト公開とも適時に情報を発信した。②独創性については、調査研究内容の新規性及び卓越性を持たせ発信することができた。③発展性については、個々のデータベース登録数も増え、多様なブログ、コラム等を更新することによりホームページの内容を充実させた。また、当研究所の調査研究の成果を多元的に発信するために、ウェブサイト上に「なぶんけんチャンネル」を開設したほか、体験型イベントを実施した。④継続性については、定期刊行物、講演会、ウェブサイト公開など従来から継続的に実施し、恒久的な提供が認められる。定量的評価の観点においては、新型コロナウイルスの影響により、例年実施している講演会や体験イベントを中止せざるを得ない状況となったため開催回数が減少した。しかしながら、講演会等は、例えば東京講演会については、感染症拡大防止の観点から開催方法をオンデマンドによる配信に変更し、コロナ禍における新たな研究成果の発信に取り組むことができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
(1) 定期刊行物等の刊行件数 10 点 (2) 公開講演会、現地説明会の開催回数 10 回	(実績値) (1) 定期刊行物等の刊行件数　10 点 (2) 公開講演会、現地説明会の開催回数　6 回	(1) B (2) D

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。
評定理由	中期目標期間を通じて、定期刊行物及びウェブサイトにおいては調査研究の成果等を公表するものとして、計画通り順調に刊行や更新ができた。また公開講演会や現地説明会等については、元年度までは計画通り所期の目標を達成したが、2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に定期講演会は開催を見送ったが、東京講演会はオンデマンド配信等オンラインでの開催を試み、従来の会場参集型の参加者数（昨年度 464 人）よりも多くの視聴申込者（804 人）があり、その可能性が確認できた。以上を含めて、今中期計画期間全体を通して事業を実施できたと判断し、Ｂと評価した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2422E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-2)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 ・公開講座（オープンレクチャー）
プロジェクト名称	オープンレクチャー（調査･研究成果の公開）	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、小野真由美（主任研究員）、野城今日子（アソシエイトフェロー）ほか	

【年度実績と成果】

○10 月 30 日、一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。例年外部講師を交えての 2 日間開催であったが、新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、内部講師 2 名による 1 日の開催とした。

○当研究所・文化財情報資料部より 2 名の講演を行った。講演テーマは次の通りである。

・塩谷純（文化財情報資料部長）「近代日本画の“新古典主義”－小林古径の作品を中心に－」

・二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長「タイに輸出された日本の漆工品－王室第一級寺院ワット・ラーチャプラディットの漆扉を中心に－」

○外部からの聴講者 34 名を得た。

オープンレクチャーの様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、定員を絞って抽選制とし、検温や消毒などの防止策を徹底した。結果、定員の 4 倍近くの応募があったが、34 人の参加をみた。参加者からのアンケート結果では、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて 92%の回答を得ることができ、時宜に適った講演テーマにて実施できた。②独自性においては、未発表の最新の研究成果を、新知見を織り交ぜて公開することができた。③発展性においては、いずれの講演も今後の調査研究による進展が期待されるものであり、そうした発展的成果を公開することができた。④継続性においては、「古典の日」にちなみ長年継続して開催しており聴講者の高い満足度を確認できた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
・講演会の開催回数 1 回	・1 回	B

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	2 年度は新型コロナウイルスの影響により、参加者を制限することになったものの、今中期計画期間を通して、質の高いセミナーを展開でき、参加者から大変良い評価をいただいた。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2423E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-3)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 3)ウェブサイトの充実 ・東文研総合検索システム　・東京文化財研究所刊行物一覧　・学術情報リポジトリ
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備・充実	
文化財情報資料部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○二神葉子（文化財情報研究室長）、小山田智寛（研究員）、中村亮介（アソシエイトフェロー）、安岡みのり（研究補佐員）、磯山浩美（研究補佐員）、藤井糸子（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○ネットワーク環境の整備・充実

・仮想化サーバ及び同サーバのバックアップシステムの更新を行うとともに、外部公開用ウェブサーバ、NTP、DNS の仮想化を行い、ネットワークの安定運用に努めた。

○情報セキュリティの強化

・元年度に引き続き、各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換しセキュリティ水準の維持向上に努めた。

○情報蓄積・発信機能の強化

・既存データベースへのデータ追加や機能改善を実施した。また、元年度に引き続き、文化財アーカイブズ研究室及び近・現代視覚芸術研究室と連携し、データベース管理システム Oracle による所内データベースを適宜改良して利便性を向上させた。特に、4 月～5 月にかけての緊急事態宣言発令中にはソーシャルメディアによる文化遺産の現状や国際機関の取り組みに関する情報の発信に努めた。

○研究成果公開

・論文や学会発表を通じてデータベース構築やその活用に関連する成果を公表した。また、プロジェクト「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」と連携しハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」を 8 月 24 日に上原美術館で、3 年 3 月 12 日に東北歴史博物館で開催し、それぞれ 11 人、14 人（実技）の参加を得た。また、12 月 23 日には「シリーズ「ディジタル画像の圧縮～画像の基本から動画像まで～」その 1　ディジタル画像の基礎」を東京文化財研究所で開催し、37 人が参加した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、データベースへのアクセス件数にも裏付けられるように、データベース整備は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえ、時宜に適ったものである。また、ソーシャルメディアを活用した情報発信も、時宜にかなっている。②独創性においては、公開データベースに無料のデータベースエンジン MariaDB とウェブコンテンツを統合的に管理する無料の content management system (CMS)である WordPress を利用して独自開発している。③発展性においては、横断検索が可能で、画像及びテキストの両方を扱えるデータベースの構築を継続、今後のデータベースの多様化にも対応した。④効率性においては、当研究所職員を主な講師とするセミナーの開催により所外に効果的に活動内容を伝達できた。⑤継続性においては、ウェブサイト更新による情報発信、セキュリティ水準向上への対応も継続的に実施した。⑥定量評価について、目標値の 167%のデータベースを継続して公開した。よって所期の計画を上回り、事業が推移したと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
・データベースの公開件数　18 件	・(実績値) データベースの公開件数　33 件 ・(参考値) データベースのデータ件数 1,715,186 件、データベース等へのアクセス件数 4,078,322 件・学会発表件数　1 件（ア）・論文　2 件（イ）	A

ア　小山田智寛、二神葉子、 逢坂裕紀子、安岡みのり「デジタルコンテンツと継続性: 明治大正期書画家番付データベースを例に」(デジタルアーカイブ学会第 4 回研究大会スピンオフ研究発表会、オンライン、7 月 5 日)

イ　二神葉子「尾高鮮之助撮影バーミヤーン西大仏の写真による三次元空間画像の作成」『保存科学』70 号、3 年 3 月ほか 1 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。
評定理由	上記の中期計画の記載事項についていずれも所期の目標を達成した。情報機器の更新による所内情報システムの簡素化と高度化を実現、調査研究環境を整備した。また、独自開発の横断可能なデータベースの公開件数増及び検索機能の充実を図り、その成果も発信することができたため、今中期計画を総括して順調に遂行したといえる。次期中期計画でも引き続き、調査研究遂行のための情報システムの整備や、成果発信の手法、及びそれらを活用しての調査研究を実施する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2431F

中期計画の項目	2-(4)-③-1)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-1)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 1)特別展・企画展
プロジェクト名称	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（企画調整部展示企画室長）、○石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）ほか	

【年度実績と成果】

(1) 平城宮跡資料館
・特別企画展「古代のいのり －疫病退散！」(6 月 16 日～7 月 19 日)（30 日間、2,846 人)。動画配信サイト「なぶんけんチャンネル」にて関連動画 1 本を配信。
・夏期企画展「奈良の都の考古学 －発掘された平城 2019/古代のいのり －疫病退散！」(7 月 23 日～8 月 30 日)（34 日間・3,968 人)。「なぶんけんチャンネル」で関連動画 1 本を配信。
・秋期特別展「地下の正倉院展 －重要文化財 長屋王家木簡－」(10 月 10 日～11 月 23 日)（39 日間・14,670 人)。「なぶんけんチャンネル」にて関連動画 3 本を配信。
・新春ミニ展示「平城京の丑」(3 年 1 月 5 日～1 月 31 日)（24 日間・1,425 人)
・関連展示「鬼神乱舞―護る・祓う・鬼瓦の世界―」(3 年 1 月 23 日～3 月 28 日) 於：平城宮いざない館（64 日間・31,530 人)
・新型コロナウイルス感染症対策のため、4 月 1 日～5 月 31 日、多言語化ならびに地震対策のため 3 年 2 月 23 日～
3 月 12 日を臨時閉館とした。

平城宮跡資料館「地下の正倉院展」

(2) 飛鳥資料館
・特別展「飛鳥の石造文化と石工」(8 月 4 日～9 月 22 日)（44 日間・3,212 人)
・秋期企画展「第 11 回写真コンテスト作品展 飛鳥の祭」(10 月 16 日～12 月 6 日)
(45 日間・5,114 人) 65 点
・冬期企画展「飛鳥の考古学 2020」実施（3 年 1 月 22 日～3 月 14 日)（45 日間・2,371 人)
・新型コロナウイルス感染症対策のため、4 月 1 日～5 月 31 日臨時閉館、特別展の開催時期と回数を調整した。

飛鳥資料館「飛鳥の石造文化と石工」

(3) 藤原宮跡資料室
・ロビー展示「飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原 197-6 次)」、「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 200 次)」、「石神遺跡土坑 SK1244･1245 出土土器（石神遺跡第 7 次)」(12 月 4 日～12 月 28 日) を実施。
・新型コロナウイルス感染症対策のため、4 月 1 日～6 月 1 日、6・7 月の土日を臨時休館。また、電気工事のため、2 月 23 日～3 月 7 日に休館した。

年度計画評価	A

【評定理由】
① 適時性においては、平城で新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下、奈良時代における感染症拡大への対応を展示した「古代のいのり －疫病退散！」展を開催した。また、同じく、平城の「地下の正倉院展」は、長屋王家木簡の重要文化財指定にあわせた展示であった。
② 独創性においては、飛鳥資料館の「飛鳥の石造文化と石工」は、飛鳥資料館が進めている石造物の複製制作を絡め、飛鳥地域の古代の特徴でもある石造物を取り扱ったものであり、飛鳥資料館ならではの企画であった。
③ 発展性においては、平城宮跡資料館の展示に関しては、動画を 5 本作成し、動画配信サイト「なぶんけんチャンネル」にて配信し、今後の展示活動への動画の活用について礎を構築することができた。
④継続性においては、各館の特別展・企画展は、ほぼ定期で継続的に実施するが、内容を変えつつ行っている。平城の「地下の正倉院展」は 14 回、飛鳥の「写真コンテスト」は 11 回を数えている。今後も新たな内容で継続する予定である。
定量評価について、平城では、平城宮いざない館で行った関連展示を含め、特別展・企画展を年間 5 件開催した。
以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	B	B	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
(1)平城宮跡資料館特別展・企画展開催件数 4 件 (2)飛鳥資料館特別展・企画展開催件数 4 件	(実績値) (1) 平城宮跡資料館特別展・企画展開催件数 4 件、関連展示 1 件 (2) 飛鳥資料館特別展・企画展開催件数 3 件　※新型コロナウイルスの影響により、夏期特別展「日本人と古代仏教―仏教と文字文化の考古学」(7 月 19 日～9 月 1 日) を中止。 (参考値) (1) 平城 入館者数 37,913 人 開館日数 239 日 図録等実績リーフレット等 2 件（ア・イ) (2) 飛鳥 入館者数 15,664 人 開館日数 252 日 図録等実績リーフレット等 2 件（ウ・エ) (3) 藤原 入館者数 4,417 人、開館日数 265 日	―

ア『地下の正倉院展―重要文化財長屋王家木簡―』(A4 判フルカラー16 ページ　10 月 10 日発行)
イ『鬼神乱舞―護る・祓う・鬼瓦の世界　Legend of Exorcism』(A4 判フルカラー16 ページ　3 年 1 月 23 日発行)
ウ 飛鳥資料館図録第 73 冊『飛鳥の石造文化と石工』(A4 判フルカラー39 ページ　8 月 4 日発行)
エ 飛鳥資料館カタログ第 37 冊『飛鳥の考古学 2020』(A4 判フルカラー20 ページ　3 年 1 月 22 日発行)

中期計画評価	B
中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4 月 1 日～5 月 31 日を臨時休館し、飛鳥資料館では、特別展・企画展の開催件数が目標値に達しなかったが、平城宮跡資料館では、関連展示を含め、5 件行うことができた。また、動画配信を開始するなど、情報公開機能を強化することができた。新型コロナウイルス感染症による波乱が最終年度にあったものの、今中期計画期間を通して展示の充実、来館者の理解促進を行うことができたことから、中期計画を遂行できたと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2432F

中期計画の項目	2-(4)-③	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-2)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 2）定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○貴村好隆（連携推進課長）、溝端靖秀（連携推進課課長補佐）、岩井靖子、京牟礼薫（連携推進課事務補佐員）	

【年度実績と成果】

1）解説ボランティア研修等

解説ボランティアの育成に資するため、平城宮跡資料館及び平城宮跡歴史公園平城宮いざない館（受託事業）における特別展、企画展にかかる解説ボランティアに向けての展示解説研修の実施、発掘調査の現地説明会、及びボランティア勉強会を実施した。

・平城宮跡資料館「地下の正倉院展」展示解説研修（Ⅰ期）、（Ⅱ期）、（Ⅲ期）
　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示解説資料を郵送にて送付し研修とした。
・平城宮跡資料館新春ミニ展示展示解説研修
　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示解説資料を郵送にて送付し研修とした。
・平城宮跡歴史公園平城宮いざない館「平城宮跡歴史公園特別展」展示解説研修
　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示解説資料を郵送にて送付し研修とした。
・解説ボランティア向けの発掘調査の資料の送付
　（興福寺鐘楼・東金堂院発掘調査(平城第 625 次）6 月 5 日)、(平城宮東方官衙地区発掘調査（平城第 621 次）2 月 17 日）
　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現地見学会資料を郵送にて送付し研修とした。

2）解説ボランティアに関する会議

・平城宮跡解説ボランティア懇談会の開催（研究部と事務部が一体となったボランティア活動を検討する会議、毎月 1 回開催）
・平城宮跡解説ボランティア連絡会議の開催（解説ボランティア班長と奈文研職員によるボランティア活動の確認、活性化、改善等を検討するための会議、毎月 1 回開催）
　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メール配信及び書面送付により開催した（毎月 1 回）
・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク、奈良県（平城京 再生プロジェクト)、国交省（平城宮跡管理センター）４者で行う国営飛鳥歴史公園内のボランティア活動等の情報共有、意見交換を行う会議：2 か月に 1 回開催）

3）新規解説ボランティアの募集、登録

・今期（30 年 1 月から 2 年 12 月）の解説ボランティア活動登録期間が最終年を迎えるにあたり、次期に向けて既存登録者の継続登録の意思確認を行うとともに新規解説ボランティアの募集、登録を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、解説ボランティアへの当研究所からの最新の情報提供、解説ボランティアからの改善等の意見を随時取り入れるための研究部と事務部が一体となって組織した「平城宮跡解説ボランティア懇談会」を定期的に開催したことにより、研究所におけるボランティアの情報発信内容等が効果的に進んでいる。②独創性については、解説ボランティアの資質向上のため、平城宮跡における当研究所の最新の調査研究成果を踏まえた展示に関連する解説研修を書面送付により適宜実施した。③発展性については、ボランティア懇談会において解説ボランティアからの意見を随時取り入れるようにすること及び、新規解説ボランティアの募集、登録を行ったことにより、活動の活性化や運用改善が進められた。④継続性については、ボランティア連絡会議を定期的に開催し、ボランティアとの意思疎通を引続き行ったことにより、新制度による活動が順調に進んでいると判断した。新型コロナウイルスの影響により研修、会議等を通常の形で行うことが難しい状況であったが、開催方法等に工夫をする等の措置を行った。なお、2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から解説ボランティアが実際に解説活動を行うことは叶わなかったが、新型コロナウイルス収束後の活動再開を見据え、必要と考えられる対応策は全て実施したところであり、所期の目標を達成したと考える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・解説ボランティア登録人数：130 人 ・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：0 人（コロナウイルスにより活動中止） ・解説活動日数：0 日（コロナウイルスにより活動中止）	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。
評定理由	中期目標期間を通じて、元年度までは計画通り所期の目標を達成してきた。2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために解説ボランティアの活動自体を休止し、併せて対面での研修や会議の開催は見送ったが、当研究所の研究成果に関する資料の郵送による研修やメールによるボランティア連絡会議を開催し、継続的にボランティアの育成と意思疎通を図るなど、上記の年度計画の評定理由に記載のとおり、必要な対応は講じた。以上を含めて、今中期計画期間全体を通して事業を実施できたと判断し、B 評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2511E

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと協力して行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○秋山純子（保存環境研究室長）、吉田直人（文化財活用センター、東文研併任）、水谷悦子（研究員）、相馬静乃（研究補佐員）、小安友利恵（事務補佐員）、間渕創（文化財活用センター）ほか	

【年度実績と成果】

○第 37 回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと共催で実施した（10 月 5～15 日、受講者 17 人）。

第一週目は基礎的な内容の研修として文化財活用センターが担当し、第二週目はより実践的な内容の研修として保存科学研究センター等が担当した。研修内容は次のとおりである。文化財の科学調査（分析科学研究室）、生物被害対策（生物科学研究室）、屋外文化財の保存（修復計画研究室）、温熱環境制御（保存環境研究室）、近代文化遺産の保存(近代文化遺産研究室)、修復材料の種類と特性/紙資料・日本画の保存修復（修復材料研究室）、博物館の防災（文化財防災センター）。

・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。参加者から有益と評価された。

研修の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルス対策のため定員数の削減や、講義、実習方法を検討したうえで開催したことを評価した。②独創性において、当研究所の特徴を生かし、材料、構造、製作技術と保存活用の関係について多様な講義を実施したことを評価した。③発展性においては、当研究所における最新の調査研究に基づく講義や、文化財公開施設における新型コロナウイルス対策、博物館の防災といった時勢を踏まえた講義を実施したことを高く評価した。④効率性においては、文化財活用センターと共催することで効率よく開催でき、外部講師の協力を得て受講者のニーズに応えることができたことを評価した。⑤継続性について、地域の保存担当学芸員に対し研修を行うことで、その地域における文化財保存の意識を高めることができたことを評価した。よって、所期の計画通り、効率的に事業が進められたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
（1）実施件数 1 件 （2）受講者数 30 人 （3）アンケートによる研修成果の活用実績 80%以上	（実績値） （1）実施件数　1 件 （2）受講者数　17 人（新型コロナウイルス対策のため定員減） （3）研修成果の活用実績　94%	（1）B （2）－ （3）A

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。
評定理由	今中期全体を通して、所期の計画通り研修を実施することができた。今中期最終年度となる 2 年度は、新型コロナウイルス対策のため参加者を予定の半数に減らして研修を実施した。受講者向けのアンケートでは概ね有益であるという評価を得た。2 か年にわたり、文化財活用センターと共催で研修を実施してきたが、次期中期計画では文化財活用センターは基礎的内容、当研究所は応用的内容の研修を独自に主催する予定である。これにより、当研究所が実施する研修ではより実践的な内容に重点をおいたカリキュラムの編成が行われる予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2512F

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-2)	①文化財に関する研修の実施 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	文化財担当者研修	
企画調整部 研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（企画調整部長兼企画調整室長）、桑原隆佳（総務係長）　ほか	

【年度実績と成果】

・新型コロナウイルスの影響により中止や規模縮小（定員 10 名）となり以下の研修実施結果となった。
なお、研修を実施した課程（⑥～⑨）のうち、定員縮小のため受講できなかった応募者に対しては、講義資料の送付（「⑥自然科学分析外注課程」1 人）や動画を作成（「地質・考古調査課程」18 人）し、個別に相談を受け対応するなどの措置を取った。
また、募集後に中止となった実習系の課程（⑪～⑭）についても、研修成果を業務において即実践する傾向が強いことに鑑み、「⑪文化財写真課程」応募者 12 人、「⑫報告書編集基礎課程」応募者 17 人、「⑫報告書デジタル作成課程」応募者 18 人及び「⑭史跡保存活用計画策定演習課程」25 人に対し、それぞれ講義資料を送付（⑪は更に動画も配信）し、個別に相談を受け対応するなどの措置を取った。

①	土器・陶磁器調査課程	2 年 6 月 8 日～12 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
②	古文書歴史資料調査基礎課程	2 年 6 月 15 日～19 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
③	建築遺構調査課程	2 年 6 月 22 日～26 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
④	近現代建築保存活用課程	2 年 7 月 6 日～10 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
⑤	木質文化財の科学的調査課程	2 年 7 月 14 日～17 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
⑥	自然科学分析外注課程	2 年 9 月 24 日～25 日	10 人
⑦	文化的景観調査計画課程	2 年 9 月 28 日～10 月 2 日	5 人
⑧	保存科学Ⅰ(金属製遺物)課程	2 年 10 月 13 日～21 日	8 人
⑨	地質・考古調査課程	2 年 10 月 26 日～30 日	9 人
⑩	文化財デジタルアーカイブ課程	2 年 11 月 16 日～20 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
⑪	文化財写真課程	2 年 11 月 24 日～12 月 4 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
⑫	報告書編集基礎課程	2 年 12 月 7 日～11 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
⑬	報告書デジタル作成課程	2 年 12 月 14 日～18 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
⑭	史跡保存活用計画策定演習課程	3 年 1 月 25 日～29 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
⑮	保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程	3 年 2 月 15 日～19 日	（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

・遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 4 課程の研修を実施し、延べ 32 人が受講した。
・研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。
・都道府県及び市町村等の文化財行政担当部局に対して、オンライン研修の実施検討に伴うアンケート調査を 10 月に実施した。
・派遣元を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を 2 月～3 月に実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、文化的景観調査計画課程、地質・考古調査課程など、公共性、緊急性が特に高い研修を行い、これへの対応を行った。②独創性においては、いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、研修内容の独自性、新規性、卓越性を備えて実施した。③発展性においては、発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上に対応した。④効率性においては、基本的に 5 日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を達成して実施した。⑤継続性においては、文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和 49 年より継続しており、のべ受講者数も 9,900 人となった。⑥定量的評価の観点においては、新型コロナウイルスの影響により中止や規模縮小となった研修が多く出てしまった関係で受講者数及び実施件数が減少した。規模縮小のため受講できなかった応募者や参加者決定後に研修が中止となった課程の応募者については、講義資料配布や動画の配信、また個別に相談を受け対応するなどの措置をとったことから、初期の目標を達成したと考えＢ評価とした。

観点	①　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
(1) 研修の実施件数（件／課程）15 課程 (2) 研修の受講者数（人）156 人 (3) 研修成果の活用状況（%）80%以上	(1) 研修の実施件数　4 課程（コロナウイルスの影響による） (2) 研修の受講者数　32 人（コロナウイルスの影響による） (3) 研修成果の活用状況　100%	(1) D (2) D (3) A

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。
評定理由	定性評価については、今中期計画期間を通していずれの観点もＢ以上で、特に適時性、独創性、継続性において優れた評価を得ることができた。また、定量評価については、中期目標期間の最終年度については新型コロナウイルスの影響により達成できない項目があったが、今中期全体を通しては、受講者数のべ 787 人(157.4 人/年)、成果活用状況 100%と目標値を上回る成果をあげることができた。また本中期期間に対する研修に対する満足度も高かった。以上のことから、本中期計画期間として十分に計画を達成していると判断し、Ｂと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○塩谷純（部長）、江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、二神葉子（文化財情報研究室長）、安永拓世（主任研究員）、城野誠治（専門職員）ほか	

【年度実績と成果】

1. 国立歴史民俗博物館運営委員・資料収集委員会
2. 文化審議会世界文化遺産部会での世界遺産条約の履行に関する助言
3. 北区文化振興財団による中高生のためのレベルアップワークショップへの協力
4. 大分県立埋蔵文化財センターでの講演
5. 北区文化振興財団によるアトリエ館での特別解説
6. 首里城火災で被災した文化財の記録作成

7～18. 以下、文化財調査に関する協力・助言

国友鉄砲ミュージアム、甲賀市水口歴史民俗資料館、多久市郷土資料館、茨木市文化財資料館、南蛮文化館、神戸市立博物館、長崎市教育委員会、藤基神社（新潟県村上市）、大田区立勝海舟記念館、逸翁美術館、敦井美術館、新潟市歴史博物館

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等からの文化財に関するさまざまな要請に対して、適時及び適切な指導・助言を行うことができた。特に元年度の首里城火災で被災した文化財の記録作成は緊急性を要するものであり、A評価とした。②独創性及び③発展性においては、スタッフの有するスキル・専門性を存分に活用し、他ではできない当研究所独自の指導・助言を実施できた。④効率性においては、担当を分けることによって、専門性の高い指導・助言を実施した。⑤継続性においては、甲賀市水口歴史民俗資料館の文化財調査をはじめ継続的に実施しているケースにおいて、指導・助言を通して高い信頼関係を築くことができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・指導・助言 18 件	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	今中期計画期間を通して適時、継続的に、スタッフの有するスキル・専門性に基づいて協力し、適切な指導・助言を行ったので、Bと判断した。以上の理由から、中期計画の 5 か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言	
無形文化遺産部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○山梨絵美子（部長）、石村智（音声映像記録研究室長）、久保田裕道（民俗文化財研究室長）、前原恵美（無形文化財研究室長）	

【年度実績と成果】

○無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する助言
・文部科学省への教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会に関する助言1件
・文化庁への文化審議会無形文化遺産部会等に関する助言　2件
・文化庁への伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会における当該調査および助言1件
・文化庁への伝統文化親子教室事業に関する助言1件
・文化庁への調査員（無形民俗文化財・文化財保存技術）としての助言2件
・山梨県への文化財保護審議会に関する助言1件
・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言1件
・千葉県への博物館資料審査委員会に関する助言1件
・東京都への東京都民俗芸能大会実行委員会に関する助言1件
・徳島県への石鎚黒茶製造技術調査委員会における当該調査に関する助言1件
・島根県への古代文化センターに関する助言1件
・静岡市への文化財保護審議会に関する助言1件
・武蔵野市への文化財保護委員会に関する助言1件
・京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議に関する助言1件
・岐阜市・関市への長良川鵜飼総合調査専門委員会における当該調査に関する助言2件
・箱根町への箱根湯立獅子舞調査に関する助言1件
・岩手県文化財愛護協会への助言1件
・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言1件
・一般財団法人日本青年館への第69回全国民俗芸能大会企画に関する助言1件
・讃岐獅子舞保存会への獅子舞王国さぬき2020に関する助言1件
・滋賀県草津市「青花紙保存継承懇話会」専門家委員として青花紙保存に関する助言1件
・工芸技術記録映画製作監修委員として映像内容への助言1件

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。新型コロナウイルスの流行下において、古典芸能・工芸技術・民俗芸能・民俗技術等の保存活用に関わる各種委員会等の継続的な委嘱を受け、各々で的確な助言を実施できたことは、①適時性が予定以上の成果であると評価した。②独創性においては、我が国の無形の文化財を扱う国内唯一の研究機関として、この新型コロナウイルスの流行下においても役目を果たした。指導・助言の過程で収集できたデータ、特に調査事業によって得られたデータは、今後の研究・保護事業等にも十分応用でき、⑤継続性が大いに期待でき、また③発展性も評価できる。同様に小人数で対応できたことから④効率性も評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 ・（参考値）助言25件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	今中期最終年度となる2年度は、新型コロナウイルスの影響により対面の会議や調査は減少したが、ほぼ例年通り、多様な助言依頼に対応できており、計画通りの実績をあげることができた。当研究所内の他の部・センターとの連携も図り、3年度以降も信頼を損なわぬよう努めることとしたい。以上の理由から、中期計画の5か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、小峰幸夫（アソシエイトフェロー）、早川泰弘（センター長）	

【年度実績と成果】

○これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

○主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。

○対応件数は 41 件あり、新型コロナウイルス拡大防止のための緊急事態宣言中はメール等で対応し、現地での調査が必要な案件については、緊急事態宣言が解除された 6 月から 10 月まで集中して行った。

○11 月以降は新型コロナウイルスの再拡大に対応するため、インターネットを介して生物劣化を診断したり、試料採取方法をあらかじめインターネットを介して指導し、採取された試料を研究所で解析したりするなど新しい対応方法を試みた。

山梨県での木造建造物のシロアリ被害

○相談内容は、殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、木造建造物、遺構や古墳などの屋外施設での虫害やカビの発生に関する案件など多岐にわたる相談があった。特に梅雨時期が長かったことと、自粛期間中に日常点検が出来なかった博物館等があったことなどからカビによる被害相談が多かった。

○現場の対応とあわせて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を 1 件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、被害の拡大を防ぐことが最優先となる生物被害対策において、多くの要望に対して適切に対応することができた点を高く評価した。②独創性については、文化財の虫害・菌害対策について経験を有するそれぞれの専門性のある研究員がいる点で他機関にはない独自性があると判断した。③発展性については、インターネットを介した診断等は今後の発展性が期待されたが、現地調査には遥かに劣ることを認識しあくまでも緊急時の対応であると判断した。④効率性については、限られたプロジェクトスタッフでそれぞれの専門性を生かして、短期間で現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた点が高く評価できる。⑤継続性については、毎年度 40 件を超える相談案件に対し、継続して対応することができている。よって、所期の計画の通り、継続的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・協力・助言実施件数合計 41 件・研修等講師対応件数合計 1 件	—

中期計画評価	B

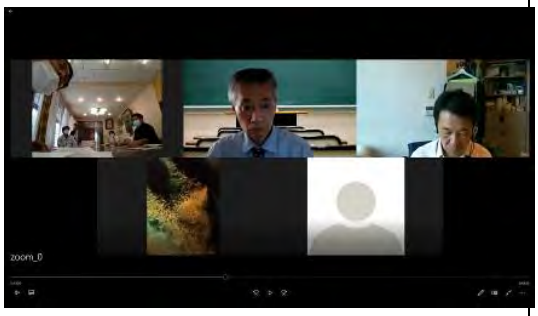
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画に沿い、国や地方公共団体等からの文化財に関する生物被害の要請に対して協力・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献することができた。緊急を要する相談案件への対応は通常業務との調整が困難であるが、本業務の重要性からも、より効率化を試みる必要がある。同時に、生物被害に関する相談案件数自体を減らしていくために、さらなる啓発普及活動も実施する予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-4

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、倉島玲央（研究員）、中山俊介（特任研究員）	

【年度実績と成果】

○2年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。
国宝高松塚古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、特別史跡キトラ古墳壁画、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡韮山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡屋形古墳群、重要文化財通潤橋、重要文化財旧志免鉱業所竪坑櫓、重要文化財通潤橋、重要文化財熊野磨崖仏、重要文化財頼賢碑、重要文化財祇園橋、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財菊蒔絵手箱、重要文化財日光二荒山神社本殿、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財松浦武四郎関係資料、重要文化財高千穂神社所蔵狛犬、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物龍河洞、熊本県内被災古墳。



龍河洞についてのオンライン診療風景

○地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。
首里城、川崎市民ミュージアム、東京都第５福竜丸、航空協会航空関連紙資料、長崎県史跡日本二十六聖人殉教地、富山市大山恐竜足跡化石群、栃木市星野遺跡、さぬき市海女の墓、北方領土関連資料、航空協会航空関連紙資料、日本民藝館所蔵厨子甕資料。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、自然災害などによって被災した文化財に適切に対処しており、社会の要請に的確かつ速やかに応えることができた。②独創性においては、新型コロナウイルスの影響でオンライン診療を行うことにより、移動を伴うことなく適切に協力や助言を行うことができた。③発展性においては、現在修復事業が行われている現場への協力を行っており、発展性が期待される。④効率性においては、鍾乳洞など、各地域に存在する類似した対象に対して、情報共有を促しながら協力することで効率化が図られた。⑤継続性においては、高松塚古墳やキトラ古墳等、長年継続的に取り組んでいる事業に2年度も継続して寄与してきた。よって、総合的に順調かつ効率的に事業が推移したと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）指導・助言件数　43件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	新型コロナウイルスの影響下でもオンラインシステムを用いるなどして、様々な対象に対して協力を行った。また、従来のように美術工芸品と建造物に偏ることなく、天然記念物や名勝、伝建地区など、様々な範疇の文化財に関わる機会が増えてきている。次期中期計画でも、多様な文化財に迅速に対応できるよう、経験を蓄積して体制の充実を図っていく予定である。以上より、順調に計画通り実行されていると判断した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-5

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（センター長）	

【年度実績と成果】

2年度は、蛍光X線分析・X線回折分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

○材質調査

・日本画（龍安寺、7月）、・日本画（宇和島伊達文化保存会、7月）、・日本画（絵金蔵保存会、7月）、・漆工品（総持寺、8月）、・考古資料（東京国立博物館、8月）、・建造物塗装（東京都庭園美術館、8月）、・金箔（中尊寺、9月）、・経典（四天王寺、9月）、・青銅製資料（多治見市、10月）、・画材（秋田県立近代美術館、10月）、・金工品（平等院、12月）

○構造調査

・木彫像（最勝寺、9月）、

木彫像の構造調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、所蔵先からの要請に迅速に応じて、材質調査・構造調査を実施した。調査後は速やかに調査報告書を作成し、文化財の材質・構造に関する助言を行った。②独創性においては、顕微鏡観察、蛍光X線分析、X線回折分析、X線透過撮影などの複数の手法を適用し、互いに補完しながら調査内容の検討を行った。③発展性においては、新規導入したX線分析顕微鏡による調査も開始し、これまで以上に微細な物質構造の解析が行えるようになった点を高く評価した。④効率性においては、設置方法の改良を重ね、材質・構造調査の効率が向上した。⑤継続性においては、20年以上にわたる調査実績を有し、他所を凌駕する精度の調査結果を継続的に報告している点を高く評価した。以上から、所期の計画の通り、効率的に事業が推移したと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）調査・助言件数　12件	定量評価 ―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画に沿って2年度も、これまでに当研究所が実践してきた科学的調査技術を駆使して、文化財の材質・構造に関する調査・助言を継続的に行った。元年度に引き続き、据置型蛍光X線分析装置を用いた元素マッピングの分析調査も行っており、さらに新規導入したX線分析顕微鏡の実用化を進めた。今中期計画期間を通じ、当初の計画通りに順調に実行されたと判断した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-6

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○秋山純子（保存環境研究室長）、水谷悦子（研究員）	

【年度実績と成果】

○国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査の相談窓口は元年度から文化財活用センターに一本化された。当研究所では、公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、新型コロナウイルス対策のため現地で環境計測できた件数は少なかったが、今後の改修を見据えた環境測定等を実施した。

○新型コロナウイルスに対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業に対し、消毒用薬剤等による文化財への影響が懸念されたため、文化庁・文化財活用センター・東京文化財研究所保存科学研究センターの三者が協力し、その相談窓口を開設するとともに、その対応にあたった。博物館、美術館、文書館等の展示室や収蔵庫における消毒のみならず、建造物に対する消毒や祭祀に使用する民俗文化財への消毒など多岐にわたる相談を受けた。それらの相談に対し、できる限り薬剤による消毒をせず、他の感染防止対策を講じること、薬剤による消毒を実施しなければならない場合についても、対処の仕方や換気等について助言を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルス対策において、様々な状況に応じた指導・助言を行ったことを高く評価した。②独創性においては、新型コロナウイルスという新たな災害に対し、文化財が存在する空間での消毒の可否、消毒用薬剤の選択等、これまでとは違う観点で指導・助言を行った。③発展性においては、新型コロナウイルスといった新たな災害への対応指針を今後に向けて作ることができた。④効率性においては、多岐にわたる相談に対して、文化庁・文化財活用センター・東京文化財研究所保存科学研究センターの三者が協力して対応できた。⑤継続性においては、今後改修予定のある館からの相談が多く、改修前後の環境の検討を要する案件を継続して対応した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・新型コロナウイルスに関する相談対応　33 件 ・環境調査に関する相談対応　8 件	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	今中期全体を通して、当研究所の保存環境に係る研究成果の地域への還元の一手法として、地方公共団体への援助を進める目的で、全国の文化財保存施設等に対して、継続して保存環境に関する援助・助言を実施した。今中期最終年度となる 2 年度は、新型コロナウイルス対応の消毒に関する窓口を開設し、全国の文化財保存施設等に対して、指導・助言を実施した。新型コロナウイルス感染防止対策を講じなければならない中、環境調査の依頼についてもできる限りの対応を行った。次期中期計画においても、保存環境研究の一環として、様々な環境事例への対応・調査を進め、調査研究成果の発信を積極的に行う予定である。

【書式C】　施設名 文化財活用センター　処理番号 2521E-7

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	
保存担当	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○冨坂賢（保存担当課長）、吉田直人（保存担当室長）、間渕創（保存担当研究員）、木下美緒（事務補佐員）、野中昭美（保存担当併任研究員）	

【年度実績と成果】

・国内の博物館・美術館等からの保存環境管理や改善に関する相談に対して、助言を行った（117 件）。そのうち、具体的な原因究明や調査研究的な対応が必要と判断した案件に対して、現地調査を行った(17 件)。

・新築や増改築を予定している文化財保存施設について、関係者と協議を行い、保存のための良好な温湿度や空気環境維持の観点から、設計や設備について、また、竣工後の環境モニタリング方法などに関して助言を行った（2 施設）。

・展示ケース内部で使用されるクロス布からのアンモニア放散リスク評価に関する調査研究を行い、その結果を文化財保存修復学会第 42 回大会において発表した。

・新型コロナウイルスに対応した消毒薬材の、文化財材料に対する影響に関する調査報告を『保存科学』誌上で公表した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、2 年度は新型コロナウイルス対策と両立した環境管理に関する相談が多く、個別事情に応じた対応に努めた。②発展性においては、相談事例の多い環境管理上の問題に関して、その原因究明のための基礎調査を行い、結果を公表した。③効率性においては、改善に緊急性の高い事例には、可能な限り現地調査を行った上での対応検討を行った。④継続性については、環境改善案を示した施設に対して、必要に応じて機材や資材を貸与し、またその効果を追跡的に確認することに努めた。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	A	A	B	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	保存環境に関する相談件数：117 件 新築・増改築に関する相談施設数：2 施設	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿って、博物館や美術館、その他文化財保存施設における、保存と活用の両立を実現するための相談や協議に対応し、高い水準での環境維持や、改善に寄与したため、中期計画を達成したと判断した。 次期中期計画においても、新型コロナウイルス対策を最重要としつつ、全国の博物館等における、安全な文化財管理に資するための事業に努めていきたい。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	
都城発掘調査部 （平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）ほか	

【年度実績と成果】

・奈良県・奈良市の要請に対して実施した発掘調査の概要は次のとおり。

次 数	遺跡名	調査面積	調査期間	検出遺構
第631次	法華寺旧境内	37.2㎡	11月9日～17日	中世及び近世の土坑等
第634次	左京一条二坊十五坪	44㎡	3年1月13日～22日	奈良時代の溝及び土坑等
第636次	東院南方遺跡	45㎡	3年3月3日～19日	奈良時代の塀や溝等
第637次	平城宮北方遺跡	6㎡	3年3月11日～17日	奈良時代の築地塀

・奈良県・奈良市の要請に対して実施した工事立会調査
平城京内の遺跡計39件　調査のべ日数73日

年度計画評価	B

【評定理由】①適時性：地方公共団体（奈良県・奈良市）からの要請に対し、適切かつ迅速に対応することで文化財保護行政に資することができた。③発展性：遺構面の把握や遺構の分布状況の把握を通じて、今後の保存対策に資する情報を得ることができた。④効率性：発掘調査・立会調査を作業計画の調整などを通じて、施工者や国民への負担を最低限に留めて調査を進めることができた。⑤継続性：平城宮・京内に広く広がる遺跡の情報を着実に蓄積することができた。

観点	①適時性	③発展性	④効率性	⑤継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	発掘調査：4件 立会調査：39件	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する協力・助言等　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	地方公共団体（奈良県・奈良市）からの要請に応じて適宜に対応して文化財保護に資する活動を行い、平城京域における学術的情報の蓄積にも貢献した。以上から計画通り順調に進捗していると判断した。3年度以降も地方公共団体の要請に適宜応じつつ、遺跡の情報を確実に蓄積していきたいと考えている。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】 ○清野孝之（副部長)、山本崇（上席研究員)、廣瀬覚、森川実、若杉智宏、林正憲、石田由紀子、大林潤、鈴木智大（以上主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

飛鳥・藤原地区で地方公共団体が行う発掘調査等への援助事業は7件で、いずれも土木工事に伴う事前調査や立会調査である。緊急を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮及び飛鳥地域の考古学的研究についての基礎資料を蓄積した。

次　数	調　査　地	調査原因	発掘面積	調査期間	概　要
第204-1次	橿原市高殿町	個人住宅	10.0㎡	4月7日～4月10日	近世・近代の落ち込みを検出
第204-2次	橿原市四分町	店舗建設	84.0㎡	6月22日～7月29日	南北溝2条を検出
第204-3次	橿原市高殿町	水路改修	10.0㎡	12月7日～12月8日	顕著な遺構を認めず
第204-4次	明日香村豊浦	公園整備	100.0㎡	7月13日～9月9日	顕著な遺構を認めず
第204-5次	明日香村飛鳥	電気工事	2.8㎡	1月29日	顕著な遺構を認めず
第204-6次	橿原市下八釣町	個人住宅	45.5㎡	10月7日～10月26日	南北溝2条・土坑を検出
第204-7次	明日香村奥山	個人住宅	28.0㎡	11月16日～11月26日	土坑・斜行溝を検出

年度計画評価	A

【評定理由】

評定理由は次のとおり。①適時性は地方公共団体からの要請に基づき、店舗建設や個人住宅建設のための事前調査を適時適切に実施したことからAとした。②発展性は橿原市下八釣町の調査（第204-6次）において条坊遺構を検出できたことからAとした。③効率性はそれぞれの事前調査をかぎられた予算を用いて短期間で完了していることからBとした。④継続性は飛鳥・藤原地域の調査を50年以上にわたり続けていることからAとした。以上から、事業の進捗状況は年度計画以上であると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	A	A	B	A	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・援助（調査件数）7件 ・出土遺物：軒瓦9点、丸・平瓦2箱、土器24箱ほか ・論文等数：4件（ア～ウ）	—

ア道上祥武「藤原宮東方官衙南地区の調査－第204-1次」『奈良文化財研究所紀要2021』(3年6月予定)
イ森川実「藤原京右京六条二・三坊、四分遺跡の発掘調査―204-2次」『奈良文化財研究所紀要2021』(3年6月予定)
ウ石田由紀子ほか「藤原京左京三条三坊東南坪・西南坪―第204-6次」『奈良文化財研究所紀要2021』(3年6月予定)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	我が国古代国家成立期の主要舞台である飛鳥・藤原地域の調査研究は、開発事業との調整を適切に図りながら、関係自治体と緊密に連携して今後も継続的に進めてゆく予定である。2年度は新型コロナウイルスの影響もあって調査着手時期等の予定変更がみられたが、その都度、適宜地方公共団体からの要請に応えて、調査成果を迅速かつ着実に公開してきており、成果を上げることができた。いずれの調査も周到な準備のもとに適切に実施したものであるため、Aと評価する。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○松村恵司（所長）**	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

現在就任している専門委員会委員（一部）

・史跡上野国佐位郡正倉跡等長再整備委員会（群馬県伊勢崎市）
・因幡国古代山陰道発掘調査委員会（鳥取県）
・桜井市山田寺跡保存活用計画検討委員会委員（奈良県桜井市）
・讃岐国府跡調査指導専門委員（香川県坂出市）
・八尾市文化財保存活用地域計画協議会委員（大阪府八尾市）
・熱海市史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会委員（静岡県熱海市）
・国史跡鳥海柵跡整備委員会（岩手県金ケ崎町）
・宇治川太閤堤跡保存整備検討委員会委員（京都府宇治市）
・史跡断夫山古墳調査検討委員会委員（愛知県）
・横手市伝統的建造物群保存審議会（秋田県横手市）
・周防国府跡等官衙遺跡保存整備検討会委員（山口県防府市）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。

①適時性については、地方公共団体の要請に対し、適時・適切に対応した。②独創性については、当研究所独自の専門知識を生かし各委員会に、従事した。③発展性については、多様な要請に対応し今後の事業発展に貢献した。④継続性については、継続的に検討が必要な委員会等は、再任・任期の延長によって継続的に協力している。また新型コロナウイルスの影響により、現地への出張回数は減少したが、リモート参加も含めて、要請に応じた的確な対応をとることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・(参考値) 技術的助言件数：183 件　委員会出席、審議会出席、その他（現地指導・現地調査等）	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画期間中（28 年度から向こう 5 年間)、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・修復・整備事業や、建造物の調査、修復事業について、各担当機関から専門的な協力・助言の要請に応じ、適時・適切に対応することができた。 中期計画最終年度にあたる 2 年度も、新型コロナウイルスの影響で現地での協力・助言は制限されたが、委員会等へリモート参加することにより、各担当機関との連携・協力体制を維持できたと判断し、B評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2522E

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施	
東京文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

【年度実績と成果】

○国・地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務
・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務
・文化遺産国際協力コンソーシアム事業
・文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」
・被災資料有害物質発生状況調査業務

このほか、一般財団法人日本航空協会ほか3機関と共同研究を行った（計3件）。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルスの流行下の中、国・地方公共団体等の要請に応じて、喫緊の研究課題を的確に遂行することができた。②独創性においては、我が国の文化財研究の拠点としてこれまで当研究所が蓄積してきた調査・研究の実績を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究に取り組むことができた。③効率性においては、多様な研究課題の実施に際し、所内適任者による効率的な調査を実施することができた。④継続性においては、元年度に修理を終えた国宝高松塚古墳壁画、及び国宝キトラ古墳壁画等、これまで当研究所が受託してきた研究課題を3年度も発展して実施することができた。

観点	①適時性	②独創性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）受託研究　5件 共同研究　3件	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	国・地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものと考える。以上の理由から、中期計画の5か年を総括して順調に研究業務が遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2522F

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○松村恵司　（所長）	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、以下のような受託研究等を行った。

・松江神社建造物調査業務委託　（島根県松江市）
・智頭の林業景観整備計画策定調査　（鳥取県智頭町）
・第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託　（国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所）
・特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査　（奈良県橿原市）
・明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究　（奈良県明日香村）
・犬伏家住宅保存活用計画策定業務　（徳島県藍住町）
・松帆銅鐸・舌の調査研究　（兵庫県南あわじ市）
・令和２年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）　（文化庁）
・特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務　（文化庁）
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務　（文化庁）
ほか

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価を行った。

①適時性については、地方公共団体等の要請に応じて実施業務に適時・的確に対応した。②独創性については、独自の技術力そして唯一無二の専門性を生かして業務を遂行した。③発展性については、実施業務は多種多様であり、全国の地方公共団体等の今後の保存や活用の業務に貢献した。④効率性については、受託業務にかける時間と人力等を効率よく配置し遂行した。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	A	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) ・受託調査研究受入・実施件数　34 件　289,747,928 円　(元年度:48 件　355,823 千円)	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	受託研究の受入件数は、中期目標期間初年度から、年々増加し、また、複数年度に渡って、受託研究の受入れを行う場合も多くなっている。2 年度は、新型コロナウイルスの影響も予想されたが、受入れ件数は、例年並みの件数を維持している。よって、地方公共団体等の要請に基づき、当研究所の培ってきた調査研究の成果を活かし、的確に受託研究を遂行し、十分に計画を達成していると判断し、Ｂ評価とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2523F

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-3)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
プロジェクト名称	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（副所長）、金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）	

【年度実績と成果】

・28 年（2016 年）熊本地震により被災した熊本県内の装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会で組織された検討委員会に職員を委員として派遣した。
・元年 1 月に発生した地震により被災した和水町の江田船山古墳並びに塚坊主古墳の復旧支援のため、石質内部で温湿度データを収集し、データの解析をおこなった。
・元年 10 月 31 日に発生した火災により被災した首里城の地下遺構の保存に関する指導助言のため、職員を派遣し遺跡保存に関するセミナーを開催した。また、修理後の遺構の保存状況をモニタリングするため、地下遺構地盤の水分量および保護施設内部の温湿度環境について実測調査を実施した。

首里城遺構面温度測定

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、28 年の熊本地震により被災した熊本県内の装飾古墳の復旧支援、および元年に発生した首里城復原正殿の火災への迅速かつ適切な対応と考えられる。②独創性については被災装飾古墳への復旧支援事業としては、探査による被災状況の把握とその影響が石室内部の温熱環境に対してどのような影響を及ぼしているのか平行した調査を実施しており、このような調査体制は埋蔵文化財センターならではの調査体制と言える。③発展性については、地震や火災などの自然災害への防災・減災対策が必須と考えられる現在において、これらの調査から得られる成果は国内の遺跡において防災・減災対策においてきわめて有用な知見を提供し得るものと言える。④効率性については、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。⑤継続性については、各調査フィールドにおいて調査の長期的な目標、及び各年の短期的な目標を明確に設定し、各地方公共団体の文化財担当者と目標と成果を共有しつつ、長期的な文化財保護行政の一環としての調査研究という位置づけを得て事業を継続している。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・　研究発表等数：1 件（ア）	－

ア　脇谷草一郎　「首里城正殿基壇遺構の保存セミナー」における講義

中期計画評価	A

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	地震や火災などの自然災害への防災・減災対策が必須と考えられる今日において、これらの調査から得られる成果は国内の遺跡において防災・減災対策においてきわめて有用な知見を提供し得るものと言える。また 28 年の熊本地震により被災した熊本県内の装飾古墳の復旧支援、及び元年に発生した首里城復原正殿の火災への対応は迅速かつ適切なものと考えられることから上記の評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-1

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 １）文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長兼遺構研究室長）、今井晃樹（同考古第三研究室長）・馬場 基（同史料研究室長）・山本 崇（同上席研究員）・岩戸晶子・大林 潤・鈴木智大・前川 歩（以上同主任研究員）、福嶋啓人・山崎有生・目黒新悟（以上同遺構研究室研究員）、坪井久子・李 暉（以上同遺構研究室アソシエイトフェロー）、島田敏男（文化遺産部長）、加藤真二（企画調整部長兼展示企画室長）、中村一郎（同写真室専門職員）、飯田ゆりあ（同写真室技術職員）、鎌倉綾（技術補佐員）、難波美緒（同展示企画室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

2 年度は、以下のような内容について平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等へ協力した。

・南門勉強会の講師を務めた。前川歩「古代建築にみる近代」(7 月 7 日)、坪井久子「第一次大極殿院南門の木口金具―意匠の検討経緯―」(10 月 1 日)。
・5 月 30 日の工匠式以降、定期的に工事進捗状況を撮影（計 24 回 12 月 17 日時点)。その写真データの整理を行った。
・鴟尾、鬼瓦、隅木蓋瓦、金具などの製作に関する監修・助言、鴟尾設置・瓦製作の報道用資料の作成、報道発表当日（9 月 28 日）の現場対応などに協力した。
・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展『鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界－』の開催。3 年 1 月 23 日～3 月 28 日に平城宮いざない館で開催した。3 年 1 月 22 日には記者発表を実施した。この展示は平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事にかかわる研究成果を一般に公開するために企画したもので、奈良文化財研究所企画調整部展示企画室とともに協力した。展示に合わせて図録（ア）の出版及び公開講演会（イ・ウ）を実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】 ①適時性については国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所からの要請（勉強会の講師、復原工事に対する助言・協力等）に対して適宜対応してきた。②独創性については南門工事にともなう研究成果の公開を鬼瓦の展覧会という形で一般に公開した。③発展性については、第一次大極殿院南門復原建物工事ができる限り学術的根拠をもったものになるように協力した。④効率性については限られた時間のなかで重要な助言が正しく伝わるよう努力した。⑤継続性については平成 29 年度から開始した南門復原工事に対して一貫してさまざまな協力を継続してきた。また、工事の過程を継続的に撮影し記録化して将来の資料を作成した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	調査研究等刊行物：図録１件（ア） （参考地）勉強会の講師協力：2 回、報道発表への協力：1 回　講演会実施：2 回（イウ） 写真撮影：24 回	―

ア　『平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展　鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界－』3 年 1 月
イ　今井晃樹「鬼瓦の来た道」3 年 2 月 20 日
ウ　岩戸晶子「屋根に飛び降りた鬼瓦とその歴史」3 年 3 月 6 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	平城宮跡において中心的な活用事業の一環として第一次大極殿院南門が復原される。南門復原に供する調査研究はこの中期計画によって完了し、南門の復原建物も 3 年度には竣工予定である。完成後も長きにわたり平城宮の理解の一助となるよう、さまざまな面から復原工事に協力、助言を行ってきた。また、工事にともなう研究成果の公表を展覧会及び講演会という形で実施した。以上からＢと判定した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-2

中期計画の項目	（5）－③－1）	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2－（5）－③－1）	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)　文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力
プロジェクト名称	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○不藤 忠義（研究支援課長）、岡本 保彦（研究支援課長補佐）、森 直樹（研究支援課施設係長）、我妻 めぐみ（研究支援課宮跡等活用支援係係員）	

【年度実績と成果】

（1）特別史跡平城宮跡内及び藤原宮跡内の現状等について、情報提供及び助言
- 消防訓練実施への協力
- 平城宮跡歴史公園第一次大極殿施設復原整備工事への協力
- 第一次大極殿復原整備工事関係資料提供等
- 発生事案の報告及び対応
- 平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検討委員会への参加
- 平城宮跡保存・活用連絡協議会及び WG への参加

（2）平城宮跡及び藤原宮跡内における不具合対応策提案及び整備管理業務の実施
- 平城宮跡等草刈り管理業務
- 平城宮跡施設整備計画の情報提供等
- 復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応
- 宮跡内植栽管理への助言
- 国有地管理への助言
- 発生事案への報告及び対応

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、文化庁や国土交通省からの要望に対し、これまでの方針や過去の経緯等の情報提供及び必要な助言を適時的確に行い、昨年度同様に継続的な実績を上げた。また、事件事故等の事案に迅速に対応した。②発展性においては、文化庁、国土交通省等の委員会等への積極的な協力による情報共有を行い、適確な審議が可能となるための助言を行った。③効率性においては、過去の維持管理及び修繕等事業毎に整理された情報を迅速に提供した。④継続性においては、整備内容、発生事案等事例を継続的に積み重ねることによって、今後においても必要に応じて情報を提供できるよう事業進捗に協力した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・各種会議への参加件数（公園整備関係　第一次大極殿院復元工事定例会議 12 件） ・資料提供、協議等依頼への対応事項件数（文化庁 31 件、国土交通省 31 件） ・立会調査等対応件数（日数）等（文化庁 11 件、国土交通 9 省件）	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画期間を通じて、元年度までは計画通り所期の目標を達成してきた。2 年度は文化庁施設の公開・利用等の連絡調整、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備・維持管理及び修繕等事業推進への助言・協力について、従来から積極的に対応する計画であり、計画通り実施した。国土交通省においては平城宮跡歴史公園の開園後に環境整備及び第一次大極殿院地区の復原整備事業を推進している。2 年度は、随時必要な情報提供及び助言・協力等をした。 本中期計画期間においては、文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力、文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力の一定のとりまとめによって、中期計画を遂行できた。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-3

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（企画調整部長兼展示企画室長）、廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、藤田友香里（展示企画室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

【年度実績と成果】

平城宮いざない館第４展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について、国土交通省国営飛鳥歴史公園並びに管理センターに協力を行った。

・展示物の状態確認と日報の作成。井戸部材（廊下）と斎串（展示室４）の状態確認・展示環境を重点モニタリング。
・奈文研所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧。(15 件)
・奈良市教育委員会、奈良県教育委員会の協力のもと、学習ワークシート(元年度発行)の教員用手引きの作成。
・平城宮跡歴史公園開園２周年記念特別企画展「再発見、古都奈良を支える　木と匠のものがたり－過去といま、未来をつなぐタイムトリップ」展(2 年 3 月 20 日～5 月 31 日)の撤収・展示物返却作業の実施。
・感染症拡大予防策として、接触を伴う展示の対応策を講じるとともに、平城宮跡資料館とサイン等を共有・作成。
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者からの質問、マスコミ・テレビ取材対応など(31 件)
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正を行った。(31 件)
・展示評価調査として、来館者行動調査を展示室４にて実施した。(4 回)
・いざない館多目的室にて木簡をテーマに、南門建築端材と奈良筆・奈良墨を用いた体験プログラムの実施（11 月 22 日）

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、接触をともなう展示への対応策、サインの掲示等を行った。
②発展性においては、展示評価調査として行った来館者行動調査は、今後の平城宮いざない館での公開・活用事業を行うにあたっての重要なデータを得ることができ、今後の事業の発展の基礎を築くことができた。
③効率性においては、新型コロナウイルス感染症対策として、平城宮いざない館と平城宮跡資料館間の情報共有、サインの共有を行い、効率的に対応策をとることができた。
④継続性においては、今後、継続的に行なう平城宮跡に関わる体験プログラムの第１弾を実施することができた。
以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	
定性評価	B	A	B	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・日報の作成 ・奈文研所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧：15 件 ・学習ワークシートの教員用手引きの作成：１件 ・来館者等案内、質問対応、マスコミ・テレビ取材対応など： 31 件 ・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正：31 件 ・展示評価調査　4 回実施 ・体験プログラムの実施　1 回	―

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。
評定理由	平城宮いざない館を管理する公園管理センター並びに国交省国営飛鳥公園事務所平城分室とも良好な関係を築き、体験学習、ワークシートなどの企画・監修なども積極的に行うことができた。また、有効な新型コロナウイルス感染症対策も効率的に行うことができた。このため、今中期全体を通して平城宮いざない館の開館、開館後の学芸業務・連絡調整を円滑に実施し、中期計画を上回る成果をあげることができたと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-4

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
プロジェクト名称	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、清野陽一（学芸室研究員）、荻山琴美（学芸室アソシエイトフェロー）ほか２名	

【年度実績と成果】

・キトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営を行った。
・キトラ古墳壁画の第16回公開事業（7月18日～8月16日）、第17回公開事業（10月17日～11月15日）、第18回公開事業（3年2月6日～ 3月7日）を実施した。各公開では壁画とともに解説パネル・出土遺物レプリカ・模型等を展示した。また、壁画の解説映像の製作・上映を行った。第17・18回では音声解説ナレーションを作成した。
・壁画公開期間にあわせてキトラ天文図を解説する移動プラネタリウムのイベント（10月24日～11月3日、3年2月20日～2月28日）を実施した。
・壁画公開時にチラシ、ポスター、解説リーフレットを作成した。解説リーフレットは英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語を毎回用意して外国語対応を充実させた。
・天井壁画が天文遺産に認定された記念として天文図のポストカードを作成し、第17回公開参加者に配布した。
・壁画非公開期間においても展示室の公開を実施した。キトラ古墳石室模型や中国の天文図拓本などを展示した。お正月展示にあわせて「十二支　丑」の解説シートを作成した。
・新型コロナウイルス感染症対策のため4月1日～6月14日を臨時閉室とした。第15回公開事業（5月16日～6月14日）は中止となった。
・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センター、飛鳥保存財団と、連絡調整等のため月1回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行った。広報等についても協力した。

日本天文遺産記念ポストカード

年度計画評価	A

【評定理由】
施設の管理・運営と公開事業等を継続して効率的に実施できた（⑤継続性・④効率性）。新型コロナウイルス感染症に対応した消毒・検温等の実施は①適時性に優れ、順調に公開を実施することができた。日本天文遺産認定を受けて作成した箔押しのポストカードも①適時性・②独創性に優れている。プラネタリウムも好評で今後が期待できる（③発展性）。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・壁画公開実施　3回　・解説シート　1　・協議等回数　計10回 ・リーフレット　3（ア～ウ）　・移動プラネタリウム　2回	

ア『令和２年度　キトラ古墳壁画　第16回公開』7月18日発行
イ『令和２年度　キトラ古墳壁画　第17回公開』10月17日発行
ウ『令和２年度　キトラ古墳壁画　第18回公開』3年2月6日発行

中期計画評価	A

中期計画記載事項	
評定理由	新型コロナウイルス感染症によって臨時閉館を余儀なくされた中でも毎日出勤して施設の維持管理にあたったことは高く評価できる。また新型コロナウイルス感染症対策として消毒や検温、マスク着用の案内など必要な対策を整え、混乱なく壁画公開事業を実施したことも高い評価を与えられる。天文遺産認定記念のポストカードやプラネタリウムなど、他施設とは違う企画は人気が高く、中期計画を通じても、キトラ古墳壁画の保存管理とともに公開活用の促進を継続することができたと判断したため、A評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2532F

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-2)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 2)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
プロジェクト名称	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○貴村好隆（連携推進課長）、不藤忠義（研究支援課長）、溝端靖秀（連携推進課課長補佐）	

【年度実績と成果】

1）ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークへの協力

ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークの事業等における講師派遣、会場提供等及び情報共有にための会議開催の協力を行った。

・「平城京歴史講座」（講師派遣協力）（「平城宮東方官衙太政官弁官曹司」講師：馬場基(当研究所史料研究室長)）10 月 10 日　参加者数：60 人　平城宮いざない館

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数に制限をかけて開催した。

・秋の遺跡見学会への協力（講師派遣）（平城宮跡東院・法華寺周辺を歩く：小田裕樹主任研究員）10 月 31 日　参加者数：15 人

・ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（月 1 回開催、年計 12 回開催）

・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークを含む奈良県、国交省 4 者での会議：2 ヶ月に 1 回開催、年計 6 回開催）

2）周辺自治会等への協力

自治会主催の歴史教室への講師派遣、周辺中学校の職場体験への協力を行った。

・「佐保川地域ふれあい会館の歴史教室」（佐保川自治連合会）への講師派遣

藤間客員研究員（史料研究室）「平城宮・京木簡の削りくずー保存処理を進めるなかでー」7 月 11 日　参加者数　22 人

箱崎都城発掘調査部長（都城発掘調査部）「不退寺と奈良の中世寺院建築」9 月 12 日　参加者数　25 人

和田主任研究員（考古第一研究室）「佐紀古墳群の埴輪はどこで作ったのかー平城宮東院下層に眠る埴輪窯ー」12 月 12 日　参加者数　27 人

前川主任研究員（遺構研究室）「平城宮跡東方官衙地区の発掘調査成果」3 年 1 月 9 日　参加者数　22 人

高橋研究員（遺跡整備研究室）「法華寺庭園の歴史と魅力」3 年 3 月 13 日　参加者数　32 人

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数に制限をかけて開催した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、NPO 法人の活動に継続して協力すると共に、NPO 法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月 1 回実施した。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴う情報共有、意見交換を行うため NPO 法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との 4 者会議を定期的に開催したことにより継続して連携協力関係を維持している。②発展性については、NPO 法人の歴史講座、周辺自治会が企画する講座への講師派遣を通じて、広く情報発信を行うことができた。③効率性については、NPO 法人等との定期会議等開催において、当研究所の施設を利用し効率性を維持した。④継続性については、NPO 法人への支援や、周辺自治会への協力を引き続き実施し、協力体制を継続的に維持させることができた。以上により、本事業については、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。新型コロナウイルスの影響により講座等を通常の形で行うことが難しい状況であったが、人数制限を設ける等、感染防止対策を徹底する措置を行い事業を実施した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
		－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	中期目標期間を通じて、元年度までは計画通り所期の目標を達成した。なお、2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、参加者数に制限を設ける等の感染防止対策を徹底する措置を講じて開催されたもの等もあったが、中期計画期間の最終年度として各種ボランティア活動への協力体制は予定どおり維持し計画を達成していると判断した。以上を含めて、今中期計画期間全体を通して事業を実施できたと判断し、Ｂ評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2541E

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、早川泰弘（センター長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）	

【年度実績と成果】

緊急事態宣言中から他専攻に先んじてオンライン講義を始め、解除後には対面講義と併用して教育を進めた。全ての講義で受講生は例年よりも多く受け入れ、オンラインの特性を活かして演習や教員会議などへの貢献も例年より多く行えた。

○今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限）　2単位　朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則　20人（聴講2人）

修復計画論　（前期、木曜1限）　2単位　朽津信明・安倍雅史　9人（聴講3人）

修復材料学特論（前期、木曜2限）　2単位　早川泰弘・早川典子　12人（聴講3人）

保存環境学特論（後期、火曜1限）　2単位　犬塚将英・佐藤嘉則　7人（聴講1人）

文化財保存学演習

講師：朽津信明　「自宅で文化財を見学しよう」

日時：5月26日(火)13～17時、21人（聴講2人）、

講師：安倍雅史「「Meta Shape(旧 Photo Scan)を使った 3 次元測量実習」

日時：10月20日(火)13～17時、21人

オンライン講義風景

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士学位審査会への協力

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、他専攻に先んじてオンライン講義を導入し、例年よりも多くの学生の指導を行うことができた点を高く評価した。②独創性においては、オンライン講義の特性を活かし、また社会情勢を踏まえた2年度ならではの独自の講義を行えた点を評価した。③発展性においては、2年度から博士課程の学生を受け入れ、教育の充実が期待されることになった点を評価した。④効率性においては、対面講義が可能となってからは対面とオンラインを効率的に使い分け、教育効果を挙げることに寄与したことを高く評価した。⑤継続性においては、藝大との協力関係を維持することによって、最新の研究成果を若手人材育成に有効活用できている点を評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】　（参考値）	定量評価
	・開講時間： 前期　火曜1限、木曜1限、木曜2限　/　後期　火曜1限 ・開講回数：90分×15回、受講者数：延べ101人 ・開講時間　1限 9：00～10：30　2限 10：40～12：10　　3限 13：00～14：30 ・開講回数　計4コマ　各2単位	—

中期計画評価	B

中期計画記載事項	連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	文化財保存学専攻他教室に在籍している修士・博士学生の教育にも協力し、大学側からの評価も高く、計画を遂行できた。また 2 年度は新型コロナウイルスの流行下の中でも、早期からオンライン化の取り組みを始めたことにより、例年よりさらに多くの受講生を指導することができた。また、2年度から新規に博士学生を受け入れ、次期中期計画の中で博士論文まで作成可能の見込みである。以上の理由から、中期計画の5か年を総括して順調に遂行されたと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2541F

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学）
プロジェクト名称	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○松村恵司（所長）	

【年度実績と成果】

○客員教授・准教授として学位審査及び各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を実施。
京都大学大学院人間・環境学研究科
・玉田 芳英「原始・古代精神文化論１・2」「文化遺産学演習 2A・2B」
・高妻 洋成「保存科学論１・2」「文化遺産学演習 5A・5B」
・馬場　基「史料学論１・2」「文化遺産学演習 3A・3B」
・山﨑　健「環境考古学論１・2」「文化遺産学演習 4A・4B」
奈良女子大学大学院人間文化研究科
・今井 晃樹「東アジア考古学特論」「東アジア考古学演習」
・神野　恵「歴史考古学特論」「歴史考古学演習」
・桑田 訓也「木簡学特論」「木簡学演習」

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、本務において得た最新の研究成果などをもとに、研究指導を行った。②独創性においては、当研究所が長年培ってきた専門知識を教授することができた。③発展性においては、連携大学院における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。④継続性においては、大学との連携協定を基に長年継続しており、継続的に実施することができた。文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、計画通り寄与することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・受入学生数 京都大学　12 人 奈良女子大学　1 人	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	連携大学院協定に基づき、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院教育を実施し、計画的かつ継続的に若手研究者の育成に寄与することができたため、中期計画を遂行できたと判断した。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2551

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
（文化財防災センター）
1)体制づくり
地域の多様な文化財の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。
・文化遺産防災ネットワーク推進会議を一層充実発展させ、連携体制の強化を図る。文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。
・地方公共団体、博物館等施設、地域史料ネット等関係団体との協議、情報交換会の開催、調査の実施及び会議・シンポジウム等への参加等を通じて、地域内及び地域間の文化財防災ネットワーク構築を促進する。
・災害発生時に多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種のガイドライン等の策定を行う。
・多様な文化財の防災に取り組むための機構内体制の構築に関する検討を行う。

担当部課	本部文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】
1)
・文化遺産防災ネットワーク推進会議幹事会（文化遺産防災ネットワーク推進会議参画機関25団体のうち幹事4団体による協議会）を開催。(3年2月19日：奈良文化財研究所)［文化財防災センター］
・文化遺産の防災に関する有識者会議を開催。(3年3月8日)［文化財防災センター］
・文化財保存活用地域計画を作成した自治体に訪問し、文化財保護行政の現況及び防災施策について調査、意見交換を実施した（2件)。［東京国立博物館］
常陸大宮市教育委員会事務局文化スポーツ課（9月25日)、下野市教育委員会事務局文化財課文化財グループ（9月30日）
・関係団体からの要請に応じて講演を実施した（1件)。［東京国立博物館］
長野県教育委員会事務局主催「文化財の防火・防災研修会」(3年1月22日：WEB開催)
・関係団体等を訪問し、文化財防災体制及び資料保存に関する情報取集、意見交換を行った（2件)。［東京国立博物館］
群馬歴史資料継承ネットワーク設立総会・記念報告会（7月12日：昌賢学園まえばしホール)、人と防災未来センター（10月8日)、
第68回全国博物館大会（11月26日：横浜市開港記念会館）
・関連学会にて、関東・甲信越ブロック内の文化財防災に関する研究報告を行った（2件)。［東京国立博物館］
「市町村における文化財防災の現状と課題―関東甲信越地域の事例から―」文化財保存修復学会第42回大会（7月、書面開催)、
「文化財防災に向けた分野横断型連携の構築―関東甲信越地域における取り組み―」日本建築学会2年度大会（7月、書面開催）
・岐阜県文化伝承課との協議（11月6日：京都国立博物館）［京都国立博物館］
・京都文化財防災対策連絡会への参加（書面開催：第1回6月11日、第2回3年1月20日）［京都国立博物館］
・令和2年7月豪雨における文化財被災情報の収集：滋賀県、岐阜県への聞き取り調査［京都国立博物館］
・情報収集：福井県文書館資料保存研修会（10月14日）［京都国立博物館］
・愛知県文化財保存活用大綱案中間まとめに係る意見照会に対して回答・助言を行った。(4月28日)［奈良国立博物館］
・奈良県立橿原考古学研究所において、奈良県内の文化財防災体制に関する意見交換を行った。(8月5日)［奈良国立博物館］
・奈良県立橿原考古学研究所において開催された奈良県文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議に参加した。(8月5日)［奈良国立博物館］
・国立アイヌ民族博物館において、文化財の防災に関する意見交換を行うとともに、施設内の資料保存・調査関連設備の見学を行った。(9月8日)［奈良国立博物館］
・三重県津庁舎で行われた三重県文化財保護指導委員会議（1日目）に出席し、文化財防災に関する報告を行った。(鳥越俊行「文化財防災のための連携体制構築の現状と課題」)(9月17日)［奈良国立博物館］
・三重県尾鷲庁舎で行われた三重県文化財保護指導委員会議（2日目）に出席し、文化財防災に関する報告を行った。(佐藤稜介「文化財防災のための連携体制構築の現状と課題」)(9月18日)［奈良国立博物館］
・沖縄県の担当者に対して被災文化財の保存修理施設に関する助言を行った。(12月23日)［奈良国立博物館］
・三重県環境生活部文化振興課主催のパネル展示「三重の文化資産を守ろう」に対して、画像提供を行った。(3年1月)［奈良国立博物館］
・熊本県博物館ネットワークセンター、熊本県文化財資料室にて、令和2年7月豪雨による熊本県内文化財被害調査を行った。(7月10日)［九州国立博物館］
・九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会ワーキング会議（オンライン）に参加した。(8月31日)［九州国立博物館］
・佐賀県文化課文化財保護室に文化財防災体制についてオンラインでヒアリングを行った。(3年2月25日)［九州国立博物館］
・北海道・東北ブロックにおける文化財防災に関する研究協議会（書面開催）による意見交換、情報収集、報告書刊行。［東京文化財研究所］
・シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」(10月25日：京都国立博物館）に2名参加した。［東京文化財研究所］
・文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」をオンラインで開催した。(12月11日）また、セミナー終了後から12月20日までYouTubeにてアーカイブ配信を行った。［東京国立博物館、九州国立博物館、文化財防災センター］
Zoomウェビナーによる当日参加31人、YouTubeライブ視聴（最大同時接続数）57人、10日間のアーカイブ配信期間を含むYouTube視聴回数464回。
セミナー開催に際し、打合せ及び撮影を実施した。
九州国立博物館（11月12日)、川崎市市民文化振興室（11月13日、11月20日)、長野市立博物館（11月19日、12月11日）
・第3回中部・近畿文化財防災連絡会議を開催した。（書面開催）(3年3月25日)［京都国立博物館、奈良国立博物館、奈良文化財研究所］

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	・年度計画に沿って、文化財防災の中核となるべく機構内に常設の機関として新たに文化財防災センターを設置した。 ・新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため、書面開催やオンライン開催とすることで地域ブロックごとのヒアリング調査や研究協議会等を実施することができた。また、オンラインにより会議やシンポジウムに参加し、情報収集に努めた。 ・文化庁と文化財防災センター協議会を開催し、多様な文化財の防災に対する意見交換を行うなど、計画を着実に実施することができた。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
1)体制づくり
有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	我が国の文化財防災の拠点とするべく、元年度までの補助金事業の成果を踏まえ、常設の機関として文化財防災センターを設立することができた。各地域ブロックにおいてヒアリング調査や研究協議会を開催することで地域文化財防災体制の構築を推進することができた。 以上のことから、中期計画に掲げた目標を上回る成果が得られたと判断し、Aと判定した。

【書式A】　施設名：国立文化財機構　処理番号：25527

中項目	2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を行う。
・全国の文化財防災の先進事例や地方指定等文化財情報に関する情報を収集・整理し、共有化を図る。
・文化財防災体制のあり方に関する調査研究を行う。
・国及び地方指定等文化財に関するデータ、及び地方公共団体が制定した全国の文化財保護条例に関するデータの収集を進め、それらデータベースの活用方法を検討する。
・歴史災害痕跡のデータベース等の運用・活用を進め、地域文化遺産リストに関する地図作成作業等の成果を公開し、広く文化財全般の防災ネットワーク構築に寄与する。
・文化財が被災した自然災害に関する事例を収集し、データを公開する。

担当部課	本部文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】
2)
ア
・文化庁の「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」として、26年度から元年度までの約6年間にわたって実施した「文化財防災ネットワーク推進事業」の活動報告を本編と資料編の2冊にまとめ刊行した。(3月31日刊行)【文化財防災センター】
・「文化財が被災した災害に関する事例集（歴史資料編）」(『文化財防災ネットワーク推進事業活動報告書』3月31日刊行）として、文化財等の防災に関する研究成果を公表した。[奈良国立博物館]
・文化財防災の基礎情報となるデータベース構築と、文化財防災に貢献できる行政担当者のネットワーク構築を継続した。[東京文化財研究所]
・国（文化庁）及び都道府県の情報提供による「全国文化財等データベース」（非公開）作成を継続した。2年度は有形（美術工芸）約4,500件、無形約7,100件を入力・整理。[東京文化財研究所]
・「全国文化財等データベース」に連動した「無形文化遺産総合データベース」（公開）作成を継続。約6,000件を公開（3年3月）。[東京文化財研究所]
・「無形文化遺産総合データベース」に連動したアーカイブスに動画等データを収集・運用。[東京文化財研究所]
・全国都道府県の民俗文化財担当者間でメーリングリスト等を用いた情報共有を行った。[東京文化財研究所]
・全国文化財保護条例データベース及び無形文化遺産情報収集ウェブサイト「いんたんじぶる」を継続的に運用。[東京文化財研究所]
・阪神・淡路大震災での被災文化財等救援委員会の活動に係る記録資料の分析を実施、東日本大震災、平成28年熊本地震の記録との比較を行った。[東京文化財研究所]
・阪神・淡路大震災当時の文化庁、東文研、全国美術館会議、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の関係者に、救援活動について聞き取り調査を実施した。[東京文化財研究所]
・災害痕跡データベースの構築・公開事業については、大きく2つの作業を進めている。1つ目は、発掘調査報告書や現在の発掘調査現場を中心に、過去の地震や火山噴火の災害痕跡情報の集成とデータベース化である。2年度は、奈良盆地とその周辺を中心に進め、地震災害発生時期の検討を深めるためのデータ集成を行った。加えて、過去の火山噴火災害について、鹿児島を中心にデータの集成を進めた。さらに2年度より古代官衙・寺院、官道を中心に古代地名とその位置のデータ集成を始めた。2つ目は検索データベースの構築である。2年度は、昨年より進める地方公共団体等からの外部データ入力や、当研究所からのデータ校正のためのインターフェースの改善を進め、様々な文化財の入力を可能にできるような設計構造の検討を行っている。それと同時にデータセキュリティの向上と入出力の簡便性のバランスの検討などを行っている。[奈良文化財研究所]
・3年度以降の文化財保全地図システムのさらなる開発に向けて、これまでのデモ版地図システムの使い勝手や今後の運用方法について地方公共団体関係者と協議した。[奈良文化財研究所]

【補足事項】

文化財防災ネットワーク推進事業活動報告書 本編・資料編

全国文化財等データベース

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に沿って、下記事業などの計画を着実に実施することができた。 ・発災時における文化財レスキューの基礎データとするべく、全国文化財等データベース及び無形文化遺産総合データベースの作成を進めた。 ・市町村単位の文化財を対象とした文化財保全地図システムを構築した。 ・発掘調査等で記録された災害痕跡から文献史料では把握することのできないローカルな災害履歴のデータベース化を進めた。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	防災対策の最重要課題である地域における災害史を明らかにするための災害痕跡データベースを構築し、その利用を進めたこと、発災時に重要な情報となる文化財の所在情報を集約する文化財保全地図システムを完成させたこと、全国文化財等データベース及び無形文化遺産総合データベースの構築を進めたことは、中期計画の所定の目標を上回る成果を上げたと判断し、評定をAとした。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2552イウエ

中項目	2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
2)調査研究等の実施
イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境、被災現場の作業環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。
・けいはんなオープンイノベーションセンターの施設を利用し、収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点としての活用について研究を行う。
・災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣化診断・応急処置の方法や安定的保管のための保存環境、被災現場の作業環境等に関する研究を行う。
ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。
・無形文化遺産総合データベースをデータ収集と公開を進め、これを活用して無形文化遺産の防災に寄与する。
・無形文化遺産の防災に関する地域間の情報共有を促進する。
・無形文化遺産の動態記録作成調査を通じて、災害発生後の継承と無形文化遺産が地域の復興に果たす役割等に関する研究を実施する。
エ　建造物等の不動産文化財の防災についての検討を行う。

担当部課	本部文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】
2)
イ
・けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）収蔵庫活用に関する調査研究［京都国立博物館］
　非常災害時に活用できる非常用収蔵庫の試験的な運用のため、KICK内の2つの収蔵庫について、定期的な清掃、温湿度データ管理、浮遊菌調査等を実施し、維持管理を継続して行った。また、7月からは、知恩院塔頭良正院本堂の襖絵の緊急避難に関する調査研究を開始している。これは堂内にある襖絵74枚の損傷を避けるための工事中の避難措置として、一時保管を行うものである。
・知恩院塔頭良正院本堂の保存修理工事に伴う襖絵の緊急避難に関する調査研究を開始。（7月～）［京都国立博物館］
・KICK防災訓練への参加（11月20日）［京都国立博物館］
・旧警戒区域から搬出した文化財を一時保管している福島県文化財センター（白河館まほろん）でのアセトアルデヒドの発生問題について、環境改善方法を模索するための環境調査と改善に向けた協議を行った。［東京文化財研究所］
ウ
・無形文化財の防災・減災について検討するための情報収集と、記録映像を基に分析する準備を行った。［東京文化財研究所］
・無形文化遺産の防災・減災のための動態記録作成の方法論構築を目的に、各調査地域において撮影された映像とその編集方法について、モデル的に検討を行い、防災・減災のための映像記録作成について調査研究・情報収集を実施した。［東京文化財研究所］
・無形文化遺産の減災・伝承に資する映像記録作成として、鵜飼船製造技術記録映像の編集を行い関係者で共有した（3年3月）。［東京文化財研究所］
・「無形文化遺産の防災のための動態記録作成に関する調査研究事業」事業報告書を刊行した（3年3月30日）。［東京文化財研究所］
エ
・建造物の防災に対して文化財防災センターが取り組む事業について、文化庁や関連団体との協議を行い、発災後の文化財ドクター事業への取り組み等について意見交換と体制の調整等を行った。［文化財防災センター］

【補足事項】

KICK収蔵庫内

白河館まほろんでの一時保管環境調査

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に沿って、下記の事業などを着実に実施することができた。
・災害時における緊急避難場所の確保に関するシミュレーションをKICKにおいて実施するとともに、緊急避難させた文化財の保管環境調査を実施し、一時保管のためのデータの蓄積を行った。
・無形文化遺産の防災の取り組みの一環として動態記録作成の方法論構築を行った。
・多様な文化財の防災の取り組みとして、建造物の防災について協議を行い、一定の方向性を見出した。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
2)調査研究等の実施
イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う。
ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
保存科学に基づいた被災文化財等の劣化診断、保存環境の改善、安定化処置及び修理に関する開発的研究を実施するとともに、無形文化遺産の防災について動態記録を作成する方法を構築した。
以上の実績により、中期計画に掲げた目標を上回る成果を上げたため、Aと判定した。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2553

中項目	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
3)人材育成・事業啓発活動等の実施
・本事業での取組についてウェブサイト・パンフレット等を作成・更新して国内外への情報公開に努める。
・文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発、普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。
・諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに、我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。

担当部課	本部文化財防災センター	事業責任者	センター長　髙妻洋成

【実績・成果】
3)
・文化財防災センターのパンフレットを作成（4,500部）し、関係機関に配布した。また、同パンフレットを文化財防災ネットワークのウェブサイトへ掲載し、活動概要の紹介を行った。[文化財防災センター]
・「2019年度文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム」の報告書を発行(1,000部・8月28日)、関係機関、教育委員会等に配布した。[文化財防災センター]
・第67回文化財防火デー トークイベント「災害からまもろう！私たちの文化財」（1月30日）を開催し、Youtubeにてライブ配信を行い、当日の最大同時接続数は44人、3月31日時点での再生回数は1,200回。[文化財防災センター]
・東日本大震災から現在までの文化財レスキューの取り組みについての映像「東日本大震災から10年　文化財防災の歩み」を読売テレビとともに制作し、3月11日にYouTubeにて公開した。3月31日時点での再生回数は841回。[文化財防災センター]
・研修会「文化財レスキューと心理社会的支援」（10 月 19 日：国立アイヌ民族博物館）を開催し、北海道内の文化財担当職員、学芸員等 15 人が参加。[東京文化財研究所]
・シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」（10月25日：京都国立博物館）を開催し、68人が参加した。[京都国立博物館]
・文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」をオンラインで開催した。（12月11日）また、セミナー終了後から12月20日までYouTubeにてアーカイブ配信を行った。Zoomウェビナーによる当日参加31人、YouTubeライブ視聴（最大同時接続数）57人、10日間のアーカイブ配信期間を含むYouTube視聴回数464回。[東京国立博物館、九州国立博物館、文化財防災センター]

【補足事項】

トークイベント「災害からまもろう！私たちの文化財」

映像「東日本大震災から 10 年　文化財防災の歩み」

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に沿って、下記事業などの計画を着実に実施できた。 ・設立された文化財防災センターの事業を紹介するパンフレットを作成し、広く周知した。 ・シンポジウムの開催、オンラインによるセミナーの開催、北海道における防災研修を開催した。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
3)人材育成等の実施　文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要請を受け、文化財防災に関する知見や技術をシンポジウムや研修等を通して、広く普及させることができ、中期計画に掲げた目標を達成したことから、Bと判定した。

（受託事業）

処理番号	年度計画の記号	受託事業名	担当	備考	頁
3112F-1	2-(1)-①-2)	高野山地区建造物調査	奈文研	文化遺産部	317
3132F7-1	2-(1)-③-2)-ｱ	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	奈文研	都城発掘調査部（平城）	318
3132F7-2	2-(1)-③-2)-ｱ	薬師寺東塔周辺防火設備整備に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	319
3132F7-3	2-(1)-③-2)-ｱ	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	320
3132F7-4	2-(1)-③-2)-ｱ	西大寺旧境内の発掘調査①	奈文研	都城発掘調査部（平城）	321
3132F7-5	2-(1)-③-2)-ｱ	西大寺旧境内の発掘調査②	奈文研	都城発掘調査部（平城）	322
3132F7-6	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京右京三条一坊八坪の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	323
3132F7-7	2-(1)-③-2)-ｱ	興福寺旧境内・奈良町遺跡の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	324
3132F7-8	2-(1)-③-2)-ｱ	史跡法華寺旧境内・名勝法華寺庭園の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	325
3132F7-9	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京跡左京三条一坊十五坪の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	326
3133F	2-(1)-③-3)	京都市の文化的景観にかかる調査業務	奈文研	文化遺産部	327
3135F	2-(1)-③-5)	令和2年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	奈文研	埋蔵文化財センター	328
3213F-1	2-(2)-①-3)	木造金剛力士立像2躯の製作年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	329
3213F-3	2-(2)-①-3)	木造源頼朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	330
3226F	2-(2)-②-6)	松帆銅鐸・舌の調査研究	奈文研	埋蔵文化財センター	331
3230E-1	2-(2)-②-10)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	東文研	保存科学研究センター	332
3230E-2	2-(2)-②-10)-ｱ	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	東文研	保存科学研究センター	333
3230F-1	2-(2)-②-10)-ｱ	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	奈文研	埋蔵文化財センター	334
3230F-2	2-(2)-②-10)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	奈文研	埋蔵文化財センター	335
3311E	2-(3)-①-1)-ｱ	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	東文研	文化遺産国際協力センター	336
3312E	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	東文研	文化遺産国際協力センター	337
3312F-1	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｲ)	令和2年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	奈文研	企画調整部	338
3320G	2-(3)-②	令和2年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		339
3411F	2-(4)-①-1)	令和2年度 文化資源活用事業費補助金（文化財多言語解説整備事業）「平城宮跡資料館　特別史跡平城宮跡に関する多言語解説情報発信強化事業」	奈文研	企画調整部	340
3521F-1	2-(5)-②-1)	松江神社建造物調査業務委託	奈文研	文化遺産部	341
3521F-2	2-(5)-②-1)	智頭の林業景観整備計画策定調査	奈文研	文化遺産部	342
3521F-3	2-(5)-②-1)	犬伏家住宅保存活用計画策定業務	奈文研	文化遺産部	343
3521F-4	2-(5)-②-1)	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	奈文研	都城発掘調査部（平城）	344
3521F-5	2-(5)-②-1)	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	345
3521F-6	2-(5)-②-1)	第一次大極殿院東楼復原整備に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	346
3521F-7	2-(5)-②-1)	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	347
3521F-8	2-(5)-②-1)	藤原宮跡（四分町店舗建設）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	348
3521F-9	2-(5)-②-1)	藤原京跡（下八釣町個人住宅建築）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原）	349
3521F-10	2-(5)-②-1)	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	350
3521F-11	2-(5)-②-1)	「中世・近世石づくりのまち」調査研究事業	奈文研	埋蔵文化財センター	351
3521F-12	2-(5)-②-1)	令和2年度 史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査	奈文研	埋蔵文化財センター	352
3523E	2-(5)-②-3)	被災資料有害物質発生状況調査業務	東文研	保存科学研究センター	353
3523F	2-(5)-②-3)	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	奈文研	埋蔵文化財センター	354
3531F-1	2-(5)-③-1)	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	奈文研	企画調整部	355
3531F-2	2-(5)-③-1)	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	奈文研	研究支援推進部	356

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	高野山地区建造物調査　(①-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：高野町 受託経費：939 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田　敏男
【スタッフ】大林潤（都城発掘調査部主任研究員）、鈴木智大（都城発掘調査部主任研究員）、前川歩（都城発掘調査部主任研究員）、福嶋啓人（都城発掘調査部遺構研究室研究員）、目黒新悟（都城発掘調査部遺構研究室研究員）、山崎有生（都城発掘調査部遺構研究室研究員）			

【年度実績概要】

和歌山県高野町では、元年度に受託業務として、町内の歴史的建造物の悉皆調査を行った。

2 年度は、元年度の調査成果に基づき、高野山山上にある高野山金剛峯寺管轄下の建築のなかから、主として江戸時代末期の被災復興にかかる建築を抽出し、現地で詳細調査を行った。調査を行った建物は、35 件である。それぞれの建物について、調書作成、平面図野帳作成、必要に応じて断面図作成、写真撮影を行った。

3 年度以降は、2 年度の調査成果にもとづき、調査した建築群の価値を明確にする予定である。

高野山金剛峯寺（和歌山県）大主殿外観

高野山金剛峯寺（和歌山県）大主殿内部

【実績値】

調査回数：5 回（延べ 14 日）
調査棟数：35 棟
野帳枚数：80 枚
写真カット数：5,000 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務　(③-2)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：東大寺 受託経費：13,249 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	箱崎和久（都城発掘調査部長）

【スタッフ】
島田敏男（文化遺産部長）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室長）、馬場基（都城発掘調査部史料研究室長）、神野恵（同考古第二研究室長）、大林潤・鈴木智大・前川歩（以上同主任研究員）、山本祥隆（同史料研究室研究員）、福嶋啓人・山崎有生・目黒新悟（以上同遺構研究室研究員）、山本光良（同遺構研究室アソシエイトフェロー）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）

【年度実績概要】

平成 30 年度より東大寺から委託を受けている研究の 3 年目である。奈良時代創建の東大寺東塔の復元原案の作成を行う。

元年度までは、全高を約 23 丈とみた案（以下、23 丈案）について構造・意匠の検討を進めたが、2 年度は東大寺が主催する有識者による委員会（以下、親委員会）の指摘を受け、全高を約 32 丈とみた案（以下、32 丈案）を 2 案検討した。それにともない、類例となる絵画資料や文献史料の調査・検討を行った。

一方、23 丈案については、部材数量を抽出し、外部機関と構造的な検討を進めた。また、発掘遺構や出土遺物のほか、文献・絵画等の各種資料、現存建築を参考に初重内部と外部荘厳などについて検討した。

これらの検討内容に基づき、文建協に復元図の作成を指示し、復元図を作成した。

第 15 回東大寺東塔復元検討会
（令和 2 年 7 月 8 日）

これらは所内の研究職員を中心とする「東大寺東塔復元検討会」（以下、所内検討会）を計 4 回開催し検討を深めた。また、親委員会が 2 回開催され、その場でそれまでの検討成果を発表し討論を行った。

2 年度の所内検討会及び親委員会の概要は以下の通り。
・23 丈案の部材数量、32 丈案の検討 1（第 15 回所内検討会、7 月 8 日）
・23 丈案の構造解析 1、32 丈案の検討 2（第 16 回所内検討会、8 月 20 日）
・23 丈案の構造的な検討、32 丈案の検討（第 5 回親委員会、9 月 1 日）
・23 丈案の構造解析 2、初重内部の検討 1、外部荘厳の検討 1、組物の検討 4（第 17 回所内検討会、10 月 28 日）
・23 丈案の構造解析 3、初重内部の検討 2、外部荘厳の検討 2（第 18 回所内検討会、3 年 1 月 8 日）
・23 丈案の構造的な検討、初重内部・外部荘厳の検討、32 丈案の報告（第 6 回親委員会、3 年 1 月 20 日）

【実績値】
・東大寺東塔復元検討会：4 回（第 15 回～第 18 回）
・東大寺東塔建築復元検討委員会：2 回（第 5 回～第 6 回）
・論文等数：2 件（①、②）
　①「逓減の検討（仮）　東大寺東塔の復元研究 3」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)
　②「須弥壇の検討（仮）　東大寺東塔の復元研究 4」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)
・報告書等数：2 件（③、④）
　③『東大寺東塔復元検討会記録 7』(3 年 3 月)（内部資料）
　④『東大寺東塔復元検討会記録 8』(3 年 3 月)（内部資料）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
【事業名称】	薬師寺東塔周辺防火設備整備に伴う発掘調査　③-2)-ｱ

【委託者・受託経費】
委託者　：薬師寺
受託経費：382 千円

【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基(都城発掘調査部史料研究室長)、前川歩（同主任研究員)、浦蓉子（考古第一研究室研究員)、大澤正吾（考古第二研究室研究員)、岩永玲（考古第三研究室研究員)

【年度実績概要】

・調査の経緯
本調査は薬師寺東塔の防災設備改修に先立ち実施した発掘調査である（平城第 623 次)。工事に伴う掘削が行われる範囲の内、掘削深度が遺構面に達することが想定される地点について発掘調査を実施した。調査区は薬師寺東塔北東の東面回廊西側に位置する。当初 3×3ｍの調査区を設けたが、排水溝暗渠や水道管を検出したため西側 1.5ｍ分を拡張した。

・調査期間
6 月 8 日～6 月 10 日

・調査面積
13.5 ㎡

地山とみられる青灰色粘土の上面

・基本層序
地表から①表土・整備盛土（40～50cm)、②旧表土・耕作土・床土（55～65cm)、③有機質が水平堆積した茶褐色砂質土（約 10cm)、④水成堆積の灰色粘土層（5～10cm)、⑤古代から中世の遺物包含層(5～10cm)である。この下で、地山とみられる⑥青灰色粘土（GL-1.2m）を確認した。

・主な検出遺構
なし

・主な出土遺物
土師器・黒色土器・瓦器・近世陶器、軒丸瓦・軒平瓦・格子タタキ平瓦・雑丸平、雑木・木端等。

・調査所見
調査区の東半では、整備盛土内（GL-25 ㎝）に排水溝暗渠及び水道管が埋設されていた。また、地表下約 70cm で東西方向のコンクリート構造物を検出した。そのほか、地山と推察される青灰粘土を含め層ごとに遺構検出を試みたが顕著な遺構は認められなかった。

【実績値】
論文等数：0 件
（参考値）
出土遺物：土器（1 箱：土師器・黒色土器・瓦器・近世陶器)、瓦塼類(6 箱：軒丸瓦 4 点、軒平瓦 2 点、格子タタキ平瓦 1 点、雑丸平等)、雑木・木端 4 点
記録作成数：実測図 2 枚(A2 判)、遺構写真 6 枚(4×5)、デジタル写真 53 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査　(③-2)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：興福寺 受託経費：12,455 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久
【スタッフ】 神野恵(都城発掘調査部考古第二研究室長)、和田一之輔、森先一貴(以上同主任研究員)、山本祥隆（史料研究室研究員)、山崎有生（遺構研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同写真室技術職員）			

【年度実績概要】

・調査の経緯
興福寺境内第 1 期整備事業に伴う東金堂院の発掘調査（平城第 625 次)。

・調査期間
7 月 1 日～10 月 15 日

・調査面積
514 ㎡（鐘楼地区：345 ㎡、東金堂院地区：北区 136 ㎡・南区 33 ㎡）

・基本層序
鐘楼地区：鐘楼基壇上においては上から表土（0～10cm)、茶灰土（10～40 cm：近代以降の盛土）の直下で礫を多く含む黄褐色粘質土・砂質土からなる基壇土を検出。基壇周囲では上から整備盛土（約 20cm)、暗褐色土（約 20cm：近世以降の遺物包含層）もしくは茶灰土（10～30 cm：近代以降の盛土)、赤褐色土（20～30 cm：古代から中世の遺物包含層)、褐色土（約 10 cm：創建当初の整地土)、橙褐色砂礫（70 cm以上：基盤整地)。
東金堂院地区：東金堂院地区北では上から砂利層（約 5～10 cm)、灰白～黄橙粘質土（約 30～40cm：整地土)、灰白砂及び黄灰シルト（1m以上：地山)。東金堂院地区南では、上から表土（約 10 cm)、褐色土（約 50cm：近代以降の遺物包含層)、黄褐色土（30～40cm：中世以降の遺物包含層)、黄橙土（約 30～40cm：基壇土もしくは整地土)、赤褐色砂礫（約 30cm 以上：基盤整地)。

・主な検出遺構
鐘　楼　地区：基壇建物 1 棟、基壇建物に伴う階段 2 基、石組溝 1 条、玉石敷 1 条、瓦溜 2 基
東金堂院地区：基壇建物 1 棟、回廊 1 条、石敷 1 基、礫敷 1 基、南面築地塀 1 条、東西溝 2 条

・主な出土遺物
土器（奈良時代～明治時代の土器・陶磁器)、瓦塼類（奈良時代～近代)、金属製品等。

・調査所見
①鐘楼の創建時及び再建時の建物規模と構造が判明
鐘楼については基壇が良好な状態で残存しており、創建当初の建物規模と構造を確認できた。また、袴腰をもつ建物であった可能性が高いことが発掘遺構から判明した。『興福寺流記』の記述から袴腰は奈良時代に遡る可能性がある。
②鐘楼の再建工事の様相が判明
度重なる焼失を受けて、少なくとも平安時代・室町時代に基壇外装の改修を行っている様子を確認した。室町時代の再建に際しては、それまでの焼失と再建で基壇周囲に繰り返し整地を行い低くなった基壇高を補うため、新たに基壇土を積み足して補修するなど、大幅な改修工事を行っている。
③五重塔正面の門の規模と構造が判明
五重塔正面に切妻造の八脚門が開くことが明らかになった。門の中軸線（東西方向）と五重塔の中軸線とがほぼ一致するので、造営当初の計画的な配置を踏襲していることがうかがえる。また、東金堂院の南面を画するとみられる築地塀の痕跡及び、古代に遡るとみられる石組排水溝を検出した。

鐘楼地区全景（南から）

【実績値】
論文等数 2 件：『興福』(2 年 12 月)、「興福寺東金堂院の調査―第 625 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)
(参考値)
出土遺物　：土器片 25 箱、瓦片 338 箱（軒丸瓦 149 点、軒平瓦 104 点、鬼瓦 6 点等)、金属製品等 113 点
記録作成数：実測図 18 枚(A2 判)、遺構写真 150 枚(4×5)、デジタル写真約 1150 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
【事業名称】	西大寺旧境内の発掘調査①　(③-2)-ｱ)

【委託者・受託経費】
委託者：宮川正則
受託経費：575 千円

【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基(都城発掘調査部史料研究室長)、前川歩（同主任研究員)、浦蓉子（考古第一研究室研究員)、大澤正吾（考古第二研究室研究員)、岩永玲（考古第三研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同写真室技術職員)

【年度実績概要】

・調査の経緯
本調査は、西大寺旧境内の共同住宅建設に先立ち実施した発掘調査（平城第 624 次）である。工事に伴う掘削が行われる範囲の内、掘削深度が遺構面に達することが想定される地点について発掘調査を実施した。調査区は、西大寺小塔院の東辺に位置する。

南北溝の完掘状況

・調査期間
6 月 22 日～6 月 24 日

・調査面積
48 ㎡

・基本層序
地表から①表土・撹乱土（20～40cm)、部分的に②耕作土・床土（10～20cm)がある。この下で、地山とみられる③青灰色シルト（GL＝-40cm）を確認した。

・主な検出遺構
西大寺小塔院の東辺区画施設の西雨落溝を踏襲した南北溝

・主な出土遺物
須恵器・土師器・瓦質土器・中近世陶磁器、軒丸瓦 1 点・雑丸瓦平瓦、漆椀片 1 点、木端・木炭・種子。

・調査所見
調査区の東半で南北溝（幅 1.5m、深さ 0.8m）を 1 条、約 4m分検出した。溝は南北の調査区外へ続く。この溝は、既調査（平城第 404 次、415 次、市 15 次）で検出されている西大寺食堂院の東辺区画施設の西雨落溝を踏襲したとされる溝の南延長線上に位置する。最下層の粗砂層からは鎌倉時代の土器が出土しており、小塔院の東辺区画施設の西雨落溝を踏襲した溝と考えられる。

【実績値】
論文等数：1 件
浦蓉子ほか「西大寺小塔院の調査－平城第 624・627 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)

(参考値)
出土遺物：土器（2 箱：須恵器・土師器・瓦質土器・中近世陶磁器)、瓦塼類(7 箱：軒丸瓦 1 点、雑丸瓦平瓦)、
木器（漆椀片 1 点、木端少量)、木炭・種子　少量
記録作成数：実測図 3 枚(A2 判)、遺構写真 15 枚(4×5)、デジタル写真 61 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	西大寺旧境内の発掘調査②　(③-2)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：川邉良雄 受託経費：392 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久
【スタッフ】 神野恵（都城発掘調査部考古第二研究室長）、今井晃樹（同考古第三研究室長）、丹羽崇史（同主任研究員）、山崎有生（同遺構研究室研究員）、飯田ゆりあ（企画調整部写真室技術職員）			

【年度実績概要】

・調査経緯
　賃貸住宅建設に伴う発掘調査（平城第 627 次）。当該地は西大寺小塔院中央部に当たる。

・調査期間
　8 月 4 日～8 月 19 日

・調査面積
　約 21 ㎡

・基本層序
　調査区中央：表土、黄色の粘土と白色の砂の互層（整地土）、灰色のシルト層（地山）
　調査区西半：表土、地山由来の礫混じりの砂層（整地土）
　遺構検出は、黄色の粘土と白色の砂の互層、表土、地山由来の礫混じりの砂層で行い検出面の標高は約 73.2mである。

調査区全景（北から）

・主な検出遺構
　土坑 1 基、中近世の大溝 1 条

・主な出土遺物
　中近世の土器、瓦塼類、木器などが出土した。

・調査所見
　右京一条三坊七坪（西大寺小塔院）の中央部の様相が明らかになった。
　本調査区で整地土以外に古代に遡る明確な遺構は検出されなかったが、中近世の南北溝と古代の柱抜取痕跡の可能性がある土坑を検出した。南北溝は調査区の東半で幅 2.8m以上、深さ約 0.9m、南北約 3m分を検出した性格不明の溝。出土遺物から近世まで存続した遺構と推定される。溝内から凝灰岩切石が出土しており近傍に古代の基壇建物が存在した可能性もある。土坑は調査区の中央で確認した中世の瓦が含まれる遺構である。現代の撹乱と重複し、遺存状態は良くない古代の礎石建建物の礎石抜取穴もしくは、掘立柱建物の柱抜取穴の可能性も想定できる。

【実績値】
（論文等）
① 山崎有生ほか「平城京右京一条三坊七坪の調査－平城第 627 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』3 年 6 月（予定）
（参考値）
　出土遺物：土器 5 箱、瓦塼類(軒丸瓦 16 点、軒平瓦 7 点、刻印瓦 1 点、その他瓦 28 箱)、凝灰岩切石 5 箱)、木器（部材片 2 点、漆器椀 1 点)。
　記録作成数：実測図 3 枚（A2 判)、遺構写真 27 枚（4×5)、デジタル写真 52 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132Fｱ-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京右京三条一坊八坪の発掘調査　(③-2))		
【委託者・受託経費】 委託者：一建設株式会社 受託経費：691 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久
【スタッフ】 今井晃樹（都城発掘調査部考古第三研究室長)、丹羽崇史・桑田訓也(同主任研究員)、岩永玲(同考古第三研究室研究員)			

【年度実績概要】

・調査の経緯
住宅建設に伴う事前調査（平城第 629 次)。

・調査地
平城京右京三条一坊八坪西辺中央に位置する。

・調査期間
10 月 19 日～22 日

・調査面積
20 ㎡(東西 5m×南北 4m)

・基本層序
表土・造成土（30～40 ㎝)、灰色シルト（約 20 ㎝)、黒色シルト（約 2 ㎝)、暗灰色シルト（約 10 ㎝)、青灰色シルト（約 2 ㎝)、青灰色粘質土(20～30㎝)、黄灰色砂質土(30～35㎝)、明黄色粘土（地山)。遺構検出は青灰色シルト上面（標高 64.8m）で行った。

・主な検出遺構
弥生時代後期の土坑 1 基。南北 40～60㎝、東西 270 ㎝分を検出した。検出面からの深さは 10～50 ㎝。北肩・東肩が未検出のため溝となる可能性もある。土坑からは、弥生時代後期の土器が多数出土した。

・主な出土遺物
木製品 4 点、弥生土器・土師器・近世陶磁器（計 2 箱)、雑瓦・道具瓦（計 2 箱)。

調査区全景（北東より）

・調査所見
本調査は、平城京右京三条一坊八坪の坪内東西道路の南側溝及び坪の西を限る遮蔽施設の検出を目的として行ったが、近世の攪乱により奈良時代の遺構は遺存していなかった。確認した遺構は弥生時代後期の土坑 1 基である。本調査区の北東約 20m の位置において標高 65.0m 付近で弥生時代後期の方形周溝墓の一部と考えられる溝が検出されていることから、本調査で検出した土坑も同様の方形周溝墓を構成する溝であった可能性がある。

【実績値】
論文等数：0 件
(参考値)
出土遺物：木製品 4 点、弥生土器・土師器・近世陶磁（計 2 箱)、雑瓦・道具瓦（計 2 箱)。
記録作成数：実測図 3 枚(A2 判)、遺構写真 14 枚、デジタル写真約 86 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	興福寺旧境内・奈良町遺跡の発掘調査　(③-2)-7)		
【委託者・受託経費】 委託者：嶋田 裕 受託経費：693 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久
【スタッフ】 今井晃樹(都城発掘調査部考古第三研究室長)、丹羽崇史・桑田訓也 (以上同主任研究員)、目黒新悟(同遺構研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同写真室技術職員)			

【年度実績概要】

・調査の経緯
　店舗・個人住宅建設に伴う発掘調査（平城第 628 次)。本調査地は平城京左京三条六坊十四坪に位置し、興福寺旧境内・奈良町遺跡に該当する。

・調査期間
　11 月 24 日～11 月 30 日

・調査面積
　33 ㎡（東区 24 ㎡、西区 9 ㎡）

・基本層序
　東区の層序は、①表土（60～100 cm)、②明褐色土（整地土　10～15 cm)、③黄褐色土（整地土　15～40 cm)、④黄褐色砂利土（地山　5～30 cm)、⑤青灰色土（地山)。③黄褐色土面（H＝82.7～83.1m）で遺構検出。
　西区の層序は、①表土（40～45 cm)、②淡黄色土（整地土　10～15 cm)、③灰黄色土（整地土　10～15 cm)、④淡灰色土（整地土もしくは地山 15～20 cm)、⑤灰色砂土（地山)。②淡黄色土面（H＝82.5m）で遺構検出。

・主な検出遺構
　東区：土坑 1 基。西区：土坑 11 基、南北溝 1 条。

・主な出土遺物
　土器類 1 箱（土師器・瓦質土器・近世陶磁器)、瓦類 10 箱（うち軒丸瓦 9 点、軒平瓦 3 点、熨斗瓦 1 点)。

・調査所見
　本調査では、平城京東六坊大路西側溝をはじめ奈良時代の遺構は確認できなかったが、中世から近世以降とみられる土坑や南北溝を検出した。調査地の周辺では中近世の奈良町関連の遺構が検出されており、本調査で検出した土坑や溝もそれらと共通したものとみられる。

東区全景（北西から）

西区全景（北西から）

【実績値】
論文等数：0 件。
(参考値)
出土遺物：土器類 1 箱（土師器・瓦質土器・近世陶磁器)、瓦類 10 箱（うち軒丸瓦 9 点、軒平瓦 3 点、熨斗瓦 1 点)、木製品 2 点、金属製品 1 点
記録作成数：実測図 3 枚(A2 判)、デジタル写真 134 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-8

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	史跡法華寺旧境内・名勝法華寺庭園の発掘調査　(③-2)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：宗教法人光明宗法華寺 受託経費：982 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久
【スタッフ】 岩戸晶子、国武貞克、小田裕樹(都城発掘調査部主任研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同写真室技術職員）			

【年度実績概要】

・調査の経緯
　名称整備に伴う法華寺旧境内・名勝法華寺庭園の発掘調査（平城第 632 次)。
・調査期間
　3 年 1 月 12 日～1 月 25 日
・調査面積
　5.1 ㎡
・基本層序
(A トレンチ)
　調査区南部：表土（厚さ 5～10cm）下で、黄褐色粘質土や灰色砂質土により構築された築山盛土上面。
　調査区北部：表土（厚さ約 5cm)、黄灰砂質土（約 10cm、擬木列の裏込め)、暗褐色粘土層（約 10cm)、灰褐色砂質土層（約 10cm)、暗褐色粘質土層（15～20cm)、灰色粘土層（地山）
(B トレンチ)
　調査区北部：表土（厚さ 3cm)、瓦片が混じる黄褐色砂質土層（約 15cm、包含層)、上面に礫敷きを施す黄褐色粘質土層（厚さ 10cm 以上、整地土、礫敷きの標高は 67.41m)
　調査区中央部：表土（厚さ 3cm)、黄灰砂質土層（5～35cm、擬木列の裏込め)、暗褐色粘質土層（10～20cm)、黒褐色粘質土層（約 20cm)、灰色粘土層（地山）
　調査区南部：灰色粘土層（地山）

写真　A トレンチ完掘状況（北から）

・主な検出遺構
　築山、景石、木杭、しがらみ、板列、胴木、礫敷き
・主な出土遺物
　土器（土師器、須恵器、近世陶磁器)、瓦塼類（軒丸瓦、軒桟瓦、熨斗瓦)、金属製品、木片等。
・調査所見
(A トレンチ)
　・盛土により構築された築山の上面を検出した。
　・築山北面の景石のうち一部は、原位置から移動していることを確認した。これは調査区西方の石橋直下にある石積み護岸が崩落したことに起因する可能性が高い。
　・カキツバタを囲む護岸の変遷（板列から擬木列へ）を確認した。
(B トレンチ)
　・池南岸の護岸の変遷（胴木を伴う護岸から擬木列へ）を確認した。
　・トレンチ北端において 小礫敷きによる舗装面（時期不明）を確認した。

以上の調査所見から、客殿側からの視点において重要となる景石の原位置および護岸の変遷過程を確認し、保存整備に資する知見が得られた。

【実績値】
論文等数 1 件：「法華寺庭園の調査（平城第 632 次)」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)
(参考値)
出土遺物　：土器片 1 箱、瓦 3 箱（軒丸瓦 1 点、軒桟瓦 1 点、熨斗瓦 1 点等)、金属製品 1 点、木片 1 箱
記録作成数：実測図 3 枚(A2 判)、遺構写真 14 枚、デジタル写真 316 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-9

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京跡左京三条一坊十五坪の発掘調査　(③-2)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：木本博幸 受託経費：3,374 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久
【スタッフ】 岩戸晶子、国武貞克、小田裕樹、垣中健志(都城発掘調査部主任研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同写真室技術職員）			

【年度実績概要】

・調査の経緯
　店舗建設に伴う平城京左京三条一坊十五坪の発掘調査（平城第 635 次)。

・調査期間
　3 年 2 月 24 日～3 月 17 日

・調査面積
　110 ㎡

・基本層序
　地表面から既存建物の造成土および解体に伴う整地土（厚さ約 40～80cm)、旧表土・床土（10～30cm)、奈良時代の整地土とみられる黄灰色粘質土層（10～15cm)、暗灰褐色粘質土層（10～15cm)、黄褐色粘質土層（30～45cm)、黒色砂層（25cm)、灰色砂層（10cm)、緑灰色シルト層（20cm）を確認した。

写真　平城第 635 次調査区全景
（北東から）

・主な検出遺構
　柱穴列 3 条、井戸 1 基、小穴、素掘溝など

・主な出土遺物
　整理未完

・調査所見
　3 時期の掘立柱建物・塀・井戸を検出し、左京三条二坊十五坪周辺の土地利用の実態と性格解明に繋がる成果を得た。調査区周辺では既に複数時期の大型建物や区画施設の変遷を確認しており、特に柱穴列 3 は調査区西方の第 534 次調査区から続き、十五坪の中央部から南部にかけて東西方向の塀により南北に区画された時期があったことが判明した。また、井戸を検出し、井戸掘方底面に多量の木屑を敷いて構築されていることを確認した。

【実績値】
(参考値)
　出土遺物：土器 1 箱、瓦類 15 箱、木器 17 箱、木簡多数
　記録作成数：実測図 10 枚(A2 判)、遺構写真 60 枚(4×5)、デジタル写真 494 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3133F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	京都市の文化的景観にかかる調査業務　(③-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：京都市 受託経費：2,474 千円			
【担当部課】	文化遺産部景観研究室	【事業責任者】	室長　中島義晴
【スタッフ】 惠谷浩子（景観研究室研究員）			

【年度実績概要】

・平成 31 年 3 月 31 日発行の「京都中川の北山林業景観調査報告書」の簡略版のパンフレットの執筆・編集を行った。

・令和 2 年 3 月 31 日発行の「京都の文化的景観　調査報告書」について、周知啓発を目的とし、概略版冊子を執筆・編集した。

・京都中川の北山林業景観の重要文化的景観への選定申出に向けて、これまでの取組経過、選定のメリット・デメリットの把握、今後の進め方について、関係者等からの聞き取りの上、報告書としてとりまとめた。

・京都市等との協議（オンライン含む）をのべ 14 回行った。

京都中川の北山林業景観パンフレットに掲載の鳥観図

【実績値】
リーフレット作成：2 点
報告書：1 点
打ち合わせ：14 回

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3135F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	令和2年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業　(③-5)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：8,899千円(総事業費：15,713千円)			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　高妻洋成
【スタッフ】 清野孝之（都城発掘調査部副部長)、金田明大（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長)、森先一貴（都城発掘調査部主任研究員)、小泉惠英（九州国立博物館学芸部長)、木川りか（同博物館科学課長)、白井克也（同企画課長）			

【年度実績概要】

(1)「発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－」（仮称）の作成業務

水中遺跡の発掘調査に係る具体的な調査の手法や技術をまとめた調査マニュアル「発掘調査のてびき－水中遺跡調査編－」（仮称）の作成に向けて、以下の事業に取り組んだ。

・水中遺跡調査検討委員会協力者会議を4回開催した。
　第1回（通算第 9 回）　6月29日　　オンライン開催（文化庁会場・奈文研会場・九博会場）
　第2回（通算第10回）　9月1～2日　　オンライン開催（奈文研会場・九博会場・熊本大）
　第3回（通算第11回）12月9～10日　　オンライン開催（奈文研会場・九博会場・熊本大）
　第4回（通算第12回）　2月10日　　オンライン開催（文化庁会場・奈文研会場・九博会場）
・編集会議を4回開催した。
　第1回　　8月5日　　九州国立博物館
　第2回　　11月11日　　文化庁
　第3回　　12月10日　　当研究所
　第4回　　1月12日　　メール開催
・研究集会「水中遺跡保護行政の実態Ⅲ」を開催した。
　2月9日　オンライン開催（文化庁会場、奈文研会場、九博会場）

オンライン開催による協力者会議

(2) 国内の水中遺跡の保存・活用手法及び整備充実のための体制整備に関する調査研究

・水中遺跡調査検討委員会（ROV現地調査）を開催した。
　10月27日
　下田港沖の水深35m（静岡県南伊豆町）
　弓ヶ浜の水深6m　（　〃　）
・関係者ヒアリング（国内の水中遺跡の保存・活用手法に関する現地調査・情報収集）を開催した。
　12月16日
　滋賀県立琵琶湖博物館　（滋賀県草津市）
　葛籠尾崎湖底遺跡資料館（滋賀県長浜市）

【実績値】

・水中遺跡調査検討委員会協力者会議の開催：4回
・編集会議の開催：4回
・関係者ヒアリングの開催：1回
・研究集会「水中遺跡保護行政の実態Ⅲ」開催
・研究集会要旨集：1件
・研究集会ポスター発表リーフレット：1件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	木造金剛力士立像 2 躯の製作年代調査　(①-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：公益財団法人　美術院 受託経費：420 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	年代学研究室長　星野安治
【スタッフ】 星野安治（年代学研究室長）			

【年度実績概要】

・美術院が所蔵する 1 対の木造金剛力士立像のうち、解体修理が行われた吽形像について年輪年代調査を実施した。本像は、平安時代のものとする考えが強いが、外観の表現及び内部構造に関する類例が少なく、また史料的な記録もないことから、使用されている部材そのものから年代が明らかになることが期待されている。

・解体された部材を観察し、年輪数の多い 30 点を分析対象として選別した。そして、接写写真を用いた年輪幅の計測を行った。

・分析対象とした部材には、辺材が残存するものがあることを確認しており、クロスデーティングによる年輪年代の特定により伐採年に近い年代が明らかになることが期待される。

解体された部材の調査風景

【実績値】

・分析対象：木造像 1 躯・30 部材

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	木造源頼朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査　(①-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：甲斐善光寺 受託経費：251 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	年代学研究室長　星野安治
【スタッフ】 星野安治（年代学研究室長）			

【年度実績概要】

・甲斐善光寺所蔵木造源頼朝坐像の解体修理伴い、年輪年代調査を実施した。本像は、胎内に文保 3 年（1319）の墨書があり、現存する最古の源頼朝像とされる。本調査では、本像に使用されている部材そのものからの年代情報が明らかになることが期待されている。

・解体された部材を観察し、年輪数の多い 14 点を分析対象として選別した。そして、接写写真を用いた年輪幅の計測を行った。

・文保 3 年の墨書がある部材に、樹皮が残存することを確認しており、今後、クロスデーティングによる年輪年代の特定により伐採年が明らかになることが期待される。

解体された部材の調査風景

【実績値】

・分析対象：木造像 1 躯・14 部材

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3226F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	松帆銅鐸・舌の調査研究　(②-6))		
【委託者・受託経費】 委託者：南あわじ市 受託経費：2,101 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】 田村朋美（都城発掘調査部主任研究員）、柳田明進（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員）			

【年度実績概要】

○本事業の対象は、27 年に南あわじ市で発見された銅鐸及び舌である。本資料は、舌を伴う点やこれらを吊り下げる紐が残存する点など、銅鐸の具体的な使用方法や埋納年代を知る上で非常に重要である。2 年度は、松帆銅鐸 1 号及び 3 号について、一連の保存処理を実施した。

写真 1　松帆銅鐸（3 号）のクリーニングの様子

1) 保存処理の一環として、松帆銅鐸 1 号及び 3 号について、クリーニング作業を実施した。筆、竹串、超音波研磨器等を用いて表面に付着している土粒子及び土粒子と一体化している腐食生成物を除去した（写真 1)。
2) 表面状態の記録のため、クリーニング完了時点で写真撮影を実施した。
3) 保存処理の一環として、クリーニングの完了した松帆銅鐸 4 号及び 7 号のベンゾトリアゾール（BTA）を含むエタノールに 24 時間以上浸漬し、防錆処理（安定化処置）を実施した。
4) 保存処理の一環として、防錆処置完了後、充分に乾燥させた松帆銅鐸 1 号及び 3 号について、アクリル樹脂（パラロイド B72）5%アセトン・トルエン溶液に減圧含浸し、強化処置を実施した。
5) 分析試料の採取にともなう欠損箇所をエポキシ樹脂で充填するとともに、アクリル絵具で補彩を施した。
6) 保存処理終了時の状態を写真に記録した。

【実績値】

『令和２年度　松帆銅鐸の保存処理に関する報告書』3 年 3 月

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（②－10）-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：36,856 千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	早川泰弘（センター長）
【スタッフ】 犬塚将英（分析科学研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、秋山純子（保存環境研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか			

【年度実績概要】

国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した。

○壁画の制作技法に関する事項

・可搬式のハイパースペクトルカメラを用いて壁画を安全に分析するための基礎実験等を実施した。また、テラヘルツ波イメージング装置を用いて、天井石 2 を対象に壁画の保存状態調査を実施した。
・高松塚古墳壁画の保存活用に資するため、壁画の模擬試料を作成し、構成部材の耐久性等を検討した。
・壁画の維持管理方針やその具体的内容について、科学的・学術的な助言を文化庁へ行った。また、維持管理の作業内容を検討するため、月に 1 回程度、修理施設等で文化庁及び関係者との協議を行った。
　天井 2 と 3 の間隙に所在し、現在別置保管されている星宿金箔が存在する漆喰片について、石材と一体化させて保管する方法の検討と材料強度試験を行った。修復処置を施した代表的な箇所 4 点につき、目視状態観察と測色を含めた経過観察を継続的に行った。
・壁画の修理作業に関する各種データの整理とアーカイブ化を行い、報告書の作成準備を行った。
　修復作業および修理材料の記録等に関するデジタルデータを整理し、検索可能な状態とした。

○壁画の保存環境の維持管理に関する事項

・高松塚古墳壁画を良好な環境で保存活用するため、修理施設の温湿度、並びに空気質、浮遊粒子、浮遊微生物、付着微生物、並びに落下微生物（8月25日、1月28日）、生息生物のモニタリング調査を実施し、適切な保存環境の維持管理を行った。

・高松塚古墳壁画が適切な場所で保存管理・公開が行われることを見据え、これまでの環境調査データをもとにして古墳壁画の保存環境管理指針の策定に関する研究を行った。

一般公開のための空気環境調査

○その他

・2 年度行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ 11 名を派遣し、立会い説明等を行った。また、一般公開にあたり新型コロナウイルス対応について助言を行った。
・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を二回開催した。
・文化庁主催の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第 26、27 回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

【実績値】

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（②－10）-7)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：18,605 千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	早川泰弘（センター長）
【スタッフ】 犬塚将英（分析科学研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、秋山純子（保存環境研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか			

【年度実績概要】

特別史跡キトラ古墳から取り出された壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○キトラ古墳壁画の制作技法に関する事項

・可搬型蛍光X線分析装置を用いて、東壁青龍を対象に壁画の材料調査を実施した。
・キトラ古墳壁画の保存活用に資するため、壁画構成部材の物性評価(熱線膨張率・水蒸気吸脱着等温線)を行った。
・漆喰表面におけるカルサイトの再結晶を再現するための実験を行った。
・壁画の修理作業に関する各種データの整理とアーカイブ化を行い、報告書の作成準備を行った。

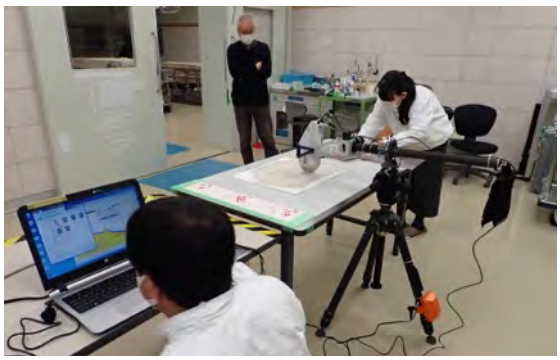
平成16年の発掘調査直後からの修復に関する報告書原稿を作成し、印刷作業の準備もを行った。併せて、保管している関連資料全てをリスト化し、検索可能な状態とした。

○キトラ古墳壁画の保存環境の維持管理に関する事項

・再構成されなかった漆喰片を含むキトラ古墳壁画（5面）の最適な保存管理方法について、キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館四神の館内）等で月１回程度、関係者の協議を行い、必要な指示を行った。

年間4回行われるメンテナンス作業と、毎週の点検作業において報告の多かった埃対策として、蓋を作成する可能性を検討し、複数の材料で試作を行った。

・キトラ古墳壁画の保存管理に最適な設備環境に関し、保存科学・生物学等の観点から、必要な検討を行い、壁画の適切な保存・活用のための知見を提供した。



可搬型蛍光 X 線分析装置によるキトラ古墳壁画の材料調査

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F-1

業務実績書(受託事業)

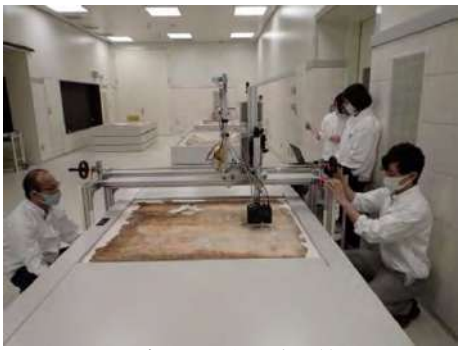
中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務　(②-10)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：85,084 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　高妻洋成
【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部遺跡整備研究室長）、石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、清野陽一（飛鳥資料館研究員）			

【年度実績概要】

・石室内より出土した漆塗棺材片を保存処理する方法を検討した結果、付着した泥を水及びアルコール等を用いて慎重に除去した後、高級アルコール含浸後に真空凍結する方法が妥当であることを確認した。今後、基本的にはこの方法で保存処理を進める予定である。

・元年度に引き続き、仮設保護覆屋存在時及び墳丘整備後の状況を再現した VR コンテンツに利用するため、キトラ古墳の現状の周辺地形の 3 次元モデルの作成を進めた。

・キトラ古墳壁画に用いられている色料に関する情報を得るため、蛍光 X 線分析と可視分光分析を行った。

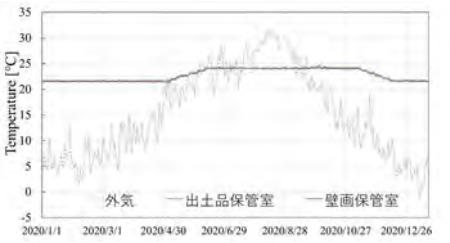


可視分光分析調査風景

・キトラ古墳壁画の定期的な点検法を検討するため、SfM/MVS による計測と 3 次元レーザースキャニングで必要となる基準点の設置位置の検討を行った。

・キトラ古墳壁画の経年変化を追跡調査するために、高精度カメラによる撮影を行った。

・キトラ古墳壁画の保存と活用に関する取り組みとして、保存管理施設における歩行性昆虫の調査、保存管理施設における環境カビ調査、展示室展示ケースの改善作業、温湿度調査、並びに粉塵量測定を行った。秋・冬の壁画公開期間にあわせて、移動式のプラネタリウムを設置し、「キトラ古墳からみる古代中国の天文学」の投影イベントを実施した。



保存管理施設環境モニタリング結果（温度）

・整備後墳丘の維持管理のため、キトラ古墳墳丘法面植栽の経過観察を行った。

・保存管理施設に基本 2 名以上の人員が常駐する体制を整え、施設の出入りと作業に関するマニュアルに則り、空調の設定及び運転状況の確認、施設内の清掃、壁画の目視による状態観察や修理技術者による壁画点検への協力、生物対策、各種業者点検の立ち合いなどの作業を行った。地震、台風、豪雨等の後は収蔵品・施設・墳丘等を目視点検し関係者に情報共有した。また、飛鳥管理センター及び飛鳥歴史公園事務所との日常的な連絡調整、月 1 回の五者協議参加等の連絡調整作業を行った。キトラ古墳壁画の公開は 3 回実施した。壁画非公開期間においては、看視員 1 名を配置して、展示室の公開を実施し、出土品レプリカや石室模型などを展示した。このほか、保存管理施設のホームページを運営し、施設の紹介、公開等に関する情報を掲載した。

【実績値】

・古墳壁画の経年変化記録撮影：39 カット
・一般公開：3 回
・移動式プラネタリウム：2,160 名（10 月 1,230 名、2 月 930 名）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務　(②-10)-ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：50,108 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　高妻洋成
【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部遺跡整備研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、廣瀬覚（都城発掘調査部主任研究員）			

【年度実績概要】

・新たに建設される保存管理施設へ安全に石室石材を搬送するための開発研究の基礎データを得るため、仮設修理施設において石材を拘束しているステンレス製フレームに加速度計を取り付け、施設内での移動時の振動計測実験を実施した。

・高松塚古墳の石室解体事業時に撮影された映像資料のうち、平成 19 年度の資料にもとづいて、「国宝高松塚古墳壁画石室解体ドキュメント 石材の取り上げ作業の概要」「同・天井石 4 の取り上げの」2 本のムービーを作成した。

・平成 17・18 年度の発掘調査区の三次元モデル CG を作成し、昨年度作成した平成 16 年度調査データと統合・整理した。古墳周辺の地形・景観の復元モデルに古墳構築過程の再現モデルを統合し、築造当時の詳細な地形モデルの中で古墳の構築過程を視認するためのデータを整えた。

・昭和 47 年度出土品のうち、刀装具一式について高精細の三次元計測を実施し、図面化のための下図を作成した。

・石室解体時に取り上げた水準杭痕跡の安定的な保管管理のための台座を 3 点作成した。

・壁画の経年変化を把握するための記録撮影を行うとともに、壁画修理の時点での状態を記録するための詳細撮影を行った。さらに壁画材料の科学調査として、可視分光分析、デジタルアーカイブスキャニング（赤外線、可視光線）を実施した。

・壁画の色料を調査するために開発した X 線回折分析装置を用いた測定を実用化するため、色料の標準試料の基礎データの測定収集と測定を安全に行うためのフレームの開発を行った。

図　石材輸送時の変位・加速度計測風景

図　石材輸送時の変位・加速度計測風景

・高松塚古墳壁画の保存・活用に資するため、永安寺東古墳（玉名市）、塚坊主古墳（和水町）、五郎山古墳（筑紫市）及びガランドヤ古墳（日田市）の石室内環境及び周辺環境の現地調査を行った。

・高松塚古墳壁画仮設修理施設において、壁画保管室等の保管環境の管理、壁画の状態観察を行うとともに、文化庁と連携し、年間 3 回の仮設修理施設の一般公開において、研究員を派遣し、高松塚古墳壁画に関する解説を行った。

【実績値】

・古墳壁画の経年変化記録撮影：40 カット
・デジタルアーカイブスキャニング：可視光 11 件、赤外線 11 件
・可視分光分析：1 件
・高松塚古墳壁画修理施設一般公開派遣研究員数：延べ 24 名

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3311E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（①－1）－ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：42,478 千円			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　友田正彦（事務局長）
【スタッフ】 西和彦（国際情報研究室長）松保小夜子、牧野真理子、五嶋千雪（以上、アソシエイトフェロー）、廣野都未（事務補佐員）、松本明子（事務補佐員）			

【年度実績概要】

文化遺産国際協力に係る諸課題について議論するとともに、各分野の研究者間や関係機関との連携を図るために各種会議を開催した。2 年度は、新型コロナウイルスの流行下の中で会議等を全てオンラインで行い、必要な連携を図ることができた。また、文化遺産保護に関する国際協力の活動を広く周知するため、研究会（2 回）をオンラインで開催するとともに、当初予定されていたシンポジウムに代えて動画の作成、配信を行った。また、コンソーシアム公式ウェブサイトを通して文化遺産に関する情報を発信した。また、国際協力調査については現地調査が不可能であったため、2 か年計画の 1 年目として、アンケート調査等を実施した。

Ⅰ．コンソーシアムの会議の開催

・運営委員会を 2 回開催し（書面審議）、コンソーシアム全体としての活動方針等を協議した。

・企画分科会を 4 回、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を各 2 回ずつ、計 16 回オンラインにて開催した。さらに、国際協力調査の一環として、意見交換会・WG 会議をオンラインにて 5 回開催した。

・上記のほか、研究会等の内容検討のため、オンラインでの会議を 10 回開催した。

Ⅱ．情報収集と情報発信

・コンソーシアム公式ウェブサイトで文化遺産国際協力に関わる活動の周知広報を図った。

・研究会「コロナ禍における文化遺産国際協力のあり方」、「文化遺産と SDGs Ⅲ」を開催した。

・我が国の文化遺産国際協力を振り返る動画「人類の宝を未来につなぐ　日本の文化遺産国際協力」を作成・配信した。

・会員向けのメールニュース（コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。

企画分科会の様子（オンライン）

Ⅲ．文化遺産国際協力の推進に資する調査

・「海域交流ネットワークと文化遺産」をテーマに 2 ヵ年度プロジェクトの 1 年目として、49 か国の関係機関・専門家等を対象にアンケートを実施するなど現状を調査した。

【実績値】（会議についてはオンライン開催等によった）

運営委員会の開催：2 回、分科会の開催：（企画分科会 4 回、東南アジア・南アジア分科会 2 回、西アジア分科会 2 回、東アジア・中央アジア分科会 2 回、欧州分科会 2 回、アフリカ分科会 2 回、中南米分科会 2 回）合計 16 回、研究会の開催：2 回

（成果物）

①報告書『第 27 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　コロナ禍における文化遺産国際協力のあり方　報告書』（日本語版：300 部、3 年 3 月刊行）

②報告書『第 28 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産と SDGsⅢ　地域社会における文化遺産の役割を考える　報告書』（日本語版：300 部、3 年 3 月刊行）

③報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム国際協力調査　海域交流ネットワークと文化遺産　令和 2 年度　調査報告書』（日本語版：300 部、3 年 3 月刊行）

④動画『人類の宝を未来につなぐ　日本の文化遺産国際協力』（オンラインにて配信）

⑤小冊子『文化遺産の国際協力』（日英併記：1,000 部、3 年 3 月刊行）

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3312E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」 2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：10,814 千円			
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	金井健（保存計画研究室長）
【スタッフ】友田正彦（文化遺産国際協力センター長）、西和彦（国際情報研究室長）、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（以上、アソシエイトフェロー）			

【年度実績概要】

本事業は、ブータン政府が法的整備の検討を進めている民家を含む歴史的建造物全般の文化財としての保護に関して、カウンターパートである同国内務文化省文化局（DoC）遺産保存課（DCHS）と協力し、同国の文化的伝統や遺産保護に対する考え方に即した実効的な制度や体制の構築に資することを目的とした。

上記の目的を達するため当初は、(1)東部地域における伝統的民家建築の価値評価手法の確立と保存候補民家の選定に向けた現地調査と(2)DOC 職員の招へいによる実地研修、(3)西部地域の保存候補民家等の保存活用に向けたフォローアップ、を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見通せないことから、いずれもその実施が困難となった。

そこで 10 月に事業計画を変更し、(1)同国の文化遺産保存関係者向けの伝統的民家建築参考図書の作成、(2)同国の若年層向けの社会教育教材の作成、(3)DOC 職員向けの民家建築の保存活用に関するオンライン研修の開催、の各事業を行った。実施日程は以下の通りである。

6 月 16 日：MOU の取り交わし（郵送による）。

9 月 3 日：事業協力者会議の開催（オンライン）。

10 月 19 日：事業計画の変更。

11 月 20 日：オンライン研修「リビングヘリテージとしての建築遺産の保存と管理―寺院所有の建築遺産の管理運営及びデジタルマッピング技術の応用―」（ACCU 主催）総合討議に参加。

3 年 1 月 11 日～22 日：オンライン研修「リビングヘリテージの側面に着目した伝統的民家の保存と活用（オンライン）」の開催。
講師：日本人専門家 5 人
受講者：DOC 職員 11 人
ACCU 奈良のオンライン研修「リビングヘリテージとしての建築遺産の保存と管理―寺院所有の建築遺産の管理運営及びデジタルマッピング技術の応用―」（11 月）と連携して開催した。

3 年 2 月 19 日：事業計画の変更(現地実施予定業務の中止)。

【実績値】

○事業報告書『令和 2 年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業　ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業』3 年 3 月
○伝統的民家建築参考図書『VERNACULAR HOUSES in Bhutan, Western Central Area, Thimphu, Punakha, Paro, Haa』3 年 3 月
○社会教育教材『（仮）ブータン民家建築の絵本』（プロット及び原画（無着彩）の作成まで)3 年 3 月

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)　文化遺産保護に関する国際協働
【事業名称】	令和２年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）　(①-2)-ｱ-(ｲ))

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：13,945 千円

【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	加藤真二（企画調整部長）

【スタッフ】庄田慎矢（国際遺跡研究室長）、村上夏希（国際遺跡研究室アソシエイトフェロー）、田村朋美（都城発掘調査部主任研究員）

【年度実績概要】

本事業は、中央アジア最大の博物館であるカザフスタン共和国国立博物館を相手国拠点とし、考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を図ることを目的とする。奈良文化財研究所では元年度の文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業を申請・受託し、カザフスタン共和国国立博物館を現地拠点機関とした交流事業を開始した。元年 9 月に同博物館に 4 名の研究者を派遣し、技術移転の具体的内容について深層討論を行った。これを受けて、11 月に同博物館に 3 名の研究者を派遣し、「日本における最新の土器の調査研究法」と題する現地研修を実施した。さらに 2 年 1 月には、カザフスタン共和国国立博物館に勤務する専門家 6 名を日本へ招へいし、カザフスタンにおける調査研究の内容を日本の専門家と共有するための国際セミナー「カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存」を開催するとともに、考古遺物の調査・記録・保存に取り組む奈文研他の研究員が、それぞれの専門分野について講義・実習を行った。これらの内容が評価され、カザフスタン側から本事業の継続が強く要請された。

そこで 2 年度は、元年度の内容をさらに発展・充実化させる方針で事業計画を策定・申請し、了承された。この当初計画では、特に現地研修に重点を置く予定で、7 月にカザフスタンの発掘調査現場における技術移転のための現地研修、10 月に遺物の処置と保管に関する現地研修、12 月に文化財関連法規・データベース及び遺物の科学的調査法に関する現地研修を行い、3 年 2 月に遺物の科学的調査法・研究成果の活用に関する招へい研修を行う計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により渡航が困難になり、状況が短期間で改善する見通しを得られなかったことから、オンラインでの技術移転に方針を転換する形で計画を全面的に再検討した。両国間の渡航を伴わない形でも当初の業務目的が達成できるような替案を申請し、9 月 8 日付で承認された。

変更された計画に従って現地とのやりとりを進め、オンラインセミナーの方式について協議した。その結果、選定したテキストをロシア語訳して再編集し、事前に参加者に配布した上で、それを土台に意見交換や議論を進めることとした。第 1 回のオンラインセミナー「現場のための環境考古学」は 11 月 18 日に開催し、カザフスタンで遺跡発掘調査にかかわる専門家 18 名、アドバイザリーボード 2 名、アシスタント 2 名、日本側 3 名が参加した。提供した教材について、現場に持っていきやすい分量・サイズ・学生にもわかりやすい簡易な内容などが高く評価される一方、より詳しく知りたい内容についても多数の具体的な意見が得られた。第 2 回のオンラインセミナー「出土金属遺物の保存処理」は 12 月 9 日に開催し、カザフスタンで出土遺物の保存・修復に携わる専門家 18 名、アシスタント 1 名、日本側 4 名が参加した。提供した教材について、テーマが絞られている・必要な最低限の情報はすべて入っている・簡易で読みやすく入門編として最適などの高い評価が得られる一方、各機関が行っている処置の事例をもっと知りたい、現場で行う一時保存の方法について記載してほしい、など具体的な要望も寄せられた。

3 年 2 月には、動画教材を利用した、考古遺物の科学的分析に関するオンラインセミナーを開催予定である。

オンラインセミナーの様子

【実績値】
オンラインセミナー「現場のための環境考古学」11 月 18 日、奈良文化財研究所等、参加者 25 名
オンラインセミナー「出土金属遺物の保存処理」12 月 9 日、奈良文化財研究所等、参加者 23 名
Экологическая археология при проведении полевых работ（現場のための環境考古学ロシア語版、奈良文化財研究所）
Консервационная обработка археологического металла（出土金属の保存処理ロシア語版、奈良文化財研究所）
庄田慎矢・村上夏希 3 年（予定）「オンラインツールを用いた海外技術移転：カザフスタンでの事例」『奈文研紀要 2021』

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 3320G

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和2年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：49,863千円			
【担当部課】	―	【事業責任者】	アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長　岩本渉

【スタッフ】
大貫美佐子（副所長（兼）研究担当室長）、外間尹隆（室長）、天野千代子（係長）、池田明子、井上愛奈、梅田恭代、岡部政美、佐々木一恵、山本倫未（以上、アソシエイトフェロー）、三好友夏（前アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
(1)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究
① 海外研究機関との連携による持続的な研究情報の収集
・ガジャマダ大学（7月27日～28日、インドネシア）とマラヤ大学（8月4日、マレーシア）にてナショナルワークショップをweb会議で開催し、同国の大学関係者及び若手研究者が参加した。
・5か国（インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム、フィリピン）から、無形文化遺産に関する研究データを収集した。
・上記5か国に対して、研究情報の収集に関するアンケートを実施した。
・2年度に収集された研究情報及び3年度の活動計画について協議するため、上記5か国とオブザーバーを含めた第3回ワーキンググループ会合を開催した。(3年2月9日、オンライン)
・各協力機関から提出された研究情報をIRCIデータベースに投入した。(3年3月)

ガジャマダ大学とのweb会議での模様
((1)-①)

② 研究データベースの活用促進に向けた仕組みづくり
・元年度、構築したパイロットデータベースについて、連携したミャンマーのリポジトリがリニューアルしたことに伴い、パイロットデータベースの再構築を行った。
・ミャンマーのリポジトリについては、オンラインアンケートを実施した。
・オンラインアンケートの結果を踏まえ、改善項目について検討した。
③ 無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究
・自然災害と無形文化遺産に関する課題の解決への防災・無形文化遺産研究の貢献を理解するために東京文化財研究所等の専門家との打ち合わせを行った。
(2)無形文化遺産保護及びその研究の活性化に資する国際会議等の開催
① 「第9回IRCI運営理事会」(10月30日、オンライン)を開催し、3年度事業計画について承認を得た。
(3)国際会議等への参加を通じた関連・協力の推進及びC2センター間の関係強化（一部交付金）
・ICH Webinar Series session 4: Inter-regional Field Experiences on Curriculum Development for ICH Safeguarding (8月12日、オンライン)
・2020 UNESCO Capacity-Building Workshop on Developing a Common ICH Teaching Framework for Higher Education Institutes in the Asia-Pacific Region. (8月14日、オンライン)
・韓国C2センター運営理事会（11月20日、大田広域市/オンライン）
・第8回C2センター会合(11月30日、オンライン)
・第15回無形文化遺産条約政府間委員会（12月14日～19日、オンライン）
・第10回中国C2センター運営理事会(2年度開催中止)
(4)情報公開等
① IRCIウェブサイトの定期的更新を行った。

【実績値】
国際会議等開催件数：5件、国際会議等出席件数：5件
データベース登録件数：2,453件（3年3月)、検索件数：926件（2年4月1日～3年3月31日）
ウェブサイトアクセス件数：13,284件（4月1日～3年3月31日）
刊行物：4冊
①「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるベトナムのフォーマル教育向けガイドライン（英語版）
②「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン（サバネン版）
③「無形文化遺産（ICH）のSDGsへの貢献プロジェクト」プロジェクトレポート
④「アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究」事業プロジェクトレポート

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3411F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(4)　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
【事業名称】	令和２年度 文化資源活用事業費補助金（文化財多言語解説整備事業)「平城宮跡資料館　特別史跡平城宮跡に関する多言語解説情報発信強化事業」　(①-1)		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：8,366 千円(総事業費：14,426 千円)			
【担当部課】	企画調整部文化財情報研究室	【事業責任者】	研究員　高田祐一

【スタッフ】
Yanase, Peter（文化財情報研究室アソシエイトフェロー)、呉 修喆（文化財情報研究室アソシエイトフェロー)、扈 素妍（文化財情報研究室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

特別史跡平城宮跡は、約 1300 年前の日本の中心であり、天皇の住まいや官公庁があった。奈良文化財研究所は平城宮跡を約 60 年調査し、その貴重な成果を平城宮跡資料館で展示している。現在、来館者に対して日英中韓の 4 言語による解説パネルを順次整備している。さらなる外国人観光客等の誘客や満足度の向上を目指し、従来の解説パネルに加えて、総合的に多言語コンテンツを磨き上げ、体系的に連携させることで情報発信の劇的な強化を図った。

そのため、①幅広く知ってもらう（平城宮跡資料館ウェブサイトの 4 言語対応)、②展示品に関心を持ってもらう（多言語対応展示解説データベース整備・多言語対応アプリ開発)、③平城宮跡を体感し感動する（平城宮跡 CG 制作・AR アプリ開発)、④より深く理解してもらう（アプリやデータベースと連携した多言語対応リーフレットの整備)、の大きな 4 つの施策を推進した。

①幅広く知ってもらう（平城宮跡資料館ウェブサイトの 4 言語対応)

外国人観光客は、日本への出発前及び来日中にインターネットで情報収集を実施する。そのため、施設のウェブサイトを多言語対応することは必須である。現在、平城宮跡資料館のウェブサイトは日本語版のみである。したがって、英語・中国語・韓国語版を作成した。

②展示品に関心を持ってもらう（多言語対応展示解説データベース整備・多言語対応アプリ開発)

平城宮跡資料館では多数の資料を展示しキャプション・解説パネルを設置している。しかし、場所の制限から簡易な解説しか掲載できないのが実情である。また、展示品の底面や、見えにくい部分については、展示スペースからの閲覧が困難であり、観覧の効果を損ねている。そこで、普段は見ない部分の写真や詳細解説を多言語対応展示解説データベースとして整備した。閲覧には、多言語対応解説支援アプリを活用する。展示品のキャプション周辺に QR コードを貼付し、多言語対応解説支援アプリにて呼び出し、スマートフォンやタブレット等で閲覧できるようになった。

③平城宮跡を体感し感動する（平城宮跡復元 CG 制作・AR アプリ開発)

平城宮を含む平城京の面積は、約 2500 ヘクタールあり、広大である。実際にすべてを歩くのは困難なため、復元 CG を閲覧することは、理解することにおいて効果的である。既に日本語版の復元 CG は開発済みであり、多言語解説などを追加し公開する。平城宮跡資料館での上映やインターネット公開を実施した。

奈良文化財研究所では幢旗 AR アプリ（日本語版）を運用している。日本において、天皇の元日朝賀及び即位式は、現代においても重要な儀式である。この儀式に幢旗が使われた。平城宮跡の大極殿前にその実際の遺構が発見されており、宮廷儀礼を解明するうえで非常に重要な発見となっている。この重要性を現地で体感できるよう AR アプリを運用しており、外国人観光客にも理解してもらえるように多言語化した。

④より深く理解してもらう（アプリやデータベースと連携した多言語対応リーフレットの整備)

外国人観光客は、体験型展示に対する満足度が高いことが判明している。さらに、来日前には知り合いの口コミを重視し、行き先を決める傾向がある。また、SNS でも情報収集し、感想を SNS で発信している。そこで、実際の来館者にとって、お土産として母国に持ち帰りたくなる・SNS の発信素材となるなどを実現した多言語対応リーフレットを作成した。リーフレットは、展示を深く理解できるような内容かつ、SNS や帰国後の口コミ素材として宣伝素材にもなるため、理解促進と宣伝という 2 つの効果を見込める。題材として、国宝平城宮跡出土木簡を対象とした。

【実績値】
ウェブサイトの多言語化（英中韓)、木簡解説パンフレット（英中韓)、平城宮跡資料館の展示パネルの多言語化（英中韓)、収蔵品データベースの公開（英中韓)、展示アプリ（英中韓)、AR アプリの多言語化（英中韓)、平城宮跡 CG モデル動画の多言語化（英中韓)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	松江神社建造物調査業務委託　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：松江市 受託経費：2,910 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】大林潤（都城発掘調査部主任研究員)、鈴木智大（都城発掘調査部主任研究員)、山崎有生（都城発掘調査部遺構研究室研究員)			

【年度実績概要】

松江神社は島根県松江市松江城内に位置する神社で、明治 32 年に創建された。創建にあたり、拝殿・通殿・本殿は、別地にあった東照宮の拝殿・通殿・本殿を移築し、社務所は別地にあった楽山神社拝殿を移築している。

調査では、平面図作成・断面図作成のための調査、各部材ごとの新旧確認調査、部材に残る痕跡調査、高精細写真撮影を行った。これら調査により、各建物の変遷を明らかにした。また、東照宮が建っていた圓流寺には、東照宮と並立して建築された御霊屋があり、これら遺構も近代以降に各所に移築されている。これら移築された御霊屋遺構の調査も行った。さらに、江戸時代の松江における神社建築の形式・仕様を明確にするため、類例調査を行った。以上のように、松江神社に関連するさまざまな観点からの調査を行い、松江神社の価値評価を行った。

これら調査成果は、報告書として刊行した。

松江神社（島根県）全景

松江神社（島根県）拝殿

【実績値】
調査回数　5 回
調査野帳　64 枚
調査写真　約 3,000 枚
高精細写真　51 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	智頭の林業景観整備計画策定調査　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：智頭町 受託経費：1,820 千円			
【担当部課】	文化遺産部景観研究室	【事業責任者】	室長　中島義晴
【スタッフ】 島田敏男（文化遺産部長)、惠谷浩子（景観研究室研究員)、前川歩（遺構研究室研究員)、福嶋啓人（遺構研究室研究員)、飯田ゆりあ（写真室技術職員)			

【年度実績概要】

・現地調査を計 5 回行った。

・鳥取県立博物館及び智頭町所蔵の絵図類の撮影を行った。

・調査成果のとりまとめを実施するとともに、智頭の林業景観整備検討委員会での成果報告と住民への成果報告をそれぞれ 1 回行った。

・調査や委員会等の実施、また整備活用計画策定のため、智頭町との協議をのべ 4 回行った。

近世絵図の撮影の様子

住民報告会の様子

【実績値】

現地調査：5 回
委員会報告：1 回
住民報告会：1 回
デジタル写真：1,332 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	犬伏家住宅保存活用計画策定業務　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：藍住町 受託経費：870 千円			
【担当部課】	文化遺産部建造物研究室	【事業責任者】	室長　島田敏男
【スタッフ】前川歩（都城発掘調査部主任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、目黒新悟（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、			

【年度実績概要】

犬伏家は、徳島県藍住町に位置する。犬伏家江戸時代から製薬業を営み、近代になっても製薬業で繁栄し、昭和前期に現在の屋敷地が整備された。これら近代和風建築が屋敷地全体として良く残り、土地及び 15 棟の建築が 2 年 12 月に重要文化財に指定された。

今後、藍住町がこの広大な屋敷地活用を計画しているため保存活用計画の策定を予定しており、本受託事業は、保存活用計画の策定のための基礎資料を作成したものである。

4 回の現地調査によって、各建築の改造状況、形式・仕様の新旧を精査し、今後の保存活用の可能性を示すとともに、破損状況の調査をおこない修理計画策定の基礎資料を作成した。

2 年度では、これら調査成果を計画策定のための基礎資料として整理した。

3 年度以降に、今回の調査成果に基づいて、藍住町が策定する保存活用計画を策定に協力する予定である。

犬伏家住宅（徳島県）主屋外観

犬伏家住宅（徳島県）主屋応接室

【実績値】

調査回数：5 回（延べ 12 日）
野帳枚数：40 枚
写真カット数：2,500 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所 受託経費：44,560 千円			
【担当部課】	企画調整部展示企画室・都城発掘調査部遺構研究室	【事業責任者】	所長 松村恵司

【スタッフ】

島田敏男（文化遺産部長）、加藤真二（企画調整部長兼展示企画室長）、箱崎和久（都城発掘調査部長兼遺構研究室長）、今井晃樹（同考古第三研究室長）・馬場 基（同史料研究室長）・岩戸晶子・山本 崇・大林 潤・鈴木智大・前川歩（以上同主任研究員）、福嶋啓人・山崎有生・目黒新悟（以上同遺構研究室研究員）、坪井久子・李 暉（以上同遺構研究室アソシエイトフェロー）、難波美緒（企画調整部企画展示室アソシエイトフェロー）、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同技術職員）、鎌倉綾(同技術補佐員)

【年度実績概要】

本事業は、第一次大極殿院地区の整備に伴う復原検討及び公開・活用を行う国土交通省からの受託研究である。

復原検討部分は、奈良時代前期（Ⅰ－2 期）の第一次大極殿院を構成する各建物のほか、地形や諸施設等について往時の形態を復原するのが目的である。平成 22 年から研究を継続し、すでに復原原案は示している。課題としては、検討過程の報告書作成及び建設工事に伴う細部の検討があり、2 年度はこれまでの第一次大極殿院復原研究の成果を示す報告書の執筆・編集を中心に進めた。報告書は、本文編と図版・資料編で計画しており、研究員 9 名で原稿執筆を分担して進めた。

一方、公開・活用関係では、①平城宮いざない館企画展示室における展覧会の開催、②第一次大極殿院南門の復原工事の記録写真撮影を行った。①は平城宮跡出土の鬼瓦と鬼瓦の復原研究の成果を展示し、日本初の鬼瓦の歴史が見える展覧会「鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界－Legend of Exorcism」を開催した（実績参照）。また、奈文研の研究員による講演会も 2 回開催した。②は南門復原工事工程の記録化に積極的に取り組んだもので工事関係者との共有を図った。

このほか、南門復原工事関係者による定例会議への対応や南門復原工事における学術的な問合せへの回答も随時に行った。また、南門工事の進捗に応じて復原工事関係者とともに南門鴟尾の金箔押し仕上げ状況を確認した。

展覧会ポスター

【実績値】

論文等：1 件
・李暉「古代建築金具の鋳造に用いた原型と鋳型－第一次大極殿院の復原研究 31－」（仮）『奈良文化財研究所紀要 2021』（3 年 6 月刊行予定）
展覧会：1 件
・奈良文化財研究所主催・国土交通省近畿地方整備局　国営飛鳥歴史公園事務所共催　平城宮跡第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展「鬼神乱舞－護る・祓う・鬼瓦の世界」3 年 1 月 23 日～3 月 28 日
講演会：2 件
・今井晃樹「鬼瓦の来た道」（3 年 2 月 20 日、100 名）
・岩戸晶子「屋根から飛び降りた鬼瓦とその歴史」（3 年 3 月 6 日、100 名）
国土交通省等からの問合せ等への対応：遺構研究室 73 件、考古第三研究室 10 件、展示企画室 9 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：奈良県 受託経費：511 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久
【スタッフ】 馬場基（都城発掘調査部史料研究室長)、前川歩（同主任研究員)、浦蓉子（考古第一研究室研究員)、大澤正吾（考古第二研究室研究員)、岩永玲（考古第三研究室研究員)、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同技術職員)、鎌倉綾(同技術補佐員)			

【年度実績概要】

・調査の経緯

国宝薬師寺東塔解体修理事業に伴う発掘調査（平城第 622 次)。平成 26 年度の東塔発掘調査において、修理工事用の素屋根基礎の下に位置していたため調査ができなかった以下 3 点の確認を目的に調査を行った。

①北面と南面の階段規模及び構造。②階段周囲の犬走り、雨落溝等の施設の有無。③東塔周囲の各時代の修理等に伴う痕跡の有無。奈良県立橿原考古学研究所との共同調査である。

・調査期間

5 月 25 日～7 月 17 日

・調査面積

64 ㎡

・基本層序

表土、 包含層①（近代遺物包含層)、 包含層②（近世遺物包含層)、 包含層③～⑤（中世遺物包含層)、 整地土 2（創建時)、 整地土 1（創建時)、 造営以前の堆積土となる。

・主な検出遺構

雨落溝 4 条、修理足場 2 棟、地覆石痕跡 2 条、犬走り 2 基、玉石敷舗装。

・主な出土遺物

古代から近代にかけての土器・瓦類などが出土した。土器は須恵器・土師器・瓦器・瓦質土器・近世陶器等。瓦は軒丸、軒平、熨斗、刻印雁振、刻印丸瓦、刻印平瓦等。木製品は礎板など。金属製品は、青銅製装飾棒、釘等。

南調査区全景（南から）

・調査所見

北面階段及び南面階段の耳石地覆石の痕跡及び最下段の踏石の痕跡を確認し、階段規模及び構造が明らかになった。また、階段周囲にも犬走り、雨落溝の痕跡を確認した。北面の雨落溝は良好に残り、底石を確認した。東塔の各時代の修理痕跡については、明治期の修理足場と昭和期の修理足場をそれぞれ確認した。

【実績値】

論文等数：2 件

①前川歩・大澤正吾、米川裕司（奈良県立橿原考古学研究所)「薬師寺東塔の調査―第 622 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)

②『薬師寺東塔基壇発掘調査報告書』 3 年 3 月

（参考値）

出土遺物：瓦片 115 箱、土器片 4 箱、木製品 5 点、金属製品 37 点

記録作成数：実測図 8 枚(A2 判)、遺構デジタル写真 30 枚、デジタルメモ写真約 900 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	第一次大極殿院東楼復原整備に伴う発掘調査　(②-1))

【委託者・受託経費】
委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
受託経費：4,071 千円

【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】今井晃樹（都城発掘調査部考古第三研究室長）、丹羽崇史・桑田訓也（以上同主任研究員）、目黒新悟（同遺構研究室研究員）、中村一郎(企画調整部写真室主任)、飯田ゆりあ(同写真室技術職員)

【年度実績概要】

・調査の目的
平城宮第一次大極殿院東楼及び回廊の復原建物建設に伴い、事前に既調査区の遺構面の標高を再確認する（平城第630 次)。

・調査面積
72 ㎡（A 区 24 ㎡、B・C・D 区各 16 ㎡）

・調査期間
10 月 21 日～11 月 10 日

・主な遺構
東楼の柱抜取穴、及び回廊の礎石抜取穴。

・出土遺物
なし

C 区の遺構検出状況（北から）

・調査所見
基本層序は上から整備盛土（80～90 ㎝)、埋め戻し土（20～30 ㎝)、奈良時代の回廊及び東楼の遺構面となる。今回の再測値と既往調査の遺構面の標高差は以下のとおり。

A 区：平城第 77 次調査（昭和 47 年度）より 12～19 ㎝低い。
B 区：平城第 431 次調査（平成 20 年度）より 1～2 ㎝低い。
C 区：平城第 431 次調査（平成 20 年度）より 2～3 ㎝低い。
D 区：平城第 41 次調査（昭和 42 年度）より 11～19 ㎝低い。

以上の調査によって遺構面のより正確な標高を確認した。

【実績値】
論文等数：0 件

（参考値）
記録作成数：実測図 4 枚(A2 判)、デジタル写真 49 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：橿原市 受託経費：403 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　清野孝之
【スタッフ】道上祥武（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、森川実（主任研究員）、福嶋啓人（遺構研究室研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）			

【年度実績概要】

○藤原宮跡東方官衙南地区（第 204-1 次）

・調査地：　橿原市高殿町
・調査面積：10.0 ㎡
・調査期間：　4 月 7 日～10 日

調査区全景（北東から）

○調査成果

・本調査は、特別史跡　藤原宮跡内における個人住宅建替えに伴う発掘調査である。調査地は高殿環濠集落西南部の藤原宮東方官衙南地区内にあたる。
・基本層序は上から表土、近代以降の整地土・遺物包含層、灰褐色砂質土、及び地山である。遺構検出面は近世の整地土上面（標高約 74.60m 付近）及び地山上面（標高約 74.25m 付近）である。遺構はいずれも近世以降のもので、全て完掘した。灰褐色砂質土は藤原宮期の整地土の一部である可能性がある。最大掘削深度は調査区北端で約 GL-1.5m である。
・調査区中央部の地山層上面で、南北方向の不整形の落ち込みを検出した。東西幅 1.2m 以上、南北は調査区外にさらに広がるとみられる。深さ約 0.2m。2 層に分かれる埋土はいずれも近世段階の遺物を多く含む。出土遺物の様相から近世段階におさまるとみられる。本調査区北方（201-5 次調査地）で検出された江戸時代に埋没した斜行溝と同様、環濠集落の古い環壕か環壕の内部を区画する溝の一部である可能性が考えられる。
・本調査区内では明確な藤原宮期の遺構は確認できなかった。ただし、調査区西壁で確認した灰褐色砂質土が、標高や土層の特徴から、藤原宮期の整地土の一部である可能性がある。また、近代の整地土から藤原宮式軒丸瓦が 1 点出土している。今回の調査範囲の多くは後世の撹乱を受けていたが、周辺に藤原宮期の遺構が残存する可能性を示すことができた。

【実績値】

出土遺物：土器 1 箱（古墳時代～近代）、瓦 1 箱（古代～近世、軒丸瓦 1 点）、木器 1 点
記録作成数：遺構実測図 1 枚、土層断面図 1 枚、デジタル写真（4×5）9 枚、デジタルメモ写真 95 枚
論文等数：1 件
①　道上祥武「藤原宮東方官衙南地区の調査－第 204-1 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-8

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	藤原宮跡（四分町店舗建設）発掘調査　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：橿原市 受託経費：2,039 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　清野孝之
【スタッフ】森川実（主任研究員）、道上祥武（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）			

【年度実績概要】

○藤原京右京六条二・三坊、四分遺跡の発掘調査（204-2 次）

・調査地：　橿原市四分町
・調査面積：84.0 ㎡
・調査期間：　6 月 22 日～7 月 29 日

○調査成果

・店舗建設に伴う発掘調査で、調査地は藤原京西二坊大路の推定位置（右京六条二坊・三坊）にあたる。また、当該地は弥生時代の遺物散布地、四分遺跡の一部に含まれる。
・今回の発掘調査では、藤原京西二坊大路の両側溝の検出が期待されており、調査区東端で南北溝 1 を、西端付近で南北溝 2 を検出した。南北溝 1 はその西肩付近を検出したのみで全容が明らかでないが、埋土上部からは瓦器片が出土しており、その埋没は中世にまで降る。安全上の配慮から完掘を行わなかったため、その開削時期は明らかでないが、西二坊大路東側溝の推定位置に近いことから、南北溝 1 の開削が古代に遡る可能性がある。
・南北溝 2 はその座標値からみても、今回の調査区の南方約 50ｍに位置する第 167 次調査で検出した平安時代の南北溝（SD10933）にあたる可能性が高い。今回の出土遺物は僅少であるため、第 167 次調査の所見にしたがい、平安時代の溝と考える。
・このほか、調査区西半にて弥生時代の土坑 1 基を検出した。
・土器（弥生時代～古代）、瓦、石器・石製品が少量出土した。

調査区全景（東から）

【実績値】

出土遺物：土器（弥生時代～古代）2 箱、平瓦 2 点・丸瓦 2 点、石器・石製品 5 点、加工木 1 点、丸棒 1 点
記録作成数：遺構実測図 5 枚、土層断面図 2 枚、デジタル写真（4×5）12 枚、デジタルメモ写真 115 枚
論文件数：1 件（①）

① 森川実「藤原京右京六条二・三坊、四分遺跡の発掘調査―204-2 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-9

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
【事業名称】	藤原京跡（下八釣町個人住宅建築）発掘調査　(②-1))

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市
受託経費：1,026 千円

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　清野孝之

【スタッフ】石田由紀子、大林潤、若杉智宏（以上、主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）ほか

【年度実績概要】

○藤原京左京三条三坊東南坪・西南坪の発掘調査（204-6 次）
・調査地：　橿原市下八釣町
・調査面積：45.5 ㎡
・調査期間：　10 月 7 日～10 月 26 日

○調査成果
・個人住宅建設に伴う発掘調査で、調査地は藤原京東三坊坊間路の推定位置にあたる。
・調査区の基本層序は、①耕作土・床土、②含炭灰色砂（調査区西半にのみ堆積し、藤原宮期の土器・瓦と炭を多量に含む)、③黄褐色土（遺物包含層：厚さ約 10～30 ㎝)、④暗灰黄色砂・砂質土（基盤層)。遺構検出は③の黄褐色土層上面で行った。遺構検出面は標高 69.1～69.3m である。
・古代の遺構として調査区西寄りと中央やや東寄りに 2 条の南北溝を確認した。それぞれ、東三坊坊間路西側溝、東側溝に相当するとみられる。溝幅は約 1～2m で、深さはいずれも約 30 ㎝である。また、古代以降とみられる小土坑を 3 基検出した。なお東三坊坊間路のうち、西側溝を最終的に埋める含炭灰色砂には、藤原宮期の須恵器・土師器を多量に含む。
・古代より古い時期の遺構として、調査区中央に掘られた大型の土坑がある。直径約 1.3m、深さ約 70 ㎝で、柱穴の可能性もある。埋土から古墳時代前期の土器が出土した。なお、柱穴とすれば北側に展開する可能性が考えられたため、調査区を一部拡張したが、柱穴は確認できなかった。
そのほか、東三方坊間東側溝に切り込まれる弥生時代後期の土坑を 1 基確認している。この土坑は直径約 1.8m、深さ約 80 ㎝で、埋土から弥生時代後期の土器が出土した。素掘りの井戸の可能性がある。
また、西側溝に切り込まれる沼状遺構と南北溝 1 条の一部を調査区西端で確認した。いずれの埋土からも弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての弥生土器、土師器がまとまって出土した。

調査区全景（西から）

【実績値】
出土遺物：土器（弥生時代～古代）21 箱、瓦（古代）1 箱、石器・石製品 2 点、獣骨 1 点、炭化物 6 点、木器・木製品 1 箱
記録作成数：遺構実測図 3 枚、土層断面図 2 枚、デジタル写真（4×5）30 枚、デジタルメモ写真 200 枚
論文件数：2 件（①・②）
① 片山健太郎「発掘調査の概要　藤原京左京三条三坊東南坪・西南坪（飛鳥藤原第 204-6 次)」『奈文研ニュース』No.80(3 年 3 月)
② 石田由紀子ほか「藤原京左京三条三坊東南坪・西南坪－第 204-6 次」『奈良文化財研究所紀要 2021』(3 年 6 月予定)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-10

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：明日香村 受託経費：498 千円			
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	副部長　清野孝之

【スタッフ】

山本崇（上席研究員）、田村朋美（主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）、東野治之（奈良大学名誉教授）、寺崎保広（奈良大学名誉教授）、鶴見泰寿（奈良県立橿原考古学研究所資料係長）、西光慎二（明日香村文化財課調整員）

【年度実績概要】

西橘遺跡は、奈良県明日香村に所在する、橘寺旧境内の西に隣接する遺跡である。この遺跡から 7 世紀後半頃と推定される木簡約 270 点が出土し、類例の少ない当該期の木簡の中で、まとまった内容を示すものとして注目されている。この事業は、西橘遺跡出土木簡について科学的な保存処理を行った上で有識者を招いて釈文を確定し、その歴史的、地域史的な意義を明らかにすることを目的とするもので、明日香村からの受託事業として 4 年度までの 4 か年を予定している。2 年度は、木簡 162 点（うち削屑 142 点）を対象として研究を進めた。

事業の概要は次の通りである。

1)水漬け状態における肉眼による釈読、材の形状や加工痕跡の観察などを行い、木簡の状態を記録した記帳ノート、赤外線テレビカメラ装置取込画像を新たに作成した。

2)外部有識者を招聘し、水漬け状態における釈文の検討会を 2 回開催した（6 月 15 日、6 月 19 日)。検討会では、赤外線テレビカメラ装置による現状の観察とともに、出土当時の写真と記帳ノート、水漬け状態で撮影したカラー・赤外線の 2 種類のデジタル画像を参照し、仮釈文を作成した。

3)藤原地区保存科学実験室において科学的な保存処理を実施した。保存処理の方法は、第 3 ブチルアルコールを用いて木簡内部の水を置換してから高級アルコールを含浸させた上で真空凍結乾燥を行う方法によった。

4)保存処理後の状況を、カラー・赤外線の 2 種類のデジタル画像で記録し、釈読を補完するため保存処理後の赤外線テレビカメラ装置取込画像を作成した。

5)外部有識者を招聘し、保存処理後に釈文を再検討する検討会を 1 回開催し（12 月 9 日)、釈文案を作成した。

6)2 年度予定された業務について、研究成果報告書を作成して委託主体である明日香村に提出した。なお釈文の最終確定は、4 年度に予定されている明日香村刊行の発掘調査報告書において行う。

検討会風景

【実績値】

保存処理　162 点

記録作成　652 点（赤外線テレビカメラ取込画像 163 点、デジタル写真カラー163 点、デジタル写真赤外線 163 点、記帳 163 点；1993 年保存処理の 1 点も含む)

奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)『明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究 研究成果報告書（令和 2 年度）』（3 年 3 月）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-11

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	「中世・近世石づくりのまち」調査研究事業　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：福井・勝山日本遺産活用推進協議会 受託経費：4,064 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	研究員　山口　欧志
【スタッフ】岸田徹（客員研究員）			

【年度実績概要】

本事業は、日本遺産に認定された「400 年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり越前・福井」のストーリーに基づき、歴史遺産の保護と観光活用の基礎となる構成文化財の調査研究を、福井・勝山日本遺産活用推進協議会の依頼により実施するものである。

この事業を実施するため、下記の内容を行った。

(1)日本遺産構成文化財の基礎調査研究
・勝山城跡の石垣と堀を確認するための地中レーダー探査を実施した。
・1940 年代の空中写真を用いて往時の土地利用に関する 3 次元データと地図を作成した。
・勝山市内の文化財（毘沙門の金燈籠）の 3 次元計測を実施した。
・福井城を踏査し実見と既往の計測データの収集を進めた。
以上の成果と現況地形や歴史的な背景をふまえた分析を進めた。
(2)「中世・近世石づくりのまち」調査研究会議
・ストーリーの掘り下げに適した研究者を組織し、調査研究会議を福井県福井市内で開催した。
・2 年度第 2 回調査研究会議に向けた準備を進めた。

図 1　地中レーダー探査の様子

(3)「中世・近世石づくりのまち」土木史研究会の組織と情報共有会議の開催準備
・中世から近世前半（1700 年頃）までの石を用いた土木の歴史の把握を図った。
・全国の石を用いた土木の痕跡を集成するため全国の研究者によるワーキンググループを組織した。
・ワーキンググループによる会議 2 回分の準備と成果の取りまとめを進めた。
・元年度に収集した集成データの更新を行った。

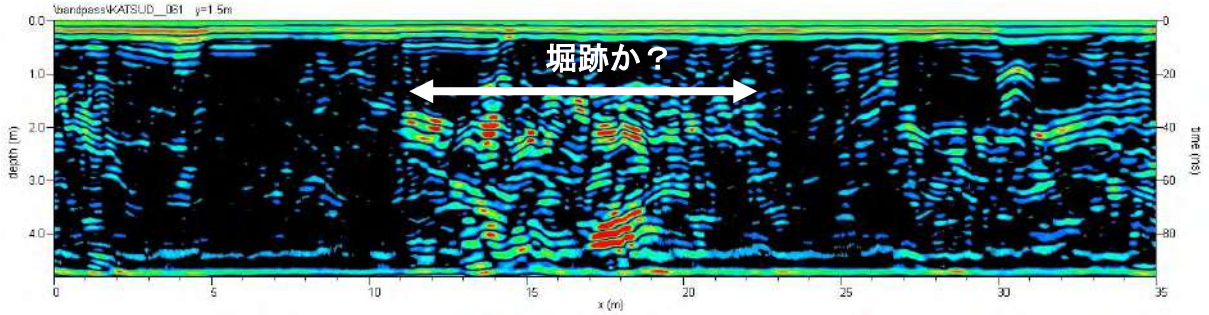


図２　地中レーダー探査によって可視化された地中の断面

【実績値】
公開講演：「石の技術を読み解く、伝えるためのデジタル調査」『日本遺産「石から読み解く中世・近世のまちづくり」調査研究講演会』
地中レーダー探査：14 地点、総測線距離 3,168m、測線本数 184 本
3 次元計測技術を用いた地図作成：1940 年代と 1970 年代、及び現代の空中写真を元に地図作成 3 葉
3 次元計測；燈籠 1 モデル
調査研究会議：3 回
ワーキンググループによる会議:2 回

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-12

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	令和2年度 史跡闘鶏山 古墳の調査保存に資する基礎的調査　(②-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：高槻市 受託経費：3,000 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　高妻洋成
【スタッフ】 脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）・金田明大（遺跡・調査技術研究室長）・柳田明進（保存修復科学研究室研究員）・山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員）・三村衛（京都大学大学院工学研究科教授）・小椋大輔（京都大学大学院工学研究科教授）			

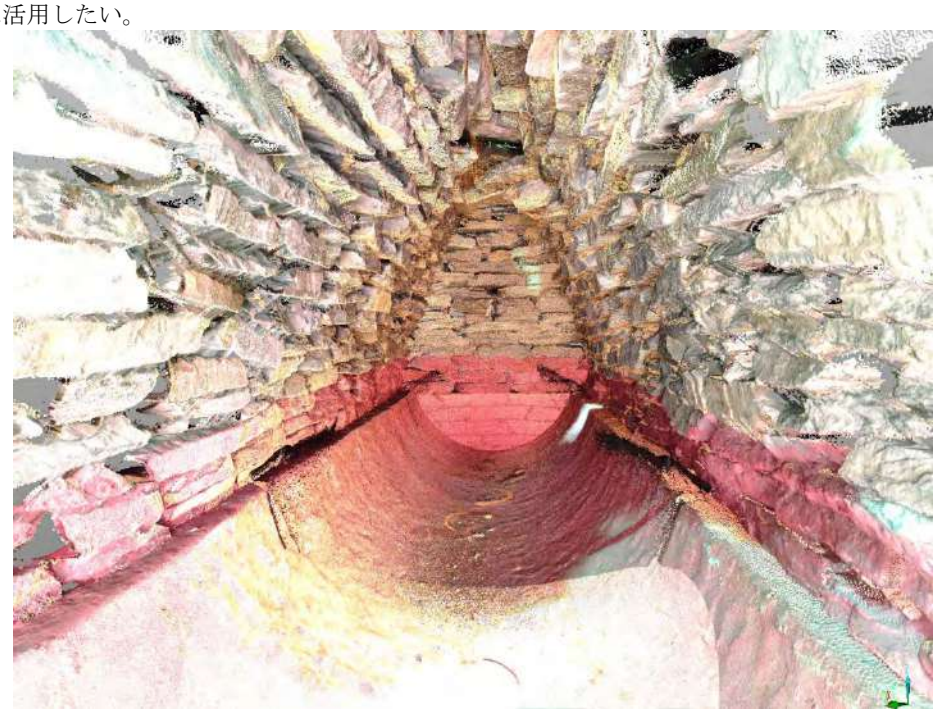
【年度実績概要】

闘鶏山古墳の保存に資する研究として、現況の計測と保存の観点からの検討を進めた。

現況の計測については、未盗掘石室の詳細な情報収集のための技術開発を進めた。わずかな空隙から内部に挿入し、石室内を移動できる機構について複数の方法を検討し、試作品を作成した。あわせて、条件に合った計測機器の選定と試験を行った。計測は、SfM・MVS による方法及びパターン投影、そして ToF による方法を検討しており、センサーの大きさや利用の簡便さやデータの質を比較した。

また、石材移動時の記録手段と復元を行うことを想定した現場での計測及び、移動石材の詳細な計測を行う手法についても検討を行い、機材の導入を進めた。

これらの手法の有効性を確認するため、高槻市埋蔵文化財センターに構築されている模擬石室の3次元計測として、SfM・MVS 及びレーザースキャナーでの計測を行った。今後、開発した機材による計測成果との比較を行い、実物の計測手法の洗練に活用したい。



模擬石室計測成果（レーザースキャナー）

【実績値】

計測試験：4回

模擬石室計測データ2点（SfM・MVS 及びレーザースキャナー）

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3523E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	被災資料有害物質発生状況調査業務（②-3)）		
【委託者・受託経費】 委託者：陸前高田市 受託経費：3,547 千円			
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	早川泰弘（センター長）
【スタッフ】佐藤嘉則（生物科学研究室長)、林美木子（防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー)、岡部迪子（研究補佐員）			

【年度実績概要】

岩手県陸前高田市博物館で津波被災した文化財の安定化処理及び処理後の資料から発生する異臭と一時保存中に発生するようになった異臭について自然科学的方法で調査し、今後の保管及び安定化処理等の進め方について改善方法を提案することと、廃校利用の保存環境における生物被害対策について検討することが業務内容である。

以下の 2 項目について、事前の準備を経て 10 月 20 日から 23 日にかけて現地調査を行った。

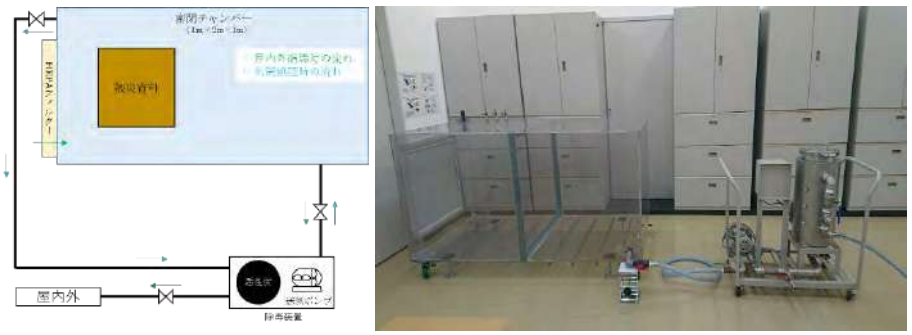
○保管環境の有害物質発生状況に関する事項

安定化処理後の被災資料から発生する異臭として当初処理に用いたナフタレンを対象としていたが、現地調査を行う中で、ナフタレンのほかに有機酸が望ましい値を超える濃度であることを検知した。これは被災資料からの発生ではなく、同封されていた脱酸素剤からの発生であることがその後の調査で明らかとなった。

ナフタレンを含むこれらの有害物質の対処として、ナフタレン、有機酸の両者に対して高い吸着能を有する活性炭を利用して除毒するシステムを考案した。除毒システムでは、密閉チャンバー（1m×1m×2m、2m^3）を用いて、チャンバー内部で試料を開封し、資料からの脱ガス化を行いながら空気を循環させて活性炭を充填した処理部分で有害物質を吸着させる仕組みである。これを陸前高田市博物館の現地に運搬し、実際の試験運用を行った。運用前後でエアーサンプリングを行い、密閉チャンバー内の有機酸量の減退について調査した結果、運転時間の経過とともに有機酸が活性炭に吸着され、チャンバー内の濃度が低下することを確認した。

○陸前高田市博物館（旧生出小学校）内の生物生息状況調査

陸前高田市博物館内のほぼすべての収蔵空間を対象として、浮遊菌、付着菌、落下菌の計測を実施し、現況について把握した。また過去の調査結果から浮遊菌量が比較的高かった収蔵空間について、外部業者に除塵清掃作業を委託し、環境改善を行った。清掃の効果を評価するため、3 年 1 月に当該収蔵庫の調査を計画していたが、新型コロナウイルスによる影響を受けて調査を実施することができなかった。



被災資料からの有害物質を除去する除毒システム

【実績値】

被災資料有害物質発生状況調査業務報告書　1 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3523F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析　(②-3))		
【委託者・受託経費】 委託者：国立大学法人　東京大学地震研究所 受託経費：6,132 千円			
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	センター長　高妻洋成
【スタッフ】 村田泰輔（埋蔵文化財センター　主任研究員）			

【年度実績概要】

本事業は、科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次)」に基づき、地震火山噴火予知研究協議会（以後、予知協議会）からの委託を受け、元年度から 5 か年計画として取り組んでいる。内容は主として災害痕跡の考古・地質学的データの収集・調査・分析・活用し、地震・火山噴火に関する近代的な観測データが整う以前の災害履歴データを集成し、データベースの構築と公開を進めるものである。2 年度の実績は以下の通りである。

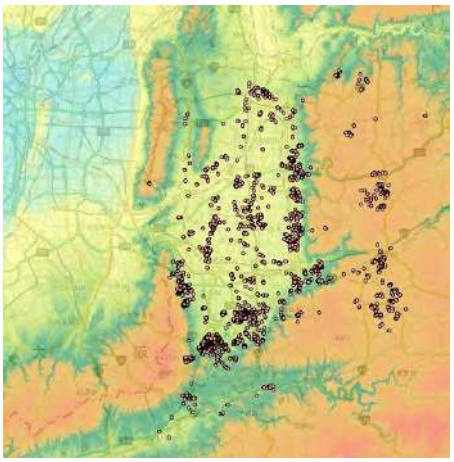


図 1 歴史災害痕跡 DB(奈良盆地周辺)

1）発掘調査報告書のデータ抽出、分析、整理作業

2 年度も、元年度まで進めてきた発掘調査データから災害痕跡データを抽出する作業を継続し、出土地点、時期、災害類別について精査・整理し、データベースの構築を進めた。2 年度は、特に遺跡資料及び史資料が古代より継続的に蓄積する近畿圏のうち奈良県を中心に約 2 千調査地点についてのデータ集成を進め、海溝型（南海トラフ）起因の地震や、奈良県東縁断層、生駒断層を中心とした内陸（活断層）型起因の地震、あるいはそれらの複合型のものなど、地震発生による被災シナリオの検討に向けたデータ解析に取り組んだ。加えて火山噴火災害への対応を開始した。特に予知協議会で連携する桜島大規模火山噴火対策チームと共同し、地震災害同様、発掘調査報告書から災害情報を集成しデータベースのα版の作成を行った。また、古代地名の地図上検索を可能とするための地名地点情報データベースの作成も進めている。

2）データベース構築・開発作業

2 年度は、歴史災害痕跡データベース（以後、災害痕跡 DB）について、地震災害情報（図 1）に加え、火山噴火災害情報について実装し、α版の動作テストを始めた。また、元年度に進めた災害痕跡 DB のα版の公開動作テストを地方公共団体の協力のもと進めたかったが、新型コロナウイルス対応を考慮し協力要請は最小限のものとし、開発チームを中心に動作テストを開始するに留めた。その中で、データ公開や地方公共団体等からの外部データ入力、さらに当研究所からのデータ校正に関わる作業に必要なインターフェース設計の改善や、セキュリティ防壁にいくつかの課題がハードウェア面で確認されたため、3 年度に向けて課題の解決を進める。

図 2 歴史災害痕跡 DB（桜島周辺）

一方、ソフト面では、東京大学史料編纂所、東京大学地震研、京都大学防災研とデータベースとの API 連携の動作テストや検索表示システムの改善を進めている。これについては 3 年度以降も継続して進める。今後も国土地理院情報検索システム、産業総合研究所地質情報システムとの連動のための地質データの入力及び表示方法の開発を継続的に進める。

3)発掘調査現場における災害痕跡の調査、試料採取・分析

平城宮・京、藤原宮（以上、奈良県）を中心に現地調査を行い、検出された地震痕跡等について調査を進め、被災時期の特定方法の改善を進めた。また、元年度に調査した遺跡群については報告書執筆を行った。

【実績値】

論文：『奈良文化財研究紀要』「藤原宮下層運河 SD1901A の検討」「平城宮第一次大極殿院東方の調査-第 612 次」
M., Ehara, A., Nishiyama, T., Murata, and R., Sugimori, “Research on Pre-Modern Earthquakes Based on Fusion of Humanities and Sciences,” Jour. of Disaster Research, Vol.15, No2, pp.76-86, 2020.
報告書：兵庫県南あわじ市教育委員会編『松帆銅鐸調査報告書Ⅰ －調査報告編』
書籍：『月間文化財 12 月号』「遺跡調査における地質学的手法の適用」

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)　地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務　(③-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：一般財団法人　公園財団飛鳥管理センター 受託経費：6,442 千円			
【担当部課】	企画調整部展示企画室	【事業責任者】	室長　加藤真二
【スタッフ】 廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、藤田友香里（展示企画室アソシエイトフェロー）			

【年度実績概要】

・展示物の状態確認と日報の作成を行った。
特に、井戸部材（廊下）と斎串（展示室 4）については、埋蔵文化財センター、都城発掘調査部と協議しつつ、状態確認・展示環境のモニタリングを重点的に行っている。
・奈文研へあった所蔵物の貸出依頼、もしくは都城調査部依頼の調査研究に応じ、展示室 4 の展示物の取り出し・搬出、返却後の原状復帰を行った。(15 件)
・平城宮跡歴史公園の教育旅行誘致に向けて、平城宮跡管理センターと共に、奈良市教育委員会、奈良県教育委員会の協力のもと、企画・監修した学習ワークシート(元年度末発行)の教員用手引きを作成した。
・平城宮跡歴史公園開園 2 周年記念特別企画展「再発見、古都奈良を支える　木と匠のものがたり－過去といま、未来をつなぐタイムトリップ」展(2 年 3 月 20 日～5 月 31 日)の撤収・展示物返却作業に従事した。
・新型コロナウイルスの感染拡大予防策として、日本博物館協会の定めるガイドラインにしたがって管理センターと協議し、接触を伴う展示(体験型展示、タッチパネル等)の対応策を講じ、対処した。また、平城宮跡資料館で使用したガイドライン向けのサイン等を共有した。
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問に対応した。 (31 件)
・展示室 4 に関わるマスコミ・テレビ等の取材に対応した。(1 件)

業務風景（テレビ取材対応）

・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正を行った。(31 件)
・展示評価調査として、来館者行動調査を展示室 4 にて実施した。(4 件)
・奈文研での「平城宮跡の活用の実践的研究」の一環として、文化遺産部、都城調査部と共に出土遺物にちなんだ体験プログラムの企画・監修を行なった。2 年度は、木簡をテーマに、南門建築端材と奈良筆・奈良墨を用いた内容を 11 月 22 日に実施した。
・3 年度以降の体験企画についても並行して準備を進めている。出土遺物に似せた陶硯と水滴を体験用に複数再現し、体験ツールの復原を都城発掘調査部とともに監修している。

【実績値】

展示室 4 展示物の取り出し・搬出、原状復帰　15 件
企画・監修した学習ワークシート（元年度発行済）の教員用手引きを作成。
平城宮跡歴史公園開園 2 周年記念特別企画展の撤収・展示物返却作業。
接触を伴う展示(体験型展示、タッチパネル等)の対応策の実施。ガイドライン向けのサイン等を準備。
依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問対応　31 件
マスコミ・テレビ等の取材　1 件
印刷・出版物の監修・校正　31 件
来館者行動調査　4 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務　(③-1))		
【委託者・受託経費】 委託者：文化庁 受託経費：21,563 千円			
【担当部課】	研究支援推進部	【事業責任者】	研究支援課長　不藤 忠義
【スタッフ】 今西康益（研究支援課係員）、亀岡 妙子（研究支援課係員）、松本 正典（連携推進課係員）、ほか１名			

【年度実績概要】

特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案及び整備管理業務の実施

平城宮跡地内及び藤原宮跡地内において文化庁が実施する事業を補助し、遺構の保存、公開・活用への環境整備の円滑な進捗を図るもの。実施期間　4月1日～3年3月31日（休日を除く）

1 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案業務の実施

－1　環境維持、宮跡内施設等の安全確保のための対策提案

○復原施設、遺構表示、便益施設設備の状況観察及び故障等不具合へ対応策提案、対応手配等協力

① 平城宮跡北面大垣整備地排水改善対応への助言
② 平城宮跡第一次大極殿免震装置点検への助言
③ 平城・藤原宮跡内工作物（柵・車止め等）維持への助言
④ 平城宮跡内外灯・防犯設備等維持への助言
⑤ 平城・藤原宮跡内植栽管理への助言
⑥ 平城宮跡国有地管理への助言
⑦ 藤原宮跡国有地管理への助言　ほか

藤原地区周辺住民からの要望・苦情聴取状況

－2　緊急事案発生への対応提案

○事件、事故等緊急事案対応への対応策提案、対応手配等協力

① 平城宮跡内危険箇所表示対応
② 平城宮跡内水路増水対応
③ 平城・藤原宮跡内倒木対応　ほか

平城宮跡仮設水路改修備状況

2 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における整備管理業務の実施

－1　平城宮跡及び藤原宮跡における草刈り業務（別途業務外注）管理の実施

○計画及び実施工程等の調整
○施工箇所の点検・確認
○事前の調整（地元自治会等への説明会同席、要望への反映）
○周辺住民等からの要望・苦情の聴取
○聴取内容、施工箇所変更などの業者への伝達

－2　平城宮跡及び藤原宮跡における整備、改修・修繕等の実施にかかる調整対応を実施

○計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認

① 平城宮跡第一次大極殿・朱雀門ほか
　復原施設便益施設修繕及び設備更新等
② 平城宮跡東方官衙暫定整備
③ 平城宮跡仮設水路改修整備
④ 藤原宮跡仮設水路改修整備
⑤ 藤原宮跡現況調査業務
⑥ 平城宮跡（植栽剪定）
⑦ 藤原宮跡（植栽剪定）ほか

藤原宮跡仮設水路改修整備状況

【実績値】

1－1　不具合対応策提案及び整備管理業務の実施（対応策提案件数　642 件）
1－2　緊急事案発生への対応提案（対応提案件数　6 件）
2－1　草刈り業務管理の実施　平城宮跡 704,435.38 ㎡・藤原宮跡 457,471.89 ㎡、（地元要望調整等対応件数　46 件）
2－2　計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認（調整対応件数　190 件）

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．業務改善の取組
事業名	（１）組織体制の見直し

【年度計画】
・国際業務の推進体制の整備の一環として、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、機構内における組織体制を整備する。
・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み、本部情報担当部門の設置について、検討を継続する。
・令和２年 10 月１日付で本部に防災センターを設置する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、日本博の事業を円滑に進めるため、31年4月より課長補佐級職員1人を派遣しており、引き続き、博物館等と連携して日本博関連の企画を実施している。
・情報セキュリティの確保・維持のため、4月に新たに本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。
・10月1日付で本部に文化財防災センターを設置し、職員の配置を行った。その後、3年1月にも職員を配置し、3年4月にも職員を採用配置予定である。

【補足事項】
・文化財防災センターについて
　文化財防災センターは、頻発する各種の災害から多様な文化財をまもるため、関係機関との連携体制の構築、技術的課題の研究、啓発活動などの事業を実施し、災害発生時には、文化庁をはじめとした多くの組織や専門家の協力によって迅速かつ効果的な救援活動の中心的な役割を担う。

文化財防災センター開所式
報道発表

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　国際業務の推進体制整備の一環として、31年4月より日本博へ職員を派遣し、博物館等と連携して日本博関連の企画を実施できた。また、本部情報担当の人員を増員することで、機構全体の情報セキュリティの確保・維持の推進を図った。本部に新しい組織として、文化財防災センターを設置し、職員の配置等を行い、体制整備を行った。
　国際業務の推進体制整備、情報セキュリティへの対応、本部文化財防災センターの体制整備を、引き続き進めていく。

【中期計画記載事項】
　組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画期間を通して、組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行った。「2019年ICOM京都大会」に向けて、職員の派遣を行うことで事業の推進を図った。また、新型コロナウイルスの流行下におけるICT整備等の促進を図るため、本部情報担当の人員を増員することで、機構全体の情報セキュリティの確保・維持の推進を図った。
　「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に向けた国際業務の推進体制整備、情報セキュリティへの対応等については、各施設の多言語化対応、情報部門の職員の充実を図った。
　また、10月に文化財防災センターを設置し、文化財防災体制を構築した。
　以上のとおり、中期計画期間を通じ、体制整備を行った。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6120

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（２）人件費管理の適正化

【年度計画】
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・人事給与統合システムが4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。また、人事給与統合システムを利用し、人件費のシミュレーション等を行うことにより、人件費に関する計画を円滑かつ詳細に企画・立案することができるようになり、2年度も適正な人件費管理を行っている。
・役職員の報酬額については、毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。3年度も引き続き公表することとしている。

【補足事項】
・当法人の給与規程は、国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠している。また、国と異なる諸手当はない。
・ラスパイレス指数は、31年度は、事務・技術職員が97.4、研究職員が98.1となっており、その水準維持に努めた。なお、2年度のラスパイレス指数は3年9月に総務省ウェブサイトにて公表予定である。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に沿って、国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表した。

【中期計画記載事項】
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って、人事給与統合システムによる人件費試算を行うことで、人件費管理の適正化に努めた。 中期計画期間を通じて適正水準の維持に取り組み、検証結果及び取組状況を公表することで中期計画を達成することができた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6130

中項目	1．業務改善の取組
事業名	（3）契約・調達方法の適正化

【年度計画】
①契約監視委員会を実施する。
②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
① 「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 2 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
第 1 回契約監視委員会（11 月 16 日開催）
第 2 回契約監視委員会（3 年 6 月 16 日開催）
② 東京国立博物館（レストラン 2 か所、移動式野外飲食店、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、京都国立博物館（カフェ、レストラン、ミュージアムショップ、自動販売機）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）については企画競争を実施済み。2 年度においては、契約期間終了に伴い東京国立博物館にて移動式野外飲食店の企画競争、奈良国立博物館にて、ミュージアムショップ・レストランの企画競争を実施した。今後も、契約期間終了時に順次企画競争を実施予定である。
・3 年 2 月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（17 人が参加）
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	元年度	2 年度	増減
件数	186 件	164 件	−22 件

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
−	−	−	−		−	−	−	−

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施し、年度目標を達成したと言える。

【中期計画記載事項】
「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して計画どおり取組を実施し、中期目標を達成したと言える。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6140

中項目	1．業務改善の取組
事業名	（4）共同調達等の取組の推進

【年度計画】
周辺の他機関を含めた共同調達について、有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。
上野地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、トイレ洗浄機器等賃貸借
京都地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー
九州地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、ガソリン

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。（再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館）。
・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC用紙及びトイレットペーパー）。
・奈良国立博物館では、 トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進める。
・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙、トイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。
・奈良文化財研究所では、PPC用紙及びトイレットペーパーについて、近隣機関の共同調達における納入金額と同額にて独自に調達を実施した。その他の物品の共同調達については、引き続き検討を進める。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施し、年度目標を達成した。

【中期計画記載事項】
各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して計画どおり取組を実施し、中期目標を達成した。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6151

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

【年度計画】
機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。

担当部課	本部事務局 本部事務局財務課 本部事務局総務企画課	事業責任者	事務局長　柏田昭生 課長　數馬厚人 課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・機構広域ネットワークの刷新を実施し、6施設（東博・京博・奈良博・東文研・奈文研・IRCI）で運用を開始した。（9月～3年3月）
・共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した

【補足事項】
・次期グループウェアの検討を開始した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
一般管理費	889百万円	中期目標期間中15%以上効率化	－		831	754	1,277	974
業務経費	5,422百万円	中期目標期間中5%以上効率化	－		5,417	6,159	5,956	5,965

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
機構共通事務システムの運用を継続するとともに、基盤となる機構広域ネットワークの更新を実施し、機構内ネットワークの管理業務を効率化した。
平成27年度と比較して、一般管理費及び業務経費について効率化でき、所期の目標を達成できた。

【中期計画記載事項】
中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項（2）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には以下の措置を講じる。
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化（略）

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
機構共通事務システムの基盤である機構広域ネットワークの更新を実施し、中期計画を遂行できた。
一般管理費及び業務経費について効率化でき、中期計画を達成することができた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6152

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　②計画的なアウトソーシング

【年度計画】
以下の業務の外部委託を継続して実施する。
（東京国立博物館）
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
・資料館業務の一部
・施設内店舗業務
（京都国立博物館）
・警備業務及び設備保全業務の一部並びに清掃業務
・会場運営業務
・代表電話対応及び受付業務
（奈良国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
（九州国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務等
・警備業務、看視案内業務及び清掃業務
（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）
・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館では、引き続き茶室、大講堂等の施設貸出業務及び音声ガイド貸出業務について民間委託を実施している。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり外部委託を実施し、年度目標を達成したと言える。

【中期計画記載事項】
（略）事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
　具体的には以下の措置を講じる。
（略）②計画的なアウトソーシング

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して計画どおり外部委託を実施し業務の効率化を図ることができ、中期目標を達成したと言える。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6153

中項目	1．業務改善の取組
事業名	（5）一般管理費等の削減　③使用資源の減少

【年度計画】
・省エネルギー　光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
・廃棄物減量化　使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
・リサイクルの推進　廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。
・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等）
・使用資源の推移等

光熱水使用量

事項	元年度	2年度	増減	増減率
電気（kwh）	26,112,714	25,588,377	-524,337	-2.01%
ガス（㎥）	2,042,038	1,955,844	-86,194	-4.22%
水道（㎥）	156,080	103,577	-52,503	-33.64%

日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施した。新型コロナウイルス感染防止のための臨時休館や職員の在宅勤務の影響によりいずれも使用量が減少した。

廃棄物排出量

事項	元年度	2年度	増減	増減率
一般廃棄物（kg）	187,701	149,133	-38,568	-20.55%

新型コロナウイルス感染防止のための臨時休館や職員の在宅勤務の影響により排出量は減少した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定		28	29	30	元
光熱水量								
電気量(kwh)	25,588,377	－	－	経年変化	25,475,017	25,703,795	25,705,596	26,112,714
ガス量(㎥)	1,955,844	－	－		1,961,450	1,984,170	1,941,360	2,042,038
水道量(㎥)	103,577	－	－		144,711	154,269	157,555	156,080
廃棄物排出量(kg)	149,133	－	－		225,453	232,251	210,462	187,701

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各施設において計画どおり節減に努めており、新型コロナウイルスの影響によるところもあるが、光熱水使用量及び廃棄物排出量を削減できた。

【中期計画記載事項】
（略）事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には以下の措置を講じる。
（略）③使用資源の減少
・省エネルギー ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各施設においては計画どおり節減に努めており、中期計画期間を通して堅調に削減することができているため、計画を達成したと判断した。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 6200

中項目	２．業務の電子化
事業名	業務の電子化

【年度計画】
機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・引き続き機構ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。
・政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、「e国宝」「ColBase」の運用を継続した。(処理番号1321HAを参照)
・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。3年3月には機構VPNを刷新し、ファイアウォールの本部事務局での統合管理を可能とした。
・本部及び東博職員向けに貸出端末263台を配布し、在宅でのグループウェアやメールの利用の他、一部の業務システムの利用を可能とした。
・本部及び東博職員向けにオンライン会議アプリを導入し、対面以外での会議や打合せを可能とした。

【補足事項】
・次期グループウェアの検討を進めるとともに、現グループウェアの遠隔地バックアップ環境再整備の準備を進めた。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	機構ウェブサイト及び機構共通事務システムの運用を継続するとともに、必要なシステム更新・機能追加を適宜行うことができた。

【中期計画記載事項】
機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	機構共通事務システム等の最適化を図りつつ、新型コロナウイルスの感染拡大の中でも業務遂行を可能にすべく新規ソフトウェア等の配備を行い、中期計画を遂行できた。 また、中期計画の最終年度として、次期中期計画を見据え今後の運用に向けた各種対応を進めることができた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6300

中項目	３．予算執行の効率化
事業名	予算執行の効率化

【年度計画】
収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人

【実績・成果】
「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施し、年度目標を達成したと言える。

【中期計画記載事項】
運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通して計画どおり取組を実施し、中期計画を遂行できた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7110

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（１）観覧料金改定

【年度計画】
博物館及び展示公開施設の平常展観覧料金を令和２年４月１日に改定する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・4月1日より、総合文化展の観覧料金を、一般620円を1,000円、大学生410円を500円に改定した。
（京都国立博物館）
・4月1日より、名品ギャラリーの観覧料金を、一般520円を700円、大学生260円を350円に改定した。
（奈良国立博物館）
・4月1日より、名品展の観覧料金を、一般520円を700円、大学生260円を350円に改定した。
（九州国立博物館）
・4月1日より、文化交流展の観覧料金を、一般430円を700円、大学生130円を350円に改定した。
（奈良文化財研究所）
・4月1日より、飛鳥資料館の観覧料金を、一般270円を350円に、シニア（満65歳以上）の無料措置を対象年齢を満70歳に改定した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、休館等を余儀なくされたが、平常展観覧料金を改定することができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 自己収入額の定量的評価について、2 年度は新型コロナウイルスの影響により達成できなかったが、中期計画期間全体を通して、目標値を上回る成果を上げることができた（処理番号 7120 参照）。2 年度には平常展の観覧料金改定を実施するなど、自己収入拡大へ向けた取組を行った。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7120

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（２）自己収入拡大への取組

【年度計画】
機構全体において、展示事業収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
新型コロナウイルス感染症の影響により、展示事業等収入については、下表のとおり828,947千円となり、目標を下回った。

	目標値	2年度
展示事業等収入	1,538,510千円	828,947千円

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。
※受託研究・受託事業を除く。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
自己収入額 （展示事業等収入）	828,947千円	1,538,510千円	－		1,714,563	2,260,173	1,917,262	2,016,303

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスにより博物館の休館などを余儀なくされた影響で、定量的評価の目標値を下回った。 一方で科研費収入や画像貸出等の事業では、一定の成果を上げることができたため、新型コロナウイルスの影響をふまえ、目標を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間の最終年度である2年度は、定量的評価については、新型コロナウイルスの影響により達成できなかったが、中期計画期間全体としては目標値を上回る自己収入を得ることができた。したがって、A評価とした。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7130

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（３）外部資金の獲得

【年度計画】
機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。
（文化財活用センター）
・独立行政法人国立文化財機構寄附ポータルサイトを構築する。
・前年度から開始した東京国立博物館と共同した所蔵品の修理に対する寄附金募集活動を引き続き実施する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、文化財活用センター総務担当	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】

	目標値	2年度
寄附金	439,574千円	730,711千円

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。
・国立文化財機構寄附ポータルサイトを8月に開設し、各施設への寄附等についてウェブ決済を可能とした。本ウェブサイトのウェブ決済による寄附金等は計1,915,000円であった。
・元年度に開始した「重要文化財 小袖 白綾地秋草模様（通称〈冬木小袖〉）」（東京国立博物館蔵）の修理費等1,500万円を募る「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」を継続して実施し、企業、個人等から9,440,158円の寄附金を獲得した。（元年度からの総計12,692,430円）。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
寄付金等額 （その他寄付金等）	730,711千円	439,574千円	A		753,812	732,210	827,718	884,196

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（中略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 7140A

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（4）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
①　新型コロナウイルスの影響により、講座・講演会等は中止としたが、オンライン月例講演会やオンラインギャラリートークをウェブサイトに公開し、学べる環境を整備した。
②
・2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、参集型のユニークベニュー利用、講堂・茶室利用が大幅に減少したが、ロケ地撮影利用は緊急事態宣言解除後に需要が回復し、着実に受け入れ件数が戻りつつある。一方で結婚式の中止による婚礼写真の撮影場所として、例年以上の利用があった。
・2年度、話題となった連続TVドラマのロケ地として複数回利用された。放映開始に合わせて、ロケ地専門雑誌にドラマのPRページと合わせて当館のロケ地利用の広告を出稿し、映像制作関係者などに周知した。館内においても、ロケ地利用をPRするポスターを掲出し、来館者へ施設貸出事業のPRを図った。
③2年度も入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートなどのイベントを実施した。国際交流及び日本文化の紹介を主眼とした「留学生の日」にかかるイベントについては、新型コロナウイルスの流行下のため実施せず。

【補足事項】
②当館施設の利用にあたっては、施設利用者向けの新型コロナウイルス感染拡大防止対策マニュアルを策定し、利用者の遵守を徹底した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	2,150件	－	－		747	866	781	680
うち有償利用件数	534件	－	－		529	581	485	457

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2 年度は新型コロナウイルスの影響により、施設利用件数及び収入ともに減少したが、話題となった TV ドラマのロケ地利用等により効果的な施設貸出事業の PR を図ることができ、また、婚礼写真の撮影場所としての利用増加に繋げることができた。3 年度以降も保有資産の有効利用の推進に資するよう取り組む。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保有資産の貸出については、中期計画期間全体を通じて着実な実績を残せた。次期中期においても貸出事業の積極的な周知活動、1 件 1 件の対応の質を上げることにより、新規利用者、リピーターともに利用増となるように努力する。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　7140B

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　西尾佐枝子

【実績・成果】
①記念講演会、土曜講座、夏期講座、キャンパスメンバーズ講演会を開催した。
②外部サイトにロケーション撮影の案内を掲載したほか、明治古都館・グランドロビーなどの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内（利用時間、料金等）を当館ウェブサイトに掲載した。
③従前の「京都・らくご博物館」の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、名品ギャラリーの無料観覧やグッズの無料配布を実施した。また、大学・企業・近隣地域等と連携し、講堂や茶室でイベントを開催した。

【補足事項】
①
・記念講演会、土曜講座、夏期講座等については（処理番号 1311B1）参照
・「キャンパスメンバーズ講演会」計２回　平成知新館講堂　参加人数：142 人（処理番号 1313B）参照
②
・展示会、茶会、講演会、コンサート等の会場として、またロケーション撮影スポットとして、各施設の貸出を実施した。
③
・「京都・らくご博物館」計２回　場所：平成知新館講堂　参加人数：96 人
・「秋の華道」　場所：茶室　参加人数：38 人
・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加人数：68 人
・「新春大念佛狂言」　場所：講堂　参加人数：196 人
・「芸舞妓 春の舞」　場所：平成知新館講堂　参加人数：178 人
・「春の琵琶」　場所：平成知新館講堂　参加人数：199 人

秋の華道

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	125件	－	－		105	122	165	196
うち有償利用件数	111件	－	－		93	86	143	164

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
明治古都館や平成知新館グランドロビーの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内を当館ウェブサイトや外部ロケ地ポータルサイトに掲載し、積極的に広報を行った。新型コロナウイルスの影響により利用件数は減少したが、新規利用者からの問い合わせは徐々に増加しており、利用に繋がるよう引き続き広報活動に力を入れていく。
また、入館者拡大のために、茶室で新たな華道体験イベントを行い、施設の有効利用を図った。以上のことより、年度計画を達成できたと言える。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により2年度の有効利用件数は減少したが、新規利用者からの問合せは増加傾向にある。
また、施設貸出に係る広報・運営に注力するとともに、入館者拡大のための新規体験イベントを毎年積極的に実施し、参加者からも好評を得ており、いずれも満足度は高かったと言える。以上から、中期計画期間を通して中期計画を達成できたと言える。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　7140C

中項目	１．　自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
①公開講座、サンデートーク、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。
②法華寺の公演を実施した。
③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また、留学生の関連イベントとして「英語落語in奈良博」を11月28日に実施し、63人の参加があった。

【補足事項】
①講座・講演会
　公開講座(5回)、サンデートーク(7回)、特別鑑賞会(4回)、文化財保存修理所特別公開（3回）等
③イベントの実施
・講堂：「英語落語in奈良博」、「お水取り講話と現地解説の会」
・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」
・展示室：「仏像供養（年4回)」、
・庭園・茶室：「おん祭茶会」
・敷地内：「Cornes Osaka Showroom Exclusive Touring to NARA NATIONAL MUSEUM」（フェラーリの展示会場として当館敷地を貸与）
○会場提供
・講堂：「奈良シニア大学講義」、「文化財防火ゼミナール」
・仏教美術資料研究センター：ブライダル撮影、ブライダルフェア等
・庭園・茶室：「珠光茶会」等各種茶会、雑誌撮影、ブライダル撮影等
・敷地内：「氷室神社秋祭り巡業」、「小学生写生会授業」、「秋の天平行列　東大寺参詣行列」、「奈良市ホストタウン事業『コトロゲ2020』」、「春日若宮おん祭」、ブライダル撮影等

英語落語in奈良博

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	84件	－	－		113	111	112	166
うち有償利用件数	35件	－	－		21	19	18	84

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。また、留学生の日に「英語落語 in 奈良博」を実施し、全内容英語で開催した。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画最終年度にあたる2年度においては、ユニークベニューの一環としてフェラーリユーザー展示会場等、施設利用を促進し、地方自治体と連携したイベントを実施することで、博物館の認知度を向上及び自己収入を獲得することができた。中期計画期間を通しても、旅行会社やフォトスタジオなど、民間企業等による施設利用の対応に尽力し、順調に施設を活用し、自己収入の増加に資することができたため、中期計画は順調に達成できたと評価できる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　7140D

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長　山野孝 課長　執行正一

【実績・成果】
（博物館４施設）
①新型コロナウイルスのため利用を休止していたスーパーハイビジョンシアターで、11月よりミュージアムトークを再開した。また、特別展・特集展示等の講座・講演会は新型コロナウイルス拡大防止のため開催しなかったが、当館ウェブサイトにて、「文化財のミ･カ･タ」、「文化財のヒミツ」として、当館文化財の紹介動画を配信した。
②ミュージアムホールは特定天井改修工事及び新型コロナウイルス感染予防対策のため、一般の方への施設貸出ができなかった。茶室については11月より貸出を再開した。
③3階特別交流展示室前ロビー等で博多祇園山笠関連イベントを開催、1階エントランスでミュージアムコンサート(7回)を実施して、施設の有効利用を図った。

【補足事項】
③
・日本文化の紹介
博多祇園山笠関連展示（3階特別展示室前ロビー）11月25日～3年1月11日
博多祇園山笠大パネル展示（記念写真撮影用）(1階ミュージアムホール前）12月1日～3年1月11日
・ミュージアムコンサート（2回/日）(1階エントランス)
3年1月 3日　参加者数：130人
2月 6日　参加者数：140人
2月13日　参加者数：130人
2月20日　参加者数：170人
2月27日　参加者数：140人
3月13日　参加者数：130人
3月20日　参加者数：110人
・春の桜コンサート（2回/日）
3月27日　参加人数：300人
3月28日　参加人数：170人

ニューイヤーコンサート(3 年 1 月 3 日)

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	114件	－			355	280	328	349
うち有償利用件数	4件	－	－		116	96	75	77

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染拡大の影響やミュージアムホール吊天井の工事により年間を通じた施設の有効利用ができなかったが、11月より感染予防対策を施しながら、日本文化の紹介及び1階エントランスでミュージアムコンサートや、2日間に渡る屋外での桜コンサートを実施することができた。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通して、施設の有効利用の推進を図るため、本来業務に支障のない範囲で会議やイベントのための貸与を行い、中期計画を達成した。
また、2年度はコロナ下の施設の有効利用に資するため、利用者向けに新型コロナウイルス感染拡大防止対策利用ガイドを作成した。
次期中期年度においても新型コロナウイルス感染状況を見ながら、コンサートや講演会等を行うことで、施設の有効活用を模索していきたい。

【書式A】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7140E

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所２施設）
　セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　川島　美奈子

【実績・成果】
・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図ったが、新型コロナウイルスへの対応のため、外部への貸し出しは制限した。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを2年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。
・外部機関への施設の有償貸付は、新型コロナウイルスへの対応のため、実施できなかった。

【補足事項】
・第54回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」

オープンレクチャーの様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	125件	－	－		186	185	200	125
うち有償利用件数	0件	－	－		7	9	10	7

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	施設の有効利用の促進を図ろうとしたが、2年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で施設の外部貸し出しは概ね制限することとなったため、利用件数は増加しなかった。なお、外部機関への有償貸付は新型コロナウイルスの対応により、実施できなかった。

【中期計画記載事項】
　（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今中期計画期間5年目である2年度は、元年度に引き続き、第54回オープンレクチャーを実施することができた。2年度については、新型コロナウイルス対策のため、貸付はできなかったが、中期計画の5か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式Ａ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 7140F

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所２施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長　不藤　忠義

【実績・成果】

施　設　名	2年度
平城宮跡資料館　講堂	11件　（内　有償貸与　0件）
平城宮跡資料館　小講堂	19件　（内　有償貸与　2件）
飛鳥資料館　講堂	1件　（内　有償貸与　0件）
その他（収蔵庫等）	12件　（内　有償貸与　9件）
合　　計	43件　（内　有償貸与　11件）

【補足事項】
元年度実績

施　設　名	元年度
平城宮跡資料館　講堂	77件　（内　有償貸与　4件）
平城宮跡資料館　小講堂	111件　（内　有償貸与　4件）
飛鳥資料館　講堂	21件　（内　有償貸与　0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	15件　（内　有償貸与　11件）
合　　計	224件　（内　有償貸与　19件）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	43件	－	－		296	347	232	224
うち有償利用件数	11件	－	－		52	35	28	19

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年利用があるイベントや集会、学会等のほとんどが中止になったことに加え、平城宮跡資料館講堂では改修工事（11月～3年2月）が行われたため、有効利用件数は2年度から大きく減少したものの、可能な限り施設の有効利用を図り、有償貸与は2件を確保したところであり、評価についてはＢ評価とした。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルス感染症や平城宮跡資料館講堂改修工事のため、利用件数は減少したが、中期計画期間を通じて保有資産の有効利用の目標を達成しており、期間全体を通してみれば中期計画を遂行できた。Ｂ評価とした。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7300

中項目	３．決算情報・セグメント情報の充実等
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等

【年度計画】
独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人

【実績・成果】
元年度に引き続き、元年度決算（2年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（平成30年9月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。
・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。
・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施し、年度目標を達成した。

【中期計画記載事項】
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通して計画どおり取組を実施し、中期目標を達成した。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 8000

大項目	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
中項目	１．予算　２．収支計画　３．資金計画
事業名	予算、収支計画、資金計画

【年度計画】
１．予算　別紙のとおり
２．収支計画　別紙のとおり
３．資金計画　別紙のとおり

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人

【実績・成果】
・2年度当初予算について、元年度中に予算配分を実施し、早期に業務を遂行できる体制を整備した。
・人件費予算は本部一括管理とし、無駄のない効果的な活用が図られた。
・精算払の外部資金により資金繰りが困難となる施設に対し、あらかじめ資金の貸与を行うなど、法人全体として効率的な資金管理を実施した。
・四半期ごとに入金される運営費交付金について、国に対し各期の必要額をあらかじめ伝えておくことにより、計画的な資金管理を実施した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、年度内に起こった不測の事態にも速やかに対応した。

【中期計画記載事項】
管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通して計画どおり取組を実施し、中期計画を遂行できた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9100

大項目	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．内部統制
事業名	内部統制

【年度計画】
　内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

担当部課	本部事務局総務企画課 監査室	事業責任者	課長　伊藤進吾 監査室長　清水功

【実績・成果】
（内部統制委員会、リスク管理委員会の開催）
・内部統制委員会を2回開催した。（12月15日、3年3月16日）
・リスク管理委員会を2回開催した。（12月15日、3年3月16日）
・元年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。
（内部監査及び監事監査等のモニタリング）
・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。
　会計監査　10月12日～12月4日（全施設）
　※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、監査室で確認。
　給与簿監査　10月19日～11月13日（京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
　※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、本部人事担当で確認。
　法人文書管理監査　3年1月～3月（全施設・書面監査）
　情報システム監査・情報セキュリティ監査　11月13日（1）ペネトレーション監査（九州国立博物館）
　（元年度監査の再診断として実施：アジア太平洋無形文化遺産研究センター）
　12月～3年1月（2）マネジメント監査（本部事務局）
・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。
　3年1月　全施設（書面監査）
　3年2～3月　京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター　※新型コロナウイルスの感染防止のため、書面監査にて実施。
・ソフトウェア等監査　各施設で実施し会計監査の際確認を行った。
・監事監査を以下の日程で行った。
　定期監査（業務・会計）　7月16日
　臨時監査（業務・会計）　3年1月～2月　各施設（アジア太平洋無形文化遺産研究センター除く）（書面監査・業務監査）
　3年3月3日　本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所（会計監査）
（研修の実施）
・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。（処理番号9430参照）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 内部統制委員会とリスク管理委員会を各2回開催した。内部統制とリスク管理の運用状況を把握することで計画の確認及び見直しを行い、新たに3年度のリスク管理計画案を策定した。また、内部監査及び監事監査等・各種研修においても、開催方法を工夫し、積極的に実施した。 以上の実績に基づき、年度計画を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
　コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画の5年目として、29年度～元年度に策定したリスク管理計画の運用を進めることができた。 内部監査や研修については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、内部統制委員会で審議し承認された計画に取り組むため、書面審査やウェブ会議システムを利用するなど、環境に合わせた方法で実施することができた。 中期計画期間を通じて取り組みを実施し、中期計画を達成した。3年度以降においても、引き続きリスク管理計画の策定及びモニタリングを行う。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	２．その他
事業名	（１）自己評価

【年度計画】
運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
・2年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。
・自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会／博物館部会／総会：新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、全て書面審議にて開催）に提出し、外部有識者による評価が行われた。
・外部有識者の意見等を踏まえ「令和元年度自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。
・運営委員会（7月29日）の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、開催を中止した。運営委員には、会議に諮る予定であった「令和元年度事業実績」等を送付し、元年度事業の報告を行った。運営委員より挙がった意見について、組織・事務・事業の改善状況を報告した。

【補足事項】
・外部評価委員会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、委員へ自己点検評価報告書を送付し、以下の期間にて書面審議を実施した。
・外部評価委員会の書面審議期間は以下のとおり。
研究所・センター部会（4月22日～5月7日）
博物館部会　（5月13日～22日）
総会　（6月1日～8日）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	（判定根拠、課題と対応）
評定：B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、運営委員会を中止した（会議資料を送付した上で意見聴取）が、外部評価委員会においては書面審議を行い、外部有識者の意見を踏まえ、客観的な自己評価を実施できた。その結果を組織、事務、事業等に反映できた。

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の最終年度にあたる2年度においても、外部有識者の意見を踏まえ、自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させることができた。よって、所期の目標は達成できたと判断した。 2年度は新型コロナウイルスの影響により、運営委員会を中止したが、3年度以降についても同様の事態が考えられるため、ウェブ会議等、新たな方法で開催できるよう検討する必要がある。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9220

中項目	２．その他
事業名	（２）情報セキュリティ対策

【年度計画】
情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。
また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。

担当部課	情報システム・セキュリティ委員会	事業責任者	最高情報セキュリティ責任者(CISO)

【実績・成果】
・「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成30年度版)」を踏まえて元年度に改正した情報セキュリティ関係規程等を、施行した。(4月1日)
・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT連絡会にて情報共有、検討を行った。
・情報セキュリティ監査を、外部機関に委託して実施した。(11月13日ほか)
・全役職員を対象に、情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検をe-learningにて実施した。(12月10日～3年2月27日)
・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(12月14日)
・「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」に基づく実施手順の整備を進め、手順2件を作成した。(3年2月12日)。
・セキュリティレベルの向上・平準化、管理の効率化を目的とした機構広域ネットワークの刷新を実施した。(9月～3年3月)
・NICH-CERTメンバー向け訓練を実施した。(12月25日)

【補足事項】
・情報システム・セキュリティ委員会は、2年度の開催は無く、個別案件の審議はグループウェア上で行った。
・情報セキュリティ監査は、九博のシステムを対象に脆弱性診断を実施（11月13日）するとともに、2年度は改正規定施行初年度にあたるため、政府統一基準への準拠性監査を実施した。(12月～3年3月)
・NICH-CERT連絡会を2回開催した。(第1回：8月7日、第2回：8月20日)
・元年度に脆弱性診断を実施したIRCIのシステムを対象にフォローアップ診断を実施した。(11月13日)

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり、最新版の政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づき、必要な情報セキュリティ対策を実施するとともに、手順整備を進めた。 また、機構広域ネットワークの刷新についても、計画通り実施した。

【中期計画記載事項】
情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。
また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり、政府統一基準を踏まえた規程・体制にて運用を継続し、改正等を行うとともに、機構広域ネットワーク更新を含め情報セキュリティ対策を適切に実施することができた。 中期計画最終年度である2年度の実績も踏まえ、中期目標を達成したと判断した。

【書式A】　　施設名 | 本部事務局 |　　処理番号 | 9300 |

中項目	３．施設設備に関する計画
事業名	施設設備に関する計画

【年度計画】

別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。

（別紙）　　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・京都国立博物館	60	施設整備費補助金
本館（明治古都館）耐震改修	60	
・奈良国立博物館	36	施設整備費補助金
文化財保存修理所空調設備改修工事	36	
・九州国立博物館	102	施設整備費補助金
空調設備改修工事	102	

担当部課	本部事務局環境整備課	事業責任者	課長　城山美香

【実績・成果】

（京都国立博物館）

・本館免振改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施したが、調査期間中に方広寺関連遺構が検出され文化庁より追加調査が必要との意向が示されたため、完了予定が3年6月となる。

（奈良国立博物館）

・保存修理所空調設備改修工事を実施した。(3年3月完了)

（九州国立博物館）

・空調設備（中央監視設備）改修工事を実施した。(3年2月完了)

・空調設備（熱源搬送設備等）改修工事を実施した。(3年3月完了)

【補足事項】

京都国立博物館本館改修に向け実施している発掘調査において方広寺関連遺構が検出され、文化庁より追加調査が必要との意向が示された。この追加調査については、完了予定が3年6月になる予定である。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画していた事業について、概ね計画どおりに実施できた。

【中期計画記載事項】

施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。

（別紙４）　　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・東京国立博物館	19,419	施設整備費補助金
仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事（平成 28 年度～32 年度）	19,374	
柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事　(28 年度)	45	
・京都国立博物館	992	施設整備費補助金
本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事（平成 28 年度～32 年度）	992	
・奈良文化財研究所	1,646	施設整備費補助金
本庁舎建替工事　(平成 28 年度～30 年度)	1,619	
飛鳥資料館煙突（冷暖房機用）取替工事	27	

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通して施設整備に関する計画や内容については、工事が完了し、中期計画を遂行できた。 厳しい財政状況が見込まれるが、適切な施設の維持保全による長寿命化、省エネルギーの推進など有効な施策を講じると同時に少ない予算の効果的執行に向けた施設マネジメントが一層重要となる。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9410

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（１）中長期的な人事計画の策定 （２）評価制度の導入

【年度計画】
（１）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。
（２）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度の導入について、検討を継続する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
（１）中長期的な人事計画の策定
・事務系職員の人事については、10月から11月にかけて各施設の副館長等にヒアリングを行った。また、交流機関とも10月から順次、3年度以降の人事交流について打ち合わせを行った。
・研究職の人事に関して、採用については、理事長、理事、施設の長で構成する研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用を必要とする専門性（分野）、採用時期等を審議し、決定している。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みを設けている。
・人件費管理の観点から、雇用経費を外部資金等の運営費交付金以外を財源とすることで、人員の確保を図っている。

（２）評価制度の導入
・29年10月より常勤職員を対象として評価制度の施行を開始し、2年度も引き続き導入した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	事務系職員の人事について、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を推進した。研究職の人事についても、人事選考委員会を通した採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織としての包括的な人事計画に向けて取り組んだ。 評価制度については、29 年 10 月から施行を開始し、2 年度も引き続き導入した。

【中期計画記載事項】
中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って中長期的な視点で、事務系職員の人事については、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を推進した。研究職の人事についても、人事選考委員会を通した採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織としての包括的な人事計画に向けて取り組んだ。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9420

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（３）能力や適性に応じた採用・人事の実施 （４）女性の活躍の推進 （６）働き方改革関連法に応じた取組の実施

【年度計画】
(3)性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。
(4)女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。
(6)働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】
(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施
・19年度に、人事交流若しくは国立大学法人等職員採用試験に頼らず機構が独自に採用できる制度を導入した。
・20年度に、常勤の研究職員に準じた人事制度（アソシエイトフェロー制度）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う者又は専門的知識を有する者を採用できる制度を導入した。
・26年度に、高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保するため、専門制度を導入した。
・28年度に、60歳を超える優秀な人材を採用することができるよう、任期付職員制度の改定を行った。
・29年度は、係員相当の職以外も担当できるよう再雇用制度の改定を行った。
・2年度は、上記について、引き続き制度を適用し採用・人事を行った。

(4) 女性の活躍の推進
・例年であれば、7月にハラスメント防止を目的とした研修、ダイバーシティの推進にも触れる研修を実施し、外部講師による専門的見地からの講義等により、ハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図っているが、2年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため、3年度以降に延期となった。
・女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法における一般事業主行動計画において、管理職に占める女性割合を高めるよう努めた。次期の一般事業主行動計画についても策定し、継続して計画を進める。

(6) 働き方改革関連法に応じた取組の実施
労基法改正（31年4月施行）に伴う年5日間の年次有給休暇の取得義務付けについて、確実な取得を図るべく、下記の取得促進に向けた取組を実施した。
・ゴールデンウィーク、シルバーウィーク、年末年始、夏季休暇取得時に合わせた年休取得の促進
・子どもの入学式や卒業式等の学校行事、職員その他家族の記念日等での年休取得
・連休の狭間、単発の祝日等に合わせた年休取得の促進
・各種会議等での定期的な周知・徹底
・休暇等計画表などの活用　ほか

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	機構発足時より、採用にかかる様々な制度設計を行うことにより、能力や適性に応じた採用・人事を着実に実施できている。 また、ハラスメントやダイバーシティについて社会的に頻繁に問題が取りざたされる情勢の中で、ハラスメント防止やダイバーシティ推進の理解を深められるよう努めている。 働き方改革関連では、年5日間の確実な年休取得を達成するための取組を実施した結果、所期の計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。
③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を行った。また、就業環境の整備やハラスメント防止の注意喚起、研修等についても継続的に実施した。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9430

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（５）職員のキャリアパス形成のための研修

【年度計画】
職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた研修の実施を企画・立案する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　伊藤進吾

【実績・成果】

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
＜階層別＞			
新任職員研修		元年度以降の新任職員等	新型コロナウイルス感染症拡大のため、3年度に延期した。
＜分野別＞			
研究倫理教育研修 (e-ラーニング等)	5月8日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	287人
施設系職員研修	7月27日	機構内の施設系職員	12名
会計職員研修	WG:10月28日～3年2月16日 講義他:3年2月16日	WG:各施設の会計担当の係員のうち希望者 講義他:各施設の会計担当者等	WG:10人 講義他:17人
＜能力開発＞			
コンプライアンス教育研修 （科研費説明会と併せて実施）	9月8日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	414人
情報セキュリティ研修 (e-ラーニング等)	12月10日～3年2月27日	常勤職員、ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ、有期雇用職員他	817人
ハラスメント防止に関する研修		元年度以降の新任職員等、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	新型コロナウイルス感染症拡大のため、3年度に延期した。
健康管理に関する研修		元年度以降の新任職員等	新型コロナウイルス感染症拡大のため、3年度に延期した。

【補足事項】
新型コロナウイルスの感染拡大のため3年度に延期した研修あり

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染症拡大のため、例年行っている新任職員研修については、実施を見送ったが、3年度以降、研修方法等も検討の上、立案・実施していく。
新型コロナウイルスの感染拡大により、一部実施を延期した集合型の研修もあったが、リモートやオンライン等で会計研修などは試行的に実施でき、コロナ禍において職員間のコミュニケーション等も図れた。

【中期計画記載事項】
④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に沿って、新たに管理職研修、階層別研修等を実施した。中期計画の最終年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、一部実施を見送った研修もあったが、計画期間中を通して、新たな研修等を実施することで、職員のキャリアパスに寄与することができた。

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１２０，２７０（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２３，６５１
	延面積		７８，４７１
展示館	展示面積	計	１８，５６７
	収蔵庫面積	計	１１，６５４
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	６，９４１
		収蔵庫面積	３，８２９
	東洋館	建	２，８９２
		延	１２，５３１
		展示面積	４，２５０
		収蔵庫面積	１，３７９
	平成館	建	５，５４２
		延	１９，４０６
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，４４６
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
		延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
		収蔵庫面積	－
	黒田記念館	建	７２４
		延	１，９９６
		展示面積	２６４
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	４，８２６
		延	１６，０１４
		収蔵庫面積	３，６８４

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		１３，２３４
	延面積		３１，０４４
展示館	展示面積	計	５，６５７
	収蔵庫面積	計	４，８８９
	平成知新館(新平常展示館)	建	５，５６８
		延	１７，９９７
		展示面積	３，５８７
		収蔵庫面積	２，７１０
	明治古都館(特別展示館)	建	２，８９６
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	８０３
	旧管理棟	建	６０６
		延	１，９８８
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	８２１
		延	２，７８６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	８１１
		延	１，４７１
		収蔵庫面積	８８０
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，７０７
		延	１，６７６

【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７８６
	延面積		１９，１３３
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，５５８
	なら仏像館(本館)	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	青銅器館(本館付属棟)	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，６４２
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７３５
		延	７３５
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１５９，８４４		
			（法人　１０，７９８ 県　１４９，０４６）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，３００ 県　５，７８０ 共用　１５，５９５）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，５１６

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

	土地面積	建物	
本庁舎地区	８，８７９	建築面積 延面積	２，８１２ １１，３８７
平城宮跡地区	（文化庁所属の国有地を無償使用）	建築面積 延面積	１１，０６０ １６，２５９
藤原地区	２０，５１５	建築面積 延面積	６，２６０ ９，４１６
飛鳥地区	１７，０８２	建築面積 延面積	２，６６０ ４，４０３

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　（㎡）

建物	建築面積 延面積	２４４．６７ ２４４．６７
総室数		４室

※建物は大阪府堺市より借用。

令和２年度

（第 14 期事業年度）

財　務　諸　表

独立行政法人国立文化財機構

目　　次

１．貸借対照表

２．行政コスト計算書

３．損益計算書

４．純資産変動計算書

５．キャッシュ・フロー計算書

６．利益の処分に関する書類

７．注記事項（重要な会計方針等）

８．附属明細書

貸 借 対 照 表

令和3年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ 流動資産			Ⅰ 流動負債		
現金及び預金		3,406,995,496	預り寄附金（注）		1,673,055,630
棚卸資産		59,575,504	未払金		1,953,352,958
立替金		19,106,482	未払費用		83,327,628
前払費用		1,140,827	前受金		3,172,500
未収金		868,815,348	預り金		190,895,811
その他の流動資産		7,063,571	賞与引当金		285,511,675
賞与引当金見返（注）		285,511,675	環境対策引当金		157,525,368
環境対策引当金見返（注）		157,525,368	その他の流動負債		1,271,588
流動資産合計		4,805,734,271	流動負債合計		4,348,113,158
Ⅱ 固定資産			Ⅱ 固定負債		
1有形固定資産			資産見返負債		
建物	96,061,051,288		資産見返運営費交付金（注）	2,396,461,714	
減価償却累計額	−46,411,839,544	49,649,211,744	資産見返寄附金（注）	581,582,703	
構築物	4,774,866,627		資産見返物品受贈額（注）	18,831,766	
減価償却累計額	−3,097,143,749	1,677,722,878	資産見返その他補助金（注）	94,410,068	
機械・装置	739,536,574		建設仮勘定見返運営費交付金（注）	840,941	
減価償却累計額	−641,073,514	98,463,060	建設仮勘定見返施設費（注）	11,256,300	
車両運搬具	72,964,002		建設仮勘定見返寄附金（注）	4,877,862	
減価償却累計額	−62,527,512	10,436,490	資産見返負債合計	3,108,261,354	
工具器具備品	10,316,623,505		引当金		
減価償却累計額	−7,658,922,014	2,657,701,491	退職給付引当金	2,056,900,768	
収蔵品		124,995,858,245	引当金合計	2,056,900,768	
土地		44,410,675,104	その他の固定負債		
建設仮勘定		16,464,162	長期未払金	15,643,946	
有形固定資産合計		223,516,533,174	固定負債合計		5,180,806,068
			負債合計		9,528,919,226
2無形固定資産					
ソフトウエア		105,442,923	（純資産の部）		
電話加入権		3,477,600	Ⅰ 資本金		
その他の無形固定資産		3,393,804	政府出資金		104,713,813,740
無形固定資産合計		112,314,327	資本金合計		104,713,813,740
3投資その他の資産			Ⅱ 資本剰余金		
退職給付引当金見返（注）		2,056,900,768	資本剰余金	169,411,458,122	
投資その他の資産合計		2,056,900,768	その他行政コスト累計額		
固定資産合計		225,685,748,269	減価償却相当累計額（−）（注）	−50,721,158,107	
			減損損失相当累計額（−）（注）	−3,376,800	
			除売却差額相当累計額（−）（注）	−3,307,229,035	
			その他行政コスト累計額合計	−54,031,763,942	
			資本剰余金合計		115,379,694,180
			Ⅲ 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金（注）		624,042,124
			目的積立金（注）		5,092,192
			積立金（注）		227,650,130
			当期未処分利益		12,270,948
			（うち当期総利益）		(12,270,948)
			利益剰余金合計		869,055,394
			純資産合計		220,962,563,314
資産合計		230,491,482,540	負債純資産合計		230,491,482,540

（注記） 1. その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額は32,837,603,082円であります。

2. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

行政コスト計算書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　損益計算書上の費用		
業務費	8,615,891,473	
一般管理費	1,915,293,518	
財務費用	904,070	
雑損	3,986,536	
臨時損失	147,454	
損益計算書上の費用合計		10,536,223,051
Ⅱ　その他行政コスト		
減価償却相当額	3,270,645,898	
減損損失相当額	0	
除売却差額相当額	75,034	
その他行政コスト合計		3,270,720,932
Ⅲ　行政コスト		13,806,943,983

（行政コスト計算書に係る注記）

1．独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト	13,806,943,983
自己収入等	−1,940,202,880
法人税等及び国庫納付額	0
機会費用	520,337,430
独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	12,387,078,533

2．機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引から生ずる機会費用の計算方法
国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

(2) 政府出資等の機会費用の計算に使用した利率
10年利付国債の令和3年3月末利回りを参考に0.120%で計算しております。

(3) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法
当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

損 益 計 算 書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,765,501,289	
業務経費			
収集保管業務費	472,706,574		
展覧業務費	1,951,395,820		
教育普及業務費	200,566,961		
博物館研究業務費	225,059,369		
博物館支援業務費	78,410,229		
基礎研究業務費	287,984,494		
応用研究業務費	127,875,869		
国際遺産保護業務費	62,629,936		
情報公開業務費	284,328,714		
研修協力業務費	23,993,868		
受託業務費	627,928,071	4,342,879,905	
減価償却費		507,510,279	8,615,891,473
一般管理費			
人件費		982,051,384	
一般管理経費		831,651,704	
減価償却費		101,590,430	1,915,293,518
財務費用			904,070
雑損			3,986,536
経常費用合計			10,536,075,597
経常収益			
運営費交付金収益(注)		7,252,151,660	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入(注)	587,673,842		
その他受託収入(注)	45,429,567	633,103,409	
入場料収入		306,646,957	
展示事業等附帯収入		293,031,321	
財産利用収入		217,851,209	
寄附金収益(注)		469,520,885	
施設費収益(注)		176,806,372	
その他補助金収益(注)		39,969,144	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入(注)	498,305,092		
資産見返寄附金戻入(注)	84,994,580		
資産見返物品受贈額戻入(注)	1,513,190		
資産見返その他補助金戻入(注)	10,189,522		
建設仮勘定見返運営費交付金戻入(注)	21,601,014		
建設仮勘定見返施設費戻入(注)	9,429,511	626,032,909	
財務収益			
受取利息		552	
雑益		11,439,153	
賞与引当金見返に係る収益(注)		285,511,675	
退職給付引当金見返に係る収益(注)		181,720,780	
環境対策引当金見返に係る収益(注)		−1,221,748	
環境対策引当金戻入額		1,221,748	
経常収益合計			10,493,786,026
経常損失			42,289,571
臨時損失			
固定資産除却損		147,454	147,454
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入(注)		147,450	
資産見返寄附金戻入(注)		2	147,452
当期純損失			42,289,573
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)			1,035,202
業務拡充積立金取崩額(注)			53,525,319
当期総利益			12,270,948

（注記）1. ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は−110,407円であり、当該損益を除いた当期総利益は12,381,355円であります。

2. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

純資産変動計算書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

（単位:円）

	Ⅰ 資本金		Ⅱ資本剰余金					Ⅲ 利益剰余金						純資産合計
	政府出資金	資本金合計	資本剰余金	その他行政コスト累計額			資本剰余金合計	前中期目標期間繰越積立金	目的積立金	積立金	当期未処分利益		利益剰余金合計	
				減価償却相当累計額(－)	減損損失相当累計額(－)	除売却差額相当累計額(－)						うち当期総利益		
当期首残高	104,713,813,740	104,713,813,740	166,802,466,809	−47,610,911,105	−3,376,800	−3,146,755,105	116,041,423,799	625,077,326	75,035,155	143,775,846	83,874,284	0	927,762,611	221,683,000,150
当期変動額														
Ⅰ 資本金の当期変動額														0
Ⅱ 資本剰余金の当期変動額														
固定資産の取得			2,608,991,313				2,608,991,313							2,608,991,313
固定資産の除売却				160,398,896		−160,473,930	−75,034							−75,034
減価償却				−3,270,645,898			−3,270,645,898							−3,270,645,898
固定資産の減損					0		0							0
Ⅲ 利益剰余金の当期変動額														
(1)利益の処分又は損失の処理														
前中期目標期間からの繰越し													0	0
利益処分による積立									0	83,874,284	−83,874,284		0	0
利益処分による取り崩し													0	0
国庫納付金の納付													0	0
(2)その他														
当期純損失											−42,289,573	−42,289,573	−42,289,573	−42,289,573
前中期目標期間繰越積立金取崩額								−1,035,202			1,035,202	1,035,202	0	0
目的積立金取崩額									−69,942,963		53,525,319	53,525,319	−16,417,644	−16,417,644
当期変動額合計	0	0	2,608,991,313	−3,110,247,002	0	−160,473,930	−661,729,619	−1,035,202	−69,942,963	83,874,284	−71,603,336	12,270,948	−58,707,217	−720,436,836
当期末残高	104,713,813,740	104,713,813,740	169,411,458,122	−50,721,158,107	−3,376,800	−3,307,229,035	115,379,694,180	624,042,124	5,092,192	227,650,130	12,270,948	12,270,948	869,055,394	220,962,563,314

キャッシュ・フロー計算書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−4,737,365,952
業務支出	−5,586,459,929
科学研究費支出	−244,402,550
消費税等支払額	−37,660,600
運営費交付金収入	8,633,262,000
科学研究費収入	269,166,595
展示事業等収入	497,190,797
財産利用収入	203,519,142
受託収入	786,558,614
寄附金収入	734,319,961
消費税等還付額	245,288,863
その他補助金による収入	229,039,275
その他の業務収入	5,247,051
小計	997,703,267
利息の受取額	552
利息の支払額	−934,025
業務活動によるキャッシュ・フロー	996,769,794
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	−2,399,694,124
無形固定資産の取得による支出	−47,553,759
施設費による収入	460,809,024
投資活動によるキャッシュ・フロー	−1,986,438,859
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−12,966,897
財務活動によるキャッシュ・フロー	−12,966,897
Ⅳ　資金減少額	−1,002,635,962
Ⅴ　資金期首残高	4,409,631,458
Ⅵ　資金期末残高	3,406,995,496

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	3,406,995,496 円
資金期末残高	3,406,995,496 円

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	1,124,180,978 円
工具器具備品、ソフトウェア	19,516,714 円
合計	1,143,697,692 円

②ファイナンス・リースによる資産取得　4,389,000 円

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位:円）

Ⅰ　当期未処分利益		12,270,948
当期総利益	12,270,948	
Ⅱ　積立金振替額		629,134,316
前中期目標期間繰越積立金	624,042,124	
目的積立金	5,092,192	
Ⅲ　利益処分額		
積立金		641,405,264

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（令和２年３月 26 日改訂）並びに「『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関するQ&A」（令和２ 年６月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）を適用して、財務諸表等を作成しております。

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、管理部門の職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）、減価償却費及び財務費用については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の職員給与、法定福利費並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～１７年
車両運搬具	２年～　７年
工具器具備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７第１項）の減価償却に相当する額については、減価償却相当累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

（３）リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

３．賞与引当金の計上基準

役職員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を計上しております。なお、役職員の賞与については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上しております。

４．退職給付に係る引当金の計上基準

職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

退職一時金については、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。このうち、運営費交付金により財源措置がなされる見込みである退職一時金については、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

５．環境対策引当金の計上基準

ＰＣＢ廃棄物（安定器）の処理費用について、今後発生すると見込まれる額を計上しております。なお、処理費用については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、環境対策引当金と同額を環境対策引当金見返として計上しております。

６．棚卸資産の評価基準及び評価方法

（１）貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

（２）未成受託研究支出金･･･個別法による低価法を採用しております。

７．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

８．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．固定資産の減損

該当なし

Ⅲ．重要な債務負担行為

該当なし

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定しております。また、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
(1)現金及び預金	3,406,995,496	3,406,995,496	―
(2)未収金	868,815,348	868,815,348	―
(3)未払金	(1,953,352,958)	(1,953,352,958)	―

（注１）金融商品の時価の算定方法に関する事項

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）負債に計上されているものは、（　）で示しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

石綿（アスベスト）関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫１棟の天井材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しますが、当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

Ⅶ．退職給付に係る注記

１．採用している退職給付制度の概要

当機構では、役職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度及び国家公務員共済組合法の退職等年金給付制度を採用しています。非積立型の退職一時金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

２．確定給付制度

（１）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区　　分	令和2年4月1日～令和3年3月31日
期首における退職給付引当金	2,023,776,324
退職給付費用	219,480,578
退職給付の支払額	△186,356,134
期末における退職給付引当金	2,056,900,768

（２）退職給付に関連する損益

（単位：円）

区　　分	令和2年4月1日～令和3年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用	219,480,578

（３）退職等年金給付制度

当法人の退職等年金給付制度への要拠出額は、21,661,394円です。

附　属　明　細　書

第14期

自：令和2年 4月 1日
至：令和3年 3月31日

独立行政法人　国立文化財機構

第14期　附属明細書

自：令和2年 4月 1日
至：令和3年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７　特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第９１　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　棚卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　退職給付引当金の明細

８．　資産除去債務の明細

９．　法令に基づく引当金等の明細

１０．　保証債務の明細

１１．　資本剰余金の明細

１２．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１３．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１４．　役員及び職員の給与の明細

１５．　セグメント情報

１６．　科学研究費補助金の明細

１７．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費（「第87 特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

（単位：円）

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期減損額		
有形固定資産（減価償却費）	建物	2,911,829,579	78,461,897	0	2,990,291,476	1,883,172,969	128,424,314	0	0	1,107,118,507	
	構築物	194,423,593	155,608,621	0	350,032,214	133,353,065	8,493,664	0	0	216,679,149	
	機械・装置	114,758,571	973,500	0	115,732,071	79,715,051	17,074,845	0	0	36,017,020	
	車両運搬具	66,703,234	3,169,393	3,690,750	66,181,877	55,745,397	3,836,843	0	0	10,436,480	
	工具器具備品	6,102,671,743	578,561,955	26,816,159	6,654,417,539	5,002,905,356	406,857,919	0	0	1,651,512,183	
	計	9,390,386,720	816,775,366	30,506,909	10,176,655,177	7,154,891,838	564,687,585	0	0	3,021,763,339	
有形固定資産（減価償却相当額）	建物	92,872,653,800	354,490,523	156,384,511	93,070,759,812	44,528,666,575	2,815,316,487	0	0	48,542,093,237	
	構築物	4,422,046,424	2,823,962	35,973	4,424,834,413	2,963,790,684	138,508,421	0	0	1,461,043,729	
	機械・装置	624,139,893	0	335,390	623,804,503	561,358,463	68,122,746	0	0	62,446,040	
	車両運搬具	6,832,224	0	50,099	6,782,125	6,782,115	0	0	0	10	
	工具器具備品	3,526,267,021	0	3,667,956	3,522,599,065	2,656,016,658	246,836,601	0	0	866,582,407	
	計	101,451,939,362	357,314,485	160,473,929	101,648,779,918	50,716,614,495	3,268,784,255	0	0	50,932,165,423	
非償却資産	工具器具備品	132,316,901	7,290,000	0	139,606,901	0	0	0	0	139,606,901	
	収蔵品	122,756,311,418	2,239,546,828	1	124,995,858,245	0	0	0	0	124,995,858,245	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	10,819,934	156,696,224	151,051,996	16,464,162	0	0	0	0	16,464,162	
	計	167,310,123,357	2,403,533,052	151,051,997	169,562,604,412	0	0	0	0	169,562,604,412	
有形固定資産合計	建物	95,784,483,379	432,952,420	156,384,511	96,061,051,288	46,411,839,544	2,943,740,801	0	0	49,649,211,744	
	構築物	4,616,470,017	158,432,583	35,973	4,774,866,627	3,097,143,749	147,002,085	0	0	1,677,722,878	
	機械・装置	738,898,464	973,500	335,390	739,536,574	641,073,514	85,197,591	0	0	98,463,060	
	車両運搬具	73,535,458	3,169,393	3,740,849	72,964,002	62,527,512	3,836,843	0	0	10,436,490	
	工具器具備品	9,761,255,665	585,851,955	30,484,115	10,316,623,505	7,658,922,014	653,694,520	0	0	2,657,701,491	
	収蔵品	122,756,311,418	2,239,546,828	1	124,995,858,245	0	0	0	0	124,995,858,245	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	10,819,934	156,696,224	151,051,996	16,464,162	0	0	0	0	16,464,162	
	計	278,152,449,439	3,577,622,903	342,032,835	281,388,039,507	57,871,506,333	3,833,471,840	0	0	223,516,533,174	
無形固定資産（減価償却費）	ソフトウエア	487,973,653	23,758,900	18,866,638	492,865,915	395,191,709	44,413,124	0	0	97,674,206	
	計	487,973,653	23,758,900	18,866,638	492,865,915	395,191,709	44,413,124	0	0	97,674,206	
無形固定資産（減価償却相当額）	ソフトウエア	7,472,329	4,840,000	0	12,312,329	4,543,612	1,861,643	0	0	7,768,717	
	計	7,472,329	4,840,000	0	12,312,329	4,543,612	1,861,643	0	0	7,768,717	
無形固定資産（非償却）	電話加入権	6,854,400	0	0	6,854,400	0	0	3,376,800	0	3,477,600	
	その他無形固定資産	2,463,184	1,137,740	207,120	3,393,804	0	0	0	0	3,393,804	
	計	9,317,584	1,137,740	207,120	10,248,204	0	0	3,376,800	0	6,871,404	
無形固定資産合計	ソフトウエア	495,445,982	28,598,900	18,866,638	505,178,244	399,735,321	46,274,767	0	0	105,442,923	
	電話加入権	6,854,400	0	0	6,854,400	0	0	3,376,800	0	3,477,600	
	その他無形固定資産	2,463,184	1,137,740	207,120	3,393,804	0	0	0	0	3,393,804	
	計	504,763,566	29,736,640	19,073,758	515,426,448	399,735,321	46,274,767	3,376,800	0	112,314,327	
投資その他の資産	長期前払費用	54,432	0	54,432	0	0	0	0	0	0	
	退職給付引当金見返	2,023,776,324	181,720,780	148,596,336	2,056,900,768	0	0	0	0	2,056,900,768	
	環境対策引当金見返	157,525,368	0	157,525,368	0	0	0	0	0	0	
	計	2,181,356,124	181,720,780	306,176,136	2,056,900,768	0	0	0	0	2,056,900,768	

（注）当期増加額のうち142,305,900円は東京国立博物館防災・防犯設備更新工事によるもの、11,256,300円は京都国立博物館本館耐震改修等工事によるもの、78,870,000円は九州国立博物館空調整備改修工事によるもの、6,580,000円は東京文化財研究所老朽化対策工事によるもの、79,956,855円は奈良文化財研究所藤原老朽化対策工事によるもの、38,024,086円は奈良文化財研究所平城宮跡資料館耐震工事によるものであります。

2. 棚卸資産の明細

（単位:円）

種　類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	51,597,810	21,531,034	0	24,179,001	0	48,949,843	
未成受託研究支出金	4,154,989	10,625,661	0	4,154,989	0	10,625,661	
計	55,752,799	32,156,695	0	28,333,990	0	59,575,504	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額		期 末 残 高	摘　　要
			目 的 使 用	そ の 他		
賞与引当金	272,831,153	285,511,675	272,831,153	0	285,511,675	
環境対策引当金	275,288,948	0	117,763,580	0	157,525,368	
計	548,120,101	285,511,675	390,594,733	0	443,037,043	

7. 退職給付引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額	期 末 残 高	摘　　要
退職給付債務合計額	2,023,776,324	181,720,780	148,596,336	2,056,900,768	
退職一時金に係る債務	2,023,776,324	181,720,780	148,596,336	2,056,900,768	
退職給付引当金	2,023,776,324	181,720,780	148,596,336	2,056,900,768	

8. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

9. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

10. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

11. 資本剰余金の明細

（単位:円）

区　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　要
施設費補助金	46,754,497,317	345,736,841	0	47,100,234,158	施設費による特定資産の取得
目的積立金	683,604,451	16,417,644	0	700,022,095	目的積立金による特定資産の取得
運営費交付金	22,449,283,091	890,871,850	0	23,340,154,941	運営費交付金による収蔵品の取得
寄附金等	1,119,850,370	224,494,000	0	1,344,344,370	寄附金による収蔵品の取得
贈与	95,783,171,314	1,131,470,960	0	96,914,642,274	寄贈品の受け入れ
収蔵品編入	12,060,266	18	0	12,060,284	
計	166,802,466,809	2,608,991,313	0	169,411,458,122	

12. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

期首残高	当期交付額	当期振替額						引当金見返との相殺額	期末残高
		運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金戻入	資本剰余金	小計		
519,505,453	8,633,262,000	7,253,141,660	449,170,332	468,500	21,377,360	890,871,850	8,615,029,702	537,737,751	0

(2)運営費交付金債務の当期振替額及び主な使途の明細

①運営費交付金収益への振替額及び主な使途の明細　　(単位:円)

区分		運営費交付金収益	運営費交付金の主な使途	
			費用	主な使途
業務達成基準による振替額				
	国立博物館等の事業	3,918,558,194	3,702,290,418	人件費:1,888,314,576円、 一般管理費:0円、 業務費:1,813,975,842円、その他:0円
	文化財研究所等の事業	1,955,263,157	1,930,249,021	人件費:1,275,350,421円、 一般管理費:0円、 業務費:654,898,600円、その他:0円
	共通	108,829,285	1,211,558	退職手当:1,211,558円、 一般管理費:0円、 業務費:0円、その他:0円
期間進行基準による振替額		1,270,491,024	1,366,954,248	人件費:836,087,968円、 一般管理費:527,492,764円、 その他:3,373,516円
合計		7,253,141,660	7,000,705,245	

②資産見返運営費交付金及び建設仮勘定見返運営費交付金、資本剰余金への振替額並びに主な使途の明細　　(単位:円)

セグメント	資産見返運営費交付金への振替		建設仮勘定見返運営費交付金への振替		資本剰余金への振替	
	振替額	主な使途	振替額	主な使途	振替額	主な使途
国立博物館等の事業	280,873,114	東京国立博物館庭園内園路舗装:47,498,605円 京都国立博物館屋外照明設備:17,423,200円 九州国立博物館業務用サーバ機器・ソフトウェア導入:14,883,000円 その他:201,051,775円	330,000	芳名板サイネージ躯体企画設計 東京国立博物館:330,000円	890,871,850	陳列品購入 東京国立博物館:200,000,000円 京都国立博物館:41,715,600円 奈良国立博物館:175,000,000円 九州国立博物館:474,156,250円
文化財研究所等の事業	153,202,633	奈良文化財研究所全資料型非破壊元素マッピング分析システム M6JS2:48,466,000円 東京文化財研究所隅堀場製作所製X線分析顕微鏡 XGT-9000:25,300,000円 東京文化財研究所2F写真原版室空調設備更新工事:12,914,000円 その他:66,522,633円	138,500	特許出願審査 奈良文化財研究所:138,500円	0	
共通	15,094,585	財務会計システムカスタマイズ:3,474,900円 統合管理FireWall(本部)1:1,987,700円 統合管理FireWall(本部)2:1,471,800円 その他:8,160,185円	0		0	
合計	449,170,332		468,500		890,871,850	

(3)引当金見返との相殺額の明細　　(単位:円)

セグメント	引当金見返との相殺	
	相殺額	主な相殺額の内訳
国立博物館等の事業	291,220,046	賞与引当金見返:159,320,593円 退職給付引当金見返:53,007,101円 環境対策引当金見返:78,892,352円
文化財研究所等の事業	222,849,350	賞与引当金見返:99,004,286円 退職給付引当金見返:86,195,584円 環境対策引当金見返:37,649,480円
共通	23,668,355	賞与引当金見返:14,274,704円 退職給付引当金見返:9,393,651円
合計	537,737,751	

(4)運営費交付金債務残高の明細

当該年度は運営費交付金債務残高を計上していないため、記載を省略しております。

13. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

13－1 施設費の明細 （単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
東京国立博物館防災・防犯設備更新工事	145,584,574	0	142,305,900	3,278,674	
東京国立博物館柳瀬荘黄林閣屋根工事	60,644,980	0	0	60,644,980	
京都国立博物館本館耐震改修等工事	25,418,470	11,256,300	0	14,162,170	
奈良国立博物館修理所空調整備改修工事	35,703,000	0	0	35,703,000	
九州国立博物館空調整備改修工事	92,290,000	0	78,870,000	13,420,000	
東京文化財研究所老朽化対策工事	55,970,000	0	6,580,000	49,390,000	
奈良文化財研究所藤原老朽化対策工事	81,741,000	0	79,956,855	1,784,145	
奈良文化財研究所平城宮跡資料館耐震工事	45,877,000	0	38,024,086	7,852,914	
計	543,229,024	11,256,300	345,736,841	186,235,883	

(注)その他の内訳は、施設費収益:176,806,372円、建設仮勘定見返施設費戻入:9,429,511円です。

13－2 補助金等の明細 （単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返補助金等	資産見返補助金等	収益計上	
東京国立博物館文化芸術振興費補助金	8,450,630	0	0	8,450,630	
東京国立博物館文化資源活用事業費補助金	84,705,500	0	61,739,986	22,965,514	
京都国立博物館文化芸術振興費補助金	530,000	0	0	530,000	
奈良国立博物館文化芸術振興費補助金	1,470,000	0	0	1,470,000	
九州国立博物館文化芸術振興費補助金	0	0	0	0	
奈良文化財研究所文化資源活用事業費補助金	6,553,000	0	0	6,553,000	
計	101,709,130	0	61,739,986	39,969,144	

(注)収益計上の内訳は、その他補助金収益:39,969,144円です。

14. 役員及び職員の給与の明細

（単位:千円，人）

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 3,840 ） 44,370	（ 3 ） 3	（ 0 ） 10,605	（ 0 ） 1
職員	（ 918,748 ） 2,964,875	（ 417 ） 381	（ 149 ） 175,751	（ 3 ） 12
合計	（ 922,588 ） 3,009,245	（ 420 ） 384	（ 149 ） 186,356	（ 3 ） 13

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については令和2年4月～令和3年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要　理事長　965,000円（報酬月額）
理事2名　895,000円（報酬月額）、818,000円（報酬月額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、理事80,000円、監事120,000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程等に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

15. セグメント情報　（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	国立博物館等	文化財研究所等	計	共　通	合　計
Ⅰ行政コスト					
損益計算書上の費用合計	6,882,546,494	3,273,911,619	10,156,458,113	379,764,938	10,536,223,051
その他行政コスト					
減価償却相当額	2,777,238,106	489,917,728	3,267,155,834	3,490,064	3,270,645,898
減損損失相当額	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	75,027	7	75,034	0	75,034
その他行政コスト合計	2,777,313,133	489,917,735	3,267,230,868	3,490,064	3,270,720,932
行政コスト	9,659,859,627	3,763,829,354	13,423,688,981	383,255,002	13,806,943,983
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	8,216,581,531	3,366,562,808	11,583,144,339	803,934,194	12,387,078,533
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益					
事業費用					
業務費	5,897,781,923	2,718,109,550	8,615,891,473	0	8,615,891,473
人件費	2,364,989,349	1,400,511,940	3,765,501,289	0	3,765,501,289
業務経費	3,167,610,960	1,175,268,945	4,342,879,905	0	4,342,879,905
収集保管業務費	472,706,574	0	472,706,574	0	472,706,574
展覧業務費	1,951,395,820	0	1,951,395,820	0	1,951,395,820
教育普及業務費	200,566,961	0	200,566,961	0	200,566,961
博物館研究業務費	225,059,369	0	225,059,369	0	225,059,369
博物館支援業務費	78,410,229	0	78,410,229	0	78,410,229
基礎研究業務費	0	287,984,494	287,984,494	0	287,984,494
応用研究業務費	0	127,875,869	127,875,869	0	127,875,869
国際遺産保護業務費	0	62,629,936	62,629,936	0	62,629,936
情報公開業務費	0	284,328,714	284,328,714	0	284,328,714
研修協力業務費	0	23,993,868	23,993,868	0	23,993,868
受託業務費	239,472,007	388,456,064	627,928,071	0	627,928,071
減価償却費	365,181,614	142,328,665	507,510,279	0	507,510,279
一般管理費	983,692,567	551,881,373	1,535,573,940	379,719,578	1,915,293,518
人件費	425,367,944	352,652,531	778,020,475	204,030,909	982,051,384
一般管理経費	488,733,009	181,594,099	670,327,108	161,324,596	831,651,704
減価償却費	69,591,614	17,634,743	87,226,357	14,364,073	101,590,430
財務費用	83,772	820,298	904,070	0	904,070
雑損	988,222	2,952,954	3,941,176	45,360	3,986,536
事業費用計	6,882,546,484	3,273,764,175	10,156,310,659	379,764,938	10,536,075,597
事業収益					
運営費交付金収益	4,548,003,248	2,289,870,703	6,837,873,951	414,277,709	7,252,151,660
受託収入	240,542,629	392,560,780	633,103,409	0	633,103,409
入場料収入	304,511,807	2,135,150	306,646,957	0	306,646,957
展示事業等附帯収入	234,979,452	56,541,374	291,520,826	1,510,495	293,031,321
財産利用収入	211,040,820	6,810,389	217,851,209	0	217,851,209
寄附金収益	321,438,862	145,563,800	467,002,662	2,518,223	469,520,885
施設費収益	127,198,957	49,607,415	176,806,372	0	176,806,372
その他補助金収益	33,416,144	6,553,000	39,969,144	0	39,969,144
資産見返負債戻入	437,107,371	159,264,682	596,372,053	29,660,856	626,032,909
財務収益	543	9	552	0	552
雑益	5,237,734	1,356,673	6,594,407	4,844,746	11,439,153
賞与引当金見返に係る収益	152,527,223	100,502,072	253,029,295	32,482,380	285,511,675
退職給付引当金見返に係る収益	103,936,576	80,449,504	184,386,080	-2,665,300	181,720,780
環境対策引当金見返に係る収益	-638,000	-583,748	-1,221,748	0	-1,221,748
環境対策引当金戻入額	638,000	583,748	1,221,748	0	1,221,748
事業収益計	6,719,941,366	3,291,215,551	10,011,156,917	482,629,109	10,493,786,026
事業損益	-162,605,118	17,451,376	-145,153,742	102,864,171	-42,289,571
Ⅳ臨時損益等					
臨時損失	10	147,444	147,454	0	147,454
臨時損失計	10	147,444	147,454	0	147,454
臨時利益	10	147,442	147,452	0	147,452
臨時利益計	10	147,442	147,452	0	147,452
当期純利益	-162,605,118	17,451,374	-145,153,744	102,864,171	-42,289,573
目的積立金取崩額	46,323,080	8,237,441	54,560,521	0	54,560,521
当期総利益	-116,282,038	25,688,815	-90,593,223	102,864,171	12,270,948
Ⅴ総資産					
流動資産	1,844,545,249	834,462,890	2,679,008,139	2,126,726,132	4,805,734,271
固定資産	209,339,948,564	15,961,711,602	225,301,660,166	384,088,103	225,685,748,269
建物	40,313,580,965	9,298,094,777	49,611,675,742	37,536,002	49,649,211,744
収蔵品	124,800,929,379	194,928,866	124,995,858,245	0	124,995,858,245
土地	40,238,675,104	4,172,000,000	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	3,986,763,116	2,296,687,959	6,283,451,075	346,552,101	6,630,003,176
総資産計	211,184,493,813	16,796,174,492	227,980,668,305	2,510,814,235	230,491,482,540

（注）

1．事業の種類の区分方法及び事業の内容
中期目標等における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しております。
（1）国立博物館等の事業
有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業を行っております。
東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館を設置し、事業を行っております。
（2）文化財研究所等の事業
文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業を行っております。
東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、事業を行っております。

2．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は379,764,938円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

3．事業費用のうち目的積立金を財源とする金額は53,525,319円です。内訳は東京国立博物館16,658,270円、京都国立博物館9,549,005円、奈良国立博物館7,678,131円、九州国立博物館12,037,943円、奈良文化財研究所6,851,396円、アジア太平洋無形文化遺産研究センター750,574円であります。

4．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益、その他補助金収益であります。
なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は482,629,109円であり、すべて本部事務局に係る収益であります。

5．総資産のうち共通の項目に含めた金額は2,510,814,235円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

６．施設別の事業費用，事業収益及び事業損益等の情報は以下のとおりであります。

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	本部事務局	合　計
Ⅰ行政コスト										
損益計算書上の費用合計	2,926,388,243	1,052,064,501	1,145,313,996	1,289,314,814	1,127,715,025	2,053,834,358	92,362,236	9,686,993,173	849,229,878	10,536,223,051
その他行政コスト										
減価償却相当額	1,070,156,620	1,102,279,299	348,392,379	256,409,808	77,145,714	412,772,014	0	3,267,155,834	3,490,064	3,270,645,898
減損損失相当額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	0	0	75,027	0	3	4	0	75,034	0	75,034
その他行政コスト合計	1,070,156,620	1,102,279,299	348,467,406	256,409,808	77,145,717	412,772,018	0	3,267,230,868	3,490,064	3,270,720,932
行政コスト	3,996,544,863	2,154,343,800	1,493,781,402	1,545,724,622	1,204,860,742	2,466,606,376	92,362,236	12,954,224,041	852,719,942	13,806,943,983
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	3,437,868,704	2,027,285,424	1,267,197,156	1,484,230,247	1,024,107,358	2,291,654,980	50,800,470	11,583,144,339	803,934,194	12,387,078,533
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益										
事業費用										
業務費	2,452,084,419	875,687,970	934,552,394	1,165,992,200	878,117,656	1,773,933,789	66,058,105	8,146,426,533	469,464,940	8,615,891,473
人件費	1,091,729,792	401,153,688	280,769,508	364,478,809	490,000,333	883,195,444	27,316,163	3,538,643,737	226,857,552	3,765,501,289
業務経費	1,226,119,783	408,912,219	610,674,588	694,593,765	335,726,438	800,985,028	38,557,479	4,115,569,300	227,310,605	4,342,879,905
収集保管業務費	191,946,942	121,445,367	24,589,867	134,724,398	0	0	0	472,706,574	0	472,706,574
展覧業務費	676,334,547	211,020,303	526,965,133	537,075,837	0	0	0	1,951,395,820	0	1,951,395,820
教育普及業務費	65,328,751	10,607,792	24,750,484	3,640,836	0	0	0	104,327,863	96,239,098	200,566,961
博物館研究業務費	128,118,436	47,924,919	30,859,345	18,156,669	0	0	0	225,059,369	0	225,059,369
博物館支援業務費	10,973,191	14,318,966	3,509,759	846,726	0	0	0	29,648,642	48,761,587	78,410,229
基礎研究業務費	0	0	0	0	41,614,726	246,369,768	0	287,984,494	0	287,984,494
応用研究業務費	0	0	0	0	70,535,241	57,340,628	0	127,875,869	0	127,875,869
国際遺産保護業務費	0	0	0	0	33,823,585	19,357,909	9,448,442	62,629,936	0	62,629,936
情報公開業務費	0	0	0	0	72,245,650	212,083,064	0	284,328,714	0	284,328,714
研修協力業務費	0	0	0	0	8,847,636	15,146,232	0	23,993,868	0	23,993,868
受託業務費	153,417,916	3,594,872	0	149,299	108,659,600	250,687,427	29,109,037	545,618,151	82,309,920	627,928,071
減価償却費	134,234,844	65,622,063	43,108,298	106,919,626	52,390,885	89,753,317	184,463	492,213,496	15,296,783	507,510,279
一般管理費	473,273,907	176,335,053	210,761,002	123,322,605	249,399,957	276,177,285	26,304,131	1,535,573,940	379,719,578	1,915,293,518
人件費	168,638,940	82,597,248	115,770,044	58,361,712	139,908,446	189,165,574	23,578,511	778,020,475	204,030,909	982,051,384
一般管理経費	273,714,632	84,779,372	79,919,742	50,319,263	107,901,254	70,967,225	2,725,620	670,327,108	161,324,596	831,651,704
減価償却費	30,920,335	8,958,433	15,071,216	14,641,630	1,590,257	16,044,486	0	87,226,357	14,364,073	101,590,430
財務費用	83,772	0	0	0	49,978	770,320	0	904,070	0	904,070
雑損	946,144	41,478	600	0	0	2,952,954	0	3,941,176	45,360	3,986,536
事業費用計	2,926,388,242	1,052,064,501	1,145,313,996	1,289,314,805	1,127,567,591	2,053,834,348	92,362,236	9,686,845,719	849,229,878	10,536,075,597
事業収益										
運営費交付金収益	1,583,620,883	724,678,124	717,076,093	1,159,083,160	801,059,442	1,435,243,094	53,568,167	6,474,328,963	777,822,697	7,252,151,660
受託収入	154,488,538	3,594,872	0	149,299	107,578,931	255,872,812	29,109,037	550,793,489	82,309,920	633,103,409
入場料収入	129,763,403	54,995,657	89,961,622	29,791,125	0	2,135,150	0	306,646,957	0	306,646,957
展示事業等附帯収入	122,414,334	28,125,522	71,383,878	13,055,718	13,610,961	42,930,413	0	291,520,826	1,510,495	293,031,321
財産利用収入	120,712,751	61,544,099	24,449,812	4,334,158	4,134,558	2,675,831	0	217,851,209	0	217,851,209
寄附金収益	113,583,831	30,867,316	114,074,498	59,658,565	66,619,011	65,702,060	13,242,729	463,748,010	5,772,875	469,520,885
施設費収益	63,913,787	14,162,170	35,703,000	13,420,000	49,390,000	217,415	0	176,806,372	0	176,806,372
その他補助金収益	31,416,144	530,000	1,470,000	0	0	6,553,000	0	39,969,144	0	39,969,144
資産見返負債戻入	182,786,105	74,580,496	58,179,514	121,561,256	50,587,351	108,492,868	184,463	596,372,053	29,660,856	626,032,909
財務収益	457	55	31	0	0	9	0	552	0	552
雑益	750,353	3,630,725	164,733	691,923	164,773	1,191,900	0	6,594,407	4,844,746	11,439,153
賞与引当金見返に係る収益	79,001,451	28,712,796	22,544,117	22,268,859	36,794,846	62,033,336	1,673,890	253,029,295	32,482,380	285,511,675
退職給付引当金見返に係る収益	32,599,957	31,717,978	12,255,817	27,362,824	19,158,255	64,697,055	−3,405,806	184,386,080	−2,665,300	181,720,780
環境対策引当金見返に係る収益	0	0	−638,000	0	0	−583,748	0	−1,221,748	0	−1,221,748
環境対策引当金戻入額	0	0	638,000	0	0	583,748	0	1,221,748	0	1,221,748
事業収益計	2,615,051,994	1,057,139,810	1,147,263,115	1,451,376,887	1,149,098,128	2,047,744,943	94,372,480	9,562,047,357	931,738,669	10,493,786,026
事業損益	−311,336,248	5,075,309	1,949,119	162,062,082	21,530,537	−6,089,405	2,010,244	−124,798,362	82,508,791	−42,289,571
Ⅳ臨時損益等										
臨時損失	1	0	0	9	147,434	10	0	147,454	0	147,454
臨時損失計	1	0	0	9	147,434	10	0	147,454	0	147,454
臨時利益	1	0	0	9	147,434	8	0	147,452	0	147,452
臨時利益計	1	0	0	9	147,434	8	0	147,452	0	147,452
当期純利益	−311,336,248	5,075,309	1,949,119	162,062,082	21,530,537	−6,089,407	2,010,244	−124,798,364	82,508,791	−42,289,573
目的積立金取崩額	16,658,270	9,549,005	7,678,131	12,437,674	−91,211	7,578,078	750,574	54,560,521	0	54,560,521
当期総利益	−294,677,978	14,624,314	9,627,250	174,499,756	21,439,326	1,488,671	2,760,818	−70,237,843	82,508,791	12,270,948
Ⅴ総資産										
流動資産	694,895,356	287,615,765	375,045,813	486,988,315	301,932,813	474,202,249	58,327,828	2,679,008,139	2,126,726,132	4,805,734,271
固定資産	97,288,102,196	50,326,513,446	30,809,877,357	30,915,455,565	5,517,342,508	10,442,741,974	1,627,120	225,301,660,166	384,088,103	225,685,748,269
建物	15,086,001,305	13,442,713,417	4,848,063,668	6,936,802,575	2,415,772,661	6,882,322,116	0	49,611,675,742	37,536,002	49,649,211,744
収蔵品	53,186,970,636	26,966,383,415	21,565,444,284	23,082,131,044	0	194,928,866	0	124,995,858,245	0	124,995,858,245
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	2,182,342,255	845,519,714	521,359,201	437,541,946	451,569,847	1,843,490,992	1,627,120	6,283,451,075	346,552,101	6,630,003,176
総資産計	97,982,997,552	50,614,129,211	31,184,923,170	31,402,443,880	5,819,275,321	10,916,944,223	59,954,948	227,980,668,305	2,510,814,235	230,491,482,540

16. 科学研究費補助金の明細

（単位:円）

種　　目	当　期　受　入　額	件　数	摘要
科　学　研　究　費 新 学 術 領 域 研 究	(　7,500,000) 2,250,000	 5	
科　学　研　究　費 学術変革領域研究(A)	6,150,000) 1,845,049	 2	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　(　S　)	(　17,516,918) 5,220,000	 5	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　(　A　)	(　54,552,162) 15,735,600	 62	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　(　B　)	(　79,552,908) 23,767,200	 86	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　(　C　)	(　32,865,000) 9,859,500	 51	
科　学　研　究　費 挑 戦 的 萌 芽 研 究	(　250,000) 75,000	 2	
科　学　研　究　費 挑 戦 的 研 究 (開 拓)	(　5,500,000) 1,650,000	 3	
科　学　研　究　費 挑 戦 的 研 究 (萌 芽)	(　2,900,000) 870,000	 3	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　(　A　)	(　2,000,000) 600,000	 1	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　(　B　)	(　2,720,000) 816,000	 5	
科　学　研　究　費 若　手　研　究	(　31,500,000) 9,450,000	 34	
科　学　研　究　費 研究活動スタート支援	(　3,200,000) 960,000	 3	
研 究 成 果 公 開 促 進 費 デ　ー　タ　ベ　ー　ス	(　6,400,000) 0	 2	
研 究 成 果 公 開 促 進 費 ひらめき☆ときめきサイエンス	(　490,000) 0	 1	
特 別 研 究 員 奨 励 費	(　700,000) 180,000	 2	
国 際 共 同 研 究 加 速 基 金 国 際 共 同 研 究 強 化 (A)	(　11,700,000) 3,510,000	 1	
国 際 共 同 研 究 加 速 基 金 国 際 共 同 研 究 強 化 (B)	(　3,310,000) 993,000	 4	
計	(　268,806,988) 77,781,349	 272	

(注)当期受入額は間接経費相当額を記載し、直接研究費相当額は外数として(　　)書きで記載しております。

17. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

17－1 未収金の明細　（単位:円）

取引先	未収金の内訳	金額
文化庁	施設整備費補助金 他	601,409,764
独立行政法人日本芸術文化振興会	日本博受託事業「まるごと体験！日本の文化」委託料 他	71,193,749
陸前高田市長	陸前高田市受託事業「被災美術工芸資料修理業務」委託料	36,571,066
官署支出官近畿地方整備局総務部長	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託料	30,196,200
宗教法人興福寺	興福寺受託事業「興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査」委託料	12,454,778
その他		116,989,791
合計		868,815,348

17－2 未払金の明細　（単位:円）

取引先	未払金の内訳	金額
日本電設工業株式会社	東京国立博物館防災・防犯設備更新工事 他	144,991,000
箱根植木株式会社	東京国立博物館庭園整備工事（Ⅱ期）	99,096,800
渡辺電気工事株式会社	奈良文化財研究所藤原地区研究管理棟電気設備改修工事	58,768,206
松井リフォーム株式会社	柳瀬荘黄林閣他修繕工事	58,245,000
キヤノンITソリューションズ株式会社	独立行政法人国立文化財機構広域ネットワーク更新業務 他	55,711,617
アズビル・三冷・太平 東京国立博物館共同企業体	東京国立博物館等の施設管理・運営業務	46,639,709
吉田電機商工株式会社	奈良国立博物館文化財保存修理所空調設備改修工事	43,230,000
大日通信工業株式会社	屋外環境整備（通信・照明等）工事	38,621,000
文化庁	無形遺産保護パートナーシッププログラム受託未執行分未払金計上 他	34,928,591
キヤノン株式会社	高精細複製品「四季花鳥図屏風」の制作 他	23,349,022
その他		1,349,772,013
合計		1,953,352,958

17－3 資産見返運営費交付金の明細　（単位:円）

区分	金額
建物	1,027,600,840
構築物	115,894,141
機械・装置	35,084,080
車両運搬具	10,126,867
工具器具備品	1,121,681,347
ソフトウエア	83,191,576
その他無形固定資産	2,882,863
合計	2,396,461,714

17－4 建設仮勘定見返施設費の明細　（単位:円）

区分	金額
京都国立博物館本館耐震改修等工事	11,256,300
合計	11,256,300

令和２年度

（第 14 期事業年度）

決 算 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

令和2年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	国立博物館等				文化財研究所等				合　計			
	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考
収　入												
運営費交付金	6,152,998,000	6,090,946,900	−62,051,100		2,480,264,000	2,542,315,100	62,051,100		8,633,262,000	8,633,262,000	−	
施設整備費補助金	197,737,000	410,401,400	212,664,400	（注記）1	−	187,186,000	187,186,000	（注記）1	197,737,000	597,587,400	399,850,400	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	118,676,000	118,676,000	（注記）2	−	8,366,000	8,366,000	（注記）2	−	127,042,000	127,042,000	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	−	−	−		−	−	−		−	−	−	
展示事業等収入	2,012,398,000	762,123,554	−1,250,274,446	（注記）3	77,420,000	66,823,837	−10,596,163	（注記）4	2,089,818,000	828,947,391	−1,260,870,609	（注記）3,4
受託収入	125,354,000	240,542,629	115,188,629	（注記）5	511,275,000	392,560,780	−118,714,220	（注記）6	636,629,000	633,103,409	−3,525,591	
その他寄附金等	688,410,000	533,797,966	−154,612,034	（注記）7	91,448,000	205,912,726	114,464,726	（注記）8	779,858,000	739,710,692	−40,147,308	
計	9,176,897,000	8,156,488,449	−1,020,408,551		3,160,407,000	3,403,164,443	242,757,443		12,337,304,000	11,559,652,892	−777,651,108	
支　出												
運営事業費	8,165,396,000	7,227,924,548	−937,471,452		2,557,684,000	2,696,121,871	138,437,871		10,723,080,000	9,924,046,419	−799,033,581	
管理費	1,502,501,000	1,224,933,684	−277,567,316		466,039,000	522,473,326	56,434,326		1,968,540,000	1,747,407,010	−221,132,990	
人件費	613,457,000	568,330,175	−45,126,825		236,275,000	289,836,259	53,561,259	（注記）9	849,732,000	858,166,434	8,434,434	
一般管理費	889,044,000	656,603,509	−232,440,491	（注記）10	229,764,000	232,637,067	2,873,067		1,118,808,000	889,240,576	−229,567,424	（注記）10
業務費	6,662,895,000	6,002,990,864	−659,904,136		2,091,645,000	2,173,648,545	82,003,545		8,754,540,000	8,176,639,409	−577,900,591	
人件費	1,842,267,000	1,744,303,969	−97,963,031		1,041,206,000	1,010,196,292	−31,009,708		2,883,473,000	2,754,500,261	−128,972,739	
収集保管事業費	1,508,996,000	1,353,087,320	−155,908,680	（注記）11	−	−	−		1,508,996,000	1,353,087,320	−155,908,680	（注記）11
展覧事業費	2,548,789,000	2,063,242,334	−485,546,666	（注記）12	−	−	−		2,548,789,000	2,063,242,334	−485,546,666	（注記）12
教育普及事業費	351,661,000	397,268,901	45,607,901	（注記）13	−	−	−		351,661,000	397,268,901	45,607,901	（注記）13
博物館研究事業費	294,466,000	284,655,850	−9,810,150		−	−	−		294,466,000	284,655,850	−9,810,150	
博物館支援事業費	116,716,000	160,432,490	43,716,490	（注記）13	−	−	−		116,716,000	160,432,490	43,716,490	（注記）13
基礎研究事業費	−	−	−		432,634,000	431,361,314	−1,272,686		432,634,000	431,361,314	−1,272,686	
応用研究事業費	−	−	−		188,131,000	245,148,302	57,017,302	（注記）14	188,131,000	245,148,302	57,017,302	（注記）14
国際遺産保護事業費	−	−	−		131,990,000	109,566,271	−22,423,729	（注記）14	131,990,000	109,566,271	−22,423,729	（注記）14
情報公開事業費	−	−	−		279,502,000	330,370,453	50,868,453	（注記）14	279,502,000	330,370,453	50,868,453	（注記）14
研修協力事業費	−	−	−		18,182,000	47,005,913	28,823,913	（注記）14	18,182,000	47,005,913	28,823,913	（注記）14
施設整備費	197,737,000	359,641,024	161,904,024	（注記）1	−	183,588,000	183,588,000	（注記）1	197,737,000	543,229,024	345,492,024	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	95,156,130	95,156,130	（注記）2	−	6,553,000	6,553,000	（注記）2	−	101,709,130	101,709,130	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費	−	−	−		−	−	−		−	−	−	
受託事業費	125,354,000	246,738,961	121,384,961	（注記）5	511,275,000	394,386,681	−116,888,319	（注記）6	636,629,000	641,125,642	4,496,642	
その他寄附金等	688,410,000	689,571,174	1,161,174		91,448,000	277,723,114	186,275,114	（注記）15	779,858,000	967,294,288	187,436,288	（注記）15
計	9,176,897,000	8,619,031,837	−557,865,163		3,160,407,000	3,558,372,666	397,965,666		12,337,304,000	12,177,404,503	−159,899,497	

（注記）

1. 過年度予算の令和2年度への繰越によるものであります。

2. 文化庁による「博物館を中核とした文化クラスター形成事業」、「文化施設の感染症防止対策事業」及び「観光拠点整備事業」によるものであります。

3. 展示事業等収入（博物館）の差額は、入場者数が見込みより減ったこと、展示事業等付帯収入が減ったこと等によるものであります。

4. 展示事業等収入（研究所）の差額は、財産利用収入が減ったためであります。

5. 受託収入及び受託事業費（博物館）の差額は、当初の受入見込みになかった受託調査研究等の契約があったためであります。

6. 受託収入及び受託事業費（研究所）の差額は、当初見込に対して実際の契約が少なかったためであります。

7. その他寄附金等（博物館）の差額は、受入実績が見込みより少なかったためであります。

8. その他寄附金等（研究所）の差額は、文化財保存活用基金及び賛助会等の寄附金によるものであります。

9. 一般管理人件費の差額は、退職手当の予算計上区分の相違によるものであります。

10. 一般管理費の差額は、施設整備等に係る経費が見込より減少したこと等によるものであります。

11. 収集保管事業費の差額は、事業の一部を寄附金で実施したことによるものであります。

12. 展覧事業費の差額は、展覧会減のため経費が減少したことによるものであります。

13. 教育普及事業費、博物館支援事業費の差額は、自己収入財源による業務拡充によるものであります。

14. 応用研究事業費、国際遺産保護事業費、情報公開事業費及び研修協力事業費の差額は、事業実施に伴う予算の組替によるものであります。

15. その他寄附金等の差額は、寄附金等財源による事業拡充によるものであります。

16. 損益計算書の計上金額と決算金額の集計区分の相違の概要

（1）博物館収蔵品の取得支出890,871,850円は決算報告書上、収集保管事業費に表示されております。

（2）有期雇用職員に係る人件費は損益計算書上、人件費として計上されておりますが、決算報告書上、下記の各事業経費に表示されております。
一般管理費135,629,863円、収集保管業務費84,422,123円、展覧業務費218,980,222円、教育普及業務費117,004,980円、博物館研究業務費63,315,850円、博物館支援業務費58,099,593円、
基礎研究業務費170,912,335円、応用研究業務費44,926,052円、国際遺産保護業務費56,274,510円、情報公開業務費86,207,126円、研修協力業務費21,652,065円。

（3）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち185,256,883円、展覧業務費のうち979,000円は決算報告書上、施設整備費に計上されております。

（4）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち22,965,514円、展覧業務費のうち4,459,000円、博物館支援業務費のうち5,991,630円、情報公開業務費のうち6,553,000円は
決算報告書上、文化芸術振興費補助金等に計上されております。

（5）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち7,060,687円、業務人件費のうち11,458,965円、収集保管業務費のうち129,248,674円、展覧業務費のうち161,452,720円、
教育普及業務費のうち36,869円、博物館研究業務費のうち8,120,497円、博物館支援業務費のうち920円、基礎研究業務費のうち31,373,202円、応用研究業務費のうち18,931,250円、
国際遺産保護業務費のうち13,242,729円、情報公開業務費のうち61,081,839円は決算報告書上、寄附金に計上されております。

（6）損益計算書に計上されている財務費用のうち570,346円は決算報告書上、受託事業費に計上されております。

令和２年度

（第14期事業年度）

事 業 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

目　次

１．法人の長によるメッセージ
２．法人の目的、業務内容
３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）
４．中期目標
５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等
６．中期計画及び年度計画
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉
(1)ガバナンスの状況
(2)役員等の状況
(3)職員の状況
(4)重要な施設等の整備等の状況
(5)純資産の状況
(6)財源の状況
(7)社会及び環境への配慮等の状況
８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策
(1)リスク管理の状況
(2)業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況
９．業績の適正な評価の前提情報
１０．業務の成果と使用した資源との対比
(1)自己評価
(2)当中期目標期間における主務大臣による過年度の総合評定の状況
１１．予算と決算との対比
要約した決算報告書
１２．財務諸表
要約した財務諸表
１３．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報
各財務諸表の概要
１４．内部統制の運用に関する情報
１５．法人の基本情報
(1)沿革
(2)設立に係る根拠法
(3)主務大臣
(4)組織図
(5)事務所（従たる事務所を含む）の所在地
(6)主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況
(7)主要な財務データの経年比較
(8)翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画
１６．参考情報
(1)要約した財務諸表の科目の説明
(2)その他公表資料等との関係の説明

独立行政法人国立文化財機構　令和２年度事業報告書

１．法人の長によるメッセージ

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」といいます。）は、平成 19 年 4 月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合されて設立されました。国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

博物館においては、政府の要請を受けて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和 2 年 2 月 27 日から 6 月 1 日まで臨時休館とし、翌 6 月 2 日から展示事業を再開いたしました。再開にあたっては、オンライン等による事前予約制を導入するなど十分な対策を講じ、今年度は延べ 80 万人（常設展示 32 万人、特別展示 48 万人）のお客様をお迎えすることができました。特別展示においても、計画していた多くの展覧会が中止や延期となる中で、計 9 回の学術的にも意義の深い特別展を開催することができ、来館者からも極めて高い評価をいただきました。また、国からの交付金や皆様からのご寄附により、4 館で 69 件の文化財を購入できたほか、4 館で 155 件の文化財をご寄贈いただき、収蔵品を充実させることができました。

研究所・センターにおいては、東京文化財研究所では基礎的・探求的な調査研究や文化遺産保護に関する国際協働事業などを着実に実施しました。奈良文化財研究所では国や地方公共団体が行う文化財関連事業を継続的に支援したことに加え、平城宮跡・藤原宮跡や飛鳥地域の寺院遺跡における発掘調査で今後の調査研究につながる大きな成果が得られました。アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは引き続きアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査研究を推進しました。

文化財活用センターにおいては、文化財に親しむためのコンテンツ開発とモデル事業の推進や、収蔵品貸与促進事業を実施するなど、各種事業を着実に進めました。

また、令和 2 年 10 月に設置した文化財防災センターにおいては、これまで機構が築き上げてきた文化財等関連組織の幅広いネットワークを活かし、各種災害に対する多様な文化財の防災・救援のため、連携・協力体制を構築するとともに、救援及び収蔵・展示に関する技術開発や普及啓発事業等を行っています。

施設整備の面では、各施設において老朽化の著しい建物や設備のメンテンナンスサイクルの確立に向けて、個別施設計画を策定し、計画に基づいた耐震改修工事や空調設備の改修などを進めております。また、各国立博物館では、展示室の改修や休憩スペースの整備などに取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染拡大により、各事業において困難な状況が続いておりますが、国の文化財行政の土台をしっかりと支えていくという大きな使命の下、「新しい生活様式」を踏まえた事業展開を検討し、また、新たな教育普及や情報発信のあり方を模索しつつ、文化財の収集保管、展示公開、調査研究、そして国際協力という四つの大きな柱を機能させ、更なる活性化を推進して参ります。

脆弱な文化財を適切に保存しつつ、最新の技術を活用した多様な手法により我が国の歴史、伝統、文化に触れ、学び楽しむことができる環境を提供していくことや、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、文化財の魅力をわかりやすく紹介することで、我が国の文化観光に資することを課題として取り組んでおります。

私どもの事業実施に対し、引き続き皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

２．法人の目的、業務内容

(1)法人の目的

機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 2 条第 1 項第 1 号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第 3 条）

(2)業務内容

機構は、独立行政法人国立文化財機構法第 3 条の目的を達成するため以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第 1 号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第 2 号、第 3 号及び前 3 号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第 2 号、第 3 号及び第 5 号から第 7 号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）

（概要）

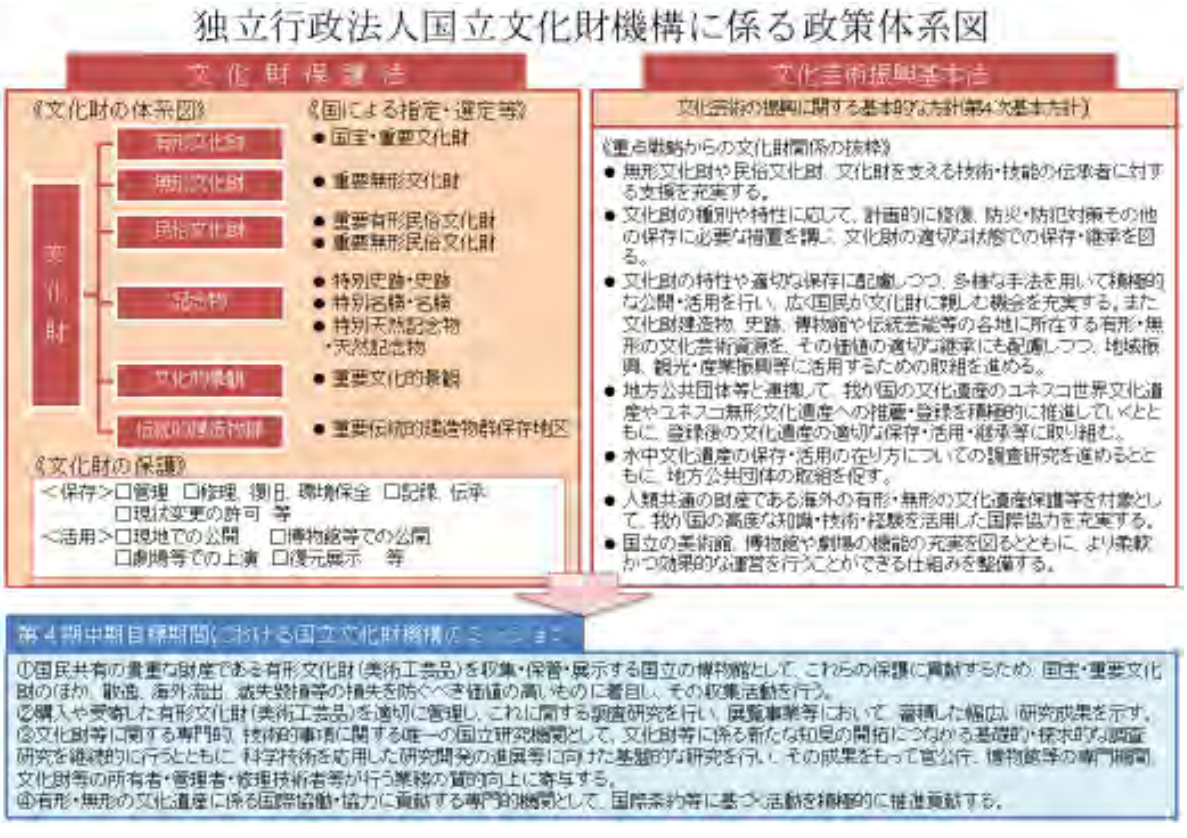
我が国は、諸外国を魅了する有形・無形の文化財を有しているとともに、多くの人が地域に根付いた伝統行事に参加するなど、世界に誇るべき文化・伝統があり、これを維持、継承、発展させることはもとより、日本人自身がその価値を十分に認識した上で、国内外へ更に発信していくことが求められています。

他方、人口減少社会の到来とともに、過疎化、少子高齢化等が更に進み、地域コミュニティが衰退し、文化芸術の担い手も不足する恐れが指摘されております。

こうした状況認識の下、機構は、我が国の博物館並びに文化財研究に関するナショナルセンターとして、有形文化財（美術工芸品）の保護並びに文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等において、政策実施機能を的確に発揮しつつ効果的かつ効率的な業務運営を確保することが期待されております。

機構は、我が国における文化財施策の一翼を担い、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図り、次代へ継承するとともに、国内外に我が国の歴史・伝統文化を発信するため、我が国の博物館及び文化財研究に関する中核的拠点として、有形文化財の収集・保存・管理・展示等に取り組みます。また、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究、文化財の保存と活用のための研究、並びにそれらに関する調査手法の研究開発を総合的に実施するとともに、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護及びそのための研究の促進、並びに文化財等の防災・救援に寄与いたします。さらに、これら機構の取組の成果についての積極的な公開・活用に取り組みます。

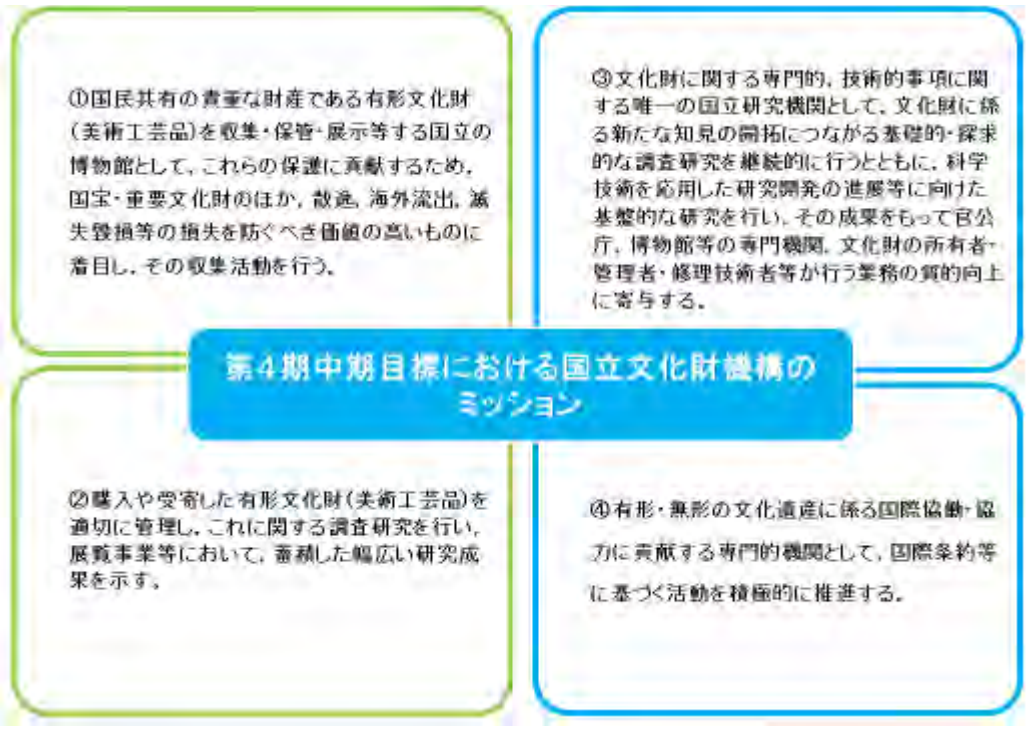
（政策体系図）



４．中期目標

(1)概要

機構は、我が国の博物館並びに文化財研究に関するナショナルセンターとして、有形文化財（美術工芸品）の保護並びに文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等において、中核的な役割を担っております。この役割に応えるため、平成 28 年度からの第 4 期中期目標期間において、以下の四つのミッションを遂行いたします。



中期目標の期間は、平成 28 年（2016 年）4 月 1 日から令和 3 年（2021 年）3 月 31 日までの 5 年間となります。詳細につきましては、第 4 期中期目標をご参照ください。

(2)一定の事業等のまとまりごとの目標

機構は、中期目標における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しています。具体的な区分は、以下の 2 区分です。

① 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
② 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等

「文化財の保存と活用を目指して」

独立行政法人は国が提供していた行政サービスをより柔軟に実施するために国から独立した組織です。「独立行政法人国立文化財機構」は、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の 4 博物館を設置し、有形文化財を収集し、保管して国民の皆様の観覧に供するとともに、4 博物館と東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの計 7 施設にて文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存と活用を図ることを目的としています。

これにより文化財の保存と活用をより一層効率的かつ効果的に推進し、文化財保護行政を支えてまいります。

６．中期計画及び年度計画

中期目標を達成するための中期計画と当該計画に基づく年度計画を作成しています。中期計画と当事業年度に係る年度計画との関係は以下のとおりです。

中期計画	令和２年度年度計画
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	
①博物館の施設設備の整備	①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。 （４館共通） 1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。
②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集	②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 各博物館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
2) 寄贈・寄託品の受入れ等	2)寄贈・寄託品の受入れ等 （４館共通） 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。
③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理	③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品・寄託品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を蓄積して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 （４館共通） ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 エ 文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
2)有形文化財の保存 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。	2)有形文化財の保存 収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 （４館共通） ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。

3)有形文化財の修理 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。	3)有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携のもと、緊急性の高いものから順次、計画的に修理する。 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （４館共通） ア 修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
4)文化財修理施設等の運営 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。	4)文化財修理施設等の運営 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。
（２）展覧事業	
展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。	東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。また、日本博事業及び紡ぐプロジェクト事業を関係機関と連携して執り行う。
①平常展 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。	①平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。 （４館共通） 1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 2)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。
②特別展等 1)特別展 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 （東京国立博物館）年３～４回程度 （京都国立博物館）年１～２回程度 （奈良国立博物館）年２～３回程度 （九州国立博物館）年２～３回程度 2)海外展等 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。	②特別展等 1)特別展 （４館共通） ア 中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。 イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。
③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し、来館者に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 1)快適な観覧環境の提供 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、	③観覧環境の向上等 1)快適な観覧環境の提供 （４館共通） ア 平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4 言語(日、英、

乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。	中、韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。	2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 （４館共通） ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（３）教育・普及活動	
日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。	日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。また、日本博事業において訪日外国人を含めた多くの来館者への教育普及事業に取り組む。
①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。	①教育活動の充実等
1)学習機会の提供 講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。	1)学習機会の提供 （文化財活用センター） ア 企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカや VR 等映像コンテンツを開発し、提供する。文化財の理解を促進するため、積極的に機構外施設へのアウトリーチに取り組む。 （４館共通） ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
2)ボランティア活動の支援 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。	2)ボランティア活動の支援
3) 大学との連携事業等の実施 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。	3)大学との連携事業等の実施 （４館共通） ア キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。	4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 （４館共通） 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。
5)博物館支援者増加への取組	5)博物館支援者増加への取組

企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。	（４館共通） 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 オ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1)有形文化財に関する情報の発信 ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。	1)有形文化財に関する情報の発信 （文化財活用センター） ア ４館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」について、掲載画像を増やすとともに、画像の高精細化、データのアップデートを進め、その充実を図る。 イ ４館収蔵品の国宝・重要文化財について、4言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）をリニューアルし、新規国指定文化財の追加、解説文の見直しに着手する。 ウ 国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。 （４館共通） 収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら、引き続き検討する。
2)資料の収集と公開 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。	2)資料の収集と公開 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料、国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
3)広報活動の充実 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。	3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 （機構本部） ア 機構の概要、年報を作成する。 イ 機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。 ウ 文化財活用センターウェブサイトをリニューアルし、センターに関する情報の提供を行う。 （４館共通） ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 （４館共通） ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実 （４館共通） ア ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	

文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。	文化財の保存と活用を推進するとともに、次代へ継承し、我が国の文化の向上に資するため、以下の調査研究を行い、展覧事業・教育活動等並びに定期刊行物等において、その成果を発信する。 （４館共通） ア 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究
① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 2)特別展等の開催に伴う調査研究 国内外の博物館等と連携しながら、特別展等の開催に向けた各種調査研究を実施する。 3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 （文化財活用センター） ア 各施設と協力して、レプリカやVR等を先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究
②その他 有形文化財に関連する調査研究	②その他有形文化財に関連する調査研究 1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究
③国内外の博物館等との学術交流等	③国内外の博物館等との学術交流等 （４館共通） 1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 3)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等の開催若しくは職員を派遣する。
④調査研究成果の公表	④調査研究成果の公表
（５）国内外の博物館活動への寄与	
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 （文化財活用センター・４館共通） 1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
②国内外の博物館等への援助・助言等	②国内外の博物館等への援助・助言等 （４館共通） 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 （文化財活用センター） 1)全国の博物館等文化財保存施設における良好な保存環境維持・管理に資するための助言や協力、また研修会等を通じての周知活動を行う。 （文化財防災センター） 1)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通じての周知活動を行う。
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	
国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。	

①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 　無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 5)水中文化遺産に関する調査研究
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	
文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。 ①文化財の調査手法に関する研究開発	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)生物被害の予防と対策に関する調査研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 8)建造物の彩色に関する調査研究 9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
（３）文化遺産保護に関する国際協働	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2)文化遺産保護協力事業の推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2)文化遺産保護協力事業の推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 　アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。 ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集 ・無形文化遺産のＳＤＧｓへの貢献に関する研究

	・無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究 ・アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	
文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。 ①文化財情報基盤の整備・充実	 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。 2)文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管および公開活用に関して、技術面・法律面含めたガイドラインを作成する。 3)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。
②調査研究成果の発信	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 3)ウェブサイトの充実
③展示公開施設の充実	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。 1)特別展・企画展 2)定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。
（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	
我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。	

①文化財に関する研修の実施	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと協力して行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
②文化財に関する協力・助言等	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 2)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
④連携大学院教育の推進	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進
⑤文化財等の防災・救援等への寄与	⑤文化財等の防災・救援等への寄与 （文化財防災センター） 1)体制づくり 地域の多様な文化財の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。 2)調査研究等の実施 3)人材育成・事業啓発活動等の実施
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．業務改善の取組	
（１）組織体制の見直し （２）人件費管理等の適正化 （３）契約・調達方法の適正化	（１）組織体制の見直し （２）人件費管理の適正化 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。
（４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減	（４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。

	②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少
２．業務の電子化	
機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術 を活用した業務の効率化に努める。	機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。
３．予算執行の効率化	
運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．自己収入拡大への取組	
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。	（１）博物館及び展示公開施設の平常展観覧料金を令和２年４月１日に改定する。 （２）機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。 （３）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （４）保有資産の有効利用の推進
２．固定的経費の節減	
管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。	
３．決算情報・セグメント情報の充実等	
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。	独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。
４．保有資産の処分	
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	
１.予算、2.収支計画及、3.資金計画	
Ⅴ　短期借入金の限度額	
Ⅵ　不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画	
Ⅶ　重要な財産の処分等に関する計画	
Ⅷ　剰余金の使途	
決算において、剰余金が発生した時は、次の経費等に充てる。 １．文化財の購入・修理 ２．調査研究、出版事業の充実 ３．展覧事業の充実 ４．来館者サービス、情報提供の質的向上 ５．国際協力 ６．老朽化した施設設備への対応の充実	
Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．内部統制	
コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリン	内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うととも

グ・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善て内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。	に、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。
２．その他	
（１）自己評価 （２）情報セキュリティ対策	（１）自己評価 運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。
３．施設設備に関する計画	
４．人事に関する計画	
（１）方針 ①中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。 ②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。 ③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。 ④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。 （２）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。	（１）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。 （２）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入について、検討を継続する。 （３）性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。 （４）女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。 （５）職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた研修の実施を企画・立案する。 （６）働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。
５．中期目標期間を超える債務負担	
６．積立金の使途	

詳細につきましては，中期計画と当事業年度に係る年度計画をご参照ください。

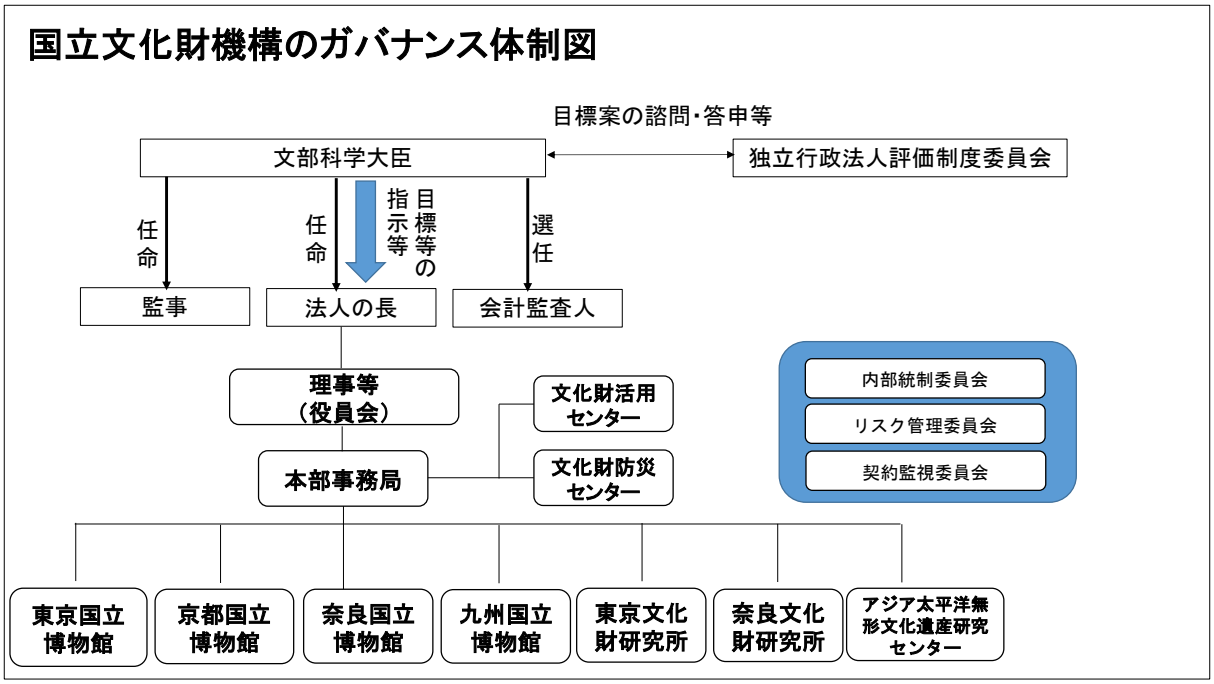
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉

(1)ガバナンスの状況

国立文化財機構は、機構が達成すべき業務運営に関する中期目標に基づき法令等を遵守しつつ有効かつ効率的に業務を行うために内部統制の基本方針を定めており、以下のとおり機構の業務の適正を確保するための内部統制に係る体制を整備しております。

1　業務の有効性及び効率性を確保するための体制の整備	（1）内部統制の推進体制の整備 ・内部統制委員会の設置 （2）倫理行動指針・倫理規程の遵守 （3）中期計画及び年度計画の作成 （4）年度計画に基づく業務の適切な管理 （5）職務権限等に関する規程等の制定 ・組織に関する規程、文書決裁に関する規程等の制定 （6）運営委員会等の設置 ・外部有識者からなる運営委員会の設置 ・業務実績の法人による自己点検評価に関する評価を行う外部評価委員会の設置 （7）役員会の設置 （8）契約監視委員会の設置 （9）最高情報責任者及び最高情報セキュリティ責任者の設置 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 (10) 監査室の設置 (11) 人的資源の管理
2　法令等の遵守体制の整備	（1）コンプライアンス違反等への対応の措置 （2）内部通報・外部通報に関する仕組の確保 （3）反社会的勢力への対応 （4）法令遵守等に関する役職員等への周知 ・コンプライアンスに関する研修の実施 （5）違反行為等に対する処分
3　損失危機管理の体制の整備	（1）リスク管理に関する規程の制定 （2）業務リスクへの対応 ・リスク管理委員会におけるリスク管理の実施
4　情報保存管理の体制の整備	（1）情報システム・情報セキュリティに関する規程等の制定 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 （2）個人情報保護に関する規程の制定 （3）文書管理に関する規程の制定
5　資産の管理及び処分の体制の整備	（1）固定資産に関する規程の制定
6　財務報告等の信頼性確保の体制の整備	（1）財務諸表等の作成が、関係法令、関係諸規程に基づき適正に行われるための体制の整備

なお、国立文化財機構のガバナンス体制図は下記のとおりです。



内部統制システムの整備に関する事項の詳細については、業務方法書等をご参照ください。

(2)役員等の状況

①役員の氏名、役職、任期、担当及び経歴

役職	氏名	任期	担当	経歴	
理事長（常勤）	松村 恵司	自 平成29年4月1日 至 令和3年3月31日		昭和52年10月 昭和62年10月 平成07年04月 平成18年04月 平成20年04月 平成21年04月 平成23年03月 平成23年10月 平成29年04月	奈良国立文化財研究所 文化庁 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長 (独)文化財研究所奈良文化財研究所都城発掘調査部上席研究員・考古第一研究室長 (独)国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長 文化庁文化財部文化財鑑査官 退官 (独)国立文化財機構理事((兼)奈良文化財研究所長) (独)国立文化財機構理事長((兼)奈良文化財研究所長)
理事（常勤）	島谷 弘幸	自 平成29年10月1日 至 令和3年9月30日	文化財の収集、保管、公開、調査研究担当	昭和59年04月 平成06年07月 平成13年04月 平成15年04月 平成19年04月 平成20年04月 平成23年04月 平成27年04月 平成29年10月	東京国立博物館 東京国立博物館学芸部美術課書跡室長 (独)東京国立博物館学芸部資料課長 (独)東京国立博物館文化財部展示課長 (独)東京国立博物館文化財部長 (独)東京国立博物館学芸研究部長 (独)東京国立博物館副館長((兼) (独)国立文化財機構本部調整役) (独)九州国立博物館館長 (独)国立文化財機構理事((兼)九州国立博物館長)
理事（常勤）	永山 裕二	自 令和2年7月28日 至 令和3年3月31日	総務、財務、施設担当	昭和62年04月 平成18年07月 平成19年07月 平成21年07月 平成24年08月 平成26年07月 平成27年07月 平成27年09月 平成29年01月 平成30年07月 令和02年07月	文部省 文部科学省高等教育局専門教育課長 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 文化庁長官官房著作権課長 文部科学省初等中等教育局教科書課長 文部科学省高等教育局私学部私学行政課長 文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ・青少年企画課長 文部科学省大臣官房付（併）内閣官房知的財産戦略推進事務局参事官 文化庁長官官房審議官 農林水産省大臣官房審議官（消費・安全局担当） (独)国立文化財機構理事

理　事 (非常勤)	林田 スマ	自　平成 29 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日	教育普及、生涯学習、男女共同参画担当	昭和43年04月 昭和55年05月 平成08年04月 平成21年04月 平成29年04月	RKB毎日放送 フリーアナウンサー 大野城まどかぴあ女性センター所長（現　男女平等推進センター） 大野城まどかぴあ女性センター館長（現　男女平等推進センター）　現在に至る (独)国立文化財機構理事
監　事 (非常勤)	久留島典子	自　平成 27 年 4 月 1 日 至 令和 2 年度財務諸表承認日		昭和56年04月 平成04年04月 平成11年04月 平成14年04月 平成25年04月 平成27年04月 平成27年04月	東京大学史料編纂所助手 東京大学史料編纂所助教授 東京大学史料編纂所教授　現在に至る 東京大学総長補佐 国立大学法人東京大学史料編纂所長 国立大学法人東京大学副学長 国立大学法人東京大学附属図書館長 (独)国立文化財機構監事
監　事 (非常勤)	中元 文徳	自　平成 26 年 7 月 1 日 至 令和 2 年度財務諸表承認日		昭和50年03月 平成15年09月 平成16年04月 平成21年04月 平成24年04月 平成26年04月	監査法人中央会計事務所 公認会計士中元文徳事務所代表　現在に至る 国立大学法人金沢大学監事 熊本学園大学会計専門職大学院専任教授　現在に至る 国立大学法人総合研究大学院大学監事　現在に至る (独)国立文化財機構監事

②会計監査人の氏名又は名称

EY 新日本有限責任監査法人

(3)職員の状況

常勤職員は令和 2 年度末現在 393 人（前期末比 6 人増）、平均年齢は 44 歳（前期末比 1 歳減）です。このうち、国等からの出向者は 18 人、令和 3 年 3 月 31 日退職者は△10 人です。

(4)重要な施設等の整備等の状況

①当事業年度に完成した主要な施設等

該当なし

②当事業年度継続中の主要な施設等の新設・拡充

該当なし

③当事業年度に処分した主要な施設等

該当なし

(5)純資産の状況

①資本金の額及び出資者ごとの出資額（前事業年度末からのそれぞれの増減を含む）

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

②目的積立金の申請状況、取崩内容等

当期未処分利益 12 百万円については、全額を積立金として整理する予定です。前中期目標期間繰越積立金取崩額 1 百万円は、受託研究費購入資産に係る減価償却相当分の取崩です。業務拡充積立金取崩額 54 百万円は、業務拡充積立金による費用計上相当額の取崩です。なお、令和 2 年度は中期目標の期間の最後の事業年度であるため、前中期目標期間繰越積立金及び目的積立金の残余の額は、積立金へ振り替える予定です。

(6)財源の状況

①財源の内訳（運営費交付金、施設費、補助金、自己収入など）

令和 2 年度の法人単位の収入決算額は 11,503 百万円であり、その内訳は以下のとおりです。

（単位：百万円）

区　分	金　額	構成比率
運営費交付金	8,633	75.1%
施設整備費補助金	541	4.7%
文化芸術振興費補助金等	127	1.1%
展示事業等収入	829	7.2%
受託収入	633	5.5%
その他寄附金	740	6.4%
合計	11,503	100%

②自己収入に関する説明（自己収入の概要、収入先等に関する簡潔な説明など）

機構では、年間を通じて博物館を開館し、収蔵品を観覧に供する外、年複数回の特別展覧会を開催し、今年度は 3 億 7 百万円の入場料収入を得ています。この外に展示事業等附帯収入として 2 億 93 百万円を得ています。主な内訳としては、年間パスポート収入 1 億 1 百万円、ミュージアムショップやレストランの販売手数料収入 14 百万円、科学研究費補助金間接経費収入 76 百万円などです。また財産利用収入として 2 億 18 百万円を得ています。主な内訳としては、文化財画像利用等に伴う版権・特許権使用料 52 百万円、ショップやレストラン等の建物年間貸付料 55 百万円、イベント等の建物貸付料 12 百万円などです。

(7)社会及び環境への配慮等の状況

①独立行政法人国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応

機構では、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の規定に基づき、また、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針に即して、同法第 7 条に規定する行政機関等における障害を理由とする差別の禁止事項に関し、機構の役員及び職員が適切に対応するために必要な事項を定めております。

・不当な差別的取扱いの禁止
・合理的配慮の提供
・監督者の責務
・懲戒処分等
・相談体制の整備

・研修・啓発

詳細につきましては、国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領をご参照ください。

②女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画

機構では、働き方の多様化を促進することにより、職員が仕事と子育てを両立することができ、女性の潜在的能力を活用することによって、職員全員が働きやすい環境をつくり、各人がその能力を十分に発揮する強い組織とするため、行動計画を策定しております。

１．計画期間　平成 28 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日の 5 年間

２．内容

目標１　所定外労働時間を削減するため、ノー残業デーを設定し、実施する。

目標２　年次有給休暇の取得率を 60%以上とする。

目標３　計画期間内に、育児休業の取得状況を次の水準以上にする。

・女性職員　育児休業の取得率を 80%以上とする。

・男性職員　計画期間内に、育児休業取得者が 1 人以上とする。

目標４　介護休業等の取得状況を把握し、職場環境の整備を実施する。

目標５　計画期間内に、管理職（課長級以上）に占める女性割合を 13%以上とする。

詳細につきましては、国立文化財機構における女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画をご参照ください。

③環境物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律第 7 条第 1 項の規定に基づき、環境物品等の調達の推進を図るための方針を定め、同条第 3 項の規定に基づき公表しております。

詳細につきましては、環境物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。

④障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律第６条の規定に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進に関する基本方針に即して、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針を定めております。

詳細につきましては、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。

⑤独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針

機構では、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律第 5 条の規定に基づき、中小企業者に関する国等の契約の基本方針に即して、中小企業者に関する契約の方針を定めております。

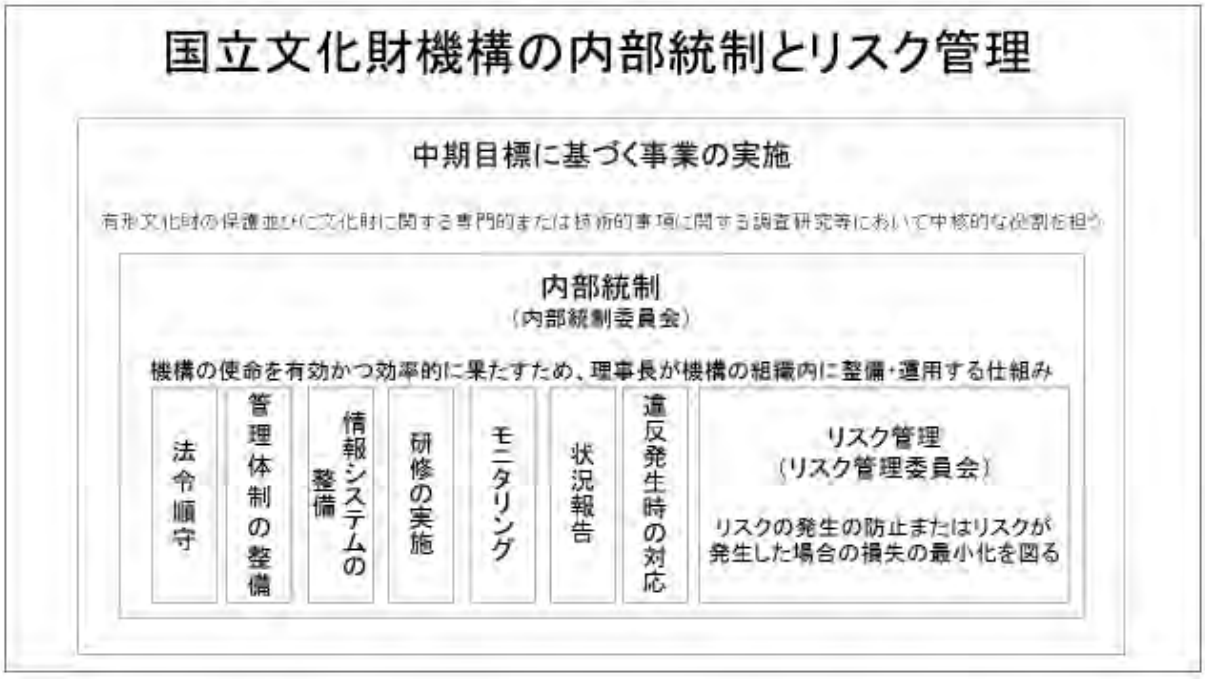
詳細につきましては、独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針をご参照ください。

８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策

(1)リスク管理の状況

①リスク管理に関する規程の整備

平成２６年６月の独立行政法人通則法の改正（平成２７年４月１日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、リスク管理に関して、業務実施の障害となる要因を事前にリスクとして識別、分析及び評価し、当該リスクへの適切な対応をとるべく、独立行政法人国立文化財機構リスク管理規程を平成２８年３月２５日に制定し、平成２８年４月１日から施行しております。同リスク管理規程は、機構のリスク管理体制を整備し、リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化を図り、もって機構の業務の円滑な運営に資することを目的としております。内部統制とリスク管理の関係は下記図をご参照ください。



②リスク管理にかかる組織体制

機構におけるリスク管理にかかる組織体制は、リスク管理を担当するリスク管理担当理事を指名し、機構におけるリスク管理に関する取組みを総括整理しております。また、リスク管理の取組みを推進するため、機構にリスク管理総括部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

リスク管理総括部門には、総括リスク管理責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設にはリスク管理責任者を置き、各施設の長を充てております。総括リスク管理責任者及びリスク管理責任者は、所属する各施設のリスク管理の状況の把握に努め、また、所属する各施設の職員のうちからリスク管理補助者を指定し、各施設におけるリスク管理の整備及び運用を担当させております。

③リスク管理委員会の設置

機構では、リスク管理委員会を設置しております。リスク管理委員会は、リスク管理を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設のリスク管理責任者が

指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。なお、リスク管理委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

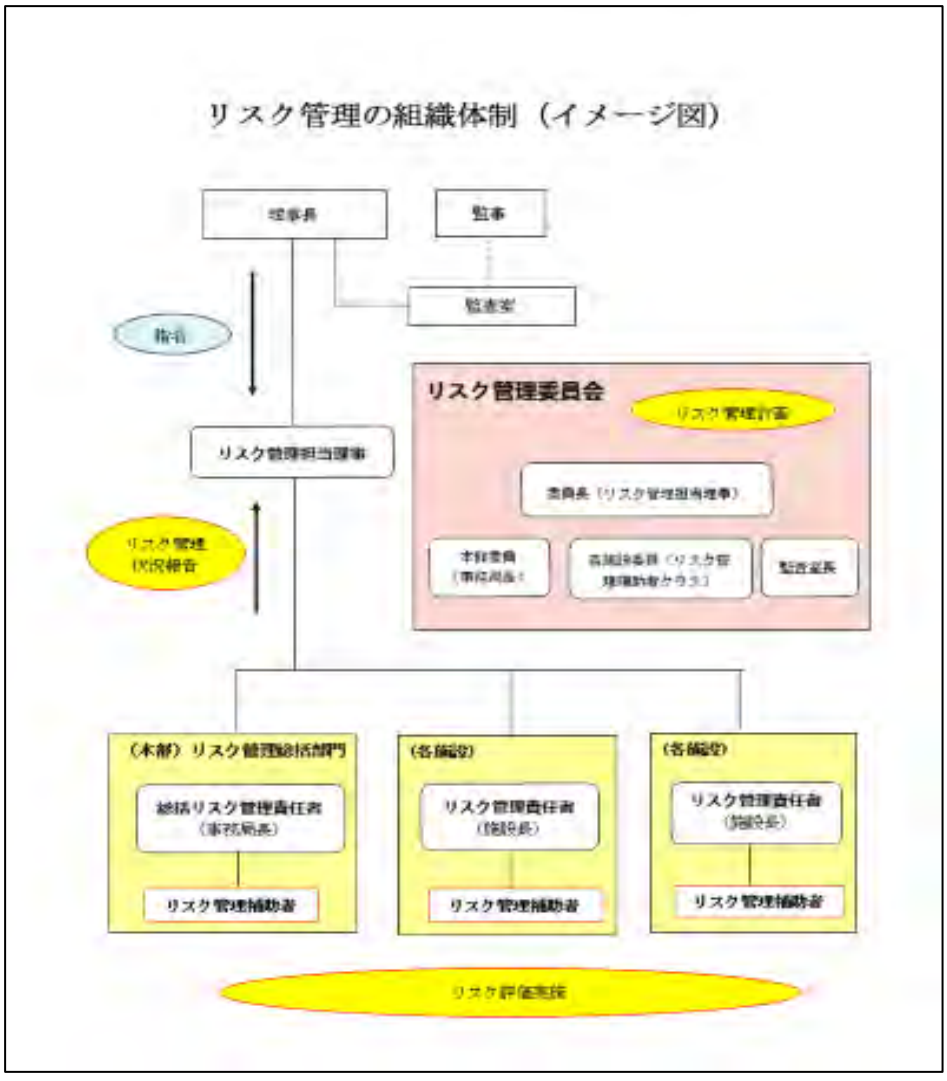
・機構全体で対応すべきリスクの評価、当該リスクへの対応策の取りまとめ及び当該対応策の推進状況の点検に関する事項
・重大な危機の再発防止に関する事項
・その他委員会が必要と認めた事項

リスク管理委員会では、機構全体で対応すべきリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類の上、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

各施設の管理責任者等は、同リスク管理計画に基づき、各施設における当該リスクの管理を行い、また、常時、リスクへの対応に関しモニタリングし、定期的にリスク管理委員会へリスク管理計画の実施状況について報告しております。

なお、平成２８年度から令和２年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

平成２８年度：２回
平成２９年度：２回
平成３０年度：３回
令和 元 年度：３回
令和 ２ 年度：２回



(2)業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況

機構では、機構に関連するリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類して、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

このうち、法人設立の目的から、文化財の毀損の発生に関するリスクが最もリスクレベルの高いものであると評価しております。

具体的には、文化財の展示・撤収作業中、輸送、撮影・調査中における文化財の毀損の発生が想定され、人的要因（習熟していない職員の作業等）、物的要因（文化財の脆弱性等）及び設備要因（温湿度等の環境変化等）などの発生要因を把握し、常日頃から適切かつ迅速な対応がとれるよう努めております。

(3)新型コロナウイルス感染症拡大への対応

①コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開について

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和２年２月 26 日に政府より、多数の人が集まるような全国的なスポーツ、文化イベント等を今後の２週間において中止、延期の要請がなされ、この要請を受けて、機構の博物館及び公開施設は、令和２年２月 27 日から６月１日まで臨時休館としました。

その後、令和２年５月 25 日に全国の緊急事態宣言が解除され、各地域におけるイベント開催等の制限が緩和されたことにより、翌 26 日に機構の博物館及び公開施設は、６月２日から開館を再開することを決定しました。

開館にあたっては、オンライン等による事前予約制の導入、サーモグラフィによる検温、各施設の入口等にアルコール消毒液の設置、館内の消毒の徹底、館内スタッフのマスク着用や対面箇所でのアクリルパネルの設置、レストランでの座席間隔の確保など、公益財団法人日本博物館協会が発表した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿った感染拡大防止策を講じました。

令和２年度は、機構では計９回の特別展覧会を実施し、入館者数は、博物館と研究所を合わせて 858,177 人（常設展示 344,392 人、特別展示 513,785 人）となりました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大により、対面での講演会や体験型のプログラム等が中止となったため、新たな教育普及活動や情報発信、交流活動の手段としてオンライン等を活用し、文化財機構の事業の継続と拡大を図りました。

②財源確保について

令和３年度以降も感染症防止対策及びオンライン等を活用した事業を継続し、「新しい生活様式」の中で多くの方に来ていただける展覧環境づくりに努め、自己収入の確保を図るとともに、競争的研究費や寄附金の獲得等財源の多様化を図ります。

９．業績の適正な評価の前提情報

事業の種類及び事業の内容

事業の種類	設置施設	事業の内容 （中期目標における一定の事業等のまとまり）
国立博物館等	東京国立博物館 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業
文化財研究所等	東京文化財研究所 奈良文化財研究所 アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業

１０．業務の成果と使用した資源との対比

(1)自己評価

評価項目		評定 (注)	行政コスト
全体の評定		B	
(大項目名 1)	国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
(中項目名 1)	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B	
(小項目 1-1)	有形文化財の収集・保管、次代への継承	B	904 百万円
(項目 1-1-1)	博物館の施設設備の整備	B	
(項目 1-1-2)	有形文化財の収集等	B	
(項目 1-1-3)	有形文化財の管理・保存・修理等	B	
(小項目 1-2)	展覧事業	B	2,971 百万円
(項目 1-2-1)	平常展	B	
(項目 1-2-2)	特別展等	B	
(項目 1-2-3)	観覧環境の向上等	B	
(小項目 1-3)	教育・普及活動	B	423 百万円
(項目 1-3-1)	教育活動の充実等	B	
(項目 1-3-2)	有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	B	
(小項目 1-4)	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	748 百万円
	外部資金を活用した調査研究	B	
(項目 1-4-1)	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	B	

（項目 1-4-2）	その他有形文化財に関連する調査研究	B	
（項目 1-4-3）	国内外の博物館等との学術交流等	B	
（項目 1-4-4）	調査研究成果の公表	B	
（小項目 1-5）	国内外の博物館活動への寄与	B	248 百万円
（項目 1-5-1）	国内外の博物館等への有形文化財の貸与	B	
（項目 1-5-2）	国内外の博物館等への援助・助言等	B	
（中項目名 2）	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	B	
（小項目 2-1）	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	B	929 百万円
（項目 2-1-1）	有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究	B	
（項目 2-1-2）	無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究	A	
（項目 2-1-3）	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	B	
（小項目 2-2）	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	A	363 百万円
（項目 2-2-1）	文化財の調査手法に関する研究開発の推進	B	
（項目 2-2-2）	文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	A	
（小項目 2-3）	文化遺産保護に関する国際協働	B	193 百万円
（項目 2-3-1）	文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	B	
（項目 2-3-2）	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	A	
（小項目 2-4）	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	A	559 百万円
（項目 2-4-1）	文化財情報基盤の整備・充実	A	
（項目 2-4-2）	調査研究成果の発信	B	
（項目 2-4-3）	展示公開施設の充実	A	
（小項目 2-5）	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	B	142 百万円
（項目 2-5-1）	文化財に関する研修の実施	B	
（項目 2-5-2）	文化財に関する協力・助言等	B	
（項目 2-5-3）	平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	B	
（項目 2-5-4）	連携大学院教育の推進	B	
（項目 2-5-5）	文化財等の防災・援助等への寄与	B	
（大項目名 2）	業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	業務改善の取組	B	
（小項目 1-1）	組織体制の見直し	B	
（小項目 1-2）	人件費管理等の適正化	B	
（小項目 1-3）	契約・調達方法の適正化	B	
（小項目 1-4）	共同調達等の取組の推進	B	
（小項目 1-5）	一般管理費等の削減	B	
（中項目名 2）	業務の電子化	B	
（小項目 2-1）	業務の電子化	B	
（中項目名 3）	予算執行の効率化	B	
（小項目 3-1）	予算執行の効率化	B	
（大項目名 3）	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	自己収入拡大への取組	B	
（小項目 1-1）	観覧料金改定の取組	B	
（小項目 1-2）	自己収入拡大への取組	B	
（小項目 1-3）	外部資金の獲得	A	
（小項目 1-4）	保有資産の有効利用の促進	B	

（中項目名 2）	固定的経費の節減	B	
（小項目 2-1）	（大項目 2　中項目 1　小項目 1-5 と同じ）	B	
（中項目名 3）	決算情報・セグメント情報の充実等	B	
（小項目 3-1）	決算情報・セグメント情報の充実等	B	
（大項目名 4）	予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	B	
（中項目 1）	1.予算、2.収支計画及、3.資金計画	B	
（小項目 1-1）	予算、収支計画、資金計画	B	
（大項目名 5）	その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	内部統制	B	
（小項目 1-1）	内部統制	B	
（中項目名 2）	その他	B	
（小項目 2-1）	自己評価	B	
（小項目 2-2）	情報セキュリティ対策	B	
（中項目名 3）	施設設備に関する計画	B	
（小項目 3-1）	施設設備に関する計画	B	
（中項目名 4）	人事に関する計画	B	
（小項目 4-1）	中長期的な人事計画の策定	B	
（小項目 4-2）	評価制度の導入		
（小項目 4-3）	能力や適性に応じた採用・人事の実施	B	
（小項目 4-4）	女性の活躍の推進		
（小項目 4-5）	働き方改革関連法に応じた取組の実施		
（小項目 4-6）	職員のキャリアパス形成のための研修	B	

（注1）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

詳細につきましては、自己点検評価報告書をご参照ください。

(2)当中期目標期間における主務大臣による過年度の総合評定の状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
評定（注）	B	B	B	B	B

（注）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

１１．予算と決算との対比

要約した決算報告書

（単位：百万円）

区　　分	予　算	決　算	差額理由
《収入》			
運営費交付金	8,633	8,633	
施設整備費補助金	198	541	繰越予算
文化芸術振興費補助金等	－	127	文化庁補助金交付
展示事業等収入	2,090	829	入場料収入減少
受託収入	636	633	
その他寄附金等	780	740	
合　　計	12,337	11,503	
《支出》			
運営事業費	10,723	9,924	
・人件費	3,733	3,613	
・業務経費	6,990	6,311	展覧会減による経費減少
施設整備費	198	543	
文化芸術振興費等	－	102	
受託事業費	636	641	
その他寄附金等	780	967	
合　　計	12,337	12,177	

詳細につきましては、決算報告書をご参照ください。

１２．財務諸表

要約した財務諸表（貸借対照表、行政コスト計算書、損益計算書、純資産変動計算書、キャッシュ・フロー計算書）

①貸借対照表

令和３年３月31日　　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	3,407	運営費交付金債務	0
未収金	869	未払金	1,953
その他	529	その他	2,395
流動資産合計	4,805	流動負債合計	4,348
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	3,108
建物	49,649	その他の固定負債	2,072
収蔵品	124,996	固定負債合計	5,180
土地	44,411	負債合計	9,528
工具器具備品	2,658	純資産の部	
建設仮勘定	16	資本金	104,714
その他	1,787	資本剰余金	115,380
無形固定資産	112	利益剰余金	869
その他の資産	2,057	純資産合計	220,963
固定資産合計	225,686		
資産合計	230,491	負債純資産合計	230,491

②行政コスト計算書

令和２年４月１日～令和３年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ　損益計算書上の費用	10,536
Ⅱ　その他行政コスト	3,271
Ⅲ　行政コスト	13,807

③損益計算書

令和２年４月１日～令和３年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	10,536
業務費	
人件費	3,765
業務経費	4,343
減価償却費	507
一般管理費	
人件費	982
一般管理経費	832
減価償却費	102
その他	5
経常収益(B)	10,494
運営費交付金収益	7,252
受託収入	633
入場料収入	307
展示事業等収入	293
財産利用収入	218
寄附金収益	470
施設費収益	177
その他補助金収益	40
資産見返負債戻入	626
その他	478
臨時損失(C)	0
臨時利益(D)	0
当期純損失(E) (A－B＋C－D)	42
前中期目標期間繰越積立金取崩額(F)	1
業務拡充積立金取崩金(G)	53
当期総利益(-E＋F＋G)	12

④純資産変動計算書

令和２年４月１日～令和３年３月31日　　（単位：百万円）

	Ⅰ資本金	Ⅱ資本剰余金	Ⅲ利益剰余金	純資産合計
当期首残高	104,714	116,041	928	221,683
当期変動額	0	-661	-59	-720
当期末残高	104,714	115,380	869	220,963

⑤キャッシュ・フロー計算書

令和２年４月１日～令和３年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	996
人件費支出	-4,738
運営費交付金収入	8,633
その他補助金による収入	229
自己収入等	2,736
その他の支出	-5,869
その他収入	5

Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	-1,986
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	-13
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	-1,003
Ⅴ資金期首残高(E)	4,410
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	3,407

詳細につきましては、財務諸表をご参照ください。

１３．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報

主要な財務データの簡潔な説明（資産、負債、行政コスト、経常費用、経常収益、当期総利益、キャッシュ・フローなど）

(1)各財務諸表の概要

①貸借対照表

令和 2 年度末現在の資産合計は、2,304 億 91 百万円と前年度比 19 億 26 百万円（0.8%）の減少となりました。これは収蔵品が購入及び寄贈等により 22 億 40 百万円増加した反面、有形固定資産の減価償却が 36 億 43 百万円進み、新型コロナウイルスの影響による自己収入・入館者の減少に伴い、現預金が 10 億 3 百万円減少したことが主な要因です。

令和 2 年度末現在の負債合計は、95 億 28 百万円と前年度比 12 億 5 百万円(11.2%)の減少となりました。これは執行額の減少により未払金が 5 億 32 百万円減少、中期目標期間終了により運営費交付金債務が 5 億 20 百万円減少したことが主な要因です。

令和 2 年度末現在の純資産合計は、④純資産変動計算書で説明します。

②行政コスト計算書

令和 2 年度の行政コストは、138 億 7 百万円となりました。損益計算書上の費用が 105 億 36 百万円、その他行政コストが 32 億 71 百万円です。その他行政コストは、主に減価償却相当額 32 億 71 百万円です。

③損益計算書

令和 2 年度の経常費用は、105 億 36 百万円と前年度比 17 億 71 百万円（14.4%）の減少となりました。これは新型コロナウイルスの影響による展覧会減少により展覧業務費が 3 億 70 百万円減少、受託業務の終了により受託業務費が 6 億 98 百万円減少、工事の減少等により一般管理経費が 5 億 42 百万円増加したことが主な要因です。

また、令和 2 年度の経常収益は、104 億 94 百万円と前年度比 18 億 46 百万円(15.0%)の減少となりました。これは新型コロナウイルスの影響による展覧会減少により入場料収入が 8 億 28 百万円減少、受託業務の終了により受託収入が 7 億 5 百万円減少、工事の減少により施設費収益が 4 億 13 百万円減少したことが主な要因です。

以上による経常損失 42 百万円に、臨時損失 0.1 百万円と臨時利益 0.1 百万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩額 1 百万円及び業務拡充積立金取崩金 53 百万円を加え、令和 2 年度当期総利益は前年度比 72 百万円（85.4%）減少の 12 百万円となりました。

④純資産変動計算書

令和 2 年度末現在の純資産合計は、2,209 億 63 百万円と前年度比 7 億 20 百万円（0.3%）の減少となりました。これは資本剰余金が 6 億 61 百万円減少したことが主な要因で、資本剰余金の減少は、主に資産増加に伴う増加 26 億 9 百万円と減価償却による減少 32 億 71 百万円の差し引きによるものです。

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入が 9 億 96 百万円と前年度比でほぼ同額です。これは展示事業等収入が新型コロナウイルスの影響による入場料の減少により 12 億 43 百万円減少したものの、業務支出が 9 億 46 百万円減少、消費税等支払額が 3 億 58 百万減少したことが主な要因です。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 19 億 86 百万円と前年度比 8 億円（67.4%）増加しました。これは有形固定資産の取得による支出が 15 億 91 百万円減少したほか、施設費による収入が 23 億 69 百万円減少したことが主な要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 13 百万円と前年度とほぼ同額です。当該区分は、リース債務の支払による支出のみです。

１４．内部統制の運用に関する情報

①内部統制に関する規程の整備

平成 26 年 6 月の独立行政法人通則法の改正（平成 27 年 4 月 1 日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、機構に対する社会的信頼を確保し、機構の使命と社会的責任を果たすことを目的として、独立行政法人国立文化財機構内部統制規程を平成 28 年 3 月 25 日に制定し、平成 28 年 4 月 1 日から施行しております。内部統制とリスク管理の関係は、８．業務運営上の課題・リスク及びその対策の（１）リスク管理の状況①リスク管理に関する規程の整備箇所をご参照ください。

②内部統制にかかる組織体制

国立文化財機構における内部統制にかかる組織体制は、内部統制の推進を担当する内部統制担当理事を指名し、機構における内部統制に関する取組みを総括整理しております。また、内部統制の取組みを推進するため、機構に内部統制推進部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

内部統制推進部門には、総括内部統制推進責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設には内部統制推進責任者を置き、各施設の長を充てております。総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、所属する本部・各施設において、職員が内部統制を遵守するよう監督するとともに、内部統制の整備及び運用の状況の把握に努め、また、所属する本部・各施設の職員のうちから内部統制推進管理者を指定し、本部・各施設における内部統制の整備及び運用管理を担当させております。

③内部統制委員会の設置

機構では内部統制委員会を設置しております。内部統制委員会は、内部統制の推進を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設の内部統制推進責任者が指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。内部統制委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

・機構における内部統制の整備及び運用に係る基本方針に関すること
・内部統制におけるモニタリング体制に関すること
・その他内部等統制の整備の推進に関する事項

内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告に基づき、必要な改善策を検討しております。

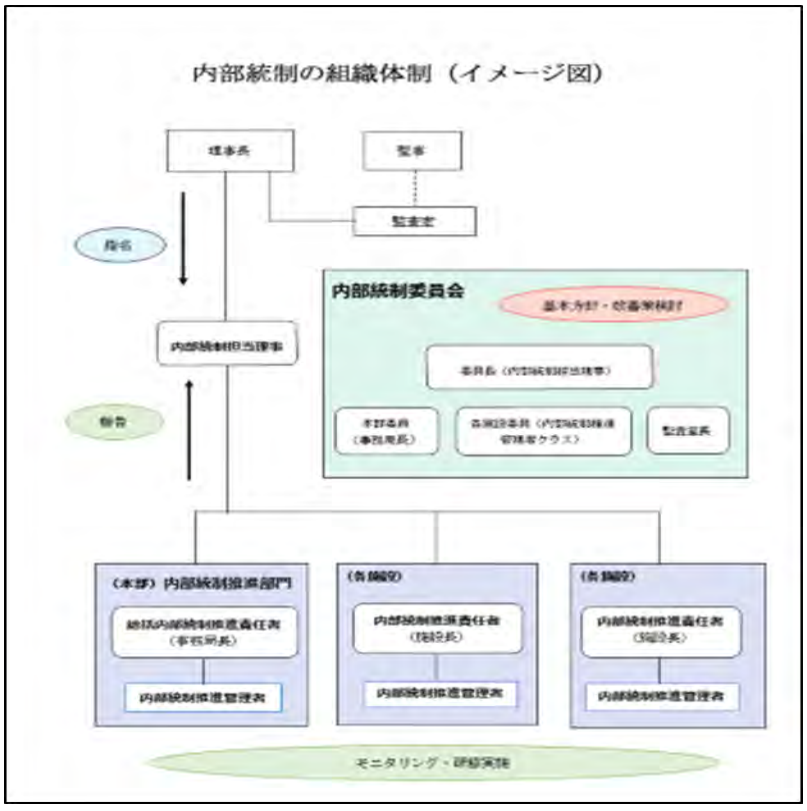
④管理体制の整備

総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、本部・各施設における業務執行に係る意思決定プロセス、経費支出の承認プロセスに係るチェックシステムの構築に努めております。また、調査研究業務に関する不正防止のため、調査研究資金の管理状況の把握及び管理体制の整備に努めております。内部統制の推進に必要な知識及び技能を習得させ、又は向上させるために必要な研修を行っております。

このほか、内部統制体制の円滑な運営を図るため、内部統制に関する情報の伝達が確実に行われるよう情報システムの整備に努めております。情報システムを活用した効率的な業務運営のために、積極的に事務処理の効率化及び高度化を推進しております。

なお、平成２８年度から令和２年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

平成２８年度：２回
平成２９年度：２回
平成３０年度：３回
令和 元 年度：４回
令和 ２ 年度：２回



１５．法人の基本情報

(1)沿革

平成 19 年 4 月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

平成 23 年 10 月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

平成 30 年 7 月　文化財活用センターを設置

令和 2 年 10 月　文化財防災センターを設置

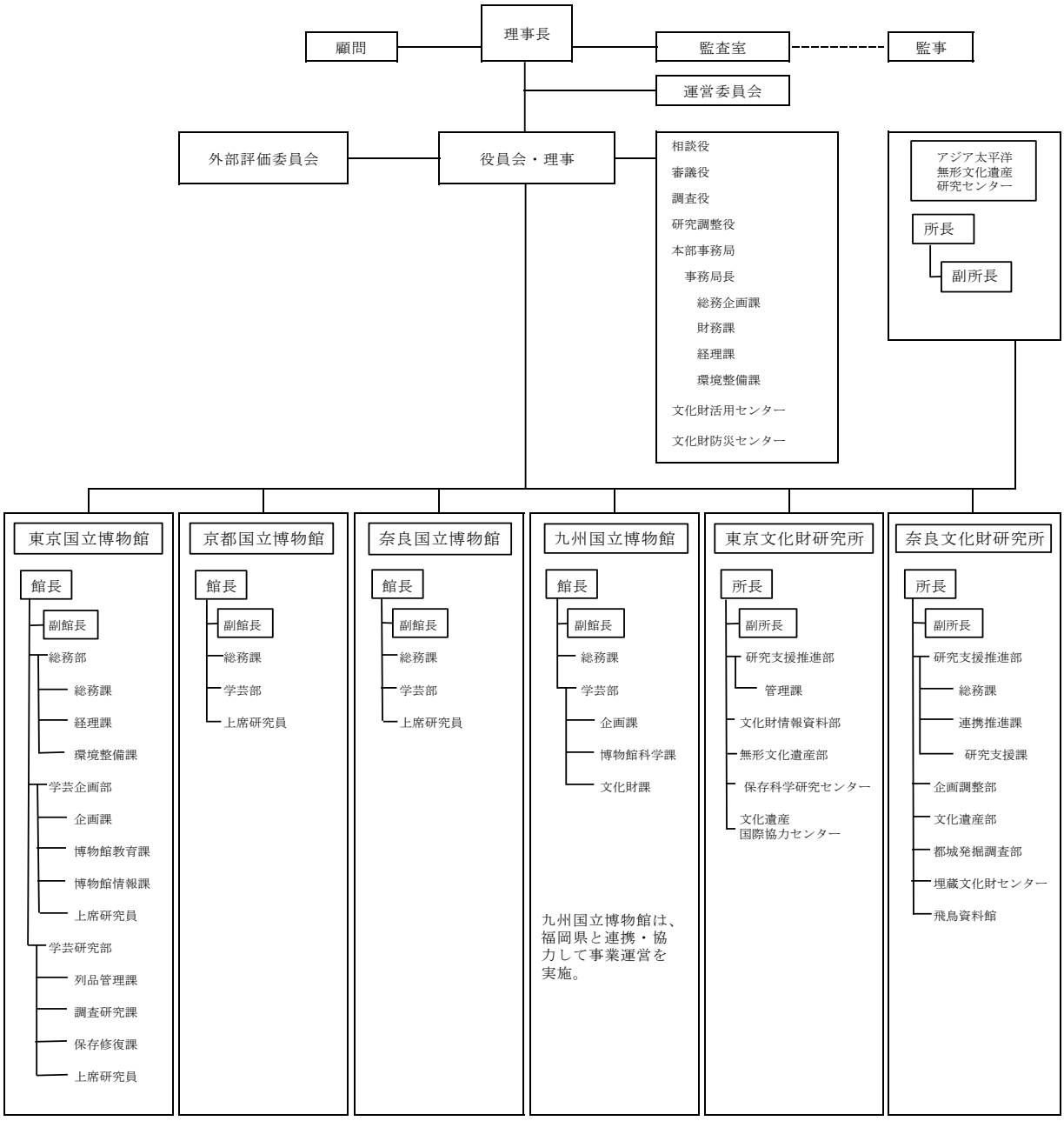
(2)設立に係る根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

(3)主務大臣

文部科学大臣（文化庁企画調整課）

(4)組織図（令和 3 年 3 月 31 日現在）



(5)事務所（従たる事務所を含む）の所在地

本部：東京都台東区上野公園 13－9

支部：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）
東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）
京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）
奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）
奈良県奈良市二条町 2－9－1（奈良文化財研究所）
福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）
大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 堺市博物館内
（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

(6)主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況

法人の名称、その業務と当該独立行政法人等の業務の関係等

当事業年度は該当ありません。

(7)主要な財務データの経年比較

（単位：百万円）

区　　分	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
資産	222,995	232,458	229,941	232,417	230,491
負債	11,550	11,689	10,054	10,734	9,528
利益剰余金	794	1,002	1,063	928	869
純資産	211,444	220,769	219,887	221,683	220,963
行政コスト	―	―	―	18,261	13,807
経常費用	10,161	10,112	11,223	12,307	10,536
経常収益	10,270	10,321	11,284	12,340	10,494
当期総利益	164	210	62	84	12
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,651	2,575	2,765	996	996
投資活動によるキャッシュ・フロー	-2,569	-926	-2,485	-1,187	-1,986
財務活動によるキャッシュ・フロー	-27	-31	-14	-13	-13
資金期末残高	2,729	4,348	4,614	4,410	3,407

(8)翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画

【予算】

（単位：百万円）

収　入	金　額	支　出	金　額
運営費交付金	9,052	管理経費	1,957
施設整備費補助金	0	人件費	917
展示事業等収入	1,032	一般管理費	1,040
受託収入	796	業務経費	8,127
その他寄附金等	799	人件費	2,892
		事業費	5,235
		施設整備費	0
		受託事業費	796
		その他寄附金等	799
合　計	11,679	合　計	11,679

【収支計画】

（単位：百万円）

区　分	金　額
費用の部	10,853
経常費用	10,853
管理経費	1,920
業務経費	8,242
減価償却費	689
財務費用	2
臨時損失	0
収益の部	10,853
運営費交付金収益	7,757
展示事業等の収入	1,032
受託収入	796
その他寄附金等	579
資産見返負債戻入	689
財務収益	0
臨時利益	0
純利益	0
目的積立金取崩額	0
総利益	0

【資金計画】

（単位：百万円）

区　分	金　額
資金支出	11,679
業務活動による支出	10,164
投資活動による支出	1,491
財務活動による支出	24
資金収入	11,679

業務活動による収入	11,679
運営費交付金による収入	9,052
展示事業等による収入	1,032
受託収入	796
その他寄附金等	799
投資活動による収入	0
施設整備費による収入	0
財務活動による収入	0

詳細につきましては，中期計画と当事業年度に係る年度計画をご参照ください。

１６．参考情報

(1)要約した財務諸表の科目の説明

①貸借対照表

現金及び預金　：現金、銀行預金（定期預金含む）
未収金　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など
その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など
有形固定資産　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの
建設仮勘定　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など
無形固定資産　：ソフトウエア、電話加入権など
その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用
運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額
未払金　：退職給付、購入代金などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの
その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など
資産見返負債　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額
その他（固定負債）　：リース長期未払金など
資本金　：国から出資された土地、建物等の相当額
資本剰余金　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵品の相当額
利益剰余金　：剰余金の累計額

②行政コスト計算書

損益計算書上の費用　：損益計算書における一切の費用
その他行政コスト　：行政コストに含まれるものであって、独立行政法人の会計上の財産的基礎が減少する取引に相当するものであるが、独立行政法人の拠出者への返還により生じる会計上の財産的基礎が減少する取引には相当しないもの

③損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費
減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益　：運営費交付金のうち、当期の収益として認識した相当額
資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益
臨時損失　　：固定資産除却損
臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益
前中期目標期間繰越積立金取崩額：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

④純資産変動計算書

資本金、資本剰余金、利益剰余金：①貸借対照表と同様

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

(2)その他公表資料等との関係の説明

関連する報告書等

国立文化財機構ＨＰ

東京国立博物館ＨＰ

京都国立博物館ＨＰ

奈良国立博物館ＨＰ

九州国立博物館ＨＰ

東京文化財研究所ＨＰ

奈良文化財研究所ＨＰ

アジア太平洋無形文化遺産研究センターＨＰ

文化財活用センターＨＰ

文化財防災センター概要

国立文化財機構　概要

国立文化財機構　年報

独立行政法人国立文化財機構の

令和２年度における業務の実績に関する評価

令和３年

文 部 科 学 大 臣

独立行政法人国立文化財機構　年度評価　目次

１－１－１	評価の概要	・・・ｐ１
１－１－２	総合評定	・・・ｐ２
１－１－３	項目別評定総括表	・・・ｐ４
１－１－４－１	項目別評価調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）	・・・ｐ６
	項目別評価調書 No. Ⅰ―１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	・・・ｐ６
	項目別評価調書 No. Ⅰ―２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	・・・ｐ３４
１－１－４－２	項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）	・・・ｐ５８
	項目別評価調書 No. Ⅱ　業務運営の効率化に関する事項	・・・ｐ５８
	項目別評価調書 No. Ⅲ　財務内容の改善に関する事項	・・・ｐ６３
	項目別評価調書 No. Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画	・・・ｐ６８
	項目別評価調書 No. Ⅴ　その他の事項	・・・ｐ６９
別添	中期目標、中期計画、年度計画	・・・ｐ７２

１－１－１　中期目標管理法人　年度評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象事業年度	年度評価	令和２年度
	中期目標期間	平成 28 年度～令和２年度（第４期）

２．評価の実施者に関する事項				
主務大臣		文部科学大臣		
	法人所管部局	文化庁	担当課、責任者	企画調整課、平山直子
	評価点検部局	大臣官房	担当課、責任者	政策課、林孝浩

３．評価の実施に関する事項	
令和３年６月・７月	各種事業を担当している国立文化財機構職員との意見交換（随時）を実施した。
令和３年７月	監事に対する意見聴取を書面にて行った。
令和３年７月	令和２年度の業務の実績に関する自己評価書等について，有識者会合委員に対し書面にて意見聴取を行った。

4．その他評価に関する重要事項
令和２年 10 月より、文化財防災センターを発足させた。

様式１－１－２　中期目標管理法人　年度評価　総合評定

１．全体の評定						
評定（S、A、B、C、D）	B	（参考）本中期目標期間における過年度の総合評定の状況				
		平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
		B	B	B	B	B
評定に至った理由	法人全体に対する評価に示すとおり，全体として中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。					

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	法人全体に対する評価に示すとおり，全体として中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 Ⅰ－１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信（B） Ⅰ－２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施（B） Ⅱ　業務運営の効率化に関する事項（B） Ⅲ　財務内容の改善に関する事項（B） Ⅳ　予算，収支計画及び資金計画（B） Ⅴ　その他の事項（B）
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，令和２年２月から休館やプログラムの休止などを行っており，各種事業や自己収入への影響について考慮することが必要である。

３．項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	【展覧事業】 新型コロナウイルス感染拡大により、人々の価値観が変化しているなか、「新しい生活様式」に対応した展覧事業等のあり方を確立することが期待される。（P.９参照） 【文化財等の防災・救済等への寄与】 令和２年 10 月に設置した文化財防災センターについて、引き続き体制強化とネットワークの構築を推進していただきたい。（P.37 参照）
その他改善事項	特になし

主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし

4. その他事項	
監事等からの意見	新型コロナウイルス感染下において、当初の監査計画ではすべての施設において実地監査を予定していたが、緊急事態宣言等の発出に伴い他府県に所在する施設においては書面監査とし、東京地区の施設においては書面監査及び会計書類の実地監査を行うこととし、監査計画を変更し実施した。
その他特記事項	特になし

※　評定区分は以下のとおりとする。(**「文部科学省所管の独立行政法人の評価に関する基準（平成 27 年 6 月 30 日文部科学大臣決定、平成 29 年 4 月 1 日一部改定、以降「旧評価基準」とする）」**p10)

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

Ｂ：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。

Ｃ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。

Ｄ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

様式１－１－３　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定総括表

中期目標	年度評価					項目別調書№	備考
	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度		
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項							
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	—	—	B	B	B		
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	—	—	—	—	—		
①国立博物館の施設設備の整備	（B）	（B）	—	—	—		
②有形文化財の収集等	（B）	（A）	—	—	—		
③有形文化財の管理、保存、修理等	—	—	—	—	—		
有形文化財の管理、保存	（B）	（B）	—	—	—		
有形文化財の修理等	（B）	（B）	—	—	—		
（２）展覧事業	—	—	—	—	—	Ⅰ-1	
①展覧事業（平常展・特別展等）	（B）	（A）	—	—	—		
②観覧環境の向上等	（B）	（B）	—	—	—		
（３）教育・普及活動	—	—	—	—	—		
①教育活動の充実等	（B）	（B）	—	—	—		
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	（B）	（B）	—	—	—		
(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	—	—	—	—	—		
①有形文化財に関連する調査研究	（B）	（B）	—	—	—		
②国内外の博物館等との学術交流等	（B）	（B）	—	—	—		
③調査研究成果の公表	（B）	（B）	—	—	—		
（５）国内外の博物館活動への寄与	—	—	—	—	—		
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	（B）	（B）	—	—	—		

中期計画	年度評価					項目別調書№	備考
	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度		
（３）文化遺産保護に関する国際協働	—	—	—	—	—		
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	（B）	（B）	—	—	—		
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	（B）	（A）	—	—	—		
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	（A）	（A）	—	—	—		
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	—	—	—	—	—	Ⅰ-2	
①地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	（B）	（B）	—	—	—		
②平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	（A）	（B）	—	—	—		
③文化財等の防災・救援等への寄与	（A）	（A）	—	—	—		
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項							
組織体制の見直し	（B）	（B）	B	B	B	Ⅱ	
人件費管理等の適正化	（B）	（B）					
契約・調達方法の適正化	（B）	（B）					
一般管理費の削減	（B）	（B）					
業務の電子化	（A）	（B）					
予算執行の効率化	（B）	（B）					
Ⅲ　財務内容の改善に関する事項							
自己収入拡大への取組	（B）	（A）	B	B	B	Ⅲ	
決算情報・セグメント情報の充実等	（B）	（B）					
Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画							
予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	（B）	（B）	B	B	B	Ⅳ	

②国内外の博物館等への援助・助言等	（B）	（B）	—	—	—		
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	—	—	A	A	B		
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	（B）	（B）	—	—	—		
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	—	—	—	—	—	Ⅰ-2	
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進	（A）	（B）	—	—	—		
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	（B）	（A）	—	—	—		

Ⅴ　その他の事項							
内部統制	（B）	（B）	B	B	B	Ⅴ	
自己評価・情報セキュリティ対策	（B）	（B）					
施設設備に関する計画	（B）	（B）					
人事に関する計画	（B）	（B）					

※１　重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「○」を付す。
※２　難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く。
※３　重点化の対象とした項目については、各標語の横に「重」を付す。
※４　「項目別調書 No.」欄には、本評価書の項目別評定調書の項目別調書 No. を記載。
※５　評定区分は以下のとおりとする。
　Ｓ：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。
　Ａ：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 120%以上とする。）。
　Ｂ：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 100%以上 120%未満）。
　Ｃ：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%以上 100%未満）。
　Ｄ：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。
　なお、「Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項」、「Ⅲ．財務内容の改善に関する事項」及び「Ⅳ．その他の事項」のうち、内部統制に関する評価等、定性的な指標に基づき評価せざるを得ない場合や、一定の条件を満たすことを目標としている場合など、業務実績を定量的に測定しがたい場合には、以下の評定とする。
　Ｓ：－
　Ａ：難易度を高く設定した目標について、目標の水準を満たしている。
　Ｂ：目標の水準を満たしている（「Ａ」に該当する事項を除く。）。
　Ｃ：目標の水準を満たしていない（「Ｄ」に該当する事項を除く。）。
　Ｄ：目標の水準を満たしておらず、主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要。

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ―1	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
業務に関連する政策・施策	政策目標１２　文化芸術の振興 施策目標１２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法　第１２条　第２号
当該項目の重要度、難易度	—	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
収蔵品件数（件）	(4館計)	実績値	—	126,872	127,453	128,208	130,211	131,191	131,433
文化財購入費（百万円）	(4館計)	実績値	—	1,773	1,438	1,736	1,263	1,224	1,110
寄託品件数（件）	(4館計)	実績値	—	12,056	12,127	12,240	12,469	12,385	12,495
寄贈品件数（件）	(4館計)	実績値	—	563	318	518	348	125	155
各年度における収蔵施設の収容率（%）	(東博)	実績値	—	—	180	180	133.8	133.8	133.8
	(京博)	実績値	—	—	100	100	100	100	100
	(奈良博)	実績値	—	—	99	99	99	99	99
	(九博)	実績値	—	—	80	85	80	80	90
資料等のデジタル化件数（件）	(東博)	実績値	24,471	30,013	25,334	26,972	25,575	26,475	20,106
	(京博)	実績値	3,816	5,966	5,820	4,444	3,380	5,333	5,633
	(奈良博)	実績値	5,373	3,875	3,081	3,017	3,047	3,001	3,017
	(4館計)	実績値	33,660	39,854	34,235	34,433	32,002	34,809	28,756
修理件数（本格修理）（件）	(4館計)	実績値	—	131	107	105	89	75	83
修理のデータベース化件数（件）	(4館計)	実績値	—	269	274	297	254	264	220
博物館の年間総来館者数（人）	(4館計)	実績値	—	3,987,831	3,663,777	4,728,996	3,849,021	4,251,725	800,183
平常展観覧者数（人）	(4館計)	実績値	—	1,462,998	1,498,554	1,669,342	1,636,933	1,712,656	320,004

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	8,925,336	8,178,201	8,624,908	9,657,051	9,176,897
決算額（千円）	8,699,185	9,449,056	10,574,317	12,115,612	8,619,032
経常費用（千円）	6,418,247	6,570,340	7,267,907	8,551,243	6,882,546
経常利益（千円）	75,653	183,733	80,728	23,986	−162,605
行政サービス実施コスト（千円）	7,679,590	7,032,313	7,835,106	−	−
行政コスト（千円）	−	−	−	12,816,054	9,659,860
従事人員数（人）	97	100	98	98	99

※予算額は、４国立博物館の年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、４国立博物館の決算額を計上している。
※予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

平常展展示替件数(件)	(東博)	実績値	―	6,930	8,538	6,616	5,981	5,813	5,041
	(京博)	実績値	―	1,145	943	973	1,021	1,140	458
	(奈良博)	実績値	―	286	427	210	232	239	261
	(九博)	実績値	―	1,513	1,654	1,594	1,779	1,641	1,671
平常展展示総件数(件)	(東博)	実績値	―	8,911	10,918	10,223	9,253	9,267	9,048
	(京博)	実績値	―	1,438	1,068	978	1,038	1,147	467
	(奈良博)	実績値	―	620	664	548	462	461	490
	(九博)	実績値	―	2,628	2,208	1,894	1,995	1,894	1,964
平常展来館者アンケート満足度(%)	(東博)	実績値	―	82	71	87.3	89.2	90.2	85.8
	(京博)	実績値	―	83	75	84.4	89.7	79.1	78.5
	(奈良博)	実績値	―	78	88.9	90.1	92.5	93.2	94.2
	(九博)	実績値	―	72	73.8	77.8	73.6	77.1	-
特別展来館者数(人)	(4館計)	実績値	―	2,524,833	2,165,223	3,059,654	2,212,088	2,539,069	480,179
特別展開催回数(回)※海外展を含む	(4館計)	実績値	―	17	23	16	18	17	9
特別展来館者アンケート満足度(%)	(東博)	実績値	―	75	87.9	86.4	84.2	86.6	85.5
	(京博)	実績値	―	87	78.1	81.9	94.6	71.6	73.9
	(奈良博)	実績値	―	79	86.4	88.1	89.8	91.4	91.1
	(九博)	実績値	―	88	85.9	87.2	86.7	84	89.2
海外展回数(回)	(合計)	実績値	―	2	5	2	2	0	0
来館者アンケート満足度(%)	(東博)	実績値	80	―	70.4	68.1	71.3	71.7	65.4
	(京博)	実績値	80	―	40.2	63.4	73.1	67.4	74.5
	(奈良博)	実績値	80	―	68	70.5	75.8	81.9	71.4
	(九博)	実績値	80	―	77.2	63.7	61.6	70.2	-
外国人アンケートの満足度(%)	(東博)	実績値	―	―	69.7	74.8	72.7	76.9	-
	(京博)	実績値	―	―	69.3	73.5	82.9	67.3	100
	(奈良博)	実績値	―	―	67.7	69.7	79.8	79.1	83.4
	(九博)	実績値	―	―	78.8	84.6	78.1	80.8	-
講演会回数(回)	(4館計)	実績値	―	―	308	341	237	219	67
講演会等参加人数(回)	(4館計)	実績値	―	33,111	35,472	43,143	24,623	23,099	55,294
キャンパスメンバーズ加入校数(件)	(4館計)	実績値	―	129	129	134	139	142	143
ボランティア数(人)	(4館計)	実績値	―	896	841	877	867	838	809
賛助会等加入件数(件)	(4館計)	実績値	―	906	890	1,089	1,244	1,356	1,186
友の会・メンバーズパス加入者数	(4館計)	実績値	―	39,463	43,732	33,354	29,098	29,934	16,181
体験型プログラム等実施回数(回)	(4館計)	実績値	―	1,972	3,544	3,237	3,085	3,126	380
体験型プログラム等参加	(4館計)	実績値		223,833	228,680	563,931	362,449	459,725	52,362

者数(人)									
ウェブサイトアクセス件数(件)	(東博)	実績値	3,925,429	6,724,460	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923
	(京博)	実績値	2,274,464	3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100
	(奈良博)	実績値	953,946	1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864
	(九博)	実績値	1,696,500	2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955	824,819
	「e国宝」	実績値	―	1,788,265	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236	1,952,296
学術雑誌等への論文掲載数(件)	(合計)	実績値	―	197	204	269	259	256	225
海外研究者招へい数(人)	(4館計)	実績値	―	149	127	63	126	73	0
研究員派遣数(人)	(4館計)	実績値	―	161	164	157	152	160	1
定期刊行物等の刊行数(件)	(4館計)	実績値	37	36	37	38	38	39	37
テーマ別展示の開催件数(件)	(4館計)	実績値	―	50	52	46	50	37	32
講演会等の開催回数(回)	(4館計)	実績値	―	300	308	341	303	219	67
文化財の貸与件数(件)	(4館計)	実績値	―	1,530	1,561	1,544	1,858	1,488	1,235
公私立博物館等に対する援助・助言件数(件)	(合計)	実績値	―	329	381	483	436	559	422

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和2年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細からB評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜指摘事項，業務運営上の課題及び改善方策＞** 新型コロナウイルス感染拡大により，人々の価値観が変化しているなか，「新しい生活様式」に対応した展覧事業等のあり方を確立することが期待される。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・寄贈品・寄託品の増加は，寄贈者や寄託者とこれまで築いてきた信頼関係があってこそのことであり，評価したい。 ・多言語対応，ミュージアムショップ等，継続的な発展と充実が見られる。 ・文化財活用センターに，文化財公開施設からの新型コロナウイルス感染症対策に関する相談窓口を設けたのはタイムリーであり，評価できる。
（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 中期目標の期間の最終年度（平成32年度）までに，収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルを確立すること。 （目標水準の考え方） 「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）平成27年3月」において，文部科学省は，各独立行政法人に対して，平成28年度までのできるだけ早い時期に行動計画を，平成32年度までに個別施設計画を策定するよう促すこととされている。	**＜主な業務実績＞** ・施設の特性や維持管理・更新等に係る取組状況を踏まえつつ、メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画を策定した。本館保存活用計画検討委員会を開催し、外部有識者の意見等を踏まえ検討を行った。（東博） ・トーハク新時代プランに基づき庭園を通年開放するため、庭園整備工事（Ⅱ期）を実施した。（東博） ・トーハク新時代プランに基づき変更された本館の展示室について基本計画を修正した。（東博） ・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた個別施設計画の策定を行い、スケジュールどおりに取りまとめた。今後この計画を基に次期点検・診断等に活用しつつ継続的に更新していく。（京博） ・本館（明治古都館）改修計画及び観覧環境の再整備計画に向けた、埋蔵文化財発掘調査を行った。（京博） ・各種設備のメンテナンス更新計画及び状況調査を行い、概算要求を行った。展示室の適正な温湿度管理のため、	**＜評定と根拠＞** 当機構は、メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画を策定した。これに基づき個々の施設の現況調査を継続的に実施し、施設整備を推進した。 東京国立博物館では、外部有識者やオブザーバーである文化庁や東京都及び台東区の文化財担当者が出席した本館保存活用計画検討委員会を2回開催した。また、トーハク新時代プランに基づき、順調に庭園や休憩スペースの整備をすすめた。 京都国立博物館では、メンテナンスサイクルについては、スケジュールどおりに取りまとめ作業を行った。埋蔵文化財発掘調査については新たな遺構の検出などもあり、調査範囲や調査期間に変更が生じつつも調査を実施した。	

	老朽化した空調機メンテナンス計画に基づき、機器のメンテナンス修繕を行った。（奈良博） ・文化財保存修理所の空調設備の改修時、中性能フィルターを追加した。監視カメラ設備の健全な状態を保持するため重要度・老朽度の高い装置から優先的に更新を行った。エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行った。（奈良博） ・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル計画確立のため、個別施設計画を策定した。（九博） ・老朽化が著しく、緊急度・重要度の高い中央監視設備（空調設備関連の監視制御）の更新や、プレート式熱交換器のプレート洗浄整備を行った。また、文化交流展示室のエアハンドリングユニット（空気調和機）の腐食箇所を塗装した。一部展示室内のメンテナンス照明等を、LED照明器具へ更新した。特別展示室の床面ワックスの全面剥離と再塗布を行った。（九博）	奈良国立博物館では、メンテナンスサイクルの更新計画に基づき緊急度の高い事項について概算要求を行った。監視カメラ設備装置の更新は文化財活用基金にて行った。 九州国立博物館では、収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル確立のため、個別施設計画を策定し、空調設備等各設備についてメンテナンスを実施した。 **＜課題と対応＞** 収蔵・展示施設の老朽化の課題があるが、計画的に耐震対策及びセキュリティの強化に取り組んだ。メンテナンスサイクルを構築し、施設設備の点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用し、継続させる。	
②有形文化財の収集等 【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の収集に関する取組状況 （収集件数，文化財購入費，寄贈・寄託品件数） （目標水準の考え方） ・国立博物館が購入する価値の高い有形文化財（美術工芸品），所有者等との直接交渉が必要であり，予算等との関係からも必ずしも計画どおりに購入できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	**＜主要な業務実績＞** 4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・収蔵品件数　131,433件 2年度新収品　242件（うち購入69件、寄贈155件、編入18件） ※元年度新収品980件 ・文化財購入費　1,110百万円 ※元年度1,224百万円（114百万円減） ・寄託品件数　12,495件 2年度新規寄託188件、返却78件。 ※元年度　12,385件（110件増） 各指標の詳細はアウトプット情報を参照。 ○購入 ・購入件数は69件（元年度購入件数87件）であった。 ・購入文化財のうち、重要文化財「法然上人絵伝」（東博）は、現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例であり、東博所蔵のもとは一連であった作品とともに展示	**＜評定と根拠＞** 当機構では、各館の収集方針に従い、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集し、収蔵品件数は元年度4館合計131,191件のところ、2年度は131,433件に増加した。 各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 寄附金の活用や積立金により購入件数・質ともに高水準の実績を上げることができている。寄託品件数は、元年度は12,385件のところ、2年度は12,495件であった。寄託者との信頼関係の構築に尽力し、着実に新規寄託を受け入れている。 購入については、重要文化財「法然上人絵伝」（東博）、重要文化財「法花蓮鶯文有蓋壺」（九博）など、非常に価値の高い多くの逸品を購入することができた。	

	することで高い展示効果が得られる。このほか、「竹石図　池大雅筆、宮崎筠圃賛」（京博）、重要美術品「東大寺戒壇院扉絵図」（奈良博）、重要文化財「古文書手鑑」（九博）、重要文化財「法花蓮鶯文有蓋壺」（九博）など。	・高い展示効果のある作品を重点的に購入することを主眼として、重要文化財「法然上人絵伝」を購入した。本作は現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例であり、当館に長らく寄託されていたものである。これまでも多く活用され、高い展示効果があることから、本作を購入できたことは意義深いものである。（東博） ・「竹石図　池大雅筆、宮崎筠圃賛」、「三足香炉」、「短刀　銘達磨」、「法花蓮池水禽図壺」、「夾紵棺断片」、「菊桐蒔絵耳盥」、「流水沢瀉蒔絵螺鈿香枕」、「鼠麻地柳に浮舟文様染繍帷子」、「淡浅葱紗綾地菊花紋団扇文様染描絵夜着」といった、京都に関わりが深く、京都文化を後世に伝える上で重要な作品を購入することができた。（京博） ・彫刻 1 件、絵画 1 件、書跡 1 件、工芸 4 件、考古 3 件と、奈良ゆかりの仏教美術作品や、日本美術史に重要な位置を占める作品を、各分野にわたってバランス良く、かつ数多く収集することができた。（奈良博） ・2 年度も元年度と同様に収集件数を大きく伸ばすことができた。当館が収蔵するにふさわしく、文化交流を端的に示す「古文書手鑑」などのほか、「花鳥図」や「花鳥堆朱盤」など、時代の美意識を示す作品もバランスよく収集した。（九博）
	○寄贈 ・作品の寄贈については 8 人の所蔵者から、52 件の文化財を受け入れた。重要美術品の「和漢朗詠集巻上断簡（戊辰切）」は藤原伊行筆である。平安時代末に『和漢朗詠集』が金銀箔の散らされた料紙に書写されていることは大変貴重であり、巻下はその父・藤原定信筆として当館所蔵であるため、書跡分野においてより高い展示効果が期待される。（東博） ・寄贈については、絵画と染織作品を受け入れることができた。（京博） ・計 8 件の寄贈を受けた。彫刻部門で寄贈品として受け入れた「木造蔵王権現立像」は平安時代らしい造形感覚にあふれた作品で、館蔵品に蔵王権現像が少ないことと併せ、展示効果は高いと見込まれる。（奈良博） ・84 件の新規寄贈があった。刀剣 9 件のうちには豊後や肥前、薩摩など九州の刀工による作品が含まれ、九州ゆかりの刀剣類が充実することとなった。このほか鎌倉時代から明治時代までの刀、短刀、脇差、槍など多彩な刀剣を収蔵することができた。（九博）	寄贈については、重要文化財を含む計 155 件もの受入があり、各館の所蔵品を補う受け入れができた。いずれも質量ともに充実しており、各館のコレクション及び展示・研究の核となるものである。
	○寄託 ・作品の寄託については 5 機関 3 個人から、69 件を新規に受け入れた。寄託品のうち国宝は、書跡 1 件、東洋書跡 1 件。重要文化財は、絵画 1 件、書跡 8 件、彫刻 2 件、東洋書跡 8 件である。（東博） ・重要文化財「柿・栗図」、重要文化財 「芦雁図襖 雲谷等顔筆」、重要文化財「鉄磬籠 貞永二年銘」など重要文	寄託については、重要文化財「柿・栗図」（京博）、「木造阿弥陀如来立像」（奈良博）、など、国宝・重要文化財を含む 188 件を新規に受け入れた。 寄託者・寄贈者とのこれまでの地道な信頼関係により、順調に寄贈寄託を受けることができた。博物館

	化財 4 件を含む多くの貴重な作品を受け入れることができた。新規寄託品件数 43 件（京博） ・新規寄託品数 26 件。絵画部門で寄託品として受け入れた「中将姫像」は、近世以前に描かれた中将姫単独画像の数少ない作例の一つで、宮廷周辺の人物が関わって青蓮寺のために描いた由緒の明らかなものとして大変貴重。当館絵画部門の柱の一つである南都の信仰に関わる絵画の一角を成すものと位置付け得る。（奈良博） ・50 件の新規寄託があった。絵画 2 件のうち 1 件は、大分の臨済宗の古刹萬壽寺より、江戸時代の僧白隠慧鶴による「達磨図」を受け入れた。展覧会にも出品され、白隠の最高傑作として知られる。縦 2 メートルもの大画面を持ち、展示効果が高い。（九博）	が担うべき文化財保存の役割を果たしつつ、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を継続することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げることができている。 **＜課題と対応＞** 文化財の調査等を通じた所蔵者との良好な関係の維持・発展により、今後も更に寄贈や寄託の充実を図っていく。
③有形文化財の管理・保存・修理等 【指標】 ・収蔵施設等の改善等に係る取組状況 （各年度における収蔵施設の収容率） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財（美術工芸品）の収蔵施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，文化財を適切な環境で保管するため，温湿度，照度，生物生息及び空気汚染等への対策を確実に行うことが求められている。このうち収容能力は，棚等の工夫の余地が一定程度あるものの，収蔵品の増加に伴い不足していくことが避けられない。したがって，国立博物館ごとに中長期的な収蔵施設の需要予測に基づく管理・保存方針を平成 29 年度までに策定し，予算計画等を立案することとする。なお，収容率は収蔵品数に大きく影響されるが購入・寄託・寄贈等による増加数の予測が困難であること，一定の基準で管理可能な収蔵施設の確保に当たっては一定の予算措置が必要となることから数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 【指標】 ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（前中期目標の期間の実績以上）	**＜主要な業務実績＞** ・収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行った。 ・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。 ・収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。（4 館） ・収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図った。また、収蔵品の保存カルテを作成した。（4 館） ・「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム protoDB）で更新されたデータを「ColBase」に自動的に反映する機能を継続して運用した。また多言語データ入力のためインターフェースを改善した。（東博） ・「収蔵品データ管理システム」による効率化と情報の利活用向上を進めた。また、収蔵する和古書・洋古書について 20,106 件のデジタル撮影を行った。（東博） ・収蔵庫等 50 ヵ所を対象に生物生息調査の実施及び、全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。また、生物生息調査結果等から改善を要すると判断した収蔵庫 2 か所、修理室 5 か所に対して除塵防黴清掃を実施した。また、収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを 706 件作成した。（東博） ・2 年度は、北収蔵庫において立体物の収納効率を上げるため、大きな平棚を設置し、収蔵品を再整理して配置した。（京博） ・館内のフィルム用スキャナを運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、2 年度は 5,633 枚のデジタル化を行った。また、劣化したマイクロフィルムから作成したデュープを使用し、2 年度にデジタル化を行い、マイクロフィルムのデジタル化はすべて終了した。（京博） ・貸与に伴う点検時に行う収蔵品の保存カルテ作成を継続し、2 年度は 191 件作成した。（京博）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、収蔵品の管理・保存は、収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図った。2 年度の 4 館の収蔵施設の収容率は東博 133.8%、京博 100%、奈良博 99%、九博 90%である。 博物館にとって収蔵品・寄託品の増加への対応は喫緊の課題であり、収蔵スペースの確保については、各館とも安全かつ効率的な収納について検討を継続し、対応している。 東京国立博物館では、本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟へ収蔵品・寄託品等の移動にかかる入札を実施し、予定分の移動と移動後の所在確認作業を終えた。また、3 年度に移動予定の収蔵品・寄託品等について、事前の整理作業を行った。本館で保管している収蔵品・寄託品等の管理棟への移動作業については、順調に進めることができた。館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境、文化財梱包に用いられる緩衝材の特性に関する調査を実施した。特に、2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について展示室の換気と環境維持の両立を図る必要があり、これまで蓄積してきた館内環境の調査を有効に活用することができた。 京都国立博物館では、元年度に比べ、スキャニングの外注を増やし、既存フィルムのデジタル化を積極的に行った。既存フィルムのデジタル化を進めることにより、文化財情報システムの収蔵品データ数を増やすことができた。 平成知新館展示室・収蔵庫、東収蔵庫の一体的な温湿度環境モニタリング調査を運用し、空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ解析結果とともに、エリア別の環境管理対策を実施することができた。2 年度は換気のための外気導入を重点的

	（参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数　103,975 件（平成 23～26 年度実績総数） 〈目標水準の考え方〉 ・データの蓄積は，膨大な収蔵品等について行う作業がある一方，写真撮影や修理等の機会に新たに取得するデータを追加する作業もあり，業務の優先度，必要性に応じて計画的に行う必要がある。	・東収蔵庫は、新館モニタリングシステムとの一体的な運用をはじめ、さらに 2 年度は換気のための外気導入と展示室内環境への影響に関するモニタリングデータの収集を行った。一方専用 LAN 経由での環境モニタリングが実施できない施設について、即時的に温湿度が分かる環境モニタリングシステム構築に向けて、2 年度は新手法の予備試験を実施した。平成知新館の展示室及び収蔵庫、東収蔵庫、北収蔵庫の定期的な歩行性昆虫類の生息調査、東収蔵庫の空気質調査を実施した。（京博） ・施設設備の充実、改善に向けた検討を行う、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを毎月 1 回（計 12 回）開催した。（奈良博） ・館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約 2 か月に 1 度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することにより IPM を推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示･収蔵環境の衛生保持に努めた。（奈良博） ・収蔵庫内の保管スペースを確保するため、文化財保管用の棚を増設した。また、収蔵庫のセキュリティの向上を図るため、監視カメラの位置調整及び機器の更新を実施した。当館は所蔵品以外にも長期借用（約 1,500 件）、寄託品（約 1,200 件）など数多く管理している。元年度からの 3 年間計画となる収蔵品の実査（棚卸し）を継続し、全工程の 6 割以上を完了した。（九博） ・IPM の考え方に基づき、館内各エリアの温湿度管理、粘着トラップによるモニタリング及び清掃を徹底し、必要に応じて有害生物処理を実施した。展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積した。また、粘着トラップを館内全域に設置し、毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握した。さらに、トラップの捕獲データ等を参考として発生源、侵入経路を推測し、館内各エリアの徹底清掃、並びに館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行ったことにより、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。（九博） ・文化財の展示・保存空間における揮発性有機化合物濃度を測定し、より良い展示・保存環境を作り出すための各種手法を検討した。（九博）	に実施し、展示室内環境への影響に関するデータ収集・対策などへ新たに対応した。明治古都館では、イベント会場としての活用後には徹底した IPM を実施し、保存と活用のバランスを図ることができた。 奈良国立博物館では、毎月 1 回、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを開催し、収蔵庫等の温湿度変異調査の報告・改善・検討を行った。また、文化財を保管・展示している諸室の適切な温湿度維持のため、改善に向けた検討を行い、計画的にメンテナンスを行うことで、環境改善の問題確認、改善に取り組むことができた。 元年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。必要に応じて展示ケースのシール部分の交換や修理等を進め、展示環境の向上を図った。 九州国立博物館では、年度計画どおり、収蔵庫の点検を実施し、必要に応じた整備や修理、調整を行った。2 年度は「九州国立博物館文化財情報システム」の鑑査会議を管理する機能を追加したことにより、事務作業の効率化が可能となり、文化財情報の一元管理がさらに進んだ。新規撮影画像の画像データ処理、データベースの整備を進め、内外へ公開することで利便性を向上した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市民ボランティアとのトラップ交換等の活動を実施できなかった。しかし、館内の温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に関するデータは連続的・継続的に蓄積できた。さらに、取得したデータに基づいて環境の改善に取り組むことができた。 **＜課題と対応＞** 引き続き収蔵スペースの確保及び安全かつ効率的な収納のための収蔵環境の整備を実施する。	

	3)有形文化財の修理 【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の修理に関する取組状況 （修理件数，修理のデータベース化件数） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財（美術工芸品）は，その状態に応じて，適切な時期に適切な処置を施さなければ，その価値を将来にわたって継承することができないことから修理等に関する方針を設け，それにしたがって計画的に取り組むべきである。 ・有形文化財（美術工芸品）に当たっては，専門的かつ高度な技術を要する外部の修復業者等との契約が必要であるが，予算措置の状況や相手方とのスケジュールの都合上，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 〈想定される外部要因〉 ・有形文化財（美術工芸品）の修理等には，一定のまとまった予算措置が必要であり，その状況によって計画を変更せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。	**＜主要な業務実績＞** 4 館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行った。 ・修理件数（本格修理）　83 件 詳細はアウトプット情報を参照。 ・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した。（4 館） ・保存修復課に、染織文化財に関する修理技術者 1 名を配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を行った。作品の劣化予防のために 238 件の応急修理を実施した。また、修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む 250 件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めて、44 件の本格修理を実施した。（東博） ・月次風俗図屏風（A-11090）の修理中における透過赤外線撮影調査を行い、重なっている線描を調査した。また、同作品と類似する作品である新潟県立歴史博物館所蔵「四季耕作図屏風」の反射赤外線撮影調査も行い、先に撮影した透過赤外線画像、元年度に撮影した反射赤外線画像、X 線画像と比較し、修理の方向付けに寄与した。（東博） ・「重要文化財　遠浦帰帆図　伝牧谿筆」をはじめとする絵画 7 件、金工 1 件、考古 4 件の本格修理を行った。特に点数が多く、大型であることから予算の確保が難しく懸案となっていた「重要文化財　芦雁図　伝宗湛・宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の修理に着手することができた。（京博） ・X 線 CT 撮影の一例として、西教寺蔵阿弥陀如来像の構造調査では、表面からは正確な位置の把握が難しかったほぞ穴とその内部で折れている旧ほぞの構造を明らかにすることができ、修理時の作業の有用な情報を提供できた。また解体修理時に重要となる、釘や鎹の位置関係を 3 次元画像にすることで、金具の取外す手順の参考にすることができるなど、修理前に画像提供することで修理指針に貢献することができた。（京博）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の科学機器の活用を全館で行い、計画的な修理へ役立てている。収蔵品等の修理においては、運営費が限られる中、寄附金や助成金を活用しており、本格修理件数は元年度合計 75 件から 2 年度合計 83 件となった。 また、修理のデータベース化についても、収蔵品修理資料のデータベース化の調査、修理報告書サーバーの更新等各種整備を継続して実施することができ、修理のデータベース化件数は 2 年度合計 220 件となった。 文化財保存修理所等については、京博、奈良博及び九博では施設の修繕等を行った。奈良博では、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とするため文化財保存修理所の特別公開を実施した。 東京国立博物館では、緊急性の高い本格修理及び応急修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、寄附金の獲得に努め、国宝 2 件、重要文化財 2 件を含む修理を実施した。なお、本格修理の件数が減少しているのは、30 年度からの継続事業に修理費をあてたこと、移動を伴う修理監督機会の抑制などの一時的な新型コロナウイルス感染拡大防止策によるためで、中期修理計画は予定通りに運用している。 　肉眼では判別がつかない作品の特徴を様々な光源を用いた特殊撮影を行うことで作品の本質を捉え、修理前、修理中における方針の決定や修理中にしか行えない作品研究に寄与することができた。また平面作品には X 線撮影、立体作品には X 線 CT 撮影を行う等、作品と目的に合わせた構造や材質の調査を行い修理方針の決定に寄与した。 京都国立博物館では、旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵はその数の多さから費用的な問題があったが、大型寄附金を活用し、修理に着手できたことは大きな成果であり、この修理により、今後の中世水墨画分野での研究に資することが大いに期待される。修理資料のデータベース化については、サーバーの新設で、過去分を含め電子情報の保全に一定の方向性を打ち出すことができた。 また、作品の状態調査や文化財修理所各工房からの調査依頼を受入れ、継続的な科学分析調査を実施した。修理前調査は、修理方針の策定に有用となる文化財資料の情報を修理技術者と共有することができた。また 2 年度は絹本の裏彩色と表彩色についての詳細な調査を実施することができるなど、中期計	

		・館蔵品本格修理 7 件のうち、新規 5 件、元年度からの継続事業 2 件を実施した。（内訳：絵画 3 件、彫刻 1 件、工芸 2 件、考古 1 件）。年度内に 5 件が完了した。（奈良博） ・30 年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第 2 号を刊行した。彫刻の材質調査や銘文集成なども掲載することで、修理実績や内容を広く伝えることができた。（奈良博） ・紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。また、絵画作品の修理の際に、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。（実施計 8 回）。（奈良博） ・3 年 1 月 8 日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。新型コロナウイルス感染防止のため、例年より参加者を半数程度に絞り実施したが、報道機関を含む 70 名の参加があった。（奈良博）	画にある彩色材料調査等の分析事例の集積とともに文化財の技術の解明にも有効なデータを得ることができた。 奈良国立博物館では、元年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。京都大学と連携して行っている彫刻作品の樹種同定調査は、2 年度は目視で樹種を判別できたため、実施しなかった。その他では、絵画作品の赤外線撮影を実施するなど、8 回の調査を実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ各種の調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。	
		・館蔵品を中心に損傷状況や展示計画等を勘案し、緊急性の高い文化財 23 件（本格 20 件、応急 3 件）の修理を実施した。当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て、館蔵品、寄託品、九州所在の地方公共団体・社寺等所蔵品の保存状態調査を行い、効率的な調査の実施と現実的な修理計画の策定、適切な処置へとつなげることができた。（九博） ・当館文化財保存修復施設にて当館経費による修理 20 件及び所有者負担による修理 32 件、合計 52 件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による 3 件の修理事業を実施した。（九博）	九州国立博物館では、重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む 20 件の本格修理を計画的に実施できた。また、修復施設使用者の協力を得て、保存状態調査を効率的、的確に実施し、3 年度の本格修理の計画を策定することができた。 修理後は当館で展示活用を図ることで、修理の成果を一般に公開することができた。また、修理前及び修理中に、伝統的な紙や絵の具の材質調査、製作技法などの構造調査等を行い、入念に修理方針を検討することができた。伝統的な修理に科学調査の結果を取り入れ、適切な修理を実施することができた。 **＜課題と対応＞** 文化財を活用に資するには、修理事業が極めて重要である。引き続き計画的に本格修理や劣化予防のための応急修理を実施するとともに、伝統的な修理技術や最新の科学機器の活用など技術開発研究を実施する。	

（2）展覧事業 東京、京都、奈良、九州 4 館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。また、日本博事業及び紡ぐプロジェクト事業を関係機関と連携して執り行う。 ①平常展 【指標】 ・平常展の来館者数（前中期目標の期間の実績以上） ・平常展の展示替件数（前中期目標の期間の実績以上） ・平常展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・平常展の来館者数　4,095,851 人(平成 23～26 年度実績総数) ・平常展の展示替件数　29,846 件(平成 23～26 年度実績総数) 【関連指標】 ・平常展の展示総件数 〈目標水準の考え方〉 ・平常展は，国立博物館が収蔵等する有形文化財（美術工芸品）の特徴に基づく展示を行うこととし，来館者数，展示替件数に関する目標は，前中期目標の期間の実績以上であることとする。 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間においても実施しているが，展示に関する満足度について 5 段階評価で上位 2 位以上を選択した割合は国立博物館の平均で 73%となっている（見込評価時点）。 〈想定される外部要因〉 ・平常展については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。	**＜主要な業務実績＞** ・博物館の年間総来館者数 2 年度合計 800,183 人 ※元年度 4,251,725 人（約 81%減） 内訳はアウトプット情報を参照 （平常展） ・平常展来館者数　320,004 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・平常展陳列替件数　7,431 件 ・平常展陳列総件数　11,969 件 ・平常展来館者アンケート満足度 それぞれアウトプット情報を参照 ・定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。（4 館） ・満足度調査等を実施し、集計結果をもとに環境改善に努めた。 ・日本文化や歴史に親しみの薄い来館者も作品鑑賞を楽しめるよう、6 月の開館再開とともに、本館 1 室はプロジェクターで日本美術の流れを紹介する導入映像を投影し展示の概要を総覧するとともに、4 室「茶の美術」、9 室「能と歌舞伎」ではデジタルサイネージで展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を上映した。（東博） ・特別企画「文化財修理の最先端」は、当館敷地内に併設されている文化財保存修理所開所 40 周年を記念し、開催した展覧会である。近年修理された文化財のなかでも、特に注目される作品を展示した。展示件数 52 件のうち、国宝 7 件、重要文化財 28 件と厳選した展示内容とした。平常展ではあるが京都新聞が共催に入ることで、広く周知を図った。関連イベントとして、シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」を開催し、広く文化財修理の重要性を訴える活動も行った。（京博） ・仏像館では、常時 100 件以上（うち重文 38～40 件、国宝 1 件を含む）の仏像を公開した。6 月 2 日からは、特別公開として京都・大智寺の重文・文殊菩薩騎獅像を、胎内 CT 調査の成果とあわせて公開した。また、像高が 5m を超える奈良・金峯山寺の重文・金剛力士立像 2 躯の修理が完了し、3 年 2 月 23 日から特別公開を開始した。本像については金峯山寺の協力を得、3 年 3 月 20 日から来館者の写真撮影を可能とした。（奈良博） ・「きゅーはく　どうぶつえん」は新型コロナウイルスの影響による臨時休館のため、会期を変更して実施した。平易な口語による解説文、動物の鳴き声の環境音響など、より親しみやすくするための工夫を施し、と	**＜評定と根拠＞** 当機構博物館の 2 年度の年間総来館者数は、合計 800,183 人で、元年度合計 4,251,725 人より約 81%減少した。これは、新型コロナウイルス感染拡大による臨時閉館や外出制限などの影響によるものである。 質の高い展示等を数多く実施し、来館者満足度は概ね高く、また多言語化により、外国人来館者を含む来館者のニーズに応えた対応をしている。 （平常展） 各館の特色を十分に活かし、テーマ別、時代順等の展示を行った。 ・平常展来館者数については、4 館合計で元年度 1,712,656 人のところ、2 年度は 320,004 人となった。 ・平常展展示替件数については、全体的な計画の元で適切に行った。東博、京博、奈良博、九博の計画値は、それぞれ 6,009 件、919 件、314 件、1,253 件のところ、実績値は、5,041 件、458 件、261 件、1,671 件となった。 また、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。 ・各館の平常展の満足度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前予約制の導入、一部閉室や特集陳列の会期変更など厳しい状況が続いたが、元年度に引き続き、全体的に高い水準を維持することができた。 ・全ての作品キャプションに英語・中国語・韓国語訳を付し、また来館者アンケートや音声ガイドにも上記 3 か国の多言語化を導入し、外国人来館者へのサービス向上を進めた。（4 館） **＜課題と対応＞** 2 年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため緊急事態宣言発出による臨時休館のため、入館者数、展示替え件数などが大幅に減少した。しかし、所蔵品とその研究成果を公開する意欲的な特集を計画的に実施するなど、着実に事業を実施した。各館とも多言語解説や映像などを用いたわかりやすい展示を推進している。「新たな生活様式」に対応した発信方法を模索するとともに、引き続き、感染拡大防止策を講じながら、魅力的な展示の公開の充実を図	

②特別展等 【指標】 ・特別展に関する取組状況（特別展の開催回数，特別展の来館者数） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・特別展の来館者数　8,824,511人（平成23～26年度実績総数） ・特別展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） 〈目標水準の考え方〉 ・特別展の企画は，国立博物館が継続的に行っている調査研究の成果や，諸外国との国際文化交流の計画に関係して，通常２，３年程度の期間を要する。また，多くの特別展は新聞社，放送事業者等との共催であり，独自の計画のみで完結しない性質を持っている。したがって特別展は，中期目標又は中期計画において定性的又は定量的な指標を示すことが困難であり，文化財機構が年度計画において定める具体的な数値目標について評価することとする。 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間においても実施しているが，展示に関する満足度について５段階評価で上位２位以上を選択した割合は国立博物館の平均で82%となっている（見込評価時点）。 〈想定される外部要因〉 ・特別展については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。	くに親子連れの来場者に好評だった。会場は撮影可能とした。（九博） （特別展） ・特別展来館者数　480,179人 ・特別展開催回数　９回 ・特別展来館者アンケート満足度 内訳はアウトプット情報を参照 ・特別展「きもの　KIMONO」について、染織文化財の特別展は47年ぶりの開催である。日本文化の１つとして海外でも知られる「きもの」が、単に伝統衣装として存在するのではなく、日本の卓越した染織工芸技術によって培われた、現在も発展し続ける文化である意義を、日本の自然や風土に根差した四季感を意識しつつ、総数294件の優品によって紹介することができた。作品件数294件（うち国宝４件、重要文化財22件）91,830人、満足度　93.1%（東博） ・特別展「桃山―天下人の100年」では、「桃山文化」が政治史上の安土桃山時代に限られたものではなく、室町時代末を胎動期として始まり、江戸時代初期まで続いていることを示すと同時に、戦国武将が争う下剋上の時代から、江戸幕府による平和な治世へと移り変わるなかで、それぞれの時代の人々の意識を反映して変化していることを、約100年の期間で視覚的に示すことができた。作品件数231件（うち国宝17件、重要文化財94件）82,808人、満足度　91.2%（東博） ・御即位記念 特別展 「皇室の名宝」は、天皇陛下の即位とともに令和の世を迎えたことを祝し、宮内庁三の丸尚蔵館の収蔵品と日本の宮廷で培われた文化を、皇室ゆかりの地である京都において紹介するために企画された展覧会である。第一章「皇室につどう書画」では、「喪乱帖」（王羲之筆）、「春日権現縁起絵巻」（高階隆兼筆）、「動植綵絵」（伊藤若冲）など、三の丸尚蔵館が収蔵する名だたる作品を紹介し、第二章「御所をめぐる色とかたち」では、かつて京都御所で繰り広げられた宮廷生活を追体験できるよう、「礼冠」「礼服」など江戸時代以前の即位礼を髣髴させる品々や、宮廷周辺で享受された屏風や古筆の名品、天皇の肖像画や宸翰、京都御所を飾った調度類などを、三の丸尚蔵館のみならず宮内庁諸機関の収蔵品も交え紹介した。85,315人、満足度81.8%（京博） ・特別展「第72回正倉院展」では、正倉院宝物約9,000件から代表的な宝物、近年研究の進展した宝物など59件を選び公開した。２年度は薬物、武器・武具がまとまった件数が出陳されたほか、遊戯具、花氈、鏡、染織品、刀子、箱、机、文書、経巻などが出陳され、宝物の全体像を観覧する構成となった。また、休憩コーナーでは花氈の再現模造品を展示し、花氈の制作工程	る。 （特別展） ・特別展開催回数は、２年度は新型コロナウイルスの影響による臨時休館等のため、４館で全９回となった。全てで目標値を上回る特別展を実施することはできなかったが、来館者の安全に配慮し、出品者や共催者と調整したうえで、時機に適った企画や学術的に意義の高い企画、地域文化に深く関わる展示内容を展開する等、質的に我が国の中核拠点にふさわしい事業を展開し、臨時休館を経て特別展を再開した際には、感染予防対策をふまえた観覧方式を工夫することができた。各展覧会とも、非常に高い満足度を達成することができた。 ・	

	をわかりやすく説明することができた。36,344人、満足度　91.3%（奈良博） ・特別展「奈良・中宮寺の国宝」は、中宮寺の寺宝を一堂に紹介する展覧会として、本展が約30年ぶりのこととなる。本展では、この間における歴史学、考古学、美術史学の研究成果を反映し、中宮寺の歴史を新たな視点で捉え直すことができた。また、中宮寺では「如意輪観音」としてまつられる本尊をアジアの半跏思惟像の展開の中に位置づけ、飛鳥時代の制作当初の尊名について検討を行った。なお、中宮寺では本尊を前方からしか拝観できないが、造作や照明を工夫し、本展では360度全方向から鑑賞できるようにした。50,432人、満足度89.2%（九博） （海外展） ・海外展回数　０件	**＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、臨時閉館となったことや、作品の調査や輸送に困難が生じたことなどにより、一部の特別展が中止や延期となった。今後も開催する展覧会については、来館者の安心・安全のため、事前予約制や館内消毒の徹底など感染拡大防止策を講じたうえで実施する。	
③観覧環境の向上等 【指標】 ・観覧環境に関する来館者アンケート（上位評価が80%を超えること） 【関連指標】 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況 ・多言語表記に関する外国人アンケート 〈目標水準の考え方〉 ・来館者アンケートは，展覧事業だけでなく，テナント事業者が運営するショップ，レストラン等も含め，幅広い観点で実施し，観覧環境の向上に資するものとする。 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況は，法令改正等にも注意しながら，基準を満たしているかモニタリングする。 ・多言語表記は，展示の解説パネル等のみならず，導線や各種施設，サービスの提供に関するものも含め，アンケートに基づく改善に努める。	**＜主要な業務実績＞** 施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。（4館） ・日本博物館協会ガイドラインに従い、新型コロナウイルス感染症拡大予防策として、館内の消毒や換気の実施、従業員の健康管理及び手指消毒並びにマスク着用などの基本的な対策を徹底した。（4館） ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一時配布を中止としたが、多言語（7言語）による案内パンフレットの配布を行った。（4館） ・平常展音声ガイドは4言語での提供を行った。（4館） ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、外国人アンケートの実施、夜間開館の実施アンケートを中止とした。平常展及び各特別展時において来館者アンケートを実施し、その結果を観覧環境改善に活かした。（4館） ・ミュージアムショップと協力し、オリジナルグッズの開発を行った。（4館） ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温機器や案内看板などを整備し、来館者の安全・安心を図るとともに、定期的な消毒・換気の徹底など適時に対応した。（4館） ・本館17室保存修復展示室の展示ケースおよびグラフィックを刷新、ディスプレイを導入し鑑賞環境の向上を図った。また、本館展示室内の休憩用ソファを増設するとともに快適性、デザイン性の高いものに刷新し、満足度の向上を図った。本館１室、４室及び９室に、展示作品の理解や鑑賞に供するための映像コンテンツを設置	**＜評定と根拠＞** 当機構では来館者アンケートを実施し、随時館の運営に反映している。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズ等を踏まえ展覧会ごとに観覧料金及び開館時間の弾力化などに取り組んだ。 来館者アンケート満足度調査については、一部目標に到達しなかったが、新型コロナウイルスの影響による、一部閉室やハンズオン展示やイベント等の中止、ガラスケースなどへの接触禁止のための注意案内や強制動線、レストランの休業などの特殊な状況下によるものである。引き続き満足度が向上するように継続して取り組む。 各館施設のバリアフリー化は一定の水準に達している。更に、我が国を代表する施設として多様な来館者に対応すべく、検討・工夫を継続して行っている。 ミュージアムショップ・レストランにおいて、オリジナルグッズの開発や、特別展に関連したメニューを提供するなどの取組みを行った。 英中韓の３言語の多言語化に取り組み、外国人来館者のサービス向上を図った。 東京国立博物館では、デジタルサイネージを導入するなど、従来よりも多くのデバイスを利用して、来館者等が日本文化に親しんでいただく観覧環境を整備した。更に総合文化展の音声ガイドは、日英２言語対応だったアプリ（トーハクなび）を更新し、２年度より４言語（日・英・中・韓）全てをアプリで提供する形とし、来館者サービスの向上に繋げる	

		し、本館 11 室前、20 室前及び便殿前に、多言語による案内用のデジタルサイネージを設置した。（東博） ・本館特別 3 室の内装改修等リニューアル工事を実施し、3 年 6 月（予定）のオープンに向けて整備を実施した。（東博） ・リニューアルしたアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase との連携を図り、最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みを整えた。また、展示室内に設置したビーコンとシステムを連動させることで、スムーズに解説を提供し、注目すべき作品への理解の促進を図った。また、新たに 200 件弱の平易な 4 言語（日、英、中、韓）による作品解説を作成し、システムに追加した。新たにアプリに搭載した Google Analytics のデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、より精度の高いデータを集積できる仕組みを整えた。（東博） ・当館所蔵品となって以降、評判の高い作品である伊藤若冲「玄圃瑞華」を広報ポスターとして広く利用するとともに、商品化を望む声が多いため、一筆箋、絵はがきセット、トートバックや手ぬぐいを制作した。来館者の利便性を高めるため、特別展の開館時間を延長した。（東博）	ことができた。 新型コロナウイルスの影響により中止した事業もあったものの、公開中のアプリ「トーハクなび」は計 2,355 件のダウンロード実績をあげた。作品解説件数も目標の 900 件を達成した。利用者は館内のみならず自宅からも博物館の文化財の解説やインタラクティブコンテンツにアクセスすることができ、継続的な教育事業の提供に寄与した。 また、5G 通信システムを利用した新しい鑑賞体験の提供や、ICT を活用したバーチャル空間での展覧会など、新感覚の展示を実施した。特に、「5G で文化財　国宝『聖徳太子絵伝』」のアンケートでは、「作品への理解が深まった」の回答が 93.3%に上った。 またミュージアムショップでは、当館所蔵品や展示に関連した新商品を製作するなど、より魅力ある商品構成とした。	
		・平常展及び特別展において、題箋及び解説等並びに音声ガイドを用いて情報提供を継続して 4 言語（日・英・中・韓）に対応した。ただし、特別展音声ガイドについては新型コロナウイルスの影響により、2 言語（日・英）での対応とした。（京博） ・当館が監修し、トラりんが研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの 3 巻（全 4 巻予定）を発売した。当館収蔵品及びトラりんをモチーフに、一筆箋、マスク等のオリジナルグッズを開発した。（京博）	京都国立博物館では、快適な観覧環境の提供を行うべく、博物館内の施設のバリアフリー化を実施した。新型コロナウイルスの影響により海外からの来館者数は減少したが、感染防止対策を 4 言語（日・英・中・韓）で案内することにより日本語以外を母国語とする来館者にも安心して観覧できる環境を整えることができた。	
		・6 月より、なら仏像館の鑑賞ガイド（日・英・中・韓）を従前の音声ガイドからリニューアルした。リニューアルによって作品解説をガイド機の画面上で見られるようになり、耳の不自由なお客様にもガイドの内容を楽しんでいただけるようになった。（奈良博） ・アンケート及びウェブサイトを通して寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望を踏まえ、展覧会に合わせた特別な商品を販売するなど、利用者へのサービス向上に努めた。当館の建物をデザインした手ぬぐい等のオリジナルグッズや、第 72 回正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。（奈良博）	奈良国立博物館では、多くの来館者が想定される特別展の際には案内看板を増設するなど、来館者の利便性向上及びよりよい観覧環境の提供に努めた。 アンケートの結果を踏まえ、敷地内にミュージアムショップやレストランの案内看板を設置するなど、利用率の向上に努めた。また、展覧会にちなんだオリジナルメニューを設定し、利用者の満足向上に努めた。さらに、ミュージアムショップやレストランの利用者が回答しやすいように、記述式アンケートの設置場所を見直した。多言語表記に関するアンケート満足度は、4 言語による解説や案内を充実化したこともあり、高い数値となった。	
		・文化交流展示室第 7 室企画展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」において、点字付きのキャプション(白黒反転文字・UD フォント使用)・チラシ・ガイドブック（銅印「大宰之印」）を作成し、展示室内で配布した。特に点字付きガイドブックは、印面が分かるような盛り上げ加工を施し、大きさや文字の形が分かりやすいと好評を得た。点字付きのキャプション台を設置し、白杖などの杖を置く器具を取り付けた。（九博） ・当館オリジナルアロマスプレーをアロマブランド magicFragrance と共同開発し、新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」の公開に合わせ、来館者へ配布した。（九博）	九州国立博物館では、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、ハンズオン展示、オーディオ機器やタッチパネルを用いた展示が一部休止となった。しかし、点字の解説やチラシを用いた展示を行ったり、会場に鐘や銅鐸など展示物の音を流したりするなどして、快適な観覧環境を実現した。緊急事態宣言発出等に伴い、夜間開館の実施を見送った。アンケート調査についても、実施することがかなわなかったが、オリジナルグッズの検討・開発など、来館者へのサービス向上に努めた。 **＜課題と対応＞** 満足度の向上を図り、引き続き検討を重ね、観覧環境の向上に努めていく。多言語対応の充実などの取り組みは引き続き実施する。	
（3）教育・普及活動 【指標】 ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の参加者数 ・児童生徒，大学生，大学院生を対象とした教育普及活動の実施実績 ・ボランティアの受入人数 ・賛助会等支援組織の会員数 〈目標水準の考え方〉 ・講演会等は，平常展及び特別展の内容に応じて企画するが，開催の回数は概ね毎年一定の規模を保つことが重要であることから，前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。	**＜主要な業務実績＞** ○学習機会の提供 特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ガイドツアー、体験型プログラムなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。（4 館） ・講演会の参加者数　55,294 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・キャンパスメンバーズ加入校数 143 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・新型コロナウイル感染症拡大防止のためオンライン等を活用しボランティアに対する研修を行った。 人数内訳はアウトプット情報を参照 ・保存修理事業者を対象とした研修会を実施した。（4 館） ・友の会・パスポート会員等の加入を促進した。（4 館） 内訳はアウトプット情報を参照 ・新型コロナ感染症拡大防止のためインターンシップの受け入れは中止した。（4 館） ・企業等との連携により、高精細画像撮影等の先端技術を用いて、高精細複製屏風や映像コンテンツ等の開発を行った。（文化財活用センター） ・開発したコンテンツを体験型展示に活用し全国に巡回することで文化財への理解を深める機会を広く提供したほか、高精細複製品貸出事業や、複製品による教育プ	**＜評定と根拠＞** 当機構では講座・講演会をはじめ、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなど多様なプログラムを各館で提供した。 講演会回数は東博、京博、奈良博、九博で計画値がそれぞれ 128、26、28、90（回）のところ、19、23、12、13（回）であった。コロナウイルス感染拡大防止対策のため予定していた講演会等が中止になったこともあり、開催回数のみを見れば目標を下回っているが、各館積極的なオンライン化の試みを実施しており、遠隔地の視聴者へ対象者を広げ、将来につながる機会を作ることができている。 キャンパスメンバーズの加入校数については、継続的な取組みの結果、前年度 142 校のところ 143 校と加入校を増やすことが出来た。 ボランティアについては教育活動を行い、その活動を継続して支援した。ボランティア数は元年度 838 人のところ、2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新規の受入を制限したため 809 人になった。 賛助会等加入件数については、各年度に開催される特別展に左右されるが、順調に加入者数が増え、支援者の増加となっている。また、パスポートについては、29 年度新設された国立博物館メンバーズパスも順調に増加している。 企業との連携については、共同企画や広報協力を実施し、博物館の認知度向上につなげた。 大学との連携事業等については、各種の事業を継続して実施している。 文化財活用センターでは、企業と連携したレプリカの開発、アウトリーチによる活用、体験型展示の開発と地方巡回等、文化財に親しむ機会を創出すると共に活用の枠組を広げることができた。 企画展示「なりきり美術館」シリーズを、千葉市美術館（7 月 11 日～9 月 6 日）、大分県立美術館（3 年 2 月 19 日～5 月 9 日）へ巡回。千葉市美術館では会	

	ログラム事業を実施し、全国の人々が文化財に親しむ機会の創出に寄与した。（文化財活用センター） ・シャープとの共同研究によるコンテンツ「8K で文化財ふれる・まわせる名茶碗」の実証実験を東京国立博物館東洋館エントランスにて実施し、延べ 1,856 人が体験した。東博、凸版印刷株式会社と共催して、本館の一部を CG で再現する「バーチャルトーハク」を公開。アニメーション映画「時をかける少女」（細田守監督）劇中の架空の特別展「アノニマスー逸名の名画ー」を構築し、延べアクセス人数は 3,374 人であった。合わせてスペシャルトークライブを実施した。東博・NHK の共同研究「みんなの 8K 文化財」プロジェクトで、文化財活用センターがマネジメントを行い、超高精細な 3DCG＝「8K 文化財」を制作。放送番組「誰もみたことのない 8K 文化財」（NHK・BS8K）として「舟木本　洛中洛外図（3 年 3 月 20 日）、「遮光器土偶」（3 年 3 月 20 日）を制作・放映した。（文化財活用センター） ・ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」（新型コロナウイルスの影響により中止）で展示予定であった「国宝　花下遊楽図屏風」の高精細複製品のプロジェクションマッピングを事前予約制で限定公開（7 月 1 日～2 日）した。（文化財活用センター） ・東京国立博物館、KDDI との共同プロジェクトで、5G、AR を活用したコンテンツ「5G で文化財 国宝『聖徳太子絵伝』AR でたどる聖徳太子の生涯」を東京国立博物館法隆寺宝物館資料室にて実施し、延べ 1,437 人が体験した。 ・NHK エンタープライズと共同研究プロジェクト「オンライン用コンテンツ制作事業」を締結し、今後のオンラインコンテンツ制作の方向性を検証するため、オンライン月例講演会「白描図像ー祈りと魂の描線ー」（3 年 3 月）を制作した。（文化財活用センター） ・複製品の貸出（4 件）や、複製品を使用した教育プログラムの提供（アウトリーチ）（11 件、体験者数 1,100 人）を実施した。（文化財活用センター）	期中（31 日間）4,933 人、大分県立美術館では年度内会期中（39 日間）10,710 人がコンテンツを体験した。 ・東京国立博物館ミュージアムシアター内で日本文化紹介映像の無料上映を行った（7 月 1 日～3 年 3 月 28 日）。また文化財活用センターウェブサイトにて本動画を先行公開した。 企画展示「なりきり日本美術館リターンズ」を東京国立博物館本館特別 4 室特別 5 室で開催。会期中（36 日間）26,064 人（うち中学生以下 5,207 人）が体験した。97.1%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
	・新型コロナウイルスの影響を勘案し、本館 19 室のみどりのライオン、東洋館 6 室のオアシスは閉室とした。また、東洋館 2 室等の体験を中止した。対面での教育普及事業が制限されるかわりに、ホームページ上に「みどりのライオン オンライン」を開設した。動画やダウンロードできる素材を作成することで、遠隔地からもアクセスできる機会になり、学習機会を広げることができた。特集「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化」では、デジタルコンテンツからぬりえやスタンプなどのハンズオンコンテンツまで、多様な文化体験を提供し、平易な言い回しによる 4 言語の題箋、解説により来館者の体験を深め、テーマへの理解を促した。（東博） ・新型コロナウイルスの影響により中止となった対面によるスクールプログラムにかわる手段として、スクー	東京国立博物館では、新型コロナウイルス蔓延防止のため、講演会等が中止となり、開催回数は目標値を下回ったが、オンラインプログラムなど新たな試みを行った。日本文化体験プログラムも、感染対策を万全にする、あるいはオンライン配信にするなどして順調に開催された。スクールプログラムに関しては、新型コロナウイルスの影響により 2 年度当初は休止、9 月より「事前視聴動画＋自由見学」の形での受入れを開始したため、参加人数は 519 名にとどまった。代替となる事前視聴動画公開の取り組みについて、活用した教員を対象とした事後アンケートでは内容について「わかりやすい（100%）」の回答があり、好評を得た。 NPO-JCP との共催である「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信による講義形態で開催し 85 名の受講者があった。

	ルプログラムの内容を動画にまとめ、学校で事前に視聴できるよう YouTube チャンネルで公開した。博物館への訪問を計画する学校には事前視聴動画を案内し、視聴を希望した学校は動画と自由見学を組み合わせて体験した。（東博） ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館者への対面での活動は全て中止したが、代わりに 9 月からボランティア活動室等で個人やグループで自主的に学習ができるように支援し、その際の感染防止対策に努めた。また、ボランティアにオンライン機器利用の研修を行った。（東博） ・東京都美術館の特別展「没後 70 年 吉田博展」に合わせて、本館 18 室と黒田記念館を紹介する連携音声ガイドを東京都美術館と共同で開発・提供した。（東博）	新型コロナウイルス感染症流行のため、当初予定していた活動が制限されたが、キャンパスメンバーズの加入については引き続き募集を続け、新たに 1 校が加入し、充実につながった。 会員制度は、特別展の内容が大きく左右すること、並びに新型コロナウイルスの影響により会員数は減少となった。しかし企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。
	・「記念講演会」（12 回・1,227 人）、「土曜講座」（7 回・572 人）、「夏期講座(日本人と自然Ⅱ)」を実施した。（京博） ・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」（1 回・5,000 部）を発行した。特別展関連おたのしみコーナー「姿から見つける、私の好きな観音さま」（46 日・6,967 人）を実施した。（京博） ・文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（18 名）に対して、当館研究員がスクーリング 20 回を実施した。（京博） ・文化財保存修理所 40 周年記念特別企画「文化財修理の最先端」を開催した。併せて 12 月 19 日にシンポジウム「文化財修理のいま、むかし」を、新型コロナウイルス感染予防のため参加人数を制限して開催した。（京博） ・三越伊勢丹と JALUX と共同して京都御苑、大阪国際空港売店にて販売するコラボ商品を開発することができた。（京博）	京都国立博物館では、新型コロナウイルスの影響により、講演会等は定員を例年の 200 名から 100 名に減らして実施したため、参加者は減少した。また、臨時休館や展覧会の会期変更等の影響で実施回数も減少したが、アルコール消毒の設置、座席の間隔をあける、換気を行うなど、感染症対策を行った上で可能な範囲で実施することができた。また、京博ナビゲーターの館内での活動は全て中止となり、7 月から新たに活動予定であった第 3 期ナビゲーターについても募集中断となったが、代わりの活動として、第 2 期京博ナビゲーターは、6 年間の活動を振り返る記録集へのエピソード投稿を行った。 キャンパスメンバーズについては、より多くの対象者に利用してもらえるよう広報活動に力を入れ、新規に 1 校が加入した。京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生への講義に関しては、2 年度はリモート授業のため、例年のように実際の文化財を用いた教育は実施できなかったが、そのかわりに実物の写真等を通じて、博物館ならではの研究指導を行った。 企業等との連携においては、ミュージアムパートナーの制度を改正し、新たに 2 社の支援を得られた。
	・サンデートークは毎月第 3 日曜日に 7 回実施。計 494 人の参加があり、アンケート結果で平均満足度 90%を得た。近畿 ESD コンソーシアムが協力となり、奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「おうちdeおん祭」を会期中に 2 動画を配信し合計 741 回の再生回数があった。 ・ボランティア活動は、グループ内で活動テーマ別に少人数のチームを編成し、グループウェアシステムやウェブ会議システムを利用しミーティングを行った。また、リモート形式による活動を開始してから毎月 1 回、活動の進捗状況をボランティアと職員で確認する活動進捗報告会を実施した。（奈良博）	奈良国立博物館では、新型コロナウイルスの影響により、スクールプログラムや職場体験は中止となったが、近畿 ESD コンソーシアムが協力となり、奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。また、大分県が所有する遠隔操作ロボットを用いて、展示案内プログラムを実施し、学習機会を提供することができた。 ボランティア活動は、対面形式での活動が困難になったことに伴い、それに代わるリモート形式による活動を展開することとなったが、動画の制作やワークシートの制作など、グループ別に新たな活動に取り組むことができた。 感染症対策に配慮しつつ、イベント等の地域連携

		・三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの作製・販売を行った。商品カタログへの情報掲載や、PR イベントの実施を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋げた。（奈良博） ・新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2 年度は特別展記念講演会及びシンポジウムを開催できなかったが、展示への理解や文化財の楽しみ方を促すことを目的として研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を行った。研究員による「文化財のミカタ」「文化財のヒミツ」としてウェブサイトからの動画配信を行った。（実施回数 17 回）これまで実施してきたワークショップや体験型展示室「あじっぱ」のコンテンツをまとめた「おうち de きゅーはく」をホームページで公開することで、館内のイベントやワークショップの代わりとなる活動ができた。（九博） ・学校向け貸出キット「きゅうぱっく」は 41 件・56 パックを貸し出し、4,060 人の児童生徒が体験した。（九博） ・博物館の各機能に関するレクチャー、実習（来館者対応、学芸員体験、体験型展示室「あじっぱ」用工作キット製作・展示プラン作成）を行った。2 年度における大学生を対象とした博物館実習は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、日程を 10 日間から 5 日間に短縮し、講義場所を研修室からミュージアムホールに変更するなどの処置をとって実施した。（九博）	や、民間企業との連携による広報活動を例年に引き続き実施し、博物館の認知度向上に努めることができた。また、新型コロナウイルスによる影響があったものの、奈良博プレミアムカードの会員数増加も寄与し、全体的な会員数は増加した。 九州国立博物館では、新型コロナウイルスの流行により、年度当初に 2 か月間の休館期間があり、特別展も 4 企画中 3 企画が中止、延期となり、イベント等の開催にも様々な制約が課せられた。講演会等の開催回数自体は減少したが、博物館の魅力を幅広い層に伝えるための動画配信など、新たな試みを行った。 館内で行う学校教育活動支援事業、職場体験等、学校との様々な連携事業が中止となったが、博物館職員が直接学校まで出向く機会も増えたことで、多くの職員が児童生徒と直接触れ合うことができた。それぞれの見地から博物館の魅力を紹介できたことで学校側からも概ね好評であった。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、2 年度は特別展記念講演会及びシンポジウムなど対面での実施は制限された一方で、各館オンラインでの配信を積極的に実施し、来館できない新たな層の開拓につながった。今後も、オンラインや対面などを併用し、効果的な学習機会の提供を実施する。また、会員制度については、平常展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を検討し、3 年 4 月より実施する。	
	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 【指標】 ・ウェブサイトのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館では，展覧事業及び各種事業に関する広報を目的としてウェブサイトの充実を図っている。また，収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報（文字情報，画像情報）を整理し，データベース等を構築し，ウェブサイトにおいて公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，近隣施設との連携等を含めた効率的かつ効果的な広報戦略の実施などに戦略的に取り組み，ウェブサイトのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。	**＜主要な業務実績＞** ・調査研究・教育など博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開した。（4 館） ・年間スケジュールリーフレットを制作し、送付及び館内配布した。（4 館） ・ColBase の不具合の修正や画像の追加を行った（画像追加 5,900 枚）。また各施設のデータを自動的に集約する機能を継続的に運用するとともに、対象機関に奈良文化財研究所を追加した。また e 国宝のリニューアルを 10 月に行った。平成 22 年以降の指定品のデータを追加し、解説文、多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行うとともに、デザインを一新し、対象機関に奈良文化財研究所を加えた。さらに国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」に ColBase のデータを提供した。（文化財活用センター・4 館） ・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,681 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積することにより、レファレンス協同データベース事業企画協力員賞を受賞し、レファレンスサービスの拡充と広報に資することができた。（新規登録 579 件）。（東博） ・『東京国立博物館ニュース』（隔月、6 月より季刊）を作成、配布した。主な事業については別途プレスリリースを作成、配信会社も活用し、より広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。元年度より継続していた LINE スタンプの制作が完了し、3 年度には有料販売を開始する。（東博） ・元年度に続き、トーハク YouTube チャンネルにて「オンラインギャラリーツアー」と題して、当館研究員による作品解説や展示紹介などの動画を計 11 回配信し、好評を得た。（東博） ・「#おうちミュージアム」に参加し当館ウェブサイトの「おうちで楽しむ京博」ページにて、トラりんのブログや YouTube、オリジナルぬりえを公開する等、新型コロナウイルスの影響で休館中や来館できない方でも楽しむことができるコンテンツを拡充させた。（京博） ・京都市等が主催する京都国際マンガ・アニメフェア 2020（京まふ）と連携し、会場でトラりんが特別展の PR を行った。（京博） ・当館オフィシャルの YouTube チャンネルを開設し、4 言語（日本語・英語・中国語・韓国語）の動画を公開するなど情報発信を行った。（京博） ・収蔵品データベースの充実をはかり、新規撮影デジタル画像数は、1,835 件、データベースへの画像登録件数は、3,534 件である。（奈良博） ・Youtube で「ならはくチャンネル」を開設し、奈良博の紹介や各展覧会の情報の動画を作成し情報発信を行った。奈良県等が参画する「いかす・なら地域協議会」の支援を受け、教育普及活動及び文化観光に関する情報発信のための新ウェブサイトを立ち上げた（稼働は 3 年 4 月以降）。（奈良博） ・特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出を行った（奈良博）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行った。 各館ウェブサイトアクセス件数合計は、前中期期間目標値合計 8,850,339 件のところ、2 年度は合計 12,409,706 件に上り、新型コロナウイルス感染症拡大による閉館期間等がある中で目標を大幅に超えた。 広報については、各館ともキャラクター（東博・京博）や文化大使（京博・奈良博）などを用い、多様なメディアを通して積極的に行っている。 新型コロナウイルス感染症拡大に対応し、YouTube やツイッター等を利用し、効果的に広報した。（4 館） 文化財活用センターを中心に、ColBase 及び e 国宝を適切に維持管理し、e 国宝のリニューアルを実施した。 文化財活用センターでは、ウェブサイトの運用を継続し、また寄附ポータルサイトを開設したことで、より広く寄附制度の周知を行うことができた。年度計画に沿って、機構全体や文化財活用センターの事業について、情報の提供を行うことができた。 東京国立博物館では、外部の大学図書館等の間での文献複写サービスを継続して行い、館内外における利便性が向上した。また、収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。また、メールマガジンに画像を取り入れ、インスタグラムに動画を増やすなどの改良により、利用者を増やすことができた。ウェブサイトのアクセス件数は中期計画期間中目標値以上の成果を達成し、SNS のフォロワー数も十二分に確保できている。 京都国立博物館では、新型コロナウイルスの影響により対面でのイベントに制限がある中でも、公式キャラクターを活用してブログや、ツイッター、Facebook、YouTube チャンネルといった各種コンテンツを拡充させ、休館中や来館できない方に向けても積極的に PR 活動を行うことができた。また、新しく YouTube チャンネルを開設する等の新規の取組みを始めることで目標値を大幅に達成することができた。ウェブサイトにて「おうちで楽しむ京博」と題して家で楽しむことができるコンテンツを用意し、ウェブサイト上で楽しめる機会を増やすことができた。 奈良国立博物館では、新型コロナウイルス感染症拡大により臨時休館や開館時間の変更、特別展の延期等不測の事態が多数生じたが、ウェブサイトや Twitter を通じて迅速な情報提供を心がけ、印刷物での情報発信を補うことができた。 また、法隆寺金堂壁画写真ガラス原板の画像公開について、短時間で関係者の承諾を得てシステム構築にこぎ着けた点も特筆される。	

		・新規に図書 1,861 点、雑誌 933 点、図録・報告書 2,570 点を購入又は受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。（九博） ・「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年 4 回、公共施設・交通機関・観光案内所・宿泊施設・旅行会社等に送付するとともに、送付先を大きく拡大した。（九博） ・利用案内に係る記載で分かりにくい表現等の一部見直しを行うなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努めた。ウェブサイトの 4 言語（日・英・中・韓）について、言語毎に情報の出し方を変えるなど、工夫した情報発信を行った。（九博） ・ウェブサイトの内容の充実を図り、アクセス件数（アウトプット情報を参照）の向上を図った。（アクセス件数：12,409,706 件） ・YouTube や SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行った。（4 館）	九州国立博物館では、既存の広報先だけでなく、空港や駅、地下鉄等の広報展開先を大幅拡大させた。また、Twitter や Youtube、メルマガ、ウェブリリースサービスの活用など、各種 SNS やデジタルコンテンツにより様々な層に多様な情報を発信した。新たな PR ポスターなどの制作を実施するとともに、館敷地内や公共交通機関等に展開したほか、博多祇園山笠振興会等に協力いただき、博多祇園山笠飾り山笠の部分展示や関連のパネル展示を実施することで、特別展の告知にもつながった。ウェブサイトの多言語化をより充実させた。また、駐車場の混雑状況をリアルタイムに案内するなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信ができた。 **＜課題と対応＞** 「新しい生活様式」に対応するためウェブサイト上のコンテンツをさらに充実させる。また、ColBase 及び e 国宝については、引き続きシステムを維持するとともに、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続する。	
(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 【指標】 ・調査研究の成果に基づき，定期刊行物等を前中期目標期間の実績以上刊行する。（参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・定期刊行物等の刊行数 144 件（平成 23～26 年度実績総数） 【関連指標】 ・調査研究活動の成果の多様な方法による公開等の取組状況 （特別展の開催回数，テーマ別展示の開催件数，講演会等の開催回数） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・特別展の開催回数 69 回（平成 23～26 年度実績総数） ・テーマ別展示の開催件数 225 件（平成 23～26 年度実績総数） ・講演会等の開催回数 1,060 件（平成 23～26 年度実績総数）〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館における有形文化財（美術工芸品）に関する調査研究は，収蔵品の収集活動，保存修理，展覧事業の企画等に資することを第一義的な目的としており，研究成果が具体的な事業等にどのように反映できたかを評価指標とする。また展覧事業に関連し，論文等として学術的な成果物を公表することにより，広範囲の学術研究の進展にも資することができることから，関連指標として特別展，テーマ別展示，講演会等の開催回数若しくは件数を設定する。	**＜主要な業務実績＞** ・各博物館とも、有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究を実施することができた。 ・特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 42 次）、「工芸」第 12 回、「彫刻」第 10 回、「絵画」第 5 回）（東博） 研究員による意見交換や調査等を行った。特別調査「工芸」第 12 回では、当館所蔵の明治期に海外輸出用や万国博覧会や内国勧業博覧会への出品向けに制作された近代美術染織について、機構内外の複数の研究者で調査した。主な作品は、二代川島甚兵衛作「悲母観音図緞帳」、西村総左衛門作「近江八景図天鷺絨友禅」など 12 点同じく宮内省に由来する近代美術染織を多数所蔵する三の丸尚蔵館の学芸員の知見をいただきつつ、今後の修理をも見据えた調査を行った。 ・特集「世界と出会った江戸美術」に関する調査研究（東博） 平成館企画展示室にて、江戸時代の対外交流の多様性や、当館所蔵品がもつ歴史的価値を紹介するため、絵画、彫刻、漆工、陶磁、金工、歴史資料など幅広い分野から、36 件の作品を選定、展示した。事前調査を行い、カスティリオーネ画「準回両部平定得勝図」や安田雷洲筆「草花図扇面」など従来活用されていなかった作品を初公開した。作品を多くの方に知っていただくため、リーフレット	**＜評定と根拠＞** 当機構では、有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進めた。 ・特別調査「絵画」第 5 回では、寄託の中近世扇面画と、他機関が所蔵する同時代制作の代表的な扇面絵画を包括的に調査し、今後の展示、研究への展開が期待できる成果が得られた。扇面画の熟覧に加えて、複数の光学調査を行うなど、多角的な手法を取り入れることができた。浄土寺本の光学調査や、南禅寺本の高精細画像など、重要作品に関する新しい研究資料を得ることができた。（東博） ・特集「世界と出会った江戸美術」は、特別展の代替企画として、特別展のテーマを引き継ぎつつ、当館所蔵品・寄託品に限定して再構成した展示であり、作品選定に当たっては所蔵品の基礎的な調査を行い、従来活用していなかった複数の作品を初公開することができた。また、既知の作品についても展示、保存方法の改善を図ることができた。また本事業によって得られた知見を公開する工夫として、無料配布のリーフレットやオンライ	

		を作成し、ギャラリートーク動画を制作、配信した。 ・考古相互貸借及び特集展示「丑づくし」にかかる調査研究（京博） 2 年度考古資料相互活用促進事業として、大分県立歴史博物館、福岡県立九州歴史資料館、大阪府高槻市立今城塚古代歴史館と考古資料の相互交換による展示を行い、併せて共同研究を行った。また、考古相互貸借の列品活用準備のために当館の西宮山古墳出土資料の修理を実施した際に、修理前後の撮影を行い、列品画像の整備を行った。さらに、展示のために借用資料にクリーニング等の応急修理を実施した際に撮影を行うことで借用資料の画像収集にも努めた。 ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（奈良博） 南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、多数の作品の調査・撮影を行った。調査を通じて重要な学術的知見を得ることができた。研究成果は、特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、講座等における報告、また論文等刊行物のかたちで新知見の発表を行った。一部については、3 年度の刊行物に発表する。成福寺、法隆寺、見徳寺所蔵の彫刻調査の成果及び撮影写真は、3 年度開催の「聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展　聖徳太子と法隆寺」（3 年 4 月 27 日～6 月 20 日）の図録や会場パネル等の作品解説で公開する予定。金竜寺、金峯山寺、金剛寺、玉峰寺所蔵の彫刻調査結果については、『なら仏像館　名品図録 2021』にその成果を紹介した。 ・特集展示「九州国立博物館　開館 15 周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展　しきしまの大和へ　奈良大発掘」に関連する調査研究（九博） 巡回展開始前に各開催施設の担当者が集まり、合同で展示資料の調査を行った。資料の解釈や取り扱い、展示方法に注意が必要な資料については意見交換を行い、各施設に合わせた展示方法や解説を検討した。会期は 7 月 28 日～12 月 20 日で、327 点の資料を展示した。我が国の国家形成と外来文化の観点からみた、5 つのテーマを研究所が設定し、これに合わせて、関連展示室 2・3 室において展示を行った。当館は巡回 3 館目の実施であったが、他館より展示スペースが広いことから、全体の展示レイアウトは当館独自のものとした。併せて題箋やパネルについても既存データに加えて、橿原考古学研究所のこれまでの調査・研究成果も盛り込み、すべて新規で作成した。 ・「天神縁起の世界」ほか特集展示等に関連する調査研究（九博） 特集に関する出陳作品の調査を行い、一部の作品は外部の研究者と共同調査を実施し、調査後には検討会を開	ンギャラリートーク動画を作成し、展示終了後も本調査研究活動の成果が広く共有でた。（東博） ・考古相互貸借及び特集展示「丑づくし」にかかる調査研究では、新型コロナウイルスの影響をうけつつも、年度計画の目標のとおりほぼ実施できたことは評価できる。本事業は当館の考古平常展示場の質を高め、埴輪や弥生土器の展示が多くの来館者の興味を引いた点が重要であり、貸与先である大分県・福岡県・高槻市での作品の展示公開は、里帰り考古資料に関する地元メディアを中心とした関心を喚起し、広く文化財に関する認識を高めることができた。（京博） ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究の調査成果は、3 年度開催の特別展の展示解説などに反映させるための貴重な資料の集積となった。調査方法は、実測、撮影、3D 計測、X 線 CT スキャンなど多岐にわたる。また、これらの調査には、展覧会輸送の事前点検も含まれ、文化財の安全な活用に資する成果を多分に含んでおり、3 年度の特別展、特別陳列のみならず、講座等にも反映させることができる。特に、成福寺、法隆寺、見徳寺所蔵の彫刻調査の成果及び撮影写真は、3 年度開催の「聖徳太子 1400 年遠忌記念　特別展　聖徳太子と法隆寺」の図録や会場パネル等の作品解説で公開ができる予定である。（奈良博） ・特集展示「九州国立博物館　開館 15 周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展　しきしまの大和へ　奈良大発掘」に関連する調査研究では、日本の中心であった畿内の資料から、異文化交流と独自性の確立、国家形成の過程を紹介することができた。また、九州ではなかなか目にできない資料を紹介できた。一般的に地味な考古資料をパネルや写真、イラストを用いて各資料をわかりやすく解説した。当館ならではの展示が構築できた。ユニバーサルデザインを意識して「UD フォント」を初めて導入した。（九博） ・特集展示「天神縁起の世界」に関する調査研究では、新型コロナウイルスの感染拡大によって調査の実施時期は遅れたものの、出陳作品全点について調査し、研究を深めるとともに、輸送や展示に	

	いて作品についての理解を深めた。調査に際しては、安全な輸送と展示のため、作品の基本データを採るとともに状態の把握も行った。出陳作品のなかには本展が初出陳となる作品が含まれるほか、ポジフィルムしか画像を持たない作品がほとんどであった。図録に質の高い図版を掲載するため、また、博物館のデータ充実のため、事前に作品を集荷し、借用品全点について博物館内で新規撮影を行った。図録、展示、広報について関係者で検討を重ね、とりわけ図録については、詳細な場面解説や関連マップなどを充実させ、来館者の理解に資する内容を目指した。また展示についても、場面解説や年表などを掲出するほか、より見やすい題箋となるよう日本語だけでなく英語・中国語・韓国語の文字やレイアウトにも配慮したデザインとした。	も万全を期すことができた。展示及び図録は、館内関係者や所蔵者とも協議をしながら快適な展示環境づくりを目指し、専門性に偏り過ぎない分かりやすさを重視した。出陳作品のなかには、近年見出され、発見時には新聞等のメディアでも取り上げられた作品が２点含まれる。社会的な関心も高い展覧会であり、最新の研究成果を盛り込んでわかりやすく公開するとともに、太宰府天満宮とも協同して広報の強化を図った。（九博）	
	・特別展「きもの　KIMONO」に関連する調査研究（東博） 東京国立博物館所蔵品及び国内外機関に所蔵される染織並びにきものが描かれた日本絵画を調査研究した。脆弱で伝存する数が少ない染織文化財の新たな価値付けを行い、展覧会事業計画や文化財の復元制作などを通して、それらの文化財の有効な活用にも寄与した。展覧会では、200 件以上の染織文化財・日本絵画を展示し、日本人にとって現在も「衣服」であり続ける「きもの」の歴史をわかりやすく紹介し、さらに、伝統衣装、民族衣装としての「きもの」の未来像について考える機会となるように展示に工夫を凝らした。本展を通じて、日本染織における専門の博物館で調査することにより、染織に関する有意義な知見を得ることができた。また、染織文化財の復元を製作し、当時の女性や男性が着装する風俗を模した着付をマネキンに施し、江戸時代におけるきもの文化の理解を手助けした。これらの復元染織文化財は、今後の教育普及事業に有効に活用できる。	・特別展「きもの　KIMONO」に関連する調査研究では、日本内外に所蔵される美術館・博物館や個人所蔵の染織コレクションを調査することによって、日本の伝統工芸である染織の美術的・民族学的な知識や情報を深めることができた。当館が所蔵する染織文化財２件、絵画作品１件を元に、その復元品を制作することによって、今後の教育普及事業である「着付け体験」などのワークショップにも有効に活用できる成果物があった。また、本展の実施にあたり、他所蔵者との調査研究の可能性が広がった。（東博）	
	・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究（京博） ３年春季特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（3 年 3 月 27 日～5 月 16 日）にちなみ、日本の戒律文化に関する研究を行った。律宗、真言律宗、真言宗泉涌寺派、華厳宗だけでなく、天台宗、天台真盛宗、真言宗、浄土宗、浄土真宗、日蓮法華宗、曹洞宗といった主要宗派を網羅する形で、総括性を持たせ、日本仏教通史の一側面を戒律という理想と社会現実との相剋という観点から研究した点に特色がある。鎌倉時代の戒律復興運動期が中心ではあったが、近世戒律運動に関しての調査も進み、槙尾山西明寺や大阪・高貴寺では、従来ほとんど紹介されていない作品の調査が実現し、展覧会に活かすことができた。	・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究では、日本の戒律運動については、近年、日本史学を中心に律僧の活躍に焦点を当てた研究が進んでおり、本研究は時宜に叶った学界の要請にも応えるものである。特に、律僧の活動で算出された遺品を発掘・再調査することができ、特に近世戒律復興運動については、従来の研究が停滞していた分野でもあるが、それをかなり前進させることができた。また、共同研究を行い、展覧会成果に活かすことができた。（京博）	
	・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究（奈良博） 内匠寮奈良博物館建築工事図面」について、建築史研究者（京都女子大学、東京工業大学）の協力を得て初めて悉皆的な調査が行われ、近代建築としての歴史的意義や技	・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究では、設計図、工事録はともに近代建築史研究における重要史料だが、これまで詳しく紹介される機会が	

	術的な創意工夫が明らかとなり、建築や史料の文化財的価値が再認識された。『京都及奈良博物館建築工事録』の翻刻が行われ、建設の体制や工事の進捗などの歴史的な事実が多数判明した。上記の成果をふまえて特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」を開催した。7 件 37 点の出陳作品のうち、5 件 35 件は初公開である。建築をテーマとする展覧会の開催は当館では初めての試みで独自性が高く、また図録には当館担当者と建築史研究者による論文を 3 本掲載し、展示と共に学術的にも高い評価を得た。	無く公開が俟たれていた。近代建築史ではこれまで様式研究が主体であり、材料や技術、工法、体制などの実態に即した研究は少なかった。今回の研究と展覧会の開催は、設計図と工事録、そして建築の実査にもとづいた極めて実践的なもので、成果の公表はこの分野における研究の進展に大きく寄与したといえる。また、当館の観覧者は仏教美術の愛好家が大半を占めているが、今回は建築史の大学研究室や建築系展覧会を開催する美術館・博物館にも積極的に広報し、新たな観覧者の獲得にも繋がった。（奈良博）	
	・博物館教育に関する調査研究（東博） 本研究では、各種ワークショップ、スクールプログラム等は対面プログラムを避け、zoom を使用したオンラインワークショップや自由見学と組み合わせる事前視聴動画など、新規プログラムの開発とその運営に関する研究を行った。日本文化体験プログラムを継続して実施した。2 年度は、さまざまなタイプの日本文化体験ができる参加型展示として親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」（会期：3 年 1 月 19 日～2 月 28 日）を実施し、デジタルコンテンツや手でさわるハンズオン展示など、多様な角度から日本文化体験のあり方について検討、研究を行った。障がい者に向けたプログラムの開発を目指した調査・研究を継続して行い、オンライン講演会、オンラインギャラリートークにおいて字幕やテロップなどの表記を実施した。	・博物館教育に関する調査研究では、新型コロナウイルスの影響でほとんどの既存の教育プログラムが中止となったため、オンラインでのワークショップやイベントの開催、動画による作品解説の提供など、感染拡大防止と両立した新しい形態の教育普及プログラムを検討、実践した。オンラインワークショップでは、今までプログラムを提供することができなかった遠方の参加者にも体験していただくことができ、新たな来館者層の開拓につながった。（東博）	
	・学術雑誌等への論文掲載数 225 件 内訳はアウトプット情報を参照	**＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響により、館外の現地調査などに影響が出たが、着実に実施した。また、オンラインシステムなど新しい取り組みに関する研究なども実施している。引き続き調査研究活動を博物館活動の根幹をなす事業として維持・推進する。	
③国内外の博物館等との学術交流等	**＜主要な業務実績＞** 新型コロナウイルス感染症拡大のため、海外研究者の招へい、研究員の海外派遣は中止となったが、オンラインなどの代替手段により、海外の博物館・研究者との交流を行った。 ・海外研究者招へい数　0 人 ・研究員派遣数　1 人 内訳はアウトプット情報を参照	**＜評定と根拠＞** 当機構では海外研究者招へい数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により低下したが、海外との交流は、オンライン会議などにより 4 館とも活発に行った。 国際シンポジウムや国際研究セミナー等に積極的に、学術交流協定により、情報交換とネットワークの強化を実現している。 （4 館）	
	・中国上海博物館主催の国際博物館専門家会議「博物館の力―国際博物館オンライン対話」（7 月 15 日）などの国際オンライン会議に積極的に参加した。（東博） ・H26 年から継続して実施している「北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」（文化庁支援事業）の一環として国際シンポジウム「日本美術がつなぐ博物館コミュニティー―ウィズ/ポストコロナ時代の挑戦」及び日本美術専門家会議は、新型コロナウ	・これまで韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館と定期的に行ってきた学術交流や、海外の優れた研究者の招聘及び当館研究員の海外派遣は新型コロナウイルスの影響によりすべて中止した。代替となる取り組みとして、オンラインにて様々な交流が進み、博物館同士の絆を深めた。2 年度で 7 度目となる北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業もオンラインにて開催、12	

		イルスの影響により開催方法を変更し、それぞれ3年1月30日と2月5日に、オンラインにて開催した。（東博）	ヵ国87人の参加があった。さらに、日本在住の外国人来館者向けに展示室のパネルや作品の多言語解説の改善を継続的に行い、SNSを通じて多言語による海外向けの情報発信も試み始めた。（東博）	
		・アメリカのサンフランシスコ・アジア美術館と学術交流基本協定を締結した。ウェブ会議システムを積極的に活用し、相互訪問・対面による会議なしで締結することができた。協定の締結式もオンラインで開催した。（京博）	・国際交流事業は、積極的な人的往来による交流を前提としており、博物館事業のなかでも最も新型コロナウイルスの影響を受けたものの一つである。当初計画のほとんどを実施することができず、オンラインでの実施もかなりの制約を受けた。そのような状況でも、サンフランシスコ・アジア美術館と学術協定を締結することができたのは、両館で長年にわたり蓄積してきた人的交流の成果であり、評価できる。（京博）	
		・元年度から引き続き上海博物館開催「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」に学術協力として協力した。新型コロナウイルスの影響により上海博物館が会期途中から休館し、また、撤収作業や返却の輸送のため研究員を派遣することが不可能となった。上海博物館が再開し、同展は多くの観客を迎え、閉幕したが、研究員を派遣することができなかったため、ウェブ中継を行い、撤収作業の指示を行った。（奈良博） ・上海博物館との学術交流協定を見直し、更新した。（奈良博）	・新型コロナウイルスの影響により海外渡航が制限される中で、招へい事業などは困難であった。なお、学術協力など海外の博物館に対して可能なかぎりの支援を行い、文化財の保全に貢献することができた。（奈良博）	
		・上海博物館との学術文化交流に関する協定を締結した（3年1月29日）。協議は電子メールにて行い、協定書は送付するなど、新型コロナウイルスを考慮しての協定締結となった。（九博）	・2年度は新型コロナウイルスの影響により、海外からの招へい及び海外への派遣を行うことはできなかったが、中華人民共和国上海博物館との学術文化交流協定を締結し、双方における学術研究、人員交流及びその他の活動で協力していくことについて合意した。（九博） **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により低下したが、海外との交流は、オンライン会議などを活用し実施し対応した。	
④調査研究成果の公表		**＜主要な業務実績＞** 博物館における調査研究成果の発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を発行した。	**＜評定と根拠＞** 当機構では、研究紀要、展覧会図録、文化財修理報告書やその他のリーフレット等について、多数刊行し、調査研究成果の公表を順調に行った。(4館) 定期刊行物は4館合計で目標37件のところ、37件と目標を達成することができた。 テーマ別展示の開催件数は、4館合計で元年度37件のところ、32件であった。 講演会等の開催回数は、4館合計で元年度219回のところ、67回となった。 印刷物PDFファイル版のウェブサイト公開等の取り組みを行った。(4館)	

		・紀要、『MUSEUM』、『博物館ニュース』等の定期刊行物13件を刊行するとともに、文化財修理報告等を計画どおり刊行することができた。また、「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」の運用を継続し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。また、特集印刷物リーフレット等8件のPDFファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって、研究情報の普及を図った。（東博）	東京国立博物館では、新型コロナウイルスの影響もあり、定期刊行物の刊行は13件にとどまったが、文化財修理報告等を計画どおり刊行することができた。また、特集展示の刊行物を増やすことで充実した情報を提供することができた。さらに、「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で研究員の調査研究活動等に関する情報を随時公開。加えて、特集印刷物リーフレットの PDF ファイル版をウェブサイトに掲載することでさらなる情報公開に努めた。	
		・特別展にて2件、特別企画にて2件の図録を刊行した。特別企画「文化財修理の最先端」図録は近年の修復成果の中でも注目される作品を紹介するものであるが、当館研究員が編集及び執筆を行っていることに加え、日本語・英語・中国語・韓国語を併記した意欲的な図書である。（京博）	京都国立博物館では、社寺調査報告、図録等を計画どおり刊行することができた。特に特別企画「文化財修理の最先端」図録は作品解説や用語を多言語化し、国外の利用にも供する内容とした。学叢についても最新の研究成果を論文として掲載し、質の高いものとすることができた。また、金剛寺に関する社寺調査報告は追加調査を行うことにより、報告書としてより充実した内容を掲載することができた。	
		・研究紀要『鹿園雑集』第22号を7月に、第23号を3年3月に刊行した。あわせて奈良国立博物館リポジトリにPDFで掲載した。（奈良博） ・元年度末に刊行した東京文化財研究所との共同研究に関する報告書『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書ー研究・資料編ー』を国内外の大学・研究機関に頒布し（国内353機関、海外47機関）、最新の研究成果を広く公開・共有した。（奈良博）	奈良国立博物館では、研究紀要『鹿園雑集』第22号・第23号、『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第2号・第3号を刊行できた。紀要及び博物館だよりは、奈良国立博物館リポジトリに掲載することで、研究成果や最新情報を広く公表した。	
		・『東風西声』第16号では、19本の論文を掲載した。（九博） ・『九州国立博物館 文化財修理報告』は、当館所蔵品、当館経費で修理を行った当館以外の国立博物館等所蔵文化財、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財について、修理に関する記録をまとめたものである。第3号では、21年度から22年度までの文化財修理を対象とした。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を掲載する。これらの情報を公開することで、次回の修理での参考となるだけでなく、美術史や歴史学等の学術研究、修理事業の普及啓発など、多方面での活用が期待される。（九博）	九州国立博物館では、研究紀要や図録等を刊行し、調査研究の成果を報告できた。また、『九州国立博物館 文化財修理報告』第3号も予定通り刊行し、当館文化財保存修復施設で修理を行った文化財の修理に関する記録を公開することができた。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響により、作業工程に影響が出たものの、概ね計画どおりに刊行し、発信することができた。引き続きウェブサイト等を活用しつつ研究成果の発信の充実を図る。	

	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の貸与に関する取組状況（有形文化財（美術工芸品）の貸与件数） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財（美術工芸品）の貸与については，適切な保管・展示環境が維持されることを必要条件とし，更に国宝・重要文化財については，法令等にのっとり文化庁の許可等が必要であるため，依頼内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ貸与に関する目標値を設定することになじまないため，貸与件数をモニタリングし評価する。	**＜主要な業務実績＞** 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 ・文化財の貸与件数　1,235 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・文化財活用センターと東京国立博物館が共同し、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生・観光振興に寄与することを目指し、開催館までの往復輸送費・保険料・出張旅費・広報費を支出する東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国内の博物館等 5 機関に 116 件の作品を貸与した大規模貸与事業として、千葉県立中央博物館（44 件）および九州歴史資料館（27 件）への作品の貸与を行うと同時に、輸送費・保険料等を支出した。小規模貸与として 3 機関に貸し出した 45 件の作品の輸送費・保険料等を支出した。また大規模貸与の対象の展覧会のうち九州歴史資料館については、広報費の一部を支出した。（東博） ・国内外の博物館等 85 機関に 806 件の作品を貸与した。（文化財活用センター・東博） ・国内の 71 機関（機関は延べ件数）に対し、計 286 件の収蔵品・寄託品を貸与した。（京博） ・京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き長期貸与をし、東京・奈良・九州国立博物館及び奈良文化財研究所飛鳥資料館に展示内容を充実させるため、引き続き長期管理換を行った。（京博） ・大分県立歴史博物館、高槻市立今城塚古代歴史館、福岡県立九州歴史資料館の計 3 館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。（京博） ・収蔵品と寄託品を国内合わせて 17 の機関に計 107 件の貸出を行った。文化財活用センターの進める文化財貸与事業の規定整備に協力し、列品貸与のスムーズな仕組みを整えた。青森県立郷土館、下関市立考古博物館及び和歌山県立紀伊風土記の丘と考古資料の相互貸借事業を実施した。（奈良博） ・国内 17 機関、海外 1 機関に計 36 件の収蔵品及び寄託品を貸与した。海外の貸与先機関は、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館であった。（九博）	**＜評定と根拠＞** 当機構では、貸与先からの要請に博物館 4 館が積極的に対応した結果、文化財の貸与件数は、昨年度は合計 1,488 件のところ 1,235 件であった。 貸与先の環境と作品の状態を確認し、収蔵品の保存状況に配慮し貸出を行っている。 東京国立博物館では、国内外の博物館等 85 機関に 806 件の作品を貸与した。新型コロナウイルスの影響により例年に比べて機関数、貸与件数はともに減少したが、感染対策を講じながら、貸与を実施することができた。貸与促進事業も新型コロナウイルスの影響により、貸与を辞退する機関もあったが、貸与件数は増加し、5 機関に 116 件の収蔵品貸与を行った。また、来館者、メディアからは多くの反響があり、収蔵品の貸与と公開によって、各地域の創生・振興に寄与した。 京都国立博物館では、年度計画に基づき、収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品・寄託品を国内の博物館に中心に貸与を実施した。新型コロナウイルスの影響もあり貸出件数は減少し、貸与施設でも展覧会の中止や延期など様々な影響があったが、貸与期間の延長や変更など、貸与先と協議しながら、適宜適切に対応した。 奈良国立博物館では、作品の貸与機関数、件数ともに、新型コロナウイルス感染症の流行下の情勢も影響して例年より減少した。ただし、活動が復調した下半期の数値とみなせば近年の数値に遜色ないと評価できる。重要文化財等含む文化財の貸借を積極的に行い、各地の展覧会へ寄与した。考古資料相互活用促進事業は例年同様の規模で実施することができ、貸借先でも地域の文化財が改めて見られる環境を提供したことにより、文化財の大切さや地域の歴史の誇りなど地域活性化に結びついたと思慮される。 九州国立博物館では、新型コロナウイルス感染症の影響で展覧会を中止した出品要請機関があり、例年と比較して、収蔵品・寄託品の貸与件数は減少した。しかし、国内外の博物館・美術館の要請に対し、重要文化財 4 件を含む 36 件の文化財を適切に貸与し、各博物館・美術館の展覧会の充実化に貢献できた。	

			＜課題と対応＞ 新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の博物館への貸与が中止となったが、可能な限り対策を講じたうえで貸与を実施した。引き続き、3 年度に延期となった展覧会をはじめ、国内外の博物館への協力を実施する。	
	②国内外の博物館等への援助・助言等 【指標】 ・国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・国内外の博物館等における展覧会の企画，運営を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし評価する。	**＜主要な業務実績＞** 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数　422 件 内訳はアウトプット指標に掲載 ・当該実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。(4 館) ・文化財保護法第 53 条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している 15 施設を対象として、保存環境調査を行った。うち、11 施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、3 施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。（文化財活用センター） ・文化庁及び東京文化財研究所と共同し、文化財公開施設等からの新型コロナウイルス感染対策に関する相談窓口を 4 月 23 日に開設した。42 件の相談のうち、21 件について、文化財活用センターより回答を行った。（文化財活用センター） ・ミュージアムにおける展示の安全対策に関する調査について、外部団体及び企業等と面会し、6 件の展示の安全対策に関する情報収集、意見交換を行った。加振実験を行い、博物館で使用される展示用支持具等の転倒防止及び防振効果について 2 件調査した。（文化財防災センター） ・例年通り、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等について、78 件の援助・助言を行った。新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。環境調査を実施した新規貸与館は、13 館（参考：文化財活用センター貸与促進事業関係 2 件）であった。（東博） ・国内外の様々な機関の要請に応じて、様々な職員がそれぞれの専門性に応じて 137 件の援助、助言、指導及び協力を行った。国内の博物館等施設との研修を、ウェブ会議システムを活用して実施するなど新たな取組を行った。（京博） ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を、50 件実施した。（奈良博） ・九州地域だけでなく日本全国の要請に対応し、81 件の援助・助言を行った。オンライン IPM 相談会を、例年実施している IPM セミナー、IPM 研修の代わりに実施し	**＜評定と根拠＞** 当機構では、公私立博物館等から博物館 4 館への要請に対して、依頼内容に応じて例年多数の助言・協力を行っており、元年度 559 件のところ 2 年度は 422 件となった。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全国の展覧会が中止となっていることから、助言の件数は減少した。 文化庁より発出された事務連絡「文化財所有者及び文化財保存展示施設設置者におけるウイルス除去・消毒作業に係る対応について」に基づいて、文化財活用センターに相談窓口を設置するなど、計画は順調に達成した。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の	

	た。また、館内向け IPM 研修は人数を減らして新型コロナウイルス予防対策を講じて実施した。大分県、広島県、佐賀県にて、先方からの要請により IPM に関わる講演会・研修会の講師を務めた。（九博）	博物館における展覧会が中止となり、助言の件数は減少したが、感染対策に対する相談にも対応し協力した。研修などもオンライン会議システムなどを積極的に活用し成果をあげた。引き続き国内外の博物館等への援助・助言等の協力を実施する。	

4．その他参考情報
特になし。

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）様式

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ－２	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
業務に関連する政策・施策	政策目標１２　文化芸術の振興 施策目標１２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法　第１２条　第２号
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

１　①　主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（九博）	実績値	―	1	2	5	0	0	0
	（東文研）	実績値	―	17	13	12	14	16	11
	（奈文研）	実績値	―	102	37	61	56	81	54
	（合計）	実績値	―	120	52	73	70	97	65
報告書等の刊行数（件）	（九博）	実績値	―	―	2	1	0	0	0
	（東文研）	実績値	―	―	3	3	9	3	16
	（奈文研）	実績値	―	―	16	17	13	11	13
	（合計）	実績値	―	―	21	21	22	14	29
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究①文化財の調査手法に関する研究開発の推進									
①文化財の調査手法に関する研究開発									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	0	0	0	4	5	5
	（奈文研）	実績値	―	11	30	36	22	19	21
	（合計）	実績値	―	11	30	36	26	24	26
報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	―	―	1	1	1	1	1
	（奈文研）	実績値	―	―	0	1	0	0	0
	（合計）	実績値	―	―	1	2	1	1	1

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	3,199,097	4,529,562	3,425,332	3,114,345	3,160,407
決算額（千円）	4,743,377	6,029,565	3,513,645	3,323,743	3,558,373
経常費用（千円）	3,403,730	3,184,946	3,523,444	3,400,624	3,273,764
経常利益（千円）	13,681	101	-3,149	-32,465	17,451
行政サービス実施コスト（千円）	3,118,227	3,137,159	3,526,065	-	-
行政コスト（千円）	-	-	-	4,777,928	3,763,829
従事人員数	88	90	87	92	88

※予算額は、２研究所・センターの年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、２研究所・センターの決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所・センターの全常勤研究職員の人数を計上している。

	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究									
	学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	15	18	17	12	12	14
		（奈文研）	実績値	－	2	4	15	16	19	20
		（合計）	実績値	－	17	22	32	28	31	34
	報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	－	－	4	4	4	5	10
		（奈文研）	実績値	－	－	1	2	1	0	0
		（合計）	実績値	－	－	5	6	5	5	10
	（３）文化遺産保護に関する国際協働①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進									
	国際情報の収集等事業の実施件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	3	2	3	3	3
		（奈文研）	実績値	－	－	3	3	3	3	3
		（合計）	実績値	－	－	6	5	6	6	6
	研修・ワークショップ等の参加者の満足度（%）	（東文研）	実績値	－	－	100	100	100	100	90
		（奈文研）	実績値	－	－	－	－	－	－	－
	共同研究等の実施件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1	1	0	0	0
		（奈文研）	実績値	－	－	2	3	2	3	1
		（合計）	実績値	－	－	3	4	2	3	1
	国際協力事業の実施件数（件）	（IRCI）	実績値	－	－	5	6	5	5	2
	閲覧室開室日数（日）	（東文研）	実績値	－	－	137	137	137	125	67
		（奈文研）	実績値	－	－	243	183	219	198	147
	閲覧室利用人数（人）	（東文研）	実績値	－	－	923	931	1,070	988	660
		（奈文研）	実績値	－	－	475	380	295	278	161
	文化財情報受入総数（件）（東文研）	図　書	実績値	－	104,577	114,509	117,696	121,599	124,229	125,316
		雑　誌	実績値	－	128,778	158,763	162,609	164,256	166,976	168,062
		その他	実績値	－	35,046	36,348	37,722	44,814	46,169	47,695
		計	実績値	－	268,401	309,620	318,027	330,669	337,374	341,073
	文化財情報受入総数（件）（奈文研）	図　書	実績値	－	351,586	361,275	359,584	368,440	377,407	383,539
		雑　誌	実績値	－	89,734	93,623	96,691	99,644	102,616	104,875
		その他	実績値	－	－	－	(9,978)	(17,016)	(20,229)	(20,229)
		計	実績値	－	441,320	454,898	456,275	468,084	480,023	488,414
	文化財データベース公開件数（件）	（東文研）	実績値	18	－	22	26	28	30	33
		（奈文研）	実績値	22	－	25	31	24	17	30
	データベース件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,164,416	1,233,111	1,271,388	1,288,551	1,715,186
		（奈文研）	実績値	－	－	1,341,997	1,417,962	1,316,283	1,348,102	1,385,920
	ウェブサイトアクセス件数（件）	（東文研）	実績値	－	1,941,504	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314	5,094,252
		（奈文研）	実績値	－	605,211	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865	15,138,198
	定期刊行物刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	12	12	12	12	11
		（奈文研）	実績値	－	－	10	10	10	10	10
		（合計）	実績値	－	－	22	22	22	22	21
	学術ポータル公開件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,510	3,454	3,560	3,634	3,726
		（奈文研）	実績値	－	－	4,389	61,861	4,992	5,572	6,962
	講演会等開催数（件）	（東文研）	実績値	－	－	5	2	2	2	2
		（奈文研）	実績値	－	－	12	19	17	13	2

	（合計）	実績値	－	－	17	21	19	15	4
講演会等の来場者数（人）	（東文研）	実績値	－	－	798	357	317	323	34
	（奈文研）	実績値	－	－	6,400	4,440	3,986	3,315	1,086
	（合計）	実績値	－	－	7,198	4,797	4,303	3,638	1,120
文化財研修（東文研）	件　数	実績値	1	－	1	1	1	1	1
	受講者数	実績値	30	－	27	31	30	31	17
	目標達成度	実績値	80	－	100	100	100	100	94
文化財研修（奈文研）	件　数	実績値	13	－	15	14	15	14	4
	受講者数	実績値	156	－	167	178	211	199	32
	目標達成度	達成度	80	－	100	100	100	100	100
専門的・技術的な援助・助言（件）	（東文研）	実績値	－	－	793	678	596	184	180
	（奈文研）	実績値	－	－	405	353	301	291	230
	（文化財活用センター）	実績値	－	－	－	－	53	134	119
	（合計）	実績値	－	－	1,198	1,031	950	609	529

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価			
中期目標、中期計画、年度計画			
主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和２年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は，下記のとおり	**＜自己評価書参照箇所＞** 以下の詳細からＢと評価した。	評定　Ｂ **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「Ｂ」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜指摘事項，業務運営上の課題及び改善方策＞** 令和２年10月に設置した文化財防災センターについて，引き続き体制強化とネットワークの構築を推進していただきたい。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・光学的調査，三次元計測，遺跡探査，年輪年代調査，動植物遺体調査などを継続的に実施し，着実に成果を上げている ・気候災害での経験が研究に反映されることが評価できる ・保存担当学芸員，埋蔵文化財担当者を対象とした研修は，例年どおり受講者の満足度が高い。新型コロナウイルス感染症への対策の助言は，時宜に適ったものである。
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①　有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 〈評価軸〉 ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。 ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標） ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 〈評価軸〉 ・無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉	**＜主要な業務実績＞** 29件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 主な研究成果は以下のとおり。 （１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ・文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究（東文研） 前年度に引き続き、当研究所刊行の論文を学術機関リポジトリ（IRDB）で公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』、各種報告書を 57 件新たに追加し合計 13 タイトル 3,688 件の論文のフルテキストを公開した。 アメリカのゲッティ・リサーチ・ポータルに、当研究所所蔵の葛飾北斎絵入り版本などの貴重書	**＜評定と根拠＞** 当機構で設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に大きく寄与した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標として見ているが、元年度は合計 97 件のところ、２年度は 65 件となった。報告書等の刊行数も同様にモニタリング数値として見ているが、元年度は合計 14 件のところ、２年度は 29 件となった（モニタリング指標）。 ・「文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究」では、新型コロナウイルス感染症の影響が世界的に拡がる中、国内外のインターネット利用者に対して公開コンテンツ数をさらに拡充し、その成果を発表して反響を得た。 また、ゲッティ研究所のポータルサイトに江戸時代版本の全文公開を行ったことと、専門性の高いデータベースやコンテンツをインターネット公開することにより、高い独創性を示し得た。我が国	

特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標） ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 〈評価軸〉 ・記念物の保存・活用に寄与しているか。 ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。 ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。 ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	836件を追加し、合計 2,563 件のデータを公開し、研究協議を行った。またゲッティ研究所との共同研究の成果について口頭発表を行った。 ・近・現代美術に関する調査研究と資料集成（東文研） 久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進めウェブ上で公開、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡の概要を『美術研究』433 号に研究資料として掲載した。アメリカの西洋古典絵画コレクション形成に寄与した画商ジョセフ・デュヴィーンと美術史家矢代幸雄との往復書簡（ゲッティ研究所蔵）について、部内研究会で口頭発表した（８月 25 日）。仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達の作品・資料調査に基づき、『美術研究』431 号にその研究成果を論説として掲載した。 ・美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開（東文研） 大分県立埋蔵文化財センターにて開催された、令和２年度企画展「BVNGO NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化」において、出品・図録作成に協力したほか、記念講演会において「キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―」と題し、この展覧会の展示内容と相関する講演を行った。また、この講演内容についてまとめた資料集が同センターから発刊された。研究データの整備と公開では、230 号までの掲載であった『美術研究総目録』を補完し、431 号までの内容を一覧にした『美術研究』pdf 版総目次を 11 月に当研究所総合検索およびレポジトリ上において日本語版・英語版を同時にインターネット公開し、利用者の便宜促進を図った。 ・歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究（奈文研） 法隆寺古材調査では、調査成果を報告書にまとめるべく図面の作成と執筆・編集作業に入った。また、奈良県社寺建築悉皆調査では、奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、59 回の現地調査を行い、市町村について社寺の台帳を作成した。受託調査においては、松江神社建造物調査業務（松江市）をはじめとする計３件の調査研究業務を受託した。 ・近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究（奈文研） 仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第 94 函～第 102 函聖教の調書原本校正・写真撮影を実施した。また、御経蔵第 77 函～89 函の聖教につ	における文化財情報の外部発信についてイニシアチブを取るとともに、その発信を安定・継続的に行える環境を整えた。（東文研） ・「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」では、今中期計画で継続的に進めてきた久米美術館との共同研究の成果をまとめ、ウェブや研究誌で公開、発表した点が高く評価される。海外の画商と日本の美術史家の往復書簡から、日本における西洋美術コレクションの形成について考察した点が高く評価される。 また、これまで東京に偏りがちだった現代美術資料の収集を、現代美術資料センターの協力により、全国的に展開する足がかりを築いた点が高く評価される。（東文研） ・「美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開」では、個人所蔵長崎螺鈿漆器箱に対して新たな視点により共同研究を開始し、その公表に努めた点を評価した。 また、新型コロナウイルスの影響による国内外出張等の規制の中で効率的に対応し、文化財調査研究をさらに発展させる試みに取り組んだ。（東文研） ・「歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究」では、保存活用計画策定業務及び建造物調査業務は、31 年４月施行の改正文化財保護法にもとづいた地方公共団体の要望に則した事業で、適時性が高く、建築悉皆調査など、これまでに行われていなかった完全な悉皆的な調査や歴史的建造物の指定・登録の促進に大きく貢献している点を高く評価した。 いずれの調査とも、その成果は文化財保護施策や文化財活用に資するものである。（奈文研） ・「近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究」では、特に仁和寺調査では、現在研究が盛んな中世仏教聖教の目録を公表しており、適時性の高い成果を得ることができた。 また、当麻寺の銘文調査では、ひかり拓本測量・	

		いて、書誌事項を検討し、目録を公刊した。唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、聖教第 17 函～19 函の調書作成や、聖教第 8 函～9 函の写真撮影等を行った。興福寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、井坊家記録の調書作成、二条家記録の写真撮影を実施した。また二条家記録の一部について、その内容を公表した	簡易デジタルカメラによる赤外線撮影・斜光投影を用いて文字を釈読しており、独創性が高いと評価した。 その他の調査においても、膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、継続性に優れている。（奈文研）	
		・無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（東文研） 古典芸能の調査研究、文化財保存技術としての楽器製作技術（三味線、笙、大鼓の革製作技術ほか）及び材料（竹材製造および第一次加工技術）の調査研究、新型コロナウイルス感染症が無形文化遺産に与える影響調査およびウェブサイトでの発信を実施した。 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成においては、宮薗節（宮薗千碌氏ほかによる古典曲 2 曲）、常磐津節（常磐津兼太夫氏、文字兵衛氏ほかによる古典曲 1 曲、舞踊曲 2 曲）、の実演記録を作成した。	・「無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化」では、新型コロナウイルスの流行下で古典芸能や文化財保存技術に対する影響が社会的に注目される中、芸能公演や楽器製作技術等の調査研究と成果公表を継続的に行った点を高く評価した。また、演奏機会の少ない平家や宮薗節（重要無形文化財）の継続的な記録作成に加え、常磐津節（重要無形文化財）及び若柳流の稀少な常磐津節舞踊曲の記録を行った点が評価できる。（東文研）	
		・無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（東文研） 風俗慣習調査では、天王祭の調査研究（神奈川県箱根町）を実施した。民俗芸能調査では、民俗芸能の公開に関わる調査研究（香川県高松市・大分県中津市）を実施した。民俗技術調査では、民具製作、和船製作に関わる技術等の調査研究を実施した。無形文化遺産アーカイブズの開発と公開においては、被災地における無形文化遺産調査として、東日本大震災被災地の無形文化遺産に関する調査を実施した。また、記録保存・活用に関わる研究としてウェブサイト「箕のかたち 資料集成」開設を実施した。無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」をテーマにオンライン映像配信にて開催した。	・「無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究」では、従来の過疎化・少子高齢化による継承危機や東日本大震災をはじめとする自然災害に拘わる無形文化遺産の調査・研究に加え、2 年度の新型コロナウイルスの流行下における影響についても情報収集を行い、社会的ニーズに応えている点でも極めて適時性が高い。新型コロナウイルスの影響でオンライン等新たな方法を用いて実践している無形民俗文化財の保護・活用事例をいち早く調査したことが挙げられる。ポストコロナにおける保護体制強化に向けた情報収集を独自に進めている点で、極めて独創的であるといえる。無形文化遺産アーカイブズの開発と公開、映像・画像等の収集を引き続き継続的に実施している（東文研）	
		・我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）（奈文研） 2 年 10 月 26 日に令和 2 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会を開催した。テーマは「歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―」とした。『令和 2 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書　歴史的計画』を 3 年 3 月に刊行した。 平城宮跡の活用に関する実践的研究に関しては、第一次大極殿前で発見された幢旗遺構の AR アプリを多言語化し改良を加えた。平城宮跡出土遺物に因む地域間交流として、兵庫県養父市立八鹿小学校の赤米献上隊を受け入れ、宮内省復元建物を利用した体	・「我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）」では、文化庁で Living History 推進事業を推進しており、国指定・選定文化財を対象に、史料に基づいた歴史的な出来事の再現や往時の生活を体験する展示などのプログラムを開発し、文化財に新たな価値を付与し、日本文化の魅力向上とインバウンドの促進により地域活性化の好循環の創出を図った事例等を取り上げた研究集会を実施した点において適時性が高いと評価した。遺跡の保存活用という点で継続性をもって研究を深化させている。（奈文研）	

		験学習を実施し、なぶんけんチャンネルでも動画発信した。		
		・平城宮東方官衙地区の発掘調査（奈文研） 主要官衙が展開する平城宮東方官衙地区の様相を明らかにするための調査を実施した。調査面積は、780 ㎡。主な検出遺構は、基幹排水路、南北築地塀、東西築地塀、暗渠 2 基、木樋、南北柱穴群等。主な出土遺物は、須恵器・土師器、瓦、木器、金属器、木簡等。調査所見としては、基幹排水路や当該地区を区画する築地塀、築地塀の下を通り基幹排水路に接続する暗渠 2 条などを検出した。平城宮を南北に貫通する基幹排水路は東西に位置する複数の官衙区画からの排水を集めて宮外へ排出する重要な施設であることを改めて認識した。基幹排水路から文字資料を含む多量の遺物を得るとともに、基幹排水路の堆積状況もあきらかになるなど、重要な調査成果を得た。	・「平城宮東方官衙地区の発掘調査」では、元年度の平城第 615 次の課題を解決する調査を即時に実施することができた。大規模な基幹排水路を長さ数十メートルにわたって検出し、その埋土の多くをとりあげて水洗することで微細な遺物の抽出に努めた。また、遺構の記録に 3D 計測技術を採用して効率化をはかるとともに、基幹排水路出土遺物から、周囲の施設の性格を解明できる可能性を得た点を評価した。（奈文研）	
		・藤原宮大極殿院地区の発掘調査（奈文研） 藤原宮大極殿院地区の発掘調査（飛鳥藤原第 205 次調査）を実施した。調査地は、大極殿の北東に当たる大極殿院内庭部及び東面北回廊、調査面積は、1,205 ㎡。調査成果としては、回廊の礎石据付痕跡や回廊基壇の造営に関わる素掘溝を検出し、回廊の柱位置や柱間隔、基壇の規模等、回廊の構造を復元するために必要なデータを取得した。また、藤原宮造営前に設けられた先行四条条間路の側溝や、宮殿造営時に掘られた廃棄土坑や素掘溝、宮廃絶後の瓦堆積等を確認し、回廊の造営から廃絶に至る経緯を明らかにすることができた。今回の調査により、大極殿院回廊東半部のほぼ全域の調査を終え、回廊及び内庭部の大部分の様相が解明されたことは、藤原宮大極殿院の構造のみならず古代宮都の今後の調査研究に関しても、重要な成果である。	・「藤原宮大極殿院地区の発掘調査」では、近年の調査成果を受け大極殿院東北部の調査を行い、大極殿院回廊の柱位置を確認し、回廊東北部が回廊の他の場所と異なる柱間隔で造られていることを明らかにした。これまでの調査成果を合わせることにより、大極殿院回廊東半部の全容が明らかとなり、藤原宮だけでなく他の古代宮都の今後の研究にも資する成果を得た。藤原宮の様相解明のため、長期的な継続調査の一環として本調査を実施し、中期計画の最終年度に大極殿院回廊東半部の調査をほぼ終えた点を高く評価した。（奈文研）	
		・飛鳥地域等の発掘調査（奈文研） 大官大寺南方の発掘調査（第 206 次）を実施した。調査地は、藤原京左京十一条四坊に位置する。主な検出遺構は、掘立柱建物、南北塀、井戸（7 世紀後半～末）である。今回の調査により、調査地周辺がかつて湿地帯であり、7 世紀になって本格的な整備が行われた可能性が明らかになった。7 世紀末には、総柱建物をはじめとする建物群が建ち、藤原宮期にかけて土地利用が活発化した様子がうかがえる。また、奥山廃寺の発掘調査（第 204-7 次）を実施した。調査地は、奥山廃寺金堂の約 50m 北に位置し、奥山廃寺の寺域内にあたる。本調査区では、奥山廃寺に関わる建物等の明確な遺構は確認できなかったが、調査区周辺の旧地形を平坦にする整地層を確認した。	・「飛鳥地域等の発掘調査」では、奥山廃寺及び大官大寺南方の調査を行い、7 世紀代における調査地周辺の整備状況について必要なデータを取得した。特に、大官大寺南方の調査においては、総柱建物を含む 7 世紀後半～末の建物群を確認し、この頃に大官大寺南方において土地利用が活発化したことが明らかとなり、今後の飛鳥地域における土地開発の研究に資する成果を提示できた。大官大寺南方の様相解明のため、継続調査の一環として本調査を実施し、中期計画の最終年度に南部付近までの様相を概括できたことを高く評価した。（奈文研） **＜課題と対応＞** ―	

		・学術雑誌等への論文掲載数 65 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数 29 件 内訳はアウトプット情報を参照		
	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与しているか。	**＜主要な業務実績＞** 以下 4 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 主な研究成果は以下のとおり。	**＜評定と根拠＞** 当機構で設定した本研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標として見ているが、元年度は合計 24 件のところ、2 年度は 13 件となった（モニタリング指標）。報告書等の刊行数は元年度合計 1 件のところ、2 年度も 1 件となった（モニタリング指標）。	
	① 文化財の調査手法に関する研究開発 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標） 〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。	・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究（東文研） デジタル画像の形成方法の研究開発では、不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討した。他のプロジェクトと連携、あるいは外部からの依頼により、東京国立博物館所蔵の仏画、四天王寺所蔵の扇面法華経、藤基神社所蔵村上藩歴代藩主肖像画など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた。 研究成果の公開は、プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携し、ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」を 8 月 24 日に上原美術館で、3 年 3 月 12 日に東北歴史博物館で開催し、それぞれ 11 人、14 人（実技）の参加を得た。 『春日権現験記絵巻九・巻十　光学調査報告書』を刊行した。	・「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」では、高精細の画像取得・蓄積は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえるものである。記録作成や発信が求められている状況において、「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催できたことは評価できる。 また、光学的調査で独自に開発・選択した技術・機材を最大限に活用、通常の機材では記録不能な可視光の全範囲に加え、赤外線や蛍光も同一の画角で記録できた。普段使用する機材を持ち寄っての文化財写真撮影に関するセミナーは他に例がなく独創性が高い。ガラス乾板からの色情報の再現の試みにより、従来の AI による経験則的な色の再現ではない、記録された情報に基づく色の再現が期待できる点も今後の研究の発展が期待される。（東文研）	
		・埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発（奈文研） SfM・MVS 技術による三次元計測手法の普及が進むなか、より効率的に文化財記録としての点群を取得する手法に注力した。遺構については計測基準点の設置と画像取得手法の改善、遺物については土器計測手法の改良及び治具の検討を行い、成果の向上と効率的な情報取得を進めた。科学研究費での実践により、遠賀川系の弥生土器甕形土器を中心に研究班として 400 点ほどの土器資料を計測し、分析を進めている。また、廉価化しつつあるレーザースキャナーの試験も実施し、好成績を得た。 遺跡探査では、GPS や LiDAR と連動した地中レーダーの検討を行い、各地でテストを行った。加えてクローラーによる自走式レーダー機器の開発検討を行った。また、96ch の電極を有する電気探査機の試験計測をおこなった。 また、簡便な機材で碑文等の表面情報を読み取る「ひかり拓本」技術の確立と実践を行った。	・「埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発」では、慢性的な人材不足や調査の高度化に対応した研究を進め、文化財の保護に寄与する研究を進めており、ロボティクスや画像解析、物理探査といった技術の導入を進め、調査の省力化と研究の進展を支える研究を進めている。今後全国の自治体など調査機関で活用できる技術の基礎研究をおこなうことで、我が国の文化財保護技術の発展に大きく寄与できることが期待される点を評価した。独法化以前からの研究資産・研究水準を引き継ぎつつ、不断の技術開発と現在の文化財の調査研究及び保護に要求される水準に沿った研究を進め、成果を上げている。（奈文研）	
		・年輪年代学研究（奈文研） 出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による年輪データの蓄積を行った。 長岡京跡右京六条三坊三町において検出された長岡京で最大級と考えられる大型掘立柱建物跡の柱穴から出土した木材について年輪年代測定を行い、辺材が残存する礎板が 788 年以降それほど経たない年代に伐採されたことを明らかにした。この成果は、共伴する瓦などの遺物と対応した貴重な年代情報となると考えられる。 平城宮第一次大極殿院西楼から出土した削屑木簡の年輪年代学的検討を行い、同一材に由来する削屑を見出した。これらは、単一の木簡に複数名分の人名や位階が記された歴名簡に由来するという想定を支持する成果となった。	・「年輪年代学研究」では、発掘調査や解体修理の進捗状況に対応した年輪年代調査を実施した。従来、年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を、木簡の同一材推定に活用し、削屑木簡について同一材を見出すなど、独創性を発揮するとともに、古代史学への波及が期待できる成果となった。また、デジタル画像技術の活用により、多数の削屑木簡を調査対象として供するなど、効率的かつ正確に年輪年代調査を実施した。古文書櫃の調査により中世における年輪データの蓄積を継続的に実施し、継続的に標準年輪曲線の拡充を図っている。（奈文研）	
		・動植物遺体の研究開発（奈文研） 中沢浜貝塚（岩手県）、波怒棄館遺跡（宮城県）、金井下新田遺跡（群馬県）、保美貝塚（愛知県）、公家町遺跡・相国寺旧境内（京都府）、西大寺食堂院（奈良県）などの遺跡から出土した動物遺存体を分析した。 平城宮跡や藤原宮跡で検出された花粉の分析を進めるとともに、奈良県内の遺跡から見つかった花粉を集成して、植生の歴史的変遷を明らかにした。周辺地域との比較を行い、植生変化の地域的な違いを検討した。 現生標本を収集し、標本見学に対応した。また、遺跡でみつかる動物の足跡を調査するためのレプリカ標本を作製した。 研究成果の発信や社会還元として、「古代食の総合的復元と疾病の関係解明」シンポジウム、東京都埋蔵文化財センター文化財講演会、近江貝塚研究会などで研究発表や講演会を行った。	・「動植物遺体の調査研究」では、東日本大震災の復興・創生期間の最終年となる重要な節目を迎え、地方自治体の要請に応じて、復興関連調査の整理作業や発掘調査報告書作成を支援した。また、出土事例の少ない縄文時代草創期の前田耕地遺跡から出土した動物遺存体を再検討して、新知見を得た。古代の上総国・下総国における貝類利用の実態を明らかにし、地域における生業研究への寄与した点、足跡標本を製作して、発掘における効率的な調査を可能とした点を評価した。奈良県内の遺跡から検出された膨大な花粉データを継続的に集成した研究成果を公表した点においても評価が高い。（奈文研） **＜課題と対応＞** ―	
		・学術雑誌等への論文掲載数　26 件		

		内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数　1件 内訳はアウトプット情報を参照		
	② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 以下 12 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究（東文研） ・保存と活用のための展示環境の研究（東文研） ・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研） ・屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究（東文研） ・文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究（東文研） ・考古遺物の保存処理法に関する調査研究（奈文研） ・遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究（奈文研） ・建造物彩色に関する研究（奈文研） ・近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（東文研） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（東文研） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（奈文研） ・古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究（奈文研） 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究（東文研） 　新規殺虫方法である湿度制御温風処理の技術開発に関して 5 か年で進めてきた研究を総括し、現状の到達点と今後の課題について 12 月に内部向けの研究会を開催するとともに、報告書の編集を行った。 　国内の洞窟（風連鍾乳洞）や古墳環境（虎塚古墳他）における微生物劣化現象について基礎研究を行い、成果を学会・紀要・学術雑誌等を通して発信した。 　簡易迅速な生物モニタリング手法の開発のために、社会実装を視野に入れた標準的な調査方法を立案し、実際の現地にて調査を実施した。 　水損等被災文化財の生物劣化現象の研究と初期対応に関する基礎研究を実施した。関連して被災資料の低酸素濃度殺虫処理に用いられた脱酸素剤から発生する有機酸について緊急的に調査を実施し、その成果を論文にまとめた。 　文化財害虫の分子生物学的解析手法の検討を重ね、羽や歩脚などの体節の一部から種を特定する方法を確立した。また、一部の木材害虫では、虫糞から PCR 法によって特異的に検出する方法を確立した。 ・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研） 　可搬型蛍光 X 線分析装置による材料調査として、平安時代の国宝久能寺経（個人蔵）に真鍮泥が使われている新知見を見出した。金箔標準試料を用いてラウンドロビンテストを実施し、分析精度や確度に関する定量的な評価を行った。可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた光源の選定、白色補正法の改良、治具の製作を行った。また、新規導入した X 線分析顕微鏡を用いた調査を開始した。現代アート作品の金属装飾部分の腐食生成物の分析、及び作品周辺の空気質の分析を行い、空気環境と金属腐食との関係について考察を行った。 　研究成果発表では、論文 2 件、学会発表 2 件の研究成果発表を行うとともに、国宝久能寺経（個人蔵）及び国宝孔雀明王像（仁和寺蔵）に関する光学調査報告書を刊行した。また、金属腐食と空気環境に関する研究会を開催した。 ・文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究（東文研） 　絵画の基底材に関する調査では、自然布に関して、FT-IR とデジタルマイクロスコープによる観察により、葛と芭蕉などの識別がある程度可能なことを明らかにした。また、絵画基底材料としての絹糸の形状と繊組織に関する基礎データを収集し、その劣化に関する差異についても明らかにした。漆に関する調査では、日本の漆技法に関して、伝統的工法の科学的解明を行い、絞漆などの化学的変化を利用した技術を明らかにした。さらに、首里城火災によって被災した漆芸品の劣化状況や保存環境等を調査し、今後の防災上の課題について検討を行った。水害によって被災した資料の処置方法の検討や、それらの処置を行う機材の導入など、次期中期計画に向けた萌芽的研究を開始した。 　プロジェクト「文化財修復材料と伝統技法に関す	**＜評定と根拠＞** 当機構が設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に大きく寄与した。 学術雑誌等への論文掲載数については、量だけで評価することは難しく、質を伴うものでなければならないため、モニタリング指標としている。元年度は合計 31 件のところ、2 年度は 20 件となった（モニタリング指標）。報告書等の刊行数は、元年度は合計 5 件のところ、2 年度は 10 件となった（モニタリング指標）。 ・「文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究」では、管理保全計画策定の中で高い需要が期待される文化財建造物の湿度制御温風殺虫処理方法の普及に向けた研究の成果発信を適切に行った点を高く評価した。 　洞窟や古墳壁画の微生物劣化現象について、現地保存に資する基礎研究成果を得たことには高い独創性があると評価した。 　一部の文化財害虫の遺伝子解析に基づく新規データベースの構築と虫糞等からの同定手法の確立に成功し、今後の展開が期待される点を高く評価した。 　歴史的木造建造物の湿度制御温風殺虫処理の課題において、大学や他の研究機関と連携協力体制を作り、それぞれの専門性を生かした分担業務を行いながら効率よく継続して研究を遂行することができたと評価した。（東文研） ・「文化財の材質・構造・状態調査に関する研究」では、金属の腐食と空気環境に関する研究の総括を行うために、研究会を開催し、関係者に高く評価された。また、これまでほとんど調査が行われていなかった現代アート作品に用いられている鉛について腐食生成物の分析を実施できたこと、新規導入した X 線分析顕微鏡を用いた調査を開始したことを高く評価した。分析調査の効率を上げるために、可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けた光源の選定、白色補正法の改良、治具の製作を行った点も評価が高い。さらに、日本絵画や経典に関する材料調査結果を蓄積し、新たな知見を得たことを高く評価した。（東文研） ・「文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究」では、伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている複数のテーマを効率的に遂行しつつ、新型コロナウイルスの影響下でも一定の成果を得られ、得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や保存環境の提言が見込まれることを高く評価した。また、川崎市民ミュージアムや首里城など被災資料に関する保存科学的研究を開始していることを高く評価した。（東文研）	

		る調査研究」に関する５か年の成果をまとめた報告書を作成した。 ・考古遺物の保存処理法に関する調査研究（奈文研） 鉄製遺物の新規脱塩法の実用化に向けて、脱塩の効果をＸ線 CT によって評価する方法を検討するため、鉄製遺物のＸ線 CT データを収集した。 鉄製遺物の発掘後の劣化特性を埋蔵環境から予測する保管・管理システムを構築するため、室内実験結果に基づき、埋蔵時の鉄製遺物の腐食モデルを検討した。 木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化させる新たな手法について、基礎的な実験データの蓄積を進め、乾燥・固化の具体的な手法の検討に着手した。 飛鳥池工房遺跡出土品や平城宮京及び藤原宮京出土木簡の保存処理を良好に実施するとともに、漆塗の施された出土遺物を安定的に保存するための手法を検討するための基礎実験に着手した。 新たな蛍光Ｘ線分析システムの導入により、迅速な元素マッピング分析が可能となった。また、従来の分析手法を応用し、辰馬考古資料館所蔵の伝持田古墳群出土の筒形銅器や付着のガラス玉等について材質調査を実施した。 保存科学研究集会をオンライン形式により開催し、遺跡の保存に関する課題や技術等について全国の文化財担当者と情報を共有し、意見交換を行った。 ・高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（奈文研） 東京文化財研究所と奈良文化財研究所で構成する古墳壁画保存対策 PT（発掘班・保存整備班・修復班・材料調査班・生物環境班）にて、下記を実施した。 石材および漆喰の安定化を検討するため、異なる含水状態における石材の引張強度や膨潤率の測定、石材と漆喰の平衡含水率測定、それらの物性値から推定される内部応力と強度の比較を行った。また石材のクラックの発生状況を記録する手法として SfM の妥当性について検討した。さらに昨年度に引き続き高松塚古墳の石材輸送時に発生する振動、加速度計測を行った。 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的協力として、壁画の現状を把握するため、種々の分析調査を実施した。壁画を安全に測定することのできるＸ線回折装置の精度向上を図り、２年度はテストピースを対象に機器精度の評価を行った。 ・学術雑誌等への論文掲載数　34 件	・考古遺物の保存処理法に関する調査研究では、金属製遺物や木製遺物の保存技術について未解決の課題に取り組んだ。飛鳥池工房遺跡及び指定に向けた平城宮京跡・藤原宮京跡出土木簡の保存処理を着実に進めている。また、鉄製遺物の新たな保管・管理法として、発掘後の劣化特性を埋蔵環境から推定し、効率的な保管管理を実施するための研究を進め、従来の木製遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法の開発を進めた点において独創性が高く、評価が高い。さらに、様々な分析法を複合的に活用することにより、多様な考古遺物の材質・構造調査に対応できた。各種の材質構造を総合的に分析することで、効率よく遺物の診断調査を実施し、遺物の劣化原因を究明できた点、新たな蛍光 X 線分析システムの導入により、迅速な元素マッピング分析が可能となり、壁画資料などの効率的な材質調査体制を構築できた点において効率性が高い。奈良文化財研究所に大量に保管されている平城宮及び飛鳥・藤原宮跡出土遺物を対象にすることで、多くの遺物の材質・構造調査のデータを継続的に収集することができた。また、過年度に構築された保管環境のモニタリング体制の下で基礎データの蓄積が進んだ結果、遺物の劣化抑制の具体策を提示することができた点においても高い成果を上げている。（奈文研） ・「高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究」では、将来的な石室石材の安定化と公開に向けた検討を行うために、石室石材および漆喰についての水分移動物性に関する基礎データを収集し、また、再構成されたキトラ古墳壁画の表面状態を 3 次元的に記録するために SfM-MVS 技術を応用することで、簡便かつ迅速に 3 次元情報を得ることができた点を高く評価した。 キトラ古墳壁画保存管理施設の適切な運用・管理を行うとともに、壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用や、壁画を安全に分析するために開発したＸ線回折装置の実用化など、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施することができた点を評価した。 高松塚古墳及びキトラ古墳の壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び保存・活用の体制を構築して事業を継続するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に今後も対応していくことにしている。（奈文研）	

		内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数　10 件 内訳はアウトプット情報を参照	**＜課題と対応＞** ―	
	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①　文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 【指標】 ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数，諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度，諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することとする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」 第１　文化遺産国際協力の基本的方向 4. 文化遺産国際協力の推進における国等の役割 （２）教育研究機関等の役割 ③　独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター（以下「センター」という。）は，文化遺産の保存修復及び調査研究の分野において，国際協力を推進する極めて重要な専門機関であり，その卓越した機能を生かし，世界各地で積極的な協力活動を実施している。センターは，教育研究機関及び民間団体等と協力しつつ，自らが有する知識，技術，経験等を活用して，文化遺産国際協力を更に推し進めるとともに，コンソーシアムを中心とした我が国の国際協力推進体制を支えていくことが望まれる。このため，国は，センターが文化遺産国際協力に関係する	**＜主要な業務実績＞** 11 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 ・「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」（東文研） 新型コロナウイルスの流行下であることを考慮しつつ、文化遺産保護に関する情報収集のため以下の国際会議やシンポジウムにオンラインで参加した。 ・2020 HeritAP Webinar: Impact of COVID-19 on World Cultural Heritage Sites and Moving Forward ・国際文化財保存修復研究センター第 94 回理事会 英国の主要な文化遺産保護関連の法令の収集・翻訳作業を実施し、その概要に関する説明（英国行政担当者に依頼）と併せて『各国の文化財保護法令シリーズ［25］英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）』として刊行した。併せて、これまでに刊行した冊子のうち可能なものについて WEB での公開準備を行った。 世界遺産の遺産影響評価の実施において重要な「世界遺産の価値の属性（attribute）」について整理し、国際的な議論を行うため、各国の専門家に寄稿を依頼して『Attributes - a way of understanding OUV』として刊行した。 ・「文化財保護に関する国際協力の推進」（奈文研） ２年度は、元年度から引き続きカンボジア・アンコール遺跡群、西トップ遺跡の調査修復事業において中央祠堂の解体・再構築作業を行っている。２年度の成果として、カンボジア文化芸術省所管アンコール保存事務所との協力体制の強化が挙げられる。躯体部の再構築にあたり、アンコール保存事務所に保管されていた西トップ関連石材のうち、再構築に必要なリンテルなどの装飾石材の返還を申請した。奈良文化財研究所が長年アンコールで着実な成果をあげていることが評価され、文化芸術省大臣の承認を得て、西トップ遺跡現地に約 30 年ぶりに装飾石材が里帰りした。２年度はコロナ禍のため、日本	**＜評定と根拠＞** 当機構では、文化財保護に関する国際協力に関して、事業を有機的・総合的に展開し、文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に大きく寄与したといえる。 国際情報の収集等事業の実施件数は、国等の要請や相手国との連携の必要性から、計画通りに実施できるとは限らないので、モニタリング指標として見ているが、元年度は合計６件のところ、２年度も６件となった。また研修・ワークショップ等の参加者の満足度は 90％であった。 ・「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」では、近年の世界遺産申請プロセスにおいても課題となっている世界遺産に関する整備の問題を取り上げ、また同様に喫緊の課題である遺産影響評価の実施に関連する「価値の属性」に関して冊子を刊行するなど、文化遺産保護の最新の国際動向を把握し、詳細かつ時宜に適う提供ができた。文化財保護法令シリーズにおいては法令の翻訳のみならずその背景に関する詳細な説明を付し、また世界遺産の価値の考え方について世界各国の専門家の寄稿を得て冊子を刊行するなど、国際情報の国内外への発信に大きな発展を得た。スタッフが関わる他の関連業務で得られた周辺情報も統合するなど、国内外のネットワークを通じ最小限の規模で着実に事業を進めることができた。 単に最新の情報のみならず、長期的トレンドを踏まえた分析に基づいて有用な情報を提供した。また、文化財保護法令シリーズについては我が国で参照されることが多い一方で、法令そのものの構成においても特徴的な英国を取り上げ、25 冊目を刊行することができた。（東文研） ・「文化財保護に関する国際協力の推進」は、アジアの文化遺産に関する国際協力が必要とされる昨今、適時的に対応し、アンコールにおける初期上座仏教寺院の初めての本格的な調査・修復として注目されている。今回の調査修復によって、アンコール王朝末期の歴史観に一石を投じる結果となり、調査研究のさらなる発展が見込まれる。現地に作業員などを適切に配することによって効率的な調査修復を行い、今後テラス遺構と周辺の整備を行う予定で、全体の継続性が保たれており、順調かつ効率的に事業が推移している。（奈文研）	

	海外諸機関との連携における中核的な役割を発揮できるように，その体制の整備充実を図る。	から渡航することが困難になったが，現地のカンボジア人スタッフが修復事業を着実に進捗させている。日本・カンボジア間でオンラインでの技術的・事務的なミーティングを経れば，カンボジア人自身の手で文化財の修復を進めていくことが可能となっている。 ・文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数 6 件 ・諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度 90% ・諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数 1 件	**＜課題と対応＞** 2 年度は新型コロナウイルスの影響により、渡航が困難になったがオンラインでのミーティング等を活用し、協働事業を継続した。	
	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 【指標】 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 ・以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」 第１　文化遺産国際協力の基本的方向 4. 文化遺産国際協力の推進における国等の役割 （２）教育研究機関等の役割 ④　また，平成 23 年 10 月には，日本国政府とＵＮＥＳＣＯ（国際連合教育科学文化機関（以下「ユネスコ」という。）との協定に基づき，ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際調査研究センターとして，独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋地域無形文化遺産研究センターが設置された。当該センターにおいては，我が国の無形文化遺産に関する国際協力の拠点として，東京文化財研究所等の関係機関と連携しつ	**＜主要な業務実績＞** アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関し、以下の調査研究等を行った。 (1)　無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究-教育とまちづくり（ユネスコ未来共創プラットフォーム事業） ・オンライン会議を経て、事業協力機関として、バングラデシュ、インドネシア、キルギスタンの機関を選択し、Exchange of Letters の形で契約を締結した。各機関において選択した ICH と SDG4、SDG11 との関係について、卓上調査を中心に事例研究を実施した。 ・事例研究結果の分析を行い、ICH の SDG4 と SDG11 に対する貢献と役割について報告書にまとめた。 ・上記協力機関、前事業の協力機関、日本のリソースパーソン、日本の若者・教育関係者を招き、国際シンポジウムを開催し、事例研究成果を共有したうえで ICH、SDG4、SDG11 の関係性について議論し、日本国内の事例についても共有した。 ・調査内容及び国際シンポジウムの成果をまとめた事例集を当センターのウェブサイトにて公開した。 (2)　アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究（文化財保存活用基金） ・アフガニスタン、スリランカ（北部）、東ティモールについては、現地の新型コロナウイルス感染状況の広がり及び治安状況の悪化のため、すでに特定済みの消滅の危機に瀕する無形文化遺産について、可能な範囲での卓上調査及び小規模現地調査を継続した。アフガニスタンにおいては、バーミヤン大学と協力し、ZOOM での調査事前会合（9 月）後、10 月に 30 年度の調査の補足的小規模現地調査を実施した。また元年度より新たに、フィリピンのパートナー機関の要請により、マラウイ市での伝統工芸の試験的調査を開始し、卓上	**＜評定と根拠＞** 無形文化遺産保護は喫緊の課題であることに加え、紛争・災害に関する事業「アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究」について緊急時における無形文化遺産への関心が高まりつつある国際的動向と合致し先駆的と評価できること、事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究 - 教育とまちづくり」も国際的枠組である持続可能な開発目標への貢献を目指すものであることから適時性及び独創性を高く評価した。またこれらの事業は対象国・ユネスコ等から高く評価されており、今後の活動への期待が大きい。人員が限られているなか、国内外専門家や他現地機関等との連携により、効率的に活動を実施できた。 なお、国際協力事業の実施件数は、国等の要請や相手国との連携の必要性から、計画通りに実施できるとは限らないので、モニタリング指標として見ているが、元年度は 5 件のところ、2 年度は 2 件となった。 **＜課題と対応＞**	

	つ，アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進することが望まれる。	調査を含む小規模調査を実施した。 ・本事業の成果をまとめたレポートを作成した。 ・国際協力事業の実施件数 2 件、国際会議等開催件数 5 件、国際会議等出席件数 5 件、刊行物 4 件	事業の性質上、予算の大半を競争的資金に依存しており、事業予算の安定的確保が難しい状況が依然としてある。	
	(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 【指標】 図書，雑誌等の公開に関する取組状況（資料閲覧室・図書資料室の開室日数，利用者数，　文化財に関する資料・図書等の総件数） 文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・データベースのデータ件数 ・データベース等へのアクセス件数 〈目標水準の考え方〉 文化財に関する専門図書等の公開施設を設け，書誌情報等による検索サービスを提供し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。なお，当該施設は文化財に関する希少な資料・図書等を収集・整理し公開するものである。一般図書とは異なりその利用に当たっては制限が必要となることとなり，あらかじめ数値目標を設定せず，上記の取組をモニタリングし総合的に評価する。 文化財に関する各種データベースを構築して，情報通信回線を通じて公開し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。 【指標】 ・定期刊行物等の刊行件数（前中期目標の期間の実績以上） ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績以上） ・公開施設における特別展・企画展の開催件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の来場者数 ・公開施設の来館者数 ・学術情報リポジトリ等による	**＜主要な業務実績＞** 7 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 ・専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充（東文研） 　文化財情報の発信として通常は年 4 回アーカイブズWG協議会を開催してきたが、第 1 四半期は新型コロナウイルスの影響により、メールによる意見集約・情報共有を行い、第 2 四半期以降は 3 回、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を行うための協議を行った。 　東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作・平子鐸嶺・田中一松による調査ノートと、京都工芸繊維大学が所蔵する土居次義による調査ノートと、東京国立博物館所蔵作品 2 点を交え、展覧会「日本美術の記録と評価―調査ノートにみる美術史研究のあゆみ―」を開催した。ウェブ展覧会も同時開催した。売立目録デジタルアーカイブの改良と報告書の作成：元年度より資料閲覧室にて公開しているデジタルアーカイブの校正作業を進め、元年度に開催した研究会の内容を拡充した報告書を刊行した。 資料閲覧室の運営・管理 資料受け入れ数：新型コロナウイルスの影響により 2 月 28 日から資料閲覧室は閉室していたが、事前予約制を導入し 6 月 10 日より再開した。和漢書 1,002 件、洋書 85 件、展覧会図録・報告書等 1,526 件、雑誌 1,086 件（合計 3,699 件）・閲覧室利用状況：公開日総数 67 日・年	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用を行った。 資料閲覧室等の開室日数は東文研、奈文研で元年度はそれぞれ 125 日、198 日のところ、2 年度は 67 日、147 日となり、利用人数は、元年度は東文研、奈文研でそれぞれ、988 人、278 人のところ、2 年度は 660 人、161 人となった。 文化財に関する資料・図書等の総件数は、東文研、奈文研で元年度はそれぞれ合計 337,374 件、480,023 件のところ、2 年度は 341,073 件、488,414 件であった文化財に関するデータベースの公開件数は、東文研、奈文研で目標値がそれぞれ 28 件、24 件のところ、2 年度はそれぞれ 33 件、30 件となった。 　新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、閲覧室等の閉室により、開室日及び利用人数は元年度に比べ減少したが、当該期間を除けば順調に公開しており、また公開データベース件数は元年度に比べ増加した。 ・「専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充」では、新型コロナウイルスの影響により移動や外出の困難が生じる中、より広範なオープンアクセス需要への対応のため、当研究所の研究成果や所蔵資料の情報発信を積極的に行った。当研究所が有する専門性・独自性の高い文化財情報の公開を念頭におき、画期的な『売立目録』のデジタルアーカイブの改良を進め、報告書を刊行した。国内外の関係機関と連携して、国内外への情報発信を積極的に行い、研究会などを通じて連携を強化した。効率性においては、、元年度より稼働した図書館システムを活用し、入力作業と情報発信を効率よく行った。当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化作業を年間通じて順調に進めた。あわせて、高い利便性と安定した資料の保全の双方に配慮しつつ、資料閲覧室としての公共性と高い専門性を保持した運営を行った。新型コロナウイルスの影響により閉室期間があったため、実際の利用者数は元年度に較べて減少したが、オープンアクセス資料の増加や遠隔複写サービスなどで対応した。（東文研）	

	ウェブサイトにおける論文等の公開件数 〈目標水準の考え方〉 ・定期刊行物等は，文化財研究所の調査研究等の成果を普及するために，重要な役割を担うものであり，一定の規則性をもって企画されるべきものである。定期刊行物等の種別によって，刊行の時期や部数等が異なるが，全体的な規模としては，原則として前中期目標の期間の実績以上となるよう刊行計画を策定し，これを達成することを目標とする。 ・一般を対象とする講演会等の開催回数は，毎年一定程度の規模を保つことが重要であり，前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。 ・奈良文化財研究所の平城宮跡資料館・飛鳥資料館は，発掘調査等の研究成果を適時に展示することが重要であり，特別展・企画展開催件数を前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。	間利用者合計 660 人 ・文化財に関するデータベースの充実（奈文研） 文化財情報データベースの充実として，従来進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関して、データの入力・更新した。公開データベースを更新した。 全国遺跡報告総覧の登録データ件数 PDF 数 27,761 件 書誌登録数 88,067 件 遺跡抄録件数 135,663 件 ・全国の博物館等の文化財関係機関が作成している文化財動画の情報を集約した「文化財動画ライブラリー」を公開した。既存の文化財報告書や文化財イベントと類似度を自動算出しており、関連コンテンツを自動提示できるようになった。 ・図書の収集・整理・公開・提供（奈文研） 収集・整理・保管については、例年どおり滞りなく実施した。提供については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として対面カウンターに飛沫防止シートの設置、閲覧室前に手指除菌スプレーを設置した。一般利用者の閲覧については、同時利用 2 名の完全予約制とし、資料室利用状況カレンダーをウェブサイト上に公開して空席状況を表示し、資料室の予約フォームより空席時間に予約を入れてもらうことで密となることを避けた。 購入図書 225 冊、寄贈図書 7,729 冊、雑誌 3,071 冊、一般利用者 193 人、利用冊数 1,814 冊、来館者複写件数 454 件、遠隔利用：複写受付件数 372 件、貸借貸出冊数 118 冊 ・文化財に関する調査研究の成果について、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信した。（東文研、奈文研） ・定期刊行物の刊行を行った。（東文研）（奈文研） ・奈文研ブログ「コラム作寶樓」を月 2 回更新、当研究所研究室を紹介する「巡報研究室」毎月継続配信した。ウェブサイト上に「なぶんけんチャンネル」を開設した。（奈文研） ・既存データベースへのデータ追加や機能改善を実施した。また、元年度に引き続き、文化財アーカイブズ研究室及び近・現代視覚芸術研究室と連携し、データベース管理システム Oracle による所内データベースを適宜改良して利便性を向上させた。特に、緊急事態宣言発令中にはソーシャルメディアによる文化遺産の現状や国際機関の取り組みに関する情報の発信に努めた。（東文研）	・「文化財に関するデータベースの充実」では、最新のデータを提供して充実を図っている。国民から活発に利用され、文化財情報のインフラとして機能している。新型コロナウイルスによる影響でリアルなイベントが開催困難であったが、デジタルの強みを活かして文化財動画ライブラリーなどを構築した。全国遺跡報告総覧のように他に類を見ないデータを提供しており、独自のデータ解析も提供している。既存のデータベースの内容を着実に充実させているとともに、データベースの機能強化を実現している。全国の自治体や博物館など既に 1,301 機関が本事業に参加している。これらにより、内容豊富なデータベースとして著しく発展していると評価した。（奈文研） ・「図書の収集・整理・公開・提供」では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてカウンターに飛沫防止カーテン及び手指消毒薬を設置。コロナ渦においても閲覧可能な体制を整備した。閲覧室が密になることを防止するため、ウェブサイト上に資料室の予約フォームを設置し、完全予約制として閲覧室を効率よく利用できるよう配慮した。緊急事態宣言解除以降、閲覧室を閉室することなく、一般利用者からの資料利用要求に応えることができた。（奈文研） ・新型コロナウイルスの感染リスクにより、年間を通じて在宅勤務等の大幅な勤務体制変更を余儀なくされる中で各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行することができた。（東文研）（奈文研） ・現地説明会（新型コロナウイルス感染症対策のため現地見学会として実施）開催、ウェブ公開とも適時に情報を発信した。個々のデータベース登録数も増え、多様なブログ、コラム等を更新することによりホームページの内容を充実させた。また、当研究所の調査研究の成果を多元的に発信するために、ウェブサイト上に「なぶんけんチャンネル」を開設したほか、体験型イベントを実施した。（奈文研） ・データベースの構築、新規公開やデータ追加は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえ、時宜に適ったものである。また、ソーシャルメディアを活用した情報発信も、時宜にかなっている。横断検索が可能で、画像及びテキストの両方を扱えるデータベースの構築を継続、今後のデータベース	

		・論文や学会発表を通じてデータベース構築やその活用に関連する成果を公表した。（東文研） 以下の展覧会を開催した。（奈文研） ○平城宮跡資料館 ・特別企画展「古代のいのり －疫病退散！」（6 月 16 日～7 月 19 日）（30 日間、2,846 人）。動画配信サイト「なぶんけんチャンネル」にて関連動画 1 本を配信。 ・夏期企画展「奈良の都の考古学 －発掘された平城 2019/古代のいのり －疫病退散！」（7 月 23 日～8 月 30 日）（34 日間・3,968 人）。「なぶんけんチャンネル」で関連動画 1 本を配信。 ・秋期特別展「地下の正倉院展 －重要文化財 長屋王家木簡－」（10 月 10 日～11 月 23 日）（39 日間・14,670 人）。「なぶんけんチャンネル」にて関連動画 3 本を配信。 ・新春ミニ展示「平城京の丑」（3 年 1 月 5 日～1 月 31 日）（24 日間・1,425 人） ・関連展示「鬼神乱舞―護る・祓う・鬼瓦の世界―」（3 年 1 月 23 日～3 月 28 日）於：平城宮いざない館（64 日間・31,530 人） ・新型コロナ対策のため、4 月 1 日～5 月 31 日、多言語化ならびに地震対策のため 3 年 2 月 23 日～3 月 12 日を臨時閉館とした。 ○飛鳥資料館 ・特別展「飛鳥の石造文化と石工」（8 月 4 日～9 月 22 日）（44 日間・3,212 人） ・秋期企画展「第 11 回写真コンテスト作品展 飛鳥の祭」（10 月 16 日～12 月 6 日）（45 日間・5,114 人） ・冬期企画展「飛鳥の考古学 2020」実施（3 年 1 月 22 日～3 月 14 日）（45 日間・2,371 人） ・新型コロナ対策のため、4 月 1 日～5 月 31 日臨時閉館、特別展の開催時期と回数を調整した。 ○藤原宮跡資料室 ・ロビー展示「飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原 197-6 次）」、「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 200 次）」、「石神遺跡土坑 SK1244・1245 出土土器（石神遺跡第 7 次）」（12 月 4 日～12 月 28 日）を実施。 ・新型コロナ対策のため、4 月 1 日～6 月 1 日、6・7 月の土日を臨時休館。また、電気工事のため、2 月 23 日～3 月 7 日に休館した。 解説ボランティア研修等では、解説ボランティアの育成に資するため、平城宮跡資料館及び平城宮跡歴史公園平城宮いざない館（受託事業）における特別展、企画展にかかる解説ボランティアに向けての展示解説研修の実施、発掘調査の現地説明会（新型コ	の多様化にも対応した。ウェブサイト更新による情報発信、セキュリティ水準向上への対応も継続的に実施した。（東文研） ・4 月 1 日～5 月 31 日を臨時休館したが、平城宮跡資料館では、開連展示を含め、5 件行うことができた。（奈文研） ・平城宮跡資料館において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下、奈良時代における感染症拡大への対応を展示した「古代のいのり －疫病退散！」展を開催した。また、同じく、平城宮跡資料館の「地下の正倉院展」は、長屋王家木簡の重要文化財指定にあわせた展示であり、適時的なものだった。 飛鳥資料館の「飛鳥の石造文化と石工」は、飛鳥資料館が進めている石造物の複製制作を絡め、飛鳥地域の古代の特徴でもある石造物を取り扱ったものであり、飛鳥資料館ならではの企画であった。発展性においては、平城宮跡資料館の展示に関しては、動画を 5 本作成し、動画配信サイト「なぶんけんチャンネル」にて配信し、今後の展示活動への動画の活用について礎を構築することができた。 平城宮跡資料館の「地下の正倉院展」は 14 回、飛鳥資料館の「写真コンテスト」は 11 回を数えており、順調かつ効率的に事業が推移している（奈文研） 解説ボランティアへの奈良文化財研究所からの最新の情報提供、解説ボランティアからの改善等の意見を随時取り入れるための研究部と事務部が一体となって組織した「平城宮跡解説ボランティア懇談会」を定期的に開催したことにより、研究所におけるボランティアの情報発信内容等が効果的に進んでい	

		ロナウイルス感染症対策のため現地見学会に変更）、及びボランティア勉強会を実施した。いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示解説資料を郵送し研修とした。 解説ボランティアに関する会議は、平城宮跡解説ボランティア懇談会（毎月１回）を開催したほか、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、平城宮跡解説ボランティア連絡会議（毎月１回開催）及び平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（２か月に１回）をメール配信及び書面送付により開催した。	る。解説ボランティアの資質向上のため、平城宮跡における当研究所の最新の調査研究成果を踏まえた展示に関連する解説研修を書面送付により適宜実施した。新型コロナウイルスの影響により研修、会議等を通常の形で行うことが難しい状況であったが、開催方法等に工夫をする等の措置を行った。なお、２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から解説ボランティアが実際に解説活動を行うことは叶わなかったが、新型コロナウイルス収束後の活動再開を見据え、必要と考えられる対応策は全て実施したところである。以上により、活動が順調に進んでいると判断した。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響により、公開施設での展示や資料館の運営、対面型のレクチャー等は制限をうけたが、オンラインやオンデマンド配信に変更し、新たな研究成果の発信に取り組んだ。また、データベースは継続的に拡充を行う。	
	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ①文化財に関する研修の実施 【指標】 ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績以上） ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績以上） ・研修成果の活用状況（アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上） 〈目標水準の考え方〉 ・地方公共団体等における文化財に係る専門人材の資質の向上は，我が国全体の文化財行政等の基盤を支える観点から重要である。中期目標の期間においては，各研修の目的，項目及び課程等の研修体系を策定するとともに，アンケートにより地方公共団体等の要望や研修成果の活用状況を調査し，適宜研修プログラム等に反映する。	**＜主要な業務実績＞** 12 件のテーマを設定し、研修及び協力等を実施した。 研修等に関して主な実績は以下のとおり。 ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修を実施し、17 名が受講した。研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から 100%満足との回答を得ており、充実した研修が実施できた。（東文研） ・新型コロナウイルスの影響により中止や規模縮小（定員 10 名）となったが、発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修４課程の研修を実施し、延べ 32 人が受講した。なお、研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得た。（奈文研）	**＜評定と根拠＞** 当機構では下記のとおり研修及び協力等を行い、また、連携大学院教育の推進を行った。東文研、奈文研の文化財研修の件数及び受講者数の目標値はそれぞれ１件、15 件、30 人、156 人のところ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止や規模縮小となったため、１件、４件、17 人、32 人となった。しかしながら、研修成果活用実績については、目標値 80%、80%のところ、94%、100%となり、目標値を大幅に上回った。 ・「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」では、新型コロナウイルス対策のため定員数の削減や、講義、実習方法を検討したうえで開催した。東京文化財研究所の特徴を生かし、材料、構造、製作技術と保存活用の関係について多様な講義を実施した。また、東京文化財研究所における最新の調査研究に基づく講義や、文化財公開施設における新型コロナウイルス対策、博物館の防災といった時勢を踏まえた講義を実施したことを高く評価した。文化財活用センターと共催することで効率よく開催でき、外部講師の協力を得て受講者のニーズに応えることができた。（東文研） ・「文化財担当者研修」は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和 49 年より継続しており、のべ受講者数も 9,900 人となった。文化的景観調査計画課程、地質・考古調査課程など、公共性、緊急性が特に高い研修を行った。いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、独自性、新規性、卓越性を備えた研修内容となり、発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上に寄	

			与した。新型コロナウイルスの影響により中止や規模縮小となった研修が多く出てしまった関係で受講者数及び実施件数が減少したが、受講できなかった応募者等については、講義資料配布や動画の配信、また個別に相談を受け対応するなどの措置をとった（奈文研）	
	②文化財に関する協力・助言等 【指標】 ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・行政機関が実施する発掘調査や史跡整備事業を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じて都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし総合的に評価する。	**＜主要な業務実績＞** 協力・助言については、以下の内容で 529 件実施した。 ・文化財の収集、保管に関する指導助言（東文研）18 件 ・無形文化遺産に関する助言（東文研）25 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言（東文研）41 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言（東文研）43 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言（東文研）12 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（東文研）41 件 ・文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力（文化財活用センター）119 件。 ・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（奈文研）183 件 ・地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言（奈文研）39 件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言（奈文研）7 件 ・地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究（奈文研）1 件 蓄積されている調査研究の成果を活かし、以下のとおり他機関等との共同研究及び受託研究を実施した。 ・受託研究５件及び共同研究（東文研） ・受託研究 34 件（奈文研）	**＜評定と根拠＞** 専門的・技術的な援助・助言件数については、内容に応じて都度検討することになるので、モニタリング数値として見ているが、元年度は東文研、奈文研、文化財活用センターでそれぞれ 184 件、291 件、134 件だったところ、２年度は 180 件、230 件、119 件となった。 「文化財の虫菌害に関する調査・助言」（東文研）では、国・地方公共団体等からの文化財に関するさまざまな要請に対して、災害などの初期対応で生物被害の拡大抑止のために緊急の対応が必須であるが、必要な情報や調査を最短時間で優先的に提供し、適切に対応することができたといえる。文化財の虫害・菌害対策について経験を有するそれぞれの専門がいる点で他機関にはない独自性があると判断した。限られたプロジェクトスタッフでそれぞれの専門性を生かして、現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた点が高く評価できる。 「地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言」（奈文研）では、地方公共団体からの要請に基づき、店舗建設や個人住宅建設のための事前調査を適時適切に実施している。２年度は、橿原市下八釣町の調査（第 204–6 次）において藤原京の条坊遺構を検出した。飛鳥・藤原地域の調査を 50 年以上にわたり続けている点も評価が高い。 「文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力」（文化財活用センター）では、２年度は新型コロナウイルス対策と両立した環境管理に関する相談が多く、個別事情に応じた対応に努めた。相談事例の多い環境管理上の問題に関して、その原因究明のための基礎調査を行い、結果を公表し、改善に緊急性の高い事例には、可能な限り現地調査を行った上での対応検討を行った。新型コロナウイルスに対応した消毒薬材の、文化財材料に対する影響に関する調査報告を公表したことも評価が高い。 ２年度も地方公共団体等の要請に基づき、当研究所の培ってきた調査研究の成果を活かし、的確に受託研究を遂行することができた。（東文研）（奈文研） 「被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団	

		28 年（2016 年）熊本地震により被災した熊本県内の装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会で組織された検討委員会に職員を委員として派遣した。31 年 1 月に発生した地震により被災した和水町の江田船山古墳並びに塚坊主古墳の復旧支援のため、石質内部で温湿度データを収集し、データの解析をおこなった。 元年 10 月 31 日に発生した火災により被災した首里城の地下遺構の保存に関する指導助言のため、職員を派遣し遺跡保存に関するセミナーを開催した。また、修理後の遺構の保存状況をモニタリングするため、地下遺構地盤の水分量および保護施設内部の温湿度環境について実測調査を実施した。（奈文研）	体等への支援・協力」（奈文研）では、28 年の熊本地震により被災した熊本県内の装飾古墳の復旧支援、および元年に発生した首里城復原正殿の火災への迅速かつ適切な対応した。地震や火災などの自然災害への防災・減災対策が必須と考えられる現在において、これらの調査から得られる成果は国内の遺跡において防災・減災対策においてきわめて有用な知見を提供し得るものと言える。各調査フィールドにおいて調査の長期的な目標、及び各年の短期的な目標を明確に設定し、各地方公共団体の文化財担当者と目標と成果を共有しつつ、長期的な文化財保護行政の一環としての調査研究という位置づけを得て事業を継続して復旧支援に寄与するものである。 **＜課題と対応＞** 2 年度は、対面での調査や助言が減少したが、オンラインなどを活用して対応し成果をあげることができた。また、新型コロナウイルス感染症への対策などの助言も実施した。各地方自治体や団体との信頼関係の構築のため、引き続き活動を推進する。
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1）文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力 2）ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	**＜主要な業務実績＞** 宮跡内の現状等について、文化庁、国土交通省等に情報提供及び助言の協力を行った。（奈文研） 国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力について、以下のような協力を実施した。 ・南門勉強会の講師を務めた。 ・5 月 30 日の工匠式以降、定期的に工事進捗状況を撮影。その写真データの整理を行った。 ・鴟尾、鬼瓦、隅木蓋瓦、金具などの製作に関する監修・助言、鴟尾設置・瓦製作の報道用資料の作成、報道発表当日の現場対応などに協力した。 ・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展『鬼神乱舞ー護る・祓う・鬼瓦の世界ー』の開催。3 年 1 月 23 日～3 月 28 日に平城宮いざない館で開催した。 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・公開等への協力において、特別史跡平城宮跡内及び藤原宮跡内の現状等について、下記の通り情報提供及び助言を行った。 ・消防訓練実施への協力 ・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院施設復原整備工事への協力 ・第一次大極殿院復原整備工事関係資料提供等 ・発生事案の報告及び対応 ・平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力を行った。（奈文研） ・「国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力」では、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所からの要請（勉強会の講師、復原工事に対する助言・協力等）に対して適宜対応し、南門復元にともなう研究成果の一部を鬼瓦の展覧会という形で一般に公開した。また、第一次大極殿院南門の復原ができる限り学術的根拠をもったものになるよう施工時の細部の検討に協力し、限られた時間のなかで重要な助言が正しく伝わるよう努力した。平成 29 年度から開始した南門復原工事に対して一貫してさまざまな協力を継続している。（奈文研） ・「文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・公開等への協力」において、2 年度は文化庁施設の公開・利用等の連絡調整、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備・維持管理及び修繕等事業推進への助言・協力について、必要な情報提供及び助言等の協力を積極的に行っている。今後も、整備内容、発生事案等事例を継続的に積み重ねることによって、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。（奈文研）

		討委員会への参加 ・平城宮跡保存・活用連絡協議会及び WG への参加 平城宮跡及び藤原宮跡内における不具合対応策提案及び整備管理業務を実施した。 ・平城宮跡等草刈り管理業務 ・平城宮跡施設整備計画の情報提供等 ・復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応 ・宮跡内植栽管理への助言 ・国有地管理への助言 ・発生事案への報告及び対応	
		国土交通省が行う平城宮いざない館の公開・活用事例への協力において、平城宮いざない館第４展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について、国土交通省国営飛鳥歴史公園ならびに管理センターに協力を行った。 ・奈文研所蔵品の貸出 15 件 ・感染症拡大予防策として、接触を伴う展示の対応策を講じるとともに、平城宮跡資料館とサイン等を共有・作成。 ・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正を行った。（31 件） ・体験プログラムの実施　1 回	・「国土交通省が行う平城宮いざない館の公開・活用事例への協力」において、コロナ感染症の拡大防止のため、接触をともなう展示への対応策の策定、サインの掲示等を行うとともに、展示評価調査として行った来館者行動調査は、今後の平城宮いざない館での公開・活用事業を行うにあたっての重要なデータを得ることができ、今後の事業の発展の基礎を築くことができた。また、今後継続的に行なう平城宮跡に関わる体験プログラムの第１弾を実施することができたことが高く評価される。（奈文研）
		文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力において、下記のとおり実施した。 ・キトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営を行った。 ・キトラ古墳壁画の第 16～18 回公開事業を実施した。各公開では壁画とともに解説パネル・出土遺物レプリカ・模型等を展示した。また、壁画の解説映像の製作・上映を行った。 ・壁画公開期間にあわせてキトラ天文図を解説する移動プラネタリウムのイベントを実施した。 ・壁画公開時にチラシ、ポスター、解説リーフレットを作成した。解説リーフレットは英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語を毎回用意して外国語対応を充実させた。	・「文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力」において、新型コロナウイルス感染症に対応した消毒・検温等を実施し、施設の管理・運営と公開事業等を継続して効率的に実施できた。また、日本天文遺産認定を受けて作成した箔押しのポストカードも適時性・独創性に優れており、移動プラネタリウムも好評で今後の展開が期待できる。（奈文研）
		NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力において、NPO 法人平城宮跡サポートネットワークとの共催、後援事業等において、人員及び会場提供等の協力を行った。 ・「平城京歴史講座」（講師派遣協力） ・秋の遺跡見学会への協力（講師派遣） ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークとの定期	・「NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力」において、NPO 法人の活動に継続して協力すると共に、NPO 法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月一回実施した。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴う情報共有、意見交換を行うため NPO 法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との 4 者会議を定期的に開催したことにより継続して連携協力関係を維持している。新型コロナウイルス

		連絡会議 ・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会 周辺自治会等への協力として、自治会主催の歴史教室への講師派遣、周辺中学校の職場体験への協力を行った。 ・「佐保川地域ふれあい会館の歴史教室」（佐保川自治連合会）への講師派遣	の流行により、NPO 法人の歴史講座等の支援や、周辺自治会が企画する講座への講師派遣が難しい状況であったが、人数制限を設ける等、感染防止対策を行い事業を実施するなど、NPO 法人への支援や、周辺自治会への協力を引き続き実施し、協力体制を継続的に維持させることができた。（奈文研） **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動に制限が設けられたが、新たなプログラムの開発など着実に遂行した。引き続き各団体と連携を取りながら事業への協力を推進する。	
	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。	**＜主要な業務実績＞** 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進を行った。（東文研） 京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進を行った。（奈文研）	**＜評定と根拠＞** 新型コロナウイルス感染症の拡大に対応しオンライン講義を導入するなど、両研究所において連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に寄与した。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の拡大に対応してオンラインによる講義や指導も積極的に導入した。今後も対面やオンラインを活用し、各大学との連携を深めることで人材の育成に寄与する。	
	⑤文化財等の防災・救援等への寄与 1）体制づくり 地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。 2）調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境・被災現場の作業環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。 エ　建造物等の不動産文化財の防災についての検討を行う。 3）人材育成・事業啓発活動等の実施	**＜主要な業務実績＞** 文化財防災センターを中心として、文化財防災・救援等に寄与するため、下記の調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 1）体制づくり ・文化遺産防災ネットワーク推進会議幹事会（文化遺産防災ネットワーク推進会議参画機関 25 団体のうち幹事 4 団体による協議会）を開催。 ・文化遺産の防災に関する有識者会議を開催。 ・文化財保存活用地域計画を作成した自治体に訪問し、文化財保護行政の現況及び防災施策について調査、意見交換を実施した ・第 3 回中部・近畿文化財防災連絡会議を開催した。 2）調査研究等の実施 ア ・文化庁の「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」として、26 年度から元年度までの約 6 年間にわたって実施した「文化財防災ネットワ	**＜評定と根拠＞** 当機構では、下記のとおり文化財等の防災・救援等への寄与に取り組んだ。 1）体制づくり ・年度計画に沿って、文化財防災の中核となるべく機構内に常設の機関として新たに文化財防災センターを設置した。 ・新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため、書面開催やオンライン開催とすることで地域ブロックごとのヒアリング調査や研究協議会等を実施することができた。また、オンラインにより会議やシンポジウムに参加し、情報収集に努めた。 ・文化庁と文化財防災センター協議会を開催し、多様な文化財の防災に対する意見交換を行うなど、計画を着実に実施することができた。 2）調査研究等の実施 ア ・ 発災時における文化財レスキューの基礎データとするべく、全国文化財等データベース及び無形文化遺産総合データベースの作成を進めるととも	

		ーク推進事業」の活動報告を本編と資料編の 2 冊にまとめ刊行した。 ・「文化財が被災した災害に関する事例集（歴史資料編）」（『文化財防災ネットワーク推進事業活動報告書』3 月 31 日刊行）として、文化財等の防災に関する研究成果を公表した。 ・阪神・淡路大震災当時の文化庁、東文研、全国美術館会議、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の関係者に、救援活動について聞き取り調査を実施した。 ・災害痕跡データベースの構築・公開事業については、大きく 2 つの作業を進めている。1 つ目は、発掘調査報告書や現在の発掘調査現場を中心に、過去の地震や火山噴火の災害痕跡情報の集成とデータベース化である。2 年度は、奈良盆地とその周辺を中心に進め、地震災害発生時期の検討を深めるためのデータ集成を行った。加えて、過去の火山噴火災害について、鹿児島を中心にデータの集成を進めた。さらに 2 年度より古代官衙・寺院、官道を中心に古代地名とその位置のデータ集成を始めた。2 つ目は検索データベースの構築である。2 年度は、昨年より進める地方公共団体等からの外部データ入力や、当研究所からのデータ校正のためのインターフェースの改善を進め、様々な文化財の入力を可能にできるような設計構造の検討を行っている。それと同時にデータセキュリティの向上と入出力の簡便性のバランスの検討などを行っている。 イ ・けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）収蔵庫活用に関する調査研究では、非常災害時に活用できる非常用収蔵庫の試験的な運用のため、KICK 内の 2 つの収蔵庫について、定期的な清掃、温湿度データ管理、浮遊菌調査等を実施し、維持管理を継続して行った。また、7 月からは、知恩院塔頭良正院本堂の襖絵の緊急避難に関する調査研究を開始している。これは堂内にある襖絵 74 枚の損傷を避けるための工事中の避難措置として、一時保管を行うものである。 ・旧警戒区域から搬出した文化財を一時保管している福島県文化財センター（白河館まほろん）でのアセトアルデヒドの発生問題について、環境改善方法を模索するための環境調査と改善に向けた協議を行った。 ウ ・無形文化遺産総合データベースのデータ収集と公開を進めた。 ・無形文化遺産の防災・減災のための動態記録作成の方法論構築を目的に、各調査地域において撮影された映像とその編集方法について、モデ	に、市町村単位の文化財を対象とした文化財保全地図システムを構築した。また、発掘調査等で記録された災害痕跡から文献史料では把握することのできないローカルな災害履歴のデータベース化を進めた。 イ 災害時における緊急避難場所の確保に関するシミュレーションを KICK において実施するとともに、緊急避難させた文化財の保管環境調査を実施し、一時保管のためのデータの蓄積を行った。 ウ 無形文化遺産の防災の取り組みの一環として動態記録作成の方法論構築を行った。	

		ル的に検討を行い、防災・減災のための映像記録作成について調査研究・情報収集を実施した。 ・「無形文化遺産の防災のための動態記録作成に関する調査研究事業」事業報告書を刊行した。 エ ・建造物の防災に対して文化財防災センターが取り組む事業について、文化庁や関連団体との協議を行い、発災後の文化財ドクター事業への取り組み等について意見交換と体制の調整等を行った。 3）人材育成等の実施 ・文化財防災センターのパンフレットを作成（4,500 部）し、関係機関に配布した。また、同パンフレットを文化財防災ネットワークのウェブサイトへ掲載し、活動概要の紹介を行った。 ・第 67 回文化財防火デー トークイベント「災害からまもろう！私たちの文化財」（1 月 30 日）を開催し、Youtube にてライブ配信を行い、当日の最大同時接続数は 44 人、3 月 31 日時点での再生回数は 1,200 回。 ・研修会「文化財レスキューと心理社会的支援」（10 月 19 日：国立アイヌ民族博物館）を開催し、北海道内の文化財担当職員、学芸員等 15 人が参加。 ・シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」（10 月 25 日：京都国立博物館）を開催し、68 人が参加した。災資料の応急処置などに関わる動画の作成・公開を行った。 ・文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」をオンラインで開催した。（12 月 11 日）また、セミナー終了後から 12 月 20 日まで YouTube にてアーカイブ配信を行った。Zoom ウェビナーによる当日参加 31 人、YouTube ライブ視聴（最大同時接続数）57 人、10 日間のアーカイブ配信期間を含む YouTube 視聴回数 464 回。	エ 多様な文化財の防災の取り組みとして、建造物の防災について協議を行い、一定の方向性を見出した。 3）人材育成等の実施 文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要請を受け、文化財防災に関する知見や技術をシンポジウムや研修等を通して、広く普及させることができた。 **＜課題と対応＞** 2 年 10 月に文化財防災センターを設置し、文化財防災体制を構築した。次年度以降も引き続き、体制の強化とネットワークの構築を推進する。	

4．その他参考情報
予算と決算の差額については、過年度予算の繰越や事業実施に伴う予算の組替、寄付金等財源による事業拡充によるもの。

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他の業務運営に関する重要事項）様式

1．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅱ	業務運営の効率化に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

2．主要な経年データ

評価対象となる指標		達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
一般管理費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中15%以上効率化	1,079,716	831,109	753,613	1,277,028	974,244	889,241	17.64%減（前中期実績値比）
業務経費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中５%以上効率化	6,580,389	5,417,416	6,158,978	5,955,580	5,964,637	5,422,139	17.60%減（前中期実績値比）
光熱水量 電気量(kwh)	実績値	－	24,981,326	25,475,017	25,703,795	25,705,596	26,112,714	25,588,377	2.01%減
光熱水量 ガス量(㎥)	実績値	－	1,888,670	1,961,450	1,984,170	1,941,360	2,042,038	1,955,844	4.22%減
光熱水量 水道量(㎥)	実績値	－	143,075	144,711	154,269	157,555	156,080	103,577	33.64%減
廃棄物排出量(kg)	実績値	－	225,151	225,453	232,251	210,462	187,701	149,133	20.55%減

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価 業務実績	法人の業務実績・自己評価 自己評価	主務大臣による評価
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 ＜主な定量的指標＞ 文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５％以上，業務経費については５％以上の効率化を図ること	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和２年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細からＢ評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜今後の課題＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己評価が適切である

	（1）組織体制の見直し ・国際業務の推進体制の整備の一環として，2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて，機構内における組織体制を整備する。 ・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み，本部情報担当部門の検討を継続し，設置する。 ・令和 2 年 10 月 1 日付で本部に文化財防災センターを設置する。	**＜主要な業務実績＞** ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては，日本博の事業を円滑に進めるため，31 年 4 月より課長補佐級職員 1 名を派遣しており，引き続き，博物館等と連携して日本博関連の企画を実施している。 ・情報セキュリティの確保・維持のため，4 月に新たに本部情報担当部門への職員の配置を行い，本部情報担当部門の拡充を図った。 ・10 月 1 日付で本部に文化財防災センターを設置し，職員の配置を行った。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，国際業務の推進体制整備の一環として，31 年 4 月より日本博へ職員を派遣し，博物館等と連携して日本博関連の企画を実施できた。また，本部情報担当の人員を増員することで，機構全体の情報セキュリティの確保・維持の推進を図った。本部に新しい組織として，文化財防災センターを設置し，職員の配置等を行い，体制整備を行った。 **＜課題と対応＞** 「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に向けた国際業務の推進体制整備，情報セキュリティへの対応等については，各施設の多言語化対応，情報部門の職員の充実を図った。 また，2 年 10 月に文化財防災センターを設置し，文化財防災体制を構築した。 引き続き，体制の強化とネットワークの構築を推進する。	
	（2）人件費管理の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し，対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み，その結果について検証を行うとともに，検証結果や取組状況を公表する。	**＜主要な業務実績＞** ・人事給与統合システムが 2 年 4 月から稼働し，機構全体として統一的な処理ができるようになった。また，人事給与統合システムを利用し，人件費のシミュレーション等を行うことにより，人件費に関する計画を円滑かつ詳細に企画・立案することができるようになり，2 年度も適正な人件費管理を行っている。 ・役職員の報酬額については，毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン），平成 15 年 9 月 9 日策定」において，個別の額を公表しており，また，法人ウェブサイト上においても掲載している。3 年度も引き続き公表することとしている。 ・当法人の給与規程は，国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠している。また，国と異なる諸手当はない。 ・ラスパイレス指数は，2 年度のラスパイレス指数は事務・技術職員が 97.6，研究職員が 98.7 となっておりその水準維持に努めた。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，年度計画に沿って，国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し，対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み，その結果について検証を行うとともに，検証結果や取組状況を公表している。 **＜課題と対応＞** ―	
	（3）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。	**＜主要な業務実績＞** ・独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）」に基づき，外部委員で構成された契約監視委員会を設置し，機構が元年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第 1 回契約監視委員会（11 月 16 日開催） 第 2 回契約監視委員会（3 年 6 月 16 日開催） ・東京国立博物館（レストラン 2 か所，移動式野外飲食店，自動販売機，平成館ラウンジ飲食店，黒山記念館カフェ，ミュージアムショップ），京都国立博物館（カフェ，レストラン，ミュージアムショップ，自動販売機），奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）については企画競争を実施済み。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき，引き続き取組を着実に実施し，文化財の購入等，随意契約が真にやむを得ないものを除き，競争性のある契約への移行を推進することにより，経費の効率化を行い，随意契約によること	

		今後も，賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 ・3 年 2 月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（17 人が参加） ・より多くの競争参加業者を募るため，公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について，修理契約委員会を設置し，修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。 一般競争入札件数 年度 / 元年度 / 2 年度 / 増減 件数 / 186 件 / 164 件 / ▲22 件	ができる事由を会計規定等において明確化し，公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施できた。 **＜課題と対応＞** ―	
	(4) 共同調達等の取組の推進 周辺の他機関を含めた共同調達について，有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。 上野地区　再生 PPC 用紙，トイレットペーパー，廃棄物処理，古紙等売買，複写機賃貸借，トイレ洗浄機器等賃貸借 京都地区　再生 PPC 用紙，トイレットペーパー 九州地区　再生 PPC 用紙，トイレットペーパー，ガソリン	**＜主要な業務実績＞** ・本部事務局，東京国立博物館，東京文化財研究所について，引き続き上野地区（東京藝術大学，国立科学博物館，国立西洋美術館）における再生 PPC 用紙，トイレットペーパー，廃棄物処理，古紙等売買，便器洗浄機器賃貸借，複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。（再生 PPC 用紙，トイレットペーパー，廃棄物処理，古紙等売買：本部事務局，東京国立博物館，東京文化財研究所，東京藝術大学，国立科学博物館，国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館，国立科学博物館，国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局，東京国立博物館，東京文化財研究所，国立科学博物館）。 ・京都国立博物館では，京都国立近代美術館，国際日本文化研究センター，総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC 用紙及びトイレットペーパー）。 ・奈良国立博物館では，　トイレットペーパーについて，近隣の共同調達契約を調査し，業者と交渉した結果，共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については，事務負担等を考慮し，現状では見合わせているが，近隣の共同調達契約の動向に応じて，必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進める。 ・九州国立博物館では，九州地区の大学と PPC 用紙，トイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。 ・奈良文化財研究所では，PPC 用紙及びトイレットペーパーについて，近隣機関の共同調達における納入金額と同額にて独自に調達を実施した。その他の物品の共同調達については，引き続き検討を進める。	**＜評定と根拠＞** 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ，コピー用紙等の消耗品や役務について，周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進することができた。 ＜課題と対応＞ ―	
	（5）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 機構のネットワークの統合を検討し，業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー 光熱水量の使用状況を把握し，管理部門を中心に引き続き節減に努める。 ・廃棄物減量化 使用資源の節減に努め，廃棄物の減量化に引き続き努める。	**＜主要な業務実績＞** ・機構広域ネットワークの刷新を実施し，6 施設（東博・京博・奈良博・東文研・奈文研・IRCI）で運用を開始した。（9 月～3 年 3 月） ・共通的な事務の一元化と事務の効率化のため，機構共通の業務システムである，グループウェア，財務会計システム，人事給与統合システム，web 給与明細システムの運用を継続した。 ・各施設とも警備業務や来館者対応，清掃業務等について，外部委託を行っている。 ・全ての施設において，電気設備保守業務，機械設備保守業務，昇降機設備保守点検業務，構内樹木等維持管理業務，清掃業務，各種事務補助作業等について民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また，研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては，売札業務，受付・案内業務，託児業務，ロケーション撮影対応業務，図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館では，引き続き茶室，大講堂等の施設貸出業務及び音声ガイド貸出業務について民間委託を実施している。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，効率化について，可能なものについて概ね実施済である。 各施設においては計画通り節減に努めており，一般管理費の削減については，前中期実績値に対し 17.64％減少，業務経費は，前中期実績値に対し 17.60％減少となり，計画を達成した。 **＜課題と対応＞** 2 年度は，日常の節電節水などの周知徹底に加えて，在宅勤務等の影響で水道使用量や廃棄物などが大幅に減少した。引き続き業務の効率化とともに，光熱水量の節減に	

	・リサイクルの推進 廃棄物の分別収集を徹底し，リサイクルを引き続き推進する。	・日常の節電節水の周知徹底，クールビズ・ウォームビズの推進，冷暖房の省エネ運転，照明のLED化の推進等を行った。 ・廃棄物削減では，両面印刷の励行，館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い，会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・使用資源の推移等 日常の節電節水の周知徹底，冷暖房の省エネ運転等を実施した。新型コロナウイルス感染防止のための臨時休館や職員の自宅待機の影響により，光熱水いずれも使用量が減少した。 電気使用量（前年度比▲2.01%），ガス使用量（前年比▲4.22%），水道使用量（前年比▲33.64%），一般廃棄物（前年比▲20.55%）	努める。	
	２．業務の電子化 機構ウェブサイトにおいて，機構に関する情報の提供を引き続き行い，政府の方針に沿ってオープンデータを推進し，各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。	**＜主要な業務実績＞** ・引き続き機構ウェブサイトを運用し，機構に関する情報の提供を行った。 ・政府の方針に沿ってオープンデータを推進し，「e国宝」「ColBase」の運用を継続した。 ・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」，財務会計システム「GrowOne」，人事給与統合システム「U-PDS」，web給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。3年3月には機構VPNを刷新し，ファイアウォールの本部事務局での統合管理を可能とした。 ・本部及び東博職員向けに貸出端末263台を配布し，在宅でのグループウェアやメールの利用の他，一部の業務システムの利用を可能とした。 ・本部及び東博職員向けにオンライン会議アプリを導入し，対面以外での会議や打合せを可能とした。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，機構ウェブサイト及び機構共通事務システムの運用を継続するとともに，必要なシステム更新・機能追加を適宜行い，今後の運用に向けた各種対応を進めた。 **＜課題と対応＞** 「新たな生活様式」に対応するため在宅でのグループウェアやメールの利用などの整備を引き続き進める。	
	３．予算執行の効率化 収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし，引き続き効率的な予算執行に務める。	**＜主要な業務実績＞** ・「独立行政法人の中期計画，中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については，中期目標等，中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき，収益化単位と中期目標，中期計画記載事項とを一致させ，法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，計画通り取組を実施している ＜課題と対応＞ ―	

4．その他参考情報
【契約に係る規程類】 ①独立行政法人国立文化財機構会計規程 ②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程 ③独立行政法人国立文化財機構予算，決算及び出納事務取扱細則 ④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則 ⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則 ⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則 ⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項 ⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項 ⑨契約情報公表に必要な事項に関する取扱 ⑩独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項 ⑪独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項 ⑫標準型プロポーザル方式の実施要項 ⑬公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項

⑭調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑮研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑯広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑰情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式
⑱独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて
⑲令和元年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画
【審査体制】
①内部のチェック体制
各施設に分任契約担当役を設置し，各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合，契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っており，また新たな随意契約を締結する場合は，調達合理化等検討会に事前報告し点検を受けることとしている。
東京国立博物館における1千万円を超える物品調達の場合の例
[購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定
（必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁）
[予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し，購入依頼と同様にチェック・決裁
[一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し，購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結]
[物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成]
[支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し，購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い]
②内部でのチェック対象案件の抽出方法
各施設において契約された契約のうち，契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し，適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅲ	財務内容の改善に関する事項		
当該項目の重要度，難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等，必要な情報
自己収入額（千円）	－	実績値	1,538,510	1,817,119	1,714,563	2,260,173	1,917,262	2,016,303	828,947	受託研究・受託事業を除く
寄付金等額	－	実績値	439,574	795,744	753,812	732,210	827,718	884,196	730,711	
施設の有効利用件数	（東博）	実績値	－	652	747	866	781	680	2,150	
うち有償利用件数		実績値	－	434	529	581	485	457	534	
施設の有効利用件数	（京博）	実績値	－	112	105	122	165	196	125	
うち有償利用件数		実績値	－	104	93	86	143	164	111	
施設の有効利用件数	（奈良博）	実績値	－	117	113	111	112	166	84	
うち有償利用件数		実績値	－	33	27	19	18	84	35	
施設の有効利用件数	（九博）	実績値	－	392	355	280	328	349	114	
うち有償利用件数		実績値	－	118	116	96	75	77	4	
施設の有効利用件数	（東文研）	実績値	－	186	185	200	198	125	125	
うち有償利用件数		実績値	－	7	9	10	13	7	0	
施設の有効利用件数	（奈文研）	実績値	－	256	296	347	247	224	43	
うち有償利用件数		実績値	－	43	52	35	29	19	11	
施設の有効利用件数	機構合計	実績値	－	1,715	1,801	1,926	1,831	1,740	2,641	
うち有償利用件数	機構合計	実績値	－	739	826	827	763	808	695	

３．各事業年度の業務に係る目標，計画，業務実績，年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標，中期計画，年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．自己収入拡大への取組 ＜主な定量的指標＞ 【中期目標・計画上の評価指標】 ・展示事業等収入額（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ＜その他の指標＞ ・（関連指標）その他寄附金等収入額	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和２年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり **＜主要な業務実績＞** ・４月１日より，以下のとおり平常展観覧料金を改定した。 （東博）　一般 620 円を 1,000 円，大学生 410 円を 500 円に改定した。 （京博）一般 520 円を 700 円，大学生 260 円を 350 円に改定した。 （奈博）一般 520 円を 700 円，大学生 260 円を 350 円に改定した。 （九博）一般 430 円を 700 円，大学生 130 円を 350 円に改定した。 （奈文研）飛鳥資料館の観覧料金を，一般 270 円を 350 円に，シニアの無料措置の対象年齢を満 70 歳に改定した。 ・自己収入については，新型コロナウイルス感染症拡大により博物館の臨時休館などを余儀なくされた影響で，828,947 円となり，目標値 1,538,510 千円を下回った。 ・寄附金については，730,711 千円となり，目標値 439,574 千円を大幅に上回った。 ・国立文化財機構寄附ポータルサイトを８月に開設し，各施設への寄附等についてウェブ決済を可能とした。本ウェブサイトのウェブ決済による寄附金等は計 1,915,000 円であった。 ・元年度に開始した「重要文化財 小袖 白綾地秋草模様（通称〈冬木小袖〉）」（東京国立博物館蔵）の修理費等 1,500 万円を募る「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」を継続して実施し，企業，個人等から 9,440,158 円の寄附金を獲得した。（元年度からの総計 12,692,430 円）。 【実物資産の保有状況】 令和３年４月１日現在 東京国立博物館 土地 120,270 ㎡，建物（延面積）78,446 ㎡ 京都国立博物館 土地 53,182 ㎡，建物（延面積）31,044 ㎡ 奈良国立博物館 土地 78,760 ㎡，建物（延面積）19,113 ㎡ 九州国立博物館 土地 159,844 ㎡（うち九博 10,798 ㎡） 建物（延面積）30,675 ㎡（うち九博 9,300 ㎡） ※九州国立博物館は，福岡県と分有しており，福岡県は土地 155,679 ㎡，建物 5,780 ㎡を分有している。また，建物のうち，15,595 ㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 土地 4,181 ㎡，建物（延面積）10,516 ㎡ 奈良文化財研究所 土地 46,487 ㎡，建物（延面積）41,418 ㎡ （東京国立博物館） ①新型コロナウイルスの影響により，講座・講演会等は中止としたが，オンライン月例講演会やオンラインギャラリートークをウェブサイト	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細より，B 評価とした。 当機構では，新型コロナウイルスにより博物館の休館などを余儀なくされた影響で，定量的評価の目標値を下回った。 一方で科研費収入や画像貸出等の事業では，一定の成果を上げることができた。また，映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も積極的に行い，新型コロナウイルス感染症の影響下においても，全体で有効利用件数を増加させることができた。計画どおり平常展観覧料金を改定した。以上から計画を順調に達成したと判断した。 （東京国立博物館） 2 年度は新型コロナウイルスの影響により，施設利用件数及び収入ともに減少したが，話題と	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜今後の課題＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・ロケ地・写真撮影場としての利用等，施設の有料貸出を推進していることは評価できる。

	に公開した。 ②2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により，参集型のユニークベニュー利用，講堂・茶室利用が大幅に減少したが，ロケ地撮影利用は緊急事態宣言解除後に需要が回復し，着実に受け入れ件数が戻りつつある。一方で結婚式の中止による婚礼写真の撮影場所として，例年以上の利用があった。 ・ユニークベニュー利用による収入は，7 件 9,488 千円であった（元年度実績 18 件 74,763 千円）。 ・ロケ地利用による収入は，464 件 26,015 千円であった（元年度実績 286 件 18,558 千円）。 ③2 年度も入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として，新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じたうえで，コンサートなどのイベントを実施した。 （京都国立博物館） ①記念講演会，土曜講座，夏期講座，キャンパスメンバーズ講演会を開催した。 ・「キャンパスメンバーズ講演会」計 2 回 場所：平成知新館講堂　参加人数：142 人 ②展示会，茶会，講演会，コンサート等の会場として，またロケーション撮影スポットとして，各施設の貸出を実施した。 ③従前の「京都・らくご博物館」の他に，留学生を対象に日本文化への理解を深めるため，「留学生の日」を設け，特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の割引観覧やグッズの無料配布を実施した。また，大学・企業・近隣地域等と連携し，講堂や庭園でイベントを開催した。 ・「京都・らくご博物館」計 3 回　場所：平成知新館講堂　参加者数：405 人 ・「トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー」　場所：平成知新館　参加者数：60 人 ・明治古都館を特別に公開した。（9 月 1 日～6 日） ・「十二単お服上げの再現―現代につながる王朝の美」 場所：平成知新館講堂 参加人数：754 人 ・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加者数：38 人 ・「新春能」　場所：平成知新館講堂 参加人数：393 人 ・「芸舞妓 春の舞」 場所：平成知新館講堂 参加人数：365 人 （奈良国立博物館） ①公開講座，サンデートーク，特別鑑賞会，文化財保存修理所特別公開等を開催した。公開講座(5 回)，サンデートーク(7 回)，特別鑑賞会(4 回)，文化財保存修理所特別公開（3 回）等 ②法華寺の公演を実施した。 ③地元自治体等と連携し，入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また，留学生の関連イベントとして「英語落語 in 奈良博」を 11 月 28 日に実施し，63 人の参加があった。 ・講堂：「英語落語 in 奈良博」，「お水取り講話と現地解説の会」 ・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」 ○会場提供 ・講堂：「奈良シニア大学講義」 ・仏教美術資料研究センター：ブライダル撮影 ・庭園・茶室：「おん祭り茶会」等各種茶会，ブライダル撮影等 ・敷地内：「氷室神社秋祭り巡業」，「小学生写生会授業」，「秋の天平行列	なった TV ドラマのロケ地利用等により効果的な施設貸出事業の PR を図ることができ，また，婚礼写真の撮影場所としての利用増加に繋げることができた。 引き続き貴重な収入源である施設の有料貸出推進に向けて努力する。 （京都国立博物館） 明治古都館や平成知新館グランドロビーの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内を当館ウェブサイトや外部ロケ地ポータルサイトに掲載し，積極的に広報を行った。新型コロナウイルスの影響により利用件数は減少したが，新規利用者からの問い合わせは徐々に増加しており，利用に繋がるよう引き続き広報活動に力を入れていく。 また，入館者拡大のために，茶室で新たな華道体験イベントを行い，施設の有効利用を図った。 （奈良国立博物館） それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。また，留学生の日に「英語落語 in 奈良博」を実施し，全内容英語で開催した。

	東大寺参詣行列」，「奈良市ホストタウン事業『コトロゲ 2020』」，「春日若宮おん祭」，ブライダル撮影，「Cornes Osaka Showroom Exclusive Touring to NARA NATIONAL MUSEUM」（フェラーリの展示会場として当館敷地を貸与）等 （九州国立博物館） ①新型コロナウイルスのため利用を休止していたスーパーハイビジョンシアターで，11 月よりミュージアムトークを再開した。また，特別展・特集展示等の講座・講演会は新型コロナウイルス拡大防止のため開催しなかったが，当館ウェブサイトにて，「文化財のミ・カ・タ」，「文化財のヒミツ」として，当館文化財の紹介動画を配信した。 ②ミュージアムホールは特定天井改修工事及び新型コロナウイルス感染予防対策のため，一般の方への施設貸出ができなかった。茶室については 11 月より貸出を再開した。 ③3 階特別交流展示室前ロビー等で博多祇園山笠関連イベントを開催，1 階エントランスでミュージアムコンサート(7 回)を実施して，施設の有効利用を図った。 ・日本文化の紹介 博多祇園山笠関連展示（3 階特別展示室前ロビー）11 月 25 日～3 年 1 月 11 日 博多祇園山笠大パネル展示（記念写真撮影用）（1 階ミュージアムホール前）12 月 1 日～3 年 1 月 11 日 ・ミュージアムコンサート（2 回/日）（1 階エントランス） ・春の桜コンサート（2 回/日）（3 年 3 月 27・28 日） （東京文化財研究所） ・セミナー室，会議室等を利用することにより，施設の有効利用の推進を図ったが，新型コロナウイルスへの対応のため，外部への貸し出しは制限した。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを 2 年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。 ・外部機関への施設の有償貸付は，新型コロナウイルスへの対応のため，実施できなかった。 （奈良文化財研究所） ・当研究所ウェブサイトに講堂等の一時使用について，掲載し，広く周知して，利用者の獲得を図った。 平城宮跡資料館　講堂　11 件（内　有償貸与　0 件） 平城宮跡資料館　小講堂　19 件（内　有償貸与　2 件） 飛鳥資料館　講堂　1 件（内　有償貸与　0 件） その他（収蔵庫等）　12 件（内　有償貸与　9 件） 合計：43 件（内　有償貸与 11 件）	（九州国立博物館） 新型コロナウイルス感染拡大の影響やミュージアムホール吊天井の工事により年間を通じた施設の有効利用ができなかったが，11 月より感染予防対策を施しながら，日本文化の紹介及び 1 階エントランスでミュージアムコンサートや，2 日間に渡る屋外での桜コンサートを実施することができた。 （東京文化財研究所） 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で施設の外部貸し出しは概ね制限することとなったため，利用件数は増加しなかったが，元年度と同規模を維持した。 （奈良文化財研究所） 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により，例年利用があるイベントや集会，学会等のほとんどが中止になったことに加え，平城宮跡資料館講堂では改修工事（11 月～3 年 2 月）が行われたため，有効利用件数は 2 年度から大きく減少したものの，可能な限り施設の有効利用を図り，有償貸与は 2 件を確保した。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の拡大により大規模なイベントや参集型の講演会や茶会などが中止となり，貸出件数は減少傾向となった。一方で東博などの施設では，開催できない結婚式

			の代替えとしての婚礼写真の撮影場所など新たなニーズの発展もみられた。今後も様々なニーズに対応し収入の確保を図る。	
	２．固定的経費の節減	Ⅱ１．（５）一般管理費等の削減に関する事項に取組んだ。		
	３．決算情報・セグメント情報の充実等	**＜主要な業務実績＞** 前年度に引き続き，２年度決算（３年度実施）についても，「独立行政法人会計基準」（27 年１月改訂）に従い，以下のとおり公表情報の充実を図った。 ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については，「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け，公表情報を充実化している。 ・決算報告書については，機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。	**＜評定と根拠＞** 当機構では計画通り取組を実施した。 **＜課題と対応＞** ―	

4．その他参考情報

目的積立等の状況

（単位：百万円，％）

	平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末	令和元年度末	令和２年度末
前期中(長)期目標期間繰越積立金	629	627	626	625	624
目的積立金	58	246	293	75	5
積立金	107	129	144	144	228
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0	0	0	0
運営費交付金債務	367	473	455	520	0
当期の運営費交付金交付額(a)	8,388	8,325	8,808	8,593	8,633
うち年度末残高(b)	367	473	455	520	0
当期運営費交付金残存率(b÷a)	4.4%	5.7%	5.2%	6.1%	0

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項，財務内容の改善に関する事項及びその他の業務運営に関する重要事項）様式

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅳ	予算，収支計画及び資金計画		
当該項目の重要度，難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等，必要な情報

３．各事業年度の業務に係る目標，計画，業務実績，年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標，中期計画，年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画 **１．予算** **２．収支計画** **３．資金計画** ＜主な定量的指標＞特になし ＜その他の指標＞特になし ＜評価の視点＞特になし	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和２年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。 **＜主要な業務実績＞** ・２年度当初予算について，元年度中に予算配分を実施し，早期に業務を遂行できる体制を整備した。 ・人件費予算は本部一括管理とし，無駄のない効果的な活用が図られた。 ・精算払の外部資金により資金繰りが困難となる施設に対し，あらかじめ資金の貸与を行うなど，法人全体として効率的な資金管理を実施した。 ・四半期ごとに入金される運営費交付金について，国に対し各期の必要額をあらかじめ伝えておくことにより，計画的な資金管理を実施した。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，概ね当初計画に沿った管理が行われている。また，年度内に起こった不測の事態にも速やかに対応した。よってＢ評価とした。 **＜課題と対応＞** ―	評定　Ｂ **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「Ｂ」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜今後の課題＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己評価が適切である

4．その他参考情報

特になし。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅴ	その他の事項		
当該項目の重要度，難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等，必要な情報

３．各事業年度の業務に係る目標，計画，業務実績，年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標，中期計画，年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和２年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。	**＜評定と根拠＞** 以下詳細によりＢ評価とした。 **＜課題と対応＞** ―	評定　Ｂ **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「Ｂ」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜今後の課題＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己評価が適切である
１．内部統制	**＜主要な業務実績＞** ・内部統制委員会を２回開催した。（12 月 15 日，３年３月 16 日） ・リスク管理委員会を２回開催した。（12 月 15 日，３年３月 16 日） ・元年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。 （内部監査及び監事監査等のモニタリング） ・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 会計監査　10 月 12 日～12 月４日　全施設 ※新型コロナウイルスの感染防止のため，自己チェックを行い，監査室で確認。	**＜評定と根拠＞** 当機構では，内部統制委員会とリスク管理委員会を各２回開催した。内部統制とリスク管理の運用状況を把握することで計画の確認及び見直しを行い，新たに３年度のリスク管理計画案を策定した。また，内部監査及び監事監査等・各種研修においても，開催方法を工夫し，積極的に実施した。 **＜課題と対応＞** ―	

		給与簿監査　10 月 19 日～11 月 13 日 （京都国立博物館，奈良国立博物館，九州国立博物館） ※新型コロナウイルスの感染防止のため，自己チェックを行い，本部人事担当で確認。 法人文書管理監査　３年１月～３月（全施設・書面監査） 情報システム監査・情報セキュリティ監査 （１）ペネトレーション監査 11 月 13 日（九州国立博物館） （元年度監査の再診断として実施：アジア太平洋無形文化遺産研究センター） （２）マネジメント監査 12 月～３年１月（本部事務局） ・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。 ３年１月　全施設（書面監査） ３年２月～３月　京都国立博物館，奈良国立博物館，九州国立博物館，奈良文化財研究所，アジア太平洋無形文化遺産研究センター　※新型コロナウイルスの感染防止のため，書面監査にて実施。 ソフトウェア等監査 各施設で実施し会計監査の際確認を行った。 ・監事監査を以下の日程で行った。 定期監査（業務・会計）　７月 16 日 臨時監査（業務・会計） ３年１月～２月 各施設（アジア太平洋無形文化遺産研究センター除く）（書面監査・業務監査） ３年３月３日　本部事務局，東京国立博物館，東京文化財研究所 （研修の実施） ・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。		
	２．その他 （１）自己評価 （２）情報セキュリティ対策	**＜主要な業務実績＞** ・２年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い，報告書にまとめた。 ・上記自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会・博物館部会・総合：書面審議）に提出し，外部有識者による評価が行われた。 ・外部有識者の意見等を踏まえ「令和２年度自己評価書」を作成し，文部科学大臣に提出した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大のため，運営委員会は中止とし，事業報告書を委員に送付した。また，元年度の運営委員会であがった意見について，組織・事務・事業の改善状況を報告した。 ・「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準（平成 30 年度版）」を踏まえて元年度に改正した情報セキュリティ関係規程等を，施行した。（４月１日） ・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については，情報セキュリティ関係規程等に基づき，政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては，NICH-CERT 連絡会にて情報共有，	**＜評定と根拠＞** 当機構では，外部評価委員会等を開催し，外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施した。計画どおり，最新版の政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づき，必要な情報セキュリティ対策を実施するとともに，手順整備を進めた。また，機構広域ネットワークの刷新についても，計画通り実施した。 **＜課題と対応＞** ―	

		検討を行った。 ・情報セキュリティ監査を，外部機関に委託して実施した。（11 月 13 日ほか） ・全役職員を対象に，情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検を e-learning にて実施した。（12 月 10 日～3 年 2 月 27 日） ・監査法人による監査の一環として，システム監査を実施した。（12 月 14 日） ・「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」に基づく実施手順の整備を進め，手順 2 件を作成した。（3 年 2 月 12 日）。 ・セキュリティレベルの向上・平準化，管理の効率化を目的とした機構広域ネットワークの刷新を実施した。（9 月～3 年 3 月） ・NICH-CERT メンバー向け訓練を実施した。（12 月 25 日）		

4．その他参考情報
特になし。

（別添）中期目標，中期計画，年度計画

項目別調書 No.	中期目標	中期計画	年度計画
No．Ⅰ―1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 文化財機構が設置する東京国立博物館，京都国立博物館，奈良国立博物館及び九州国立博物館（以下総称して「国立博物館」という。）は，それぞれの設置の経緯を踏まえ，既に多くの収蔵品及び寄託品（以下「収蔵品等」という。）を収集・保管している。多くの文化財は，経年の自然劣化と材質の脆弱性等によるコンディションの変化にさらされており，収蔵品等の収蔵施設と展示施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，温湿度，照度，防虫，防カビ等の環境を最適の状態にすることが求められている。このため国立博物館は，施設設備を適切に維持管理し，その長寿命化を図るとともに，収蔵機能の最適化を図る必要がある。 また，有形文化財（美術工芸品）の収集等については，国立博物館における調査研究の成果に基づき，体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の充実を図るため，計画的に行うこととする。有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等については，その状態に応じて適切な保存・展示環境を整えるとともに，必要な修理等を施すこととする。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。 ① 国立博物館の施設設備の整備 ● 施設設備の点検・診断の結果に基づき，必要な対策を適切な時期に，着実かつ効率的に実施するとともに，これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し，次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を構築し，継続的に発展させていくこと。 ● 東京国立博物館の本館及び表慶館，京都国立博物館の本館並びに奈良国立博物館の本館は，有形文化財（美術工芸品）の収蔵・展示施設であると同時に，建物自体が重要文化財であることを考慮し，適切な保存を図りながら活用を図ること。 ② 有形文化財（美術工芸品）の収集等 ● 国立博物館は，中期目標の期間における有形文化財（美術工芸品）の収集に関する方針を，自らの調査研究の成果に基づき策定し，互いに情報を共有しながら購入を進めること。また，寄贈の申出があった場合は，同様に調査研究の成果に基づき，適切に取り扱うこと。 ● 他の所有者からの国宝・重要文化財の寄託については，文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第 48 条による文化庁長官による公開（勧告・承認出品）又は同法第 53 条による所有	（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し，その結果に基づき，収蔵・展示施設の老朽化，耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し，次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成 32 年度までに構築し，継続的に発展させる。 （東京国立博物館） 開館後約 80 年が経過した本館の空調設備，収蔵・展示施設について，建物が重要文化財に指定されていることに配慮し，　2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ，改修等計画を推進する。 （京都国立博物館） 京都国立博物館本館（明治古都館の改修に当たっては，重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。 （奈良国立博物館） 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び 展示施設の改修等を図るとともに，奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。 （九州国立博物館） 開館から 10 年が経過しており，監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財 の収集 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から，次に掲げる各博物館の収集方針に沿って，調査研究及び情報収集の成果，並びに外部有識者の意見等を踏まえ，適時適切な収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術，考古資料及び歴史資料等を収集する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術，考古資料及び歴史資料等を収集する。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした美術，考古資料及び歴史資料等を収集する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とし	（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し，その結果に基づき，収蔵・展示施設の老朽化，耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。 （4 館共通） 1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け個別施設計画の策定を行う。 （東京国立博物館） 1)本館については収蔵・展示施設の改修等に関する基本計画を引き続き策定する。 2)文化財保護法に基づく重要文化財の保存活用計画の策定について，本館を対象に検討を行う。 3)文化財管理棟に，トーハク新時代プランに基づき，見せる修理所の開設及びバックヤードツアーの導入を行う。 4)トーハク新時代プランに基づき，庭園を改修して，通年開放するための整備を進める。 5)トーハク新時代プランに基づき，カフェや休憩スペースの整備を進める。 （京都国立博物館） 1)本館（明治古都館）の免震耐震改修に向け，埋蔵文化財発掘調査を行う。 （奈良国立博物館） 1)文化財保存修理所の老朽化した空調設備の更新を行う。また，狭隘なエントランスの拡充，老朽化した東新館展示室・空調設備機器の整備，不足している展示・収蔵スペースの拡充など施設整備の検討を行う。 （九州国立博物館） 1)開館から 14 年が経過し，施設・設備に老朽化がみられるため，収蔵・展示施設の設備の維持管理を目的とした改修等を行う。 2)安全対策のために，2 年度から 3 年度にかけてミュージアムホール内の改修を行う。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・2020 年度までに，収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルを確立する。 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 各博物館の収集方針に沿って，鑑査会議等で収集案を作成し，外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また，文化財の散逸や海外流出を防ぐため，内外の研究者，学芸員，古美術商等との連携を図り，迅速かつ的確な情報収集にも努め，それらを収集活動に効果的に反映していく。 （東京国立博物館） 日本を中心として広くアジア諸地域の文化財の体系的収集及び展示を目指し，絵画，書跡，彫刻，工芸，考古，歴史資料等の中から重点的に購入する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした絵画，書跡，彫刻，工芸，考古，歴史資料等の中から重点的に購入する。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした絵画，書跡，彫刻，工芸，考古，歴史資料等の中から重点的に購入する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画，書跡，彫刻，工芸，考古，歴史資料等の中から重点的に購入する。

	者以外による公開（公開承認施設における公開）のための役割を担っていることに留意し，適切に取り扱うこと。 ③ 有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 ● 有形文化財（美術工芸品）の状態に応じて，収蔵施設の収容率，温湿度等の環境を一定の基準で管理し，必要に応じて改善等の措置に要する予算等の計画を策定すること。 ● 収蔵品等の管理に必要なデータの整備（画像データ，テキストデータ等）を進めること。 ● 国立博物館は，有形文化財（美術工芸品）の状態に応じた修理等方針を策定し，計画的に修理等を行うこと。	た，美術，考古資料及び歴史資料等を収集する。 2)寄贈・寄託品の受入れ等 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し，寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに，積極的に活用する。また，既存の寄託品については，継続して寄託することを働きかけ，積極的に活用する。 ③有形文化財 の管理・保存・修理等 1)有形文化財 の管理 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため，収蔵品等の管理を徹底し，特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実，改善を図る。また，収蔵品等の現状を確認の上，管理に必要なデータ（画像データ，テキストデータ等）を整備して，展示・調査研究等の業務に活かし，博物館 活動を充実させる。なお，収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については，前中期目標の期間の実績以上を目指す。 2)有形文化財の保存 適切な展示・保存環境の保持のため，収蔵・展示施設の温湿度，生物生息，空気汚染及び地震等への対策，並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。 3)有形文化財の修理 修理を要する収蔵品等は，機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと，伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら，緊急性の高い収蔵品等から順次，計画的に修理する。また，修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。 4)文化財修理施設等の運営 文化財保存修理所等については，文化財防災も視野に入れながら，国と協力して整備充実を図る。	2)寄贈・寄託品の受入れ等 （4館共通） 寄贈品及び寄託品の受け入れについては，文化庁とも連携を図り，登録美術品制度の活用を進めるなど，積極的に働きかける。併せて，継続寄託及び新規寄託に努める。また，展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の収集に関する取組状況 （収集件数，文化財購入費，寄贈・寄託品件数） ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに，それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実，改善を図る。また，収蔵品・寄託品等の現状を確認の上，管理に必要なデータ（画像データ，テキストデータ等）を蓄積して，展示・調査研究等の業務に活かし，博物館活動を充実させる。 （4館共通） ア　収蔵等に必要な施設設備の充実，改善に向けた検討を行う。 イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 ウ　収蔵品・寄託品等に関し，新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し，それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 エ　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し，収蔵品データを更新する。 （東京国立博物館） ア　収蔵品・寄託品及び一時預品の情報管理を継続して行う。 イ　古写真・ガラス原板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し，列品として編入活用・公開するための作業を進める。 ウ　外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め，博物館機能の充実及び業務の効率化を図る。 エ　「収蔵品データ管理システム」の構築及び収蔵品データの整備を進め，列品にかかる統計業務の効率化と情報の利活用向上を進める。 オ　収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し，公開を推進する。 カ　ガラス原板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。 キ　文化財管理棟への収蔵品・寄託品等の移動プランの策定など，移動に向けた準備を行う。また，文化財管理棟内の環境が文化財の保管に適切であることを確認した上で，本館で保管している収蔵品・寄託品等の移動に着手する。 （京都国立博物館） ア　収蔵品写真等のカラーフィルム等のデジタル化を実施する。 イ　列品管理における業務効率化のため，文化財情報システムにおける管理機能の改善を進める。 （奈良国立博物館） ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し，収蔵品データベースの充実を図る。 イ　画像データベースの個別データを追加更新する。 ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し，運用方法について引き続き検討する。 エ　収蔵品写真等の既存の白黒フィルムのデジタル化を進める。 （九州国立博物館） ア　文化財情報（収蔵品データベース，寄託品・借用品データベース，陳列案管理データベース，画像データベース，修理履歴データベース）の一元的管理が可能な業務システム構築を進める。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・収蔵施設等の改善等に係る取組状況（収蔵施設の収容率）

			・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） 2)有形文化財の保存 収蔵・展示施設の温湿度，生物生息，空気汚染，地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し，保存・管理・活用のための環境を整備する。 （4館共通） ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため，ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 （東京国立博物館） ア　本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集，解析，評価を行う。 イ　収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め，環境データの解析・蓄積を行う。 ウ　収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行う。 エ　収蔵・展示施設の温湿度，空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。 オ　輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。 （京都国立博物館） ア　平成知新館の展示環境及び収蔵施設，東収蔵庫，北収蔵庫の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行う。 イ　明治古都館の改修計画に役立てるため，環境データの収集・解析などを行う。 ウ　資料棟，文化財修理所，外部収蔵庫（KICK）も含めた，包括的な保管管理体制の構築を目指す。 （奈良国立博物館） ア　収蔵・展示施設及び展示ケースの適正な温湿度管理の徹底を図り，無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。 イ　展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し，ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 （九州国立博物館） ア　館内の温湿度・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。 イ　全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め，環境データの蓄積・解析を行う。 3)有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 修理，保存処理を要する収蔵品等については，外部の専門家等との連携のもと，緊急性の高いものから順次，計画的に修理する。 （東京国立博物館） ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み，劣化の予防に努めるとともに，劣化の著しい絵画，書跡，染織，考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に 27 年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組み完了を目指す。 イ　引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。 ウ　保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。 （京都国立博物館） ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み，劣化の予防に努めるとともに，緊急性の高いものから本格修理を実施する。 イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 ウ　修理資料のデータベース化を図る。 （奈良国立博物館） ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み，劣化の予防に努めるとともに，劣化の著しい彫刻，絵画，書跡，漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に「絹本著色聖徳太子絵伝」等の修理に取り組む。

			イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 ウ　修理資料のデータベース化を図る。 エ　寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。 （九州国立博物館） ア　文化財の劣化の予防に努めるために，必要となる応急修理を適正に実施し，また緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「対馬宗家関係資料」等の修理に継続して取り組む。 3)−2 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （4 館共通） ア　修理前あるいは修理中に，文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い，文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 （東京国立博物館） ア　Ｘ線ＣＴスキャナ，蛍光Ｘ線分析や分光分析，Ｘ線透過撮影など各種光学的調査を駆使して研究の進展を図りつつ文化財の状態を正確に把握して修理や保存，活用の指針の策定に資する。 （京都国立博物館） ア　仏像等のＸ線ＣＴ撮影を行い，適切な修理指針の検討に役立てる。 イ　蛍光Ｘ線分析や分光分析等の非破壊的な分析手法を用い，彩色材料等の分析事例を集積することでより統計的に有意なものとし，修理への活用を模索する。 （奈良国立博物館） ア　木造文化財について，木材樹種同定の調査を行い，文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ　Ｘ線ＣＴ撮影，Ｘ線透過撮影等の機器により調査を行い，材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 （九州国立博物館） ア　修理作品の状態を，実体顕微鏡観察を基本としてＸ線ＣＴスキャナ，Ｘ線透過撮影等の各種光学的調査も駆使して正確に判定し，修理指針の策定に資する。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の修理に関する取組状況 （修理件数，修理のデータベース化件数） 4)文化財修理施設等の運営 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 （京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館） ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 （京都国立博物館） ア　文化財保存修理所等の施設を計画的に運用し，文化財の積極的な保存修理を図る。 （奈良国立博物館） ア　文化財保存修理所を円滑に運用して，文化財の積極的な保存修理を図る。 （九州国立博物館） ア　文化財保存修復施設を運営し，文化財の保存修理に積極的に活用する。
	（２）展覧事業 有形文化財（美術工芸品）の保護は，保存と活用のバランスをとりながら行うことが肝要であるが，国立博物館は国全体の 22%に相当する国宝・重要文化財（美術工芸品）を収蔵等しており（収蔵品 1,084 件，寄託品 1,403 件，平成 27 年度当初），これらを公開することは，文化財保護法に基づく重要な役割のひとつである。また国宝・重要文化財にかかわらず，国立博物館は約 13 万 8 千件（平成 27 年度当初）の収蔵品等について，専門的な調査研究を行い，その成果を反映しながら展覧事業において計画的に展示することが使命である。 さらに収蔵品等以外の文化財も含め特定のテーマの下に企画する特別展は，新たな知見を拓き， 文化財の価値をより広く深く理解することに大きく寄与するものであり，質の高い展示を提供する必要がある。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。 ① 平常展 ● 収蔵品等の状態に留意しつつ，できるだけ多くそれらを平常展で展示し，日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう努めること。 ② 特別展等 ● 調査研究の成果を基にした特定のテーマの特別展や，国際文化交流の進展を目的する特別展等（外国における展覧事業も含む）を，計画的に開催することとし，その質の向上に努めること。 ③ 観覧環境の向上等 ● 外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう，来館者の満足度を満たす多言語化，バリアフリー化，ユニバーサルデザイン化等を推進するとともに開館時間の延長等，混雑時の対応やミュージアムショップやレストラン等のサービスの改善等，来館者に配慮した運営を行うものとする。	（２）展覧事業 展覧事業については，我が国の博物館の中核的拠点として，国民のニーズ，学術的動向等を踏まえ，かつ国際文化交流にも配慮しながら，開催目的，期待する成果，学術的意義を明確にして，質の高い魅力あるものを目指す。また，　2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の　文化政策と連動した活動を実施する。 さらに，見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説，並びに音声ガイド等の導入により，日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに，展覧事業について常に点検・評価を行い，改善を図る。 ①平常展 平常展は，展覧事業の中核と位置付け，各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに，最新の研究成果を基に，日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い，展示に関する説明の充実，多言語化に取り組み，国内外からの来館者の増加を図る。 なお，平常展の来館者数，展示替件数及び来館者アンケートの満足度については，各施設の工事等による影響を勘案し，前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ②特別展等 1)特別展 特別展等については，積年の研究成果を活かしつつ，国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し，国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については，展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また，特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし，各施設の工事等による影響を勘案しつつ，その達成に努める。 （東京国立博物館）年３～４回程度 （京都国立博物館）年１～２回程度 （奈良国立博物館）年２～３回程度 （九州国立博物館）年２～３回程度 なお，特別展来館者アンケートを実施し，その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し，常に展示内容等の改善を図る。 2)海外展等 海外からの要請等に応じて，海外において展覧会等を行うことにより，日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。 ③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し，来館者に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 1)快適な観覧環境の提供 博物館内の施設の多言語化，バリアフリー化，ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実，研修等の実施等を通じて，高齢者，障がい者，外国人，乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 2)来館者の満足度調査等の実施，サービスの改善等 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果	（２）展覧事業 東京，京都，奈良，九州 4 館それぞれの特色を活かし，国内はもとより，海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。また，日本博事業及び紡ぐプロジェクト事業を関係機関と連携して執り行う。 ①平常展 展覧事業の中核と位置づけ，各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに，展示に関する説明の充実に努め，国内外からの来館者の増加を図る。 （4 館共通） 1)平常展来館者数・展示替件数について，各施設の工事等による影響を勘案し，前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 2)満足度調査等を実施し，その結果を展示内容等の改善に活かす。 （東京国立博物館） 1)「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術，平成館の日本考古，東洋館の東洋美術，黒田記念館の近代洋画等，各種展示の更なる充実を図る。 2)特集 テーマ性をもった展示を各種実施し，調査研究成果を公開するとともに，平常展の更なる充実を図る。 ・「法隆寺と聖徳太子」（3 月 24 日～5 月 10 日） ・「日本の仮面　舞楽面　行道面」（5 月 12 日～7 月 12 日） ・上野動物園，国立博物館との連携企画　親と子のギャラリー「動物の動き」（5 月 12 日～6 月 14 日） ・「日本美術の記録と評価－調査ノートに見る美術史研究のあゆみ－」（7 月 14 日～8 月 23 日） ・「大野出目家と越前出目家の能面」（8 月 25 日～10 月 4 日） ・「令和元年度新収品展」（10 月 6 日～11 月 15 日） ・「書と料紙－平安時代の美しい紙－」（9 月 24 日～11 月 23 日） ・「（仮）中国書画精華－古典の魅力－」（9 月 24 日～11 月 15 日） ・「（仮）ボスト桃山茶陶」（10 月 6 日～11 月 29 日） ・「（仮）中国近代・海上派の書画印」（11 月 17 日～12 月 20 日） ・「中国彫刻の世界」（12 月 1 日～3 年 2 月 21 日） ・「「文化財とＸ線 CT」～東京国立博物館Ｘ線 CT 活用成果」（12 月 1 日～3 年 1 月 11 日） ・「（仮）美術館建築の明治　－表慶館の建築図面－」（12 月 8 日　～ 3 年 2 月 14 日） ・「博物館に初もうで（丑）」（3 年 1 月 2 日～1 月 31 日） ・「（仮）中国書画コレクションの系譜」（3 年 1 月 2 日～2 月 28 日） ・「魅せる！語る！模本の世界－木挽町画所－」（3 年 2～3 月頃） ・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」（3 年 3 月 24 日～4 月 19 日） 3)文化庁関係企画 「令和 2 年 新指定 国宝・重要文化財」（4 月～5 月）にて，令和 2 年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。 4)トーハク新時代プランに基づき，展示室の入り口に日本美術の流れを紹介するようなコンテンツを設置し，日本美術への親しみやすい導入を図る。 （京都国立博物館） 1)明治古都館改修に伴い，平常展示館として計画された平成知新館において特別展も開催するための平常展展示計画を策定し，平常展を行う。 2)平成知新館において，趣向をこらした特別企画，特集展示を行う。 特別企画 ・文化財保存修理所開所 40 周年記念 特別企画「文化財修理の最先端」（6 月 23 日～7 月 19 日） ・特別企画「オリンピュアＸニッポン・ビジュツ」（7 月 21 日～8 月 23 日） ・仏教美術研究上野記念財団設立 50 周年記念 特別企画「新聞人のまなざし－上野有竹と日中書画の名品－」（8 月 26 日～9 月 22 日） 特集展示 ・「丑づくし－干支を愛でる－」（12 月 19 日～3 年 1 月 31 日） ・日本書紀成立 1300 年記念「国宝『日本書紀』と東アジアの古典籍」（12 月 19 日～3 年 1 月 31 日） ・「新収品展」（3 年 2 月 3 日～2 月 28 日） ・「雛まつりと人形」（3 年 2 月 9 日～3 月 7 日） （奈良国立博物館） 1)下記のとおり各展示施設において，最新の研究成果を取り入れた名品展（平常展）を実施する。また，収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。 ・西新館　絵画，書跡，工芸，考古

		を踏まえ，事業，管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長，混雑時の対応，ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等，来館者に配慮した運営を行い，観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が 80%を超えることを目指す。	・なら仏像館　彫刻 ・青銅器館　中国古代青銅器 2)分野の枠を超えた特別陳列を実施する。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「お水取り」(3 年 2 月 6 日～3 月 28 日) 等 （九州国立博物館） 1)特集展示等によって，独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。 ・「きゅーはく　どうぶつえん」(4 月 7 日～5 月 17 日) ・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示　大宰府史跡指定 100 年記念「筑紫の神と仏」(仮) (5 月 19 日～8 月 30 日) ・「新収品展」(5 月 26 日～7 月 5 日) ・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示「織物に魅せられてー加賀前田家伝来の名物裂ー」(6 月 9 日～8 月 2 日) ・九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展「しきしまの大和へ」(仮) (7 月 28 日～12 月 20 日) ・「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」(3 年 1 月 1 日～1 月 24 日) ・「天神縁起の世界」(仮) (3 年 2 月 2 日～3 月 28 日) 2) 新時代プラン「楽しかぁ！！九博プラン」に基づき，高精度のレプリカを活用したハンズオン展示の充実を図る。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・平常展の来館者数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上) ・平常展の展示替件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上) ・平常展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上) ・(関連指標)平常展の展示総件数 ②特別展等 1)特別展 （4 館共通） ア　中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。 イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め，満足度の高い特別展となるよう努める。 （東京国立博物館） ア　ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」(3 月 10 日～5 月 24 日) (68 日間) 日本の伝統芸能に関する体験型の展示。衣装，道具，仮面，楽器などを展示し，仮設の舞台で役者等によるデモンストレーション，指導の下，体験を行なう。(目標来館者数 5 万人) イ　法隆寺金堂壁画再現 70 年「法隆寺金堂壁画と百済観音」(3 月 13 日～5 月 10 日) (53 日間) 1949 年に焼損した法隆寺金堂壁画が模写，写真をもとに再現されてから 70 年になるのを機に，文化財保存，調査，模写，復元などの事業の意義を示す。(目標来館者数 10 万人) ウ　特別展　「きもの　KIMONO」(4 月 14 日～6 月 7 日)(49 日間) 日本の伝統衣装として生き抜き，今なおあらたなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を，現代を生きる日本文化の象徴として展覧し，きものの過去・現在・未来を見つめる機会とする。(目標来館者数 10 万人) エ　特別展　「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」(6 月 16 日～8 月 31 日)(69 日間)御神体として崇拝されていた三輪山に奈良時代，仏像を安置する堂が設けられた。幕末に神仏分離令によってここから移された聖林寺十一面観音像などの仏像と仏教伝来以前の三輪山信仰を示す出土品を展示する。(目標来館者数 15 万人) オ　東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツ Nippon」(7 月 7 日～9 月 13 日) (63 日間) オリンピック・パラリンピック開催に合わせて，日本のスポーツの源流である武術，相撲，蹴鞠等にかかわる作品と近代スポーツ，オリン

			ピック関連の品々を展示する。(目標来館者数 5 万人) カ　日中韓国立博物館共同企画特別展「日本・中国・韓国の漆工」(仮称) (7 月 7 日～9 月 13 日) (63 日間) 2 年に一度，日中韓 3 か国持ち回りで開催する館長会議に合わせて 3 か国の美術工芸品を対象とする展覧会。今回は漆工芸をテーマとする。(目標来館者数 5 万人) キ　特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」(7 月 14 日～8 月 30 日) (44 日間) 世界が注目する日本のアニメの源流とも言える「鳥獣戯画」を，はじめて全場面一挙公開する展覧会。(目標来館者数 20 万人) ク　特別展「桃山―天下人の 100 年」(10 月 6 日～11 月 29 日) (48 日間) 戦乱の世から全国統一，西洋との交流もはじまったダイナミックな時代の前後 100 年の間に生じた文化の変遷を展示する。(目標来館者数 12 万人) ケ　特別展「工藝 2020―日本の工藝と自然―」(10 月 6 日～11 月 29 日) (48 日間) 現代活躍する日本の工芸作家の作品を，自然とのかかわりに焦点をあてて展示する。(目標来館者数 5 万人) コ　特別展「日本のたてもの―自然素材を伝統技術に活かす知恵」(仮称) (12 月 23 日～3 年 2 月 28 日) (53 日間) 日本の木造建築の技術と様式の変遷を精巧な建築模型でたどる展覧会。(目標来館者数 5 万人) サ　特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」(3 年 1 月 13 日～3 月 7 日) (47 日間) 16 世紀から 19 世紀における日本の対外交流をテーマとする展覧会。日本にもたらされた外国の文化と日本から世界にわたった美術工芸品等を展示する。(目標来館者数 10 万人) シ　日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展) (3 年 1 月 26 日～3 月 7 日) (36 日間) 東京文化財研究所が平成 3 年から行なってきた，欧米をはじめとする 15 カ国の約 60 館の美術館・博物館で所蔵する日本の絵画・漆工品 380 点余の修復事業の中から 15 件ほどを選んで里帰り展示する。(目標来館者数 5 万人) ○目標来館者数の合計 107 万人（海外展，他館開催を除く。) （京都国立博物館） ア　西国三十三所 草創 1300 年記念 特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」(4 月 11 日～5 月 31 日) (45 日間) 西国三十三所は，閻魔大王のお告げを受けた大和国長谷寺の徳道上人が人々を救うために定めたと伝わる 33 の観音霊場(札所)で草創から 1300 年。これを機として，ゆかりの深い京都の地で巡礼の魅力を，観音菩薩の姿や各札所の寺宝を通じて紹介する。(目標来館者数 7 万人) イ　御即位記念 特別展「皇室の名宝」(10 月 10 日～11 月 23 日) (39 日間) 天皇陛下の即位とともに元号が改まり，令和の世を迎えました。新たな世の始まりをことほぎ，皇室ゆかりの地である京都において，日本の宮廷で培われた文化を宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の名品とともに紹介する。(目標来館者数 10 万人) ○目標来館者数の合計 17 万人 （奈良国立博物館） ア　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」(4 月 18 日～6 月 14 日) (51 日間) これまでに製作された数百点におよぶ正倉院宝物の再現模造品の中から，選りすぐりの逸品を一堂に公開する。(目標来館者数 5 万人) イ　特別展「仏教美術名品展」(仮称) (7 月～9 月)　　日本を代表する仏教美術の名品の数々を紹介する。(目標来館者数 5 万人) ウ　特別展「第７２回 正倉院展」(予定) (10 月～11 月) 正倉院宝庫に伝わる宝物約 70 件を展示。(目標来館者数 18 万人) エ　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」(3 年 2 月 6 日～3 月 28 日) (47 日間) 聖林寺十一面観音菩薩立像を中心に，三輪山信仰が育んだ文化を紹介する。(目標来館者数 4 万人) ○目標来館者数の合計 32 万人 （九州国立博物館）

ア　特別展「ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展」（4 月 25 日～6 月 21 日）（51 日間）世界有数の古代エジプトコレクションを誇るオランダ国立ライデン国立古代博物館の所蔵品から，古代エジプトの棺，ミイラなどを中心に紹介する。ミイラの CT スキャン調査の成果も世界に先駆けて公開する。（目標来館者数 7 万人）
イ　開館 15 周年記念特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景」（7 月 21 日～9 月 13 日）（49 日間）日本神話の海幸山幸をキーワードに全国各地の考古資料，美術工芸品，歴史資料により，日本人と自然のかかわりを概観する。（目標来館者数 5 万人）
ウ　開館 15 周年記念特別展「加耶」（仮）（10 月 13 日～12 月 6 日）（48 日間）朝鮮半島の古代国家である加耶を，韓国における最新の発掘成果と研究成果によって紹介するとともに，加耶からの渡来人が日本国内に遺した考古資料によってし，日本の古代国家形成に加耶が果たした役割を示す。（目標来館者数 4 万人）
エ　特別展「中宮寺の国宝」（仮）（3 年 1 月 26 日～3 月 21 日）（48 日間）
　奈良県・中宮寺が所蔵する半跏思惟像，天寿国繍帳などの名品のほか，飛鳥時代の仏教に関する幅広い作品を紹介する。（目標来館者数 6 万人）
○目標来館者数の合計 22 万人
【中期目標・計画上の評価指標】
・特別展に関する取組状況（特別展の開催回数，特別展の来館者数）
・特別展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上）

③観覧環境の向上等
1)快適な観覧環境の提供
（4 館共通）
ア　平常展及び特別展における，題箋及び解説等並びに音声ガイドについて，4 言語（日，英，中，韓）にて情報提供を行い，来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化，ユニバーサルデザイン化を推進し，来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（東京国立博物館）
ア　トーハク新時代プランに基づき，多言語による案内，デジタルサイネージ及び誘導サイン等を順次整備する。
イ　トーハク新時代プランに基づき，より快適な観覧環境を構築するため，展示ケース・照明・内装など展示室等をリニューアルする。
ウ　トーハク新時代プランに基づきリニューアルした多言語対応型の鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」を運用する。
エ　講座･講演会の会場におけるヒアリングループの設置・管理，スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用，ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等，障がい者のための環境整備を充実させる。
オ　「総合案内パンフレット」（7 言語（8 種）：日，英，中(簡体字・繁体字)，韓，仏，独，西）を制作・配布する。
カ　本館 2 階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために，より基礎的な解説を盛り込んだ，4 言語（日，英，中，韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
キ　トーハク新時代プランに基づき，外国人にも分かりやすい展示解説の工夫に取り組む。
ク　育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。
ケ　トーハク新時代プランに基づき，レプリカ・ＶＲ・8Ｋ映像等を活用した新感覚の展示を行う。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7 言語（8 種）：日，英，中（簡体字・繁体字），韓，仏，独，西）を継続して配布し，海外からの来館者調査結果に基づき，対応言語の増加を検討する。
イ　デジタルサイネージやＳＮＳを活用し，効果的な情報発信を図る。
ウ　スマートフォンアプリを活用し，屋外展示，敷地内遺構（方広寺大仏殿），建物等

をガイド（日，英）する体験型コンテンツを開発する。
（奈良国立博物館）
ア　快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。
イ　誘導サイン等の一層の整備を図り，より快適な観覧環境を確保する。
ウ　正倉院展の際に託児室を設置するとともに，混雑状況・待ち時間の速報を行う。
エ　館内案内リーフレット（7 言語：日，英，中，韓，仏，独，西）を継続して制作する。
オ　多言語による案内について充実を図る。
（九州国立博物館）
ア　快適な観覧環境を保持するため，サインや照明等の空間デザインを工夫し，満足度の高い展示の実現を目指す。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し，分かりやすい情報発信に努める。
ウ　館内案内リーフレット（7 言語：日，英，中，韓，仏，独，西）を継続して制作する。
エ　音声ガイド（4 言語：日，英，中，韓）の内容充実に努める。
2)来館者の満足度調査等の実施，サービスの改善等
（4 館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え，観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し，観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し，関係者との協議のうえ，オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等，サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて，特別展も含めた早朝開館・夜間開館などの開館時間の柔軟な設定を検討する。
エ　開館時間の拡充に合わせて，来館者の早朝開館，夜間開館に対するニーズを把握するために，早朝開館，夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　特別展等に関し，専門家の展覧会評を求め，広報誌等に掲載する。
（東京国立博物館）
ア　特別展等に合わせて軽食販売を行う等，サービスの向上に努める。
（京都国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にミュージアムショップ及びレストランのサービス向上に努める。
（奈良国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。
（九州国立博物館）
ア　特別展に合わせたメニューを開発する等，サービス向上に努める。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信，オリジナルグッズの提供に努める。
【中期目標・計画上の評価指標】
・観覧環境に関する来館者アンケート（中期目標期間に上位評価が 80%を超えることを目指す。）
・（関連指標）関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況
・（関連指標）多言語表記に関する外国人アンケート

（3）教育普及活動等
　国立博物館が行う講演会等のイベントや各種図録の出版等の教育普及活動は，展覧事業の効果を高めるとともに，有形文化財（美術工芸品）の

（3）教育普及活動等
　日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう，教育活動，広報の充実を図る。また，展覧事業同様，2019 年 ICOM 京都大会及び 2020

（3）教育・普及活動
日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り，国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。また，日本博事業において訪日外国人を含めた多くの来館者への教育普及事業に取り組む。

収集や修理等を含め，国立博物館の多様な業務を広く普及する上で不可欠であり，その重要性は高まっている。
　以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。

①　教育普及活動の充実
● 講演会，ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し，来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に努めること。
● 講演会等のほか，体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により，幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供すること。
● その他教育普及活動として，ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組に努めること。

② 有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信と広報の充実
● 展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報に努めるとともに，ウェブサイトにおいて収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報を公開し，その質的向上と量的拡充に努め，アクセスの増加を図ること。

年東京 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。

①教育活動の充実等
　日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう，機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお，講演会等の開催回数については，各施設の工事等による影響を勘案し，前中期日標の期間の実績以上を目指す。
1)学習機会の提供
　講演会，ギャラリートーク，スクールプログラム，ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際，対象やテーマに応じて学校，社会教育関係団体，国内外の博物館等との連携協力を行う。
2)ボランティア活動の支援
　教育活動の充実及び来館者サービスの向上，さらに，生涯学習活動に寄与するため，ボランティアを育成し，その活動を支援する。
3) 大学との連携事業等の実施
　インターンシップ，キャンパスメンバーズ制度，大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与
　保存科学，修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討，実施する。
5)博物館支援者増加への取組
　企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
　文化財に関する情報の発信に努めるとともに，展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報を行う。
1)有形文化財に関する情報の発信
　ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)資料の収集と公開
　美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し，蓄積するとともに，その情報の発信と充実に努める。
3)広報活動の充実
　展示や教育事業等について，個々の企画の目的，対象，内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し，情報提供を行う。また，広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用，並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により，積極的な広報を行う。

①教育活動の充実等
1)学習機会の提供
（文化財活用センター）
ア　企業等との連携を図りつつ，先端技術を駆使し，文化財に親しむためのレプリカやVR等映像コンテンツを開発し，提供する。文化財の理解を促進するため，積極的に機構外施設へのアウトリーチに取り組む。
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については，各施設の工事等による影響を勘案し，前中期日標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）
ア　文化財についてわかりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。
イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下，19室のみどりのライオン，東洋館２室，６室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ，さらに，大講堂，小講堂やミュージアムシアター等も活用し，対象と内容に応じた事業を展開する。
(ア)ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集「親と子のギャラリー　動物のうごき」(5月12日～6月14日)
・「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化」(7月21日～9月6日)
(イ)総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(時期調整中)，「博物館でアジアの旅」(時期調整中)，「博物館に初もうで」(時期調整中)において，講演会，ギャラリートーク，体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。
(ウ)体験型プログラムの実施
・特集「親と子のギャラリー」ほか，総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。
・本館19室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで，ワークショップやハンズオンアクティビティ等の体験型プログラムを実施する。
・トーハク新時代プランに基づき，日本文化に関連した体験型アクティビティを恒常的に実施するためのスペースとして本館特別４室を整備しプログラムを実施する。
ウ　学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。
・教員を対象とした研修等を継続して実施する。
エ　トーハク新時代プランに基づき，外国人を対象とするガイドツアーを行う。
オ　障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。（京都国立博物館）
ア　歴史や文化について分かりやすく理解してもらうため，講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。
イ　京都文化を核としながら，日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）等を発行する。
・京博ナビゲーターによるミニワークショップ等，文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
・ハンズオン教材を設置し，京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。
ウ　教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館，京都国立近代美術館，京都文化博物館，京都市美術館）で組織する「京都市内４館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。

　ウェブサイトの運用においては，アクセス件数の向上を図り，各施設の工事等による影響を勘案しつつ，前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに，時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について，一層の改善を図る。

・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム，フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み，伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い，文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。
イ　小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してＥＳＤ(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。
エ　地下回廊の学習端末機で名品のハイビジョン映像等を引き続き公開する。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて，文化財に関する情報を引き続き公開する。
（九州国立博物館）
ア　特別展記念講演会を開催する。
イ　シンポジウムを開催する。
ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。
エ　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため，教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。
オ　学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため，教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうばっく」の貸し出しを実施する。
・移動博物館車「きゅーはく号」の活用により，きゅーはくきゃらばん（移動博物館事業）の充実を図る。
・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して，小中学生を招き，様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業を実施する。
・夜間開館時にファミリー向けの教育普及事業を実施する。
キ　特別展に関連した教育普及事業を実施する。
ク　文化施設等へ講師を派遣する。
ケ 手話通訳付きミュージアムトークを開催したり，点字ガイドブックを作成するなど，障がいをもつ方にも展示を楽しんでもらえるような環境を整える。
【中期目標・計画上の評価指標】
・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
・(関連指標)講演会等の参加者数
・(関連指標)児童生徒を対象とした教育普及活動の実施実績
2)ボランティア活動の支援
（東京国立博物館）
ア　館内案内，各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット，触知図，盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応，手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等，バリアフ

リー活動を実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデー等，ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図るとともに，第3期京博ナビゲーターを募集し，活動を開始する。
イ　調査・研究補助ボランティアを受け入れ，調査研究事業の充実を図る。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し，小中学校への訪問授業を実施する。
エ　「京都・らくご博物館」において，大学生をボランティアとして起用する。
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度3期目の3年目として，ボランティアの各グループ（世界遺産グループ，解説グループ，サポートグループ）の活動の円滑化を図る。
イ　ボランティアの資質向上を目的に，定期的に研修を実施する。
ウ　勉強会等により，ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
エ　ボランティアが実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。
（九州国立博物館）
ア　ボランティア各部会の活動の充実を図る。
イ　令和元年度新規募集した第6期ボランティアの活動をスタートさせる。
ウ　ボランティアの企画立案によるワークショップ等のプログラムの充実を図る。
エ　学校教育活動支援事業の学習プログラムの一部をボランティアにより実施する。
【中期目標・計画上の評価指標】
・(関連指標)ボランティアの受入人数
3)大学との連携事業等の実施
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館，奈良国立博物館，九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館学講座」，「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。
（京都国立博物館）
ア　連携協力協定に基づき京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学，高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。
【中期目標・計画上の評価指標】
・(関連指標)大学生，大学院生を対象とした教育普及活動の実施実績
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与
（4館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。
5)博物館支援者増加への取組
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。

ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し，広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を実施する。
（東京国立博物館）
ア　賛助会等の会員制度を通して，リピーター獲得の促進を図る。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会に参画し，上野地区の文化施設等と連携した各種事業を主体的に実施することで，認知度向上に努める。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会・シンポジウム等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し，企業等との連携を図る。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し，博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し，展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域，企業との連携を推進する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の更なる獲得を図る。
【中期目標・計画上の評価指標】
・(関連指標)賛助会等支援組織の会員数

②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1)有形文化財に関する情報の発信
（文化財活用センター）
ア　4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム　ColBase」について，掲載画像を増やすとともに，画像の高精細化，データのアップデートを進め，その充実を図る。
イ　4館収蔵品の国宝・重要文化財について，4言語（日，英，中，韓）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）をリニューアルし，新規国指定文化財の追加，解説文の見直しに着手する。
ウ　国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。
（4館共通）
収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また，画像利用の条件等について，国内外の事例も参照しながら，引き続き検討する。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品の説明を付した館蔵品データベースを継続して公開する。
イ　平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて，収蔵品の画像等を公開する。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について，引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報及び展示情報を掲載した「収蔵品ギャラリー」を継続して公開する。
イ　対馬宗家文書，装飾古墳，郷土人形等のデータベースを継続して公開する。
2)資料の収集と公開
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料，国内外の博物館・美術館に関す

			る情報及び資料について広く収集し，蓄積を図る。また，資料の登録や検索・利用については，最新の情報処理技術を用いた，活用しやすいシステムを開発する。 （東京国立博物館） ア　調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し，広く一般に公開する。 イ　博物館における情報資源の活用に向けて，各種資料のデータ整備を推進し，レファレンス機能とサービスの充実を図る。 ウ　資料館の機能の拡充に向け，施設・設備の見直しを含めた，利用計画を策定する。 （京都国立博物館） ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し，資料の保守・管理や検索性を向上させる。 （奈良国立博物館） ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し，内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 （九州国立博物館） ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め，内外の利用に供する。 3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 （機構本部） ア　機構の概要，年報を作成する。 イ　機構本部ウェブサイトを運用し，機構に関する情報の提供を行う。 ウ　文化財活用センターウェブサイトを運用し，センターに関する情報の提供を行う。 （4館共通） ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 （東京国立博物館） 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 ア　「博物館でお花見を」，「博物館に初もうで」等を軸とした総合文化展の広報の企画・運営，広報・宣伝制作物の制作・配布等を行う。 イ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。 （京都国立博物館） ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。 イ　文化大使を引き続き任命し，広報活動を行う。 ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。 （奈良国立博物館） ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 イ　文化大使を引き続き任命し，広報活動を行う。 ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し，協力することにより博物館の認知度を高める。 （九州国立博物館） ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。 イ　応援大使による広報活動を引き続き行う。 ウ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し，展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。 エ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し，文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。 オ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。 カ　民間企業と協同し，商品開発やコラボイベントによる広報活動を推進する。 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 （4館共通） ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。

			（東京国立博物館） ア　報道発表会，内覧会，懇談会等を通じ，主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。 イ　上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。 （京都国立博物館） ア　地域等が主催する各種委員会に参加・連携し，広報活動を展開する。 イ　京都市内 4 美術館・博物館（京都国立博物館，京都国立近代美術館，京都文化博物館，京都市美術館）で連携し，共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。 （奈良国立博物館） ア　近隣社寺・博物館等との連携協力により，集客増に繋がる広報活動を展開する。 イ　展覧会，博物館活動への理解・促進を図るため，マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。 ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布等広報協力を依頼する。 （九州国立博物館） ア　報道発表会，内覧会，懇談会等を通じ，主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。 イ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 ウ　九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。 エ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。 3)-3 広報印刷物，ウェブサイト等の充実 （4館共通） ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また，各施設の工事等による影響を勘案しつつ，ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ　メールマガジンを配信する。 （東京国立博物館） ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年 4 回） イ　ウェブサイトでは，ブログ等博物館の顔が見えるコンテンツを継続して発信する。 ウ　SNS（ツイッター，フェイスブック，インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行う。 （京都国立博物館） ア　『京都国立博物館だより』，『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布を行う。（年 4 回） イ　博物館ディクショナリーを発行し，新刊をウェブサイトにて公開すると同時に，メールマガジンにて配信する。 ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。 エ　SNS（ツイッター等），ブログによる情報発信を継続して行う。 （奈良国立博物館） ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年 4 回） イ　ウェブサイトのほか，メールマガジン，SNS（ツイッター）による情報発信を行う。 ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。 エ　外国語による展覧会チラシを作成し，外国人観光客誘致のための情報発信を行う。 （九州国立博物館） ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに，利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 イ　4 言語（日，英，中，韓）によるウェブサイトでの情報提供を行う。 ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。（年 4 回） エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。

（4）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
　国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。

【中期目標期間において推進するべき具体の調査研究の方針】
● 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展示等に係る調査研究
　収蔵予定又は収蔵している有形文化財（美術工芸品）若しくは特別展等で借用する有形文化財（美術工芸品）について，科学的手法を適切に用いて，学術的・芸術的な価値の究明とコンディションの分析等を行い，適切な保管・展示の環境維持や修理等の処置に資すること。また，将来にわたる収集活動，展覧事業の企画等に資するよう，有形文化財（美術工芸品）全般に及ぶ調査研究を行うこと。
　定期刊行物，図版目録，特別展等図録，研究紀要及び調査報告書等（以下「刊行物等」という。）に関する刊行計画を策定し，これに従い刊行して，有形文化財（美術工芸品）に関する調査研究の成果等の発信に努めること。また，著作権処理の可能なものについては，学術情報リポジトリ等を参考にウェブサイトで公表するよう努めること。

（4）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
　文化財に関する調査研究を実施し，その保存と活用を推進することにより，次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。
① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
　収蔵品・寄託品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究，各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する基礎的かつ総合的な調査研究，及び歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し，その成果を展覧事業・教育普及活動等に反映し，広く一般に発信する。
②その他 有形文化財に関連する調査研究
　文化財の収集・保存・修理・管理ほか，文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施する。また，将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施する。
③国内外の博物館等との学術交流等
　我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに，文化財とその活用等に関する博物館活動について，先進的かつ有用な情報を集積するため，海外の優れた研究者を招へいし，国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに，2019 年 ICOM 京都大会の開催にあたり，国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し，博物館活動全体の活性化に寄与する。
④調査研究成果の公表
　文化財等に関する調査研究の成果を図版目録，研究紀要，学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに，ウェブサイトでの公開等，調査研究成果の発信を更に拡充する。なお，定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
文化財の保存と活用を推進するとともに，次代へ継承し，我が国の文化の向上に資するため，以下の調査研究を行い，展覧事業・教育活動等並びに定期刊行物等において，その成果を発信する。
（4 館共通）
ア　科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究
①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究
（東京国立博物館）
ア　特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 42 次），「書跡」第 18 回，「工芸」第 12 回「彫刻」第 10 回，「絵画」第 5 回，「考古」第 1 回）
イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究
ウ　列品および寄託品に関連する有形文化財にかかる調査研究
エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究
オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究
カ　東洋民族資料に関する調査研究
キ　「書と料紙―平安時代の美しい紙―」ほか特集に関連する調査研究
ク　日本美術における羽根モザイク作品に係る国際共同研究
（京都国立博物館）
ア　近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究
イ　訓点資料としての典籍に関する調査研究
ウ　旧家伝来の工芸品に関する調査研究
エ　京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究
オ　特集展示・特別企画に関連する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究
イ　古代の写経と聖教に関する基礎的研究
ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査
エ　墳墓出土品の調査研究
オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
カ　東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
（九州国立博物館）
ア　Ｘ線ＣＴスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究
イ　近世キリスト教に関する研究
ウ　高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究
エ　「天神縁起の世界」ほか特集展示等に関連する調査研究
オ　水中遺跡の保存活用に関する調査研究
2)特別展等の開催に伴う調査研究
国内外の博物館等と連携しながら，特別展等の開催に向けた各種調査研究を実施する。
（東京国立博物館）
ア　特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」ほか特別展等に関する調査研究
（京都国立博物館）
ア　特別展「皇室の名宝」ほか特別展に関する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　特別展「仏教美術名品展」（仮称）ほか特別展に関する調査
（九州国立博物館）
ア　開館 15 周年記念特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景」ほか特別展に関する調査研究
3)文化財を活用した効果的な展示や，教育活動等に関する調査研究
（文化財活用センター）

ア　各施設と協力して，レプリカや VR 等先端技術を使った，文化財の活用についての調査・研究
（東京国立博物館）
ア　博物館環境デザインに関する調査研究
イ　博物館教育に関する調査研究
ウ　凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究
エ　ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究
オ　レプリカや VR 等先端技術を使った，文化財の活用についての調査・研究
（京都国立博物館）
ア　博物館教育及びボランティア活動に関する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　歴史，伝統文化の教育普及に資するための調査研究
（九州国立博物館）
ア　特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等，観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
イ　文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究

②その他有形文化財に関連する調査研究
1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究
（東京国立博物館）
ア　博物館の環境保存に関する調査研究
（京都国立博物館）
ア　修復文化財に関する資料収集及び調査研究
イ　文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究
（奈良国立博物館）
ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究
イ　文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
ウ　保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
（九州国立博物館）
ア　文化財の材質・構造等に関する共同研究
イ　博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究
ウ　博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究
2)博物館情報，文化財情報に関する調査研究
（東京国立博物館）
ア　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
イ　創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
（京都国立博物館）
ア　博物館情報システム・資料情報処理に関する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究

③国内外の博物館等との学術交流等
（4 館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし，海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会，シンポジウム等の開催若しくは職員を派遣する。
（東京国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に，海外の博物館との交流を活発に行う。

			2)アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会，IEO（国際展覧会オーガナイザー会議），日中韓国立博物館館長会議等の国際会議へ参加する。 （京都国立博物館） 1)海外の博物館・美術館との学術交流協定の締結に向けた協議を行う。 （奈良国立博物館） 1)学術交流協定を締結している博物館を中心として，海外の博物館との交流を活発に行う。 （九州国立博物館） 1)学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招へいし，文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。 ④調査研究成果の公表 （東京国立博物館，京都国立博物館） 1)文化財修理報告書を刊行する。 （東京国立博物館） 1)「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」等を運用し，インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2)紀要・図版目録等を刊行する。 3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 4)研究誌『MUSEUM』を刊行する。（年６回） 5)刊行物リポジトリの導入を検討する。 （京都国立博物館） 1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに，学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。 2)社寺調査報告書等を刊行する。 （奈良国立博物館） 1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに，学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。 2)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品等の光学的調査について，報告書を刊行する。 3)文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （九州国立博物館） 1)研究紀要『東風西声』を刊行する。 2)博物館科学に関する印刷物を刊行する。
	（５）国内外の博物館活動への寄与 国立博物館は，多くの有形文化財（美術工芸品）を収蔵等しており，従来，国内外の博物館等における展覧事業への出品要請等に対応するとともに，展覧事業の企画等への援助・助言等を行っている。これらの業務を通じて，国内外の博物館活動へ寄与することは重要であり，次の目標に従い業務を行うこととする。 ①　国内外の博物館等への有形文化財（美術工芸品）の貸与 ● 国内外からの博物館等からの有形文化財（美術工芸品）の貸与等の依頼に対し，国宝・重要文化財の場合は文化財保護法の規定にのっとり適切に対処するとともに，各文化財の保管・展示状況，コンディション，貸出先の施設の状況等を総合的に勘案し，積極的に応じること。 ②　国内外の博物館等への援助・助言等 ● 国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し，可能な限り積極的に応じること。	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 収蔵品については，その保管・展示状況，コンディション，貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ，国内外の博物館等の要請に応じて，展示等の充実に寄与するため，貸与を実施する。 ②国内外の博物館等への援助・助言等 国内外の博物館等からの要請に応じて，専門的・技術的な援助・助言を行うとともに，博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 （文化財活用センター・４館共通） 1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 2)文化財活用センターが中心となり，収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。 （東京国立博物館） 1)各地域ゆかりの文化財の平常展示のため，引き続き長期貸与を促進する。 2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。 3)地方公共団体の博物館等に収蔵品を貸与するとともに文化財活用センターと連携し，地方への貸与を促進する。 （京都国立博物館） 1)京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため，引き続き長期貸与する。 2)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 （奈良国立博物館） 1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 【中期目標・計画上の評価指標】

	合的に勘案し，積極的に応じること。 ②　国内外の博物館等への援助・助言等 ● 国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し，可能な限り積極的に応じること。		・有形文化財（美術工芸品）の貸与に関する取組状況（有形文化財（美術工芸品）の貸与件数） ②国内外の博物館等への援助・助言等 （４館共通） 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 （文化財活用センター） 1)全国の博物館等文化財保存施設における良好な保存環境維持・管理に資するための助言や協力，また研修会等を通じての周知活動を行う。 （文化財防災センター） 1)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い，助言・研究会の開催等を通して，文化財等防災に貢献する。 （東京国立博物館） 1)新規貸与館に対する環境調査を実施し，文化財活用センターと協力して指導助言を行う。 （九州国立博物館） 1)地域の自治体等と連携し，公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2)公私立博物館・美術館等職員等のための IPM（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。
No.Ⅰ―２ 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施	２．　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施 文化財は，我が国の歴史，文化等を正しく理解するために欠くことのできない国民共有の財産であり，これを確実に保存し，活用を図りながら次世代に継承するためには，その基盤となる専門的な調査研究の蓄積が欠かせない。 文化財保護法において文化財は，有形文化財，無形文化財，民俗文化財，記念物，文化的景観，伝統的建造物群の６種に分類され，加えて埋蔵文化財並びに文化財の保存技術が規定される。例えば国の重要文化財の指定等においては，その価値を判断するための基準を文部科学省告示で定めているが，芸術的価値，歴史的価値，文化的価値，学術的価値などが評価の対象とされている。これらの価値判断を行うためには，科学技術の応用を含む学術研究の成果に基づく客観的な指標が必要であるが，様々な分野の研究の進展に伴い，指標そのものが時代とともに変化していく性質を有している。このため継続的な研究蓄積の基盤に立ち，これらの変化に対応して，ゆるぎない信頼を得ることが重要である。 また，有形の文化財は物理的な変化は避けられず，無形の文化財の伝承は人々の活動に委ねられており，両者とも確実な保存のための措置が必要となる。このため，文化財をよりよい状態で将来に継承するためには，文化財の現状把握と記録を含む各種調査研究が必要であり，科学技術の応用によってその精度を高めることで，修理等における真正性の継承に寄与することが期待できる。さらに，確実な保存を前提に文化財の適切な活用を	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため，以下の調査研究を行う。 （１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め，文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は，基礎的データの増大や学術的知見の蓄積，文化財指定等の基礎資料の提供につながり，国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案，文化財の評価等に関し，個別的・総合的に寄与する。 ①　有形文化財，伝統的建造物群に関する調査研究 有形文化財，伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み，我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等，並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 1)我が国の美術を中心とする 有形文化財 等に関する調査研究 我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財，及びそれらに関連する国内外の文化財について，その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷，今日に至るまでの保護等に関する調査研究，文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い，調査研究成果を公開する。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究	（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①有形文化財，伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し，それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また，イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と研究会を開催する。その他機関との連携も図りつつ，文化財情報の公開・活用のための，より望ましい手法等の研究を行う。 イ　近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として，基礎的な調査研究及び光学調査を進め，研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて，これにかかる国内外の研究交流を推進する。 ウ　近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ，その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて，作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い，得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。その事業のひとつとして日本美術家人名データベースの作成を進める。 エ　美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として，螺鈿や漆器等を主な対象として，その表現・技術・材料について自然科学や伝統技術，また歴史学等の隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施するとともに，新たな研究手法の検討・開発に取り組む。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また，近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集，未指定建造物の調査，歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い，纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し，保存を行っている各自治体等への協力を行う。 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 近畿を中心とする古社寺や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して，原本調査，記録作成を悉皆的に実施するとともに，仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。 ②無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等

図ることは重要であり，各種調査研究に基づいた活用の施策が求められる。
東京文化財研究所及び奈良文化財研究所（以下総称して「文化財研究所」という。）は，文化財保護法が制定されて間もない昭和 27 年の設置以来，文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査研究を継続して実施してきている。今後とも文化財研究所は，これらの調査研究の蓄積を基盤として，将来にわたって新たな知見の開拓につながる文化財に関する探求的な調査研究に挑むことが重要である。同時に，最先端の科学技術の応用を積極的に試み，文化財の調査手法や保存修復等に関する研究の進展に努める責任がある。これらの調査研究を推進するため，重点的に取り組むべき具体の調査研究を別紙１に掲げるとおりとするとともに，評価に当たっては，別紙２に掲げる評価軸，評価指標等に基づいて実施することとする。
また，文化遺産保護に関する国際協働に寄与するため，関係する国際条約や「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律（平成十八年法律第九十七号）」を始めとする関係法令等に基づく施策等の実施に，文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターは積極的に取り組むこととする。
さらに，これらの調査研究及び国際協働等に関する情報・資料・研究成果等を公表するとともに，地方公共団体等の職員を対象とした文化財に関する専門的研修や，国・地方公共団体等に対する文化財の調査及び保護に関連した協力等を行うこととする。
以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。

（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
① 有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究
文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，各時代の絵画・彫刻，古代建築，近畿地方を中心とする寺社の歴史資料・書跡資料，重要伝統的建造物群保存地区の候補となりうる伝統的建造物群に関する研究に重点的に取り組むものとする。
② 無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究
無形の文化財の現状把握と記録に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，重要無形文化財を中心とする古典芸能，伝統工芸技術及びそれに関わる文化財保存技術，重要無形民俗文化財を中心とする民俗芸能，風俗慣習，民俗技術に関する研究に重点的に取り組むものとする。

建造物に関しては，古代建築の保存に資するため，法隆寺古材調査を中心とする古代建築調査を行って古代建築及びその修理過程等を明らかにする。また，近世・近代の建造物等の調査研究を行い，成果を公開する。伝統的建造物群については，その保存と活用に資するため，重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い，成果を公開するとともに，各地の歴史的建造物の保存に協力する。
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究
我が国の歴史，文化の解明及び理解の促進等を図るため，薬師寺・仁和寺等の近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。
②無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究
無形文化財，無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み，その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。
1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究
重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について，調査研究・情報収集・記録作成に努め，その保存伝承に資する成果を公開する。
2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究
無形民俗文化財においては，全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し，その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。

③記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究
記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み，記念物の保存・活用，古代国家の形成過程や社会生活等の解明，文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展，埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。
1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究
記念物のうち史跡については，その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。名勝については，近世の庭園に関する調査研究を実施し，成果を公開する。
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究
古代日本の都城の解明等を図るため，平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め，飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究
文化的景観の保存・活用の促進等を図るため，重要文化的景観に関する情報を収集・整理し，成果を公開する。あわせて，複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行
う。
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究

無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに，現状記録を要する対象を精査し，記録作成を実施する。記録作成に関しては，これまで継続してきた講談等の演芸に加え，邦楽分野についても範囲を広げ実施する。
調査研究等に基づく成果の一部については，一般向けの公開講座等を通して公表する。また，これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い，必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。
2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等
我が国の風俗慣習，民俗芸能，民俗技術等無形の民俗文化財，及び文化財の保存技術のうち，近年の変容の著しいものを中心に，現在における伝承の実態，伝承組織，公開のあり方等を明らかにするとともに，各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や，後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。さらに，無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し，その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等
日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等，無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。
③記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究
1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究
我が国の史跡・名勝に関し，以下の調査研究を行う。
ア　遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また，遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに，過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。
イ　庭園調査を行うとともに，庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究
国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて，遺跡の発掘調査，出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。
ア　古代都城の解明のため，平城宮跡東方官衙地区，平城京跡，興福寺東金堂院地区，藤原宮大極殿院地区，藤原京跡，及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
イ　出土遺物及び遺構に関する調査，分析，復原的研究を総合的・多角的に行い，調査研究が纏まったものより順次公表する。
ウ　飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳，壁画，絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに，東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として，日中韓の古代寺院出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また，飛鳥時代木造建築に関する研究として，藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の構造や出土部材の研究を行う。
エ　アジアにおける古代都城遺跡，生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について，日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進，中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究，三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究院との共同研究，日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を，協定に基づいて行う。また，調査研究が纏まったものより順次公表する。
3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究
文化的景観の調査及び保護に関する情報収集，調査研究，成果の公表を行う。また，文化的景観の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに，前年度に開催した研究集会の成果をまとめ，報告書を刊行する。
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究
我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し，以下の調査研究を行う。
ア　全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や，官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め，その成果をデータベース化

③ 記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究
文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，古代日本の都城遺跡（平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡）の発掘調査，史跡等の保存と活用の在り方，近世・近代の庭園，重要文化的景観及びその候補となりうる文化的景観の保存・活用実態，水中文化遺産及び古代官衙遺跡等に関する研究に重点的に取り組むものとする。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
① 文化財の調査手法に関する研究開発
文化財の価値や保存に関する研究の進展を図ることとし，可搬型分析機器を用いた調査方法，デジタル画像の形成方法等，埋蔵文化財の探査・計測等の調査手法，年輪年代学による木造文化財の年代確定，動植物遺存体等の調査手法に関する研究に重点的に取り組むものとする。

② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
文化財の保存に関する研究の進展を図ることとし，生物被害の予防と対策，文化財の保存環境と維持管理，文化財の材質・構造等の科学的分析，屋外文化財の劣化予防，文化財の修復方法と材料，考古遺物の保存処理法，建造物の彩色技法と材料，近代文化遺産の保存修復，高松塚古墳・キトラ古墳の保存対策に関する研究に重点的に取り組むものとする。

遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため，官衙・集落遺跡，古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し，成果を公開する。
5)水中文化遺産に関する調査研究
国内の水中文化遺産の調査に取 り組むとともに，主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し，今後の取組に資する。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため，下記の研究開発及び調査研究に取り組む。
①文化財の調査手法に関する研究開発
文化財の調査手法に関する研究開発を推進し，科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与する。また，文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発
文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため，デジタル画像の形成や３Ｄ記録製作等について研究開発を進める。
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発
遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため，遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発
年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため，年輪データの地域性に関する研究を進める。また，年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。
4)動植物遺存体の分析方法の研究 開発
過去の生活・生業活動の解明等を図るため，分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに，発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として，最新の科学技術を応用し，文化財研究としての新たな技術の開発を進め，国内外の機関との共同研究や研究交流を図り，先端的な調査研究を推進する。
以下の調査研究に取り組むとともに，その成果を広く公開することにより，文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

して順次公開する。
イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。
5)水中文化遺産に関する調査研究
我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため，水中文化遺産の保存並びに活用に関する調査研究を行う。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発
さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により，文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い，その成果を公開する。その一環として，ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法に関する調査研究を行う。
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発
埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に，情報取得手段としての遺跡探査，地質の検証，遺構・遺物の計測や記録内容情報抽出についての手法及び資料の製作技法や形態・物性に基づく資料分析，一般にむけてのＡＲ・ＶＲ，ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発
出土遺物，建造物，美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し，考古学，建築史学，美術史学，歴史学等の研究に資するとともに，各地の年輪データの蓄積を進める。また，マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊調査手法の活用や，年輪年代学的手法による同一材推定の応用等，分析方法の研究開発を進め，これらの研究成果を公表する。
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発
平城宮跡・藤原宮跡等，各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに，多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また，環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して，公開する。
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
1)生物被害の予防と対策に関する調査研究
歴史的建造物，古墳環境等生物制御が困難な空間にある文化財を対象として，遺伝子等を指標とした簡易・迅速な生物モニタリング手法を用いた実践研究の成果発信を行うとともに，虫菌害被害を受けた文化財に対して薬剤を用いない環境低負荷型の防除方法の普及を行う。
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究
白色 LED 照明の展示物への影響についてより詳細な研究を進め，物質の応答性も加えた照明の評価方法を定めるとともに，LED 照明の技術指針について学協会と連携してガイドラインを策定する。さらに，化学物質の室内挙動と関連の深い温湿度解析の事例研究を進め，博物館内の汚染物質の改善方法の普及を行う。
3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造，及び保存状態に関する調査研究
複数の可搬型機器を活用して，絵画・工芸品・建造物等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。これまでに調査した絵画作品の調査報告書を刊行する。さらに，文化財の劣化によって生じた生成物の分析を行い，劣化要因の特定と対策法の検討を行い，研究会を行う。
4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究
屋外に所在する石造・木質文化財及び自然史資料を対象に，周辺環境等の劣化要因の

1)生物被害の予防と対策に関する調査研究
　大規模燻蒸に替わる虫菌害対策のシステム化をより向上させるため，浮遊微生物量の短時間・連続測定など新しいモニタリング技術について基礎研究を行う。屋外環境においては，木造建造物や古墳など環境制御が困難な場所における生物被害の予防策および対処法に関する調査研究を行う。
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究
　文化財の展示照明として導入が進む白色 LED ，有機 EL 光源が文化財の保存に与える影響並びにその展示照明としての評価方法 を検討する基礎研究を実施し，照明に関する新たな基準作成に資する。また，文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い，空気清浄化マニュアルを作成して成果普及を図る。
3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造，及び保存状態に関する調査研究
　各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し，日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに，金工品等における黄銅（真鍮）材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型 X 線回折装置を導入し，各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。
4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究
　屋外に所在する石造物や木造建造物等について，凍結劣化や塩類風化，頻繁な生物被害などの屋外特有の保存環境要因，及び地震や水害などの自然災害による劣化・破損を軽減するための方法について調査研究を行う。
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究
　美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため，伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い，その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて，新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。
6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究
　考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し，金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等，考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。
7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究
　遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動，埋蔵環境についてモデル化を行い，遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。
8)建造物の彩色に関する調査研究
　南都の寺社等の歴史的建造物の塗装彩色の修理に資するため，技法及び材料調査を実施するとともに，復元された平城宮跡大極殿において塗装彩色の経年変化のモニタリング法に関する研究を行う。

究明及び修復材料・技術に関する研究を行い，それぞれの価値を人々に有効に伝えて行く適切な活用方法について検討を進める。
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究
美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料と新規修復方法について，調査研究と評価を行う。前年度までの成果をもとに，海外から研究者を招聘し，国内の最先端の事例も含めて文化財修復に関する研修会を行う。また，前年度の研究会報告書の刊行を行う。
6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究
種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質，構造及び劣化状態に関する診断調査を行い，保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に，鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また，木製遺物の保存処理における薬剤含浸・固化工程を効率化する新手法を開発するための基礎研究を行う。
7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究
環境制御による劣化抑制の成否について検証するため，屋外に所在の石造文化財などを対象として，遺構の劣化の進行速度と周辺の環境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等多孔質材料の劣化要因である塩析出及び乾湿繰り返しが材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに，埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため，金属腐食実験を行い，環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。
8)建造物の彩色に関する調査研究
建造物彩色等の材料調査を行い，使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において，建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため，環境調査並びに大極殿塗装の色彩測定を行う。
9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究
近代文化遺産の特徴である煉瓦・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。令和 2 年度はこれまで調査してきた建造物のその後のフォローアップを行うとともに，保存活用に関する調査研究を行う。
10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な石室内の熱水分環境について調査研究を行う。

（３）文化遺産保護に関する国際協働
　文化遺産の保護に関する国際的な協力については，「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針（平成 26 年 2 月 21 日 外務省・文部科学省告示第 1 号）（以下「基本方針」という。）」等に従い行うこととし，以下のとおり目標を定める。
　また，アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関し，ユネスコと日本国政府の間の協定に基づき設立されたアジア太平洋無形文化遺産研究センターについて，以下のとおり目標を定める。
① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
● 基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつつ，文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担うこと。
② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
● 基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の④に掲げる文化財機構の役割に従い，文化遺産国際協力を推進する。

9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究
　コンクリート構造物やレンガ構造等による産業・交通・土木関連の施設や機械類，合成樹脂等の複合的な材料が使われている美術工芸品など，近代文化遺産の保存や修復に必要とされる理念・技術・方法を研究し，保存管理計画等の策定に寄与する。
10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
　高松塚古墳，キトラ古墳の保存対策事業等，我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について，実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。

（３）文化遺産保護に関する国際協働
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
　我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら，下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて，人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより，諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
　海外，特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集，諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年，優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し，法令集として刊行する。
　また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに，文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い，その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
2)文化遺産保護協力事業の推進
　諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて，その理念と技術の両面における研究を進めるとともに，国際協力を推進するための基盤を強化する。
　また，その成果をもとに，日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ，ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ，諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。

3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等
　諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて，文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず，国際的な文化遺産保護に関する情報交換，技術移転，相互協力を行い，国際貢献に努める。

（３）文化遺産保護に関する国際協働
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
海外，特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報や国内で要望の高い情報の収集，諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。
ア　文化遺産の調査や保護に関わる主要な国際会議に出席して情報の収集を行うとともに，国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また，収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて，今後の我が国における文化遺産保護施策の検討の用に供する。
イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
2)文化遺産保護協力事業の推進
国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め，国際協力を推進するための基盤を強化するとともに，その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。
ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し，成果を広く公表する。
(ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。
(イ)西アジア・中央アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にカザフスタン等において文化遺産保護協力事業を実施する。
(ウ)在外日本古美術品を対象に調査を行い，その結果をもとに修復を行う。修復経過や修復結果を国内外の専門家と共有し，日本の伝統的な保存修復技術の伝播とその応用を促す。
(エ)上記各事業と連携しつつ，文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等
文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。
ア　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）等と協力し，紙文化遺産などに関する国際研修，国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産保存担当者と共有し，且つ専門家ネットワークを構築する。
イ　ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が実施する研修への協力を行う。
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
アジア太平洋無形文化遺産研究センターは，アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として，以下の事業を行う。
・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集

		②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 　アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと，無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化，研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて，当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。特に，自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い，その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに，我が国の知見を通じて，無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	・無形文化遺産のＳＤＧｓへの貢献に関する研究 ・無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究 ・アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
	（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 ● 研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的として，文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し，公開すること。 ● 調査研究の成果を刊行物，講演会等を通じて広く公表するとともに，平城宮跡資料館・飛鳥資料館等の公開施設において公開すること。なお可能な限り，調査研究に関する論文等について，学術情報リポジトリ等としてウェブサイトでの公開に努めること。	（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 　文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに，調査研究成果を公開し，国内外の諸機関との連携を強化することにより，広く社会に還元する。 ①文化財情報基盤の整備・充実 　文化財情報の計画的収集，整理，保管，公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに，調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお，文化財に関するデータベースの公開件数については，前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ②調査研究成果の発信 　文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会，現地説明会，シンポジウムの開催等により，多元的に発信する。また，ウェブサイトにおいては，日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお，定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については，前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ③展示公開施設の充実 　平城宮跡資料館，藤原宮跡資料室，飛鳥資料館については，研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ，来館者の理解を促進する。なお，公開施設における特別展・企画展の開催件数については，前中期目標の期間の実績以上を目指す。また，宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため，解説ボランティアを育成する。	（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため，文化財情報の計画的収集，整理，保管，公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに，調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。 2)文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管および公開活用に関して，技術面・法律面含めたガイドラインを作成する。 3)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 4)文化財に関係する図書，雑誌等の収集，整理，公開，提供を充実する。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・図書，雑誌等の公開に関する取組状況 （資料閲覧室・図書資料室の開室日数，利用者数，文化財に関する資料・図書等の総件数） ・文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） ・（関連指標）データベースのデータ件数 ・（関連指標）データベース等へのアクセス件数 ②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について，定期的に刊行するとともに，公開講演会，現地説明会，シンポジウムの開催等により，多元的に発信する。また，研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに，日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 ・『東京文化財研究所年報』 ・『東京文化財研究所概要』 ・『東文研ニュース』 ・『美術研究』（年３冊） ・『日本美術年鑑』 ・『無形文化遺産研究報告』 ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ・『保存科学』 ・『奈良文化財研究所紀要』 ・『奈良文化財研究所概要』 ・『奈文研ニュース』 ・『埋蔵文化財ニュース』

			2)公開講演会，現地説明会，シンポジウムの開催等 ・公開講座（オープンレクチャー） ・公開講演会 ・現地説明会 3)ウェブサイトの充実 ・東文研総合検索システム ・東京文化財研究所刊行物一覧 ・学術情報リポジトリ ・なぶんけんブログ（巡訪研究室，コラム作資棲等） ③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館，藤原宮跡資料室，飛鳥資料館の展示等を充実させ，来館者の理解を促進するとともに，日本博関連展示を行う。 1)特別展・企画展 （平城宮跡資料館） ・企画展「ならのみやこのこうこがく（仮）」（7月23日～8月30日） ・特別展「地下の正倉院展」（10月10日～11月23日） ・ミニ展示「平城京の丑」（3年1月5日～1月31日） ・特別企画展「鬼瓦展（仮）」（3年1月30日～3月29日）（仮）（平城宮いざない館企画展室で開催） （飛鳥資料館） ・特別展「飛鳥の石造文化と石工」（4月26日～6月16日） ・特別展　奈良国立博物館・奈良文化財研究所　合同企画「日本人と古代仏教―仏教と文字文化の考古学（仮）」（7月19日～9月1日） ・企画展「第10回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭り」（仮）」（10月11日～12月1日） ・企画展「飛鳥の考古学2020」（3年1月24日～3月15日） 2）定期的に勉強会や研修を開催し，平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに，解説ボランティアとの連絡会議等を通じて，より効果的かつ効率的な制度運用を行う。
	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ● 地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について，研修項目，課程等の体系を示し，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施すること。 ● 文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について，可能な限り専門的・技術的見地から適切な協力等を行うこと。	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 　我が国の文化財に関する調査研究の中核として，これまでの調査研究の成果を活かし，文化財担当者を対象とした各種研修について，研修項目，課程等の体系を示し，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し，文化財保護に携わる人材を育成する。 　また，我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため，国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 ①文化財に関する研修の実施 　文化財に関する高度な研究成果をもとに，地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに，保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 　なお，研修の実施件数及び受講者数については，前中期目標の期間の実績以上を目指す。また，アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。 ②文化財に関する協力・助言等 　国・地方公共団体や大学，研究機関との連携・協力体制を構築し，これらの機関が有する文化財に関す	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修，博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を，文化財活用センターと協力して行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い，その結果を踏まえ，より充実した研修計画を策定する。 ②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学，研究機関との連携・協力体制を構築し，これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集，知見・技術の活用，本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて，文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ，文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし，他機関等との共同研究及び受託研究を行う。 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い，地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。 ③平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁，国土交通省が行う平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また，ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁，国土交通省が行う平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

		る情報の収集，知見・技術の活用，機構が行った調査研究成果の発信等を通じて，文化財に関する協力・助言を行う。 ③平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また，ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 ④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し，今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 ⑤文化財等の防災・救援等への寄与 巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため，文化庁及び地方公共団体，文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ，機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて，以下の事業及び関連する調査研究等を行う。 1)体制づくり 有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い，情報の収集と発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断，保存環境，安定化処置及び修理等に関する研究を行う。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。 3)人材育成等 の実施 文化財等の防災・救援に関する指導・助言，研修，啓発・普及活動を実施する。	・文化庁が行う平城宮跡，藤原宮跡の整備，管理事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原，整備・活用等への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力 2)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力 ④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し，今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学，京都大学，奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学，修復材料学) ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学） ⑤文化財等の防災・救援等への寄与 （文化財防災センター） 1)体制づくり 地域の多様な文化財の保護を目的として，文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。 ・文化遺産防災ネットワーク推進会議を一層充実発展させ，連携体制の強化を図る。文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。 ・地方公共団体，博物館等施設，地域史料ネット等関係団体との協議，情報交換会の開催，調査の実施及び会議・シンポジウム等への参加等を通じて，地域内及び地域間の文化財防災ネットワーク構築を促進する。 ・災害発生時に多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種のガイドライン等の策定を行う。 ・多様な文化財の防災に取り組むための機構内体制の構築に関する検討を行う。 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い，情報の発信を行う。 ・全国の文化財防災の先進事例や地方指定等文化財情報に関する情報を収集・整理し，共有化を図る。 ・文化財防災体制のあり方に関する調査研究を行う。 ・国及び地方指定等文化財に関するデータ，及び地方公共団体が制定した全国の文化財保護条例に関するデータの収集を進め，それらデータベースの活用方法を検討する。 ・歴史災害痕跡のデータベース等の運用・活用を進め，地域文化遺産リストに関する地図作成作業等の成果を公開し，広く文化財全般の防災ネットワーク構築に寄与する。 ・文化財が被災した災害に関する事例を収集し，データを公開する。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断，安定化処置及び修理，保存環境，被災現場の作業環境等に関する研究を実施し，指針の策定を目指す。 ・けいはんなオープンイノベーションセンターの施設を利用し，収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点としての活用について研究を行う。 ・災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣化診断・応急処置の方法や安定的保管のための保存環境，被災現場の作業環境等に関する研究を行う。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。 ・無形文化遺産総合データベースのデータ収集と公開を進め，これを活用して無形文化遺産の防災に寄与する。 ・無形文化遺産の防災に関する地域間の情報共有を促進する。

			・無形文化遺産の動態記録作成調査を通じて，災害発生後の継承と無形文化遺産が地域の復興に果たす役割等に関する研究を実施する。 エ　建造物等の不動産文化財の防災についての検討を行う。 3)人材育成・事業啓発活動等の実施 ・本事業での取組についてウェブサイト・パンフレット等を作成・更新して国内外への情報公開に努める。 ・文化財等の防災・救援に関する指導・助言，研修，啓発・普及活動として，シンポジウム，講演会，研究集会，地方公共団体担当者等への研修会，地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。 ・諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに，我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。
No. II 業務運営の効率化に関する事項	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとする。特に，第 25 回世界博物館大会（2019 年 ICOM 京都大会）及び 2020 年東京大会の開催等を踏まえ，法人の事業全体を通じて，横断的に国際業務を推進する体制の整備に努めることとする。 （２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。 （３）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年５月 25 日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。 （4）共同調達等の取組の推進 周辺の機関と連携し，コピー用紙等の消耗品や役務について，共同して調達する取組を年度計画等に具体的な対象品目等を定めた上で進めるものとする。 （５）一般管理費等の削減 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）等を踏まえ，国民に対して提供するサービスの質の維持向上に十分配慮しつつ，自主的・戦略的な業務運営を行い，最大限の成果を挙げていくために，調達の合理化を推進するなど一層の業務の効率化を推進することとする。具体には，文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５％以上，業務経費については５％以上の効率化を図ることとする。	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，組織・体制等の見直しを行う。特に，2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて，機構の事業全体を通じて，各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。 （２）人件費管理の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し，対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み，その結果について検証を行うとともに，検証結果や取組状況を公表する。 （３）契約・調達方法の適正化 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年５月 25 日総務大臣決定）に基づき，引き続き取組を着実に実施し，文化財の購入等，随意契約が真にやむを得ないものを除き，競争性のある契約への移行を推進することにより，経費の効率化を行い，随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し，公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。 （4）共同調達等の取組の推進 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ，コピー用紙等の消耗品や役務について，周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。 （５）一般管理費等の削減 中期目標の期間中，一般管理費については１５％以上，業務経費については５％以上の効率化を行う。ただし，文化財購入費，文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また，人件費については次項（２）及びⅨ4. に基づき取り組むこととし，本項の対象としない。このため，事務，事業，組織等の見直しや，サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し ・国際業務の推進体制の整備の一環として，2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて，機構内における組織体制を整備する。 ・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み，本部情報担当部門の設置について，検討を継続する。 ・令和２年１０月１日付で本部に文化財防災センターを設置する。 （２）人件費管理の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し，対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み，その結果について検証を行うとともに，検証結果や取組状況を公表する。 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 （4）共同調達等の取組の推進 周辺の他機関を含めた共同調達について，有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。 上野地区　再生 PPC 用紙，トイレットペーパー，廃棄物処理，古紙等売買，複写機賃貸借， トイレ洗浄機器等賃貸借 京都地区　再生 PPC 用紙，トイレットペーパー 九州地区　再生 PPC 用紙，トイレットペーパー，ガソリン （５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 機構のネットワークの統合を検討し，業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。 ②計画的なアウトソーシング 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 （東京国立博物館） ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 ・資料館業務の一部 ・施設内店舗業務 （京都国立博物館） ・警備業務及び設備保全業務の一部並びに清掃業務 ・会場運営業務 ・代表電話対応及び受付業務 （奈良国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 （九州国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務等

		・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進	・警備業務，看視案内業務及び清掃業務 （東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ・警備業務，清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等 ③使用資源の減少 ・省エネルギー 光熱水量の使用状況を把握し，管理部門を中心に引き続き節減に努める。 ・廃棄物減量化 使用資源の節減に努め，廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 廃棄物の分別収集を徹底し，リサイクルを引き続き推進する。
	２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，オープンデータの推進，業務・システムの最適化等を図ることとし，ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。 ３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	２．業務の電子化 機構に関する情報の提供，オープンデータの推進，業務・システムの最適化等を図ることとし，ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。 ３．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	２．業務の電子化 機構ウェブサイトにおいて，機構に関する情報の提供を引き続き行い，政府の方針に沿ってオープンデータを推進し，各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。 ３．予算執行の効率化 収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし，引き続き効率的な予算執行に務める。
No. Ⅲ 財務内容の改善に関する事項	１．自己収入拡大への取組 展覧事業のサービスの向上に努め，安定的な自己収入の確保を図るとともに，業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため，会員制度の充実，寄附金等の外部資金の募集，保有財産の有効利用の推進，競争的資金の獲得等多様な取組を進めることとし，前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得るものとする。 ２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに，効率的な施設運営を行うこと等により，固定的経費の節減を図ること。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 文化財機構の財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。	１．自己収入拡大への取組 展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め，自己収入の確保を図るとともに，賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み，寄附金の獲得を目指す。また，保有資産については，その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに，映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進，競争的資金の獲得等財源の多様化を図り，機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより，前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。 ２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに，効率的な施設運営を行うことにより，固定的経費の節減を図る。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 機構の財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。	１．自己収入拡大への取組 （１）博物館及び展示公開施設の平常展観覧料金を令和２年４月１日に改定する。 （２）機構全体において，展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。 （３）機構全体において，寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （文化財活用センター） ・独立行政法人国立文化財機構寄附ポータルサイトを構築する。 ・前年度から開始した東京国立博物館と共同した所蔵品の修理に対する寄附金募集活動を引き続き実施する。 （4）保有資産の有効利用の推進 （博物館４施設） ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体，学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し，施設の有効利用を図る。 （文化財研究所２施設） セミナー室，講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに，展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等，施設の有効利用の推進を引き続き図る。 ２．固定的経費の節減 固定的経費の節減のため，Ⅱ１．（５）一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 独立行政法人会計基準に従い，引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。

	4．保有資産の処分 保有資産の見直し等については，「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成 26 年９月２日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき，保有の必要性を不断に見直し，保有の必要性が認められないものについては，不要財産として国庫納付等を行うこととする。	4．保有資産の処分 保有資産の見直し等については，「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成 26 年９月２日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき，保有の必要性を不断に見直し，保有の必要性が認められないものについては，不要財産として国庫納付等を行う。	－
No. Ⅳ 予算，収支計画及び資金計画	－	管理業務の効率化を図る観点から，各事業年度において，適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組 を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。	－
No. Ⅴ その他の事項	１．内部統制 法令等を遵守するとともに，コンプライアンスの徹底，経営層による意思決定，内部規定整備・運用，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を整備・運用し不断の見直しを行う。また，整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに，監事による監査機能・体制を強化する。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させるものとする。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については，政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ，情報セキュリティ・ポリシーを適時適切に見直すとともに，これに基づき情報セキュリティ対策を講じ，情報システムに対するサイバー攻撃への防御力，攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また，対策の実施状況を毎年度把握し，ＰＤＣＡサイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。	１．内部統制 コンプライアンスの徹底，理事長のマネジメント強化，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し，運用する。また，内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに，監事による監査機能・体制の強化に取り組み，必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに，研修等を通じて職員の理解促進，意識や取組の改善を行う。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜，検討を行いつつ，年１回以上事業に関する自己評価を実施し，その結果は組織，事務，事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については，政府機関の統一基準群を踏まえ，情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し，規定等を適時適切に見直すとともに，これに基づき対策を講じ，不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策，攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また，自己点検，監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し，その結果に基づいて改善する。 ３．施設設備に関する計画 施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ，別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。 4．人事に関する計画 （１）方針 ①中長期的な人事計画等を策定し，理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また，国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ，職員個々の能力向上を通じて，組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。 ②性別，年齢，国籍，障がいの有無等にとらわれない，能力，適性に応じた採用及び人事配置を行い，職員の	１．内部統制 内部統制委員会，リスク管理委員会を開催する。また，内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し，必要に応じて見直しを行うとともに，各種研修を実施し，職員の意識並びに資質の向上を図る。 ２．その他 （１）自己評価 運営委員会，外部評価委員会の開催等，外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については，政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ，情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し，規定等を適時適切に見直すとともに，これに基づき対策を講じ，不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策，攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また，自己点検，監査を実施し，その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。 ３．施設設備に関する計画 別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。 4．人事に関する計画 （１）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際，理事長の裁量によって，一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。 （２）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度の導入について，検討を継続する。 （３）性別，年齢，国籍，障がいの有無等にとらわれない，能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。 （4）女性の活躍を推進し，制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。 （５）職員のキャリアパスの形成のため，職位に応じた研修の実施を企画・立案する。 （６）働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。

		多様な働き方を促進する。 ③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため，例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし，それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。 ④職員のキャリアパスの形成に寄与するために，研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。 （２）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ，業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 １３，６44 百万円 但し，上記の額は，役職員に対し支給する報酬（給与），賞与，その他の手当の合計額であり，退職手当，福利厚生費を含まない。 ５．中期目標期間を超える債務負担 中期目標期間を超える債務負担については，機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で，当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し，合理的と判断されるものについて行う。 ６．積立金の使途 前中期目標期間の最終年度において，独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは，その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について，次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。	

独立行政法人国立文化財機構の

第４期中期目標期間における業務の実績に関する評価

令和３年

文 部 科 学 大 臣

独立行政法人国立文化財機構　中期目標期間評価（期間実績評価）　目次

１－２－１	評価の概要	・・・ｐ１
１－２－２	総合評定	・・・ｐ２
１－２－３	項目別評定総括表	・・・ｐ４
１－２－４－１	項目別評価調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）	・・・ｐ７
	項目別評価調書 No. Ⅰ―１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	・・・ｐ７
	項目別評価調書 No. Ⅰ―２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	・・・ｐ２９
１－２－４－２	項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）	・・・ｐ５４
	項目別評価調書 No. Ⅱ　業務運営の効率化に関する事項	・・・ｐ５４
	項目別評価調書 No. Ⅲ　財務内容の改善に関する事項	・・・ｐ６１
	項目別評価調書 No. Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画	・・・ｐ６４
	項目別評価調書 No. Ⅴ　その他の事項	・・・ｐ６５
別添	中期目標、中期計画、年度計画	・・・ｐ７２

１－２－１　中期目標管理法人　中期目標期間評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象中期目標期間	中期目標期間実績評価	第４期中期目標期間
	中期目標期間	平成２８年度～令和２年度

２．評価の実施者に関する事項				
主務大臣	文部科学大臣			
法人所管部局	文化庁		担当課、責任者	企画調整課、平山直子
評価点検部局	大臣官房		担当課、責任者	政策課、林孝浩

３．評価の実施に関する事項	
令和３年６月・７月	各種事業を担当している国立文化財機構職員との意見交換（随時）を実施した。
令和３年７月	監事に対する意見聴取を書面にて行った。
令和３年７月	令和２年度の業務の実績に関する自己評価書等について，有識者会合委員に対し書面にて意見聴取を行った。

４．その他評価に関する重要事項
令和２年10月より、文化財防災センターを発足させた。

１－２－２　中期目標管理法人　中期目標期間評価　総合評定

１．全体の評定		
評定（S、A、B、C、D）	B	（参考：見込評価） B
評定に至った理由	法人全体に対する評価に示すとおり，全体として中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。	

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	以下に示すとおり，全体として，中期目標に定められたとおり，概ね着実に業務が実施されたと認められる。 Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 Ⅰ－１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信（B） Ⅰ－２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施（B） Ⅱ　業務運営の効率化に関する事項（B） Ⅲ　財務内容の改善に関する事項（B） Ⅳ　予算，収支計画及び資金計画（B） Ⅴ　その他の事項（B）
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	新型コロナウイルス感染症の拡大により，令和２年２月から休館やプログラムの休止などを行っており，各種事業や自己輸入への影響について考慮することが必要である。

３．課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	【教育・普及事業】 「新しい生活様式」に対応した教育・体験型プログラムのか検討やオンラインコンテンツの充実等，博物館事業の継続と文化財の活用を通じた次世代への継承につながる取組の充実が期待される。（P10） 【自己収入拡大への取組】 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入館制限により，各種事業や自己収入への影響が懸念されるため，多様な財源確保策の確立が望まれる。（P62）
その他改善事項	特になし
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし

４．その他事項	
監事等からの意見	特になし
その他特記事項	特になし

※　評定区分は以下のとおりとする。（平成 27 年 6 月 30 日文部科学大臣決定、平成 29 年 4 月 1 日一部改定、以降「旧評価基準」とする）」p13）

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期目標における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

Ｂ：全体としておおむね中期目標における所期の目標を達成していると認められている。

Ｃ：全体として中期目標における所期の目標を下回っており、改善を要する。

Ｄ：全体として中期目標における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

様式１－２－３　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定総括表

中期目標	年度評価					中期目標期間評価		項目別調書№	備考
	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	見込評価	期間実績評価		
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項									
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	—	—	B	B	B	B	B	Ⅰ-1	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	—	—	—	—	—				
①国立博物館の施設設備の整備	（B）	（B）	—	—	—				
②有形文化財の収集等	（B）	（A）	—	—	—				
③有形文化財の管理、保存、修理等	—	—	—	—	—				
有形文化財の管理、保存	（B）	（B）	—	—	—				
有形文化財の修理等	（B）	（B）	—	—	—				
（２）展覧事業	—	—	—	—	—				
①展覧事業（平常展・特別展等）	（B）	（A）	—	—	—				
②観覧環境の向上等	（B）	（B）	—	—	—				
（３）教育・普及活動	—	—	—	—	—				
①教育活動の充実等	（B）	（B）	—	—	—				
②有形文化財に関する情報の	（B）	（B）	—	—	—				

中期目標	年度評価					中期目標期間評価		項目別調書№	備考
	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	見込評価	期間実績評価		
（３）文化遺産保護に関する国際協働	—	—	—	—	—	A	B	Ⅰ-2	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	（B）	（B）	—	—	—				
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	（B）	（A）	—	—	—				
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	（A）	（A）	—	—	—				
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	—	—	—	—	—				
①地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	（B）	（B）	—	—	—				
②平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	（A）	（B）	—	—	—				
③文化財等の防災・救援等への寄与	（A）	（A）	—	—	—				
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項									
組織体制の見直し	（B）	（B）	B	B	B	B	B	Ⅱ	
人件費管理等の適正化	（B）	（B）							
契約・調達方法の適正化	（B）	（B）							
一般管理費の削減	（B）	（B）							
業務の電子化	（A）	（B）							

	発信と広報の充実									
	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	—	—	—	—	—				
	①有形文化財に関連する調査研究	（B）	（B）	—	—	—				
	②国内外の博物館等との学術交流等	（B）	（B）	—	—	—	B	B	Ⅰ-1	
	③調査研究成果の公表	（B）	（B）	—	—	—				
	（5）国内外の博物館活動への寄与	—	—	—	—	—				
	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	（B）	（B）	—	—	—				
	②国内外の博物館等への援助・助言等	（B）	（B）	—	—	—				
	2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	—	—	A	A	B				
	（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	（B）	（B）	—	—	—				
	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	—	—	—	—	—	A	B	Ⅰ-2	
	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進	（A）	（B）	—	—	—				
	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	（B）	（A）	—	—	—				

予算執行の効率化	（B）	（B）	B	B	B	B	B	Ⅱ	
Ⅲ　財務内容の改善に関する事項									
自己収入拡大への取組	（B）	（A）	B	B	B	B	B	Ⅲ	
決算情報・セグメント情報の充実等	（B）	（B）							
Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画									
予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	（B）	（B）	B	B	B	B	B	Ⅳ	
Ⅴ　その他の事項									
内部統制	（B）	（B）	B	B	B	B	B	Ⅴ	
自己評価・情報セキュリティ対策	（B）	（B）							
施設設備に関する計画	（B）	（B）							
人事に関する計画	（B）	（B）							

※1　重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「○」を付す。
※2　難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く。
※3　評定区分は以下のとおりとする。（**旧評価基準 p11**）
　S：中期目標管理法人の活動により、中期目標における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期目標値の 120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。
　A：中期目標管理法人の活動により、中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期目標値の 120%以上）。
　B：中期目標における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期目標値の 100%以上 120%未満）。
　C：中期目標における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期目標値の 80%以上 100%未満）。
　D：中期目標における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた、抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期目標値の 80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。
　なお、「Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項」、「Ⅲ．財務内容の改善に関する事項」及び「Ⅳ．その他の事項」のうち、内部統制に関する評価等、定性的な指標に基づき評価せざるを得ない場合や、一定の条件を満たすことを目標としている場合など、業務実績を定量的に測定しがたい場合には、**以下の要領で上記の評定に当てはめることも可能とする。**（**旧評価基準 p11**）
　S：－
　A：難易度を高く設定した目標について、目標の水準を満たしている。
　B：目標の水準を満たしている（「A」に該当する事項を除く。）。
　C：目標の水準を満たしていない（「D」に該当する事項を除く。）。
　D：目標の水準を満たしておらず、主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ―1	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
関連する政策・施策	政策目標１２　文化芸術の振興 施策目標１２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法　第１２条　第２号
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
収蔵品件数（件）	（4館計）	実績値	―	126,872	127,453	128,208	130,211	131,191	131,433
文化財購入費（百万円）	（4館計）	実績値	―	1,773	1,438	1,736	1,263	1,224	1,110
寄託品件数（件）	（4館計）	実績値	―	12,056	12,127	12,240	12,469	12,385	12,495
寄贈品件数（件）	（4館計）	実績値	―	563	318	518	348	125	155
各年度における収蔵施設の収容率（%）	（東博）	実績値	―	―	180	180	133.8	133.8	133.8
	（京博）	実績値	―	―	100	100	100	100	100
	（奈良博）	実績値	―	―	99	99	99	99	99
	（九博）	実績値	―	―	80	85	80	80	90
資料等のデジタル化件数（件）	（東博）	実績値	24,471	30,013	25,334	26,972	25,575	26,475	20,106
	（京博）	実績値	3,816	5,966	5,820	4,444	3,380	5,333	5,633
	（奈良博）	実績値	5,373	3,875	3,081	3,017	3,047	3,001	3,017
	（3館計）	実績値	33,660	39,854	34,235	34,433	32,002	34,809	28,756
修理件（本格修理）（件）	（4館計）	実績値	―	131	107	105	89	75	83
修理のデータベース化件数	（4館計）	実績値	―	269	274	297	254	264	220
博物館の年間総来館者数（人）	（4館計）	実績値	―	3,987,831	3,663,777	4,728,996	3,849,021	4,251,725	800,183
平常展来館者数（人）	（4館計）	実績値	―	1,462,998	1,498,554	1,669,342	1,636,933	1,712,656	320,004
平常展展示替件数（件）	（東博）	実績値	―	6,930	8,538	6,616	5,981	5,813	5,041
	（京博）	実績値	―	1,145	943	973	1,021	1,140	458
	（奈良博）	実績値	―	286	427	210	232	239	261
	（九博）	実績値	―	1,513	1,654	1,594	1,779	1,641	1,671
平常展展示総件数（件）	（東博）	実績値	―	8,911	10,918	10,223	9,253	9,267	9,048
	（京博）	実績値	―	1,438	1,068	978	1,038	1,147	467
	（奈良博）	実績値	―	620	664	548	462	461	490
	（九博）	実績値	―	2,628	2,208	1,894	1,995	1,894	1,964
平常展来館者アンケート満足度（%）	（東博）	実績値	―	82	71	87.3	89.2	90.2	85.8
	（京博）	実績値	―	83	75	84.4	89.7	79.1	78.5
	（奈良博）	実績値	―	78	88.9	90.1	92.5	93.2	94.2
	（九博）	実績値	―	72	73.8	77.8	73.6	77.1	―
特別展来館者数（人）	（4館計）	実績値	―	2,524,833	2,165,223	3,059,654	2,212,088	2,539,069	480,179
特別展開催回数（回）※海外展を含む	（4館計）	実績値	―	17	23	16	18	17	9
特別展来館者アンケート満足度（%）	（東博）	実績値	―	75	87.9	86.4	84.2	86.6	85.5
	（京博）	実績値	―	87	78.1	81.9	94.6	71.6	73.9
	（奈良博）	実績値	―	79	86.4	88.1	89.8	91.4	91.1
	（九博）	実績値	―	88	85.9	87.2	86.7	84	89.2
海外展回数（回）	（合計）	実績値	―	2	5	2	2	0	0
来館者アンケート満足度（%）	（東博）	実績値	80	―	70.4	68.1	71.3	71.7	65.4
	（京博）	実績値	80	―	40.2	63.4	73.1	67.4	74.5
	（奈良博）	実績値	80	―	68	70.5	75.8	81.9	71.4
	（九博）	実績値	80	―	77.2	63.7	61.6	70.2	―
外国人アンケートの満足度（%）	（東博）	実績値	―	―	69.7	74.8	72.7	76.9	―
	（京博）	実績値	―	―	69.3	73.5	82.9	67.3	100
	（奈良博）	実績値	―	―	67.7	69.7	79.8	79.1	83.4
	（九博）	実績値	―	―	78.8	84.6	78.1	80.8	―
講演会回数（回）	（4館計）	実績値	―	―	308	341	237	219	67
講演会等参加人数（回）	（4館計）	実績値	―	33,111	35,472	43,143	24,623	23,099	55,294
キャンパスメンバーズ加入校数（件）	（4館計）	実績値	―	129	129	134	139	142	143

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	8,925,336	8,178,201	8,624,908	9,657,051	9,176,897
決算額（千円）	8,699,185	9,449,056	10,574,317	12,115,612	8,619,032
経常費用（千円）	6,418,247	6,570,340	7,267,907	8,551,243	6,882,546
経常利益（千円）	75,653	183,733	80,728	23,986	−162,605
行政サービス実施コスト（千円）	7,679,590	7,032,313	7,835,106	－	－
行政コスト（千円）	－	－	－	12,816,054	9,659,860
従事人員数	97	100	98	98	99

※予算額は、４国立博物館の年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、４国立博物館の決算額を計上している。
※予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

ボランティア数(人)	(4館計)	実績値	－	896	841	877	867	838	809
賛助会等加入件数(件)	(4館計)	実績値	－	906	890	1,089	1,244	1,356	1,186
友の会・メンバーズパス加入者数	(4館計)	実績値	－	39,463	43,732	33,354	29,098	29,934	16,181
体験型プログラム等実施回数(回)	(4館計)	実績値	－	1,972	3,544	3,237	3,085	3,126	380
体験型プログラム等参加者数(人)	(4館計)	実績値		223,833	228,680	563,931	362,449	459,725	52,362
ウェブサイトアクセス件数(件)	(東博)	実績値	3,925,429	6,724,460	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923
	(京博)	実績値	2,274,464	3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100
	(奈良博)	実績値	953,946	1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864
	(九博)	実績値	1,696,500	2,217,391	2,117,092	1,607,101	1,752,803	2,047,955	824,819
	「e国宝」	実績値	－	1,788,265	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236	1,952,296
学術雑誌等への論文掲載数（件）	(合計)	実績値	－	197	204	269	259	256	225
海外研究者招へい数(人)	(4館計)	実績値	－	149	127	63	126	73	0
研究員派遣数(人)	(4館計)	実績値	－	161	164	157	152	160	1
定期刊行物等の刊行数(件)	(4館計)	実績値	37	36	37	38	38	39	37
テーマ別展示の開催数(件)	(4館計)	実績値	－	50	52	46	50	37	32
講演会等の開催回数(回)	(4館計)	実績値	－	300	308	341	303	219	67
文化財の貸与件数(件)	(4館計)	実績値	－	1,530	1,561	1,544	1,858	1,488	1,235
公私立博物館等に対する援助・助言件数(件)	(合計)	実績値	－	329	381	483	436	529	422

3．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
	業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
			評定 B	評定 B
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	**＜主要な業務実績＞** **＜実績報告書等参照箇所＞** 第４期中期目標期間実績補足資料 P 1～ 31	**＜自己評価＞** 国立文化財機構が設置する東京国立博物館，京都国立博物館，奈良国立博物館，九州国立博物館及び30年7月に設置した文化財活用センターを中心として，有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信にかかる業務を着実に実施し，以下の詳細からB評価とした。	＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 東京，京都，奈良，九州の４つの国立博物館では，収蔵・展示施設及び設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた作業が着実に実施され，全体として収蔵品は順調に増加しており，緊急性の高い収蔵品から計画的な修理が行われている。資料等のデジタル化については，前中期目標期間見込評価時と比べ，31 504件増加し，積極的な取組の成果がうかがえる。 展覧事業については，各館ともに，多言語化，バリアフリー化等の観覧環境に配慮し，それぞれの特色を活かした展示が行われ，平常展，特別展ともに，来館者の満足度が高く，来館者総数が前中期目標期間見込評価時を大きく上回るなど，今期の努力の成果が実績として表れている。 教育普及活動についても，講演会等参加者数，ボランティア数は前中期目標期間見込評価時の実績を上回り，ウェブサイトアクセス件数に至っては，前期の２倍となるなど，各館における情報発信が効果的に行われている。 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究では，定期刊行物の件数が前中期目標期間見込評価時を上回り，計画的な調査研究と成果の発信が行われている。 国内外の博物館活動に対して，各館ともに，有形文化財の貸与や援助・助言等を積極的に進めており，平成 30 年度に設置した文化財活用センターにおける取組や文化財等防災ネットワーク形成に関する取組を通じて，ナショナルセンターとしての業務を着実に進めている。 ＜今後の課題＞ 今後は，文化財活用センターとの貸与促進事業を国立４館に広げ，多様な人々が日本の文化財に親しむ新たな機会を創出することで，文化財の活用を通じて次世代への継承にもつながる取組の充実が期待され	＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 東京，京都，奈良，九州の４つの国立博物館では，個別施設計画を策定され，メンテナンスサイクルの確立に向けた取組が着実に実施された。全体として収蔵品は順調に増加しており，緊急性の高い収蔵品から計画的な修理が行われている。 展覧事業については，各館ともに，多言語化，バリアフリー化等の観覧環境に配慮し，それぞれの特色を活かした展示が行われた。令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大のため，来館者数等において目標を下回ったものの，中期目標期間を通した全体としては，着実に達成したと評価される。 教育普及活動については，令和２年度からは動画配信やオンライン企画の充実に取り組み，講演会等参加者数，ウェブサイトアクセス件数においては，中期目標期間を通した全体として，着実に目標を達成された。 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究では，定期刊行物の件数が基準値を上回り，計画的な調査研究と成果の発信が行われた。 国内外の博物館活動に対しては，平成30年度に設置された文化財活用センターを中心に，有形文化財の貸与や援助・助言，データベースの充実等が積極的に進められた。加えて，文化財等防災ネットワーク形成に関する取組については，令和２年10月に設置された文化財防災センターを通じて，ナショナルセンターとしての業務を着実に進めた。 ＜今後の課題＞ 「新しい生活様式」に対応した教育・体験型プログラムの検討やオンラインコンテンツの充実等，博物館事業の継続と文化財の活用を通じた次世代への継承につながる取組の充実が期待される。 ＜その他事項＞

				る。 ＜その他事項＞ 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・保管施設の容量が今後不足することを見据えつつ整備計画が進められている 。 ・中期目標期間中，各館の特色を生かした平常展，特別展を実施し，アンケートの満足度も総じて高い。令和元年度末は新型コロナウイルス 感染症の影響で一か月閉館したが，年間総来館者数はその前年度を上回るなど，当初の目標を達成していると認められる。 ・引き続きレストランおよびカフェのさらなる質の向上をめざすことが望ましい 。 ・文化財の貸与件数は 4 館あわせて毎年度高い水準にある。文化財活用センターと共同で収蔵品貸与促進事業を始めるなど，新たな展開も期待できる。 ・文化財活用センターについては，長年の実績がある博物館，研究所 との違いやすみ分けが外側からは分かりにくい面がある。ナショナルセンターとしての役割を明確にする必要はないだろうか。 ・令和元年の ICOM 京都大会を契機に，海外の博物館等とのネットワークを一層強化した。国の文化施設として中核的な役割を担った。	有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・コロナ禍においてリモート，オンラインなどデジタル技術を活用した手法が開発されたと評価される。 ・観覧者の満足度の向上に向けて，バリアフリー化，ユニバーサルデザイン化，多言語化など環境の向上が図られている。 ・4 館ともに，IPM（総合的有害生物管理）の実践，展示・収蔵環境の整備，適切な時期での修理等，これらを徹底した成果が認められる。今後とも引き続き，これらの活動を継続して実施できる体制や予算を確保し，文化財の活用と保存の両立に寄与していただきたい。 ・新たに設置された文化財活用センターを中心に，国内の博物館・教育施設等との連携協力をすすめている。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，対面やハンズオン でのプログラムの実施が困難になったが，VR を用いたコンテンツやオンラインワークショップ等で「新しい生活様式」に対応した。一定の成果が認められる。 ・2019 年の ICOM 京都大会を契機に，これまで以上に多くの海外博物館関係者との交流とネットワーク形成が実現した。
（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承	**＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い有形文化財の収集・保管にかかる業務を計画的に実施した。 （目的） 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な有形文化財の収集を行う。 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。 また、収蔵品等の現状を確認の上、管理	**＜自己評価＞** 中期目標の達成に向け順調に進展したと評価した。 東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館においては、収蔵機能の最適化を図るべく、適切な施設設備の維持管理を行った。東京国立博物館では、令和元年 10 月、本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟が完成した。2 年度は、一部の搬入を実施し、移動後の所在確認作業を終えた。 有形文化財（美術工芸品）の収集等については、調査研究の成果に基づき、体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の充実を図るため、計画的に行い、その結果、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集することができている。また、寄贈・寄託ともに着実に受け入れを進めた。 有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等については，収蔵品等		

	に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。	の状態に応じて適切な保存・展示環境を整えるとともに，必要な修理等を施した。緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も継続的に行っている。		
① 博物館の施設設備の整備 中期目標の期間の最終年度（平成 32 年度）までに，収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルを確立すること。 （目標水準の考え方） 「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）平成 27 年 3 月」において，文部科学省は，各独立行政法人に対して，平成 28 年度までのできるだけ早い時期に行動計画を，平成 32 年度までに個別施設計画を策定するよう促すこととされている。	**＜主要な業務実績＞** 以下のとおり、博物館の施設設備の整備に関する取り組みを行った。 ・建物の長寿命化を見据えて館内設備機器(建物附属)の現状の調査、検証を 29 年 9 月に完了した。(東博)（28～29 年度） ・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの策定に向け、各施設の建物や設備について調査を実施した。(東博)（元年度） ・本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟は令和元年 10 月末に完成した。(東博)（元年度） ・メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画を策定した。(東博)（2 年度） ・トーハク新時代プランに基づき、順調に庭園や休憩スペースの整備を進めた。(東博)（2 年度） ・建物全体を免震構造とすること、創建当時の姿を適切に保持することなどを盛り込んだ、明治古都館（本館）基本計画を策定した。(京博)（28 年度） ・明治古都館免震改修他工事に向けた埋蔵文化財発掘調査を実施し、30 年度は建物外周部の調査を行った。(京博)（30 年度） ・2 年度は、本館北東部発掘調査を行った。(京博)（2 年度） ・東収蔵庫改修工事（減築、内外装改修	**＜自己評価＞** 4 館ともに、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組んだ。施設設備の点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用し、継続させている。		

		等工事）が完了した。（京博）（30 年度） ・収蔵・展示施設等に関するメンテナンスサイクルの確立に向け、外壁や防水等建築にかかる劣化損傷調査（予備調査）を行った。また、施設毎の劣化調査や工事履歴の取りまとめを行った。（京博）（30～元年度） ・南門施設（カフェ）空調設備が設置より 19 年経過し老朽化がみられ、また、空調機に温室効果が高い冷媒が使われていたため、空調設備更新工事を実施した。（京博）（元年度） ・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた個別施設計画の策定を行い、スケジュールどおりに取りまとめた。（京博）（2 年度） ・各種設備の状況調査及び各資料に基づき、メンテナンスサイクルの更新計画表を作成した。（奈良博）（28～29 年度） ・構内バリアフリー対策として側溝蓋の改修を行った。（奈良博）（30 年度） ・開館から１０年が経過し、施設整備の必要性が増したため、１０年整備計画を策定し、メンテナンスサイクルの検討を行った。（九博）（28 年度） ・監視カメラや空調機器等の改修工事を実施したほか、各施設・設備の維持管理・改修・更新・長寿命化等を計画的に実施していくための九州国立博物館個別施設計画を策定した。（九博）（30 年度） ・メンテナンスサイクルの確立 各館ではメンテナンスサイクルの確立に向け、個別施設計画の策定を行った。（2 年度）	**＜課題と対応＞** 収蔵・展示施設の老朽化の課題があるが、計画的に耐震対策及びセキュリティの強化に取り組んだ。メンテナンスサイクルを構築し、施設設備の点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用し、継続させる。		
	②　有形文化財の収集等 【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の収集に関する取組状況 （収集件数，文化財購入費，寄贈・寄託品件数） 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館が購入する価値の高い有形文化財（美術工芸品）は，所有者等との直接交渉が必要であり，予算等との関係からも必ずしも計画どおりに購入できるとは限らない。したがって数値目標は設	**＜主要な業務実績＞** ４館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・収蔵品件数　131,433 件（2 年度末） ・28 年度収集件数　525 件（うち購入 63 件、寄贈 318 件、編入 144 件） ・29 年度収集件数　754 件（うち購入 64 件、寄贈 518 件、編入 172 件） ・30 年度収集件数　2,005 件（うち購入 154 件、寄贈 348 件、編入 1,503 件）	**＜自己評価＞** ４館とも、各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加した。 購入については、購入件数・質ともに順調である。寄附金の活用等により安定的な文化財購入予算が確保できている。 寄贈・寄託については、個人コレクターや社寺等との信頼関係を維持・拡大し、寄贈・寄託の推進に努めて		

	定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	・元年度収集件数　980 件（うち購入 87 件、寄贈 125 件、編入 768 件） ・2 年度収集件数　242 件（うち購入 69 件、寄贈 155 件、編入 18 件） ・文化財購入費　1,110 百万円（2 年度） ・寄託品件数　12,495 件（2 年度末） 各指標の詳細はアウトプット情報を参照。	おり、継続的な受入れを維持し順調である。また、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を構築することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げることができた。 **＜課題と対応＞** 文化財の調査等を通じた所蔵者との良好な関係の維持・発展により、今後も更に寄贈や寄託の充実を図っていく。		
	③　有形文化財の管理・保存・修理等 【指標】 ・収蔵施設等の改善等に係る取組状況 （各年度における収蔵施設の収容率） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財（美術工芸品）の収蔵施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，文化財を適切な環境で保管するため，温湿度，照度，生物生息及び空気汚染等への対策を確実に行うことが求められている。このうち収容能力は，棚等の工夫の余地が一定程度あるものの，収蔵品の増加に伴い不足していくことが避けられない。したがって，国立博物館ごとに中長期的な収蔵施設の需要予測に基づく管理・保存方針を平成 29 年度までに策定し，予算計画等を立案することとする。なお，収容率は収蔵品数に大きく影響されるが購入・寄託・寄贈等による増加数の予測が困難であること，一定の基準で管理可能な収蔵施設の確保に当たっては一定の予算措置が必要となることから数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 【指標】 ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（前中期目標の期間の実績以上） （参考）前中期目標期間実績値 （見込評価時点） ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数　103,975 件（平成 23	**＜主要な業務実績＞** 収蔵品等を常時、適切な保存及び管理環境下に置くため、以下の取組みを行った。 １） ・収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を継続して行った。（４館） ・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。（４館） ・収蔵品の作品情報を作成し、文化財情報システムに随時登録し、データ整備を推進した。（４館） ・元年度から 3 か年計画にて収蔵品の棚卸しを開始し、記録・撮影を継続して実施した（九博）（元年度・2 年度） ２） ・適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度に関してデータを収集し、適切な温度・湿度管理に努めた。（４館） ３） ・緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理した。（４館） ・27 年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組み完了した。（東博）（28～2 年度） ・元年度は、4 か年事業の重要文化財「大手鑑（八十葉）の修理について最終年度として完了した。（京博）（元年度） ・修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てた。（４館） ・国宝「埴輪 挂甲の武人」などの蛍光Ｘ線分析による材質の調査を行い、材質調査や修理方針の決定などに寄与し	**＜自己評価＞** ４館ともに、国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理・保存は、徹底した取り組みを実施した。収蔵・展示施設の環境についても、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図った対応ができている。収蔵スペースついては、改修工事や新営工事の実施により、確保を図っており、各館とも安全かつ効率的な収納について検討を継続し、対応している。 収蔵品等の修理においては、緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の科学機器の導入と活用を全館で行い、計画的な修理へ役立てている。 文化財保存修理所等については、京博、奈良博及び九博では施設の修繕等を行い、整備充実を図った。 **＜課題と対応＞** 文化財を適切な環境で保管するための収蔵環境の整備は課題であり、継続して予算の確保等を実施する。また、文化財を活用に資するには、修理事業が極めて重要である。引き続き計画的に本格修理や劣化予防のための応急修理を実施するとともに、伝統的な修理技術や最新の科学機器の活用など技術開発研究を実施する。		

	～26 年度実績総数） （目標水準の考え方） ・データの蓄積は，膨大な収蔵品等について行う作業がある一方，写真撮影や修理等の機会に新たに取得するデータを追加する作業もあり，業務の優先度，必要性に応じて計画的に行う必要がある。 【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の修理に関する取組状況 （修理件数，修理のデータベース化件数） （目標水準の考え方） ・有形文化財（美術工芸品）は，その状態に応じて，適切な時期に適切な処置を施さなければ，その価値を将来にわたって継承することができないことから修理等に関する方針を設け，それにしたがって計画的に取り組むべきである。 ・有形文化財（美術工芸品）に当たっては，専門的かつ高度な技術を要する外部の修復業者等との契約が必要であるが，予算措置の状況や相手方とのスケジュールの都合上，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 〈想定される外部要因〉 ・有形文化財（美術工芸品）の修理等には，一定のまとまった予算措置が必要であり，その状況によって計画を変更せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。	た。また、特別展「運慶」では瀧山寺所蔵「聖観音立像」などの X 線撮影を行い調査、展示活動に寄与した。（東博）（28 年度） ・修理資料のデータベース化については、サーバーの新設で、過去分を含め電子情報の保全に一定の方向性が打ち出すことができた。（京博）（2 年度） 4） ・継続して、文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行った。文化財保存修理所等を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図った。（京博・奈良博・九博）（28～2 年度） ・収蔵施設の収容率（2 年度） 東博 133.8%、京博 100%、奈良博 99%、九博 90% ・収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数 2 年度 28,756 件 （東博 20,106 件、京博 5,633 件、奈良博 3,017 件） ・修理件数（本格修理） 2 年度 83 件 （東博 44 件、京博 12 件、奈良博 7 件、九博 20 件） ・修理のデータベース化件数 2 年度 220 件 （東博 13 件、京博 137 件、奈良博 70 件）			

	（2）展覧事業	**＜主要な業務実績＞** 各年度ともに年度計画に従い展覧事業を計画的に実施した。 （目的） 展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。	**＜自己評価＞** 東京、京都、奈良、九州国立博物館においては、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら展覧会事業を実施した。 平常展を展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、専門的かつ最新の研究成果を基にその成果を反映しながら、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を計画的に行った。 また、展示に関する説明の充実、多言語化に関する取り組み、夜間開館の実施など、来館者のニーズを踏まえた改善を常に図っている。 特別展においては、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うことができた。元年度は、京都国立博物館で 2019 年 ICOM 京都大会を記念した特別企画「京博寄託の名宝」を開催するなど、政府の文化政策と連動した活動の実施ができた。2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため多くの展覧会が中止または延期となったが、満足度の高い有意義な特別展を開催することができた。以上により、全体として中期目標を達成したと認められる。		
	①平常展 【指標】 ・平常展の来館者数（前中期目標の期間の実績以上） ・平常展の展示替件数（前中期目標の期間の実績以上） ・平常展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） （参考）前中期目標期間実績値 （見込評価時点） ・平常展の来館者数　4,095,851 人(平成 23～26 年度実績総数) ・平常展の展示替件数　29,846 件(平成 23～26 年度実績総数)	**＜主要な業務実績＞** ・平常展来館者数　320,004 人（2 年度） ・平常展の展示替件数　7,431 件(2 年度) ・平常展の来館者アンケート （東博 85.8%、京博 78.5%、奈良博 94.2%、九博 -%）（2 年度） ・平常展の展示総件数　11,969 件（2 年度）	**＜自己評価＞** 4 館ともに、各館の特色を活かした展示を実施した。定期的な展示替の実施や、テーマ性を持った特集展示等を随時開催し平常展の充実に努めている。 平常展来館者数については、元年度からの新型コロナウイルス感染拡大のため、臨時休館や国内外からの移動制限等により 2 年度は目標値に達することはできなかったが、今中期目標期間を通した全体としては、着実に達成したといえる。 平常展の展示替件数については、展示面積や平常展開催日数などの影響		

	【関連指標】 ・平常展の展示総件数 〈目標水準の考え方〉 ・平常展は，国立博物館が収蔵等する有形文化財（美術工芸品）の特徴に基づく展示を行うこととし，来館者数，展示替件数に関する目標は，前中期目標の期間の実績以上であることとする。 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間においても実施しているが，展示に関する満足度について５段階評価で上位２位以上を選択した割合は国立博物館の平均で73%となっている（見込評価時点）。 〈想定される外部要因〉 ・平常展については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。		により目標値を下回る館もあったが、全体としては定期的な取り組みのもと、順調に推移している。 平常展の来館者アンケートについては、2 年度は、一部の体験展示や館内サービス等の中止により、一部の館で目標値に達することができなかったが、今中期目標期間を通して、全体として目標は着実に達成したと認められる。今度もアンケートやウェブサイトを通じて寄せられる来館者の意見・要望を館内で共有し、展示内容や解説の改善をはじめとするフィードバックを行うことで、満足度の向上を目指していく。 **＜課題と対応＞** 2 年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため緊急事態宣言発出による臨時休館のため、入館者数、展示替え件数などが大幅に減少した。しかし、所蔵品とその研究成果を公開する意欲的な特集を計画的に実施するなど、着実に事業を実施した。各館とも多言語解説や映像などを用いたわかりやすい展示を推進している。「新たな生活様式」に対応した発信方法を模索するとともに、引き続き、感染拡大防止策を講じながら、魅力的な展示の公開の充実を図る。		
	②特別展等 【指標】 ・特別展に関する取組状況（特別展の開催回数，特別展の来館者数） （参考）前中期目標期間実績値 （見込評価時点） ・特別展の来館者数　8,824,511 人（平成 23～26 年度実績総数） ・特別展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） 〈目標水準の考え方〉 ・特別展の企画は，国立博物館が継続的に行っている調査研究の成果や，諸外国との国際文化交流の計画に関係して，通常２，３年程度の期間を要する。また，多くの特別展は新聞社，放送事業者等との共催であり，独自の計画のみで完結しない性質を持っている。し	**＜主要な業務実績＞** 以下のとおり、特別展等を実施した。 ・特別展の開催回数 2 年度 9 回 （東博 4 回、京博 2 回、奈良博 2 回、九博 1 回）（2 年度） ・特別展の来館者数 2 年度 480,179 人 （東博 208,936 人、京博 141,621 人、奈良博 79,190 人、九博 50,432 人） ・特別展の来館者アンケート満足度 2 年度 東博 85.5%、京博 73.9%、奈良博 91.1%、九博 89.2%	**＜自己評価＞** 特別展においては、４館ともに、基礎的な調査研究や、特別展に係る事前調査等の成果を踏まえて、展覧会を実施しており、我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行えている。 特別展開催回数は、2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部の館で達成できなかったが、今中期目標期間を通して、大きく目標値を上回る実績を残した。 特別展来館者数は、多くの展覧会において各年度計画で設定した数値目標を上回っており、全体として目標を達成した。 特別展の来館者アンケートについては、目標値を達成することができなかった展覧会もあったものの、今中期目標期間を通して、来館者の満足度の把握に努め、会期中の対応や次		

	たがって特別展は，中期目標又は中期計画において定性的又は定量的な指標を示すことが困難であり，文化財機構が年度計画において定める具体的な数値目標について評価することとする。 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間においても実施しているが，展示に関する満足度について５段階評価で上位２位以上を選択した割合は国立博物館の平均で82%となっている（見込評価時点）。 〈想定される外部要因〉 ・特別展については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況は，法令改正等にも注意しながら，基準を満たしているかモニタリングする。 ・多言語表記は，展示の解説パネル等のみならず，導線や各種施設，サービスの提供に関するものも含め，アンケートに基づく改善に努める。		の展覧会への改善に活かすことができ、全体として着実に達成したと認められる。 海外展においては、海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介した。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、臨時閉館となったことや、作品の調査や輸送に困難が生じたことなどにより、一部の特別展が中止や延期となった。今後も開催する展覧会については、来館者の安心・安全のため、事前予約制や館内消毒の徹底など感染拡大防止策を講じたうえで実施する。		
	③観覧環境の向上等 【指標】 ・観覧環境に関する来館者アンケート（上位評価が 80%を超えること） 【関連指標】 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況 ・多言語表記に関する外国人アンケート 〈目標水準の考え方〉 ・来館者アンケートは，展覧事業だけでなく，テナント事業者が運営するショップ，レストラン等も含め，幅広い観点で実施し，観覧環境の向上に資するものとする。	**＜主要な業務実績＞** 以下のとおり、観覧環境の向上等に関する取り組みを行った。 ・多言語（7 言語）による案内パンフレットの製作・配布を行った。（4 館） ・特別展音声ガイドの貸出を行った。（4 館） ・平常展音声ガイドは 4 言語での提供を行った。（4 館） ・平常展及び各特別展時において外国人を含む来館者アンケートを実施し、その結果を観覧環境改善に活かした。（4 館） ・平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4 言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、外国人来館者にも理解しやすいよう翻訳のリライトを行った。（東博）（元年度） ・御即位記念特別展「正倉院の世界」で	**＜自己評価＞** ４館ともに、外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう、来館者の満足度を満たす多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等を推進した。平常展及び特別展における題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4 言語にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図り、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行った。 また、来館者アンケートを実施し、館の運営やサービスに随時反映させている。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズを踏まえた開館時間延長も行っている。 2 年度は、「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って館内の消毒や換気など、安全な観覧環境の整備に努めた。		

	は、開館時間を 30 分早めるなど、来館者の安全を重視した柔軟なサービスの提供を心掛けた。さらに、待ち時間対策のため、整理券を導入した。（東博）（元年度） ・収蔵品等をモチーフに、新たに絵葉書、鉛筆、ノートのオリジナルグッズを開発、販売した。（京博）（元年度） ・正倉院展会期中に無料の託児室を開設し、保育士 2 人が常駐して満 1 歳児から未就学児まで、2 時間以内の預かりを実施した。（奈良博）（元年度） ・エントランスホールから展示室への誘導をより分かりやすくするため、ホール正面の壁に案内バナーを設置した。その他のホール内の案内サインについても整理・見直しを進め、ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた案内看板を作成、設置した。（九博）（元年度） ・リニューアルしたアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase との連携を図り、最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みを整えた（東博）（2 年度）。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、ウェブによる事前予約制を導入した（4 館）（2 年度）。	**＜課題と対応＞** 満足度の向上を図り、引き続き検討を重ね、観覧環境の向上に努めていく。多言語対応の充実などの取り組みは引き続き実施する。		
（3）教育・普及活動	**＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。 （目的） 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。	**＜自己評価＞** 東京、京都、奈良、九州国立博物館においては、講演会、ギャラリートーク等を開催し、来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に取り組んだ。講演会等のほか、体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により、幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供することができている。その他教育普及活動として、ボランティアの受入れや博物館支援者増加にも継続して取り組んだ。 有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信においては、展覧事業のみならず各種事業に関しても、積極的な広報に努めている。ウェブサイトにおいて、収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関するデータベースを構築・情報を公開し、また、その質的向上と量的拡充に努め，アクセスの増加を図る取り組みを継続した。以上より、中期目標を順調に達成したと認められる。		

①教育活動の充実等 【指標】 ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の参加者数 ・児童生徒，大学生，大学院生を対象とした教育普及活動の実施実績 ・ボランティアの受入人数 ・賛助会等支援組織の会員数 〈目標水準の考え方〉 ・講演会等は，平常展及び特別展の内容に応じて企画するが，開催の回数は概ね毎年一定の規模を保つことが重要であることから，前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。	**＜主要な業務実績＞** （主な事業テーマ） ・学習機会の提供（4 館）（28～元年度）（文化財活用センター）（2 年度） ・ボランティア活動の支援（4 館）（28～2 年度） ・大学との連携事業等の実施（4 館）（28～2 年度） ・国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与（4 館）（28～2 年度） ・博物館支援者増加への取組（4 館）（28～2 年度） ・講演会等の開催回数 67 回（2 年度）	**＜自己評価＞** 4 館ともに、「学習機会の提供」では、特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなどの多様なプログラムを各館で提供し、幅広い層に楽しむ機会を提供した。また、文化財活用センターが中心となり、企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカや映像コンテンツを使用目的に応じて開発、学習機会の拡大や体験型展示の巡回を通して、国内の博物館、社会教育施設、学校などとの連携協力を推進した。 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面によるイベント等への制約が課せられたが、動画配信やオンラインによるワークショップなど新たな企画による提供に取り組んだ。 4 館ともに「ボランティア活動の支援」では、各館でボランティアの対象の研修を実施するなどボランティアによる解説の質的向上に努めた。2 年度は、対面形式での活動が困難となる中で、オンラインでの研修や活動を検討・構築し取り組んだ。 九州国立博物館においては、来館者サービスの充実を図るとともに、「地域・市民とともに歩む博物館」の象徴的な存在である“九博ボランティア”の活動を、より多くの施設や団体に認知いただけるよう今後も広報していく予定である。 4 館ともに「大学との連携事業等の実施」では、キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施し、概ね順調にキャンパスメンバーズ加入大学数を増やしている。また、インターンシップ事業を継続することを通じて、人材育成に寄与することができている。		

			４館ともに「国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与」では、保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催し、文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与した。 ４館ともに「博物館支援者増加への取組」では、企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図るべく、会員制度によるリピーターの拡大に努めた。また、会員制度利用者を対象とした事業を実施や、企業等と連携した広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 **＜課題と対応＞** 学習機会の提供においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ハンズオン型の体験プログラムの実施が困難となっており、各館では、VR 等を用いたコンテンツやオンラインワークショップの導入などにより対応をしている。今後「新しい生活様式」に対応した教育プログラムや体験型プログラムの在り方について、さらに検討を進める。国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与においては、インターンの受け入れ等を継続して実施しているが、日常業務や現場作業との日程調整が難しく、受け入れ日数、人数の上限を想定しつつ、質と量を充実していくことが課題である。		
	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 【指標】 ・ウェブサイトのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館では，展覧事業及び各種事業に関する広報を目的としてウェブサイトの充実を図っている。また，収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報（文字情報，画像情報）を整理し，データベース等を構築し，ウェブサイトにおいて公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，近隣施設との連携等を含めた効率的かつ効果的な広報戦略の実施などに戦略的に取り組み，ウェブサイトのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。 【指標】 ・調査研究の成果に基づき，定期刊行物等を前中期目標期間の実績以上刊行する。（参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・定期刊行物等の刊行数 144 件（平成 23～26 年度実績総数） 【関連指標】 ・調査研究活動の成果の多様な方法による公開等の取組状況 （特別展の開催回数，テーマ別展示の開催件数，講演会等の開催回数） （参考）前中期目標期間実績値（見込評価時点） ・特別展の開催回数 69 回（平成 23～26 年度実績総数） ・テーマ別展示の開催件数　225 件（平成 23～26 年度実績総数） ・講演会等の開催回数　1,060 件（平成 23～26 年度実績総数）	**＜主要な業務実績＞** （主な事業テーマ） ・有形文化財に関する情報の発信（４館）（28～2 年度）（文化財活用センター）（2 年度） ・資料の収集と公開（４館）（28～2 年度） ・広報活動の策定と情報提供（４館）（28～2 年度） ・マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動（４館）（28～2 年度） ・広報印刷物、ウェブサイト等の充実（４館）（28～2 年度） ・ウェブサイトのアクセス件数（2 年度） 東博：7,021,923 件 京博：3,480,100 件 奈良博：1,082,864 件 九博：824,819 件	**＜自己評価＞** 文化財活用センターを中心に、４館共通所蔵品データベース「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」について、掲載画像を増やし、その充実を図るべく、元年度は ColBase の改修を実施し、対象に奈良文化財研究所を加えたほか、各館の公開データベースのデータを ColBase に定期的に自動で取り込む機能を追加して、作業の効率化を図り、最新のデータを迅速に反映させるようにした。2 年度も引き続き所蔵データの修正や内容の追加、画像の追加を継続し、その充実を図った。また、4 館収蔵品の国宝・重要文化財のデジタル高精細画像（e 国宝）を 2 年度にリニューアルし、新規国指定文化財の追加、解説文、多言語データの見直しを行うとともに、対象に奈良文化財研究所を加えた。 ４館ともに「資料の収集と公開」では、国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努めた。 奈良国立博物館においては、図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図るため、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行い、仏教美術資料研究センターでの資料公開を継続した。 ４館ともに広報については、多様なメディアを通して積極的に行っている。「広報印刷物、ウェブサイト等の充実」では、ウェブサイトへのアクセス件数は総じて順調に増加しており、目標値以上の成果を達成した。東京国立博物館においては、メールマガジンに画像を取り入れるなど読みやすい構成とした。インスタグラムに動画を増やすなど着実に利用者を増やし、ウェブサイトのアクセス数は、今中期目標値を大きく上回った。４館ともに YouTube チャンネルの開設やウェブサイト上に新たなコンテンツを設けるなど、新型コロナウイルス感染症拡大に対応した情報発信を実施した。 **＜課題と対応＞** 「新しい生活様式」に対応するためウェブサイト上のコンテンツをさらに充実させる。また、ColBase 及び e 国宝については、引き続きシステムを維持するとともに、所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続する。		
	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関す	**＜主要な業務実績＞** 〈主要な業務実績〉	**＜自己評価＞** 東京、京都、奈良、九州国立博物館		

	る調査研究 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館における有形文化財（美術工芸品）に関する調査研究は，収蔵品の収集活動，保存修理，展覧事業の企画等に資することを第一義的な目的としており，研究成果が具体的な事業等にどのように反映できたかを評価指標とする。また展覧事業に関連し，論文等として学術的な成果物を公表することにより，広範囲の学術研究の進展にも資することができることから，関連指標として特別展，テーマ別展示，講演会等の開催回数若しくは件数を設定する。	毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度 152 件 29 年度 134 件 30 年度 90 件 元年度 81 件 2 年度 70 件 （※28、29 年度は科学研究費にかかる調査研究を含む。） （目的） 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 （主な研究テーマ） 1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ・特集展示等の調査研究（４館）（28～2 年度） ・特別調査「法隆寺献納宝物」、「書跡」、「工芸」、「彫刻」、「絵画」（東博）（28～2 年度） ・近畿地区社寺文化財の調査研究（京博）（28～2 年度） ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（奈良博）（28～2 年度） ・Ｘ線ＣＴスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究（九博）（28～2 年度）　ほか	において、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に必要な調査研究を計画的に実施し、その成果は、展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信することに結び付けた。 その結果、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与しており中期計画を遂行していると評価した。 **＜自己評価＞** 京都国立博物館における「特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究」(28 年度）では、生誕 300 年という節目の年に、京都を代表する画家である伊藤若冲の作品を特集展示し、図録等を通してその魅力をわかりやすく紹介した。 その準備段階における調査研究では、山水図及び歌仙絵という若冲研究上注目される領域において新知見を得た。 奈良国立博物館における「南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究」では、継続して、南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、Ｘ線ＣＴ等の光学的手法による調査を行っており、中期目標期間を通してデータの収集・蓄積に十二分の成果をあげている点を評価した。 特に元年度は、特別展、特別陳列で奈良に関係のある彫刻を数多く展示することができ、その調査過程で判明した新事実を図録や講座等で積極的に公表することができた。館蔵の二十八部衆像、東壽院阿弥陀如来立像、出光美術館木造地蔵菩薩立像等についてはＣＴスキャン調査を行い、目視では確認不可能な構造の把握や、像内納入品の存在など多くの新知見を得ることができた。2 年度は、大智寺文殊菩薩像について名品		

			展で公開し、リーフレットで調査研究の成果を公開することができた。		
		2)特別展等の開催に伴う調査研究 ・特別展、共催展等の事前調査（４館）（28～2 年度）	京都国立博物館における「開館１２０周年記念特別展覧会「国宝」に関する調査研究」(29 年度）では、京都や関西圏を中心に、日本全国の国宝の文化財を調査し、その成果をもとに、近年では例のない 210 件もの国宝を一堂に展示し、かつ、それぞれの分野で蓄積されてきた研究成果だけでなく、ＣＴ等の最新機器を用いた調査や文化財修復の過程での新発見なども積極的に公開できたことは、京都国立博物館が 120 年にわたって文化財に寄り添ってきた過程や成果を公表する絶好の機会となった。		
		3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ・博物館環境デザインに関する調査研究（東博）（28～2 年度） ・博物館教育及びボランティアに関する調査研究　（東博・京博）（28～2 年度） ・凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究（東博）(28～2 年度） ・ICT を利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究（東博）（28～2 年度）　ほか	京都国立博物館における「博物館教育及びボランティアに関する調査研究」では、第一に、来館者サービスボランティア「京博ナビゲーター」の活動を実例に、対話とハンズオン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究を行った。来館者アンケートなどから、その活動が来館者の主体的な興味・関心を引き出し、博物館における効果的な教育普及活動として機能していることが確認できた。また、アンケートの分析調査を行い、論文を執筆した。2 年度は、個人で楽しむことのできる教育コンテンツ（ぬりえ・特別展関連鑑賞ガイド・ジュニア版音声ガイド）や、オンラインでの情報発信（動画）を新規に実践した。		
		②その他 有形文化財に関連する調査研究 1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ・収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究（奈良博）（28～2 年度） ・文化財の材質・構造等に関する共同研究（九博）（28～2 年度）　ほか ・修復文化財に関する資料収集及び調査研究（京博）（28～2 年度）	九州国立博物館における「石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費助成事業）」では、弥生時代～古墳時代の墳墓の埋葬施設（室、槨、棺）への赤色顔料の塗布について、その種類や塗布範囲の調査を行い、時期差や地域差、階層差等の有無を検討することを目的とした。科学研究費助成事業４年計画の最終年度である 28 年度の成果としては、石棺では棺内面全体ではなく部分的にしか赤色顔料を塗布しないものが一定量認められることが明らかになった。この違いについては、		

			石棺の時期差、地域差、石材の産地の差、石棺形態の差などとの相関関係が認められた。赤色顔料の種類や塗布範囲に時期差や地域差が認められることが判明した点で大きな成果を得た。		
		2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 ・博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究（東博）（28～2 年度） ・創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究（東博）（28～2 年度） ・文化財情報に関する調査研究（京博）（28～2 年度） ・文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究（奈良博）（28～2 年度）	東京国立博物館における「博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究」(28 年度）では、幕末期における西欧の博物館との接触から、維新後における博物館の創設を経て、帝室博物館の成立に至る明治期を中心とした博物館史を、世界史的な視野で再構成するための基礎的な資料調査と研究を、特に所蔵品の流通に着目して行った。美術・工芸の分野からその意義を語られることが多かったシカゴ・コロンブス博覧会に関して、考古資料に関して新知見が得られたことで、当時の国際舞台における博物館の役割について新たな視点をひらくとともに、明治時代の日本における考古資料に対する認識に関する研究に道を開いた。また、本研究は、東京国立博物館百五十年史編纂に向けて「創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究」につなげることができた。		
		③国内外の博物館等との学術交流等 ・国内外の博物館等との学術交流等（４館）（28～2 年度）	４館においては、海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし海外の研究者との交流を促進するとともに、海外の博物館・美術館等に研究者を派遣した。 特に、京都国立博物館においては、元年度は ICOM 京都大会をきっかけとして、国際博物館の日・ICOM 京都大会 2019 開催記念シンポジウム「ICOM 京都大会 2019 の開催に向けて」の開催及び運営への協力や、ICOM 京都大会開催記念　日米文化教育交流会議(CULCON)美術対話委員会シンポジウム「日本美術における国際交流―課題と可能性」の実行委員会への参画などを通じ、多くの海外の博物館関係者と交流を行うことができた。（京博）（28～2 年度） 2 年度は、例年のような多くの研		

			究者招へいと派遣は新型コロナウイルスの影響により実施できなかったが、オンライン形式で海外博物館関係者との交流や対話などを積極的に行った。第 7 回となった北米・欧州ミュージアム日本美術専門家会議では、「日本美術がつなぐ博物館コミュニティー　ウィズ/ポスト・コロナ時代の挑戦」というテーマのもと、欧米ミュージアムの現状と取り組みについて活発な議論が交わされ、交流を通じて相互理解を一層深めた。(東博）（28～2 年度）		
		④調査研究成果の公表 ・調査研究成果の公表（４館）（28～2 年度） ・定期刊行物等の刊行数 37 件（2 年度）	調査研究成果を継続的に広く公開するため、研究紀要、展覧会図録、文化財修理報告書やその他のリーフレット等を多数刊行しており順調である。今後も引き続き刊行を行っていく予定である。 奈良国立博物館においては、元年度は、文化財研究の成果を研究紀要『鹿園雑集』として刊行、報告するとともに、ウェブサイト及びリポジトリでの公開を実施した。また、これまで『鹿園雑集』の一部として報告していた文化財修理事業について、『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』として単独で刊行するようになり、より充実した内容を報告できるようになった。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響により、館外の現地調査などに影響が出たが、着実に実施した。また、オンラインシステムなど新しい取り組みに関する研究なども実施している。引き続き調査研究活動を博物館活動の根幹をなす事業として維持・推進する。		
	（５）国内外の博物館活動への寄与	**＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。	**＜自己評価＞** 中期目標の達成に向け順調に進展している。 東京、京都、奈良、九州国立博物館においては、国内外の博物館等への有形文化財（美術工芸品）の貸与及び国内外の博物館等への援助・助言等を通じ、国内外の博物館活動への寄与を果たした。		

	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の貸与に関する取組状況（有形文化財（美術工芸品）の貸与件数） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財（美術工芸品）の貸与については，適切な保管・展示環境が維持されることを必要条件とし，更に国宝・重要文化財については，法令等にのっとり文化庁の許可等が必要であるため，依頼内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ貸与に関する目標値を設定することになじまないため，貸与件数をモニタリングし評価する。	**＜主要な業務実績＞** 有形文化財（美術工芸品）の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 なお、展示期間や会場の温湿度の設定、警備体制など貸与先の環境と作品の状態を確認した上で貸出を行っている。 ・文化財の貸与件数　1,235 件（2 年度）	**＜自己評価＞** ４館では、国内外の博物館等における展覧事業への出品要請等に対応し積極的に対応した結果、文化財の貸与件数、貸与先件数ともに、高い水準の件数を保っている。 また、考古資料相互貸借事業を実施し、各地域で出土した作品を各地域にある博物館で「里帰り」の展示を実施させることができた。 文化財活用センターは東京国立博物館とともに共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生・観光振興に寄与することを目指し、開催館までの往復輸送費・保険料・出張旅費・広報費を支出する東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。これらの貸与の際は、保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、貸与を実施している。この貸与促進事業は、令和３年度事業から、京都・奈良・九州国立博物館も加わり、貸与品は４つの国立博物館の収蔵品に広げる。2 年度は、新型コロナウイルスの影響により、展覧会の開催を中止する機関もあったが、展覧会の会期の変更等の要請に応じながら、展覧会の開催に貢献した。 今後も継続して内外の有意義な展覧会に貸与を実施し、国内外の博物館活動に対して重要な寄与を果たしていく予定である。 **＜課題と対応＞** 引き続き、貸与促進事業の拡充等により、多様な人々が日本の文化財に親しむ新たな機会を創出することで文化財の活用を通じて、文化財の継承につながる取組を推進する。		
	②国内外の博物館等への援助・助言等 【指標】 ・国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉	**＜主要な業務実績＞** 国内外からの博物館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数　422 件（2 年度）	**＜自己評価＞** ４館及び文化財活用センターでは、国内外の博物館等からの要請に応じて、例年多数の専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、継続して、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努めている。 元年 9 月に開催された ICOM 京都大会においては、準備段階から様々な		

	・国内外の博物館等における展覧会の企画，運営を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし評価する。		援助を行うとともに、大会期間中も多くの職員を派遣し、世界中の博物館関係者との広域なネットワーク形成に導いた。 博物館・美術館及び社寺等における展示･収蔵の安全対策に関する調査･研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財防災に貢献するべく、継続して国内外の博物館・美術館へ調査実施と意見交換を行っており、順調に調査研究の基盤を構築している。 2 年度は、新型コロナウイルス感染症対策について、全国の博物館等からの問い合わせに対しても助言を行った。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の影響により、2 年度は、国内外の博物館等における展覧会が中止となり、助言の件数は減少したが、感染対策に対する相談にも対応し協力した。研修などもオンライン会議システムなどを積極的に活用し成果をあげた。引き続き国内外の博物館等への援助・助言等の協力を実施する。		

４．その他参考情報
予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ―2	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
関連する政策・施策	政策目標１２　文化芸術の振興 施策目標１２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法　第１２条　第２号
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

①　主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（九博）	実績値	―	1	2	5	0	0	0
	（東文研）	実績値	―	17	13	12	14	16	11
	（奈文研）	実績値	―	102	37	61	56	81	54
	（合計）	実績値	―	120	52	73	70	97	65
報告書等の刊行数（件）	（九博）	実績値	―	―	2	1	0	0	0
	（東文研）	実績値	―	―	3	3	9	3	16
	（奈文研）	実績値	―	―	16	17	13	11	13
	（合計）	実績値	―	―	21	21	22	14	29
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究①文化財の調査手法に関する研究開発の推進									
①文化財の調査手法に関する研究開発									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	0	0	0	4	5	5
	（奈文研）	実績値	―	11	30	36	22	19	21
	（合計）	実績値	―	11	30	36	26	24	26
報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	―	―	1	1	1	1	1
	（奈文研）	実績値	―	―	0	1	0	0	0
	（合計）	実績値	―	―	1	2	1	1	1
②　文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究									
学術雑	（東文研）	実績値	―	15	18	17	12	12	14

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
予算額（千円）	3,199,097	4,529,562	3,425,332	3,114,345	3,160,407
決算額（千円）	4,743,377	6,029,565	3,513,645	3,323,743	3,558,373
経常費用（千円）	3,403,730	3,184,946	3,523,444	3,400,624	3,273,764
経常利益（千円）	13,681	101	−3,149	−32,465	17,451
行政サービス実施コスト（千円）	3,118,227	3,137,159	3,526,065	－	－
行政コスト（千円）	－	－	－	4,777,928	3,763,829
従事人員数	88	90	87	92	88

※予算額は、２研究所・センターの年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、２研究所・センターの決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所・センターの全常勤研究職員の人数を計上している。

誌等への論文掲載数（件）	（奈文研）	実績値	―	2	4	15	16	19	20
	（合計）	実績値	―	17	22	32	28	31	34
報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	―	―	4	4	4	5	10
	（奈文研）	実績値	―	―	1	2	1	0	0
	（合計）	実績値	―	―	5	6	5	5	10
（３）文化遺産保護に関する国際協働①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進									
国際情報の収集等事業の実施件数（件）	（東文研）	実績値	―	―	3	2	3	3	3
	（奈文研）	実績値	―	―	3	3	3	3	3
	（合計）	実績値	―	―	6	5	6	6	6
研修・ワークショップ等の参加者の満足度（%）	（東文研）	実績値	―	―	100	100	100	100	90
	（奈文研）	実績値	―	―	―	―	―	―	-
共同研究等の実施件数（件）	（東文研）	実績値	―	―	1	1	0	0	0
	（奈文研）	実績値	―	―	2	3	2	3	1
	（合計）	実績値	―	―	3	4	2	3	1
国際協力事業の実施件数（件）	（ＩＲＣＩ）	実績値	―	―	5	6	5	5	2
閲覧開室日数（日）	（東文研）	実績値	―	―	137	137	137	125	67
	（奈文研）	実績値	―	―	243	183	219	198	147
閲覧利用人数（人）	（東文研）	実績値	―	―	923	931	1,070	988	660
	（奈文研）	実績値	―	―	475	380	295	278	161
文献資料受入総数（冊）（東文研）	図書	実績値	―	104,577	114,509	117,696	121,599	124,229	125,316
	雑誌	実績値	―	128,778	158,763	162,609	164,256	166,976	168,062
	その他	実績値	―	35,046	36,348	37,722	44,814	46,169	47,695
	計	実績値	―	268,401	309,620	318,027	330,669	337,374	341,073
文献資料受入総数（冊）（奈文研）	図書	実績値	―	351,586	361,275	359,584	368,440	377,407	383,539
	雑誌	実績値	―	89,734	93,623	96,691	99,644	102,616	104,875
	その他	実績値	―	―	―	(9,978)	(17,016)	(20,229)	(20,229)
	計	実績値	―	441,320	454,898	456,275	468,084	480,023	488,414
文化財データベース公開件数（件）	（東文研）	実績値	18	―	22	26	28	30	33
	（奈文研）	実績値	22	―	25	31	24	17	30

	データベース件数(件)	（東文研）	実績値	—	—	1,164,416	1,233,111	1,271,388	1,288,551	1,715,186
		（奈文研）	実績値	—	—	1,341,997	1,417,962	1,316,283	1,348,102	1,385,920
	ウェブサイトアクセス件数(件)	（東文研）	実績値	—	1,941,504	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314	5,094,252
		（奈文研）	実績値	—	605,211	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865	15,138,198
	定期刊行物刊行件数（件）	（東文研）	実績値	—	—	12	12	12	12	11
		（奈文研）	実績値	—	—	10	10	10	10	10
		（合計）	実績値	—	—	22	22	22	22	21
	学術リポジトリ公開件数(件)	（東文研）	実績値	—	—	1,510	3,454	3,560	3,634	3,726
		（奈文研）	実績値	—	—	4,389	61,861	4,992	5,572	6,962
	講演会等開催数（件）	（東文研）	実績値	—	—	5	2	2	2	2
		（奈文研）	実績値	—	—	12	19	17	13	2
		（合計）	実績値	—	—	17	21	19	15	4
	講演会等の来場者数（人）	（東文研）	実績値	—	—	798	357	317	323	34
		（奈文研）	実績値	—	—	6,400	4,440	3,986	3,315	1,086
		（合計）	実績値	—	—	7,198	4,797	4,303	3,638	1,120
	文化財研修（東文研）	件数	実績値	1	—	1	1	1	1	1
		受講者数	実績値	30	—	27	31	30	31	17
		研修成果活用実績	実績値	80	—	100	100	100	100	94
	文化財研修（奈文研）	件数	実績値	13	—	15	14	15	14	4
		受講者数	実績値	156	—	167	178	211	199	32
		研修成果活用実績	達成度	80	—	100	100	100	100	100
	専門的・技術的な援助・助言（件）	（東文研）	実績値	—	—	793	678	596	184	180
		（奈文研）	実績値	—	—	405	353	301	291	230
		(活用センター)	実績値	—	—	—	—	53	134	119
		（合計）	実績値	—	—	1,198	1,031	950	609	529

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画

主な評価軸等	法人の業務実績・自己評価 業務実績	自己評価	主務大臣による評価 （見込評価）	（期間実績評価）
２． 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施	**＜実績報告書等参照箇所＞** 第４期中期目標期間実績補足資料 P 33～ 49	**＜自己評価＞** 国立文化財機構が設置する東京文化財研究所、奈良文化財研究所及び文化財防災ネットワーク推進室を中心として、文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等を着実に実施し、研究成果の公開・発信を進展させた。また、30年７月に設置した文化財活用センターでは、文化財の保存環境に関する相談窓口を設け、自治体等に対し継続的な支援体制の構築に努めていることなど、ナショナルセンターとしての役割を十分に果たしていると評価し、以下の詳細からＢ評価とした。	評定　Ａ ＜評定に至った理由＞ 以下に示す とおり，中期目標に定められた以上の業務の達成が認められるため。 東京文化財研究所，奈良文化財研究所，アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは，それぞれの実績を基に基礎的・探究的な調査研究を進め，文化財の保存修復・保存技術をはじめ，文化財の調査手法に関する研究開発への貢献や無形文化財・無形民俗文化財等の継承，文化遺産保護に関する国際協力など，その活動は多岐にわたり，目標とする以上の成果を挙げていることが認められる。 東京文化財研究所では，ゲッティ・リサーチ・ポータルに過去 83 年にわたる刊行物全文データを公開し，アジア諸国で初めて研究成果を世界に発信したことは評価できる 。また，少子高齢化が進んでいる現状を踏まえ，高齢化や過疎化によって継承が困難となっている無形文化財や無形民俗文化財に関する調査研究において，技術保持者等への聞き取り調査や所在調査等を実施し，その成果を公表するなど，文化財の今後の継承に寄与したことは評価できる。 奈良文化財研究所では，日本全国の発掘調査報告書等のデジタル化・データベース化を進め，着実にデータの充実を図ることで，世界屈指の考古学情報の国内外の活用に寄与していることは評価できる。このほか，歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的 研究をはじめ，東大寺東塔院や飛鳥地域の発掘調査，埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発，文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究など，多岐にわたる調査研究を進め，水中文化遺産に関する調査研究では，発展性の高い新しい埋め戻し法を開発するなど，それぞれにおいて成果を挙げたことは評価できる。	評定　Ｂ ＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 見込評価ではＡ評定であるが，令和２年度においては新型コロナウイルス感染拡大を受けて，国際協力事業の実施件数，講演会等の参加者数等，多く指標で中期目標期間中最低となっている。オンラインの活用により，国際会議や研修等を実施したことで事業を継続したことは評価できるものの，見込評価時点で想定されたほどの業務が達成されたとまでは認められず，自己評価とおりＢ評価とする。 東京文化財研究所では，ゲッティ・リサーチ・ポータルに過去 83 年にわたる刊行物全文データを公開し，令和２年度も 2,563 件を追加公開する等，アジア諸国で初めて研究成果を世界に発信したことは評価できる。また，従来の過疎化や少子高齢化に加えて，新型コロナウイルスの流行下における影響についても情報収集を行い，その成果を公表するなど，文化財の今後の継承に寄与したことは評価できる。 奈良文化財研究所では，見込評価時点の実績に加えて，水中文化遺産に関する調査研究では，廉価で簡易な海底遺跡の探査法及び水中文化遺産の現地保存法の手法を提示するなど，それぞれにおいて成果を挙げたことは評価できる。 文化財防災ネットワーク推進室においては，見込評価時点の実績に加え，令和２年 10 月には文化財防災センターとなり，文化財等の防災・救済等の体制を強化したことは評価できる。

				アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは，アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のほか，災害リスクマネジメントに関する調査，緊急保護支援が必要な国の実態等の研究を行うなど，無形文化遺産保護の国際的充実に資する事業を推進したことは評価できる。 いずれも調査研究報告書や論文等により，その成果を広く公表・発信し，社会に還元している。 特に，東京文化財研究所及び奈良文化財研究所では，平成31年3月に修理が完了した国宝高松塚古墳壁画保存修理事業に長期間にわたり協力し，修理の完了に貢献したことは高く評価できる。また，奈良文化財研究所は，平成28年9月に開館したキトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営及び壁画公開事業にも協力しており，国等の関係機関との連携協力の成果は評価できる。このほか，両研究所では，文化財に関する研修や専門的・技術的な 援助・助言等を通じ，我が国の文化財行政等を支える人材育成にも尽力しており，社会への貢献度は高い。 文化財防災ネットワーク推進室においては，法人内の各施設が地区分担を担い，地域文化財防災ネットワーク構築を促進し，各地での研修会等において，文化財防災対策や被災文化財の保全方法等についての情報発信に取り組むとともに，災害発生時の迅速な救援活動を実現するため，地域間連携・組織間連携のガイドラインを策定したことは評価できる。また，平成28年4月に発生した熊本地震の際には，熊本に重点化した情報収集やレスキュー活動の指導助言を実施することで，被災地での文化財救出体制の構築に尽力した。さらに，令和元年台風１９号による川崎市市民ミュージアム地下収蔵庫水没事故に対して， 10 団体が結集した救援活動の主導的な役割を果たし，実践的な成果を挙げたことは評価できる。 ＜今後の課題＞ 文化財防災，被災文化財の救援活動に対する社会的な要請・ニーズを踏まえ，今後は，文化財防災ネットワーク推進室の機能を充実させ，各研究所等	＜今後の課題＞ ・文化財防災，被災文化財の救援活動に対する社会的な要請・ニーズを踏まえ，新たに立ち上げた文化財防災センターの機能充実を図り，各研究所等の研究成果の活用と人材育成を進めるとともに，各博物館と連携した防災ネットワークの推進により，ナショナルセンターとしての使命・役割を積極的に果たしていくことが期待される。 ＜その他事項＞ 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・無形文化財・無形民俗文化財の保存活用，記念物の保存活用，日本古代国家中枢の発掘調査，新しい文化財分野の文化的景観，水中文化遺産の調査研究など，いずれも各分野における重要な成果を着実にあげている。 ・特別史跡・国宝の高松塚古墳・キトラ古墳の保存修理はきわめて困難なものであったが，適切に行われたことはおおいに評価される。 ・文化財防災ネットワーク推進室ならびに文化財防災センターにおいて地域文化財防災ネットワーク構築を促進するなど，文化財の防災・救援等へ寄与した。

				の研究成果の活用と人材育成を進めるとともに，各博物館と連携した防災ネットワークの推進により，ナショナルセンターとしての使命・役割を積極的に果たしていくことが期待される。 ＜その他事項＞ 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・文化財に関するアーカイブの拡充に努めた。データベース等へのアクセス件数は両所あわせて 2000 万件を超すなど，順調に展開した。 ・文化財防災ネットワー ク推進室を軸に，全国的な連携・協力体制を整備した。発生した災害による被災事故の救援活動に貢献した。	
（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ＜主な定量的指標＞特になし ＜その他の指標＞特になし	**＜主要な業務実績＞** 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28年度　計26件 29年度　計25件 30年度　計26件 元年度　計27件 2年度　 計29件 ・学術雑誌等への論文掲載数65件（2年度） ・報告書等の刊行数29件（2年度） 内訳はアウトプット情報を参照 （目的） 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための後述の調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。	**＜自己評価＞** 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組み、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与することができており、中期計画を達成したと評価した。		
①　有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 〈評価軸〉 ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。 ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし	**＜主要な業務実績＞** 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28年度　6件 29年度　6件 30年度　6件 元年度　6件 2年度　6件 （主な研究テーマ） ・文化財に関する調査研究成果および研究情報	**＜自己評価＞** 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所では、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与することができた。また、有形文化財の保存修復等に寄与することができた。 ○下記を例とする研究成果の公開等により、美術工芸品の価値形成の多様性及び歴史・文化の源		

（関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	の共有に関する総合的研究（東文研）（28～2 年度） ・日本東洋美術史の資料学的研究（東文研）（28～2 年度） ・近・現代美術に関する調査研究と資料集成（東文研）（28～2 年度） ・美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開（東文研）（28～2 年度） ・歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究（奈文研）（28～2 年度） ・近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究（奈文研）（28～2 年度） 調査研究の一例を挙げると、「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」（東文研）では、28 年度には、黒田清輝と親交が深く、制作と並行して美術雑誌等で西洋美術の紹介に努めた画家、久米桂一郎の関連資料について共同研究を実施すべく久米美術館と覚書を交わし、資料のデジタル化に着手した。29 年度には、久米美術館との共同研究により、同館が所蔵する久米桂一郎宛黒田清輝書簡の翻刻作業を行った。30 年度及び元年度には、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進め、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡を翻刻、その成果を研究所内研究会で口頭発表した。元年度は、黒田清輝と久米桂一郎の間で交わされた未公刊の書簡を読み解き、二人の交流の跡は勿論、資料中に登場するヨーロッパの美術家に関する情報から、中期計画に掲げた西欧の美術動向との関係をうかがうことができ、久米美術館との共同研究に大きな進展がみられた。 2 年度には、研究成果をまとめ、ウェブや研究誌で公開・発表した点が高く評価される。	流の究明等に寄与したと評価した。 ・「文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究」（東文研）においては、アメリカのゲッティ研究所が運営するゲッティ・リサーチ・ポータルに 29 年度よりアジア諸国から初めて情報を提供し、2 年目となる 30 年度は『日本美術年鑑』、『美術研究』、『保存科学』など東京文化財研究所刊行物の過去 83 年にわたる刊行物の全文データ 546 件を公開し、これまでほぼ日本国内のみに限られていた研究成果の公開発信を世界的に増強した。2 年度には 2,563 件を公開し、オープンアクセス資料の増大により国内外の研究支援に貢献した。 ・「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」（東文研）においては、佐竹永海・永湖・永陵の作品及び黒田清輝宛書簡の翻刻・考察を行い、作品の背景となる時代等について新たな知見を得た（28 年度）。東京文化財研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、養母貞子及び洋画家山本芳翠からの書簡の翻刻を『美術研究』（東京文化財研究所刊行）に掲載することができた（29 年度）。女性画家や美人画家への関心の高まりに合わせ、栗原玉葉、武村耕靄といった、これまで殆ど等閑視されてきた女性画家について、新出の作品や未公刊の日記等の資料を調査し、研究所内研究会や研究誌『美術研究』をはじめ、所外の展覧会やシンポジウムでも研究成果を発表、その画業を丹念に追いながら明治から大正にかけての女性画家の経済的基盤を明らかにするなど、大きな進展を得ることができた（30 年度）。 ・「日本東洋美術史の資料学的研究」（東文研）においては、京都府個人蔵の「四条河原遊楽図」の本格的調査を行い 新たな知見を得た。（29 年度）。呉春筆「白梅図屏風」研究において基底材に絵絹ではなく「葛」が用いられていた可能性がはじめて指摘された。（29 年度） ・「美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開」（東文研）においては、これまで注目されることのなかった甲賀市水口所在の十字型洋剣の調査成果について、ICOM 国際会議をはじめ所内外で報告・講演を行い、その公表に努めた。（元年度） ○下記を例とする研究成果の公開等により、建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与したと評価した。 ・「歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究」（奈文研）においては、法隆寺古材調査によって、古代建造物の技法に		

		関して 成果をまとめるとともに、出雲市内の神社本殿の悉皆調査、岡山県矢掛町や同県津山市の伝統的建造物群の調査も行い、文化財建造物や伝統的建造物群の保存に資することができた。（28～29 年度） 法隆寺古材調査のとりまとめにより古代建築の技法を明らかにするとともに、岡山県津山市の伝統的建造物群調査によりその価値を明らかにして保存方策を含む報告書を作成した（30 年度）。 ・「近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究」（奈文研）においては、奈良県が行っている県内社寺の悉皆調査について、調査協力をおこない、13 市町村全社寺の台帳を作成した（元年度）。 ○下記の調査研究の実施により、有形文化財の保存修復等に寄与したと評価した。 ・「近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究」（奈文研）において、仁和寺・薬師寺等、未整理のものを含む歴史資料・書跡資料の調査を行って内容を把握するとともに、その保存を図り、活用可能な状態に整理した（28 年度）。 薬師寺・仁和寺をはじめ、諸社寺の歴史資料及び書跡資料の調査研究を進め、それぞれの内容を明らかにするとともに、当麻寺や金峯山寺など緊急性の高い資料の調査にも着手し、今後の保存に関する方向性を示すことができた（29 年度）。 薬師寺所蔵の歴史資料について長年の調査研究の成果として目録を公刊して全貌を示すとともに、春日大社関係の大宮家文書や興福寺関係資料をはじめとする諸社寺の歴史資料及び書跡資料の調査研究を進め、それぞれの内容を明らかにすることができた（30 年度）。 唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、掛軸・印信の整理作業や、聖教第 8 函の写真撮影等を行った（元年度）。 ・仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、聖教目録の公刊を行った（2 年度）。		
② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 〈評価軸〉 ・無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉	**＜主要な業務実績＞** 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度　3 件 29 年度　3 件 30 年度　3 件 元年度　3 件 2 年度　3 件	**＜自己評価＞** 東京文化財研究所では、無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与することができた。 ○下記を例とする調査研究の実施により、無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与していると評価した。		

	特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	（主な研究テーマ） ・無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（東文研）（28～2 年度） ・無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（東文研）（28～2 年度） ・無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集（東文研）（28～2 年度） 調査研究の一例を挙げると、「無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化」（東文研）では、28 年度には、現状記録を要する無形文化遺産の記録作成として、当研究所による講談の記録作成は平成 14 年度に溯るが、連続口演の機会が激減している講談の実演記録を継続して作成した（一龍斎貞水師 8 席・神田松鯉師 6 席）。また、伝承が危ぶまれている正本芝居噺の実演記録を作成した（林家正雀師 2 席）。29 年度は、無形の文化財を支える保存技術が注目される中、技術保持者の高齢化が大きな問題となっている伝統楽器製作技術、及び工芸技術にとって重要な材料である膠や絹糸製造について調査研究を行った。30 年度は、本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術（雅楽管楽器、能管、地歌駒・撥、琵琶、箏、太棹三味線ほか）及び道具・材料（ヤスリ、竹ほか）の調査研究を実施した。元年度は、講談の長編語り物、演奏機会の少ない平家や重要無形文化財の宮薗節について継続的に記録を作成し、かつこれまで作成した記録一覧の公表に着手した。2 年度は、新型コロナウイルス流行下で古典芸能や文化財保存技術に対する影響が社会的に注目される中、芸能公演や楽器製作技術等の調査研究と成果公表を行った。また、新型コロナウイルスの流行下における無形文化財への影響についても詳細な情報収集と発信を行った。	・「無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化」（東文研）においては、日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究を実施し、高齢化が進む技術保持者等への広範な聞き取り調査により大きな進展を得た（29 年度）。 演奏機会の少ない重要無形文化財の宮薗節について、29 年度より宮薗千碌氏（重要無形文化財・各個認定）等への綿密な聞き取り調査等を実施し、これを進展させ、30 年度に記録作成を開始することができた。当初は古典曲の記録を念頭に置いていたが、聞き取り調査を進める過程で、「新曲」に分類されるレパートリーの演奏機会が特に少ないとわかったため、30 年度は古典に加えて新曲も記録作成（各 11 曲）し、今後の進展が期待できる調査研究を実施した（30 年度）。 ・「無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究」（東文研）においては、継承の危機に瀕している無形文化財の内、社会的な認知度が低い選定保存技術に関して、『選定保存技術資料集』（日・英 2 ヵ国語版）を刊行した（28 年度）。 ・国内の無形文化財について、全国的な統括リストが存在しないことを受け、文化庁及び全国地方自治体の協力の下、無形民俗文化財を中心とする網羅的な所在調査を実施し、併せて「無形文化遺産アーカイブズ」の開発と公開を行った（28 年度）。 ・民俗技術「箕」の製作技術に関する「箕サミット―編み組み細工を語る」を開催した。国指定重要無形民俗文化財である「箕」づくりの技術を持つ 3 団体による実演とパネルディスカッションを行うなど、他では実施されていない機会をつくることができた。その成果として、報告書『箕 箕サミット 2017 の記録』を刊行した（29 年度）。 無形民俗技術の調査の成果として『船大工那須清一と鵜舟を造る』『曳山金工品修理調査報告書』を刊行した（元年度）。 従来の過疎化・少子高齢化による継承危機や東日本大震災をはじめとする自然災害に係る無形文化遺産の調査・研究に加え、2 年度の新型コロナウイルスの流行下における影響についても情報の収集を行った。10 年に及ぶ東日本大震災被災地の継続的な調査と成果の刊行を行い、各関係者とのネットワークの構築を含め、継承の危機にある無形民俗文化財の保護・活用に貢献できる体制づくりを強化した（2 年度）。		
③	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	**＜主要な業務実績＞** 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。	**＜自己評価＞** 奈良文化財研究所では、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景		

	〈評価軸〉 ・記念物の保存・活用に寄与しているか。 ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。 ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。 ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	28 年度　16 件 29 年度　16 件 30 年度　17 件 元年度　18 件 2 年度　20 件 （主な研究テーマ） ・我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）（奈文研）（28～2 年度） ・我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）（奈文研）（28～2 年度） ・平城宮東院地区の発掘調査（奈文研）（28～2 年度） ・平城宮東院朝堂院東門の発掘調査（奈文研）（30～2 年度） ・東大寺東塔院の発掘調査（奈文研）（28～2 年度） ・藤原宮大極殿院地区の発掘調査（奈文研）（28～2 年度） ・藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）（奈文研）（28 年度） ・飛鳥地域等の発掘調査（奈文研）（28～2 年度） ・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等（奈文研）（28～2 年度） ・平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究（奈文研）（28～2 年度） ・東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究（奈文研）（28～2 年度） ・中国、韓国との共同研究（奈文研）（28～2 年度） ・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究（奈文研）（28～2 年度） ・遺跡データベースの作成と公開（奈文研）（28～2 年度） ・古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行（奈文研）（28～2 年度） ・古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行（奈文研）（28～2 年度） ・水中遺跡の保存活用に関する調査研究（九博）（28～29 年度） ・水中文化遺産に関する調査研究（奈文研）（30～2 年度） 調査研究の一例を挙げると、「藤原宮大極殿院地区の発掘調査」（奈文研）では、発掘調査による古代国家の形成過程の解明という中期計画の目標に基づき、藤原宮大極殿院地区の発掘調査と研究を進めた。28 年度は、大極殿院東門と東面南回廊の調査（第 190 次）を実施し、それらの規模と構造を明らかにした。とりわけ梁行 2 間の複廊である回廊が、東門との取付部では棟通り柱 1 基の	観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与することができた。 ○下記を例とする調査研究の実施により、記念物の保存・活用に寄与していると評価した。 ・「我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）」（奈文研）においては、遺跡整備・活用研究集会を「近世城跡の近現代」をテーマとして実施し、近代以降の近世城跡の変容を様々な観点から具体的に取り上げ、それらの歴史的位置付けを明らかにしようと試みた。29 年度は「遺跡等を活かした地域づくり・観光振興」という独特なテーマで遺跡等の整備と活用の事例を検討し、新たな活用に関する方向性を議論した。30 年度は「史跡等の保存活用計画」をテーマとして開催し、文化財保護法の改正により法定となった保存活用計画の作成に当たっての技術的な課題等を共有することができた（28～30 年度）。 28 年度の研究集会の成果をまとめた報告書『近世城郭と近現代』を刊行し、成果の活用を促進した（28 年度）。 ・「我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）」（奈文研）について、庭園の歴史に関する研究（近世）では、「庭園文化の近世的展開」をテーマに研究会を開催し、研究会の報告書を刊行した（元年度）。 ○下記を例とする調査研究の実施により、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与していると評価した。 ・「東大寺東塔院の発掘調査」（奈文研）においては、東大寺東塔跡の調査を行い、鎌倉再建期のみならず、天平創建期の基壇外装を良好な状態で確認し、当初の規模や構造を明らかにする重要な成果を得た（28 年度）。さらに東塔を囲む回廊等の調査をおこない、東塔院の規模や構造について重要な知見を得た（29～元年度）。計画通り順調に進捗し、中世以降の石列や瓦溜まりといった遺構を検出した（2 年度）。 ・「平城宮東院地区の発掘調査」（奈文研）においては、平城宮内最大規模の井戸や、全国でも初例となる井戸と一体的に利用される溝・建物で構成される水場空間の発見など、律令国家の王権中枢部解明に関する重要な知見を得ることができた。（29 年度）また、国内でも初となる 8 世紀の調理用の地上式竈とみられる遺構を検出し、東院の厨施設の実態を解明できた。（30 年度） ・「平城宮東区朝堂院東門の発掘調査」（奈文研）で		

		みとなり、柱間寸法が異なるなど特異な構造となることが判明した。29 年度は、大極殿院回廊東北隅部の調査（第 195 次）を実施し、その規模と構造を明らかにした。また、回廊造営段階の排水溝や整地を確認するなど、藤原宮造営期の状況を明らかにした。30 年度は、大極殿院北面回廊中央部分の調査（第 198 次）を実施し、北面回廊全体の柱配置と柱間寸法を明らかにした。また、北面回廊が複廊構造であることを確定し、その中央に北門が開くことを確認した。そのほか、大極殿院北部の造営過程において、運河を入念に埋め立て、排水溝を付け替え、二段階にわたって礫敷をほどこすなど、排水と地盤沈下への対応に苦慮していたことが新たに判明した。元年度は、大極殿院東面北回廊と内庭部の調査（第 200 次）を実施し、従来空閑地と考えられてきた大極殿院北半部が、東面北回廊から西へのびる大極殿後方東回廊によって南北に画されていたことを明らかにした。これは藤原宮の構造について再考を促すとともに、前期難波宮内裏地区との類似性から、古代宮殿の発展性をより明確にした成果といえる。2 年度の調査では、大極殿院回廊東北部の柱位置が、他の場所と異なる間隔で配置されていたことを明らかにした。既往の調査成果と併せ、藤原宮大極殿院回廊東半部のほぼ全容を解明したことで、回廊全体の構造の復元も可能となった。また、先行条坊や造営溝の検討からは、藤原宮の造営過程の具体的様相も把握できた。以上のように藤原宮大極殿院の構造等に関する大きな成果を得た。	は、奈良時代後半の東門の正確な規模の確定と奈良時代後半とは規模・構造の大きく異なる奈良時代前半の様相も明らかにすることができ、さらに東区朝堂院全体の規模を確定できた（30 年度）。 ・平城宮東方官衙の発掘調査（奈文研）では、太政官（弁官曹司）の中心建物とみられる平城宮内の官衙としては最大級規模の基壇建物とその関連施設の発見など、 平城宮のみならず古代律令国家の解明にとっても重要な成果を得ることができた（元年度）。基幹排水路から文字資料を含む多量の遺物を得るとともに、基幹排水路の堆積状況も明らかにするなど、この周辺の施設の性格を知るうえで重要な成果を得た（2 年度）。 ・「飛鳥地域等の発掘調査」（奈文研）においては、古代山田道の規模と構造を把握するとともに、その南側で古墳時代後期前半に池を掘削し、それを 7 世紀後半にかけて埋め立てた状況を確認した。古代山田道周辺では 6 ～ 7 世紀にかけ、大規模な造成が繰り返されてきたことを明らかにし、飛鳥地域の開発史に新たな知見を加えることができた（29 年度）。大官大寺南方の調査が完了し、大官大寺から山田道に至る範囲では、藤原宮造営期に大規模な造成が行われたことを明らかにした（2 年度）。 ・「飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等」（奈文研）においては、『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ』(28 年度)、『藤原京右京九条二坊・九条三坊、瀬田遺跡発掘調査報告』（元年度）を刊行した。 ○下記を例とする調査研究の実施により、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与していると評価した。 ・「文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究」（奈文研）においては、文化的景観に関する研究集会を開催し、現状に関する情報を集約するとともに、今後の在り方に関して意見を交換した。また、文化的景観学検討会を開催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に関する検討を進めた。成果の一部を、四万十市及び岐阜市の文化的景観についてまとめ、『文化的景観スタディーズ第 3 冊』として公表した。さらに宇治市・金沢市等で実地調査を行い、文化的景観の保護の在り方について検討を深めた（28 年度）。 文化的景観と考古学との関係をテーマとした文化的景観に関する研究集会を開催して、文化的景観の概念及び調査・計画等の体系化を進展させることができた。また、京都市等の現地調査・研究では保存計画や整備・活用計画の策定につ		

			いて検討を深めることができた。(30 年度) ○下記を例とする調査研究の実施により、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与していると評価した。 ・「水中文化遺産に関する調査研究」(奈文研)では、九州国立博物館と共同し、発展途上にある日本の水中遺跡の調査研究において、市町村教育委員会による遺跡の状況把握が可能な、安価で簡便な調査方法の確立に見通しを得ることができた。また、鷹島海底遺跡の元寇船の水中での現地保存に迅速に対応し、発展性の高い埋め戻し法を開発することができた（30 年度）。 鷹島海底遺跡において発見された元寇沈船を良好に現地保存するため、砂嚢と酸素不透過性シートを用いた埋め戻しが実施されている。この方法による埋め戻しの有効性を検証するため、海底遺跡現地において、温度と溶存酸素をモニタリングするとともに、銅板、鉄板および木材の試験片を同時に埋設し、海底暴露試験を実施した。これまで海水中の溶存酸素の長期にわたる連続測定は困難であったが、新たな測定法を導入したことにより、効率よく溶存酸素のデータの蓄積が可能となった（元年度）。水中文化遺産の調査法、現地保存法並びに出土遺物の保存処理法の開発に継続して取り組むとともに、水中遺跡の埋蔵文化財としての保護に資するための「手引き」の執筆に取り組んだ。 5 年間の取組の中で、廉価で簡易な海底遺跡の探査法及び水中文化遺産の現地保存法について一定の効果的な方法を提示することができ、さらに海揚がりの遺物の保存処理法に関する課題に対して劣化メカニズムの解明を進めたことから、当初に設定した研究目標を概ね達成できた（2 年度）。		
（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与しているか。	**＜主要な業務実績＞** 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度　計 15 件 29 年度　計 16 件 30 年度　計 16 件 元年度　計 16 件 2 年度　計 16 件 （目的） 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。	**＜自己評価＞** 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究を実施した。 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与した。 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進めた。国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進し、その成果を		

			広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与することができた。		
① 文化財の調査手法に関する研究開発 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標） 〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。	**＜主要な業務実績＞** 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度　4 件 29 年度　4 件 30 年度　4 件 元年度　4 件 2 年度　4 件 （主な研究テーマ） ・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究（東文研）（28～2 年度） ・埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発（奈文研）（28～2 年度） ・年輪年代学研究（奈文研）（28～2 年度） ・動植物遺体の調査研究（奈文研）（28～2 年度） 調査研究の一例を挙げると、「年輪年代学研究」（奈文研）では、年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発を行い、出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進めている。28 年度は、薬師寺東塔で解体された部材に関する年輪年代学的計測を行い、729 年・730 年の年代を得ることができ、東塔の建立年代に貴重なデータを提供した。29 年度は、薬師寺東塔の建造年代に関する調査で見出した木部材が、『扶桑略記』などの記述と整合的な 730 年に伐採されたと分かり、東塔の木部構造が藤原京の本薬師寺から移建したのではなく、平城京で新造されたものであると確定されるなどの重要な知見を得たほか、従来年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を木簡の同一材推定に活用する等、研究手法の応用を進めた。30 年度は、出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施しており、従来は年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を木簡の同一材推定に活用し、接合する削屑の事例を見出すなど、研究手法の応用を進めた。元年度は、年輪年代学研究を実施することで、出土遺物、建造物、美術工芸品等の多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代調査・研究を実施するとともに、現生木の年輪年代調査による京都府芦生、奈良県吉野についての試料収集をおこない、年輪変動の地域性を検討する年輪データの蓄積を行った。2 年度は、長岡京期の礎板の年輪年代測定を実施したことにより、考	**＜自己評価＞** ○下記を例とする研究開発の実施により、科学技術を的確に応用した文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与していると評価した。 ・「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」（東文研）においては、デジタル画像の形成方法の研究開発について、不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討し多数の光学調査を行った（28～29 年度）。 東京文化財研究所所蔵のみならず鎌倉芳太郎撮影ガラス乾板（重要文化財）など、30 年度は外部機関が所蔵するガラス乾板を対象に、緊急性に呼応した画像取得を実施することができた。 画像取得にあたっては、一般的に用いられるスキャナではなく、撮影時に膜面に触れる恐れがなくガラス乾板を傷めにくいカメラを用い、カメラメーカーとも共同して、ガラス乾板からの画像取得という目的に特化したソフトウェアやカメラ等の機材のカスタマイズを行った。さらに、ガラス乾板から取得したデジタルネガの明暗反転にとどまらず、被写体や調査目的に応じた明度の調整を行うなど、東京文化財研究所独自の調査手法による鮮明な画像を取得できた（30 年度）。 東京国立博物館所蔵の平安仏画、京都国立博物館所蔵の国宝十二天像など多数の文化財の光学的調査を実施した。調査にあたっては、可視光の全範囲及び近赤外や蛍光にも対応可能なカメラレンズを用い、光学的な情報の正確な記録に努めた（元年度）。これらの研究開発は、研究成果報告にまとめ公表するなど、継続して大きな成果を上げていると評価した（28～2 年度）。 ・「埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発」（奈文研）では、埋蔵文化財の探査・計測方法において、遺跡における LiDAR による計測の試験的な計測と成果の精度、作業効率の評価を行う等、計測方法に関する実例研究を進め、調査手法の効率性等の向上に寄与した（29 年度）。 ・遺跡・遺物の形状を計測記録する技術について、地方公共団体等で簡便かつ廉価に導入可能な方法を開発しており、研究発表や講習会開催などによる成果の普及を行うことで、これまで取り組んできた遺跡・遺物の詳細なデータを従来の数十分の一の時間と労力で計測・記録する手法を普及段階に進めた（30～2 年度）。 ・簡便な機材で碑文等の表面情報を読み取る「ひかり拓本」技術の確立と実践を行った（2 年度）。		

	古学をはじめとした歴史科学研究に大きく寄与することができた。また、年輪年代学を同一推定の視点から木簡へと応用し、削屑木簡の中に同一材を見出したことは大きな成果であった。 ・学術雑誌等への論文掲載数 26 件（2 年度） ・報告書等の刊行数 1 件（2 年度） 内訳はアウトプット情報を参照			
② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 28 年度　11 件 29 年度　12 件 30 年度　12 件 元年度　12 件 2 年度　12 件 （主な研究テーマ） ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究（東文研）（28～2 年度） ・保存と活用のための展示環境の研究（東文研）（28～2 年度） ・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研）（28～2 年度） ・屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究（東文研）（28～2 年度） ・文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究（東文研）（28～2 年度） ・考古遺物の保存処理法に関する調査研究（奈文研）（28～2 年度） ・遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究（奈文研）（28～2 年度） ・建造物の彩色に関する調査研究（奈文研）（28～2 年度） ・近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（東文研）（28～2 年度） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（東文研）（28～2 年度） ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（奈文研）（28～2 年度） ・古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究（奈文研）（28～2 年度） 調査研究の一例を挙げると、「文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究」（東文研）では、歴史的建造物、古墳環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、簡易・迅速な生物モニタリング手法に関する基礎研究を行う。28 年度は、環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処置の歴史的建造物への適用に向けた研究に着手した。処理効果判定のための害虫	**＜自己評価＞** ○下記を例とする調査研究の実施により、科学技術を的確に応用した文化財の保存・修復の質的向上に寄与していると評価した。 ・「文化財の材質・構造・状態調査に関する研究」（東文研）においては、煉瓦造建造物に析出している塩類の可搬型 X 線回折分析装置を用いたその場分析の結果と、周辺の温湿度環境・レンガの含水量との比較により、劣化と保存環境に関する検討を行った結果を学会で発表した（30 年度）。 日本絵画の彩色材料の使い方に関する新知見を得るとともに、金属文化財の腐食評価のためのガスサンプリング方法の改良を行った（元年度）。可搬型蛍光 X 線分析装置による材料調査として、平安時代の国宝久能寺経（個人蔵）に真鍮泥が使われている新知見を見出した。（2 年度） ・「文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究」（東文研）においては、セロファンテープ等の粘着テープを有機溶媒によって除去する方法や緑青焼けを起こしている作品の修復方法に応用できる成果を得た。また、粘着テープや油汚損の除去に用いるジェルクリーニング方法の検討を実施した。特にジェルからの作品への残留物質の有無の確認に焦点を当てて取り組んだ（28～29 年度）。 油汚損の文化財クリーニングへの適用などを目的に、ゲルを使用した場合の現場適用方法を検討した。汚れの除去効果に加え、作業環境の評価も行い、安全な有機溶媒の使用方法を調査した。ゲルを使用した新たな文化財クリーニング法に関するワークショップ・研究会を開催するとと もに、伝統的材料としての漆や膠に関する劣化調査や科学分析を行った（30～2 年度）。 水害によって被災した資料の処置方法の検討や、それらの処置を行う機材の導入など、萌芽的研究を開始した。（2 年度） ・「考古遺物の保存処理法に関する調査研究」（奈文研）では、鉄製遺物に関して、新規脱塩法及び発掘後の劣化予測技術の開発に向けた基礎的な実験をおこない、成果が得られた。また従来の木製		

		生息調査において、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するフライト・インターセプション・トラップを新たに適用して成果を得た。29 年度は、国内で初めてとなる現地処理を日光山内の社寺において実施し、現地での応用まで展開させた。その際、処理対象となる木材害虫について殺虫効果の評価試験を実施することができた。引き続き 30 年度には、日光山中禅寺鐘楼で国内 2 例目となる現地処理を実施し、東京文化財研究所が開発した殺虫処理効果判定システムを導入した。元年度は、環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処理について、殺虫処理効果判定法の検討を行うとともに、殺虫方法の普及に向けて成果発信を行うなど、順調に研究業務が遂行された。2 年度は、新規殺虫方法である湿度制御温風処理の技術開発に関して研究成果を総括し、現状の到達点と今後の課題について研究会を開催するとともに報告書の編集を行った。 ・学術雑誌等への論文掲載数 34 件（2 年度） ・報告書等の刊行数 10 件（2 年度） 内訳はアウトプット情報を参照	遺物の保存処理とは異なる原理に基づく、新たな薬剤含浸手法について、実用化に向けた検討を進めることができた。さらに、種々の文化財の材質構造調査にかかる新たな手法を検討するとともに、新技術の導入も積極的に進めた（2 年度）。 ・「近代文化遺産の保存修復に関する調査研究」（東文研）では、近代文化遺産のうち鉄構造物の保存修復に関する調査研究においては、世界遺産登録や国指定等が進む一方で保存修復の理念・技術が未だ確立していない現状から、国外の先進事例を踏まえて課題を包括的に整理し、産官学の専門家と共同研究を実施した（29 年度）。 ・「高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究」（東文研）においては、キトラ古墳壁画の彩色に関する科学的分析を行うとともに、壁画表面のクリーニング方法、特に以前に使用された修理材料のある中での汚れの除去方法に焦点を当てて、漆喰の強度を保ちつつクリーニングを行う方法に関する検討を行った。これは日本では従来行われていない修復方法であり、得られた成果を修復現場に還元できた（28 年度）。 ・「高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究」（奈文研）においては、高松塚古墳とキトラ古墳の壁画調査・修復及び保存・公開に対して技術的な協力を行い、それぞれの保存・修復・公開に寄与した。加えて、古墳壁画の新しい分析手法として携帯型 X 線回折装置の開発・改良及び漆喰試料を用いた試用実験を行った。さらに、模擬石室における環境モニタリング及び模擬石室内での暴露試験を実施し、恒久的保存に向けた問題に取り組み、新しい方向性を示すことができた（28 年度）。 高松塚古墳の石室解体事業に伴う発掘調査について、正式報告書として「特別史跡高松塚古墳発掘調査報告」を刊行し、調査研究の質的向上に寄与した。さらにこの成果を熊本地震により被災した装飾古墳の被害状況調査に即応させ、3 次元レーザー計測ならびに SfM/MVS（多視点ステレオ写真測量）による地形計測、地中レーダー探査による墳丘内の構造調査を行い、効率的に顕著な成果をあげ、被災文化財の保存・修復支援にも大きな貢献ができた（29 年度）。 キトラ古墳壁画保存管理施設の運用・管理、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効率よく実施するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に対応した。また、国営飛鳥歴史公園のキトラ古墳地区の運用が開始された後、キトラ古墳の整備に関する報告書を作成した（30 年度）。 キトラ古墳壁画保存管理施設の適切な運用・管		

			理を行うとともに、壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用や、壁画を安全に分析するために開発したX線回折装置の実用化など、高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施した（2 年度）。			
	（3）文化遺産保護に関する国際協働 ① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 【指標】 ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数，諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度，諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することとする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	**＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施し達成した。 28 年度　計 10 件 29 年度　計 9 件 30 年度　計 9 件 元年度　計 12 件 2 年度　計 12 件 （目的） 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2）文化遺産保護協力事業の推進 3）文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 **＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施し達成した。 主な事業は以下のとおり。 28 年度　9 件 29 年度　8 件 30 年度　8 件 元年度　11 件 2 年度　11 件 （主な事業テーマ） ・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（東文研）（28～2 年度） ・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（奈文研）（28 年度） ・イギリスセインズベリー日本藝術研究所との共同研究（奈文研）（28～2 年度） ・アジア諸国等文化遺産保存修復協力（東文研）（28～2 年度） ・保存修復技術の国際的応用に関する研究（東文研）（28～2 年度） ・西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業（奈文研）（28～2 年度） ・カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復（奈文研）（28～2 年度）	**＜自己評価＞** 東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、文化遺産の保護に関する国際的な協力を行うことを目的として、我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に大きく貢献しており、中期目標を達成したと判断した。 **＜自己評価＞** 下記を例とする事業の実施により、文化遺産国際協力の推進に寄与していると評価した。 ・「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」（東文研）においては、海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行うことを目的として、国際会議やシンポジウム等に出席し、収集した情報については世界遺産研究協議会を開催して関係自治体等関係者に対して情報の周知を図るとともに、その報告書、講演等を通じて成果の公表を行った。コロナウイルス感染症の影響で海外の調査現場への渡航ができなくなったなか、オンラインツールを用いて専門家間の交流や情報交換は継続的に行い、国際協力を推進した。（2 年度）。 ・「アジア諸国等文化遺産保存修復協力」（東文研）においては、アジア諸国における文化遺産保護水準の向上に資するための協力として、相手国協力機関と共同でアンコール・タネイ寺院跡の保存整備の実施に向けた調査研究を推進するとともに、同遺跡東門の修復工事に着手し、実践的な文化遺産の保護の推進に貢献することができ		

	「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」 第１　文化遺産国際協力の基本的方向 ４．文化遺産国際協力の推進における国等の役割 （２）教育研究機関等の役割 ③　独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所文化遺産国際協力センター（以下「センター」という。）は，文化遺産の保存修復及び調査研究の分野において，国際協力を推進する極めて重要な専門機関であり，その卓越した機能を生かし，世界各地で積極的な協力活動を実施している。センターは，教育研究機関及び民間団体等と協力しつつ，自らが有する知識，技術，経験等を活用して，文化遺産国際協力を更に推し進めるとともに，コンソーシアムを中心とした我が国の国際協力推進体制を支えていくことが望まれる。このため，国は，センターが文化遺産国際協力に関係する海外諸機関との連携における中核的な役割を発揮できるように，その体制の整備充実を図る。	・在外日本古美術品保存修復協力事業（東文研）（28～2 年度） ・国際研修（東文研）（28～2 年度） ・ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)等が行う研修への協力（東文研・奈文研）（28～2 年度） ・共同研究等の実施件数 28 年度　3 件 29 年度　4 件 30 年度　2 件 元年度　3 件 2 年度　1 件 内訳はアウトプット情報を参照	た。また、アルメニアとイランを対象とした各研修では、対象国の要望を踏まえた即応性のある講義及び実習を実施し、研修参加者のみならず協力機関等関係者から高い評価を受けた（元年度）。 ・「西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業」（奈文研）においては、28 年度からウズベキスタンで壁画の修復事業への協力を開始し、元年度に完了した。元年度は、サマルカンド考古学研究所でファヤズテパ遺跡出土壁画の保存修復作業に協力し、国際セミナー「中央アジア西部の仏教遺跡と出土壁画について：ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画を中心に」を奈文研で開催して、35 人の参加を得た（元年度）。 ・「保存修復技術の国際的応用に関する研究」（東文研）においては、国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進した。元年度は、トルコ・カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施、ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院（NO.1205）の外壁調査と保存修復方法の検討及び施工実験、ミャンマー・バガン遺跡における壁画の技法及び人文学的調査を実施し、文化遺産の保存修復及び管理活用に関する調査研究に加えて、現地の若手専門家を積極的に受け入れた人材育成事業を展開することができた。また、調査研究の成果を具体的に対象となる文化財の保存修復に反映させ示すことができた結果、当事国関係者より高い評価を得ることができた（元年度）。		
	②　アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 【指標】 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 ・以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することとする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。 「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」 第１　文化遺産国際協力の基本的方向 ４．文化遺産国際協力の推進における国等の役割 （２）教育研究機関等の役割 ④　また，平成 23 年 10 月には，日本国政府とＵＮＥＳＣＯ（国際連合教育科学文化機関（以下「ユネスコ」という。）との協定に基づき，ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際調査研究センターとして，独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋地域無形文化遺産研究センターが設置された。当該センターにおいては，我が国の無形文化遺産に関する国際協力の拠点として，東京文化財研究所等の関係機関と連携しつつ，アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進することが望まれる。	**＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。 主な事業は以下のとおり。 28 年度　1 件 29 年度　1 件 30 年度　1 件 元年度　1 件 2 年度　1 件 （主な事業テーマ） ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究（IRCI）（28～2 年度） 「アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究」においては、以下の事業を継続的に実施している。 ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実 ・無形文化遺産保護に関する研究の活性化に資する国際会議・研究者フォーラムの開催 ・同地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究の実施 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数） 28 年度　5 件 29 年度　6 件 30 年度　5 件 元年度　5 件 2 年度　2 件	**＜自己評価＞** アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）では、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のため、事業を計画に従い実施し、中期目標を達成したと評価した。 ・28 年度は「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」に着手し、順調な活動を行うことができた。東京文化財研究所無形文化遺産部の協力を得て、アジア 3 ヵ国（フィリピン、ベトナム 、ミャンマー）及びオセアニア 3 ヵ国（バヌアツ、フィジー、マーシャル諸島）における現地調査や、ワーキンググループ会合を開催した。第 3 回会合では、フィリピン、バヌアツ、フィジー、バングラデシュ等から参加者を招き、国際会合として開催、国内外の研究機関・研究者との連携を強化し、保護の実践や方法論等についての議論を深化させることができた。 ・29 年度は、災害リスクマネジメント事業が順調に進展していることに加え、29 年度よりアジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究を開始し、危機に瀕した無形文化遺産の実態や保護事例について、具体的に研究する体制を整備した。また、これまで継続的に行ってきたマッピング事業によりアジア太平洋地域を対象とした情報収集も進み、外部機関との連携による 2 件の国際会議を開催することができ、域内における研究促進に貢献した。 ・30 年度は、無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究-教育を題材として-において、ベトナム、フィリピンの 2 か国の、フォーマル、ノンフォーマル教育に無形文化遺産の要素を取り入れた教材用のガイドラインを作成した。また、自然災害に関する地域ワークショップを開催し、災害時の無形文化遺産保護やその防災・復興への活用についての提言が採択され、各国での今後の活動の進展が期待できる有意義な成果を得た。 ・元年度は、30 年度に開始した無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究-教育を題材として-において、30 年度作成したガイドラインの有効性を検証するためモニタリングを実施し、その結果を議論するワークショップを通じ研究のさらなる促進を図ることができた。また、東京文化財研究所と共に開催した国際研究者フォーラム（「無形文化遺産研究の展望―持続可能な社会にむけて」）では、よりアカデミックな内容で SDGｓの議論を深めることができた。これらは今後における SDGs 関連事業の基礎をなすものとなっている。ポストコンフリクト事業では各国研究機関等との連携体制が整い、紛争により危機に瀕した無形文化遺産について情報収集及び記録作成が進展した。30 年度に特定した消滅の危機に瀕する無形遺産について、卓上調査を含む現地調査を実施するなど、治安悪化など不安定な状況にもかかわらず具体的な活動が進行した。 ・2 年度には、無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究―教育とまちづくり―において、オンライン会議を経て、事業協力機関として、バングラデシュ、インドネシア、キルギスの機関と契約を締結した。各機関において選択した ICH と SDG 4、SDG 11 との関係について、卓上調査を中心に事例研究を実施し、ICH の SDG 4 と SDG 11 に対する貢献と役割について報告書にまとめた。また、上記協力機関等、日本のリソー		

			スパーソン、日本の若者・教育関係者を招き、国際シンポジウムを開催し、事例研究成果を共有したうえで ICH、SDG4、SDG11 の関係性について議論するとともに理解を深めることができた。 さらに、アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究においては、アフガニスタン、スリランカ、東ティモールについて、現地の新型コロナウイルス感染状況及び治安状況を考慮し、すでに特定済みの消滅の危機に瀕する無形文化遺産について、可能な範囲での卓上調査及び小規模現地調査を継続した。また元年度より新たに、フィリピンのパートナー機関の要請により、伝統工芸の試験的調査を開始し、卓上調査を含む小規模調査を実施するとともに、本事業の成果をまとめたレポートを作成した。		
	（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 【指標】 図書，雑誌等の公開に関する取組状況（資料閲覧室・図書資料室の開室日数，利用者数，　文化財に関する資料・図書等の総件数） 文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・データベースのデータ件数 ・データベース等へのアクセス件数 〈目標水準の考え方〉 文化財に関する専門図書等の公開施設を設け，書誌情報等による検索サービスを提供し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。なお，当該施設は文化財に関する希少な資料・図書等を収集・整理し公開するものである。　一般図書とは異なりその利用に当たっては制限が必要となることとなり，あらかじめ数値目標を設定せず，上記の取組をモニタリングし総合的に評価する。 文化財に関する各種データベースを構築して，情報通信回線を通じて公開し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。 【指標】 ・定期刊行物等の刊行件数（前中期目標の期間の実績以上） ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績以上） ・公開施設における特別展・企画展の開催件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の来場者数 ・公開施設の来館者数 ・学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数 〈目標水準の考え方〉 ・定期刊行物等は，文化財研究所の調査研究等の成果を普及するために，重要な役割を担うものであり，一定の規則性をもって企画されるべきものである。定期刊行物等の種別によって，刊行の時期や部数等が異なるが，全体的な規模としては，原則として前中期目標の期間の実績以上となるよう刊行計画を策定し，これを達成することを目標とする。 ・一般を対象とする講演会等の開催回数は，毎年一定程度の規模を保つことが重要であり，前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。 ・奈良文化財研究所の平城宮跡資料館・飛鳥資料館は，発掘調査等の研究成果を適時に展示することが重要であり，特別展・企画展開催件数を前中期目標の期間の実績以上とすることを目標とする。	**＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　計 9 件 29 年度　計 9 件 30 年度　計 9 件 元年度　計 9 件 2 年度　計 9 件 （目的） 文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。 ①　文化財情報基盤の整備・充実 **＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を実施した。 28 年度　3 件 29 年度　3 件 30 年度　3 件 元年度　3 件 2 年度　3 件 （主な事業テーマ） ・専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充（東文研）（28～2 年度） ・文化財に関するデータベースの充実（奈文研）（28～2 年度） ・図書の収集・整理・公開・提供（奈文研）（28～2 年度） ・図書，雑誌等の公開に関する取組状況 資料閲覧室・図書資料室の開室日数（東文研 67 日、奈文研 147 日）（2 年度）、利用者数（東文研 660 人、奈文研 161 人）（2 年度）、文化財資料総数（東文研 341,073 件、奈文研 488,414 件）（2 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・文化財に関するデータベースの公開件数（東文研 33 件、奈文研 30 件） ・データベースのデータ件数（東文研 1,715,186 件、奈文研 1,385,920 件） ・データベース等へのアクセス件数（東文研 4,078,322 件、奈文研 14,183,774 件）	**＜自己評価＞** 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する取り組みを実施するなど、中期目標を順調に達成した。 **＜自己評価＞** 以下のとおり、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充に取り組んだ。 図書、雑誌等の公開に関する取組状況として、2 年度は、資料閲覧室等の開室日数は東文研、奈文研それぞれ、67 日、147 日、利用人数は 660 人、161 人であった。 文化財に関する資料・図書等の総件数は、東文研、奈文研それぞれ、341,073 件、488,414 件であった。 文化財に関するデータベースの公開件数は、東文研、奈文研で目標値がそれぞれ 18 件、24 件のところ、2 年度はそれぞれ 33 件、30 件となった。 ・「専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充」（東文研）においては、元年度は、文化財研究の専門機関として国内外から重要視されていた売立目録についてデジタル・アーカイブを完成・公開し、研究支援を飛躍的に推進した。あわせて資料閲覧室としての公共性と専門性の双方を有する運営を進めることができた（元年度）。2 年度は、当研究所の代表的なコレクションである売立目録のデジタル・アーカイブの改良を進め、研究支援を継続すると同時により広く情報発信を行うため、報告書を刊行した。新型コロナウイルスの影響を受けながらも、オンラインでできるサービス提供の強化を行い、公共性と専門性の双方を有する運営を進めることができた。 ・「文化財に関するデータベースの充実」（奈文研）においては、従来進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関し、データの入力・更新を行うとともに、公開データベースを更新した。文化財情報に関する基礎的な研究を積み重ねつつ、継続性が重要なデータベースの充実を着実に進めている。他機関と協力して進める大規模データベースである全国遺跡報告総覧は、頻出用語表示機能などのデータ解析機能を付加し、今後の発展も引き続き期待される（元年度）。文化財情報に関する基礎的な研究を積み重ねつつ、継続性が重要なデータベースの充実を着実に進めている。他機関と協力して進める大規模データベースである全国遺跡報告総覧は、頻出用語表示機能などのデータ解析機能を付加し、データのダウンロードも 200 万件以上に達するなど、中期目標を超える成果を継続して達成しており、今後の発展も引き続き期待される。(2 年度)		

		②　調査研究成果の発信 ③　展示公開施設の充実 **＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　4 件 29 年度　4 件 30 年度　4 件 元年度　4 件 2 年度　4 件 （主な事業テーマ） ・定期刊行物の刊行（東文研）（28～2 年度） ・定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催ウェブサイトの充実（奈文研）（28～2 年度） ・オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（東文研）（28～2 年度） ・文化財情報基盤の整備・充実（東文研）（28～2 年度） ・平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開（奈文研）（28～2 年度） ・平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善（奈文研）（28～2 年度） ・定期刊行物等の刊行件数 （東文研 11 点、奈文研 10 点）（2 年度） ・講演会等の開催回数（東文研 2 回、奈文研 2 回）（2 年度） ・平城宮跡資料館特別展・企画展 5 件、飛鳥資料館特別展・企画展 3 件（2 年度）	**＜自己評価＞** 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信することができた。 ・「定期刊行物の刊行」（東文研）においては、所期の計画通り、学術誌としての一定の水準を保ちつつ各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行した（28～2 年度）。 ・「定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催ウェブサイトの充実」（奈文研）においては、計画通り定期刊行物を刊行するとともに、目標を上回る回数の公開講演会や現地説明会等を実施し、調査研究成果を適時、多元的に発信した。また、全国遺跡報告総覧などウェブサイトの利用率も順調に上昇している（28～2 年度）。 ・「平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開」（奈文研）においては、各年度、所期の目標以上に実施し、各館の展示等の充実と、来館者の理解を促進することができた。30 年度には、奈良文化財研究所新庁舎の完成に合わせ、研究所業務を紹介する夏期企画展を平城宮跡資料館にて開催するなど、各館・室で時期に適った企画を実施している（28～2 年度）。 ・「平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善」（奈文研）においては、30 年 1 月から新たなボランティア制度のもと、定期的な勉強会、展示研修等を通じて、解説ボランティアの育成を行い、継続して資質の向上に努めている。また、連絡会議を定期的に開催して意見等を取り入れつつ、円滑な活動を実施することができた（28～2 年度）。 **＜課題と対応＞** 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、展示公開施設が臨時休館となったため一部目標へ到達しなかった。また、対面での講演会等は、開催が困難な状況であったが、オンラインによる公開等、多くの参加者を得るための新たな普及方法の導入にも取り組み、理解促進を図る。		
（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 【指標】 ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績以上） ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績以上）	**＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　計 25 件 29 年度　計 26 件 30 年度　計 26 件 元年度　計 26 件 2 年度　計 26 件	**＜自己評価＞** 東京文化財研究所、奈良文化財研究所及び文化財活用センターにおいて、我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修を実施し、文化財保護に携わる人材を育成する取り組みを行った。 また、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、文化		

・研修成果の活用状況（アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上） 〈目標水準の考え方〉 ・地方公共団体等における文化財に係る専門人材の資質の向上は，我が国全体の文化財行政等の基盤を支える観点から重要である。中期目標の期間においては，各研修の目的，項目及び課程等の研修体系を策定するとともに，アンケートにより地方公共団体等の要望や研修成果の活用状況を調査し，適宜研修プログラム等に反映する。 【指標】 ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・行政機関が実施する発掘調査や史跡整備事業を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じて都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし総合的に評価する。	（目的） 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 ①文化財に関する研修の実施 **＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。 28 年度　2 件 29 年度　2 件 30 年度　2 件 元年度　2 件 2 年度　2 件 （主な事業テーマ） ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修（東文研）（28～2 年度） ・文化財担当者研修（奈文研）（28～2 年度） ・研修の実施件数（東文研 1 件、奈文研 4 件） ・研修の受講者数（東文研 17 件、奈文研 32 件） ・研修成果の活用状況（東文研 94%、奈文研 100%）	財活用センター及び文化財防災センターにおいて、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行った。 いずれの取り組みもナショナルセンターとしての役割を十分に果たしていると評価した。 **＜自己評価＞** 以下のとおり、文化財に関する研修を実施し、文化財保護に携わる人材の育成に寄与したと評価した。 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所の文化財研修の件数、受講者数及び研修成果活用実績の目標値はそれぞれ 1 件、13 件、30 人、156 人、80%、80%のところ、2 年度は、1 件、4 件、17 人、32 人、100%、100%となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため人数を制限して開催した結果、受講者数は目標値に達しなかったが、満足度ではいずれも高い評価を得ている。また中期目標期間の延べ受講者数では目標値を大きく超えていることからも目標は達成したと判断した。 ・「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」（東文研）においては、勤務館において資料保存に携り、設備や問題点を把握している学芸員を対象とした研修を継続して実施している。元年度からは、文化財活用センターと共催で開催した。共催とすることで外部発信力が上がるとともに、外部講師の協力を得て受講者のニーズに応える充実した内容にすることができた。また、研修成果の活用実績に関するアンケートを引き続き実施し、カリキュラム等に関するニーズを把握、必要に応じた見直しを行った（28～2 年度）。 ・「文化財担当者研修」（奈文研）においては、遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 14 課程の研修を実施し、延べ 199 人が受講した（課程数・受講者数などは元年度実績）。研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修を継続して実施することができた。2 年度は、新型コロナウイルスの影響により中止や規模縮小となったが、発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門		

			研修を実施し、延べ 32 人が受講した。なお、研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得た。（奈文研）（28～2 年度）		
		②文化財に関する協力・助言等 ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ④連携大学院教育の推進 **＜主要な業務実績＞** 中期計画に従い事業を継続して実施した。 （主な事業テーマ） ・文化財の収集、保管に関する指導助言、ほか（東文研）（奈文研）（28～2 年度） ・文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力平城宮復原整備研究（奈文研）（28～2 年度） ・国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力（奈文研）（28～2 年度） ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力（奈文研）（28～2 年度） ・ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力（奈文研）（28～2 年度） ・東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進（東文研）（28～2 年度） ・京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進（奈文研）（28～2 年度） ・文化財等の防災・援助等への寄与（体制づくり、調査研究等の実施及び人材育成・事業啓発活動等の実施）（防災）（28～2 年度） 指導・助言については、以下のような内容で実施した。 総数の推移 28 年度 1,198 件 29 年度 1,031 件 30 年度 950 件 元年度 609 件 2 年度 529 件 内訳の推移 ・文化財の収集、保管に関する指導助言（東文研） 28 年度 11 件 29 年度 19 件 30 年度 28 件 元年度 24 件 2 年度 18 件 ・無形文化遺産に関する助言（東文研）	**＜自己評価＞** ・国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行った（東文研）（奈文研）（28～2 年度）、（文化財活用センター）（30～2 年度）。 ・国・地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できている（東文研）（奈文研）（28～2 年度）。 ・「国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力」（奈文研）及び「文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力」（奈文研）においては、28 年の国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園に向けて、文化庁と国土交通省の双方と連携し協力した。当研究所の豊富な知見を生かし、四神の館の展示内容について効率よく助言や情報提供を行うことができた。また、キトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営を行うとともに、壁画を季節に合わせて公開した。（28～2 年度） ・「国土交通省が行う平城宮いざない館の建設への協力」（奈文研）においては、国土交通省が進めてきた平城宮跡歴史公園のガイダンス施設「平城宮いざない館」の建設に向けて、出土品等の展示を行う詳覧ゾーンについて協力を行い、30 年 3 月 24 日に開館した。 開館後も、第 4 展示室の展示の監修・学芸業務を中心に、いざない館の活動について、国土交通省国営飛鳥歴史公園及び管理センターに継続的な協力を実施した（29～2 年度）。 ・「東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進」（東文研）及び「京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進」（奈文研）においては、各専門分野に関する講義、実習を通し、		

		28 年度 10 件 29 年度 22 件 30 年度 25 件 元年度 32 件 2 年度 25 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言（東文研） 28 年度 41 件 29 年度 42 件 30 年度 41 件 元年度 41 件 2 年度 41 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言（東文研） 28 年度 58 件 29 年度 60 件 30 年度 60 件 元年度 42 件 2 年度 43 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言（東文研） 28 年度 15 件 29 年度 14 件 30 年度 11 件 元年度 20 件 2 年度 12 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（東文研） 28 年度 658 件 29 年度 521 件 30 年度 428 件 元年度 25 件 2 年度 41 件 （国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査に関わる相談窓口は、元年度から文化財活用センターに一本化した。） ・文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力（文化財活用センター） 30 年度 53 件 元年度 134 件 2 年度 119 件 ・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（奈文研） 28 年度 339 件 29 年度 238 件 30 年度 273 件 元年度 238 件 2 年度 183 件 ・地方公共団体等の要請による平城京域発掘調査等への協力・援助（奈文研） 28 年度 45 件 29 年度 47 件	継続して大学院生の研究指導を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に寄与した（28～2 年度）。 文化財防災ネットワーク推進室（文化財防災センター）においては、以下のとおり、文化財等の防災・救援等へ寄与した。 ・地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行うため、文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催した。また、機構各施設が地区分担を行い、自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築を促進した。各地で開催する研修会や講演等を通じ、文化財防災のための地域連携の在り方や防災対策、被災文化財の保全方法など、広範な内容をもって事業の有用性を伝えることができた。そのほか、災害発生時の迅速な救援活動を実現するため、「文化遺産防災ネットワーク推進会議の災害時における活動ガイドライン」策定を行い、元年度に完成させた。同ガイドラインの完成をみたことにより、都道府県に対して当推進事業との連携を積極的に推奨することが可能になった（28～2 年度）。 ・令和元年 10 月、台風 19 号による川崎市市民ミュージアム地下収蔵庫の水没事故に対しては推進会議参画団体のうち 10 団体が集合して救援活動を行うなど、実践的な成果を挙げるに至った。（元年度） ・文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を継続して実施した。（28～2 年度）。		

		30 年度 9 件 元年度 32 件 2 年度 39 件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言（奈文研） 28 年度 13 件 29 年度 9 件 30 年度 6 件 元年度 10 件 2 年度 7 件 ・被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力（奈文研） 28 年度 8 件 29 年度 59 件 30 年度 13 件 元年度 11 件 2 年度 1 件			

４．その他参考情報
予算と決算の差額については、過年度予算の繰越や事業実施に伴う予算の組替、寄付金等財源による事業拡充によるもの。

様式１－２－４－２　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）様式

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅱ	業務運営の効率化に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

評価対象となる指標		達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
一般管理費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中 15%以上効率化	1,079,716	831,109	753,613	1,277,028	974,244	889,241	17.64%減（前中期実績値比）
業務経費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中 5%以上効率化	6,580,389	5,417,416	6,158,978	5,955,580	5,964,637	5,422,139	17.60%減（前中期実績値比）
光熱水量	電気量(kwh)	実績値	－	24,981,326	25,475,017	25,703,795	25,705,596	26,112,714	25,588,377	2.01%減
	ガス量(㎥)	実績値	－	1,888,670	1,961,450	1,984,170	1,941,360	2,042,038	1,955,844	4.22%減
	水道量(㎥)	実績値	－	143,075	144,711	154,269	157,555	156,080	103,577	33.64%減
廃棄物排出量(kg)		実績値	－	225,151	225,453	232,251	210,462	187,701	149,133	20.55%減

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
	業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
＜主な定量的指標＞ 文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５％以上，業務経費については５％以上の効率化を図ること ＜その他の指標＞ 特になし ＜評価の視点＞ ―	Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項 １．　業務改善の取組 **＜実績報告書等参照箇所＞** 第４期中期目標期間実績補足資料 P 49～ 55	**＜自己評価＞** 評定：B 中期目標に定められた業務は達成された。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた組織・体制等の見直しを実施するとともに，平成 30 年には文化財活用センターを設置し，社会の要請等を踏まえた組織・体制の充実強化を図っていることは評価できる。 ＜今後の課題＞ ― ＜その他事項＞ ―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 組織体制については，見込み評価時点に実績に加えて，令和２年 10 月に文化財防災センターを設置し，体制強化を行った。 一般管理費・業務経費については，達成目標を上回る効率化が図られたことは評価できる。 ＜今後の課題＞ ― ＜その他事項＞ 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・業務運営に関しては、一般管理費（物件費）、業務経費（物件費）、光熱水量及び廃棄物排出量が削減されており、効率化が図られている。

		（１）組織体制の見直し **＜主要な業務実績＞** ○2019 年 ICOM 京都大会に向けた体制整備 ・28 年 10 月 1 日付けで本部事務局長に京都国立博物館副館長を併任させ、2019 年 ICOM 京都大会の実施に向けた組織体制の構築の検討を開始した。30 年 3 月に ICOM 京都大会準備室に職員を 1 名派遣した。30 年 10 月に審議役の職を新設した。併せて ICOM 京都大会の実施に向けて、課長級職員を 1 人派遣した。31 年 4 月に一般職員 1 名を追加で派遣した。 ○2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた体制整備 ・日本博の事業を円滑に進めるため、31 年 4 月に課長補佐級職員 1 名、一般職員 1 名を派遣した。引き続き、博物館等と連携して日本博関連の企画を実施している。 ○情報セキュリティの確保・維持 ・29 年 7 月に情報担当のアソシエイトフェローを 1 名採用し、本部情報担当分門の設置を推進した。30 年 10 月に本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。31 年 4 月に新たに本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。 ・情報セキュリティの確保・維持のため、2 年 4 月に新たに本部情報担当部門への職員の配置を行い、本部情報担当部門の拡充を図った。 ○組織・体制等の見直し ・30 年 7 月 1 日付にて本部に文化財活用センターを開設した。 ・機構における定年退職者の知識・経験等を活用することができる仕組みを構築するため、任期付職員制度の見直しを行った。28 年度定年退職者 3 名を、29 年 4 月 1 日付けで任期付職員として採用した。(28～29 年度) ・2 年 10 月 1 日付で本部に文化財防災センターを設置し、職員の配置を行った。	**＜自己評価＞** 2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた組織・体制等の見直しを実施した。2019 年 ICOM 京都大会においては、人員及び会場の提供、関連イベントの実施に当たって積極的な協力を行い、開催地の国立博物館としての役割を十分に果たすことができた。2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け国際業務の体制の整備、情報セキュリティ対応のための情報部門の職員の充実を図った。		

		（２）人件費管理等の適正化 **＜主要な業務実績＞** ○法人の給与水準 給与については、独立行政法人通則法第 50 条の 10 第 3 項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に決定している。 ○対国家公務員指数の検証と公表 給与水準は事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、適正な水準である。 対国家公務員指数の状況： ・28 年度 事務・技術職員　98.7% 研究職員　99.8% ・29 年度 事務・技術職員　98.5% 研究職員　99.7% ・30 年度 事務・技術職員　99.2% 研究職員　98.1% ・元年度 事務・技術職員　97.4% 研究職員　98.1% ・2 年度 事務・技術職員　97.6% 研究職員　98.7%	**＜自己評価＞** 対国家公務員指数を下回っており、給与水準は適正である。 なお、検証結果、取組実績等を法人及び総務省ウェブサイトにおいて公表している。 **＜課題と対応＞** ―		
		（３）契約・調達方法の適正化 **＜主要な業務実績＞** ・「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、各年度に 2 回、機構が締結した契約の点検・見直しを行った。 ・東京国立博物館（レストラン 2 か所、移動式野外飲食店、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、京都国立博物館（カフェ、レストラン、ミュージアムショップ、自動販売機）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（飛鳥資料館ミュージアムショップ、平城宮跡資料館ミュージアムショップ）については企画競争を実施済み。今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 ・機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。 28 年度：27 人 29 年度：24 人 30 年度：22 人 元年度：21 人	**＜自己評価＞** 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、引き続き調達等の合理化の取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行った。また、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施している。		

		2年度：27人 ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10日間以上」から自主的措置として20日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施した。 ・一般競争入札件数 28年度：155件 29年度：129件 30年度：136件 元年度：186件 2年度：164件	**＜課題と対応＞** ―		
		（4）共同調達等の取組の推進 **＜主要な業務実績＞** ・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。 （再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館） ・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した。（PPC用紙及びトイレットペーパー） ・奈良国立博物館では、トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進めることとしている。 ・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙及びトイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。 ・奈良文化財研究所では、PPC用紙及びトイレットペーパーについて、近隣機関の共同調達における納入金額と同額にて独自に調達を実施した。その他の物品の共同調達については、引き続き検討を進める。	**＜自己評価＞** 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進した。 **＜課題と対応＞** ―		
		（5）一般管理費等の削減			

		＜主要な業務実績＞ ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ・共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。 ・業務の効率的な運用と情報共有化のため、機構共通の業務システム及び基盤となるネットワークの運用を継続した。特に情報共有については、グループウェア上の機構内全職員に共有すべき重要情報を整理統合したコンテンツ「機構内共有情報」を29年3月27日に設け、「行事予定一覧」や「機構内研究関連情報」等の共有を効率的かつ分かりやすく行える体制とし、情報の共有化の推進と強化を行った。 ・機構広域ネットワークの刷新を実施し、6施設（東博・京博・奈良博・東文研・奈文研・IRCI）で運用を開始した。（2年度） ②計画的なアウトソーシング ・各施設とも警備業務や来館者対応、清掃業務等について、外部委託を行っている。 ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ③使用資源の減少（省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進） ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等） ・使用資源の推移等 日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施した。新型コロナウイルス感染防止のための臨時休館や職員の自宅待機の影響により、光熱水いずれも使用量が減少した。 電気使用量（前年度比▲2.01%）、ガス使用量（前年比▲4.22%）、水道使用量（前年比▲33.64%）、一般廃棄物（前年比▲20.55%）	**＜自己評価＞** 一般管理費等の削減について、引き続き、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る取り組みを実施した。 各施設においては計画通り節減に努めており、一般管理費の削減については、前中期実績値に対し17.64%減少、業務経費は、前中期実績値に対し17.60%減少となり、計画を達成した。 **＜課題と対応＞** ―		

	２．業務の電子化 **＜主要な業務実績＞** ・機構内の博物館４館の各館所蔵品データを横断的に検索する「国立文化財機構所蔵品統合検索システム」（略称：ColBase）を 29 年３月 27 日に公開した。本システム上のコンテンツの利用については、「政府標準利用規約（第 2.0 版）」に準拠、商業利用を含む二次利用を可能とし、また国際的に普及しているクリエイティブコモンズ（NPO 法人）による CC-BY ライセンスと互換性があるものとなった。これにより政府が推進するオープンデータ政策にも合致することとなった。 ・７月１日発足の文化財活用センターへシステムの運用を引き継ぎ、政府の方針に沿ってオープンデータを推進するため、「e 国宝」「ColBase」の運用を継続した。 ・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web 給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構 VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。３年３月には機構 VPN を刷新し、ファイアウォールの本部事務局での統合管理を可能とした。 ・本部及び東博職員向けに貸出端末 263 台を配布し、在宅でのグループウェアやメールの利用の他、一部の業務システムの利用を可能とした。(2 年度) ・本部及び東博職員向けにオンライン会議アプリを導入し、対面以外での会議や打合せを可能とした。(2 年度)	**＜自己評価＞** 機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努めた。とりわけ、30 年７月１日に発足した文化財活用センターにおいては、「e 国宝」「ColBase」の運用を継続して行い、政府の方針に沿ったオープンデータの推進に取り組んでいる。 また、機構ウェブサイト及び機構共通事務システムの運用を継続するとともに、必要なシステム更新・機能追加を適宜行い、今後の運用に向けた各種対応を進めた。 **＜課題と対応＞** －		
	３．予算執行の効率化 **＜主要な業務実績＞** 「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」(中央省庁等改革推進本部事務局 平成 12 年４月策定，平成 27 年３月総務省行政管理局修正) の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。	**＜自己評価＞** 計画どおり取組を実施した。 **＜課題と対応＞** －		

４．その他参考情報
特になし。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅲ	財務内容の改善に関する事項		
当該項目の重要度、困難度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
自己収入額（千円）	－	実績値	1,538,510	1,817,119	1,714,563	2,260,173	1,917,262	2,016,303	828,947	受託研究・受託事業を除く
寄付金等額	－	実績値	439,574	795,744	753,812	732,210	827,718	884,196	730,711	
施設の有効利用件数	（東博）	実績値	－	652	747	866	781	680	2,150	
うち有償利用件数		実績値	－	434	529	581	485	457	534	
施設の有効利用件数	（京博）	実績値	－	112	105	122	165	196	125	
うち有償利用件数		実績値	－	104	93	86	143	164	111	
施設の有効利用件数	（奈良博）	実績値	－	117	113	111	112	166	84	
うち有償利用件数		実績値	－	33	21	19	18	84	35	
施設の有効利用件数	（九博）	実績値	－	392	355	280	328	349	114	
うち有償利用件数		実績値	－	118	116	96	75	77	4	
施設の有効利用件数	（東文研）	実績値	－	186	185	200	198	125	125	
うち有償利用件数		実績値	－	7	9	10	13	7	0	
施設の有効利用件数	（奈文研）	実績値	－	256	296	347	247	224	43	
うち有償利用件数		実績値	－	43	52	35	29	19	11	
施設の有効利用件数	機構合計	実績値	－	1,715	1,801	1,926	1,831	1,740	2,641	
うち有償利用件数	機構合計	実績値	－	739	826	827	763	808	695	

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
	業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
＜主な定量的指標＞ 【中期目標・計画上の評価指標】 ・展示事業等収入額（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ＜その他の指標＞ ・（関連指標）その他寄附金等収入額 ＜評価の視点＞ ―	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 **＜実績報告書等参照箇所＞** 第４期中期目標期間実績補足資料 P 57～ 59 １．　自己収入拡大への取組 **＜主要な業務実績＞** ・４月１日より、平常展観覧料金を改定した。 （東博）一般 620 円を 1,000 円、大学生 410 円を 500 円に改定した。 （京博）一般 520 円を 700 円、大学生 260 円を 350 円に改定した。 （奈博）一般 520 円を 700 円、大学生 260 円を 350 円に改定した。 （九博）一般 430 円を 700 円、大学生 130 円を 350 円に改定した。 （奈文研）飛鳥資料館の観覧料金を、一般 270 円を 350 円に、シニアの無料措置の対象年齢を満 70 歳に改定した。 【保有資産の保有状況】 令和３年４月１日現在 東京国立博物館 　土地 120,270 ㎡、建物(延面積)78,446 ㎡ 京都国立博物館 　土地 53,182 ㎡、建物(延面積)31,044 ㎡ 奈良国立博物館 　土地 78,760 ㎡、建物(延面積)19,113 ㎡ 九州国立博物館 　土地 159,844 ㎡（うち九博 10,798 ㎡） 建物（延面積）30,675 ㎡（うち九博 9,300 ㎡） ※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,679 ㎡、建物 5,780 ㎡を分有している。また、建物のうち、15,595 ㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 　土地 4,181 ㎡、建物（延面積）10,516 ㎡ 奈良文化財研究所 　土地 46,487 ㎡、建物（延面積）41,418 ㎡	**＜自己評価＞** 評定：B ２年度は、新型コロナウイルスにより博物館の休館などを余儀なくされた影響で、自己収入額は目標値を下回ったが、機構全体として、自己収入の増加に向けた積極的な取り組みを進めた結果、中期目標期間全体として自己収入及び寄付金等のいずれも、目標値を大きく上回る結果となった。 国立文化財機構寄附ポータルサイトを２年８月に開設し、各館各施設への寄附等についてウェブ決済を可能とした。 自己収入においては、目標値 1,538,510 千円のところ、２年度実績は 828,947 千円であり、46.1%減となった。寄付金等においては、目標値 439,574 千円のところ、２年度実績は 730,711 千円であり、166.2%増となった。 博物館・研究所の本来業務以外にも、会議・セミナーのための講堂・会議室の貸与や、建物・庭園等を映画等のロケーションとして貸出すなど部外者に対しても積極的な貸出しを行い、適切に保有資産の有効利用を推進した。 **＜課題と対応＞** 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入館制限による、自己収入の低下に対応するため、多様な財源の確保を図る。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 　中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 　自己評価書の「B 」との評価結果が妥当であると確認できた。 ＜今後の課題＞ 　新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入館制限により，各種事業や自己収入への影響が懸念されるため，ウィズコロナ時代に対応した新たな観覧環境の提供と財源確保策の確立が望まれる。 ＜その他事項＞ 　―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 　中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 　中期目標期間全体として，自己収入及び寄附金等収入について目標額を上回った。令和２年度には平常点の料金改定を行うなど自己収入の拡充に係る取組には評価できる。 ＜今後の課題＞ 　新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入館制限により，各種事業や自己収入への影響が懸念されるため，多様な財源確保策の確立が望まれる。 ＜その他事項＞ 　有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・新型コロナウイルスの影響により休館を余儀なくされたが，期間全体をみると自己収入，寄付金ともに目標値を大きく上回った。
	２．固定的経費の節減 **＜主要な業務実績＞** Ⅱ１．（５）一般管理費等の削減に関する事項に取組んだ。	**＜自己評価＞** 計画通り取組を実施した。 **＜課題と対応＞** ―		

	３．決算情報・セグメント情報の充実等 **＜主要な業務実績＞** 各年度決算において、「独立行政法人会計基準」（27 年 1 月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。 ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。 ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。	**＜自己評価＞** 計画通り取組を実施した。 **＜課題と対応＞** ―		
	４．保有資産の処分 **＜主要な業務実績＞** 処分した保有資産はなかった。	**＜自己評価＞** ― **＜課題と対応＞** ―		

４．その他参考情報
特になし。

様式１－２－４－２　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）様式

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅳ	予算、収支計画及び資金計画		
当該項目の重要度、困難度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価				
中期目標、中期計画				
主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
	業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
＜主な定量的指標＞ 特になし ＜その他の指標＞ 特になし ＜評価の視点＞ 特になし	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 １．予算 ２．収支計画 ３．資金計画 **＜実績報告書等参照箇所＞** 第４期中期目標期間実績補足資料 P 52 ～ 55 **＜主要な業務実績＞** ・各年度当初予算については、前年度中に予算配分を実施し、早期に業務を遂行できる体制を整備した。また、運営費交付金は四半期ごとの入金であるが、あらかじめ国へ四半期ごとの必要額を伝えることにより、計画的な資金管理を実施した。 ・人件費予算は本部一括管理とし、無駄のない効果的な活用を図った。 ・年度内に新たに発生した法人全体又は各施設に関わる業務で緊急性且つ必要性が高いと認められた事業に関しては、理事長了承の下、あらかじめ本部で留保していた予算（理事長裁量経費）を該当施設へ速やかに予算配分することで業務遂行に支障をきたさない運営を実施した。 ・獲得した外部資金の中には精算払のものもあり、資金繰りの悪化が予想される施設にはあらかじめ資金の貸与を行うことで法人全体として効率的な資金管理を実施した。 ・総務担当理事を中心とした検討チームを立ち上げ、有識者や関係各所の意見を踏まえ、４博物館及び飛鳥資料館の平常展観覧料金を２年４月から改定した。	**＜自己評価＞** 評定：B 中期目標を順調に達成したと評価した。 当機構では、概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、各年度内に起こった不測の事態にも速やかに対応できている。 **＜課題と対応＞** ―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 　中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 　自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。 ＜今後の課題＞ 　― ＜その他事項＞ 　―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 　中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 　人件費の一括管理，運営費交付金の四半期ごとの計画立てなど計画的な資金管理が進められた。コロナ禍においても，法人全体として資金繰り対応が行われていることは評価できる。 ＜今後の課題＞ 　― ＜その他事項＞ 　―

４．その他参考情報
特になし。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅴ	その他の事項		
当該項目の重要度、困難度	―	関連する研究開発評価、政策評価・行政事業レビュー	令和３年度行政事業レビュー番号　0417，0418

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報

３．中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
	業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
＜主な定量的指標＞ 特になし ＜その他の指標＞特になし ＜評価の視点＞	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 **＜実績報告書等参照箇所＞** 第４期中期目標期間実績補足資料 P 59～62	**＜自己評価＞** 評定：B 当機構では、すべての項目に対し順調に実施した。 **＜課題と対応＞** ―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 自己評価書の「B 」との評価結果が妥当であると確認できた。 ＜今後の課題＞ ― ＜その他事項＞ ―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期目標に定められた業務が概ね達成されたと認められるため。 中期目標期間をとおして、関係諸規定の整備や内部統制委員会の開催など，内部統制環境の整備・運用を継続して取り組んでいる。 ＜今後の課題＞ ― ＜その他事項＞ 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・社会及び環境への配慮等の状況として、障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応や女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画を策定し５つの目標を達成するなどしている。
	１．　内部統制 **＜主要な業務実績＞** 機構の業務の適正を確保するため、以下の内部統制に係る体制の整備・運用を実施した。 ○業務の有効性及び効率性を確保するための体制の整備 ・内部統制規程の制定（28 年度施行）、「内部統制の基本方針」の制定（28 年度） ・内部統制委員会の開催 28 年度 2 回、29 年度 2 回 30 年度 3 回、元年度 4 回 2 年度 2 回 ・倫理行動指針の制定（28 年度）及び倫理規程の遵守 ・中期計画及び年度計画の作成　等 ・年度計画に基づく業務の適正な管理 ・職務権限等に関する規程等の制定 ・運営委員会の開催 28 年度 1 回、29 年度 1 回　30 年度 1 回、元年度 1 回 2 年度 中止（資料送付） ・役員会の開催 28 年度 7 回、29 年度 8 回　30 年度 7 回、元年度 8 回 2 年度 8 回 ・契約監視委員会の開催 各年度 2 回 ・最高情報責任者及び最高情報セキュリティ責任者の設置（28 年度） ・監査室の設置（28 年度） ・人的資源の管理、等 ○法令等の遵守体制の整備 ・公益通報者保護規程の制定（28 年度施行） ・コンプライアンスに関する研修（28～元年度） ・違反行為等に対する処分、等 ○損失危機管理の体制の整備 ・リスク管理に関する規程の制定（28 年度施行） ・リスク管理委員会の開催 28 年度 2 回、29 年度 2 回 30 年度 3 回、元年度 4 回 2 年度 2 回 ○情報保存管理の体制の整備 ・情報システム・情報セキュリティに関する規程等の制定 ・情報システム・セキュリティ委員会の開催 28 年度 2 回、29 年度 2 回 30 年度 1 回、元年度 1 回、2 年度　中止（グループウェア上で審議） ・個人情報保護や文書管理に関する規程の整備 ・運営上の諸課題への対応方針の決定等については、「役員会」での協議を踏まえて理事長が行った。また、29 年度より、理事長の勤務地（奈文研）と本部の所在地（東博）が離れていることから、引き続き「相談役」に東京国立博物館長を充てるとともに、新たに京都国立博物館を充て、トップマネジメントとそれを支える体制を整えた。 ・各施設間で調整を図る必要がある課題については、毎年度、「国立文化財機構７施設連絡協議会」で協議を行った。なお、28 年度より、これまでの「国立文化財機構７施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」の２つの会議を、会議の省力化等のために一本化した。 ・監事による監査機能・体制の強化への取り組みとして、監事	**＜自己評価＞** 法令等を遵守し、事業を実施した。また、以下のとおり内部統制環境の整備・運用を継続して取り組んでいる。 ・コンプライアンスの徹底を図るべく、関係諸規程の整備を進めている。 ・機構の業務に関する重要事項については役員会で審議し、年８回開催することにより、業務の適正かつ円滑な執行を図ることができている。また、役員会の決定事項は、法人内グループウェアを運用し、役職員に対するミッションの周知を図っている。 ・機構の管理運営の重要事項に当たっては、毎年度開催している運営委員会等により助言を受け、理事長のトップマネジメントを補助する役割を果たしている。 ・役員会や各種会議を通じて、情報の収集やリスクを把握に努め、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握をしている。 ・監事よる業務及び会計にかかる監査を定期的に実施し、監査結果を各種事業に反映させている。 **＜課題と対応＞** ―		

		監査要項、監査実施基準、監査計画（毎年度初策定）をもとに、毎年度、定期及び臨時監査を実施し、有効な監査体制を継続した。 ・監事監査、内部監査等を行った。 ・運営委員会を毎年度 1 回開催（2 年度は新型コロナウイルスの影響により中止）し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。			
		2．その他 （1）自己評価 **＜主要な業務実績＞** 外部有識者が委員となっている外部評価委員会を毎年度３回（部会２回、総会１回）開催し、外部有識者による評価を実施した。また、外部有識者の意見等を踏まえ、「自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。 2 年度は新型コロナウイルスの影響により中止としたが、毎年度運営委員会を開催し、機構の管理運営の重要事項について、理事長への助言がなされた。	**＜自己評価＞** 外部評価委員会及び運営委員会を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価やその結果を組織、事務、事業等の改善に反映させた。		
		（2）情報セキュリティ対策 **＜主要な業務実績＞** 情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準」を踏まえて情報セキュリティ関係規程等を整備・施行した。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT 連絡会にて情報共有、検討を行った。 ・2 年度は、情報セキュリティ監査を、外部機関に委託して実施した。	**＜自己評価＞** 中期計画通り、政府機関の統一基準を踏まえた規程・体制にて運用を継続し、必要な改正等を行うとともに、情報セキュリティ対策を適切に実施した。		
		3．施設設備に関する計画 **＜主要な業務実績＞** 以下のとおり、施設設備に関する計画い沿った整備を推進した。 （東京国立博物館） ・28 年度当初予算より、仮設収蔵庫建設に伴う建設用地の埋蔵文化財発掘調査を実施し 29 年 3 月に完了した。また、仮設収蔵庫等整備は、29 年 11 月より建物本体工事を実施し、令和元年 10 月に竣工した。 ・本館空調機整備他工事は、2 年 1 月に竣工した。 ・本館防水他改修工事は、2 年 3 月に竣工した。 ・柳瀬荘黄林閣（重要文化財）の茅葺屋根の部分葺き替え改修を実施した（29 年 2 月完了）。 （京都国立博物館） ・文化財保存修理所燻蒸設備の更新工事を実施した。（28～29 年度） ・東収蔵庫の改修工事を実施した。（28～30 年度）。 ・本館耐震改修工事を行うための埋蔵文化財調査にかかる予算を確保し、30 年度は建物外周部の調査を行った。（30 年度） ・本館免振改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施したが、調査期間中に方広寺関連遺構が検出され文化庁より追加調査が必要との意向が示されたため、完了予定が 3 年 6 月となる。（2 年度）	**＜自己評価＞** 概ね施設設備に関する計画に沿った整備を推進した。 今後の施設整備計画と予算確保については、一層の取組が必要である。		

		（奈良国立博物館） ・なら仏像館の観覧環境及び展示機能充実のため、内装、照明・空調設備及び展示ケース・展示台を更新した。（27 度予算を繰り越し、28 年 4 月末に竣工） ・保存修理所空調設備改修工事を実施した。（2 年度） （九州国立博物館） ・空調設備（中央監視設備・熱源搬送設備等）改修工事を実施した。（2 年度） （奈良文化財研究所） ・新庁舎建設工事の変更契約を 28 年 5 月に行い、着工した。新庁舎建設工事が平成 30 年 3 月に完成した。 ・30 年度、仮庁舎から新庁舎への移転、仮庁舎解体及び現状復旧を実施した。 ・30 年度、飛鳥資料館の冷暖房機用煙突について、飛鳥資料館煙突（冷暖房機用）取替工事で新たに煙突を設置し、既存の煙突を封じ込めた。			
		4．人事に関する計画 （1）方針 **＜主要な業務実績＞** ・研究職員の人事に関して、28 年度、人事選考委員会において、研究職員の人事の在り方（採用、施設間異動、他機関への異動、女性職員の幹部登用）について検討した。 採用については、理事長、理事、施設の長で構成する研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用を必要とする専門性（分野）、採用時期等を審議し、決定することとした。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みとした。 ・事務系職員の人事については、毎年度、各施設へのヒアリングを実施した。 ・29 年 10 月より常勤職員を対象として評価制度の施行を開始した。 ・その他、地方公共団体から研修生を受け入れ、交流の促進を図った。 ・能力や適性に応じた採用・人事を実施するため、28 年度には、60 歳を超える優秀な人材を採用することができるよう、任期付職員制度の改定を行った。29 年度は、係員相当の職以外も担当できるよう再雇用制度の改定を行った。 ・女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を実施した。28 年度は、育児・介護休業法及び男女雇用機会均等法の改正に伴い、機構における関係規程を改正した。また、ハラスメント防止を目的とした研修を開催し、外部講師による専門的見地からのアドバイスによりハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。29 年度は、育児と仕事の両立の観点より、有期雇用職員の育児に関する休暇について有給化の改正を行った。30 年度は、全職員向けにＥラーニングによるハラスメント防止研修を実施し、ハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。 能力、適性に応じた採用及び人事配置を行うべく、下記のとお	**＜自己評価＞** ・事務系職員の人事について、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を推進した。研究系職員の人事についても、人事選考委員会を通した採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織としての包括的な人事計画に向けて取り組んでいる。 ・中期計画に沿って階層別研修を実施することで、職員のキャリアパスに寄与することができた。 **＜課題と対応＞** ―		

り、常勤職員等の計画的な採用を実施した。

○28 年度採用等
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 2 名、技能・労務職員 3 名、研究職員 11 名、及び新たに平成 26 年度より機構の専門的分野・事項を取り扱う職として専門職制度を創設し、専門職 1 名の計 17 名を採用した。
・平成 20 年度に整備した有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の人事制度により、平成 28 年度は東京国立博物館で 7 名、京都国立博物館で 2 名、東京文化財研究所で 9 名、奈良文化財研究所で 8 名及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで 4 名の計 30 名を採用した。
・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。

○29 年度採用等
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 1 名、技能・労務職員 2 名、研究職員 10 名、及び新たに平成 26 年度より、機構の専門的分野・事項を取り扱う職として専門職制度を創設し、専門職 1 名の計 14 名を採用した。
・アソシエイトフェローを 29 年度は機構全体で計 34 名を採用した。
・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。

○30 年度採用等
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 11 名、技能・労務職員 2 名、研究職員 14 名、専門職 7 名の計 34 名を採用した。
・アソシエイトフェローを 30 年度は機構全体で計 30 名を採用した。
・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。

○元年度採用等
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 13 名、技能・労務職員 1 名、研究職員 11 名、専門職 3 名の計 28 名を採用した。
・アソシエイトフェローを、元年度は機構全体で計 32 名を採用した。
・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な人員配置を行った。

○2 年度採用等
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に事務系職員 8 名、技能・労務職員 1 名、研究職員 12 名、専門職 3 名の計 24 名を採用した。
・アソシエイトフェローを、2 年度は機構全体で計 23 名を採用した。
・国立大学等との人事交流を引き続き行うなど職員の計画的な

人員配置を行った。

グローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図るべく、下記のとおり、多種の研修を実施した。
○28 年度研修件数及び参加者数 9 件（延べ 895 名）
・新任職員研修会 1 件（45 名）
・会計事務研修会 1 件（27 名）
・施設系職員研修会 1 件（13 名）
・研究倫理教育研修（e-ラーニング等）1 件（300 名）
・ハラスメント防止に関する研修 1 件（80 名）
・情報セキュリティ研修 1 件（45 名）
・接遇研修 1 件（45 名）
・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件（260 名）
・産業医による講習会 1 件（80 名）
○29 年度研修件数及び参加者数 10 件（延べ 728 名）
・管理職研修 1 件（45 名）
・新任職員研修 1 件（53 名）
・研究倫理教育研修(e-ラーニング等)1 件（160 名）
・会計事務研修 1 件（47 名）
・施設系職員研修 2 件（21 名）
・ハラスメント防止に関する研修 1 件（60 名）
・情報セキュリティ研修 1 件（45 名）
・接遇研修 1 件（17 名）
・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件（280 名）
○30 年度研修件数及び参加者数 12 件（延べ 1,571 名）
・中間職研修 1 件（55 名）
・新任職員研修 1 件（44 名）
・研究倫理教育研修(e-ラーニング等)1 件（216 名）
・会計事務研修 1 件（24 名）
・施設系職員研修 2 件（26 名）
・ハラスメント防止に関する研修 1 件（47 名）
・健康管理に関する研修 1 件（47 名）
・情報セキュリティ研修 1 件（43 名）
・接遇研修 1 件（22 名）
・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件（371 名）
・ハラスメント講座、情報セキュリティ入門講座 1 件（676 名）

○元年度研修件数及び参加者数 11 件（延べ 1,085 名）
・新任職員研修 1 件（61 名）
・初任層研修 1 件（45 名）
・ハラスメント相談員研修　1 件（38 名）
・研究倫理教育研修(e-ラーニング等)1 件（271 名）
・会計事務研修 1 件（21 名）
・施設系職員研修 1 件（12 名）
・CS（来館者満足度）向上・クレーム対応研修 1 件（47 名）
・ハラスメント防止に関する研修 1 件（61 名）
・健康管理に関する研修 1 件（61 名）
・情報セキュリティ研修 1 件（61 名）
・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件

		（407 名） ○2 年度研修件数及び参加者数 5 件（延べ 1,557 名） ・新任職員研修　新型コロナウイルス感染症のため 3 年度に延期 ・研究倫理教育研修(e-ラーニング等)1 件（287 名） ・会計事務研修 1 件（27 名） ・施設系職員研修 1 件（12 名） ・情報セキュリティ研修(e-ラーニング等)（817 名） ・コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）1 件（414 名） 4．（2）人員に係る指標 **＜主要な業務実績＞** Ⅱ 1．（2）人件費管理等の適正化に関する事項に取り組んだ。 5．中期目標期間を超える債務負担 **＜主要な業務実績＞** ― 6．積立金の使途 **＜主要な業務実績＞** ―			

4．その他参考情報
特になし。

（別添）中期目標、中期計画、年度計画

項目別調書 No.	中期目標	中期計画
No. Ⅰ―1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 文化財機構が設置する東京国立博物館，京都国立博物館，奈良国立博物館及び九州国立博物館（以下総称して「国立博物館」という。）は，それぞれの設置の経緯を踏まえ，既に多くの収蔵品及び寄託品（以下「収蔵品等」という。）を収集・保管している。多くの文化財は，経年の自然劣化と材質の脆弱性等によるコンディションの変化にさらされており，収蔵品等の収蔵施設と展示施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，温湿度，照度，防虫，防カビ等の環境を最適の状態にすることが求められている。このため国立博物館は，施設設備を適切に維持管理し，その長寿命化を図るとともに，収蔵機能の最適化を図る必要がある。 また，有形文化財（美術工芸品）の収集等については，国立博物館における調査研究の成果に基づき，体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の充実を図るため，計画的に行うこととする。有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等については，その状態に応じて適切な保存・展示環境を整えるとともに，必要な修理等を施すこととする。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。 ① 国立博物館の施設設備の整備 ● 施設設備の点検・診断の結果に基づき，必要な対策を適切な時期に，着実かつ効率的に実施するとともに，これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し，次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を構築し，継続的に発展させていくこと。 ● 東京国立博物館の本館及び表慶館，京都国立博物館の本館並びに奈良国立博物館の本館は，有形文化財（美術工芸品）の収蔵・展示施設であると同時に，建物自体が重要文化財であることを考慮し，適切な保存を図りながら活用を図ること。 ② 有形文化財（美術工芸品）の収集等 ● 国立博物館は，中期目標の期間における有形文化財（美術工芸品）の収集に関する方針を，自らの調査研究の成果に基づき策定し，互いに情報を共有しながら購入を進めること。また，寄贈の申出があった場合は，同様に調査研究の成果に基づき，適切に取り扱うこと。 ● 他の所有者からの国宝・重要文化財の寄託については，文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第 48 条による文化庁長官による公開（勧告・承認出品）又は同法第 53 条による所有者以外による公開（公開承認施設における公開）のための役割を担っていることに留意し，適切に取り扱うこと。 ③ 有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 ● 有形文化財（美術工芸品）の状態に応じて，収蔵施設の収容率，温湿度等の環境を一定の基準で管理し，必要に応じて改善等の措置に要する予算等の計画を策定すること。 ● 収蔵品等の管理に必要なデータの整備（画像データ，テキストデータ等）を進めること。 ● 国立博物館は，有形文化財（美術工芸品）の状態に応じた修理等方針を策定し，計画的に修理等を行うこと。	（1）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成 32 年度までに構築し、継続的に発展させる。 （東京国立博物館） 開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、 2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。 （京都国立博物館） 京都国立博物館本館（明治古都館の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。 （奈良国立博物館） 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び 展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。 （九州国立博物館） 開館から 10 年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財 の収集 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 2)寄贈・寄託品の受入れ等 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。 ③有形文化財 の管理・保存・修理等 1)有形文化財 の管理 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館 活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 2)有形文化財の保存 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。 3)有形文化財の修理

	（２）展覧事業 有形文化財（美術工芸品）の保護は，保存と活用のバランスをとりながら行うことが肝要であるが，国立博物館は国全体の 22%に相当する国宝・重要文化財（美術工芸品）を収蔵等しており（収蔵品 1,084 件，寄託品 1,403 件，平成 27 年度当初），これらを公開することは，文化財保護法に基づく重要な役割のひとつである。また国宝・重要文化財にかかわらず，国立博物館は約 13 万 8 千件（平成 27 年度当初）の収蔵品等について，専門的な調査研究を行い，その成果を反映しながら展覧事業において計画的に展示することが使命である。 さらに収蔵品等以外の文化財も含め特定のテーマの下に企画する特別展は，新たな知見を拓き，文化財の価値をより広く深く理解することに大きく寄与するものであり，質の高い展示を提供する必要がある。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。 ① 平常展 ● 収蔵品等の状態に留意しつつ，できるだけ多くそれらを平常展で展示し，日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう努めること。 ② 特別展等 ● 調査研究の成果を基にした特定のテーマの特別展や，国際文化交流の進展を目的する特別展等（外国における展覧事業も含む）を，計画的に開催することとし，その質の向上に努めること。 ③ 観覧環境の向上等 ● 外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう，来館者の満足度を満たす多言語化，バリアフリー化，ユニバーサルデザイン化等を推進するとともに開館時間の延長等，混雑時の対応やミュージアムショップやレストラン等のサービスの改善等，来館者に配慮した運営を行うものとする。	修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。 4)文化財修理施設等の運営 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。 （２）展覧事業 展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、 2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の 文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。 ①平常展 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ②特別展等 1)特別展 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 （東京国立博物館）年３～4 回程度 （京都国立博物館）年１～２回程度 （奈良国立博物館）年２～３回程度 （九州国立博物館）年２～３回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。 2)海外展等 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。 ③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し、来館者に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 1)快適な観覧環境の提供 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が 80%を超えることを目指す。
	（３）教育普及活動等 国立博物館が行う講演会等のイベントや各種図録の出版等の教育普及活動は，展覧事業の効果を高めるとともに，有形文化財（美術工芸品）の収集や修理等を含め，国立博物館の多様な業務を広く普及する上で不可欠であり，その重要性は高まっている。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。 ① 教育普及活動の充実 ● 講演会，ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し，来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に努めること。 ● 講演会等のほか，体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により，幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供すること。 ● その他教育普及活動として，ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組に努めること。 ② 有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信と広報の充実 ● 展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報に努めるとともに，ウェブサイトにおいて収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報を公開し，その質的向上と量的拡充に努め，アクセスの増加を図ること。	（３）教育普及活動等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。 ①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 1)学習機会の提供 講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。 2)ボランティア活動の支援 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。 3) 大学との連携事業等の実施 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。 5)博物館支援者増加への取組 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。 1)有形文化財に関する情報の発信 ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 2)資料の収集と公開 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。 3)広報活動の充実 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。
	（4）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。 【中期目標期間において推進するべき具体の調査研究の方針】 ● 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展示等に係る調査研究 収蔵予定又は収蔵している有形文化財（美術工芸品）若しくは特別展等で借用する有形文化財（美術工芸品）について，科学的手法を適切に	（4）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 収蔵品・寄託品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究、各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する基礎的かつ総合的な調査研究、及び歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信する。 ②その他 有形文化財に関連する調査研究 文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施する。また、将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施する。 ③国内外の博物館等との学術交流等 我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・

	用いて，学術的・芸術的な価値の究明とコンディションの分析等を行い，適切な保管・展示の環境維持や修理等の処置に資すること。また，将来にわたる収集活動，展覧事業の企画等に資するよう，有形文化財（美術工芸品）全般に及ぶ調査研究を行うこと。 定期刊行物，図版目録，特別展等図録，研究紀要及び調査報告書等（以下「刊行物等」という。）に関する刊行計画を策定し，これに従い刊行して，有形文化財（美術工芸品）に関する調査研究の成果等の発信に努めること。また，著作権処理の可能なものについては，学術情報リポジトリ等を参考にウェブサイトで公表するよう努めること。 （５）国内外の博物館活動への寄与 国立博物館は，多くの有形文化財（美術工芸品）を収蔵等しており，従来，国内外の博物館等における展覧事業への出品要請等に対応するとともに，展覧事業の企画等への援助・助言等を行っている。これらの業務を通じて，国内外の博物館活動へ寄与することは重要であり，次の目標に従い業務を行うこととする。 ①　国内外の博物館等への有形文化財（美術工芸品）の貸与 ● 国内外からの博物館等からの有形文化財（美術工芸品）の貸与等の依頼に対し，国宝・重要文化財の場合は文化財保護法の規定にのっとり適切に対処するとともに，各文化財の保管・展示状況，コンディション，貸出先の施設の状況等を総合的に勘案し，積極的に応じること。 ②　国内外の博物館等への援助・助言等 ● 国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し，可能な限り積極的に応じること。	共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019 年 ICOM 京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。 ④調査研究成果の公表 文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。 （５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。 ②国内外の博物館等への援助・助言等 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。
No. Ⅰ―２ 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施 文化財は，我が国の歴史，文化等を正しく理解するために欠くことのできない国民共有の財産であり，これを確実に保存し，活用を図りながら次世代に継承するためには，その基盤となる専門的な調査研究の蓄積が欠かせない。 文化財保護法において文化財は，有形文化財，無形文化財，民俗文化財，記念物，文化的景観，伝統的建造物群の６種に分類され，加えて埋蔵文化財並びに文化財の保存技術が規定される。例えば国の重要文化財の指定等においては，その価値を判断するための基準を文部科学省告示で定めているが，芸術的価値，歴史的価値，文化的価値，学術的価値などが評価の対象とされている。これらの価値判断を行うためには，科学技術の応用を含む学術研究の成果に基づく客観的な指標が必要であるが，様々な分野の研究の進展に伴い，指標そのものが時代とともに変化していく性質を有している。このため継続的な研究蓄積の基盤に立ち，これらの変化に対応して，ゆるぎない信頼を得ることが重要である。 また，有形の文化財は物理的な変化は避けられず，無形の文化財の伝承は人々の活動に委ねられており，両者とも確実な保存のための措置が必要となる。このため，文化財をよりよい状態で将来に継承するためには，文化財の現状把握と記録を含む各種調査研究が必要であり，科学技術の応用によってその精度を高めることで，修理等における真正性の継承に寄与することが期待できる。さらに，確実な保存を前提に文化財の適切な活用を図ることは重要であり，各種調査研究に基づいた 活用の施策が求められる。 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所（以下総称して「文化財研究所」という。）は，文化財保護法が制定されて間もない昭和 27 年の設置以来，文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査研究を継続して実施してきている。今後とも文化財研究所は，これらの調査研究の蓄積を	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査研究を行う。 （１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。 ①　有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 1)我が国の美術を中心とする 有形文化財 等に関する調査研究 我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 建造物に関しては、古代建築の保存に資するため、法隆寺古材調査を中心とする古代建築調査を行って古代建築及びその修理過程等を明らかにする。また、近世・近代の建造物等の調査研究を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、薬師寺・仁和寺等の近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与

	基盤として，将来にわたって新たな知見の開拓につながる文化財に関する探求的な調査研究に挑むことが重要である。同時に，最先端の科学技術の応用を積極的に試み，文化財の調査手法や保存修復等に関する研究の進展に努める責任がある。これらの調査研究を推進するため，重点的に取り組むべき具体の調査研究を別紙１に掲げるとおりとするとともに，評価に当たっては，別紙２に掲げる評価軸，評価指標等に基づいて実施することとする。 また，文化遺産保護に関する国際協働に寄与するため，関係する国際条約や「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律（平成十八年法律第九十七号）」を始めとする関係法令等に基づく施策等の実施に，文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターは積極的に取り組むこととする。 さらに，これらの調査研究及び国際協働等に関する情報・資料・研究成果等を公表するとともに，地方公共団体等の職員を対象とした文化財に関する専門的研修や，国・地方公共団体等に対する文化財の調査及び保護に関連した協力等を行うこととする。 以上を踏まえ，次の目標に従い業務を行うこととする。 （１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ① 有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究 文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，各時代の絵画・彫刻，古代建築，近畿地方を中心とする寺社の歴史資料・書跡資料，重要伝統的建造物群保存地区の候補となりうる伝統的建造物群に関する研究に重点的に取り組むものとする。 ② 無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究 無形の文化財の現状把握と記録に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，重要無形文化財を中心とする古典芸能，伝統工芸技術及びそれに関わる文化財保存技術，重要無形民俗文化財を中心とする民俗芸能，風俗慣習，民俗技術に関する研究に重点的に取り組むものとする。 ③ 記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究 文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，古代日本の都城遺跡（平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡）の発掘調査，史跡等の保存と活用の在り方，近世・近代の庭園，重要文化的景観及びその候補となりうる文化的景観の保存・活用実態，水中文化遺産及び古代官衙遺跡等に関する研究に重点的に取り組むものとする。 （２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ① 文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図ることとし，可搬型分析機器を用いた調査方法，デジタル画像の形成方法等，埋蔵文化財の探査・計測等の調査手法，年輪年代学による木造文化財の年代確定，動植物遺存体等の調査手法に関する研究に重点的に取り組むものとする。 ② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存に関する研究の進展を図ることとし，生物被害の予防と対策，文化財の保存環境と維持管理，文化財の材質・構造等の科学的分析，屋外文化財の劣化予防，文化財の修復方法と材料，考古遺物の保存処理法，建造物の彩色技法と材料，近代文化遺産の保存修復，高松塚古墳・キトラ古墳の保存対策に関する研究に重点的に取り組むものとする。	する。 1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究 重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。 2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究 無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。名勝については、近世の庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。 5)水中文化遺産に関する調査研究 国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存 活用の事例を調査し、今後の取組に資する。 （２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。 ①文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や３Ｄ記録製作等について研究開発を進める。 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。ま

		た、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。 4)動植物遺存体の分析方法の研究 開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。 ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 1)生物被害の予防と対策に関する調査研究 大規模燻蒸に替わる虫菌害対策のシステム化をより向上させるため、浮遊微生物量の短時間・連続測定など新しいモニタリング技術について基礎研究を行う。屋外環境においては、木造建造物や古墳など環境制御が困難な場所における生物被害の予防策および対処法に関する調査研究を行う。 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 文化財の展示照明として導入が進む白色 LED 、有機 EL 光源が文化財の保存に与える影響並びにその展示照明としての評価方法 を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また、文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、空気清浄化マニュアルを作成して成果普及を図る。 3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅（真鍮）材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型 X 線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。 4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 屋外に所在する石造物や木造建造物等について、凍結劣化や塩類風化、頻繁な生物被害などの屋外特有の保存環境要因、及び地震や水害などの自然災害による劣化・破損を軽減するための方法について調査研究を行う。 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。 6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。 7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。 8)建造物の彩色に関する調査研究 南都の寺社等の歴史的建造物の塗装彩色の修理に資するため、技法及び材料調査を実施するとともに、復元された平城宮跡大極殿において塗装彩色の経年変化のモニタリング法に関する研究を行う。 9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 コンクリート構造物やレンガ構造等による産業・交通・土木関連の施設や機械類、合成樹脂等の複合的な材料が使われている美術工芸品など、近代文化遺産の保存や修復に必要とされる理念・技術・方法を研究し、保存管理計画等の策定に寄与する。 10）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。

	（３）文化遺産保護に関する国際協働 文化遺産の保護に関する国際的な協力については，「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針（平成 26 年 2 月 21 日 外務省・文部科学省告示第 1 号）（以下「基本方針」という。）」等に従い行うこととし，以下のとおり目標を定める。 また，アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関し，ユネスコと日本国政府の間の協定に基づき設立されたアジア太平洋無形文化遺産研究センターについて，以下のとおり目標を定める。 ① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 ● 基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつ つ，文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担う こと。 ② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 ● 基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の④に掲げる文化財機構の役割に従い，文化遺産国際協力を推進する。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。 また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。 2)文化遺産保護協力事業の推進 諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用 に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。
	（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 ● 研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的として，文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し，公開すること。 ● 調査研究の成果を刊行物，講演会等を通じて広く公表するとともに，平城宮跡資料館・飛鳥資料館等の公開施設において公開すること。なお可能な限り，調査研究に関する論文等について，学術情報リポジトリ等としてウェブサイトでの公開に努めること。	(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。
	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ● 地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について，研	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を

	修項目，課程等の体系を示し，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施すること。 ● 文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について，可能な限り専門的・技術的見地から適切な協力等を行うこと。	策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 ①文化財に関する研修の実施 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。 ②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 ④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 ⑤文化財等の防災・救援等への寄与 巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。 1)体制づくり 有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。 3)人材育成等 の実施 文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。
No. II 業務運営の効率化に関する事項	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとする。特に，第 25 回世界博物館大会（2019 年 ICOM 京都大会）及び 2020 年東京大会の開催等を踏まえ，法人の事業全体を通じて，横断的に国際業務を推進する体制の整備に努めることとする。 （２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。 （３）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。 （4）共同調達等の取組の推進 周辺の機関と連携し，コピー用紙等の消耗品や役務について，共同して調達する取組を年度計画等に具体的な対象品目等を定めた上で進めるものとする。 （５）一般管理費等の削減 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。 （２）人件費管理等の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。 （３）契約・調達方法の適正化 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。 （4）共同調達等の取組の推進 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。 （５）一般管理費等の削減 中期目標の期間中、一般管理費については１５%以上、業務経費については５%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項（２）及びIX4. に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

	閣議決定）等を踏まえ，国民に対して提供するサービスの質の維持向上に十分配慮しつつ，自主的・戦略的な業務運営を行い，最大限の成果を挙げていくために，調達の合理化を推進するなど一層の業務の効率化を推進することとする。具体には，文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５%以上，業務経費については５%以上の効率化を図ることとする。 ２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，オープンデータの推進，業務・システムの最適化等を図ることとし，ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。 ３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	具体的には下記の措置を講じる。 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進 ２．業務の電子化 機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。 ３．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。
No. III 財務内容の改善に関する事項	１．自己収入拡大への取組 展覧事業のサービスの向上に努め，安定的な自己収入の確保を図るとともに，業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため，会員制度の充実，寄附金等の外部資金の募集，保有財産の有効利用の推進，競争的資金の獲得等多様な取組を進めることとし，前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得るものとする。 ２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに，効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 文化財機構の財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 4．保有資産の処分 保有資産の見直し等については，「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成 26 年 9 月 2 日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき，保有の必要性を不断に見直し，保有の必要性が認められないものについては，不要財産として国庫納付等を行うこととする。	１．自己収入拡大への取組 展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。 ２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 4．保有資産の処分 保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成 26 年 9 月 2 日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。
No. IV 予算、収支計画及び資金計画	－	管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組 を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。
No. V その他の事項	１．内部統制 法令等を遵守するとともに，コンプライアンスの徹底，経営層による意思決定，内部規定整備・運用，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を整備・運用し不断の見直しを行う。また，整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに，監事による監査機能・体制を強化する。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させるものとする。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については，政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ，情報セキュリティ・ポリシーを適時適切	１．内部統制 コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講

	に見直すとともに，これに基づき情報セキュリティ対策を講じ，情報システムに対するサイバー攻撃への防御力，攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 　また，対策の実施状況を毎年度把握し，ＰＤＣＡサイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。	じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 　また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。 ３．施設設備に関する計画 　施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。 4．人事に関する計画 （１）方針 ①中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。 ②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。 ③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。 ④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。 （２）人員に係る指標 　給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 　　１３，６４４百万円 　但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。 ５．中期目標期間を超える債務負担 　中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。 ６．積立金の使途 　前中期目標期間の最終年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和２年度－

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

目次

1. 外部評価委員会評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 外部評価委員会評価報告

総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

博物館部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

研究所・センター部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

3. 外部評価委員会委員名簿

博物館部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

研究所・センター部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

令和2年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価に対する外部評価委員会評価結果

中期目標大項目	中項目	小項目	自己点検評価	部会評価	総会評価	業務のまとまり
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	(1)有形文化財の収集・保管、次世代への継承	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 B 出川 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	博物館
		(2)展覧事業	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 B 出川 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
		(3)教育・普及活動	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 B 出川 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
		(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	B 名児耶 A 浜田 B 小松 B 榊原 B 出川 B	B 河合 A 小笠原 B 坂本 B 名児耶 A 寺崎 B	
		(5)国内外の博物館活動への寄与	B	B 名児耶 B 浜田 B 小松 B 榊原 B 出川 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
	2．文化財及び海外の文化遺産保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	B	B 寺崎 B 齋藤 B 児島 A 寺田 B 柳林 A	B 河合 A 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	研究所・センター
		(2)科学技術を応用した研究開発の進展に向けた基盤的な研究	A	A 寺崎 A 齋藤 A 児島 A 寺田 A 柳林 A	A 河合 A 小笠原 A 坂本 B 名児耶 A 寺崎 A	
		(3)文化遺産保護に関する国際協働	B	B 寺崎 B 齋藤 A 児島 B 寺田 A 柳林 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
		(4)文化財に関する情報資料の収集・整備に関する調査研究成果の公開・活用	A	A 寺崎 A 齋藤 A 児島 A 寺田 A 柳林 A	A 河合 A 小笠原 A 坂本 B 名児耶 A 寺崎 A	
		(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	B	B 寺崎 B 齋藤 B 児島 B 寺田 B 柳林 B	B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項			B	—	— B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	法人共通
Ⅲ．財務内容の改善に関する事項			B	—	— B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
Ⅳ．予算、収支計画及び資金計画			B	—	— B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	
Ⅴ．その他事項			B	—	— B 河合 B 小笠原 B 坂本 B 名児耶 B 寺崎 B	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和２年度－

総会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（総会）
まとめ

機構全体評価へのコメント	
河合委員長	新型コロナウイルス感染症の広がりによって当年度は、ほとんどあらゆる業種において活動に制約がかかり、当初計画通りの実施が困難であったと思う。その制約や不測の事態の発生があったこと等を踏まえ、正常時とは些か異なる基準を立て、外部評価もしなくてはならないであろう。以下、わたしはその考えに基づき、出来るだけ公平正当な、外部評価委員としての評価を行うことに務めた。
小笠原委員	新型コロナウイルスの影響の直撃を受けた１年であったといえる。しかしこうした時こそ文化が殺伐とした国民の気分を癒し、明日への希望や活力を生む源泉になるものである。そうしたなかにおいては、将来への連続性を有した活動を行った１年でもあることを高く評価したい。ワクチン接種による正常化を早く期待したいが、それまでの間の展示活動を含む当機構のさらなる創意工夫に期待していきたい。
坂本委員	新型コロナウイルスの感染が広がり、幾度もの緊急事態宣言が発出されて対応に苦慮する１年となったが、いずれの博物館、研究所、センターとも、制約のなかで最大限の努力と挑戦を重ねてこられた。文化を守る使命を全うされたことに心より敬意を表する。
名児耶委員 （博物館部会長） ※以降同じ	稀に見る困難な状況下にもかかわらず、調査研究とその成果を展示と結びつける活動などで健闘していたと思われる。特別展も重要ではあるが、通常の文化財の研究とその成果をひろく知らしめること、通常展が基本的重要な活動であることを考えさせられた一年であったと思う。
寺崎委員 （研究所・センター部会長） ※以降同じ	全世界に及ぶ新型コロナウイルスの蔓延という未曾有の事態をむかえ、各機関ともにその対応に追われる困難な１年となった。そうした中で、それぞれの立場で、今なすべきこと・出来ることと出来ないことを決断し、必死の努力を重ねていることに、敬意を表したい。 こうした状況下での評価は難しいものの、全体としては所期の目標を達成していると考える。

〔博物館業務〕

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価　B　　委員評価　B

委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	収集・保管に対しては各館の努力によって一定の成果を上げていると評価出来る。作品の収集の充実は、博物館活動等に多彩・多様さをもたらすことは、言うをまたないが、それには部会委員の発言にもあるように、資料購入の予算的裏付けが不可欠である。と、同時に、購入に一定の限界があるのであれば、これを補完する意味での上質な作品の寄贈や寄託に努める必要がある。なお、各館とも文化財の保存修理には評価すべき実績を上げていると言ってよい。
小笠原委員	B	コロナ禍のなかでは活動がおおいに制限されたものと推察する。そうしたなかで、収集、寄贈は大変だったかと思うが、東博での活動は特筆すべきものと思料する。
坂本委員	B	有形文化財の収集や受入れが停滞することなく進捗していると知って安堵した。寄贈者へのサポートも行われているとのこと。貴重な作品の数々を国民の共有の財産として受け継いでいただきたい。
名児耶委員	B	購入品、寄託品は、着実に増加、毎年少しずつでも収集していることが評価できる。修理、保存活動にも成果を上げていると認められる。別に意見があるように、確かに収蔵庫等の保管場所対策も必要となるだろう。
寺崎委員	B	着実かつ適切に運営されていると認められる。

（2）展覧事業		
自己点検評価　B		委員評価　B
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	「きものKIMONO」（東博）「聖地をたずねて」（京博）「よみがえる正倉院宝物」（奈良博）「中宮寺の国宝」（九博）等は、展示の目指すところおよび企画の内容、その事前準備状況（調査研究）などから評価すべきと判断される。入場者目標には達していないが問題とすべきでない。なお、予約制が取られていたが、予約制の導入等に関しては、方法や広報等を含め、今後引き続き検討課題としてほしい。
小笠原委員	B	入館者数が目標数値を大きく下回ったのは、新型コロナウイルスの影響を通年にわたって、受けたものであり、中止した展示も多々あり、やむを得ないと考える。こうした状況下で「きもの　KIMONO」や「皇室の名宝」などは大変充実した特別展であったと評価する。
坂本委員	B	特別展の中止や入館者数の制限など困難に見舞われたが、来場者アンケートの満足度の高さが示すように、機構の活動は不要不急ではなく、必要不可欠。状況に合わせて工夫をしながらも、臆せず取り組み続けることを強く要望する。
名児耶委員	B	コロナによる様々な影響下においても健闘している。東博「きもの展」や京博「皇室の名宝」等のような展示は、日本文化を広く認知させる試みとして良いと思う。
寺崎委員	B	各館とも、様々な特別展・企画展示を準備したにもかかわらず、コロナ禍により縮小・中止が強いられたことは、担当者にとってきわめて残念なことであったろうと推察する。例年に比べて拝観する機会が減ったが、その中で印象に残ったものとして、特別展「皇室の名宝」（京博）、特集「国宝『日本書紀』と東アジアの古典籍」（同）、「帝国奈良博物館の誕生」（奈良博）があった。今後は、コロナ後を見すえた上で、引き続き平常展の充実を望みたい。なお、入館料の値上げや事前予約制の是非についての来館者の反応なども気になるところである。

（3）教育・普及活動		
自己点検評価　B		委員評価　B
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	各館ともいわゆる新型コロナの影響のもとで、それぞれに工夫を凝らし、一定の成果を上げたものと評価したい。オンラインの活用、ウェブサイトによる情報発信等については、日本全国の美術館・博物館が取り組むことになったが、独法各館においても今後引き続き、ナショナルセンターとして、その活用に関して研究してほしい。
小笠原委員	B	リアルな活動が制限される中、ウェブサイトからの情報発信やオンラインによる研修等で今後も成長していただきたい。
坂本委員	B	ＳＮＳの活用が拡大している点を評価する。私も登録して、楽しませていただいている。とはいえ十数万人のフォロワーを持つ小規模民間美術館も存在する。さらに魅力的なコンテンツ発信でファン層の拡大をお願いしたい。
名児耶委員	B	コロナの影響で、教育、普及活動はより困難な中で、新しい工夫での対応でまずまずの成果をあげていたと判断できる。
寺崎委員	B	この活動においてもコロナ禍の困難な状況において、オンラインの活用や、動画配信といった形で、成果を挙げていると評価される。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
自己点検評価　B		委員評価　B
委員名	委員評価	コメント

河合委員長	A	博物館事業として、今後重要視されるのは、特に教育普及活動であると愚考するところである。名児耶博物館部会長が指摘するように、研究成果の公開と展示活動の充実に評価すべきところが多く、今後博物館活動の中心となり、これが維持されることに期待を込めて小職もA評価を与えたい。
小笠原委員	B	各活動においても制約されている中での工夫が多くみられる。中でも奈良や九州でのA評価事業については、非常に充実した活動であったことが評価できる。
坂本委員	B	オンラインシステムを使った取り組みやインクルーシブデザインの導入など新しい取り組みも見られて、今後への可能性を感じる。
名児耶委員	A	全体に研究成果の公開と展示活動が充実しはじめていると感じられされ、評価して良いと思う。こうした活動が継続されることを望み、博物館活動の中心となるべく維持されることが期待したい。
寺崎委員	B	担当諸氏による調査研究が十分になされ、その成果が報告書・紀要等に反映されていると考える。

（5）国内外の博物館活動への寄与

自己点検評価　B　　委員評価　B

委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	当年度は、非常に活動の難しい状況にあったことは自明である。榊原委員の指摘のように、作品、それも芸術的・歴史的に優れた優品を、実際に自らの眼で見ること触れることこそが、その理解に繋がり、高い教育的効果を上げる最短の道と言える。国内外への出前展の活発化が期待される。その実施にあたっては、企画がいわゆるお仕着せ的なものではなく、当該開催館の希望や企画内容を反映するものであることに留意して欲しい。
小笠原委員	B	一番制約の影響を受けた分野であると思われ、これ以上のコメントは差し控える。
坂本委員	B	海外関係を中心に延期や中止された計画は多かったが、国内貸与など先方と協議しつつ丁寧に丹念に取り組んでいる。
名児耶委員	B	困難な状況下では海外での活動は難しかったとは思われるが、目標の成果はあげたと思われる。
寺崎委員	B	人の移動が極端に制約された中で、方法を工夫することによって、所期の目的を達成したと判断される。

〔研究所・センター業務〕

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価　B　　委員評価　B

委員名	委員評価	コメント
河合委員長	A	各委員が指摘するように、コロナ禍にあってしかなし得ない調査や研究がなされたことは十分に評価されて然るべきである。その成果の公表や報告書等の発行は、今後の、研究やパンデミック対応のための資料として大きな礎としての役割を果たすものである。
小笠原委員	B	無形文化財の継承は、対面によって得られることが大きいと推察され、この制約下では、非常に大変なことであったと思う。
坂本委員	B	海外とのやりとりが抑制されるなか、デジタルデータの公開や充実が順調に実現できており、また発掘調査なども進められており、研究が継続できていることを評価する。
名児耶委員	B	委員の多くが感じていると思うが、コロナ禍の中でも調査研究を地道に実施、着実に目標を達成していると判断できる。
寺崎委員	B	東文研による、無形文化財へのコロナの影響を調査し、対応策などの情報発信を行い、その報告書を刊行したことは、時宜を得たものと評価される。

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	A	各委員の評価を、適切なものと小職も判断するものである。科学技術を応用した研究の開発については、当研究所・センターがその主導を担うものと愚考するが、それの実行を裏付けるための資金面での支援が不可欠であることもここに付言して置かなくてならない。
小笠原委員	A	最新の科学技術を駆使した要素材料や作業着法の開発行為といった新規性に富む活動は、自己評価、部会評価と同様に高く評価したい。
坂本委員	B	調査研究手法の多様さや、その研究成果の多彩さは興味深い。たとえば三次元印刷による解明や、遺構の保存環境にかかわる実験など、ニュース性も高い。
名児耶委員	A	調査研究の目標の成果を発表することにより、多くの文化財関係者に有益となる情報を提供する状態を作り出すなど、十分な成果をあげている。それぞれの研究は、目標以上の結果があると評価できる。
寺崎委員	A	文化財の修復・保存等に科学的な手法を応用する分野は、東文研・奈文研が最先端を行くが、今年度も十分な成果をあげたと認められる。

（3）文化遺産保護に関する国際協働		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	オンラインでの国際間の交流や協力には、自ずから、ある種の限界があることも否めない。しかし、こうした困難ななかにあって、なお果敢な取り組みをなしていることは評価されよう。小人数、不十分な予算で懸命に事業を展開していることにエールを送りたいとする委員の意見も小職には見逃せない。
小笠原委員	B	昨年はA評価であったが、さすがにコロナ禍のなか、思うように活動できなかったことは残念である。
坂本委員	B	ほとんどがオンラインに切り替える形での協働となったが、アフターコロナに向けて連携を深めていただけるよう期待する。
名児耶委員	B	コロナ禍の中で海外と関わる予定の活動は、かなり制限される中、オンラインの活用や冊子の発行等から判断して、健闘していたとして良い。
寺崎委員	B	海外との往来が制限されたため、オンライン方式での対応が主となった。その成果は認められるものの、プロジェクト毎の評価を積み上げると、B評価が妥当であろう。

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
自己点検評価　A　　委員評価　A		
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	A	東京文化財研究所の基幹事業に位置づける考えを持つ小職は、文化財情報資料部の「売立目録デジタルアーカイブ」の公開と研究報告書「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望」の出版を、未開拓かつ美術史研究における基礎的資料の集積の取り組みとして、これを高く評価する。また特集展示「日本美術の記録と評価」は、京都工芸繊維大学、東京国立博物館との研究協力に基づく調査研究の成果を公にするものであり、他機関との良好な連携関係を構築したことも併せて評価したい。
小笠原委員	A	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充、文化財のデータベースの充実、図書の収拾、整理、公開、提供などの活動では、オンライン環境を整え、オンラインでのアウトプットに成果があったことを評価したい。
坂本委員	B	ウェブサイトが有効に機能している。セキュリティには十分に注意しつつも、さらに公開と活用を推進してほしい。
名児耶委員	A	情報資料に関する活動は、比較的コロナ禍の影響は少ないこともあるのか、研究成果の発表などの多さからして、目標以上に健闘していると判断できる。

寺崎委員	A	東文研の売立目録デジタルアーカイブの公開、奈文研の文化財情報データベースの充実など、情報発信の面では顕著な成果が見られた。

（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	各機関とも、オンラインや動画発信等を活用することで、当初の目標を達成しているものと認められる。一方、コロナ禍によって、感染予防策等にも目が向けられるところになり、防災等を含めた、地方公共団体等を対象として、いわゆる災害対策、危機管理に対する研修や協力の必要性が求められることに気付かされよう。文化財防災センターの適切な活動に期待したい。
小笠原委員	B	天災（地震、風水害等）対応と違い、感染予防対策については、より連携をとっての継続的な対応の備えが必要になるものと考える。
坂本委員	B	中止になったプロジェクトも多い一方で、感染予防策を講じながらタイミングよく実施できた事業協力もあった。今年度も厳しいスタートとなっているが、状況を見ながら根気よく取り組んでいただきたい。
名児耶委員	B	現状では、積極的に出向いた活動はできない状況下でありながら、目標を達成していると判断できる。
寺崎委員	B	文化財防災センターが奈文研に設置され、今後、地方公共団体への助言等でも機能を発揮することが期待される。

〔法人共通業務〕		
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	当年度の当初目標はほぼ達成されたものとみなされる。共同調達等の取り組みについては引き続きその推進を図ること望まれ、外部委託も継続して実施されるものと思うが、コンプライアンスの観点からの業務上の管理にも配慮が必要であろう。 時代の趨勢からすれば業務の電子化は推進、強化すべきと考える。
小笠原委員	B	人事給与統合システムが期首から導入され、また人件費のシミュレーションを同システムで可能になるなど、より精度の高い人件費管理が行われている。また契約・調達方法の適正化及び共同調達は、前年度同様に合理的な運用を行っている。今後は情報セキュリティの配慮を行いながら、より有効な広域ネットワークの刷新や事務の一元化をお願いしたい。
坂本委員	B	計画通りの取り組みが行われている。
名児耶委員	B	さまざまな活動（業務改善・自己収入拡大ほか）で、目標にむかって少しずつ努力していることが確認できる。
寺崎委員	B	―

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	当初の目標は達成されていると思う。引き続き、寄付金、科学研究費助成金、学術研究助成基金等の外部資金の獲得に努めるとともに、保有資産の有効活用に努める必要がある。なお、寄付行為に対する税制上の優遇についても引き続き行政担当部署との交渉を進めて欲しい。
小笠原委員	B	展覧会による自己収入が未達なのはやむを得ないところである。海外の博物館運営なども参考に入れて、機動的でかつ効果的な運営を心掛けて、文化の重要性を国民に再認識していただくよう目指していただきたい。寄付金等による外部資金の獲得は目標を上回っている。

坂本委員	B	博物館平常展の料金改定は理解できないわけではないが、本来はその分、サービスや展示成果の充実・向上を「見える化」して説明するべきである。たとえば、学生は無料にするなどの次世代育成策とセットで料金改定をするといった、国民の理解を得るための工夫がもっと欲しかった。
名児耶委員	B	予算確保はいつも難しいが、博物館や研究所が国民にとってもっと身近な存在であることを周知させる広報活動などにより、一般からも広く寄付を得やすい状況ができればよいと思う。
寺崎委員	B	―

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
自己点検評価　B		委員評価　B
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	収支計画、資金計画は、当初予定の範囲内で行われ、相応の成果を上げたものと評価したい。 博物館・研究所等に期待される事業計画の実施に当たっては、その継続性・安定性が、そこに、求められるべきである。しかし、現在の経常人件費を見れば、常勤職員３に対して有期雇用職員１の割合になっている。限られた予算であろうが、今後とも、有期雇用者の雇用比率を下げ、有期職員の常勤職員化を進めるための努力が（引き続き）必要であると考える。
小笠原委員	B	年度内には不測の事態もあったようであるが、年間を通じて、安定的な収支実績を残した。
坂本委員	B	法人全体としての資金繰り対応が行われたとのことで、管理は適切に行われていると考える。
名児耶委員	B	ギリギリの予算の中で、頑張っていると思われる。少しずつ余裕を持てる予算にする良い方法があると良いと思う。
寺崎委員	B	―

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B		委員評価　B
委員名	委員評価	コメント
河合委員長	B	引き続き、職員の意識並びに資質の向上に関しては、実施される各種研修を通して図られたい。情報セキュリティ対策、働き方改革関連法の施行に対応した研修の企画・立案、適材適所の考えに基づく人員配置等に関しては、必要な改善の課題として引き続き取り組んで欲しい。
小笠原委員	B	コロナ禍においても各種委員会や内部監査など、業務効率性、法連遵守、財産保全に必要な活動をしっかり実施されていると評価する。また人事に関しても多様性を企図した各種活動や配慮がなされたものと思料する。
坂本委員	B	今回は博物館でのクラスターという事態には至っていないようだが、パンデミックもひとつのリスクとして位置づけて検討していただきたい。
名児耶委員	B	リスク管理、情報セキュリティーシステムの管理等の対策を評価するが、昨年も述べたが、もっと開かれた施設として認知される努力も必要かと思われる。
寺崎委員	B	―

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
河合委員長	当機構の各機関は、元来、コロナ禍の制約や影響は、ほとんど受けない性格の施設（研究・教育機関）であるはずであり、自己点検評価書を見ても、博物館部会のそれに比して、研究所・センター部会の成果には大きな影響を受けることが比較的少なかったように窺われた。確かに不特定多数の人々が集まる可能性の高い博物館に制限がかけられ、相応のリスクも想定されるのは否めない。一方、不要不急の外出を控える対象のうちに博物館・美術館が、その検討が必ずしも十分になされないままに含まれ

	たことに対しては、個人的な印象ながら、遺憾ながら行政当局に負の評価が与えられよう。こうした中で、自己点検評価を行うことには機構にとっても相応の困難のあったことと理解する。なお他に加えれば、文化財活用センターおよびアジア太平洋無形文化遺産研究センターの目指すところおよび機構内に設立されたことの意義など、その性格付け等について、小職には必ずしも十分に承知出来ない恨みが残った。
小笠原委員	私から 2 点。当機構だけで成し得るものではないですが、１つは、昨年同様、これら自己点検評価作業のより簡素化を進め、研究や研修、展示といった本活動にできるだけ精力を注いでいただきたい、もう 1 点は、部会の先生が書かれていたが、こうした将来世代に引き継ぐべき歴史・文化の活動にもっと予算を図るような活動を国家のために行っていただきたい。
坂本委員	不要不急という言葉によって博物館が扉を閉ざすのは、国民にとって残念な出来事であった。とりわけ５月の緊急事態再延長にあたっては、国と東京都の認識が異なり、来場希望者を戸惑わせた。残念がる一般来館者の声も多かったのではないか。文化は人々を力づける役割を担っていることを、機構としても強くアピールすることを期待したい。
名児耶委員	研究活度の成果を展示等で公開するなどの活動がかんじられるが、こうした普及につながる活動さらに期待する。 また何度も述べるが、活動の幅が広く、職員がギリギリの状態で対応しているように感じられる。もっと人員、予算に余裕があるよう状況で、運営されることで、より一般人に共感をよぶ活動が生まれるのではないかと考える。
寺崎委員	２年間、書面審査になったことも関係があるのか、総会の評価に部会長以外の部会委員が関与できていない現状について、なかなか改善方法が示されていないようである。今後、コロナが治まった場合の総会の開催方法・参加メンバーなどを、是非、検討してもらいたい。かりに書面審査が次年度も継続するようならば、次のような案は如何であろうか。全ての委員に資料を送付の上、同一書式での評価を義務づけなくとも、自由記述で意見を求めるといった簡便な方法もあるのではないか。一考を願う。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和２年度－

博物館部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（博物館部会）まとめ

自己点検評価　B　　委員評価　B

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 部会長	B	購入品、寄託品は、着実に増加、毎年少しずつでも収集していることが評価できる。修理、保存活動にも成果を上げていると認められる。
浜田 副部会長	B	コロナ禍においても、堅実に業務が推進され、館員の努力が感じられる。増え続ける保管資料に対して、収蔵スペースと収蔵環境を計画的に確保することは、極めて重要である。引き続き、相応の資料収集のための予算確保とともに、収蔵スペースと収蔵環境の確保に務めていただきたい。
小松委員	B	
榊原委員	B	各館限られた予算の中でよく収集の実を上げたと評価するが、その予算そのものが現状額でよいのか否か、本質的な問題として考えるべきだろう。「我が国を代表する人文系の総合博物館として日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる文化材について収集」をはかる東京国立博物館の収集が重要文化財に指定されている作品とはいえ、これ一点だけとは寂しい限りだ。各館の収集活動を支持し促進するためにも、あえて苦言を呈したい。収集のための予算の増額を求める。今年度もまた長年寄託されていた作品が寄贈購入に至ったようで、現状で購入が無理な作品については寄託をはかるべきだろう
出川委員	B	博物館活動の根幹でもある有形文化財の収集や保存、修理等において着実な成果を出されている点が評価できます。

（２）展覧事業		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 部会長	B	コロナによる様々な影響下においても健闘している。東博「きもの展」や京博「皇室の名宝」等は、日本文化を広く認知させる試みとして良いと思う。
浜田 副部会長	B	新型コロナウイルス感染拡大防止対策により各館とも臨時休館や、入館制限をせざるを得ず、入館者数や収益等に大きな影響をもたらした。そんな中、入館制限されたことが、観覧者にとっては、いつも混んでいる特別展を、ゆっくりと観覧できる機会となったことは皮肉なことかもしれない。
小松委員	B	
榊原委員	B	平常展、特別展ともに入館者数が目標値を大きく下回ったのはコロナの影響で仕方ない。展示の内容そのものはテーマ性のある平常展を企画するなど評価したい。大量動員を図る特別展がコロナ下でどうなるのか。考えていくべきだろう。
出川委員	B	長期にわたって準備されてきた展覧会が中止や延期の判断をされたことは、やむをえませんが、開催された「きもの」展や「桃山　天下人の 100 年」展、「皇室の名宝」展、「奈良・中宮寺の国宝」展など特筆すべき大変充実した展覧会でした。

（３）教育・普及活動		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 部会長	B	コロナの影響で、教育、普及活動はより困難な中で、新しい工夫での対応でまずまずの成果をあげていたと判断できる。
浜田 副部会長	B	オンラインを活用した新たな教育事業への取り組みが行われ、新たな成果を挙げていることは喜ばしいことである。コロナ後も引き続き、こうした取り組みが継続されることを期待したい。キャンパス・メンバーズ会員校の立場としては、学芸員養成課程の期待も大きい「博物館学講座」等が中止となり、会員のメリットが減ってしまったことは残念であった。
小松委員	B	
榊原委員	B	新型コロナウイルスの影響下　さまざまな工夫で教育普及活動を展開している点大いに評価する。特に学校教育との連携を図った試みは今後とも実施していくべきであろう。
出川委員	B	コロナ禍での来館が困難な中、ウェブサイトからの情報発信が世界的にも重視されるようになり、その期待に応えていたと思います。

（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
自己点検評価　B　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 部会長	A	全体に研究成果の公開と展示活動が充実しはじめていると感じられされ、博物館活動の中心となるべく維持されることが期待したい。
浜田 副部会長	B	コロナ禍においても、工夫しながら、堅実に業務が推進され、館員の努力が感じられる。
小松委員	B	
榊原委員	B	各館外部資金を活用した調査研究を数多く実施している点評価するが、そのメンバーに他館の学芸員や研究者の参加があるか否か、報告書からは判明しない。もし参加が無いのならば今後はそれを図るべきではないか。
出川委員	B	「聖徳太子と法隆寺」展など 3 年度以降の展覧会に反映されるであろう調査・研究がコロナ禍においても、着実に学術的な成果を上げている点は高く評価されます。

（５）国内外の博物館活動への寄与		
自己点検評価　B　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 部会長	B	困難な状況下では海外での活動は難しかったとは思われるが、目標の成果はあげたと思われる。
浜田 副部会長	B	コロナ禍の影響により、博物館や学芸員に対する研修・指導や国際交流が叶わなかったことは残念であるが、コロナ後を見据えた研修や交流の体系化が図られることを期待したい。
小松委員	B	
榊原委員	B	毎年同じことを要望する。地方への出前展の充実を願いたい。地方在住の者が美術史上の優品を直接眼にする機会はあるようで実は余りない。作品は実際に自らの眼で見るにこしたことはないはずで、地方の人間がそんな機会を得たいと願うのは当然だろう。出前展の活発化を切に希望する。
出川委員	B	

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
名児耶 部会長	稀に見る困難な状況下にもかかわらず、調査研究とその成果を展示と結びつける活動などで健闘していたと思われる。特別展も重要ではあるが、通常の文化財の研究とその成果をひろく知らしめること、通常展が基本的重要な活動であることを考えさせられた一年であったと思う。
浜田 副部会長	コロナ禍に明け暮れた令和2年度は、国立博物館に限らず、すべての博物館において休館や開館制限が行われ、厳しい運営を強いられる1年となった。1日も早いコロナ禍の収束を願うばかりである。本来ならば、東京オリンピックが開催され、外国人観光客や国内旅行者を迎え入れ、博物館利用者も大きく増えるはずであった、しかし、オリンピックの開催延期とともに、緊急事態宣言が発出されるなどの影響により、博物館利用者が大幅に減少したことは残念であった。 一方で、こうした状況だからこそ、博物館を訪れて心の安らぎを得たいと考える国民が多いこともわかり、博物館は決して不要不急の施設ではないことが示されたようにも思う。博物館は、国民生活に欠くことのできない施設であることを認識し、コロナ後の運営に全力が尽くされることを期待したい。
小松委員	各施設の活動報告を熟読したが、新型コロナウイルス蔓延の状況下において、さまざまな困難に直面するなか、いずれの施設においても精一杯の活動をおこない、また、展示施設としての役割を果たそうと努力してきたところが読み取れた。各施設に勤務されるさまざまな部署の職員の方々の尽力に敬意を表したいと思う。 従来、文化財機構に属する各展示施設では、メディアと連携して大規模な展覧会を開催し、多数の入場者を集める、といった業態がごく普通におこなわれてきたわけだが、昨年冬以来の感染症の蔓延を受けて、そういった運営の方法も大きな変容を求められているように思う。もし仮に今回の感染症蔓延が終熄したとしても、以前のような業態に戻れるのかどうか、また、戻っていいのかどうか、いまはその方向性を決める大事な時期であると考える。各施設の活動報告をみると、展示施設本来の原点に立ち返って、より地道な活動に力点をおこうとする試みも多くおこなわれているようだが、来年度以降もそのような活動を継続していくなかで、文化財機構に属する各展示施設の新たな方向性を見いだしていけるといいと思う。 各施設に勤務される職員の方々のさらなる奮起を期待する次第である。
榊原委員	新型コロナウイルスの影響で、そもそも人が集まることを前提とする展覧会活動がどうなるのか。大量動員を図る特別展の開催を可能にさせるにはどうするのか。展覧会活動の先頭をいく国立博物館四館の模索と試みに注目する。
出川委員	国立文化財機構の各館とも中期目標の年度計画を十分に達成されていると思います。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和２年度－

研究所・センター部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

自己点検評価　A　　委員評価　B

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価　B　　委員評価　B

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	所期の目的を達成していると評価され、「B」評価は妥当である。 新型コロナウイルスが無形文化遺産に与える影響を調査した東文研の取り組みは、適時性という点で高く評価したい。
斎藤 副部会長	B	
児島委員	A	新型コロナウイルスの感染拡大状況を見通せず、行動が制限されるなかで、海外との交流には影響を受けたものの多くの研究、調査、発掘等を遂行できたことは十分な成果と言える。コロナ禍の影響を取りまとめて記録に残したことも将来のパンデミックに備える上で重要である。デジタルアーカイブを充実させ、絵入り版本などをオンラインで公開したことはこうした状況下で社会貢献度が高いと判断した。
寺田委員	B	無形文化財の保存や継承は、人と人との対面的な交流を基盤として成り立っている部分が大きいため、有形文化財の場合と比べ、新型コロナウイルス感染拡大の影響がより深刻であると考えられる。この点で、無形文化財に関するプロジェクト（2121E および 2122E）において、コロナの影響に関する情報収集、発信が積極的に行われたことは高く評価できる。報告書などに集約された現場の声とその分析は、今後の対策を考える上でも重要な基礎資料となる。
柳林委員	A	この小項目は、基礎的な調査研究や発掘調査といった両研究所にとって、もっとも基本的に取り組むべき重要な事業で、両研究所の設立の原点ともいうべき内容と思う。ここではその中からピックアップして評価するが、全体として見ると、少ない人員と漸減する運営費交付金の中で、極めて多方面にわたって深くまで取り組んでおり、小項目の２年度自己点検評価が「B」というのは奥ゆかしすぎる。私は「A」の評価を与えたい。一見、ルーティーンに思える事業であるが、それを続けて着実に成果を積み上げていく努力は大変なものであり、「所期の目標を上回る成果が得られている」と判断するからだ。 昨年から今年にかけて新型コロナウイルス感染症は一向に衰えを見せていない。令和２年度はまさにコロナ禍に襲われた１年だったといえる。２１年度に入ってワクチン接種が始まっても収束のめどは立っていない。大変な時期である。 そんな中、コロナ禍と文化財、とくに人が支え、伝えてきた無形民俗文化財とコロナとのかかわりがクローズアップされている。伝統芸能は中止や延期を余儀なくされ、伝承活動も感染拡大の恐れがあるとして思うようにできていない。 ・東京文化財研究所（東文研）はこのような中、コロナ禍と無形民俗文化財とのかかわりに真正面から向き合い、コロナ禍に翻弄される各地の無形民俗文化財の実態や対策、対応を詳細に調査。フォーラムやオンライン会議なども実施して、「新型コロナ禍の無形民俗文化財」や「フォーラムⅠ『伝統芸能と新型コロナウイルス』」などの有意義な報告書を刊行した。各地の厳しい実情が紹介され、担当者らの悲痛な叫びさえも聞こえる重い内容になっており、大きな資料だ。前向きな対策や対応も数多く紹介されており、明るい未来がうかがえるのがうれしい。 この種の活動や報告書の発行は時機を得た取り組みで、全国の無形民俗文化財にかかわる人々の支えや励み、参考になると確信する。その成果や功績は極めて大きく称賛される。困難な環境下での調査と研究、報告書の刊行の労苦に頭が下がるが、２１年度もこの取り組みをさらに発展させ、窮状の打開に役立ってほしい。 ・奈良文化財研究所（奈文研）は今年で発足７０年目を迎えた。当初は美術工芸、建造物、歴史の３研究室などで構成。南都諸大寺の調査、研究が大きな柱で、貴重な文化財が守られてきた。近年は発掘調査に力が移っているが、このような経緯を考えると諸大寺の調査や研究の意義は極めて大きく、力を入れなければなら

		ない。 「近畿を中心とする古社寺等所蔵の歴史資料に関する調査研究」では、興福寺や法華寺、金峯山寺など奈良の寺院や京都・仁和寺の書籍資料調査に取り組んだ。調書の作成や写真撮影、さらに「仁和寺史料　目録編４」の刊行など、膨大な史料を長年にわたって継続的に調査し、全容解明に尽くしている。これは寺社の信用を得たからこその取り組みで、少ない人員での地味な事業だが高く評価したい。 発掘調査でも初期の目標を上回る成果を挙げている。平城宮東方官衙地区は今でいう霞が関のような中央官庁街だが、そこでは最大級の自然石を使った長さ７㍍もの立派な排水施設が見つかった。付近では大型建物跡が出土しており、それらからの雨水を集めて東側にある基幹排水路に流したらしい。 一方、藤原宮大極殿院地区では大極殿を囲んだ回廊跡の東側が４７㍍分、出土した。東半分の回廊の全体がほぼ確認され、規模や構造が判明した。 これらの発掘調査は古代宮都の変遷を解明するうえで奈文研にとって重要な事業だが、国からの運営費交付金の減額で毎年の発掘調査が継続できない恐れも指摘されている。地道な調査研究が十分継続できる体制を求めたい。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

自己点検評価　A　　委員評価　A

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	A	文化財の調査手法・保存技術に関する研究は、国際的にも注目されている分野であるが、今年度も十分な成果をあげたものと判断され、「A」評価は妥当である。
斎藤 副部会長	A	
児島委員	A	「2211E」で触れているセミナーの内容をマニュアル化して web 上で公開するようなことがあれば便利。博物館でのウイルス除去、消毒作業に関する検討は、喫緊の課題であり、これも今後 web 上での具体的な指針の発信を期待する。
寺田委員	A	
柳林委員	A	科学技術を応用した調査研究は今後も大いに発展してほしいし、発展しなければならない。文化財は非破壊調査が当然となっているからだが、機器の開発や購入などには大きな費用がかかり、予算が少ない研究者の労苦は大変と想像する。 ・そんな中で奈文研の「ひかり拓本」に注目したい。自己点検評価報告書３１㌻に「ひかり拓本」のことが「簡便な機材で碑文等の表面情報を読み取る『ひかり拓本』技術の確立と実践を行った」と極めて簡単に掲載されている。 調べると、奈文研のアソシエイトフェローが開発した。東北大学や東京大学との共同研究も進み、東北大ではデータベースも進んでいるという。「ひかり拓本」は簡便に言うと、石碑の表面に刻まれた文字や文様を、光源を変えて撮影し、その写真を合成して文字や文様を浮かび上がらせて判読できる画像にする技術という。使う機材はありふれたものでよく、費用もあまりかからない。画像処理も短時間で済む。スマートフォンでもできるそうで、奈文研のホームページには「現在、だれでも使用できるようにするため、Windows 版のソフトを作成している」とある。 実にすばらしい発明ではないだろうか。震災被害や風化などで貴重な碑文が判読不能な石碑なども各地に多く存在しており、今後の活用の場は広い。いくつかの新聞に成果が掲載されたようだが、今後の利活用に期待したいし、もっとアピールしていただきたい。３１㌻のプロジェクトについての年度計画、中期計画の評価はともに「A」でよいと思う。

（３）文化遺産保護に関する国際協働		
自己点検評価　A　　委員評価　B		
委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	海外との人の往来が制限されたため、研究会などの会議の多くがオンライン方式となり、コロナの影響を強く受けた分野であった。そうした中で、各機関の努力は十分に認められるが、各プロジェクトの評価を積み重ねてゆくと、全体としては「B」評価とすべきであろう。
斎藤 副部会長	A	
児島委員	B	国際間の移動は新型コロナウイルスの感染拡大により大きく制限されたため、影響は無視できない。その中でもオンラインの活用により調査、事業などを進めたことは評価できる。ただしこの細目内の項目の自己評価はBが10件、Aが2件に留まることから、全体評価はBでよいと判断した。
寺田委員	A	ポストコンフリクト地域における無形文化遺産保護は、緊急性は高いが実施が極めて困難な課題である。IRCIによるプロジェクト（2320G）は、この難しい課題への果敢な取り組みとして評価できる。コロナウイルスの感染拡大や現地の不安定な治安状況などにより活動が大きく制限され、成果は現時点では限定的であるが、今後も継続して支援されるべき重要課題である。
柳林委員	B	コロナ禍で対面による会議や渡航による活動などが難しい中、オンラインでの国際会議や研修、セミナー、講演などを東文研、奈文研、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（ＩＲＣＩ）は積極的に実施している。中でも、外国の美術館に所蔵されている日本美術品を修復したり、世界各国の文化遺産の保護に大きな役割を果たしたりしている。こういう着実な活動は平和外交にもつながるから、しっかり取り組まなければいけないし、支援しなければならない。 ・奈文研が継続的に進めているカンボジア・西トップ遺跡の中央祠堂解体・再構築事業は極めて順調に進み、かなり建物が組み上ってきている。ここでは日本人の石工が中心になって解体、組み立ての作業を行い、カンボジア人スタッフも参加して彼らが活躍しているのは好ましい。外国人への文化財保存技術の伝達がしっかり行われているのは頼もしく、カンボジア政府からも感謝されている。日本人だけで事業を終えることなく、相手国の技術者や研究者の育成にもつなげるこの試みは真の国際協力といえる。完成が待ち遠しい。 ・東文研でのミャンマー・バガン遺跡でのれんが建造物の保存修復事業の行方が気がかりだ。ミャンマーから高く評価されている取り組みだが、軍によるクーデターの影響が今後、どのようにこの協力事業に影響するか見通せない。協働の動きを止めてはいけないが、安全な調査も必要であり、慎重に対応してほしい。 ・東文研の文化財保護法令シリーズの刊行は地味だが着実に進んでおり、２５冊目の英国を刊行したことはすばらしい。翻訳だけでなく、背景に関する詳細な説明も付けており、頼もしい書籍だ。国際的に協力事業を推進する中で、現地の文化財保護法を知っておくことは極めて大切であり、有効性は実に高く、評価したい。 ・ＩＲＣＩは依然として少人数と少ない予算で懸命に事業を展開しており、その努力にエールを送りたい。とくに研究職が１人しかいないという体制は早急に改善を求めたい。１３４６万円の運営費交付金だけという令和３年度事業予算も、ユネスコのカテゴリー２としての役割を果たす機関としては心もとない。このことは以前から指摘されてきたことであり、機構としての適切な対応を望みたい。 コロナ禍で事業実施が大変なようで、卓上調査やオンラインなどになっている。「A」評価が大半な中で継続性が「C」評価なのは何とも悲しい。取り組みが重なる部分もある東文研との協力を最大限に生かして、科研費も得られるようにしていただきたい。国立文化財機構としても、その一員であるＩＲＣＩが事業を実施しやすいような環境づくりに力を入れることを望みたい。 ・小項目「文化遺産保護に関する国際協働」には１２の個別事業があり、それらの自己点検評価は「A」が２、「B」が１０である。それから考えると、小項目の自己点検評価が「A」なのは首をかしげる。「A」のままなら個別事業の自己点検評価の「A」を増やしていただきたいが、私は「B」と判断する。

（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

自己点検評価　A　委員評価　A

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	A	コロナの影響が比較的少ない分野であり、成果としても高く評価できる。「A」評価は妥当である。 奈文研の文化財情報データベースの充実、東文研の売立目録デジタルアーカイブの公開など、顕著な成果と言えよう。
斎藤 副部会長	A	
児島委員	A	「売立目録デジタルアーカイブ」、「文化財動画ライブラリー」、「史的文字データベース連携検索システム」の公開は高く評価できる。美術史家のノート類の展示も、東博との連携として評価できる。
寺田委員	A	
柳林委員	A	東文研、奈文研ともコロナ禍の中で、少ない人員で年報やニュースなどの定期刊行物や研究雑誌、研究報告書、シンポジウムや講演会の冊子など多数の刊行物を出し、情報発信に極めて力を入れている。東文研でとくに修復報告書や調査報告書などの定期刊行物とは別に４０冊もの出版物があり、その情報発信力のすごさに感服する。逆に所員にとって負担がかかりすぎないか心配である。 ・東文研の代表的なコレクションになった売立目録のデジタルアーカイブ公開が始まり、研究報告書「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望」も刊行された。未開拓分野に意欲的に取り組んだ成果は高く評価される。 売立目録にはその時の美術品の写真などの記録が掲載され、美術品の移動史など極めて重要な履歴を示す。しかし、古くなった売立目録も多数あり、アーカイブ化で原本の保存に役立ち、多くの人に見てもらう機会を作ることができた。４年かけたデジタル化の労苦と尽力に敬意を表したい。 美術品の売買は世界で数多く行われている。時には美術品の散逸につながるだけに、売立目録の収集と研究は行方不明の美術品の捜索に役立つ。現に大手百貨店で催された売買での出品物がかなり行方不明になっていることが今回の成果でわかる。他の機関ともいっそう協力して売立目録を収集し、不明文化財の捜索に利用していただきたい。また、売立目録をデジタル化してほしい。 木谷恭介著の推理小説「大和いにしえ紀行殺人模様」では、売立目録が小説の流れで大きな役割を果たしている。そんなことを思い出して、取り組みのさらなる広がりと東文研の所内からの利用に限定されている方法などの改善も期待したい。 ・奈文研の３つの施設で行われた展示公開は、コロナ禍の中で大変工夫され、発掘成果と現代を結びつける内容でそれなりの人々を集めた。 平城宮跡資料館は「疫病退散」をテーマに特別企画展と夏期企画展を実施。６４日間で約７，０００人が入館した。時機に合ったテーマで、古代の人々がどうやって疫病退散の祈りをささげたかを遺物などで紹介して共感を得た。ユーチューブの「なぶんけんチャンネル」にも配信され、考古学を身近なものにしている。飛鳥資料館でも飛鳥地方の珍しい石造物にスポットライトを当てるとともに、近年の石工の仕事や道具などを紹介して人気を呼んだ。

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

自己点検評価　B　　委員評価　B

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	地方公共団体への指導・研修なども、コロナのために中止・減少が目立ったものの、オンライン等により、所期の目的は達成したと認められ、「B」評価を妥当とする。
斎藤 副部会長	B	

児島委員	B	新型コロナウイルスに限らず、今後もこうした感染爆発が起こりうると言われていることから、報告書にも書かれているとおり、感染予防対策に対する継続的な研究、対応が必要であろう。
寺田委員	B	
柳林委員	B	この小項目は、東文研と奈文研がナショナルセンターとしての役割を果たすうえで、もっとも力を入れるべき分野かもしれない。もちろん（2）や（3）も重要ではあるが、やはり地方自治体の人材育成や文化財の研究、保護、管理などで指導したり助言したりすることの意義は計り知れない。それだけの実績や経験を積んできた研究者や職員が両研究所にはたくさんそろっている。 しかし、コロナ禍でこの１年は想定もしなかった事態に巻き込まれた。そんな中でも両研究所はその役割を自覚し、十分に果たしてきたことが評価報告書からうかがえる。地方自治体は両研究所を頼っているのだ。 すべてのことを取り上げることはできないが、たとえば文化庁や地方自治体への助言、生物被害などに数多く対応し、研修もコロナ禍で対面での実施が困難を極める中で、オンラインや動画配信など工夫を凝らして対応した。東文研は生物被害で試料をおくってもらい、解析して助言する新しい方法も採用して応えた。 両研究所は各自治体の専門委員会に委員として出て助言したのも適切な対応であり、文化財の調査、研究や保護にとって大きな力になっている。とくに火災で全焼した沖縄・首里城の再建にあたっては、必要な地下遺構の保存について迅速な調査と的確な助言をしたことは称賛されよう。地元自治体の関係者らにとって大きな支えになり、再建への道筋を力強くバックアップするだろう。 ・文化財防災センターは昨年秋に奈文研に開設された。早くも博物館や美術館、あるいは文化財保護施設を有する寺社などからの保存環境や管理での問い合わせがあるが、それにも適切な指導や助言で行い、ときにはコロナ禍の中でも感染対策に万全を期して現地調査も実施し、相談者の求めに応じている。高い評価で今後にさらに期待したい。ただ、昨年１０月１日に奈文研で行われた開所式の案内がなかったのが残念だ。奈文研の新庁舎オープンの時は案内をいただいた。文化財防災センターの役割を当日、現場で知っておきたかったと思ったからである。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
寺崎 部会長	・各機関ともに限られた予算・人員とコロナ禍という制約の中で、工夫を凝らしていることがうかがえるが、コロナ禍の影響が予想外に大きく、そのために評価を下す判断基準が難しかった。 ・人の往来が大きく制限されたため、出張指導・研究集会・企画展示などに関して、人数や回数を例年と比較しても意味がないとはいえ、減少したことをどの程度評価に反映すべきか。いろいろ考えた結果、コロナの影響が強く及んだ分野と、それほどでもない分野が出てしまうのはやむを得ないと判断し、前年度よりはやや厳しい評価となった。 ・逆にこうした１年であれば、この間に研究員諸氏の個人研究がより活発になされたであろうから、その成果が今後、形になってゆくことを期待したい。その意味では、昨年創刊された『奈文研論叢』も偶々であろうが、時宜を得たものとなった。 ・昨年に引き続き、外部評価委員が書類のみで判断することとなったため、各機関の担当者による発表を直接聞くことができず、隔靴掻痒の観があることも事実である。コロナの早期の終息を願うばかりである。
斎藤 副部会長	インターネット動画などを利用した外部発信は時宜にかなっている上に、今後も有効な手段となりますので、それぞれの研究内容をアピールするために、大いに活用していっていただきたいと思います。 令和２年度はCOVID-19のため、現地調査や講演会、シンポジウムなどに対する影響はかなり大きかったと思われますが、それぞれの事業で具体的にどのような対策をとったのか、記述がまちまちでよく読み取れないところがありました。機関としてどのような方針で臨んだのか、調査や講演を実施する地域に応じてどう対処したのか、延期あるいは中止にしたのか、過去に収集した資料に基づいた調査を行ったのか、などを記していただければ、報告書としてさらにわかりやすくなったと思います。もし、そのために、実際に行われた事業の内容が当初計画からの変更を余儀なくされてしまっていたとしても、それは不可抗力であり、やむを得ないことであると判断いたします。したがって、それをもってマイナス評価とすべきではないと考えます。

児島委員	コロナ禍の中でナショナルセンターとしての指導的役割を果たすことには困難があったと想像されるが、多くの事業が達成された。人々の移動が制限されコミュニケーション手段のオンライン化が進む中で、デジタルアーカイブや動画の作成・公開が果たした役割は大きい。特に研究所に保管されてきた「売立目録」や田中一松資料などは「埋蔵資源」とも言うべきものであり、それらのデジタル化、公開は意義深い。今後もこうした事業が継続されることを期待する。
寺田委員	新型コロナウイルスの感染拡大により通常の活動が大幅に制限されるなか、各機関がオンライン技術などを活用し、創意工夫の結果として当初の目的を十分に達成することができたことは喜ばしい。また、感染拡大が文化遺産保護へ及ぼした影響についての聞き取り調査、議論を積極的に行ったことも高く評価できる。令和２年度は、対面活動の代替メディアとして利用されたオンライン技術が、調査や成果公開などを進める上で一定の利点を有することが認識された期間でもあった。オンラインを通じて会議、講演、研修などを行う過程において、内容や目的に沿った知識・経験が蓄積されているはずであり、これらの蓄積をパンデミック収束後にも有効に活用してほしい。
柳林委員	今回も書面審査になり、２年続きで機構本部や研究所などの方々とお会いして事業活動の説明を受ける機会がなかったことを残念に思っています。コロナ禍だからいかんともしがたいのは事実ですが、国の委員会でも感染対策をしたうえで開催しているケースもあり、来年はぜひ対面での質疑応答ができる外部評価委員会にしていただきたいと思います。とくにコロナ禍での労苦や工夫をうかがうことで、今後に再び起きるかもしれないこういう惨禍の時の対応を考え、学び、心得て置く機会にしたいからです。 そういう意味では、コロナ禍で極めて大きな影響を受けた博物館の関係者も出席する外部評価委員会総会に、研究所・センター調査研究等部会員（希望者だけでもいい）が出る機会を与えていただけるような態勢を取っていただけたらうれしいです。現在は両部会長らごく限られた委員が両部会のまとめた評価を報告する場になっていますが、以前は、総会に全員が出させていただき、博物館部会の情報も知ることができました。ご検討いただければ幸いです。 コロナ禍で中期計画（参考３）のいろいろな所で掲げられた「前中期目標の期間の実績以上」の成果を求める目標が、今回はクリアできていないのがおおいでしょう。これをどうするか、判断が難しいでしょうが、ご検討をよろしくお願いします。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	河　合　正　朝	（慶應義塾大学名誉教授）
委員	小笠原　　直	（監査法人アヴァンティア法人代表　代表社員 公認会計士）
委員	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館特任館長）
委員	坂　本　弘　子	（朝日新聞社常勤監査役）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館長）
委員	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
委員	寺　田　吉　孝	（国立民族学博物館名誉教授）
委員	名児耶　　明	（元公益財団法人五島美術館副館長）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	柳　林　　修	（読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー、 元読売新聞編集委員）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館部会

部会長	名児耶　　明	（元公益財団法人五島美術館副館長）
副部会長	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館特任館長）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館館長）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所・センター部会

部会長	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
副部会長	寺　田　吉　孝	（国立民族学博物館名誉教授）
委員	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	柳　林　　修	（読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー、元読売新聞編集委員）

Ⅵ 日誌

（法人全体及び７施設共通事項）

年　月　日	記　　事
2.　4. 17	第１回役員会（メール開催）
2.　4. 22	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所・センター部会、書面審議、～5 月 7 日）
2.　5. 13	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館部会・書面審議、～5 月 22 日）
2.　6.　1	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会・書面審議、～6 月 8 日）
2.　6. 25	第２回役員会（オンライン）
2.　7. 16	監査法人の監査結果（令和元年度）通知
2.　7. 16	令和元年度定期監事監査（東京国立博物館）
2.　7. 22	第３回役員会（オンライン）
2.　7. 29	独立行政法人国立文化財機構運営委員会（資料送付）
2.　7. 31	独立行政法人国立文化財機構の令和元年度自己評価書の提出
2.　7. 31	独立行政法人国立文化財機構の第 13 期事業年度財務諸表の提出
2.　9. 11	第４回役員会（オンライン）
2. 10.　1	文化財防災センター開所式（奈良文化財研究所）
2. 11.　6	第５回役員会（オンライン）
2. 12. 15	第１回内部統制委員会（オンライン）
2. 12. 15	第１回リスク管理委員会（オンライン）
2. 12. 18	第６回役員会（オンライン）
3.　1. 22	第７回役員会（オンライン）
3.　3. 16	第２回内部統制委員会（オンライン）
3.　3. 16	第２回リスク管理委員会（オンライン）
3.　3. 26	第８回役員会（オンライン）
3.　3. 31	第１回７施設連絡協議会（書面開催）

（文化財活用センター）

年　月　日	記　　事
2.　7.　1	高精細複製品によるあたらしい屏風体験「国宝　花下遊楽図屏風」を限定公開（～7 月 2 日） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前予約の体験モニターに限定して公開。YouTube で公開（7 月 3 日～）
2.　7. 10	「日本文化紹介映像 A GLIDE ON THE GREAT WAVE」を公開（TNM & TOPPAN ミュージアムシアター、～3 月 28 日）　※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公開を当初予定の 4 月より延期。YouTube で先行公開（5 月 7 日～）
2.　7. 11	体験型展示「びじゅチューン！×ちばしび『なりきり美術館』」を千葉市美術館で開催（～9 月 6 日）
2.　7. 16	第 1 回文化財活用センター連絡調整委員会　※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メール審議
2.　7. 29	体験型展示「8K で文化財『ふれる・まわせる名茶碗』」をシャープ株式会社、東京国立博物館との共同により制作、実証実験を実施（～8 月 2 日）※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前予約の限定公開
2.　7. 31	特別授業「おもしろ探求！」（荒川区立第三中学校）を実施
2.　8.　7	国立文化財機構寄附ポータルサイトを開設
2.　8. 14	複製品貸与　重要文化財「小袖 白綾地秋草模様」、重要文化財「振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様」（朝日新聞社、スタジオ撮影）
2.　8. 31	令和 3 年度国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館選定委員会を開催
2.　9.　1	製作工程模型貸与「一木造ができるまで」「日本美術の作り方 2　寄木造・玉眼」（神奈川県立歴史博物館、特別展「相模川流域のみほとけ」で展示）（～12 月 18 日：展示期間 10 月 10 日～11 月 29 日）
2.　9. 26	国立博物館収蔵品貸与促進事業「伝わるかたち／伝えるわざ－伝達と変容の日本建築」（東北歴史博物館）が開催（～11 月 23 日）
2.　9. 29	体験型展示「5G で文化財 国宝『聖徳太子絵伝』AR でたどる聖徳太子の生涯」を株式会社 KDDI、東京国立博物館との共同により制作、公開（～10 月 25 日）
2.　9. 25	複製品貸与　重要文化財「J-8008 土偶」、 重要文化財「J-38392 遮光器土偶」、重要文化財「J-39223 みみずく土偶」（じょーもぴあ宮畑、企画展「土偶の世界 国宝土偶レプリカ５体と福島の土偶展」で展示）（～12 月 25 日：展示期間 10 月 9 日～12 月 4 日）
2. 10.　2	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図/夏秋草図屏風」（小金井市立花小金井小学校）を実施
2. 10.　5	令和 2 年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修を東京文化財研究所と共同で実施（～10 月 15 日）
2. 10.　6	高精細複製品「国宝　花下遊楽図屏風」を展示（東京国立博物館平成館ラウンジ、～11 月 29 日）
2. 10.　6	国立博物館収蔵品貸与促進事業「福岡の至宝に見る信仰と美」（九州歴史資料館）が開催（～11 月 29 日）
2. 10.　7	ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（町田市立堺中学校）を実施（～10

月 8 日）

2. 10. 7　VR 作品「国宝 松林図屏風－乱世を生きた絵師・等伯－」（TNM & TOPPAN ミュージアムシアター、10 月 7 日～1 月 17 日）を凸版印刷株式会社、東京国立博物館との共同により制作、公開

2. 10. 10　国立博物館収蔵品貸与促進事業「ちばの縄文　貝塚からさぐる縄文人のくらし」（千葉県立中央博物館）が開催（～12 月 13 日）

2. 10. 12　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図/夏秋草図屏風」（講師派遣なし、足立区立六月中学校）を実施（～10 月 23 日）

2. 10. 20　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（講師派遣なし、京都府立福知山高等学校・附属中学校）を実施（～10 月 30 日）

2. 10. 27　松林図屏風を使用した特別プログラム（教員研修、青森県総合学校教育センター）を実施（～10 月 28 日）

2. 10. 27　綴プロジェクト寄贈の高精細複製品お披露目（「納涼図屏風」「秋草図屏風」「歌舞伎図屏風」）（東京国立博物館庭園九条館、～12 月 6 日）

2. 10. 27　体験型展示 親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」を東京国立博物館で開催（～12 月 6 日）

2. 10. 30　e 国宝（国立博物館所蔵 国宝・重要文化財 デジタル高精細画像）をリニューアル(Web サイト、モバイルアプリ)

2. 10. 30　複製品貸与　重要文化財「風神雷神図屏風/夏秋草図屏風」（新潟市歴史博物館、展覧会「生誕 320 年五十嵐浚明」関連事業で展示）（～1 月 5 日：展示期間 11 月 14 日～12 月 27 日）

2. 11. 10　体験型展示「8K で文化財『ふれる・まわせる名茶碗』」（～11 月 23 日）

2. 11. 13　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」（大田区立石川台中学校）を実施

2. 11. 24　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（世田谷区立奥沢中学校）を実施

2. 12. 4　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（青梅市立若草中学校）を実施

2. 12. 18　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図/夏秋草図屏風」（三重県立四日市高等学校）を実施

2. 12. 19　時をかける少女｜東京国立博物館　バーチャル特別展「アノニマス―逸名の名画―」を、株式会社凸版印刷、スタジオ地図、東京国立博物館と連携して開催（～3 年 2 月 28 日）

2. 12. 22　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（新潟市立歴史博物館）を実施（～12 月 27 日）

3. 1. 6　国立博物館収蔵品貸与促進事業「国宝参上。―鷹見泉石像と古河ゆかりの文化財―」（古河歴史博物館）が開催（～1 月 17 日）　※新型コロナウイルス感染拡大防止のため会期短縮

3. 2. 10　国立博物館収蔵品貸与促進事業「国宝参上。―鷹見泉石像と古河ゆかりの文化財―」のオンライン展示「こがはく de 国宝 VR」を、古河歴史博物館、一般社団法人 VR 革新機構と連携して公開（～9 月 30 日）

3. 2. 19　体験型展示「びじゅチューン！×OPAM　なりきり美術館」を大分県立美術館で開催（～5 月 9 日）

3. 2. 20　令和 2 年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業（文化庁委託)、茨城県立歴史館にて重要文化財「黒糸威二枚胴具足」の着用可能な複製の展示（～4 月 11 日）

3. 2. 26　第 2 回文化財活用センター連絡調整委員会　※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メール審議

3. 3. 4　「『保存と活用のための展示環境』に関する研究会 - 照明と色・見えの関係 - 」を東京文化財研究所と共同で実施

3. 3. 6　令和 2 年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業（文化庁委託)、群馬県立歴史博物館にて国宝「埴輪挂甲の武人」の樹脂製レプリカ・着用体験用レプリカの展示（～5 月 9 日)、及び着用体験ワークショップの実施（全 4 日間 3 月 6 日、3 月 7 日、3 月 27 日、3 月 28 日）

3. 3. 20　国立博物館収蔵品貸与促進事業「東城寺と『山ノ荘』―古代からのタイムカプセル、未来へ」（土浦市立博物館）が開催（～5 月 5 日）

（文化財防災ネットワーク推進室/文化財防災センター）

年	月	日	記事
2.	6.	30	川崎市市民ミュージアム被災資料真空凍結乾燥講習会（奈良文化財研究所）（～7 月 2 日）
2.	7.	8	第 1 回文化財防災ネットワークセンター（仮称）準備室会議（東京国立博物館/オンライン）
2.	7.	22	令和 2 年度第 1 回文化財防災ネットワーク推進本部会議（東京国立博物館/オンライン）
2.	7.	27	第 2 回文化財防災ネットワークセンター（仮称）準備室会議（東京国立博物館/オンライン）
2.	8.	20	第 3 回文化財防災センター（仮称）準備室会議（東京文化財研究所/オンライン）
2.	10.	1	文化財防災センター開所式（奈良文化財研究所）
2.	10.	19	研修会「文化財レスキューと心理社会的支援」（国立アイヌ民族博物館）
2.	10.	25	シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」（京都国立博物館）
2.	10.	28	令和 2 年度第 1 回文化財防災センター運営会議（奈良文化財研究所/オンライン）
2.	12.	11	文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」開催（Zoom・ウェビナー・YouTube）
2.	12.	21	令和 2 年度第 1 回文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
2.	12.	22	令和 2 年度第 2 回文化財防災センター運営会議（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	1.	18	令和 2 年度第 2 回文化財防災センター協議会（文化庁）
3.	1.	30	文化財防火デートークイベント「災害からまもろう！私たちの文化財」（YouTube）
3.	2.	15	令和 2 年度第 3 回文化財防災センター協議会（東京文化財研究所/オンライン）
3.	2.	19	令和 2 年度第 1 回文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体幹事会（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	3.	4	令和 2 年度第 3 回文化財防災センター運営会議（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	3.	8	令和 2 年度第 1 回文化遺産の防災に関する有識者会議（奈良文化財研究所/オンライン）
3.	3.	11	動画「東日本大震災から 10 年 文化財防災の歩み」公開（YouTube）

（東京国立博物館）

年　月　日	記　　事
2.　6.　2	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館（2 月 27 日～）より開館再開
2.　6. 29	特別展「きもの　KIMONO」特別内覧会（会期　6 月 30 日～8 月 23 日）
2.　9.　8	博物館でアジアの旅　アジアのレジェンド　（～10 月 11 日）
2.　9. 20	特別展「工藝 2020－自然と美のかたち－」特別内覧会（会期　9 月 21 日～11 月 15 日）
2.　9. 21	敬老の日　総合文化展無料観覧日
2.　9. 29	体験型展示「5G で文化財 国宝『聖徳太子絵伝』AR でたどる聖徳太子の生涯」（～10 月 25 日）
2. 10.　5	特別展「桃山―天下人の 100 年」特別内覧会（会期　10 月 6 日～11 月 29 日）
2. 10. 19	東京国立博物館評議員会（書面審議）
2. 10. 27	親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！「なりきり日本美術館リターンズ」（～12 月 6 日）
2. 10. 27	綴プロジェクト寄贈の高精細複製品お披露目（「納涼図屏風」「秋草図屏風」「歌舞伎図屏風」）（～12 月 6 日）
2. 10. 30	創エネ・あかりパーク 2020 に伴うブルーライトアップ（～11 月 3 日）
2. 10. 31	トーハクキッズデー　オンライン（～11 月 15 日）
2. 11.　3	文化の日　総合文化展無料観覧日
2. 11. 10	体験型展示「8K で文化財『ふれる・まわせる名茶碗』」（～11 月 23 日）
2. 12. 19	時をかける少女｜東京国立博物館　バーチャル特別展「アノニマス―逸名の名画―」（～3 年 2 月 28 日、オンライン開催）
2. 12. 23	特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」特別内覧会（会期　12 月 24 日～3 年 2 月 21 日）
3.　1.　2	博物館に初もうで（～1 月 31 日）
3.　1. 19	親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」（～2 月 28 日）
3.　1. 30	国際シンポジウム「日本美術がつなぐ博物館コミュニティー：ウィズ／ポスト・コロナ時代の挑戦」（オンライン開催）
3.　2.　9	トーハク×都美 連携ガイド「めぐる美術～黒田清輝と吉田博～」（～3 月 28 日、オンライン配信）
3.　2. 16	オンラインイベント　日本文化との出会い「浮世絵摺り実演」（～2 月 28 日、オンライン配信）
3.　2. 26	特別展「きもの　KIMONO」開催記念 国際シンポジウム「日本文化としての『きもの』を考える」（～5 月 31 日、オンライン配信）
3.　2. 26	文化の杜の音めぐり 2021（～3 月 31 日、オンライン配信）
3.　3. 12	Daiwa Sakura Aid イベント（～4 月 11 日）
3.　3. 16	博物館でお花見を（～4 月 11 日）
3.　3. 23	博物館で動物めぐり（～6 月 27 日）

（京都国立博物館）

年　月　日	記　　事
2.　4.　3	「トラリンチャンネル展覧会 5」雛まつりと人形２だリン♪公開
2.　4.　9	庭園無料公開終了（3 月 24 日～）
2.　4. 10	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全館休館（～6 月 1 日）
2.　4. 17	「トラりんチャンネル展覧会 6」考える人だリン♪公開
2.　5.　1	「トラりんチャンネル展覧会 7」はくぶつかんの病院だリン♪公開
2.　5. 15	「トラりんチャンネル展覧会 8」豊臣秀吉に関係のある遺跡だリン♪公開
2.　5. 18	「トラりんチャンネル展覧会 9」明治古都館だリン♪公開
2.　5. 29	「トラりんチャンネル展覧会 10」五月人形だリン♪公開
2.　6.　2	庭園開館及び名品ギャラリー（平常展）２室部分開館（庭園料金）（～7 月 5 日）
2.　6.　8	展示室の消防設備点検により庭園開館（～6 月 12 日）
2.　6. 12	「トラりんチャンネル展覧会 11」埴輪男子だリン♪公開
2.　6. 26	「トラりんチャンネル展覧会 12」あかりのお供え物？だリン♪公開
2.　7.　7	庭園開館（～7 月 21 日）
2.　7. 10	「トラりんチャンネル展覧会 13」坂本龍馬の手紙だリン♪公開
2.　7. 22	特別展「聖地をたずねて」記者発表、関係者内覧会
2.　7. 23	西国三十三所草創 1300 年記念特別展「聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝」（～9 月 13 日）
2.　7. 23	記念講演会「西国巡礼　慈悲の道」
2.　7. 23	「トラりんチャンネル展覧会 14」特別展「聖地をたずねて」を見に行くリン♪公開
2.　7. 24	【ニコニコ美術館】京都国立博物館「特別展 聖地をたずねて－西国三十三所の信仰と至宝－」
2.　7. 31	夏期講座「日本人と自然Ⅱ」（～8 月 1 日）
2.　8.　1	いのち奏でるコンサート特別企画「観音さまと花と名曲」
2.　8.　3	市立中学校美術部員「記者体験」in 京都国立博物館
2.　8.　8	記念講演会「資料からみる西国三十三所」
2.　8. 21	「トラりんチャンネル展覧会 15」「おたのしみコーナー」に行くリン♪公開
2.　8. 22	記念講演会「西国三十三所、観音めぐり」
2.　8. 29	記念講演会「信仰の息づく霊地－那智山経塚出土の立体曼荼羅」
2.　9.　5	記念講演会「経典にみる観音菩薩」
2.　9. 18	京都らくご博物館【秋】～錦秋寄席～Vol.57
2.　9. 26	ICOM 京都大会１周年記念シンポジウム「SDGs と博物館」
2. 10.　9	特別展「皇室の名宝」記者発表、関係者内覧会
2. 10. 10	御即位記念特別展「皇室の名宝」（～11 月 23 日）
2. 10. 10	記念講演会「宮廷と日本文化－雅な文化、その継承のこころ」
2. 10. 10	「トラりんチャンネル展覧会 16」「竹虎図」を見に行くリン♪公開
2. 10. 17	記念講演会「皇室に伝わった絵巻の至宝－春日権現験記絵を中心に－」
2. 10. 23	特別展「皇室の名宝」キャンパスメンバーズ講演会
2. 10. 24	記念講演会「皇室を彩る絵画－旧桂宮家伝来品を中心に－」

2. 10. 24　秋の華道（～10 月 25 日）
2. 10. 25　令和２年度文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム「文化財の防災・減災－火災・地震に対する取り組み－」
2. 10. 31　記念講演会「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来－"禁裏御物"と諸家献上－」
2. 11. 01　宮田文化庁長官　特別展「皇室の名宝」視察
2. 11. 07　記念講演会「伏見天皇と「屏風土台」－天皇の書風形成－」
2. 11. 14　記念講演会「御所をめぐる色とかたち」
2. 11. 25　庭園開館（～12 月 18 日）
2. 12. 4　「トラりんチャンネル展覧会 17」「蘭竹図」を見に行くリン♪公開
2. 12. 18　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」特別企画「文化財修理の最先端」ほか記者発表
2. 12. 19　文化財保存修理所開所 40 周年記念シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」
2. 12. 23　留学生の日
2. 12. 23　特別企画「文化財修理の最先端」キャンパスメンバーズ講演会
3. 1. 10　大念佛狂言公演
3. 1. 11　芸舞妓春の舞
3. 1. 16　土曜講座「丑づくし－牛と日本人－」
3. 1. 23　土曜講座「日本の文化財修理 120 年」
3. 1. 30　土曜講座「漆器の修理ってどんなん？」
3. 2. 6　土曜講座「上野家の贈り物－上野コレクションと上野財団－」
3. 2. 13　土曜講座「九州と近畿の弥生・古墳時代－弥生土器の成立と埴輪・須恵器－」
3. 2. 15　障害者特別鑑賞会
3. 2. 19　「トラりんチャンネル展覧会 18」特集展示「国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍」を見に行くリン♪公開
3. 2. 20　土曜講座「上野コレクションの形成と中国絵画」
3. 2. 26　京都らくご博物館【冬】～早春寄席～Vol.58
3. 2. 27　土曜講座「2 つの国宝「日本書紀」」
3. 2. 28　春の琵琶鑑賞会
3. 3. 9　庭園開館（～3 月 25 日）
3. 3. 13　「トラりんチャンネル展覧会 19」「文化財修理」ってなあに？公開
3. 3. 26　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」記者発表、関係者内覧会
3. 3. 27　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（～5 月 16 日）
3. 3. 27　開幕記念講演会「鑑真和上の教え」
3. 3. 27　ICOM 博物館定義に関するフォーラム

（奈良国立博物館）

年	月	日	記　　事
2.	6.	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館（2月27日～）より開館再開
2.	6.	9	唐招提寺の蓮展示（～2年9月7日まで）
2.	7.	6	夏季仏像供養
2.	8.	4	賛助会特別鑑賞会
2.	8.	5	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会
2.	9.	14	秋季仏像供養
2.	9.	20	サンデートーク「仏教絵画のきほん　表現様式を中心に」
2.	10.	4	サンデートーク「描かれた東大寺大仏の姿」
2.	10.	23	第７２回正倉院展内覧会（会期2年10月24日～11月9日）
2.	10.	24	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示（～2年11月9日まで）
2.	10.	24	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示（～2年11月9日まで）
2.	10.	26	賛助会特別鑑賞会
2.	10.	27	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会
2.	10.	31	公開講座「正倉院の石薬とその素材」
2.	11.	7	公開講座「武器・武具の献納と薬物の献納について」
2.	11.	14	名品展無料観覧日（関西文化の日）（～2年11月15日まで）
2.	11.	28	留学生の日
2.	11.	28	英語落語
2.	11.	29	サンデートーク「奈良国立博物館所蔵の古写真にみる奈良公園周辺の景観」
2.	12.	7	冬季仏像供養
2.	12.	9	春日若宮おん祭で使用される備品の展示（～3年1月17日まで）
2.	12.	9	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭『紙コップで作ろう！鼓』（動画配信）
2.	12.	9	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭『動く！おん祭の絵巻！』（動画配信）
2.	12.	17	名品展無料観覧日（おん祭お渡り式の日）
2.	12.	20	サンデートーク「売立目録と仏像研究」
3.	1.	8	文化財保存修理所特別公開
3.	1.	9	公開講座「春日大社と神鹿の造形」
3.	1.	17	サンデートーク「文化財を科学するⅦ」
3.	1.	26	第67回文化財防火デー消防訓練
3.	2.	2	名品展無料観覧日（節分の日）（～3年2月3日まで）
3.	2.	6	特別陳列「お水取り」修二会お松明展示（～3年3月21日まで）
3.	2.	11	お水取り「講話」と「現地解説」の会
3.	2.	20	公開講座「修二会について」
3.	2.	21	サンデートーク「仏都会津のみほとけたち」
3.	2.	22	特別公開「金峯山寺　金剛力士立像」法要
3.	2.	28	奈良国立博物館・特別陳列「お水取り」を巡ろう【ニコニコ美術館】

3.　3.　3　令和2年度奈良国立博物館評議員会（書面審議、～3年3月15日まで）

3.　3.　8　奈良国立博物館・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生－設計図と工事録にみる建設の経緯－」＆なら仏像館・特別公開「金峯山寺　金堂力士立像」を巡ろう【ニコニコ美術館】

3.　3. 13　公開講座「帝国奈良博物館の誕生－人と建築－」

3.　3. 15　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム

3.　3. 20　お水取り「講話」と「現地解説」の会

3.　3. 21　サンデートーク「舎利信仰の美術－舎利容器の形から信仰を読み解く－」

(九州国立博物館)

年	月	日	記　　事
2.	6.	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館（2 月 27 日～）より開館再開
2.	6.	2	特集展示「きゅーはくどうぶつえん」（～7 月 12 日）
2.	6.	2	九州国立博物館開館 15 周年記念・大宰府史跡指定 100 年記念　特集展示「筑紫の神と仏」（～8 月 30 日）
2.	7.	28	九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展　「しきしまの大和へ-奈良大発掘-」（～12 月 20 日）
2.	9.	8	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～（～11 月 23 日）
2.	9.	21	文化交流展無料観覧日(敬老の日)
2.	10.	5	第 1 回評議員会(書面会議にて開催)
2.	10.	21	IPM オンライン相談会(～23 日)
2.	10.	23	きゅーはくカフェコンサート
2.	11.	3	文化交流展無料観覧日(留学生の日) ※留学生のみ
2.	11.	3	留学生イベント「チャレンジ！文化交流展クイズ王！」
2.	11.	10	ミュージアムトーク「しきしまの大和へ-奈良大発掘-」
2.	11.	15	文化交流展無料観覧日(家族の日)　※中学生以下のお子様の同伴者 2 名まで
2.	11.	17	ミュージアムトーク「伊能忠敬の日本地図」
2.	11.	25	九州国立博物館開館 15 周年記念特別企画「九博を彩った博多祇園山笠」展示(～3 年 1 月 11 日)
2.	12.	1	九州国立博物館開館 15 周年記念特集展示「織物に魅せられて－加賀前田家伝来の名物裂－」（～3 年 1 月 24 日）
2.	12.	1	ミュージアムトーク「対馬宗家文書の図書と木印」
2.	12.	8	ミュージアムトーク「しきしまの大和へ-奈良大発掘-」
2.	12.	9	同和研修(職員向け)(・12 月 22 日)
2.	12.	15	ミュージアムトーク「祈りと経典～ひとがお経を作るとき～」
3.	1.	1	新春特別公開 徳川美術館所蔵「国宝　初音の調度」（～1 月 24 日）
3.	1.	3	弦楽四重奏ニューイヤーコンサート
3.	1.	5	ミュージアムトーク「のぞいてみよう！織物の世界」
3.	1.	13	ミュージアムトーク「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」
3.	1.	25	特別展「奈良・中宮寺の国宝」内覧会
3.	1.	26	特別展「奈良・中宮寺の国宝」開催（～3 月 21 日）
3.	1.	26	ミュージアムトーク「X 線 CT 調査報告―楽器の音と形の関係について―」
3.	2.	2	特集展示「天神縁起の世界」（～3 月 28 日）
3.	2.	2	ミュージアムトーク「南蘋風―流行は長崎発―」
3.	2.	6	ミュージアムコンサート
3.	2.	13	ミュージアムコンサート
3.	2.	16	ミュージアムトーク「いろいろなお姿の天神さま」
3.	2.	20	ミュージアムコンサート

3. 2. 27　ミュージアムコンサート
3. 3. 2　第2回評議員会(書面会議にて開催)
3. 3. 2　ミュージアムトーク「本物の文化財とは？　西洋の考え方、東洋の考え方とテセウスの船」
3. 3. 6　手話通訳付きオンラインバックヤードツアー（オンライン）
3. 3. 13　ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK」（オンライン）
3. 3. 13　ミュージアムコンサート
3. 3. 16　ミュージアムトーク「天神縁起の世界」
3. 3. 20　ミュージアムコンサート
3. 3. 27　九博春の桜コンサート
3. 3. 28　九博春の桜コンサート
3. 3. 30　ミュージアムトーク「観世音寺の鐘」

（東京文化財研究所）

年　月　日	記　　事
2.　8. 24	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー（上原美術館）
2.　9.　5	文化遺産国際協力コンソーシアム第 27 回研究会（ウェビナー）『コロナ禍における文化遺産国際協力のあり方』（オンライン）
2.　9. 25	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス　フォーラム 1「伝統芸能と新型コロナウイルス」
2. 10.　5	令和 2 年度　保存担当学芸員研修（～10 月 15 日）
2. 10. 19	令和 2 年度文化財防災研修会「文化財レスキューと心理社会的支援」（国立アイヌ民族博物館）
2. 10. 30	第 54 回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
2. 11.　9	文化遺産の保護に資する研究 2020（～11 月 20 日）（オンライン）
2. 11. 12	国際研修「3 次元写真測量の基礎講習」（オンライン）
2. 11. 21	研究会「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」（オンライン）
2. 11. 25	国際研修「3 次元写真測量の基礎講習」（オンライン）
2. 12.　2	「箕のかたち―自然と生きる日本のわざ」展（～1 月 28 日）（汐留メディアタワー（共同通信社ビル)）
2. 12.　4	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」＠メキシコ（～12 月 11 日）（オンライン）
2. 12. 14	「文化財に用いられている鉛の腐食と空気環境」研究会
2. 12. 23	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー
2. 12. 25	第 15 回無形民俗文化財研究協議会（【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス　フォーラム２）「新型コロナ禍における無形民俗文化財」（～1 月 31 日）（インターネット公開）
3.　1. 11	国別文化遺産保護研修（ブータン）「リビングヘリテージの側面に着目した伝統的民家の保存と活用」（オンライン）（～1 月 22 日）
3.　1. 25	第 3 回保存環境調査・管理に関する講習会
3.　1. 31	文化遺産国際協力コンソーシアム第 28 回研究会（ウェビナー）『文化遺産と SDGsⅢ－地域社会における文化遺産の役割を考える－』（オンライン）
3.　3.　4	「保存と活用のための展示環境」に関する研究会
3.　3. 12	文化財の記録作成とデータベース化に関するハンズオン・セミナー「文化財写真入門–文化財の記録としての写真撮影実践講座」（東北歴史博物館）
3.　3. 20	無形文化遺産部第 14 回公開学術講座「竹材と日本の伝統的な管楽器」

(奈良文化財研究所)

年 月 日	記 事
2. 6. 16	平城宮跡資料館　特別企画展「古代のいのり―疫病退散！」（～7 月 19 日）
2. 7. 18	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 30 回）（～7 月 24 日）
2. 7. 18	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 16 回）（～8 月 16 日）
2. 7. 23	平城宮跡資料館　夏期企画展「奈良の都の考古学―発掘された平城 2019／古代のいのり―疫病退散！」（～8 月 30 日）
2. 8. 4	飛鳥資料館　特別展「飛鳥の石造文化と石工」（～9 月 22 日）
2. 8. 12	「奈良の都の木簡に会いに行こう!2020」（日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」採択事業）（～8 月 14 日）
2. 9. 24	文化財担当者専門研修「自然科学分析外注課程」（～9 月 25 日）
2. 9. 28	興福寺鐘楼地区の発掘調査（平城第 625 次）現地見学会
2. 9. 28	文化財担当者専門研修「文化的景観調査計画課程」（～10 月 2 日）
2. 10. 10	平城宮跡資料館　秋期特別展「地下の正倉院展―重要文化財 長屋王家木簡―」（～11 月 23 日）
2. 10. 13	文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程」（～10 月 21 日）
2. 10. 16	飛鳥資料館　秋期企画展「第 11 回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」」（～12 月 6 日）
2. 10. 16	遺跡整備・活用研究集会「歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―」
2. 10. 17	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 31 回）（～10 月 23 日）
2. 10. 17	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 17 回）（～11 月 15 日）
2. 10. 23	第 12 回東京講演会「奈良の都の暮らしぶり～平城京の生活誌～」 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特設サイト上でのオンデマンド配信（配信期間：10 月 23 日～11 月 5 日）
2. 10. 26	文化財担当者専門研修「地質・考古調査課程」（～10 月 30 日）
2. 11. 7	藤原宮大極殿院地区の発掘調査（飛鳥藤原第 205 次）現地見学会
2. 12. 4	藤原宮跡資料室　ロビー展示「飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原 197-6 次）」、「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 200 次）」、「石神遺跡土坑 SK1244･1245 出土土器（石神遺跡第 7 次）」（～12 月 28 日）
2. 12. 12	第 24 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷（古代集落を考えるⅠ）」
3. 1. 22	飛鳥資料館　冬期企画展「飛鳥の考古学 2020」（～3 月 14 日）
3. 1. 23	関連展示　平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展「鬼神乱舞 ―護る・祓う・鬼瓦の世界―」（於：平城宮いざない館）（～3 月 28 日）
3. 2. 6	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 32 回）（～2 月 12 日）
3. 2. 6	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 18 回）（～3 月 7 日）
3. 2. 9	研究集会　水中遺跡保護行政の実態Ⅲ（オンライン配信）
3. 3. 22	保存科学研究集会 2019「遺跡保存に関する最近の動向」 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特設サイト上でのオンデマンド配信（配信期間：3 月 22 日～3 月 28 日）

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年　月　日	記　　事
2. 8. 12	ICH Webinar Series Session 4: Inter-regional Field Experiences on Curriculum Development for ICH Safeguarding（韓国C2センター（ICHCAP）主催）への参加
2. 8. 14	2020 UNESCO Capacity-Building Workshop on Developing a Common ICH Teaching Framework for Higher Education Institutes in the Asia-Pacific Region（ICHCAP、中国C2センター（CRIHAP)、ユネスコ・バンコクオフィス共催）への参加
2. 10. 29	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）第9回運営理事会を開催
2. 11. 20	ICHCAP2020年運営理事会へ参加
2. 11. 30	第8回C2センター会合への参加
2. 12. 14	第15回無形遺産条約政府間会合への参加（～12月18日）
3. 1. 28	国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発に関する研究：教育とまちづくり」を開催（～1月29日）

（上記すべてオンライン開催）

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（令和３年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
清　水　　眞　澄	三井記念美術館長	委員長
田　辺　　征　夫	公益財団法人元興寺文化財研究所所長	副委員長
上　原　　眞　人	京都大学名誉教授	
梅　本　　和　義	独立行政法人国際交流基金理事長	
神　居　　文　彰	平等院住職	
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員	
木　下　　直　之	静岡県立美術館長	
佐　藤　　禎　一	元ユネスコ代表部特命全権大使	
檀　　ふ　み	俳優	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	
西　村　　泰　彦	宮内庁長官	
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授	
古　瀬　　奈津子	お茶の水女子大学名誉教授	
鉾　井　　修　一	京都大学名誉教授	
柳　原　　正　樹	独立行政法人国立美術館理事長	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（令和３年３月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
青　柳　正　規	東京藝術大学社会連携センター特任教授	会長
浦　井　正　明	寛永寺長臈	副会長
石　澤　良　昭	上智大学 アジア人材養成研究センター所長	
江　本　敏　男	東京都立上野高等学校長	
ロバート・キャンベル	日本文学研究者・国文学研究資料館館長	
小　西　祐　一	台東区立根岸小学校長	
齊　藤　裕　司	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
澤　　和　樹	東京藝術大学長	
服　部　征　夫	台東区長	
早　川　　徹	日本空港ビルデング株式会社企画管理本部総務グループ広報・ブランド戦略室長	
林　　良　博	独立行政法人国立科学博物館長	
平　井　邦　明	台東区立忍岡中学校長	
藤　田　裕　司	東京都教育委員会教育長	
二　木　忠　男	上野観光連盟会長	
馬　渕　明　子	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
室　瀬　和　美	漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者	
山　田　五　郎	編集者・評論家	
林　原　行　雄	立命館大学経済学部客員教授	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（令和３年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
金　田　　章　裕	京都府立京都学・歴彩館長	会長
柳　原　　正　樹	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長	副会長
後　藤　　典　生	高台寺　常任教師	
榊　田　　隆　之	京都信用金庫　理事長	
鈴　鹿　　可奈子	株式会社聖護院八ッ橋総本店　専務取締役	
住　友　吉左衛門	公益財団法人住友財団　理事長	
千　　宗　守	武者小路千家　官休庵　家元	
辻　　弘　嗣	株式会社京都ホテル　顧問	
中　本　　晃	株式会社島津製作所代表取締役会長	
松　本　　伸　之	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	
村　上　　圭　子	京都市副市長	
森　口　　邦　彦	染織作家　重要無形文化財「友禅」保持者	
吉　田　　憲　司	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館長	
冷　泉　　貴実子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫　常務理事	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（令和３年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
浅　野　　秀　剛	公益財団法人大和文化館長 あべのハルカス美術館長	
植　野　　康　夫	株式会社南都銀行特別顧問	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
川　井　　徳　子	ノブレスグループ代表	
佐々木　　丞　平	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館長	
千　田　　嘉　博	奈良大学文学部文化財学科教授	
多　川　　俊　映	興福寺寺務老院	
田　淵　　裕　久	近鉄グループホールディングス株式会社監査役	
筒　井　　寛　昭	東大寺長老・東大寺総合文化センター総長	
東　野　　治　之	奈良大学名誉教授・大阪大学名誉教授	
中　野　　聖　子	ホテル尾花代表取締役社長	
西　川　　明　彦	宮内庁正倉院事務所長	
は　な	モデル・ナレーター・エッセイスト・タレント	
古　谷　　正　覚	聖徳宗管長・法隆寺住職	
松　村　　恵　司	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長	
吉　田　　晴　行	奈良県文化・教育・くらし創造部長	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（令和３年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学名誉教授	副会長
阿　川　　佐和子	作家	
今泉　　今右衛門	陶芸作家	
歌　川　　信　郎	ＮＨＫ福岡拠点放送局長	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス株式会社取締役会長	
大　曲　　昭　恵	福岡県副知事	
川　嵜　　隆　生	株式会社西日本新聞社相談役	
楠　田　　大　蔵	太宰府市長	
倉　富　　純　男	西日本鉄道株式会社代表取締役社長執行役員	
鈴　木　　幸　子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）ガバナー	
高　良　　倉　吉	琉球大学名誉教授	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（令和３年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
河　合　　正　朝	千葉市美術館館長	委員長
名児耶　　明	元公益財団法人五島美術館副館長	副委員長
小笠原　　直	監査法人アヴァンティア法人代表 代表社員　公認会計士	
坂　本　　弘　子	朝日新聞社常勤監査役	
小　松　　大　秀	公益財団法人永青文庫館長	
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館特任館長	
出　川　哲　朗	大阪市立東洋陶磁美術館館長	
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
児　島　　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	
寺　崎　　保　広	奈良大学名誉教授	
寺　田　　吉　孝	国立民族学博物館名誉教授	
柳　林　　修	読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー（元読売新聞編集委員）	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（令和３年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
名児耶　　明	元公益財団法人五島美術館副館長	部会長
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	副部会長
小　松　　大　秀	公益財団法人永青文庫館長	
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館特任館長	
出　川　哲　朗	大阪市立東洋陶磁美術館館長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

研究所・センター調査研究等部会委員名簿

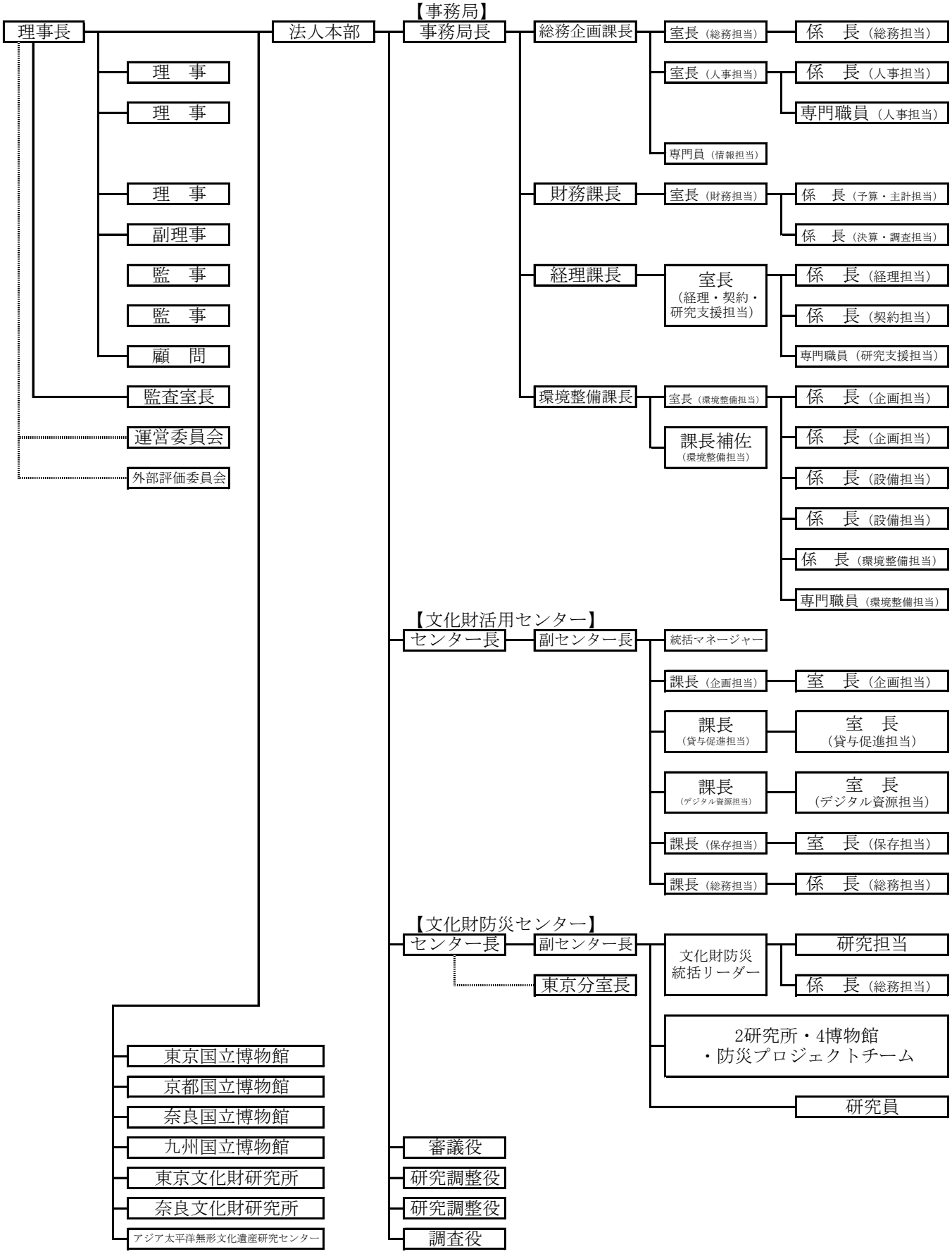
（令和３年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
寺　崎　　保　広	奈良大学名誉教授	部会長
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	副部会長
児　島　　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	
寺　田　　吉　孝	国立民族学博物館名誉教授	
柳　林　　修	読売新聞社「寺社プロジェクト」アドバイザー（元読売新聞編集委員）	

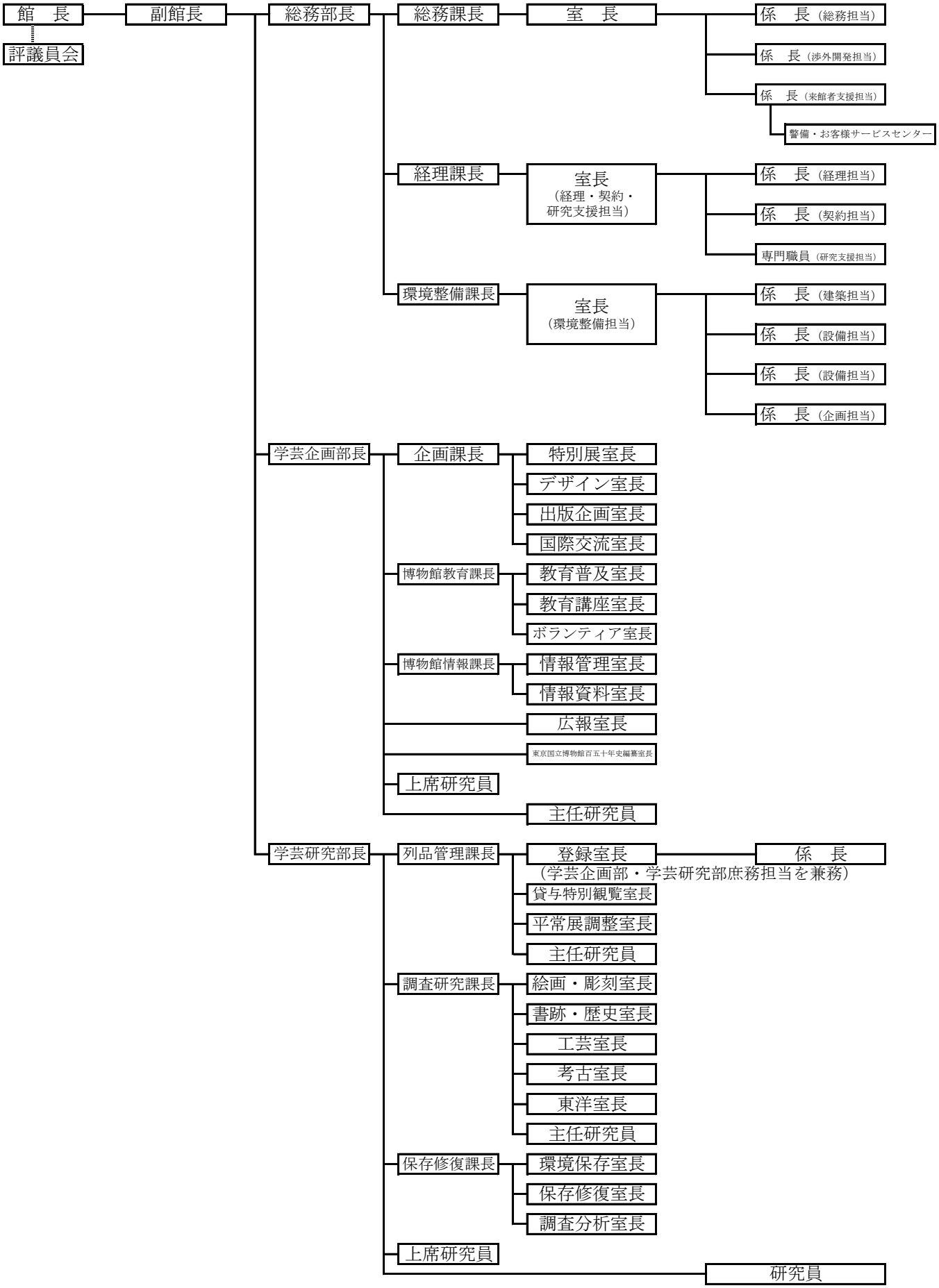
独立行政法人国立文化財機構　組織図

令和3年3月31日現在

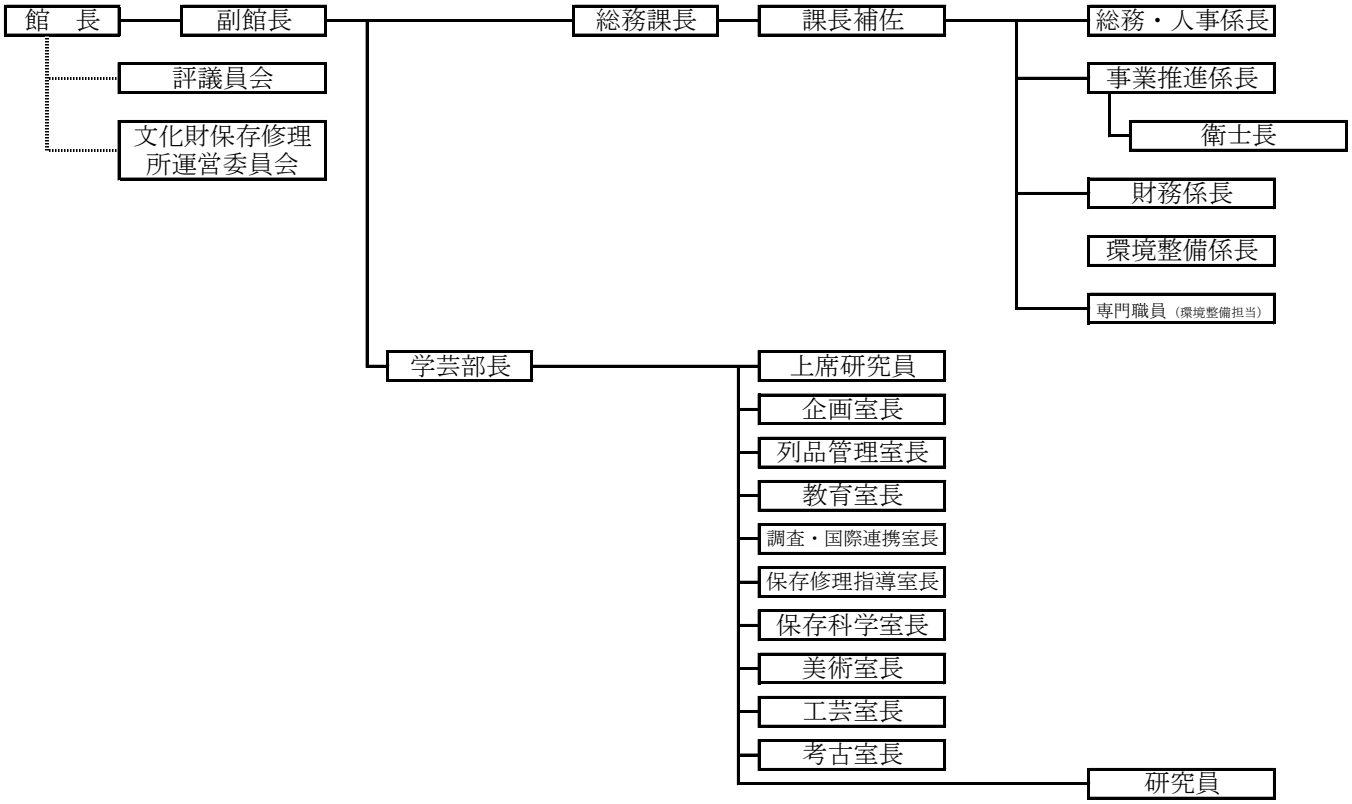
【機構図】



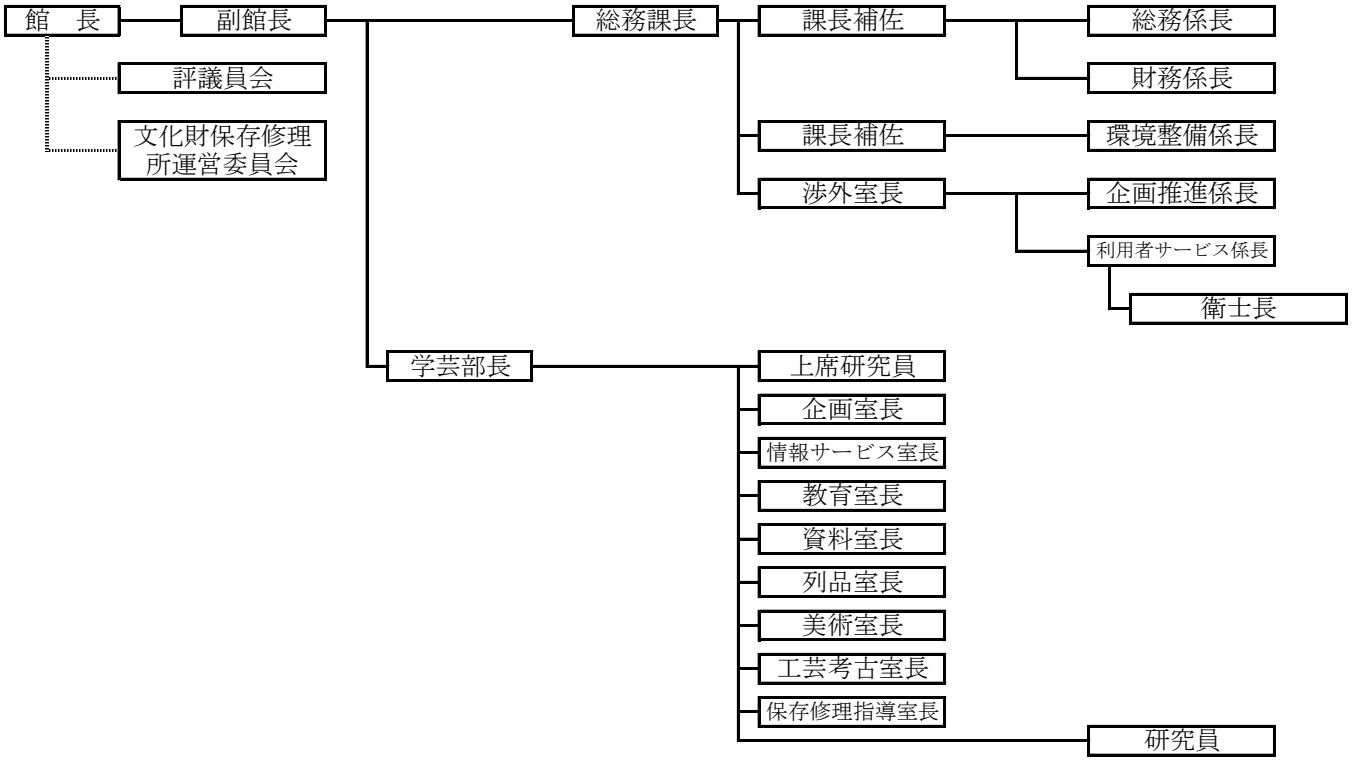
【東京国立博物館】


館　長
評議員会
副館長
総務部長
総務課長
室　長
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（来館者支援担当）
警備・お客様サービスセンター
経理課長
室長
（経理・契約・
研究支援担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員（研究支援担当）
環境整備課長
室長
（環境整備担当）
係　長（建築担当）
係　長（設備担当）
係　長（設備担当）
係　長（企画担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
東京国立博物館百五十年史編纂室長
上席研究員
主任研究員
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
係　長
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
主任研究員
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
調査分析室長
上席研究員
研究員

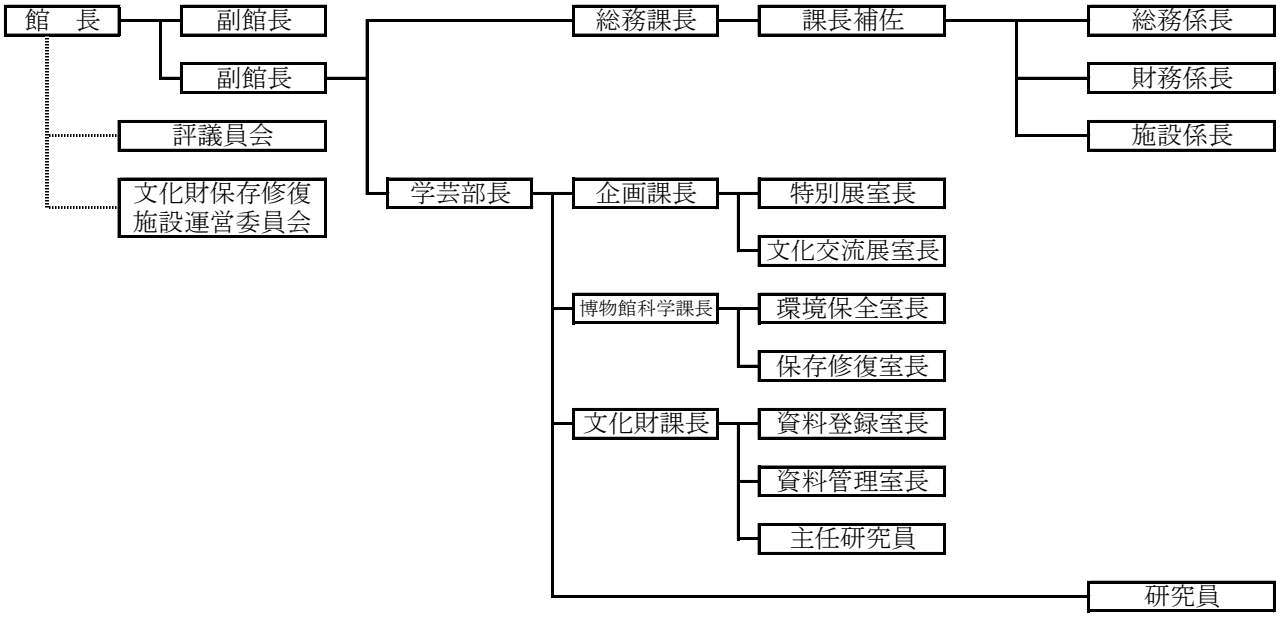
【京都国立博物館】



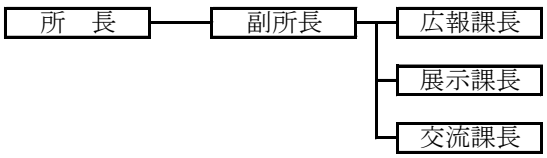
【奈良国立博物館】



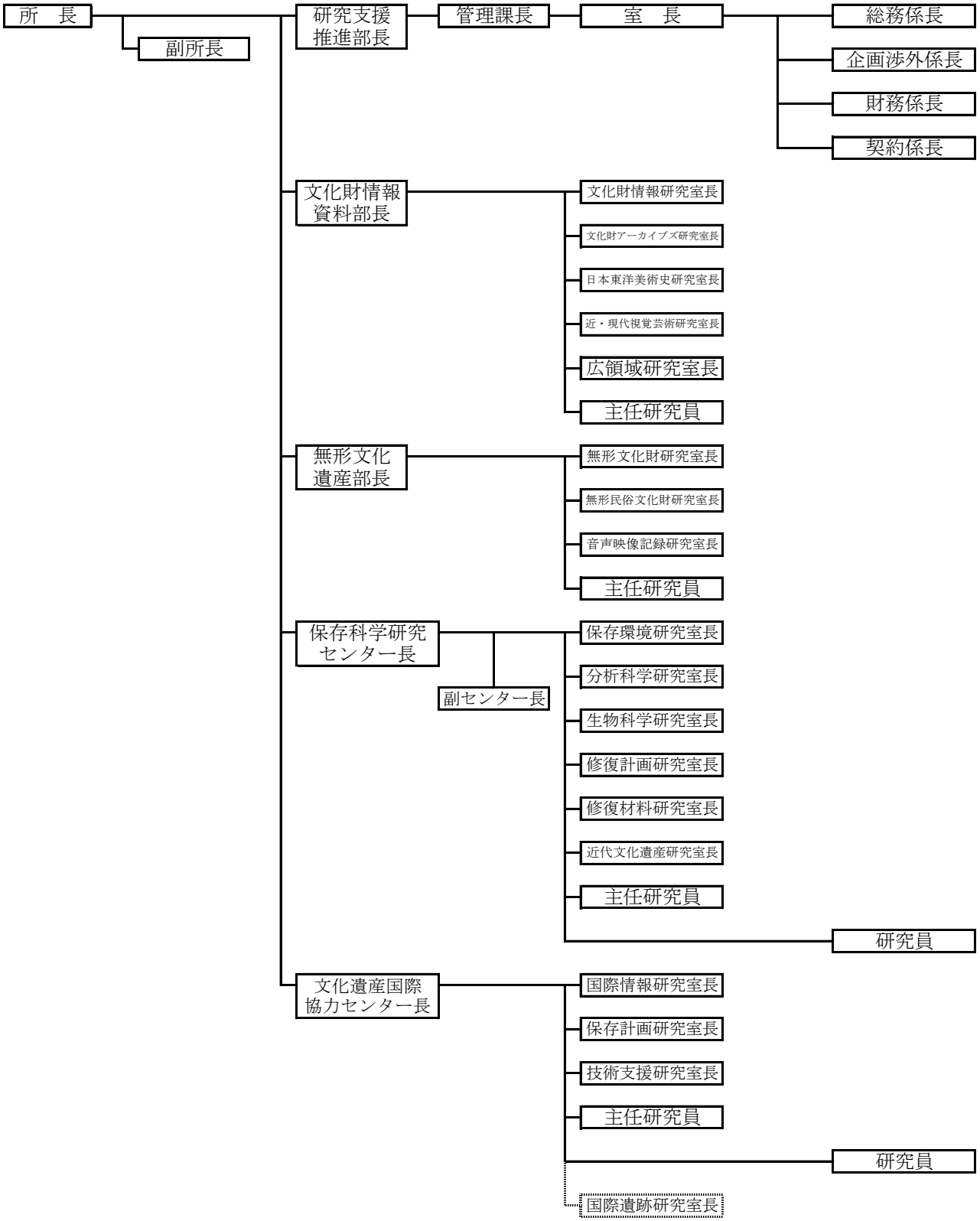
【九州国立博物館】



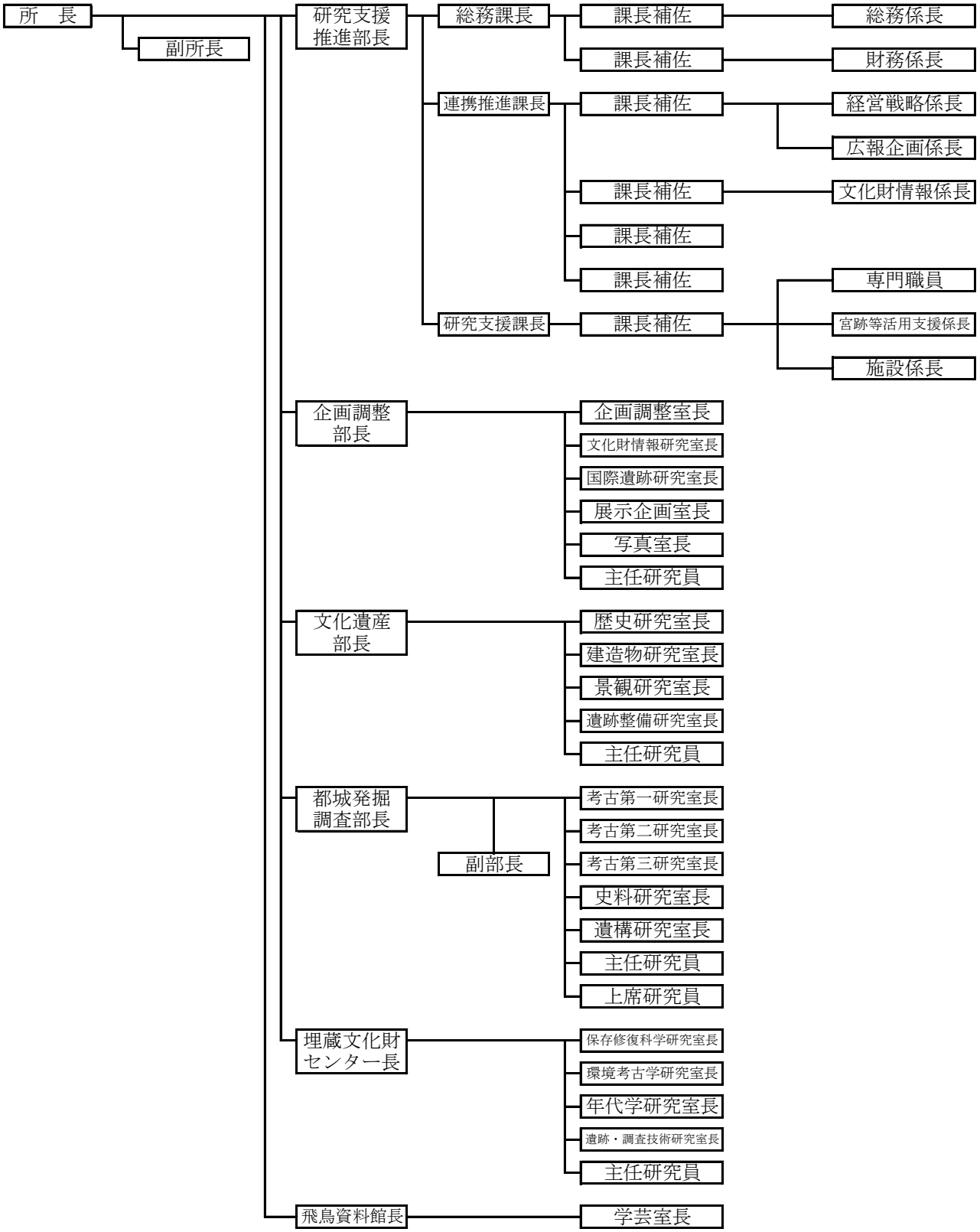
【福岡県立アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



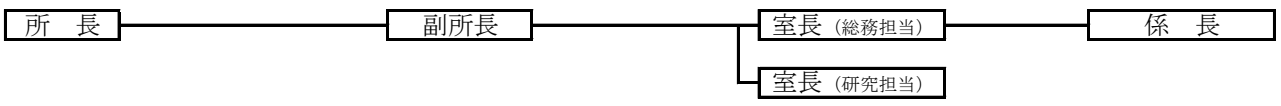
【東京文化財研究所】


所　長
副所長
研究支援推進部長
管理課長
室　長
総務係長
企画渉外係長
財務係長
契約係長
文化財情報資料部長
文化財情報研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
日本東洋美術史研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声映像記録研究室長
主任研究員
保存科学研究センター長
副センター長
保存環境研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復計画研究室長
修復材料研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
技術支援研究室長
主任研究員
研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】



【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



令和２年度　自己点検評価報告書　統計表

令和２年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-② 有形文化財の収集等

1-(1)-②-1 収蔵品一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1-(1)-②-2 (参考)収蔵品・寄託品件数合計(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1-(1)-②-3 令和 2 年度新収品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

1-(1)-②-4 令和 2 年度新収品一覧

【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

1-(1)-②-5 有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費)・・・・・・・・・・・・・ 35

1-(1)-②-6 寄託品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

1-(1)-②-7 寄託品増減表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

1-(1)-③有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数

（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

1-(1)-③-4 本格修理件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

1-(1)-③-5 修理概況

【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展・② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移(入館料別)（過去５か年）　(p. 143 ◎共通資料 a-①)

1-(2)-①・②-2 来館者数推移(展覧会別)（過去５か年）　(p. 144 ◎共通資料 a-②)

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展　(p. 146 ◎共通資料 a-③)

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数　(p. 146 ◎共通資料 a-③)

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数　(p. 146 ◎共通資料 a-③)

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート　(p. 220 ◎共通資料 e)

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート　(p. 220 ◎共通資料 e)

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート　(p. 220 ◎共通資料 e)

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート　(p. 220 ◎共通資料 e)

1-(2)-③-3 バリアフリー施設・設備の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

1-(2)-③-5 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置・・・・・・・・・・ 59

1-(3) 教育・普及活動
1-(3)-① 教育普及活動の充実等
1-(3)-①-1 学習機会の提供(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
1-(3)-①-6 留学生の日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
1-(3)-①-7 ボランティア受入実績 (p.155 ◎共通資料 b)
1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
1-(3)-①-9 賛助会・・ 80
1-(3)-①-10 渉外活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数
（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数） (p.37 1-(1)-③-2)
1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
1-(3)-②-3 特別観覧件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
1-(3)-②-5 広報実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
1-(3)-②-6 広報刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数 (p.219 ◎共通資料 d)
1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧 (p.166 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.171 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧 (p.185 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.210 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-①-5 客員研究員一覧 (p.216 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-② その他の有形文化財に関連する調査研究
1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧 (p.166 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.171 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧 (p.185 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.210 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-②-5 客員研究員一覧 (p.216 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等
1-(4)-③-1 研究交流実績一覧 (p.158 ◎共通資料 c-①)
1-(4)-④ 調査研究成果の公表
1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧 (p.205 ◎共通資料 c-⑥)
1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展 (p.146 ◎共通資料 a-③)
1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績 (p.61 1-(3)-①-2)
1-(5) 国内外の博物館活動への寄与
1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与
1-(5)-①-1 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
1-(5)-①-3 海外への列品貸与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
1-(5)-①-5 収蔵品貸与促進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等
1-(5)-②-1 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 122

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
2-(1)-1 調査研究テーマ一覧 (p.166 ◎共通資料 c-②)
2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.171 ◎共通資料 c-③)
2-(1)-3 論文等発表実績一覧 (p.185 ◎共通資料 c-⑤)
2-(1)-4 調査研究刊行物一覧 (p.205 ◎共通資料 c-⑥)
2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p.210 ◎共通資料 c-⑦)
2-(1)-6 客員研究員一覧 (p.216 ◎共通資料 c-⑧)
2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
2-(2)-1 調査研究テーマ一覧 (p.166 ◎共通資料 c-②)
2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.171 ◎共通資料 c-③)
2-(2)-3 論文等発表実績一覧 (p.185 ◎共通資料 c-⑤)
2-(2)-4 調査研究刊行物一覧 (p.205 ◎共通資料 c-⑥)
2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p.210 ◎共通資料 c-⑦)
2-(2)-6 客員研究員一覧 (p.216 ◎共通資料 c-⑧)
2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）・・ 136
2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況(刊行物件数) (p.205 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）・・ 137
2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 (p.158 ◎共通資料 c-①)
2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 (p.166 ◎共通資料 c-②)
2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 (p.171 ◎共通資料 c-③)
2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 (p.183 ◎共通資料 c-④)
2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 (p.185 ◎共通資料 c-⑤)
2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 (p.205 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 (p.219 ◎共通資料 d)
2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実
2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
2-(4)-② 調査研究成果の発信
2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧 (p.205 ◎共通資料 c-⑥)

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139
2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧 (p.183 ◎共通資料 c-④)
2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数 (p.219 ◎共通資料 d)
2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数・・・・・・・・ 139
2-(4)-③ 展示公開施設の充実
2-(4)-③-1 来館者数推移(入館料別)(過去５か年) (p.143 ◎共通資料 a-①)
2-(4)-③-2 来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) (p.144 ◎共通資料 a-②)
2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展 (p.146 ◎共通資料 a-③)
2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等
2-(5)-②-1 専門的・技術的な協力・助言の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
2-(5)-③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
2-(5)-③-1 ボランティア受入実績 (p.155 ◎共通資料 b)
2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与
2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧 (p.158・165 ◎共通資料 c-①1)・3))
2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧 (p.183 ◎共通資料 c-④)
2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数 (p.219 ◎共通資料 d)
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1.業務改善の取組
1-(5) 一般管理費等の削減
1-(5)-① 施設の有効利用件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
◎共通資料
a 展示
a-①来館者数推移(入館料別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143
a-②来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
a-③平常展・特別展・海外展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
b ボランティア受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 155
c 調査研究
c-① 研究交流実績一覧
1) 海外研究者招聘・受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
2) 他機関の共同研究への参画実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
3) 研究者海外派遣実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
c-② 調査研究テーマ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
c-③ 学会、研究会等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
c-④ シンポジウム開催実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
c-⑤ 論文等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
c-⑥ 調査研究刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
c-⑧ 客員研究員一覧・・ 216
d ウェブサイトアクセス件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
e 令和２年度平常展・特別展アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-②　有形文化財の収集等

1-(1)-②-1　収蔵品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	131,433	135	1,006	119,942	89	648	8,150	29	200	1,929	13	114	1,412	4	44
絵画	13,771	35	219	11,194	21	105	2,131	9	60	306	4	44	140	1	10
書跡	3,595	37	175	1,920	14	60	1,376	17	78	152	5	29	147	1	8
彫刻	1,456	1	49	1,112	0	24	149	0	3	153	1	16	42	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,424	3	61	16,426	1	17	603	2	31	169	0	11	226	0	2
刀剣	3,501	21	57	3,464	19	57				16	0	0	21	2	0
陶磁	4,504	0	22	2,964	0	13	1,349	0	3	81	0	0	110	0	6
漆工	4,768	6	32	3,951	4	20	532	0	3	107	2	5	178	0	4
染織	4,885	2	29	3,772	0	20	965	1	8	94	1	1	54	0	0
考古	30,415	5	76	28,621	5	55	699	0	11	745	0	8	350	0	2
民族資料	1,376	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	11	0	0
歴史資料	6,673	0	12	6,249	0	5	297	0	2	0	0	0	127	0	5
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	2,283	0	2	2,283	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	709	4	31	709	4	31									
東洋 書跡	1,729	10	13	1,729	10	13									
東洋 彫刻	813	0	20	813	0	20									
東洋 金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
東洋 陶磁	3,057	0	11	3,057	0	11									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	610	0	1	610	0	1									
東洋 考古	5,954	0	2	5,954	0	2									
東洋 民族	3,555	0	0	3,555	0	0									
法隆寺献納宝物	326	11	184	326	11	184									
黒田記念館収蔵品	818	0	2	818	0	2									
準歴史資料(含和書)	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-1（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）　　令和3年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
中村泰寄贈文書	一式
森蘊資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3,184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,420箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	36,429箱
平城宮・京出土瓦類	1,004,933箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
長屋王家木簡附平城京跡左京三条二坊出土木簡（重要文化財）	1,809点
[都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約37,020点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	41,700箱
土器　　整理箱	16,850箱
土製品	15,120点
木器・木製品	34,387点
木簡	35,323点
建築部材	約3,000点
金属製品	19,949点
石器・石製品	14,643点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鰐淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財図勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

収蔵品・寄託品件数合計（過去5か年）

（単位：件）　令和3年3月31日現在

		平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	139,582	327	2,172	140,448	330	2,193	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180	143,928	332	2,207
	東京国立博物館	120,267	143	894	120,569	144	903	122,194	144	897	122,462	141	891	122,593	143	910
	京都国立博物館	13,983	114	818	14,212	115	822	14,509	116	812	14,650	117	815	14,697	117	818
	奈良国立博物館	3,844	65	411	3,855	66	417	3,882	66	418	3,885	65	420	3,917	66	423
	九州国立博物館	1,488	5	49	1,812	5	51	2,095	6	53	2,579	6	54	2,721	6	56
収蔵品	国立博物館 計	127,455	132	983	128,208	134	997	130,211	135	994	131,191	135	1,002	131,433	135	1,006
	東京国立博物館	117,192	88	636	117,460	89	643	119,064	89	644	119,871	89	646	119,942	89	648
	京都国立博物館	7,794	28	198	7,977	29	202	8,075	29	196	8,130	29	200	8,150	29	200
	奈良国立博物館	1,886	13	112	1,893	13	113	1,908	13	113	1,911	13	114	1,929	13	114
	九州国立博物館	583	3	37	878	3	39	1,164	4	41	1,279	4	42	1,412	4	44
寄託品	国立博物館 計	12,127	195	1,189	12,240	196	1,196	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178	12,495	197	1,201
	東京国立博物館	3,075	55	258	3,109	55	260	3,130	55	253	2,591	52	245	2,651	54	262
	京都国立博物館	6,189	86	620	6,235	86	620	6,434	87	616	6,520	88	615	6,547	88	618
	奈良国立博物館	1,958	52	299	1,962	53	304	1,974	53	305	1,974	52	306	1,988	53	309
	九州国立博物館	905	2	12	934	2	12	931	2	12	1,300	2	12	1,309	2	12

1-(1)-②-3 令和2年度新収品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	242			71			20			18			133		
計	69	155	18	1	52	18	9	11	0	10	8	0	49	84	0
絵画	7	8	0	1	2	0	1	6	0	1	0	0	4	0	0
書跡	3	59	0	0	29	0	0	0	0	1	0	0	2	30	0
彫刻	1	18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	17	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	6	1	0	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	1	0
刀剣	2	9	0	0	0	0			0	0	0	0	2	9	0
陶磁	4	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0
漆工	5	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0
染織	7	5	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	5	1	0
考古	30	31	0	0	0	0	0	0	0	3	6	0	27	25	0
民族資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
歴史資料	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0									
東洋 書跡	0	15	0	0	15	0									
東洋 彫刻	0	1	0	0	1	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	0	0	0	0	0	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	1	0	0	1	0									
東洋 考古	0	3	0	0	3	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	0	0	2	0	0	2									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	525			754			2,005			980			242		
小計	63	318	144	64	518	172	154	348	1,503	87	125	768	69	155	18
絵画	13	36	0	18	17	5	8	22	0	31	9	0	7	8	0
書跡	7	42	0	8	47	2	3	50	0	2	8	0	3	59	0
彫刻	1	3	0	5	2	0	2	3	0	1	0	0	1	18	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	32	0	3	253	8	3	21	0	3	12	0	6	1	0
刀剣	0	2	0	0	0	10	1	0	0	0	1	0	2	9	0
陶磁	6	143	0	10	123	5	15	44	0	1	11	0	4	2	0
漆工	2	7	0	2	12	93	4	23	0	1	8	0	5	1	0
染織	4	8	0	1	7	47	30	21	0	3	7	0	7	5	0
考古	4	6	4	11	18	2	81	120	2	34	10	0	30	31	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
歴史資料	17	8	134	4	2	0	6	1	0	3	50	0	3	1	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料										0	0	767	0	0	16
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1,500	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	4	0	0	1	0	0	15	0	3	1	0	0	0	0
東洋 書跡	1	0	0	0	2	0	0	18	0	0	0	0	0	15	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0
東洋 金工	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	0
東洋 陶磁	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
東洋 考古	0	0	5	0	11	0	0	3	0	0	4	0	0	3	0
東洋 民族	0	27	0	0	21	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0

1-(1)-②-4 令和2年度新収品一覧
【東京国立博物館】(計71件)

（１）購入（1件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	重要文化財　法然上人絵伝（ほうねんしょうにんえでん）	品　　質	紙本着色
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	鎌倉時代・14世紀	寸 法 等	本紙 縦32.7cm 横1,364.0cm
作品概要	巻子装。牙軸。詞書五段、絵六段。 法然上人の伝記を描いた絵巻。もとは九巻構成の琳阿本と呼ばれる系統の作例で、本作はそのうちの第七巻にあたる。琳阿本の名称は、この系統の作品に「向福寺琳阿弥陀仏」との名があることに由来する。琳阿本で九巻全てが揃うのは江戸時代制作の東京・妙定院本であり、本系統の最古作として極めて貴重である。 法然上人の伝記を描いた「法然上人絵伝」は京都・知恩院蔵の四十八巻本（国宝）が有名だが、本作はこの四十八巻本とほぼ同時代に制作され、現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例である。四十八巻本は既存の「法然上人絵伝」を解体、編集するなど複雑な経緯を経て成立しており、九巻構成の琳阿本は「法然上人絵伝」の初期的な段階をうかがう上でも重要な伝本である。 東京国立博物館には本作ともとは一連であった絵巻（第八巻に相当。A-10571）がある。		

（２）寄贈（52件）

＜絵画＞(2件)

1　名称	平安神宮下絵（へいあんじんぐうしたえ）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	竹内栖鳳（1864～1942）筆	員　　数	1枚
時　　代	明治時代・明治29年（1896）	寸 法 等	本紙 縦1,846.0cm 横3,782.0cm
作品概要	縦・約1尺前後、横・約1尺4寸強（最後の列だけ横・約7寸5分）の楮紙を縦方向に6枚、横方向に9枚継いで1枚とした大きな料紙に平安神宮の景色を描く。朱線で屏風の1扇ずつの区画（1571×566）が6扇分引かれる。その区画の中に、応天門、大極殿、蒼龍楼、白虎楼、龍尾壇といった主要な建物を墨で描き、周囲の松樹や遠景の山などを淡墨でアタリをとり、その上からやや暗めの朱線で描いている。建物部分には貼紙をしての修正や、明るめの朱による修正が入っている。 1扇の区画の大きさと図様から、明治29年（1896）に平安遷都一千百年記念祭協賛会からの依頼で制作された「円山公園・平安神宮」（6曲1双、A-11781）の左隻の原寸下絵と考えられる。数度の描き直しの跡が見られるが、最後の描線による応天門や大極殿の大きさや位置関係、鴟尾の形状、松樹の形状や位置から完成作の直前の状態と見られる。		

2　名称	粟穂鶉図屏風（あわほうずらずびょうぶ）	品　　質	紙本着色
作 者 等	土佐光起（1617～91）筆	員　　数	8曲1双
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 各 縦100.9cm 横353.9cm
作品概要	近景に、桔梗、粟、菊、サルトリイバラ、薄や女郎花などの秋草が生い茂る刈田と、落穂を啄むかのような鶉の群れを描き、金砂子の霞と緩やかな水流を隔てた遠景には山を表わす。鶉は土佐光起が得意としたモチーフのひとつ。本図における鳥のかたちや、羽毛の緻密な描写、丸みを帯びた体の立体感をとらえた表現には、筆耕園（TA-487-3）などにみられるような李安忠や徽宗の筆に比定された中国絵画の鶉図を学習した成果がみとめられ、画家の父・土佐光則による濃彩の鶉図（A-1264　雑画帖）とは一線を画す。光起は秋郊鳴鶉図（A-65）をはじめとする鶉図を多数制作し、本画題は近世土佐派の画家たちの代表的なレパートリーとなった。その大半は掛軸である。光起による大画面の鶉図は、秋草鶉図屏風（重要文化財、名古屋市博物館蔵）など僅かに知られているのみであり、本図は鶉図を近世土佐派の代名詞になさしめた光起の大作として高く評価できる。なお、屏風裏面には筆者不詳の金地墨画山水図がある。		

＜書跡＞(29件)

3　名称	賢愚経断簡（大聖武）（けんぐきょうだんかん（おおじょうむ））	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝聖武天皇筆	員　　数	1幅
時　　代	奈良時代・8世紀	寸 法 等	本紙 縦27.0cm 横7.8cm
作品概要	掛軸装。木軸。茶毘紙に『賢愚経』（巻第六、北魏・慧覚等訳）を書写したもの。元巻子本で、当館には巻子本の「賢愚経」（B-2402）もあり、国宝に指定されている。東大寺に伝来し、伝称筆者を聖武天皇としており、「大聖武」、「大和切」と称される。同じ茶毘紙に書写されたもののうち、文字の大きさで「大聖武」「中聖武」「小聖武」と呼び分けられている。「大聖武」は古筆手鑑のはじめに押される、古筆切の筆頭といえるものである。		

4　名称	後撰和歌集巻第三断簡（烏丸切）（ごせんわかしゅうまきだいさんだんかん（からすまるぎれ））	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原定頼筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦20.8cm 横14.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』巻第三春下より、和歌三首を書写した部分。金銀の揉み箔を全面に散らした料紙を使っている。粘葉装の冊子本だったもので、下巻は伝わっていないが、その内容は12世紀の『後撰和歌集』の伝本として貴重である。同種のつれの中に、江戸初期の古筆了佐による極札が伝わっており、藤原定頼（992～1045）筆としているものの、定頼とは時代が合わず、12世紀の「本願寺本三十六人家集」（国宝、西本願寺所蔵）の「元貞集」等と同筆である。		

5　名称	針切（はりぎれ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・11～12世紀	寸 法 等	本紙 縦21.8cm 横31.2cm
作品概要	掛軸装。牙軸。針のように細い墨線のため「針切」と呼ばれるもの。もとは冊子本で、『重之子僧集』と『相模集』を書写したものだった。本作は『重之子僧集』の書写で、この針切でしか写本が残されていないため貴重である。		

6 名称	小大君集断簡（御蔵切）（こおおぎみしゅうだんかん（おくらぎれ））	品　質	彩箋墨書
作者等	伝小大君筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸法等	本紙 縦19.0cm 横10.5cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『小大君集』より和歌一首を書写した部分。同筆の『元真集』『元輔集』『重之集』があり、すべて「御蔵切」の名で呼ばれている。本作には見えないものの雲母摺りを施した唐紙を使っていて、もとは冊子本であった。『小大君集』最古の写本で、伝称筆者の小大君は10世紀末から11世紀初の人物だが、本作は11世紀後半のものと推定される。		

7 名称	月輪切（つきのわぎれ）	品　質	紙本墨書
作者等	伝西行筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・12～13世紀	寸法等	本紙 縦25.6cm 横8.5cm
作品概要	掛軸装。牙軸。西行の自歌合「宮河歌合」の断簡。「宮河歌合」は、西行が自詠の和歌を三十六番で左右に分け、藤原定家が判事をつとめたもの。文治5年（1189）頃に伊勢神宮の外宮に奉納された。本作は、その原本に近い時期の写本と考えられる。		

8 名称	和漢朗詠集巻上断簡（戊辰切）（わかんろうえいしゅうまきじょうだんかん（ぼしんぎれ））	品　質	彩箋墨書
作者等	藤原伊行（?～1149～68-）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	本紙 縦29.0cm 横20.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『和漢朗詠集』巻上（秋）より、「前栽」の部分を書写している。もとは、『和漢朗詠集』上下巻を完存していた巻子本で、昭和3年（1928）、一橋徳川家から売立に出されて分割された。その年の干支により「戊辰切」と呼ばれる。巻上は藤原伊行筆、巻下はその父・藤原定信筆で、父子で揮毫したものであった。金銀箔が散らされた料紙を使っている。		

9 名称	二条家三卿之芳翰（にじょうけさんきょうのほうかん）	品　質	紙本／彩箋墨書
作者等	藤原俊成（1114～1204）、伝藤原定家、伝藤原為家（1197～1275）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀（第1紙）、鎌倉時代・13世紀（第2・3紙）	寸法等	本紙 縦21.6cm 横46.6cm
作品概要	掛軸装。牙軸。三葉の異なる古筆切を一つの掛軸に装幀している。右第一紙は、藤原俊成（1114～1204）筆の「日野切」で『千載和歌集』巻十二恋二を書写した部分。『千載和歌集』全二十巻は、後白河法皇の撰進により俊成は撰者となり文治三年（1187）奏上した。もとは冊子本で上下二冊であったと推定され、巻十一以降の下帖分しか伝わっていないが、撰者自身の自筆本として貴重である。第二紙は、上下に藍の繊維を漉き込んだ雲紙に『後撰和歌集』巻十一恋三から和歌を四首書写したもの。ただ、歌の順序が違っているのと作者や詞書が省略されている。伝定家筆の「後撰和歌集」断簡としてほかのつれが確認されていない（小松茂美『古筆学大成』巻六）。第三紙は、『拾遺和歌集』巻一春より和歌一首を書写。これもほかにつれが確認されていない（同上巻八）。		

10 名称	後撰和歌集巻十二断簡（紹巴切）（ごせんわかしゅうまきじゅうにだんかん（じょうはぎれ））	品　質	紙本墨書
作者等	藤原定家（1162～1241）筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸法等	本紙 縦22.3cm 横14.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』巻十二恋四より和歌三首を書写した部分。里村紹巴（1525～1602）が所蔵していたことによりこの名称で呼ばれる。もとは上下二冊の冊子本だったが、巻十一以降の下帖部分しか伝わっていない。藤原定家筆の『後撰和歌集』として有名な古筆切である。		

11 名称	古今和歌集巻三断簡（通切）（こきんわかしゅうまきさんだんかん（とおしぎれ））	品　質	彩箋墨書
作者等	藤原定実（?-1077～1119-?）筆	員　数	
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	本紙 縦22.2cm 横14.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『古今和歌集』を書写した元粘葉装の冊子本で、縦に筋の入った「筋切」とこの「通切」は料紙の表裏である。本作は、紙の漉き跡である布の目が見えており、大きな篩（ふるい）を意味する「とおし」という道具の名から、「通切」と呼ばれる。『古今和歌集』巻三夏の巻末部分のため、和歌一首の左側に余白が広がっている。筆者は、藤原佐理と伝称されてきたが、現在では、当館の国宝「古今和歌集（元永本）」と同じ藤原定実（？～1077～1119～？）と推定されている。		

12 名称	後撰和歌集巻十断簡（秋篠切／東山切）（ごせんわかしゅうまきじゅうだんかん（あきしのぎれ／ひがしやまぎれ））	品　質	紙本墨書
作者等	伝民部卿局筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸法等	本紙 縦23.3cm 横15.6cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』を書写したもとは綴葉装の冊子本。江戸時代に「秋篠切」と呼ばれはじめたが、昭和26年（1951）に発見された零本が分割された際、「東山切」と名付けられた。本作は、「東山切」と名づけた田中塊堂（1896～1976）による箱書に「秋篠切」とあるが、『後撰和歌集』巻十恋二の和歌二首と詞書部分で零本に収まっていたものである。		

13 名称	後撰和歌集巻二断簡（白河切）（ごせんわかしゅうまきにだんかん（しらかわぎれ））	品　質	紙本墨書
作者等	伝西行筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	本紙 縦17.5cm 横15.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』上下二帖にした枡型の冊子本だった。現在は、上帖しか伝わっておらず、本作は『後撰和歌集』巻二春中から詞書と和歌一首を書写した部分である。ほかのつれには、烏丸光広（1569～1638）による極めが附属するものがあり、江戸初期には分割されていたことがわかる。		

14　名称	後撰和歌集巻五断簡（烏丸切）（ごせんわかしゅうまきごだんかん（からすまるぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原定頼筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦20.5cm 横15.2cm
作品概要	掛軸装。牙軸。金銀の揉み箔を散らした料紙に『後撰和歌集』を書写している。本作は、『後撰和歌集』巻五秋上の巻末にあたり、和歌一首の左側に余白が広がっている。粘葉装の冊子本だったもので、下巻は伝わっていない。同種のつれの中に、江戸初期の古筆了佐による極札が伝わっており、藤原定頼（992～1045）筆としているものの、定頼とは時代が合わず、12世紀の「本願寺本三十六人家集」（国宝、西本願寺所蔵）の「元貞集」等と同筆である。		

15　名称	兼輔集断簡（砂子切）（かねすけしゅうだんかん（すなごぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定信（1088～1154～?）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦19.1cm 横12.6cm
作品概要	掛軸装。牙軸。濃い藍色の染紙に金銀箔を散らした料紙を使っている。もとは冊子本の『兼輔集』で、ほかに素紙や濃茶色の染紙を使っている。同筆で同じ装飾を施した料紙を使った『業平集』『中務集』『公忠集』が伝わっており、もとは三十六人家集だった可能性が考えられる。伝称筆者は藤原公任だが、「本願寺本三十六人家集」（国宝、西本願寺所蔵）の「貫之集下」（石山切）などと同筆で藤原定信（1088～1154～？）筆である。		

16　名称	和漢朗詠集巻上断簡（益田本）（わかんろうえいしゅうまきじょうだんかん（ますだぼん））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦23.9cm 横9.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。当館が所蔵する重要文化財「和漢朗詠集巻下断簡（益田本）」（B-2764） 一巻のつれである。その一巻が益田鈍翁（1847～1938）旧蔵のため、「益田本」と呼ばれる。本作は、七宝唐草文を施した蠟箋（中国製）に『和漢朗詠集』巻上春より「鶯」の漢詩を四首書写した部分。当館所蔵の一巻で確認すると、唐紙や染紙、雲紙などは色紙型で継いでいる中に、蠟箋だけはさらに縦半分に切断して継いでいる。本作はその縦半分の部分と考えられる。		

17　名称	和泉式部続集切（いずみしきぶぞくしゅうぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦20.5cm 横13.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『和泉式部続集』を書写している。もとは粘葉装の冊子本で、素紙や薄藍地に竜丸文や牡丹文を空摺りにした料紙を交用する調度手本として調製されたものである。現存の断簡は2種類の書風に分類され、本作は第2種にあたる。		

18　名称	業平集断簡（砂子切）（なりひらしゅうだんかん（すなごぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦18.5cm 横11.4cm
作品概要	掛軸装。牙軸。濃い藍色の染紙に金銀箔を散らした料紙を使っている。もとは冊子本の『業平集』で、ほかに素紙や濃茶色の染紙を使っている。同筆で同じ装飾を施した料紙を使った『兼輔集』『中務集』『公忠集』が伝わっており、もとは三十六人家集だった可能性が考えられる。		

19　名称	二十巻本歌合断簡（二条切）（にじっかんぼんうたあわせだんかん（にじょうぎれ））	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原俊忠筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦24.8cm 横13.3cm
作品概要	掛軸装。牙軸。上下に淡墨の界線を引いた素紙に、「出羽国郡名歌合」（天慶二年二月二八日貫之歌合カ）を書写している。近衛家（陽明文庫）に伝わった「二十巻本歌合（類聚歌合）」（巻第15）の断簡である。ただし、『古筆学大成』にも所収されず、『平安朝歌合大成』（萩谷朴、1958年）において本文が紹介されているが、主催者・開催年不明の歌合とされている。「二十巻本歌合」は、おおよそ書風によって伝称筆者・切名が二種類あり、本作は、藤原俊忠を伝称筆者とする「二条切」で、もう一方は伝藤原忠家筆「柏木切」である。		

20　名称	古今和歌集巻十七断簡（大江切）（こきんわかしゅうまきじゅうななだんかん（おおえぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原定頼筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦19.4cm 横13.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。金銀の砂子を撒いた料紙に『古今和歌集』を書写した元冊子本である。本作は、『古今和歌集』巻17雑歌を書写した部分。宮内庁に巻子本に装幀しなおされた巻13・巻14断簡が伝わるが、現存の断簡は巻11～20しか確認されておらず、元は上下2帖に仕立てられていた可能性が高い。		

21　名称	金銀箔歌集切（きんぎんはくかしゅうぎれ）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安～鎌倉時代・12～13世紀	寸 法 等	本紙 縦21.5cm 横6.3cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『金葉和歌集』巻九雑部下に所収の和歌一首を書写した部分の断簡である。ただし、『金葉和歌集』（初度・二度本にはなし）では作者を藤原よしすけとして書写した古筆切の中につれがなく、『国歌大観』にも所収されていない。料紙には金銀箔が散らされていることから、「金銀箔歌集切」と呼ばれてきた。		

22　名称	記録切（きろくぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原定家（1162～1241）筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	本紙 縦14.7cm 横13.5cm
作品概要	掛軸装。牙軸。上部に三本、下部に一本の界線が引かれたほぼ正方形の料紙に、康治二年（1143）正月十八日に宮廷で行なわれた賭弓という行事について記している。このような記録は冷泉家時雨亭に「朝儀諸次第」として一群で伝わっており、本作と同類の料紙もみられることから、本作も元冊子本だったと推測できる。また、「朝儀諸次第」の中の藤原定家の筆跡と比較して、本作も定家自筆の記録と考えられる。記された内容は、当時の日記『台記別記』の中に詳しい記事があり、この時、右近衛次将は藤原公通一人のみが参仕したとなっているため、本作の内容と矛盾しない。「内府」は藤原頼長を指すが、「左中将雅通」とある源雅通は康治二年はまだ少将で、翌年正月二十七日に中将に昇進するため、誤記の可能性が高い。		

23　名称	讃岐切（さぬきぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝菅原道真筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・10世紀	寸 法 等	本紙 縦25.3cm 横2.6cm
作品概要	掛軸装。塗軸。『合部金光明経』巻八を一行45文字の細字で書写している。国宝「手鑑藻塩草」（京都国立博物館蔵）に押されている古筆切のつれである。菅原道真が讃岐守のときに讃岐国滝宮に納経したことにちなんでこの名で呼ばれる。		

24　名称	和漢朗詠集巻下断簡（法輪寺切）（わかんろうえいしゅうまきげだんかん（ほうりんじぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦27.8cm 横4.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『和漢朗詠集』巻下恋より漢詩を一首書写した部分。薄藍色の料紙と書風より、法輪寺切とわかる。筆者は、藤原行成と伝称するが、平安時代最高峰の仮名の名品である「高野切」（古今和歌集）を寄合書きした三人の筆者のうち第三種と同筆である。一行ながら、「粘葉本和漢朗詠集」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）にもみられるのびやかな墨線の美しさが際立つ断簡である。なお、横に添えられた装飾料紙は、当館所蔵の「敦忠集切」（伝藤原行成筆、益田鈍翁旧蔵、B-2462）の添え紙と同じ料紙を使っており、本作の伝来がわからないものの関係性がうかがわれる。		

25　名称	中務集断簡（砂子切）（なかつかさしゅうだんかん（すなごぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦18.8cm 横10.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。掛軸装。牙軸。金銀箔を散らした料紙を使っている。もとは冊子本の『中務集』で、ほかに素紙や濃茶色の染紙を使っている。同筆で同じ装飾を施した料紙を使った『業平集』『兼輔集』『公忠集』が伝わっており、もとは三十六人家集だった可能性が考えられる。		

26　名称	歌合切（うたあわせぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原定家（1162～1241）筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	本紙 縦21.0cm 横15.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。藤原定家自詠の和歌と三男・為家の和歌を歌合として書写したもの。右の為家の和歌が勝ったことも記されている。管見の限りでこの和歌が所収される歌集や歌合集がなく、類似する古筆切も確認できないため、文学資料としても貴重な古筆切である。当館所蔵の藤原定家筆「歌合切」（B-2558）の筆跡と近く、定家自筆と考えられる。		

27　名称	書状（しょじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等	本阿弥光悦（1558～1637）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦19.5cm 横42.0cm
作品概要	掛幅装（三段表具）。二十四日付、「予長左（未詳）」宛、本阿弥光悦自筆の書状。文中の「伊賀守」は板倉勝重（1545～1624）と推定され、伊賀守任官の慶長8年（1603）光悦46歳以降の筆と考えられる。		

28　名称	書状（しょじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等	本阿弥光悦（1558～1637）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦28.5cm 横40.4cm
作品概要	掛幅装（三段表具）。日付に閏月を示す「後」の記載から、本作品は元和元年（1615）閏6月5日、光悦57歳の自筆書状と判明する。宛先の「加式少」は、加藤式部少輔明成（1592～1661）で、当時23歳。父嘉明共々、光悦と親交があった。書状冒頭で樽酒と麦麺の礼を述べ、次いで「すちけ（筋気）」という筋肉が痙攣により痛む病気のため手紙の執筆も、訪問もかなわなかったことを詫びる。光悦が元和年間に軽度の中風にかかったとの記載が『本阿弥行状記』にあり、これまで中風を記した光悦自筆書状としては、年未詳の加式少宛「書状」（G-182-2）や八月九日付十方院宛「書状（個人蔵）が知られていたが、これらと本作品は光悦の執筆が阻害される罹病に関して、深い関連が窺われるものである。元和年間に発症した光悦の中風は、慶長期以前と以後の書風変化の一因と考えられるため、本作品はこの罹病に関して年代特定でき、またその時点での書風を具体的に伝える点でも、学史上有益なだけでなく、光悦その人に迫る書として、展示効果も高い作品である。		

29　名称	一行書「老子云天長地久」（いちぎょうしょ「ろうしいわくてんちょうちきゅう」）	品　質	紙本墨書
作 者 等	慈雲（1718～1804）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	本紙 縦130.0cm 横27.6cm
作品概要	筆者の慈雲が、『老子』第七章の「天長地久」の語句を、一行に揮毫したものである。類品として、この語句と「孔子云仁者寿」とで対幅とするもの（大阪中之島美術館所蔵、山本発次郎コレクション）や、この老子と孔子の句の中央に法華経を出典とする「福寿海無量」を一行に揮毫し三幅対とするもの（黒川古文化研究所所蔵）などが知られる。本作品は、関防印と落款印を備えているため当初から単独の幅として制作されたと考えられる。付属の箱書は上月諦了（1894～1959、大阪・長栄寺14世、新真言宗管長）筆で、「慈雲尊者墨蹟〈老子曰天長地久〉」と墨書される。		

30　名称	長歌（ちょうか）	品　質	江戸時代・19世紀
作 者 等	良寛（1758～1831）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦20.0cm 横42.4cm
作品概要	掛幅装。良寛が晩年に老いを詠んだ長歌の作品である。なお、最末の「ねもごろの」以下1首は反歌である。全16行。書体としては草仮名で書かれる。相馬御風『良寛を語る』1974年の付録「良寛禅師歌集」によれば、長歌の後に続く反歌として次の2首が記される。 （１）うたてしきものにもあるか年月は山の奥までとめて来にけり （２）ねもごろのものにもあるかとし月はしづかねやまでとめてきにけり 本作品では、この2首の上句と下句を合わせて1首の反歌としている点が特徴的である。良寛は生涯に同じ詩歌を何度も書いており、書くたびに詩の字句が少し変化する傾向が見られる。このため本作品は、従来知られた「老をかなしむうた」の異本とみられる。		

31　名称	月自画賛（つきじがさん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	松花堂昭乗（1584～1639）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦124.0cm 横47.8cm
作品概要	掛幅装。紙面上方約三分の一に、淡墨で雲を刷き、塗り残して月をあらわし、残りの紙面に、唐の詩人李郢（りてい）の七言絶句「宿杭州虚白堂」を大師流の書法で4行に揮毫したもの。		

＜陶磁＞(1件)

32　名称	色絵枝垂桜図皿（いろえしだれざくらずさら）	品　質	磁器
作 者 等	鍋島	員　数	10枚
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	高5.5cm 口径20.8cm 底径11.0cm
作品概要	白色磁質胎。木盃形と呼ばれる、やや高さのある高台のついた七寸皿。同規格のものが10枚一揃いで伝わる。 見込みには、染付と赤の上絵具で枝垂桜をあらわす。1本の幹から垂れ下がる枝葉を染付で、そこに咲くたくさんの桜の花と蕾を赤で描いている。背景は濃（だみ）で器面の上半分を塗り込んで夜の様子をあらわし、下半分には余白をとっている。 側面には染付で六つ玉の七宝結び文を3か所に配し、高台側面には櫛歯文がめぐる。		

＜東洋書跡＞(15件)

33　名称	行書七言律詩軸（ぎょうしょしちごんりっしじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	倪元璐（1593～1644）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・崇禎3年(1630)	寸 法 等	本紙 縦193.2cm 横48.0cm
作品概要	掛幅装、牙軸。倪元璐が38歳時に自詠の七言律詩を行書で記した一幅。		

34　名称	草書五言律詩軸（そうしょごごんりっしじく）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	劉墉（1719～1804）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・18～19世紀	寸 法 等	本紙 縦76.9cm 横26.2cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。劉墉が韋応物の五言律詩「寄全椒山中道士」を草書で書写した一幅。		

35　名称	行草書画詳軸（ぎょうそうしょがしょうじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	梁同書（1723～1815）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・乾隆52年(1787)	寸 法 等	本紙 縦125.5cm 横28.4cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。梁同書が65歳時に、董其昌『画禅室随筆』の一節を行草書で書写し、笠浦なる人物に贈った一幅。		

36　名称	臨争坐位稿軸（りんそうざいこうじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	胡震（1817～62）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦166.2cm 横30.3cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。胡震が顔真卿「争坐位稿」を任意に臨書した一幅。		

37　名称	行書七言絶句軸（ぎょうしょしちごんぜっくじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	謝无量（1884～1964）筆	員　数	1幅
時　代	清時代～中華人民共和国・20世紀	寸 法 等	本紙 縦131.0cm 横30.5cm
作品概要	掛幅装、木軸。謝无量が高駢の七言絶句「聞河中王鐸加都統」を行書で書写した一幅。		

38　名称	行書坳堂老友司臬貴州奉送小序軸（ぎょうしょおうどうろうゆうしげつきしゅうほうそうしょうじょじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	翁方綱（1733～1818）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・嘉慶3年(1798)	寸 法 等	本紙 縦45.0cm 横35.8cm
作品概要	掛幅装、木軸。翁方綱は66歳時に、知友である坳堂の貴州への赴任に際して送別の律詩二篇を贈ったが、これはその序文「坳堂老友司臬貴州奉送小序」を書写した一幅。		

39　名称	草書五言律詩軸（そうしょごごんりっしじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	陳錫周（生没年不詳）筆	員　数	1幅
時　代	清～中華民国時代・19世紀～20世紀	寸 法 等	本紙 縦170.7cm 横44.7cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。陳錫周が崔塗の五言律詩「過陶徴君隠居」を草書で書写した一幅。		

40　名称	行草書五言絶句軸（ぎょうそうしょごごんぜっくじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	王了望（1605?～1686?）筆	員　数	1幅
時　代	明～清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦206.8cm 横52.0cm
作品概要	掛幅装、木軸。王了望が「過鳥鼠山」と題する五言絶句を行草書で書写した一幅。		

41　名称	書画扇面合璧軸（しょがせんめんがっぺきじく）	品　質	書：紙本墨書、画：紙本墨画淡彩
作 者 等	陸恢（1851～1920）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・光緒21年(1895)	寸 法 等	書：本紙 縦18.4cm 横52.5cm 画：本紙 縦18.3cm 横53.0cm
作品概要	掛幅装、木軸。陸恢が耦卿に贈った書画合璧の扇面を合装した一幅。書は当時新たに出土した「韓顕宗墓誌銘」（北魏・太和23年（499））の一節の臨書。画は清初の王翬（字石谷）が重んじた元の高克恭（号房山）を倣った山水図。		

42　名称	草書七言律詩社集蜃舫軸（そうしょしちごんりっししゃしゅうしんほうじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	許友（1620～63）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦147.0cm 横51.2cm
作品概要	掛幅装、木軸。許友が「社集蜃舫」と題する七言律詩を草書で書写した一幅。		

43　名称	行書五言律詩京北玄真廟軸（ぎょうしょごごんりっしけいほくげんしんびょうじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・崇禎12年(1639)	寸 法 等	本紙 縦314.3cm 横48.8cm
作品概要	掛幅装、木軸。王鐸が48歳時に、趙深甫のために自詠の七言絶句「京北玄真廟」を行書で書写した一幅。		

44　名称	臨王羲之帖軸（りんおうぎしじょうじく）	品　質	絹本墨書
作 者 等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1幅
時　代	明～清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦172.5cm 横52.4cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。王鐸が『淳化閣帖』等に所収される王羲之と王献之の書より、王献之「玄度何来遅帖」（『閣帖』巻10、「玄～耶」部分）、王羲之「汝不帖」（『閣帖』巻10、「前～也」部分）、王羲之「豹奴帖」（『二王帖』等、「豹～也」部分)などを任意に臨書し、潜夫なる人物に贈った一幅。		

45　名称	行草書五言律詩答厳侍郎軸（ぎょうそうしょごごんりっしとうげんじろうじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	宋曹（1620～1701）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・17～18世紀	寸 法 等	本紙 縦190.5cm 横49.3cm
作品概要	掛幅装、牙軸。宋曹が「答厳侍郎」と題する五言律詩を行草書で書写し、存菴なる人物に贈った一幅。		

46　名称	行草書七言絶句軸（ぎょうそうしょしちごんぜっくじく）	品　質	絹本墨書
作 者 等	張瑞図（1570～1641）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦182.4cm 横50.4cm
作品概要	掛幅装、牙軸。張瑞図が李夢陽の七言絶句「帝京篇十首」其四を行草書で書写した一幅。		

47　名称	草書五言律詩瑞芝咏軸（そうしょごごんりっしずいしえいじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	倪元璐（1593～1644）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦159.0cm 横46.5cm
作品概要	掛幅装、牙軸。倪元璐が「瑞芝為呂豫石太常賦」と題する五言律詩を草書で記した一幅。		

＜東洋彫刻＞(1件)

48　名称	忿怒尊坐像（ふんぬそんざぞう）	品　質	銅造
作 者 等		員　数	1軀
時　代	15～16世紀	寸 法 等	高9.6cm 像高7.0cm 最大幅5.4cm 最大奥行5.5cm
作品概要	炎髪とし、両目を瞋らす。開口して上歯牙が上出する。額に飾りをつける。両耳に耳璫をつける。頭部、両肩、両腕、左手首、両足首に蛇を巻きつける。上半身は裸形で、下半身には裙及び天衣をまとう。右手は振りあげ、肘先を亡失する。左手は胸前で屈し、第二指以外を曲げて祈克印を表わし、羂索を執る。右脚を屈し、左脚を下ろして蓮華座上に坐す。蓮華座は、仰蓮及び八角五重とする。足元にはうつ伏せの裸形人物を表わし、左足先で踏みつける。背面に火炎状の光背を表わす（欠失）。台座を含む全身を一鋳とする。青銅製（蛍光Ｘ線分析による）。右手肘先を別鋳とする（亡失）。現状、鍍金は認められない。扇状の炎髪、各所に蛇を巻きつけた姿はチベット仏教における忿怒尊の典型的な姿であり、足下に大自在天を表わし、右手肘先に剣を執るとみれば、なかでも不動尊であったと考えられる。肉感的な表現から、チベット・ネパール製の可能性がある。		

＜東洋染織＞(1件)

49　名称	グリンシン（肩衣）ワヤン人形文様経緯絣（ぐりんしん（かたぎぬ）わやんにんぎょうもんようたてよこがすり）	品　　質	木綿、撚銀糸
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	19～20世紀	寸 法 等	縦216.0cm 横51.5cm
作品概要	あらかじめ藍や茜に染め分けた木綿の経糸と緯糸を用い、文様を織り上げた経緯絣である。高い技術を必要とする経緯絣は、インドネシアではバリ島東部のテンガナン村でのみ織られ、「グリンシン」と称される。円弧で囲まれた部分には、インドネシアの影絵芝居であるワヤンの一場面が表されており、3人の男女の人形文様が認められる。その間には、菱形の幾何学文様が大きく織り出されており、これらが反復されることで全体が構成される。いずれの文様も様式化されているが、菱形の頂点に配された尖頭形は鰥、中央の凹凸は犬の奥歯を示すと伝えられている。また、両端には、密な刺繍を施した別裂をはぎ合わせている。剥落が多いが、一部に撚銀糸が認められることから、この部分について、本来は銀の総刺繍であったと考えられる。		

＜東洋考古＞(3件)

50　名称	蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）	品　　質	土製
作 者 等	伝朝鮮平壌土城洞出土	員　　数	1個
時　　代	三国時代(高句麗)・6世紀	寸 法 等	径15.0cm
作品概要	軒丸瓦の瓦当部。中房は二重の圏線がめぐり中心には突起がつく。内区の文様は、主文である立体的な蓮華文と、平面的で先端に膨らみをもたせた複弁の蓮華文からなる。これらは中房側の端部が圏線によって切られたような表現をとる。弁間には珠文を一つずつ配置する。内区文様の外側には一条の圏線がめぐる。周縁は中房と同程度の高さに突出させ、端面は無文とする。制作時期は、上述の諸属性の盛行時期から6世紀後半と判断する。本品と比較的近い型式の瓦は平壌市の長安城址で出土している。		

51　名称	蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）	品　　質	土製
作 者 等	伝韓国慶州出土	員　　数	1個
時　　代	統一新羅時代・8世紀	寸 法 等	径13.1cm
作品概要	軒丸瓦の瓦当部。中房は連子を３＋９に配す。八葉の内弁は内部のパルメットが退化して十字状となる。この周囲に展開する外弁もまた八葉で、内部には三葉状の装飾を有す。外縁には珠文帯がめぐる。范の崩れにより精彩さを欠くものの、本品のような文様構成の瓦は統一新羅のなかでもその盛期である8世紀に位置づけられる。		

52　名称	蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）	品　　質	土製
作 者 等	伝朝鮮平壌西平壌出土	員　　数	1個
時　　代	高麗時代・10～11世紀	寸 法 等	径19.5cm
作品概要	軒丸瓦の瓦当部。中房は無文で半球状とし、周囲に8個の珠文を配す。立体的な蓮弁を放射状に八葉配し、弁間には凸線で蕊を表現する。周縁は中房と同程度の高さに突出させ、端面は珠文帯とする。背面では下縁に沿って二条の溝をめぐらせる。同種の瓦は安鶴宮址をはじめ平壌市域の複数の地域から出土している。いずれも高句麗時代の遺跡と重なる地点であるが、周縁を珠文帯とする点から統一新羅時代から高麗時代前期、及び同型式の瓦の分布が統一新羅の勢力に含まれない平壌市域を中心とする点から、本品の製作時期は高麗時代前期、10世紀から11世紀と判断する。		

（３）編入（18件）

＜法隆寺献納宝物＞(2件)

1　名称	袍残欠（ほうざんけつ）	品　　質	絹製、平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	奈良時代・8世紀	寸 法 等	丈134.0cm 裄142.0cm
作品概要	伎楽で用いられたとみられる袍の残欠。現状では右の前身頃と右袖が確認できる。黄色に染められた平絹を表地とし、白平絹を裏地としている。右の前身頃の裏面に帯紐が残ることから、左前に身頃を打ち合わせて着用したことがわかる。		

2　名称	経帙残欠（きょうちつざんけつ）	品　　質	竹ひご・絹糸製
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	飛鳥～奈良時代・7～8世紀	寸 法 等	縦29.0cm 横42.0cm
作品概要	経帙の残欠。御物にある聖徳太子筆「法華義疏」に付属する経帙と竹ひごの長さや直径が一致する。直径0.6㎜という細さの竹ひごで経帙を編んだ例は正倉院宝物中にもなく、御物の経帙が唯一確認される例である。このため、「法華義疏」と本来は一具であった「維摩経義疏」または「勝鬘経」（ともに正本は現存せず）に付属する経帙であった可能性がある。飛鳥時代に遡る我が国最古の経帙として貴重な作品。		

＜写真資料＞(16件)

3　名称	写真資料（しゃしんしりょう）	品　　質	鶏卵紙、ゼラチンシルバープリント、プラチナプリント等
作 者 等		員　　数	16件
時　　代	19世紀	寸 法 等	丈134.0cm 裄142.0cm
作品概要	写真資料として初めて重要文化財に指定された「旧江戸城写真帖」が含まれる。そのほかには古美術品のみの早期の展覧会として注目される明治13年(1880)に上野公園内博物局出張所で開かれた「観古美術会」出品写真、1873年開催のウィーン万国博覧会で購入または受贈した「澳国維府万国博覧会写真」他(№10～16)などがある。 また博物館として明治38年(1903)に購入した「万国写真帖(全21巻)」(内田正雄旧蔵)は2,308枚の写真すべてが慶応2年(1866)以前の撮影であることが確実な歴史的にも価値の高いもので、元年度に編入した「社寺建築写真帖」(工藤利三郎より明治41年に購入)と合わせ、購入した写真は少数ながら貴重である。		

【京都国立博物館】（計20件）

（１）購入（9件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	竹石図（ちくせきず）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	池大雅筆、宮崎筠圃賛	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	24.9×31.2cm
作品概要	18世紀の京都画壇を代表する画家の1人、池大雅（1723～76）による水墨画。大雅を尊崇した富岡鉄斎の旧蔵品で、すでに多くの展覧会出品歴、書籍掲載歴があり、小品ながら大雅の比較的初期の秀作として広く知られている。 竹は、東アジアにおいて神聖さや長寿の象徴など古来さまざまな吉祥的意味合いをもつモチーフとして造形化されてきたが、特に文人画の世界では高潔な人格の象徴としてとりわけ好まれたモチーフのひとつである。冬でも枯れず緑を保って真っ直ぐに伸び、節を有する（＝節操を保つ）竹と、永続性の象徴たる石を組み合わせる竹石図も、そうした人格の象徴を含意する画題として文人画の定番である。 与謝蕪村と並び日本における南画の大成者と称される大雅は数多くの墨竹図を描いているが、本作のように細く鋭い線描を用いる作品は珍しい。繊細できびきびした筆遣いが心地よく、特に竹葉はリズミカルな筆触の反復によってあらわされ、白さの際立つ紙地と墨色との対比が清新な趣を生み出している。こうした様式的特徴と落款の書体、用印（「碧梧翠竹山房」白文長方印、「无名」朱文長方印）から、大雅30歳前後の作と考えられる。 賛を記すのは、大雅と同時代に活躍した尾張出身の儒者宮崎筠圃（1717～74）。京に出て伊藤東涯らに学んだ儒者だが、自らも墨竹図を得意として有名だった（平安四竹の一人）。詩文集等は残していないものの、同時代の画家と活発な交流があったようで、筠圃の着賛を有する絵画作品は多い。本作の賛は「邀月落龍影、傳風作鳳音（月を邀へて龍影を落とし、風を伝へて鳳音を作す）」という五言古詩。月光に照らされ風に揺れる竹の様子を詠んだものだが、鋭い竹葉のシルエットはたしかに龍爪を思わせるし、澄んだ鳳音が聞こえてきそうな動感に満ちている。		

＜金工＞（2件）

2　名称	三足香炉（さんぞくこうろ）	品　　質	鉄・鋳造
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代・元和8年（1622）	寸 法 等	口径28.2cm、高さ21.3cm
作品概要	上方に向かってやや外向する直線の胴に、短い獣脚を備えた鋳鉄製の三足香炉。胴部に「奉寄進／本能寺／御影堂常／元和第八壬戌暦／鴨月吉日／願主／長尾小左衛門尉□□／法名宗巴敬／（以下2文字ずつ13名分の法名）／為谷是□□菩提也」の寄進銘を陽鋳することから、かつては本能寺の御影堂に納められていたと思われる。		

3　名称	短刀　銘達磨（たんとう　めい だるま）	品　　質	鉄・鍛造
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	南北朝時代（14世紀）	寸 法 等	全長43.8cm、刃長32.4cm
作品概要	平造・三つ棟の寸延短刀。 この刀の作者である達磨派は南北朝時代・14世紀の半ばから後半にかけて綾小路周辺に居住していたとされる一派。記録の上では同派に所属する工人として、重光や正宗など数名の名前が挙げられているものの、その活動実体について確かなことが分からない流派の1つである。		

＜陶磁＞（1件）

4　名称	法花蓮池水禽図壺（ほうかれんちすいきんずつぼ）	品　　質	色絵磁器
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中国・明時代（15～16世紀）	寸 法 等	高35.3cm、口径17.6cm、胴径31.2cm、高台径19.0cm
作品概要	青を基調として、胴周りに蓮や水鳥などを法花の技法を用いて描き出した壺である。法花とは、立体的に表した文様部分に色釉の鉛釉をかけわける技法のことである。三彩や銅胎七宝との関わりなどとの関わりがあるとされ、形や文様などが景徳鎮産の青花や五彩と共通する点が多い。壺の内側には緑釉が掛けられており、胎土は磁胎となっている。大振りな形状や蓮池水禽、瓔珞文や波濤文などの丁寧に表現された文様、そして釉色などからみて、現存する法花壺の中でも、優れた法花の大作のひとつといえる。こうした法花の優品は極めて少なく、稀少である。 さて、法花が生産された地域などの詳細は明らかとなっていないが、中国・清時代から中華民国時代にかけて陶磁器研究を行っていた、許之衡が著した中国陶磁の解説書である『飲流斎説瓷』によると、「法花の器は元に萌し、明に盛行す、大抵は北方窯なり。蒲州一帯より出ずる所の者最も佳」とある。蒲州とは現在の山西省辺りのことで、古くから三彩の生産も行われてきており、法花との関係性が考えられている。 また、本作品は明時代の中国陶磁を考える上で重要な作品であるとともに、京焼の技術系譜を考えていく上でも重要な作品といえる。江戸時代後半、水指や灰立などをはじめとした皆具や香合など、茶の湯道具としてつくられた陶磁器に法花の技法が多く用いられている。広い意味で交趾焼などとも呼ばれるもので、特に著名なものとしては、紀州徳川家のお庭焼として築窯された偕楽園焼の製品が挙げられる。この窯には、楽旦入や仁阿弥道八などとともに、江戸後期の名工として名高い、永樂保全（1795～1854）も招かれている。保全は、この窯で法花の技法を用いた浅黄釉や紫釉、青釉を基調とした茶道具を数多く制作している。この窯で焼かれた製品は、色調や技法などから考えると、本作のような中国・明時代の法花技法を用いた作品から着想を得ていることは明らかである。ただし、文様や形状などは茶道具や飲食器など、日本の趣向にあったものとなっており、単にそのものを写したものではなく、1つの技術として取り入れ、和様化していった様子が分かるものとなっている。		

＜漆工＞（3件）

5　名称	夾紵棺断片（きょうちょかんだんぺん）	品　　質	麻、漆
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	飛鳥時代（7世紀）	寸 法 等	縦17.0cm、横15.0cm、厚さ2.3cm
作品概要	夾（きょう）は重ね合せることをいい、紵（ちょ）は麻布を意味する語で、合わせて麻布を貼り重ねて造形する漆芸技法を指す。乾漆（かんしつ）や塑（そく）と同義語であり、古代に中国から伝わった技法と考えられている。 本品は、粗い麻布を漆と下地剤で何層もはり重ね、表裏とも最上面に朱漆塗って仕上げた器物の断片である。類品から古墳時代（7世紀）の棺の一部と考えられ、伝承も「牽牛子塚古墳出土」という。夾紵棺の出土例は関西を中心に9件しか報告されておらず、そのいずれもが皇族などひときわ高貴な人物の墳墓と想定される古墳から出土している。なかでも本品の厚さとなるほどに贅沢に漆を用い入念に麻をはり重ねた例は少ない。		

6　名称	菊桐蒔絵耳盥（きくきりまきえみみだらい）	品　　質	木製、漆塗、蒔絵
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	桃山時代（16世紀）	寸 法 等	幅36.0cm、径29.0cm、高13.3cm
作品概要	黒漆地に金平蒔絵（きんひらまきえ）と絵梨地（えなしじ）、付描（つけがき）、針描（はりがき）の技法で、しなやかな菊の株のあいまに露を散らし堂々たる五七の桐紋を配した、典型的な高台寺蒔絵（こうだいじまきえ）様式の耳盥である。把手には金銅製魚々子地に菊の枝と露を蹴り彫りした金具をつける。 耳盥は、近世の婚礼調度では、鉄漿(おはぐろ)の口すすぎに用いられた道具である。本品は桐紋の形や蒔絵粉の形状から桃山時代に遡る品と考えられ、婚礼調度の形式が確立するより前の、ともすれば現存最古の可能性も考えられる作例として位置づけられる。実は、北海道のアイヌの村に伝わった。祖先が大和から来た人に食料を分けたお礼にもらったという。本州から伝わった耳盥が、アイヌ民具としてパッチ（鉢）と呼ばれ、祭礼用の供物を入れる容器となった例はほかにもあるが、京都の古社寺にあってもおかしくないような美しい蒔絵で飾られた古例は極めて珍しい。		

7　名称	流水沢瀉蒔絵螺鈿香枕 （りゅうすいおもだかまきえらでんこうまくら）	品　　質	木製、漆塗、蒔絵、螺鈿
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	桃山～江戸時代（17世紀）	寸 法 等	縦11.5cm、横22.5cm、高16.2cm
作品概要	香枕は、髪を乗せかけて香を燻らすための調度である。透かしのある木製の箱に引き出しを設け、中に小型の香炉を置くのが一般的だが、本品は上から蓋をする箱型である点が古風である。懸子（かけご）の側板を立ち上がりとした合口造（あいくちづくり）となっており、懸子の口縁は蓋の形状に合わせて反る。懸子は間仕切りで縦に二分され、火箸や匙などの細長い香道具を収納できるが、一方の区画の底板に梅鉢形の透かしを3つあけ、懸子を収めたままでも煙を通せるように作られている。 衣服のみならず髪にも香をたきしめる平安貴族の習慣は、武家の暮らしに引き継がれ、近世には遊女たちにも広まった。本品は、長側面に牡丹と蔦が透かし彫りにされ、蓋表には悪夢を食べるという霊獣「獏（ばく）」が彫られている。全体を黒漆塗とし、外面には螺鈿に付描（つけがき）で沢瀉の葉を描き、金平蒔絵（きんひらまきえ）に針描（はりがき）で沢潟の花や即興的な流水、ところどころの波頭や飛沫を描いている。この技法の組み合わせは近世初頭に西洋人向けに作られた輸出漆器にも通じる。		

＜染織＞（2件）

8　名称	鼠麻地柳に浮舟文様染繍帷子（ねずみあさじやなぎにうきふねもんようそめぬいかたびら）	品　　質	麻地　染・刺繍
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	丈147.0cm、裄63.5cm　袖丈
作品概要	帷子は夏の衣料で、苧麻または大麻の平織地で裏地なしの単で仕立てられる。地色の多くは白または浅葱であるが、これは鼠色を地色とする珍しい作例で、当館ではこれまで一例が収蔵されるのみである。 江戸時代後期の文様構成の特色である、襟下の裾回りにのみ文様は配する裾文様で、柳の生える水辺の風景を糊置きによる白上げと刺繍であらわす。水面には小舟が浮かび、烏帽子が置かれているが、人物は配さない。このように、器物のみで人物の存在を暗示し、背景に古典文学を連想させる文様は留守文様と呼ばれ、江戸時代後期の主に武家小袖に多用された趣向である。本作も『源氏物語』浮舟の帖を踏まえた文様であろう。 袖丈が足されており、袖の丸みも2種類確認できることから、幾度かの仕立て替えが行われていることが明らかである。あるいは、極めて保存状態の良い刺繍部分にも後世の手が加えられているかもしれない。唐花風の刺繍による五つ紋も、候後補の可能性がある。このようにすべてが当初の姿をとどめているわけではないが、幾人もの手を経て受け継がれていくこともまた、江戸時代以前の着物の基本的な姿であり、衣服の受容のされ方を今に伝えている。		

9　名称	淡浅葱紗綾地菊花紋団扇文様染描絵夜着（うすあさぎさやじきっかもんだんせんもんようそめかきえよぎ）	品　　質	絹地　染・描
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	総丈151.5cm（丈140.0cm）、総裄67.0cm（裄59.0cm）
作品概要	夜着とは現在で言うところの掛布団である。夜着は婚礼において重要な持参道具であったため、その文様については、江戸時代の小袖のデザインブックである雛形においても、しばしば取り上げられるほど、注目される品であった。 本作は背面の上段に大きな菊花の丸紋を、下段に団扇を、絞り染と型鹿の子（摺匹田）で配した夜着で、団扇の内部などには、墨書きによる描絵が加えられている。生地に用いる、紗綾形に椿を織り出した紗綾の地合いや、絞り染に型鹿の子と描絵で文様をあらわす施工技法は、享保20年（1735）の寄進銘を有する「山岳風景文様打敷（国立歴史博物館蔵）」に近似しており、この夜着の製作年代は江戸時代18世紀前半と考えられよう。 夜着は吉夢に通ずる文様が多用され、桐鳳凰文様が極めて多い。当館にも、綿を抜いて小袖に直された桐鳳凰文様夜着が3領存在する。本作はそれらとは異なる珍しい文様構成であり、さらに、当初の夜着の仕立てのまま残されている点も貴重である。		

（2）寄贈（11件）

＜絵画＞（6件）

1　名称	伏見人形図押絵貼屏風 （ふしみにんぎょうずおしえはりびょうぶ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	伊藤若冲	員　　数	6曲1隻
時　　代	寛政10年（1798）	寸 法 等	各図縦 104.5cm、横 30.6cm
作品概要	京都の郷土玩具である伏見人形を描く作品で、定番の布袋のほか白狐などが描かれる。庶民の民間信仰と結びついた、土の手触りのある素朴な造形が魅力で、同じ著色画でも緻密な描写を旨とする花鳥画とはまた異なる独特の作画領域を形成している。若冲は特に晩年に伏見人形図を多く描いているが、本作のように屏風形式のものはほかに知られておらず貴重である。		

2　名称	薬師三尊像（やくしさんぞんぞう）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	縦76.1cm　横39.3cm
作品概要	正面に階のある基壇上に薬師如来に日光・月光の両脇侍菩薩を配し、中尊前に供養台を配した、薬師三尊像。尊像は身色に金泥を塗り込めた皆金色身とし、金箔（表箔・裏箔）・截金・金泥・銀泥といった技法を使い分け、金色に細かな表情をもたせた表現から、鎌倉時代13世紀末の作と見られる。鎌倉時代に遡る薬師画像の遺品は極めて限られており、本図は極めて貴重なものと考えられる。		

3　名称	大悲心陀羅尼并四十二臂図像　紙背ニ久安五年具注暦アリ（だいひしん だらにならびにしじゅうにひぞう　しはいにきゅうあんごねんぐちゅうれきあり）	品　　質	紙本白描・墨書
作 者 等	不明	員　　数	1巻
時　　代	平安時代（12世紀）	寸 法 等	縦30.2cm、全長670.5cm
作品概要	千手観音の功徳を説く『大悲心陀羅尼』と千手観音の大手四十二臂の持物・印相の図像を述べたもの。 巻首に千手観音十二眷属を白描で描き、次いで伽梵達摩訳『千手千眼観世音菩薩広大円満無碍大悲心陀羅尼』を書写し、続けて不空訳『大慈大悲千手千眼観世音菩薩摩薩四十二臂陀羅尼真言』に説く四十二臂の持物・印相を図像と共に収録している。 紙背には、久安4年11月1日に暦博士賀茂宣憲等により勘申された久安五年具注暦が存在し、図像は具注暦の反古を使用したものとわかる。具注暦は5月25日から年末までの約半年分が残っており、具注暦の余白には、天慶9年（946）4月28日村上天皇即位から久安6年（1150）5月12日の高野山金堂・大塔等の焼失までの、皇族・高僧・著名公家等の生没等の事跡が備忘として記載されている。よって、表面の図像は、この久安6年5月以降の制作になると考えられる。しかし、図像の暢達な線描や後述する様式からこれを隔たるものではないと推定される。 なお、巻頭には後補の表紙が付されており、本紙紙継下部に「寶菩提院」の墨書があることから、東寺寶菩提院の旧蔵と知られる。 図像は、作風が数手に分かれるが、いずれも鋒を立てた鋭い細線で、特に優れたものは宋人の手になるのではないかとの推測もかつてなされたほどであるが、技法的に共通していることから日本制作と考えられる。但し、千手観音十二眷属図像を含めて、宋の影響を受けたものであることは確実である。 平安時代の具注暦がこれほどまとまって存在している例は貴重であり、図像も基準作として平安時代後期図像の編年において重要な位置を占める。		

4　名称	地蔵菩薩図像断簡（じぞうぼさつずぞうだんかん）	品　　質	紙本白描
作 者 等	不明	員　　数	1幀
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	縦26.3cm、横34.8cm
作品概要	東寺観智院旧蔵品で、かつて『覚禅鈔』として紹介されたことがあったが、勧修寺本はもとより現行諸本に合致するものがなく、諸尊図像集の断簡と見るべきものと推測される。他に十一面観音像、五大虚空蔵菩薩像等の断簡の所在が確認されており、制作年代は鎌倉時代前期に遡ると推測される。 右手に錫杖、左手に宝珠を持つ地蔵像を中心に、宝蔵天王、大慈天女、摂天使者、焔魔使者、持宝童子、大力使者の六眷属を配置した一重院構成の曼荼羅を描き、続けて半跏持宝珠地蔵像及び結跏趺坐持宝珠地蔵像を上下2段に描く。 曼荼羅脇には「此図常喜院図集有之」とあることから、高野山常喜院心覚（1117～1180または1182）の『別尊雑記』から採られたものかとも推測されるが、重要文化財に指定されている仁和寺本『別尊雑記』弥勒・地蔵・持世巻には掲載されておらず、本図の他に例を見ない珍しい図像である。この六使者を描いたものとしては12世紀の作になる仁和寺蔵密教図像の内の地蔵菩薩曼荼羅（『大正新脩大蔵経　図像部』第六巻に「金色地蔵曼荼羅」として所収）が知られているが、これは曼荼羅構成をとらない。 この六使者の典拠については、近年、早稲田大学図書館教林文庫蔵『地蔵菩薩念誦儀軌』が紹介され、まさに本図がこれに合致することも指摘されている。この『地蔵菩薩念誦儀軌』は、治承4年（1180）には存在していたことが知られ、本図は、当時の地蔵信仰の実態を伝えるものとして極めて価値が高い。 一方、半跏持宝珠地蔵像及び結跏趺坐持宝珠地蔵像は、仁和寺本『別尊雑記』に掲載されており、確かに『別尊雑記』を参看していたことは明らかである。別尊雑記異本の存在の可能性を含めて、その成立事情を推知させる重要な作品といえる。なお、「智泉之筆/銘云地蔵菩薩衆」との墨書脇書がある半跏持宝珠地蔵像は、空海の甥で彼と共に入唐した智泉（789～825）の請来にかかる図像であることが判明する。 地蔵菩薩信仰研究に意義が大きいばかりではなく、『別尊雑記』という平安時代後期成立の重要な図像集の成立を考える上で貴重な史料といえる。		

5　名称	金剛童子図像断簡（こんごうどうじずぞうだんかん）	品　　質	各紙本白描　①六臂二侍者　②二臂七侍者　③六臂無侍者　④二臂二侍者
作 者 等	不明	員　　数	4幀
時　　代	平安時代　長寛元年（1163）	寸 法 等	①本紙縦45.7cm、横26.8cm　②本紙縦49.0cm、横30.5cm　③本紙縦52.0cm、横29.6cm　④本紙縦51.4cm、横30.2cm
作品概要	三井寺系で信仰を集めた金剛童子の一連の図像である。灰黄褐色の楮紙に、一部油を引いて図像を写し取っている。 本図は、『大正新脩大蔵経　図像部』第六巻に収載されており、東寺観智院旧蔵品である。元来は、六地蔵図像及び不動曼荼羅図と合巻にされて保管されていたが、戦後に東寺から流出し、切断の上分蔵されている。 金剛童子は五図存在していたが、巻頭の二臂像以外の四図がここに揃っており、枝番は『大正新脩大蔵経　図像部』所載の順に従い、（一）六臂像、（二）三井寺本二臂像、（三）三井寺本六臂像、（四）二臂像となる。切断改装によって端裏書を表面に切り改めている。また、『大正新脩大蔵経　図像部』の写真では折畳目が鮮明に見えており、上記の所見から元来は別々に書写されたものを後に貼り継いで巻子装に改めたものであることがわかる。但し、この金剛童子図像は一連のものと見てよく、制作年代も同時期と見てよい。 制作年代は、端裏書から判明する。以下に列記する。（一）右上隅「金剛童子像」、左下隅「長寛元年五月十一日於法勝寺追写之　俊寂御本也」、（二）左上隅「金剛童子曼荼羅（梵字）二本在之[三井寺御経蔵本/伝得実任]」（改装せず裏に存置）、（三）右上隅「金剛（梵字）童子[三井寺本/二本在之]」、（四）右上隅「金剛童子像」、左下隅「長寛元年」となる。 以上から、（一）・（四）、（二）・（三）がそれぞれセットになることが判明する。（一）・（四）のセットは、筆者を共にすると思われ、これが端裏書の示す長寛元年（1163）作であることは疑いない。（二）・（三）に関しては、手が若干異なるが、各端裏書に「二本在之」とあるように、これで本来の一具をなし、平安時代後期制作であることは動かし得ないと思われる。よって、以上は一連の作で、勧修寺実任から直接伝得した図像の可能性が極めて高いと判断される。平安時代後期の基準作であり、実任を中心とする当時の東密での宗派の枠を越えた図像収集の実態を示す貴重な作品である。		

6　名称	普賢延命菩薩図像（ふげんえんめいぼさつずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等	不明	員　　数	1幀
時　　代	平安時代　治承2年（1178）	寸 法 等	縦53.8cm、横29.6cm
作品概要	普賢延命法の本尊である二臂普賢延命菩薩像を楮紙に油を引いて写し取り、色注を各所に墨書で添え書きしている。本図は、『大正新脩大蔵経　図像部』第六巻に収載されており、東寺観智院旧蔵品である。天台系によく見られる二臂像であるが、周囲に四天王を配する曼荼羅形式や千葉白蓮華座は他に所伝を見ない珍しいものである。この時期の東密における旺盛な図像収集活動の一端を伝えるものであろう。 画面向かって左下方に端裏書墨書があり、表からでも判読可能であり、「治承二年（一一七八）六月廿五日　以検校本写了解」とある。使用料紙等から見てこれを制作年代と見て間違いなく、平安時代後期の基準作であり、かつ図像的にも孤本であることから、重要な作品であると言える。		

＜染織＞（4件）

7　名称	五月人形　大将・旗持 （ごがつにんぎょう　たいしょう・はたもち）	品　　質	顔手足：桐塑胡粉塗　毛髪・衣裳：絹
作 者 等		員　　数	2軀1組
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	大将：高45.0cm　旗持：高37.0cm
作品概要	端午の節句に飾られた、大将と旗持従者という組み合わせの五月人形である。大将は床几に座し、弓・矢の入った胡籙・太刀・懐刀を帯び、兜をかぶって采配を手にする。旗持は懐刀を帯び、笠をかぶって違鷹羽紋を染めた旗を手にする。用いられる衣裳の裂地や甲冑の細工は見事で、丁寧な作ゆきをみせる。三井北家の大番頭をつとめた京都の旧家に伝来した。		

8　名称	白地檜垣に菊花文様織袖無羽織　附 白ﾌﾗﾝﾈﾙ帽子　1頭（しろじひがき　きっかもんようおりそでなしはおり　しろ　ぼうし）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	明治時代	寸 法 等	総丈59.0cm　肩幅26.0cm
作品概要	檜垣の地文様のうえに菊花を織り出した生地は、さまざまな織組織が混在する様子からジャカード織機によって織り出されたと考えられ、背中心に白糸で男子の背守を縫い、綿入りの白い袖無羽織に仕立てられている。「明治卅六年十二月／迪宮殿下御下賜御羽織／書面」と表書きされた北海道庁の封筒に納められた書状一通が附属する。その書状は森という人物から小原という人物に宛てたもので、大磯にあった迪宮（昭和天皇）が着用した羽織を森氏が拝領したので、小原氏に保存を託すという内容である。このことから、この羽織は昭和天皇着用品であったことが判明する。本ネル地に毛糸で縁飾りを付けたボンネット帽子が附属する。		

9　名称	淡紫紋縮緬地朝顔文様友禅染着物（うすむらさきもんちりめんじあさがおもんようゆうぜんぞめきもの）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	明治時代	寸 法 等	総丈58.5cm　総裄61.0cm
作品概要	朝顔文様を織り出した紋縮緬地に、織文様に重ねて、朝顔文様を無線友禅で描き出した子どもの着物である。鮮やかな色調から化学染料を使用するのであろう。背中心には白糸で男児の背守が縫われ、袖は僅かに振りを設けた筒袖とする。 寄贈者の祖母の妹は、昭和天皇の養育を任された川村純義伯爵の子息である鐵太郎夫人であり、この着物は、昭和天皇着用品として譲られた品という。このことから製作年代は、沼津御用邸で川村純義が昭和天皇を傅育していた明治34年から37年頃と推察される。無線友禅の技法的な発展を考えるうえで貴重な資料である。		

10　名称	糞掃衣断片（ふんぞうえだんぺん）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	2裂
時　　代	平安時代	寸 法 等	裂(大)：縦30.0cm　横29.5cm　裂(小)：縦14.0cm　横29.0cm
作品概要	二片の袈裟裂をガラスで挟み、四周を木枠でおさえる。表面には「傳/弘法大師将来/乾陀殻子/御袈裟一部/天平時代」「遠山袈裟裂」と墨書された二片の題箋を貼る。袈裟裂はいずれもいわゆる糞掃衣。現状では茶色を呈する平絹が最下層と思われ、その上に黄色・焦茶・萌葱・紫の平絹の断片を置き、浅葱の絹糸で刺納を施す。小さい方の裂には、行あるいは帖と思われる部分が残り、その部分には綾（経六枚綾・文様の有無は未明）が用いられている。いずれも浅葱平絹の裏地が付き、それぞれの中央には、大きい方の裂に「一―二」小さい方の裂に「三―一」の墨書がある。この墨書はこれら断片が、袈裟のどの部分に該当していたかを示すと考えられる。		

＜歴史資料＞（1件）

11　名称	スペンサー・ライフル銃（すぺんさー・らいふるじゅう）	品　　質	鉄・木
作 者 等	米国・ボストン製造	員　　数	1丁
時　　代	1860年	寸 法 等	銃全長約93.8cm, 銃身長約50.6cm, 銃番号M1867
作品概要	幕末の日本に輸入された米国製のライフル銃。1860年にボストンで製作されたとの銘がある。7連発が可能なもの。同時代の単発式の小銃に比べて銃身が短く、重量も3.77kgと軽量化されていて、騎兵銃として用いられたもの。幕末期の日本に輸入された銃器の一形式で、戊辰戦争などで用いられたとみられる。保存状態が良好で銃器としての機能がよく理解でき、幕末史の展示に充分活用できる資料である。		

【奈良国立博物館】　（計18件）

（１）購入（10件）

＜彫刻＞（1件）

1　名称	木造仏像背板 （もくぞうぶつぞうせいた）	品　　質	一枚板、吊り下げ用の鐶（鉄製）、一部白色下地及び朱色の彩色（後補）残る
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	平安時代（9世紀）	寸 法 等	長102.5cm　幅13.5cm　厚1.5～2.5cm
作品概要	木彫仏の背板で、奈良・元興寺所蔵の国宝・薬師如来立像（当館寄託品）背面の背刳孔に法量が一致し、かつ衣文が同像のそれに連続するため、同像の背刳孔を塞いでいた背板と認められる。現状では、上下端を加工し壁掛け装飾に改変されているものの、元興寺薬師如来立像の背板として極めて貴重と言える。		

＜絵画＞（1件）

2　名称	重要美術品 東大寺戒壇院扉絵図 （とうだいじかいだんいんとびらえず）	品　　質	紙本墨画　掛幅装
作 者 等		員　　数	2幅
時　　代	鎌倉時代（12～13世紀）	寸 法 等	本紙：各縦121.2cm 横72.4cm（表具：各縦214.7cm　横88.1cm）
作品概要	各幅に梵天・帝釈天・四天王の計六尊の天部を三尊ずつ向かい合うように濃墨線で描かれる。奈良時代最盛期に描かれた絵画の姿を伝える希少な図像として以前から著名な品で、白描図像としては破格の大作である。当館寄託品である国宝・倶舎曼荼羅（奈良・東大寺蔵）中の諸尊と図像が一致するなど、南都の仏教絵画史を語る上で欠かせない存在であるとともに、各幅画面裏に捺された印から京都・高山寺旧蔵と判明することもその価値を高めている。		

＜書跡＞（1件）

3　名称	三社託宣 （さんしゃたくせん）	品　　質	紙本墨書　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	室町時代（15世紀）	寸 法 等	（本紙）縦130.7cm　横37.0cm　（装丁）縦197.5cm　横48.9cm
作品概要	中央に天照大神（伊勢）の神号と託宣を、その右・左にそれぞれ八幡神（石清水）と春日神の神号と託宣を書き記したもの。三社託宣は中世末以降に数多く作られ、写本・版本を問わず遺品も多く残るが、室町時代以前の作となると限定され、貴重である。また、筆者として興福寺大乗院の経覚が想定され、奈良の地で製作された可能性が高い品である。		

＜工芸＞（4件）

4　名称	金銅宝珠鈴 （こんどうほうじゅれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代～南北朝時代（13～14世紀）	寸 法 等	口径6.8cm　現存高20.3cm　現存重866.43g
作品概要	装飾のない無地無文の鈴身部と縦長の大振りな鬼目が特徴的な宝珠鈴。静岡・尊永寺に伝わる五種鈴と同形式であるが、類例の極めて限られる大変希少性の高い品。火焔を欠失することは惜しまれるが、造形的にも優れており、密教法具の佳品として高く評価される。		

5　名称	金銅宝珠鈴 （こんどうほうじゅれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	口径6.9cm　現存高14.2cm　重402.51g
作品概要	鈷部に宝珠を表す宝珠鈴で、かつては四方火焔を伴っていたとみられるが、現在は欠失している。鬼目や蓮弁飾りの表現は平安時代風であるが、宝珠の形状や裾の開きから鎌倉時代に位置づけ得る。当館所蔵の独鈷鈴に口径が一致し、意匠や表現が同様のものがあり、本品はそれと一具をなすと判断される。		

6　名称	金銅宝塔鈴 （こんどうほうとうれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代（13～14世紀）	寸 法 等	口径7.4cm　高21.2cm　重603.68g
作品概要	肩が張って裾の開いた安定感のある鈴身に、鬼目部の太った把を合わせる、調和の良い中世前期の典型的な密教法具。鈴身、把、宝塔は別鋳で、組み合わせられている。優れた造形性、質実な作風から鎌倉時代後期の作とみられる。当館所蔵の独鈷鈴、三鈷鈴、宝珠鈴に口径が概ね一致し、意匠や表現などが一致するものがあり、本品はそれらと共に一具をなすと判断される。		

7　名称	金銅宝塔鈴 （こんどうほうとうれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	平安時代～鎌倉時代（12～13世紀）	寸 法 等	口径6.6cm　高11.4cm　重485.67g
作品概要	把の上端に丸い窪みが設けられ、内側に舎利を籠める宝塔鈴であった可能性が高いが、鈷部の宝塔は欠く。鈴身の丈が低く、肩を張らない形状や力強い蓮弁飾りの表現、大振りな鬼目は唐から将来された密教法具の特色を表すが、いずれも和様化が進んでいる。古式の制作技法である一鋳を採る一方で、鈴身の丈が低いという鎌倉時代に多い特徴から、平安～鎌倉時代初期の作と推測される。		

＜考古＞（3件）

8　名称	灰釉短頸壺 （かいゆうたんけいこ）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	口径16.5cm　器高29.8cm　最大径37.2cm　高台径18.7cm　重量6.7g
作品概要	大型の短頸壺で、口縁の周りから方の上部を巡るように灰釉がかかる。産地は胎土や釉調などから、愛知県猿投窯の製品とみられる。肉厚な口縁、大きく膨らませた体部など、豪快な作りが目を惹く。また、現存する灰釉短頸壺のうち、本品は最大の法量を誇る。器壁外面の木炭の黒ずみ、骨灰を蔵していたことによる内面の汚れなどから、火葬骨蔵器であった可能性が高い。		

9　名称	須恵器　短頸壺 （すえき　たんけいこ）	品　　質	陶製（須恵器）
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	壺：口径17.0cm　高29.7cm　最大径34.5cm　高台径20.0cm 蓋：口径18.7cm（復元）　高5.7cm（含復元）　つまみ径2.8cm　同高2.3cm
作品概要	大型の有蓋短頸壺で、肩には部分的に自然釉がかかる。正倉院に伝わる薬壺と同種の品で、肩の張った器形より制作時期はおよそ八世紀半ば頃と推測される。産地の同定には至らないが、精良な胎土、均整のとれた器形、良好な焼成など、大変質の良い伝統的な窯場の作とみてよい。なお、口縁と蓋が破損しているのは、本来火葬骨蔵器として使われ、土中埋納の間、あるいは発見時に破損したことによると考えられる。		

10　名称	伯牙弾琴鏡 （はくがだんきんきょう）	品　　質	青銅製鋳造
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	中国・唐時代（8世紀）	寸 法 等	16.35cm
作品概要	八花形の鏡胎の背面に、竹林の中で琴を奏でる人物や鳳凰、飛鶴や亀などを表した鏡。奈良県五條市出土との伝来を持つ。伯牙弾琴鏡は中国・唐で盛唐後半から中唐（八世紀半ば～後半）にかけて流行した鏡種で、日本にも流入した。国内でも同型鏡が複数確認される中、本品は鋳上がりの良さが目を惹く品で、蛍光X線分析から表裏面に鍍錫が施されている可能性も窺われる貴重な品である。		

（2）寄贈（8件）

＜彫刻＞（1件）

1　名称	木造蔵王権現立像 （もくぞうざおうごんげんりゅうぞう）	品　　質	木造　素地（現状）
作 者 等		員　　数	1軀
時　　代	平安時代（11世紀）	寸 法 等	総高48.0cm
作品概要	両腕両脚を欠失した忿怒尊であるが、矧面の痕跡などの形状から、一面三目二臂の蔵王権現像と考えられる。体部に内刳りを施さない構造や、大ぶりな目鼻立ち、外側に反る耳朶、胸のふくらみを大きく表すなど古様な部分もあるが、動きが少なく均整の取れた表現から、平安時代後期、11世紀の制作とみられる。左胸を覆わず両胸の間を通る条帛の表現が珍しい。		

＜工芸＞（1件）

2　名称	紅牙撥鏤碁子 模造・紺牙撥鏤碁子 模造　村松親月作 （こうげばちるのきし　もぞう・こんげばちるのきし　もぞう　むらまつしんげつさく）	品　　質	象牙製
作 者 等	村松親月	員　　数	各5枚
時　　代	現代　令和2年（2020）	寸 法 等	各径1.5cm　厚0.8cm
作品概要	正倉院宝物の紅牙撥鏤碁子（北倉25）、紺牙撥鏤碁子（北倉25）の模造品。本品の製作者である象牙彫刻作家・村松親月氏（1934～）は平成8年頃より撥鏤技法の復元を手掛け、とりわけ染色材料及び染色工程について種々の実験を行いながら、これまで多くの模造製作に取り組んできた、本品は近年発表された撥鏤の染色材料に関する新たな調査成果を踏まえて新たに製作した作品で、現在もなお明瞭とは言えない撥鏤の制作過程の解明に資する品と評価される。		

＜考古＞（6件）

3　名称	六十六部経筒片 （ろくじゅうろくぶきょうづつへん）	品　　質	銅鍛造　鍍金
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	室町時代　大永二年（1522）	寸 法 等	長8.6cm　残存幅5.6cm
作品概要	六十六部廻国聖によって、日本全国66カ国を巡礼し1国1カ所の霊場に『法華経』を1部ずつ納める際に用いられた経筒の残片。銘文より、大永二年（1522）二月、甲州甘梨庄（甲斐国巨麻郡の甘利庄）の僧が、旦那である駿州府中鳥坂の又四郎定重の依頼を受け、大乗妙典を納経したことが判明する貴重な作品。		

4　名称	六十六部納札片 （ろくじゅうろくおさめふだへん）	品　　質	銅鍛造　鍍金
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	室町時代（16世紀）	寸 法 等	残存長3.8cm　残存幅4.4cm
作品概要	六十六部廻国聖によって、日本全国66カ国を巡礼し1国1カ所の霊場に『法華経』を1部ずつ納めた行為に伴う納札の残片。「六十六部」の陽刻銘をもつ。表面には鍍金が施され、字体は整然とし、高度な技術により入念に製作されたことが推測される。		

5　名称	礫石経（伝神倉山経塚出土）　附　軸端 （れきせききょう（でんかみくらやまきょうづかしゅつど）つけたり　じくばな）	品　　質	石製・墨書、（軸端）水晶製
作 者 等		員　　数	一括
時　　代	鎌倉時代～江戸時代（12世紀後半～19世紀）	寸 法 等	①群：縦2cm前後　②群：縦4～6cm前後　③群：縦2～3cm前後 ④群・⑤群：縦3～4cm前後　⑥群：縦6～8cm前後　軸端　長さ2.3cm、端部径2.1cm、軸部径1.2cm
作品概要	経典の文字を一字ずつ、あるいは複数字、河原石に記し、埋納経として用いたもの。「新宮市神倉山経塚出土」との伝来を持ち、水晶製の軸端1点と共に伝わる。礫石経は石の大きさや墨書の字体により6群に分けることができ、それぞれ製作者や時代が異なる可能性がある。中には『仁王経』の一節を書写したものがあり、礫石経に記される経典は『法華経』が一般的と理解される中、珍しい例と言える。		

6　名称	泥塔・泥塔経 （でいとう・でいとうきょう）	品　　質	土製　型抜　素焼
作 者 等		員　　数	6点（泥塔5点、泥塔経1点）
時　　代	平安時代～室町時代（12～16世紀）	寸 法 等	①高5.5cm　底径3.6cm　底面の円孔径約1.0cm　深さ2.0cm ②高6.3cm　底径3.8cm　底面の円孔径約0.8cm　深さ1.4cm ③高4.4cm　底径3.4cm　④残存高3.5cm　厚2.5cm　⑤高9.5cm　基部幅4.5cm　厚1.5cm　⑥高5.2cm　基部幅2.5cm　厚1.1cm
作品概要	古代から中世にかけて、天皇・貴族から民間にまで広く流行した造塔供養のために製作された土製小型の塔。いずれも型の中に粘土を詰め、型抜きする様式である。①～④は断面円形～楕円形をなす立体的な形状で、写経紙片を収めるためともいわれる円孔を底部にもつものともたないものがある。⑤は宝塔形。⑥は鳥取県東伯郡琴浦町竹内発見の経塚（いわゆる智積寺経塚。鎌倉時代）で1000点以上出土したとされる泥塔経に諸特徴が酷似しており、そのうちの1点とみることができる。これらは、泥塔供養の諸相を示す格好の資料群である。		

7　名称	切子碗 （きりこわん）	品　　質	ガラス製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	地中海東岸ないしメソポタミア　3～4世紀	寸 法 等	口径9.5cm（外径）　高さ7.9cm　底部の円形の窪みの直径2.3cm　体部の円形の窪みの直径1.1cm
作品概要	やや小型の切子碗（カット・グラス）の完形品。器表面には銀化や剥離の様子がみられ、長期間土中していたことをうかがわせる。この種の切子碗は、正倉院宝物の白瑠璃碗をはじめ、ササン朝ペルシア産のものが広く知られるが、近年、地中海東岸付近で作られたローマ・ガラスの存在も確認されている。本品のように小型で薄手、カットの甘い切子碗は、ローマ・ガラスの属性に近いが、底部周辺の切子の数が７個とペルシアの切子碗の特徴に合致し、ササン・ガラスの工房製の可能性も否定できない。双方のガラスの影響関係を考える上で鍵となる重要な品。		

8　名称	長沙窯鳥文水注 （ちょさようちょうもんすいちゅう）	品　　質	陶製　轆轤挽き
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中国・唐時代（9世紀）	寸 法 等	口径11.2cm（後補・復元）　器高22.2cm（頸部以上は後補） 最大径15.5cm　底径13.4cm
作品概要	中国湖南省長沙窯産の釉下彩絵が施された壺形の水注。多面体に面取りした注口を突出させ、その反対側にアーチ形の把手を貼り付ける。器壁には、雀のような鳥が愛らしく、闊達な筆づかいで描かれている。絵は褐彩一色ではなく、葉の部分には緑彩も用いられる。鳥の目の周りを重弧で画し、胸に波線を引くなど、長沙窯の鳥文に典型の表現を持つ。		

【九州国立博物館】（計133件）

（１）購入（49件）

＜絵画＞（4件）

1　名称	春夏山水図屏風	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鑑貞筆	員　　数	6曲1隻
時　　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙：縦125.0cm　横352.4cm　表装（折り畳み時）：縦140.2cm　横62.8cm　厚9.5cm
作品概要	水辺の景観のなかに紅梅と涼をとる高士が描かれる。本図は春夏の情景を題材としており、当初は四季山水図屏風（6曲1双）の右隻であったと考えられる。画面に落款や印章はないが、幹が真っすぐ伸びる車輪松や、幹が弧を描いて伸び点描で葉を表わす竹の描写、全体的に整理された平明な構成から、筆者は唐招提寺総持坊に住した律僧で奈良法眼と呼ばれた鑑貞と考えられる。鑑貞は足利将軍家の御用絵師・周文に学ぶと伝えられ、この屏風絵は樹木や岩塊の表現に彼の周文学習の成果が具体的に示されている。本図は、室町時代に活躍した水墨画家・鑑貞の唯一の大画面絵画として貴重であり、また約10件のみが現存する室町水墨画の周文系山水図屏風の1つとして大きな意義をもつ。		

2　名称	花鳥図	品　　質	絹本著色
作 者 等	山口宗季筆	員　　数	1幅
時　　代	琉球　第二尚氏時代・康熙45年(1706)	寸 法 等	本紙：縦105.8cm　横51.2cm　表装：縦192.6cm　横63.4cm 軸長：68.7cm
作品概要	太湖石と紅白の芍薬、花海棠などを描き、山鵲と小禽を配する。その作者は、花弁を隈取る描写や葉の表裏を塗り分ける彩色、奥行きを浅く設定する構図、落款印章などから、琉球の画家・山口宗季（呉師虔、1672-1743）と考えられる。山口宗季は琉球王国首里王府が所管した貝摺奉行所の絵師で、王府の命で福州に留学（1704-07）して中国の花鳥画家・孫億（1638-1712-?）に学んだ。本図は落款の年記から、山口宗季が王府の命により画法習得のため中国・福州（福建省）に滞在していた時期の制作であることが分かる。そのため本図は山口宗季の留学の成果を知るうえで重要であり、福建絵画に学んだ琉球絵画を理解するうえで大きな意義をもつ。		

3　名称	椿白鷹図	品　　質	絹本著色
作 者 等	山口宗季筆	員　　数	1幅
時　　代	琉球　第二尚氏時代・康熙55年(1716)	寸 法 等	本紙：縦91.7cm　横37.3cm　表装：縦172.5cm　横48.0cm　軸長54.0cm
作品概要	枯木にとまる白鷹の背後に、椿と雪持ちの笹を描く。その表現は、白鷹の眼や瞼の輪郭に金泥かと思われる絵具を用い、脚の凹凸を盛り上げて彩色するなど細やかな描写をもつ。その作者は、枯木の描法や形態、余白を生かす構成、落款印章などから、琉球の画家絵師・山口宗季(呉師虔、1672-1743)と考えられる。山口宗季は琉球王府の貝摺奉行所の絵師で、福州に留学して中国の花鳥画家・孫億（1638-1712-?）に学び、帰国後に絵師主取となって琉球画壇を代表する絵師として活躍した。近年新たに存在が確認された本図は、年記から彼が福州留学を終えて帰国してから9年後の制作と分かる。現存作品が極めて少ない山口宗季の画風展開を理解するうえで貴重な作品である。		

4　名称	布袋図	品　　質	絹本着色
作 者 等	河村若芝筆　悦山道宗賛	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・貞享4年(1687)	寸 法 等	本紙：縦67.2cm　横32.5cm　表装：縦148.3cm　横45.1cm
作品概要	長崎で活躍した河村若芝(1630-1707)晩年の新出作品で、中国において聖人として尊ばれた唐末五代の僧、布袋を描く。若芝は、唐絵の創始者ともされる逸然性融(1601-68)に師事し、明代絵画の影響を受けた逸然の画風を継承しながら、さらに発展させて癖のある道釈人物画を描いた。本図の賛者、悦山道宗(1629-1709)は福建省出身の黄檗僧で、明暦3 年(1657)に来日して隠元隆琦や木庵性瑫に師事し、萬福寺第7 代住持を務めた。能書家としても知られ、本図のほかに2 点の若芝作品に着賛をしている。逸然を祖とする長崎唐絵は、鎖国下の長崎という特殊な条件のもとに生まれた新しい画風として以後の絵画史に多大な影響を及ぼした。本図はその代表的画家である河村若芝の新出の基準作としてきわめて貴重である。		

＜書跡＞（2件）

5　名称	重要美術品　手鑑「筆陳」	品　　質	紙本墨書・彩箋墨書
作 者 等		員　　数	1帖
時　　代	平安-江戸時代／明時代・（平安-江戸時代）12-17世紀／（明時代）16世紀	寸 法 等	縦40.4cm　横48.8cm　厚4.2cm
作品概要	江戸時代・宝永6年（1709）までに長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全41葉を収める手鑑。平安～江戸時代前期の宸翰・公家能書家の筆跡16葉、室町時代の連歌師筆跡4葉、鎌倉～安土桃山時代の武家文書・筆跡15葉、安土桃山～江戸時代前期の能書家筆跡4葉、伝張即之書1葉、中国・明の文人の書1葉からなる。主なものに伏見天皇宸筆の筑後切や書状、後柏原天皇宸翰書状、近衛信尹書状、伝後京極良経筆常知切、伝藤原公任筆砂子切、伝藤原定家筆儀式記録、足利尊氏・直義発給文書、織田信長黒印状、羽柴秀吉知行宛行状、本阿弥光悦書状、寧波の文人・方梅厓書などがある。種類・時代とも幅広く、良質の文書・筆跡が多く含まれる。		

6　名称	重要文化財　古文書手鑑	品　　質	紙本墨書・彩箋墨書
作 者 等		員　　数	1帖
時　　代	鎌倉-江戸時代・13-17世紀	寸 法 等	縦40.0cm　横50.0cm　厚5.5cm
作品概要	江戸時代・18世紀前半頃に長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全78葉を収める手鑑。鎌倉幕府発給文書を主とする鎌倉時代の古文書20通、南北朝～室町時代にかけて周防・長門を本拠とした守護・戦国大名大内氏の発給文書38通、室町～江戸時代前期の禅僧による墨蹟12葉、その他室町幕府発給文書1、連歌懐紙1、伝張即之書2、朝鮮通信使書1、連歌切1、古筆切1、詩懐紙1からなる。特に宗像社領小呂嶋をめぐって宋商人・謝国明の名が登場する関東御教書や、蒙古襲来に際して石見の御家人に防戦のため下向を命じた関東御教書は貴重である。38通の大内氏発給文書は南北朝時代から弘治3年(1557)の滅亡まで歴代当主を網羅し、各文書の資料的価値とともに稀少性が高い。		

＜刀剣＞（2件）

7　名称	刀　銘藤原鎮清	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	藤原鎮清	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	刃長74.9cm　反1.7cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。身幅やや広く鎬筋高い。重厚く、反浅めにつく。鍛は小板目よく約み、地沸つく。刃文は、総体に小乱となり、小互の目に小さな尖刃や小丁子風の刃が交じる。匂口締まりごころに沸やや叢つく。帽子は小さく乱れ込み、表は小丸、裏はやや尖って返る。茎は生、先刃上がり栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔1つ開く。指表の目釘孔下の鎬地内に刀工銘を切る。本品は鍛よく匂口も明るく冴えて華やかで、刃文にたるみや崩れがみられず、しかも生茎であり、傑出した作行を誇る。研ぎ減りもなく、よく約んだ肌は精美な作風として知られる肥前刀にも一脈通ずるところであり、豊後刀を再評価する上で不可欠な作品である。		

8　名称	刀　銘伯耆守平朝臣正幸／文化四年卯二月七十五歳造	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	伯耆守平朝臣正幸	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・文化4年(1807)	寸 法 等	刃長72.1cm　反2.0cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。鎬高く反りやや深くつき、身幅広く重ね厚い。鍛は小板目 肌よく約み、地沸厚くつき、地景細かく入る。刃文は湾れに互の目交じり、匂口深く沸厚くつく。砂流し、金筋かかる。帽子は浅く乱れ、表は小丸に 返り、裏は焼詰める。茎は生、尻は先細って入山形、鑢目勝手上がり、目釘孔1つ開く。表裏ともに鎬筋を中心に楷書体に銘を刻む。正幸(1733-1818)は、通称伊地知次右衛門、安永元年(1772)より作刀を始め、初銘 は祖父・父と同様正良と称し、薩摩藩のお抱え工となった。寛政元年(1789)には伯耆守を受領し、正良の名 を嫡男に譲り、自らは正幸と改銘した。平肉豊かにつき、地刃、茎ともに健全で、正幸の代表的な作品として評価しうる。薩摩藩を代表する刀工の円熟期の在銘作である。薩摩藩主島津家伝来。		

＜陶磁＞（3件）

9　名称	三彩壺	品　　質	三彩陶
作 者 等	中国	員　　数	1口
時　　代	唐時代・7-8世紀	寸 法 等	高19.2cm　口径11.5cm　胴径21.8cm
作品概要	胴部は量感豊かに膨らみ、その上の頸部から口縁部にかけては短くも力強く湾曲する。このような器形をもつ壺は7世紀から8世紀半ばにかけての中国で作られた唐三彩に多くの例が知られており、「万年壺」とも呼ばれた。素地の表面に白い化粧土を薄く掛け、緑釉を地とする梅花文を胴部全体に散らす。梅花文の花弁はいわゆる蝋抜き技法によって周囲の緑釉をはじき、化粧土を露出させることで白く見せ、花の中心に置かれた一点の褐釉で蕊を表現する。傾斜の大きな器面では、花弁と花弁の隙間を緑釉と褐釉が筋状に流れ落ちてたがいに滲み、見どころのひとつになっている。		

10　名称	重要文化財　法花蓮鷺文有蓋壺	品　　質	磁製法花
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	中国　明時代・15-16世紀	寸 法 等	口径20.0cm　胴径34.6cm　底径21.9cm　総高47.5cm
作品概要	轆轤成形により、肩から胴部が外側に大きく張り出し、腰部にかけて絞った器形とする。全体の地を濃い藍釉で塗り込め、イッチン描きで、胴部に蓮華文をあらわし、腰部には、波濤文を、その間に白鷺文をあらわす。肩には、内に霊芝雲文描いたラマ式蓮弁文形の窓枠を廻らし、その下に、内に八吉祥文を描いた雲文形の窓枠を配する。文様はすべて、青・白・紫の色釉で描き、一部に白檀塗りを施す。金属製の鈕が付いた鍔縁の蓋を伴う。昭和11年(1936)に旧国宝、昭和25年(1950)に重要文化財の指定を受けた。昭和9年4月5日大阪美術倶楽部で開催された藤田香雪斎の売立に出品された（『香雪斎蔵品展覧図録』　大阪美術倶楽部　昭和9年4月5日）。池戸宗三郎が落札し、以後は、冨田熊作、戸田大三、繭山順吉などの手を渡った。		

11　名称	古染付葡萄棚文水指	品　　質	青花磁器
作 者 等	中国・景徳鎮窯	員　　数	1合
時　　代	中国　明時代・17世紀前半	寸 法 等	総高19.2cm　高18.3cm（身のみ）　口径8.0×8.2cm　底径13.0×13.0cm
作品概要	中国・景徳鎮の民窯で作られた古染付の水指。肩がなく、胴の中ほどから裾にかけて膨らんだ、丸みのある胴部を八角に面取りする。各八角の稜部分に呉須で柱をあらわし、胴の上部に交互に斜めに描いた棚組を配し、葡萄の蔓が絡んだ姿をあらわす。古染付は、明時代末期・天啓年間(1621-27)頃に、日本からの注文で作られた。轆轤成形ながら、意図的に歪みを加えたものや型造りのものがあり、それらは明らかに美濃焼の作行と共通する。虫喰いが見られるのも特徴である。「形物」と呼ばれる一定の器形・意匠を持つ製品があり、本作品は、その一つである「葡萄棚（文）水指」にあたる。通常共蓋があり、宝珠形と獅子形の鈕のものとがあり、本作品には獅子鈕が付く。元徳島藩士で、日本汽船や日本郵船社の社長であった、近藤廉平（其日庵）の旧蔵品である。		

＜漆工＞（2件）

12　名称	漆皮箱	品　　質	皮製漆塗
作 者 等	身は吉田立斎	員　　数	1合
時　　代	奈良時代（身は大正時代）・8世紀（身は20世紀）	寸 法 等	縦46.0cm　横40.0cm　高9.5cm
作品概要	皮製漆塗。被蓋造、丸隅の箱。やわらかく甲が盛り、蓋・身とも口縁を補強するために紐を廻らせている。素地は獣皮を木型に当てて成形したと考えられ、全面に目の粗い布を被(キ)せて、紐にも布を張り重ねている。黒漆を塗ったのち透漆を塗り重ねている。東大寺旧蔵の伝をもつ漆皮箱の蓋と、後補の身である。現存する漆皮箱は、正倉院宝物と法隆寺献納宝物（重要文化財、東京国立博物館所蔵）などにあるが、民間にあるものはごくわずかで蓋のみとはいえ大変稀少である。また、大正年間に吉田立斎によって制作された身も、当時の模造技術の高さが見て取れる点、貴重な作例といえる。		

13　名称	花鳥堆朱盤	品　　質	木製漆塗
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	中国　元-明時代・14世紀	寸 法 等	径30.5cm　高1.5cm
作品概要	木製漆塗。丸形の盤。厚手の口縁をもち、低い高台をそなえる。見込には、牡丹花と2羽の尾長鳥をあらわし、裏面立ち上がりには屈輪唐草文を廻らす。技法は彫漆で、黄漆地に朱漆を塗り重ねた層に、文様を細部に至るまで丁寧に彫り表わす。朱漆層には1層、黒漆層が見え、高台内は黒漆塗とする。一部、後補は認められるものの、状態は良好である。咲き誇る牡丹花を背景に、2羽の鳥が飛び交う双鳥様式の盤である。宋時代以来好まれた吉祥性あふれる意匠で、一尺ほどの盤面に破綻なく文様が配置されている。唐物漆器の中でも定番の作例であり、作行・状態とも大変優れた貴重な品である。		

＜染織＞（5件）

14　名称	裂帖「独楽帖」	品　　質	絹など
作 者 等	裂：中国、東南アジア、インド、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	装丁：明治-大正時代 19-20世紀　裂：7-19世紀	寸 法 等	縦27.5cm　横19.8cm　高9.8cm
作品概要	千家御用の袋師・土田家蒐集と伝わる裂を貼り集めた折本仕立の裂帖。近代数寄者として知られる益田孝（鈍翁、1848-1938）の妾、益田多喜子（紫明庵)旧蔵の裂帖。千家御用の袋師蒐集品にふさわしく、蜀江錦や臈纈染めなどの上代裂から、16世紀ごろまでの古裂の名品が含まれる。所収裂は「冨田」、「鶏頭」、「角之倉」、「嵯峨桐」など号を冠する名物が揃う。13世紀頃まで製作時期が上る「大燈金襴」や「二人静」も含まれており、大変貴重な手鑑。装丁も美しく、鑑賞を目的として作られた裂帖の好例である。また付属の目録には図入りで裂の名称とそれぞれの解説が記されており史料性も高い。		

15　名称	裂帖「古裂鑑」	品　　質	絹など
作 者 等	裂：中国、日本、インド、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	装丁：昭和時代 20世紀　裂：15世紀-20世紀	寸 法 等	縦24.4cm　横19.2cm　高4.3cm
作品概要	金紗や印金などの表装裂に用いられたと考えられる裂が比較的多く含まれる折本仕立の裂帖。一般的な裂手鑑よりも日本で産した古裂が多く含まれていて、染織史研究上貴重な作例。日本産の裂の中には、室町頃まで遡ると考えられる唐織の古い例や、江戸初期の腰巻裂、江戸中期の小袖裂、東京大学史料編纂所所蔵「足利義教像」の表具と共裂の描絵裂などが含まれる。また、更紗裂が多いことも特色の一つである。		

16　名称	裂帖「唐倭古織裂集」	品　　質	絹など
作 者 等	裂：中国、日本、インド、東南アジア、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	装丁：昭和26年(1951)　裂：15世紀-20世紀	寸 法 等	縦29.3cm　横25.0cm　高8.8cm
作品概要	絹織物生産で有名な桐生新町にあった織屋・吉田家旧蔵の折本仕立の裂帖。元禄10年(1697)までに集められた裂を中心に、江戸期に吉田家にて裂帖が編まれ、それを昭和26年(1951)に旧所有者が仕立て直したものと思われる。京都国立博物館所蔵の前田家旧蔵裂に見られる中国産古裂「替り蜀江文様黄綬」の共裂のほか、日本の室町時代頃の製作と思われる紋紗、ヨーロッパの天鵞絨など、多種多様の裂が含まれる。また、近世京都に産した織物も「京織」として貼り込まれており、時代性、地域性ともに幅広く、染織史研究上貴重な資料である。南方よりもたらされた縞裂や更紗、琉球の裂、紙布や西欧に産する裂などの希少な作例が多く含まれている。		

17　名称	革帖	品　　質	革
作 者 等	染韋：日本、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	染韋：江戸-大正時代（一部欧州製を含む）　装丁：昭和時代初期 20世紀　染韋：18-20世紀	寸 法 等	縦27.4cm　横20.0cm　高8.5cm
作品概要	染韋裂のみを集めた珍しい折本仕立の裂帖。技法や模様の異なる様々な種類の染韋が貼り込まれている。各革片の右肩にはそれぞれの名称が記されるほか、いくつかは伝来や技法、職人についても記載があり、革工芸史研究の上でも貴重な資料である。所収の染韋裂には、煙草入れや煙管入れ、紙入れ、仕覆に用いられたと思われるものの他、天平革と呼ばれる江戸期の画韋をはじめとした甲冑用の染韋、更紗の模様を写した更紗革、舶来の金唐革などが含まれる。蝦蟇口などに成形されていたと思われる和製の印伝や合成染料で染められた明治期大正期の染韋など新しい技法によるものも含まれており、近世・近代の染韋文化の多様さをうかがい知ることができる手鑑である。		

18　名称	西洋更紗裂	品　　質	木綿（銅版捺染/銅版捺染/蝋防染）
作 者 等	フランス、イギリス、イタリア	員　　数	26枚
時　　代	18世紀後半-19世紀	寸 法 等	1：2枚 各 縦24.0cm　横28.0cm 2：縦40.0cm　横40.0cm 3：縦57.0cm　横47.0cm 4：縦40.0cm　横117.0cm 5：縦31.0cm　横36.0cm 6：縦24.0cm　横118.0cm 7：縦50.0cm　横35.0cm 8：縦48.0cm　横36.0cm 9：縦67.5cm　横61.0cm 10：縦57.0cm　横33.0cm 11：縦32.0cm　横320.0cm 12：縦42.0cm　横33.0cm 13：縦45.0cm　横126.0cm 14：縦48.0cm　横40.0cm 15：縦45.0cm　横26.0cm 16：縦73.0cm　横39.0cm 17：縦54.0cm　横36.0cm 18：縦57.0cm　横33.0cm 19：縦55.0cm　横60.0cm 20：縦80.0cm　横27.0cm 21：縦34.0cm　横44.0cm 22：縦49.0cm　横81.5cm 23：縦59.0cm　横37.0cm 24：縦30.0cm　横55.0cm 25：縦27.0cm　横89.0cm
作品概要	本コレクションは、フランス染織史の研究者Elinor Merrell氏(1895-1993)が1940年代に蒐集した西洋更紗である。フランスの初期の木版更紗、ジュイ、ノルマンディー、ナント、ミュールーズなど各地の銅版更紗、さらにイギリスからアメリカに導入された染色技術を物語る蝋防染の作例などを含んでいる。銅板更紗の多くはヨーロッパにおける神話や物語、格言を題材にした内容が表わされいる。その染織技法からは、エッチング銅版による銅版捺染法、銅版ローラーによるシリンダー捺染法、紡績機械や織布機械による木綿の大量生産など、インド更紗を凌駕する技術革新を背景に見ることができる。本コレクションは当時のヨーロッパの好みを示すのみならず、世界交易史の視点からみれば、捺染技術伝播、近代産業の歴史を考える上で貴重な資料である。		

＜考古＞（27件）

19　名称	岩偶	品　　質	石製（砂岩製）
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・6,000年前-5,000年前	寸 法 等	縦5.4cm　横4.9cm　厚2.0cm
作品概要	縄文時代前期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する岩偶。頭部や四肢を簡略化し、菱形の体部に正中線と両腕を胸に折り伏したような表現を持つ。土偶や岩偶などの人形祭祀具は、縄文時代後半期に発達するが、その起源は、縄文時代前半期にまで遡る。縄文時代前半期の人形祭祀具は、本品のように頭部と四肢を簡略化して表現するものが一般的であり、後半期のものとは異なる特徴を持つ。		

20　名称	大珠	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	縦7.8cm　横2.7cm　厚1.5cm
作品概要	縄文時代中期・後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態の緑色石材製の垂飾。特に本品は、中期の東日本を中心に出土する翡翠製のもの。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定され、透明度の高い良質なものである。		

21　名称	大珠	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県下北郡東通村大利浜出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	縦4.2cm　横4.0cm　厚1.8cm
作品概要	縄文時代中期・後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態を基本とする緑色石材製垂飾の一類型。球形のものは緒締型に分類され、翡翠製で、中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する。翡翠は新潟県糸魚川産と推定される。凹部には鉄分が沈着し、全体的に摩滅している。		

22　名称	土偶	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	縦8.5cm　横7.4cm　厚1.7cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土偶。十字形土偶と呼ばれ、板状で脚部を省略した形態を持つ。この時期の土偶は、前半期の頭部や四肢を省略するものから、後半期の頭部や四肢を明瞭に表現するものへの過渡的様相を示し、頭部や四肢の一部を省略したものが多い。		

23　名称	深鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	直径38.3cm　高55.0cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。口縁部には粘土紐貼り付けによる幾何学的な文様と透かし、胴部には羽状文と呼ばれる鳥の羽状の縄文が特徴的である。口縁部の4つの突起の文様は、人面風に見える。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体感ある装飾を持つ土器が各地で流行したが、本品はその地域性を知る上で貴重である。		

24　名称	深鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	直径23.0cm　高25.0cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。口縁部には粘土紐貼り付けによる幾何学的な文様と透かし、胴部には羽状文と呼ばれる鳥の羽状の縄文が特徴的である。口縁部の4つの突起の文様は、人面を表現している。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体感ある装飾を持つ土器が各地で流行したが、本品はその地域性を知る上で貴重である。		

25　名称	台付浅鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町蛯川出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径19.3cm　高22.7cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。粘土紐貼付によるS字状の入組文様と、脚部に施された対向するV字・逆V字状の1対の透かしが大変美しい。脚部には、縄文時代の補修痕である複数の穿孔が見られる。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

26　名称	鐸型土製品	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木	員　　数	10個
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	1：高7.5cm 2：直径5.2cm　高7.1cm 3：短軸径5.2cm　長軸径3.7cm　高6.0cm 4：直径3.6cm　高5.8cm 5：短軸径2.0cm　長軸径4.3cm　高5.5cm 6：短軸径3.3cm　長軸径4.0cm　高5.4cm 7：短軸径3.5cm　長軸径3.8cm　高5.3cm 8：直径4.0cm　高5.0cm 9：縦6.3cm　横4.3cm　高3.4cm 10：縦4.8cm　横4.1cm　高3.5cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する釣鐘形の祭祀具。釣鐘形のものだけでなく、希少な靴形のものも見られる。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。一方で、祭祀具の中には、本品のように他地域に広がらなかった地域性の強いものも見られる。		

27　名称	注口土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径17.8cm　高18.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。注口を動物の口に見立て、眼、耳、四脚を配し容器全体で動物を模し、さらに半肉彫技法による縦方向の弧状文、耳、四脚で編籠を模しているように見えるなど、縄文人の造形力の高さを示す品である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

28　名称	壺形土器	品　　質	土製
作 者 等	伝岩手県出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径24.0cm　高17.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。算盤玉形の胴部をなし、半肉彫技法による環状文が印象的な土器である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

29　名称	壺形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径32.5cm　高43.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。口縁部の3つの橋状把手と胴部の沈線によるＳ字状入組文が特徴的である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

30　名称	土偶	品　　質	土製
作 者 等	青森県五戸町切谷内字高森山出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦13.0cm　横9.2cm　厚3.1cm
作品概要	縄文時代後期の東北から出土する土偶。頭部と手先は表現されているものの、眼部や脚部は省略されている点が特徴である。省略した人体表現を持つ中期の十字形土偶から、頭部や四肢を明瞭に表現する後期・晩期の土偶への過渡的な形態を示す土偶である。		

31　名称	鳥形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦8.8cm　横16.8cm　高8.4cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。羽を畳んだ鳥のような形態で、無文、粗製で、一端に注口が付く。内部には全面に赤色顔料が付着している。赤色顔料の生産、酒や水等の液体を使った儀礼などに用いられる土器と考えられている。		

32　名称	深鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径28.0cm　高35.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。輪花のような9単位の波状口縁と半肉彫技法によるS字状入組文が印象的である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

33　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦2.0cm　横1.1cm　厚1.1cm
作品概要	側面に3本の刻みを持つD字形に近い形態の勾玉で、獣形勾玉と呼ばれる。縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられるもの。同一系譜にあると考えらえる刻みを持つ玉類は、弥生時代の北部九州の首長墓に副葬されており、弥生文化を多角的に検討する上で貴重である。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

34　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県三戸郡三戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦2.5cm　横1.4cm　厚0.8cm
作品概要	頭部側面に2本の刻みを持つ整った形態の勾玉で、定形勾玉と呼ばれる。縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられる。同一系譜にあると考えらえる刻みを持つ玉類は、弥生時代の北部九州の首長墓に副葬されており、弥生文化を多角的に検討する上で貴重である。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

35　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県三戸郡三戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦1.8cm　横1.0cm　厚0.6cm
作品概要	側面に数条の刻みを持つD字形に近い形態の勾玉で、獣形勾玉と呼ばれる。縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられる。同一系譜にあると考えらえる刻みを持つ玉類は、弥生時代の北部九州の首長墓に副葬されており、弥生文化に組み込まれた縄文的祭祀を考える上で貴重である。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

36　名称	丸玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県むつ市出土	員　　数	9個
時　　代	縄文時代・4,000年前-2,300年前	寸 法 等	1：縦1.2cm 横1.1cm 厚0.7cm　6：縦0.9cm　横0.9cm　厚0.6cm 2：縦1.1cm 横1.1cm 厚0.8cm　7：縦0.9cm　横0.9cm　厚0.6cm 3：縦1.0cm 横1.0cm 厚0.7cm　8：縦0.8cm　横0.8cm　厚0.5cm 4：縦1.0cm 横1.0cm 厚0.5cm　9：縦0.5cm　横0.5cm　厚0.4cm 5：縦0.9cm 横0.9cm 厚0.6cm
作品概要	小形で球形の垂飾で、連珠で使用されたと想定される。翡翠製のものは、縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられる。縄文時代後半期には緑色石材製の垂飾が流行したが、丸玉はその一例。翡翠製のものが日本各地で出土する一方、東北北部では在地の緑色凝灰岩製のものも流行した。九州では在地のクロム白雲母岩製のものも流行し、関東や北陸へ流通した。		

37 名称	岩偶	品　質	石製（白色軟質岩製）
作 者 等	青森県十和田市滝沢明戸出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦9.8cm　横12.0cm　厚4.0cm
作品概要	縄文時代晩期の東北で出土する岩偶で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。遮光器風の眼部、豊満な乳房、全面に施された双頭渦文が特徴的である。下半身と手先を欠失する。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

38 名称	岩版	品　質	石製（白色軟質岩製）
作 者 等	秋田県北秋田市脇神高森岱出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦10.3cm　横6.4cm　厚2.2cm
作品概要	縄文時代晩期の東北で出土する岩版で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。正中線と人面の表現が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

39 名称	石刀	品　質	石製（粘板岩製）
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員　数	1本
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦33.0cm　横2.8cm　厚1.1cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する刀形の石製祭祀具で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。柄頭と棟に彫刻されたS字状入組文と赤彩が特徴的である。刃は内反。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

40 名称	壺形土器	品　質	土製
作 者 等	伝北海道出土	員　数	1口
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	直径8.0cm　高11.5cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土器で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。全面に密に施された工字状の文様が特徴的である。内面には、全面に赤色顔料が付着しており、漆工芸に用いる顔料を保管したものと考えられる。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

41 名称	土偶	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦5.5cm　横4.3cm　厚1.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土偶で、その形態からX字土偶と呼ばれる。遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化のもので、小形で省略が著しいいものの遮光器土偶に見られる横一文字の眼部表現が見られる。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

42 名称	土版	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦12.5cm　横9.8cm　厚2.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土製祭祀具。遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化のもので、長側面から中央に向かう2個1対の重弧文が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

43 名称	土偶	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1軀
時　代	縄文-弥生時代・3,000年前-2,200年前	寸 法 等	縦6.0cm　横4.0cm　厚1.6cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土偶で、その施文方法から刺突文土偶と呼ばれる。遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化のもので、遮光器土偶の大きな眼部表現が退化した段階のものである。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

44 名称	独鈷状石器	品　質	石製
作 者 等		員　数	1個
時　代	縄文-弥生時代・3,000年前-2,000年前	寸 法 等	幅19.0cm　高5.0cm　厚4.0cm
作品概要	鶴嘴の頭部状の石製祭祀具。誂えて作ったとみられる神棚状の厨子が付属する。厨子は丸釘の使用や木部の劣化状態から、近代のものと考えられる。雷雨の後に土中から洗い出されて発見されることの多い石斧や石鏃等の石器については、古来より世界各地で雷や神、火等との関わりが考えられ、魔除け、防災、病気平癒等の信仰の対象となっていた。近世以前の日本においても石器は、雷斧、霹靂礎（雷神の道具）、神代石等と呼ばれ、信仰の対象になることがあった。歴史学や考古学に科学的な考え方が導入される明治時代以降においても、特異な形態を持つ石器は、超自然的な物体として民間で信仰されることが続いた。本品は、前近代において一般的であった考古資料の認識、発見、取り扱いの歴史を知る上で貴重である。		

45 名称	独鈷状石器	品　質	石製
作 者 等	（東日本）	員　数	1個
時　代	弥生時代・前4世紀-前1世紀	寸 法 等	幅17.4cm　高5.4cm　厚3.9cm
作品概要	弥生時代前半期の東日本で発達する鶴嘴の頭部状の石製祭祀具。縄文時代の同形石器に系譜が求められることから、縄文系の遺物と呼ばれることがある。縄文時代最末期の北部九州に最初に伝わった稲作文化は、東北まで一気に伝播し、本州以南で弥生時代が始まる。しかし、弥生時代になっても、縄文時代以来の祭祀が各地で続けられていた。その代表例が、東日本の独鈷状石器、近畿・四国の石棒、北部九州の刻みや長軸方向の穿孔を有する翡翠製玉類である。これら縄文系遺物は、縄文時代から弥生時代の連続性や弥生時代の地域性を考える上で重要である。		

＜民族資料＞（1件）

46　名称	財貨	品　　質	石製（粘板岩製）、植物繊維製、骨角製、皮革製
作 者 等	インドネシア共和国パプア州（旧イリアンジャヤ州）	員　　数	1個
時　　代	20世紀	寸 法 等	縦46.2cm　横13.0cm　厚4.0cm
作品概要	インドネシア共和国パプア州に住むダニ族が、結婚式や葬式に際し贈物として使用する石斧形の交換財である。大形で由緒のある財貨は、神聖なものとして畏敬の対象になることもあった。財貨は、本品のようなスカート風の装飾を持つ石斧形のものが一般的で、袋と帯を加えた3 点セットで構成されると言われているが、本品には伴っていない。縄文時代以降の日本列島では、石斧や石槍、銅鉾、銅戈、銅鐸など道具の大型化を伴う祭器化現象が認められる。特に縄文時代の開始期には、遠隔地石材で作られた大型の石斧や石槍が１遺跡から纏まって出土することがあり、交換財としての役割が考えられている。本品は、このような道具の祭器化やその装飾を考える上で参考となるものである。		

＜歴史資料＞（3件）

47　名称	豊臣秀吉領知宛行状	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	安土桃山時代・天正15年(1587)	寸 法 等	表装：縦106.5cm　横65.0cm　軸長70.0cm　本紙：縦22.8cm　横62.5cm
作品概要	本品は天正15年(1587)6月15日付、宗義調・宗義智宛に発給された豊臣秀吉の領知宛行状である。同年5月に九州平定を終え、筥崎に在陣する秀吉のもとに、6月に義調と義智が「父子」と称して伺候した。ここで宗氏の秀吉への服属が確定し、本品によって、対馬一国が安堵されたのであった。本品と同時にもう一通発給された判物には、朝鮮への出兵について記されていることはよく知られている。本品は江戸時代に対馬藩主の「奥御判物長持」で保管されていたが、大正15年(1926)に宗伯爵家は宗家に伝わった秀吉関係文書や徳川家康関係文書を朝鮮総督府朝鮮史編修会にした中に本品が含まれていたと考えられる。豊臣秀吉の九州平定後、対馬の宗氏を従え、朝鮮出兵へと進み始める段階の一次史料として重要なものである。		

48　名称	カルディム『日本殉教精華』	品　　質	紙本活版（金属活字）印刷、ヴェラム装
作 者 等	アントニオ・フランシスコ・カルディム編	員　　数	1冊
時　　代	ローマ 1646年刊	寸 法 等	縦19.8cm　横15.2cm　高4.4cm
作品概要	ポルトガル人イエズス会士で日本管区長であったカルディムが編纂した、16世紀から17世紀の日本におけるキリスト教徒の殉教録。本書は3部構成となっている。第1部は日本で宣教活動を行ったヨーロッパ人や日本人イエズス会士・会員、イエズス会を支援した大村純忠、大友宗麟、高山右近の3名のキリシタン大名、計87名の略伝と銅版画が掲載される。第2部は1557年から1640年まで、日本で殉教した人物の名簿。第3部は日本との交易再開を求めるため、1640年に長崎に来航したマカオ使節団が処刑された出来事に関する記録である。殉教録という性格上、本書には脚色された記述もあるが、一方で宣教師や日本人イエズス会士たちの容貌を視覚的に伝える。また、第3部については、状況を詳細に記す史料はオランダ語史料を除けばほとんどなく、日本・マカオ（ポルトガル）関係史を研究する上で重要な資料である。		

49　名称	モンタヌス『東インド会社遣日使節紀行』	品　　質	紙本活版（金属活字）印刷、革装
作 者 等	アルノルドゥス・モンタヌス著	員　　数	1冊
時　　代	アムステルダム 1669年刊	寸 法 等	縦31.2cm　横19.9cm　高5.9cm
作品概要	オランダ出身のカルヴァン派宣教師で歴史学者のモンタヌスの著作。モンタヌスは来日経験がないものの、ポルトガルやスペインのカトリック宣教師の報告書をはじめ、1650-60年代のオランダ東インド会社職員による複数の江戸参府日記を編纂し本書を著した。銅版画の挿図が豊富で、長崎・江戸の往復の道程に沿った視覚的な叙述を可能にしており、読者に臨場感を与えている。これら挿図は、商館員のスケッチをもとに、デフォルメしたものである。「鎖国」後、ヨーロッパにもたらされる日本情報は限定的になったが、本書はエンゲルベルト・ケンペル『日本誌』が登場する以前のヨーロッパにおける代表的な日本に関する著作と位置付けられる。		

（１）寄贈（84件）

＜書跡＞（30件）

1　名称	新撰類林抄断簡　南院切「問寇校書雙溪」	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	伝空海筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・9世紀	寸 法 等	本紙：縦27.1cm　横18.0cm　表装：縦140.5cm　横41.4cm　軸長46.0cm
作品概要	中国・唐時代の詩人の漢詩を類別聚集した詩集『新撰類林抄』の断簡。王維の「問寇校書雙溪」の漢詩を書写する。『新撰類林抄』の断簡は「南院切」と呼ばれる。本品は唐様の草書体で書写され、零巻である国宝「新撰類林抄巻第四残巻」（京都国立博物館蔵）の書風と同類のものであり、また、本品と「新撰類林抄巻第四残巻」の界線は類似する。空海請来説や日本で書写された説があるが、平安時代の初めに書写されたものと思われる。空海を伝承筆者とするが、筆跡は空海のものとは異なる。「新撰類林抄巻第四残巻」と同じく、唐代詩の遺篇として、また平安時代初期の草書として、貴重なものである。		

2　名称	貫之集断簡　自家集切「みとりなる」	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝紀貫之筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・10世紀	寸 法 等	本紙：縦26.8cm　横8.7cm　表装：縦135.5cm　横27.0cm　軸長31.5cm
作品概要	装飾のない楮紙に、『貫之集』第一の和歌1首を書写した断簡。紀貫之が自らの歌集を自筆で書写したと伝えられることから、「自家集切」と呼ばれる。国宝「秋萩帖」（東京国立博物館蔵）などとともに、草仮名の典型として注目される。文字は扁平で筆力は強く、時に連綿を見せ、草仮名から女手への移行時の姿を示す。		

3　名称	重要美術品　興風集断簡　名家家集切「はるかすみ」	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	伝紀貫之筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦25.5cm　横21.1cm　表装：縦142.5cm　横40.0cm　軸長44.5cm
作品概要	藤原興風の私家集『興風集』の断簡を書写した断簡。書写される「はるかすみ」の和歌は、『寛平御時后宮歌合』にも収載される。「名家家集」は、平安朝に活躍した藤原兼輔、藤原興風、源公忠、坂上是則、在原元方、清原深養父の6人の家集を総称したもの。「名家家集切本」はすべて一筆の書写である。「高野切」第二種（源兼行筆と推定される）に似通った書風で、流麗さと温和な雰囲気を持つ。伝承筆者は紀貫之とされるが、11世紀半ばの書写であると推測される。また、「名家家集切本」の飛雲料紙は、11世紀半ば頃に見られるもので、他の時代には存在しないものである。		

4　名称	斎宮女御集断簡　小島切「秋をへて」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝小野道風筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦22.5cm　横9.5cm　表装：縦140.5cm　横37.0cm　軸長41.8cm
作品概要	徽子女王の歌集『斎宮女御集』の和歌3首を書写した断簡。もとは綴葉装の冊子本。本阿弥光悦の門下で、「宗真流」という書風で知られた小島宗真が愛蔵したものとして、「小島切」と呼ばれる。「小島切」は藍や紫の飛雲を漉き込んだ鳥の子紙に、細かな雲母砂子を撒いた料紙を用いる。穂先の長めの筆で書かれたためか、繊細かつ流麗な筆致である。伝承筆者は小野道風とされるが、時代は下がり11世紀後半の書写と推定される。本品の最終行「さい京のかみの大君にきこえさせ給」は本来、歌番号95の詞書で、本品に書写された和歌に接続しない。この1行を記した紙は、別の「小島切」を掛幅装に改装する際に切断され、本品の末尾に継がれたものとみられる。		

5　名称	斎宮女御集断簡　小島切「うら水の」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小野道風筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦22.5cm　横9.5cm　表装：縦140.5cm　横37.0cm　軸長41.8cm
作品概要	徽子女王の歌集『斎宮女御集』の和歌3首を書写した断簡。もとは綴葉装の冊子本であったため、本品に書写された3首に続く和歌が反転して本紙に墨が残っている。本阿弥光悦の門下で、「宗真流」という書風で知られた小島宗真が愛蔵したものとして、「小島切」と呼ばれる。藍や紫の飛雲を漉き込んだ鳥の子紙に、細かな雲母砂子を撒いた料紙を用いる。穂先の長めの筆で書かれたためか、繊細かつ流麗な筆致である。伝承筆者は小野道風とされるが、時代は下がり11世紀後半の書写と推定される。		

6　名称	砂子切本和漢朗詠集「紅梅」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦25.1cm　横8.2cm　表装：縦138.0cm　横27.7cm　軸長32.4cm
作品概要	『和漢朗詠集』巻上「紅梅」の橘正通の漢詩1首を書写した断簡。もと巻子装で、江戸時代中期には切断分割されたと考えられている。特定の切名を冠しないが、銀の砂子を撒いたものを料紙に用いることから、小松茂美は「砂子切」としている。天地に引かれた墨界は、大部の詩歌を書写するためのもので、『和漢朗詠集』の書写の統一をはかるものである。その書はおおらかな楷書体であるが、細く鋭い筆線が見られる。書写年代は11世紀半ばから後半までと推定される。なお、墨筆による声点と訓点が加筆される。訓点の片仮名は本文書写よりも後世の時代のものと見られる。		

7　名称	道済集断簡　紙撚切「あさゆふに」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原佐理筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦22.0cm　横145.0cm　表装：縦129.0cm　横36.5cm　軸長41.5cm
作品概要	藍漉き染め紙に金砂子を撒いた料紙に、源道済の家集『道済集』の和歌3首を書写した断簡。もとは縦長の冊子本であったと見られる。切名は、筆線が紙撚の形状に似ることから名付けられた。その書は、連綿が長く連なり、右上がりの細く鋭い筆線である。伝承筆者は藤原佐理であるが、書写年代は、料紙の装飾技法から、11世紀半ばから後半と推定される。		

8　名称	麗花集断簡　香紙切「とゝまらぬ」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小大君筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦20.3cm　横11.7cm　表装：縦122.0cm　横35.2cm　軸長39.7cm
作品概要	丁子で染めた料紙に、平安時代の私撰集『麗花集』の3首（そのうち1首目は後半、3首目は前半）を書写した断簡。『麗花集』は散佚歌集で、写本としては伝小野道風筆「八幡切」と「香紙切」が知られるのみである。「香紙切」の名は、防虫のため、香染め（丁字染め）の料紙を用いていることから名付けられた。伝承筆者の小大君は、三十六歌仙の一人として知られる女流歌人。その書は連綿を多用し、鋭い線質で、自由奔放・リズミカルな筆致で揮毫する。平仮名の字体が11世紀半ばに典型化された後、仮名の書風が多彩に展開する時期の作例の1つであり、11世紀末頃の筆写と考えられている。		

9　名称	和漢朗詠集断簡　太田切「閑居」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦24.9cm　横16.6cm　表装：縦149.0cm　横43.2cm　軸長47.5cm
作品概要	胡粉を塗った具引き地に金銀泥で鳥や草花を描いた料紙に『和漢朗詠集』巻下「閑居」の漢詩と、それに続いて緑地の料紙に遍昭の和歌1首を書写した断簡。もとは上下2巻だったが、現在は静嘉堂文庫美術館所蔵の巻子のほか、断簡10数葉が伝存する。いずれも下巻のみで、上巻は早くに散逸したものと見られる。切名は、下巻が江戸時代後期に掛川藩主の太田家に伝来したことにちなむ。漢字は端正な世尊寺流の筆致を示す。一方、仮名は伸びやかな筆線で、爛熟期の仮名の姿を示す。藤原公任を伝承筆者とするが、確証はなく、11世紀末の書写とみられる。		

10　名称	小大君集断簡　御蔵切「うりふのゝ」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小大君筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀-12世紀	寸 法 等	本紙：縦19.5cm　横36.7cm　表装：縦125.5cm　横59.2cm　軸長64.0cm
作品概要	布目打ちし、白の具引きをした唐紙に、『小大君集』の和歌4首を書写した断簡。本品は3頁分を残す断簡であり、また鎌倉時代に書写されたと思われる識語が残る貴重な断簡である。この識語によれば、当時11帖が確認されていたとわかる。識語に据えられた花押は、二条為氏(1222-86)と推定されている。繊細で丸味を帯びた筆致、連綿の美しさが女性の筆を想定させたため、歌集の作者である小大君を伝承筆者としたと考えられる。		

11　名称	下絵和漢朗詠集切「郭公」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀-12世紀	寸 法 等	本紙：縦25.3cm　横11.7cm　表装：縦129.5cm　横36.5cm　軸長41.2cm
作品概要	鳥の子紙に金銀泥で鳥や草花の下絵を描き、金銀の揉み箔を撒いた料紙に、『和漢朗詠集』巻上の「郭公」を書写した断簡。切名は、近代に入ってから、その料紙の特徴をとらえてのものである。もとは上下2巻本であったが、江戸時代初期には解体が始まっていたとみられる。現存の古筆遺品に同筆のものは確認できないが、穂先が効いたリズミカルな運筆である。巧みな筆遣いと瀟洒で軽快な書風から、11世紀末期から12世紀初頭にかけての書写と考えられる。もと上下2巻本であったとき、片仮名の訓点や異本との校合が加えられたようだが、仕立ての際に、鑑賞の妨げにならないように抹消したものと考えられる。		

12　名称	三宝絵詞断簡　東大寺切「うつくしひの」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝源俊頼筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・保安元年(1120)	寸 法 等	本紙：縦24.3cm　横8.8cm　表装：縦143.5cm　横42.5cm　軸長47.3cm
作品概要	下地に胡粉を塗り、唐草文と二重菱の雲母摺りした唐紙に界線が引かれた料紙を用い、『三宝絵詞』の「忍辱波羅蜜」の一部を書写した断簡。『三宝絵詞』は、出家した冷泉天皇の皇女・尊子内親王のために、源為憲が撰述した仏教説話集。本来は絵を添えたものだが、詞書のみ残る。本品に書写されているのは、六波羅蜜の一つ「忍辱波羅蜜」の説話の一部。「東大寺切」は、重要文化財「三宝絵」（名古屋市博物館蔵）、いわゆる「関戸本三宝絵」から切り出されたもの。この「関戸本三宝絵」の奥書には、「保安元年六月七日書うつしおわんぬ」とあり、本品の書写年代を知ることができる。源俊頼を伝承筆者とするが、確証はない。軽快な運筆で、筆の転折にその技量が垣間見える。		

13　名称	雲紙本和漢朗詠集切「帝王」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦28.4cm　横14.0cm　表装：縦131.8cm　横33.5cm　軸長38.0cm
作品概要	本紙は天地に藍の打曇の料紙を用いる。『和漢朗詠集』巻下の「帝王」の末尾の断簡を書写した断簡。また、墨筆による声点と片仮名による訓点が加筆される。これは固有の切名を有しないが、打雲が入った料紙を用いることから、小松茂美は「雲紙本和漢朗詠集切」と称している。この「雲紙本和漢朗詠集切」に類するものは、いずれも巻下の断簡で、巻上は江戸時代初期には失われていたと考えられている。藤原行成を伝承筆者とするが、その書風から12世紀後半のものである写よりも後世に加えられたものとみられる。		

14　名称	古今和歌集断簡　筋切「おもふといふ」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定実筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.2cm　横13.5cm　表装：縦137.5cm　横38.7cm　軸長43.5cm
作品概要	金銀の揉箔を撒いた料紙に、『古今和歌集』巻第19の和歌4首を書写した断簡。もとは粘葉装の上下2冊の冊子本。切名は、飛雲や羅紋を漉きこみ、金銀の揉箔を撒いた料紙に、銀泥の線が引かれているため「筋切」と称される。本来は両面書きで、その裏面は篩に似た、荒い布目の跡があるので、その断簡を「通切」と呼ぶ。本品では優美な料紙に流麗な書風が展開される。伝承筆者を藤原佐理とするが、佐理の筆跡とは異なる。書風から藤原定実筆と推定される。		

15　名称	古今和歌集断簡　通切「うくひすの」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定実筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.1cm　横13.9cm　表装：縦139.0cm　横42.0cm　軸長47.4cm
作品概要	裏面に布目の跡が残る料紙に、『古今和歌集』巻第1の和歌2首を書写した断簡。もとは粘葉装の上下2冊の冊子本。装飾のある紙の表を使用した断簡を「筋切」、紙の裏面を使用した断簡を、篩に似た荒い布目の跡があることから「通切」と呼ぶ。本品には流麗で温和な書風が展開される。伝承筆者を藤原佐理とするが、佐理の筆跡とは異なる。書風から藤原定実筆と推定される。筋切が漢字の使用を控えているのに対し、通切は漢字の使用が見られる。見開きごとに、また和歌ごとに変化を見せようとした筆者の美意識が見いだせる。		

16　名称	古今和歌集断簡　本阿弥切「よのなかは」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小野道風筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦17.0cm　横15.1cm　表装：縦138.0cm　横41.3cm　軸長46.0cm
作品概要	布目打ちし、白の具引きした紙に唐草文様を雲母摺りした唐紙を本紙料紙に用いる。『古今和歌集』巻第18の「雑下」の和歌3首を書写した断簡。「本阿弥切」の名称は、本阿弥光悦が『古今和歌集』の一部を愛蔵していたと伝えていることにちなむ。もとは、天地約16センチメートルの20巻の巻子本であった。小野道風を伝承筆者とするが、院政期の12世紀頃の書写と考えられている。小型の巻子本であったため、文字も小さいが、変化に富んだ巧みな運筆である。リズミカルで弾力に富んだ筆致、洗練された連綿で揮毫される。		

17　名称	古今和歌集断簡　了佐切「わたのはら」	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原俊成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.4cm　横15.3cm　表装：縦139.5cm　横38.0cm　軸長42.3cm
作品概要	もと冊子本であった『古今和歌集』の断簡。『古今和歌集』巻第9の和歌3首を書写する。「了佐切」の名は、古筆家の祖である古筆了佐(1572-1662)が極札をしたためたと伝えられたことによる。藤原俊成(1114-1204)の独特な鋭く変化に富んだ筆跡がよくあらわれている。なお、箱内には本品とともに、実業家で古美術品蒐集家として著名な保阪潤治(1875-1963)宛の前島密(1835-1919)書翰が2通、前島密の所有品の鑑定書が1通、前島密宛の高田早苗（1860-1938、前島密長女の夫で早稲田大学総長などを歴任）書翰が1通保管される。本品が、前島密が所有していた俊成筆の古筆に該当するか不明だが、前島密が古筆に関心を寄せていたことを示す近代史料を付属品として有する点、非常に興味深い。		

18　名称	曽根好忠集断簡　曽丹集切「かせさむみ」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝西行筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.9cm　横29.8cm　表装：縦112.5cm　横43.2cm　軸長47.5cm
作品概要	曽根好忠の歌集『曽根好忠集』（『好忠集』、『曽丹集』とも）の「毎月集」の「十二月中」の10首を書写した断簡。「毎月集」は、1日1首ずつ詠んだ計360首の和歌を旬・月・四季に分け、さらに春・夏・秋・冬の冒頭に長歌と反歌を1首ずつ配した、計368首から成るもの。本品は、もと2巻から成ると推定されている巻子本の断簡である。巻子本曽丹集切は、伝承筆者を西行とし、書風は緩急と肥痩の変化に富んでいる。本品は、もと巻子本の私家集として珍しい古写本であり、古筆鑑賞と国文学上の史料としても価値が高い。また書道史上にも重要な資料である。		

19　名称	貫之集断簡　村雲切「おもふこと」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝寂然筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦16.8cm　横13.3cm　表装：縦129.0cm　横36.0cm　軸長40.0cm
作品概要	薄茶色の紙に銀の切箔をくまなく撒いた料紙に、『貫之集』の和歌3首を書写した断簡で、寂然を伝承筆者とするもの。村雲切の名称は、料紙に撒かれた銀の切箔の様子を群雲に見立てたことによる。藤原定家の加筆があることが知られ、本品の2首目の歌頭の「拾」字がそれである。「拾」字は『拾遺和歌集』の入集歌であることを示している。また、異本との校合を加えており、本品の3首目の見せ消ちのように訂正している箇所もある。書写年代は、定家の書き入れがあることから、定家の活躍期以前である。また、料紙の装飾技法から、12世紀半ばであると推測される。		

20　名称	二十巻本歌合断簡　柏木切「まつひとは」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原忠家筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦26.5cm　横12.1cm　表装：縦142.5cm　横35.5cm　軸長40.0cm
作品概要	源雅実が編纂を企画し、藤原忠通が加わって歌合の編纂事業が進行した「二十巻本歌合（『類聚歌合』）」の断簡。清書本は作成されずに草稿本が伝存した。その中から分割された断簡は、藤原忠家を伝承筆者とするものを「柏木切」、その子の俊忠を伝承筆者とするものを「二条切」と呼ぶ。この断簡は、延喜13年(913)3月13日、宇多法皇が自らの御所である亭子院で催した歌合を書写した断簡で、「夏廿首」と「恋廿首」の部分にあたる。ただし、本品に書写された和歌（「夏」の4首と「恋」の1首）は亭子院歌合の「夏」の撰外歌と「恋」の番外歌で、本品が示すように、左右の方に分けての歌合の形式となっていない。その書は小粒ながらリズミカルで筆力は強い。流麗な連綿で、筆者の能書ぶりがうかがえる。忠家筆と伝えるが、確証はない。本品は亭子院歌合の撰外歌と番外歌が書写されたものとして、非常に興味深い断簡である。		

21　名称	法華経断簡　戸隠切「舎利弗云々」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定信筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦29.7cm　横14.7cm　表装：縦114.0cm　横39.0cm　軸長43.5cm
作品概要	薄墨色を帯びた本紙全面に1行8基の宝塔形を雲母で摺り出し、各宝塔の中に『法華経』の「方便品第二」の経文の一文字を書写した断簡。一部8巻に開結を添えた10巻が戸隠神社に伝来したと伝えられることから、「戸隠切」と呼ばれる。筆者の藤原定信は、一切経を一人で書写したといわれ、速筆かつ右肩上がりの独特な書風をなした。本品においても、宝塔形に一文字ずつ、安置するように筆を運ぶが、その運筆はスピード感あふれるダイナミックで躍動的なもので、勢いあまって宝塔からはみ出している文字もある。一文字一文字のバランスよりも、筆の流れや全体の調和を重視した書である。この右肩上がりの定信の書風「定信流」は、写経の一典型として流行した。		

22　名称	和漢朗詠集断簡　久松切「蝉」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦26.3cm　横23.7cm　表装：縦118.0cm　横57.0cm　軸長62.0cm
作品概要	藍と紫の飛雲を漉き込み、金銀の砂子を撒いた料紙に、『和漢朗詠集』巻上の「蝉」の漢詩と和歌を書写した断簡。もとは巻子本で、巻上は切断され、諸家に分蔵されたが、巻下は完本のまま、出光美術館に所蔵される。切名は、伊予松山藩主の久松松平家に伝来したことにちなむ。ゆっくりとした筆運びで温厚な雰囲気であり、世尊寺流の書風の特徴が見えるが、伝承筆者の藤原行成の筆とは異なる。料紙の特徴と書風から、12世紀初めの書写と考えられる。本文5行目「鳥下緑蕪秦苑寂蝉鳴黄葉漢宮秋〈許渾〉」は、原書写者が欠脱したため、のちに別の人物が淡墨で補記している。この補記の文字は原書写の文字に似せて記している。		

23　名称	千載和歌集断簡　日野切「いましはし」	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原俊成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代-鎌倉時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.1cm　横15.0cm　表装：縦146.5cm　横39.3cm　軸長44.0cm
作品概要	藤原俊成(1114-1204)が素紙に自撰の『千載和歌集』巻第12の末尾3首を書写した冊子本の断簡。日野家に伝来したことから「日野切」の名を持つ。江戸時代初期には分断されていたとみられる。俊成の遺墨には「昭和切」や「了佐切」があるが、それらと比べて本品には、俊成の独特な鋭く変化に富んだ筆致がよくあらわれており、本品は俊成の老年期の代表的な遺墨であるといえる。		

24　名称	明月記断簡　建久五年十二月四日・五日・六日・七日条	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原定家筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・建久5年（1194）	寸 法 等	本紙：縦29.0cm　横46.0cm　表装：縦109.5cm　横67.2cm　軸長62.5cm
作品概要	『明月記』の建久5年(1194)12月4日条から12月7日条までを記した断簡。12月4日条は、定家が大将殿（左近衛大将の九条良経）のもとに参上、殿下（九条兼実）と良経の「御堂御八講」行きに、藤原伊輔・源雅行・藤原高通・藤原家綱・藤原頼房が供奉する記事。5日条は、定家が九条殿に参上する記事。6日条は、定家が大炊殿に参上し、続いて頭中将に弓場始のこと、弓場始の装束の新調のことを申した後、女房に謁し、明年の叙位のことなどを申したと記す記事。7日条は、定家が良経のもとに参上した後、鳥羽殿に参上し、暗くなって帰宅したと記す記事。本品が収める12月4日条から7日条は、冷泉家時雨亭文庫に残る自筆本（国宝）の断簡で、自筆本に近いとされる徳大寺家本や、国書刊行会本には所収されていない。本品は自筆本を補う資料として貴重である。		

25　名称	公事次第書断簡「御着袴云々」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原定家筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦25.3cm　横28.4cm　表装：縦104.0cm　横38.1cm　軸長42.5cm
作品概要	「御着袴」以下、公事の項目を列記し、故実を漢文で割註したものの断簡。本品に列記された項目は『名目鈔』に合致する。『名目鈔』とは、洞院実熙(1409-59)がまとめた有職故実の書。本品記載の項目は『名目鈔』の「同臨時篇」の29項目と「私儀篇」の篇名の部分に該当するが、各項目の訓み方・呼び方が記されていない上に、列が整っておらず、崩れている。本品は15世紀以降の『名目鈔』の写本の一系統と考えられなくもないが、書風や料紙の風合いから見て、『名目鈔』成立以前にまとめられたもので、公事項目の整理以前のものと見るほうが蓋然性が高い。箱書きによれば、筆者を藤原定家としているが、本品は定家よりも時代が下がった頃のものと考えられる。本品の書風は藤原定家の手とは異なるが、独特な定家の書風に近付けようとしている。「定家様」と呼ばれる書風の時期に至るまでの段階にある作品といえる。		

26　名称	伏見天皇御集断簡　広沢切「うき世をは」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伏見天皇筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦30.4cm　横13.7cm　表装：縦148.5cm　横42.0cm　軸長46.5cm
作品概要	伏見天皇(1265-1317)の歌集の断簡。伏見天皇は好学かつ能書として知られる。切名の由来は不明だが、細井広沢に関係するものか。本品は巻子本が切断されたもので、巻子本で伝存するものは約20本ある。「広沢切」は、楮紙の素紙のほかに、具注暦や書状の紙背を転用しているものがある。不揃いの料紙を用いているのは、執筆が長期にわたったこと、また草稿本であることを示している。所々に本文を同筆で添削しているものも見られ、このことは草稿本であることの証左である。その書は、素紙に淡墨で速い筆致を示す。流麗で優雅な書風を展開させており、天皇の筆致が確認できるものとして貴重である。本品は書状の紙背を転用したもので、詳細は不明だが、官位に関する3行の文章が記される。		

27　名称	新古今和歌集断簡　北山切「たそかれの」	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦23.1cm　横15.7cm　表装：縦145.5cm　横36.6cm　軸長41.7cm
作品概要	『新古今和歌集』巻第3の和歌2首と歌番号279の和歌の上の句を書写した断簡。「北山切」は、国宝「藻塩草」（京都国立博物館蔵）、国宝「見ぬ世の友」（出光美術館蔵）、国宝「翰墨城」（MOA美術館蔵）、いずれの古筆手鑑にも貼られている。関西大学図書館所蔵の「北山切本新古今和歌集」の識語には、「貞和六年二月十四日書写之」とあり、「北山切本」が貞和6年(1350)2月14日に書写されたことがわかる。貞和6年は足利尊氏の在世中であることをもって、江戸時代以来、「北山切」の筆者を尊氏と伝えるが、確証はない。歌頭には選者名を略記した記号がある。「ヤ」は藤原定家、「ß」は藤原家隆である。また、1行目右に「イかきね」とあり、選者の注記がある。本品の書風は、転折、細い線の運筆に気を遣った、端正でバランスのとれたものである。		

28　名称	書状	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝小野通女筆	員　　数	1幅
時　　代	安土桃山時代-江戸時代・16世紀-17世紀	寸 法 等	本紙：縦31.1cm　横46.3cm　表装：縦111.0cm　横60.2cm　軸長66.5cm
作品概要	豊臣家周辺に仕え、書画に秀でたことで知られる小野通女（お通）が記したと伝えられる書状。「かゝふせん」宛のもの。漢字と仮名で散らし書きされる。通女が描いたもの、あるいは着賛したものは現存するが、通女の書状は現在のところ見当たらない。通女の書は、繊細かつ鋭い筆致で、連綿が長く美しいことが特徴で、その書流は後世に「お通流」とされた。本品には差出人の名が記されていないため、通女の書である確証はないが、本品は細く鋭い筆致で、連綿の線が長く、上記の特徴を備えている。		

29　名称	書状	品　　質	紙本墨書
作 者 等	本阿弥光悦筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦27.8cm　横44.2cm　表装：縦113.0cm　横57.4cm　軸長63.5cm
作品概要	6月3日付、宗貫老宛、本阿弥光悦の書状。宗貫老からの書状と塩漬けの雲雀を受領したことへの謝意を伝える。光悦の書風は、基本的には線の肥痩を巧みに用い、漢字と仮名が力強い調和を見せるのが特徴であるが、時期によって大きく二つの書き振りに分けられている。一つは慶長期のもので、筆を立てて、筆先が線の中心を通るような書き方である。もう一つは元和期以降のもので、筆を傾けて、線の片方に筆先が偏る書き方、つまり側筆が現れる筆遣いである。この書き方は寛永期により多く見られる。本品の書風は、かすれが目立ち、側筆を用いているが、行間や字間、字形はあまり乱れていないため、元和の頃の染筆であると推測される。		

30　名称	一行書「孤明歴々地」	品　　質	紙本墨書
作 者 等	慈雲筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・18世紀-19世紀	寸 法 等	本紙：縦113.8cm　横28.8cm　表装：縦195.0cm　横31.2cm　軸長36.0cm
作品概要	「孤明歴々地」の5字を1行で揮毫する。慈雲(1718-1804)は江戸時代後期の真言宗の僧。本品に揮毫する「孤明歴々地」は、『臨済録』の一節である。『臨済録』とは、中国の禅僧、臨済義玄(?-867)の言行録。慈雲の書は、肉太で荒々しい筆遣いが特徴であるが、暖かな情趣と品格を備えていることから、その高い人格をよく示すものとして尊ばれている。「孤明歴々地」と揮毫する書は数点現存しているが、本品も含めいずれも太い筆線で、墨の渇潤があらわになった力強い筆致を示す。		

＜彫刻＞（17件）

31　名称	天衣残欠	品　　質	木造（ヒノキ材）
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	江戸時代・16世紀	寸 法 等	全長80.0cm
作品概要	本部材は観音菩薩立像（C6、重要文化財）の右手前膊より外側に垂下した天衣部材である。平成13年(2001)の文化庁購入時、右側垂下天衣は所在不明だったが、平成31年常盤山文庫倉庫内で存在が確認され、本作品の部材の一つとして寄贈を受けた。なお、像本体と著しく時代及び作行きが異なっており、江戸時代に蓮華座とほぼ同時期に補われたものと考えらえる。別保管中の天衣左材と同様、元の接合場所に復位させない方針である。		

32　名称	能面　翁	品　　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	明治-大正時代か・19-20世紀	寸 法 等	縦18.7cm　横15.5cm　高7.7cm　重170.0g
作品概要	「式三番」において能役者が演じる「翁」に用いられる面で、狂言役者が演じる「三番叟」の黒色尉に対し、白色尉といわれる。この面は冠形が大きく単純化している点や皺の刻みに肉感がない点、また全体に古様な錆が感じられないことから、比較的近代の作と考えられる。		

33　名称	能面　小尉	品　　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	縦20.6cm　横15.8cm　高8.4cm　重130.0g
作品概要	小尉は、観世形ともいわれる上品なタイプが主流であり、この面は、観世の面の温和でくせのない表情を写したものと考えられる。観世家の小尉の写しとして知られる愛媛・東雲神社所蔵の小尉（出目洞白〔満喬〕作　17-18世紀）や大倉集古館所蔵の小尉（出目甫閑〔満猶〕作　享保15年〔1730〕）に比べると、この面は頬骨の下の肉の削げ方が少なく、上唇の中央が尖っていない。上述の2面より時代がやや下がると考えられる。		

34　名称	能面　中将	品　　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作 者 等	出目友閑満庸か	員　　数	1面
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	縦20.3cm　横13.5cm　高7.8cm　重139.0g
作品概要	中将は代表的な若い男の面として眉目秀麗な貴公子のほか、戦乱に散る平家の公達の役に用いられる。この面裏の焼印は、大野出目家二代出目友閑満庸(1578-1652)のものと一致し、鼻下の線刻は、大野出目家の是閑吉満(1527-1616)、友閑などの知らせ鉋の特徴を示すことから、本面は友閑作の可能性が高い。		

35 名称	能面　邯鄲男	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸法等	縦19.7cm　横14.6cm　高8.5cm　重156.0g
作品概要	この面は永青文庫所蔵の邯鄲男（出目友閑・17世紀）や大倉集古館（出目甫閑〔満猶〕・享保7年〔1722〕）に比べると、やや細面で目の見開きが大きく、瞳孔も大きめである。人中の幅が広く、口の形が崩れているなど定型から離れている。面裏は細かく定期的な鑿痕が横に流れ、黒塗りされるが光沢はない。右目上に円形、左目上に縦長楕円形の枠の陰刻および花押らしき陰刻（印文は削った痕跡）がある。		

36 名称	能面　十六	品　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦19.6cm　横13.5cm　高6.8cm　重93.0g
作品概要	十六は、わずか16歳で戦の露と消えた少年、平敦盛をかたどった面。『平家物語』に敦盛を「薄化粧して、かね黒なり」と記されるように十六の面も鉄漿をさしている。黒目がちな目や産毛のような眉など、少年の面影を色濃く伝える表情が通例であるが、この面の表情はやや硬く、永青文庫所蔵の友閑作とされる焼印と比べ、焼印の余白が大きいため、写しと考えられる。		

37 名称	能面　平太	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦20.4cm　横13.9cm　高7.2cm　重133.0g
作品概要	平太は修羅物のなかで『八島』の源義経、『田村』の坂上田村麻呂などの武将の亡霊に使われる。眼窩から頬骨のくぼみが深く、眉下に沿って鏑立っている。顔の右半分が細く、左半分は木屎漆で補修されている。面裏の鑿痕は横に流れ、黒塗りされるが光沢はない。額の左寄りに「天下一友閑」の焼印が見られるが、痩せた様子を表わす頬下のくぼみなどの彫りがやや不自然である。		

38 名称	能面　童子	品　質	木造彩色、ヒノキ材
作者等	出目庸久友水	員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦20.2cm　横13.8cm　高7.0cm　重98.0g
作品概要	能面における少年をあらわす面として、童子と慈童があり、どちらも本来は中国の神仙譚である『枕慈童』に用いられるように、普通の少年ではなく、永遠の生命を象徴する神性を帯びた面として用いられる。この面は、永青文庫所蔵の童子面（出目洞水作及び出目友閑作）に比べると、やや細身の瓜実型でおっとりとした趣がある。その作行から、大野出目家六代出目庸久友水(1714-66)の作と見てよいだろう。		

39 名称	能面　猿飛出	品　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦21.0cm　横16.0cm　高10.2cm　重195.0g
作品概要	猿飛出は、鬼神面である小飛出の一種。猿に似ているので、この名がある。この面は、京都・北村美術館所蔵の猿飛出（出目洞白作・17世紀）の写しと考えられる。洞白作の面と比べると、本面は瞳孔が大きく、口の開き具合、目の力強さなどが弱まり、口と頬の間の段差が強くやや違和感を覚えるが、その作行は肉取豊かでメリハリのある佳作である。		

40 名称	能面　黒髭	品　質	木造彩色、ヒノキ材
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	縦20.5cm　横14.9cm　高9.3cm　重198.0g
作品概要	黒髭は龍神をかたどった面。水中に住み、雨水をつかさどると考えられている龍は、中世の信仰の中で重要な位置を占めた。「竹生島」や「春日龍神」「白鬚」などに用いられる。下顎のしゃくれ具合や歯列の造形、髪の毛の表現など、大倉集古館所蔵の泥黒髭（出目洞水〔満昆〕・17-18世紀)や、佐野美術館所蔵の泥黒髭（出目友水〔庸久〕・18世紀）より自然な趣があり、制作時期はやや上がると考えられる。		

41 名称	能面　小面	品　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作者等	出目満喬洞白か	員　数	1面
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	縦21.3cm　横13.6cm　高7.0cm　重112.0g
作品概要	面裏の特徴から、豊臣秀吉が手にいれた室町時代の龍右衛門作のひとつ、「雪の小面」を写したものと考えられる。焼印の「出目淡路」は、大野出目家三代出目満喬洞白(1633-1715)の焼印である。1682年天下一号は使用禁止となったので、それ以降の作か。天和3年(1683)頃出家して洞白と名乗るので「出目洞白」印に移行したと考えられている。面裏に認められる放射状の知らせ鉋は、洞白が尊敬していた河内のものとして知られる。		

42 名称	能面　小面	品　質	木造彩色、ヒノキ材か
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・17-18世紀	寸法等	縦21.3cm　横13.6cm　高7.3cm　重154.0g
作品概要	女面のうちで最も若い面が小面である。「小」は愛らしさ美しさの接頭語といわれる。この面の彩色は新しいが、面裏の細かな鑿痕を浅く残して削り、茶色の漆を塗るといった特徴から、豊臣秀吉が手にいれた室町時代の龍右衛門作のひとつ、「雪の小面」を写したものと考えられる。		

43 名称	能面　孫次郎	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸法等	縦20.7cm　横13.5cm　高6.5cm　重98.0g
作品概要	孫次郎は、やや大人びた女面。「孫次郎」と名乗った室町時代の能役者が、夭折した妻の面影をうつしたのがこの女面のはじまりという説がある。この面は、出目元休作の孫次郎（17-18世紀、愛知・豊橋魚町所蔵）に雰囲気が近く、塗は新しいようだが、出来栄えのよい写しである。		

44 名称	能面　万媚	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	縦21.5cm　横13.9cm　高7.0cm　重153.0g
作品概要	面裏に刻銘「萬媚　化生」、また釣鐘形の印形がある作例としては、東京国立博物館所蔵(16～17世紀)、根津美術館所蔵の2面（享保14年銘・出目休兵衛元休、出目元休満茂）、スイス・リートベルク美術館所蔵などが知られる。これらの面の特徴は、表のおくれ毛が三条で、そのうち一番前と中の毛が耳前で前後入れ替わり、前に出た一筋が細くなることなどが特徴としてあげられるが、この面はその通例から外れる。花押は下間少進の花押の粗放な写し、縦に割れ痕を写した線を刻む点から、上述の東京国立博物館所蔵面とリートベルク美術館所蔵面と同系統の写しであることがわかる。		

45 名称	能面　深井	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	縦21.1cm　横13.6cm　高7.8cm　重169.0g
作品概要	面裏の「天下一友閑」焼印は乱れており、永青文庫所蔵の友閑満庸(?-1652)真作と認められる面（姥、小喝食、大飛出、邯鄲男）の出来栄え、面裏の鑿痕、知らせ鉋、焼印などとの比較から、この面は友閑作とは判じ難い。一方、この面の二重瞼に見られる波打つ特徴を示す深井面としては、観世大夫家に伝来した古面の写し（17世紀、東京国立博物館所蔵 C-59）、愛媛・東雲神社所蔵の面がある。いずれも近江井関家、河内大掾家重(?-1657)の作として知られるもので、この面は河内と同系統の写しと考えられる。		

46 名称	能面　深曲	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	縦20.9cm　横13.8cm　高7.5cm　重132.0g
作品概要	中年の女面。深曲見ともいう。曲見のひとつで特に金春流では若曲見と深曲見にわけられるが、むしろ、その面相は深井に近い。具体的には、観世大夫家に伝来した古面の写しとして知られる深井（河内印、17世紀、東京国立博物館所蔵 C-59）に近く、特に面裏については、黒漆塗に頬の部分を一部茶色に塗分けている点などが共通している。		

47 名称	能面　泥眼	品　質	
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	縦21.0cm　横13.8cm　高6.8cm　重134.0g
作品概要	中年の女面。髪の乱れたおくれ毛と、白目と歯先に金泥を塗っているところから、この面が鬼神の性格をもった面であることがわかる。「海士」の龍女や「当麻(ﾀｴﾏ)」の菩薩、「葵上」の生霊や「鉄輪(ｶﾅﾜ)」の復讐に燃える女などに使われる。 　この面は、金春家伝来の河内印の泥眼（東京国立博物館所蔵・17世紀）や出目洞水作の泥眼（大倉集古館所蔵・17-18世紀）に系統が近いが、額のボリュームが大きく、前歯が目立ち、下唇が厚くめくれるなどの特徴は通例から外れる。		

＜金工＞（1件）

48 名称	阮朝貨幣	品　質	銅鋳造
作 者 等	ベトナム	員　数	6枚
時　代	ベトナム　阮時代・19世紀	寸 法 等	（嘉隆通宝）径2.6cm　孔0.6×0.6cm　重3.0ｇ、（明命通宝）(1)径2.1cm　孔0.5×0.5cm　重1.0ｇ　(2)径2.4cm　孔0.6×0.6cm　重4.0ｇ　(3)径2.5cm　孔0.6×0.6cm　重4.0ｇ、（成泰通宝）径2.4cm　孔0.6×0.6cm　重4.0ｇ、（嗣徳通宝）径2.4cm　孔0.5×0.5cm　重2.0ｇ
作品概要	ベトナム・阮朝時代に制作流通した円形方孔の貨幣。嘉隆通寶1枚、明命通寶3枚、嗣徳通寶1枚、成泰通寶1枚の4種6枚からなる。このうち嗣徳通寶と成泰通寶は、裏面に「十文」を鋳出す。なお、明命通寶3枚のうち1枚は法量や厚みが他2枚と著しく異なっており、模鋳銭と思われる。東アジア地域最後の王朝である阮朝の歴代皇帝が発行した鋳造貨幣で、本品は、ベトナム統一を果たした初代嘉隆帝(在位：1802-20)、中央集権化を推進した2代明命帝(在位：1820-41)、フランスと対立した4代嗣徳帝(在：1847-83)、西洋文化の導入をはかるも最後はフランスによって退位させられた10代成泰帝(在位：1889-1907)が、それぞれの統治期に発行した制銭である。		

＜刀剣＞（9件）

49 名称	刀　朱銘長義	品　質	鉄鍛造
作 者 等	長義	員　数	1口
時　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	全長87.4cm　刃長66.8cm　反1.5cm
作品概要	鎬造、大鋒、庵棟。鍛は大板目、沸出来、刃文は湾れ、互の目交じりで、帽子は尖り気味に返る。刀身の表裏には棒樋を掻き流す。大磨上の茎は角棟、尻はわずかに刃上がりで、鑢目は切。指表に朱漆で「長義」の二字銘を記す。目釘孔は3つ。本品は旧鞘の墨書にあるごとく作者については長義との鑑がなされている。南北朝時代、備前刀は相州伝の影響を受けるかたちで、板目に地沸厚く湾れの大乱となった刃文が生み出された。相伝備前と称されるこの作風は、刀剣需要の増大とも相まって備前刀に新風を吹きこむこととなった。この相伝備前の名工の一人が長義である。身幅広く、重ね薄く、反り浅い体配で、切先が伸びて帽子が乱れこんで突き上げ、返りの深いその姿は、長義系統の作とみて差し支えない。		

50 名称	短刀　銘吉光	品　質	鉄鍛造
作 者 等	吉光	員　数	1口
時　代	室町時代前期・14-15世紀	寸 法 等	全長24.9cm　刃長16.9cm　反（なし）
作品概要	平造、庵棟。身幅狭く重ね極めて厚い。表に素剣、裏に護摩箸を腰樋に彫り、ともに鏑上で剣先状に尖って留める。鍛は板目に柾がかり、肌は沸出来。刃文は細直刃。茎は丸棟、刃上がりの栗尻で、鑢目は不明。目釘孔は1つ開ける。指表孔下に刀工銘を刻む。吉光は、大和国の手掻派の流れを汲み、文献資料においても確認出来る土佐国最古の刀工である。長尺の作例は殆ど見られず、現存作例の大半が二字銘を伴う短刀である。なお、短刀の名手で同様に二字銘を切る山城国の粟田口吉光（藤四郎吉光）とも混同されることがあるが、土佐吉光は、本品のように細身ながら極めて重ねが厚く、頑丈に造り込んだ「鎧通し」とも称される姿に特徴がある。		

51 名称	短刀　銘関住人兼吉／明治三拾六年十月日	品　質	鉄鍛造
作 者 等	兼吉	員　数	1口
時　代	明治時代・明治36年(1903)	寸 法 等	全長40.5cm　刃長28.2cm　反（なし）
作品概要	片切刃造、庵棟、指表は打ち寄せる波のような濤乱刃を焼き、棟寄りに「明治三十六年／宮中御歌會始／新年海制歌　のとかにも年たつ浦のはつあひきおものの鯛やまつかかるらむ　孝之助」、一方指裏には鋒より「三十六歌仙」の字句を刻み、続いて全36首を上段11首、中段13首、下段12首の計3段に渡って刻し、さらにその下に上辺右を入隅形にした枠を設け、枠内に各歌人の名前と肖像をあらわす。区間に彫金師銘「彫工河田秋幸」を、茎の指表に刀工銘「関住人兼吉」、指裏に紀年銘「明治三拾六年十月日」をそれぞれ刻む。指表の一首は明治36年(1903)1月19日に宮中で催された歌会始で詠まれた撰歌であることから、本品は歌会始の詠進者自身が記念して地元の著名な刀工に制作を依頼したものと考えられる。		

52　名称	刀　銘肥前守藤原鎮忠	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	藤原鎮忠	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	全長88.8cm　刃長70.0cm　反1.3cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。重やや薄い。表裏ともに両チリ腰樋を掻き流す。地鉄は区上やや柾がかりつつ板目約む。刃文は丁子、互の目を交え、長足、葉よく入り、帽子は掃掛け乱れ込む。茎は生で、角棟、先入山形、鑢目は切、目釘孔1つ開く。指表に銘「肥前守藤原鎮忠」と刻す。鎮忠は豊後の高田派の流れを汲む刀工で、肥前に移住したのち、備前一文字派に代表される古刀の丁子刃に範を求めた石堂派に学び、兄の鎮政とともに伊賀名張の藤堂家に呼ばれて作刀を行ったことで知られる。一時絶えていた華やかな一文字派の丁子刃の特徴をよくとらえた鎮忠の代表作と言うべきものであり、江戸時代における刀工の移住と作風展開を知る上で貴重な作品である。		

53　名称	刀　銘藤原統行	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	藤原統行	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	全長91.9cm　刃長70.1cm　反1.6cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。やや反り浅い。地鉄は板目よく約み、刃文は逆巻くような丁子乱で焼き幅極めて広く諸所に鎬地を越えて皆焼となり棟焼入る。茎は生で、角棟、先刃上がり栗、鑢目は筋違、目釘孔1つ開く。指表に銘「藤原統行」を刻す。統行は、高田派と総称される一群に属する豊後国の刀工である。なお、統行には天正頃の初代、慶長から寛永頃の二代がいるが、本品については体配並びに四字銘である点などから、二代作と考えられる。一般に豊後刀は他国物の特徴をよく取り入れていると言われるが、本品の場合も、備前一文字風を思わせる変化に富んだ乱刃を焼いており、その作風が多様であったことを具体的に示す作例である。また、磨上げを受けておらず健全な生茎である点も貴重である。		

54　名称	刀　銘奥和泉守忠重作	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	奥忠重	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	全長100.9cm　刃長78.3cm　反1.4cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒、身幅やや広く重は非常に厚い。表裏ともに両チリ丸留の腰樋を彫る。鍛は小板目で刃文は湾れに互の目がまじり、沸よく付く。帽子はやや不鮮明ながら掃掛け焼詰か。茎は生で、角棟、先入山形、鑢目は大筋違。目釘孔2つ開ける。銘は太刀銘で「奥和泉守忠重作」と刻す。忠重（主右衛門、?-1720）は、江戸時代中期に作刀を行った薩摩を代表する刀工。奥忠清の三男で、大坂に出て津田越前守助広（二代）に師事したと伝わる。身幅広く重ねの厚い豪刀が多く、その切れ味は高く評価されていた。元禄2年(1689)に和泉掾、その後和泉守を名乗った。様々な銘のなかで「奥和泉守忠重作」が最も多く、その作行を含めて本品は忠重の典型作と言いうる。		

55　名称	刀　銘肥前國住藤原行満	品　　質	鉄鍛造
	藤原行満	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	全長89.7cm　刃長69.6cm　反2.3cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。地鉄は約み、小沸出来、匂口しまる。刃文は焼き幅広く、丁子乱にところどころ逆足掛かり、打ちのけ、飛焼交じる。帽子は表裏ともに尖りごころに返る。茎は生で、角棟、先入山形、鑢目は鷹の羽。目釘孔1つ開く。銘は太刀銘で「肥前住藤原行満」と刻す。行満（忠大夫、?-1733）は、備前伝の丁子乱を得意とした二代行広門下とされる。いわゆる脇肥前と呼ばれる分家や脇筋の刀工達はともすれば一段低く評価されることがある。その一方で、彼らのなかには精美な直刃よりもむしろ一文字風の乱刃を得意とした者が多く、特に行広はその上手であった。行満も師の作風を十分に受け継いだとみられる。現存作品が極めて少ない行満の作風を知る上で貴重な作品である。		

56　名称	脇差　銘薩州住直行	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	直行	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	全長43.2cm　刃長32.2cm　反（なし）
作品概要	鋒近くで鎬が厚くなる鵜の首造の小脇差で、重極めて厚い。地鉄は板目で大きく沸つき、地にこぼれる。刃文は直に焼き出し、湾れて刃中に砂流しかかり、表裏とも物打ち下あたりで喰違刃を交える。帽子は掃掛け沸つく。茎は生のたなご腹で、角棟、先入山形。目釘孔1つ開く。指表の棟寄りに銘「薩州住平直行」を刻す。がっしりとした造り込み具合や、沸が荒く刃縁に沸が盛んにこぼれるさま、銘に「薩州住」とあることから、江戸時代後期以降における薩摩有縁の刀工とみて差し支えない。また、脇差には珍しい造りである鵜の首であるのに加え、あたかも村正系統にあるようなたなご腹の茎は同国にあって殆ど類例がなく、非常に特異な作である。これまで存在が殆ど知られていなかった薩摩刀工の作品である。		

57　名称	槍　銘薩州住元平	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	元平	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	全長41.3cm　穂長11.2cm
作品概要	穂に枝のない直槍。正三角造で、丸首をなし、各面の平に丸留の棒樋を彫る。鍛は小板目よく約み、地沸つく。刃文は直刃で浅く湾れ、帽子は直に先小丸に返る。茎は穂に比して長く、鑢目は表を切、裏をせんすきに仕上げる。先は浅い栗尻。目釘孔1つ開く。表に銘「薩州住元平」を刻す。元平（孝左衛門、1744-1826）は、江戸時代後期の薩摩を代表する刀工のひとり。天明5年(1785)に薩摩藩から「薩藩臣奥元平」と銘切することを認められ、更に寛政元年(1789)12月には伯耆守正幸と同時に大和守を受領した。以後はこの受領銘を刻したことから、本品の制作は受領以前の作と推定される。なお、子に同名（元平）がある。打刀に比して槍は現存作例が少ないこともあり、江戸時代における薩摩刀工の槍の作風を知るうえで貴重な作品である。		

＜陶磁＞（1件）

58　名称	加彩武人俑	品　　質	加彩土製
作 者 等	中国出土	員　　数	1軀
時　　代	中国・唐時代・8世紀	寸 法 等	幅24.5cm　奥行13.0cm　高75.5cm
作品概要	鎧兜で身を固めた武人が、岩座の上で仰向けに転がる牛頭の邪鬼を踏みつける。口を真一文字に引き結ぶ風貌は胡人のように彫りが深い。兜は頂部に鳳凰の飾りをもち、顔の両側にある飾りには赤・黒・緑などで唐草文が描かれる。鎧は腹部に宝相華を中心とする文様が彩色され、肩部には龍頭が飾られる。中国では西晋時代から唐時代にかけて、有力者の中・大型墓に甲冑を身に着けた加彩陶の武人俑を副葬することが流行した。墓中に侵入する悪霊を追い払い、墓主の安寧な眠りを保つために作られたものと考えられる。本作はやや誇張された憤怒の形相、寸胴ながら力感みなぎる姿態、さらに、派手な飾りの甲冑など、盛唐末期の8世紀中頃に流行した加彩武人俑の特徴をよく備える。		

＜染織＞（1件）

59　名称	白地小花文様更紗間着	品　　質	木綿平織、媒染模様染め（木版）
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	布地：ヨーロッパ・19世紀　仕立：日本・19世紀	寸 法 等	丈144.5cm　裄65.0cm
作品概要	木版更紗を用いた男性用間着。間着は防寒のほか、小袖や着物の下に着用し重ね着の美しさを演出するために用いられた。本品は西洋でインド更紗を模して作られたと考えらえる木版更紗を表地に使用したもので3種類の更紗が使用されている。西洋更紗は19世紀以降、インド更紗に代わってアジア各地で大いに受容されており、本品に使用されているものと同じ更紗は、九州国立博物館所蔵「端物切本帳」文政6年（I230-6）、文政11年（I230-9)にも確認でき、日本に舶載された時期がわかる。本品は、西洋からもたらされた新たな染織品が日本においてどのように受容されていったか、具体的に示すことが可能となる好例である。		

＜考古＞（25件）

60　名称	ビーズ	品　　質	ガラス鋳造他
作 者 等	中国、地中海地域、西アジア、インドネシア、アフリカほか	員　　数	126件
時　　代	紀元前4世紀～20世紀	寸 法 等	
作品概要	ガラス玉を主体とするビーズのコレクションで、その内訳は古代中国の重層貼眼玉、ローマのモザイク貼付玉、ビザンティン帝国のモザイク芯玉、ササン朝の折込モザイク玉、イスラムの折込モザイク玉、ヴェネツィアやオランダで作られたアフリカ交易用の玉、アフリカの再生玉、いわゆるアイヌ玉など、古今東西の代表的なガラス玉が網羅されている。ガラス玉は装身具・護符などとして普遍的に愛好されてきたが、その大半は生産地から遠隔地に運ばれ、金・銀・貴石・絹織物・香辛料など特産の物品や奴隷と交換する交易品でもあった。本コレクションはガラス玉の多様な色、形態、製作技法を示すだけでなく、ガラス玉を通しての人類の交流史・交易史や美に対する価値観の変遷とその多様性も照らし出すことが可能である。		

61　名称	須恵器平瓶	品　　質	須恵器
作 者 等	伝福岡県筑紫郡	員　　数	1口
時　　代	古墳時代・6-7世紀	寸 法 等	器高9.0cm　口径5.2cm　最大径10.5cm
作品概要	古墳時代後期の須恵器平瓶。色調は暗青灰色で、硬質に焼き上がっている。口縁部の一部に欠けがあるが完形品である。「風船技法」と呼ばれる瓶類の典型的な製作技法が用いられており、胴部を成形した後、成形時の開放部を円形粘土で塞いだ痕跡が残る。開放部を塞いだ後、新たに注ぎ口を付与するために、胴部斜め方向に孔をあけ、頸部を取り付ける。本品の場合、円形粘土と新たに付与した頸部が部分的に重複関係にある。底部から胴部下半にかけてカキ目、胴部中央は回転ヘラ削りで整えられる。胴部上半は注ぎ口取り付け位置を中心としたカキ目が施される。このカキ目は施文による器面調整とともに、新たに設置する注ぎ口取り付け場所の目印にもなっている。胴部中央には「＼」印のヘラ記号がある。		

62　名称	石器	品　　質	石製（主に頁岩）
作 者 等	伝岩手県花巻市東和町土沢出土	員　　数	200個
時　　代	縄文時代・10,000年前-2,300年前出土	寸 法 等	長2.9cm　幅1.7cm　厚0.3cmほか
作品概要	頁岩製の石鏃を中心とする剥片石器のコレクション。剥片石器の石材は、一般的に黒曜石等のガラス質のものが選択され、遺跡周辺の在地産石材だけでなく遠隔地産石材が用いられることもある。その組成は遺跡周辺の地質状況、交易圏、文化圏を知る手がかりとなる。東北地方では、地域内の奥羽山脈で産出する頁岩を用いて石器製作が行われることが多く、本品は当該地域の典型的な石材組成を示している。		

63　名称	石斧	品　　質	石製（緑色岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・10,000年前-2,300年前	寸 法 等	長22.8cm　幅6.5cm　厚3.0cm
作品概要	側面に大きな板石を擦切って分割作製した痕跡を残すことから、擦切石斧と呼ばれる。擦切石斧は、新石器時代の極東ロシアや縄文時代から続縄文時代の主に北海道から東北北部に分布し、縄文時代後期の九州にもみられることから、大陸との広域交流の可能性を示す石器と考えられている。石材は、北海道産の緑色岩と推定される。		

64　名称	石斧	品　　質	石製（緑色岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・6,000年前-3,000年前	寸 法 等	長25.2cm　幅6.8cm　厚3.8cm
作品概要	側面に大きな板石を擦切って分割作製した痕跡を残すことから、擦切石斧と呼ばれる。擦切石斧は、新石器時代の極東ロシアや縄文時代から続縄文時代の主に北海道から東北北部に分布し、縄文時代後期の九州にもみられることから、大陸との広域交流の可能性を示す石器と考えられている。石材は、北海道産の緑色岩と推定される。		

65　名称	三角柱状石製品	品　　質	石製（緑色凝灰岩）
作 者 等	青森県むつ市関根南関根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	縦5.6cm　横8.1cm　高5.4cm
作品概要	縄文時代中期から後期の東日本で出土する三角柱状の祭祀具。無文で、被熱により黒化した部分がある。縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

66　名称	大珠	品　　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県むつ市関根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	縦4.2cm　横2.9cm　厚2.0cm
作品概要	縄文時代中期、後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態の緑色石材製垂飾。特に本品は、中期の東日本を中心に出土する翡翠製のもので、やや小ぶりのものである。被熱により部分的に黒く変色した部分がみられ、大珠製作時における火の使用や、大珠に関わる火を用いた儀礼などを示す可能性がある。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

67 名称	大珠	品　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内タキヤ出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	縦4.4cm　横3.1cm　厚1.8cm
作品概要	縄文時代中期、後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態を基本とする緑色石材製垂飾。破片であるが、復元形状は球形で、緒締型に分類される。翡翠製で緒締型のものは、中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する。消費地において破片で出土する大珠は、大珠の破壊や分割に関わる儀礼によるものと言われることがある。翡翠は新潟県糸魚川産と推定される。		

68 名称	土偶	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	高4.4cm　幅3.2cm　厚1.0cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部で出土する土偶。十字形土偶と呼ばれ、板状で脚部を省略した形態を持つ。この時期の土偶は、前半期の頭部や四肢を省略するものから、後半期の頭部や四肢を明瞭に表現するものへの過渡的様相を示し、頭部や四肢の一部が省略されたものが多い。		

69 名称	浅鉢形土器	品　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1口
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	最大径30.0cm　高15.2cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部で出土する土器。沈線によるS字状の入組文様と、土器焼成前に文様部に施された赤彩が大変美しい。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

70 名称	烏帽子形石器	品　質	石製（安山岩）
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦5.6cm　横10.6cm　高7.0cm
作品概要	縄文時代中期から後期の東日本で出土する烏帽子形の祭祀具。無文で、頭部は丁寧に研磨されている、縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

71 名称	円形岩版	品　質	石製（安山岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦4.1cm　横3.2cm　厚2.7cm
作品概要	円形岩版は、縄文時代後期の東北で出土する祭祀具。一般的な円形岩版は扁平であるが、本品は球形である。全面に縦横方向の線刻が廻る。		

72 名称	円形岩版	品　質	石製（白色凝灰岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦4.2cm　横4.0cm　厚3.3cm
作品概要	円形岩版は、縄文時代後期の東北で流行する石製祭祀具。一般的な円形岩版は扁平であるが、本品は球形である。周縁に複数本の線刻が廻り、表裏面には鋸歯文が刻まれる。		

73 名称	三角柱状土製品	品　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦6.3cm　横8.4cm　高9.0cm
作品概要	縄文時代中期から後期の東日本で出土する三角柱状の祭祀具。2本沈線による縁取りと三本沈線による弧線文様が施されている。縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

74 名称	スタンプ形土製品	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷字青鹿長根出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦4.8cm　横2.0cm　高3.7cm
作品概要	縄文時代後期の東北で出土するスタンプ形をした土製品。その形態から、縄文クッキーと呼ばれるパン状に固めた保存食に印を付けるためのものと言われることがある。		

75 名称	壺形土器	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町蛯川出土	員　数	1口
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	最大径8.9cm　高13.6cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部で出土する土器。徳利形で、口縁部に２単位の波状口縁と胴部に沈線による入組文を持つ。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

76 名称	翡翠原石	品　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県むつ市関根川代出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-2,300年前	寸 法 等	縦4.3cm　横3.3cm　厚1.8cm
作品概要	縄文時代後期から晩期の垂飾品の原料となった翡翠原石。海岸出土とされており、表面には黄褐色の酸化鉄が沈着している。当該期の日本列島では、緑色石材製の丸玉を連ねた垂飾が流行し、各地で丸玉が生産された。本品は原石産地から遠く離れた地域での翡翠製丸玉の生産を物語るものである。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

77　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000-2,300年前	寸 法 等	縦2.1cm　横1.4cm　厚0.8cm
作品概要	縄文時代後期から晩期の翡翠製勾玉。D字形で、自然石に大きく手を加えることなく穿孔だけで製作されている。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

78　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠？）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000-2,300年前	寸 法 等	縦1.6cm　横1.1cm　厚0.5cm
作品概要	縄文時代後期から晩期の翡翠製勾玉の未完成品。D字形で、自然石に大きく手を加えることなく穿孔を行っている。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

79　名称	イモガイ形石製品	品　　質	石製（滑石）
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷字青鹿長根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	直径4.1cm　厚1.6cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部で出土する亀ヶ岡文化に特徴的な装飾品で、同形のイモガイ製装飾がモデルとなったと考えられている。イモガイは、南島のみに生息することから、その入手は九州を経由した可能性が指摘されている。亀ヶ岡文化の後半期は、九州では弥生時代が始まっている。亀ヶ岡文化は九州にも伝わり、亀ヶ岡式土器が搬入されたり、弥生土器の製作技術に大きな影響を与えており、東西交流は活発化していた。		

80　名称	岩版	品　　質	石製（白色凝灰岩）
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	縦11.0cm　横7.2cm　厚1.9cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部で出土する亀ヶ岡文化の石製祭祀具。細い線刻により周縁から軽快なタッチで重弧文が刻まれている。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。		

81　名称	石冠	品　　質	石製（安山岩）
作 者 等	（東日本出土）	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	縦7.9cm　横5.7cm　厚4.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東日本で出土する冠形の石製祭祀具。頭部は斧形で、底面に窪みを有する。縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

82　名称	独鈷状石器	品　　質	石製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町蛯川出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	縦4.7cm　横17.6cm　厚3.3cm
作品概要	縄文時代晩期に出土する鶴嘴の頭部状の祭祀具で、柄に取り付けて使用されたと考えられる。型式変化したものが弥生時代前半期の東日本でも出土する。		

83　名称	丸玉	品　　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	直径0.9cm　厚0.6cm
作品概要	縄文時代後期から晩期に出土する翡翠製の丸玉。翡翠は新潟県糸魚川産と推定され、特に本品は青緑色で大変美しい。翡翠製の玉類は主に東日本から出土するが、少数ながら沖縄でも出土しており、広域に流通していた。		

84　名称	台付浅鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	最大径15.7cm　高10.0cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部で出土する亀ヶ岡文化の土器。現状では1口の台付浅鉢形土器に見えるが、元は鉢部と台部で別々の台付浅鉢形土器であったものが、近代以前の修理で接合されている。欠損した陶磁器類は、様々な手法で修理がなされるが、本品のように欠失部分に別個体の破片を接合する技法は、呼継と呼ばれる。		

1-(1)-②-5　有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）

令和3年3月31日

	令和2年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,110,372	69	890,872	66	219,500	3	0	0
東京国立博物館	200,000	1	200,000	1	0	0	0	0
京都国立博物館	41,716	9	41,716	9	0	0	0	0
奈良国立博物館	284,500	10	175,000	8	109,500	2	0	0
九州国立博物館※	584,156	49	474,156	48	110,000	1	0	0

※九州国立博物館の購入分１件については、寄附金110,000千円と運営費交付金10,000千円の両方を財源としている。

1-(1)-②-6 寄託品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,495	197	1,201	2,651	54	262	6,547	88	618	1,988	53	309	1,309	2	12
絵画	3,766	56	420	396	12	62	2,317	29	249	558	15	106	495	0	3
書跡	1,678	69	276	394	10	36	876	42	200	365	16	37	43	1	3
彫刻	842	9	191	140	2	41	262	1	63	432	6	85	8	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	997	14	84	128	5	17	565	2	36	211	7	30	93	0	1
刀剣	260	8	57	227	8	48				16	0	9	17	0	0
陶磁	1,450	1	7	114	0	2	1,022	1	4	8	0	0	306	0	1
漆工	738	15	57	82	6	14	510	4	16	120	5	26	26	0	1
染織	675	7	37	68	2	4	531	3	30	49	2	3	27	0	0
考古	968	13	35	161	4	13	424	6	10	227	2	11	156	1	1
民族資料	114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0
歴史資料	68	0	12	2	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	162	2	14	162	2	14									
東洋 書跡	51	2	8	51	2	8									
東洋 彫刻	11	0	0	11	0	0									
東洋 金工	2	0	1	2	0	1									
東洋 陶磁	168	1	1	168	1	1									
東洋 漆工	28	0	1	28	0	1									
東洋 染織	9	0	0	9	0	0									
東洋 考古	487	0	0	487	0	0									
東洋 民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	元年度	2年度			元年度	2年度			元年度	2年度			元年度	2年度			元年度	2年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	12,385	188	78	12,495	2,591	69	9	2,651	6,520	43	16	6,547	1,974	26	12	1,988	1,300	50	41	1,309
絵画	3,749	31	13	3,767	395	4	3	396	2,301	21	5	2,317	556	4	1	559	497	2	4	495
書跡	1,657	35	15	1,677	366	29	1	394	877	1	2	876	359	5	0	364	55	0	12	43
彫刻	824	15	1	838	135	5	0	140	262	0	0	262	419	10	1	428	8	0	0	8
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	992	11	6	997	133	0	5	128	559	7	1	565	207	4	0	211	93	0	0	93
刀剣	258	3	1	260	227	0	0	227					16	0	0	16	15	3	1	17
陶磁	1,453	3	6	1,450	114	0	0	114	1,025	3	6	1,022	8	0	0	8	306	0	0	306
漆工	732	10	0	742	81	1	0	82	504	6	0	510	121	3	0	124	26	0	0	26
染織	674	1	0	675	68	0	0	68	530	1	0	531	49	0	0	49	27	0	0	27
考古	955	49	36	968	161	0	0	161	422	4	2	424	237	0	10	227	135	45	24	156
民族資料	114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	109
歴史資料	67	1	0	68	1	1	0	2	37	0	0	37	2	0	0	2	27	0	0	27
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	162	0	0	162	162	0	0	162												
東洋 書跡	24	27	0	51	24	27	0	51												
東洋 彫刻	11	0	0	11	11	0	0	11												
東洋 金工	2	0	0	2	2	0	0	2												
東洋 陶磁	166	2	0	168	166	2	0	168												
東洋 漆工	28	0	0	28	28	0	0	28												
東洋 染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
東洋 考古	487	0	0	487	487	0	0	487												
東洋 民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	13	0	0	13												

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	32	0	4	30	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	7	0	4	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画				1	0	0	0	0	0						
東洋 陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	14～28℃	29～77%
	収蔵庫	09：30～17：00	16～26℃	31～73%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	21～31℃	40～66%
	収蔵庫	09：30～17：00	22～30℃	48～72%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	21～31℃	39～58%
	収蔵庫	09：30～17：00	12～29℃	44～66%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	22～23℃	53～59%
	収蔵庫	24時間運転	23～24℃	52～55%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	17～24℃	38～74%
	収蔵庫	24時間運転	22～24℃	53～58%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	休止中		
	収蔵庫	2年12月より休止中		
平成知新館	展覧会場	8：40～17：20	19～25℃	50～60%
	収蔵庫	8：40～17：20	20～24℃	55～60%（金工収蔵庫のみ45～55%
北収蔵庫		9：00～17：30	19～25℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	50～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

令和3年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	101件	画像	5,633件	画像	3,017件	
和古書・漢籍	16,628件			文字	4,408件	（完了）
洋古書	3,478件					

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　令和3年3月31日現在

合計		706		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		446	22	238
絵画		95	1	85
書跡		12	2	11
彫刻		11	0	1
建築		1	0	0
金工		17	0	0
刀剣		15	0	2
陶磁		7	0	0
漆工		33	0	1
染織		18	1	0
考古		121	8	9
歴史資料		22	0	11
民族資料		0	0	0
和書		4	1	3
写真資料		0	0	86
東洋	絵画	26	1	3
	書跡	11	1	3
	彫刻	3	0	1
	金工	0	0	2
	陶磁	0	0	0
	漆工	2	1	0
	染織	0	0	0
	考古	1	5	0
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		43	1	0
その他（黒田含）		4	0	20

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	191	84	83
絵画	56	19	1
書跡	10	17	2
彫刻	5	2	0
建築	0	0	0
金工	14	6	0
刀剣		0	1
陶磁	24	0	0
漆工	17	5	1
染織	41	3	2
考古	15	30	9
民族資料	0	0	0
歴史資料	9	0	7
和書	0	0	0
写真資料	0	0	0
その他	0	2	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

令和3年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		83	44	12	7	20
絵　画		17	6	7	3	1
書　跡		6	4	0	0	2
彫　刻		1	0	0	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		2	1	1	0	0
刀　剣		0	0	0	0	0
陶　磁		0	0	0	0	0
漆　工		3	0	0	2	1
染　織		4	2	0	0	2
考　古		25	12	4	1	8
民族資料		0	0	0	0	0
歴史資料		6	0	0	0	6
和　書		1	1	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	3	3			
	書　跡	4	4			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	1	1			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	6	6			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		2	2			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		0	0			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-③-5 修理概況

【東京国立博物館】（計44件）

＜絵画＞（6件）

1 列品番号	A-1	品　質	絹本着色
名　称	普賢菩薩像（ふげんぼさつぞう）	員　数	1幅
時　代	平安時代	寸 法 等	縦159.1cm 横74.5cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂は、中廻し、一文字、風帯は修理して再使用、他の総縁、軸首は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱、帙を新調する。（2年度は5の途中まで）		

2 列品番号	A-1155	品　質	紙本墨画着色
名　称	扇面雑画（せんめんざつが）	員　数	60面のうち15面
時　代	江戸時代	寸 法 等	36.5×63.8cm
年代世紀	18～19世紀	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 本紙を取り外す。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。 4. 新規裏打ちを行う。 5. 中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。（元年度から4年度まで。各年度5面ずつ実施する。）		

3 列品番号	A-11090	品　質	紙本着色
名　称	月次風俗図屏風（つきなみふうぞくずびょうぶ）	員　数	8曲1隻
時　代	室町時代	寸 法 等	総寸 縦114.2cm 横301.0cm; 本紙　第1扇 41.8 × 61.4cm, 第2扇 42.2 × 61.0cm, 第3扇 40.3 × 61.1cm, 第4扇 42.0 × 61.3cm, 第5扇 42.1 × 61.9cm, 第6扇 40.3 × 61.8cm, 第7扇 39.9 × 61.5cm, 第8扇 40.1 × 61.7cm
年代世紀	16世紀	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行う。 5. 新調した骨木地に下張りを施し、いずれも新調した襲木、表装裂地、裏貼裂で屏風装に仕立てる。（2年度は4の途中まで）		

4 列品番号	A-12347	品　質	絹本着色
名　称	扇面散図（せんめんちらしず）	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	本紙 縦51.5cm 横71.4cm
年代世紀	嘉永2年(1849)	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調して、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。（2年度は3の途中まで）		

5 列品番号	A-12453	品　質	紙本着色
名　称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦92.3cm 横29.4cm
年代世紀	15世紀	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去する。 4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂（上下のみ新調）、軸首を修理して再使用し、掛幅装（三段表具）に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

6 列品番号	A-12454	品　質	紙本着色
名　称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦79.3cm 横27.3cm
年代世紀	大永3年(1523)	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去する。 4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を修理して再使用し、掛幅装（三段表具）に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱（墨書のある旧箱蓋板は新調箱底に納める）を新調する。		

＜東洋絵画＞(3件)

7 列品番号	A-40	品　質	絹本墨画淡彩
名　称	第二十三天聖尊者図軸（だいにじゅうさんてんせいそんじゃずじく）	員　数	1幅
時　代	高麗時代	寸 法 等	縦60.2cm 横41.6cm
年代世紀	高宗22年(1235)	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 表打ちをして養生をしたのち、旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首、端喰は再使用して、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、桐製保存箱、布貼覆帙を新調する。 （2年度は3の途中まで）		

8　列品番号	TA-355	品　　質	絹本墨画淡彩
名　　称	雛雀図（すうじゃくず）	員　　数	1幅
時　　代	南宋時代	寸 法 等	21.6×22.5cm
年代世紀	13世紀	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分には補彩を施す。 6. 表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、桐製二重箱、中性紙布貼帙を新調して収納する。		

9　列品番号	TA-694	品　　質	紙本墨画淡彩
名　　称	五馬図巻（ごばずかん）	員　　数	1巻
時　　代	北宋時代	寸 法 等	本紙 縦27.8cm 長さ256.5cm
年代世紀	11世紀	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、現状の補紙は検討の上処置する。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 題簽・見返し・隔水・巻き込み紙・天地表装紙は補修の上再使用、爪、軸首も再使用する。紐は新調し、表紙は復元新調して巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻芯・桐材印籠箱を新調する。旧箱・旧八双をまとめて中性紙保管箱に収納し、作品を収めた収納箱と並置する外箱を新調し、中性紙布貼帙にまとめて収納する。（2年度は4まで）		

＜書跡＞(4件)

10　列品番号	B-3171	品　　質	紙本墨書、掛幅装
名　　称	山城切（秋興）（やましろぎれ（しゅうきょう））	員　　数	1幅
時　　代	平安時代	寸 法 等	本紙:縦25.8×横28.0cm、全体:縦118.8×横42.4cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。 （2年度は2の途中まで）		

11　列品番号	B-3172	品　　質	紙本墨書、掛幅装
名　　称	山城切（春興）（やましろぎれ（しゅんきょう））	員　　数	1幅
時　　代	平安時代	寸 法 等	本紙:縦25.7×横30.0cm、全体:縦119.8×横45.6cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。 （2年度は2の途中まで）		

12　列品番号	B-3178	品　　質	紙本墨書
名　　称	医心方(いしんぽう)	員　　数	30巻、1冊
時　　代	平安時代～江戸時代	寸 法 等	
年代世紀	12～17世紀	施工会社	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙及び旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度から28年度にかけて12巻、1冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。）		

13　列品番号	B-3493	品　　質	彩箋墨書
名　　称	色紙華厳経断簡（泉福寺経）（しきしけごんきょうだんかん(せんぷくじきょう)）	員　　数	1枚
時　　代	平安時代	寸 法 等	本紙 縦24.0cm 横50.0cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱坂田墨珠堂
修理内容	1. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 2. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 4. 新規補紙部分に補彩を施す。 5. 台紙、表装裂、軸首を新調し、三段表具の掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻添え軸、包裂、桐製印籠箱を新調する。		

＜東洋書跡＞(4件)

14　列品番号	TB-1215	品　　質	紙本墨書
名　　称	草書尺牘巻（そうしょせきとくかん）	員　　数	1巻
時　　代	明時代	寸 法 等	本紙 縦19.0cm×横91.0cm
年代世紀	洪武元年(1368)	施工会社	株式会社　光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 墨、印章の剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙上下部に足し紙、欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 旧表装裂は再使用し、覆輪、軸木、八双、紐、爪は新調し、中国式の巻子装に仕立てる。 7. 保存箱は再使用し、タトウは布貼覆帙を新調する。 （2年度は3の途中まで）		

15　列品番号	TB-1458	品　　質	紙本墨書
名　　称	行書三帖巻（ぎょうしょさんじょうかん）	員　　数	1巻
時　　代	北宋時代	寸 法 等	(1)叔晦帖：縦24.5cm 横29.6cm (2)李太師帖：縦26.0cm 横34.5cm (3)張李明帖：縦25.8cm 横31.3cm
年代世紀	11～12世紀	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 見返し、紐、コハゼ、軸首は補修の上再使用し、新調した表紙にて巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調して収納する。（2年度は4まで）		

16　列品番号	TB-1701	品　　質	紙本墨書
名　　称	行草書五言古詩軸（ぎょうそうしょごごんこしじく）	員　　数	1幅
時　　代	元時代	寸 法 等	縦28.0cm　横83.2cm
年代世紀	14世紀	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂の中廻し、一文字、風帯、軸首は修理して再使用、上下は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱を新調する。		

17　列品番号	TB-1706	品　　質	紙本墨書
名　　称	楷書八言聯（かいしょはちごんれん ）	員　　数	2幅
時　　代	清時代	寸 法 等	各 縦188.0cm 横36.0cm
年代世紀	同治4年（1865）	施工会社	株式会社　光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分には補彩を施す。 6. 軸首裂は再使用するほか、表装裂は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻き添え軸、桐製保存箱を新調し、収納する。		

〈金工〉(1件)

18　列品番号	E-14365	品　　質	鉄製
名　　称	経筒(きょうづつ)	員　　数	5合
時　　代	鎌倉時代～室町時代	寸 法 等	① 蓋口径6.2cm 蓋高1.5cm 筒身径6.5cm 筒身高10.8cm ； ② 蓋口径6.2cm 蓋高0.4cm 筒身径6.5cm 筒身高10.5cm ； ③ 蓋口径6.2cm 蓋高0.4cm 筒身径6.4cm 筒身高11.0cm ； ④ 蓋口径5.3cm 蓋高2.5cm 筒身径6.5cm 筒身高11.2cm ； ⑤ 蓋口径6.2cm 蓋高0.3cm 筒身径6.5cm 筒身高11.3cm
年代世紀	14～16世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

〈東洋陶磁〉(1件)

19　列品番号	TG-2003	品　　質	陶製
名　　称	白釉黒地白花牡丹文枕（はくゆうくろじはくかぼたんもんまくら）	員　　数	1個
時　　代	北宋時代	寸 法 等	高19.3cm 長径29.5cm 短径27.0cm
年代世紀	12世紀	施工会社	東京藝術大学
修理内容	1. クリーニングする。 2. 解体する。 3. 接合する。 4. 破損箇所の強化を行う。 5. 除去した旧補填部の充填を行う。 6. 補填部の補彩を行う。 7. 保存箱を新調する。		

〈東洋漆工〉(1件)

20　列品番号	TH-388	品　　質	木製漆塗
名　　称	雲龍螺鈿机（うんりゅうらでんづくえ）	員　　数	1基
時　　代	朝鮮時代	寸 法 等	幅75.8cm 奥行34.3cm 高27.7cm
年代世紀	19世紀	施工会社	東京藝術大学
修理内容	1. 外れている破損部を、元の位置に接着する。欠失している部材を補う。 2. 剥離した漆塗膜を、可能な限り平滑となるよう漆等を含浸させて圧着する。 3. 亀裂開口部の空隙に漆下地等を充填し、強化する。 4. 全体を養生しクリーニングを行う。 （2年度は2まで）		

〈染織〉(2件)

21　列品番号	I-335	品　　質	絹製　錦、綾、羅、刺繍
名　　称	古幡(こばん)	員　　数	1旒
時　　代	奈良時代	寸 法 等	幡頭 幅41.3cm ； 幡身 幅27.8cm ； 総 丈246.5cm
年代世紀	天平勝宝9歳(757)	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館　澤田むつ代、三田覚之
修理内容	1. ガラス板を外す。 2. 紙の台を上から当てたうえで表裏を反転させる。 3. 幡頭・幡身・幡足に分離する。また幡足も各条に分離する。 4. 幡頭・幡身・幡足をそれぞれ加湿の上で成形。 5. 幡頭は内側に両面刺繍があるため、周囲を補強。劣化の激しい幡身・幡足には和紙で裏打ちを施す。 6. 幡の形状にそって和紙を裁断し、本来の形状に組み立てる。 7. 内部にクッション材を仕込み、幡の形状にそって窪みをつけた台に設置。 8. 上面からアクリル板を落とし込み、低加圧式ウィンドウマット装とする。(2年度は4まで)		

22　列品番号	I-721	品　　質	絹
名　　称	小袖 白綾地秋草模様	員　　数	1領
時　　代	江戸時代	寸 法 等	身丈147.2cm 裄65.1cm
年代世紀	18世紀	施工会社	㈱松鶴堂
修理内容	1. 解体する。 2. 補強、補修を行う。 3. 旧修理を除去する。 4. 表地に補修裂を綴じ付ける。 5. 裏地を新調する。 6. 仕立て　左右の袖を入れ替える。（現状変更） 7. 収納 （2年度は1の途中まで、3年度は3まで）		

〈東洋染織〉（1件）

23　列品番号	TI-421	品　　質	絹製、羅・繻絲
名　　称	九条袈裟　紫地唐草文様印金／草花文様繻絲（くじょうけさ むらさきじからくさもんようういんきん/くさばなもんようこくし）	員　　数	1肩
時　　代	元～明時代	寸 法 等	長231.5cm 幅：右端 101.5cm 中央89.8cm 左端92.0cm
年代世紀	14世紀	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 解体する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、新規裏打ちを行う。 4. 補修絹を加工し、欠損部に補絹を行う。 5. 裏地補強用の裂を染め、全面に留めつける 6. 芯地を新調し、本体裂を部位ごとに留め付け、表地を仕立てる。 7. 紐、紐座を補修し、元の位置に留め付ける。 8. 表地と裏地を合わせ、全体を仕立てる。 9. 中性紙製収納箱を作製し、袈裟を収める。		

〈考古〉（12件）

24　列品番号	J-1537	品　　質	土製
名　　称	甕形土器（かめがたどき）	員　　数	1個
時　　代	擦文時代	寸 法 等	器高14.5cm 口径12cm 底径5.5cm
年代世紀	7世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 強化する。 3. 欠失部分を補填し復元する。 4. 補填箇所に補彩する。		

25　列品番号	J-7822	品　　質	土製
名　　称	埴輪 馬(はにわ うま)	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高78.9cm 長77.2cm
年代世紀	6世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏部分を除去する。 2. クリーニングする。 3. 破断、亀裂箇所を重点的に強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 6. 取り外し可能な支持具付きの展示台を作製し、頭部にかかる重心を分散し安定した展示を可能にする。（2年度は1の途中まで、3年度は4まで）		

26　列品番号	J-8395	品　　質	土製
名　　称	注口土器（ちゅうこうどき）	員　　数	1個
時　　代	続縄文時代	寸 法 等	器高8.5cm 口径9.2cm 底径4.8～5.0cm
年代世紀	7世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し接合する。 4. 欠失部分を補填し復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

27　列品番号	J-8897	品　　質	鉄製、金銅製
名　　称	方頭大刀（ほうとうたち）	員　　数	1口
時　　代	奈良時代	寸 法 等	刀身（残存長） 45.5cm ； 刀身（残存幅） 3.5cm ； 柄（残存長） 12.5cm ； 柄（残存幅） 3.5cm
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理をする。 3. 樹脂含浸による補強をする。 4. 接合する。 5. 補強個所の補彩を施す。 6. 安定台（展示台）を作成する。		

28　列品番号	J-8898	品　　質	鉄製
名　　称	鉄板（てついた）	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦（残存） 31cm ； 横（残存） 16cm ； 厚（最大） 3cm
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理をする。 3. 樹脂含浸による補強をする。 4. 接合する。 5. 補強個所の補彩を施す。 6. 安定台（展示台）を作成する。		

29　列品番号	J-20254	品　　質	土製
名　　称	壺形土器（つぼがたどき）	員　　数	1個
時　　代	弥生時代(後期)	寸 法 等	高21.5cm 胴径12.6cm 底径7.4cm
年代世紀	1～3世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化・接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填個所に補彩する。		

30　列品番号	J-21576	品　　質	土製
名　　称	埴輪 帽子を被る男子（はにわ　ぼうしをかぶるだんし）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高72.8cm
年代世紀	6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体し、石膏部分を除去する。 2. クリーニングする。 3. 頭部と胴部の接合を中心に強化し、整形する。 4. 欠失部を補填し、復元する（ただし左腕と鞘尻の形状については類例がないため復元しない）。 6. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は1まで）		

31　列品番号	J-22780	品　　質	土製
名　　称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高30cm 口径20cm
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体し、石膏などを除去する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （2年度は2の途中まで）		

32　列品番号	J-23174	品　　質	土製
名　　称	壺形土器（つぼがたどき）	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高40cm 口径33cm
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体し、石膏などを除去する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （2年度は1まで）		

33　列品番号	J-23765	品　　質	土製
名　　称	甕形土器（かめがたどき）	員　　数	1個
時　　代	擦文時代	寸 法 等	器高14.3cm 底径6.7cm
年代世紀	8世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し接合する。 4. 欠失部分を補填し復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （2年度は2まで）		

34　列品番号	J-38859-16	品　　質	土製
名　　称	土師器 S字状口縁甕（はじき えすじじょうこうえんかめ）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高9.3～26.0cm 口径10.2～17.0cm
年代世紀	3～4世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏部分を除去する。 2. クリーニングする。ただし、表面の煤焦げは用途を証明する部位のため取り去らない。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。この際、制作時本来の形状である脚台も復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。ただし、脚台は後補であることが明瞭な仕上げにする。 （2年度は1の途中まで）		

35　列品番号	J-38899-1	品　　質	土製
名　　称	土師器 二重口縁壺（はじき にじゅうこうえんつぼ）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	口径21.5cm 現存高28.5cm 胴径28.0cm
年代世紀	3～4世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 接合する。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。		

〈東洋考古〉（6件）

36　列品番号	TJ-2976	品　　質	土製
名　　称	灰陶短頸壺（かいとうたんけいこ）	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高18.7cm　口径9.8cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は1まで）		

37　列品番号	TJ-2979	品　　質	土製
名　　称	灰陶窪（かいとうれん）	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	蓋：高18.5cm　径23.6cm／器身：高17.7cm　径19cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏を除去する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。（2年度は1の途中まで）		

38　列品番号	TJ-2981	品　　質	土製
名　　称	灰陶盒（かいとうごう）	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	蓋：高12cm　長21.8cm／器身：高17.5cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏を除去する。 2. クリーニングする（魚骨が遺存する土は除去しない）。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は1の途中まで）		

39　列品番号	TJ-3006	品　　質	土製
名　　称	灰陶蓋（かいとうがい）	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	径11cm 高6.1cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は2の途中まで）		

40　列品番号	TJ-4317	品　　質	鉄製鍛造
名　　称	鋏（はさみ）	員　　数	1個
時　　代	三国時代(新羅)	寸 法 等	推定復原長15cm、幅6cm（刃部：長7.5cm　環部：横6cm）
年代世紀	6世紀初頭	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 旧接合部を除去する。 2. クリーニングする。 3. 脱塩及び強化処理をする。 4. 接合、補填をする。 5. 補填箇所に補彩を施す。 6. 展示台を作成する。		

41　列品番号	TJ-5824	品　　質	土製
名　　称	灰陶竈（かいとうかまど）	員　　数	1基
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高12.5cm,長幅22.7cm,短幅12.7cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は2の途中まで）		

〈和書〉（1件）

42　列品番号	QB-30	品　　質	紙本墨摺
名　　称	大三川志（だいみかわし）	員　　数	109冊
時　　代	江戸時代	寸 法 等	縦26.4cm×横18.1cm
年代世紀	宝暦13年(1763)	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	リーフキャスティング（漉き嵌め）法による修理とする。 1. 修理前調査を行う。 2. 解体する。 3. リーフキャスティング前処置（本紙整形、虫糞等除去、脆弱部分を和紙と生麩糊で固定）をする。 4. リーフキャスティング（本紙に適した楮・三椏の混合液を原料として、作業後は十分な乾燥期間をおく） 5. 断裁作業（周囲を本紙保護に適した余白を残して裁断する） 6. 表紙を補修する。 7. 元の冊子装に製本する。（2年度は1まで、3～4年度は2～7を行なう）		

〈法隆寺献納宝物〉（2件）

43　列品番号	N-36	品　　質	絹製、平絹・絹綿
名　　称	御足印（ごそくいん）	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦42.0cm 横34.0cm
年代世紀	8世紀	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館　澤田むつ代、三田覚之
修理内容	1. 慎重に箱及び包裂から取り出し、劣化した絹を残すことなく集める。 2. 太子足跡とされる部位を視認できるようにするため、表面に散乱する平絹の断片をできるだけ本来の位置に戻し、部位が特定しづらい断片は作品内で美観を整えたかたちで置き直す。足跡とされる窪み及び変色を維持するため、水を使った裏打ちは施さない。 3. 平絹のクッションとなっている真綿の調子を整え、別途製作した中性紙箱に収める。 4. 表面からアクリル板を設置し、低加圧式ウィンドウ・マット装とする。		

44　列品番号	N-326	品　　質	竹ひご・絹糸製
名　　称	経帙残欠（きょうちつざんけつ）	員　　数	1巻
時　　代	飛鳥時代	寸 法 等	竹ひごの長さ29.0cm　竹ひごの直径0.6mm
年代世紀	7世紀	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館　三田覚之、佐藤萌
修理内容	1. 竹ひごを分離したうえでクリーニング。 2. フェルトなどの芯を入れた絹の支持体に並べなおし、両端を糸で固定。 3. 中性紙箱に収めたうえでアクリル板により蓋をし、ウィンドウマット装とする。		

【京都国立博物館】（計12件）

＜絵画＞（7件）

1 名　称	天保九如図・四季草花図屏風 （てんぽうきゅうじょず・しきそうかずびょうぶ）	員　数	6曲1双
作者時代等	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	160.4cm×363.6cm、172.0cm×375.6cm。
品　質	紙本着色／紙本金地着色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	① 損傷を調査し、記録する。 ② 危険個所の剥落止めを行う。 ③ 屏風装を解装し、下地から本紙を取り外す。 ④ 剥落止め及びクリーニングを行う。 ⑤ 彩色部分には有機系絵具が多用されていることから、水の使用は最小限に止める。 ⑥ 欠失部への補紙等、本紙の補修を行う。 ⑦ 「天保九如図」と「四季草花図」をそれぞれ独立した屏風装として仕上げる。 ⑧ 「天保九如図」は金具を再使用して取り付け、「四季草花図」は金具を新調する。 ⑨ 補彩ののち写真撮影を行う。		

2 名　称	阿弥陀八大菩薩図（あみだはちだいぼさつず）	員　数	1幅
作者時代等	朝鮮王朝時代（16世紀）	寸 法 等	縦148.2cm、横159.4cm。
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	① 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ② 解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。 ③ 本紙と表装裂地を取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。 ④ 本紙の汚れを除去する。 ⑤ 絵具層の剥落止を行う。 ⑥ 本紙の肌裏紙を除去する。 ⑦ 本紙の欠損部分には、本紙と組成の近い補修絹を入れる。 ⑧ 各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。 ⑨ 補修絹には補彩を施すが、違和感なく鑑賞できる処置とする。 ⑩ 掛幅装に仕立てる。表装裂地や軸首などは新調する。 ⑪ 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑫ 修理後の記録をとり、報告書を作成する。		

3 名　称	重要文化財　遠浦帰帆図（えんぽきはんず）	員　数	1幅
作者時代等	中国･南宋時代（13世紀）、伝牧谿	寸 法 等	縦32.5cm×横112.3cm
品　質	紙本墨画	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	① 修理前の本紙の状態を写真撮影し、調査を行う。 ② 掛軸装を解体し、肌裏紙を残して、旧裏打紙を除去する。 ③ 浄化水で本紙表面の汚れを除去する。 ④ 膠水溶液で墨及び印の朱の剥落止めを行う。 ⑤ 旧肌裏紙、旧補修紙を除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補修紙にて補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 ⑧ 本紙に美栖紙にて増裏打を行う。 ⑨ 折れ伏せを入れる。 ⑩ 表装裂地などはこれまでの伝来を示すものとして、できる限り再使用する。 ⑪ 本紙と表装裂地を掛軸装の形に付け廻す。 ⑫ 美栖紙にて中裏打を行う。 ⑬ 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りして充分に乾燥させる。 ⑭ 桐製太巻添軸、旧箱を合わせて収納する二重箱をそれぞれ新調し、包裂に包む。 ⑮ 2か年修理で、総工費629万2,588円（見積額）の予定。		

4 名　称	重要文化財　山水図（さんすいず）	員　数	1幅
作者時代等	室町時代（15世紀）、拙宗	寸 法 等	縦98.2cm　×　横33.2cm
品　質	紙本墨画淡彩	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	① 本紙の状態を調査、記録して損傷状況を精査する。 ② 掛軸装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 本紙表面に数次の剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 増裏を施した上、折伏せを入れる。 ⑨ 新たに選定した表装裂を、三段表具として付け回す。 ⑩ 中裏、総裏を施す。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した軸木、八双、金具類、掛緒、巻緒などを取り付ける。軸首のみは元のものを再使用する。 ⑬ 新調した包裂に包み、同じく新調した桐太巻及び屋郎箱に納める。軸木などをふくむ旧表装は旧箱におさめ、全体を中性紙の保存箱で保管する。 ⑭ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

5 名　称	重要文化財　琴棋書画図 山水図 （きんきしょがず さんすいず）	員　数	22面
作者時代等	室町時代（15～16世紀）、伝宗継	寸 法 等	(1)琴棋書画図 襖貼付 各縦169.3cm 横115.7cm（4面） 各縦169.3cm 横91.2cm（4面） (2)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横115.7cm（4面） (3)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横112.6cm（4面） (4)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横92.2cm（2面） (5)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横87.9cm（2面） (6)山水図 小襖貼付 各縦56.3cm 横88.1cm（2面）
品　質	紙本墨画淡彩	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	① 本紙の状態を記録・調査し、損傷状況を精査する。 ② 襖貼付装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 仮裏打を行ったのち、剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 美栖紙などを用い、さらに2層の裏打を施した上、折伏せ入れなども行う。 ⑨ 木製の組子下地を新調し、両面に6種8層の下張りを施して下地を作成する。 ⑩ 絵画4、5と合わせて作成した下地に本紙を貼り込む。表裏は修理前と同じ組み合わせとし、小襖2面のみは無地の鳥の子紙による白貼りとする。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙の地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した漆塗縁木を打ち、元の引手を使用して襖貼付装に仕立てる。 ⑬ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

6 名　称	重要文化財　芦雁図（ろがんず）	員　数	6面
作者時代等	室町時代（15世紀）、伝宗湛・宗継	寸 法 等	各縦169.3cm 横115.7cm（4面）、各縦169.3cm 横91.2cm（2面）
品　質	紙本墨画	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	① 本紙の状態を記録・調査し、損傷状況を精査する。 ② 襖貼付装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 仮裏打を行ったのち、剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 美栖紙などを用い、増裏・中裏を施す。 ⑨ 木製の組子下地を新調し、両面に6種8層の下張りを施して下地を作成する。 ⑩ 絵画3、5と合わせて作成した下地に本紙を貼り込む。表裏は修理前と同じ組み合わせとする。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙の地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した縁木を打ち、元の引手を使用して襖貼付装に仕立てる。 ⑬ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

7 名　称	四季花鳥図（しきかちょうず）	員　数	1式
作者時代等	江戸時代	寸 法 等	10面（大8面）　各縦169.5cm 横116.0cm
品　質	紙本金地著色	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	① 本紙の状態を記録・調査し、損傷状況を精査する。 ② 襖貼付装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 仮裏打を行ったのち、剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 美栖紙などを用い、増裏・中裏を施す。 ⑨ 木製の組子下地を新調し、両面に6種8層の下張りを施して下地を作成する。 ⑩ 絵画3、4と合わせて作成した下地に本紙を貼り込む。表裏は修理前と同じ組み合わせとする。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙の地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した縁木を打ち、元の引手を使用して襖貼付装に仕立てる。 ⑬ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

＜金工＞（1件）

1 名　称	短刀　銘勝家	員　数	1口
時　代	室町時代	寸 法 等	全長40.5cm　刃長28.5cm
品　質	鉄　鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	① 着手前及び修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)・写真(デジタル)撮影により記録する。 ②　③に先立ち、表面の付着物に注意して汚れ等を除去し、現状記録を追加する。 ③ 本体を安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ④ 作品保管のための白鞘を新調する。 ⑤ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

＜考古＞（4件）

1 名　称	西宮山古墳出土。 鉄剣残欠、金銅製飾金具残片	員　数	2ヶ
時　代	古墳時代	寸 法 等	現長58.6cm 身幅3.5cm。 長4.1cm。
品　質	鉄製・金銅・ガラス製	施工会社	公財）元興寺文化財研究所
修理内容	① 修理着手前に現状調査を行い、修理前、修理途中の写真(デジタル)撮影、及び現状を記録（寸法・損傷状態等）する。 ② 着手に先立ち、本体及び破片表面の付着物に注意して汚れ等を除去し、現状記録を追加する。 ③ 本体及び破片の旧修理補填材(泥･接着剤等)を除去する。 ④ 本体及び破片にアクリル系樹脂を樹脂含浸して強化する。 ⑤ 本体及び破片の接合関係調査を行い、仮接合して形状・変形等を確認する。 ⑥ 本体及び破片をアクリル系樹脂で接着する。 ⑦ 欠失部をエポキシ系樹脂等で補填・補強して復原する。 ⑧ 補填部に、周囲の色調に合わせた顔料を補彩して仕上げる。 ⑨ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

2 名　称	大阪府柏原市・藤井寺市 船橋遺跡出土品。 弥生土器 把手付埦、広口壺、無頸壺、蓋	員　数	4個
時　代	弥生時代・前2～前1世紀	寸 法 等	口径13.0cm、高6.7cm。胴径16.8cm、高21.8cm。胴径18.0cm、高13.0cm。直径12.6cm、高3.9cm。
品　質	土質	施工会社	㈱京都科学
修理内容	① 着手前及び修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)・写真(デジタル)撮影により記録する。 ② ③に先立ち、表面の付着物に注意して除塵し、現状記録を追加する。 ③ 本体を石膏・泥・汚れなどを安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ④ 欠失部は断面をアクリル系樹脂で保護した上で、エポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。 ⑤ 補填・復原部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。 ⑥ なお、体部孔は③クリーニング後、状態検討の上、意図的な穿孔であれば④～⑥は施工しない。 ⑦ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

3 名　称	兵庫県宝塚市 長尾山丘陵古墳群出土品。 須恵器 短頸壺、提瓶、高杯、杯蓋、杯身、蓋	員　数	6個
時　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	口径6.0cm、高6.7cm。最大径13.5cm、高16.2cm、胴部厚9.0cm。口径11.2cm、高11.4cm。最大径15.2cm、高3.8cm。直径14.5cm、口径12.5cm、高4.3cm。直径14.5cm、高4.6cm、つまみ部径3.3cm。
品　質	陶質	施工会社	㈱京都科学
修理内容	① 着手前及び修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)・写真(デジタル)撮影により記録する。 ② ③に先立ち、表面の付着物に注意して除塵し、現状記録を追加する。 ③ 本体を石膏・泥・汚れなどを安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ④ 欠失部は断面をアクリル系樹脂で保護した上で、エポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。 ⑤ 補填・復原部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。 ⑥ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

4 名　称	兵庫県たつの市日山に所在した西宮山古墳出土品。 須恵器 杯蓋、杯身、杯身	員　数	3個
時　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	直径15.2cm、高5.4cm。直径15.2cm、口径12.3cm、高3.6cm。直径15.5cm、口径13.0cm、高4.2cm。
品　質	陶質	施工会社	(株)東都文化財保存研究所
修理内容	①　着手前及び修理途中に、現状調査（寸法・損傷状態等）を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。 ②　③に先立ち、表面の付着物に注意して除塵し、現状記録を追加する。 ③　本体及び破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。 ④　本体及び破片の石膏・泥・汚れなどを安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ⑤　本体及び破片の接合関係を調査し、仮接合する。 ⑥　本体及び破片をアクリル系樹脂を用いて、接着する。 ⑦　欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。 ⑧　補填部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。 ⑨　修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

【奈良国立博物館】（計7件）

＜絵画＞（3件）

1 名　称	絹本著色聖徳太子絵伝（けんぽんちゃくしょくしょうとくたいしえでん）	員　数	2幅
時　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	(第1幅)縦157.8cm　横86.5cm　(第2幅)縦157.2cm　横86.7cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剝落止めを行う。旧補絹を全て除去した後、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために裏面から薄楮紙のごく細い帯を貼り付けて補強する折れ伏せを施し、本紙料絹の色調に合わせて新調した裏打紙（肌裏紙・中裏紙・増裏紙・総裏紙）をあてる。表装裂は全て新調して二段仏表具に仕立てる。上下軸・啄木・桐製太巻添軸も新調。桐製印籠箱を新調し、旧箱蓋と旧上巻絹の墨書を本紙とともに収納。（継続3か年事業のうち第2年目）		

2 名　称	絹本著色春日宮曼荼羅（けんぽんちゃくしょくかすがみやまんだら）	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	縦141.5cm　横41.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の強い横折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。まず濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剝落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した美濃紙による肌裏打ち、美栖紙による中裏打ち、宇陀紙による総裏打ちを施し、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・上下軸木・啄木は新調し、軸首は再利用。桐太巻添軸・包裂・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調。修理記録を整理し、報告書を作成する。		

3 名　称	絹本著色十二天像（けんぽんちゃくじゅうにてんぞう）	員　数	12幅
時　代	鎌倉時代　13～14世紀	寸 法 等	各縦199.7cm　横57.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の強い横折れ、裏打紙の劣化等の構造的な不具合を改善するため、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。まず濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去には乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剝落止めの処置を行う。旧補絹・旧補紙は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した美濃紙による肌裏打ち、美栖紙による増裏打ち・中裏打ち、宇陀紙による総裏打ちを施し、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・軸首は再使用、上下軸木・啄木等を新調して軸装に仕立てる。桐太巻添軸・包裂・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調。修理記録を整理、報告書を作成する。		

＜彫刻＞（1件）

4 名　称	木造二十八部衆立像のうち迦楼羅王・五部浄居天（もくぞうにじゅうはちぶしゅうりゅうぞうのうちかるらおう・ごぶじょういてん）	員　数	2軀
時　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	像高　迦楼羅王53.5　五部浄居天55.5cm
品　質	木造	施工会社	（公財）美術院
修理内容	本格修理。［2軀共通］付着する埃は筆等で除去する。頭部や体側の矧目にみられる隙間や目違いは、必要に応じて解体し再接着を行う。解体が不要であれば、ヒノキ材等で隙間を埋め、形状を整える。過去の修理による変色等の見苦しい箇所は、古色や木屎漆をできるかぎり除去する。欠失箇所は、損傷進行の恐れがある場合は樹脂等で木質を強化、あるいはヒノキ材等で補足し安定を図る。損傷進行のおそれがない場合は、現状のままとする。足枘が緩く不安定な状態は、足枘または台座の足枘穴にヒノキ材の薄板等を補足して安定を図る。別保存される部材は調査を行い、制作当初のものがあれば位置を検討して取り付ける。 ［迦楼羅王］ 亡失する両手先、天衣垂下部、持物は補足しない。左右翼は一旦取り外し、過去の修理箇所を除去あるいは補修し、再接合する。右足下の後補の襠材は除去し、形状の適合する襠材を補足する。 ［五部浄居天］ 亡失する右手首先、天衣垂下部左方分、持物は補足しない。天衣垂下部右方分は、取り付け位置及び形状を検討し、形状が不適合であれば取り外して別保存とする。使用可能で、取り付け位置の変更が必要であれば、一旦取り外して適切な位置に付ける。象の鼻先及び左耳後方部は、後補材を除去し、ヒノキ材で新補する。左足先は、一旦取り外して、はみ出した接着剤を除去後、目違いを修整して再接合する。背面臀部左に貼り付けられた紙の符丁は取り外し、別保存とする。内側に落ち込んだ右目の玉眼は、可能であれば頭部を解体して位置を修整する。頭部の解体ができない場合は、できるかぎり玉眼が彫刻面に沿うよう補修する。		

＜漆工＞（2件）

5 名　称	金銅装山伏笈（こんどうそうやまぶしおい）	員　数	1背
時　代	室町時代（15～16世紀）	寸 法 等	笈：幅55.3cm 奥行27.5cm 高76.3cm　五仏：像高10.7～11.2cm
品　質	笈：木製 漆塗 金銅装　五仏：木造 漆箔 玉眼	施工会社	北村工房
修理内容	①笈本体は全体にクリーニングを行い、上段の扉は外して、割損部に刻苧漆を充塡して補強する。欠失した端喰の復元は行わない。木地接合部に生じた亀裂は、破損の進行が危惧される箇所に刻苧漆を充塡して補強する。虫蝕部は、状況に応じてアクリル系樹脂や刻苧漆を充塡して補強する。帖木の欠損部は補わず、刻苧漆等で形状を整える。脚部の木地損傷部分は、刻苧漆で形状を整える。金具の歪みやめくれは修整する。欠失した棚板は、ヒノキ材で補作し、色調を合わせて仕上げる。なお、刻苧漆による処置を行った箇所は、表面を研磨するなどして周囲と調和するように仕上げる。鋲や釘の欠失は、損傷移行に至らない場合は現状のままとし、補足は必要最小限とする。②扉絵は、ドライクリーニング、剝落止めを行った上で、全面に養生貼りした後に、加湿して扉板より外す。取り外した扉絵は、濾過水を使用したクリーニング、欠失箇所の補塡と裏打ちを行い、扉板に細かく浮け張りを施した後に、貼り戻す。基本的に料紙の皺は伸ばさず、現状を維持する。また補彩も行わない。③五仏は埃を除去した上で、樹脂等を用いて漆箔の剝落止めを行う。金具類は折れ・歪みを修整する。なお、欠失部の補塡は行わない。また胸部の釘痕は現状のままとし、胸飾の補足も行わないものとする。動揺する光背はいったん取り外し、取り付け部の調整を行った上で復位する。台座や指先、髻などの欠失部は、必要に応じて樹脂等で補強・修整するが、基本的に補足は行わず現状のままとする。台座蓮弁の割損箇所は、樹脂等で接着するが、欠失の補足は行わない。光背の接着痕は有機溶剤等で除去する。なお、別保存する光背の残欠は形状不適合のため復位しない。補修箇所には全て古色を施す。下水板付の保存箱を作製し、五仏を収める。なお、①～③のいずれの工程においても、事前に十分な調査を行い、事後には修理前・中・後を記録した報告書を作成する。（2か年事業のうち第2年目）		

6 名　称	藤松蒔絵軸箱（ふじまつまきえじくばこ）	員　数	1合
時　代	室町時代　15世紀	寸 法 等	縦64.1cm　横16.4cm　高14.2cm
品　質	木製　黒漆塗　金銀蒔絵　銀切箔　金銅金具	施工会社	北村工房
修理内容	①修理前の写真撮影と事前調査を行い、修理計画を確認する。②漆塗膜の欠失部周辺など二次的な破損の危険性のある箇所に雁皮紙と澱粉糊を用いて養生貼りを行う。③漆塗膜に負担のかからない範囲でクリーニングを行う。④亀裂の生じている箇所には希釈した麦漆を注入して内部を強化した上で、隙間に刻苧漆を充塡して補強する。⑤虫損部は木地を漆で強化した後、刻苧漆や漆下地を充塡して形状を補う。⑥全面に漆固めを行い、漆塗膜の強化を図る。⑦漆塗膜の剝離部分は、可能な限り平滑となるよう麦漆などで接着する。⑧小型の破損部は漆下地などで形状を整える。⑨新たに漆下地を施した部分の表面を研磨して整形した後、周囲と調和するよう仕上げる。⑩欠失する金具の釘は、新調した真鍮釘を補う。緩んだ釘は所定の位置で打ち直す。⑪破損した収納箱の蓋を接合し、補強する。⑫木製の保存箱を新調する。⑬修理後の写真撮影を行い、報告書を作成する。		

＜考古＞（1件）

7 名　称	金銅製龍文鋲帯金具・金銅製三葉文鋲帯金具（五條猫塚古墳出土） （こんどうせいりゅうもんかたいかなぐ・こんどうせいさんようもんかたいかなぐ ごじょうねこづかこふんしゅつど）	員　数	11片
時　代	古墳時代　5世紀	寸 法 等	金銅製龍文鋲帯金具：縦4.4×横6.3cm 金銅製三葉文鋲金具：縦3.9×横3.0cm
品　質	銅板製　鍍金	施工会社	(公財)元興寺文化財研究所
修理内容	①処理前の状態を写真撮影、肉眼・顕微鏡観察及び蛍光Ｘ線等の分析により銅板の品質把握と付着物の調査を行う。②銅錆や鉄錆、土、旧接着剤等のクリーニング。③樹脂含浸・塗布による強化処理、防錆処理を行う。④破断部分の強化処理。可能な部分は復元も試みる。⑤処理中に使用した薬剤名や写真記録、作業工程、費やした時間等の修理に関する情報を整理し、修理報告書を作成・納品する。		

【九州国立博物館】（計20件）

＜絵画＞（1件）

1 名　称	釈迦三尊図（しゃかさんぞんず）	員　数	3幅
時　代	中国　元時代　13-14世紀	寸 法 等	本紙：各 縦135.5cm　横77.2cm　表装：各 縦233.0cm　横99.1cm　軸長107.4cm
品　質	絹本著色　掛軸装	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、彩色の調査、料絹の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように、掛軸装を解体し、少量の湿り（湿式）にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。その際、表装裂（中縁）や軸首は再使用するため慎重に解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。クリーニングによって微かな彩色の表現がより良く見えるようになることと、以降の作業において抱えている汚れによるシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。3.強化・整形　工程毎に絵具層の膠著色のテストを行い、必要箇所に古典膠（東京文化財研究所　宇高健太郎氏作製）水溶液0.5～3%を用い剥落止めを行う。剥落止めは都度効果を確認し、必要に応じ繰り返し行う。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。 4.補填 裏彩色が露出している箇所に、本紙と同組織の電子線劣化絹を選定し、本紙料絹の地色の色合いや周辺の色味を考慮した下染めを施した絹を用いて、画面表面より補絹を行う。5.解体 肌裏除去に際し、本紙表面に対して常温で抽出した布海苔水溶液にて3層の養生を施して本紙料絹を固定する。その後、裏面より作業箇所にのみ水分を与え最小限の湿りにて除去を行う乾式肌上法での肌裏除去を丁寧かつ慎重に行う。肌裏除去後、協議にて除去することとした旧補絹を除去する。 6.補填 本紙欠失箇所と本紙の周囲に、本紙と同組織の電子線劣化絹を選定し本紙料絹の色合いを考慮した下染めを施した絹を用いて、裏面より補絹を行う。7.強化・整形 本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、さらに増裏紙においても本紙の色調を整えるため、天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。折れ伏せ後、もう一層増裏打ちを行う。8.接合・組立 再使用の表装裂地は補修を施し、新調裂地とともに薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。9.強化・整形 本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹を用い、2段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。10.補彩 本紙料絹の有する地色を基本として行い、それに加え現在の経年変化した料絹の状態を加味した色合いにも考慮し補彩を施す。最終的な調整としては欠失部周辺の状態にも応じ、鑑賞を行う上で支障のないように微調整を行う。11.接合・組立 座鎖、彫りを施した金鍍金金軸、八双、軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。12.収納 今後の新たな折れ・絵具層や画絹の損傷の進行を防ぐ為に、桐製太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、3幅入桐製印籠箱を新調し納める。（2年度より2か年継続事業）。		

＜書跡＞（2件）

2 名　称	重要文化財　鷹尾神社大宮司家文書 （たかおじんじゃだいぐうじけもんじょ）	員　数	93点（重要文化財341通のうち。このうち（91）～(94)の4点は令和元年に追加指定）
時　代	鎌倉～室町時代　13-16世紀	寸 法 等	(1)縦27.5cm横35.5cm　(2)縦25.6cm横33.5cm　(3)縦21.5横24.0cm　(4)縦26.1cm横39.0cm　(5)縦23.5cm横32.7cm　(6)縦30.3cm横34.2cm　(7)縦29.7cm横36.9cm　(8)縦32.2cm横57.8cm　(9)縦30.0cm横171.0cm　(10)縦32.2cm横48.3cm　(11)縦28.5cm横43.1cm　(12)縦28.1cm横71.5cm　(13)縦31.2cm横94.4cm　(14)縦33.2cm横52.6cm　(15)縦28.0cm横39.5cm(16)縦30.7cm横90.6cm　(17)縦27.2cm横72.2cm　(18)縦24.0cm横60.3cm　(19)縦24.5cm横26.7cm　(20)縦28.5cm横33.2cm　(21)縦28.0cm横38.2cm　(22)縦30.5cm横44.9cm　(23)縦27.9cm横45.7cm　(24)縦26.8cm横72.5cm　(25)縦27.6cm横41.2cm　※縦31.7cm横104.4cm(19号に続く)　(26)縦32.1cm横102.3cm　(27)縦30.5cm横43.3cm　(28)縦25.9cm横142.0cm　(29)縦26.8cm横35.2cm　(30)縦27.2cm横110.3cm　(31)縦29.9cm横41.9cm　(32)縦29.6cm横37.1cm　(33)縦31.7cm横51.3cm　(34)縦29.5cm横40.8cm　(35)縦26.2cm横69.4cm　(36)縦21.0cm横31.0cm　(37)縦25.8cm横32.1cm　(38)縦28.8cm横44.5cm　(39)縦30.3cm横189.4cm　(40)縦32.6cm横155.4cm　(41)縦30.5cm横232.8cm　(42)縦26.9cm横35.0cm　(43)縦28.4cm横46.1cm　(44)縦28.2cm横32.3cm　(45)縦31.8cm横117.2cm　(46)縦31.8cm横117.2cm　(47)縦27.5cm横30.0cm(48)縦30.0cm横36.8cm　(49)縦27.2cm横36.6cm　(50)縦28.5cm横38.5cm　(51)縦28.5cm横40.0cm　(52)縦26.5cm横43.8cm　(53)縦29.8cm横44.1cm　(54)縦29.8cm横43.3cm　(55)縦30.2cm横111.7cm　(56)縦46.9cm横43.0cm　(57)縦28.2cm横31.9cm　(58)縦27.4cm横36.8cm　(59)縦31.9cm横44.8cm　(60)縦29.3cm横37.9cm　(61)縦28.0cm横46.5cm　(62)縦32.5cm横38.8cm　(63)縦25.5cm横30.0cm　(64)縦23.4cm横46.3cm　(65)縦26.8cm横29.1cm　(66)縦27.5cm横34.0cm　(67)縦29.0cm横38.0cm　(68)縦29.2cm横26.8cm　(69)縦15.0cm横39.5cm　(70)縦25.6cm横34.1cm　(71)縦26.6cm横76.7cm　(72)縦26.2cm横39.4cm　(73)縦25.1cm横39.9cm　(74)縦22.4cm横43.9cm　(75)縦23.4cm横43.9cm　(76)縦28.6cm横109.2cm　(77)縦19.2cm横39.4cm　(78)縦24.0cm横37.2cm　(79)縦38.5cm横55.8cm　(80)縦27.7cm横123.1cm　(81)縦31.0cm横80.5cm　(82)縦27.0cm横37.2cm　(83)縦29.7cm横250.6cm　(84)縦27.9cm横227.9cm　(85)縦23.6cm横108.3cm　(86)縦21.4cm横120.6cm　(87)縦20.5cm横74.6cm　(88)縦29.2cm横982.6cm　(89)縦29.8cm横979.0cm　(90)縦24.6cm横19.1cm　(91)縦26.6cm横16.5cm　(92)縦27.0cm横76.0cm　(93)縦27.0cm横19.0cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行う。額装のものについては装丁を解体する。2.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行い、本紙に堆積した埃や塵を除去する。3.強化・整形（剥落止め）　墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて膠水溶液を用いて剥落止めを行う。効果を確認し、必要に応じて都度繰り返し行う 。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないようにする等細心の注意を払い行う。4.強化・整形（フラットニング）　折れや破損によって収縮した本紙を伸ばし、繊維の毛羽立ちを押さえて、あばれや皺を改善することで本紙を安全に扱えるようにするために、ゴアテックスを用いて軽い湿りを加えて軽い圧をかけ、平らに整える。5.解体　必要最小限の湿りを与え、裏打紙や旧補修・補強紙等を除去する。除去に際しては所有者や関係各所と協議の上で行う。6.補填　各本紙の紙質・状態に合わせて手漉きにて補修紙を作製し、欠失箇所 に手縫いにて補修を施す。竪帳については、漉き嵌めによる補修を、紙数が多い続紙についてはDIIPS法（象嵌式）による補修を施す。7.強化・整形　強度的に裏打ちが必要なものについては、所有者や関係各所との協議を行った上で裏打ちを行う。8.接合・組立　続紙については、所有者や関係各所との協議を行った上で、糊離れが生じていた紙継ぎ箇所を 新糊を用いて適正な位置に継ぎ直す。冊子については、新調した紙縒りを用い、元の形態に綴じ直す。9.収納等　竪紙（額装を解体した一紙を含む）、折紙、続紙、竪帳については、本紙を楮紙にて包み、新調した桐樫貪箱に収納し、油単を新調する。 2年度は6～9を施工。元年に追加指定された4点のうち竪帳3冊は以下の作業を行った。 1.修理前の写真撮影を行い、本紙の状態を調査記録する。2.綴じを外し、一紙の状態に解装する。3.必要に応じ、膠水溶液を用いて、墨の剥落止めを行う。4.漉き嵌めによる補修方法にて、欠失箇所に補修を施す。5.補修後、元の冊子装に仕立てる。6.本紙を楮紙で包み、竪紙等と同じ桐保存箱に納入する。7.修理後の写真撮影を行い、報告書を作成する（30年度より3ヵ年継続事業）		
所蔵者	個人蔵		

3 名　称	東大寺関係文書（とうだいじかんけいもんじょ）	員　数	1基
時　代	平安時代-安土桃山時代・11世紀-16世紀	寸 法 等	No.1：縦25.9cm　横22.7cm No.2：縦28.5cm　横42.7cm No.3：縦29.2cm　横42.0cm No.4：縦30.5cm　横40.0cm No.5：縦32.6cm　横54.0cm No.6：縦29.7cm　横45.6cm No.7：縦33.2cm　横50.4cm No.8：縦28.3cm　横43.1cm No.9：縦30.2cm　横33.6cm No.10：縦32.0cm　横48.5cm No.11：縦32.8cm　横44.8cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙を観察し、寸法・損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙の繊維組成試験を含め、厚み・重量・密度・簀目・糸目・地合い等といった料紙情報について調査・記録を行う。2.洗浄（ドライクリーニング） 柔らかい刷毛や筆を使い、本紙表面に堆積した塵埃を除去する。3.強化・整形（剥落止め） 目視調査の限り、墨・朱の剥落止めは不要である可能性が高いが、修理前調査にて裏打紙除去等にあたっての水の使用に耐えうる膠着力を保持していないことが判明した場合は、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。その場合、膠水溶液の塗布量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないよう細心の注意を払って行う。4.解体及び洗浄（クリーニング） 裏面より濾過水（ポリプロピレン及び活性炭フィルターを通し水道水中の細かなゴミや塩素・ 鉄分を取り除いた水）を用いて湿りを与え、旧裏打紙を除去する。また、この際同時にクリーニングを行う。5.補填 各本紙の紙質に合わせて手漉きにて補修紙を準備・作製し、本紙欠失箇所に裏面より新糊を用いて手繕いにて補修を施す。6.強化・整形（フラットニング） 必要最小限の湿りにて本紙料紙の形状を整えた後、プレス乾燥させることにより全体の形状を整える。7.接合・組立 紙継ぎがある本紙（No.2）については、新糊を用いて継ぎ直す。8. 収納等 新調した中性紙ボードに修理後の本紙を一通ずつ収納してマット装とし、十一通をまとめて新調した中性紙箱に納入する。9.修理報告書 修理前・修理途中・修理後の画像、損傷状況、処置内容、使用材料、新知見等を掲載する。		

＜漆工＞（1件）

4 名　称	花鳥螺鈿箪笥（かちょうらでんたんす）	員　数	1基
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高142.3cm×縦42.0cm×横63.1cm
品　質	木製漆塗	施工会社	（同）大西漆芸修復スタジオ
修理内容	1.解体 箪笥の扉が開閉の際に下部で擦れている、蝶番の金具を取り外す。2.洗浄 クリーニング作業では、漆塗膜に傷が入らないように柔らかい毛棒で塵や汚れを払い落とす。漆塗膜に付着しているカビ汚れは、柔らかい木綿布や綿棒に極小量の水分を与えたもので少しずつ拭き取りながら除去作業を行う。必要に応じ弱いアルコールを使用した除去も行うが、高濃度での使用は行わない事とする。カビ汚れの下には、漆塗膜上に時代を感じさせる経年の汚れが残されていることから、必要以上にクリーニング作業は行わない事とする。過去の補修で塗られた黒色塗料は、溶剤を使用しながら柔らかい木綿布や綿棒で拭き取り、可能な限り除去を行う。ただし、螺鈿下に入り込んだ黒色塗料は除去が不可能なため現状のままとする。3.接合 木地構造の安定処置では、亀裂箇所に充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈をして含浸し、構造の安定処置を行う。剥離塗膜の接着では、塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈をして含浸し、圧着固定を行い塗膜の安定処置を行う。螺鈿の剥離箇所には、10%濃度の膠水を用いて剥離下に含浸し、圧着固定を行い螺鈿の安定処置を行う。4.強化・整形 箪笥を受ける甲板の隅金具が当たり木地が露出している箇所に生漆を含浸し強化する。5.補填 亀裂部と欠損部に刻苧の充填を行い形態の復元を行う。刻苧箇所に錆漆下地を付けて表面肌を整え、欠損部と周辺漆塗膜との段差を緩和させる。また、触手による再剥落を防止するため、塗膜際に極小量の錆漆下地を付ける。6.補彩 補填部分に漆固めを実施し、作品に合わせ色と質感を整える。7.組立 取り外していた扉は、開閉時に下部が擦れない位置で取り付けて仕上げる。その際、マイナスネジ頭の鋲は再利用をするか、オリジナルの釘に合わせて親補するか担当者と改めて協議をする必要がある。そのため、事前調査としてX線CT調査結果や解体時の状況、再利用が可能な耐久性であるのか検討した上で、担当者と相談して決定をする。8. 台脚上面には、箪笥設置時の損傷を回避するため養生板の新調を行う。扉の開閉時に、抽出の金具と扉裏が当たらないように薄紙や布を抽出上段から垂らして打損が生じないようにする。8.修理報告書 修理前・修理途中・修理後の画像、損傷状況、処置内容、使用材料、新知見等を掲載する。2年度は2～3を施工し、7のX線CT調査を行った。（31年度より2か年継続事業）		

＜染織＞（2件）

5 名　称	装飾布　幾何形結び文様更紗(ウンヤ手) （そうしょくふ　きかがたむすびもんようさらさ(うんやで)）	員　数	1枚
時　代	18世紀	寸 法 等	幅　226cm 長さ　322.5cm
品　質	木綿	施工会社	株式会社　松鶴堂
修理内容	1.解体糸での補修箇所の取り外しの際は生地や針穴の状態をよく観察し、縫い糸は短 く切りながら行う。欠失端口は本体の動きで崩れる可能性もあるため、必要な場合は薄葉紙などを一時的にあてて、糸で仮留めなどをして保護を行う。外した現補修糸は、紙包みかポリエチレン製袋に入れ別途保存し、作品と共に返　却する。現補修裂は、補修糸で縫い付けられているものは上記方法で糸を抜くことで取り外す。接着で留められている箇所は、接着剤の現状を見ながら、乾めくりと湿　り気の利用など方法を用いて取り外す。ピンセットを使用して接着の層を細かく砕きながら、補修裂の損傷と生地の伸びがおきないように留意して取り外す。2.洗浄ピンセットや柔らかい筆などを用いる。この表面清掃においても摩擦による本　体生地への影響も考えられるため、マイクロスコープなどによる生地表面の観察を行い、程度・方法を十分に検討する。工程を進めた上で生地の保存に対して、影響のある汚れの発見があった場合は、博物館に報告し、方針や方法を再度検討する。3.強化・整形（生地の折れ癖の緩和） 皺周囲の生地の織り目を整えつつ、少量の水を含ませた紙（蛍光染料不使用ティシュー）を不織布越しに本体に当てることで、皺の緩和に必要最低限の湿り気を本体生地に移す。少量の水分によって本体生地の繊維を柔らかくしたあと に、不織布越しに親水性の高い紙で本体生地を挟み、重しを置く。この紙を適宜交換し、与えた水分を取り除きつつ、折れ皺の緩和をする。工程の中では特に染色部分に留意し、染料の移動がないように作業を行う。生地、染料に影響が予想される場合には博物館修理担当者に報告し、方針や方法を再度検討する。使用による本体生地織り目の伸びが観察された場合は、博物館修理担当者に報告し形状を検討する。4.強化・整形（補修材料作製）一枚もので表裏に装飾がある作品の場合、補修材料は、作品への補強度や欠失周囲との視覚的な差などを考胞する必要がある。また作品全体の風合い、修理後の取り扱い時の順応性・安定性・軽量性とともに、保存性が高いことも材料に求められる。作品に直接触れることを考えると、その設定と作り方は本体に対して非常に重要な要素となる。上記を考慮した上で作製された補修裂及び補修糸を選択することで、必要以上に針・糸を入れることを避けることができ、結果的に作品の風合いの維持につながる要素の一つとなると考える。補修裂は、本作品の観賞上の妨げにならず、また風合いを損なわない生地を検討し、作製もしくは既存の生地から選択する。補修糸は、補強しつつも本体への負荷がない糸を目指し、しなやかで平ら目の糸形状で、その細さを経糸基準にして選択することで、生地に馴染む質感を持つ糸を作製する。また糸の撚りは、留め付けに必要な最低限の撚り（＝甘撚り）にすることで、さらに補修糸自体の本体への負荷も軽減する。現状では、上記に適するものとして補修糸は絹糸を想定する。補修糸、補修裂ともに候補を数種類用意し、博物館修理担当者と検討のうえ選択 する。選択された補強裂と補修糸は、本体生地の地色に合わせて視覚的に鑑賞を妨げることのない色に染色する。本体の文様に合わせて、同種の生地・糸で数種の色を用意することを想定する。染料は色合わせのしやすさと堅牢度を考慮して、化学染料（絹の場合は酸性染料、綿の場合は反応性染料もしくは直接染料が適切と考える）を選択する。色見本を染色して比較検討し、実際に使用するための染色を行う。5.強化・整形（補修）本体損傷部分の裏面から必要箇所のみに部分的または帯状に補修裂をあて、補修糸で縫い留めつける。この縫い留めも、縫いの位置や間隔・補修糸の引き具合が修理後の本体風合いに反映するため、必要最小限で効果が得られるような縫い方と補修裂の範囲を提案し、博物館修理担当者と検討し選択する。部分補修裂の周囲は、本作品が一枚ものであることから、裁ち目が修理後の取り扱いの妨げにならないように、補修裂の四辺を本体と補修裂の間に入れるように折り込んでから、本体に留め付ける。補修箇所と補修していない箇所のきわに、段差や風合いの差が極力僅少になるように、補修裂端の裁ち目の糸を数本抜いてほぐすなどの方法も施す。「修理工程1.解体」で取り外した現補修の更紗生地も、更紗の織り目を本体生地と合わせて元の位置に補修糸で留め付ける。この再用する更紗生地が、皺の緩和をおこなったあとの本体欠失箇所と寸法が合わない場合は、本修理の補修裂を当てるか否かを、博物館修理担当者と協議した上で進める。補修裂を裏面から縫い留めた後、表面から本体欠失箇所の端口を補修糸で綴じ付 ける。6.解体時に必要によって取り外した旧縫い糸や旧補修などは作品とともに返却する。		

6 名　称	朱地経縞衣裳（しゅじたてじまいしょう）	員　数	1領
時　代	琉球・第二尚氏時代　19世紀	寸 法 等	身丈116.0cm、肩幅・袖幅56.5（31.0/25.5）cm 、袖丈33.4cm、衿長99.0cm、衿幅14.5cm
品　質	単衣、琉服(返衿Ⅰ、付けづめ、マチあり、身幅はほぼ布幅)、袖口縫込み、揚げ 大別:織、織技法:平織、経縞、染技法:先染、形状:単衣、琉服(返衿Ⅰ、付けづめ、マチあり、身幅はほぼ布幅)、袖口縫込み、揚げ、布幅:34.5、経密:29.0、緯密:18.0、経糸素材:芭蕉・単・S、色糸絹、緯糸素材:芭蕉・単・撚無、模様:縞、配色:朱、淡朱、淡黄、緑、水色、紫	施工会社	株式会社　松鶴堂
修理内容	1.強化・整形（生地の折れ癖の緩和）少量の水を含ませた紙（蛍光染料不使用ティシュー）を不織布越しに本体に当てることで、皺の緩和に必要最低限の湿り気を本体生地に移す。少批の水分によって本体生地の繊維を柔らかくしたあとに、不織布越しに親水性の高い紙で本体生地を挟み、重しを置く。この紙を適宜に交換し、与えた水分を取り除きつつ、折れ皺の緩和をする。工程の中では染料と既存の染みなどの移動がないように留意して作業を行う。生地、染料に影響が予想される場合には博物館修理担当者に報告し、方針や方法を再度検討する。前述の通り、本工程は仕立ての解体をせずに行う。仕立て線に沿って、「左右袖」「左右身頃」「左右衽」「衿」といった部品ごとに、上記方法にて皺の緩和作業を進める。作品の前後で一枚の生地から成り立っている身頃と袖の山、そして衿周辺に、本工程の押しによる折れ線ができないように緩衝材を入れ、生地のワがつぶれないように作業を行う。2.強化・整形（補修材料作製）単衣である作品の場合、補修材料は、作品への補強度や欠失周囲との視覚的な差などを考慮する必要がある。また作品全体の風合い、修理後の取り扱い時の順応性・安定性・軽量性とともに、保存性が高いことも材料に求められる。作品に直接触れることを考えると、その設定と作り方は本体に対して非常に重要な要素となる。上記を考慮した上で作製された補修裂及び補修糸を選択することで、必要以上に針・糸を入れることを避けることができ、結果的に作品の風合いの維持につながる要素の一つとなると考える。補修裂は、本作品の観賞上の妨げにならず、また風合いを損なわない生地を検討し、作製もしくは既存の生地から選択する。補修糸は、補強しつつも本体への負荷がない糸を目指し、しなやかで平ら目の糸形状で、その細さを経糸基準にして選択することで、生地に馴染む質感のある糸を作製する。また糸の撚りは、留め付けに必要な最低限の撚り（＝甘撚り）にすることで、さらに補修糸自体の本体への負荷も軽減する。現状では、補修糸は絹糸を想定する。補修糸、補修裂ともに候補を数種類用意し、博物館修理担当者と検討のうえ選択する。選択された補強裂と補修糸は、本体生地の地色に合わせて視覚的に鑑賞を妨げることのない色に染色する。染料は色合わせのしやすさと堅牢度を考慮して、化学染料（絹の場合は酸性染料が適切と考える）を選択する。色見本を染色して比較検討し、実際に使用するための染色を行う。3. 強化・整形（補修）本体損傷部分の裏面から必要箇所のみに部分的に補修裂をあて、補修糸で縫い留めつける。この縫い留めは、縫いの位置や間隔・補修糸の引き具合が修理後の本体風合いに反映するため、必要最小限で効果が得られるような縫い方と補修裂の範囲を提案し、博物館修理担当者と検討し選択する。部分補修裂の周囲は、本作品が単衣であることから、裁ち目が修理後の取り扱いの妨げにならないように、本体と補修裂の間に入れるように四辺を折り込んでから、本体に留め付ける。補修箇所と補修していない箇所のきわに、段差や風合いの差が極力僅少になるように、補修裂端の裁ち目の糸を数本抜いてほぐすなどの方法も施す。補修裂を裏面から縫い留めた後、表面から本体欠失箇所の端口を補修糸で綴じ付ける。4.収納 養生の枕の大きさは、幅は左右の袖付、丈は衿下までの寸法を想定する。肩山と袖山については構造上、折れ線が生じ易いため、養生紙を入れるなどしてワを維持する方法を提案する。本体生地への摩擦による影響を考慮して、枕の外面となる材料には白絹羽二重を選択する。枕の中の材には、湿度を含みにくく、外側の羽二重生地の間から飛び出さないように加工をした薄いポリエステル製の綿を採用し、これを必要の厚みに調整する。枕で養生して折り畳まれた本体の大きさに合わせて、手がかり紐の付いた台紙を作製する。上記の台紙を内蔵する保存箱を作製する。共蓋の形式を想定する。台紙や箱に使用する材は、本作品が温湿度の管理された博物館環境で保存されること、また将来変更しやすいなどの点を考慮して、丈夫で軽量なボードを選択する。さらに、長期保存に適する材料のものを使用し、PAT試験に合格していることを念頭におく。修理中に回収した断片などは、作品と共に収納し返却する。		

＜考古＞（8件）

7 名　称	頭椎大刀（かぶつちのたち）	員　数	1振
時　代	古墳時代・7世紀	寸 法 等	全長117.0cm　刀身長97.0cm　茎長20.0cm　鞘元幅3.8cm　鍔幅9.8cm　柄幅3.7cm　身幅0.5cm
品　質	鉄製の刀身・金銅製の金具	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.洗浄　修理部分をアセトンや、綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。2.強化・整形　柄の銀線部分のほつれにパラロイドB72（アセトン希釈：15%程度）を塗布し、樹脂による強化を行う。その際、器表裏面の質感の変化を最小限となる様に注意する。3.接合・組立 外れている足金物と銀線のほつれ部分をパラロイドB72（アセトン希釈：30%程度）を塗布し接合する。4.収納等 大刀の形状に合わせて安定台座を製作する。台の基本材料は樹脂若しくは木材とし、アク リル塗装（艶消し黒）で仕上げる。大刀と台の調整は樹脂による受け（ベッド）製作する。5.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

8 名　称	象嵌鉄刀　附　鞘 （ぞうがんてっとう　つけたり　さや）	員　数	1振
時　代	古墳時代・5-6世紀	寸 法 等	全長120.5cm　刀身長88.6cm　茎長23.3cm　ふくら幅3.2cm　関幅4.5cm 茎幅2.3cm　身厚0.7cm　鞘最大幅7.8cm
品　質	鉄刀・鞘　木片	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.洗浄 修理部分をアセトンや、綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。2.強化・整形 切先の断面にパラロイドB72（アセトン希釈：15%程度）を塗布し、樹脂による強化を行う。その際、器表裏面の質感の変化を最小限となる様に注意する。3.接合・組立 外れている切先をパラロイドB72（アセトン希釈：30%程度）を塗布し接合する。4.補彩 目立つ場合には行う。5.収納等 鉄刀と鞘の形状に合わせて安定台座を製作する。台の基本材料は樹脂若しくは木材とし、アクリル塗装（艶消し黒）で仕上げる。刀と台の調整は樹脂による受け（ベッド）製作する。また象嵌鑑賞用の鏡は、鉄刀を展示するケースの高さを御提示いただき、その高さで良く見える角度に固定する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

9 名　称	黄地鉢（きじはち）	員　数	1口
時　代	サーマーン朝時代・11-12世紀	寸 法 等	径19.0cm　高7.5cm　底径9.5cm
品　質	陶器	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.解体 接着剤や充填材料を、デザインカッターやリューターを用い除去して解体する。2.クリーニング 表面及び破断面に残る充填材料や泥を、アセトン、竹串、刷毛、綿棒等を用いて除去する。3.強化 破断面及び劣化した表面に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。4.接合 エポキシ樹脂（ハイスーパー5）を用いて破片を接合する。5.充填 欠落部へエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））を充填した後、目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。6.補彩 樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。7.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

10 名　称	土偶（どぐう）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前3000年～前2300年	寸 法 等	高17.8cm　幅13.4cm　厚6.3cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.解体 接着剤や充填材料を、デザインカッターやリューターを用い除去して解体する。2.クリーニング 破断面に残る接着剤や充填材料を、アセトン、竹串、刷毛、綿棒等を用いて除去する。3.強化 破断面及び脆弱部分に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。4.充填 必要に応じて破断面にエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））を充填した後、目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。5.補彩 樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。6.台座作成 上半身に対して展示台を兼ねた安定台座を作成する。台座は木製で黒漆仕上げとする。土偶との接地面にはエポキシ樹脂製ベットを作成する。7.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

11 名　称	土偶（どぐう）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前3000年～前2300年	寸 法 等	高9.5cm　幅13.3cm　厚6.2cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.クリーニング 表面の泥等の汚れを綿棒や刷毛等を用いて除去する。2.強化 亀裂部分と顔面欠失部分に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。3.復元・充填 残存部分を参考に、顔面の欠失部分をエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））で復元する。目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。4.補彩 復元・充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。5.台座作成 展示台を兼ねた安定台座を作成する。台座は木製で黒漆仕上げとする。土偶との接地面にはエポキシ樹脂製ペットを作成する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

12 名　称	壺形土器（つぼがたどき）	員　数	1点
時　代	続縄文時代・前2世紀～後1世紀	寸 法 等	最大径26.0cm、口径11.5cm、括部径8.0cm、底径8.0cm、高33.2cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.クリーニング 内部や破断面の汚れを、デザインカッター、綿棒、刷毛等を用いて除去する。2.強化 破断面に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。3.復元・充填 残存部分を参考に、口縁部の欠失部分をエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））で復元する。目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。4.補彩 復元・充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。5.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

13 名　称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	員　数	1点
時　代	続縄文時代・前2世紀～後3世紀	寸 法 等	最大径24.0cm、底径7.2cm、高27.0cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.クリーニング 内部の汚れを、綿棒、刷毛等を用いて除去する。2.強化 剥離部分と亀裂部分に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。3.復元・充填 残存部分を参考に、剥離部分をエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））で復元する。目地と亀裂部分にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。4.補彩 復元・充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。5.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

14 名　称	福岡県指定有形文化財　重圏彩画鏡(1号甕棺) （じゅうけんさいがきょう（いちごうかめかん））	員　数	1点
時　代	弥生時代・前2世紀	寸 法 等	復元径27.3cm
品　質	青銅加彩	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.台座作成。作品の形状に合わせて安定台座を作成する。台の基本材料は木材もしくはアクリルとし、艶消し黒色等のアクリル塗装で仕上げるなどの方法が考えられるが、金属遺物に影響を与えない材料を念頭に博物館と協議の上、決定する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。作品の欠失部分の復元は、木板もしくはアクリル等でベースを作成し、その上に復元図面等を参考にしながら樹脂等で全体形状を簡略化して復元する。復元部分の彩色は、作品の基調色を単色で表現する。2.修理報告書作成。処置内容、使用材料、画像等を掲載する。		
所蔵者	九州歴史資料館所蔵		

＜歴史資料＞（6件）

15 名　称	広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）	員　数	4面
時　代	（採拓）昭和9年頃(1934年) （原碑）朝鮮・三国時代・414年	寸 法 等	第1面：上半分縦264.3cm　横148.0cm　下半分縦275.0cm　横145.0cm 第2面：縦528.0cm　横122.0cm　第3面：縦532.0cm　横178.0cm 第4面：縦530.0cm　横120.0cm
品　質	拓本　折り畳み	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　本紙を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査紙のあらゆる情報について記録を行う。2.強化・整形（剥落止め）　膠着力の低下や、表面の擦れにより不安定になっている墨に、兔膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際、その量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出 ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。その後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、水道水中の細かなゴミや塩素・鉄分を取り除いた水。以下同）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過剰なクリーニングは行わず、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とする。4.強化・整形（剥落止め）　再度、墨に兔膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。5.補填（補修）　本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、小麦澱粉糊（新糊）を用いて欠失箇所の補修を行う。また、補修紙を用いて本紙の四方周囲に足し紙をする。補修紙は、本紙と補修紙の重なりによる凹凸 が最小限になるように補修紙の糊代部分を削り、補修を行う。また、料紙の継ぎ及び旧補填箇所の重なりも最小限になるよう極力削り、平滑にする。6.強化・整形　本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙にて、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.接合・組立　肌裏打ち後、美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。折れ伏せ後、もう一層増裏打ちを行う。表装裂地を新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂を付け廻し、袋表装の形に仕立てる。8.強化・整形　本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを2層行う。中裏打ち後、宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.接合・組立　軸首、上下軸木、啄木、打込鐶等を新調し、掛軸装に仕立てる。10.収納等　新調した4幅入り中性紙箱に納入する。2年度は第3面を施工（30年度より4か年継続事業）。		

16 名　称	重要文化財 対馬宗家関係資料 （つしまそうけかんけいしりょう）	員　数	20箱1～9巻
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	第一巻　縦20.3cm　横1,509.1cm 第二巻　縦20.2cm　横1,655.5cm 第三巻　縦20.2cm　横2,390.5cm 第四巻　縦20.0cm　横2,372.0cm 第五巻　縦21.9cm　横3,848.3cm 第六巻　縦20.7cm　横2,222.5cm 第七巻　縦20.3cm　横3,965.0cm 第八巻　縦20.1cm　横2,887.1cm 第九巻　縦34.4cm　横343.3cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損低状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担が掛からないように巻子装を解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。本紙下に吸取紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、以降の作業において抱えている汚れにより染みや際付きを起こさないことを前提として、過剰なクリーニングは行わず、必要最小限の水の量によるクリーニングに留めることとする。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布についても必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。4.解体 湿式肌上げ法により本紙の旧裏打紙を除去した後、旧補修紙を除去する。5.補填 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。補修紙の作製はDIPS法にて作製する。表紙裂については、表紙裂と同組成の補修絹に具引き加工を施し、欠失箇所に補絹を施した後に基調色による地色にて補彩を行う。6.強化・整形（裏打ち）。薄美濃紙を、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。7. 接合・組立。肌裏打ち後、本紙折れ箇所及び今後折れが発生すると思われる箇所に細かく裁断した美濃紙にて折れ伏せを施す。総裏紙には強度が高く滑らかな楮と雁皮の混合紙（3：7）を採用し、十分な接着強度があり巻子装に必要な柔軟性を併せ持つ混合糊（新糊とフノリの混合）にて総裏を打ち、仮張りをして十分に乾燥させる。表紙、見返し、軸巻紙、中軸、八双、軸首、紐は全て再使用し、十分乾燥させた本紙を仮張りより取り外して全紙を継ぎ合わせ、表紙、見返しを貼り合わせて継ぎ、巻子装に仕立てる。8.補彩 表装裂の補修箇所に補彩を行う。欠失部（補絹箇所）周辺の状態を考慮し、巻子装の顔となる表紙の鑑賞を行う上で支障のないよう、所有者と協議の上で最終的な微調整を行う。8.収納等 折れの発生を防ぐため、修理後は桐太巻添軸を新調して太く巻き、これまでの納品仕様と合わせウコン染め包裂に包み元箱に納入する。（2年度より3か年継続事業）。		

17 名　称	豊臣秀吉朱印状（とよとみひでよししゅいんじょう）	員　数	1幅
時　代	安土桃山時代・天正18年(1590)	寸 法 等	本紙：縦21.5cm　横58.3cm 表装：縦105.0cm　横60.8cm　軸長（左軸首外れ)63.5cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.墨箇所に対し、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。2.上下軸木を取り外し、表装の解体を行う。3.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。4.汚れの除去後、再度墨箇所の剥落止めを行う。5.本紙裏面より最小限の湿りにて旧肌裏紙の除去を行う。6.本紙裏面より損傷箇所及び四方周囲に本紙と同質の補修紙にて補修を行う。7.薄美濃紙にて、新糊を用い新たに肌裏打ちを行う。8.美栖紙にて、古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用い増裏打ちを行う。9.折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、細く切った薄美濃紙にて、新糊を用い折れ伏せを施す。10. 全ての表装裂地を新調し、肌裏打ち及び増裏打ちを行う。11.本紙と表装裂地とを三段表具の形に付け廻しする。12.美栖紙にて、古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りをする。13.宇陀紙にて、古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りして充分な乾燥期間をおく。14.補修箇所に本紙基調色にて補彩を施す。15.新調した軸首、上下軸木、啄木等を取り付け、掛軸装に仕立てる。16.桐製太巻添軸、桐製印籠箱を新調し、本紙を納入する。		

18 名　称	島津氏関係文書（しまづしかんけいもんじょ）	員　数	38通
時　代	室町時代-江戸時代・15世紀-19世紀	寸 法 等	島津義久書状：縦24.5cm　横39.7cm、伊地知重周書状：縦28.3cm　横38.0cm 長崎内蔵助書状：縦28.9cm　横37.3cm、新納忠清書状：縦16.7cm　横49.0cm 山野田忠通書付：縦13.7cm　横39.4cm、市来宗友書状：縦27.8cm　横33.8cm 鎌田政良書状：縦16.1cm　横14.3cm、島津氏老中連署書状：縦15.5cm　横33.0cm 伊地知安心書状：縦15.7cm　横42.6cm、島津久慶書状：縦33.6cm　横45.9cm 島津維新書状写：縦34.0cm　横33.3cm、肝付兼続和歌書付：縦23.4cm　横3.2cm 島津久元書状：縦31.5cm　横45.0cm、相良頼兄書状：縦32.2cm　横50.5cm 渋谷重将書状：縦17.9cm　横52.8cm、川上久国書状：縦18.0cm　横50.8cm 島津氏家臣連署書状：縦30.2cm　横51.0cm、中西秀長書状：縦26.9cm　横37.3cm □□満静書状：縦17.9cm　横72.5cm、梅田木工書付：縦14.6cm　横62.5cm 本田親純書状：縦20.6cm　横26.5cm、樺山久初書状：縦15.6cm　横40.8cm 平山友知書状：縦30.2cm　横46.4cm、喜入久正覚：縦33.1cm　横35.0cm 長井利貢書状：縦26.0cm　横43.0cm、頴娃久秀書状：縦16.1cm　横42.3cm 伊勢貞昌書状：縦17.4cm　横50.8cm、某書状：縦28.2cm　横45.0cm 乍憚口上覚：縦26.2cm　横24.8cm、仁礼頼安書付：縦34.1cm　横19.2cm 新納久了書状：縦15.0cm　横26.7cm 長井利貢書状写：第1紙：縦18.4cm　横51.6cm、第2紙：縦18.4cm　横52.1cm、第3紙：縦18.6cm　横51.4cm、第4紙：縦18.0cm　横50.8cm 八木豊信書状：縦24.8cm　横30.5cm、伊勢貞長書状：縦30.4cm　横46.4cm 島津忠広書状：縦20.6cm　横34.5cm、島津公久書付：縦29.3cm　横42.5cm 仁礼頼景書状：縦32.0cm　横44.0cm、島津家久書状：縦32.9cm　横41.7cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙を観察し、寸法・損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙の繊維組成試験を含め、厚み・重量・密度・簀目・糸目・地合い等といった料紙情報について調査・記録を行う。折帖装を解体し、本紙を一通ずつ裏打紙ごと台紙より取り外す。2.洗浄（ドライクリーニング）柔らかい刷毛や筆を使い、本紙表面に堆積した塵埃を除去する。3.強化・整形（剥落止め）目視調査の限り、墨の剥落止めは不要である可能性が高いが、修理前調査にて裏打紙除去等にあたっての水の使用に耐えうる膠着力を保持していないことが判明した場合は、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。その場合、膠水溶液の塗布量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないよう細心の注意を払って行う。4.解体及び洗浄（クリーニング）裏面より濾過水（ポリプロピレン及び活性炭フィルターを通し水道水中の細かなゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を用いて湿りを与え、旧裏打紙を除去する。また、この際同時にクリーニングを行う。その後、旧補修紙を除去し、本紙の形態を改変された箇所、封紙を取り外す。5.補填 各本紙の紙質に合わせて手漉きにて補修紙を準備・作製し、本紙欠失箇所に裏面より新糊を用いて手繕いにて補修を施す。6.強化・整形 裏打ちが必要なものについては、薄楮紙にて新糊を用いて裏打ちを施す。7.接合・組立本紙の形態が改変されているものについては、新糊を用いて元の形に継ぎ戻す。8.収納等 新調した中性紙ボードに修理後の本紙を一通ずつ納入してマット装とする。封紙・極札は補修を施して本紙と並べてマット装に納める。横寸法の長い本紙については、必要に応じて仮巻芯にて巻く。マット装に収納した本紙、仮巻した本紙を新調した中性紙箱に納入する。		

19 名　称	額字「松本寺」（がくじ「しょうほんじ」）	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦28.7cm　横53.9cm　裏貼紙「がく覚」：縦24.6cm　横35.5cm 表具：縦113.5cm　横54.0cm　軸張り70.0cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.墨箇所に対し、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。2.上下軸木を取り外し、表装の解体を行う。3.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。4.汚れの除去後、再度墨箇所の剥落止めを行う。5.本紙裏面より最小限の湿りにて旧肌裏紙の除去を行う。6.本紙裏面より損傷箇所及び四方周囲に本紙と同質の補修紙にて補修を行う。7.薄美濃紙にて、新糊を用い新たに肌裏打ちを行う。8.美栖紙にて、古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用い増裏打ちを行う。9.折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、細く切った薄美濃紙にて、新糊を用い折れ伏せを施す。10.全ての表装裂地を新調し、肌裏打ち及び増裏打ちを行う。11.本紙と表装裂地とを三段表具の形に付け廻しする。12.美栖紙にて、古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りをする。13.宇陀紙にて、古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りして充分な乾燥期間をおく。14.補修箇所に本紙基調色にて補彩を施す。15.新調した軸首、上下軸木、啄木等を取り付け、掛軸装に仕立てる。16.桐製太巻添軸、桐製印籠箱を新調し、裏面文書と共に本紙を納入する。		

20 名　称	佐州金銀採製全図 （さしゅうきんぎんさいせいぜんず）	員　数	1巻
時　代	江戸時代・嘉永6年(1853)写	寸 法 等	本紙：縦30.0cm　横2591.9cm 表装：縦30.0cm　横2664.0cm　軸長32.5cm
品　質	紙本著色	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や絵具の状態等の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように巻子装を解体し、本紙の継ぎを取り外す。2.強化・整形（剥落止め） 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨及び彩色絵具に、兔膠水溶液1～3%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際は必要最低限の量に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。膿脂については、耐水性をテストし、必要に応じシクロドデカンを用いて防水加工を施した上で剥落止めを行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。4.強化・整形（剥落止め） 膿脂の耐水性をテストし、必要に応じシクロドデカンを用いて防水加工を施した上で剥落止めを行う。5.洗浄 吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。汚れの除去は以降の作業において抱えている汚れにより染みや際付きを起こさないことを前提とし、現状の作品の風合いを損なわないよう過剰なクリーニングは行わず、必要最小限の汚れの除去に留めることとする。6.強化・整形（剥落止め）絵具層の膠着力のテストを行い、必要に応じて墨、彩色絵具に兔膠水溶液1～3%を用い、再度剥落止めを行う。7.解体 裏打紙の糊浮きが著しいこともあり、基本的には湿りを与えずに裏打紙を除去する。湿りを与えずに除去できない部分にのみ、本紙裏面より必要最小限の湿りを与えて除去を行う。8.補填 本紙と同質の繊維による補修紙を準備調整し、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように、補修紙の糊代部分を削って補修する。9.強化・整形（肌裏打ち） 本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用い肌裏打ちを行う。10.接合・組立 美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調の表紙裂及び見返しを薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。仮張り後、表紙裂と見返しを合わせる。本紙を継ぎ合わせた後、楮と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。11.補彩 補修を施した箇所に視覚的に支障のないよう補彩を施す。本紙料紙の有する地色を基本とし、現在の経年変化した料紙の状態を加味した色合いを考慮し、地色補彩を施す。最終的な調整としては所有者と協議の上、鑑賞に支障のないように微調整を行う。12.接合・組立 軸首は再使用し、中軸、八双、紐は新調し、巻子装に仕立てる。13.収納等 今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。桐製印籠箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。		

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和3年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		220	13	137 (5,453)	70 (1,090)
絵　画		102	2	67 (2,258)	33 (391)
書　跡		37	0	27 (1,222)	10 (213)
彫　刻		39	0	22 (1,411)	17 (306)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		0	0	0 (2)	0 (4)
刀　剣		102	1	0 (0)	0 (0)
陶　磁		1	1	0 (1)	0 (0)
漆　工		9	0	1 (40)	8 (117)
染　織		7	1	4 (197)	2 (23)
考　古		5	4	1 (18)	0 (0)
民族資料		2	0	2 (6)	0 (2)
歴史資料		9	0	9 (233)	0 (31)
和　書		1	1	0 (0)	0 (0)
写真資料		33	0	0 (0)	0 (0)
その他		5	1	4 (50)	0 (2)
東洋	絵　画	1	1		
	書　跡	1	1		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	0	0		
	漆　工	0	0		
	染　織	0	0		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（ ）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（ ）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業
1-(2)-① 平常展
1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

令和3年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	18か所 （本館6、平成館3、東洋館2、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、正門プラザ2、庭園1）	8か所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3か所 （東新館1、地下回廊2）	9か所 （本体建物6、屋外3）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	6基 （平成知新館4,東収蔵庫1） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4か所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1か所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	2台	23台
車椅子	27台 （正門・正門プラザ5、本館5、東洋館3、平成館11、法隆寺宝物館2、黒田記念館1）	15台 (検札2、平成知新館7、倉庫保管6)	16台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 3台 ○ベビーシート 16か所 ○ベビーチェア 13か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーキープ 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
2年度整備事項			地図やピクトグラムなどを利用し、外国人来館者や障害者にもわかりやすい内容になるよう、館内看板などを更新した。また、館内看板などの4言語（日・英・中・韓）による表記を進めた。	ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた外国人や障がい者にもわかりやすい館内案内看板を作成した。また、以前より要望があった繁体字を追加した5言語（日・英・中（簡・繁）・韓）表記とした。

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和3年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
2年度計（台）：	22,145台	2年度計（台）：	26,497台	2年度計（台）：	16,010台	2年度計（台）：	ー
・特別展「きもの KIMONO」	22,145台	・特別展「西国三十三所　草創1300年記念　聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（日、英、中、韓）	9,961台	・御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」	4,333台	・特別展「中宮寺の国宝」（3.1.26～3.21）（貸出未実施）	ー
		うち日本語版	9,895台	うち日本語版	4,300台	うち日本語版	ー
（参考） 2年度ダウンロード件数		うち英語版	29台	うち英語版	14台	うち英語版	ー
・「トーハクなび」（リニューアル版）		うち中国語版	34台	うち中国語版	19台	うち中国語版	ー
Android版	1,875件	うち韓国語版	3台	うち韓国語版	0台	うち韓国語版	ー
iOS版	3,932件	・特別展「御即位記念　皇室の名宝」（日、英）	15,544台	・「第72回正倉院展」	9,960台		
アプリ端末貸出（日英）	12,307件	うち日本語版	15,479台	うち日本語版・一般向け	9,546台		
音声ガイド貸出（中韓）	18,655件	うち英語版	65台	うち日本語版・子供向け（東大寺博士版）	405台		
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	0件			うち英語版・一般向け	9台		
		名品ギャラリー（平常展）	992台	・なら仏像館名品展	1,717台		
		うち日本語版	936台	うち日本語版	1,660台		
		うち英語版	27台	うち英語版	22台		
		うち中国語版	27台	うち中国語版	34台		
		うち韓国語版	2台	うち韓国語版	1台		

1-(2)-③-5 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

令和3年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
235件(外国語)	24件(外国語)	75件(外国語)	235件(外国語)
235件(日本語)	24件(日本語)	75件(日本語)	235件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計235件(外国語)/235件(日本語)

・総合文化展（特集を除く）　141件（外国語）／141件（日本語）　含国宝室
・特集　94件（外国語）／94件（日本語）

【京都国立博物館】計24件(外国語)/ 24件(日本語)※1

・名品ギャラリー（特集展示等を除く）　7件（外国語）／7件（日本語）
・特別企画「文化財修理の最先端」　5件（外国語）／5件（日本語）
・特集展示「丑づくし―干支を愛でる―」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特別企画「新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―」　3件（外国語）／3件（日本語）
・特集展示「国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特集展示「雛まつりと人形」　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　表装の構造」※2　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　仏画」※2　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　仏像」※2　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　漆工」※2　3件（外国語）／3件（日本語）

※1 26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。
※2 日・英・中・韓の4言語を併記

【奈良国立博物館】計75件(外国語)/75件(日本語)

・名品展（珠玉の仏たち）　7件（外国語）／ 7件（日本語）*1,*2
・名品展（珠玉の仏教美術）　4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
・名品展（青銅器館）　12件（外国語）／12件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生」　3件（外国語）／ 3件（日本語）*2
・特集展示「新たに修理された文化財」　9件（外国語）／ 9件（日本語）*2(一部)
・特別陳列「お水取り」　3件（外国語）／ 3件（日本語）*2
・模型展示「仏像の手の形（印相）」　9件（外国語）／ 9件（日本語）
・模型展示「仏像の制作過程」　14件（外国語）／14件（日本語）
・パネル展示「奈良国立博物館の概要」　3件（外国語）／3件（日本語）*3
・パネル展示「奈良国立博物館の歴史」　3件（外国語）／3件（日本語）*3
・パネル展示「仏像の見方」　4件（外国語）／4件（日本語）*3

*1 28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供。29年10月より日本語音声ガイドを追加提供した。
*2 日・英・中・韓の4言語を併記
*3 日・英・仏・中・韓の5言語を併記

【九州国立博物館】計 235 件(外国語)/ 235 件(日本語)

・文化交流展示（特集展示を除く）　159 件(外国語)/159 件(日本語)
・文化交流展示　特集展示等　76 件(外国語)/ 76 件(日本語)

特集展示「きゅーはく　どうぶつえん」　15 件(外国語)/ 15 件(日本語)
開館 15 周年記念特集展示　大宰府史跡指定 100 年記念「筑紫の神と仏」　8 件(外国語)/ 8 件(日本語)
開館 15 周年記念特集展示「しきしまの大和へ―奈良大発掘―」　28 件(外国語)/ 28 件(日本語)
「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」　2 件(外国語)/ 2 件(日本語)
開館 15 周年記念特集展示「織物に魅せられて　加賀前田家伝来の名物裂」8 件(外国語)/ 8 件(日本語)
新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」　5 件(外国語)/ 5 件(日本語)
特集展示「天神縁起の世界」　10 件(外国語)/ 10 件(日本語)

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和3年3月31日現在

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	160回	125回	93回	97回	19回
講演会等　参加者数	21,453人	21,692人	12,206人	11,691人	52,032人
①講演会	32回	26回	23回	20回	10回
	9,153人	6,999人	6,249人	6,051人	29,875人
アンケート結果	88.00%	88.09%	86.16%	84.89%	―
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	12回	10回	8回
	2,793人	2,716人	2,822人	2,630人	24,923人
アンケート結果	88.80%	89.57%	89.57%	84.75%	―
・記念講演会	14回	7回	7回	7回	0回
	5,048人	2,589人	2,189人	2,591人	0人
アンケート結果	93.00%	84.45%	85.24%	84.19%	―
・シンポジウム	2回(3日)	3回	1回	2回	2回
	579人	920人	250人	575人	4,952人
アンケート結果	―	83%	―	―	―
・テーマ別講演会	1回	0回	3回	1回	0回
	210人	0人	988人	255人	0人
アンケート結果	94.00%	―	84.20%	93.46%	―
・その他講演会	3回	4回	0回	0回	0回
	523人	774人	0人	0人	0人
アンケート結果	92.00%	―	―	―	―
②列品解説（ギャラリートーク等）	125回	96回	64回	71回	9回
	11,123人	14,026人	5,108人	4,791人	22,157人
③連続講座	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	0回
	947人	551人	728人	645人	0人
アンケート結果	96.80%	89.00%	88.50%	92.93%	―
④公開講座	2回	2回	5回	5回	0回
	230人	116人	121人	204人	0人
アンケート結果	100.00%	96.49%	100.00%	100.00%	―
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	45回	32回	37回	28回	23回
講演会等　参加者数	5,132人	4,014人	4,357人	3,285人	1,435人
①土曜講座	38回	22回	19回	13回	7回
	4,123人	2,433人	1,969人	1211人	572人
アンケート結果	82%	83%	80%	85%	84%
②記念講演会	1回	4回	12回	9回	12回
	190人	800人	1,884人	1,465人	1,227
アンケート結果	―	86%	80%	81%	83%
③夏期講座	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	210人	212人	198人	201人	60人
アンケート結果	94%	90%	90%	78%	94%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	0回
	69人	49人	39人	50人	0人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	4回	4回	3回	3回
	540人	520人	267人	358人	248人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	26回	26回	27回	25回	12回
講演会等　参加者数	3,518人	3,437人	3,569人	3,261人	847人
①特別展等講座	13回	13回	14回	13回	5回
	1,972人	2,141人	1,853人	1,838人	353人
アンケート結果	87%	91%	88%	92%	91%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	0回
	555人	525人	478人	386人	―
アンケート結果	89%	91%	95%	94%	―
③サンデートーク	12回	12回	12回	11回	7回
	991人	771人	1,　238人	1,037人	494人
アンケート結果	88%	87%	88%	92%	90%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	77回	84回	80回	69回	13回
講演会等　参加者数	5,369人	6,024人	4,491人	4,862人	308人
①特別展記念講演会	3回	2回	2回	6回	0回
	675人	359人	150人	1,336人	0人
アンケート結果	―	―	―	―	―
②講演及びシンポジウム	25回	26回	16回	16回	0回
	3,293人	3,521人	2,166人	2,033人	0人
アンケート結果	-			―	―
③ミュージアムトーク	49回	56回	62回	47回	13回
	1,401人	2,144人	2,175人	1,493人	308人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	52校	53校	56校	60校	61校
京都国立博物館	27校	29校	32校	32校	33校
奈良国立博物館	25校	27校	28校	27校	28校
九州国立博物館	25校	25校	23校	23校	21校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	**回数計**	**19回**	**回数計**	**23回**	**回数計**	**12回**	**回数計**	**13回**
	参加者計	**52,032人**	**参加者計**	**2,107人**	**参加者計**	**847人**	**参加者計**	**308人**
	講演会	10回 29,875人	土曜講座	7回 572人	特別展等講座	5回 353人	特別展記念講演会	0回 0人
	列品解説（ギャラリートーク等）	9回 22,157人	記念講演会	12回 1,227人	夏季講座	0回 0人	講演及びシンポジウム	0回 人
	連続講座（2日間）	0回 0人	夏期講座（2日間）	1回 60人	サンデートーク	7回 494人	ミュージアムトーク	13回 308人
	公開講座	0回 0人	社会科教員のための向上講座	0回 0人				
			セミナー・シンポジウム等	3回 248人				
	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	6回 850人	その他展示に関連するイベント	1回 6人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1） 講演会　　10回　　29,875人

①月例講演会

8回　　24,923人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1～4は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。					
1	4月26日	敦煌・シルクロードの仏教美術	東洋室長　勝木言一郎	0人	-
2	5月30日	東京国立博物館における国際交流	国際交流室長　楊鋭	0人	-
3	6月6日	『動物のうごき』展ができるまで	デザイン室主任研究員　神辺知加	0人	-
4	7月25日	日本美術の記録と評価	東京文化財研究所文化財アーカイブズ研究室長　江村知子 京都工芸繊維大学教授　並木誠士 京都芸術大学非常勤講師　多田羅多起子	0人	-
※5～12は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会として実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
5	9月4日	漆のわざを読む	工芸室研究員　福島修	3,794人	実施せず
6	10月8日	レジェンドを語る	東洋室長　勝木言一郎 特別展室長　猪熊兼樹 平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	5,210人	実施せず
7	11月16日	自在置物の魅力	博物館教育課長　伊藤信二	2,520人	実施せず
8	12月3日	文化財と複製	文化財活用センター企画担当研究員　小島有紀子	6,807人	実施せず
9	1月28日	仁清作色絵月梅図茶壺—半分青く、半分赤い	博物館情報課長　今井敦	2,356人	実施せず
10	3月25日	白描図像—祈りと魂の描線—	絵画・彫刻室研究員　古川攝一 絵画・彫刻室長　沖松健次郎	721人	実施せず
11	3月4日	中国古代の封泥　ハンコ行政のはじまり	特任研究員　谷豊信	2,848人	実施せず
12	3月31日	おじさん『むかしの話』をする—私とトーハクの25年—	学芸企画部長　田沢裕賀	667人	実施せず

②記念講演会

0回　　0人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1～3は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。					
1	5月9日	きもの文化の歴史と未来を見つめて	工芸室長　小山弓弦葉	0人	-
2	6月27日	国宝 聖林寺十一面観音菩薩像の世界	文化庁主任文化財調査官　奥健夫	0人	-
3	7月12日	日本のスポーツ史と2020	筑波大学教授　真田久	0人	-

③シンポジウム

2回　　4,952人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン国際シンポジウムとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
1	2月26日	国際シンポジウム　日本文化としての『きもの』を考える	総合司会：京都国立博物館連携協力室専門職　マリサ・リンネ パネリスト：京都国立博物館名誉会員　切畑健 関西学院大学教授　河上繁樹 東京国立博物館工芸室長　小山弓弦葉 ロサンゼルス・カウンティ美術館染織部長　シャロン・サダコ・タケダ メトロポリタン美術館日本部学芸員　モニカ・ビンチク ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館アジア部長　アンナ・ジャクソン	3,665人	実施せず

2	1月30日	国際シンポジウム　「日本美術がつなぐ博物館コミュニティー：ウィズ／ポスト・コロナ時代の挑戦」	基調講演　東京都庭園美術館　樋田 豊次郎 発表　シアトル美術館　シャオチン・ウー ハンブルク美術工芸博物館　ウィブケ・シュラーペ メトロポリタン美術館　アーロン・リオ 東京国立博物館　猪熊 兼樹	1,287人	実施せず

④テーマ別講演会

0回　　0人

	実施日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1～2は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。					
1	4月4日	桜セミナー「金銀螺鈿の花づくし」	工芸室研究員　福島修	0人	-
2	7月18日	トークショー「アニメーションの世界から『鳥獣戯画』を読み解く」	映画監督　細田守 文化財活用センター企画担当課長　松島雅人	0人	-

⑤その他講演会

0回　　0人

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　9回　　22,157人

①ギャラリートーク

9回　　22,157人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
※1～25は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	4月7日	X線CT装置の保存修理への活用	保存分析室専門職　宮田将寛	-
2	4月14日	文化財の保存と修理	保存修復室研究員　野中昭美	-
3	4月21日	表装された文化財の構造と修理	保存修復室アソシエイトフェロー　大山龍顕	-
4	4月24日	特集「令和2年新指定国宝・重要文化財」展への招待(考古資料)	文化庁文化財調査官　横須賀倫達	-
5	4月28日	シルクロードの美術探検	東洋室長　勝木言一郎	-
6	5月8日	特集「令和2年新指定国宝・重要文化財」展への招待(歴史資料)	文化庁文化財調査官　地主智彦	-
7	5月12日	長船長光の太刀	工芸室主任研究員　酒井元樹	-
8	5月19日（2回）	【国際博物館の日記念ガイダンス】トーハクへようこそ	教育講座室アソシエイトフェロー　阿部楓子	-
9	5月26日	動物のうごきのひみつ①	教育講座室長　井出浩正	-
10	6月9日	動物のうごきのひみつ②	教育講座室アソシエイトフェロー　阿部楓子	-
12	6月23日	横河民輔寄贈の朝鮮陶磁	特別展室主任研究員　三笠景子	-
13	6月30日	くらべてわかる！神と仏のふしぎな関係	登録室研究員　西木政統	-
14	7月3日	モノと情報のはなし	情報管理室アソシエイトフェロー　酒井晶	-
15	7月14日	特別展「スポーツ NIPPON」の見どころ①	工芸室主任研究員　佐藤寛介 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員　青木祐一	-
16	8月18日	献納宝物最大の染織品！広東綾大幡	工芸室主任研究員　三田覚之	-
17	9月4日	特別展「スポーツ NIPPON」の見どころ②	絵画・彫刻室研究員　高橋真作 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員　木村一貫	-
18	10月13日	仏画の中の伝統と先端	絵画・彫刻室長　沖松健次郎	-
19	10月30日	時代と人を映した17世紀の茶陶	特別展室主任研究員　三笠景子	-
20	11月10日	黄泉の国の入口～横穴式石室の祭り	特別展室研究員　山本亮	-
21	11月20日	「調和」のなかの仁清茶陶	保存修復室研究員　横山梓	-
22	12月8日	鉄錆に覆われた鏡に銀の文様が！－科学でわかる作品の魅力－	調査研究課長　河野一隆	-
23	12月15日	仁清作色絵月梅図茶壺―半分、青い。	博物館情報課長　今井敦	-
24	2月1日	日本文人画の世界	絵画・彫刻室研究員　大橋美織	-
25	2月16日	アイヌの織物と衣服（仮）	考古室研究員　飯田茂雄	-
※26～34は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンラインギャラリートークとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。				
26	9月24日	狩猟具の変遷	考古室研究員　飯田茂雄	2,498人
27	10月11日	東洋館の彫刻とヨガ	絵画・彫刻室研究員　増田政史 ヨガインストラクター　渡辺美保	4,037人
28	10月18日	平安時代の書と紙	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	5,910人
29	10月28日	子どものためのギャラリートーク 「体を自在にうごかせる動物の『おきもの』」	博物館教育課長　伊藤信二	567人
30	10月28日	子どものためのギャラリートーク「縄文土器を観察しよう！」	教育講座室長　井出浩正	270人
31	11月16日	調和の美　17世紀の茶陶の魅力	特別展室主任研究員　三笠景子 保存修復室研究員　横山梓	2,058人
32	12月25日	世界と出会った江戸美術	絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂 特別展室長　猪熊兼樹	4,223人
33	1月22日	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	文化財活用センター企画担当　高橋真作	2,092人
34	3月25日	X線CT装置の文化財保存への活用	調査分析室専門職　宮田将寛	502人

②特別展関連ギャラリートーク

0回　　0人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

0回　　0人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
新型コロナウイルスの影響を勘案し、東京藝術大学大学院インターンシップの受け入れを中止した。					

3)　連続講座　　2日間（計1回）　　0回　　0人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	″良い″の割合
※1は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	8月14日～15日	鳥獣戯画研究の最前線 第1講「鳥獣戯画の伝わった寺―高山寺と明恵上人をめぐる美術―」 ①明恵上人と高山寺の文化財　講師：京都大学大学院文学研究科教授　大槻信 ②明恵上人坐像の作者は誰か？―高山寺の彫刻と慶派仏師をめぐって―　講師：平常展調整室長　皿井舞 第2講「鳥獣戯画研究のこれまでとこれから」 ③鳥獣戯画八〇〇年の生命誌―伝来と研究史をたどる―　講師：特別展室主任研究員　土屋貴裕 ④欧米がみた鳥獣戯画―近代における海外出品をめぐって―　講師：広報室長　鬼頭智美 ⑤鳥獣戯画「平成の修理」の成果と展望　講師：宮内庁三の丸尚蔵館　朝賀浩 第3講「誰が描いたのか？―絵師をめぐる議論―」 ⑥宮廷絵師説の可能性―「伴大納言絵巻」との近さを視野に入れて―　講師：北九州市立大学文学部准教授　五月女晴恵 ⑦絵仏師説の可能性―鳥羽僧正覚猷説と当時の寺院の社会性の観点から―　講師：京都国立博物館保存修理指導室長　大原嘉豊 第4講「何が、どのように描かれているのか？―図様と表現の特質―」 ⑧平安絵巻としての鳥獣戯画―ストーリー展開の妙味―　講師：京都国立博物館企画室研究員　井並林太郎 ⑨白描画としての鳥獣戯画―線描の妙技―　講師：絵画・彫刻室研究員　古川攝一 ⑩正倉院宝物と鳥獣戯画　講師：神戸大学大学院人文学研究科准教授　増記隆介 第5講「何のために描かれたのか？―主題と制作背景を探る―」 ⑪鳥獣戯画は戯画なのか？　講師：絵画・彫刻室長　沖松健次郎 ⑫鳥獣戯画の主題解釈は可能か？　講師：山種美術館特別研究員　三戸信恵 第6講　パネルディスカッション「徹底討論！鳥獣戯画研究を究める」	0人	0.00%

4)　公開講座　　0回　　0人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
※1、2は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	8月24日～28日	教育連携事業「博物館学講座」	0人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン（教育普及スペース）他
2	8月26日	教育連携事業「博物館セミナー」	0人	平成館大講堂

5) その他展示に関連する事業　　2回　　3880人

	実施日	内容	会場	参加者数
※1,2は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	5月18日	国際博物館の日記念ツアー「上野の山で動物めぐり『うごき』と『しせい』」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	0人
2	5月16日	おとなのためのワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下みどりのライオン	0人
※3,4は新型コロナウイルスの影響を勘案し、電子データのみ公開あるいはオンライン配信に変更して実施予定				
3	1月2日～	博物館で初もうで「2021丑」カレンダー配布	―	―
4	2月6日　(2回)	日本文化との出会い　浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオンから配信	3,880人

【京都国立博物館】

1)　土曜講座　　7回　　572人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	1月16日	丑づくし―牛と日本人―	研究員　古谷毅	44人
2	1月23日	日本の文化財修理120年	研究員　森道彦	103人
3	1月30日	漆器の修理ってどんなん？	漆芸家　北村繁 教育室長　永島明子	100人
4	2月6日	上野家の贈り物 ―上野コレクションと上野記念財団―	名誉館員　赤尾栄慶	63人
5	2月13日	九州と近畿の弥生・古墳時代 ―弥生土器の成立と埴輪・須恵器―	研究員　古谷毅	70人
6	2月20日	上野コレクションの形成と中国絵画	調査・国際連携室長　呉孟晋	92人
7	2月27日	２つの国宝「日本書紀」	美術室長　羽田聡	100人

2)　記念講演会　　12回　　1,227人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月23日	西国巡礼　慈悲の道	西国三十三所札所会　会長（兼今熊野観音寺山主）　藤田浩哉	100人
2	8月8日	資料からみる西国三十三所	美術室長　羽田聡	100人
3	8月22日	西国三十三所、観音めぐり	上席研究員　浅湫毅	100人
4	8月29日	信仰の息づく霊地 ―那智山経塚出土の立体曼荼羅―	工芸室主任研究員　末兼俊彦	100人
5	9月5日	経典にみる観音菩薩	美術室研究員　上杉智英	100人
6	10月10日	宮廷と日本文化 ―雅な文化、その継承のこころ	宮内庁三の丸尚蔵館　首席研究官　太田彩	100人

7	10月17日	皇室に伝わった絵巻の至宝 ―春日権現験記絵を中心に―	企画室研究員　井並林太郎	95人
8	10月24日	皇室を彩る絵画―旧桂宮家伝来品を中心に―	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	95人
9	10月31日	宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来	宮内庁三の丸尚蔵館　主任研究官　髙梨真行	97人
10	11月7日	伏見天皇と「屏風土代」 ―天皇の書風形成―	美術室長　羽田聡	96人
11	11月14日	御所をめぐる色とかたち	企画室長　山川曉	144人
12	3月27日	鑑真和上の教え	律宗管長・唐招提寺八十八世長老　西山明彦	100人

3)　夏期講座　　1回　　60人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月31日	第1講 鳥獣人物戯画甲巻の成立背景 ―秋草と落葉した樹木の組み合わせ―	特任研究員　宮川禎一	60人
		第2講 色はどこから来たのか ―自然物から絵具をつくる―	教育室主任研究員　水谷亜希	
		第3講 盆栽の物語―自然と人をつなぐ芸術―	さいたま市大宮盆栽美術館　学芸員 田口文哉	
	8月1日	第1講 中国の絵画と自然 ―歴史・文学・思想―	東京大学東洋文化研究所　准教授 塚本麿充	
		第2講 中世絵画と本草学 ―花鳥の見分け・描き分け―	美術室研究員　森道彦	
		第3講 更紗と自然	福岡市美術館　館長　岩永悦子	

4)　社会科教員のための向上講座　　0回　　0人

5)　ギャラリートーク・シンポジウム等　3回　　248人

	開講日	テーマ・講師		参加者数(人)
1	9月26日	ICOM京都大会１周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」	京都市長　門川大作 ICOM日本委員会副委員長　青柳正規　ほか	80人
2	10月25日	文化財の防災・減災　ー火災・地震に対する取り組みー	文化庁文化資源活用課調査官　森井順之　ほか	68人
3	12月19日	文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム　「文化財修理のいま、むかし」	文化庁文化財調査官　地主智彦　ほか	100人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業　に記載。

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　5回　　353人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	10月31日	「正倉院の石薬とその素材」	宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員　鶴真美	75人
2	11月7日	「武器・武具の献納と薬物の献納について」	学芸部長　内藤栄	75人
3	1月9日	「春日大社と神鹿の造形」	春日大社国宝殿学芸員　渡邉亜祐香	62人
4	2月20日	「修二会について」	東大寺長老　筒井寛昭	68人
5	3月13日	「帝国奈良博物館の誕生―人と建築―」	学芸部情報サービス室長　宮崎幹子	73人

2)　夏季講座　※新型コロナウイルスの影響により中止

3)　サンデートーク　　7回　　494人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	9月20日	「仏教絵画のきほん　表現様式を中心に」	学芸部主任研究員　北澤菜月	67人
2	10月4日	「描かれた東大寺大仏の姿」	学芸部アソシエイトフェロー　萩谷みどり	70人
3	11月29日	「奈良国立博物館所蔵の古写真にみる奈良公園周辺の景観」	学芸部資料室長　野尻忠	66人
4	12月20日	「売立目録と仏像研究」	学芸部主任研究員　山口隆介	70人
5	1月17日	「文化財を科学するⅦ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	69人
6	2月21日	「仏都会津のみほとけたち」	学芸部研究員　内藤航	75人
7	3月21日	「舎利信仰の美術 ―舎利容器の形から信仰を読み解く―」	学芸部長　内藤栄	77人

4)　その他展示に関連するイベント　　6回　　850人

	実施日	内容	会場	参加者
1	12月9日～1月17日	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	―
2	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『紙コップで作ろう！鼓』	Youtube	337人
3	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『動く！おん祭の絵巻！』	Youtube	404人
4	1月8日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	70人
5	2月6日～3月21日	お水取り展　修二会お松明展示	展示室	―
6	2月11日	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	39人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　0回　　0人

2)講演及びシンポジウム等　　0回　　0人

3)　ミュージアムトーク　　13回 参加者総数　　308人

・担当研究員数　　延べ 13人　　※うち夜間開催分は 0人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として第1、3、5火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	11月10日	しきしまの大和へ-奈良大発掘-	展示課主任研究員　齋部　麻矢	15人
2	11月17日	伊能忠敬の日本地図	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦　晃佑	31人
3	12月1日	対馬宗家文書の図書と木印	展示課主任研究員　一瀬　智	13人
4	12月8日	祈りと経典～ひとがお経を作るとき～	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　瓜生　翠	18人
5	12月15日	しきしまの大和へ-奈良大発掘-	展示課主任研究員　齋部　麻矢	22人
6	1月5日	のぞいてみよう！織物の世界	学芸部企画課アソシエイトフェロー　桑原有寿子	18人
7	1月13日	徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度	学芸部企画課特別展室長　川畑　憲子	18人
8	1月26日	X線CT調査報告―楽器の音と形の関係について―	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　渡辺祐基	15人
9	2月2日	南蛮風―流行は長崎発―	学芸部企画課アソシエイトフェロー　杉田　真菜	20人
10	2月16日	いろいろなお姿の天神さま	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	49人
11	3月2日	本物の文化財とは？　　西洋の考え方、東洋の考え方とテセウスの船	学芸部博物館科学課長　木川　りか	21人
12	3月16日	天神縁起の世界	学芸部文化財課資料管理室長　森實　久美子	51人
13	3月30日	観世音寺の鐘	学芸部企画課研究員　望月　則史	17人

4)　その他展示に関連するイベント

1回　　6人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）	備考
1	文化交流展	3年3月13日	絹の体験教室「KURUKURU SILK」	zoomによるオンライン	6人	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**146回**	**回数計**	**61回**	**回数計**	**23回**	**回数計**	**230回**
	参加者計	**44,633人**	**参加者計**	**7,904人**	**参加者計**	**866人**	**参加者計**	**4,618人**
	体験型プログラム等	129回 44,020人	体験型プログラム等	47回 7,102人	体験型プログラム等	19回 741人	体験型プログラム等	185回 499人
	学校との連携事業	17回 613人	学校との連携事業	14回 802人	学校との連携事業	4回 125人	学校との連携事業	45回 4,119人
	児童生徒を対象とした刊行物	3件 30,000部	児童生徒を対象とした刊行物	4件 122,100部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 8,000部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 2,200部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 43台	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 405台	児童生徒を対象とした音声ガイド	—件 —台

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　129回　　44,020人

①ハンズオン展示等

0回　　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1・2は、新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催場所を閉室した。						
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	0回	0人	
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	0回	0人	

②ワークショップ

56回　　486人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
※1,2,3は新型コロナウィルスの影響を勘案し、中止した。						
1	5月16日	ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦！」	本館地下教育普及スペース	回	—	
2	7月29日	ファミリーワークショップ「おどし体験！」	本館地下教育普及スペース	回	—	
3	10月31日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	回	—	
※4,5,6,7,8は新型コロナウィルスの影響を勘案し、オンライン形式に変更して実施した。						
4	10月31日～11月15日	おうちでワークショップ「トーハクオリジナル！ぬり絵シート」	—	16回	—	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となったキッズデー関連イベントとして実施（回数は、特設ページ公開日数）
5	10月31日～11月15日	おうちでワークショップ「八橋蒔絵螺鈿硯箱をつくろう」	—	16回	319人	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となったキッズデー関連イベントとして実施(回数は特設ページ公開日数、参加者数は、作り方動画の視聴回数)
6	10月31日～11月15日	なりきり！仮装フォトコンテスト	—	16回	15人	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となったキッズデー関連イベントとして実施（回数は、特設ページ公開日数）
7	11月14日、15日	ファミリーワークショップ「なりきり光琳」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	76人	親と子のギャラリー「なりきり日本美術館リターンズ」関連プログラム
8	2月27日、28日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び—立雛を作ろう!—」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	76人	

③その他の体験型プログラム　　— 回　　— 人

④児童生徒を対象とした展示

72回　　43,534人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月27日～12月6日	「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」	本館特別5室、特別4室	36回	26,064人	
2	1月19日～2月28日	「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化」	本館特別4室	36回	17,470人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　　-人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月31日～11月15日	トーハクキッズデーオンライン	―	1回	-人	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となった

2)学校との連携事業　　17回　　613回

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

16回　　610人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	―	15回	608人	新型コロナウイルスの影響で対面プログラムを中止。事前視聴動画+自由見学を13回、オンラインでのプログラムを2回実施
2	1月22日	盲学校のためのスクールプログラム	ボランティア室＋東京都立葛飾盲学校＋Microsooft Teams	1回	2人	1校、新型コロナウイルスの影響で来館が不可になり、オンライン実施した

②出前授業等　　― 回　　― 人

③職場体験

1回　　3人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	2月24日	職場体験の受け入れ	本館地下教育普及スペース＋星美学園中学校＋zoom	1回	3人	新型コロナウイルスの影響で、対面プログラムを中止。1校。学校の希望により、オンライン実施した

④教員を対象とした研修　　0回　　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
※1～3は新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催を中止した。 3は特別展自体が開催とりやめ。						
1	8月20日	「東京国立博物館スクールプログラム・ぶんかつアウトリーチプログラム」	本館地下教育普及スペースほか	0回	0人	
2	10月16日	特別展　「桃山 －天下人の１００年」教員研修	大講堂	0回	0人	
3	1月22日	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」教員研修	大講堂	0回	0人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　3件　　30,000部

	名　　称	発行部数	備　考
1	親と子のギャラリー「なりきり日本美術館リターンズ」ワークシート	20,000部	
2	親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」ワークシート	10,000部	
3	博物館に初もうで　カレンダー	―	新型コロナウイルスの影響により、PDF版のみ公開。

②音声ガイド　　― 件　　― 台

③その他メディア　　― 件　　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　47回　7,102人

①ハンズオン展示等

― 回　― 人

②ワークショップ

46回　6,967人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月23日～9月13日	おたのしみコーナー 「姿から見つける、私の好きな観音さま」	京都国立博物館　平成知新館	46回	6,967人	新型コロナウイルスの影響により中止となった、特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連ワークショップの代わりとして、パネル展示を行い、解説プリント（4言語）、七観音オリジナルぬりえを配布、ウェブサイトにも掲載した。 また中止となったワークショップの一部分を体験できる動画をウェブサイトで公開した。

③その他の体験型プログラム

― 回　― 人

④児童生徒を対象とした展示

― 回　― 人

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　135人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月3日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館　平成知新館	1回	135人	京都市立中学校の生徒（美術部員）を招き，特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」を鑑賞し、作品に対する考えや感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。 講師：京都国立博物館　文化財ソムリエ 主催：京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会 美術部会

2)学校との連携事業　14回　802人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

5回　315人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月19日、10月16日、3年1月22日	京都府立嵯峨野高等学校　2年生	京都国立博物館、京都府立嵯峨野高等学校	3回	14人	「京の文化財」をテーマとした探求活動に係るフィールドワークの受け入れ、活動への助言
2	11月27日	滋賀県立守山高等学校　2年生	京都国立博物館	1回	1人	書跡と博物館教育について、オンラインビデオ通話を用いたインタビュー対応
3	3年1月8日	大谷高等学校　3年生	京都国立博物館	1回	300人	団体見学のための事前の資料提供

②出前授業等

6回　304人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	9月15日	文化財に親しむ授業 京都市立上里小学校　6年生	京都市立上里小学校	1回	41人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	10月9日	文化財に親しむ授業 京都市立醍醐小学校　6年生	京都市立醍醐小学校	1回	55人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、尾形光琳筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	10月27日	文化財に親しむ授業 京都市立向島小学校　6年生	京都市立向島小学校	1回	33人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、尾形光琳筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	11月24日	文化財に親しむ授業 京都市立正親小学校　6年生	京都市立正親小学校	1回	37人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	12月14日	文化財に親しむ授業 京都市立栗陵中学校　3年生	京都市立栗陵中学校	1回	102人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、尾形光琳筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	12月21日	文化財に親しむ授業 京都市立御所東小学校　6年生	京都市立御所東小学校	1回	36人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　― 回　― 人

④教員を対象とした研修

― 回　― 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

3回　183人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月23日	京都市立陵ヶ岡小学校　6年生 鑑賞の授業	京都市立陵ヶ岡小学校	1回	61人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	11月9日	京都市立嵐山東小学校　5年生 鑑賞の授業	京都市立嵐山東小学校	1回	50人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
3	3年1月25日	京都市立洛西中学校 1年生 鑑賞の授業	京都市立洛西中学校	1回	72人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

4件　122,100部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「皇室の名宝」関連鑑賞ガイド 「宮廷文化ことはじめ」	（日）56,000部 （英）4,200部 （中）700部 （韓）700部	10月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
2	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」関連鑑賞ガイド「戒律と鑑真さん」	（日）45,000部 （英）1,500部 （中）500部 （韓）500部	3年3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
3	博物館Dictionary No.206,221～223	8,000部	12月、3年2月発行。観覧者（子ども～大人）対象。206号は29年度発行だが、好評により第2版として2,000部印刷。 ウェブサイトにも掲載。
4	子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」	5,000部	3年3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

②音声ガイド　1件　43台

	名　称	台数	備　考
1	名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語）	43台	各言語につき、作品解説など24本作成。12月19日より運用開始。利用台数43台

③その他メディア　4件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんツイッター	—	公式キャラクター「トラりん」のツイッターを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
5	文化財修理の最先端（京博チャンネル）	—	

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　19回　741人

①ハンズオン展示等　— 回　— 回

②ワークショップ

2回　741人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『紙コップで作ろう！鼓』	Youtube	1回	337人	Youtube配信
2	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『動く！おん祭の絵巻！』	Youtube	1回	404人	Youtube配信

③その他の体験型プログラム　— 回　— 人

④児童生徒を対象とした展示　17回　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月24日～11月9日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	17回	—	2019度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　— 回　— 人

2)学校との連携事業　4回　125人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

0回　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月～3月	学校プログラム	講堂・なら仏像館	0回	0人	新型コロナウイルスの感染拡大により中止

②出前授業等　— 回　— 人

③職場体験　　— 回　　— 人

④教員を対象とした研修　　— 回　　— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

4回　　125人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂・なら仏像館	0回	0人	新型コロナウイルスの感染拡大により中止
2	3月15日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分市立判田中学校・なら仏像館	4回	125人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室との連携事業

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　1件　　8,000部

	名　称	発行部数	備　考
1	御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」ジュニアガイド「おしえて!!花ジカせんせい!」	8,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

②音声ガイド　　1件　　405台

	名　称	台数	備　考
1	第72回正倉院展（子供向け）	405台	

③その他メディア　　— 件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　185回　　499人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等

175回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	9月1日～3月31日	おうちdeあじっぱ	あじっぱ	175回	—	展示日数

②ワークショップ　　1回　　6人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	3月13日	絹の体験教室「KURUKURU SILK」	zoomによるオンライン	1回	6人	

③その他の体験型プログラム　　9回　　493人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	11月1日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	太宰府市文化ふれあい館	1回	80人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
2	11月2日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	久留米市立篠山小学校	1回	80人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
3	11月13日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、工作体験、レプリカ触察体験）	大川市立宮前小学校	1回	25人	
4	11月23日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	JR博多シティ屋上つばめの杜広場	1回	150人	
5	11月27日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、工作体験、民族衣装鑑賞）	うきは市立山春小学校（５年生）	1回	25人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
6	12月1日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	大野城市立大野小学校	1回	30人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
7	1月20日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験）	うきは市立山春小学校（２年生）	1回	21人	
8	2月16日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、民族楽器体験）	筑紫野市立筑紫東小学校	1回	82人	
9	2月26日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、民族楽器体験）	那珂川市立岩戸小学校	1回	24人	

④児童生徒を対象とした展示　　0回

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　0回　　0人

2)学校との連携事業　　45回　　4,119人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

― 回　　― 人

②出前授業等

4回　　59人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	12月2日	歴史授業「江戸幕府初期の支配体制の確立」	福岡県大牟田市立宮原中学校	1回	33人	ゲストティーチャーとして研究員1名が授業に参加
2	12月21日、3年1月28日、2月8日	歴史授業「元寇」	富山県小矢部市立蟹谷中学校	3回	26人	文化交流展示室よりリモート授業

③職場体験

― 回　　― 人

④教員を対象とした研修

― 回　　― 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

41回　　4,060人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～3年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	41	4,060人	計56パック

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　1件 2,200部

	名　　称	冊数	備　　考
1	小中学生向け九博紹介冊子	2,200部	

②音声ガイド　　―件　　―台

③その他メディア　　―件　　―回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和3年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人
	大学との連携講座	0 件 0 人	大学との連携講座	1 件 11 人	大学との連携講座	2 件 3 人	大学との連携講座	0 件 0 人
	見学対応	0 回 0 人	見学対応	0 回 0 人	見学対応	0 回 0 人	見学対応	0 回 0 人
	その他	0 回 0 人	その他	20 回 18 人	その他	― 回 ― 人	その他	2 回 84 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、インターンシップ受け入れは中止した。		

2)　大学等との連携講座　　0 件　　0 人

期　　間	月　日～　月　日		
回　　数	0回		
開催場所	平成館大講堂、平成館小講堂、本館地下みどりのライオン、本館2階会議室		
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館学講座」を中止した。		

3)　見学対応　　0 回　　0 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	0 人	学校数	17 大学／　1 専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、見学対応は中止した。		

4)　その他　　0 回　　0 人

期　　間	月　日		
回　　数	0 回		
開催場所	平成館大講堂		
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」を中止した。		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間	中止		
受入部署			
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て開催される予定であったが、新型コロナウイルスの影響により今年度は中止となった。		

2) 大学等との連携講座　　1 件　　11 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	11 人
担当研究員数	5 人

3) 見学対応　　0 回　　0 人

期　　間	年間		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4) その他　　20 回　　18 人

期　　間	6月17日、6月24日、7月1日、7月8日、7月15日、9月2日、9月8日、9月16日、9月29日、10月7日、10月14日、10月21日、11月4日、11月11日、11月18日、12月1日、12月8日、12月16日、1月12日、2月24日		
回　　数	20 回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	18 人	学校数	8 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

2) 大学等との連携講座　　2 件　　3 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	2 人　（前期1人、後期1人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座（論文審査）
実施日	通年
開催場所	奈良国立博物館
受入人数	1 人
担当研究員数	2 人

3) 見学対応　　0 回　　0 人

期　　間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学／　　専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

【九州国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	人	学校数	大学／　　専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

2) 大学等との連携講座　　0 件　　0 人

内　　容	
実施日	
開催場所	
受入人数	
担当研究員数	

3) 見学対応　　0 回　　0 人

期　　間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4) その他　　2 回　　84 人

期　　間	8月19日～8月23日（5日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	19 人	学校数	14 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	10月23日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	65 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和3年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
61校	33校（※）	28校（※）	21校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数（61校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	10,839人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,177人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学、 文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校）	8,402人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,191人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,681人	20年4月1日	
6	東京大学	35,175人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,456人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学、杉野服飾大学短期大学部、杉野学園ドレスメーカー学院）	1,279人	20年4月1日	
9	大正大学	5,572人	20年4月1日	
10	東海大学	31,695人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,211人	20年4月1日	
12	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校）	606人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,438人	20年4月1日	
14	立教大学	23,504人	20年4月1日	
15	東京都立大学	9,804人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,869人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,962人	20年4月1日	
18	法政大学	39,837人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,359人	20年4月1日	
20	昭和女子大学	6,697人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	5,118人	20年5月1日	
22	東洋大学	34,151人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,195人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部・芸術学研究科）	4,812人	20年6月1日	
25	文教大学	9,552人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,876人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,567人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,880人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,139人	22年4月1日	
30	学習院大学	10,926人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,484人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,279人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	3,414人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,705人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,289人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,840人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,627人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,028人	25年4月1日	
39	中央大学（文学部・文学研究科）	4,317人	25年6月1日	
40	麗澤大学	3,320人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	45,181人	25年8月1日	
42	共立女子大学・共立女子短期大学	5,843人	26年4月1日	
43	成城大学（文芸学部・文学研究科）	1,813人	26年4月1日	
44	日本文化大學	926人	27年4月1日	
45	鶴見大学（文学部・文学研究科）	1,460人	27年5月1日	
46	十文字学園女子大学	3,956人	27年6月1日	
47	早稲田大学	53,881人	27年6月1日	
48	横浜国立大学	10,499人	28年4月1日	
49	國學院大學・國學院大學北海道短期大学部	11,972人	28年4月1日	
50	聖心女子大学	2,800人	28年5月1日	
51	津田塾大学	3,819人	29年8月1日	
52	清泉女子大学	1,979人	29年10月1日	
53	立正大学（文学部）	2,328人	30年4月1日	
54	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	7,132人	30年4月1日	
55	明治大学（文学部・文学研究科）	3,727人	30年5月1日	
56	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	8,521人	31年4月1日	
57	明星大学	9,028人	31年4月1日	
58	宝塚大学	998人	元年5月29日	
59	東洋英和女学院大学	2,581人	元年6月1日	
60	東京理科大学	21,178人	2年4月1日	
61	駒澤大学	16,448人	2年8月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

【京都国立博物館】

① 加入校数（33校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人　瓜生山学園	12,626人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,668人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,686人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	1,295人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人　京都女子学園	6,852人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,154人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	5,628人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	20,605人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	947人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,398人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学 文芸学部・総合文化研究科	2,132人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,766人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,373人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	14,295人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	4,026人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人　同志社	39,337人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	3,865人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,131人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	1,058人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	国立大学法人　京都教育大学	2,225人	20年7月1日	奈良博との共通加入	
21	京都市立芸術大学	1,070人	20年8月1日	京博のみ	
22	国立大学法人　大阪大学	24,483 人	20 年 12 月 1 日	奈良博との共通加入	
23	京都外国語大学　京都外国語大学短期大学	6,600人	21年8月1日	奈良博との共通加入	
24	学校法人　関西大学	33,429人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
25	京都府立大学	2,142人	23年7月1日	京博のみ	29年4月に一時退会、10月に再入会
26	学校法人　京都産業大学	15,332人	24年8月1日	京博のみ	
27	学校法人　立命館	43,721人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
28	学校法人　二本松学院	2,709人	29年4月1日	京博のみ	
29	四天王寺大学 人文社会学部	1,872人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
30	学校法人　関西学院	27,720人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
31	大手前大学	2,843人	30年6月1日	京博のみ	
32	大阪大谷大学	3,119人	30年11月1日	奈良博との共通加入	
33	滋賀大学	3,915人	2年4月1日	京博のみ	

【奈良国立博物館】

①加入校数（28校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,274人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,668人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,681人	18年5月15日	京博との 2 館併用	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	1,117人	18年6月9日	京博との 2 館併用	
5	京都精華大学	3,154人	18年6月28日	京博との 2 館併用	
6	京都橘大学	5,977人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
7	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,555人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
8	京都大学	23,203人	18年8月22日	京博との 2 館併用	
9	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,119人	18年8月24日	京博との 2 館併用	
10	奈良佐保短期大学	276人	18 年 11 月 29 日	奈良博のみ	
11	佛教大学	13,852人	19年4月1日	京博との 2 館併用	
12	奈良大学	4,045人	19 年 5 月 2 日	京博との 2 館併用	
13	京都工芸繊維大学	3,978人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
14	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	38,525人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
15	奈良先端科学技術大学院大学	1,111人	19年11月7日	京博との 2 館併用	
16	就実大学　人文科学部	1,003人	20年4月1日	京博との 2 館併用	
17	天理大学	3,230人	20 年 7 月 1 日	奈良博のみ	
18	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,225人	20年7月1日	京博との 2 館併用	
19	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,283人	20年12月1日	京博との 2 館併用	
20	京都外国語大学、京都外国語短期大学	6,600人	21年8月1日	京博との 2 館併用	
21	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,069人	23年6月1日	京博との 2 館併用	
22	奈良工業高等専門学校	1,115人	23年7月1日	奈良博のみ	
23	立命館大学	36,691人	26年4月1日	京博との 2 館併用	
24	京都女子大学	6,832人	29年4月1日	京博との 2 館併用	
25	四天王寺大学　人文・社会学部	1,833人	29年5月1日	京博との 2 館併用	
26	学校法人　関西学院	27,325人	30年4月1日	京博との 2 館併用	
27	大阪大谷大学	3,036人	30年11月1日	京博との 2 館併用	
28	奈良県立大学	657人	2年6月1日	奈良博のみ	

【九州国立博物館】

① 加入校数（21校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	筑紫女学園大学	2,565人	19年4月1日	
4	福岡教育大学	3,000人	19年4月1日	
5	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
6	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
7	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
8	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
9	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
10	筑紫女学園高等学校	1,513人	19年4月1日	
11	筑紫台高等学校	1,587人	19年4月1日	
12	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
13	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,508人	19年5月1日	
15	九州大学	18,973人	20年5月1日	
16	九州情報大学	440人	21年4月1日	
17	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,083人	21年5月1日	
18	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
19	福岡工業大学	4,452人	2年10月1日	
20	福岡工業大学短期大学部	374人	2年10月1日	
21	福岡工業大学附属城東高等学校	1,992人	2年10月1日	

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 中止		
京都国立博物館 12 月 23 日(水) 9：30～17：00	○参加者数　68 人《38 人》 留学生　68 人《38 人》 ・名品ギャラリー（平常展示）観覧料無料 ・公式キャラクター「トラりん」ノベルティグッズプレゼント ・キャンパスメンバーズ対象講演会の開放	・留学生アンケート回答者数 17 人 （回収率 25%） ・来館頻度：来たことがある 29% ・「留学生の日」参加：初めて 100% ・認知経路：ポスター・チラシを見て 16%、HP を見て 6%、チラシをもらって 6%、友人・教師 72%　他 0% ・展示内容：とても良かった 65%、良かった 35%、普通以下 0% ・出身国：中国 76%、台湾 12%、韓国 6%、インドネシア 6%
奈良国立博物館 11 月 28 日(土) 9：30～17:00	○来館者数　196 人《12,175 人》 留学生　0 人《71 人》 ・「名品展」の無料観覧 ・留学生の日関連イベント「英語落語 in 奈良博」を実施	・留学生アンケート回答者数 0 人
九州国立博物館 11 月 3 日(火・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　814 人《1,867 人》 留学生　8 人《8 人》 令和 2 年度留学生イベント 「チャレンジ文化交流展クイズ王！」 参加者 6 人 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・令和 2 年度留学生イベント 「チャレンジ文化交流展クイズ王！」	・留学生アンケート回答者数 6 人（回収率 75%） ・出身国：中国 1 人、イラン 1 人、アメリカ 2 人、アイルランド 1 人、オーストラリア 1 人 ・来館回数：1 回 4 人、2 回 2 人 ・認知経路（複数回答）：ホームページ 1 人、学校から 1 人、友達から 4 人、留学生イベントをきっかけに知った 2 人 ・満足度（文化交流展）とてもよかった 6 人 ・留学生イベントの流れやスタッフの対応：とてもよかった 6 人 ※アンケートは「チャレンジ文化交流展クイズ王！」参加者のみから回収。

＊来館者数、参加者数等：《　》内は令和元年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会(29年4月1日改定)　　令和3年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	1,772 人	8,000 円
九州国立博物館	59 人	10,000 円

メンバーズプレミアムパス(29年4月1日より新設)　　令和3年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (5,000 円)	一般 (3,100 円)	学生 (3,500 円)	学生 (3,000 円)	学生 (2,100 円)	家族 (10,000 円)
東京国立博物館	8,132 人	7,969 人	−	163 人	−	−	−
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	1,285 人	1,260 人	−	−	22 人	−	3 人
九州国立博物館	2,300 人	−	874 人	−	−	1,426 人	−

国立博物館メンバーズパス（４館共通/29年4月1日より新設） 令和3年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (2,000 円)	学生 (1,000 円)
東京国立博物館	1,926 人	1,867 人	59 人
京都国立博物館	489 人	462 人	27 人
奈良国立博物館	166 人	153 人	13 人
九州国立博物館	52 人	50 人	2 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券6枚贈呈、総合文化展招待券6枚贈呈、『東京国立博物館ニュース』送付、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券8枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
②『奈良国立博物館展示案内』（年1回）の配布
③当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
④当館レストランでの飲食料金の割引
⑤近隣他館の入館料金割引または無料
⑥当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施
・8月5日（水）　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」
特別鑑賞会　参加人数　77人
・10月27日（火）　特別展「第72回正倉院展」
特別鑑賞会　参加人数　90人

【九州国立博物館】

①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は２回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和3年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		(一般社団法人 清風会)	(ﾐｭｰｼﾞｱﾑ･ ﾊﾟｰﾄﾅｰ)		
件数	588件	452件	8件	89件	49件
内訳	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員(個人):5人 特別会員(団体):20団体 特別会員(個人):16人 維持会員(団体):32団体 維持会員(個人):515人	賛助会員(団体):32団体 特別会員(団体):26団体 特別会員(個人):40人 普通会員(団体):20団体 普通会員(個人):334人	団体会員:7 件 個人会員:1 件	特別支援会員:2団体 特別会員:4団体 一般会員(団体):16団体 一般会員(個人):67人	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員(個人):1人 特別会員(個人):4人 維持会員(個人):21人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員(団体):1団体 特別会員(団体):1団体 維持会員(団体):21団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（維持会員及び特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館カレンダー』（年1回）の贈呈
⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑥当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑦当館レストランでの飲食料金の割引
⑧当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・8月4日（火） 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」
特別鑑賞会 参加人数 30人
・10月26日（月） 特別展「第72回正倉院展」
特別鑑賞会 参加人数 88人

【九州国立博物館】

①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和 3 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1）会場提供　0 件

2）館主催・協力イベント　9 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	7 月 11 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	74	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
2	9 月 22 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	87	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
3	10 月 30 日～ 11 月 3 日	イベント	創エネ･あかりパーク 2020 に伴うライトアップ	本館前庭	―	主催：「創エネ・あかりパーク 2020」実行委員会 協力：東京国立博物館
4	12 月 13 日	音楽会	東京国立博物館　クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	62	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
5	3 年 3 月 12 日～4 月 11 日	イベント	Daiwa Sakura Aid 写真展	平成館ガイダンスルーム	―	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
6	3 年 3 月 12 日、13 日 4 月 3 日、4 日	音楽会	Daiwa Sakura Aid コンサート	平成館エントランス、表慶館前、本館軒下	650	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
7	3 年 3 月 23 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2021「東博でバッハ vol.50」大萩康司	法隆寺宝物館	50	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
8	3 年 3 月 29 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2021「東博でバッハ vol.52」木越洋	平成館ラウンジ	60	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
9	3 年 3 月 30 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2021「東博でバッハ vol.53」菊池洋子	平成館ラウンジ	70	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館

【京都国立博物館】

1）会場提供　　23 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 3 日、6 日	研修会	従事者研修	研修室、会議室	40	
2	6 月 27 日､7 月 11 日	茶道教室	茶道教室	茶室	10	
3	7 月 17 日	研修会	修理技術者資格制度 中級･上級講習会､新任者研究会、試験準備委員会	研修室、会議室	30	
4	7 月 22 日～9 月 13 日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	15	
5	7 月 22 日～9 月 13 日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	25	
6	8 月 13 日	茶道教室	茶道教室	茶室	10	
7	8 月 24 日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室 1	414	
8	9 月 2 日	研修会	修理技術者資格制度 試験準備委員会	研修室	11	
9	9 月 7 日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室 1	339	
10	9 月 25 日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師/技師長第 1 次試験	研修室、会議室	19	
11	10 月 5 日	研修会	従事者研修	会議室	25	
12	10 月 9 日～11 月 23 日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	25	
13	10 月 9 日～11 月 23 日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	35	
14	10 月 10 日、11 日	イベント	臨時出張所開催（切手等販売所）	グランドロビー、接客室２、接客室３	4	
15	10 月 30 日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師/技師長第 2 次試験	研修室、会議室	19	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
16	11 月 16 日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会・講演会	講堂、展示室、接客室 1	274	
17	11 月 27 日、28 日	研修会	修理技術者資格制度　初級講習会	研修室、会議室	10	
18	11 月 29 日	結婚式	結婚式	明治古都館	60	
19	12 月 1 日～7 日	イベント	美術市（アートフェア）の実施	本館（玄関ホール・中央ホール・展示室）、敷地（本館前広場、南門エントランス、噴水前広場）、茶室、講堂、大型バス駐車場	1,742	
20	12 月 20 日	講演会	協賛社特別鑑賞会の講演会場	講堂	134	
21	12 月 21 日	イベント	京都アートツアー内での博物館貸切鑑賞	展示室、講堂、大型バス駐車場	20	
22	3 年 1 月 29 日～1 月 31 日	イベント	茶会及び染織文化財の鑑賞・解説	茶室	20	
23	3 年 3 月 15 日	研修会	会場運営従事者研修	講堂	55	

2)　館主催・協力イベント　　17 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	7 月 23 日	講演会	記念講演会「西国巡礼　慈悲の道」	講堂	100	特別展「西国三十三所 草創 1300 年記念 聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連イベント
2	8 月 1 日	コンサート	いのち奏でるコンサート＆トーク	明治古都館	50	主催：いのち奏でるコンサート　共催：当館
3	8 月 3 日	イベント	記者体験 in 京都国立博物館	講堂	135	中学生 110 名、引率教員 16 名、市教委 9 名
4	8 月 8 日	講演会	記念講演会「資料からみる西国三十三所」	講堂	100	特別展「西国三十三所 草創 1300 年記念 聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連イベント
5	8 月 22 日	講演会	記念講演会「西国三十三所、観音めぐり」	講堂	100	同上
6	8 月 29 日	講演会	記念講演会「信仰の息づく霊地―那智山経塚出土の立体曼荼羅―」	講堂	100	同上
7	9 月 5 日	講演会	記念講演会「経典にみる観音菩薩」	講堂	100	同上
8	9 月 5 日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	34	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
9	9 月 18 日	イベント	京都・らくご博物館（秋）	講堂	96	主催：当館　制作協力：米朝事務所
10	10 月 10 日	講演会	記念講演会「宮廷と日本文化―雅な文化、その継承のこころ」	講堂	100	特別展「御即位記念　皇室の名宝」関連イベント
11	10 月 17 日	講演会	記念講演会「皇室に伝わった絵巻の至宝―春日権現験記絵を中心に―」	講堂	95	同上
12	10 月 24 日	講演会	記念講演会「皇室を彩る絵画―旧桂宮家伝来品を中心に―」	講堂	95	同上
13	10 月 24 日、25 日	イベント	秋の華道	茶室	38	主催：当館　協力：池坊華道会
14	10 月 31 日	講演会	記念講演会「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来―“禁裏御物”と諸家献上―」	講堂	97	特別展「御即位記念　皇室の名宝」関連イベント
15	11 月 7 日	講演会	記念講演会「伏見天皇と「屏風土代」―天皇の書風形成―」	講堂	96	同上
16	11 月 14 日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	34	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
17	11 月 14 日	講演会	記念講演会「御所をめぐる色とかたち」	講堂	144	特別展「御即位記念　皇室の名宝」関連イベント

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　　22 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 4 日	撮影	ウェディングフォト	茶室・仏美センター・応接室	6	Wakana style + 峪口治恵
2	毎週木曜日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため 史跡探訪部講座開催のため	講堂	各回 120 各回 50 総合計 1,000	奈良シニア大学　森田緑
3	7 月 4 日	撮影	VR・ドローン撮影	仏美センター	4	太陽企画（株）
4	9 月 30 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	Studio TVB 奈良店
5	10 月 1 日	祭事	秋祭り	敷地内	60	氷室神社
6	10 月 12 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	Studio TVB 奈良店
7	10 月 14 日	写生	小学生の写生会授業	敷地内	84	奈良育英小学校
8	10 月 19 日, 21 日, 26 日, 29 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	(株)トライアングル
9	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	―	(財)仏教美術協会
10	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	―	㈲日本クリーンシステムズ
11	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	校倉な会
12	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	なら和み館
13	11 月 3 日	イベント	秋の天平行列　東大寺参詣行列	敷地内	60	平城京天平祭実行委員会
14	11 月 6 日	講座・セミナー	法華寺　講演	会議室	20	法華寺
15	11 月 15 日	イベント	Cornes Osaka Showroom Exclusive Touring to NARA NATIONAL MUSEUM	敷地内	60	(株)ツーアンドフォー
16	11 月 23 日	撮影	ウェディングフォト	茶室、仏美センター	5	Wakana style + 峪口治恵
17	11 月 27 日	茶会	茶会	茶室	10	千葉桂司
18	11 月 29 日	イベント	奈良市ホストタウン事業「コトロゲ 2020」	敷地内	300	奈良市ポイント運営事務局
19	12 月 17 日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	―	春日大社
20	2 月 19 日	講座・セミナー	見学勉強会	仏美センター	16	王寺町教育委員会文化交流課文化福祉センター
21	3 月 19 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
22	3 月 31 日	撮影	雑誌「週刊新潮」の撮影	敷地内	5	新潮社　八尾久男

2) 館主催・協力イベント　　24 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	6 月 9 日～9 月 7 日	展示	唐招提寺の蓮展示	敷地内の池	－	
2	7 月 6 日	法要	夏季仏像供養	なら仏像館	20	関係者のみ
3	8 月 4 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	30	
4	8 月 5 日	鑑賞会	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	77	
5	9 月 14 日	法要	秋季仏像供養	なら仏像館	－	
6	10 月 26 日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂	88	
7	10 月 24 日～11 月 9 日	展示	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館 1F ロビー	―	
8	10 月 27 日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	90	
9	11 月 14 日、15 日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	1,847	
10	11 月 28 日	特別観覧	留学生の日	展示室	0	
11	11 月 28 日	イベント	英語落語	講堂	63	
12	12 月 7 日	法要	冬季仏像供養	なら仏像館	20	関係者のみ
13	12 月 9 日～1 月 17 日	展示	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	－	
14	12 月 9 日～1 月 17 日	イベント	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭『紙コップで作ろう！鼓』	You Tube	337	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
15	12月9日～1月17日	イベント	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち　de　おん祭『動く！おん祭の絵巻！』	You Tube	404	
16	12月17日	茶会	おん祭「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	80	主催：裏千家　泉本宗悠
17	1月2日、3日、5日	特別鑑賞	おん祭展　無料チラシ配布	春日大社境内	688	
18	1月8日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	70	
19	2月6日～3月21日	展示	お水取り展　修二会お松明展示	展示室	―	
20	2月22日	法要	特別公開「金峯山寺　金剛力士立像」法要	なら仏像館	104	
21	2月28日	イベント	奈良国立博物館・特別陳列「お水取り」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	28,927	
22	3月8日	イベント	奈良国立博物館・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」＆なら仏像館・特別公開「金峯山寺 金剛力士立像」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	21,094	
23	3月10日～3月12日	特別鑑賞	お水取り展　無料チラシ配布	東大寺境内	583	
24	3月20日	イベント	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	39	

【九州国立博物館】

1）会場提供　0件（イベント、講演会等）

2）　館主催・協力イベント　18件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	9月3日～13日	イベント	第71回太宰府天満宮七夕揮ごう大会	エントランスカフェ前	－	主催：（公財）太宰府顕彰会
2	10月23日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランスカフェ前	65	主催：九州国立博物館
3	11月3日	イベント	第11回留学生イベント 留学生向け「チャレンジ！クイズ王」	文化交流展示室	6	主催：九州国立博物館
4	11月13日～29日	イベント	宮地嶽第53回光の道全国競書大会	エントランスカフェ前	－	主催：宮地嶽光の道全国競書大会実行委員会
5	11月25日～3年1月11日	展示	開館15周年記念特別企画 「九博を彩った博多祇園山笠」	特別展示室前ロビー	－	主催：九州国立博物館、福岡県
6	3年1月13日～17日	展示	第36回筑紫地区中学校美術展	エントランス	－	主催：筑紫地区中学校美術教育研究会
7	3年1月3日	コンサート	弦楽四重奏ニューイヤーコンサート	ミュージアムホール前	130	主催：九州国立博物館
8	3年2月6日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	140	主催：九州国立博物館
9	3年2月13日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	130	主催：九州国立博物館
10	3年2月20日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	170	主催：九州国立博物館
11	3年2月27日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	140	主催：九州国立博物館
12	3年3月2日～14日	展示	ユネスコ無形文化財「伝統建築工匠の技」パネル展示	ミュージアムホール前	－	主催：文化庁・(独)日本芸術文化振興会・(株)NHKプロモーション
13	3年3月6日	イベント	手話通訳付きオンラインバックヤードツアー	ZOOMによるオンライン開催	24	主催：九州国立博物館
14	3年3月13日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	130	主催：九州国立博物館
15	3年3月13日	イベント	ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK」	ZOOMによるオンライン開催	6	主催：九州国立博物館
16	3年3月20日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	110	主催：九州国立博物館
17	3年3月27日	コンサート	九博春の桜コンサート	屋外レストラン前広場	300	主催：九州国立博物館
18	3年3月28日	コンサート	九博春の桜コンサート	カフェエリア	170	主催：九州国立博物館

※以下に記載するイベントについては新型コロナウイルスの影響により中止

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
19	4月4日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	中止	主催：九州国立博物館
20	4月18日	イベント	スケッチしナイト☆どうぶつえんスペシャル	文化交流展示室	中止	主催：九州国立博物館
21	4月19日	講演会	講演会「どうぶつたちとくらそうーペットは一緒に、野生動物は地球規模でー」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
22	4月25日	講演会	特別展「古代エジプト展」関連記念講演会 「太宰府とライデン：学問の地から探る古代エジプト文明の世界」	ミュージアムホール	中止	主催：九州国立博物館
23	5月3日	イベント	きゅーはくにどうぶつたちがやってくる！ 「モルモット・ウサギとのふれあい、えさやり体験」 「動物のお医者さんと飼育相談」 トークショー「どうぶつとのくらし、むかしもいまも」	屋外	中止	主催：九州国立博物館
24	5月3日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	中止	主催：九州国立博物館
25	5月4日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント 古代エジプトのやきものを作ってみよう！	研修室	中止	主催：九州国立博物館
26	5月5日、6日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント ミイラ作り体験教室	研修室	中止	主催：九州国立博物館
27	5月9日	イベント	第87回はじめての茶道体験	茶室	中止	主催：九州国立博物館
28	5月9日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	中止	主催：九州国立博物館
29	5月23日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第1回「水と祈り」 「風水思想と古墳・都市」 「水辺の祭祀」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
30	5月24日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント ナイトミュージアム	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
31	5月31日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント ナイトミュージアム	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
32	5月31日	イベント	第93回親子で茶道体験	茶室	中止	主催：九州国立博物館
33	6月1日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント 視覚に障がいをお持ちの方に向けた 特別展「古代エジプト展」観覧ツアー	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
34	6月4日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント 視覚に障がいをお持ちの方に向けた 特別展「古代エジプト展」観覧ツアー	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
35	6月6日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	中止	主催：九州国立博物館
36	6月20日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第2回「水がつなげる」 「交流の島・対馬の仏」 「航路でつなげる信仰」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
37	7月11日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第3回「水を制する」 「水制の技術と思想」 「水制工と信仰」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
38	8月8日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第4回「水で守る」 「基肄城跡と水門」 「古代山城の水資源」	研修室	中止	主催：九州国立博物館

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和3年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		2年度新規	総数	2年度新規	総数	2年度新規	総数	2年度新規	総数
写真原板(フィルム)		64件	323,941件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		5,726件	119,831件	6,319件	49,211件	1,835件	59,097件	3525件	28532件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	3,867冊	216,456冊	747冊	154,203冊	1,476冊	93,378冊	5,262冊	198,781冊
	漢書	216冊	41,218冊	9冊	22,312冊	45冊	5,346冊	0冊	0冊
	洋書	129冊	14,924冊	58冊	4,820冊	34冊	2,071冊	102冊	2,933冊
	計	4,212冊	272,598冊	814冊	181,335冊	1,555冊	100,795冊	5,364冊	201,714冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

*1 マイクロフィルムは劣化(ビネガーシンドローム)のため、30年度に59件を廃棄（デジタル化済）

*2 館外に別置しシステムに登録していなかった図書（70,312冊）も加えた。30年度に増えた和書は5,068冊、洋書は108冊の計5,176冊である。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
利用者数	4,730人	4,971人	4,616人	4,080人	1,219人
閉架図書（閲覧）	4,862件	4,905件	5,314件	4,649件	4,151件
マイクロフィルム（閲覧）	588件	502件	456件	398件	507件
レファレンスサービス	5,014件	4,861件	5,113件	5,152件	1,954件
コピーサービス	30,818枚	30,066枚	33,832枚	27,286枚	23,331枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和3年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	163	9	154	57	0	57	26	6	20	28	2	26	52	1	51
写真撮影	50	6	44	0	0	0	10	4	6	14	1	13	26	1	25
映画撮影	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0		1	0	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	4	1	3	2	0	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	107	1	106	55	0	55	15	1	14	12	0	12	25	0	25

点数

令和3年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	695	40	655	319	0	319	104	20	84	98	19	79	174	1	173
写真撮影	182	29	153	0	0	0	39	10	29	56	18	38	87	1	86
映画撮影	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	1	1	0	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	9	5	4	2	0	2	5	5	0	2	0	2	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	502	5	497	317	0	317	60	5	55	39	0	39	86	0	86

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和3年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	948	643	305				498	388	110	326	191	135	17	5	12
		カラー													107	59	48
	プリントでの提供	モノクロ	38	33	5				37	33	4	1	0	1			
		カラー	2	0	2				0	0	0	2	0	2			
画像再利用			137	101	36							132	98	34	5	3	2

点数

令和3年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	3,982	1,542	2,440				1,892	967	925	1,580	424	1,156	78	6	72
		カラー													432	145	287
	プリントでの提供	モノクロ	93	60	33				84	60	24	9	0	9			
		カラー	149	0	149				0	0	0	149	0	149			
画像再利用			304	194	110							284	190	94	20	4	16

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・〈冬木小袖〉ミク　コラボレーショングッズ制作

会期	6月30日(火)～
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	〈冬木小袖〉修理プロジェクトの一環として実施
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約5,000件、館内・グッズ制作会社にて配布
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	協賛企業にてオフィシャルECサイト制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	ラジオ文化放送地上波(7月5日放送)
雑誌	―
インターネットメディア	和楽WEB
その他	本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。

・高精細複製品によるあたらしい屏風体験「国宝 花下遊楽図屏風」

会期	7月1日(水)～2日(木)
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	キヤノン(株)綴プロジェクトによる高精細複製品を活用。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として作成配布。
交通広告	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として実施。
新聞・雑誌広告	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として実施。
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として掲載。
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	この展示は、特別展「体感！日本の伝統芸能」（2年3月10日～5月24日／主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、東京国立博物館、文化財活用センター、読売新聞社）の一部として企画されたが、新型コロナウイルス感染防止のため、同展が開催中止となったことに伴い、本コーナーのみ、体験モニターに限定して公開することとなった。 本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、日本経済新聞、産経新聞、時事通信
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	excite.ニュース、MdN Design Interactive、わつなぎ、和楽WEBなど、計60媒体
その他	

・寄附ポータルサイト

会期	8月7日(金)～
ターゲット	一般の美術愛好者
重点項目	―
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計3回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。

・びじゅチューン！× ちばしび　なりきり美術館

会期	7月11日(土)～9月6日(日)
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	インターネットミュージアム
その他	―

・日本文化紹介映像「A GLIDE ON THE GREAT WAVE ～Experience Japanese Culture at TNM～」

会期	7月1日（水）～3年3月28日（日）（191日間）
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	文化財活用センターウェブサイトにて動画を先行公開
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―

「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計3回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	ひらがなタイムズ
インターネットメディア	ウォーカープラス、Ameba News、LINEニュースほか、計60媒体
その他	―

・8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」

会期	7月29日（水）～8月2日（日）、11月10日（火）～23日（月・祝）（18日間）
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつ・東博ウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計7回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	プレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日経新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	共同通信、マイナビニュース、AV watch、和楽WEBほか50媒体
その他	―

・東京国立博物館所蔵の名品から複製きものが完成

会期	11月23日（月・祝）
ターゲット	一般の美術・歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	文化財活用センター公開シンポジウム初開催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内で来館者に配布（チラシ）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計4回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	朝日新聞デジタル&M 、読売新聞オンライン、ニコニコニュース 、SankeiBiz 、SANSPO.COM ほか、計55媒体
その他	SNS関連掲載約20件

・親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」

会期	10月27日（火）～12月6日（日）
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	家族向け、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約30,000件、ポスター約50件、関係企業配布、館内配布
交通広告	上野駅デジタルサイネージ（11月1日～30日）、鶯谷駅ポスター（10月26日～11月8日）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計24回、ぶんかつブログ計4本
その他	アットPressによるプレスリリース配信、報道内覧会実施（10月26日）、SNS(Twitter/Instagram)広告（10月26日～11月9日）、特設ページ開設、おうちコンテンツ動画制作8本、なりきり仮装フォトコンテスト開催
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	NHKおでかけ情報、NHKアートシーン（11月29日放送）
雑誌	月刊うえの
インターネットメディア	インターエデュ、ウェブ美術手帖、わつなぎ、るるぶKids、オリコンニュース、イベントマガジンBANZAI、シミズオクト実績ページ、ほか、計78 媒体
その他	文化庁広報誌ぶんかる、パナソニック導入実例紹介

・2年度東京国立博物館収蔵品貸与促進事業実施について

会期	9月26日（土）～3年5月5日（水・祝）（全国5施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	開催会場に貸与促進事業の説明及び年間の事業実施会場について掲載したパネルを掲出
交通広告	―
新聞・雑誌広告	Artscape(有料記事掲載)
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計1回、ぶんかつブログでの紹介
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術の窓』（1月号）
インターネットメディア	LINEニュース、朝日新聞デジタル&M、読売新聞オンライン、BIGLOBEニュース 、@nifty ビジネス、Web版美術手帖ほか、計50 媒体
その他	

・2年度貸与促進事業　九州歴史資料館　開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」

会期	10月6日(火)～11月29日(日)
ターゲット	古美術愛好者、考古愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	（※）は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	
交通広告	西鉄電車主要駅（26駅）でのポスター掲示（9月28日～11月30日）（※）
新聞・雑誌広告	

テレビ広告	
「東京国立博物館ニュース」掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計3回
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、熊本日日新聞
テレビ、ラジオ	「NHKはっけん」（11月20日、NHK、11:45から約10分）、NHKラジオ（スポット告知）複数回
雑誌	
インターネットメディア	
その他	

・びじゅチューン！× OPAM　なりきり美術館

会期	3年2月19日(金)～5月9日(日)
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	家族向け
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター館内掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計8回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	大分合同新聞計7回、読売新聞大分版
テレビ、ラジオ	NHK大分
雑誌	―
インターネットメディア	大分経済新聞WEB版、ウォーカープラス他
その他	大分県芸術文化スポーツ振興財団広報誌掲載2回

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・【中止】「博物館でお花見を」

会期	2年3月10日(火)～4月5日(日) 27日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミ及びインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,311件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	交通広告（B1駅貼り）：JR（上野・鶯谷)、東京メトロ(表参道、銀座駅、六本木駅、新宿駅、九段下、竹橋)、東急(中目黒駅、自由が丘駅、武蔵小杉駅、二子玉川駅) 交通広告（サイネージ）：東京駅一番街、新宿駅東口、六本木駅、秋葉原駅 ※臨時休館による、訂正シール貼り、データ差替作業を実施
新聞・雑誌広告	※臨時休館により掲載を取りやめ
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	@Pressによるリリース配信、LIVEJAPN（インバウンド向け情報発信サイト）へのイベント記事出稿（日本語・英語）

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	ノジュール2月号、春walker首都圏版、「婦人画報」4月号
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、オズモール、ママともプラス、インターネットミュージアム、ファッションプレス、MdN Design Interactive、モモモサーバー、ウォーカープラス　ほか
その他	※開催できなかったクイズラリーを紹介する動画を広報室で内製しYouTubeチャンネルに公開

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月8日（火） ～ 10月11日（日）(34日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、チラシ・ポスター等の印刷物は制作見送り
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	ツイッター・フェイスブック・インスタグラムでの広告配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	全東京新聞、東洋経済日報社
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	―
インターネットメディア	ウェブ版美術手帖、ファッションプレス、Walkerplus、モモモサーバー、月刊うえのWEB版8・9月合併号
その他	―

・「博物館に初もうで」

会期	3年1月2日（土）～1月31日（日）（30日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミ及びインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	池袋中央改札、新宿駅東口・南口・甲州街道改札、渋谷駅ハチ公口、高輪ゲートウェイ駅、東京駅新幹線北乗換口、高田馬場駅スマイルステーションビジョン、新橋駅南改札、横浜駅中央通路・南改札内、桜木町駅、浦和駅、大宮駅中央改札、品川駅中央改札、上野駅公園改札内、巣鴨駅、吉祥寺駅、横浜タワーアトリウム、東京駅丸の内地下中央通路・京葉通路、秋葉原新電気街口
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信、SNS広告など
その他	SNS広告、Yahoo!スマートフォン用広告、@Pressによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術手帖、婦人画報、冬ぴあ　ほか
インターネットメディア	ニコニコ動画、ファッションプレス、美術手帖、モモサーバー、インターネットミュージアム、レッツエンジョイほか
その他	―

・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」

会期	3年1月19日（火）～2月28日（日）（41日間）
ターゲット	小学生などの子どもとその親、若年層、外国人
重点項目	お子さんのいる家族向け媒体、インターネット媒体、SNSを通しての情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	上野駅デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	ツイッター広告（@Press配信）、@Pressによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	ひらがなタイムズ、月刊うえの ほか
インターネットメディア	日経DUAL、OBIKAKE、kodomoe ほか
その他	―

(2) 特別展、共催展等

・【中止】特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」

会期	2年3月13日（金）～5月10日（日）（59日間）
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,000件(美術館・博物館、古美術骨董、各種教室等)に送付、館内配布
交通広告	JR東日本SWハーフ、JR上野駅ホーム前3×4mボード、東京メトロUボードゴールド、京王電鉄駅貼り、東武鉄道日比谷線・半蔵門線乗り入れドア横、JR上野駅ADビジョン、上野さくらテラス柱巻シート　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞にて展開
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞社、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック・ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、共同通信、日本経済新聞、秋田魁新報、上毛新聞社、茨城新聞社、河北新報社、埼玉新聞社、陸奥新報社ほか
テレビ、ラジオ	テレビ東京 「新美の巨人たち」（3/21放映）、NHK BS8K「国宝　百済観音の美」（4/12,19放映)、NHKEテレ「日曜美術館　法隆寺の至宝～金堂壁画をよみがえらせた人々～」（4/12放映）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（4/28放映）
雑誌	「芸術新潮」（2019年12月号）、「和楽」(12-1月号・4-5月号)、「東京ミュージアムBOOK」（1月発売）、「美術展ぴあ」(1月号)、「一個人」(1月号)、「サライ」(2月号)、「時空旅人」(2月号)、「美術の窓」(2月号)、「ホビージャパン」(2月号)、「フィギュア王」(2月号)、「エクラ」(4月号)、「STORY」(4月号)、「婦人画報」(4月号)、「Discover Japan」(4月号)、「ミセス」(4月号)　ほか
インターネットメディア	美術手帖、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京、TimeOut、EYEAi、和楽WEB、大仙市ホームページ、Withnews、レッツ・エンジョイ東京、美術手帖オンライン、リビング東京WEB、イーヒルズ　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	元年9月24日（平成館大講堂）
人数等	85名出席
④報道内覧会	
実施日	3月16日（月）
人数等	199名出席（木村多江氏取材会も含む）

・【会期変更】特別展「きもの　KIMONO」

会期	6月30日（火） ～ 8月23日（日）（55日間）
ターゲット	きもの愛好家、ファッション関係者、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会期変更
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件(美術館、博物館、美術団体・ギャラリー、きもの教室・呉服店、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	JR上野駅ホーム向かいボード、JR東日本SWボード、東京メトロ表参道駅ADボード、私鉄5社フレコミボード（東急・小田急・京王・相鉄・京急の43駅）、東急線横浜駅メガセット（ボード）、京王線駅貼りB1ポスター、京王線電車内中吊りB3ポスター、京王線新宿駅ステラボード、上野エリアフラッグ
新聞・雑誌広告	朝日新聞、「おかずのクッキング」（227号・3月21日発売）
テレビ広告	テレビ朝日事業スポット、番組内PRロール（昼帯ドラマ枠）
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞、テレビ朝日)ウェブサイトでの紹介・バナー告知 SNS:公式ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	・ツイッター、フェイスブック、インスタグラム出稿（新会期情報告知など） ・テレ朝動画、Tver、GYAO！、AbemaTV、六本木ヒルズアリーナビジョンでスポット放映 ・本展広報大使IKKO氏と小山工芸室長による見どころ紹介動画「ギャラリートーク」（日本語字幕版/英語字幕版）を制作。トーハクYouTubeチャンネル等で4年度末まで公開予定　ほか
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、共同通信、繊研新聞、世界日報、文化通信、洋装産業新聞　ほか
テレビ、ラジオ	テレビ朝日「モーニングショー」「グッド！モーニング」「スーパーJチャンネル」(6/30放映)、NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」(7/19放映)、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」（7/30放送）ほか
雑誌	「芸術新潮」（2019年12月号・2020年5月号（付録：山﨑零『恋せよキモノ乙女』×きもの展コラボ漫画特別小冊子））、「サライ」(1月号)、「日経おとなのOFF」(1月増刊号)、「美術の窓」（1月号）、「美術展完全ガイド2020」、「目の眼」(4月号)、「和楽」（6-7月号）、「七緒」（春号）、「美しいキモノ」（春号）、「VOGUE JAPAN」（5月号）、「Discover Japan」（4月号）、「AERA」（5/11号）ほか
インターネットメディア	ドワンゴ「ニコニコ美術館」（7/20配信）、ドワンゴ「YOSHIKIチャンネル」（7/25配信）、インターネットミュージアム、美術展ナビ、WEBきものサロン、WEB和樂、サライ.jp、ananWEB、Precious.jp、25ansオンライン、和楽WEB、ファッションプレス、芸術新潮WEB、日経doors、アートアジェンダ ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	元年10月17日（平成館大講堂）
人数等	51媒体　83名出席
④報道内覧会	
実施日	6月29日
人数等	138媒体　218名出席　※IKKO氏取材会14媒体19名

・特別展「工藝2020－自然と美のかたち－」

会期	9月21日（月・祝）～11月15日（日）（56日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約130件（美術館・博物館等）
交通広告	B1ポスター駅貼り上野駅など含む10か所(9/21～最長10/6)、B1ポスター駅貼り乃木坂駅(9/16～11/10)、J-ADビジョン上野駅含む4か所(10月中予定)
新聞・雑誌広告	読売新聞にて展開
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本教育新聞、東京新聞、朝日新聞、東洋経済日報ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術・博物館
雑誌	月刊「ezpress」(10/1刊行)、「美術の窓」(生活の友社・10月号)、「江戸楽」(エー・アール・ティ株式会社・10月号)、月刊「いけ花龍生」(一般社団法人　龍生華道会・10月号)、茶の湯(淡交社・10月号)、日経おとなのOFF(日経BP社・9月号)、芸術新潮(新潮社・9月号)、月刊美術(実業之日本社・10月号)ほか

インターネットメディア	shareart、OBIKAKE、インターネットミュージアム、ArtAgenda、ArtJournal、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	9月20日(日)
人数等	63媒体86名

・特別展「桃山―天下人の100 年」

会期	10月6日（火）～11月29日（日）（55日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ駅看板（丸の内線大手町駅、赤坂見附駅、霞ヶ関駅、日比谷線上野駅、千代田線西日暮里駅）、SSアクセスボード（JR＋小田急など88駅88面）
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞
テレビ広告	日テレ、BS日テレスポット
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター　当館Twitter、Facebook、Instagramでの発信
その他	有楽町ビックビジョン
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHKEテレ「日曜美術館　アートシーン」（10月25日放送）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（11月3日放送）、テレビ東京「新美の巨人たち」（11月7日放送）、J-WAVEほか
雑誌	日経おとなのOFF(日経BP社・9月号)、サライ(小学館・9月号)、Art Journal（アートジャーナル社・9月号)、家庭画報（世界文化社・9月号）、美じょん新報（ビジョン企画出版社・9月号）時空旅人MOOK（三栄・10月発売）STORY（光文社・10月号）、ミセス（文化出版局・11月号）など多数
インターネットメディア	美術手帖WEB、レッツエンジョイ東京、モモモサーバー、インターネットミュージアム、美術展ナビ、和楽WEBなど多数
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	10月5日（月）
人数等	145媒体199名

・特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」

会期	12月24日（木）～3年2月21日（日）（60日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,504件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	デジタルサイネージ(12月～3年1月　JR上野駅、12月JR新宿駅)、ポスター駅貼り(12月東京メトロ主要駅、3年1月)
新聞・雑誌広告	読売新聞ほか
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社
テレビ、ラジオ	調布エフエム放送「ゆうがた5」、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」
雑誌	2021年絶対に見逃せない美術展、週刊文春 12月24日号、ディティール1月号、美術の窓1月号、月刊美術1月号、江戸楽1月号、日経サイエンス 2月号、新建築 1月号ほか
インターネットメディア	Jタウンネット東京都、Tokyo Weekender、au webポータル、Yahoo!ニュース、TimeOut、Internet Museum、ニコニコ生放送「ニコニコ美術館」ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	12月23日(水)
人数等	75媒体96名

【京都国立博物館】
(1)名品ギャラリー（平常展）

・特別企画「文化財修理の最先端」

会期	12月19日（土）～3年1月31日（日）（34日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,846件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事2回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、毎日新聞、読売新聞、中日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）、目の眼（目の眼）　ほか計8件
インターネットメディア	KOBE MEET TRIP、そうだ京都行こう（JR東海）、日本博SNS　ほか計2件
その他	―

・新春特集展示「丑づくし―干支を愛でる―」

会期	12月19日（土）～3年1月31日（日）（34日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	しんぶん赤旗
テレビ、ラジオ	NHK京都放送局
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、おふたいむ（ひでみ企画）　ほか計8件
インターネットメディア	KOBE MEET TRIP、そうだ京都行こう（JR東海）　ほか3件
その他	―

・特別企画「新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―」

会期	3年2月2日（火）～3月7日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、文人画ファン、書道ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示「国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍」

会期	3年2月4日（木）～2月28日（日）（22日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんYouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	3年2月9日（火）～3月7日（日）（24日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」

会期	7月23日（木・祝）～9月13日（日）（46日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、仏像ファン、札所巡りファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか京阪電車主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビ
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事6回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	アートシーン（NHK）
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP社）、芸術新潮（新潮社）　ほか計28件
インターネットメディア	美術手帖Web版（BTCompany）　ほか9件
その他	『日本の聖地』（柵出版）
③報道発表会	
実施日	10月4日（金）
人数等	23媒体、45人出席（場所：読売新聞東京本社）
④報道内覧会	
実施日	7月22日（水）
人数等	40媒体、70人出席

・特別展「皇室の名宝」

会期	10月10日（土）～11月23日（月・祝）（39日間）
ターゲット	皇室ファン、日本美術ファン、若冲ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,100件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅)、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	NHK　スポット枠
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト・ツイッター、共催者（読売新聞社）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞　ほか55件
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）、8K特集（NHK）　ほか5件
雑誌	文藝春秋（文藝春秋）、女性セブン（小学館）、週刊新潮（新潮社）　ほか計88件
インターネットメディア	美術手帖Web版（BTCompany）、Yahoo！ニュース　ほか65件
その他	神姫バスで行くバス旅（神姫観光）　ほか2件
④報道内覧会	
実施日	10月9日（金）
人数等	63媒体、82人出席

・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」

会期	3年3月27日（土）～5月16日（日）（44日間）
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、彫刻ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,100件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか京阪電車)、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、共催者（京都新聞）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP社）、美術展ぴあ　ほか
インターネットメディア	そうだ京都行こう（JR東海）
その他	―
③報道発表会	
実施日	12月18日（金）
人数等	34媒体、39人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	3年3月26日（金）
人数等	―

【奈良国立博物館】
(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	4月1日～12月20日、3年2月23日～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	近鉄奈良駅デジタルサイネージ広告
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、Youtubeで紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	『kita-colleART』、『ライトアッププロムナードならホームページ』、『おでかけカレンダー』、『ニコニコ美術館』
その他	『奈良県修学旅行パンフレット』、

・名品展　「珠玉の仏教美術」

会期	12月8日（火）～3年3月21日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	『kita-colleART』
その他	―

・名品展　特別公開「金峯山寺仁王門　金剛力士立像」

会期	令和3年2月23日（火・祝）～
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『旅の手帖』4月号、
インターネットメディア	―
その他	旅行会社のツアー（天満屋トラベル）

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術　［特集］神鹿の造形」

会期	12月8日（火）～3年1月17日（日）
ターゲット	おん祭（12/17）前後及び年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭（12/17）前後及び年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,750件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	YouTubeで紹介
その他	デジタルサイネージ（県庁、春日野国際フォーラム甍、図書情報館、スイムピア奈良、イオンモール大和郡山、JR王寺駅、西和医療センター、社会福祉総合センター、医大玄関ホール、南奈良総合医療センター、新奈良総合医療センター）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	『朝日新聞』、『新美術新聞・美術館ギャラリーガイド』ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『関西冬ウォーカー』、『近くて、いい旅　電車&ウォーク』12月号、『月刊大和路ならら』12月号、『近鉄ニュース』12月号、『週刊文春』、『yomiっこ』1月号　ほか
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『日本旅行』、『J:COM ZAQおでかけガイド』、『トラベルバリュー（たびゲーター）』、『大東建託 進化する暮らし』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『Walkerplus（KADOKAWA）』、『いこーよ　（子ども向けイベント）』、『シュミカツ！』、『ART AgendA』、『JR西日本おでかけネット』、『じゃらんnet』、『Yahoo!Japan』　ほか
その他	

・特集展示「新たに修理された文化財」

会期	12月22日（火）～3年1月17日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『yomiっこ』1月号ほか
インターネットメディア	―
その他	『アートの旅2021冬新年号』　ほか

・特別陳列「お水取り」

会期	3年2月6日（土）～3月21日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,750件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	YouTubeで紹介
その他	デジタルサイネージ（県庁、春日野国際フォーラム甍、図書情報館、スイムピア奈良、イオンモール大和郡山、JR王寺駅、西和医療センター、社会福祉総合センター、医大玄関ホール、南奈良総合医療センター、新奈良総合医療センター）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『近くて、いい旅　電車&ウォーク』2月号、『近鉄ニュース』2月号、『yomiっこ』1月号　ほか
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『日本旅行』、『J:COM ZAQおでかけガイド』、『トラベルバリュー（たびゲーター）』、『大東建託 進化する暮らし』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『Walkerplus（KADOKAWA）』、『いこーよ　（子ども向けイベント）』、『シュミカツ！』、『神戸観光コンシェルジュ』、『ニコニコ美術館』
その他	『アートの旅2021冬新年号』

・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生」

会期	3年2月6日（土）～3月21日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,800件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、YouTubeで紹介
その他	デジタルサイネージ（県庁、春日野国際フォーラム甍、図書情報館、スイムピア奈良、イオンモール大和郡山、JR王寺駅、西和医療センター、社会福祉総合センター、医大玄関ホール、南奈良総合医療センター、新奈良総合医療センター）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『関西春ウォーカー』、『和樂』2.3月号ほか
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『日本旅行』、『J:COM ZAQおでかけガイド』、『トラベルバリュー（たびゲーター）』、『大東建託 進化する暮らし』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『Walkerplus（KADOKAWA）』、『いこーよ　（子ども向けイベント）』、『シュミカツ！』、『ニコニコ美術館』
その他	『アートの旅2021冬新年号』

(2)特別展、共催展等

特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」

会期	7月4日（土）～9月6日（日）（56日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,700件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	6月29日・7月1日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『月刊目の眼』8月号、『編集サービス』7月号
インターネットメディア	『奈良ぶら』
その他	―
③報道発表会	
実施日	3月3日
人数等	3媒体、3人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月3日
人数等	22媒体、36人出席

・特別展「第72回正倉院展」

会期	10月24日（土）～11月9日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,750件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	10月19日・21日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞、報知新聞　ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』NHK 、『読売テレビ　ニュース』読売テレビ　ほか
雑誌	『月刊　目の眼』10月号、『関西冬ウォーカー　冬遊び』、『婦人画報』10月号、『月刊MAMOR』、『月刊大和路ならら』11月号、『美術の窓』、『JMS』、『フローリスト』ほか
インターネットメディア	『読売新聞オンライン』、『ART AgendA』、『ファッションプレス』、『私版・京都アート情報』、『OBIKAKE（美術展情報サイト）』、『Yahoo!JAPAN』、『JMIRAI』、『JR西日本』、『JR東日本』、『じゃらんnet』、『旅の友』、『ADF Web Magazine』、『るるぶWeb』、『ピアッツァホテル奈良HP』、『日刊webタウン情報ぱーぷる』、『華藝文化』、『神戸観光コンシエルジュ』、『美術展ナビ』　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	
人数等	
実施日	
人数等	
④報道内覧会	
実施日	10月23日
人数等	37媒体、100人出席

【九州国立博物館】
(1)文化交流展（平常展）

・新収品展 開催中止

会期	5月26日（火）～7月5日（日）（36日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、土器等文化財に関心のある一般市民等
重点項目	SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・開館15周年記念特集展示 大宰府史跡指定100年記念 筑紫の神と仏

会期	6月2日（火）～8月30日（日）（79日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、地域の歴史に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	104件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター・Youtube、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	KBC、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび、美術新聞、目の眼、ぐらんざ、ライフさせぼ、遊人、くまもと経済　ほか
インターネットメディア	小学館、財経新聞社、講談社、小倉経済新聞、西日本新聞社、産経デジタル、LINENEWS、プレシデント社、時事通信社、東洋経済新報社、楽天、朝日新聞社、読売新聞社、ドワンゴ、ジョルダン　ほか
その他	―

・特集展示「きゅーはく どうぶつえん」

会期	6月2日（火）～7月12日（日）（36日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、動物好きな一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	102件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター・Youtube、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	KBC、KBCラジオ、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび、美術新聞、目の眼、ぐらんざ、ライフさせぼ、遊人、くまもと経済　ほか
インターネットメディア	小学館、財経新聞社、講談社、小倉経済新聞、西日本新聞社、産経デジタル、LINENEWS、プレシデント社、時事通信社、東洋経済新報社、楽天、朝日新聞社、読売新聞社、ドワンゴ、ジョルダン　ほか
その他	―

・開館15周年記念特集展示 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展 しきしまの大和へ － 奈良大発掘 －

会期	7月28日（火）～12月20日（日）（129日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、土偶ファン、文化財に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	109件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、聖教新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、くまもと経済、広報だざいふ、ぐらんざ、ひととき、日経BP、ライフさせぼ、九州じゃらん、ほか
インターネットメディア	産経デジタル、財経新聞社、朝日新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、西日本新聞社、スカラコミュニケーションズ、九州インターネットメディア研究所、オリコン、小学館、iza、小倉経済新聞社、暮らしニスタ、イード、nifty、BIGLOBE、オリコン、ハピママ、日本ビジネスプレス、ジョルダン、マピオン、文芸春秋、トライシージャパン、プレシデント、LINENEWS、講談社、時事通信、イード、エキサイトニュース、とれまが、楽天、ブラストホールディング、インフォマート　ほか
その他	―

・ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～

会期	9月8日（火）～11月23日（月・祝）（67日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、レプリカ・再現文化財に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、プレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、日経新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡、KBCラジオ
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、サンデー北九州 ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノ、だざいふなび、月刊いーみるほか
その他	―

・開館15周年記念特集展示　織物に魅せられて － 加賀前田家伝来の名物裂 －

会期	12月1日（火）～3年1月24日（日）（41日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、織物・染色ファン、手芸ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	83件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター・YouTube、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、和楽、ぐらんざ、広報だざいふ、FukuokaNow、美術手帖、ほか
インターネットメディア	産経デジタル、朝日新聞社、小倉経済新聞社、西日本新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、財経新聞社、スカラコミュニケーションズ、ドワンゴ、おたくま経済新聞、オールアバウト、講談社、オリコン、インフォマート、小学館、LINENEWS、日本ビジネスプレス、ぴあ、ビッグローブ、楽天、nifty、ベストセラーズ、プレシデント、ジョルダン、エキサイト株式会社、九州インターネットメディア研究所、イード、ほか
その他	―

・新春特別公開 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度

会期	3年1月1日（金・祝）～1月24日（日）（21日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、大宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	80件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR博多駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、和楽、ぐらんざ、広報だざいふ、FukuokaNow、美術手帖、ほか
インターネットメディア	産経デジタル、朝日新聞社、小倉経済新聞社、西日本新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、財経新聞社、スカラコミュニケーションズ、ドワンゴ、おたくま経済新聞、オールアバウト、講談社、オリコン、インフォマート、小学館、LINENEWS、日本ビジネスプレス、ぴあ、ビッグローブ、楽天、nifty、ベストセラーズ、プレシデント、ジョルダン、エキサイト株式会社、九州インターネットメディア研究所、イード、ほか
その他	―

・特集展示　天神縁起の世界

会期	3年2月2日（火）～3月28日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、地域の歴史に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	75件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR博多駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展、共催展等

・展覧会名：ライデン国立古代博物館所蔵　特別展 古代エジプト展 開催中止

会期	4月25日（土）～6月21日（日）（51日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、エジプトファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約1,160件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ会員校・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物の電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	TVQ、RKB、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび　ノジュール、月刊アートコレクターズ、すごい美術展2020、日経サイエンス、サライ、くるめすたいる、ぐらんざ　ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、アートアジェンダ、プラスフクオカ、じゃらん、アルトネ、ManabiJapan、読売オンラインほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月7日
人数等	10媒体、20人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・開館15周年記念特別展 海幸山幸- 祈りと恵みの風景 - 開催延期

会期	7月21日（火）～9月13日（日）（49日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、日本美術ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術展ぴあ
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・開館15周年記念特別展 加耶　開催延期

会期	10月13日（火）～12月6日（日）（48日間）
ターゲット	―
重点項目	―
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術展ぴあ
インターネットメディア	―
その他	―

③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・特別展　奈良・中宮寺の国宝

会期	3年1月26日（火）～3月21日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,170件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ会員校・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、和楽、ぐらんざ、広報だざいふ、FukuokaNow、美術手帖、プラスフクオカ、遊人、ふくおか経済、九州じゃらん、イセバ、地元新聞社、くまもと経済、ライフさせぼ　ほか
インターネットメディア	産経デジタル、朝日新聞社、小倉経済新聞社、西日本新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、財経新聞社、スカラコミュニケーションズ、ドワンゴ、おたくま経済新聞、オールアバウト、講談社、オリコン、インフォマート、小学館、LINENEWS、日本ビジネスプレス、ぴあ、ビッグローブ、楽天、nifty、ベストセラーズ、プレジデント、ジョルダン、エキサイト株式会社、九州インターネットメディア研究所、イード、ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月23日
人数等	13媒体、28人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	3年1月25日（月）
人数等	15媒体、39名出席（場所：3F特別展示室）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	6月2日（火）～3年3月31日（水）（254日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日～5月31日の間、臨時休館とした。 また、改修工事のため3年2月23日～3月12日の間、臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

(2)特別展等

・ミニ展示「古代のいのり　—疫病退散！」

会期	6月16日（火）～7月19日（日）（30日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月26日
人数等	4媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・夏期企画展「奈良の都の考古学—発掘された平城2019」

会期	7月23日（木・祝）～8月30日（日）、9月5日（34日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期特別展「地下の正倉院展－重要文化財　長屋王家木簡－」

会期	10月10日（土）～11月23日（月・祝）（39日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	奈良テレビ　ほか
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月9日
人数等	8媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・新春ミニ展示「平城京の丑」

会期	3年1月5日（火）～1月31日（日）（24日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【平城宮いざない館】

・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展「鬼神乱舞　―護る・祓う 鬼瓦の世界―Legend of Exorcism」

会期	3年1月23日（土）～3月28日（日）（64日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	3年1月22日
人数等	6媒体（場所：平城宮いざない館企画展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	6月2日（火）～3年3月31日（水）（265日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載 新型コロナウイルスの影響で6月1日まで閉館、6・7月は土・日・祝休館。電気工事のため3年2月23日～3月7日休館。臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	KCN番組取材への協力
雑誌	
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース
その他	―

・速報展

①飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）飛鳥寺所用軒瓦9点、鴟尾4点

②藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点

③石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）石神遺跡出土土器19点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	6月1日（月）～3年3月31日（水）（252日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	新型コロナウイルス対策のため4月1日～5月31日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・特別展「飛鳥の石造文化と石工」

会期	8月4日（火）～9月22日（火）（44日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥を特徴づける古代の石造文化と、こんにちまで続く石工の技術を紹介した。
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,448件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、Dookkaa! おでかけ探検隊、イベントバンク、チラシミュージアムほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	8月3日
人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館展示室及び庭園）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期企画展「第11回 写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」」

会期	10月16日（金）～12月6日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	にぎわいを生み出す「祭」の写真を通して飛鳥の歴史や文化の奥深さを発信。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,041件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事17回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	マイ奈良ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアムほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・冬期企画展 「飛鳥の考古学2020」

会期	3年1月22日（金）～3月14日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,393件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原（予定）
③報道発表会	
実施日	3年1月21日
人数等	（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
文化財活用センターパンフレット	3,000部	・視察者等に配布 ・国内の美術館・博物館等に配布
文化財活用センター事業報告書2018・2019年度	200部	・視察者、関係施設等に配布 ・関係省庁・機構に配布
2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集　パンフレット	2,500部	・首都圏小中学校、地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
文化財複製のお貸し出し　パンフレット	2,000部	・企業、地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2022年度　国立博物館貸与促進事業実施対象間募集　チラシ	2,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
なりきり日本美術館リターンズ　チラシ	30,000部	・来館者配布 ・マスコミ媒体等に配布
文化財防災センターパンフレット	4,500部	・国内の関係機関等に配布 ・マスコミ媒体等に配布

【東京国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数		配 布 先
東京国立博物館ニュース	6・7・8月号	50,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
	9・10・11月号	50,000部	
	12月・3年1・2月号	50,000部	
	3年3・4・5月号	75,000部	
東京国立博物館「案内と地図」 3年3月改訂	日本語	46,000部	館内で来館者に無償配布
	英語	15,000部	
	中国語（簡体字）	7,500部	
	中国語（繁体字）	2,500部	
	韓国語	3,500部	
	フランス語	3,000部	
	スペイン語	1,000部	
	ドイツ語	1,000部	

【京都国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数		配 布 先
京都国立博物館だより	206号（4・5・6月）	20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
	207号（7・8・9月）	10,000部	
	208号（10・11・12月）	25,000部	
	209号（3年1・2・3月）	10,000部	
Kyoto National Museum Letter Vol.145～148	Vol.145（4・5・6月）	3,000部	観覧者
	Vol.146（7・8・9月）	3,000部	
	Vol.147（10・11・12月）	3,000部	
	Vol.148（3年1・2・3月）	3,000部	
2021年度年間スケジュール		20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
京都国立博物館 平成知新館 展示案内 改訂版	日本語	20,000部	観覧者
	英語	10,000部	
	中国語（簡体字）	5,000部	
	中国語（繁体字）	5,000部	
	韓国語	2,000部	
	ドイツ語	2,000部	
	スペイン語	2,000部	
	フランス語	2,000部	

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号　10,000部 夏号　20,000部 秋号　20,000部 冬号　20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等　約5,400件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　30,000部 英語版　10,000部 フランス語版　1,500部 ドイツ語版　1,500部 中国語版（簡体字）　10,000部 中国語版（繁体字）　4,000部 韓国語版　1,000部 スペイン語版　1,500部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　20,000部 中国語版　3,000部 韓国語版　3,000部 英語版　3,000部 ドイツ語版　2,000部 フランス語版　2,000部 スペイン語版　2,000部 合計　35,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　3,800部 合計　3,800部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　1,800部 中国語版　200部 韓国語版　200部 英語版　300部 合計　2,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(56)号　50,000部 夏(57)号　50,000部 秋(58)号　50,000部 冬(59)号　50,000部 合計　200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　2020年間スケジュール	24,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
学校利用ガイド	1,500部	・館内で来館した学校に配布 ・アウトリーチ活動（きゅーはくきゃらばん）で出向いた学校・イベント先で配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

令和3年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		204	200	4	85	82	3	73	73	0	28	28	0	18	17	1
合　計		1,235	1,222	13	806	794	12	286	286	0	107	107	0	36	35	1
絵画		278	278	0	133	133	0	105	105	0	30	30	0	10	10	0
書跡		67	67	0	20	20	0	21	21	0	24	24	0	2	2	0
彫刻		124	124	0	105	105	0	9	9	0	8	8	0	2	2	0
建築		16	16	0	13	13	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0
金工		89	89	0	60	60	0	24	24	0	3	3	0	2	2	0
刀剣		26	26	0	20	20	0				4	4	0	2	2	0
陶磁		58	52	6	27	21	6	30	30	0	0	0	0	1	1	0
漆工		135	135	0	89	89	0	25	25	0	20	20	0	1	1	0
染織		105	102	3	54	52	2	45	45	0	5	5	0	1	0	1
考古		164	164	0	123	123	0	16	16	0	11	11	0	14	14	0
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		33	33	0	22	22	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0
和書		8	8	0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	30	30	0	30	30	0									
	書跡	8	8	0	8	8	0									
	彫刻	19	17	2	19	17	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	5	3	2	5	3	2									
	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	22	22	0	22	22	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		43	43	0	43	43	0									
黒田記念館収蔵品		3	3	0	3	3	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
貸与先件数		244	242	321	246	204
合　計		1,561	1,544	1,858	1,488	1,235
絵画		560	454	586	416	278
書跡		109	133	83	46	67
彫刻		136	185	192	205	124
建築		13	13	13	13	16
金工		85	88	83	90	89
刀剣		41	48	97	35	26
陶磁		80	98	77	91	58
漆工		99	114	58	66	135
染織		72	54	89	66	105
考古		193	211	214	243	164
民族資料		23	2	36	0	0
歴史資料		61	27	26	39	33
和書		19	39	30	21	8
写真資料		0	0	0	28	0
東洋	絵画	14	32	20	20	30
	書跡	18	7	28	5	8
	彫刻	3	6	12	1	19
	金工	0	0	48	4	0
	陶磁	8	20	44	29	5
	漆工	9	3	2	2	2
	染織	7	0	3	0	0
	考古	2	7	94	28	22
	民族	0	0	10	0	0
法隆寺献納宝物		2	1	11	0	43
黒田記念館収蔵品		7	2	2	40	3

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

令和3年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	156	1,048	85	774	44	191	11	52	16	31
国内	152	1,035	82	762	44	191	11	52	15	30
国・国立	31	238	15	169	12	59	1	5	3	5
地方・公立	87	592	50	446	19	88	9	37	9	21
私立団体	34	205	17	147	13	44	1	10	3	4
海外	4	13	3	12	0	0	0	0	1	1

○寄託品

令和3年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	62	187	18	32	29	95	12	55	3	5
国内	62	187	18	32	29	95	12	55	3	5
国・国立	12	66	4	5	5	36	3	25	0	0
地方・公立	28	66	9	16	10	20	6	25	3	5
私立団体	22	55	5	11	14	39	3	5	0	0
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和3年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　3件　　海外貸与文化財12件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	平成14年1月1日～2年12月31日	東洋彫刻2件
2	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」	浙江省博物館 武林館区	元年11月3日 ～3年3月31日	8件 陶磁6,東洋陶磁2
3	「Kimono: Kyoto to Catwalk」	ヴィクトリア＆アルバート博物館	2年2月29日～12月3日	染織2件

【京都国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【奈良国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 1件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	「Kimono: Kyoto to Catwalk」	ヴィクトリア＆アルバート博物館	2年2月4日～3年3月31日	染織1件

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	高槻市立今城塚古代歴史館	6月1日～3年3月31日	6（23点）	11
2	福岡県立九州歴史資料館	6月1日～3年3月31日	6（6点）	16
3	大分県立歴史博物館	6月1日～3年3月31日	16（16点）	16

【奈良国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	青森県立郷土館	10月31日～3年3月31日	1（15点）	5
2	下関市立考古博物館	12月23日～3年3月31日	2（10点）	5
3	和歌山県立紀伊風土記の丘、大同寺	3年1月7日～3年3月31日	2（11点）	4

1-（5）-①-5　収蔵品貸与促進事業

【東京国立博物館】

	貸与先名	展覧会名称	期間	貸与件数（件）
1	東北歴史博物館	特別展「伝わるかたち/伝えるわざ―伝達と変容の日本建築」	9月26日～11月23日	16
2	九州歴史資料館	開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」	10月6日～11月29日	27
3	千葉県立中央博物館	令和2年度企画展「ちばの縄文－貝塚からさぐる縄文人のくらし－」	10月10日～12月13日	44
4	古河歴史博物館	古河市合併15周年 開館30周年記念 特別展示「国宝参上。―鷹見泉石像と古河ゆかりの文化財―」	3年1月9日～2月7日	15
5	土浦市立博物館	第42回特別展「東城寺と「山ノ荘」－古代からのタイムカプセル、未来へ－」	3年3月20日～5月5日	14

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和3年3月31日現在

計	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
422件	60 件		16 件	
	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	78件	137件	50件	81件

【本部文化財活用センター】60件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡活用検討委員会　委員	4月～4年9月	文化財活用センター副センター長　小林牧
2	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	4月～3年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
3	文化庁	「文化財に係る先端技術活用映像コンテンツ」制作委託業務に係る技術審査専門委員	8月～3年1月	文化財活用センター副センター長　小林牧
4	文化庁	「高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置にかかる基礎調査」ワーキング会議委員	5月～3年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
5	一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）デザイン委員会	文化財に親しむための体験型展示等の開発に関する意見交換	1月21日	文化財活用センター副センター長　小林牧、企画担当　松沼穂積
6	日本展示学会	第6回日本展示学会賞選考委員	5月23日	文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人
7	内閣府	デジタルアーカイブ・ジャパン推進委員会　実務者検討委員会　構成員	継続中	文化財活用センターデジタル資源担当課長　今井敦
8	内閣府	デジタルアーカイブ全体戦略ワーキンググループおよびジャパンサーチワーキンググループ　構成員	10月29日～継続中	文化財活用センターデジタル資源担当課長　今井敦
9	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～3年3月31日	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
10	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
11	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキンググループ専門委員	4月～3年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
12	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会実行委員会委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
13	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会プログラム作成委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
14	日本文化財科学会	学会誌編集委員	4月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
15	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会委員	4月～3年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
16	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～3年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
17	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
18	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会実行委員会委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
19	東京文化財研究所	第60号保存科学誌編集委員	12月7日～3年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創

20	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会プログラム作成委員	12月1日～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
21	宮城県博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～8月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
22	京都市京セラ美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～10月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
23	足利市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～11月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
24	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～9月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
25	壱岐市立一支国博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
26	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
27	東京都美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
28	西都原考古博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
29	アーティゾン美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
30	京都府立京都学・歴彩館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
31	印刷博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～3年2月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
32	三重県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～3年1月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
33	大野城心のふるさと館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3年1月～3年2月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
34	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3年1月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
35	静岡県富士山世界遺産センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
36	那覇市立壺屋焼物博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
37	やないづ町立斎藤清美術館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
38	SOMPO美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	4月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
39	京都府教育庁文化財保護課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	4月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
40	文化庁文化資源活用課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
41	神奈川県立公文書館・資料課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月、9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
42	旧田代家西洋館（佐賀県有田町文化財課）	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
43	公益財団法人三康文化研究所 附属三康図書館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
44	東京都教育庁	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人

45	三菱一号館美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
46	刀剣博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
47	三鷹市山本有三記念館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
48	川越市立美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
49	姫路市役所　姫路城管理事務所	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月、3年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
50	江戸川区教育推進課文化係	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
51	伊勢神宮　神宮司庁奉賽部　内宮賽務課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
52	台東区立書道博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
53	日本芸術院	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
54	世田谷区教育委員会	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
55	坂の上の雲ミュージアム	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	8月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
56	貨幣博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	9月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
57	安岡家住宅	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
58	立命館大学国際平和ミュージアム	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	10月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
59	学校法人学習院大学　学習院女子大学	非常勤講師	4月1日～9月20日	文化財活用センター貸与促進室長　髙橋美奈子
60	慶応義塾大学	ゲスト講師(オンライン)	5月8日、6月12日	文化財活用センター貸与促進室長　髙橋美奈子

【本部文化財防災センター】　16件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	川崎市市民文化局 （川崎市市民ミュージアム）	令和元年東日本台風(台風第19号)による被災美術作品及び文化財の救援に係る指導・助言	4月1日～3年3月31日	奈良文化財研究所客員研究員　浜田 拓志
2	川崎市市民文化局 （川崎市市民ミュージアム）	令和元年東日本台風(台風第19号)による被災美術作品及び文化財の救援に係る指導・助言	6月25日、10月8日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
3	奈良県文化・教育・くらし創造部	「文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議」講師	8月5日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
4	大分県教育庁	大分県文化財保存活用大綱策定委員	7月29日～3年3月31日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
5	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	10月1日～3年3月31日	文化財防災センター長 髙妻洋成
6	岡山県教育庁	「令和2年度岡山県文化財等救済ネットワーク研修会」講師	11月1日	文化財防災センター長 髙妻洋成
7	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会	シンポジウム「自然史標本レスキューの現在地点とこれから」講師	11月22日	文化財防災センター長 髙妻洋成
8	東京都教育委員会	東京都文化財保護審議会委員	12月1日～3年3月31日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
9	岩手県教育委員会	平泉の総合研究に係る指導・助言	12月8日～11日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
10	宮城県山元町	文化財被災状況調査	3年3月1日～3月3日	文化財防災センター研究員 上椙英之、水谷悦子
11	福島県新地町	文化財被災状況調査	3年3月4日	文化財防災センター研究員 上椙英之

12	東京都青梅市	文化財被災状況調査	3年3月8日～3月10日	文化財防災センター研究員 上椙英之
13	福島県教育委員会	被災文化財の修理・保存及び保管環境等に係る指導・助言	3年3月25日	文化財防災センター研究員 水谷悦子
14	宮城県	文化財被災状況調査	3年3月25日～3月26日	奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室主任研究員 前川歩
15	福島県	文化財被災状況調査	3年3月27日	奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室主任研究員 前川歩
16	東京都青梅市	被災文化財救援活動	3年3月30日	文化財防災センター研究員 上椙英之、文化財防災センターアソシエイトフェロー 黄川田翔、文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員） 六人部克典

【東京国立博物館】78件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	宗教法人 浅草寺	宝蔵門のライトアップ改修に係る仕様等に関する対応・助言	11月2日～	学芸企画部上席研究員　木下史青
2	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	新博物館の展示照明に関する指導監修	6月～4年10月	学芸企画部上席研究員　木下史青
3	神宮の杜芸術祝祭実行委員会	「神宮の杜芸術祝祭」の次行に関する監修・助言	2年6月～10月	学芸企画部上席研究員　木下史青
4	独立行政法人日本芸術文化振興会	特別展「工藝2020―自然と美のかたち―」の設営、撤去業務に関する企画選定委員	7月8日	学芸企画部上席研究員　木下史青
5	奈良文化財研究所	出土土器の評価についての助言	11月27日	学芸企画部企画課特別展室研究員　山本亮
6	町田市立博物館	運営委員	元年7月1日～3年6月30日	学芸企画部博物館情報課長 今井敦
7	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会	4月1日～3年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二
8	東京弁護士会	裁判手続きのIT化に関する日本弁護士連合会のシンポジウムに向けた調査	10月2日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二
9	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	7月1日～3年3月末	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
10	一般財団法人東京市立中学高等学校協会	講演「学習資源としての文化財デジタルコンテンツ」	11月27日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
11	東京大学附属図書館U-PARLオンラインセミナー	ファシリテーター	3年2月6日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
12	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
13	著作権に関する図書館団体懇談会（事務局：日本図書館協会）	文化庁文化審議会著作権分科会法制度小委員会「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する中間まとめ」に関する意見募集について	12月15日～	学芸企画部博物館情報課情報資料室専門職　山崎美和
14	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
15	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
16	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
17	鎌倉市教育委員会	文化財審議委員	6月～	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞
18	仏教芸術学会	仏教芸術学会委員	29年6月～	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞

19	美術史学会	査読	9月	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞
20	東北大学	集中講義	3年2月	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞
21	二荒山神社	宝物館収蔵品の絵画作品に関する調査・助言	7月16日	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
22	文化庁	調査員（文化財第一課）	6月15日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
23	文化庁	文化審議会専門委員	4月17日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
24	文化庁	美術工芸品買取審査会議の委員	7月20日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
25	公益社団法人日本工芸会	第67回日本伝統工芸展審査委員	7月29日、30日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
26	徳川美術館	秋期講座　講師	9月26日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
27	経済産業省	講師	11月19日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
28	学校法人　清水学園	講師	11月29日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
29	尾道市教育委員会	尾道市史　編纂事業	4月～	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
30	行田市教育委員会	中世遺跡出土品　資料調査	6月24日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
31	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会	7月～	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
32	島根県埋蔵文化財調査センター	中世遺跡出土品　資料調査	8月4日～6日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
33	瀬戸内市備前長船刀剣博物館	日本刀の調査研究	11月20日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
34	岡山県古代吉備文化財センター	中世遺跡出土品　資料調査	12月10日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
35	米子市	米子城歴史講座	12月12日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
36	沖縄県立博物館・美術館	琉球王国文化遺産集積・再興事業への助言・協力	10月9日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
37	国立アイヌ民族博物館	渋谷区立松濤美術館における特別展「アイヌの装いとハレの日の着物・コソンテ－国立アイヌ民族博物館の開館によせて(仮)」　への助言・協力	10月28日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
38	渋谷区立松濤美術館	渋谷区立松濤美術館における特別展「アイヌの装いとハレの日の着物・コソンテ－国立アイヌ民族博物館の開館によせて(仮)」　への助言・協力	10月30日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
39	国立アイヌ民族博物館	国立アイヌ民族博物館運営会議への助言・協力	12月9日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
40	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	平成31年4月1日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課東洋室長　勝木言一郎
41	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
42	国立歴史民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
43	神戸市立博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	10月8日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
44	大阪府立狭山池博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	11月18日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩

45	長崎歴史文化博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	3年2月26日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
46	北海道立近代美術館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	12月9日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
47	新潟県立近代美術館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	3年1月26日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
48	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（保管環境の保全）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
49	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	6月1日～7年5月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
50	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
51	日本学術会議	連携会員	10月1日～7年9月30日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
52	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（漆工品）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
53	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（市指定）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
54	東京藝術大学大学院	文化財修理実務に関する特別講義	11月24日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
55	東京藝術大学大学院	金属を含む染織作品の修復について	12月3～12月8日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
56	町田市国際工芸館	町田市国際工芸館新館建設に伴う展示室、展示ケース設計に関する助言	12月1日	企画課デザイン室長　矢野賀一
57	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	元年12月1日～3年11月30日	学芸企画部長　田沢裕賀
58	文化庁	登録美術品絵画・彫刻調査研究協力者	4月1日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
59	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月1日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
60	文化庁	美術工芸品買取監査会議委員	7月20日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
61	東京都江戸東京博物館	資料収蔵委員会資料評価部会(美術部会)臨時委員	11月4日	学芸企画部長　田沢裕賀
62	宮内庁三の丸尚蔵館	修理に掛かる企画競争審査委員	4月6日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
63	公益財団法人千葉市教育振興財団	千葉市美術館評価委員会委員	元年6月13日～3年6月12日	学芸企画部長　田沢裕賀
64	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議員	8月17日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
65	一般社団法人 照明学会	第18回(2020)照明デザイン賞 審査委員	2年度	学芸企画部上席研究員　木下史青
66	東京大学附属図書館U-PARLオンラインセミナー	ファシリテーター	3年3月13日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
67	国立国会図書館	機関情報の相互運用性の向上に係る意見聴取会	3年3月2日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
68	関市文化財保護センター	講師	3年2月27日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
69	九州大学人文学国際研究センター	講師	3年3月13日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
70	公益社団法人日本工芸会	第55回日本伝統工芸染織展審査委員	3年3月18日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

71	五條市	五條市史編集委員会専門部会員（美術工芸部会）	31年4月～3年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
72	薬師寺	薬師寺大講堂ご本尊白鳳練仏復興委員会委員	30年7月～	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
73	国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月～3年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
74	第61回東日本伝統工芸展実行委員会	第61回東日本伝統工芸展実行委員会鑑査委員	3年2月24日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員　福島修
75	埼玉県教育局文化資源課	埼玉県立博物館施設防災マニュアル改訂事業への助言・協力	3年2月7日	学芸研究部列品管理課登録室研究員　六人部克典
76	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（漆工品）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美 学芸研究部保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
77	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（市指定）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美 学芸研究部保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
78	筑波大学、東京美術倶楽部	アフガニスタン仏頭　型取り、製作方法について	9月29日～10月5日	学芸研究部保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛

【京都国立博物館】137件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益社団法人企業メセナ協議会	助成認定制度審査委員会委員長 2021芸術・文化による社会創造ファンド選考委員会委員長	4月～12月	館長　佐々木丞平
2	京都古都文化保存協会	京都古文化保存協会評議員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
3	宮内庁京都事務所	御所離宮懇談会委員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
4	古典の日推進委員会	特別委員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
5	奈良国立博物館	奈良国立博物館評議員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
6	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館評議員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
7	公益財団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
8	三菱財団	三菱財団理事	4月～3年6月	館長　佐々木丞平
9	京都創造者大賞顕彰委員会	「京都創造者大賞」選考委員会委員長	5月～3年3月	館長　佐々木丞平
10	清風会	清風会理事	6月～3年3月	館長　佐々木丞平
11	京都市	京都市文化功労者審査会委員	6月～3年3月	館長　佐々木丞平
12	きょうと障害者文化芸術推進機構	きょうと障害者文化芸術推進機構理事	6月～3年3月	館長　佐々木丞平
13	日本博物館協会	第68回全国博物館大会フォーラム講師	11月25日	館長　佐々木丞平
14	京都府	京都府文化賞専門家会議委員	11月～3年3月	館長　佐々木丞平
15	公益社団法人企業メセナ協議会	選考・審査委員長	3年1月～3月	館長　佐々木丞平
16	アール・ブリュットネットワーク	アール・ブリュットネットワーク企画委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
17	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
18	田川市世界遺産活用活性化推進委員会事務局	田川市世界遺産活用活性化推進委員会委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
19	南九州市	南九州市世界の記憶推進会議アドバイザー	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
20	水平社博物館	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
21	古典の日文化基金賞顕彰委員会	古典の日文化基金賞候補者情報調査委員会委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
22	大阪市	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会	4月～3年3月	副館長　栗原祐司

23	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事	6月～3年3月	副館長　栗原祐司
24	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	6月～3年3月	副館長　栗原祐司
25	国際基督教大学	非常勤講師	9月～11月	副館長　栗原祐司
26	國學院大學	非常勤講師(集中)	9月～3年3月	副館長　栗原祐司
27	徳島県	「坂東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」調査検討委員会委員	12月～3年11月	副館長　栗原祐司
28	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所	2年度国際会議「博物館と地域社会」講演者	12月22日	副館長　栗原祐司
29	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～3年3月	学芸部長　尾野善裕 学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部教育室長　永島明子 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
30	仏教美術研究上野記念財団	研究委員会委員	4月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
31	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	4月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉
32	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会委員	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
33	日本芸術文化振興会	「（仮称）京の国宝－守り伝える日本のたから－」企画説明、出品依頼	10月1日	学芸部長　尾野善裕 学芸部美術室研究員 森道彦
34	一般社団法人　清風会	見学会（無鄰菴、對龍山荘）	10月3日、6日、7日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋 学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男 学芸部美術室研究員　上杉智英 学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ 学芸部教育室　河合優香
35	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「工芸」）の開催	3年1月21日～22日	学芸部長　尾野善裕 学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
36	九州大学人文学国際研究センター	2000-2021公開講座「東洋染織品の移動と変容」での講演	3年1月16日、3月13日	学芸部企画室長　山川曉 学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ
37	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
38	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
39	岐阜市	史跡岐阜城跡整備委員会委員	5月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
40	野崎家塩業歴史館	評議員	5月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
41	公益財団法人大和文華館	公益財団法人大和文華館評議員	6月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
42	岐阜市	市内遺跡調査出土遺物の指導	7月10日	学芸部長　尾野善裕
43	文化財活用センター	3年度東京収蔵品貸与促進事業選定委員会	8月31日	学芸部長　尾野善裕
44	岐阜市	史跡岐阜城跡保存活用計画及び整備基本計画作成における個別指導	9月2日	学芸部長　尾野善裕
45	奈良国立博物館	奈良国立博物館ホームページリニューアル等業務一式に係る候補者選定委員会	9月18日	学芸部長　尾野善裕
46	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	12月1日～2日	学芸部長　尾野善裕
47	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
48	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
49	智山専修学院	特別講義講師	11月17日	学芸部上席研究員　淺湫毅
50	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部企画室長　山川曉
51	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部企画室長　山川曉
52	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～3年3月	学芸部企画室長　山川曉

53	草津市教育委員会	青花紙保存継承懇話会委員	7月～3年3月	学芸部企画室長　山川暁
54	朝日新聞社	特別展「きもの KIMONO」展示替え	7月27日	学芸部企画室長　山川暁
55	株式会社NHKエンタープライズ近畿	公開講演会講師	10月16日、30日	学芸部企画室長　山川暁
56	第50回日本伝統工芸近畿展実行委員会	第50回日本伝統工芸近畿展実行委員会鑑査委員	3年1月17日	学芸部企画室長　山川暁
57	京友禅協同組合連合会	講演会講師	3年2月16日	学芸部企画室長　山川暁
58	草津青花紙製造技術保存会	草津青花紙製造技術保存会伝承者養成講座　講師	3年3月3日	学芸部企画室長　山川暁
59	京都府京都文化博物館	寄附申出資料（人形）の評価	3年3月4日	学芸部企画室長　山川暁
60	一般社団法人日本染織作家協会	第44回日本染織作家展審査委員	3年3月10日	学芸部企画室長　山川暁
61	真宗佛光寺派	真宗佛光寺派所蔵の経錦裂の記者プレスでの説明及び質疑応答	3年3月19日	学芸部企画室長　山川暁
62	真宗大谷派	宗宝宗史蹟保存会委員	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡
63	花園大学	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡
64	近畿大学	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡
65	和歌山市立博物館	特別展「紀三井寺展」の関連講演会講師	11月14日	学芸部美術室長　羽田聡
66	三重県教育委員会	三重県文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部教育室長　永島明子
67	同志社女子大学	嘱託講師	4月～3年3月	学芸部教育室長　永島明子
68	学校法人裏千家学園	2年度　裏千家学園オムニバス講座講師	10月12日	学芸部教育室長　永島明子
69	鶴見大学	博士学位論文審査委員会委員	12月～3年3月	学芸部教育室長　永島明子
70	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	令和2年度第7回鑑査委員会出席	3年1月18日	学芸部教育室長　永島明子
71	公益財団法人天門美術館	天門美術館評議員	4月～3年3月	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
72	京都市立芸術大学大学院	2年度博士論文審査委員	9月10日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
73	嵯峨美術大学	非常勤講師	9月21日～23日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
74	国立大学法人東京藝術大学大学美術館	企画展示論講師	11月17日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
75	関西大学東西学術研究所	研究例会講演	3年1月15日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
76	佛教大学(通信学部)	非常勤講師（集中）	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
77	佛教大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
78	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員会委員	4月～3年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
79	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（美術史班）専門委員	4月～3年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
80	九州歴史資料館	特別展で展示予定の「重要文化財玉垂宮縁起」の作品展示指導及び展示環境の確認	9月29日～30日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
81	越前市教育委員会	歴史講座	9月26日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
82	智山専修学院	特別講義講師	12月1日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
83	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	4月～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
84	同志社女子大学	嘱託講師	4月～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
85	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画（材料調査班）ワーキンググループ専門委員	4月～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
86	奈良文化財研究所	専門研修講師	6月10日	学芸部保存科学室長 降幡順子
87	鳥取県地域づくり推進部	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会委員	7月20日～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
88	犬山市教育委員会	犬山祭車山懸装幕復元新調のための組成分析調査	7月27日	学芸部保存科学室長 降幡順子
89	名古屋市教育委員会文化財保護室	山車大幕修理事業における分析調査	7月27日	学芸部保存科学室長 降幡順子
90	津島市教育委員会	尾張津島天王祭車楽舟屋台幕の分析調査	8月19日	学芸部保存科学室長 降幡順子
91	国立大学法人神戸大学	非常勤講師	8月22日、23日、29日、30日	学芸部保存科学室長 降幡順子
92	宮内庁京都事務所	大嘗会御屏風の分析調査	8月24日～25日	学芸部保存科学室長 降幡順子

93	北海道博物館協会学芸職員部会	2年度　学芸職員部会研修会講師	9月24日	学芸部保存科学室長 降幡順子
94	長浜曳山文化協会	長浜曳山祭曳山錺金具および懸装品附属の金具・ガラスの成分分析調査	10月6日	学芸部保存科学室長 降幡順子
95	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	滋賀県指定有形文化財（美術工芸品）の指定にかかる調査指導	11月25日	学芸部保存科学室長 降幡順子
96	大津祭保存会	国指定重要無形民俗文化財大津祭の曳山行事の曳山修理事業にかかる調査指導	11月25日	学芸部保存科学室長 降幡順子
97	長浜曳山文化協会	長浜曳山祭 壽山の舞台高欄親柱錺金具成分分析調査	3年3月31日	学芸部保存科学室長　降幡順子
98	京都府立嵯峨野高等学校	特別講師	6月19日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
99	国立大学法人東京大学大学院経済学研究科	歴史家ワークショップ連続講座講師	12月19日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
100	京都府立嵯峨野高等学校	特別講師	3年1月22日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
101	京都市教育委員会京都市学校歴史博物館	原稿執筆	3年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
102	京都市教育委員会京都市学校歴史博物館	ワークショップでの講演	3年3月7日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
103	奈良大学（通信教育）	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
104	神戸市立博物館	特別展「和のガラスーくらしを彩ったびいどろ、ぎやまん」にかかる展示作業立ち会い	9月29日	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
105	一般財団法人秋水美術館	学芸アドバイザー	10月～3年5月	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
106	京都市京セラ美術館	京都市京セラ美術館開館記念展「京都の美術　250年の夢第1部～第3部総集編江戸から現代へ」の展示立ち合い	10月5日	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
107	福井県立美術館	美術資料審査・評価委員会審査委員	3年3月26日	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
108	京都造形芸術大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
109	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さん専門部会会員	6月27日～3年3月	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
110	京都橘大学	非常勤講師	9月～3年3月	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
111	神戸市立博物館	購入候補資料評価委員会への出席	11月12日	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
112	公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館	「琳派と印象派 東西都市文化が生んだ美術」展示作業立ち会い	12月21日、3年1月25日	学芸部保存修理指導室　主任研究員　福士雄也
113	鶴見大学	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
114	(株)よみうり文化センター	講師	6月～3年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
115	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議委員会委員	7月15日～3年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
116	東大阪市	石切劔箭神社祓殿奉納大太刀調査	8月21日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
117	一般財団法人林原美術館	講座講師	3年2月21日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
118	福井ライフ・アカデミー本部	講座講師	3年3月14日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
119	佛教大学	非常勤講師	9月～3年3月	学芸部美術室研究員 上杉智英
120	静岡県博物館協会	静岡県博物館協会講習会「これからのミュージアムを考えよう（仮）」講師	11月3日	学芸部美術室研究員 森道彦
121	京都大学大学院	非常勤講師	10月～3年3月	特任研究員　宮川禎一
122	京都大学総合博物館	外部評価委員	10月～3年3月	特任研究員　宮川禎一
123	聖心女子大学	非常勤講師	4月～3年3月	研究員　古谷毅
124	國學院大學	非常勤講師	4月～3年3月	研究員　古谷毅
125	國學院大學	客員教授	4月～3年3月	研究員　古谷毅
126	野田市	野田市史編さん委員会委員	4月～3年3月	研究員　古谷毅
127	大分県立歴史博物館	企画展「青銅の燦めきー京博所蔵の銅剣・銅矛里帰り展ー」展示の打合せ及び関連講座	9月5日～6日	研究員　古谷毅
128	大分県立歴史博物館	2年度京都国立博物館考古資料相互活用促進事業借用資料調査	11月30日～12月1日	研究員　古谷毅
129	奈良文化財研究所	「デジタル写真・マルチフェイル保管データベースシステム」仕様策定委員会	7月10日	学芸部列品管理室主任 岡田愛
130	東京国立博物館	小山科研にかかる打合せ	8月19日	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ
131	京都市芸術大学	非常勤講師	9月～3年3月	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ

132	京都女子大学	教養科目講師	11月12日	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ
133	文化庁	博物館等の文化施設インバウンド強化事業審査委員会委員	11月～3年3月	企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル
134	奈良国立博物館	「令和まほろばプラン」広報PR等業務候補者選定委員会	9月4日	総務課長　西尾佐枝子
135	一般社団法人　清風会	見学会（無鄰菴、對龍山荘）	10月6日	総務課環境整備係長 大西征爾
136	杉野服飾大学	非常勤講師	4月～3年3月	総務課総務・人事係員 落合 広倫
137	杉野服飾大学	2年度　博物館実習引率	9月5日	総務課総務・人事係員 落合 広倫

【奈良国立博物館】50件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	宮内庁	正倉院懇談会会員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
2	中宮寺奉賛会	参与	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
3	公益財団法人松伯美術館	理事	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
4	公益財団法人大和文華館	理事	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
5	公益財団法人日本博物館協会	参与	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
6	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
7	奈良女子大学	経営協議会委員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
8	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
9	京都国立博物館	評議員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
10	公益財団法人髙梨学術奨励基金事務局	理事	4月1日～6月	館長　松本伸之
11	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
12	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
13	奈良県	奈良県文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
14	放送大学	客員教授	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
15	奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
16	高野山大学	非常勤講師	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
17	岐阜市歴史博物館	展覧会開催に関する助言	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
18	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
19	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員	4月1日～3年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
20	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科准教授	4月1日～3年3月31日	企画室長　吉澤悟
21	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
22	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	教育室長　谷口耕生
23	天理市文化財保護審議会	天理市文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	教育室長　谷口耕生
24	奈良女子大学	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科客員教授	4月1日～3年3月31日	資料室長　野尻忠
25	鳥取県	鳥取県文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	列品室長　中川あや
26	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	4月1日～12月31日	美術室長　岩井共二
27	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科教授	4月1日～3年3月31日	美術室長　岩井共二
28	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	保存修理指導室長　鳥越俊行
29	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究員	4月1日～3年3月31日	保存修理指導室長　鳥越俊行
30	高野山大学	非常勤講師	4月1日～3年3月31日	主任研究員　山口隆介
31	島根県教育委員会教育長	石見銀山遺跡客員研究員	5月31日～3年3月31日	保存修理指導室長　鳥越俊行

32	公益財団法人大和文華館	評議員	6月30日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
33	文化庁	仁和寺聖教調査	7月29日	主任研究員　斎木涼子
34	文化庁	仁和寺聖教調査	7月29日～7月31日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
35	文化庁	仁和寺聖教調査	7月30日～7月31日	資料室長　野尻忠
36	奈良文化財研究所	当麻寺所蔵の経典の調査	8月7日	主任研究員　斎木涼子
37	奈良文化財研究所	当麻寺所蔵の経典の調査	8月12日	資料室長　野尻忠
38	奈良文化財研究所	当麻寺所蔵の経典の調査	8月14日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
39	三重県教育委員会	三重県文化財保護指導会議での講演	9月17日	保存修理指導室長　鳥越俊行
40	三重県教育委員会	三重県文化財保護指導会議での講演	9月18日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
41	京都府立大学	非常勤講師	9月28日～3年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
42	神戸市文化スポーツ局文化財課	神戸市文化財保存活用計画協議会委員	10月1日～3年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
43	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	11月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
44	長野県埋蔵文化財センター	講演会講師	12月12日	学芸部長　内藤栄
45	松坂屋美術館	展覧会開催に関する指導・助言	4月1日～3年3月31日	列品室長　中川あや 研究員　三本周作
46	沖縄県立博物館・美術館	展覧会開催に関する指導・助言	4月1日～3年3月31日	列品室長　中川あや 研究員　三本周作
47	神戸市	神戸市内神社所有品の現地調査	3年1月14日	特任研究員　岩田茂樹
48	神戸市	神戸市内神社所有品の現地調査	3年1月29日	特任研究員　岩田茂樹
49	仁和寺	仁和寺所蔵史料の調査	3年3月22日～3月26日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
50	美術史学会	2020年度美術館博物館委員会東西合同シンポジウム発表報告	3年3月27日	館長　松本伸之

【九州国立博物館】81件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	立正大学	立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト　外部評価委員	4月1日～5月31日	館長　島谷弘幸
2	三重県文化会館事業課	2020年度みえ文化芸術祭・第71回みえ県展・書部門審査員	4月1日～7月1日	館長　島谷弘幸
3	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～8月31日	館長　島谷弘幸
4	高知城歴史博物館	研究顧問	4月1日～3年3月2日	館長　島谷弘幸
5	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
6	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
7	文化庁	文化審議会正委員（文化財分科会）	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
8	公益社団法人日本伝統工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
9	外務省	日米文化教育交流会議（カルコン）パネル委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
10	文化庁	「日本博」企画委員会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
11	福岡市博物館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
12	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会文化活動小委員会調査委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
13	文化庁	文化観光拠点を中核とした地域における文化観光の推進に係る計画認定等委員会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
14	福岡県立美術館	協議会委員	4月1日～9月6日	学芸部長　小泉惠英
15	熊本県	平成28年熊本県地震被災文化財等復興基金活用動産文化財検討委員会委員	4月1日～10月18日	学芸部長　小泉惠英
16	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　小泉惠英
17	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　小泉惠英
18	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月1日～7月6日	学芸部企画課長　白井克也

19	九州歴史資料館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
20	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
21	福岡県教育庁 教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会臨時専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
22	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
23	日本文化財科学会	日本文化財科学会第37回大会実行委員会委員	4月1日～10月9日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
24	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	運営会議委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
25	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」 保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
26	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
27	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
28	日本文化財科学会	第20期評議員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
29	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館	令和2年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
30	大分県立歴史博物館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
31	福岡市美術館	美術資料収集審査員	4月1日～3年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
32	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
33	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料策定委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長　志賀智史
34	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
35	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲刀剣類登録審査会補助員	4月1日～3年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
36	同志社大学文化遺産情報科学調査研究センタ	研究員	4月1日～3年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当（併）九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
37	一般社団法人文化財保存修復学会	講師	5月16日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
38	一般社団法人公園財団	研究顧問	5月27日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
39	福岡県	新福岡県立美術館基本計画策定支援業務委託公募型プロポーザル審査会委員	6月1日～3年3月31日	学芸部長　小泉惠英
40	公営財団法人福岡文化財団	評議員	6月5日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
41	公営財団法人福岡文化財団	評議員選定委員	6月5日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
42	ICOM日本委員会	理事	6月10日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
43	文化庁	技術審査委員	6月17日～6月30日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
44	東京国立博物館	修理監督	6月19日	副館長　富田淳
45	東京国立博物館	修理監督	6月30日	副館長　富田淳
46	福岡県	福岡県文化芸術振興審議会委員	7月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
47	文化庁	博物館などを中核とした文化クラスター推進事業に係る協力者会議委員	7月6日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
48	芦屋町	資料購入委員	7月17日	学芸部長　小泉惠英
49	神奈川県立歴史博物館	翻訳作業員	7月18日～9月18日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
50	芦屋町	資料評価委員	7月24日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
51	考古学研究会	テクニカル・サポーター	8月1日～3年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当（併）九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
52	公益社団法人日本工芸会	第67回日本伝統工芸展審査委員	8月14日	館長　島谷弘幸
53	岐阜県県民文化局・ 公益財団法人岐阜県教育文化財団	審査員	8月23日～3年3月31日	副館長　富田淳
54	文化財活用センター	令和3年度収蔵品貸与促進事業選定委員会出席のため	8月31日	学芸部長　小泉惠英
55	九州日中文化協会	第23回日中青少年書画音楽交流大会・審査委員会審査委員長	9月1日～11月1日	館長　島谷弘幸
56	対馬市	講師	9月1日～3年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
57	文化庁	「国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議」協力者	9月8日～3年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
58	文化庁	「国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議」協力者	9月8日～3年3月31日	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑

59	九州産業大学	講師	9月8日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
60	福島県立博物館	講師	9月26日～9月28日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
61	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	9月28日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
62	九州大学大学院人文科学研究院	講師	10月7日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
63	一般社団法人対馬観光物産協会	講師	10月10日～10月11日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
64	福岡県環境部	令和2年度自然公園施設活用促進事業委託業務選定委員会委員	10月16日	学芸部企画課長　白井克也
65	福岡県人づくり・県民生活部	県内美術館関係者連絡会議出席のため	10月20日	学芸部長　小泉惠英
66	文化庁	博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業選定委員会委員	10月27日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
67	文化財防災センター	令和2年度並びに3年度の文化財防災センター事業に関する協議のため	10月28日	学芸部長　小泉惠英
68	直方市教育委員会	資料調査員	11月5日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
69	東京国立博物館	修理監督	11月17日	副館長　富田淳
70	広島県立文書館	講師	11月19日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
71	文化庁	文化財調査のため	11月25日～11月27日	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　瓜生翠
72	博悠会	講師	12月6日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
73	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第44回福岡県伝統的工芸品展表彰式　出席者	12月10日	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子
74	福岡市博物館	収集予定資料に係る調査指導のため	12月18日	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男
75	佐賀県博物館協会	講師	12月21日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
76	九州大学人文学国際研究センター	講師	3年1月23日	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー　桑原有寿子
77	九州国立博物館を愛する会	講師	3年2月3日	学芸部長　小泉惠英
78	宮崎県教育委員会	指導助言	3年2月1日～3月31日	学芸部長　小泉惠英
79	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
80	同上	同上	同上	学芸部文化財課長　原田あゆみ
81	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　渡辺祐基

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

令和3年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
6件	3件	3件

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	オンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺産の記録」	11月12日、25日	パキスタン・ネパール・カンボジア・イラン、文化財保存専門家	2	2	-	
2	国別テーマ研修：ブータン「リビングヘリテージの側面に着目した伝統的民家の保存と活用」（オンライン）	3年1月11日～22日	ブータン・内務文化省文化局職員	12	1	80.1	受講者アンケート全体評価6項目の平均値
3	国際研修Webinar: Experiences and reflections on International Course of Paper Conservation in Latin America. Meeting the East, 2012-2019.	12月4日～12月11日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	6	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2020（集団研修）「考古遺跡の調査記録と保存活用」	9月2日～10月1日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	30	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2020（個別テーマ研修）「リビングヘリテージの管理活用」	11月9日～11月20日	ブータンの専門家	12	1	―	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（スリランカ）	3年1月25日～1月27日	スリランカの専門家	3	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】　1件
【奈良文化財研究所】　1件

	名称	機関名	備考
1	アンコール遺跡群の保存に関する共同協力事業に関する覚書	アンコール・シェムリアップ地域保存整備機構（APSARA）・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	3年3月29日締結

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】5件

令和3年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	“Research on the Safeguarding of ICH in the Asia-Pacific Region: Establishing New Sustainable Mechanism for Systematic Research Data Collection” FY2020 The National Workshop in Indonesia at Gadjah Mada University （オンライン）	7月27日～28日	インドネシアの専門家、研究者	2日	1	文化庁受託経費
2	The National Workshop on “Research on the Safeguarding of ICH in the Asia-Pacific Region: Establishing New Sustainable Mechanism for Systematic Research Data Collection” （オンライン）	8月4日	マレーシアの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費
3	第9回IRCI運営理事会 （オンライン）	10月30日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
4	国際シンポジウム 「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究：教育とまちづくり」（オンライン）	3年1月28日～29日	フィリピン、ベトナム、日本、インドネシア、バングラデシュ、キルギスの専門家、研究者	2日	1	文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」経費
5	Sustainable Research Data Collection for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region The Third Working Group Meeting in FY2020 （オンライン）	3年2月9日	マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピンの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費

2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 （後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和3年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		67日			147日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		660人			161人		
		元年度末	2年度追加	2年度末	令和元年度末	令和2年度追加	令和2年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数（件）	図書	124,229件	1,087件	125,316件	377,407件	6,132件	383,539件
	雑誌	166,976件	1,086件	168,062件	102,616件	2,259件	104,875件
	その他（図録・報告書等）	46,169件	1,526件	47,695件	20,229件	—	20,229件 *
	計	337,374件	3,699件	341,073件	480,023件	8,391件	488,414件

＊奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和3年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	33件	30件
データベースのデータ件数（件）	1,715,186件	1,385,920件
データベース等へのアクセス件数（件）	4,078,322件	14,183,774件
（ホームページへのアクセス件数（件））	5,094,252件	909,369件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】　2件　34人　令和3年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第54回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	10月30日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	34人	
2	第15回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」	（12月25日～3年1月31日オンラインにて公開）	オンライン	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	―	

【奈良文化財研究所】　2件　1,086人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	興福寺鐘楼・東金堂院の発掘調査(平城第625次）現地見学会	9月28日	奈良市登大路町	奈良文化財研究所	興福寺鐘楼・東金堂院の発掘調査(平城第625次）現地見学会を開催した。	606人	
2	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第205次)現地見学会	11月7日	橿原市高殿町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第205次)現地見学会を開催した。	480人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和3年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	3,726件	6,962件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【本部文化財防災センター】　2件　受講者 103人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財レスキューと心理社会的支援	10月19日	1	北海道内の文化財担当職員、学芸員等	講演2件「歴史資料保存と災害支援～歴史資料保存活動がなぜ、災害に強い 地域づくりに貢献できるか」、「歴史資料レスキュー活動と心理社会的支援」	15人	100%	100%	会場：国立アイヌ民族博物館
2	文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」	12月11日	1	文化財の保存・活用に従事している自治体や博物館・図書館・文書館等の職員、ボランティア団体（史料ネット）、建築士会等	講演3件「川崎市市民ミュージアム 台風被害に係る災害対応検証及び今後のあり方について」、「長野市立博物館における令和元年東日本台風による被災資料の保全活動」、「九州・山口ミュージアム連携事業と文化財防災の広域連携モデル」	Zoomウェビナー当日参加31人、YouTubeライブ視聴（最大同時接続数）57人、10日間アーカイブ配信期間を含むYouTube視聴回数464回	98%	100%	会場：Zoomウェビナー、YouTube

【東京文化財研究所】　1件　受講者 17人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	10月5～15日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	17人	100%	94%	

【奈良文化財研究所】　4件　受講者 32人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財担当者専門研修「自然科学分析外注課程」	9月24日～25日	2	地方公共団体の文化財担当職員※	動植物遺体などの自然科学分析を外注する際に必要な基礎知識の習得や留意点の理解を目的とする研修。	10人	100%	100%	
2	文化財担当者専門研修「文化的景観調査計画課程」	9月28日～10月2日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修。	5人	100%	100%	
3	文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程」	10月13日～10月21日	7	地方公共団体の文化財担当職員※	本研修では、金属製遺物の保存処理を実施または外注する際の方法や仕様の選定、並びに金属製遺物の展示・保管環境の調整といった、現場での実務をおこなう上で必要な知識及び技術について、実習を交えながら学ぶ。	8人	100%	100%	
4	文化財担当者専門研修「地質・考古調査課程」	10月26日～10月30日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	地質や探査・計測、動植物遺存体について、基礎知識や調査法など、知っていれば発掘調査の現場で役に立つ実践的な基礎技術の習得や、発掘調査に求められる多分野協業の視点について実習を交えながら学ぶ。	9人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和3年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部 文化財活用センター
529件	180件	230件	119件

【東京文化財研究所】　180件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	18件
2	無形文化遺産に関する助言	25件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	41件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	43件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	12件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	41件

【奈良文化財研究所】　230件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	183件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	7件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	39件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	1件

【本部文化財活用センター】　119件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	119件

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）　◎共通資料d

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和3年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	2,641	2,473	2,150	125	84	114	168	125	43
	うち有償	695	684	534	111	35	4	11	0	11
	うち無償	1,946	1,789	1616	14	49	110	157	125	32
茶室	総件数	81	81	72	3	4	2			
	うち有償	34	34	26	3	3	2			
	うち無償	47	47	46	0	1	0			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,793	1,637	1,591	12	28	6	156	125	31
	うち有償	48	46	21	5	20	0	2	0	2
	うち無償	1,745	1,591	1570	7	8	6	154	125	29
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	188	176	23	11	44	98	12	0	12
	うち有償	48	39	23	7	9	0	9	0	9
	うち無償	140	137	0	4	35	98	3	0	3
撮影利用	総件数	579	579	464	99	8	8	0	0	0
	うち有償	565	565	464	96	3	2	0	0	0
	うち無償	14	14	0	3	5	6	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	54,812	53,306	41,188	11,657	440	21	1,506	0	1,506
茶室	1,846	1,846	1,645	151	40	10			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	1,434	1,414	1,188	68	158	0	20	0	20
その他（左記以外の建物、敷地）	23,195	21,709	12,340	9,178	191	0	1,486	0	1,486
撮影利用	28,337	28,337	26,015	2,260	51	11	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5か年）

令和3年3月31日現在

年度				28	29	30	元	2
国立文化財機構	総来館者数			3,810,178	4,875,133	3,977,125	4,358,044	858,177
	平常展	計		1,577,811	1,736,421	1,706,401	1,753,198	344,392
		有料	一般	653,711	778,185	747,422	713,037	132,915
			大学生	71,850	76,093	73,196	66,176	14,005
			小・中・高生	0	159	0	0	0
			友の会	152,643	185,553	192,482	189,313	53,579
		無料	一般(黒田含む)	108,272	107,824	116,321	78,584	33,306
			小・中・高・大生	183,375	206,900	204,691	193,984	24,623
		招待者等		407,960	381,707	372,289	512,104	85,964
	特別展	計		2,232,367	3,138,712	2,270,724	2,604,846	513,785
		有料	一般	1,404,313	2,049,172	1,510,156	1,721,359	362,251
			高・大生	76,242	105,410	112,381	91,077	25,289
			小・中生	31,337	29,312	22,558	26,793	2,715
			友の会	56,725	56,008	22,245	20,405	4,834
		無料	小・中生・一般	82,184	98,848	91,328	94,201	32,499
		招待者等		581,566	799,962	512,056	651,011	86,197
東京国立博物館	総来館者数			1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632	375,575
	平常展	計		761,709	1,030,180	989,508	1,030,652	166,639
		有料	一般	381,817	525,037	478,770	435,389	65,236
			大学生	41,159	48,052	43,486	37,542	7,137
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	119,573	160,739	172,646	170,236	46,389
		無料	高校生	24,623	32,714	27,701	21,911	3,183
			小・中生	55,176	70,686	66,933	62,703	8,519
		招待者等		101,677	143,888	145,696	258,794	22,290
		黒田記念館(無料)		37,684	49,064	54,276	44,077	13,885
	特別展	計		1,145,938	1,539,405	1,153,452	1,557,980	208,936
		有料	一般	733,704	995,261	764,691	1,038,356	158,484
			高・大生	36,115	41,210	54,270	51,783	11,591
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	10,714	11,684	1,988	1,642	760
		無料	小・中生	26,992	20,051	37,968	37,024	5,244
		招待者等		338,413	471,199	294,535	429,175	32,857
京都国立博物館	総来館者数			384,340	941,931	477,884	376,061	170,494
	平常展	計		186,162	136,862	146,314	158,664	18,941
		有料	一般	110,054	80,789	87,013	95,014	8,525
			大学生	14,192	12,016	13,028	12,370	779
			友の会	15,248	9,341	7,058	6,552	1,562
		無料	小・中・高生	10,773	13,069	14,608	14,943	862
		招待者等		35,895	21,647	24,607	29,785	7,213
	庭園開放	計		11,417	15,676	11,168	13,908	9,932
		有料	一般	5,572	8,082	6,114	7,688	5,383
			大学生	—	—	—	—	572
			友の会	635	505	196	256	505
		無料	大学生	1,040	436	362	689	—
			小・中・高生	2,117	2,777	1,638	1,815	588
		招待者等		2,053	3,876	2,858	3,460	2,884
	特別展	計		186,761	789,393	320,402	203,489	141,621
		有料	一般	109,451	579,728	227,508	130,145	105,811
			高・大生	8,885	31,654	29,472	10,227	7,327
			友の会	10,511	13,192	3,166	3,291	1,175
		無料	小・中生	7,233	17,566	10,023	6,240	1,547
		招待者等		50,681	147,253	50,233	53,586	25,761
奈良国立博物館	総来館者数			449,322	549,211	527,786	612,755	122,452
	平常展	計		145,676	135,776	140,829	160,869	43,262
		有料	一般	63,886	60,294	63,675	75,109	17,695
			大学生	7,431	6,518	6,534	7,981	1,251
			小・中・高生	0	159	0	0	0
			友の会	5,290	4,250	3,196	3,414	3,062
		無料	小・中・高生	31,133	28,257	28,492	34,407	5,876
		招待者等		37,936	36,298	38,932	39,958	15,378
	特別展	計		303,646	413,435	386,957	451,886	79,190
		有料	一般	219,776	298,133	284,723	342,015	57,939
			高・大生	12,674	17,109	15,684	14,385	4,199
			小・中生	7,685	11,792	13,443	11,045	1,497
			友の会	15,750	16,058	3,901	2,970	1,278
		無料	小・中生	202	420	269	0	595
		招待者等		47,559	69,923	68,937	81,471	13,682
九州国立博物館	総来館者数			922,468	668,269	700,391	674,277	131,662
	平常展	計		393,590	350,848	349,114	348,563	81,230
		有料	一般	89,006	101,029	109,272	97,786	33,727
			大学生	8,766	9,253	9,950	8,068	4,181
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	11,897	10,718	9,386	8,855	2,061
		無料	高校生	23,788	22,730	28,868	24,056	1,441
			小・中生	33,435	34,789	34,730	32,905	3,537
		招待者等		226,698	172,329	156,908	176,893	36,283
	特別展	計		528,878	317,421	351,277	325,714	50,432
		有料	一般	333,172	168,511	226,615	205,067	35,721
			高・大生	17,722	14,820	12,369	14,180	1,883
			小・中生	23,652	17,520	9,115	15,748	1,218
			友の会	19,750	15,074	13,190	12,502	1,621
		招待者等		134,582	101,496	89,988	78,217	9,989
平城宮跡資料館	総来館者数			102,053	104,279	90,558	71,408	37,913
	平常展	無料	一般	62,210	50,598	53,775	26,562	15,004
	特別展	無料	一般	39,843	53,681	36,783	44,846	22,909
藤原宮跡資料館	総来館者数			8,378	8,162	8,270	7,945	4,417
	平常展	無料	一般	8,378	8,162	8,270	7,945	4,417
飛鳥資料館	総来館者数			35,970	33,696	29,276	26,966	15,664
	平常展	計		8,669	8,319	7,423	6,035	4,967
		有料	一般	3,376	2,954	2,578	2,051	2,349
			大学生	302	254	198	215	85
		無料	小・中・高生	1,290	1,442	1,359	555	617
		招待者等		3,701	3,669	3,288	3,214	1,916
	特別展	計		27,301	25,377	21,853	20,931	10,697
		有料	一般	8,210	7,539	6,619	5,776	4,296
			大学生	846	617	586	502	289
		無料	小・中・高生	7,914	7,130	6,285	6,091	2,204
		招待者等		10,331	10,091	8,363	8,562	3,908

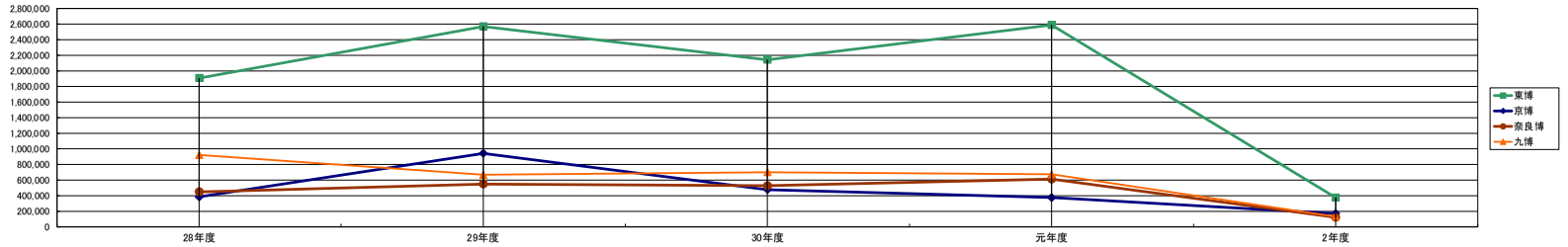
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成28～令和2年度）

国立文化財機構　合計

	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
合計	総　合　計	3,810,178	総　合　計	4,876,133	総　合　計	3,977,125	総　合　計	4,358,044	総　合　計	859,177
	平常展のみの来館者	1,577,811	平常展のみの来館者	1,736,421	平常展のみの来館者	1,706,401	平常展のみの来館者	1,753,198	平常展のみの来館者	344,392
	特別（共催）展計	2,232,367	特別（共催）展計	3,139,712	特別（共催）展計	2,270,724	特別（共催）展計	2,604,846	特別（共催）展計	513,755

1）国立博物館

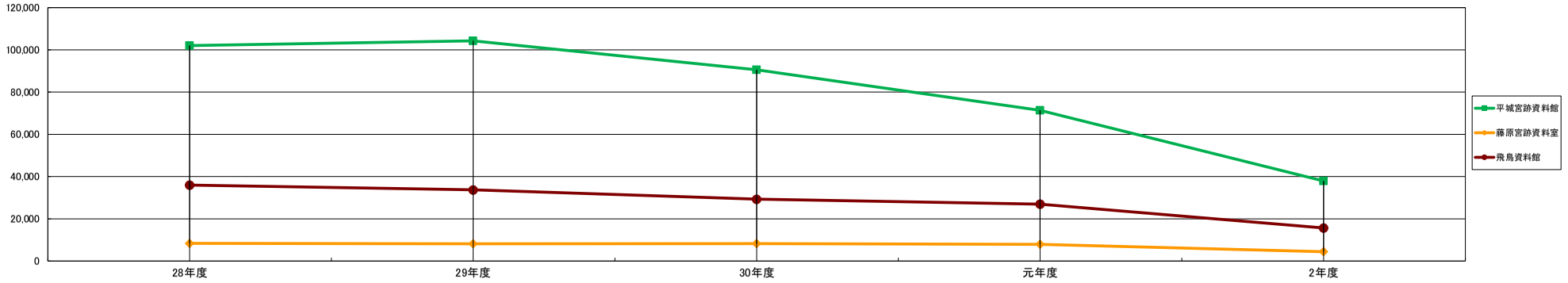


	28年度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度	
計	総　計	3,663,777	総　計	4,728,996	総　計	3,849,021	総　計	4,251,725	総　計	800,183
	平常展のみの来館者	1,498,554	平常展のみの来館者	1,689,342	平常展のみの来館者	1,636,933	平常展のみの来館者	1,712,656	平常展のみの来館者	320,004
	特別（共催）展計	2,165,223	特別（共催）展計	3,039,654	特別（共催）展計	2,212,088	特別（共催）展計	2,539,069	特別（共催）展計	480,179
東博	総計（黒田記念館含む）	1,907,647	総計（黒田記念館含む）	2,569,585	総計（黒田記念館含む）	2,142,960	総計（黒田記念館含む）	2,588,632	総計（黒田記念館含む）	375,575
	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	761,709	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	1,030,180	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	989,508	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	1,030,652	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	166,639
	特別（共催）展計	1,145,938	特別（共催）展計	1,539,405	特別（共催）展計	1,153,452	特別（共催）展計	1,557,980	特別（共催）展計	208,936
	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	157,589	特別展「茶の湯」	245,795	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	67,263	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流－日本美を伝える－」	74,424	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止
	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	116,100	創刊記念『国華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」	173,995	特別展「国宝　東寺-空海と仏像曼荼羅」	430,511	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	中止
	特別展「黄金のアフガニスタン　―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」	154,875	「フランス人間国宝展」	70,192	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	354,259	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品－雪舟、永徳から光琳、北斎まで－」	106,593	特別展「きもの　KIMONO」	91,830
	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	78,562	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	600,439	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	197,004	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」	※1(330,598)	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期
	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	199,567	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ-天平と真言密教の名宝-」	324,042	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	80,191	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」	337,639	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツNippon」	延期
	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	212,144	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	182,837	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」	※1(62,405)	住友財団修復助成30周年記念「文化財よ、永遠に」	※1(138,502)	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるしの世界」	延期
	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」	133,629			顔真卿　王羲之を超えた名筆	198,920	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」	362,076	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	延期
	特別展「春日大社－千年の至宝」	209,572			特別展　御即位30年記念　両陛下と文化交流　－日本美を伝える－	48,340	特別展「人、神、自然―アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界―」	※1(139,737)	特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」	13,851
					特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」	33,480	特別公開「高御座と御帳台」	110,484 ※4(204,801)	特別展「桃山―天下人の100年」	82,808
							日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」	136,054	特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」	20,447
							特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	199 （報道内覧会のみ）	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」	中止
							ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）	延期
京博	総　計	384,340	総　計	941,931	総　計	477,884	総　計	376,061	総　計	170,494
	平常展のみの来館者	186,162	平常展のみの来館者	136,862	平常展のみの来館者	146,314	平常展のみの来館者	158,664	平常展のみの来館者	18,941
	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,417	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	15,676	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,168	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	13,905	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	9,932
	平常展のみ+庭園のみ	197,579	平常展のみ+庭園のみ計	152,538	平常展のみ+庭園のみ	157,482	平常展のみ+庭園のみ	172,572	平常展のみ+庭園のみ	28,873
	特別（共催）展計	186,761	特別（共催）展計	789,393	特別（共催）展計	320,402	特別（共催）展計	203,489	特別（共催）展計	141,621
	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展覧会「禅－心をかたちに－」	88,228	開館120周年記念　特別展覧会「海北友松」	164,900	特別展「池大雅―天衣無縫の旅の画家―」	67,399	特別展　時宗二祖上人七百年御遠忌記念「国宝－遍聖絵と時宗の名宝」	66,678	西国三十三所　草創1300年記念　特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（※今夏に延期）	52,164
	特別展覧会　没後150年「坂本龍馬」	98,533	開館120周年記念　特別展覧会「国宝」	624,493	特別展「京のかたな―匠のわざと雅のこころ―」	253,003	特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	136,811	御即位記念　特別展「皇室の名宝」	85,315
									没後国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	4,142
奈良博	総　計	449,322	総　計	549,211	総　計	527,786	総　計	612,755	総　計	122,452
	平常展のみの来館者	145,676	平常展のみの来館者	135,776	平常展のみの来館者	140,829	平常展のみの来館者	160,869	平常展のみの来館者	43,262
	特別（共催）展計	303,646	特別（共催）展計	413,435	特別（共催）展計	386,957	特別（共催）展計	451,886	特別（共催）展計	79,190
	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」	55,198	特別展「快慶」	123,842	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950	国宝の殿堂　藤田美術館展	158,078	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」	42,846
	生誕800年記念特別展「忽性　－叡尊に捧げた生涯－」	39,834	1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」	72,540	修理完成記念特別展「糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繍仏」	45,175	特別展　御即位記念　第71回正倉院展	277,133	仏教美術名品展（仮称）	延期
	特別展 第68回正倉院展	208,614	特別展 第69回正倉院展	217,053	特別展 第70回正倉院展	245,832	特別展　毘沙門天―北方鎮護のカミ―	16,675	特別展 第72回正倉院展	36,344
									特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期
九博	総　計	922,468	総　計	668,269	総　計	700,391	総　計	674,277	総　計	131,662
	平常展のみの来館者	393,590	平常展のみの来館者	350,848	平常展のみの来館者	349,114	平常展のみの来館者	348,563	平常展のみの来館者	81,230
	特別（共催）展計	528,878	特別（共催）展計	317,421	特別（共催）展計	351,277	特別（共催）展計	325,714	特別（共催）展計	50,432
	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	158,738	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	56,314	特別展「王羲之と日本の書」	14,971	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	53,524	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵　古代エジプト展」	中止
	特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」	133,002	特別展「世界遺産　ラスコー展」	118,555	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	198,489	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代」	86,399	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	延期
	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」	161,172	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	87,413	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」	63,069	特別展「三国志」	140,155	開館15周年記念特別展「加耶（仮称）」	中止
	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966	特別展「王羲之と日本の書」	55,139	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	74,748	特別展「ルネ・ユイのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	45,636	特別展「奈良・中宮寺の国宝」	50,432

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※3　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。
※4　()内の数値は、総合文化展や同時期開催の特別展チケットによる来場者を含んだ数

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成28～令和2年度）

2）研究成果公開施設



	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計	**総　合　計**	**146,401**	**総　合　計**	**146,137**	**総　合　計**	**128,104**	**総　合　計**	**106,319**	**総　合　計**	**57,994**
	平常展のみの来館者	**79,257**	**平常展のみの来館者**	**67,079**	**平常展のみの来館者**	**69,468**	**平常展のみの来館者**	**40,542**	**平常展のみの来館者**	**24,388**
	特別（共催）展計	**67,144**	**特別（共催）展計**	**79,058**	**特別（共催）展計**	**58,636**	**特別（共催）展計**	**65,777**	**特別（共催）展計**	**33,606**
平城宮跡資料館	総　計	102,053	総　計	104,279	総　計	90,558	総　計	71,408	総　計	37,913
	平常展のみの来館者	62,210	平常展のみの来館者	50,598	平常展のみの来館者	53,775	平常展のみの来館者	26,562	平常展のみの来館者	15,004
	特別（共催）展計	39,843	特別（共催）展計	53,681	特別（共催）展計	36,783	特別（共催）展計	44,846	特別（共催）展計	22,909
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －
	夏のこども展示「ナント！おいしい！？平城京！！―奈良の都の食事情―」	9,532	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	927	夏のこども展示　「たいけん！なぶんけん　―平城宮の考古学―」	9,205	平城宮跡資料館2019年度特別展「高御座」	14,456	ミニ展示「古代のいのり―疫病退散！」	2,846
	秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」	17,653	平城宮跡資料館 春期企画展「永野太造作品展―草創期の奈文研を支えた写真家―」	21,811	秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」	15,853	夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん」	9,162	夏期企画展「奈良の都の考古学―発掘された平城2019」 「古代のいのり―疫病退散！」	3,968
	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	12,658	夏のこども展示　「ナント！　すてきな！？　平城生活♪」	10,882	平城宮跡資料館　冬季企画展「発掘された平城2017・2018」	11,725	秋期特別展「地下の正倉院展-年号と木簡-」	13,257	秋季特別展「地下の正倉院展」	14,670
			秋期特別展「地下の正倉院展-国宝 平城宮跡出土木簡-」	14,841			平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城京の子」	4,456	平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城宮の丑」	1,425
			平城宮跡資料館ミニ展示「平城京の戌」	5,220			平城宮跡資料館「発掘された平常2019」	3,515	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復元整備工事記念特別展「鬼神乱舞-護る・祓う・鬼瓦の世界-」	※2 31,530
藤原宮跡資料室	総　計	8,378	総　計	8,162	総　計	8,270	総　計	7,945	総　計	4,417
	平常展のみの来館者	8,378	平常展のみの来館者	8,162	平常展のみの来館者	8,270	平常展のみの来館者	7,945	平常展のみの来館者	4,417
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	35,970	総　計	33,696	総　計	29,276	総　計	26,966	総　計	15,664
	平常展のみの来館者	8,669	平常展のみの来館者	8,319	平常展のみの来館者	7,423	平常展のみの来館者	6,035	平常展のみの来館者	4,967
	特別（共催）展計	27,301	特別（共催）展計	25,377	特別（共催）展計	21,853	特別（共催）展計	20,931	特別（共催）展計	10,697
	春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史―」	9,974	春期特別展「藤原京を掘る―藤原京一等地の調査―」	9,613	春期特別展「あすかの原風景」	8,816	春期特別展「骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事」	10,024	奈良国立博物館・奈良文化財研究所　合同企画　夏期特別展「日本人と古代仏教―仏教徒文字文化の考古学（仮称）」	中止
	夏期企画展　飛鳥資料館第7回写真コンテスト作品展「飛鳥の石」	3,383	夏期企画展　飛鳥資料館第8回写真コンテスト作品展「飛鳥の路」	2,930	夏期企画展　飛鳥資料館第9回写真コンテスト作品展「飛鳥のいきもの」	2,428	夏期企画展飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品展「飛鳥の古墳」	3,070	特別展「飛鳥の石造文化と石工」	3,212
	秋期特別展　「祈りをこめた小塔」	9,373	秋期特別展「高松塚古墳を掘る-解明された構築過程-」	9,877	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る」	7,492	秋期特別展「飛鳥－自然と人と－」	6,506	秋期企画展　飛鳥資料館第11回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」	5,114
	冬期企画展　「飛鳥の考古学2016-飛鳥むかしむかし早川和子原画展-」	4,571	冬期企画展「飛鳥の考古学2017」	2,957	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」	1,331	冬期企画展「飛鳥の考古学2020」	2,371

※1　平常展の一部として実施
※2　平城宮跡資料館ではなく、平城宮跡内のいざない館にて開催のため、合計の数値には含まない。（参考値として記載。）

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　251 日間（平常展のみの開館日数　96 日間）
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館
③展示総件数　9,048件（うち国宝376件、重要文化財1,025件）
(1)本館・平成館企画展示室　3,106件（うち国宝259件、重要文化財395件）
(2)東洋館　1,279件（うち国宝14件、重要文化財89件）
(3)法隆寺宝物館　232件（うち国宝 19件、重要文化財362件）
(4)平成館考古展示室　461件（うち国宝 84件、重要文化財164件）
(5)黒田記念館　97件（うち国宝　0件、重要文化財15件）
④展示替件数　5,041 件　・　展示替回数　延べ 392 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　　一般1,000円、大学生410円

黒田記念館　無料
⑥特集　全17件（●国宝、◎重要文化財、○重要美術品）
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月26日～6月1日まで臨時休館。

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　ツノのある動物	月　日 ～　月　日	0件
＜主な作品＞ 蓮華葡萄彫犀角杯、春日鹿曼荼羅図、自在龍置物、風神雷神図（模本）			
新型コロナウイルスの影響を勘案し、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館と協議の上、当該展覧会並びに関連イベントを中止した。			
本館 14 室	日本の仮面　舞楽面　行道面	6 月 19 日 ～ 7 月 12 日	24 件（重文 22 件）
＜主な作品＞ 舞楽面　崑崙八仙、舞楽面　童舞、行堂面 菩薩、追儺面 鬼			
雅楽の一種で、舞を伴う舞楽に用いるのが舞楽面。練供養や、これに類似した法会に用いた仮面を行道面という。奈良・手向山八幡宮、愛知・熱田神宮、愛知・真清田神社などが所蔵の舞楽面、丹生都比売神社（天野社）伝来の舞楽面と行道面を中心に展示し、古代、中世の芸能の多様性と、仮面の彫刻的魅力を紹介した。 新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、人を集めて展示室で実施するギャラリートークが中止されたことから、映像を配信するオンラインギャラリートークを実施した。			
本館 14 室	日本美術の記録と評価－調査ノートに見る美術史研究のあゆみ－	7 月 14 日 ～ 8 月 23 日	21 件
＜主な作品＞ 中殿御会図調査ノート、中殿御会図（摸本）			
美術作品は先人たちの永年の営みによって守り伝えられ、評価、鑑賞されてきた。この企画ではこんにち広く知られるような美術作品がどのように調査研究され、美術史研究が形作られてきたのかを、調査ノートと実際の作品によって紹介した。東京文化財研究所が所蔵する、今泉雄作・平子鐸嶺による明治期の調査ノートに始まり、広範かつ膨大な調査研究を行った田中一松資料、さらに細部に着目して実証的な研究を展開した土居次義資料によって、日本の美術作品が記録され、評価されてきた歴史を示した。東京文化財研究所文化財情報資料部による展示を実施した新しい試み。			
本館 14 室	大野出目家と越前出目家の能面	8 月 25 日 ～ 10 月 4 日	23 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ 能面　安達女、能面 三日月、能面 阿古父尉			
大野出目家、越前出目家はともに近世世襲面打の家系である。近世はすでに新たな能面を創り出す創作の時代から、古面を写す時代に移っていたが、名手が生まれ、個性が垣間見える部分もある。この展示はふたつの世襲面打家の作品をまとめて展示し、それぞれの造形の特色を紹介した。			
平成館 企画展示室	令和元年度新収品展	10 月 6 日 ～ 11 月 15 日	25 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ 浜松図屏風、佐野昭肖像、染付竹虎			
令和元年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開する。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介した。			

本館 特別 1 室	書と紙－平安時代の美しい紙－	9月24日 ～ 11月23日	22件(国宝1件、重文3件、重美3件)

＜主な作品＞
●古今和歌集（元永本）上帖、継色紙、◎法華経（久能寺経）法師品

国宝「古今和歌集（元永本）」は元永 3 年（1120）の奥書があり、本年は 900 年の節目にあたる。平安時代には、元永本のように美しく装飾された料紙を使って、能書が詩歌を揮毫した調度手本が、貴族の間の贈答品とされた。その料紙は、文様を版木で摺り出した唐紙（中国製・日本製）や、染紙、繊維を漉き込む雲紙などあるが、10～12 世紀の装飾料紙は中国にもあまり残されていない貴重な遺品である。さまざまな装飾料紙とその技法をとりあげながら、その料紙と書との調和を感じていただけるような展示を実施した。

東洋館 8 室	中国書画精華－古典の魅力－	9 月 24 日 ～ 11 月 15 日	70 件(国宝 10 件、重文 19 件、重美 2 件)

＜主な作品＞
●夏景山水図軸、●出山釈迦図軸、●雪景山水図軸、●寒山拾得図軸、●法語（破れ虚堂）

毎年秋の恒例となっている中国書画の名品展を開催する。宋・元時代の宮廷文化、禅文化の中で生み出された作品は、その格調高い表現から、中国のみならず、東アジア世界全体における規範となっていく。その造形的魅力を紹介しつつ、明時代以降にこれらに倣って作られた作品とともに展示することで、古典としての歴史的重要性も示した。日本人にとっての古典でもある中国書画の精華を楽しんでもらう展示とした。

本館 14 室	破格から調和へ―17 世紀の茶陶	10 月 6 日 ～ 11 月 29 日	19 件(重文 2 件)

＜主な作品＞
◎馬蝗絆茶甌記、◎色絵牡丹図水指、黒楽茶碗

本特集は、特別展「桃山―天下人の100年」に関連して、安土桃山時代に続く17世紀の茶陶をとりあげるものである。千利休（1522～91）によって大成された桃山期の茶の湯、そこにみとめられる美意識は、一般に、それまでの価値観を壊すような「豪壮」または「破格」という表現に象徴される。しかし、利休及び豊臣秀吉没後、次の時代を迎えた17世紀には、「調和」を重視する洗練された美意識のもとに新しい茶陶が登場する。ここでは館蔵品のなかから、三代道入、四代一入の樂茶碗や綺麗さびと謳われた小堀遠州の道具、そして公家好みの瀟洒な仁清のうつわなどを中心に紹介した。

東洋館 ８室	中国近代の上海－海上派の書・画・印	11月17日 ～ 12月23日	63件

＜主な作品＞
行書七言古詩四屏、楷書八言聯、葡萄図軸

アヘン戦争(1840～42)後の南京条約(1842)を機に開港した上海は、イギリス、フランス、アメリカが租界を設け、近代化が急速に進展した。経済発展、安全保障を背景に、富裕層は上海に移り、それにしたがって多くの芸術家が上海を拠点に活動した。海上派と称される彼ら芸術家の書、画、印は、明治から昭和の日本の墨客も熱い眼差しを向け、海上派の芸術家たちと師弟関係を結んだ者もみられる。本展では日本にも影響を与えた海上派の書画と印譜を紹介した。

平成館 企画展示室	世界と出会った江戸美術	11 月 25 日 ～ 3 年 1 月 11 日	36 件（重文 9 件）

＜主な作品＞
IHS 七宝繋蒔絵螺鈿書見台、◎悲しみの聖母（親指のマリア）、◎浅間山図屏風

海外への自由な往来が禁止されていた江戸時代、日本を訪れる外国人は非常に限定され、異国の地を踏む日本人はさらに限られていた。しかし、厳しい制約のなかでも、日本とヨーロッパの間を多くの交易品が行き来し、異国の技術や表現に学んだ美術工芸品が双方の地で誕生した。東京国立博物館は、南蛮漆器や洋風画、輸出陶磁器のほか、長崎奉行所旧蔵キリシタン遺物、紅葉山文庫や蕃書調所などの江戸幕府関連施設に伝来した地図や洋書、シーボルト旧蔵書といった歴史的に重要な資料を収蔵している。本展では、江戸時代における東西交流から生まれた所蔵品及びご寄託品を紹介した。世界的な鎖国状態の最中にある現在、改めて江戸時代の人々に思いを馳せつつ、外国に対する好奇心を自国の文化、美術のなかで昇華させた過去を振り返った。

本館 14 室	珠玉の中国彫刻	12 月 1 日 ～ 3 年 2 月 21 日	20 件（重文 1 件）

＜主な作品＞
◎十一面観音菩薩立像、龍樹思惟像台座、三彩神王

中国彫刻といえば雲岡石窟や龍門石窟の美しい石仏をイメージしがちであるが、仏教美術が伝来する以前の中国では人体をリアルに表現することがなく、墓をまもる俑や石人むしろ抽象的な造形にその特性があるといえる。しかし、この抽象性は、西方起源の仏像を中国が受け入れていく過程において常に大切なエッセンスとして作用した。南北朝時代には、謎めいた微笑と複雑な衣文をもつ独特の仏像を生み出し、唐時代に到ると、肉体と衣文が見事に調和した中国仏像が完成した。いっぽう、玉石を用いて彩色を施した玉像や、白檀に細密な彫刻を施した檀像、さらに道教神の像や田舎風の素朴な作品も数多く残っている。今回の特集陳列では、館蔵品の中から漢～唐時代の仏教彫刻、道教像、俑など多彩な作品を展観し、東洋館の常設展示作品も合せた内容として、中国彫刻の奥深い世界を紹介したい。日本美術を展示する本館で中国彫刻を紹介することにより、古来、密接な関係があった日本と中国との美術の交流についてあらためて思いを馳せる一助となれば幸いである。

本館 15 室	表慶館の建築図面	12 月 8 日 ～3 年 2 月 14 日	19 件

＜主な作品＞
表敬完成予想図、奉献美術館計画断面図、奉献美術館基礎煉瓦工事写真、奉献美術館建設工事写真

本特集は表慶館で開催される「日本のたてもの」展(日本博、12 月から)に合わせ、収蔵する表慶館関連資料のなかから建築図面を中心に展示する。表慶館は大正天皇御成婚を記念し、御祝するため明治 33 年 3 月に東宮御慶事奉祝会が組織され、寄付により建造された奉献美術館である。明治 41 年 9 月 29 日に竣工、10 月 10 日に奉祝会から献納された。ついで 11 月 30 日、この奉献美術館は「表慶館」と命名され東京帝室博物館が管理することとなった。帝国奈良博物館・帝国京都博物館に続き、建築家片山東熊によって設計されたネオバロック様式の明治後期を代表する建築として知られる。現存する建築図面は平面図、立面図、断面図、構造図、現寸図などであり、明治期の建築造営の一端を図面によって紹介した。

本館 特別 1・2 室	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	3 年 1 月 2 日 ～ 1 月 31 日	61 件(重文 3 件. 重美 2 件)

＜主な作品＞
◎阿弥陀如来および両脇侍立像（善光寺式）、●片輪車蒔絵螺鈿手箱、◎駿牛図断簡

令和 3 年（2021）の干支にちなみ、「牛」をテーマとした特集展示を行う。力強く従順で、人の営みを傍らで支え続けてきた牛は、身近な家畜である一方、神の乗り物となる聖性をそなえ、仏教における悟りの象徴ともみなされた。また貴族の生活と密着して牛車の文化を生み、後々まで王朝文化への憧憬をもたらした。本展示では、「牛にまつわる信仰史」「牛と共同した暮らし」「牛車と王朝の様式美」「描写された牛の姿形」と複数のテーマにわけて構成し、人と牛をめぐる豊かな文化を紹介した。

東洋館 8 室	清朝書画コレクションの諸相―高島槐安収集品を中心に―	3 年 1 月 2 日～2 月 28 日	85 件(国宝 1 件、重美 1 件)

＜主な作品＞
行書「槐安」軸、山水図巻、花卉図四屏、●瀟湘臥遊図巻

毎年開催している台東区立書道博物館との連携企画第 18 弾として、2 年度は中国書画のコレクションをテーマとする。中国書画は作者の手を離れたのち、所蔵者や鑑賞者の手で、本紙やその前後に鑑蔵印が捺されたり、題跋がしたためられたり、時には著録にまとめられたりした。それらは作品の来歴を示すとともに、題跋の書や印自体が、鑑賞の対象ともなる。清朝の皇帝や高官、民間の富裕層が所蔵した書画の名品は、辛亥革命(1911～12)を契機として日本にも流入し、質の高いコレクションが少なからず形成された。世界的に知られる台東区立書道博物館所蔵の中村不折（1866～1943）による収集品と当館所蔵の高島槐安(菊次郎、1875～1969)による収集品には、中国歴代の収蔵家や書画家が収蔵・鑑賞した作品が数多く含まれる。本展では、台東区立書道博物館で中村不折、当館で高島槐安の収集品に焦点をあてる。作品にみられる題跋や鑑蔵印等から、清時代から中華民国時代にかけて形成された官・民の書画コレクションの系譜をたどるとともに、それらを受け継ぐ両コレクションの特色をご紹介した。

本館 特別 1・2 室	木挽町狩野家の記録と学習	3 年 2 月 9 日 ～ 3 月 21 日	23 件

＜主な作品＞
瀟湘八景図（摸本）、有徳院吉宗加筆鷹画草稿、観音経絵（模本）

江戸時代、幕府に仕えた御用絵師のうち、狩野家の中橋・鍛冶橋・木挽町・浜町の四家は奥絵師と称され、旗本に匹敵する特別な存在であった。中でも筆頭の木挽町狩野家は絶大な権力を持ち、江戸城障壁画や国内外への贈答用絵画の制作、将軍家子女の絵画教育、古画の鑑定などを行った。また屋敷に併設した画所において、全国から集めた 5、60 人を超える弟子を教育しており、ここから狩野芳崖や橋本雅邦、木村立岳ら明治期の日本画を牽引する人物を輩出している。本展示では、当館が収蔵する 5,000 件近い木挽町狩野家資料の一部を「記録と学習」というキーワードで紹介する。

平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3 年 3 月 23 日～4 月 18 日	9 件

＜主な作品＞
四季花鳥図巻、玄奘三蔵像、五彩人物文長方合子、突線紐 3 式銅鐸

本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、考古、歴史資料、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げる。作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただく。 本年度は、本格修理完了品として「四季花鳥図巻」「玄奘三蔵図」や「突線鈕 3 式銅鐸」など 9 件を展示した。なお本展は、元年度の特集展示が非常事態宣言を受けて開催できなかったため、総合文化展での展示が決まっていたものを除き、基本的に展示作品を踏襲し、新たに 2 件を加えたものである。

本館 14 室	おひなさまと日本の人形	3 年 2 月 23 日～3 月 21 日	105 件

＜主な作品＞
厨子棚 、黒棚、書棚 、三揃、古今雛 、享保雛、古式次郎左衛門雛、衣裳人形 吉弥、内裏雛（芥子雛、束帯・十二単姿）

3月3日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行う。2年度は、前川冨士子氏寄贈の雛飾りと日比谷家伝来の古今雛を中心に展示する。特に前川氏寄贈の雛飾りは江戸時代の江戸で作られた細密雛道具の優品であり、江戸の雛文化の頂点を示す作品が一堂に展示される貴重な機会である。また天児・這子や立雛によって、雛人形の発展を概観するとともに、当館所蔵の衣裳人形の優品を展示することで、オリンピックイヤーでもあることから、日本の人形文化を海外にも発信するに相応しい内容としたい。これらの作品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、華やかに楽しく伝えたい。

本館 14室・特別1・2室	鳥獣戯画展スピンオフ	3年3月23日～6月6日	47件（重美1件）

＜主な作品＞
藍釉兎、兎形香油壺、鳥獣戯画甲巻（摸本）、獣形帽額縮図

本特集は、平成館で開催される特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」（3年4月13日～5月31日）の関連企画である。鳥獣戯画は、抜群の人気をほこる絵巻でありながら、実のところ謎だらけである。主題は何か、誰が描いたのか、何のために描かれたのかという、基本的な問いについてはいまだ論争が続いている。そこで本特集では、この絵巻の中心的モチーフである動物に改めて注目した展示を行う。はじめに、動物が古今東西どのように表現されてきたかをたどり、そのかたちに込められた意味を探る（14室）。最も知名度の高い甲巻の動物が何をしているのか、どのような道具を持っているかを器物や絵巻を通して図解し（特別2室）、鳥獣戯画が成立する背景にあった作品群とそこから派生した作例を紹介（特別1室）することで、鳥獣戯画の魅力により深く、多角的に迫る。

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「きもの KIMONO」**
会　　期	6月30日(火)～8月23日(日)　48日間
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、朝日新聞社、テレビ朝日、文化庁、日本芸術文化振興会
協　　賛	タカラレーベン、竹中工務店、凸版印刷、トヨタ自動車
協　　力	神戸ファッション美術館
作品件数	294件
来館者数	91,830人(目標100,000人、達成率：91.83%)
入場料金	一般1,700円、大学生1,200円、高校生900円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	93.1%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	日本の伝統衣装として知られる「きもの」が身分の差や老若男女を問わず人々の日常着として着られるようになった室町時代から現代までの歴史を、そのファッション性や日本独自の工芸としての視点でとらえ、着物を着用した人物を描いた絵画、マネキンに着付けた着装展示などを交えて、それぞれの時代の優品を中心に5章で構成し、展覧した。
講演会等	当初は当館の大講堂において国際シンポジウム「日本文化としての『きもの』を考える」の開催を予定していたが、新型コロナ感染予防のため、ギャラリートーク及び国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。

展覧会名	**特別展「工藝2020－自然と美のかたち－」**
会　　期	9月21日（月）～11月15日(日)(48日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	田島ルーフィング、竹尾、トキ・コーポレーション
会場構成	伊東豊雄建築設計事務所
作品件数	82件
来館者数	13,851人(目標50,000人、達成率36%)
入場料金	一般　1,500円、大学生　1,000円、高校生　600円
アンケート結果　満足度	78.4%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	日本では、自然との共生による密接な精神的感性と固有の生命観が芽生えて我が国特有の工芸を発展させてきた。それは長い歴史と文化が形成されるなかで、変化に富む地形と四季折々の気候、そして豊かな風土に育まれた自然観を要因とすることが大きい。本展では、日本が世界に発信する芸術文化を牽引する現代の工芸作家82名による優れた近年の制作品を紹介する。
講演会等	特別展「工藝2020」オンライン国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。

展覧会名	**特別展「桃山―天下人の100年」**
会　　期	10月6日（火）～11月29日(日)(48日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス

協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
作品件数	231件
来館者数	82,808人(目標120,000人、達成率69.0%)
入場料金	一般2,400円、大学生1,400円、高校生400円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	91.2%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	安土桃山時代を中心に花開いた豪壮華麗な「桃山文化」を、室町時代末から江戸時代初期にかけての約100年間の美意識の変化に着目して7章に分け、絵画、書跡、武具、茶道具などの時代を代表する優品約230件の展示によって示した。
講演会等	なし

展覧会名	**特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」**
会　　期	12月23日（水）～3年2月21日(日)(53日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、国立科学博物館、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	国立歴史民俗博物館、金沢工業大学
作品件数	19件
来館者数	20,447名（目標50,000人、達成率：40.9%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,000円、高校生600円
アンケート結果　満足度	78.4%
担当研究員数	1名
展覧会の内容	本展は、木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へ昇華させた日本の伝統建築のうち、その縮小表現によって高い美意識と加工技術を際立たせた「建築模型」に焦点をあて、自然素材を活かした造形的特徴を飛鳥時代から現代建築まで通史的に俯瞰するものである。
講演会等	なし

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　183日(名品ギャラリー開館日数： 0日、特別展（西国）開館日数：47日、特別展（皇室）開館日数：39日、特別展（鑑真）開館日数：4日 、庭園のみ開館日数：93日)
②展示総件数　467件
③展示替件数　458件
④入場料金　一般700円、大学生350円　※庭園のみ開館時は一般300円
⑤特集展示等：全5件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別企画	文化財修理の最先端	12月19日～3年1月31日	54件(国宝6件、重要文化財29件)
新春特集展示	丑づくし―干支を愛でる―	12月19日～3年1月31日	15件（重要文化財2件）
特別企画	新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―	3年2月2日～3月7日	50件（国宝4件、重要文化財11件、重要美術品2件）
特集展示	国宝「日本書記」と東アジアの古典籍	3年2月4日～2月28日	13件（国宝8件、重要文化財2件）
特集展示	雛まつりと人形	3年2月9日～3月7日	44件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」**
会　　期	7月23日(木・祝)～9月13日(日)（47日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、西国三十三所札所会、読売新聞社
協　　賛	清水建設、非破壊検査
作品件数	170件（うち国宝12件、重要文化財45件）
来館者数	52,164人（目標来館者数70,000人・達成率74.5%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	満足度82.7%
講演会等	・記念講演会 7月23日「西国巡礼　慈悲の道」講師：藤田浩哉氏（西国三十三所札所会 会長・今熊野観音寺 山主） 8月 8日「資料からみる西国三十三所」講師：羽田聡（京都国立博物館 美術室長兼列品管理室長） 8月22日「西国三十三所、観音めぐり」講師：淺湫毅（京都国立博物館 上席研究員） 8月29日「信仰の息づく霊地―那智山経塚出土の立体曼荼羅―」講師：末兼俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 9月 5日「経典にみる観音菩薩」講師：上杉智英（京都国立博物館 研究員）

展覧会名	特別展「皇室の名宝」
会　　期	10月10日(土)～11月23日(日)（39日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、宮内庁、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
協　　賛	岩谷産業、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、パナソニック、非破壊検査
作品件数	98件（うち国宝4件、重要文化財3件、重要美術品2件）
来館者数	85,315人（目標来館者数100,000人・達成率85.3%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	満足度81.8%
講演会等	・記念講演会 10月10日「宮廷と日本文化―雅な文化、その継承のこころ―」講師：太田彩氏（宮内庁三の丸尚蔵館 首席研究官） 10月17日「皇室に伝わった絵巻の至宝―春日権現験記絵を中心に―」講師：井並林太郎（京都国立博物館 研究員） 10月24日「皇室を彩る絵画―旧桂宮家伝来品を中心に―」講師：福士雄也（京都国立博物館 主任研究員） 10月31日「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来―"禁裏御物"と諸家献上―」講師：髙梨真行氏（宮内庁三の丸尚蔵館 主任研究官） 11月 7日「伏見天皇と「屏風土代」―天皇の書風形成―」講師：羽田聡（京都国立博物館 美術室長兼列品管理室長） 11月14日「御所をめぐる色とかたち」講師：山川曉（京都国立博物館 工芸室長兼企画室長）

展覧会名	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
会　　期	3年3月27日(土)～5月16日(日)（44日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、律宗総本山 唐招提寺、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
特別協力	華厳宗大本山 東大寺、真言宗泉涌寺派総本山 御寺 泉涌寺、真言律宗総本山 西大寺
協　　賛	岩谷産業、カシオ計算機、NISSHA、日本通運、三井不動産
作品件数	160件（うち国宝13件、重要文化財65件、重要美術品3件）
来館者数	3,696人（3月31日現在、目標来館者数50,000人）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
講演会等	・記念講演会 3月27日「鑑真和上の教え」講師：西山明彦師（律宗管長、唐招提寺八十八世長老） 4月 3日「律とは何か」講師：上杉智英（京都国立博物館 研究員） 4月10日「日本の戒律運動と日本人」講師：大原嘉豊（京都国立博物館 保存修理指導室長） 4月17日「俊芿と宋代戒律の日本への影響」講師：西谷功氏（泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員） 5月 8日「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」講師：淺湫毅（京都国立博物館 上席研究員）

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：263日(名品展のみの開館日数：190日)
②展示総件数：490件
③展示替件数：261件
④入場料金：一般　700円　大学生　350円　（3年1月19日～2月5日は、一般350円、大学生200円）
⑤特別陳列等：全120件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）149件
　珠玉の仏教美術（西新館）206件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）11件
　中国古代青銅器（青銅器館）124件
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、4月1日から6月1日まで臨時休館。

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―	12月8日～3年1月17日	46件（国宝2件、重要文化財4件）
特別陳列	お水取り	3年2月6日～3月21日	67件（重要文化財19件）
特別陳列	帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―	3年2月6日～3月21日	7件

(2)特別展、共催展等

展覧会名	御大典記念　特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」
会　　期	7月4日(土)～9月6日(日)（56日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	宮内庁正倉院事務所、奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局
学術協力	九州国立博物館
後　　援	奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、日本工芸会
特別協賛	―
協　　賛	ダイキン工業、竹中工務店、ライブアートブックス
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	86件
来館者数	42,846人(目標来館者数 50,000人・達成率 85.7%)

入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	90.8%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	明治時代以来製作された数百点におよぶ正倉院宝物の再現模造作品の中から、芸術性・学術性に優れた選りすぐりの一品を一堂に公開した。再現された天平の美と技に触れていただくとともに、日本の伝統技術を継承することの意義を紹介した。
講演会等	

展覧会名	**第72回正倉院展**
会　　期	10月24日（土）～11月9日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、NTT西日本、関西電気保安協会、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ
作品件数	59件
来館者数	36,344人(目標来館者数180,000人・達成率 20.2%)
入場料金	一般2,000円、中学・高校・大学生1,500円
アンケート結果　満足度	91.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物59件を公開する。
講演会等	○公開講座 2回　参加者数合計　258人 10月31日(土)「正倉院の石薬とその素材」鶴真美（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）/参加者数　141人 11月 7日(土)「武器・武具の献納と薬物の献納について」内藤栄（学芸部長）/ 参加者数　117人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数254日(うち平常展のみ開館日数206日)＊新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館(4月1日～6月1日(62日間))、大雨のため（7月7日12時以降）、台風のため（9月2日15時以降、9月6日14時以降）臨時休館
②展示総件数：1,964件(うち国宝64件、重要文化財234件)
③展示替件数：1,671件
④入場料金：一般700円、大学生350円
⑤特集展示・特別公開等：全7件

展示名称	特集展示「きゅーはく　どうぶつえん」				
開催期間	6月2日(火)～ 7月12日(日)	開催場所	文化交流展示室 第3室、第11室	陳列件数（うち指定品件数）	84件（うち重文5件）
内容	九博所蔵品のなかから動物を表現した作品を一堂に公開した。				
展示名称	開館15周年記念特集展示　太宰府史跡指定100年記念「筑紫の神と仏」				
開催期間	6月2日(火)～ 8月30日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室2 テーマ、3 テーマ、第6室、第7室	陳列件数（うち指定品件数）	107件（うち国宝17件、重文4件）
内容	九州国立博物館開館15周年・大宰府史跡指定100年を記念し、発掘調査出土品や寺社に伝わる貴重な文化財を公開した。				
展示名称	開館15周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展「しきしまの大和へ － 奈良大発掘 －」				
開催期間	7月28日(火)～ 12月20日(日)	開催場所	文化交流展示室 第2室、第3室	陳列件数（うち指定品件数）	188件
内容	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の所蔵品から、特に縄文～中世の出土資料の優品を公開した。				
展示名称	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～				
開催期間	9月8日(火)～ 11月23日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 第7室	陳列件数（うち指定品件数）	14件（うち重文1件）
内容	ユニバーサル・ミュージアムへの取り組みの一環として、実物展示に加えてレプリカや再現文化財を公開した。				
展示名称	開館15周年記念特集展示「織物に魅せられて―加賀前田家伝来の名物裂―」				
開催期間	12月1日(火)～ 3年1月24日(日)	開催場所	文化交流展示室 第9室	陳列件数（うち指定品件数）	34件
内容	九博所蔵の裂帖の修理完了にあたり、裂帖を中心に前田家に伝わった名物裂の数々を公開した。				
展示名称	新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度				
開催期間	3年1月1日(金・祝)～ 24日(日)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数（うち指定品件数）	27件（うち国宝3件）
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、貝桶、昆布箱、楊枝箱の3件と、婚礼行列を描いた絵巻や大揃いの婚礼調度も合わせて公開した。				
展示名称	特集展示「天神縁起の世界」				
開催期間	3年2月2日(火)～ 3月28日(日)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数（うち指定品件数）	19件（うち重文4件）
内容	天神さまとして親しまれる菅原道真の生涯や北野天満宮の始まりなどを描いた天神縁起にまつわる作品を公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「奈良・中宮寺の国宝」
会　　期	3年1月26日(火)～3月21日(日) (48日間)
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	中宮寺、九州国立博物館・福岡県、日本経済新聞社、西日本新聞社、テレQ
作品件数	16件(うち、国宝3件、重要文化財13件)
来館者数	50,432人(目標来館者数60,000人・達成率84.0%)
入場料金	一般1,800円、高大生1,200円、小中生800円
アンケート結果　満足度	89.2%
講演会等	

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：254日 （平常展のみの開館日数：180日）
②展示総件数：560件
③展示替回数：2回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：15,004人

(2)特別展、企画展等：５件

展覧会名	特別企画展「古代のいのり―疫病退散！」		
会　　期	6月16日（火）～7月19日（日）(30日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	52件（0件）
来館者数	2,846人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	夏期企画展「奈良の都の考古学―発掘された平城2019/古代のいのり―疫病退散！」		
会　　期	7月23日（木・祝）～8月30日（日）(34日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	104件（0件）
来館者数	3,968人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展　―重要文化財　長屋王家木簡―」		
会　　期	10月10日（土）～11月23日（月・祝）（39日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	55件（重要文化財　47件）
来館者数	14,670人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	新春ミニ展示「平城京の丑」		
会　　期	3年1月5日（火）～1月31 日（日）（24日間）	会　場	平城宮跡資料館　出口ロビー
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	5件（0件）
来館者数	1,425人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	関連展示「鬼神乱舞―護る・祓う・鬼瓦の世界―」		
会　　期	3年1月23日（土）～3月28日（日）（64日間）	会　場	平城宮いざない館
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	46件（0件）
来館者数	31,530人	入場料金	無料
講演会等	2回		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：265日　（新型コロナウイルスで6月1日まで閉館、6・7月は土・日・祝休館。電気工事のため3年2月23日～3月7日休館。）
②展示総件数：534件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：3件
⑥平常展来館者数　：4,417人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）	12月4日～12月28日	飛鳥寺所用軒瓦9点、鴟尾4点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）	12月4日～12月28日	大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点
石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）	12月4日～12月28日	石神遺跡出土土器19点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：252日（平常展のみの開館日数：118日）
②展示総件数：143件
③展示替回数：1回
④入場料金：一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料
⑤平常展のみの来館者数：4,967人

(2)特別展、企画展等：3件

展覧会名	**特別展「飛鳥の石造文化と石工」**		
会　　期	8月4日（火）～9月22日（火）（44日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	182点（2件）
来館者数	3,212人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会			

展覧会名	**秋期企画展「第11回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」**	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
会　　期	10月16日（金）～ 12月6日（日）（45日間）	陳列件数（うち指定品数）	65件（0件）
主　　催	奈良文化財研究所		
来館者数	5,114人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会			

展覧会名	**冬期企画展「飛鳥の考古学2020」**	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
会　　期	3年1月22日（金）～3月14日（日）（45日間）	陳列件数（うち指定品数）	103件（0件）
主　　催	奈良文化財研究所		
来館者数	2,371人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	―		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

令和3年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
961人	102人	239人	143人	325人	152人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計102人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （102人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 新型コロナウイルスのへの影響を勘案し、来館者に対面での活動を休止 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」のオンライン動画の視聴とアンケートを実施(1回) ・オンラインワークショップの事前トライアルへの参加（2回） ・オンラインギャラリートーク・オンライン講演会の視聴とアンケートを実施（1回） ・ボランティア執筆の投稿冊子を発行（8回） ・オンライン機器利用研修会（18回） ・自主的な学習による活動室利用（のべ388人） 【保存修復事業の補助（令和2年度は休止）】 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（7冊） ・たんけんマップの作成・オンライン化準備 【職場体験実施活動補助】 対面での受け入れを中止したかわりに、オンライン等での職場インタビューを実施 受入数：1校 生徒数：3人 （中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（29人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(7冊) ・盲学校のためのスクールプログラムの実施（1回） ・バリアフリー班への情報発信による研修（通年） 【ボランティアデー開催】 ボランティアデーの中止のかわりに、ボランティアの投稿による「誌上ボランティアデー」と自主企画グループの活動紹介冊子を発行した。 2)来館者参加型ガイドツアー 来館者に向けたツアーを中止したかわりに、各グループでの勉強会を実施（46回） 自主企画グループ勉強会（40回）・曜日グループ勉強会(6回) ホームページ内の「ライオン オンライン」でのオンライン動画「自主企画グループ活動紹介」の作成協力（1回）
東京藝術大学大学院インターンシップ （0人）	新型コロナウイルスの影響を勘案し、2年度の受け入れを中止した。 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)① 3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】 計25回
・基本活動関連研修 18回
・バリアフリー班研修 7回

【京都国立博物館】 計239人

種 別 （登録人数）	概 要
京博ナビゲーター（198人）	活動中の第2期京博ナビゲーターの任期は6月末までの予定であったが、新型コロナウイルスの影響により9月末まで延期した。ワークショップ等は実施できなかったが、『京博ナビゲーター活動記録 2014(平成26)～2020（令和2）年』に、72人が活動中のエピソードを投稿した。
調査・研究支援ボランティア(23人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(18人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（20回）を受けたのち、下記の活動で講師を務めた。 ・文化財に親しむ授業 6回・304人 ・記者体験in京都国立博物館 1回・135人

【奈良国立博物館】　計143人

種　別　(登録人数)	概　　要
世界遺産グループ(43人)	【動画の制作】 なら仏像館に展示されている作品の見どころを紹介する動画（子ども対象）　1本 【ワークシートの制作】 以下4種のテーマのワークシートの制作 ・「奈良国立博物館の歴史と建物の魅力」（子ども対象）　1部 ・「仏像の見方」（子ども対象）　1部 ・「仏像の造り方と材質」（子ども対象）　1部 ・「おうちで楽しむ ならはく工作キット」1部
解説グループ(54人)	【動画の制作】 なら仏像館に展示されている作品の見どころを紹介する動画（大人対象）　2本 【ワークシートの制作】 以下5種のテーマのワークシートの制作 ・「奈良国立博物館の歴史と建物の魅力」（大人対象）　1部 ・「仏像の造り方と材質」（大人対象）　1部 ・「仏像の時代変遷」（大人対象）　1部 ・「青銅器の種類と文様」（大人対象）　1部 ・「特別陳列 お水取り」（大人対象）　1部
サポートグループ（46人）	【動画の制作】 当館の敷地内にある庭園・茶室の見どころを紹介する動画（大人対象）　1本 【ワークシートの制作】 以下2種のテーマのワークシートの制作 ・「奈良国立博物館の全体案内MAP」（大人対象）　1部 ・「庭園の魅力案内MAP」（大人対象）　1部 【ボランティア通信誌の制作】 ・奈良国立博物館内で配布するボランティア通信誌『ブリッジ』　1部

【ボランティアに対する研修の実施】
・特別展の研修　1回（Teams利用）
【グループ活動進捗報告会の実施】計44回
・世界遺産グループ　　14回
・解説グループ　　19回
・サポートグループ　　11回

【九州国立博物館】　計325人（第6期登録予定者198人を含む）

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア(65人)	文化交流展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(39人)	体験型展示室「あじっぱ」で来館者への対応。参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア(42人)	館内の施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 予約団体(一般・学校)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーは毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(63人)	英語・韓国語・中国語での施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(29人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
資料整理ボランティア(9人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
イベント・サポートボランティア(10人)	ボランティア主催イベントや他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。 ボランティア広報紙の作成（年4回）。
学生ボランティア(21人)	高校生・大学生による子供向けイベントの企画・実施。 他館学生ボランティアとの連携。
フィールドボランティア（20人）	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。
手話ボランティアグループ（27人）	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動（NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない）。
・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2年度のボランティアの活動は休止している。

【奈良文化財研究所】　計152人

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（152人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等

平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修　0回

解説ボランティア向け現地説明会　0回

解説ボランティア勉強会　0回

※新型コロナウイルスの影響により、対面での研修会等は中止せざるを得なかったが、代替策として展示解説資料等を各ボランティアに送付し各人の独習による形で研修を実施した。

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和3年3月31日現在

<table>
<tr><td rowspan="6">国立文化財機構合計</td><td>博物館計</td><td>東京国立博物館</td><td>京都国立博物館</td><td>奈良国立博物館</td><td>九州国立博物館</td></tr>
<tr><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>0人</td><td colspan="2">0人</td><td colspan="2">0人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="2">本部文化財活用センター</td><td>本部文化財防災センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">0人</td><td colspan="2">0人</td><td>0人</td></tr>
<tr><td colspan="6">0人</td></tr>
</table>

【本部文化財活用センター】　0人

【本部文化財防災センター】　0人

【東京国立博物館】　0人

【京都国立博物館】　0人

【奈良国立博物館】　0人

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】0人

【奈良文化財研究所】0人

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和3年3月31日現在

<table>
<tr><th rowspan="2">国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td>63 人</td><td>28人</td><td>15人</td><td>9人</td><td>11人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">143人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>80 人</td><td colspan="2">29人</td><td colspan="2">51人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">0 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　28人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	大阪大学教授　藤岡穣	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
2	九州国立博物館	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	九州国立博物館副館長　富田淳	企画課出版企画室研究員　植松瑞希
3	九州国立博物館	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	九州国立博物館副館長　富田淳	列品管理課登録室　六人部克典
4	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	町田市立博物館長・愛知県立陶磁美術館総長　伊藤嘉章	調査研究課長　河野一隆
5	九州国立博物館	公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	九州国立博物館主任研究員　畑靖紀	調査研究課絵画・彫刻室研究員　古川攝一
6	九州国立博物館	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」（19113559、2019年度～2021年度）	九州国立博物館主任研究員　畑靖紀	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
7	慶應義塾大学	挑戦的研究(萌芽)「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」	慶應義塾大学特任講師　鳥谷真佐子	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
8	公益財団法人古代学協会	弥生時代高地性集落の列島的再検証	公益財団法人古代学協会客員研究員　森岡秀人	企画課特別展室研究員　山本亮
9	国立歴史民俗博物館	研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」	国立歴史民俗博物館長　西谷大	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
10	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	筑波大学教授　松井敏也	保存修復課環境保存室長　和田浩
11	筑波大学	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」（19090313、2019年度～2023年度）	筑波大学芸術学系助教　水野裕史	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
12	筑波大学	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」（19090313、2019年度～2023年度）	筑波大学芸術学系助教　水野裕史	調査研究課東洋室長　勝木言一郎
13	天理大学	日本学術振興会、科学研究費助成事業・基盤研究（B）「地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討」	天理大学文学部教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
14	東京藝術大学	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開 ―独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	東京藝術大学美術学部 助教　宮永美知代	上席研究員　木下史青
15	東京工業大学	基盤研究(B)「片山東熊と宮内省内匠寮の日本近代建築発展に果たした役割－明治宮廷建築の研究－」（18H01615）	東京工業大学環境・社会理工学院特任准教授　平賀あまな	企画課デザイン室長　矢野賀一
16	東京女子大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	東京女子大学教授　佐藤全敏	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
17	東京大学	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究	東京大学大学院人文社会系研究科(文学部)教授　高山 博	企画課特別展室アソシエイトフェロー　村松綾
18	東京大学	基盤研究（A）「コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究」	東京大学史料編纂所教授　山家浩樹	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
19	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料（高精細データ）の解析	東京大学史料編纂所長　保谷徹	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
20	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	東京大学史料編纂所教授　尾上陽介	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
21	名古屋大学	中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明	名古屋大学教授　近本謙介	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
22	奈良文化財研究所	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	奈良文化財研究所都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	企画課特別展室研究員　山本亮
23	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	奈良国立博物館長　松本伸之	保存修復課環境保存室長　和田浩
24	立教大学	日本学術振興会、二国間交流事業「王国から行政州へ　―鉄器時代からペルシア時代のイスラエル北部の考古学的研究」	立教大学文学部教授　長谷川修一	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
25	早稲田大学	特別テーマ研究「新型コロナウイルス感染症の影響下における日本演劇界の調査研究」	早稲田大学演劇博物館助教　後藤隆基	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
26	埼玉大学	基盤研究（B）（一般）初期遊牧社会における社会複雑化とユーラシア東西交易路の復元に関する包括的研究	埼玉大学人文社会科学研究科准教授　中村大介	客員研究員　高濱秀
27	京都大学人文科学研究所	共同研究（課題公募班〔一般Ａ班〕）「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究	班長：ヴュルツブルク大学教授　外村中	調査研究課工芸室主任研究員　清水健
28	東京文化財研究所	基盤研究（Ａ）アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	東京文化財研究所文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	企画課特別展室長　猪熊兼樹

【京都国立博物館】延べ　15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
2	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課係長　水野敏典	研究員　古谷毅
3	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長　田沢裕賀	学芸部保存修理指導室主任研究員 福士雄也
4	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究-作品伝来情報の検討から-	学芸企画部主任研究員　土屋貴裕	学芸部企画室研究員 井並林太郎
5	大阪大谷大学	新義真言系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究	文学部教授　宇都宮啓吾	学芸部美術室長　羽田聡
6	奈良文化財研究所	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	都城発掘調査部室長　神野恵	学芸部長　尾野善裕
7	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究	人文学研究科准教授　梶原義実	学芸部長　尾野善裕
8	奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部副部長　清野孝之	学芸部保存科学室長　降幡順子
9	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	仏教学研究科教授　落合俊典	学芸部美術室研究員　上杉智英
10	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	文化財情報資料部室長　小林公治	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
11	国際仏教学大学院大学	日本現存宋版大蔵経の基礎的研究とその受容・展開に関する総合的な研究	日本古写経研究所研究員　牧野和夫	学芸部美術室研究員　上杉智英
12	東北学院大学	平泉仏教文化の諸相とその社会的基盤に関する資料学的研究	文学部教授　七海雅人	学芸部美術室研究員　上杉智英
13	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	保存科学研究センター室長 犬塚将英	学芸部保存科学室長　降幡　順子
14	早稲田大学	中世仏教美術における霊性の発生と継承に関する基礎的研究	文学学術院教授　山本聡美	学芸部企画室研究員 井並林太郎
15	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸研究部研究員　高橋真作	学芸部美術室研究員　森道彦

【奈良国立博物館】延べ　9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究－	教授　井手誠之輔	教育室長　谷口耕生
2	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究－	教授　井手誠之輔	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	特任研究員　岩田茂樹
4	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	保存修理指導室長　鳥越俊行
5	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	企画室主任研究員　山口隆介
6	奈良大学	古代～中世の「鎰石」と「真鍮」の研究－金に等しい価値があったころ－	名誉教授　西山要一	資料室長　野尻忠
7	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築-物質文化史の視点から-	室長　小林公治	保存修理指導室長　鳥越俊行
8	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本崇	企画室長　吉澤　悟
9	北九州市立自然史・歴史博物館	藕糸織の基礎的研究－非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に－	学芸員　富岡優子	情報サービス室主任研究員 北澤菜月

【九州国立博物館】　延べ　11人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	古代～中世の「鎰石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山要一	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
2	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授　尾上陽介	館長　島谷弘幸
3	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部長　小泉惠英
4	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸企画部長　田沢裕賀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
5	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理よび環境整備－保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
6	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一麿	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
7	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
8	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
9	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究	総合国際学研究院教授 青山亨	学芸部文化財課長　原田あゆみ
10	奈良県立橿原考古学研究所	日本における初期王陵の実態解明－「国産化という産業革命」の視点から－	副所長　岡林孝作	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
11	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	学芸部情報サービス室長 宮崎幹子	学芸部文化財課資料管理室アソシエイトフェロー　樋笠逸人

【東京文化財研究所】延べ　29人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	筑波大学	アンコール遺跡群における石材劣化の新展開とその集学的研究	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子
2	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子
3	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部絵画・彫刻室　主任研究員　皿井　舞	保存科学研究センター　センター長 早川　泰弘
4	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部絵画・彫刻室　主任研究員　皿井　舞	文化財情報資料部　専門職員　城野誠治
5	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科　教授　小椋　大輔	保存科学研究センター　保存環境研究室研究員　水谷　悦子
6	千葉大学	デザイン実装を目的とした歴史的人工物に集積されるアイデア・工夫のモジュール化	大学院工学研究院　教授　久保光徳	無形文化遺産部　主任研究員　今石みぎわ
7	奈良大学	古代～中世の「鎰石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山　要一	保存科学研究センター　センター長 早川　泰弘
8	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	客員研究員　伊藤　嘉章	保存科学研究センター　修復材料研究室長　早川　典子
9	徳島大学	伊能図の成立過程に関する学際的研究－忠敬没後200年目の地図学史的検証－	大学院社会産業理工学研究部 非常勤講師　平井　松午	保存科学研究センター　センター長 早川　泰弘

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
10	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科　教授　園府寺　司	文化財情報資料部　主任研究員 安永　拓世
11	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部　教授　北條 芳隆	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
12	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター　修復材料研究室長　早川　典子
13	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター　客員研究員 宇高　健太郎
14	早稲田大学	デジタル･アーカイブを活用した最盛期義太夫節浄瑠璃作品の総合的研究	坪内博士記念演劇博物館　名誉教授　鳥越 文蔵	特任研究員　飯島　満
15	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン･カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部　教授　松川　節	文化財情報資料部　文化財情報研究室長　二神　葉子
16	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部　教授　北野　信彦	保存科学研究センター　保存環境研究室　吉田　直人
17	東京国立博物館	失われた古代･中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	学芸企画部企画課　主任研究員 土屋　貴裕	文化財情報資料部　主任研究員 安永　拓世
18	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部　助教　野口　直人	無形文化遺産部　主任研究員 今石　みぎわ
19	早稲田大学	ネクロポリス・テーベにおける岩窟墓のライフ・ヒストリー	文学学術院　教授　近藤　二郎	文化遺産国際協力センター　研究員 前川　佳文
20	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	文学部　教授　桑原　久男	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　間舎　裕生
21	金沢大学	中東部族社会の起源:アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	国際文化資源学研究センター 特任教授　藤井 純夫	文化遺産国際協力センター　研究員 安倍　雅史
22	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	社会文化科学研究科　教授　松本 直子	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
23	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部　学術研究員　配川　美加	特任研究員　高桑　いづみ
24	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部　学術研究員　配川　美加	無形文化遺産部　客員研究員 星野　厚子
25	九州国立博物館	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討	学芸部博物館科学課　課長　木川　りか	保存科学研究センター　保存環境研究室長　秋山　純子
26	東京藝術大学	絹本著色絵画の技法史的展開に関する研究	社会連携センター　専門研究員 京都　絵美	保存科学研究センター　修復材料研究室長　早川　典子
27	東京農工大学	真菌類が硫化カルボニル代謝により気体状硫黄を固定する生理的意義と代謝経路の解明	(連合)農学研究科(研究院)　教授　吉田　誠	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子
28	総合地球環境学研究所	オマーン南部海港都市の着尺な社会環境下にあるリビングヘリテージの復興と継承	研究基盤国際センター　准教授 近藤　康久	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
29	九州大学	文化遺産保護の統合的ガバナンス方法論開発のための国際共同研究　（日本学術振興会　課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業）	大学院法学研究院　教授　河野俊行	文化財情報資料部　文化財情報研究室長　二神　葉子 文化遺産国際協力センター　国際情報研究室長　西　和彦 同　アソシエイトフェロー 境野　飛鳥

【奈良文化財研究所】延べ　51人

○科学研究費補助金　延べ　39人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	天皇家・公家文庫収蔵資料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明	教授 田島　公	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
2	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授 池田　栄史	副所長　高妻　洋成
3	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授 池田　栄史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　柳田　明進
4	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	教授 村上　恭通	都城発掘調査部主任研究員　丹羽　崇史
5	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	准教授 山田　太造	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
6	東京都立大学	考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築	教授 山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎　健
7	東京大学	ホモ・サピエンス躍進の初源史：東アジアにおける海用進出のはじまりを探る総合的研究	教授 海部　陽介	都城発掘調査部主任研究員　森先　一貴
8	京都大学	古代・中世東西回廊－東南アジア大陸部交流網の歴史的動態）	研究員 柴山　守	企画調整部国際遺跡研究室専門職　佐藤　由似
9	東京大学	デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究	准教授 菊地　大樹	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室アソシエイトフェロー　上椙　英之
10	東京大学	筆跡・花押情報の高度利活用研究―収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による―	教授 末柄　豊	都城発掘調査部主任研究員　桑田　訓也
11	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	教授 落合　俊典	都城発掘調査部客員研究員　杉本　一樹
12	近畿大学	東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究	教授 網　伸也	都城発掘調査部主任研究員　小田　裕樹
13	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
14	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	都城発掘調査部主任研究員　小田　裕樹
15	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎　健
16	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	都城発掘調査部主任研究員　森川　実
17	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田　慎矢
18	東京大学	コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究	教授 山家　浩樹	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
19	東北大学	石材構築文化財の保全のための３次元デジタルアーカイブの標準化の研究	教授 藤澤　敦	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長　金田　明大
20	帝京大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構築	准教授 植月　学	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田　慎矢
21	埼玉大学	初期遊牧社会における社会複雑化とユーラシア東西交易路の復原に関する包括的研究	准教授 中村　大介	都城発掘調査部主任研究員　田村　朋美
22	京都大学大学院	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	教授 小椋　大輔	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　脇谷　草一郎
23	鹿児島大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	助教 新里　貴之	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田　慎矢
24	東京大学	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質	准教授 海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー　李　暉
25	岩手大学	複数遺跡関連性調査のための石器接合資料生成自動化と接合手順可視化手法の確立	教授 今野　晃市	埋蔵文化財センター客員研究員　野口　淳
26	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	教授 松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
27	京都大学	「消滅」首長墳の再評価による古墳時代研究資料の基盤整備	助教 阪口　英毅	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬　覚
28	東海大学	東南アジア港市の船体考古資料調査と保存研究	講師 木村　淳	副所長　高妻　洋成
29	九州歴史資料館	船原古墳からみた古墳副葬有機物製品の立体的復元研究	研究員 加藤　和歳	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー　片山　健太郎
30	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授 小澤　毅	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井　晃樹
31	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授 小澤　毅	都城発掘調査部主任研究員　石田　由紀子
32	京都橘大学	日本古代土器の複眼的編年検証に基づく通時代的特質の解明	准教授 中久保　辰夫	都城発掘調査部主任研究員　小田　裕樹
33	東北大学	中世禅院を拠点に流通した建築の形態・空間・技法に関する学際的・対外交渉史的研究	准教授 野村　俊一	都城発掘調査部主任研究員　鈴木　智大
34	東北大学	新たな長期年輪幅標準年輪曲線ネットワークの構築とそのオープンアクセス化	助教 野村　俊一	埋蔵文化財センター年代学研究室長　星野　安治
35	金沢大学	高句麗・渤海を東部ユーラシア史に位置づけるための基礎的研究	教授 古畑　徹	埋蔵文化財センター客員研究員　中村　亜希子
36	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	分析科学研究室長 犬塚　将英	副所長　高妻　洋成

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
37	金沢大学	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ	教授 中村　慎一	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
38	東京大学	アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築	教授 西秋　良宏	企画調整部長 加藤　真二
39	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的研究の促進	准教授 中尾　央	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長　金田　明大

○学術研究助成基金助成金　延べ　12人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授 大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
2	奈良大学	3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用	教授 今津　節生	副所長　高妻　洋成
3	帝塚山学院大学	災害伝承を活用した災害復興と持続可能性に関する研究	教授 安田　政彦	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室アソシエイトフェロー 上椙　英之
4	早稲田大学	衛星画像のGIS分析による隋唐都城とシルクロード都市の空間構造の比較考古学的研究	教授 城倉　正祥	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　山藤　正敏
5	奈良女子大学	玉類の流通からみた威信財システム脱却過程に関する考古科学的研究	特任講師 大賀　克彦	都城発掘調査部主任研究員 田村　朋美
6	京都府立大学	山口県域の銅生産・銅銭鋳造関係古代出土文字資料を用いた政治・社会的地域特質の解明	特任准教授 竹内　亮	都城発掘調査部上席研究員 山本　崇
7	金沢大学	ロシア沿海地方における渤海（６９８～９２６年）遺跡出土遺物編年の基礎的研究	客員教授 小嶋　芳孝	埋蔵文化財センター客員研究員 中村　亜希子
8	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴－野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用－	室長 降幡　順子	文化遺産部歴史研究室長 吉川　聡
9	鹿児島国際大学	超・高密度三次元発掘記録法（悉皆的3D発掘）の開拓と展開を目指す実践的研究	教授 中園　聡	埋蔵文化財センター客員研究員 平川　ひろみ
10	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱＆水分移動・応力・歪連成解析	准教授 安福　勝	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　脇谷　草一郎
11	慶應義塾大学	博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築	特任講師 鳥谷　真佐子	埋蔵文化財センター客員研究員 野口　淳
12	大阪市立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理 佐久間　大輔	埋蔵文化財センター客員研究員 松崎　哲也

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
1人	1 人	0人	0人	1人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	0 人	0人		0人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0 人	0 人		0 人	

【本部文化財活用センター】延べ　0人

【本部文化財防災センター】延べ　0 人

【東京国立博物館】延べ　0人（科学研究費助成事業を除く）
（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は0人）

【京都国立博物館】延べ　0人

【奈良国立博物館】延べ　1人

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	野尻　忠	中国	9月19日～10月12日	上海博物館「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品」展出陳文化財の点検・梱包・輸送	他機関負担	上海博物館

【九州国立博物館】延べ　0人

【東京文化財研究所】延べ　0人

【奈良文化財研究所】延べ　0人

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　0人

c-② 調査研究テーマ一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
148 件	70 件	25 件	12 件	15 件	18 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	75 件	22 件	53 件	0 件	
	本部文化財活用センター・東京国立博物館		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	2 件		1 件		

【本部文化財活用センター・東京国立博物館】　2件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	副センター長　小林牧

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター	保存担当室長　吉田直人

【東京国立博物館】　25件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　22件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	学芸研究部	博物館教育課長　伊藤信二
2	特別調査「工芸」第12回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
3	特別調査「彫刻」第10回	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
4	特別調査「絵画」第5回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
5	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　河野一隆
6	列品および寄託品に関連する有形文化財にかかる調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
7	仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
8	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
9	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
10	特集「書と紙－平安時代の美しい紙－」に関連する調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
11	特集「大野出目家と越前出目家の能面」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
12	特集「令和元年度新収品展」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
13	特集「世界と出会った江戸美術」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
14	特集「館蔵　珠玉の中国彫刻」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史
15	特集「表慶館の建築図面」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課デザイン室長　矢野賀一
16	特集「博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作
17	特別展「きもの　KIMONO」に関連する調査研究	学芸企画部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
18	館内調査研究「中近世風俗図の調査研究」	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
19	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　矢野賀一
20	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二
21	凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　今井敦
22	ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）冨坂賢
2	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
3	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

【京都国立博物館】　12件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　9件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	学芸部	調査・国際連携室長　呉孟晋
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
3	旧家伝来の工芸品に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
4	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	学芸部長　尾野善裕
5	特集展示・特別企画に関連する調査研究	学芸部	学芸部長　尾野善裕
6	考古資料相互活用促進事業に関する調査研究	学芸部	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
7	特別展「皇室の名宝」に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
8	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
9	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室主任研究員　水谷亜希

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
3	文化財情報システム・資料情報処理に関する調査研究	学芸部	列品管理室研究員　近藤無滴

【奈良国立博物館】 15件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　11件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	資料室長　野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	学芸部長　内藤栄
4	墳墓出土品の調査研究	学芸部	企画室長　吉澤悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	美術室長　岩井共二
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	特別展「第72回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	学芸部長　内藤栄
8	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―」に関する調査研究	学芸部	列品室長　中川あや
9	特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究	学芸部	情報サービス室長　宮崎幹子
10	聖徳太子1400年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　山口隆介
11	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生 主任研究員　斎木涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
2	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長　野尻忠

【九州国立博物館】18件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　14件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	X線CTスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部文化財課	研究員　松浦晃佑
3	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究	交流課	主任研究員　今井涼子
4	「天神縁起の世界」ほか特集展示等に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室長　森實久美子
5	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	学芸部長　小泉惠英
6	特集展示「きゅーはくどうぶつえん」に関する調査研究	展示課	主任研究員　小澤佳憲
7	特集展示「大宰府史跡指定100年記念・九州国立博物館開館15周年記念特集展示　筑紫の神と仏」に関連する調査研究	展示課	研究員　小嶋篤
8	「九州国立博物館開館15周年記念　特集展示　織物に魅せられて　加賀前田家伝来の名物裂」に関連する調査研究	学芸部企画課	ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ　桑原有寿子
9	「九州国立博物館　開館15周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展　しきしまの大和へ　奈良大発掘」に関連する調査研究	展示課	主任研究員　齋部麻矢
10	特別展「奈良中宮寺の国宝」に関連する調査研究	学芸部	学芸部長　小泉惠英
11	特別展「琉球展」に関連する調査研究	学芸部文化財課	課長兼資料管理室長　原田　あゆみ
12	特別展「最澄と天台宗のすべて」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室長　森實久美子
13	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員　西島亜希子
14	身体障がい者向けの展示解説プログラムに関する調査研究	展示課	主任研究員　加藤小夜子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	研究員　渡辺祐基
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長　志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
4	展示ケース内の環境に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　山梨絵美子
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　山梨絵美子
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　山梨絵美子

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　秋山純子
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長　早川泰弘
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　早川泰弘

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　西　和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　金井健
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

【奈良文化財研究所】　53件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　22件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　島田敏男
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　20件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮東方官衙地区の調査（平城第621次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
4	東大寺東塔院跡地区の発掘調査（平城第626次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
5	法華寺旧境内の発掘調査（平城第631次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
6	平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査（平城第634次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
7	東院南方遺跡の発掘調査（平城第636次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
8	平城宮北方遺跡の発掘調査（平城第637次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
9	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
10	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
11	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
13	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
14	中国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
15	韓国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
16	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　中島義晴
17	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター 企画調整部 都城発掘調査部	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長　金田明大
18	古代官衙、集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
19	古代瓦研究会に関する研究集会の開催	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
20	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部	センター長　高妻洋成

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　星野安治
3	動植物遺体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　山崎健

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
3	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
4	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
5	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
2	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（イギリス等）	企画調整部	都城発掘調査部長　玉田芳英
3	文化財保護に関する国際協力の推進	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
4	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
5	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
6	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
2	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長　貴村好隆

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部	連携推進課長　貴村好隆

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部・飛鳥資料館・ 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	企画調整部部長　加藤　真二 飛鳥資料館学芸室長　石橋　茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長　貴村好隆

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　12件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　加藤真二

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
3	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　松村恵司
4	他機関等との共同研究及び受託研究	奈良文化財研究所	所長　松村恵司
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　不藤忠義
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
3	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長　加藤真二

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○連携大学院教育の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	研究支援推進部	所長　松村恵司

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
41 件	5 件	35 件	1 件

【東京文化財研究所】　5件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
2	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
3	被災資料有害物質発生状況調査業務	保存科学研究センター
4	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
5	令和2年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　35件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	企画調整部
2	令和2年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	企画調整部
3	令和2年度 文化資源活用事業費補助金（文化財多言語解説整備事業）「平城宮跡資料館　特別史跡平城宮跡に関する多言語解説情報発信強化事業」	企画調整部
4	高野山地区建造物調査	文化遺産部
5	京都市の文化的景観にかかる調査業務	文化遺産部
6	高野町文化財保存活用地域計画調査	文化遺産部
7	松江神社建造物調査業務委託	文化遺産部
8	智頭の林業景観整備計画策定調査	文化遺産部
9	犬伏家住宅保存活用計画策定業務	文化遺産部
10	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部　平城地区
11	薬師寺東塔周辺防火設備整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
12	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
13	西大寺旧境内の発掘調査①	都城発掘調査部　平城地区
14	西大寺旧境内の発掘調査②	都城発掘調査部　平城地区
15	平城京右京三条一坊八坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
16	興福寺旧境内・奈良町遺跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
17	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部　平城地区
18	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
19	第一次大極殿院東楼復原整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
20	史跡 法華寺旧境内及び名勝法華寺庭園の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
21	令和2年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
22	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究 物質文化に見る前期青銅器時代１期南西カナンにおけるエジプト人居留地	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
23	藤原宮跡（四分町店舗建設）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
24	藤原京跡（下八釣町個人住宅建築）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
25	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
26	木造金剛力士立像2躯の製作年代調査	埋蔵文化財センター
27	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査	埋蔵文化財センター
28	木造源頼朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	埋蔵文化財センター
29	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	埋蔵文化財センター
30	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	埋蔵文化財センター
31	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
32	「中世・近世石づくりのまち」調査研究	埋蔵文化財センター
33	令和2年度 史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査	埋蔵文化財センター
34	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
35	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	埋蔵文化財センター

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和2年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
197件	108件	38件	25件	29件	16件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	77件	37件	40件	0件	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財防災センター	
	3件	0件		9件	

【本部文化財活用センター】　3件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「文化財の複製と〈新しい展示〉」	文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人	10月9日	令和2年度山形県博物館連絡協議会研修会

○展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	展示ケース等で使用されるクロスから発生するアンモニアの簡便な検出とリスク評価方法の検討	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人、同研究員　間渕創	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
2	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	バンドパスフィルターで抽出した特定波長による有機染料の変退色挙動	東京文化財研究所保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃、文化財活用センター保存担当室長　吉田直人　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会

【本部文化財防災センター】　9件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	博物館・美術館における災害リスク軽減の現状と課題-日本、タイ、フランス、台湾の比較から-	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）　六人部克典 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸研究部保存修復課環境保存室長）　和田浩 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸企画部企画課デザイン室長）　矢野賀一	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
2	同上	市町村における文化財防災の現状と課題―関東甲信越地域の事例から―	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）　六人部克典 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸研究部保存修復課環境保存室長）　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
3	同上	ICCROM の非常時における文化財救出と応急処置研修とその展開	文化財防災センターアソシエイトフェロー　林美木子、他2名	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
4	同上	文化財防災に向けた分野横断型連携の構築―関東甲信越地域における取り組み―	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部保存修復課環境保存室長）和田浩 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）　六人部克典	7月20日	日本建築学会2020年度大会（関東）
5	同上	想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究	9月5日	日本文化財科学会第37回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			部保存修復課環境保存室長）和田浩 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長）　矢野賀一 東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室アソシエイトフェロー　荻堂正博		
6	同上	博物館・美術館における災害リスク軽減に向けた異業種間連携の試み	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
7	同上	社寺等における立体的な文化財資料の減災―シミュレーションを利用した転倒防止対策―	文化財防災プロジェクトチーム（京都国立博物館学芸部保存科学室長）　降幡順子 文化財防災プロジェクトチーム（京都国立博物館学芸部列品管理室研究員）　近藤無滴 文化財防防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
8	同上	文化財防災のための連携体制構築の現状と課題	文化財防災プロジェクトチーム（奈良国立博物館　学芸部保存修理指導室長）　鳥越俊行	9月17日	三重県文化財保護指導委員会議・津会場
9	同上	文化財防災のための連携体制構築の現状と課題	文化財防災センターアソシエイトフェロー　佐藤稜介	9月18日	三重県文化財保護指導委員会議・尾鷲会場

【東京国立博物館】　38件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　18件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	実践編 ⑨文化財を見せる照明のデザイン	企画課上席研究員　木下史青	9月28日～10月2日	日本建築学会 光環境ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ　空間を魅せる光と色 2020
2	同上	日本工藝在近代建築中的照明方式―日本東京國立博物館「工藝2020」特展的照明設計	企画課上席研究員　木下史青	10月22日	2020博物館展示新趨勢國際研討會（台湾）
3	同上	16世紀ドイツ語圏の金工をめぐる技術と交流	企画課特別展室アソシエイトフェロー　村松綾	10月4日	西洋中世学会第12回大会
4	同上	出雲と大和、そして九州―倭王権と日本海文化―	調査研究課長　河野一隆	9月7日	奈良シニア大学
5	同上	筑紫君磐井と装飾古墳	調査研究課長　河野一隆	9月12日	東アジアの古代文化を考える会
6	同上	『南方録』の名物盆	調査研究課工芸室研究員　福島修	9月19日	茶の湯文化学会
7	同上	东京国立博物馆的近况及后疫情时代的博物馆活动思考	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	7月15日	上海博物館：博物馆的力量：国际博物馆线上对话
8	同上	埼玉県北本市デーノタメ遺跡出土縄文時代の漆塗腕輪X線CT観察事例報告	保存修復課調査分析室長　荒木 臣紀、保存修復課調査分析室　専門職　宮田将寛、ほか外部研究者	9月5日～9月13日	日本文化財科学会第37回大会
9	同上	エックス線ＣＴからみた塑像の構造	保存修復課調査分析室　専門職　宮田将寛	9月29日	アフガニスタン・仏頭に関する研究会（場所：東京芸術大学）
10	同上	2020年2～3月南ウラル旅行	客員研究員　高濱秀	9月12日	草原考古研究会
11	同上	コメント／「「国風文化」の再定義にむけて」	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	3年3月27日	ミニ・シンポジウム「「国風文化」の再定義にむけて」
12	同上	法隆寺金堂における四天王の世界	調査研究課工芸室主任研究員　三田覚之	11月7日	研究討論会「日本の仏教彫刻―作品生成の場」
13	同上	「雪に耐えて梅花麗し　コロナ禍における東京国立博物館の特別展」	部企画課特別展室長　猪熊兼樹	3年1月30日	北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業　国際シンポジウム「日本美術がつなぐ博物館コミュニティー：ウィズ／ポスト・コロナ時代の挑戦」
14	同上	The Xiaoxiang Region in Heian Period Literature:New Perspectives on the Reception of the "Eight View of the Xiaoxiang Region" in Japan	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　武瀟瀟	3年3月21日	AAS(アジア研究協会) パネル：Recontextualizing East Asia in Premodern Japanese Art History
15	同上	Global Circulation and Transformation of Japanese Folding Screens	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	3年2月9日	International Online Symposium “Beyond the Southern Barbarians: Repositioning Japan in the First Global Age”, Kyushu University and Yale University

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	同上	法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝と平安時代の太子伝	絵画・彫刻室長　沖松健次郎	3年3月21日	「聖徳太子1400年御遠忌記念シンポジウム　聖徳太子伝とその視覚化」　主催：美術史学会（西支部大会）・仏教芸術学会
17	特集「書と料紙―平安時代の美しい紙―」に関連する調査研究	博物館にとっての複製品	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	9月22日	〝日本文学展 ～文学とメディアの千年譚～ 文化財リマスター シンポジウム
18	特別展「きもの KIMONO」に関連する調査研究	きもの―ファッションと工芸のあいだ―	工芸室長・小山弓弦葉	3年2月26日～（オンラインによる配信）	特別展「きもの　KIMONO」開催記念国際シンポジウム「日本文化としての「きもの」を考える」

〇その他有形文化財に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	市町村における文化財防災の現状と課題―関東甲信越地域の事例から―	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、保存修復課環境保存室長　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
2	同上	博物館・美術館における災害リスク軽減の現状と課題-日本、タイ、フランス、台湾の比較から-	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、保存修復課環境保存室長　和田浩、企画課デザイン室長　矢野賀一	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
3	同上	文化財防災に向けた分野横断型連携の構築―関東甲信越地域における取り組み―	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、保存修復課環境保存室長　和田浩	7月20日	日本建築学会2020年度大会（関東）
4	同上	想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸企画部企画課デザイン室長　矢野賀一、学芸企画部企画課デザイン室アソシエイトフェロー　荻堂正博	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
5	同上	老朽化した収蔵施設における生物被害状況及びその対策の事例報告	保存修復課環境保存室　相川悠、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
6	同上	施設内での文化財輸送時に台車上で生じる振動への対策	保存修復課環境保存室長　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
7	同上	美術品レプリカを用いた加振実験について	保存修復課環境保存室長　和田浩	7月15日	日本包装学会第29回年次大会研究発表会
8	同上	東京国立博物館の新型コロナウイルス対策事例	保存修復課環境保存室長　和田浩	8月7日	博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策(国立民族学博物館主催シンポジウム)
9	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-数値解析による小屋裏の吸放湿を用いた室の除湿による環境調整方法の検討-	保存修復課環境保存室長　和田浩、九州国立博物館博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所保存科学研究センター　佐野千絵、東京文化財研究所保存科学研究センター　吉田直人、ほか外部研究者	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
10	同上	博物館・美術館における災害リスク軽減に向けた異業種間連携の試み	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
11	同上	輸送時に屏風構造を持つ美術品に発生する共振現象に関する基礎的研究	保存修復課環境保存室長　和田浩	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
12	同上	屏風構造を持つ美術品の振動応答に関する基礎的研究	保存修復課環境保存室長　和田浩	9月16日	日本機械学会2020年度年次大会
13	同上	展示室内の滞留者数と室内環境について	保存修復課環境保存室長　和田浩	9月20日	第39回日本展示学会研究大会
14	同上	東京国立博物館の新型コロナウイルス対策事例	保存修復課環境保存室長　和田浩	10月12日	文化財保存修復学会オンライン研究会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策」
15	同上	美術品に用いられる包装資材の評価に関する現状と課題	保存修復課環境保存室長　和田浩	11月25日	JPI北海道支部2020年度包装懇話会
16	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	提言：デジタル・アーカイブの観点から	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	9月12日	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online #02

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	同上	クラウドワークによる図書館・博物館の休館動向調査：新たな全国的動向把握のかたちへ	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	10月23日	第29回地理情報システム学会研究発表大会
18	同上	デジタルデータの保存・管理 － 現場視点からの共有課題を考える	博物館情報課情報管理室長　村田良二	10月24日	デジタルアーカイブ学会　第 5 回研究大会サテライト・ワークショップ
19	同上	Digitizing Disparity in the Museum: the Object Based Research in the Tokyo National Museum	博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー　酒井晶	12月10日	ICOM International Committee for Documentation (CIDOC)
20	同上	考古学・文化財資料のデータ・情報流通を進めていきませんか	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	12月12日	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online #05

【京都国立博物館】25件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」に関する調査研究	聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―	美術室長　羽田聡	7月27日	一般社団法人清風会総会
2	同上	文字資料から読み解く西国三十三所	同上	11月14日	和歌山市立博物館
3	特別展「皇室の名宝」に関する調査研究	御所をめぐる色とかたち	企画室長　山川曉	10月16日	NHK公開講演会（芦屋ルナホール）
4	同上	御所をめぐる色とかたち	同上	10月30日	NHk公開講演会（宇治市文化会館）
5	同上	皇室の名宝	同上	11月9日	一般社団法人清風会記念講演会
6	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	仏教染織品の移動と変容-袈裟と打敷-	同上	3年1月16日	九州大学人文学国際研究センター公開講座
7	同上	打敷からみるキモノ	同上	3年2月16日	京友禅協同組合連合会総合研修会
8	同上	輸出漆器　東洋らしさを纏うもの	教育室長　永島明子	9月27日	徳川美術館　蓬左文庫　2020年秋季特別展「殿さまが好んだヨーロッパ」関連秋期講座「工芸をめぐる近世ヨーロッパとアジアの交流」
9	同上	漆器に親しむ	同上	10月14日	裏千家学園茶道専門学校オムニバス講座
10	同上	Reconstructing the Style of Literati Painting: the Paintings of Wang Yemei and Hu Tiemei, Chinese Artists Who Came to Japan in the Early Meiji Period	調査・国際連携室長　呉　孟晋	9月3日	Rethinking Modernity in Modern east Asian Art (Panel 1370), AAS in Asia 2020（オンライン開催）（英語：王舒津氏代読）
11	同上	上野コレクションにある羅振玉資料について	同上	3年1月15日	第7回関西大学東西学術研究所研究例会「羅振玉の学術と藝術への新しいアプローチ」（オンライン開催）
12	同上	全体討論	保存修理指導室長　大原嘉豊、列品管理室研究員　森道彦	12月19日	文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」
13	同上	伝記の読み方を考える Vol.2 円山応挙	教育室主任研究員　水谷亜希	12月19日	東京大学大学院経済学研究科　歴史家ワークショップ連続講座（オンライン開催）
14	同上	茶碗　その種類と価値観	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男	11月16日	日本文化勉強会「くらし・空間研究会」、京都国立博物館
15	同上	文化財保護と博物館 ―近現代の京都を事例として―	列品管理室研究員　森道彦	11月3日	静岡県博物館協会シンポジウム「これからのミュージアムを考えよう」
16	同上	松岡経塚と都の文化	特任研究員　宮川禎一	3年3月27日	秋田県湯沢市文化会館「里帰り文化財展」関連講演会
17	同上	京都国立博物館とおおいたの青銅器－近世～近現代における考古資料の収集と保護	研究員　古谷毅	9月5日	大分県立歴史博物館 令和2年度企画展「青銅の燦めき-京博所蔵の銅剣・銅矛里帰り展-」関連講座
18	同上	シンポジウム 古墳時代における沖出古墳の意義」（コーディネーター）	同上	10月25日	福岡県嘉麻市教育委員会・筑豊文化財行政連絡協議会主催シンポジウム「徹底解剖！ 沖出古墳とその被葬者像」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	同上	日本原始古代の考古学 -日本列島における先史・原史・古代文化の展開-	同上	12月23日	京都大学国際高等教育院 日本語・日本文化研修プログラム日本文化研修「博物館見学」
20	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	美術と社会の関係を考える	教育室主任研究員　水谷亜希	3年3月7日	京都市学校歴史博物館　ワークショップ「美術を作る・見る・語る―作家・研究者と考える美術の情報発信―」

〇その他有形文化財に関連する調査研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	黄色上絵付顔料について―16世紀後半から20世紀の日本と中国―	保存科学室長　降幡順子	6月30日	文化財保存修復学会第41回大会
2	同上	社寺等における立体的な文化財資料の減災―シミュレーションを利用した転倒防止対策―	同上	9月4日	日本文化財科学会第36回大会
3	同上	資料の適切な保存環境とカビ対策	同上	9月24日	北海道博物館協会学芸職員部会研修会
4	同上	立体的な文化財資料の減災-転倒シミュレーションを利用して-	同上	10月25日	シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」京都国立博物館
5	同上	浄土宗大本山増上寺所蔵元版大蔵経、画像公開の意義	調査・国際連携室研究員　上杉智英	3年3月8日	令和2年度浄土宗総合研究所公開講座「仏教の智慧を開く」

【奈良国立博物館】　29件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　21件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品等に関連する調査研究	塔鋺形合子がたどった道	学芸部長　内藤栄	12月12日	掘るしんinながの2020　塔鋺形合子は何を語る
2	同上	舎利信仰の美術―舎利容器の形から信仰を読み解く―	学芸部長　内藤栄	3年3月21日	奈良国立博物館サンデートーク
3	同上	「特別陳列　お水取り」展示解説	資料室長　野尻忠	3年3月20日	お水取り「講話」と「現地解説」の会
4	同上	「唐」から「和」へのうつろい～銅鏡にみる平安時代～	列品室長　中川あや	10月25日	黒川古文化研究所講演会
5	同上	快慶と阿弥陀仏造像	企画室主任研究員　山口隆介	11月7日	京都大学人文科学研究所「東アジアにおける阿弥陀如来の表象」班研究討論会 「日本の仏教彫刻-作品生成の場」
6	同上	私の好きな奈良の仏像	企画室主任研究員　山口隆介	12月19日	歴史文化連続講座「奈良へ」
7	同上	売立目録と仏像研究	企画室主任研究員　山口隆介	12月20日	奈良国立博物館サンデートーク
8	同上	仏教絵画のきほん―表現様式を中心に―	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	9月20日	同上
9	同上	仏都会津のみほとけたち	教育室研究員　内藤航	3年2月21日	同上
10	同上	描かれた東大寺大仏の姿	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	10月4日	同上
11	特別点等の開催に伴う調査研究	「御大典記念　特別展　よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」解説	工芸考古室研究員　三本周作	8月4日	賛助会員特別鑑賞会
12	特別展「第７２回正倉院展」に関する調査研究	至宝からひもとく天平の祈り～第七二回正倉院展～	館長　松本伸之	11月1日	NHK日曜美術館
13	同上	正倉院宝物の歴史と魅力、そして今年の正倉院展から	学芸部長　内藤栄	9月18日	京都市生涯学習センター・京都アスニー
14	同上	正倉院宝物の歴史と魅力、そして今年の正倉院展から	学芸部長　内藤栄	9月30日	高槻市三箇牧公民館
15	同上	せいぶ正倉院講座	学芸部長　内藤栄	10月28日	奈良市西部公民館
16	同上	武器・武具の献納と薬物の献納について	学芸部長　内藤栄	11月7日	「第七十二回　正倉院展」公開講座
17	同上	魅惑の正倉院鏡の世界	列品室長　中川あや	9月4日	文化パルク城陽プラネタリウム講座
18	同上	正倉院宝物と奈良の工芸	工芸考古室研究員　三本周作	7月14日	奈良教育大学・奈良女子大学共働科目「奈良と教育」
19	同上	「第七十二回　正倉院展」解説	工芸考古室研究員　三本周作	10月27日	プレミアムカード会員特別鑑賞会
20	同上	「第七十二回　正倉院展」　研究員による宝物の解説　パートー～五	工芸考古室研究員　三本周作	10月26日～11月30日	ならはくチャンネル

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
21	特別陳列「奈良国立博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究	帝国奈良博物館の誕生―人と建築―	情報サービス室長　宮崎幹子	3年3月13日	「特別陳列　帝国奈良博物館の誕生」公開講座

〇その他有形文化財に関連する調査研究　8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	沖縄県に所在する梵鐘の蛍光Ｘ線分析―小倉鋳物師との関連について	保存修理指導室長　鳥越俊行	6月20～21日	文化財保存修復学会（誌面開催）
2	同上	ファイバースコープによる木造毘沙門天立像（島根県奥出雲町岩屋寺旧蔵）の調査	同上	9月5～6日	日本文化財科学会（ウェブ開催）
3	同上	文化財の防災のための連携体制構築の現状と課題	同上	9月17日	令和二年度三重県文化財保護指導者会議
4	同上	文化財を科学するⅦ	同上	3年1月17日	奈良国立博物館サンデートーク
5	同上	文化財防災のための連携体制構築の現状と課題	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介	9月18日	三重県尾鷲庁舎
6	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	奈良国立博物館所蔵の古写真にみる奈良公園周辺の景観	資料室長　野尻忠	11月29日	奈良国立博物館サンデートーク
7	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	情報サービス室長　宮崎幹子	7月14日、11月20日	同志社大学（オンライン）
8	同上	博物館情報・メディア論	同上	12月19,25,26日	京都府立大学（一部オンライン）

【九州国立博物館】　16件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	国宝「初音の調度」のうち乱箱、長文箱、短冊箱の構造・技法のX線CT調査	学芸部博物館科学課研究員渡辺祐基、学芸部企画課特別展室長　川畑憲子、徳川美術館　吉川美穂、学芸部博物館科学課長　木川りか	9月5日～13日	日本文化財科学会第37回大会
2	同上	Inclusive Programs in Kyushu National Museum	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子	10月15日	IV International Festival of Inclusion, Everybody is Present, the Pushkin State Museum of Fine Arts（オンライン開催）
3	同上	九州国立博物館展示品解説講座第４回「縄文文化の魅力」	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	12月6日	博悠会（於：太宰府市いきいき情報センター）
4	同上	漢代銅盂小考－とくに吉祥の銘文と文様をめぐって－	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	3年1月8日	日本中国考古学会大会（会場：駒澤大学　リモート開催）
5	ユニバーサル・ミュージアム、ハンズ・オン展示に関する調査・研究	コロナ禍におけるハンズ・オン展示とユニバーサル・ミュージアムの取り組み－九州国立博物館の事例から－	展示課研究補佐員 茂泉千尋 展示課主任研究員 加藤小夜子	12月12日	日本アートマネジメント学会 第22回全国大会

○その他有形文化財に関連する調査研究　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	Analysis of larval development and feeding of an Anobiid beetle using X-ray computed tomography	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤原裕子、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	6月10日～11日	The 51st Scientific Conference of International Research Group on Wood Protection
2	同上	伝統的な灰汁を利用した固着被災文書等の修復処置と効果の検討	学芸部博物館科学課長　木川りか、長崎歴史文化博物館　富川敦子、長崎歴史文化博物館　久保憲司、高知県立紙産業技術センター　有吉正明、東京文化財研究所秋山純子、東京文化財研究所早川典子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
3	同上	八代平野および宇土半島基部の墳墓で採用されたベンガラについて	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
4	同上	湿度制御した温風処理に用いる供試虫の耐熱性と殺虫効果判定への適用	東京文化財研究所　小峰幸夫、東京文化財研究所　佐藤嘉則、日光社寺文化財保存会　原田正彦、トータルシステム研究所　北原博幸、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
5	同上	アクリル絵具の光劣化に関する自然科学的研究	東京藝術大学大学院　塚田全彦、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　和泉田絢子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
6	同上	別府の古墳から出土したベンガラについて	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	9月5日～13日	日本文化財科学会第37回大会〈Web開催〉
7	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-数値解析による小屋裏の吸放湿を用いた室の除湿による環境調整方法の検討	京都大学　和田拓也、京都大学　小椋大輔、東京文化財研究所　佐野千絵、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京国立博物館　和田浩、東京国立博物館　吉田直人 京都大学　伊庭千恵美	9月5日～13日	日本文化財科学会第37回大会〈Web開催〉

8	同上	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と照明・音声を利用した対策について	学芸部博物館科学課長木川りか、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、学芸部博物館科学課富松志帆、学芸部博物館科学課　松尾実香、東京文化財研究所　秋山純子、九州環境管理協会岡部海都・柿本大典・大城戸博文	11月28日	日本環境動物昆虫学会第32回大会（オンライン開催）
9	同上	「資料保存」	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	9月8日	2019年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」博物館マネジメント人材育成研修会、新中津市学校・中津市歴史博物館
10	同上	役場庁舎・博物館・図書館書庫のＩＰＭ（総合的有害生物管理）について	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	11月19日	令和2年度行政文書・古文書保存管理講習会、広島県立文書館・広島県市町公文書等保存活用連絡協議会、広島県情報プラザ
11	同上	ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	12月21日	令和2年度佐賀県博物館協会研修会　佐賀県立名護屋城博物館ホール

【東京文化財研究所】　37件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　13件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	葛飾北斎絵入り版本群・織田一磨文庫のオープンアクセス事業-ゲッティ研究所との協同による書誌情報国際発信の実践（古典籍書誌整備と資料保全）	文化財情報資料部主任研究員・橘川英規他	11月28日	アート・ドキュメンテーション学会第13回秋季研究集会
2	日本東洋美術史の資料学的研究	近代の大礼と有職故実	文化財情報資料部客員研究員・田中潤	6月23日	文化財情報資料部研究会
3	同上	江戸初期狩野派史料の研究―探幽縮図を中心に―	文化財情報資料部主任研究員・小野真由美	7月28日	文化財情報資料部研究会
4	日本東洋美術史の資料学的研究	片野四郎旧蔵の羅漢図について	文化財情報資料部研究員・米沢玲、文化財情報資料部主任研究員・安永拓世	3年2月25日	文化財情報資料部研究会
5	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	ゲッティ研究所が所蔵する矢代幸雄と画商ジョセフ・デュヴィーンの往復書簡	副所長　山梨絵美子	8月25日	文化財情報資料部研究会
6	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	10月10日	「BVNGO NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化」企画展オープニング記念講演会
7	同上	初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承―日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証―	武田恵理	11月24日	文化財情報資料部研究会
8	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財写真で大切なこと	文化財情報資料部専門職員・城野誠治	8月24日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
9	同上	ディジタル画像の基礎　講演2	文化財情報資料部専門職員・城野誠治	12月23日	シリーズ「ディジタル画像の圧縮～画像の基本から動画像まで～」その１　ディジタル画像の基礎
10	同上	記録作成の意義	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	3年3月12日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
11	同上	文化財写真の基礎	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	3年3月12日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	民俗事例に見る模型-小正月に見るツクリモノを中心に	民俗事例における伝統的模型の在り方について検討した	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	9月5日	科研費基板B「模する」技術の発展と伝統　2020年度第1回研究会
2	民俗技術における素材と加工技術一箕を中心に	民俗技術における多様な素材とその加工方法に関する調査報告	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	3年1月12日	東京文化財研究所　令和2年度第4回総合研究会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　21件

○文化財の調査手法に関する調査研究　0件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　21件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	人為的攪乱により形成された鍾乳洞内照明植生の微生物生態学的解析	生物科学研究室長・佐藤嘉則、修復計画研究室長・朽津信明他	6月5日	日本土壌微生物学会2020年度大会
2	同上	虎塚古墳の壁画剥落片から分離された微生物の群集構造解析	生物科学研究室長・佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英他	9月5～13日	日本文化財科学会第37回大会
3	同上	虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析	生物科学研究室長・佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
4	同上	湿度制御温風処理に用いる供試虫の熱耐性と殺虫効果判定への適用	生物科学研究室長　佐藤嘉則、保存科学研究センターAF・小峰幸夫他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
5	同上	収蔵庫内で実施したカビ除去事例―重要文化財 大蔵経（元版）に対する保存修理事業から―	生物科学研究室長・佐藤嘉則他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
6	保存と活用のための展示環境の研究	バンドパスフィルターで抽出した特定波長による有機染料の変退色挙動	保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃他2名	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
7	同上	Environmental Research on Conservation Conditions of the Hagia Sophia Part 2: Numerical Analyses of Heat and Moisture Transfer to Study Deterioration of Outer walls	保存科学研究センター研究員　水谷悦子	9月24日	International Hagia Sophia Symposium: Architecture and Preservation
8	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	蛍光X線分析における分析値の信頼性－金箔試料の定量分析に関する共同実験－	保存科学研究センターセンター長　早川泰弘　他	9月5～13日	日本文化財科学会第37回大会
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	博物館における化学物質の放散試験方法の検討　－サンプリングバッグのブランク濃度低減方法	保存科学研究センター室長　犬塚将英　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
10	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	天草市アンモナイト館における照明調整による緑色生物の軽減	朽津信明、森井順之、柳沼由可子、廣瀬浩司	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
11	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	三次元計測に基づく富山市大山の恐竜足跡化石の劣化評価	朽津信明，酒井修二，藤田将人	9月5～13日	日本文化財科学会
12	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	過去の写真に基づく恐竜足跡化石の風化速度の検証	朽津信明，酒井修二，藤田将人	10月1～2日	日本応用地質学会
13	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	ミャンマーで採取された漆に関する研究	保存科学研究センター研究員　倉島玲央、室長　早川典子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
14	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	深さ方向による紫外線劣化させた漆塗膜の強度変化	保存科学研究センター研究員　倉島玲央、室長　早川典子	11月21日	漆サミット2020
15	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	古典的膠の調製方法及び性状	保存科学研究センター客員　宇髙健太郎、室長　早川典子　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
16	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	呉春「白梅図」に使用された絵画基底材料と自然布系基底材に関する研究	保存科学研究センター室長　早川典子　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
17	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	作製条件の異なる補修絹の劣化特性評価	保存科学研究センター研究補佐員　岡部迪子、室長　早川典子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
18	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	漆塗膜上の油脂系汚損除去を目的としたゲルクリーニングの検討	保存科学研究センターAF藤井佑果、室長　早川典子他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
19	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	On-site Surface Cleaning of Japanese Architecture Using Gels Incorporating Organic Solvents	保存科学研究センター室長　早川典子　他	11月4日	IIC Edinburgh Congress 2020
20	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	近代文化遺産の保存と活用	中山俊介	12月4日	龍谷大学文化遺産学シンポジウム
21	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	保存科学研究センター室長　犬塚将英　他	9月5～13日	日本文化財科学会第37回大会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　2件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	アンコール・タネイ寺院遺跡の保存整備	文化遺産国際協力センター長 友田正彦、アソシエイトフェロー 間舎裕生、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ	12月12日	東南アジア考古学会2020年大会
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	Conservation and Sustainable Development of Ta Nei: Restoration of the East Gate	アソシエイトフェロー ヴァル エリフ ベルナ	3年1月26日	ICC-Angkor

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　1件

○文化財情報基盤の整備・充実　0件

○調査研究成果の発信　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	デジタルコンテンツと継続性：明治大正期書画家番付データベースを例に	文化財情報資料部研究員・小山田智寛他	7月6日	デジタルアーカイブ学会第4回研究大会スピンオフ研究発表会

【奈良文化財研究所】　40件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	奈良文化財研究所所蔵『覚城院・萩原寺等関係中世聖教類』について―覚城院資料の調査・研究における可能性を中心に―	歴史研究室アソシエイトフェロー　橘悠太	12月13日	科学研究費補助金基盤研究(A)「地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究」（研究代表者中山一麿 課題番号19H00529）の第五回寺院資料調査研究報告（オンライン開催）
2	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	地域の風景と文化財の活用	景観研究室研究員　恵谷浩子	11月7日	景観まちづくりセミナー
3	同上	北山林業と民家の庭―京都市中川地区における文化的景観調査から	景観研究室研究員　恵谷浩子	12月12日	第24回常民文化研究講座　景観の総合資料学-「漁場図」を読む２-
4	同上	芦津集落の変遷と現在	景観研究室研究員　恵谷浩子	12月17日	「智頭の林業景観」調査報告会
5	同上	京都圏のなかの宇治と宇治茶	景観研究室研究員　恵谷浩子	12月19日	宇治茶の文化的景観地域フォーラム
6	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	歴史的脈絡に因む遺跡の活用方法―主として平城宮跡を例に―	遺跡整備研究室長　内田和伸	10月26日	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会
7	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	古代集落の諸類型　－集落研究の現状と方向性	都城発掘調査部考古第三研究室アソシエイトフェロー 道上祥武	12月12日	第24回　古代官衙・集落研究集会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　24件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	東京湾東岸における律令国家形成期の貝類	環境考古学研究室長　山崎健	8月22日	近江貝塚研究会第321回例会
2	同上	動物の骨からわかること	環境考古学研究室長　山崎健	9月13日	「古代食の総合的復元と疾病との関係解明」シンポジウム
3	同上	ホネ考古学―古代の都の動物利用―	環境考古学研究室長　山崎健	10月24日	第２回文化財講演会「リケイ考古学」
4	同上	戦国秦の養馬技術	環境考古学研究室客員研究員　菊地大樹（6名中1番）ほか	8月27日	第63回大韓体質人類学会
5	年輪年代学研究	年輪年代学的手法による平城宮第一次大極殿院西楼出土木簡の同一材推定	員数3(1番目）年代学研究室長 星野安治	9月5日	日本文化財科学会第37回大会

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　19件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	建造物の彩色に関する調査研究	モンゴル国突厥時代Zaamar古墳出土人型塑像顔料の調査	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜 ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
2	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	水分飽和から不飽和土を再現したカラム実験による鉄製文化財の腐食挙動の検討	保存修復科学研究室研究員 柳田明進 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長　高妻洋成	5月20日	材料と環境2020
3	同上	千石コレクションの古代中国銅鏡の科学的研究(2)	保存修復科学研究室客員研究員　難波洋三　ほか4名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
4	同上	ヒスイ製玉類のXRF分析の多変量統計による定量的産地同定法の開発	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
5	同上	ウズベキスタン出土ガラス玉の科学的研究	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか1名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
6	同上	中世アイヌ文化期におけるガラス玉の時期変遷に関する予備研究	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか1名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
7	同上	蛍光X線分析における分析値の信頼性－金箔試料の定量分析に関する共同実験－	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか5名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
8	同上	色差分析・調整による損傷木簡解読のための改善方法の研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜 ほか1名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
9	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その４）液水拡散係数の異方性を考慮した２次元熱水分移動の数値解析	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	当初4月21日開催予定、のち紙面開催	日本建築学会近畿支部
10	同上	電荷を有する多孔質材料中の熱水分塩同時移動と浸透現象	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか３名	当初4月21日開催予定、のち紙面開催	日本建築学会近畿支部
11	同上	大分市高瀬石仏の保存環境調査～その4）液水拡散係数の異方性を考慮した2次元熱水分移動の数値解析	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
12	同上	元町石仏における脱塩を用いた塩類風化抑制手法に関する研究－浸透現象による脱塩の利用可能性の検討－	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長　高妻洋成　ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
13	同上	約5年間屋外暴露した葺込銅板のあるこけら葺屋根モデルの劣化状態と銅元素分布	奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長　高妻洋成　ほか2名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
14	同上	Deterioration mechanism of Japanese sandstone during the drying and wetting cucles	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎 副所長　高妻洋成　ほか１名	9月7日	ICOMOS-ISCS Stone2020
15	同上	Influence of heat and moisture environment inside the shelter on sodium and calcium sulfate behavior	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　肥塚隆保 副所長　高妻洋成　ほか２名	9月7日	ICOMOS-ISCS Stone2020
16	同上	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究～その５液水拡散係数の異方性を考慮した熱・水分移動の数値解析	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	9月8日	日本建築学会2020年度大会（関東）
17	同上	熱水分塩同時移動方程式に基づいた数値解析による粘土中における塩溶液の浸透現象の再現性の検討	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか２名	9月8日	日本建築学会2020年度大会（関東）
18	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長　高妻洋成　ほか4名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
19	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	文化財の調査・保存・活用に関する取り組みについて	保存修復科学研究室客員研究員アソシエイトフェロー 中田愛乃	11月28日	東京都市大学 キャリアデザイン

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　7件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	Why Humans Invented Pottery? -An Approach from Mass Spectrometry	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	5月11日	第68回質量分析総合討論会
2	文化財保護に関する国際協力の推進	土器残存脂質からみた平安時代の牧における動物利用	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
3	文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月16日	文化遺産国際協力コンソーシアム 第31 東アジア・中央アジア分科会
4	西アジア文化遺産保存協力	東アジア先史時代の土器の用途をさぐる	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月19日	新学術領域研究「都市文明の本質」A01-計画研究01 第11回研究会
5	文化財保護に関する国際協力の推進	土器に入れられた食材の多様性 - 新石器時代と青銅器時代の比較 -	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月7日	第44回韓国考古学会全国大会
6	文化財保護に関する国際協力の推進	アンコール王朝末期西トップ遺跡の調査成果とその検討	国際遺跡研究室専門職　佐藤由似	12月12日	東南アジア考古学会大会
7	西アジア文化遺産保存協力	Prehistoric Pottery and Beyond: Biomarker and Isomeric Identification of Crop Consumption Across Eurasia	国際遺跡研究室長　庄田慎矢, 国際遺跡研究室アソシエイトフェロー 村上夏希	11月7日	8th McDonnell Academy International Symposium

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	考古学・文化財資料３D計測の意義を考える 知的財産権・著作権の観点から	文化財情報研究室研究員　高田祐一	9月12日	考古形態測定学研究会
2	文化財に関するデータベースの充実	文化財と著作権・所有権	文化財情報研究室研究員　高田祐一	12月12日	考古形態測定学研究会

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
8件	5件	2件	3件	0件	0件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1件	1件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財活用センター	本部文化財防災センター	
	1件		0件	1件	

【本部文化財活用センター】　0件

【本部文化財防災センター】　1件

○シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」
開 催 日　10月25日
開催場所　京都国立博物館　講堂
主　　催　京都国立博物館
後　　援　京都府、京都市
参加者数　68人
事業内容　文化財を火災及び地震から守る取り組みを講演テーマとして、火災では首里城火災における取り組み、京都市消防局の防火への取り組みを取り上げ、地震では国立民族学博物館の事例、京都国立博物館の転倒防止に関する研究事例を取り上げた。

【東京国立博物館】　2件

○国際シンポジウム　日本美術がつなぐ博物館コミュニティー：ウィズ/ポスト・コロナ時代の挑戦
開 催 日　3年1月30日
開催場所　東京国立博物館　平成館大講堂（オンラインでのライブ配信を実施）
主　　催　ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2020
参加人数　1,287人（参加者数はYouTube再生回数）
事業内容　欧米のミュージアムの日本美術専門家とともに、コロナ禍の状況下で、ミュージアムはいかなる未来像を描いて活動し、日本美術を研究し、成果を発信するのか、その意義について展望した。

○国際シンポジウム　日本文化としての『きもの』を考える
開 催 日　3年2月26日
開催場所　事前収録・YouTube配信
主　　催　東京国立博物館
参加人数　3,665人（参加者数はYouTube再生回数）
事業内容　日本文化の象徴として世界中に知られている「きもの」を研究されてきた研究者とともに、「きもの」が日本の文化として展覧会に取り上げられる意味を提示し、現在を生きる文化としての「きもの」の過去と現在を考察した。

【京都国立博物館】　3件

○ICOM京都大会１周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」
開 催 日　9月26日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　ICOM日本委員会、日本博物館協会、京都国立博物館
後　　援　京都府、京都市、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会
参加人数　80人
事業内容　ICOM京都大会2019開催1周年を記念し、SDGsのために博物館が果たすべき役割を再認識し、博物館政策の課題と展望について考察した。
基調講演「京都市におけるSDGsの取り組みについて」「博物館とSDGｓ」
パネリスト4人によるパネルディスカッション

○シンポジウム 文化財の防災・減災 ―火災・地震に対する取り組み―
開 催 日　10月25日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　京都国立博物館
後　　援　京都府、京都市
参加人数　68人
事業内容　文化財を火災及び地震から守る取り組みを講演テーマとして、火災では首里城火災における取り組み、京都市消防局の防火への取り組みを取り上げ、地震では国立民族学博物館の事例、京都国立博物館の転倒防止に関する研究事例を取り上げた。

○文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」
開 催 日　12月19日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　京都国立博物館、京都新聞、京都へのいざない実行委員会
協　　力　国宝修理装潢師連盟、美術院
参加人数　100人
事業内容　文化財修理の過去、現在そして未来について考えるため、文化庁文化財調査官による基調講演、修理技術者による発表、全体討論を行った。
基調講演「書跡・古文書の修理の進展と展望」
発表「文化財保存修理所創立期の思い出と書画修理のこれまで」、「絵画修理のこれから」、「文化財修理と科学技術の応用」、
「彫刻修理のあゆみと美術院」、「彫刻修理のこれから」

【奈良国立博物館】　0件

【九州国立博物館】　0件

【東京文化財研究所】　1件

○国際シンポジウム「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」

開 催 日	11月21日
開催場所	オンライン／東京文化財研究所
主　　催	東京文化財研究所
参加者数	56人
事業内容	東南アジア地域における木造建築保存の方法論の特徴や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

○国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発に関する研究：教育とまちづくり」

開 催 日	3年1月28日～29日
開催場所	オンライン
主　　催	アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
参加者数	34人
事業内容	無形文化遺産が、持続可能な開発目標(SDGs)の目標4「質の高い教育」及び目標11「住み続けられるまちづくり」に果たす役割に関して、提携機関である、インドネシア、キルギス、バングラデシュ及び日本各地の事例研究を共有し、今後の展望や課題を検討した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和 3 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
388 件	225 件	107 件	51 件	31 件	36 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	141 件	35 件	106 件	0 件	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財防災センター	
	16 件	0 件		6 件	

【本部文化財活用センター】16件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　11 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	本部文化財活用センター副センター長　小林牧	「文化遺産の未来へのまなざし」（座談：矢野和之×西村幸夫×小林牧×マルティネス・アレハンドロ×海野聡）	「建築雑誌」	日本建築学会	11月1日	無
2	同上	本部文化財活用センター副センター長　小林牧	なりきり日本美術館リターンズ	月刊「うえの」	上野のれん会	11月1日	無
3	同上	本部文化財活用センター副センター長　小林牧	なりきり日本美術館リターンズ	文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」№78	文化庁	11月30日	無
4	同上	本部文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人	美を紡ぐ　芥子　小林古径筆	『月刊経団連』2020 年 4 月号	日本経済団体連合会	4月1日	無
5	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	東国の個性派画人－雪村と式部	特別展『桃山－天下人の 100 年』図録	読売新聞社	10月6日	無
6	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」№79	文化庁	12月25日	無
7	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	月刊「うえの」740 号	上野のれん会	1月1日	無
8	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	美を紡ぐ 重要文化財 四季山水図屏風	『月刊経団連』2021 年 2 月号	日本経済団体連合会	2月1日	無
9	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	絵画作品の展示と取扱い	『21 世紀の博物館学・考古学』	雄山閣	2月25日	無
10	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	雪舟と明代宮廷画壇	特集『宮廷から地方へ―明時代の絵画と書跡』小冊子	東京国立博物館	3月2日	無
11	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	狩野元信印「富士曼荼羅図」の構造と機能	『造形のポエティカ―日本美術史を巡る新たな地平』	青簡舎	3月31日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人、同研究員　間渕創	展示ケース等で使用されるクロスから発生するアンモニアの簡便な検出とリスク評価方法の検討	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
2	同上	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	博物館等における新型コロナウイルス感染拡大防止対策について	月刊文化財 2020 年 11 月号	第一法規株式会社（文化庁監修）	11月1日	無
3	同上	東京文化財研究所保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃、文化財活用センター保存担当室長　吉田直人　他	特定波長域を遮光した光照射下における黄色系染料を主とした有機染料の変退色挙動	保存科学第 60 号	東京文化財研究所	3年3月	有
4	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創、東京文化財研究所生物科学研究室長・佐藤嘉則	博物館等における ATP 拭き取り検査によるカビ集落の活性評価について	保存科学第 60 号	東京文化財研究所	3年3月	有
5	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創、同保存担当室長　吉田直人	塩素系消毒剤からの揮発物質が文化財へ与える影響について	保存科学第 60 号	東京文化財研究所	3年3月	有

【本部文化財防災センター】6件

○文化財防災に関する調査研究　6 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財防災に関する調査研究	文化財防災センターセンター長　髙妻洋成	文化財防災センターの設立と今後の活動について	月刊文化財 12 月号	第一法規	12月1日	無
2	同上	文化財防災センター長 髙妻洋成	文化財防災の現状と課題	文化財の虫菌害 80 号	文化財虫菌害研究所	12月26日	無
3	同上	文化庁文化資源活用課文化財調査官　森井順之、文化財防災センター長 髙妻洋成	首里城火災と文化財保存に向けた取り組み	令和 2 年度文化財防災センター事業　シンポジウム　文化財の防災・減災 火災・地震に対する取り組み　報告書	京都国立博物館	3年2月25日	無
4	同上	文化財防災センターアソシエイトフェロー　林美木子、東京文化財研究所保存科学研究センター研究補佐員　内田優花、東京文化財研究所名誉研究員 佐野千絵、元岩手県立博物館 赤沼英男	Amélioration du procédé de stabilisation des documents altérés par le tsunami sous l’angle du contrôle microbiologique	Support/Tracé	ARSAG	3年3月31日	有
5	同上	はこだて未来大学准教授 村井源、文化財防災センターアソシエイトフェロー 林美木子、文化財防災プロジェクトチーム（東京文化財研究所文化財情報資料部文化財情報研究室長）ニ神葉子、国立文化財機構 内藤百合子、東京文化財研究所副所長　山梨絵美子	阪神・淡路大震災の日報分析と三つの震災における文化財レスキュー活動の比較	保存科学	保存科学研究センター	3年3月31日	有
6	同上	文化財防災センター長 髙妻洋成	文化財防災センターの設立とその取り組み	群馬の歴史資料を未来へ	群馬歴史資料継承ネットワーク	3年3月	無

【東京国立博物館】107件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　87件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	明恵上人の右耳	本郷 148 号	吉川弘文館	7 月 1 日	無
2	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	ここまでわかった鳥獣戯画（特集 謎解き 鳥獣戯画）	芸術新潮 71 巻 7 号	新潮社	7 月 25 日	無
3	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕		もっと知りたい鳥獣戯画	東京美術	7 月 30 日	無
4	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	和魂漢才―書画のススメ　国宝「地獄草紙」	美術の窓 443 号	生活の友社	8 月 20 日	無
5	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	中世最後のやまと絵師　土佐光茂の革新性	特別展「桃山―天下人の 100 年」図録	読売新聞社	10 月 6 日	無
6	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	土器からみた古墳出現期の布留川流域	研究紀要第 24 集	公益財団法人由良大和古代文化研究協会	6 月 28 日	無
7	同上	調査研究課長　河野一隆	Fine-tuned Pre-trained Mask R-CNN Models for Surface Object Detection	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 22 日	有
8	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	Fine-tuned Pre-trained Mask R-CNN Models for Surface Object Detection	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 22 日	有
9	同上	調査研究課長　河野一隆	DetectorAlgorithmsof Bounding Box andSegmentation Maskof a Mask R-CNN Model	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 26 日	有
10	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	DetectorAlgorithmsof Bounding Box andSegmentation Maskof a Mask R-CNN Model	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 26 日	有
11	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	古墳出現期の鴨田・馬場遺跡の検討	古墳出現期土器研究第 7 号	古墳出現期土器研究会	11 月 30 日	有
12	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「馬琬筆「幽居図巻」の伝来をめぐって」「高島槐安コレクションの中国絵画」	「清朝書画コレクションの諸相」図録	台東区立書道博物館	3 年 1 月 2 日	無
13	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説ほか	「アジアのレジェンド」小冊子	東京国立博物館	9 月 8 日	無
14	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説ほか	「特集　宮廷から地方へ」小冊子	東京国立博物館	3 年 3 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　武瀟瀟	Un paysage chinois dans le Japon de l’époque Muromachi (1333-1573) A propos des huit vues de la région de Shôshô(「室町時代の住宅に描かれた異国風景：瀟湘八景を例として」)	Mutations paysagères de l’espace habité au Japon : De la maison au territoire（論集『日本における風景の変遷 ――住宅空間から都市まで』）	Bibliothèque de l’institut des hautes études japonaises, Collège de France	10月1日	有
16	同上	博物館情報課長　今井敦	中国陶磁における吉祥意匠について―意味に根ざした造形・造形に根ざした意味	『美術フォーラム21』第41号	一般社団法人美術フォーラム21	5月30日	無
17	同上	博物館情報課長　今井敦	《研究ノート》仁清作　色絵月梅図茶壺について	『MUSEUM』第686号	東京国立博物館	8月15日	有
18	同上	博物館情報課長　今井敦	《研究ノート》宝暦・明和・安永期の京都のやきものについて―楽を中心に―	『MUSEUM』第687号	東京国立博物館	9月1日	有
19	同上	列品管理課登録室研究員　六人部克典	作品解説ほか	博物館でアジアの旅　アジアのレジェンド	東京国立博物館	9月8日	無
20	同上	列品管理課登録室研究員　六人部克典	「高島槐安の生涯とコレクション、そして蘭亭序」「高島槐安の手控え帳」「高島槐安コレクションの中国書跡」「高島槐安略年譜」	清朝書画コレクションの諸相－中村不折・高島槐安収集品を中心に－	公益財団法人台東区芸術文化財団	3年1月2日	無
21	同上	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	国風文化期の美術の諸相	シリーズ古代をひらく国風文化	岩波書店	3年3月29日	有
22	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	美を紡ぐ 国宝　檜図屏風	『月刊経団連』2020年10月号	日本経済団体連合会	10月1日	無
23	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	十六世紀土佐派の源氏絵	特別展『桃山―天下人の100年』図録	読売新聞社	10月6日	無
24	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	守護大名大内氏の文化と「桃山」	特別展『桃山―天下人の100年』図録	読売新聞社	10月6日	無
25	同上	調査研究課長　河野一隆	装飾墓の比較研究序説	考古学雑誌第103巻第２号	考古学会	3年3月10日	有
26	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	約1000年前の国宝「聖徳太子絵伝」、デジタル技術による再現の裏側	ダイヤモンド・オンライン	ダイヤモンド社	10月11日	無
27	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	遊ぶ南蛮人―新出個人蔵本およびサントリー美術館本の南蛮屏風について―	板倉聖哲・高岸輝編『日本美術のつくられ方――佐藤康宏先生の退職によせて』	羽鳥書店	12月18日	無
28	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	16～17世紀の欧文史料にみる日本の絵画受容	『鹿島美術財団年報』37号別冊	鹿島美術財団	11月15日	無
29	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	コラム：キリスト教宣教師たちが見た桃山絵画	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
30	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	Envisioning the West: European-style Paintings in Late 16-17th century Japan	Toward the Future: Museums and Art History in East Asia, Proceedings of the 2019 CIHA Colloquium in Tokyo	Japanese committee for CIHA, the Otsuka Museum of Art, Tokyo	6月	無
31	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	美を紡ぐ 重要文化財 風神雷神図屏風	『月刊経団連』2020年7月号	日本経済団体連合会	7月1日	無
32	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　古川攝一	矢代幸雄と大和文華館の設立－文化交流の場としての美術館	江川温・田邊めぐみ他編『東西中世のさまざまな地平－フランスと日本の交差するまなざし－』	知泉書館	6月30日	有
33	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　古川攝一	作品解説「地蔵菩薩像（マニ像）」	国華	国華社	5月20日	有
34	同上	調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介	東京国立博物館所蔵 十二間星兜鉢の歴史的意義―東京都足立区伊興経塚出土品の再評価	「MUSEUM」689号	東京国立博物館	12月20日	有
35	同上	調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介	コラム：当世具足の成立	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
36	同上	調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介	日本の甲冑	東京国立博物館セレクション	東京国立博物館	3年1月29日	無
37	同上	調査研究課工芸室研究員　福島修	「水指分類大全」	『淡交別冊』第77号	淡交社	7月17日	無
38	同上	調査研究課工芸室研究員　福島修	コラム「うつわと「振舞」の根もと」	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
39	同上	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	「ギリシャ神話の英雄ヘーラクレース」「インド神話の英雄―インドの細密画」	『博物館でアジアの旅　アジアのレジェンド』図録	東京国立博物館	9月8日	無
40	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	夜郎の伝説	『アジアのレジェンド』	東京国立博物館	9月8日	無
41	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	汉三国考古备忘录	『寻踪三国』	中信出版集团	3年1月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
42	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩、ほか外部研究者	The separation of softwood and hardwood in historical wooden statues of the Nazenji-temple in Japan using NIR spectroscopy	IAWA Journal 41(4)	International Association of Wood Anatomists	9月15日	有
43	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	「津波の被害を受けた皮革資料「カワノフク」の処置」	文化財保存修復学会　第42回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月10日	無
44	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	「津波の被害を受けた木製彩色資料「算額」の脱塩処理」	文化財保存修復学会　第42回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月10日	無
45	同上	客員研究員　高濱秀	Two technical traditions of casting horse bits in China and their relationships with the steppe area	Asian Archaeology 2020-3, pp.47-57	吉林大学、辺疆考古研究中心	2年	有
46	同上	調査研究課考古室主任研究員　河野正訓	山口県萩市見島ジーコンボ古墳群の被葬者像	柳本照男さん古稀記念論文集ー忘年之交の考古学ー	柳本照男さん古稀記念論集刊行会	12月26日	無
47	同上	調査研究課考古室主任研究員　河野正訓	日本列島における古墳時代の鉄柄斧	考古学雑誌第103巻2号	日本考古学会	3年3月10日	有
48	同上	調査研究課考古室主任研究員　河野正訓	岐阜県船来山古墳群の渡来系移住民ー生産用具の検討を中心にー	昼飯の丘に集う―中井正幸さん還暦記念論集―	中井正幸さん還暦記念論集刊行会	3年3月31日	無
49	同上	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	仏像写真の歴史と未来	ものの記憶-読み解き　伝え　遺す-	東京文化財研究所	3年3月31日	無
50	同上	調査研究課工芸室主任研究員　三田覚之	《研究ノート》各種の模写を通じてみた法隆寺金堂六号壁画の化生菩薩像	MUSEUM第685号	東京国立博物館	4月15日	有
51	同上	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	人面鳥像	『MUSEUM』690号	東京国立博物館	3年2月20日	無
52	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	染織の模様と文化	ハルオ・シラネ編『東アジア文化講座4　東アジアの自然観』	文学通信	3年2月28日	無
53	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	根津美術館所蔵「誰が袖図屏風」「誰が袖美人図屏風」に関する一考察 ー日本服飾史・染織史の視点からー	根津美術館紀要『此君』第十二号	根津美術館	3年3月31日	無
54	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	変革の時代の絵画	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
55	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	京（みやこ）のすがた	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
56	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	「変容する絵画表現」ー室町・安土桃山・江戸の水墨花鳥図	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
57	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	永徳のライバルと後継者	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
58	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	自娯の造形ー本阿弥光悦	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
59	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	鳥獣戯画のここがすごい！	時空旅人別冊	三栄	3年2月12日	無
60	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	国宝鳥獣戯画がやって来る！	ノジュール73号	JTBパブリッシング	3年2月28日	無
61	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	うえの742号	うえののれん会	3年3月12日	無
62	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	鳥獣戯画の全貌を知る、史上空前の展覧会　特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	美術の窓451号	生活の友社	3年3月20日	無
63	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」によせて	茶道雑誌	河原書店	8月3日	無
64	同上	企画課特別展室長　猪熊兼樹	コラム：近世初期の蒔絵	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	2年10月6日	無
65	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	ここまでわかった鳥獣戯画/全巻通しで一気に観る！	謎解き　鳥獣戯画	新潮社	3年3月26日	無
66	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	鳥獣戯画　制作年代の再検討	ユリイカ2021年4月号	青土社	3年3月27日	無
67	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	特別展「桃山」をみる	クロワッサン11月10日号	マガジンハウス	11月10日	無
68	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	木挽町狩野家の記録と学習	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
69	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子）	コラム　伝禅月筆「羅漢図」の世代を超えた模写	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
70	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子員）	コラム　木挽町画所での門人教育	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
71	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	コラム　「公用日記」にみる長篠・長久手合戦図屏風の新図制作	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
72	特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	調査研究課工芸室主任研究員　三田覚之	法隆寺献納宝物特別調査概報　刺繍	法隆寺献納宝物特別調査概報　刺繍	東京国立博物館	3年3月31日	無
73	東洋民族資料に関する調査研究	企画課出版企画室研究員研究員　植松瑞希	「中国絵画史研究と画絹調査」	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書Ⅲ　絹織製作技術	東京文化財研究所	3年3月22日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
74	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	画絹の調査研究が目指すところ	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書Ⅲ　絹織製作技術	東京文化財研究所	3 年 3 月 22 日	無
75	特集「書と料紙―平安時代の美しい紙―」に関連する調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	奈良時代の書 3 光明皇后御願五月一日経	ビオ・シティ 82 号	ブックエンド	4 月 6 日	無
76	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	平家納経を考える 1 提婆品	ビオ・シティ 83 号	ブックエンド	7 月 7 日	無
77	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	元永本古今和歌集の魅力とその伝来について	墨 265 号	芸術新聞社	8 月 1 日	無
78	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	平家納経を考える２　宝塔品	ビオ・シティ 84 号	ブックエンド	10 月 10 日	無
79	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子	平家納経を考える３　平清盛筆願文	ビオ・シティ 85 号	ブックエンド	3 年 1 月 7 日	無
80	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子	近衛信尹筆「源氏物語和歌色紙貼交屏風」	陽明文庫講座 図録２	東京大学資料編纂所・公益財団法人陽明文庫	3 年 2 月 13 日	無
81	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子	嚴島神社蔵「平家納経」受容の歴史	東京国立博物館紀要 56 号	東京国立博物館	3 年 3 月 31 日	無
82	特集「世界と出会った江戸美術」に関連する調査研究	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説	リーフレット：特集「世界と出会った江戸美術」	東京国立博物館	11 月 25 日	無
83	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	作品解説	リーフレット：特集「世界と出会った江戸美術」	東京国立博物館	11 月 25 日	無
84	同上	東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長・猪熊兼樹	解説	リーフレット：特集「世界と出会った江戸美術」	東京国立博物館	11 月 25 日	無
85	特別展「きものKIMONO」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	江戸時代の風景画の流行ときもの	特別展「きもの KIMONO」図録	朝日新聞社	4 月 14 日	無
86	同上	企画課特別展室長・猪熊兼樹	コラム：男性の根付・印籠	特別展「きもの KIMONO」図録	朝日新聞社	4 月 4 日	無
87	博物館環境デザインに関する調査研究	企画課上席研究員　木下史青	美術館・博物館の照明技術指針（執筆担当項「保守・メンテナンス」）	照明学会技術指針番号：JIEG-012(2021)	照明学会	3 年 3 月 1 日	有

○その他有形文化財に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	走行中の美術品輸送専用車両荷台上で生じた衝撃加速度値と荷台上の位置との関係についての考察	文化財科学　第 82 号	日本文化財科学会	3年2月1日	有
2	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	施設内での文化財輸送時に台車上で生じる振動への対策	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
3	同上	保存修復課環境保存室相川悠、保存修復課環境保存室長　和田浩	老朽化した収蔵施設における生物被害状況及びその対策の事例報告	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
4	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸企画部企画課デザイン室長　矢野賀一	博物館・美術館における災害リスク軽減の現状と課題-日本、タイ、フランス、台湾の比較から-	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
5	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	市町村における文化財防災の現状と課題	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
6	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	美術品レプリカを用いた加振実験について	日本包装学会第 29 回年次大会研究発表会予稿集	日本包装学会	7月15日	無
7	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典	文化財防災に向けた分野横断型連携の構築―関東甲信越地域における取り組み―	日本建築学会 2020 年度大会（関東）学術講演梗概集	日本建築学会	7月20日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	輸送時に屏風構造を持つ美術品に発生する共振現象に関する基礎的研究	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
9	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸企画部企画課デザイン室長　矢野賀一、学芸企画部企画課デザイン室アソシエイトフェロー　荻堂正博	想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
10	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-数値解析による小屋裏の吸放湿を用いた室の除湿による環境調整方法の検討-	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
11	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	屏風構造を持つ美術品の振動応答に関する基礎的研究	日本機械学会 2020 年度年次大会講演論文集	日本機械学会	9月7日	無
12	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	展示室内の滞留者数と室内環境について	第 39 回日本展示学会研究大会研究発表梗概集	日本展示学会	9月20日	無
13	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	資料の展示で用いられる支持具における保存と演出の両立に関する課題	教職課程センター紀要 第 5 号	大東文化大学	12月1日	無
14	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔	博物館・美術館における災害リスク軽減に向けた異業種間連携の試み	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
15	同上	保存修復課環境保存室長・和田浩	書跡資料の保存と展示	桐墨第 12 号	大東文化大学	3年3月20日	無
16	同上	保存修復課環境保存室長・和田浩	展示環境の保全と新型コロナウイルス感染拡大防止策	長崎県博物館協会会報	長崎県博物館協会	3年3月31日	無
17	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	（『専門図書館と著作権 Q&A2012』改訂原稿分担執筆・編集）	専門図書館と著作権 Q&A 第 4 版	専門図書館協議会	5月1日	無
18	同上	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	時間と空間を越えて伝え続けるために 東京国立博物館資料館紹介	専門図書館	専門図書館協議会	12月末予定	無
19	同上	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	博覧会資料とシーボルト旧蔵本～日本の近代化に貢献した資料群～（連載：ウチの図書館お宝紹介！　東京国立博物館資料館）	図書館雑誌	日本図書館協会	3年1月予定	無
20	同上	博物館情報課情報管理室 主任研究員　阿児雄之	考古学・文化財資料のデータ・情報流通を進めていきませんか	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online 予稿集#5	考古形態測定学研究会	12月31日	無

【京都国立博物館】51件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　40件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展 「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」に関する調査研究	上席研究員　淺湫毅、企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、工芸室主任研究員　末兼俊彦、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、特任研究員　宮川禎一	作品解説等	『西国三十三所 草創一三〇〇年記念 特別展 聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―』（展覧会図録）	京都国立博物館	7月	無
2	特別展 「皇室の名宝」に関する調査研究	企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、工芸室主任研究員　末兼俊彦、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英	作品解説等	『御即位記念 特別展 皇室の名宝』（展覧会図録）	京都国立博物館	10月	無
3	特別企画「文化財修理の最先端」に関する調査研究	上席研究員　淺湫毅、企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存科学室長　降幡順子、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、美術室研究員　森道彦	作品解説等	『特別企画　文化財保存修理所開所 40 周年記念 文化財修理の最先端』（展覧会図録）	京都国立博物館	12月	無
4	特別企画「新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―」に関する調査研究	美術室長　羽田聡、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、調査・国際連携室主任　降矢哲男、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、美術室研究員　森道彦	作品解説等	『仏教美術研究 上野記念財団設立五十周年記念誌 新聞人のまなざし 上野有竹と日中書画の名品』	公益財団法人 仏教美術研究上野財団	3年2月	無
5	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究	上席研究員　淺湫毅、企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、工芸室主任研究員　末兼俊彦、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、美術室研究員　森道彦、特任研究員　宮川禎一	作品解説等	『凝然国師没後七百年 特別展　鑑真和上と戒律のあゆみ』（展覧会図録）	京都国立博物館	3年3月	無
6	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	学芸部長　尾野善裕	「前近代東アジア窯業技術系統論―ロクロの回転を視座として―」	『韓日文化財論集Ⅳ』	（大韓民国）國立文化財研究所	12月4日	無
7	同上	同上	「茶道具・会席食器と考古学―陶磁器を中心に―」	『季刊考古学別冊』33	雄山閣	3年2月25日	無
8	同上	上席研究員　淺湫毅	「京都東山・正法寺の木造阿弥陀如来立像」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
9	同上	同上	「岐阜・長福寺の銅造双身天立像」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
10	同上	教育室長　永島明子 保存科学室長　降幡順子 （共著：池田素子氏）	「平安時代の蒔絵箱三合について―宝相華迦陵頻伽蒔絵壜冊子箱（仁和寺蔵）・宝相華蒔絵宝珠箱（仁和寺蔵）・宝相華蒔絵経箱（延暦寺蔵）―」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月19日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	教育室長　永島明子	「夕顔蒔絵象嵌料紙・硯箱」	『なにわ』8 月号	大阪府警察	7月	無
12	同上	同上	「もっとあなたを知りたくて」	『京都国立博物館だより』207 号	京都国立博物館	7月	無
13	同上	調査・国際連携室長　呉孟晋	「（動向）美術」	『中国年鑑 2020』	中国研究所	5月	無
14	同上	同上	「李仲生的「超現実主義」」	『日殖時期現代文芸的共時与差異論壇専輯』（電子書籍）	国立台湾美術館	7月	無
15	同上	同上	（作品解説）「花鳥図　沈銓筆」	『創建 550 年記念　御堂陽願寺の名宝』	越前市武生公会堂記念館	8月	無
16	同上	同上	「長尾雨山と鄭蘇戡の交友：京都国立博物館と「長尾雨山関係資料」にある鄭孝胥の作品と資料について」	『書論』46 号	書論研究会	10月	無
17	同上	同上	「斉白石和徐悲鴻合作的一個機縁―以須磨旧蔵的《松上老鼠図》談起」	『斉白石研究第八輯』	広西師範大学出版社（北京画院編）	12月	無
18	同上	保存修理指導室長　大原義豊	愛知・林泉寺所蔵「釈迦三尊像」に関する考察	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
19	同上	保存科学室長　降幡順子 企画室研究員　井並林太郎	「佐竹本三十六歌仙絵　科学分析結果報告」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月19日	無
20	同上	保存科学室長　降幡順子 研究員　古谷毅 （共著：小山和浩氏）	鳥取県立博物館蔵宇部神社経塚出土経筒の科学的調査―X 線 CT・蛍光 X 線調査による構造および材質分析―	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月19日	無
21	同上	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男	「遺跡は語る 京三条せともの屋町」	『淡交』12 月号	淡交社	12月1日	無
22	同上	同上	「色絵栄花物語冊子形硯箱」	『なにわ』3 月号	大阪府警	3年3月	無
23	同上	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	「賢聖障子　住吉広行筆」	『なにわ』1 月号	大阪府警	3年1月	無
24	同上	同上	「画題を知る　子日遊・七福神・歳寒三友」	『絵の掛物』1 号	淡交社	12月	無
25	同上	美術室主任研究員　末兼俊彦	「日本の刀剣（일본도）」	『武士무사　SAMURAI Patrons of Japanese art and culture』展覧会図録	韓国国立中央博物館	12月	無
26	同上	企画室研究員　井並林太郎	「後白河院政期の絵画制作と蓮華王院宝蔵―『治承三十六人歌合』を手がかりに―」	『美術フォーラム 21』42 号	一般社団法人美術フォーラム 21	12月	無
27	同上	美術室研究員　森道彦	「近世における障壁画の保存と継承」	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人編『日本の表装と修理』	勉誠出版	3月25日	無
28	同上	同上	作品解説等	『公益財団法人渡辺美術館所蔵品調査報告書 中近世絵画（第六回）』	渡辺美術館	3月	無
29	同上	同上	「ある学芸職員の手紙」	『京都国立博物館だより』206 号	京都国立博物館	4月	無
30	同上	同上	「舟行送別図」	『なにわ』7 月号	大阪府警察	7月	無
31	同上	同上	「装潢の系譜と現在」	『月刊文化財』684 号	第一法規	10月1日	無
32	同上	同上	松平定信と天神信仰の絵画 ―『天満宮御署傳』の紹介を兼ねて―	板倉聖哲・髙岸輝編『日本美術のつくられ方　佐藤康宏先生の退職によせて』	羽鳥書店	12月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
33	同上	研究員　古谷毅	古墳時代山岳信仰の空間構成	『山岳信仰と考古学』Ⅲ（菅谷文則先生追悼論文集）	同成社	6月18日	無
34	同上	同上	「京都鴨沂会 第５１回教養講座要旨　埴輪と古墳時代の人々 －古代国家成立前夜の社会像-」	『鴨沂会誌』第 157 号	公益財団法人京都鴨沂会	7月25日	無
35	同上	同上	「甲冑資料と芸術―末永雅雄と前田青邨交流の淵源」	『美術史と考古学』（季刊考古学　別冊 33）	雄山閣出版	3年2月25日	無
36	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	企画室長　山川曉	「南宋時代における袈裟へのまなざし」	『アジア仏教美術論集 東アジアⅣ　南宋・；大理・金』	中央公論美術出版社	12月	無
37	博物館教育に関する調査研究	教育室主任研究員　水谷亜希（共著：烏賀陽梨沙氏）	京都国立博物館におけるボランティア活動の展開とその意義―京博ナビゲーター―	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
38	同上	教育室長　永島明子	「あみめ」	『総人・人環広報』61	京都大学総合人間学部／人間・環境学研究科	10月	無
39	同上	企画室長　山川曉	「ステイホームと博物館」	『茶道雑誌』	河原書店	3年3月	無
40	同上	教育室主任研究員　水谷亜希	「〈作る・見る・語る〉が交錯する場所」	『美術を作る・見る・語る』	京都市学校歴史博物館	3年3月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　11件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関する調査研究	学芸部長　尾野善裕	藤原京左京九条・十条三坊整地土の土器	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
2	同上	学芸部長　尾野善裕	甘樫丘東麓遺跡 SK189 の土器	同上	同上	同上	無
3	同上	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所 大澤正吾）	法華寺庭園の調査	同上	同上	同上	無
4	文化財の保存修復に関する調査研究	学芸部長　尾野善裕 保存科学室長　降幡順子（共著：奈良文化財研究所　神野恵ほか）	平城京出土須恵器の胎土分析	同上	同上	同上	無
5	同上	保存科学室長　降幡順子	黄色上絵付顔料について－16 世紀後半から 20 世紀の日本と中国－	『文化財保存修復学会第 41 回大会』研究発表要旨集	文化財修復学会	6 月 30 日	無
6	同上	保存科学室長　降幡順子	社寺等における立体的な文化財資料の減災－シミュレーションを利用した転倒防止対策－	『日本文化財科学会第 36 回大会』研究発表要旨集	日本文化財科学会	9 月 4 日	無
7	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所 神野恵ほか）	「討議」（司会）	『第 23 回古代官衙・集落遺跡研究会報告書　灯明皿と官衙・集落・寺院』	奈良文化財研究所	12 月 11 日	無
8	同上	特任研究員　宮川禎一	鳥獣戯画甲巻の画題と主旨に関する研究	『鳥獣戯画のヒミツ』	淡交社	3 年 2 月 22 日	無
9	同上	保存科学室長　降幡順子	金勝寺所蔵　独鈷杵及び五鈷杵の科学的調査報告	研究紀要第 37 号	滋賀県立琵琶湖文化館	3 年 3 月	無
10	同上	保存科学室長　降幡順子	教王護国寺蔵木造観音菩薩・梵天・帝釈天立像（二間観音）の資源科学的調査	『美術院紀要』第 13 号	公益財団法人美術院	3 年 3 月	無
11	同上	調査・国際連携室研究員 上杉智英	日本における法蔵『起信論疏』の流伝	『佛教学報』94	韓国、東国大学校仏教文化研究院	3 年 3 月 31 日	無

【奈良国立博物館】31件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　30件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品等に関連する調査研究	館長　松本伸之	濱野年宏作《「聖徳太子絵伝」四季図大屏風》を見る	『濱野年宏展』展覧会図録	パリ日本文化会館	4 月	無
2	同上	同上	小金銅仏とは	『目の眼』六月号	株式会社　目の眼	6 月	無
3	同上	学芸部長　内藤栄	東京国立博物館、奈良国立博物館所蔵の古代刺繍・綴織作品の染料調査	『鹿園雑集』第 22 号	奈良国立博物館	7 月 31 日	無
4	同上	学芸部長　内藤栄	當麻寺西塔発見の舎利容器について（共著）	『國華』第 1502 号	國華社	12 月 20 日	有
5	同上	資料室長　野尻忠	奈良国立博物館所蔵『華厳経』巻第七十（紫紙金字）について	『古代東アジア史料論』	同成社	6 月 30 日	無
6	同上	企画室主任研究員　山口隆介	資料紹介 個人蔵地蔵菩薩立像	『ＭＵＳＥＵＭ』第 687 号	東京国立博物館	9 月	有
7	同上	同上	兵庫・浄土寺裸形阿弥陀如来立像（調査報告）	『鹿園雑集』第 23 号	奈良国立博物館	3 年 3 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	平安～鎌倉期における阿弥陀浄土図の展開―「和様化した阿弥陀浄土図」の実像とその成立背景	『鹿島美術研究』年報第37号別冊	公益財団法人鹿島美術財団	11月15日	無
9	同上	同上	大徳寺伝来五百羅漢図に認められる説話的主題について	『アジア仏教美術論集東アジアⅣ　南宋・大理・金』	中央公論美術出版	12月	無
10	同上	美術室主任研究員　斎木涼子	太元帥法の伝授―十一・十二世紀の転換―	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
11	同上	特任研究員　岩田茂樹	クリーブランド美術館　木造釈迦如来坐像	『國華』第1502号	國華社	12月20日	有
12	同上	同上	クリーブランド美術館と綱敷天満宮の伎楽面―補遺と訂正―（研究ノート）	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
13	同上	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	グラビア解説　五尊像	『聖徳』第244号	聖徳宗教学部	8月8日	無
14	同上	同上	榮山寺八角堂内陣飛貫にみられる騎獅菩薩について	『鹿島美術研究』年報第37号別冊	公益財団法人鹿島美術財団	11月15日	無
15	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介	三宝院持厳考	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
16	同上	同上	戦国期幕府奉行人の経済基盤	『日本中世の政治と制度』	吉川弘文館	12月	無
17	同上	同上	家原寺縁起附属文書一巻について―狩野内膳書状・片桐且元奉行人書状・山内忠義寄進状ほか―（研究ノート）	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
18	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	資料室長　野尻忠	日本の写経の始まりと歩み	『JAPONisme（ジャポニスム）』vol.25（2020年夏・秋）	一般財団法人本願寺文化興隆財団・ジャポニスム振興会	8月	無
19	墳墓出土品の調査研究	企画室長　吉澤悟	二つの忍性骨蔵器―大和・額安寺と同・竹林寺出土の銅製骨蔵器の調査―（調査報告）	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
20	同上	企画室長　吉澤悟	行基墓誌断片からみた行基集団	『ザ・グレイトブッダシンポジウム論集　第18号東大寺と行基菩薩』	東大寺	12月25日	無
21	同上	企画室長　吉澤悟 保存修理指導室長　鳥越俊行	大和・額安寺の忍性五輪塔に納められた骨蔵器群	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
22	特別点等の開催に伴う調査研究	列品室長　中川あや	奈良博覧会と正倉院宝物の模造（コラム）	『御大典記念　特別展よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―』展覧会図録	朝日新聞社	4月18日	無
23	特別展「第72回正倉院展」に関する調査研究	学芸部長　内藤栄	概説　聖武天皇の武器・武具の献納と薬物の献納	『第七十二回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月24日	無
24	同上	企画室長　吉澤悟	犀文様について（宝物寸描）	『第七十二回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月24日	無
25	同上	特任研究員　岩田茂樹	延均師の童子面をめぐって（宝物寸描）	『第七十二回　正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月24日	無
26	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集神鹿の造形―」に関する調査研究	列品室長　中川あや	展示概説　おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―	『特別陳列　おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―』展覧会図録	一般社団法人仏教美術協会	12月8日	無
27	特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究	情報サービス室長　宮崎幹子	帝国奈良博物館の誕生―博物館をつくった人と組織―	『特別陳列　帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―』	奈良国立博物館	3年2月6日	無
28	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	ボランティア室アソシエイトフェロー　翁みほり	子どもを主対象とした展覧会の実践的考察―わくわくびじゅつギャラリー『いのりの世界のどうぶつえん』を事例として―	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
29	教育活動等に関する調査研究	同上	博物館におけるオンラインボランティア活動―奈良国立博物館を事例に―	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
30	文化財を活用した効果的な展示や教育活動等に関する調査研究	情報サービス室アソシエイトフェロー　朴株顯	奈良国立博物館におけるキャプションの韓国語訳について―仮名のハングル表記・キャプション翻訳のルール・学芸員とのコミュニケーションの取り方―	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	情報サービス室長　宮崎幹子	（分担執筆）	『図書館情報学用語辞典第五版』	丸善出版	8月	無

【九州国立博物館】　36件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　11件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	大西漆芸修復スタジオ　大西智洋、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、浦添市美術館　當山綾乃	黒漆山水人物螺鈿料紙箱の修復報告	『浦添市美術館紀要』16号	浦添市教育委員会　教育部　浦添市美術館	3年3月	無
2	同上	学芸部企画課研究員　望月規史、学芸部展示課主任研究員　齋部麻矢、学芸部博物館科学課研究補佐員　田中麻美、同アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究員　渡辺祐基	「国宝　観世音寺梵鐘」調査報告	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
3	同上	学芸部展示課長　楠井隆志、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	長崎・聖福寺の関帝像	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
4	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子、同研究補佐員　山室翔子、井上祥子	新たな来館者層開拓の試み「きゅーはく女子考古部」の成果と課題	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
5	特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技」に関する調査研究	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説	『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技』（展覧会図録）	朝日新聞社	4月	無
6	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	木内家と木画双六局	『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技』（展覧会図録）	朝日新聞社	4月	無
7	特別展「奈良　中宮寺の国宝」に関する調査研究	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説	『奈良　中宮寺の国宝』（展覧会図録）	九州国立博物館	3年1月26日	無
8	同上	学芸部企博物館科学課アソシエイトフェロー　瓜生翠	作品解説	『奈良　中宮寺の国宝』（展覧会図録）	九州国立博物館	3年1月26日	無
9	ユニバーサル・ミュージアム、ハンズ・オン展示に関する調査・研究	展示課研究補佐員 茂泉千尋 展示課主任研究員 加藤小夜子	コロナ禍におけるハンズ・オン展示とユニバーサル・ミュージアムの取り組み―九州国立博物館の事例から―	紀要『東風西声』第16号	九州国立博物館	3年3月	無
10	高等学校所在考古資料に関する調査研究	交流課主任研究員 今井涼子	高等学校所在考古資料の活用に向けて―九州国立博物館の取り組みを中心に―	紀要『東風西声』第16号	九州国立博物館	3年3月	無
11	アウトリーチ活動に関する調査研究	交流課主任研究員 上野光裕 交流課交流･教育普及担当補助員 土屋和美	いつでもどこでも博物館体験を！―九州国立博物館アウトリーチ活動「きゅーはくきゃらばん」―	紀要『東風西声』第16号	九州国立博物館	3年3月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　25件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤原裕子、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	Analysis of larval development and feeding of an Anobiid beetle using X-ray computed tomography	Proceedings IRG Annual Meeting 2020	International Research Group on Wood Protection	6月	無
2	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、京都大学大学院農学研究科　簗瀬佳之、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	Nondestructive evaluation of oviposition behavior of the bamboo powderpost beetle, Dinoderus minutus, using X-ray computed tomography and acoustic emission	Journal of Wood Science 66	Springer Nature	7月1日	有
3	同上	学芸部博物館科学課長木川りか、長崎歴史文化博物館　富川敦子、長崎歴史文化博物館　久保憲司、高知県立紙産業技術センター　有吉正明、東京文化財研究所秋山純子、東京文化財研究所早川典子	灰汁を利用した固着被災文書等の修復処置：灰汁の有効成分の検討と酸性紙・和紙へ及ぼす影響の調査	『文化財保存修復学会誌』64	文化財保存修復学会	3年3月31日	有
4	同上	東京文化財研究所小峰幸夫、東京文化財研究所　篠崎（矢花）聡子、東京文化財研究所　佐藤嘉則、日光社寺文化財保存会　原田正彦、千葉県立中央博物館　斉藤明子、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫のＤＮＡバーコーディングに基づく同定法	『保存科学』60	東京文化財研究所	3年3月31日	有
5	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	第51回国際木材保存会議（IRG51）オンライン会議に参加して	木材保存 64(4)	日本木材保存協会	7月	無
6	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	九州国立博物館における多種文化財用Ｘ線ＣＴスキャナの更新について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
7	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	熊本県の弥生時代～古墳時代の墳墓出土ベンガラの分類と変遷	『遺跡学研究の地平―吉留秀敏氏追悼論文集―』	同刊行会	6月	無
8	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	八代平野および宇土半島基部の墳墓で採用されたベンガラについて	文化財保存修復学会第42回大会研究発表集	同学会	7月	無
9	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	別府の古墳から出土したベンガラについて	日本文化財科学会第37回大会発表要旨集	同学会	9月4日	無
10	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	猫迫１号墳及び周辺遺跡から出土した赤色顔料について	田川市内埋蔵文化財試掘・確認・発掘調査報告書（２）	福岡県田川市教育委員会	3年3月31日	無
11	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	前橋市0107遺跡から出土した赤色顔料について	前橋市0107遺跡発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	3年3月31日	無
12	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	石川原遺跡から出土した赤色顔料について	石川原遺跡発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	3年3月31日	無
13	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　瓜生翠	「大内氏家臣安富氏関係文書」について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
14	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	『西清古鑑』所載で日本に所在する青銅器の解説	『西清古鑑　今訪　宮外巻』	Katherine & George Fan	8月	無
15	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男 学芸部企画課文化交流展アソシエイトフェロー崔英花（訳）	簡論日本藏清宮舊藏青銅器	『西清古鑑　今訪　宮外巻』	Katherine & George Fan	8月	無
16	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	漢代銅盂小考－とくに吉祥の銘文と文様をめぐって－	『日本中国考古学会大会発表予稿集』	日本中国考古学会	3年1月	無
17	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	漢代青銅器の研究前史	『21世紀の博物館学・考古学』	青木豊先生古稀記念発起人会	3年2月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
18	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	松浦武四郎旧蔵の中国青銅器	『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究　Ⅳ』	近代博物館形成史研究会	3年2月	無
19	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	徳川家康御内書	『日本歴史』865号	吉川弘文館	6月	無
20	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	寛永十七年マカオ使節の嘆願書に関する一考察（下）	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
21	同上	学芸部企画課研究員　酒井田千明	《新収蔵品紹介》　重要文化財　法花蓮鷺文有蓋壺について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
22	同上	学芸部企画課研究員　酒井田千明	交易と南蛮物 ： 大航海時代がもたらした南海からの舶来品	『なごみ』2020年5月号	淡交社	2年5月	無
23	文化財の材質・構造等に関する研究	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子、同博物館科学課研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　田中麻美	叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（1）文房具	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
24	同上	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子	東京国立博物館所蔵　模造紫檀五弦琵琶について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
25	同上	学芸部企画課長　白井克也	百済の蓮華文塼と鳳凰文塼	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無

【東京文化財研究所】35件

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　11件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部アソシエイトフェロー　野城今日子	小室達《伊達政宗騎馬像》の制作とその社会的背景をめぐって	美術研究第431号	東京文化財研究所	8月	有
2	同上	文化財情報資料部部長　塩谷純他	書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流　ー	美術研究第433号	東京文化財研究所	3年3月	有
3	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―	『BVNGO　NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化』オープニング記念講演会資料集	大分県立埋蔵文化財センター	10月10日	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　　8件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報資料研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第15回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
2	同上	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	Issues regarding the protection of intangible cultural heritage related to religion in Japan	*Heritage and Religion in East Asia*	Routledge	12月30日	有
3	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	コロナ禍における無形の民俗文化財の現状と課題	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
4	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	民俗芸能を記録する―映像記録の可能性	継承される地域文化	臨川書店	3年3月31日	無
5	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響―調査研究とその課題―	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
6	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美・客員研究員　橋本かおる	楽器を中心とした文化財保存技術調査報告4	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
7	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	老舗三味線メーカー廃業の危機、音楽界への衝撃　コロナ禍の苦境、逆回転させる発想を	朝日新聞デジタルサイト『論座』	朝日新聞社	9月2日	無
8	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	常磐津節《子宝三番叟》の音楽分析	桐朋学園大学研究紀要　第46集	桐朋学園大学音楽学部	10月15日	有

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　19件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻九・巻十）〈巻九〉	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
2	同上	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻九・巻十）〈巻十〉	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
3	同上	副所長　山梨絵美子	春日権現験記絵を見る新たな試みーこのたびの光学調査の背景	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
4	同上	ユキオ・リピット	「春日権現験記絵」巻九・巻十の概要	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
5	同上	田中潤	春日権現験記」巻九・巻十にみられる装束表現ー女性の装束を中心に	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　14件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	生物科学研究室長・佐藤嘉則他	Mycoavidus sp. Strain B2-EB: Comparative Genomics Reveals Minimal Genomic Features Required by a Cultivable Burkholderiaceae-Related Endofungal Bacterium	Applied and Environmental Microbiology	American Society for Microbiology	7月2日	有
2	同上	生物科学研究室長　佐藤嘉則、保存科学研究センターAF・小峰幸夫、研究補佐員・矢花聡子他	文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫の DNA バーコーディングに基づく同定法	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
3	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英、研究補佐員・岡部迪子他	低酸素濃度殺虫法に用いる RP 剤 K タイプからの有機酸発生	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
4	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則、文化財活用センター・間渕創	博物館等における ATP 拭き取り検査によるカビ集落の活性評価について	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
5	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則、研究補佐員・小野寺裕子他	空調設備のない収蔵施設の保存環境調査ー岐阜県関市春日神社の取り組みー	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
6	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃他 2名	シャープカットフィルターで特定波長を遮光した条件下における有機染料の変退色挙動	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
7	同上	保存科学研究センター研究員　水谷　悦子他 3名	Preliminary investigation of change of pore structure due to salt precipitation during evaporation in brick with X-ray computed tomography	MONUMENT FUTURE : Decay and Conservation of Stone (ISBN 978-3-96311-172-3)	International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	9月1日	有
8	同上	保存科学研究センター研究員　水谷　悦子他 4名	Influence of wall composition on moisture related degradation of the wall surfaces in Hagia Sophia, Istanbul	Journal of Building Physics	SAGE	12月23日	有
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センターセンター長　早川泰弘他	国宝久能寺経における真鍮泥の利用について	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
10	同上	保存科学研究センター室長　犬塚将英他	収蔵庫の空気環境が鉛金属に与える影響に関する調査事例	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
11	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	朽津信明、森井順之、栁沼由可子、廣瀬浩司	天草市アンモナイト館における緑色生物の制御	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
12	同上	朽津信明	文化財の現地保存を考える	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
13	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	保存科学研究センター研究員　倉島玲央 他	タンパク質を混和させた漆塗膜の化学構造と物性の検証	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
14	同上	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子 他	On-site Surface Cleaning of Japanese Architecture Using Gels Incorporating Organic Solvents	Studies in Conservation 65 (sup1)	IIC	11月4日	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　3件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	札幌市立大学准教授　森朋子、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　淺田なつみ、立命館大学歴史都市防災研究所准教授　Lata Shakya	カトマンズ盆地内歴史的集落保全における法的枠組み-2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告　その 13-	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9 月	無
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	立命館大学歴史都市防災研究所准教授　Lata Shakya、札幌市立大学准教授　森朋子、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　淺田なつみ	カトマンズ盆地内歴史的集落における建築条例-2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナいおける被災状況調査報告　その 14-	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9 月	無
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文、Associazione Bastioni・ダニエラ・マリア・マーフィー他	ミャンマー共和国バガン遺跡　ロカティーパン寺院壁画の保存修復と国際協力事業	『保存科学』第 60 号	東京文化財研究所	3 年 3 月	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○調査研究成果の発信　2件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部研究員　小山田智寛他	デジタルコンテンツと持続性：明治大正期書画家番付データベースを例に	『デジタルアーカイブ学会誌』2020 年 4 巻 2 号	東京文化財研究所	3 年 3 月 31 日	有
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	尾高鮮之助撮影バーミヤーン西大仏の写真による三次元空間画像の作成	『保存科学』第 60 号	東京文化財研究所	3 年 3 月 31 日	有

【奈良文化財研究所】106件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　54件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室長　吉川聡	興福寺二条家記録「文亀三年引付」の紹介	奈文研論叢 2	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
2	同上	文化遺産部歴史研究室ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ　橘悠太	奈良文化財研究所所蔵『覚城院・萩原寺等関係中世聖教類』について	奈文研論叢 2	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
3	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部部長　島田敏男	湯浅町の歴史的建造物－調査概要とみかん農家の特徴－	奈良文化財研究所紀要 2020	中央公論美術奈良文化財研究所出版	9 月	無
4	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	高野山の歴史的建造物にみる復興の履歴	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
5	同上	都城発掘調査部研究員　福嶋啓人	近代高山の料亭建築と大工・施工業者について－料亭州さきを事例として－	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
6	同上	都城発掘調査部主任研究員　前川歩	昭和初期の倶楽部建築における家具の様相－綿業会館を事例として－	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
7	同上	都城発掘調査部主任研究員　大林潤	西トップ遺跡の建築調査－2019 年度の成果－	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　47 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	景観研究室研究員　惠谷浩子	園芸農林業がつくる京都周縁の風景	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
2	同上	景観研究室研究員　惠谷浩子	風景を読みとく技術	区画整理 63（11）	公益社団法人街づくり区画整理協会	11 月 5 日	無
3	同上	景観研究室研究員　惠谷浩子	Les paysages culturels au Japon : concepts et pratiques	Projets de paysage, 23	École nationale supérieure de paysage (ENSP)	2 月 15 日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
4	同上	景観研究室研究員　恵谷浩子	KOFUNSCAPE02 男山丘陵	遺跡学研究 17	日本遺跡学会	2 月 26 日	無
5	同上	景観研究室長　中島義晴	胡宮神社社務所庭園	敏満寺遺跡総合調査報告書	多賀町教育委員会	令和 3 年 3 月	無
6	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	景観研究室長　中島義晴	韓国庭園史略とその代表的な事例	日韓文化財論集Ⅳ	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
7	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡整備)	遺跡整備研究室長　内田和伸	韓国庭園史略とその代表的な事例	日韓文化財論集Ⅳ	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
8	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	歴史的脈絡に因む遺跡の活用	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
9	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	歴史的脈絡に因む平城宮跡の活用方法	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
10	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	遺跡現地の活用の促進ー平城宮跡の活用に関する実践的研究—	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
11	同上	遺跡整備研究室研究員　高橋知奈津	奈良文化財研究所による古代食・再現展示	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
12	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部研究員　目黒新悟	鎌倉時代再建の東大寺東塔ー東大寺東塔の復元研究２ー	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
13	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　李　暉	古代鋳銅製建築金具の線彫り工程の検証第一次大極殿院の復原研究 29ー	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
14	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　坪井久子	第一次大極殿院における扁額の検討ー第一次大極殿院の復原研究 30ー	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
15	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部研究員　大澤正吾ほか	平城宮東院地区における埴輪生産の契機と供給先	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
16	同上	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵ほか	須恵器の墨ぼかしは「炭」ぼかし	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
17	同上	都城発掘調査部主任研究員　桑田訓也ほか	年輪年代学的手法による平城宮第一次大極殿院西楼出土木簡の検討	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
18	同上	都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史	唐代以前における三叉トチンの変遷	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員　桑田訓也ほか	平城宮第一次大極殿院東方の調査ー第 612 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員　前川　歩ほか	平城宮東方官衙地区の調査ー第 615 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員　林　正憲ほか	平城京左京二条二坊十一坪の調査ー第 611 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史ほか	法華寺旧境内の調査ー第 616 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
23	同上	都城発掘調査部研究員　大澤正吾ほか	法華寺庭園の調査－第 618 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	東大寺東塔院の調査－第 617 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
25	同上	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵	平城京右京北辺北方の調査－第 610 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹	平城京出土の外面同心円叩きを有する甕ー第 149 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
27	同上	都城発掘調査部研究員　浦　蓉子	平城京出土の燃えさしー第 524 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
28	同上	都城発掘調査部研究員　浦　蓉子ほか	年輪年代学的手法を用いた出土木製品の検討ー第 601 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
29	同上	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵ほか	平城京出土須恵器の胎土分析	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
30	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹	平城宮・京出土の遊戯具（1）	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
31	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵	古代都城の灯火器ー灯火痕観察のススメー	灯明皿と官衙・集落・寺院	奈良文化財研究所	12 月 11 日	無
32	古代瓦研究会に関する研究集会の開催	都城発掘調査部考古主任研究員　岩戸晶子	大和の一本づくり・一枚づくり	古代瓦研究Ⅹ	奈良文化財研究所	3 年 2 月 6 日	無
33	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	いわゆる音義木簡とその依拠原典—律令国家成立期の経典将来をめぐって	『國學院雑誌』第 121 巻 11 号	國學院大學	11 月	有
34	同上	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	二〇一九年出土の木簡　奈良・藤原宮跡	『木簡研究』第 42 号	木簡学会	12 月	無
35	地方公共団体等が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査等への指導助言	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子ほか	「藤原京左京三条三坊東南坪・西南坪ー第 204-6 次」	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
36	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子ほか	奥山廃寺の調査―第 204-7 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
37	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大・若杉智宏ほか	藤原宮大極殿院の調査-第 205 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
38	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　道上祥武	藤原宮東方官衙南地区の調査－第 204-1 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
39	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	藤原京右京六条二・三坊、四分遺跡の発掘調査―204-2 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
40	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	日高山 1 号墳出土の木心鉄板張輪鐙	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
41	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	飛鳥・藤原地域出土の弓	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
42	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎ほか	飛鳥・藤原地域出土の青銅製・銅製の馬具・帯金具	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
43	同上	都城発掘調査部研究員　山藤正敏	石神遺跡 SD1347・SD1476 出土の土器群―石神遺跡第８・９次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
44	同上	都城発掘調査部研究員　福嶋啓人	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次）	『奈文研ニュース』No.78	奈良文化財研究所	9 月	無
45	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大・若杉智宏	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次）	『奈文研ニュース』No.79	奈良文化財研究所	12 月	無
46	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	飛鳥地域出土の風鐸	『奈文研ニュース』No.79	奈良文化財研究所	12 月	無
47	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	片埦から片坏へ―土師器杯Ｃの法量変化からみた実用器種の変容について―	『奈文研論叢』2 号	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　41 件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　21 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	環境考古学研究室長　山崎健（７名中１番）ほか	東京都前田耕地遺跡から出土した動物遺存体の再検討	旧石器研究 16	日本旧石器学会	5 月 22 日	有
2	同上	環境考古学研究室客員研究員　丸山真史	海浜部の集落における動物利用	紀伊考古学研究 23	紀伊考古学研究会	8 月 31 日	無
3	同上	環境考古学研究室客員研究員　松崎哲也	Faunal Remains at the Basilica in Tlos	The City Basilica of Tlos	Koc University Press	10 月 1 日	無
4	同上	環境考古学研究室客員研究員　菊地大樹ほか	良渚文化の畜産戦略	中国考古学 20	日本中国考古学会	12 月 1 日	有
5	同上	環境考古学研究室長　山崎健	上総国・下総国の貝類利用―地域における生業研究の一試論―	奈文研論叢 2	奈良文化財研究所	3 年 3 月 31 日	有
6	年輪年代学研究	員数 3(1 番目）年代学研究室長 星野安治	年輪年代学的手法による平城宮第一次大極殿院西楼出土木簡の検討	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
7	同上	員数 3(3 番目）年代学研究室長 星野安治	年輪年代学的手法を用いた出土木製品の検討－第 601 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
8	同上	員数 3(2 番目）年代学研究室長 星野安治	魚梁瀬スギの標準年輪曲線（1768～2004）	植生史研究 29(1)	植生史学会	3 年 2 月 24 日	有
9	同上	年代学研究室長 星野安治	年輪が明かした薬師寺東塔の建立年代	よみがえる白鳳の美－国宝薬師寺東塔解体大修理全記録	朝日新聞出版	3 年 2 月 28 日	無
10	同上	年代学研究室長 星野安治	長岡京跡右京六条三坊三町大型掘立柱建物出土木材の年輪年代調査	長岡京市文化財調査報告書 76	長岡京市教育委員会	3 年 3 月 29 日	無
11	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	災害痕跡データベースの構築―災害の軽減に向けた考古学の新たな挑戦―	學士會会報　第 942 号	一般社会法人学士会	5 月 1 日	有
12	同上	遺跡・調査技術研究室長　金田　明大　ほか 7 名	北海道常呂郡置戸町置戸山 2 遺跡の第 4 次発掘調査概要報告	日本考古学協会第 86 回総会研究発表要旨	日本考古学協会	6 月	無
13	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志	文化財の多様な記録を結ぶ超域情報基盤の検討	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9 月	無
14	同上	遺跡・調査技術研究室客員研究員　中村　亜希子	フォトグラメトリーによる三次元計測データの比較	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9 月	無
15	同上	遺跡・調査技術研究室長　金田　明大	遺跡と周辺地形情報の三次元計測	月刊文化財 12 月号	第一法規株式会社	12 月	有
16	同上	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	遺跡調査における地質学的手法の適用	月刊文化財 12 月号	第一法規株式会社	12 月	有
17	同上	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	災害痕跡データベースの構築・公開に向けて～考古学の新たな挑戦	地域防災　2021 年 2 月号(通巻 36 号)	一般財団法人日本防火・防災協会	3 年 2 月 15 日	無
18	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志	モンゴル国ドンゴイン・シレー遺跡の三次元記録	金大考古　2021 年　79 号	金沢大学考古学研究室	3 年 3 月	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
19	同上	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	藤原宮下層運河 SD1901A の層序	奈文研論叢 第 2 号	奈良文化財研究所	3 年 3 月	有
20	同上	遺跡・調査技術研究室長 金田　明大	上中城跡の地中レーダー探査について	上中城跡の研究 龍谷大学文学部考古学実習調査報告書　第 1 冊	龍谷大学文学部考古学実習室	3 年 3 月 12 日	無
21	同上	遺跡・調査技術研究室長 金田　明大	元寇防塁の地中レーダー探査について	九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 4　箱崎遺跡 九州大学埋蔵文化財調査室第 5 集	九州大学埋蔵文化財調査室	3 年 3 月 31 日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　20 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	保存修復科学研究室研究員　柳田明進 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長 高妻洋成	水分飽和から不飽和土を再現したカラム実験による鉄製文化財の腐食挙動の検討	材料と環境 2020	腐食防食学会	5 月 20 日	無
2	同上	飛鳥資料館学芸室室長 石橋茂登 考古第一研究室アソシエイトフェロー　片山健太郎 考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	飛鳥寺地域出土の風鐸-第 197-2 次、大官大寺第３・５次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
3	同上	国際遺跡研究室客員研究員　杉山洋 国際遺跡研究室研究員 佐藤由似 考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	A STUDY ON THE STRUCTURE AND SIGNIFICANCE OF THE NORTH SANCTUARY AT WESTERN PRASAT TOP	Preah Nokor	APSARA	3 年 3 月	無
4	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任)田村朋美　ほか 3 名	Scientific Analysis on the glass and sotne artifacts in Ulaanbaatar State University	埼玉大学紀要(教養学部)第 56 巻第 2 号	埼玉大学	3 年 3 月	無
5	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任)田村朋美　ほか 1 名	兵庫県出土鉛製耳環の鉛同位体比とその考古学的評価	『研究紀要』第 14 号	兵庫県立考古博物館	3 年 3 月	無
6	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	金井下新田遺跡出土のガラス玉類の自然科学的調査	『金井下新田遺跡発掘調査報告書』	群馬県埋蔵文化財調査事業団	3 年 3 月	無
7	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	第６章　第１節　出土ガラス玉の材質調査	『天王塚古墳発掘調査報告書』	和歌山県教育委員会	3 年 3 月	無
8	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	猪ノ鼻(1)遺跡のガラス玉の分析	『猪ノ鼻(1)遺跡発掘調査報告書』	青森県埋蔵文化財調査センター	3 年 3 月	無
9	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	金比羅山古墳出土ガラス小玉の自然科学的調査	『金比羅山古墳発掘調査報告書』	京都府教育庁	3 年 3 月	無
10	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	保存修復科学研究室研究員　柳田明進	海底遺跡における銅製文化財の腐食が抑制される発掘後の埋め戻し法の検討	銅と銅合金 59	日本銅学会	8 月 1 日	有
11	同上	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 副所長　高妻洋成　ほか１名	Deterioration mechanism of Japanese sandstone during the drying and wetting cucles	Proceedings of 14th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	ICOMOS-ISCS	9 月 7 日	有
12	同上	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　肥塚隆保 副所長　高妻洋成　ほか２名	Influence of heat and moisture environment inside the shelter on sodium and calcium sulfate behavior	Proceedings of 14th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	ICOMOS-ISCS	9 月 7 日	有
13	同上	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか 3 名	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その４）液水拡散係数の異方性を考慮した２次元熱水分移動の数値解析	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	紙面開催	無
14	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか３名	電荷を有する多孔質材料中の熱水分塩同時移動と浸透現象	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	紙面開催	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究～その５液水拡散係数の異方性を考慮した熱・水分移動の数値解析	日本建築学会2020年度大会（関東）梗概	日本建築学会	9月8日	無
16	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか２名	熱水分塩同時移動方程式に基づいた数値解析による粘土中における塩溶液の浸透現象の再現性の検討	日本建築学会2020年度大会（関東）梗概	日本建築学会	9月8日	無
17	同上	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 副所長　高妻洋成　ほか１名	乾湿風化による軟岩製石造文化財の劣化メカニズムの検討(その１：下浦砂岩の不飽和領域に生じる劣化のモデル化を目的とした物性値の実測)	『文化財科学』第81号	日本文化財科学会	9月24日	有
18	建造物の彩色に関する調査研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜　ほか２名	モンゴル国・ウグンヒド寺院遺跡出土の壁画顔料に関する科学的調査	『文化財科学』第81号	日本文化財科学会	9月24日	有
19	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進　ほか１名	【連載】模擬古墳 ー遺構・遺物の保存と活用を考えるための実験的取り組みー ②模擬古墳を用いた研究の紹介とそこから見えてきた現状と課題	『考古学研究』第67巻	考古学研究会	9月30日	無
20	同上	奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長 高妻洋成 保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進　ほか２名	A study on the preservation and opening of the Hasugaike Yokoana tomb based on the environmental survey	『文化財科学』第82号	日本文化財科学会	3年2月26日	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	Investigating the formation and diagnostic value of ω-(o-alkylphenyl)alkanoic acids in ancient pottery	Archaeometry	Wiley	11月7日	有
2	文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	東北アジアにおける土器の起源についての新知見	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
3	文化財保護に関する国際協力の推進	都城発掘調査部主任研究員　大林　潤	西トップ遺跡建築―2019年度の成果―	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
4	文化財保護に関する国際協力の推進	国際遺跡研究室専門職佐藤由似・客員研究員杉山洋	西トップ遺跡の調査と修復―中央祠堂基壇部の解体・再構築―	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
5	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	国際遺跡研究室長　庄田慎矢，国際遺跡研究室アソシエイトフェロー　村上夏希	甘樫丘東麓遺跡出土コムギ炭化種子のユーラシア考古植物学的位置づけ	奈文研論叢第2号	奈良文化財研究所	3年3月31日	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　6件

○調査研究成果の発信　2件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	展示企画室アソシエイトフェロー　廣瀬智子	奈良県小学校社会科副読本の改訂と平城宮跡　ーESDにもとづく総合学習の教材としてー	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
2	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	飛鳥資料館主任研究員　西田紀子	文化財研究と地域をつなぐ実践ー飛鳥資料館の取り組みからー	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無

○文化財情報基盤の整備・充実　4件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	都城発掘調査部主任研究員　国武貞克，文化財情報研究室研究員　高田祐一，文化財情報研究室技術補佐員　村上蛍	遺跡抄録情報の現状と可能性	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
2	文化財に関するデータベースの充実	文化財情報研究室研究員高田祐一，客員研究員　野口淳	画像認識技術の文化財データへの適用実験	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
3	文化財に関するデータベースの充実	都城発掘調査部史料研究室アソシエイトフェロー 畑野吉則，都城発掘調査部史料研究室長　馬場基，都城発掘調査部史料研究室主任研究員　桑田訓也，文化財情報研究室研究員 高田祐一	史的文字データベース連携検索ポータルサイトの公開	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
4	文化財に関するデータベースの充実	文化財情報研究室アソシエイトフェロー　ヤナセ ペーテル	全国の模範となる多言語化に向けて-関西での文化財機構の取り組みについて-	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和3年3月31日現在

【本部文化財活用センター】

○調査研究刊行物　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」報告書	500	美術館・博物館・大学・研究所等
2	2019年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	200	文化庁、都道府県教育委員会、博物館等

【本部文化財防災センター】

○調査研究刊行物　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	元年度文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム『地域社会と文化財―身近にある文化財、それをまもり伝える意味』報告書	1,000	連携協力機関、関係者・協力者等
2	文化財防災ネットワーク推進事業活動報告書　本編	300	連携協力機関、関係者・協力者等
3	文化財防災ネットワーク推進事業活動報告書　資料編	300	連携協力機関、関係者・協力者等
4	2年度 文化財防災に関する研究協議会（書面開催）	50	関係自治体、関係者・協力者等
5	無形文化遺産の防災のための動態記録作成に関する調査研究事業　民俗技術の記録作成事業報告書３	50 PDF公開	協力機関、関係者・協力者等

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」685号～690号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件 (各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」56号	500	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XXI(21)	500	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XLI(41) 染織1 刺繍	500	美術館・博物館・大学・研究所等　95件

○展覧会図録等　14件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展図録	特別展『桃山―天下人100年』	―	―
2		特別展『工芸2020 自然と美のかたち』	―	―
3		特別展『日本のたてもの 自然素材を活かす伝統の技と知恵』	―	―
4	特集陳列 そのほか	『博物館でアジアの旅 アジアのレジェンド』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
5		「日本美術の記録と評価―調査ノートに見る美術史研究のあゆみ」リーフレット	3,000	美術館・博物館・大学・研究所等
6		「書と料紙―平安時代の美しい紙」リーフレット	3,000	
7		「世界と出会った江戸美術」パンフレット	5,000	
8		「館蔵 珠玉の中国彫刻」パンフレット	3,000	
9		「博物館に初もうで ウシにひかれてトーハクまいり」リーフレット	5,000	
10		「木挽町狩野家の記録と学習」パンフレット	3,000	
11		「前川家伝来の雛飾り―華麗なる江戸の極小雛道具」リーフレット増刷	3,000	
12		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	3,000	
13		『宮廷から地方へ―明時代の絵画と書跡』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
14		『東京国立博物館セレクション 日本の甲冑』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要「学叢」第42号	800	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書18	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	西国三十三所 草創一三〇〇年記念 特別展 聖地をたずねて―西国さんの信仰と至宝―	―	美術館・博物館・大学等
2	御即位記念 特別展 皇室の名宝	―	同上
3	特別企画 文化財保存修理所開所40周年記念 文化財修理の最先端	3,000	同上
4	仏教美術研究 上野記念財団設立五十周年記念誌 新聞人のまなざし 上野有竹と日中書画の名品	1,000	同上
5	凝然国師没後七百年 特別展 鑑真和上と戒律のあゆみ	600	同上

※「博物館だより」、「Newsletter」の発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

.○名品図録　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	なら仏像館名品図録 2020	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第22号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第2号	630	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等

○展覧会図録　　5件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	御大典記念　特別展『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―』	1,550	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	特別展	『第72回正倉院展』	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
3	特別展	『The 72th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
4	特別陳列	特別陳列『おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―』	1,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列	特別陳列『帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―』	1,280	美術館・博物館・大学・研究機関等

※「博物館だより」の発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	九州国立博物館　文化財修復報告　第3号(平成21年度～平成22年度)	750	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等
2	九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集　第2集『大宰府史跡指定100年と研究の歩み』	500	大学・研究機関、図書館等、Web掲載
3	九州国立博物館　研究紀要『東風西声』第16号	900	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録等　4件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	「奈良・中宮寺の国宝」	974	美術館・博物館・大学・研究所等
2	特集展示等	「天神縁起の世界」	1,600	美術館・博物館・大学・研究所等
3	特集展示等	九州国立博物館開館15周年記念・大宰府史跡指定100年記念特集展示『筑紫の神と仏』	1,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	その他	九州国立博物館ユニバーサル・ガイドブック　銅印「大宰之印」(再現文化財)	1,000	展示室内で配布

※「アジアージュ」の発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　16件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	タイ所在日本製漆工品に関する調査研究ーワット・ラーチャプラディットの漆扉ー（幕末期伏彩色螺鈿の調査研究）	600	大学・研究機関、図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　15件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『無形文化遺産（工芸技術）の伝承に関する研究報告書Ⅲ「絹織製作技術」』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『おながわ北浦民俗誌』	1,000	関連地域コミュニティ・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『箕のかたち―自然と生きる日本のわざ』	500	関連コミュニティ・研究機関・教育委員会・図書館等
4	【映像】「映像資料　日置箕をつくる一鹿児島県日置市日吉町」	1	所内限定公開
5	【映像】「北条箕（タツ箕）一兵庫県加西市北条町黒駒」	1	インターネットにて公開
6	【映像】「戸隠箕一長野県長野市」	1	インターネットにて公開
7	【映像】「阿波箕一徳島県徳島市」	1	インターネットにて公開
8	【映像】「皮箕をつくる一福島県大沼郡昭和村」	1	インターネットにて公開

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
9	【映像】「日置の飾り箕ー鹿児島県日置市日吉町」	1	所内限定公開
10	『日本の芸能を支える技Ⅵ三味線　東京和楽器』	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
11	『日本の芸能を支える技Ⅶ箏　国井久吉』	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
12	『無形文化財の保存・継承に関する調査研究プロジェクト報告書「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響」をめぐる課題	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
13	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス報告書」	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
14	【映像】「邦楽器原糸製造の記録（短編）」	1	インターネットにて公開
15	『及川尊雄収集　紙媒体資料目録』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）

(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　11 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	春日権現験記絵巻九・巻十　光学調査報告書	500	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究』成果報告書	-	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『国宝久能寺経薬草喩品第五　光学調査法報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『国宝孔雀明王像　光学調査法報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究報告書』	30	関係市町村等
5	『文化財修復処置に関するワークショップ- ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法 -』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
6	『文化財修復処置に関する研究会　―クリーニングとゲルの利用について―』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
7	『文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	『内部造作の保存と修復』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	『Conservation and Restoration of Steel Structures』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	『保存と活用のための展示環境の研究』成果報告書	150	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3)文化遺産保護に関する国際協働　23 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　23件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	Attributes - a way of understanding OUV -	400	官公庁、自治体、国際機関等
2	令和２年度世界遺産研究協議会　「整備」をどう説明するか（第一部）	450	官公庁、自治体、国際機関等
3	各国の文化財保護法令シリーズ［25］英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）	20	官公庁、図書館等
4	CONSERVATION & SUSTAINABLE DEVELOPMENT PROJECT OF TA NEI TEMPLE: RESTORATION OF THE EAST GATE Progress Report and Work Plan	1 （オンライン配布）	the ICC-Angkor
5	CONSERVATION & SUSTAINABLE DEVELOPMENT PROJECT OF TA NEI TEMPLE: RESTORATION OF THE EAST GATE Progress Report June-November 2020	1 （オンライン配布）	the ICC-Angkor
6	アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和2年度成果報告書	50	外部評価委員会
7	研究会記録　東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理	20	外部評価委員会
8	ペルシア湾岸諸国における文化遺産保護の現状　報告書	50	外部評価委員会、事業関係者等
9	Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2020 -	260	大学、研究機関、関係団体（国内、カンボジア）等
10	Me-taw-ya Temple Project “Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205a Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar 2016-2020”	55	外部評価委員会および研究機関、関係団体等
11	Lokahteikpan Wall painting Project, pagoda 1580 “Capacity Building Report; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan 'adorning the world from above' Pagoda 1580, Archaeological zone of Bagan, Myanmar”	55	外部評価委員会および研究機関、関係団体等
12	旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究　令和2年度成果報告書	50	外部評価委員会および研究機関、関係団体等
13	在外日本古美術品保存修復協力事業	250	関係者・大学・研究機関・博物館等

14	平成29年度在外日本古美術品保存修復協力事業　檜・八橋図　No.2017-1　修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
15	平成29年度在外日本古美術品保存修復協力事業　林和靖・太公望図　No.2017-2　修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
16	平成29年度在外日本古美術品保存修復協力事業　煙寺晩鐘図・平沙落雁図　No.2017-3　修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
17	国際研修「紙の保存と修復」2019	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
18	令和2年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業　ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業　報告書	20	文化庁ほか
19	VERNACULAR HOUSES in Bhutan, Western Central Area, Thimphu, Punakha, Paro, Haa	100	ブータン内務文化省文化局ほか
20	第27回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　コロナ禍における文化遺産国際協力のあり方	300	大学・研究機関・図書館等
21	第28回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産とSDGs III	300	大学・研究機関・図書館等
22	文化遺産国際協力コンソーシアム令和２年度国際協力調査　海域交流ネットワークと文化遺産（その１）	300	大学・研究機関・図書館等
23	文化遺産の国際協力	1,000	大学・研究機関・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　12 件

・調査研究成果の発信 12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2019年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2020年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』72号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』73号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『令和元年版　日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
6	『美術研究』431号	400	大学・研究機関、図書館等
7	『美術研究』432号	400	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』433号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『無形文化遺産研究報告』第15号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
10	『第15回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『保存科学』60号	650	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等
12	売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　13件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	仁和寺史料　目録編〔稿〕4	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『「あわの至宝」調査研究報告書(建造物編)』(8月)	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『料亭州さき建造物調査報告書』(3年3月)	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『松江神社建造物調査報告書』(3年3月)	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　9件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書『歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『薬師寺東塔基壇発掘調査報告書』３年３月	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『地下の正倉院展－重要文化財長屋王家木簡－』2年 10 月	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『第 24 回古代官衙・集落研究集会　古代集落の構造と変遷(古代集落を考える1)　研究報告資料』2 年 12 月	100	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『第 23 回　古代官衙・集落研究会報告書　燈明皿と官衙・集落・寺院』(奈良文化財研究所研究報告第 26 冊)2 年 12 月	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	『古代瓦研究Ⅹ　8 世紀の瓦づくりⅧ――本づくり・一枚づくりの展開 2(西日本編)－』Ⅰ報告編・Ⅱ資料編　3 年 2 月	850	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展 『鬼神乱舞　護る・祓う・鬼瓦の世界』3 年1月	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	『瞿義黄冶窯発掘調査報告』奈良文化財研究所学報第 99 冊　3 年 3 月	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	『日韓文化財論集Ⅳ』３年３月	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　0 件

(3)文化遺産保護に関する国際協働　5 件

・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『西トップ遺跡調査修復中間報告 10』	500	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『Survey and Restoration of Western Prasat Top Interim Report 10』	300	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『寄贈岸良コレクション図録2』	800	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『現場のための環境考古学』ロシア語版	300	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『現場のための環境考古学』英語版	500	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　3件

・文化財情報基盤の整備・充実　0件

・調査研究成果の発信　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	埋蔵文化財ニュース第184号『花粉分析からみた古代都城の植生変化』	3,000	教育委員会など文化財関係機関

・展示公開施設の充実　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	飛鳥資料館図録第73冊『飛鳥の石造文化と石工』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	飛鳥資料館カタログ第37冊『飛鳥の考古学2020』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　0件

・平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるベトナムのフォーマル教育向けガイドライン（英語版）	100 オンラインでも公開	研究協力依頼機関（ベトナム）等
2	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン（サバネン版）	100 オンラインでも公開	フィリピンのSLT（ノンフォーマル教育施設）
3	「無形文化遺産（ICH）のSDGsへの貢献プロジェクト」プロジェクトレポート	オンラインのみ	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	「アジアのポストコンフリクト等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究」事業プロジェクトレポート	オンラインのみ	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和3年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	144	50	31	6	6	7	94	25	69	0
科学研究費補助金のみ	46	16	9	1	2	4	30	7	23	0
学術研究助成基金助成金のみ	98	34	22	5	4	3	64	18	46	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究(A)【令和元年度繰越】	1,250
2	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	学芸企画部長	基盤研究(A)【令和元年度繰越】	900
3	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	学芸企画部長	基盤研究(A)	10,530
4	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部平常展調整室長	基盤研究(B)【令和元年度繰越】	500
5	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部平常展調整室長	基盤研究(B)	2,990
6	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見　龍介	学芸企画部企画課長	基盤研究(B)	2,300
7	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	土屋　貴裕	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	基盤研究(B)	3,510
8	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)	4,420
9	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	5,330

2）学術研究助成基金助成金のみ　22件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中世律宗絵画に関する基礎的研究	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	1,430	4,420〈平成30～2年度〉
2	金属製幡の基礎的研究－特に密教における灌頂道具としての用途と機能	伊藤 信二	学芸企画部博物館教育課長	基盤研究(C)	650	2,860〈元～3年度〉
3	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	520	2,210〈元～4年度〉
4	縄文時代の地域間交流の研究－CADを用いた土器容量の比較―	井出 浩正	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究(C)	1,040	4,160〈元～3年度〉
5	白描図像の分析から帰納する仏画研究―玄証本を起点に―	古川　攝一	調査研究課研究員	基盤研究(C)	910	4,290〈元～4年度〉
6	藤原定家の和歌に基づく「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図」の歴史的展開の解明	遠藤　楽子	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員	基盤研究(C)	2,210	4,420〈2～6年度〉
7	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	高橋　真作	学芸研究部研究員	基盤研究(C)	1,040	4,420〈2～6年度〉
8	高精細複製絵画による屏風絵を中心とする実験的展示照明による基盤的理論の構築	松嶋　雅人	調査研究課絵画・彫刻室	基盤研究(C)	1,690	4,160〈2～5年度〉
9	東アジアの宮廷工芸に関する物質文化研究－相対的文化史観に基づいて－	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	1,560	4,160〈2～4年度〉
10	海外博物館の日本美術展示にみる現代「日本」観の研究	鬼頭　智美	学芸企画部上席研究員	基盤研究(C)	1,820	4,290〈2～4年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
11	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸企画部企画課出版企画室研究員	若手研究(B)	741	3,250 〈平成29～3年度〉
12	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井　元樹	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員	若手研究(B)	650	4,160 〈平成29～2年度〉
13	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋　美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	1,300	4,030 〈平成30～2年度〉
14	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野　正訓	学芸研究部調査研究課考古室主任研究員	若手研究	910	2,080 〈平成30～2年度〉
15	黒染め染織文化財に対する脱酸化・抗酸化・強化処置法の開発	佐藤 萌	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究	650	3,900 〈平成30～5年度〉
16	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	650	2,080 〈元～3年度〉
17	ICT技術を用いた個人的コンテキストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究	780	3,900 〈元～3年度〉
18	天台宗における仏像の模刻と信仰上の意義	西木　政統	学芸研究部研究員	若手研究	2,210	4,290 〈2～5年度〉
19	中近世ドイツ語圏の金工の社会史的研究－W.ヤムニッツァーを中心に	村松　綾	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	1,690	4,290 〈2～5年度〉
20	鎌倉時代における文殊菩薩造像の伝播に関する調査研究	増田　政史	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	研究活動スタート支援	0	1,430 〈元～2年度〉
21	地中海世界の大転換期（前12世紀～前10世紀）と「フェニキア人」の出現	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	国際共同研究強化(A)	15,210	15,210 〈2～4年度〉
22	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	河野　一隆	学芸研究部調査研究課課長	国際共同研究強化(B)	3,640	18,330 〈元～5年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	埴輪生産組織の構造分析と古代手工業論による古墳時代日韓交渉史再構築の基礎的研究	古谷　毅	研究員	基盤研究（B）	2,340

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室主任研究員	若手研究（B）	520	3,900 〈平成28～3年度〉
2	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部保存修理指導室主任研究員	若手研究（B）	0	3,770 〈平成28～2年度〉
3	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遺例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	0	3,900 （平成28～2年度）
4	西日本を中心とした来舶清人の書画交流に関する基礎的調査研究	呉　孟晋	学芸部調査・国際連携室長	基盤研究（C）	1,040	4,290 （平成30～2年度）
5	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴―野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用―	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（C）	1,040	4,290 （令和2～5年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本　伸之	館長	基盤研究（A）	7,020
2	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎　幹子	学芸部情報サービス室長	基盤研究（B）	4,290

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部企画室長	基盤研究（C）	0	2,990 〈平成29～2年度〉 （補助事業期間延長）

2	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部美術室 主任研究員	若手研究（B）	0	1,560 〈平成29～2年度〉 （補助事業期間延長）
3	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口　隆介	学芸部企画室 主任研究員	若手研究	1,040	4,030 〈平成30～2年度〉
4	戦国期の権門寺院における宗教秩序の復元的研究	佐藤　稜介	文化財防災センター　アソシエイトフェロー	若手研究	650	1,820 〈2～4年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	伊藤　嘉章	客員研究員	基盤研究（A）	9,880
2	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	畑　靖紀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員	基盤研究（B）	2,340
3	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田　淳	副館長	基盤研究（B）	3,510
4	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究	小泉　惠英	学芸部長	基盤研究（B）	6,890

2）学術研究助成基金助成金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 （採択時）（千円）	全研究期間での 交付決定額　（千円） 〈研究期間〉
1	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討	木川　りか	学芸部博物館科学課長 （兼）環境保全室長	基盤研究（C）	1,170	4,420 〈平成30～2年度〉
2	博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用	渡辺　祐基	学芸部博物館科学課環境保全室研究員	若手研究	1,430	4,160 〈元～3年度〉
3	名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究	桑原　有寿子	学芸部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	2,210	4,160 〈2～5年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	小林　公治	文化財情報資料部　広領域研究室長	基盤研究(A)	8,710
2	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部　広領域研究室長	基盤研究(B)	0
3	日本美術の記録と評価についての研究ー美術作品調書の保存活用	江村　知子	文化財情報資料部　文化財アーカイブズ研究室長	基盤研究(B)	7,280
4	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川　典子	保存科学研究センター　修復材料研究室長	基盤研究(B)	2,340
5	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)	4,160
6	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター　分析科学研究室長	基盤研究(B)	4,160
7	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田　弘道	無形文化遺産部　無形民俗文化財研究室長	特別研究員奨励費(外国人)	100

2）学術研究助成基金助成金のみ　18件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 （採択時）（千円）	全研究期間での 交付決定額　（千円） 〈研究期間〉
1	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部　無形文化財研究室長	基盤研究(C)	1,430	4,290 （平成30～2年度）
2	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永　拓世	文化財情報資料部　主任研究員	基盤研究(C)	1,300	4,420 （平成30～2年度）
3	ポスト１９６８年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川　英規	文化財情報資料部　主任研究員	基盤研究(C)	650	4,420 （平成30～2年度）
4	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤　嘉則	保存科学研究センター　生物科学研究室長	基盤研究(C)	1,300	4,030 （平成30～2年度）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
5	博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間渕　創	保存科学研究センター	基盤研究(C)	520	3,770（平成30～2年度）
6	白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田　直人	保存研究センター　保存環境研究室付	基盤研究(C)	650	2,860（平成30～2年度）
7	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津　信明	保存科学研究センター　修復計画研究室長	基盤研究(C)	1,170	4,290（元～3年度）
8	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山　純子	保存科学研究センター　保存環境研究室長	基盤研究(C)	1,040	4,290（元～5年度）
9	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石　みぎわ	無形文化遺産部　主任研究員	基盤研究(C)	1,560	4,290（2～4年度）
10	従属栄養性微生物による硫黄化合物の分解とそれに伴う腐食性ガス生成	片山　葉子	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,690	4,420（2～4年度）
11	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田　まきは	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,160（平成30～3年度）
12	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢　玲	文化財情報資料部　研究員	若手研究	780	1,560（元～2年度）
13	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	1,950	4,160（元～3年度）
14	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	1,300	4,160（元～4年度）
15	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪　彩絢	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,170	3,770（2～4年度）
16	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	若手研究	1,430	4,160（2～4年度）
17	近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井　健	文化遺産国際協力センター　保存計画研究室長	研究活動スタート支援	1,430	2,470（元～2年度）
18	歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860（元～2年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　23件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場　基	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（S）	25,090
2	平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化	渡辺　晃宏	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（A）	12,610
3	災害で埋没した建物による民家建築史の研究	箱崎　和久	都城発掘調査部部長	基盤研究（A）	13,130
4	木簡の年輪年代学：同一材推定による再釈読と荷札木簡を用いた地域標準年輪曲線の構築	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室長	基盤研究（B）	4,250
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	2,990
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波　洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	2,990
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（B）	4,160
8	中央アジア 天山－パミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	2,470
9	３次元データによる瓦の同笵認識技術の基礎的研究	林　正憲	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	6,630
10	災害碑アーカイブ構築を目的とした市民参加型調査の実践	上椙　英之	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（B）	2,340
11	ユーラシア東部における細石刃石器群の出現と拡散：中国北部クロスロード仮説の検証	加藤　真二	企画調整部長	基盤研究（B）	5,850
12	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部副部長	基盤研究（B）	1,170
13	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	4,160
14	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	神野　恵	都城発掘調査部考古第二研究室長	基盤研究（B）	3,770
15	土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築	丹羽　崇史	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	2,730
16	古建築用語の相互訳及び英訳を通した系統的把握による東アジア木造建築史の基盤構築	鈴木　智大	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	4,550

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
17	土器残存脂質分析を用いた縄文－弥生移行期における土器利用と食性変化の追跡	庄田　慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	若手研究（A）	2,600
18	植物考古学から探るイネ、雑穀、ムギ食文化の交流と変容	庄田　慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	学術変革領域研究（A） 計画研究	17,550
19	中央アジアにおける後期旧石器時代初頭（IUP)石器群の探求	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）公募研究	3,900
20	3D石器形態系統分類学による日本列島およびサフル大陸における人類進出の解明	野口　淳	埋蔵文化財センター客員研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）公募研究	910
21	植物遺体群調査解析システムの新構築による古代都城の植物資源利用と集落生態系の解明	上中　央子	埋蔵文化財センター特別研究員（PD）	特別研究員奨励費	780
22	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	研究成果公開促進費（データベース）	1,900
23	奈良の都の木簡に会いに行こう！２０２０	馬場　基	都城発掘調査部史料研究室長	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI	490

2）学術研究助成基金助成金のみ　46 件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部考古第二研究室長	基盤研究（C）	－	4,420 〈平成27～2年度〉
2	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	－	4,810 〈平成27～2年度〉
3	６世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究－奈良盆地を中心に－	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	－	4,680 〈平成28～2年度〉
4	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野　陽一	飛鳥資料館学芸室研究員	若手研究（B）	－	3,770 〈平成28～2年度〉
5	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	基盤研究（C）	910	4,420 〈平成29～3年度〉
6	Sr同位体比分析による日本出土「ナトロンガラス」の産地に関する考古科学的研究	田村　朋美	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	－	4,550 〈平成29～2年度〉
7	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	飛鳥資料館主任研究員	基盤研究（C）	650	4,550 〈平成29～3年度〉
8	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部上席研究員	基盤研究（C）	1,300	4,550 〈平成29～2年度〉
9	彩色文化財のTHz Imaging及びμFocusX線CTを用いた非破壊界面調査	金　旻貞	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	－	2,860 〈平成29～2年度〉
10	地震痕跡を残す災害遺構の保存と公開活用に関する研究	小沼　美結	飛鳥資料館客員研究員	若手研究（B）	－	1,950 〈平成29～2年度〉
11	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究―奈良市佐紀古墳群を中心に	大澤　正吾	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	650	4,160 〈平成29～2年度〉
12	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究－三次元計測データの活用－	中村　亜希子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	－	4,030 〈平成29～2年度〉
13	奈良時代に用いられた色材・素材のナノ構造解明	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	－	4,160 〈平成29～2年度〉
14	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	挑戦的研究（開拓）	2,730	25,610 〈平成29～3年度〉
15	初期官衙における空間構造の成立と展開に関する実証的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	650	4,420 〈平成30～3年度〉
16	飛鳥時代・奈良時代の土器様式からみた日本古代の食具様式および食事法の復元的研究	森川　実	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,365	4,420 〈平成30～2年度〉
17	藤原宮造営に伴う造瓦の新技術とその導入経路に関する総合的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,170	4,550 〈平成30～3年度〉
18	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,300	4,420 〈平成30～2年度〉
19	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承―出雲地方を中心に	中島　義晴	文化遺産部景観研究室長	基盤研究（C）	650	3,250 〈平成30～3年度〉
20	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤　正敏	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究	1,040	4,160 〈平成30～3年度〉
21	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤　由似	企画調整部国際遺跡研究室専門職	若手研究	910	3,770 〈平成30～2年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
22	発掘後の劣化特性の予測技術に基づく出土鉄製文化財の新たな保存管理システムの構築	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	650	4,030 〈平成30～2年度〉
23	昭和初期における歴史的建造物保存修理の構造補強体系の構築	前川　歩	都城発掘調査部主任研究員	若手研究	780	4,030 〈平成30～3年度〉
24	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	国際共同研究強化（B）	3,640	18,200 〈平成30～4年度〉
25	セット論・生産流通論からみた古代国家成立期の馬装体系の変化に関する研究	片山　健太郎	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	－	2,470 〈平成30～元年度〉
26	歴史災害の実像解明への考古・歴史・地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター主任研究員	挑戦的研究（開拓）	3,900	22,880 〈平成30～5年度〉
27	鎖国期日本のマジョリカ陶器色絵フォグリー文アルバレルロとカトリック修道院	松本　啓子	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	780	3,640 〈元～4年度〉
28	塩類風化が進行する遺跡構成材料からの効果的な脱塩方法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	基盤研究（C）	780	3,250 〈元～3年度〉
29	ポスト・バイヨン期のクメール建築の建築的特徴に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,170	3,510 〈元～3年度〉
30	日本と中国における大工道具の比較による東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	910	4,420 〈元～5年度〉
31	機械学習による画像自動分類を活用した考古学ビッグデータの構造化と情報探索への適用	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,990	5,720 〈元～2年度〉
32	墨書木製品の分類を手がかりとした日本における木簡利用全史の解明	藤間　温子	都城発掘調査部客員研究員	若手研究	780	2,860 〈元～4年度〉
33	古代壁画の制作技法の伝習に関する研究-シルクロード近隣地域と日本の壁画を中心に	中田　愛乃	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究	520	2,600 〈元～4年度〉
34	文化的景観における棚田集落の相対的価値の解明にむけた比較研究	恵谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究	780	3,900 〈元～3年度〉
35	絵画表現の多様性を生みだす彩色材料のナノ構造	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,560	4,420 〈2～4年度〉
36	東アジア出土の植物灰ガラスは西アジア産か？－ガラス交易路解明に向けての基礎研究－	田村　朋美	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,690	4,290 〈2～4年度〉
37	石造物からみるブリテン島における古代と初期中世の境界	岩永　玲	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究	650	1,560 〈2～4年度〉
38	西日本集落遺跡の分析に基づく古代地域社会の実証的研究	道上　祥武	都城発掘調査部考古第三研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,950	4,290 〈2～5年度〉
39	飲食物表現からみた古代東アジアにおける古墳葬送儀礼の考古学的研究	松永　悦枝	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究	780	2,210 〈2～5年度〉
40	群青の緑青化が起こる環境的要因の検証	荻山　琴美	飛鳥資料館学芸室アソシエイトフェロー	若手研究	1,950	2,600 〈2～5年度〉
41	文化財修理に用いられる和紙の膨潤収縮挙動	金　旻貞	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究	1,300	3,900 〈2～4年度〉
42	出土木製遺物の保存処理の飛躍的効率化を実現する溶媒蒸発を用いた薬剤含浸技術の確立	松田　和貴	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	2,990	4,160 〈2～4年度〉
43	考古系展示施設における観覧行動分析とそれに基づく多様な「学び」の構築と実践	廣瀬　智子	企画調整部展示企画室アソシエイトフェロー	若手研究	1,560	4,030 〈2～4年度〉
44	越後大工・小黒杢右衛門一族の作風―近世在方大工の作家論的研究	目黒　新悟	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究	1,300	4,160 〈2～5年度〉
45	『築山庭造伝』前編・後編にみる作庭技術とその流布に関する基礎的研究	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究	650	2,340 〈2～5年度〉
46	埴輪生産からみた古墳時代労働力編成システムに関する考古学的研究	木村　理	都城発掘調査部考古第二研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,300	1,950 〈2～3年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　0件

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
148人	41 人	28人	3人	6人	4人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	107 人	49人		58人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　28人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館理事・学芸部長）	絵画に関する研究
2	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学及び医学関係の館史資料に関する調査研究
3	東野　治之（公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋館長）	法隆寺献納宝物の資料の研究
4	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	切手に関する調査研究
5	水上　嘉代子（元公益財団法人遠山記念館学芸員）	小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
6	小笠原　小枝（日本女子大学家政学部名誉教授）	インド更紗に関する研究
7	金子　浩昌（日本考古学協会員）	原始・古代骨角製品に関する研究
8	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	絵画に関する研究
9	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
10	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	東洋漆工に関する研究
11	田中　淑江（共立女子大学家政学部教授）	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
12	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
13	望月　幹夫（松戸市立博物館長）	考古資料（原史・有史、構内出土品）に関する調査研究
14	澤田　むつ代（名誉館員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代裂の保存と修理に関する調査研究
15	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）	文化財の保存環境に関する調査研究
16	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任学芸員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
17	高濱　秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
18	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
19	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	工芸品、歴史資料に関する調査研究
20	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
21	日高　慎(東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
22	石松 日奈子 (文化庁文化審議会専門委員(文化財分科会))	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
23	田澤　恵子 (公益財団法人古代オリエント博物館研究部主任研究員)	エジプト・コレクションの整理と基礎的研究
24	赤沼　多佳	茶陶の調査
25	西脇　康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員）	埋蔵文化財としての金銀貨鑑別・完全非破壊品位測定
26	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
27	石川　岳彦（東京大学大学院人文社会系研究科助教）	漢代土器の調査研究
28	藤田　晴啓（新潟国際情報大学経営情報学部経営学科教授）	考古資料からみた日本と東南アジアの文化交流の研究

【京都国立博物館】　3人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
3	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
4	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
5	橋詰　文之（和泉市久保惣記念美術館副館長）	金工品の調査及び研究
6	澤田　むつ代（東京国立博物館名誉館員	染織品の調査及び研究

【九州国立博物館】　4人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	伊藤嘉章（愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長）	アジアの文化財の伝統的制作・修理技法に関する調査研究
2	山下善也（元九州国立博物館文化財課主任研究員）	日本美術、特に近世絵画に関する調査研究
3	赤司善彦（大野城心のふるさと館館長）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
4	佐々木蘭貞(福岡市埋蔵文化財センター文化財教育普及専門員)	水中遺跡の保存活用に関する調査研究

【東京文化財研究所】　49人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
4	田中　淳（大川美術館長）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび（東京藝術大学美術学部教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、及び当研究所のアーカイブ構築
7	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
8	津田徹英（青山学院大学文学部比較芸術学科　教授）	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
9	田所　泰（杉並区立郷土博物館分館学芸担当）	研究プロジェクト「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」、とくに近代の女性画家に関する調査研究
10	田中　潤（学習院大学非常勤講師）	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
11	川瀬由照（早稲田大学教授）	仏教美術作品の専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充
12	星野厚子（東京大学文学館技術支援職員）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
13	永井美和子	無形文化財の記録作成
14	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
15	原田一敏（ふくやま美術館長）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
16	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
17	俵木　悟（成城大学文芸学部准教授）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
18	大西秀紀（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）	音声映像記録に関する調査研究
19	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
20	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
21	鎌田紗弓（東京大学総合文化研究科博士研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
22	齊藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
23	宮澤京子（有限会社海工房取締役）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
24	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する調査研究
25	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任准教授）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究及び情報収集
26	神野知恵（国立民族学博物館非常勤研究員）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
27	赤井紀美（武蔵野美術大学講師）	無形文化財（近現代演劇）に関する調査研究
28	谷垣内和子（日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長）	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究及び情報収集
29	伊藤　純（川村学園女子大学講師）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
30	橋本かおる（東京藝術大学音楽学部楽理科教育研究助手）	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
31	吉澤　望（東京理科大学理工学部建築学科教授）	新世代光源の展示照明への適用条件検討
32	山内泰樹（山形大学大学院理工学研究科教授）	有機EL光源の展示照明への導入条件の検討
33	酒井清文（園田学園女子大学　非常勤講師）	文化財の伝統的修復に関する調査研究
34	大場詩野子（絵画保存修復家）	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
35	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
36	稲葉政満（東京藝術大学教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
37	本多貴之（明治大学理工学部准教授）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
38	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	湿度制御温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言及び基礎研究
39	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟代表理事）	日本画修復に使用される材料及び技法の研究
40	貴田啓子（東京藝術大学准教授）	日本における絵画の劣化要因に関する研究
41	岡田　健（文化財防災センター東京分室長）	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
42	片山葉子	高松塚・キトラ古墳壁画及び他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
43	苅田重賀（日本航空協会専任課長）	近代文化遺産（特に航空関連）の保存修復に関する調査・研究
44	古田嶋智子（国立アイヌ民族博物館ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
45	宇髙健太郎	文化財構成材料としての墨，煤，膠並びに修理材料としての膠の研究と，修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
46	簡　佑丞（台湾中央学院ポストドクター）	台湾の近代文化遺産の保存活用に関する調査・研究
47	大河原典子（鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究及び技術移転の手法研究
48	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
49	山田大樹(株式会社都市環境研究所計画グループ研究員)	ネパールをはじめとする南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究

【奈良文化財研究所】　58人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	山田　徹（同志社大学文学部准教授）	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析作業
2	林　良彦	受託調査等の調査・研究業務
3	難波　洋三	考古遺物の調査研究
4	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
5	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理
6	渡辺　伸行（神戸市立大日丘児童館館長）	大規模災害の復興調査支援等への指導助言
7	羽生　淳子（総合地球環境学研究所研究部客員教授）	研究所の研究活動へ国際的な視野と新たな研究課題の点から指導助言
8	小林　謙一	遺物及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
9	Shaun Ian Mackey	東アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言
10	森本　晋（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	文化財保護に関する国際協力についての助言、海外調査資料の整理
11	杉山　洋（龍谷大学文学部教授）	カンボジアプロジェクトを中心とした国際遺跡研究室事業への助言

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
12	綾村　宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
13	小野　健吉（和歌山大学観光学部教授）	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
14	中野　祥子（市立枚方宿鍵屋資料館学芸員）	平城宮・京及び関連遺跡出土漆工具に関する研究協力、及び助言
15	青木　敬（國學院大學文学部教授）	薬師寺東塔の発掘調査報告書作成業務に関わる指導・助言
16	黒田　洋子（奈良女子大学古代学・聖地学研究センター協力研究員）	正倉院文書の文字画像データベース構築における研究協力及び助言
17	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
18	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授／大阪府立近つ飛鳥博物館長）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
19	方　国花	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
20	渡邉　晃宏（奈良大学文学部教授）	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
21	諫早　直人（京都府立大学文学部歴史学科准教授）	中国遼寧省文物考古研究所と行う共同研究「３－６世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
22	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
23	巽　淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
24	深澤　芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点からの助言
25	松本　啓子	奈良・大阪両地域の宮殿・京域の情報をもとに類似点・相違点を比較するうえでの専門的知識の供与及び助言
26	黒羽　亮太（京都大学非常勤講師）	飛鳥地域出土木簡の整理研究に関する専門的知識の供与及び助言
27	竹内　亮（奈良県立万葉文化館主任研究員）	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集成作成のための専門的知識を供与
28	藤間　温子	削屑の整理と保存処理に関する専門的知識の供与、墨書木製品等の調査研究
29	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
30	大賀　克彦（奈良女子大学大和･紀伊半島学研究所特任講師）	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
31	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存展示環境の研究
32	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
33	金　旻貞（株式会社修美）	彩色文化財の材料調査業務
34	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
35	澤田　正昭（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
36	杉岡　奈穂子	壁画等の材料調査業務
37	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
38	中島　志保	文化財防災ネットワーク推進事業に係る業務
39	中村　力也（宮内庁正倉院事務所保存整理室長）	奈良時代の遺物及び古代壁画等の材料調査業務
40	福永　香（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室長）	文化財の非破壊診断調査
41	三村　衛（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
42	上中　央子	微化石の調査研究、花粉分析
43	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
44	菊地　大樹（総合研究大学院大学特別研究員）	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
45	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
46	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
47	松崎　哲也	現生標本の整理・管理
48	丸山　真史（東海大学海洋学部特任講師）	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
49	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木造文化財の木材組織学的研究
50	児島　大輔（大阪市立美術館学芸課学芸員）	美術工芸品の年輪年代学的研究
51	光谷　拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
52	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
53	岸田　徹（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	迅速かつ安定的な遺跡探査のための機器システムの構築及び迅速な探査手法と取得データ解析・解釈法の研究
54	狭川　真一（公益財団法人元興寺文化財研究所副所長）	遺跡及びその調査技術に関する研究
55	西口　和彦	遺跡探査の研究
56	野口　淳（NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長）	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究
57	平川　ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	三次元計測手法の開発及び民族学的知見からの考古学研究の推進
58	小沼　美結	災害遺構に関わる文献資料の調査・現地の視察等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

令和3年3月31日現在

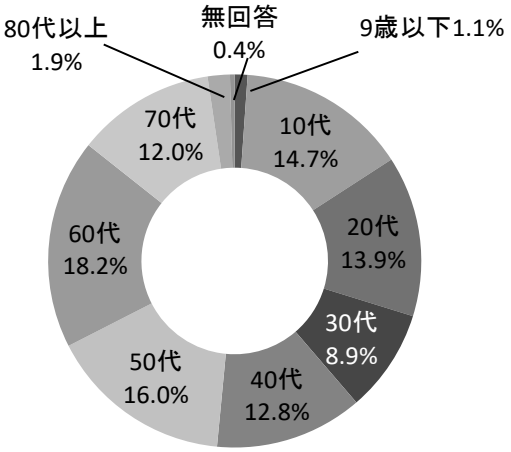
	H28	H29	H30	R1	R2
国立博物館計	13,053,220	15,795,489	15,131,386	16,937,495	12,409,706
東京国立博物館	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923
京都国立博物館	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100
奈良国立博物館	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864
九州国立博物館	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955	824,819
文化財研究所計	7,558,441	14,224,921	18,425,847	20,594,179	20,232,450
東京文化財研究所	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314	5,094,252
奈良文化財研究所	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865	15,138,198
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	7,856	9,469	10,779	13,261	13,284
機構本部	220,638	272,228	336,016	362,356	302,279
e国宝	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236	1,952,296
国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）	6,452	26,914	54,338	76,875	140,553
文化財活用センター	－	－	29,320	42,733	124,300
文化財防災ネットワーク	62,004	75,375	93,817	182,485	219,544

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・文化財防災ネットワークは平成27年3月にサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。
・文化財活用センターは平成30年7月にサイトを開設し、アクセス件数のカウントを開始した。
・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。
　27年度以前の下段※1の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。（他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。）

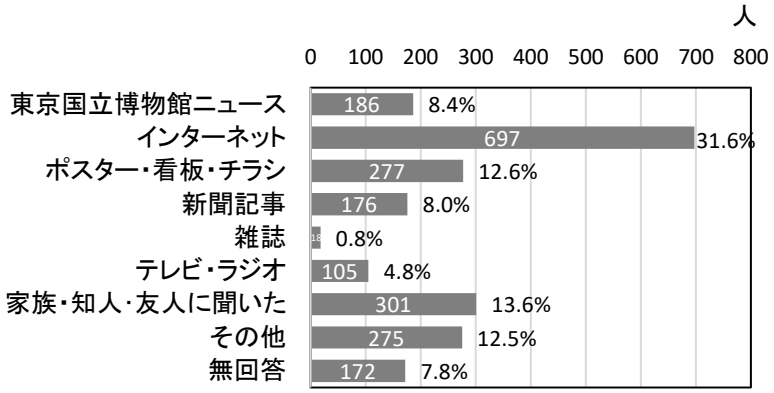
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：令和2年6月2日（火）～令和3年3月31日（水） 開館日数：251日間
アンケート実施日：1か月に1日程度、日を決めて実施。（計8回）
回答者数： 1,717人
アンケート実施日来館者数：4,491 人
アンケート回収率：38.2%

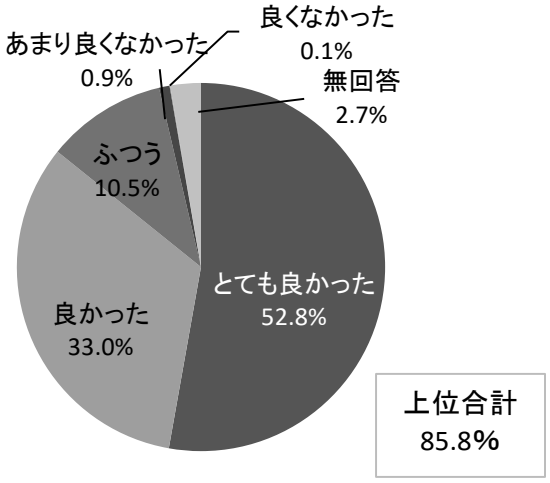
①アンケート回答年齢層



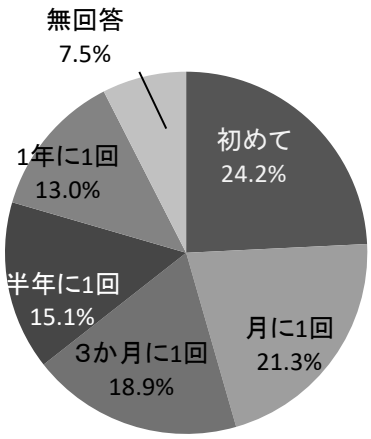
②認知経路 （複数回答）



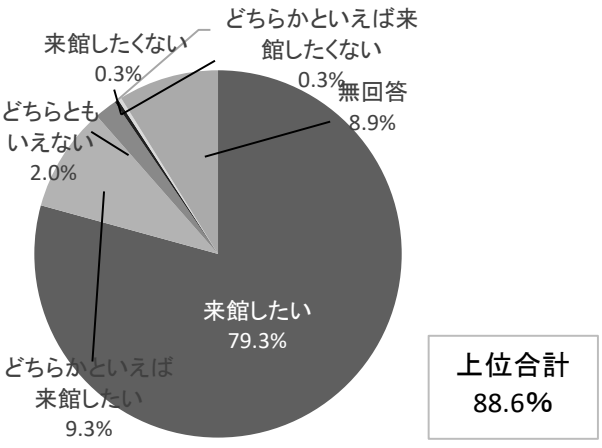
③展示に関する満足度



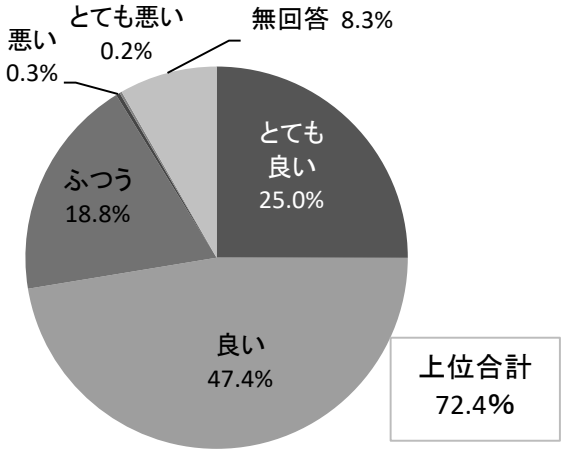
④来館頻度



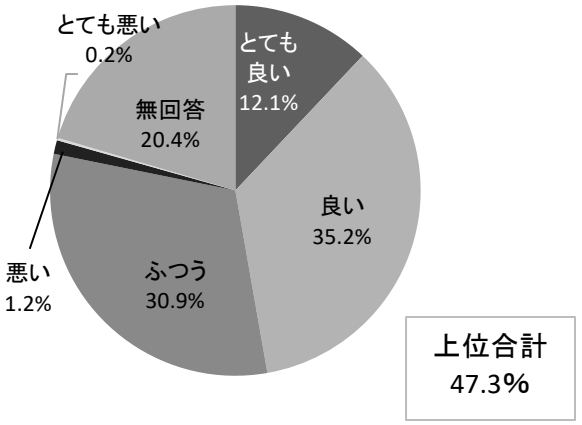
⑤再来館希望率



⑥ミュージアムショップに対する満足度

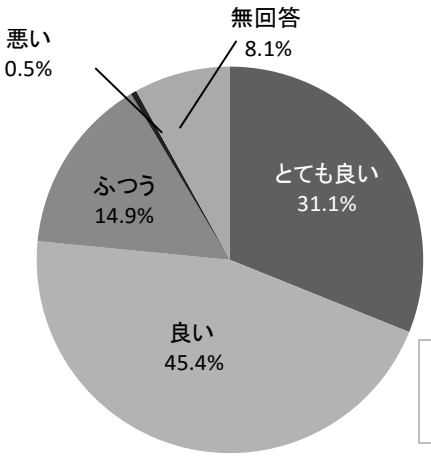


⑦レストランに対する満足度



上位合計
47.3%

⑧館内スタッフの対応について



上位合計
76.5%

主な意見・感想

・見入ってしまうようなすばらしい展示物がたくさんあってとてもよかった。
・コロナ予約制のため、静でゆっくり見られたのがよかった。
・刀剣の種類をふやしてほしい。
・ラインの外にたつと説明が小さくて見づらい。
・高齢者のために説明の文字を大きくしてほしい。
・もっとSNS等で頻繁に展示替えの告知をして欲しい。
・見どころを教えてほしい。

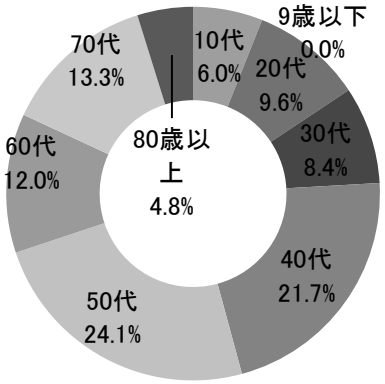
《外国人アンケート集計結果》

※新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人の来館を見込めないため、実施していない。

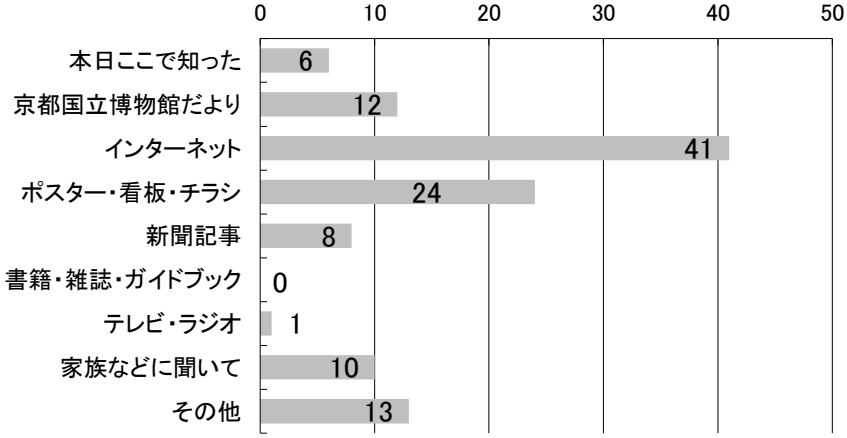
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：令和2年12月19日（火）～令和 3年3月7日（日）　開館日数：64日間
回答者数：103人
来館者数：18,941人（平常展開催期間のみ）
アンケート回収率：0.5%

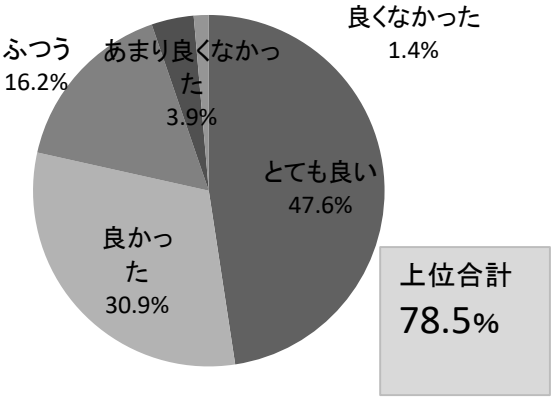
①アンケート回答年齢層



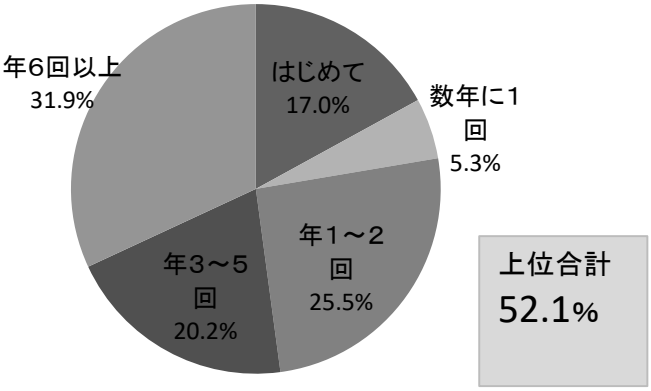
②認知経路 （複数回答）



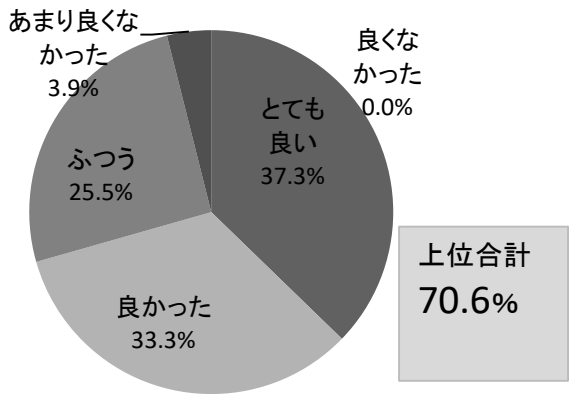
③展示に関する満足度



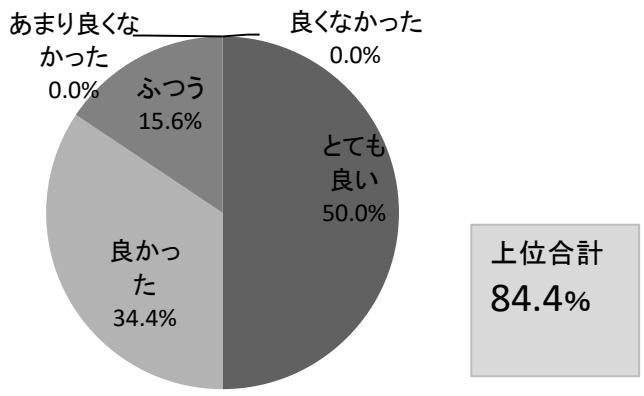
④来館頻度



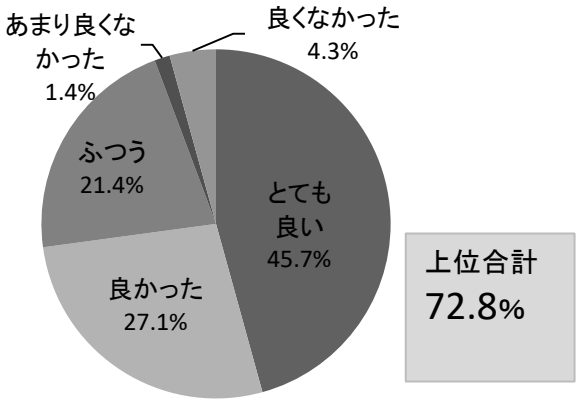
⑤ミュージアムショップに対する満足度（2年度）



⑥レストランに対する満足度（2年度）



⑦館内スタッフの対応について（292年度）

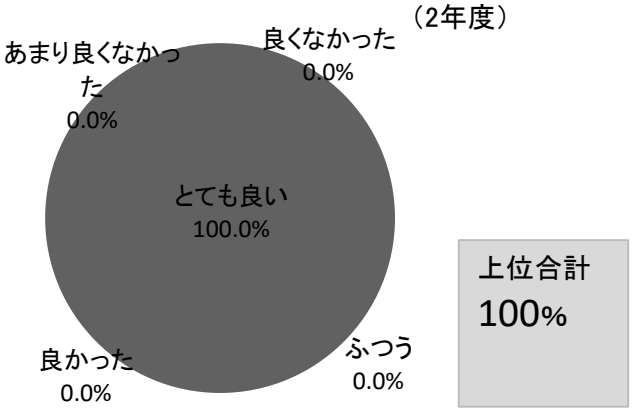


主な意見・感想

・贅沢な時間を過ごせた
・入場制限がなく入館しやすい
・椅子がたくさんあったので疲れることなく見れた
・トラりんが好きになって京博展示に興味が持てた
・本館を展示会場として使用してほしい

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：1人

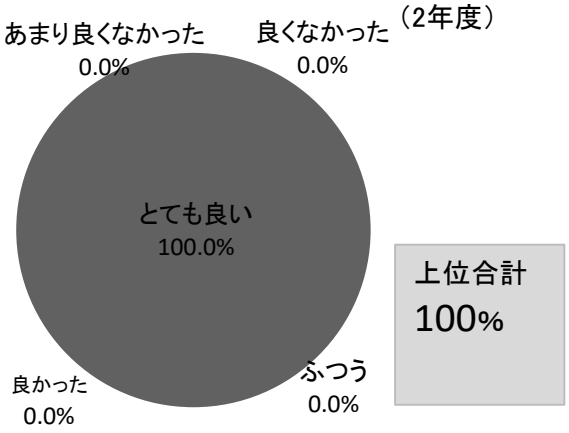
1．平常展示の全体的な印象について



主な意見・感想

（主な意見・感想　記入無し）

2．解説について

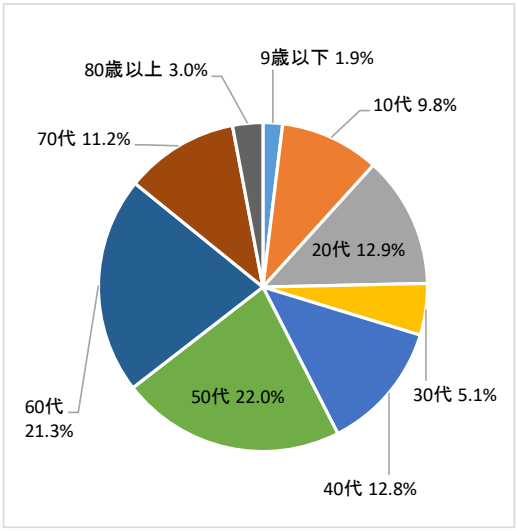


奈良国立博物館

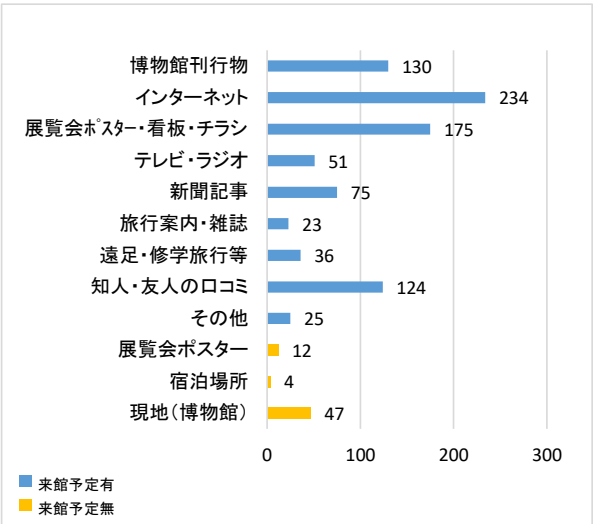
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：令和2年6月2日(火)～令和3年3月31日(水)　開館日数：263日間
（回答者数：651人　入館者数：61,049人　アンケート回収率：1.07%）

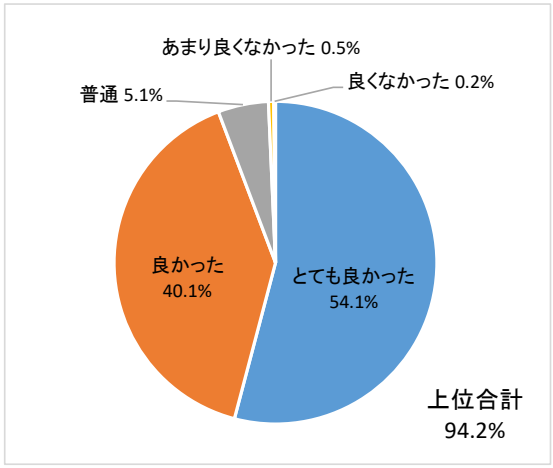
①年齢層



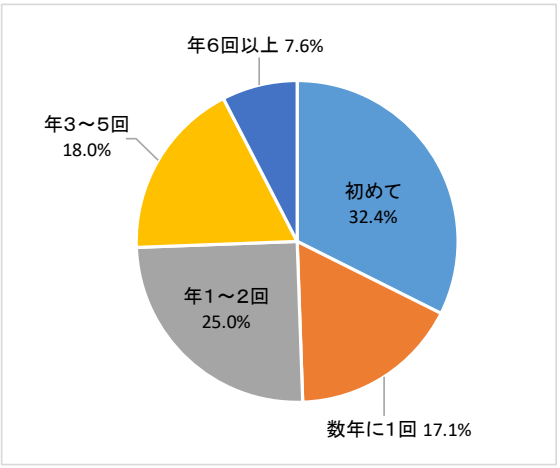
②認知経路（複数回答）



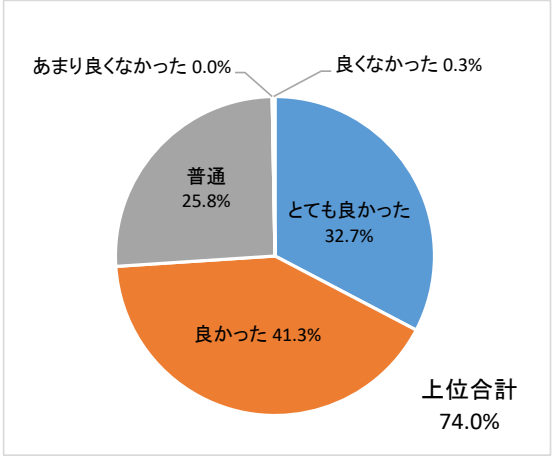
③展示に関する満足度



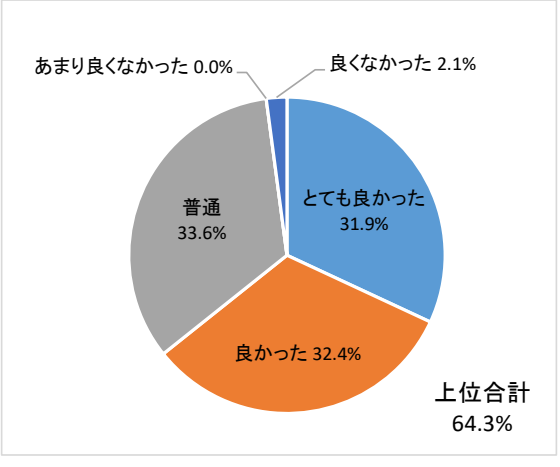
④来館頻度



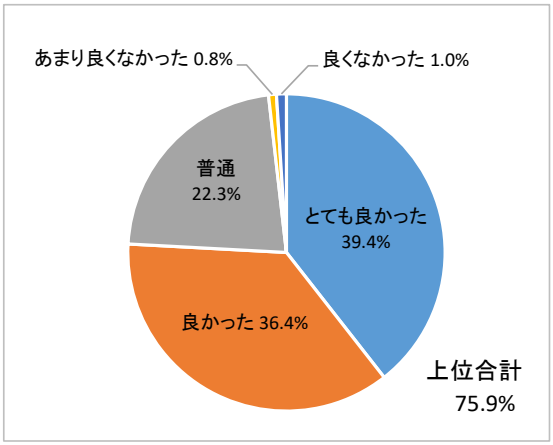
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



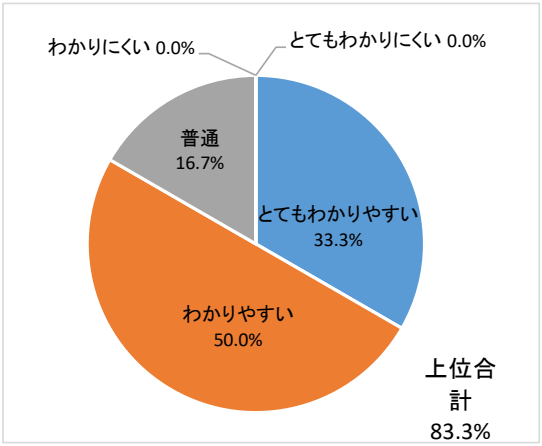
⑦スタッフ対応に関する満足度



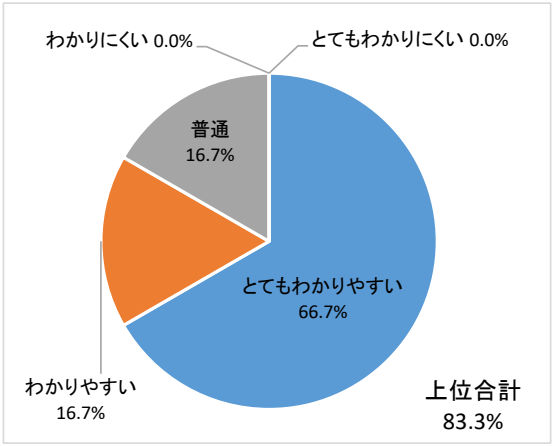
⑧主な意見・感想
・仏像を見に来ました。また来たい。
・今後も充実した内容の企画を期待しています。
・平常展、大きな仏像が増えてよかった。
・建築物自体が良く、照明も非常に良い。静かなコトも良い。
・毎年、展示のパターンが同じなので少し変えては。
・解説文の文字がもう少し大きいともっとよいです。
・椅子がなくて困る。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数:12人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

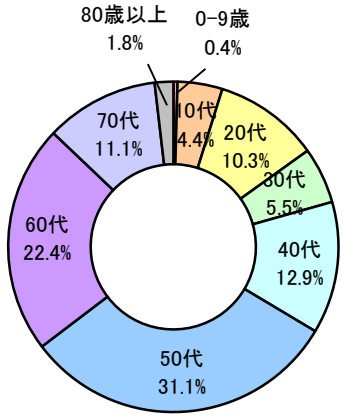


主な意見・感想
・また訪れたいです！！
・一番素晴らしい博物館です。
・他の美術館（日本各地）と比較しても、英語の翻訳は非常に優れており、
文法的にも正しく、詳細で、言語の知識を十分に発揮しています。
・いつも興味深い経験をさせてもらっています。

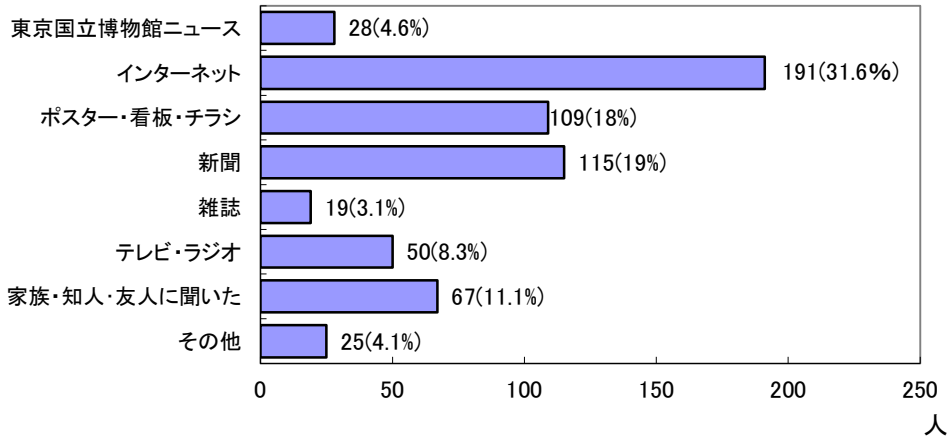
特別展「きもの　KIMONO」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年6月30日（日）～8月23日（日）（48日間）
回答者数：496人（総入館者数：91,830人　アンケート回収率：20.88%）

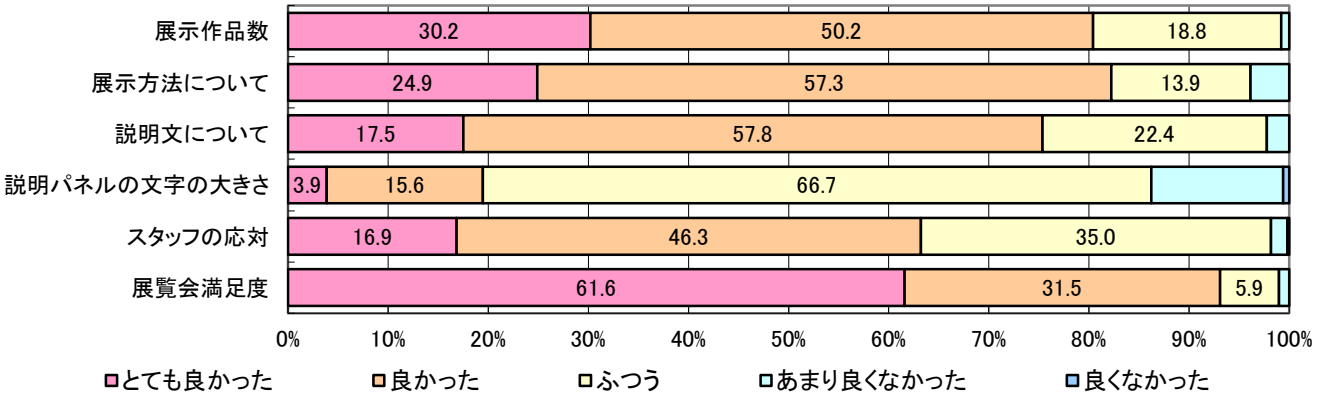
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・コロナ対策による予約制のため今までより展示室内の人が少なく、ゆっくり見ることができてよかった。
・コロナ禍の中、安心して展示を見ることができた。
・見ごたえがあり、きものがとてもきれいで良かった。
・きものの良さをさらに感じた。
・順路が分かりづらかった。
・音声ガイドを聞くポイントが分かりづらかった。
・説明文が少し難しかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.8	0.0
展示方法	3.9	0.0
説明文	2.2	0.0
文字サイズ	13.2	0.6
スタッフの応対	1.6	0.2
展覧会の満足度	1.0	0.0

（%）

本展は、信長・秀吉・家康・篤姫など歴史上の著名人が着用したきものや、尾形光琳（おがたこうりん）直筆の小袖に加え、きものが描かれた国宝の絵画作品、さらに現代デザイナーによるきものなど約300件の作品を一堂に展示しました。そして800年以上を生き抜き、今なお新たなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を、現代を生きる日本文化の象徴として展覧し、その過去・現在・未来を見つめる機会としました。新型コロナウイルスの影響により、会期の変更や事前予約制（日時指定券）の導入など特異な状況での開催となりましたが、本展覧会を観覧しアンケートに答えた93%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。また印象に残った作品として、信長の陣羽織、篤姫の着物、火消半纏、久保田一竹氏の作品やYOSHIKIMONOをあげられるお客様が多くいました。

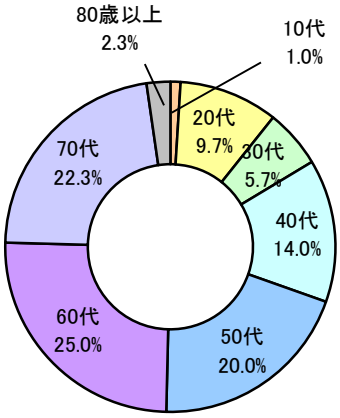
その一方で、順路が分かりづらかった、音声ガイドを聞くポイントが分かりづらかった、説明文が少し難しかったなどのご意見をいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

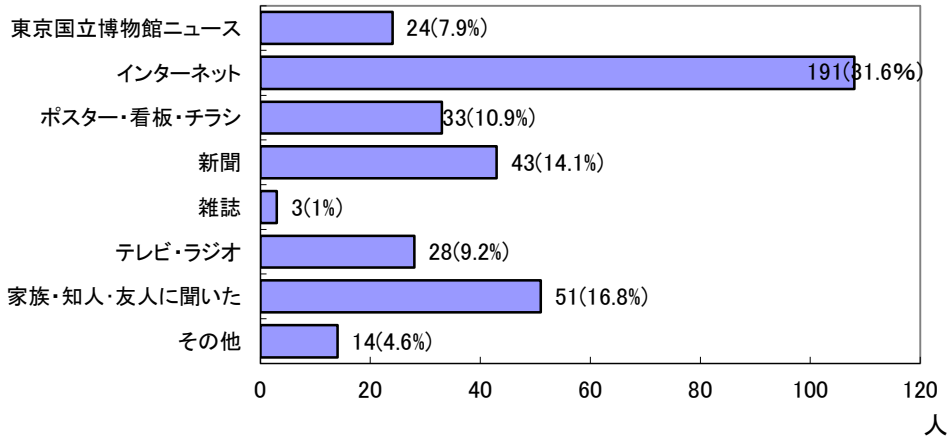
特別展「工藝2020－自然と美のかたちー」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年9月21日（月）～11月15日（日）（48日間）
回答者数：300人（総入館者数：13,851人　アンケート回収率：64.79%）

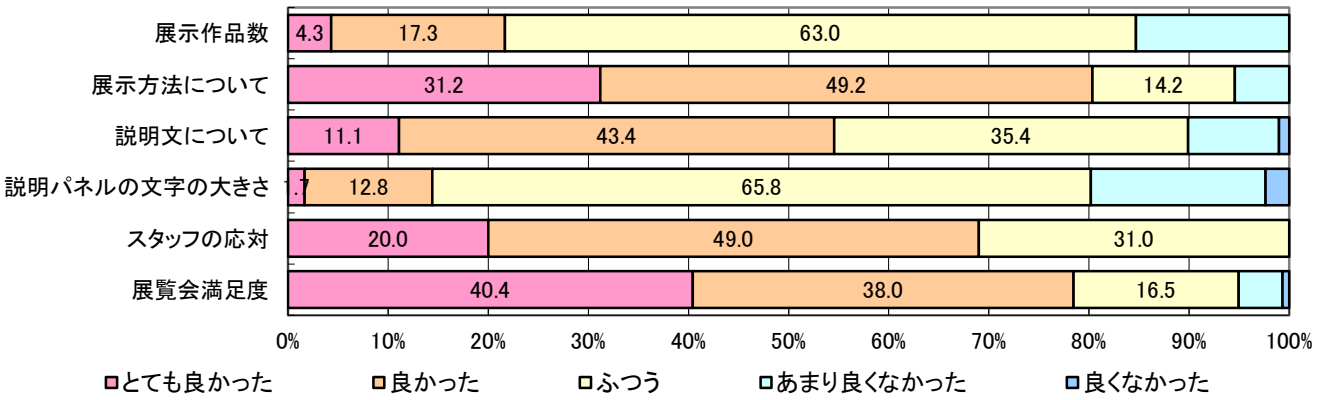
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・事前予約（日時指定券）のため、とても静かでゆっくり観覧することができた。
・表慶館が美しかった。
・照明・作品展示台含め工藝展の世界観がよかった。
・作品の解説シートが欲しい。
・文字をもう少し大きくしてほしい。
・休憩用の椅子が欲しい。
・もう少し近づいて鑑賞したい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	15.3	0.0
展示方法	5.4	0.0
説明文	9.1	1.0
文字サイズ	17.4	2.3
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	4.4	0.7

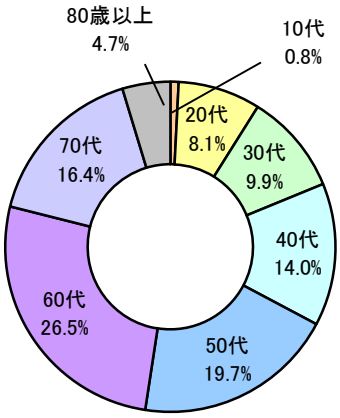
（%）

日本では、自然との共生による密接な精神的感性と固有の生命観が芽生えて我が国特有の工芸を発展させてきまた。それは、長い歴史と文化が形成されるなかで、変化に富む地形と四季折々の気候、そして豊かな風土に育まれた自然観を要因とすることが大きいと考えられます。日本が世界に発信する芸術文化を牽引する現代の工芸を一堂に会する本展では、82名の作家らが自由な感性によって多彩な芸術表現を発揮した、優れた近年の制作品82件を鑑賞いただきました。新型コロナウイルスの影響により、オンラインによる事前予約制（日時指定券）など特異な状況での開催となりましたが、本展覧会を観覧しアンケートに答えた78.4%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。また宮田亮平作の「生と静」、室瀬和美作の「柏葉蒔絵螺鈿六角合子」をはじめ、非常に多くの作品が印象に残った作品として挙げられていました。また、今回は表慶館という建物をはじめ、照明・展示ケース含めた展示構成の美しさについての感想が非常に多く寄せられました。　その一方で、解説、作品名称の文字をもう少し大きくしてほしい、休憩用の椅子が欲しいというご意見も寄せられました。

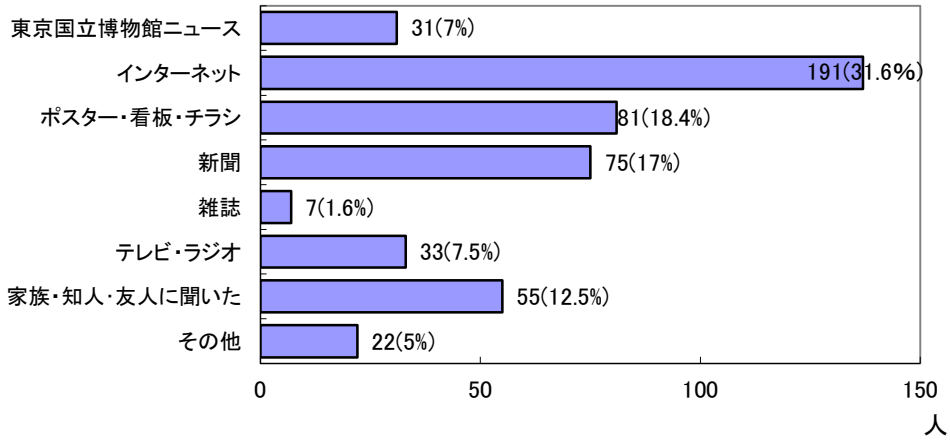
特別展「桃山―天下人の100年」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年10月6日（火）～11月29日（日）（48日間）
総入館者数：82,068人
回答者数：388人

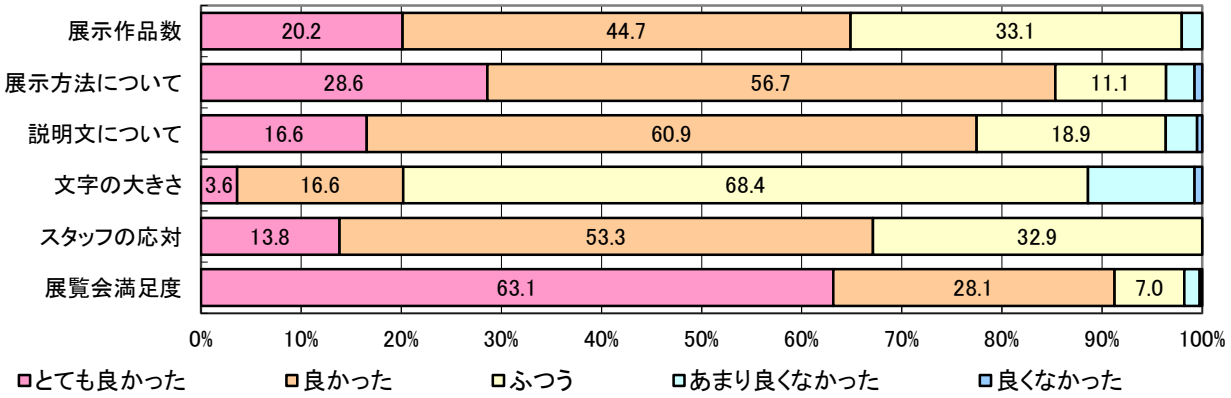
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・事前予約（日時指定券）のため、ゆっくり観覧することができて非常に充実していた。
・教科書で見たことのある名品揃いでとても見ごたえがあった。
・行灯型ケースの展示が多く、360度作品を見ることができ分かりやすかった。
・古文の概略説明が欲しい。
・音声ガイドが欲しい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.1	0.0
展示方法	2.8	0.8
説明文	3.1	0.5
文字サイズ	10.6	0.8
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	1.5	0.3

（%）

本展は、室町時代末期から江戸時代初期にかけての激動の時代に生まれた美術を概観し、美術史上「桃山時代」として語られるその美術の特質を、約230件の優品によってご覧いただくことを目的としました。そして激動の時代に、「日本人」がどう生き、どのように文化が形作られていったのか、約100年間の美術作品を一堂に集め概観することで、日本美術史のなかでも特筆される変革の時代の「心と形」を考える展覧会となりました。

新型コロナウイルスの影響により、オンラインによる事前予約制（日時指定券）の継続、観覧料金の高騰により入場者数は伸び悩みましたが、本展覧会を観覧しアンケートに答えた91.2%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。これは多くのお客様が印象に残ったと回答された松林図屏風、洛中洛外図屏風、唐獅子図屏風をはじめ、本展覧会が量・質ともに非常に充実していたことに加え、事前予約制によりゆっくり1点1点、ご観覧いただける環境であったため思われます。

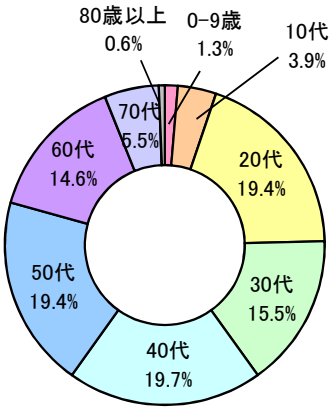
その一方で、観覧料金の値下げ、音声ガイドが欲しいというご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

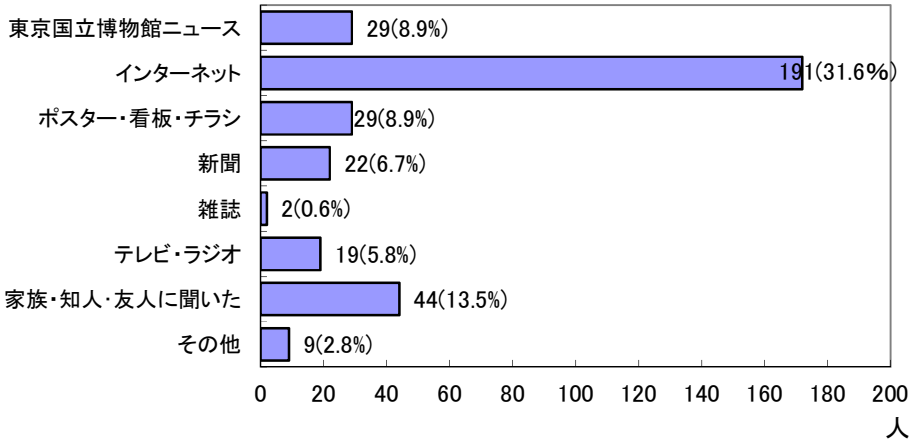
特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年12月24日（木）～令和3年2月21日（日）（46日間）
総入館者数　：　20,447人
回答者数：311人

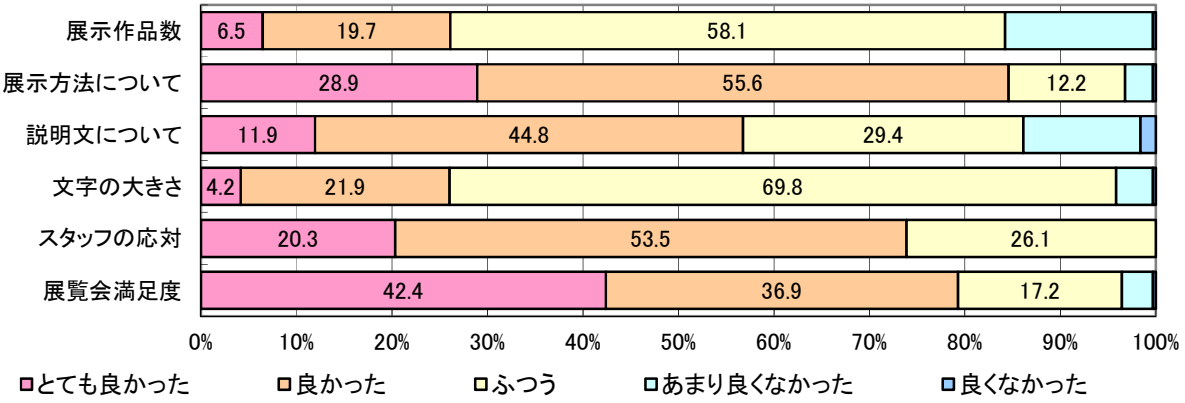
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・事前予約（日時指定）のため、密にならずゆっくり観覧することができた。
・通常みることのできない建物の構造や細部を模型を通して学ぶことができた。
・模型だけでなく、実物も見たくなった。
・大人だけでなく、小学生でも楽しめる展示だった。
・作品名にフリガナが欲しい。
・専門用語多かったので、解説がほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	15.5	0.3
展示方法	2.9	0.3
説明文	12.3	1.6
文字サイズ	3.9	0.3
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	3.2	0.3

（%）

本展は、「日本博」および「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』」の一環として、国立科学博物館、国立近現代建築資料館との3館合同で開催した展覧会で、日本の建築を、高い美意識と加工技術を際立たせて縮小表現した建築模型、図面、道具など貴重な資料の展示を通して、自然素材を活かした造形的な特徴を古代から現代まで見ることのできるものとなりました。当館では、1964年の東京オリンピックに併せて開催された「日本古美術展」出品模型や、文化庁が国宝・重要文化財建造物を修理する際に、形態、技法などを検討し、その技を伝承するために製作してきた模型を活用し、古代から近世までの日本建築の成り立ちについて紹介しました。本展会期中は緊急事態宣言の発令などもあり、夜間開館の開催を中止し、オンラインによる事前予約制（日時指定券）、館内消毒の徹底をはじめお客様のご協力もあり、無事に閉幕することができました。

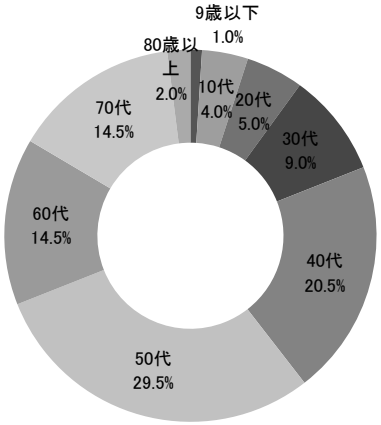
本展覧会を観覧しアンケートに答えた79.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。普段見ることのできない建物の構造や細部を模型をとおして学べることに面白さを感じ、実際に実物を見たいとのご意見をいただくことができました。その一方で、作品名へのフリガナや専門用語の解説が欲しいというご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

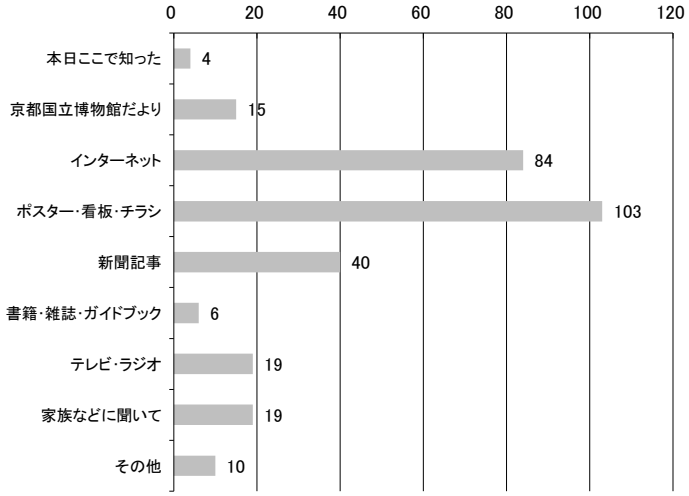
特別展覧会「聖地をたずねて」
アンケート集計結果

開催期間：令和 2年 7月 23日（木・祝）～ 9月13日（日）（46日間）
回答者数： 220人（総来館者数 52,164人 アンケート回収 0.4%）

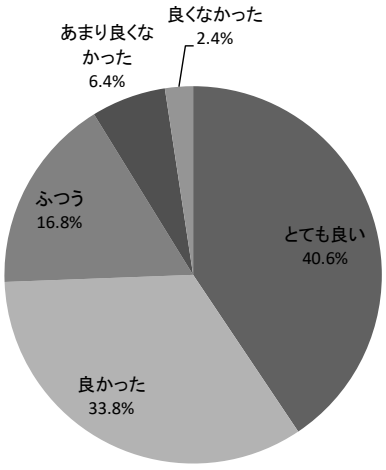
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
74.4%

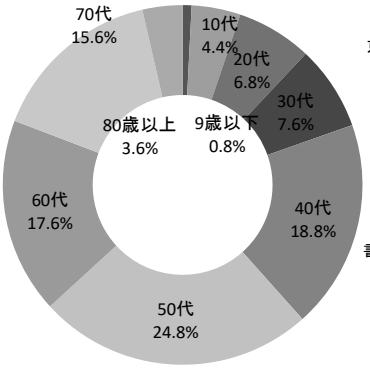
④主な意見・感想

・面白かった。
・見ごたえがあった。
・これからも素晴らしい翻訳を楽しみにしている。
・座れる場所を増やしてほしい。
・照明は角度により眩しい。

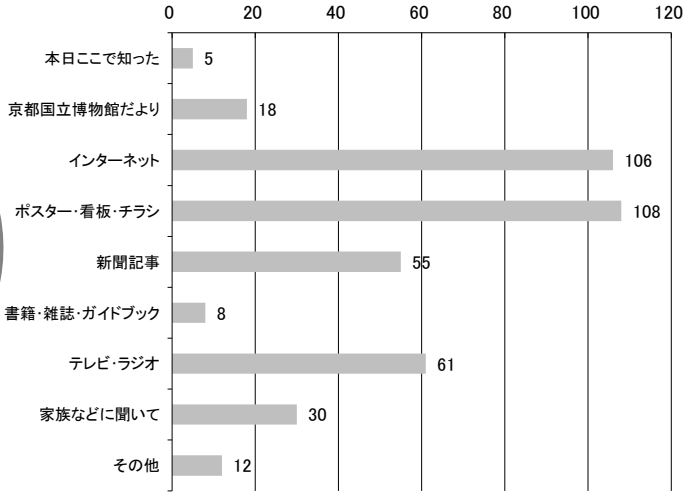
特別展覧会「皇室の名宝」
アンケート集計結果

開催期間：令和 2年 10月 10日（土）～ 11月 23日（月・祝）（39日間）
回答者数：272人（総来館者数 85,315人　アンケート回収率 0.3%）

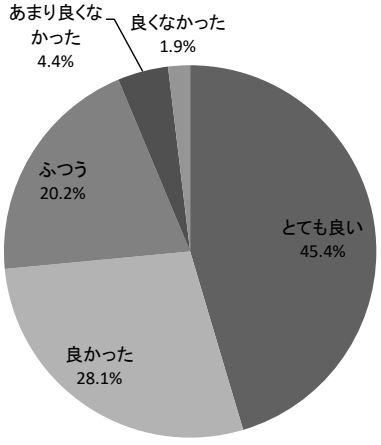
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
73.5%

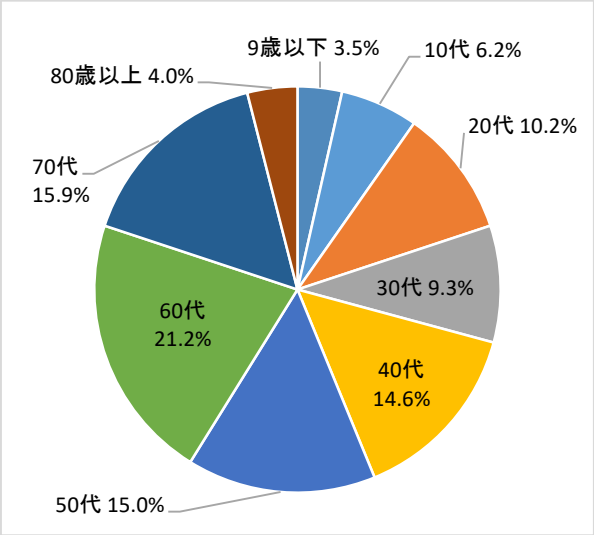
④主な意見･感想
･順序に関わらず自由に観覧できるとの声かけがあってよかった。
･配置が工夫されている。
･観覧料が高い。
･密になっている場所があった。

御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物　ー再現模造にみる天平の技ー」

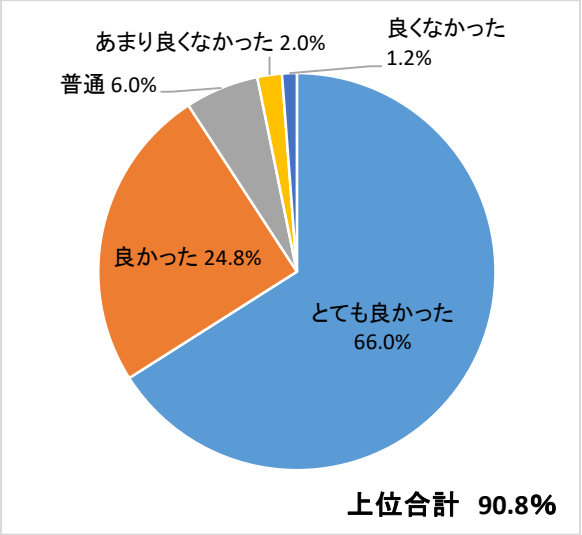
アンケート集計結果

開催期間：令和2年7月4日（土）～9月6日（日）（56日間）
回答者数：262人　入場者数：42,846人　回収率：0.61％

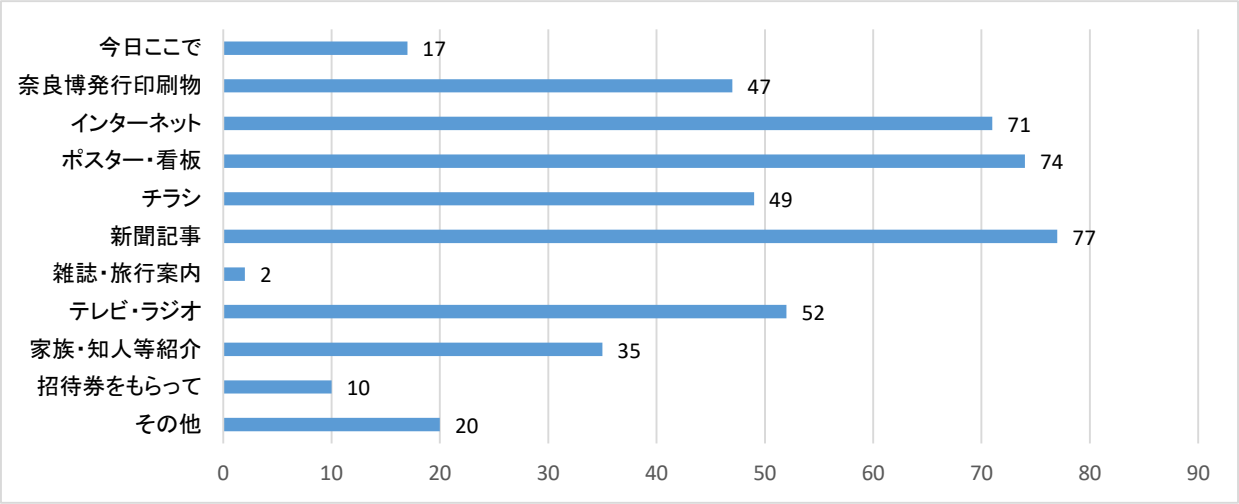
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

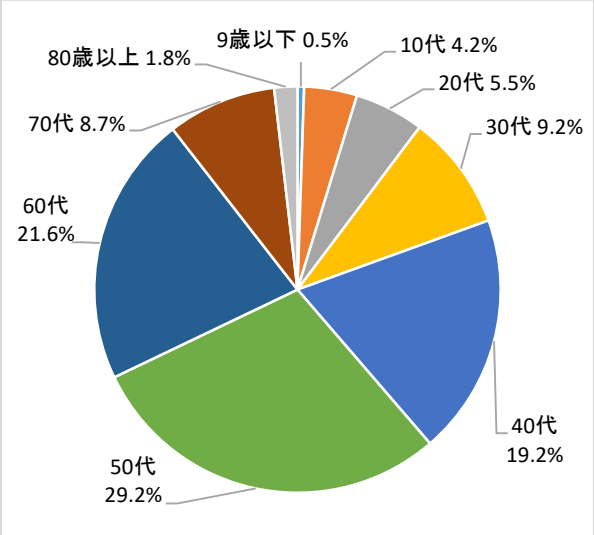
・五絃琵琶がとてもよかったです。ありがとうございました。
・大好きな五絃琵琶がじっくりと見られたし、製作技法も知ることができた。とてもうれしかった。
・ゆっくりと見れて良かったです。模造の過程がビデオ等で良くわかりました。
・コロナの影響で様々な文化が危機を迎えていると思うが、その継承の重要さや努力について改めて考えさせられた。
・解説文自体は良かったがケースの壁のパネルは字が小さくよみづらかった。
・古文書に解説を付けてもらえれば、もっと理解が出来ておもしろいと思います。
・空調が効きすぎて寒く感じられた。

第72回正倉院展

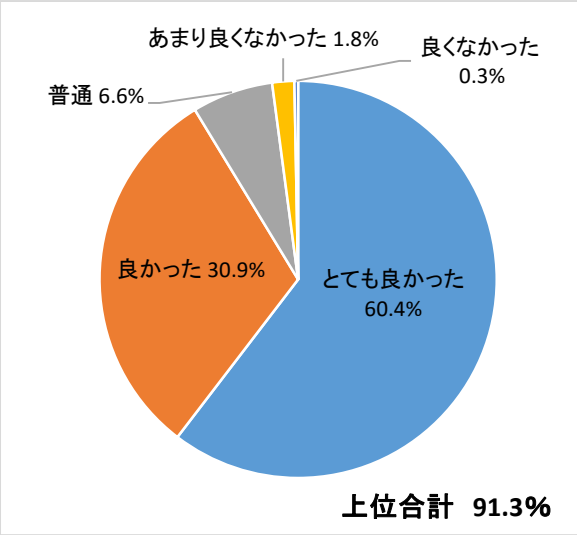
アンケート集計結果

開催期間：令和2年10月24日（土）～11月9日（月）（17日間）
回答者数：437人　入場者数：36.344人　回収率：1.20%

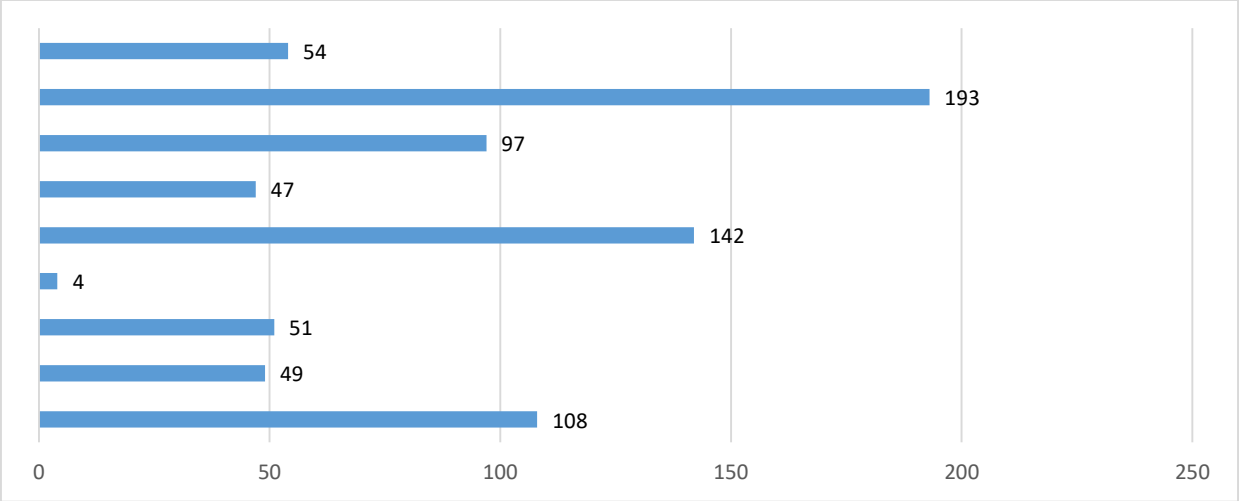
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）

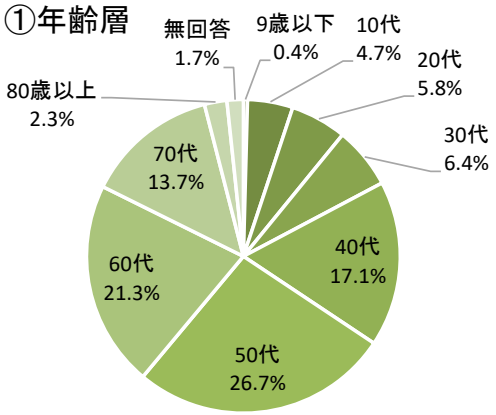


④主な意見・感想
・毎年良い作品が出陳されていて楽しかったです
・毎年来ているが、すごく混雑していて見れなかったので今年はゆっくり見れて、とてもよかった。
・今後も前売券制度で人数を限って開催して欲しい
・薬の展示はめずらしかったと思う。今年の状況で当時の光明皇后の想いを感じられた。
・説明文が2ヶ所あるので混雑しなくてよかった
・暗くて細かい所が見にくい
・容器など中身の見えにくい品があった。

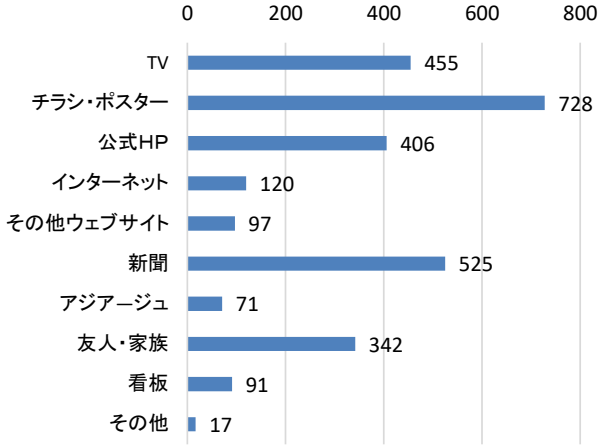
特別展「奈良・中宮寺の国宝」
アンケート集計結果

開催期間：3年1月26日(火)～3月21日(日)（48日間）
総回答者数：1,901人（総来館者数：50,324人　アンケート回収率：3.77%）

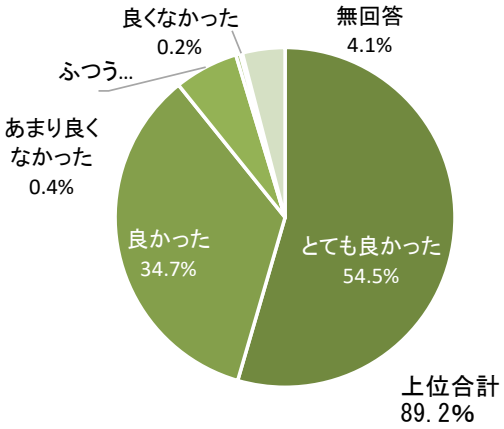
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・全ての展示物の状態がとても良く、素晴らしかったです。
・菩薩半跏思惟像を前から後ろから隅々まで見ることが出来て良かったです。
・見やすいように工夫してあるのはすごく良かった。展示の順番も、見やすくて良かった。
・ライトのあてかたがとても柔らかくて、像の質感が分かりやすくて良かった。
・解説文の文字をもう少し大きくしてほしいです。
・音声ガイドが無い分、説明がもう少し詳しくあってほしかった。

令和２年度　独立行政法人国立文化財機構年報
令和３年 12 月 8 日発行
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
〒110-8712　東京都台東区上野公園 13 番 9 号
電話　(03)3822-1196
Fax　(03)3822-1113
印刷　株式会社長谷工システムズ
©2021. National Institutes for Cultural Heritage, printed in Japan